

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第449集

ひらしみずに

平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査

岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第449集

平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書 正誤表

頁	場所	誤	正
7	下から4行目	第4図の下の	第5図の下の
14	下から16行目	pp.15・16	pp.15～16
14	下から11行目	pp.15・16	pp.15～16
343	第3表	深さの列の一番下の空欄	「合計」を入れる

ひらしみずに
平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査

序

本県には旧石器時代の遺跡を初めとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成12年度の岩手県教育委員会のまとめでは12,000カ所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりましたふるさと農道緊急整備事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための道路交通網の整備もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という、相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場に立って、県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、ふるさと農道緊急整備事業に関連して平成13・14年度に発掘調査を実施した平清水Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

平清水Ⅱ遺跡は、九戸郡野田村にあり、今回の調査により、縄文時代前期中葉～中期前葉の村跡が主に発見され、多くのフラスコ状土坑が見つかっています。また、縄文時代中期の狩猟の場、古代の集落跡であったこともわかりました。今回の調査では、目を見張るようなすばらしい発見はありませんでしたが、この地域での本格的な発掘調査は初めてであることから、野田村あるいは岩手県沿岸北部の歴史解明に重要な役割を果たすことと思われまます。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室、野田村教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成16年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団

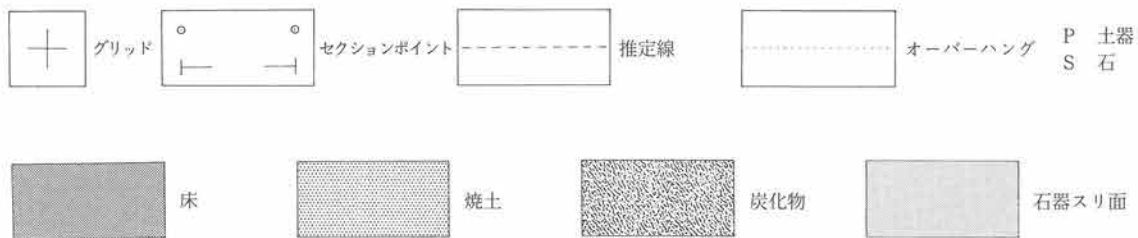
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡野田村大字野田第22地割字明内53番地ほかに所在する平清水Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 今回の調査は、ふるさと農道緊急整備事業野田地区に伴う事前の発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はJ G 60-0224である。
4. 発掘調査期間、担当者、調査面積、遺跡略号は、次の通りである。

平成13年8月20日～11月9日	金子昭彦・坂部恵造	350 (検出1,100) m ²	H S II-01
平成14年8月1日～11月15日	金子昭彦・星 幸文・坂部恵造	950 m ²	H S II-02
5. 室内整理と担当者は、次の通りである。

平成13年11月1日～平成14年3月31日	金子昭彦・坂部恵造
平成14年11月1日～平成15年3月31日	金子昭彦・坂部恵造
6. 本報告書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室、それ以外を金子が担当した。
7. 遺物の分析・鑑定は次の方々に依頼した。
 石質：花崗岩研究会（代表 矢内圭三）
8. 報告書作成に当たり、次の方々に御協力・御指導いただいた（五十音順・敬称略）。
 稲野裕介（北上市立埋蔵文化財センター）、熊谷常正（盛岡大学）、小林圭一（(財)山形県埋蔵文化財センター）、小林 克（秋田県埋蔵文化財センター）、齋藤邦雄（岩手県教育委員会）、酒井宗孝（花巻市教育委員会）、千葉啓蔵（久慈市教育委員会）、中村良幸（大迫町教育委員会）
9. 調査成果はこれまでに現地説明会資料や調査略報に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。
10. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。
11. 遺構等の平面位置は、平面直角座標第Ⅹ系を利用している（座標値は第Ⅲ章を参照）。
12. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1990）を参考にした。
13. 凡例は、以下の通りである。また、脚注と参考文献はそれぞれの章、節の後に一括している。その他は、第Ⅲ章を参照していただきたい。



目次

序
例言

〔本文〕

I. 調査に至る経過	1	4. 陥し穴状遺構	90
II. 立地と環境	1	5. 焼土	94
1. 位置・地形・調査範囲	1	V. 遺物	199
2. 基本層序と検出・出土状況	7	1. 縄文土器	199
3. これまでの調査と周辺の遺跡	7	2. 土師器	208
III. 調査・整理の方法と経過	9	3. 土製品	209
1. 調査の目的と結果の概要	9	4. 石器	210
2. 野外調査	9	5. 石製品	214
3. 室内整理と報告書の作成	13	6. アスファルト、コハク、その他	214
IV. 遺構	15	VI. 考察	340
1. 竪穴住居跡・炉跡	16	VII. まとめ	348
2. 住居状遺構	32	報告書抄録	
3. 土坑・墓壇	33		

〔図版〕

第1図 岩手県における遺跡位置	2	第17図 第5号住居跡(2)、第6号住居跡	114
第2図 遺跡位置	3	第18図 第7号住居跡	115
第3図 遺跡範囲	4	第19図 第8号、第9号住居跡	116
第4図 地形分類図	5	第20図 第10号住居跡	117
第5図 遺跡範囲・調査範囲と周辺の地形	6	第21図 第11号住居跡(1)	118
第6図 遺構全体図・地区別全体図(1)	102	第22図 第11号住居跡(2)	119
第7図 地区別全体図(2) (道路部分)	103・104	第23図 第1号、第2号住居状遺構	120
第8図 第1号住居跡(1)	105	第24図 第1号～第3号土坑	121
第9図 第1号住居跡(2)	106	第25図 第4号～第6号土坑	122
第10図 第2号住居跡(1)	107	第26図 第7号～第9号土坑	123
第11図 第2号住居跡(2)	108	第27図 第10号～第12号土坑	124
第12図 第3号住居跡(1)	109	第28図 第13号～第16号土坑(1)	125
第13図 第3号住居跡(2)	110	第29図 第13号～第16号土坑(2)	
第14図 第4号住居跡(1)	111	第17号、第18号土坑	126
第15図 第4号住居跡(2)	112	第30図 第19号、第20号土坑、	
第16図 第5号住居跡(1)	113	第21号～第23号土坑(1)	127

第31图	第21号~第23号土坑(2) ……128	第63图	第1号~第14号烧土 ……160
第32图	第24号、第25号土坑 ……129	第64图	第15号~第23号烧土 ……161
第33图	第26号、第27号土坑 ……130	第65图	第24号~第31号烧土 ……162
第34图	第28号~第30号土坑 ……131	第66图	第32号~第36号烧土 ……163
第35图	第31号~第33号土坑 ……132	第67图	第37号~第40号烧土 ……164
第36图	第34号~第36号土坑 ……133	第68图	第1号住居迹(1)出土遺物 ……165
第37图	第37号~第41号土坑 ……134	第69图	第1号住居迹(2)· 第2号住居迹(1)出土遺物 ……166
第38图	第42号~第44号土坑 ……135	第70图	第2号住居迹(2)· 第3号住居迹(1)出土遺物 ……167
第39图	第45号、第46号土坑·第47号、 第48号土坑(1) ……136	第71图	第3号住居迹(2)·第2号、 第3号住居迹(1)出土遺物 ……168
第40图	第47号、第48号土坑(2)· 第49号~第51号土坑 ……137	第72图	第2号、第3号住居迹(2)出土遺物 ……169
第41图	第52号、第53号土坑 ……138	第73图	第2号、第3号住居迹(3)· 第4号住居迹(1)出土遺物 ……170
第42图	第54号土坑·第55号、第56号土坑(1) ……139	第74图	第4号住居迹(2)·第5号~第7号 住居迹出土遺物 ……171
第43图	第55号、第56号土坑(2)·第57号、 第58号土坑 ……140	第75图	第10号、第11号住居迹·第1号、 第2号住居状遺構·第1号土坑出土遺物 ……172
第44图	第59号、第60号、第62号土坑 ……141	第76图	第2号、第3号土坑出土遺物 ……173
第45图	第61号、第63号土坑 ……142	第77图	第4号~第6号、第8号~第11号、 第13号土坑出土遺物 ……174
第46图	第64号土坑·第65号~第67号土坑(1) ……143	第78图	第12号、第14号~第16号土坑出土遺物 ……175
第47图	第65号~第67号土坑(2)第68号土坑 ……144	第79图	第17号~第19号、第21号~第23号 土坑出土遺物 ……176
第48图	第69号、第70号土坑 ……145	第80图	第24号、第25号土坑(1)出土遺物 ……177
第49图	第71号~第73号土坑 ……146	第81图	第25号土坑(2)~第28号土坑 ……178
第50图	第74号~第77号土坑 ……147	第82图	第29号土坑~第32号土坑(1)出土遺物 ……179
第51图	第78号~第80号土坑 ……148	第83图	第32号土坑(2)、第33号~第36号土坑(1) 出土遺物 ……180
第52图	第81号、第82号土坑 ……149	第84图	第36号土坑(2)~第40号土坑出土遺物 ……181
第53图	第83号、第84号土坑· 第85号~第87号土坑(1) ……150	第85图	第41号土坑~第46号土坑(1)出土遺物 ……182
第54图	第85号~第87号土坑(2)· 第88号、第89号土坑 ……151	第86图	第46号土坑(2)~第48号土坑(1)出土遺物 ……183
第55图	第90号~第92号土坑 ……152	第87图	第48号土坑(2)~第51号土坑出土遺物 ……184
第56图	第93号~第95号土坑 ……153	第88图	第52号、第54号土坑出土遺物 ……185
第57图	第96号~第99号土坑 ……154		
第58图	第100号~第102号土坑、第103号、 第104号土坑(1) ……155		
第59图	第103号、104号土坑(2)、第105号土坑 ……156		
第60图	第1号、第2号陥し穴状遺構 ……157		
第61图	第3号、第4号陥し穴状遺構 ……158		
第62图	第5号~第7号陥し穴状遺構 ……159		

第89図	第55号～第57号土坑出土遺物	186	第99図	第90号～第95号、第97号、第99号～第102号、 第103号土坑出土遺物	196
第90図	第58号～第63号土坑出土遺物	187	第100図	第104号土坑・第1号、 第2号陥し穴状遺構出土遺物	197
第91図	第64号土坑出土遺物	188	第101図	第3号～第6号陥し穴状遺構・ 第3号、第11号～第22号、第29号、 第32号焼土出土遺物	198
第92図	第65号～第68号土坑出土遺物	189	第102図	土師器	208
第93図	第69号土坑(1)出土遺物	190	第103図～第183図	縄文土器(1)～(81)	215～295
第94図	第69号土坑(2)出土遺物	191	第184図	土製品・石製品	296
第95図	第70号～第75号土坑出土遺物	192	第185図～第227図	石器(1)～(43)	297～339
第96図	第76号～第79号土坑出土遺物	193			
第97図	第80号～第84号土坑出土遺物	194			
第98図	第85号、第86号、第88号、 第89号土坑出土遺物	195			

〔写真図版〕

写真図版 1	遺跡遠景・調査区全景	353			373
写真図版 2	調査前風景・調査区地形	354	写真図版 22	第11号住居跡(2)・ 第1号住居状遺構	374
写真図版 3	調査区地形	355	写真図版 23	第2号住居状遺構・第1号陥し穴状遺 構・第1号、第2号土坑(1)	375
写真図版 4	第1号住居跡(1)	356	写真図版 24	第2号土坑(2)、第3号土坑	376
写真図版 5	第1号住居跡(2)	357	写真図版 25	第4号～第6号土坑	377
写真図版 6	第2号住居跡(1)	358	写真図版 26	第7号～第9号土坑	378
写真図版 7	第2号住居跡(2)	359	写真図版 27	第10号、第11号土坑、第12号土坑(1)	379
写真図版 8	第2号住居跡(3)、第3号住居跡(1)	360	写真図版 28	第12号土坑(2)、第13号土坑、 第14号土坑(1)	380
写真図版 9	第3号住居跡(2)	361	写真図版 29	第14号土坑(2)～第16号土坑	381
写真図版 10	第4号住居跡(1)	362	写真図版 30	第17号～第20号土坑	382
写真図版 11	第4号住居跡(2)・第41号焼土	363	写真図版 31	第21号～第23号土坑(1)	383
写真図版 12	第4号住居跡(3)、第5号住居跡(1)	364	写真図版 32	第23号土坑(2)～第25号土坑(1)	384
写真図版 13	第5号住居跡(2)・第42号焼土	365	写真図版 33	第25号土坑(2)～第27号土坑(1)	385
写真図版 14	第6号住居跡(1)	366	写真図版 34	第27号土坑(2)～第29号、 第30号土坑(1)	386
写真図版 15	第6号住居跡(2)、第7号住居跡(1)	367	写真図版 35	第29号、第30号土坑(2)～第32号土坑	387
写真図版 16	第7号住居跡(2)	368	写真図版 36	第33号～第36号土坑(1)	388
写真図版 17	第7号住居跡(3)、第8号住居跡(1)	369	写真図版 37	第36号土坑(2)、第38号～第41号土坑	389
写真図版 18	第8号住居跡(2)、第9号炉跡	370			
写真図版 19	第10号住居跡(1)	371			
写真図版 20	第10号住居跡(2)	372			
写真図版 21	第10号住居跡(3)、第11号住居跡(1)				

写真図版38	第42号～第45号土坑	390	写真図版60	第103号、第104号土坑(2)、第105号土坑・ 第1号陥し穴状遺構	412
写真図版39	第46号～第48号土坑(1)	391	写真図版61	第2号～第5号陥し穴状遺構(1)	413
写真図版40	第48号土坑(2)、第49号土坑	392	写真図版62	第5号陥し穴状遺構(2)～第7号陥し穴 状遺構・第1号～第5号焼土(1)	414
写真図版41	第50号～第52号土坑(1)	393	写真図版63	第2号～第5号焼土(2)、 第6号～第10号焼土(1)	415
写真図版42	第52号土坑(2)～第54号土坑	394	写真図版64	第6号～第10号焼土(2)、第11号～第14 号焼土、第15号～第20号焼土(1)	416
写真図版43	第55号、第56号土坑(1)	395	写真図版65	第15号～第20号焼土(2)、第22号焼土	417
写真図版44	第56号土坑(2)～第58号土坑	396	写真図版66	第23号～第26号焼土	418
写真図版45	第59号～第61号土坑	397	写真図版67	第27号～第31号焼土	419
写真図版46	第62号～第65号、第66号土坑(1)	398	写真図版68	第32号～第35号焼土	420
写真図版47	第65号、第66号土坑(2)、第67号土坑	399	写真図版69	第36号～第39号焼土	421
写真図版48	第68号、第69号土坑	400	写真図版70	第40号焼土・調査区及び周辺の地形	422
写真図版49	第70号～第73号土坑	401	写真図版71～114	縄文土器(1)～(44)	423～466
写真図版50	第74号～第77号土坑	402	写真図版115	土師器・土製品(1)	467
写真図版51	第78号～第80号土坑	403	写真図版116	土製品(2)	468
写真図版52	第81号～第83号土坑	404	写真図版117～181	石器(1)～(65)	469～533
写真図版53	第84号土坑、第85号～第87号土坑(1)	405	写真図版182	石製品・アスファルト	534
写真図版54	第85号～第87号土坑(2)	406	写真図版183	コハク	535
写真図版55	第88号～第90号土坑・第42号焼土	407			
写真図版56	第91号～第94号土坑	408			
写真図版57	第95号～第98号土坑	409			
写真図版58	第99号～第102号土坑	410			
写真図版59	第103号、第104号土坑(1)	411			

〔 表 〕

第1表	フラスコ状土坑一覧表	342・343
第2表	フラスコ状土坑規模一覧表	343
第3表	フラスコ状土坑深さ一覧表	343

I. 調査に至る経過

平清水Ⅱ遺跡は、ふるさと農道緊急整備事業野田地区の事業区域内に位置しているため、当該事業の施行にともない発掘調査を実施することとなったものである。

ふるさと農道緊急整備事業野田地区は、各生産団地を最短距離で結び物流の合理化を図ることや、高生産性農業を促進し付加価値を高める農業生産基盤整備を目的に、平成10年度より九戸郡野田村野田地区内の総延長2.9kmの農道整備を実施している。

当該事業区域の埋蔵文化財包蔵地については、当該事業の施行主体である久慈農村整備事務所（平成15年度に農政部農村整備室に改称）の依頼を受け、平成12年度に岩手県教育委員会事務局が試掘調査を実施した。

そして、その結果を踏まえ岩手県教育委員会事務局との協議により、平成13年度(財)岩手県文化振興事業団に調査を委託することとなったものである。

岩手県教育委員会は、平成13年3月1日付け教文第1342号により(財)岩手県文化振興事業団が平成13年度事業として実施する旨久慈農村整備事務所へ通知した。

この通知を受け、岩手県久慈地方振興局と(財)岩手県文化振興事業団は、平成13年5月31日付け財岩文理第44号にて委託契約を締結し、発掘調査に着手した。

(岩手県久慈地方振興局農政部農村整備室)

II. 立地と環境

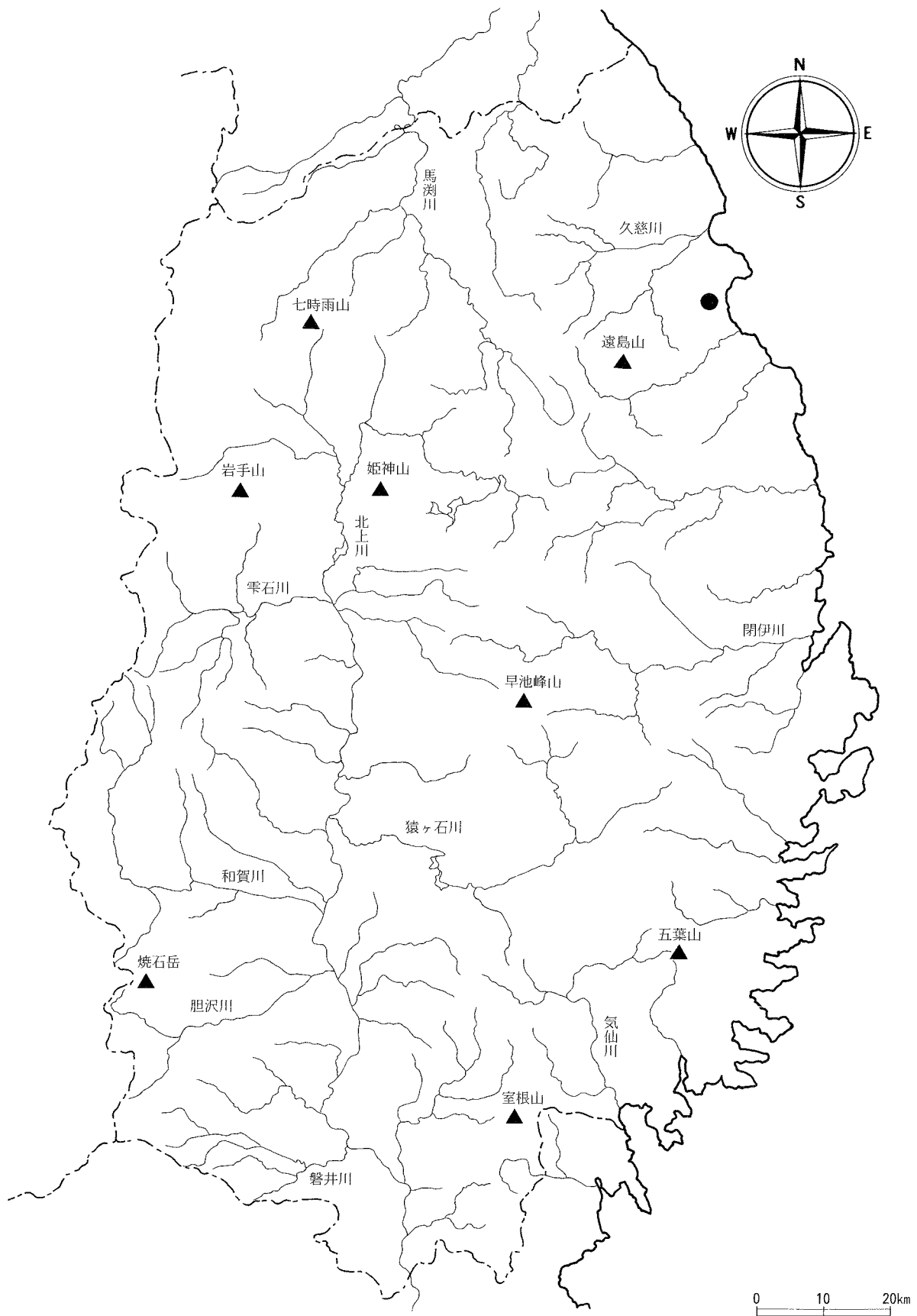
1. 位置・地形・調査範囲 (第1～5図、写真図版1～3・70)

平清水Ⅱ遺跡は、岩手県沿岸北部の九戸郡野田村に所在し、三陸鉄道北リアス線陸中野田駅の南西約2.5kmに位置する。北緯40°6′16″、東経141°47′51″付近にある(世界測地系)。

遺跡は、大きく見れば明内川に沿って残る海岸段丘上に立地するが(第4図参照。段丘名は何れも海岸段丘で、九戸段丘標高150～220m、種市段丘標高15～40m、平内段丘標高10～15m)(齋藤 1987: pp.6～7)、明内川右岸の河岸段丘上にあり、段丘上は東流する沢に開析されなだらかな丘陵状を呈す。遺跡は、この丘陵の北端にある。東側は海までなだらかな地形が続き、西側は起伏の多い丘陵地がひかえる。

今回の調査範囲は遺跡の北限に沿い、明内川に下る崖際に位置し、川との比高は約20m、現況は山林、農道、水田である。

遺跡の周辺は、1969(昭和44)年の開田工事によって大きく地形が改変されており、県の遺跡台帳に載っている遺跡範囲(第4図左上図の道路北側の斜線範囲)が、どの程度的を射ているかわからない。現に、今回の調査区の東部水路予定地の大部分は(第5図)、その範囲から大きく東にはみ出している(第3図)。県の遺跡台帳に使われている地図は古く、今回の調査範囲が遺跡範囲のどこに相当するか不明だが、国土地理院作成の1/25,000図から推測すれば(第3図参照)、遺跡範囲の東端に沿って走る道路が今回の調査原因になった道路にほぼ相当し、その北端の部分と左右に連続する農道が今回の調査範囲に相当するようである(第5図)。この北端と西側に延びる農道は、段丘崖にあり、今回の調査区はこの部分において遺跡の北縁を調査したことになる(県の遺跡台帳の範囲とは異なっているが)。東側に延びる農道は段丘崖まで10m以上ある。



第1図 岩手県における遺跡位置 (●印)

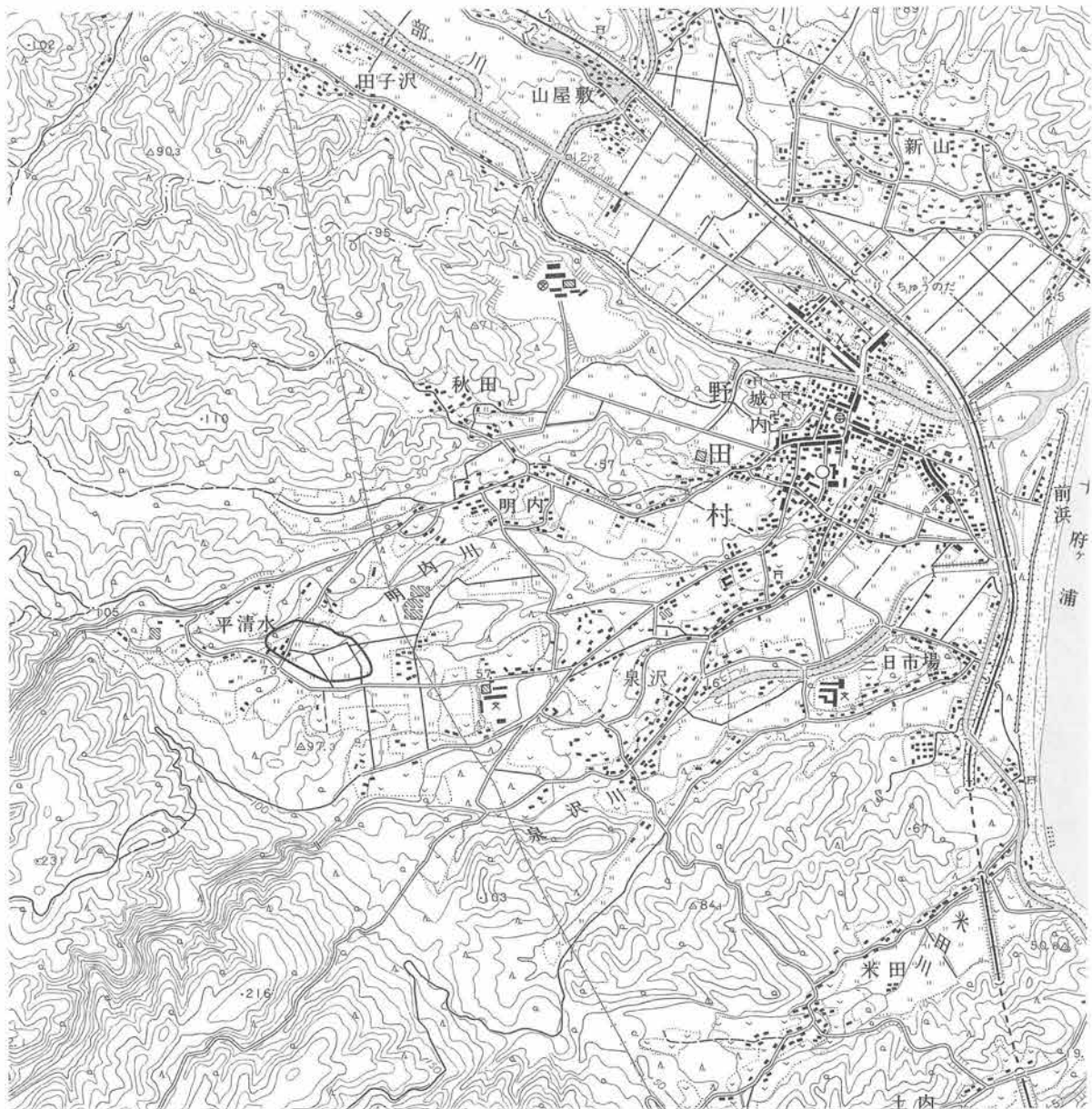


第2図 遺跡位置 (●印) (1:50,000 陸中野田)

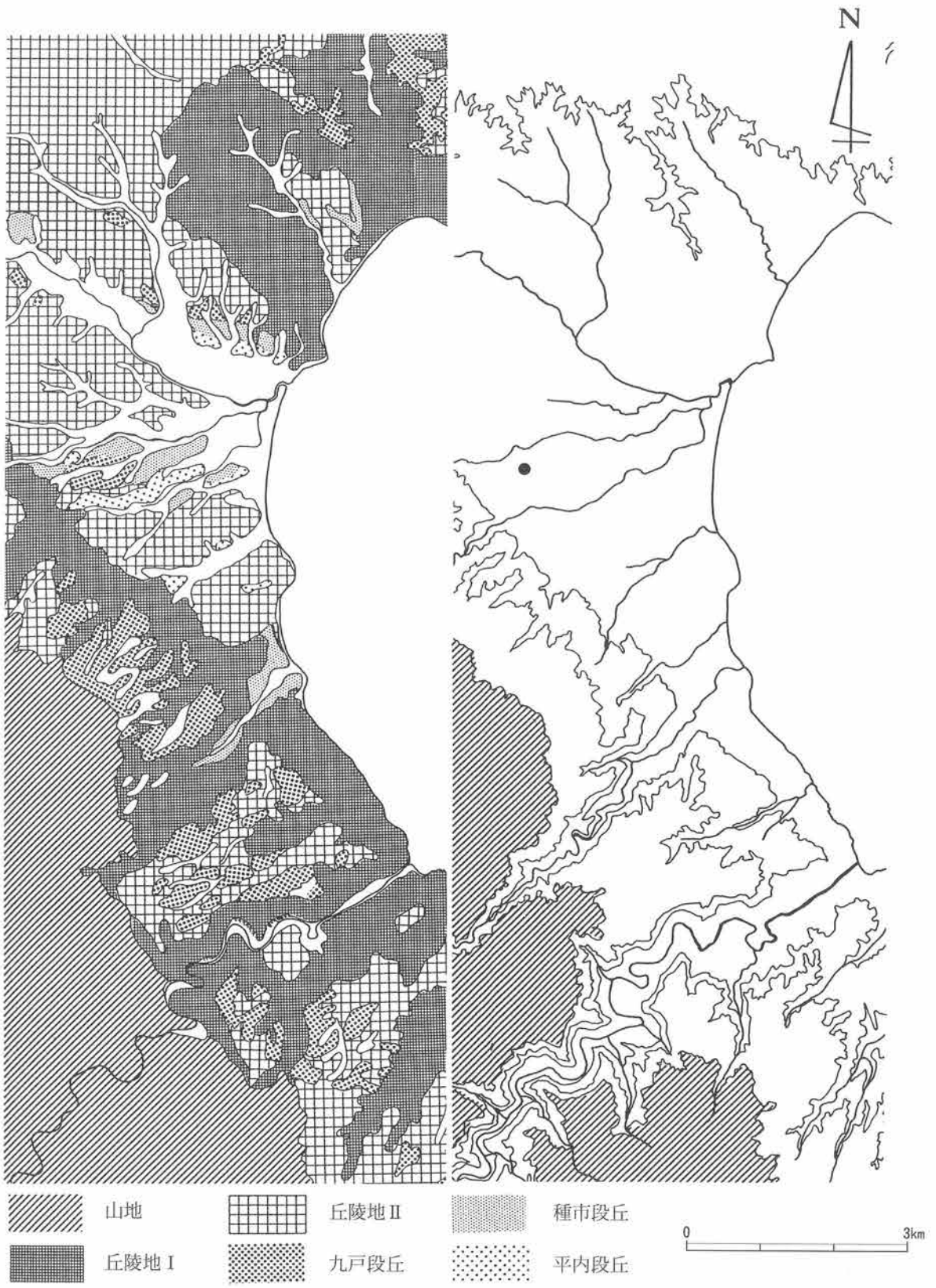
今回計画されている農道は、さらに北に延びるが（第5図参照）、上述の地形で急斜面になっていることから調査範囲には含まれていなかった。しかし、現地をよく見てみると、この部分は尾根状になっており、遺跡はもう少し北（2m弱）の斜面最上部まで延びている可能性も窺われた。現に調査ではぎりぎりまで遺構が検出されている。しかし、検出された遺構を精査するのに手一杯で、試掘トレンチ等を入れることはできなかった。

参考文献

- 齋藤邦雄 1987「Ⅲ 1. 遺跡周辺の地形」『古館山』野田村教育委員会
- 高橋信雄 1987「Ⅲ 1. 地形・地質」『根井貝塚発掘調査報告書』岩手県立博物館
- 松本秀明 1992「第一編第一章 地誌」『野田村誌』野田村



第3図 遺跡範囲 (1:25,000 陸中野田)



第4図 地形分類図（岩手県立博物館1987を改変）

2. 基本層序と検出・出土状況

(1) 基本層序

- I層 表土。水田造成時のカクランを受けているところでは盛土、本来の土が残っているところでは腐植土の場合が多い。層厚20cm以上。
- II層 黒色土（10YR2/1）シルト。層厚0～20cm。所謂クロボク土で、縄文時代中期以降に形成された層と考える。遺物を含むが混入であろう。削平されている場所にはない。
- III層 暗褐色土（10YR3/3）シルト。層厚0～20cm。II～IV層の漸移層でIV層の再堆積層と思われる。遺物包含層で、ほとんどの焼土の検出面。削平されていない地点もある。
- IV層 黄褐色土（10YR5/6）粘土。層厚30～40cm。遺構検出面。
- V層 IV層とほとんど同じだが、固く締まる。層厚60～140cm。他の影響（根など）を受けていないために硬く締まるだけで、IV層と同一層の可能性が高い。
- VI層 段丘堆積物で、地点によって異なる。明黄褐色（10YR6/6）の粘土のところもあれば、砂のところもあり、西端では礫層であった。層厚未確認。

(2) 遺構の検出・遺物の出土状況

今回の調査範囲は、農道、水田になっている場所が多かったが、元は山林が広がっていたためか、根によるカクランが著しく、遺構覆土が淡いせいもあって、カクランとの区別がはっきりせず遺構の検出は極めて難しかった。初年度は「遺構の検出はできるだけ高い面で行う」という発掘調査の原則に則り、遺構があるとわかった時点でプランは掴めなくても精査に入ってしまったため、掘り上がった時点で重複している遺構に気づくこともしばしばあった。調査区東部の細長い水路予定地は、水田造成時に大きく削平されて法面になっており、他と比べれば比較的検出しやすかったが、それでも地表に露出していたためか遺構はやはり見えにくかった。ただし、上記のことは主として縄文時代の竪穴住居跡、土坑類のことで、上面に黒土が入る陥し穴状遺構や古代の竪穴住居跡は、比較的たやすかった。

古代の土器は、古代の竪穴住居跡からのみ出土した。縄文時代の遺物は、ほとんどが前期中葉～中期前葉のもので、時期幅が比較的短く連続しているせいか、地点差・層位差は認め難い。

3. これまでの調査と周辺の遺跡（第4・5図）

(1) これまでの調査

遺跡自体は古くから周知されていたようだが、本遺跡を対象として発掘調査されたことはない。ただし、1969（昭和44）年に開田工事に伴って岩手大学教授草間俊一氏が調査した上明内遺跡は、本遺跡の続きの可能性もある（草間 1970）。上明内遺跡は、現在岩手県の遺跡台帳には登録されておらず、正確な範囲は不明だが、円筒下層d式や上層a1式土器、フラスコ状土坑などが発見されており（草間 前掲、齋藤 1992）、今回の調査結果に符合する。ただし、報告書から窺われる位置は（草間 1970：p.7）、野田中学校の前を通る道路より南側で平清水I遺跡（本遺跡の南側にある遺跡で、第4図の下の斜線範囲）に近いが、県の遺跡台帳では縄文時代後期の遺跡ということになっており、性格については本遺跡の方が符合する。

上明内遺跡の調査では、その他、円筒下層a式？土器、独鈷石、半扁平状打製石斧、石錘、石鏃等の各種石器などが発見された（齋藤 前掲）。土師器や須恵器、古代の竪穴住居跡も発見されたようだが、詳細は

不明である（草間氏は古墳時代、齋藤氏は奈良時代と述べている）。

開田後、本遺跡は壊滅したものとして県の遺跡台帳で扱われていたが、今回の事業に伴って行われた岩手県教育委員会の試掘調査で、遺跡の北端はかろうじて残っていることがわかり、今回の本調査となった。

(2) 周辺の遺跡（第2・3図）

今回の調査では、主として縄文時代前期中葉～中期前葉、平安時代の遺構・遺物が発見されたので、この時期を中心に見ていくことにしたいが、本地域は県の中心部から遠く離れていて開発が少ないためもあって、発掘調査はほとんど行われていない。

本遺跡から約4km北東に行った**広内遺跡**は（第2図▲）、草間俊一氏らによって調査され、縄文時代前期末葉の良好な資料が得られている（草間 1971、齋藤 1992）。遺跡は、小河川によって開析を受けた標高約80m前後の眺望のきく海岸段丘上に立地。1966（昭和41）年という古い時期のトレンチ調査で、詳細は不明だが、良好な遺物包含層が発見され、多くの完形に近い円筒下層d1式土器、少しの完形に近い円筒下層d2式土器、半扁平状打製石斧等の石器類が出土しているようである。

広内遺跡と平清水（IかIIか不明）遺跡からは、硬玉製品も出土している（齋藤 1985）。

本遺跡から、約500m東に行った**中平遺跡**は、野田中学校建設の際に発見され（第2図、第3図の中学校の位置）、県の指定文化財になっている。指定の手続き上の理由か、本遺跡は、県の遺跡台帳では「野田堅穴遺跡」として登録されている。調査は数次にわたるが、何れも1969（昭和44）年以前の小規模なものである。関連文献のほとんどを見ることができなかつたので詳細は掴めないが、平安時代の堅穴住居跡が主として発見されたようである（草間 1970）。

本遺跡と関連する遺跡は以上だが、この他、本遺跡から約1.5km西にある古館山遺跡が、1970（昭和45）年に野田小学校建設に伴って調査され（第2・3図の小学校の位置）、弥生時代後期の土器、後北式土器、奈良時代の土器などが発見されている（野田村教育委員会 1987）。

また、岩手県立博物館が、1983～85（昭和58～60）年に根井貝塚を調査し（第2図一番下にある根井集落の神社のすぐ南）、調査面積は約40㎡と小規模ながら、縄文時代後期後葉の堅穴住居跡が検出され、晩期前半の土器、燕尾形離頭銚頭等の骨角器、岩礁性の貝類を主体とした小規模な貝層なども発見されている。

調査は、その他に、中世城館の分布調査がある程度で（岩手県教育委員会 1986）、以上が野田村で行われた発掘調査の全てのものである。1970（昭和45）年前後に行われた岩手大学の草間俊一氏による調査の後、岩手県立博物館の根井貝塚まで目立った調査はなく、また、何れも小規模な調査であり、本地域の歴史的な様相は不明な点が多く、今後委ねられている。

参考文献

- 岩手県教育委員会 1986『岩手県中世城館跡分布調査報告書』（岩手県文化財調査報告書第82集）
岩手県立博物館 1987『根井貝塚発掘調査報告書』（岩手県立博物館調査研究報告書第3冊）
草間俊一 1970『中平・上明内調査概報』野田村教育委員会
1970「岩手県九戸郡中平遺跡」『日本考古学年報』18 日本考古学協会
1971「岩手県野田村広内遺跡」『日本考古学年報』19 日本考古学協会
齋藤邦雄 1985「岩手県九戸郡野田村出土の硬玉製品二例」『九戸文化』第3号 九戸郷土研究会
1992「第二編第一章 原始」『野田村誌』岩手県九戸郡野田村
野田村教育委員会 1987『古館山』

Ⅲ. 調査・整理の方法と経過

1. 調査の目的と結果の概要

当初は別の調査員が本遺跡を担当することになっていた。しかし、この年は遺構・遺物が予想以上に発見される遺跡が多く、調査員のローテーションの大幅な変更を余儀なくされたため、急遽担当が変わることになった。また、そうした事態のため、初年度の最初は、さらに別の調査員が入り調査を開始した。

このような経緯のため、十分な情報を収集することもなく調査に入ってしまった。9月4日に引き継いだ時点では既に表土剥ぎは終わり水路南側の検出に入っており、非常に多くの遺構が検出されると予想された。当初計画では10月31日までに1,100㎡の全てを調査することになっており、また調査区中央に水路が残りまだ使用中であること、木の伐採が済んでないことなど調査の支障となる条件が多く、困難が予想された。そのため、とにかく調査を前に進めることばかりに心を配るようになってしまった。

次年度は、このような反省を踏まえて、前年度の調査で首の極端に狭いフラスコ状土坑が多く検出されたことから、その掘削方法を解明することを最大の目的とし、遺構内遺物の出土状況を確認して遺構の時期・用途を推定できるようにすることを二番目の目的とした。

しかし、9月は調査員が2名であったため余裕がなくなり遺構の掘り方まで検討することができなくなってしまったこと、フラスコ状土坑が集中し重複・隣接している場合が比較的多く、土坑が検出しづらいため掘り始めてから重複に気づくことが頻繁にあり、断ち割り等の思い切った調査手段が執りにくかったことから、掘削方法の解明はほとんどできなかった。二番目の目的は、できる限りのことは果たせたと思う。

残念な点は、東部調査区の水路予定地に岩手県教育委員会の試掘で堅穴住居跡らしいものがあるとわかっていたのに、結局堅穴を確認できず炉跡、柱穴のみの検出にとどまった点である。

2. 野外調査

(1) 作業経過

調査面積は1,350㎡で、野外調査は二カ年にわたった。当初は、調査面積1,100㎡で一カ年で終了の予定だったが、木の伐採が調査期間内に終わらなかったこと、また予想以上に多くの遺構が検出されたことから、次年度まで継続となった。さらに、検出結果から遺跡範囲がさらに東側に延びることが予想されたため、当初の調査範囲の東に続く水路予定部分を岩手県教育委員会が改めて試掘し、その結果予想通り遺構が検出され、水路部分250㎡が追加となった。

初年度の調査は、平成13年8月20日(月)～11月9日(金)まで行われた。9月3日(月)まで別の調査員が急遽担当し、その引き継ぎが9月4日(火)に行われた。この時点で基準杭の打設・重機による表土剥ぎは済んでおり、水路南側調査区のⅢ層掘り下げ・検出が西側から始まっていた。

まず、問題となったのは、調査範囲の中央を水路が範囲に沿って走っており、それが10月にならないと撤去できないということであった。そこで、10月までに水路の南～西側(南側調査区と仮称)を終了することにし、西端から東に向かって調査を進めた。しかし、天候不順と予想以上に遺構が検出されたため、10月10日(水)に県教育委員会によるこの部分の終了確認を経て、10月16日(火)に水路を撤去した後も、一部精査を残し、結局完全に終了するには10月下旬までかかった。ただし、10月中旬からは水路北側の検出も並行して始めている。

部分終了確認の際、委託者から期間内の木の伐採は難しいとの話があり、調査が次年度に継続される可能性がでてきた。そこで残りの調査範囲（北側調査区と仮称）は検出を中心に進めることとし年度内の検出終了を目指した。その後、木の伐採は今年度の調査終了後ということになり、継続調査が決定した。ただし、水路は来年度初めに必要となるので、水路予定部分だけは今年度内に調査終了して欲しい旨伝えられた。大部分は既に終了していたので、水路の北側になっていた調査区西端の精査を10月下旬～11月上旬に行った。

11月6日(火)に行われた今年度の終了確認で、新設水路が調査範囲からさらに東に延び掘削を伴うことがわかった。当初の遺跡範囲からは外れるが、検出結果から、その範囲にも遺跡が広がることは明らかで、調査終了後に県教育委員会が試掘を行うことになった。11月7日(水)には来年度調査範囲にシートをかけて埋め戻し、11月8日(木)に器材水洗、11月9日(金)午前中に器材を搬出して初年度の調査を終了した。なお、10月28日(日)には現地説明会を行っている。

調査後12月18日(火)に行われた試掘調査では、やはり遺構が確認されて来年度の調査範囲に加えられ（東側調査区と仮称）、この部分についてはパイプによる仮設水路で対応することになった。

次年度の調査は、平成14年8月1日(木)～11月15日(金)まで行った。北側調査区から開始し、まず、シートを剥がしてクリーニング、8月前半は、前年度に検出していた焼土、炉跡の精査、冬に伐採された木根の除去を行った。8月後半～9月上旬、基本的に西から東に向かって再度検出し、土坑類の精査も開始した（精査はこの後調査終了まで）。9月中旬に東側調査区の人力による掘り下げ（深さ30cm程度）、検出を、西から東に向かって行った。この調査区は農道法面の水路敷設によるものだが、水路予定地が厳密に決まっていなかったため法面全部を調査することになった。

9月は調査員の一人が不在であったため精査は土坑類に限り、北側調査区の土坑類のほとんどに手を掛け終わって、かつ調査員が復帰した10月初めから竪穴住居跡の精査に入った。住居が大きく、また壁がはっきりしないこともあって予想以上の時間を費やし、10月末に全体写真という有様であった。10月中旬に竪穴住居跡床面からもフラスコ状土坑が検出されたために焦り、11月に入ると住居内の記録の済んだ場所から掘り下げ検出をするという事態に陥った。この焦りのため、炉跡断ち割り後にセクション・ポイントを記録忘れるという失策を何度も繰り返してしまった。なお、10月下旬からは東側調査区の精査にも入っており、記録終了後に検出面を30cmほど掘り下げたり、遺構の間にトレンチを入れる、ダメ押しは、遺構精査と並行して随時行った（詳細は第四章冒頭）。

11月8日(金)には遺構はほぼ出尽くし、11月13日(水)には精査を終了、平面実測を残すのみとなった。また、11月上旬からは遺物水洗も並行して行ったが、この年の11月はとても寒く、あまり捗らなかった（ストーブは焚いていたが）。11月14日(木)午後からは撤収準備を行ったが、沿岸なのに雪が降り積もりだした。11月15日(金)午前器材搬出して、調査の全てを終了。村の教育委員会、水路組合長に挨拶に伺った後センターに向かったが、内陸はやはり雪がひどく、峠付近は全て圧雪であった。

10月26日(土)に現地説明会、10月30日(水)航空写真撮影、11月14日(木)に終了確認を行っている。

(2) 特記事項

・グリッドについて

平面直角座標（第X系）に合わせ、遺跡全体をカバーできるように、10×10mのメッシュをかけ、東西方向に西から1、2、3のアラビア数字、南北方向には北からA、B、Cのアルファベットを付し、1A、1B等と呼称した（第6～7図）。これが大グリッドであり、6C、8Bの北西端の座標値は、6C（X＝

11,760,000、Y=82,500,000)、8 B (X=11,750,000、Y=82,480,000) である。以上は、日本測地系によるものであり、これを世界測地系に直すと、6 C (X=12,066.9517、Y=82,200.7018)、8 B (X=12,056.9522、Y=82,180.7023) となる。

各大グリッドを5mづつ四等分し、左上を①、右上を②、左下を③、右下を④とし、1 A①グリッド等と呼称した。これが中グリッドである(第7図)。

遺物包含層等、さらに細かい区画が必要な場合は、大グリッドを2mづつ25等分し、大グリッド同様東西方向に西から1、2、3のアラビア数字、南北方向には北からa、b、cのアルファベットをつけ(第7図参照)、1 A 1 a等と呼称した。これが小グリッドである。

・調査条件について

調査環境のうち、気象以外の環境条件について。

前述のように、初年度は、木の伐採、水路の撤去が済んでおらず、調査の大きな支障になった。狭い調査範囲をさらに細かく分けて調査することになり、二度手間であったことは否めない。

排土置き場は、初年度は調査区南西に隣接する休耕田を借地でき(プレハブもここに)、ここに積み上げたが、最大で60m運ぶことになり、やや支障になっていたかも知れない。調査範囲の北側は崖、西側は現農道、東側は山林で、致し方なかったが。次年度も同じ場所を借りる約束をしたため排土はそのままにし、次の年に現地確認に赴いたところ、古代米が作付けされており、前年度調査終了した範囲にしか出せなくなった。それも、西側に延びる部分は新しい水路が既に敷設されていて、結局調査区中央の南北に広がる部分にしか出せないことがわかった。あわてて委託者に相談したところ、村に働きかけ調査区の南側の田面の低い休耕田を埋め立てることになった(写真図版1)。距離があるので、取りあえず調査終了部分に積み上げ、定期的に(1月に1度)ダンプで運ぶことにした。狭い範囲に積み上げることになり調査の支障になったかも知れないが、新設された水路両脇の高い場所からも捨てられたので(写真図版1)、それほどではないと思う。

遺物、器材水洗用の水。初年度は、水路が撤去されるまではこの水が使えたが、撤去後晴れの日が続いたこともあって事欠くようになった。テンバコに溜めた雨水も底をつき、最後の器材水洗は、付近の排水路まで運んで行くはめになった。次年度は、水路組合の御厚意で新設された水路に稲刈り後も水を流し続けてもらったので、支障はなかった。

現況は、農道、山林、一部水田であり、農道も含めて根による攪乱が著しく、特に遺構の検出に支障をきたした。ほとんどの遺構の覆土が、やや汚れた黄褐色土(IV~V層再堆積)で、根による汚れと区別しにくかったためである。また、水路は道路法面に敷設されることになっていたため、傾斜が急で検出・精査に影響があったが、掘削予定部分だけでなく法面全体を調査対象にしたため、それほど困難はなかった。ただし、濡れると非常に滑り慎重に行動しなければならなかった。

遺構覆土。第II章でも述べたように、古代の遺構と陥し穴状遺構は黒土がはっきり入っていたが、それ以外の特に土坑は、前述のように「黄色に黄色」で遺構の識別は難しかった。大きくて深いフラスコ状土坑は、上面に黒土が入っていることもあったが、その場合は逆に腐植土(I層)が落ち込んでいる部分との区別がつきにくかった。フラスコ状土坑は、検出面では確認できず掘り始めて重複に気づいたものも多い。土は、腐植土あるいはいわゆる赤土で、掘りやすかった。フラスコ状土坑同士を中心として遺構の重複も比較的多かったが、多重重複は少なく、それほど大きな支障にはなっていないと思われる。

・特に気象条件について

二カ年とも、8月（初年度は下旬から）～11月前半に調査した。初年度は、雨が多く、特に8月下旬～9月中旬までは毎日のように霧雨（やませの影響）、10月上旬も毎日のように雨が降った。作業の進行上（水路南側を先に終了させる）雨でも調査することが多かったが、滑りやすい土で、あまり捗ったとは言い難い。10月下旬～11月上旬は天候に恵まれ作業は捗った。次年度は総じて雨が少なかったが、8月中旬は比較的多かった。気温も低く過ごしやすかったが、上旬、下旬は暑くて沿岸北部ながら30℃を越える日も多く、特に下旬は暑さのぶり返しのため体調を悪くする人が多かった。9月前半は雨がほとんど降らなかったが、9月下旬～10月上旬は台風の影響もあって比較的雨が降った。10月は定期的に雨が降った。平年並みの降水量で、逆に気温は平年より高く、作業は捗った。しかし、11月に入ると急に寒くなり、撤収日前日の11月14日には野田村でも積雪をみた。晴れの日が多く調査は捗ったが、寒いため遺物水洗は捗らず半分以上洗い残した。

・調査員、作業員の構成について

初年度は、調査員2名、作業員22名前後で野外作業を行った。調査員は1名が文化財調査員、他1名は期限付調査員である。作業員は年齢層が高く、特に実測に支障を来した。しかし、熱心で真面目な方がほとんどだったので、粗掘り、検出は通常より捗った。

次年度は、初年度の構成に文化財調査員1名、作業員約8名が加わり、調査員3名、作業員30名前後で作業を行った。新加入の作業員も皆初心者であったが、20～30代と若い方がほとんどだったので、実測、精査にも万全な体制となり、作業は捗った。

・遺構の検出方法について

初年度はできるだけ高い面で検出という調査の原則に則ったが、上述のように、本遺跡では遺構が確認しづらく、遺構があるということはわかっていてもプランが掴めないことが多かったので、精査し始めてから重複に気づく場合がしばしばあった。そこで、次年度は、最初から検出面を10～20cm下げて、プランをできるだけ確認してから精査に入ることにした。ただし、住居周囲では行っていない。

・遺構の精査、遺物の取り上げについて

遺構の精査方法は、基本的には一般的なやり方で、半裁もしくはベルトを残して掘り下げた後、土層断面を記録した後、完掘している。完掘時には、基本的には層ごとに掘り上げ、遺物も層ごとに取り上げているが、時間がなくて一括した場合があり、また層に変化がなくて識別しにくかった場合には一括せざるを得なかった。残りの良い土器や、床・底面出土遺物は、出土状況を図や写真等で記録したが、該当例は少ない。

・遺構の実測について

平面図は、基本的には一般的な簡易遣り方で作成したが、一部を光波トランシットによる測距を基に作成している（平板実測の測定の部分を光波トランシットで行ったのに相当）。

・遺構の名称について

遺構名称については、野外では下記のように便宜的に作業順に名前を付け、報告時に全て付け直している。各遺構の種類ごと（土坑はさらに細分した類型ごと）に西から東に向かって番号を付けている。

竪穴住居跡→A○F、住居状遺構→B○F、土坑→D○F、陥し穴状遺構→E○F、焼土→F○F、炉跡→R○F。○の中は番号が入る。

3. 室内整理と報告書の作成

(1) 作業経過

整理作業は、平成13年12月3日～平成14年3月29日、平成14年11月1日～平成15年3月31日、調査員2名、作業員約2～10名で行った（平成13年度は、12月10名、1～3月2名、平成14年度は9名）。

初年度は、水の便が悪く野外で遺物水洗をほとんど全く行っていなかった。12月～1月上旬、遺物水洗、1月中旬～2月中旬、土器の接合・復元、注記、2月下旬～3月、実測、拓影作成。遺構については、調査員が行い、1月～2月、図面点検、土層注記の打ち込み、3月トレース。

次年度。作業員は、11月前半調査員が室内に戻るまで、前年度分の遺物トレース、拓本断面実測。11月後半、洗い残した遺物の水洗、12月～1月中旬、土器の接合・復元、注記、1月下旬～2月、実測、拓影作成、断面実測。並行して、11月後半には石器の分類・接合も行い（調査員も）、12月～2月、石器実測。実測図は調査員の点検を経て、3月トレース、遺構写真図版作成。遺構については、調査員が行い、1月図面点検、土層注記の打ち込み、3月トレース。遺物の写真撮影は、写真撮影専門の作業員によって、3月後半、5月1日～6月上旬まで行われた。原稿は、調査員が2～3月に執筆。

遺構内出土遺物が多くて掲載遺物の絞り込みが難しかったため、作業は全体的に遅れた（本書掲載の遺構外出土遺物のほとんどは前年度に出土、図化したものである）。

(2) 特記事項

・遺物の全体量と報告書掲載基準について

調査では、縄文土器（30×40×30cmのコンテナ）37箱（初年度17箱、次年度20箱）、土師器約20点（初年度のみ）、土製品は23点（土器？1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点）、石器は973点、石器製作時の剥片67,336.74g、石製品は8点（垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点）、アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点出土した。掲載基準は、整理方針に後述（詳細は第V章参照）。

・スタッフと整理方針について

初年度は、調査員2名と作業員2～10名で整理作業を行った。ほとんどが初心者である。調査員の指示の悪さか、注記、復元、選別に細かなミスがあった。次年度は、調査員2名と作業員9名で行った。ベテランの作業員が良く指導してくれたが、接合・復元にかなり時間がかかった。また、調査員の指示の悪さか、登録台帳の記入、選別に比較的大きなミスが多々あった。

スタッフと整理期間を考慮して、次のような整理方針を立てた。第一に、青森県三内丸山遺跡に代表されるように、比較的調査例が多い時期なので、遺構内出土遺物を中心に掲載する（遺構外出土土器が比較的多く掲載されているのは初年度に遺構が比較的少なく出土遺物も少なかったため）。

第二に、掲載方法は、ニーズとコストを考えて（金子 1998：pp.11～13）、石器は写真を基本とし、遺構内は基本的に実測するが遺構外（遺物包含層含む）は余裕のある限りとした。石器素材剥片は、初年度は遺構内出土分は掲載したが、次年度は遺構内出土分があまりに多くて、割愛せざるを得なかった。土器は、できるだけ拓本を使用し、湾曲が大きくて凹凸が著しく拓本に不向きな円筒上層式の口縁部分は実測する。その他の遺物については原則として全て実測するが、焼粘土塊やコハク、アスファルト等は写真のみとした。

・遺構図版の点検・修整について

平面図と断面図の照合等の図面点検は、現地ですべて行った。合わない場合は計り直したが、どうしても合

わない場合やセクション・ポイントがないなどの不備は、そのままに本文中にその旨記している。ただし、1/20の縮尺で1mm（原寸では2cm、報告書では0.5mm）の違いについては誤差範囲とし、特にふれていない。報告書に嘘を書いてはいけないという方針（金子 1998：p.10、13）によるものである。

・遺物の接合・復元・注記について

土器は基本的に報告書に掲載したものだけに注記した。土製品、石器・石製品については、1点、1点別の小袋にしまって、その袋に出土位置等を記載し、注記はしていない。今回、石器素材剥片が比較的多く出土したので、作業員2名が10日ほど接合作業を行ったが、同じ袋、同じグリッドの中でのみ試みたためか、ほとんど接合しなかった。

土器の接合は、初年度は作業員約4名が約6週間、次年度は作業員約7名が約4週間行った。原則として同じ袋、同じ遺構、同じグリッドの中でのみ試み、遺構間や異なるグリッドの間での接合は行っていない。

・遺物の実測、拓本・トレースについて

遺物の実測・トレースは作業員が行い、それを調査員が点検した。特に石器については、調査員がよくわかっていない部分があるので、点検は外形と不自然な点がないかに留めた。

・報告書について

報告書の体裁は、基本的に既存の報告書に倣ったが、一部違うところがあるので、以下にそれを記す。最も違うところは、遺構の記載と遺物（特に遺構内の遺物と遺構外の土器）の記載である。

〔遺構図版の凡例について〕

本書冒頭の例言の下にある。

〔遺構出土遺物の掲載・記載の位置について〕

遺構出土の遺物も第V章で掲載・記載しているが、遺構図版の後に遺構内遺物集成図として縮尺を落としまとめてもいる（第68～101図）。その代わりに、遺物は次に述べるように出土位置に従って並べた。その理由は、金子（1998）のpp.15・16参照。

〔遺物の分類・掲載順序について〕

遺物は、基本的にそれぞれの種類ごとに（土製品、石製品はさらに細分した分類—円盤状土製品など—ごとに）出土位置の順（遺構内→遺構外、遺構外ははっきりしているもの→不明なもの）に並べている。

遺構外から出土した土器を、型式学的分類ではなく出土位置によって並べた理由については、金子（1998）のpp.15・16参照。

〔遺物の記載の仕方について〕

遺物の記載は基本的に観察表で行い、表に入りきらない場合や表の項目に当てはまらないことは本文中に記し、その頁を表の「本文記載」という欄に記した。

〔註・引用参考文献の掲載位置について〕

それぞれの節の最後にまとめている（例えば、第1節縄文土器）。

〔本文、表、図版のレイアウトについて〕

原則として本文は本文、図版は図版とまとめている。報告書は通して読まれるということはほとんどないと思われるので、“探し易さ”を優先すべきと考えたためである。

参考文献

金子昭彦 1998「埋蔵文化財センターの考古学」『紀要』XVIII（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

IV. 遺 構

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡3棟、炉跡10基（土器埋設炉6基＝炉体土器の数、石囲炉3基、地床炉1基）、住居状遺構1基、土坑・墓壇104基、溝状の陥し穴状遺構7（6？）基、焼土42基、古代（平安時代？）の竪穴住居跡2棟、住居状遺構1基、土坑1基（第105号）検出された。縄文時代の遺構は、前期中葉～中期前葉のものがほとんどを占め（中でも前期末～中期初頭）、その他早期の可能性のあるフラスコ状土坑が2基ある（第18・57号）。縄文時代の土坑は、墓壇の可能性のあるもの（第101～104号）とそれ以外に分けられ、それ以外のものは、フラスコ然としたものがほとんどである。

本章を読む際に注意していただきたい点。凡例は、本書冒頭の例言の下にある。遺物の記載、掲載場所について。遺構内出土遺物は、遺構図版の後に遺構内遺物集成図としてまとめてはいるが（第68～101図）、詳しい記載（観察表）、実測図は、第V章に掲載しているので、そちらを参照していただきたい（番号は共通である）。遺構名称は、報告書執筆の時点で全て付け直した。同じ種類の遺構の中での番号は、基本的に西から東に向かって付けている。その他、第III章を参照していただきたい。

平面図と断面図の照合等の図面点検は、現地ですべて行っている。合わない場合は計り直しているが、どうしても合わない場合は、そのままに本文中〔図・精査状況〕にその旨記している。ただし、1/20の縮尺で1mm（原寸では2cm、報告書では0.5mm）以内の違いについては誤差範囲とし、とくにふれていない。本文記載中の深さは、言うまでもなく検出面からの深さである。なお、本来は実測間違い（測り間違い）によるズレは存在しないはずだが、調査員の意思の疎通に問題があったためか、少なからずある。〔位置・検出状況〕の欄では、読者の理解を助けるため、位置をグリッドだけでなく地区名でも表している。地区は、中央の南北（縦）方向に調査範囲が広がる部分を中央部として、それより西側の東西に延びる部分を西部、それより東の東西に細長く延びる部分を東部と表現した。〔出土遺物〕の欄。記載内容に、初年度と次年度の違いがあり、次年度調査遺構では、不掲載土器の量についてふれているが、前年度については扱っていない。また、石器製作時の剥片を、初年度では石器に含めて掲載しているが、次年度では、あまりに遺構内から出土した量が多かったため、掲載していない（第1号住居跡出土分全て、第3号住居跡出土分の一部に関しては、最後にまとめて掲載）。その代わりに、次年度は遺構ごとの出土量を本文中に記載した。なお、剥片B類とは、打製石斧に代表される直接打撃系列の石器製作時に出る剥片であり、石鏃に代表される押圧剥離系列の石器製作時に出る剥片と明確に区別される剥片である。分類上は押圧剥離系列のそれを剥片A類としているのだが、実際には区別し難い場合が多いので、直接打撃系列のそれであるとはっきりしているものだけを「剥片B類」として区別し、それ以外を総称して「剥片」とした。詳細は、第V章第4節を参照していただきたい。

今回の調査範囲は、遺構の検出・精査状況から、三つの区域に分けられる。まず、次年度に調査の全てを行った東側の細長い水路予定地（東側調査区と仮称）。残りの部分は、初年度から調査範囲だったが、中央に水路が東西に走り、それをまだ使っていたため、水路の北側と南側に分けての調査となった（重機による表土剥ぎは同時に行っている）（第6・7図の調査区中央の線は、その境界を示す）。南側（南側調査区と仮称）は、初年度に調査の全てを終了し（ただし第10号住居下の土坑は次年度調査）、北側（北側調査区と仮称）は、西端を除き初年度は検出のみで調査のほとんどを次年度に行った。また、水路の撤去を重機で行う関係もあって、北側の調査区に入る時点で南側調査区は埋めもどしてしまっていた。詳細は第III章第2節を

参照していただきたいが、こうした事情で狭い範囲ながら調査を別々におこなったため、住居の柱穴確認等調査に一部支障を来している。

調査範囲の地形は、削平されているためもあるのか、ほぼ平坦で、若干西から東に、北から南に向かって傾斜している（詳細は第Ⅱ章第1節、第2節を参照）。具体的な様子は、写真図版2・3等で窺われる。

遺構の検出状況については、第Ⅱ章第2節、第Ⅲ章第1節を参照していただきたいが、今回の調査区は水田と農道であったため、水田にかかる部分は**削平**が著しかった。南側調査区の南端、東端、調査範囲東半分の南側が相当し、特に東側調査区は水田造成時に大きく削平されて法面になっており、地表面は既にIV層以下であった。南側調査区の東端は遺構空白地帯になっているが、削平によって消滅した可能性が高い。調査区の北端の一部は林であったが、農道敷設以前はさらに林が広がっていたこともあり、調査範囲全体が、木根によるカクラン著しく、検出は困難を極めた。今回検出された遺構の覆土は淡いものが多いため、根によるカクランとほとんど区別できなかった。そのため、検出面で遺構を確認できず精査の途中で重複していることに気づくことがしばしばあった。初年度の失敗を繰り返さないため、次年度は、検出面（IV層上面）を10～20cm下げてでも、遺構をはっきりと確認してから精査に入るよう心がけたが、住居の周りは下げられないこともあり、同じような失敗もあった。**遺構の精査・遺物の取り上げ方**については、第Ⅲ章、第Ⅴ章参照。

ダメ押し。初年度はほとんどできなかったが、次年度はできるだけ行った。3D～4Cグリッド、8C～10Dグリッドでは（第6図）、検出・精査後にさらに30cm地山を下げて再検出しているのに、この付近に遺構がないのは事実である。ただし、8D付近は、もともと削平されている場所なので、本来はあった可能性もある。その他も、北側・東側調査区は、最初の検出時で既に地山を20cm以上下げているので、見逃している可能性は低いと思われる。東側調査区は、もともと削平されているので、あり得ないと思う。ただし、竪穴住居跡の周囲は、住居が検出できた時点で止めているので、ほとんど下げていないが、周囲の遺構の空白部分には深さ約30cmのトレンチを入れているので、この場所についても見逃している可能性はほとんどないと思われる（トレンチの位置を記録したかったが、できなかった。実施したのが撤収前日で、雪が降り、暗くて光波トランシットも平板も使えなかったためである）。住居内についても、記録後床面を約30cm下げて再検出しているのに、見逃していることはないと思う。

1. 竪穴住居跡・炉跡

縄文時代（全て中期前葉）の竪穴住居跡を3棟、古代（平安時代？）の竪穴住居跡を2棟検出した。この他、縄文時代（前期中葉～中期前葉で、前期末～中期前葉主体か）の炉跡が10基（土器埋設炉6基＝炉体土器の数、石囲炉3基、地床炉1基）検出されたが、周囲に柱穴が確認されることもあり、屋外炉でなく竪穴住居跡の炉跡である可能性が高い。そこで一緒に報告することにしたが、調査範囲が狭いこともあって住居の範囲を特定することは極めて難しく、近くに検出された柱穴が、本当にその炉跡が帰属する住居跡に伴うかどうか定かでない。調査でも、基本的には炉跡は炉跡として登録し遺物も別に取り上げている。そこで、近くに検出された炉跡と柱穴を合わせて第○号住居跡として報告するが、その炉跡も第○号炉跡として続けて別に詳細に報告することにした。さらに（○と○は同じ数字が入る）、近くに複数の炉が検出された場合、柱穴がどの炉の住居跡に帰属するか見当もつかない（一つの住居に複数の炉が伴う可能性もあるが）。そこで、近くに複数の炉がある場合は同時に報告することとし、住居も第○号住居と一括して扱い、炉跡を第○A号炉跡、第○B号炉跡、第○C号炉跡のように報告する。

なお、第Ⅱ章第2節、第Ⅲ章第1節、本章冒頭に述べたように、今回の調査では狭い範囲ながら検出・精査を何度にも分けて行っており、調査結果に齟齬を来している。本遺跡の柱穴は、根穴と区別できないようなものが多く、また現実には根穴が多く見られた。そのため、半裁して同じような結果が見られても、遺構とする積極的な気持ちが働けば柱穴になるし、そうでなければ疑似現象としてしまう。近くに炉跡があれば柱穴とするが、そうでなければ……。柱穴が前年度の範囲に広がらず不自然な分布を示すのは、このためである。

遺物の出土位置を示す①～④は、断面図を取る前の遺物の取り上げに便宜的に使ったもので、中グリッドに準じ（第Ⅲ章参照）、南北ベルトと東西ベルト（平面図のセクションポイント参照）を基準にして住居内を四つの区画に分け、北西区画を①、北東区画を②、南西区画を③、南東区画を④と呼称した。

縄文の住居は、基本的には、調査範囲全体に広がるようだが、西部西端、中央部中央、東部中央に特に集中する。

第1号住居跡（第8・9・68・69図、写真図版4・5・116～119・171～178・183）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6C～Dグリッド。前年度水路より南側の区画を最初に調査していたとき、IV層上面暗褐色土で検出。大きく弧を描くプランから竪穴住居跡とわかった。北側の未検出範囲にほとんどがあり、またこの部分では水路から検出面まで深さ1m以上あって水路を壊しても住居にはほとんど影響がないことがわかった。さらに、新規に付け替えられる水路工事の範囲にも含まれないことを知った。そこで、この時点では手を付けず、全てを検出し終わってから精査に入ることにした。また、未検出範囲を検出面まで下げるとき、住居の掘り込み面を確認するため、II層以下の土層をベルト状に残した。精査は、次年度、調査員3人体制が復活した10月1日から開始した。

〔図・精査状況〕東西断面（A-A'）は、土手状に高く残したので平面図と計測レベルが異なるため、上場合わない。柱穴5の土器の位置合わない。A'側、ガラガラと立ち上がったはずなのになぜか下場がある。B-B'のセクション・ポイントB'は多分ずれている。B側の上場測り間違い。炉の断ち割りは、調査の最終時にだめ押しと平行して行っていたせいか、セクション・ポイント記入忘れ。東西方向に割っている。本住居の床は、非常にわかりづらく、硬く締まらず濁っており、サブトレンチを多く入れて確認したため、大部分が掘りすぎである（掘り足らなかった可能性は、後で住居内にある土坑を検出するため全体を20cm以上上げて確認したので、ないと思われる）。平面写真で高く残っているところが床面であり実測もしてきたが、図面に記すと煩雑になるので割愛した。

壁もはっきりせず、北西隅は、土器の出土もほとんどなく、床も他と比べてきれいなIV層であったことから、掘りすぎの可能性もある。

北東隅の柱穴様のものは、ベルト残しての掘削時作業員にいつの間にか掘られていたもので、近くに土坑（第44号）のシミが検出されていたこともあり、意味のない掘り過ぎと考えていた。しかし、その後だめ押しで柱穴9が確認され、この穴と対角線上にあることから、柱穴であった可能性もある（レベル未記入で深さ不明）。

〔重複〕南西隅に第29号焼土あり。重複するか微妙なところだが、検出面から焼土の方が新しい可能性がある。床面から第42・44号土坑検出。新旧関係ははっきりしないが、検出面で輪郭全く掘めなかったことから土坑の方が古いと考えていたが、ベルトを残しての精査時にかなり高い面で確認できたことから、土坑の方が新しい可能性も捨てきれない。東壁に第43号土坑があるが、本土坑は住居精査時に検出できず第30号焼

土を断ち割ったときに初めて確認できたので、新旧関係ははっきりしないが土坑の方が古い可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕断面図の2層以下が相当するのだと思われるが、Ⅲ層とほとんど同じであり、3層以外は各層の間もほとんど区別できない。上述のように床面との違いも定かでない。なお、7層は、A-A'断面の裏側にあり（8層の裏にある）、図中には出ていない。

〔平面形・規模〕壁、床ははっきりせず（特に北西隅）、不確かだが、5.8×4.8m程度の隅丸長方形～楕円形か。

〔壁・床・掘り方〕壁・底は汚れたⅣ層と言った感じではっきりしない。掘り方は、トレンチを入れたり、だめ押しで深掘りをかけたが、確認できなかった。

〔柱穴〕床面で、はっきりしないものを含み半裁した結果5つを登録した（柱穴1～5）。床面を下げだめ押しで4つ検出した（柱穴4～9）。第43号土坑精査後撮影のためクリーニングした際2つ検出（柱穴10、11）。構造は読みとれないが、一箇所に集中するものがあり建て替えが行われている可能性が高い。覆土は、柱穴1が、僅かな上層と下層に分かれ、上層は灰黄褐色土（10YR4/2）地に黄褐色土（10YR5/6）のブロック、シルト、炭化物含みⅣ層粒子多い（1層とする）。下層は黒褐色土（10YR3/2）シルト、粘性あり、他は上層と同じ性質（2層とする）。柱穴2は、立ち上がりがはっきりしないが、大部分を占める上層は、柱穴1の上層に似るが、より黄褐色土の部分多く、Ⅳ層に根が入って汚れているようにも見える。下層は2層。柱穴3は、上から下まで柱穴2の上層とほとんど同じ。柱穴4は、2層とほとんど同じだが、底に黄褐色土が顕著。柱穴5は、1層で、土器が逆位に埋設（土器は上半部のみ）。柱穴6は、褐色土（10YR4/4）シルト、粘性あり、1mm程度の炭化物散る。柱穴7は、柱穴6に似るが、より濃い色である。柱穴8は、薄い上層は、柱穴6、7よりずっと淡くにおい黄褐色土（10YR5/4）で、根穴とも思われるが、大部分を占める下層は、褐色土（10YR4/6）シルト、ほんの僅かな炭化物含む。下層に最初気づかなかったのが疑似現象かとも思っていた。柱穴9は、柱穴6～8と異なるが、強いて言えば8に近い。焼土粒目立つ。褐色土 10YR4/4。柱穴10は、柱穴6に似るがもっと淡い。褐色土（10YR4/4）シルト、粘性強い、ローム粒多く、炭化物、焼土粒含む。柱穴11は、柱穴1～5に似る。におい黄褐色（10YR4/3）地に黄褐色土（10YR5/6）の斑、シルト、Ⅳ～Ⅴ層粒子多く、炭化物比較的多く含む。

〔炉〕上面では焼土しか確認できなかったが、断ち割った結果土器埋設炉であることがわかった。土器の周囲80×55cmの範囲にしっかりした焼土が形成されている。

〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕（出土状況）9点の比較的残りの良い土器が出土した（第8図、写真図版5参照）。No.1～8の順は、出土レベルの高い→低い順であるが、何れも6層から出土している（8はほぼ床面）。No.9（第68図11・12）は、柱穴5に逆位に埋設。No.1（第68図2＝3）は、ほぼ水平に横倒しになって土圧で押しつぶされた状態で出土。No.2（第68図4）は、バラバラの土器破片の寄せ集めと言った感じで、立っている底部破片も見える。No.3（第68図5）も、横倒しになって土圧で押しつぶされたような状態だが、住居中央に向かって傾斜している（床面も？）。No.4（第68図6）も、ほぼ水平に横倒しになって土圧で押しつぶされたような状態で出土しているが、下の土に接している部分は残っていないかも知れない。No.5は、集中部分から三つに分かれ（5a～c）（5b・cは不掲載）、5a（第68図7）は、口～胴部が水平に横倒しでつぶれたような状態で出土、5bは、底部破片で横倒しになった状態で（底部自体は立ったような位置）で出土、5cは胴部破片。No.6（不掲載）は、黒こげになった破片（寄せ集め？）が、ほぼ水平の

状態で出土。No. 7（第68図9）は、口～胴部の比較的大きな破片が、内側を上に向けてほぼ水平に出土。No. 8（第68図10）は、口縁部破片が、外側を上に向けてほぼ水平に出土。No. 9（第68図12）は、底を欠いているが、ほぼ倒立したような状態で出土。

〔遺物〕第68図1～25の土器、写真図版117の1～119の37の石器（第69図に一部図示）、写真図版171の791～178の965の石器製作時の剥片（一部Rフレイク含む）（総量1,192.61g）、写真図版116の10の焼粘土塊、写真図版183の1～3のコハクが出土。土器は、1、7は、縄文中期前葉、2=3は、円筒上層b式、5？、6、10～12、13？、16、18？、20、21？、22？、24は、円筒上層a1式、9は、円筒上層a2式、23？=25は円筒下層d1式？、4、8、14、15、17、19は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×6程度の土器破片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉（円筒上層a1～2式期？）と思われる。

第2号住居跡（第10・11・69～73図、写真図版6～8・119～126・183）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。7～8 Bグリッド。前年度調査終盤に確認。次年度丁寧に検出したが、明確なプラン、第3号住居跡との新旧関係は掴めなかった。仕方がないので、本住居の主軸方向のベルトを第3号住居まで通して設定し、それと直交する方向にも多めのベルトを掛けて、断面から、プラン、新旧関係を明確にしようとした。精査に入ったのは、土坑の精査がほぼ一通り終わり、再び調査員3人体制に戻った10月以降である。思った以上に浅く、壁がはっきりしなかったが、第3号住居の床とはレベル差があり、二つの住居の重複であろうという見通しはたったので、登録。半裁時に出土した土器は、登録前だったので、第2・3号として上げている。

〔図・精査状況〕住居断面のセクション・ポイントB'とC、写真撮影のための清掃時に動かされていた。炉跡、焼土のセクション・ポイントは、調査最終局面でだめ押しと平行して調査を進めていたため、なくなったり記録忘れれたり、セクション・ポイントE以外平面図に残っていない。何れも東西方向に割り、南側の断面を記録している。

〔重複〕東側第3号住居と重複し、はっきりしないが覆土の延び具合から考えて（A-A'）、本遺構の方が新しい可能性が高い。第4・5号炉体土器の下に第64号、第65号土坑がある（本遺構の方が新しい）。南東側第67号土坑があり第3号住居より古いので、本遺構より古い。上に切り株あったため木根多く、さらに元の水路が横切り本遺構中に方向変換用の水槽（図示）があり、カクランを多く受けている。

〔覆土・堆積状況〕暗褐色の今回よく見られた一般的な遺構の覆土。浅いため、ほぼ単層。

〔平面形・規模〕壁がはっきりせず、特に第3号住居跡との重複部分が全く不明なため、よくわからないが、短軸4 m程度、長軸9 m以上の隅丸長方形～長楕円形か。

〔壁・床・掘り方〕重複してない部分は、IV層上部、東側は第3号住居覆土。何れも軟らかく、床らしくない。所々トレンチを入れだめ押しをしたが、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕床面浅く地表面に近く汚れており、検出は困難を極めた。それらしいものを断ち割った結果、あまりはっきりしないが、9つ登録した。覆土は、柱穴1～5、9は、褐色土（10YR4/4）シルト、粘性あり、炭化物顕著に含む。柱穴6～8は、怪しく根穴かも知れないが、にぶい黄褐色土（10YR4/3）シルト、IV層粒子、ブロック多く含む。柱穴7・8は、1～5に似るがより淡い。

〔炉〕土器埋設炉。東西方向に土器が3つ並び、軸方向がややずれているような気がするが、その延長上の第3号住居内に2つの土器が並ぶ。3つ並んだ部分の西側には土器の抜き取り痕状の黒いシミが見られ、さ

らにその西側は水槽によって壊されているので、もっと多くの土器が埋設されていた可能性が高い。炉は強く火を受けて赤く焼けており、焼土は大きく発達している（最大厚14cm）。掘り方ははっきりしない。

〔その他の付属施設〕床面に焼土が2箇所発見されたが、周囲にも焼土が見られるところであり、本遺構とは関係ないかも知れない。

〔出土遺物〕（出土状況）浅いため、本住居に帰属すると特定されたものは少ないが、柱穴9の覆土中層から比較的大きな土器片、柵によるカクランの南西側床面から石皿が出土している。

（遺物）第69図26～第70図34の土器、写真図版119の38～120の50の石器（第70図に一部図示）、写真図版183の4のコハク、石器製作時の剥片524.56gが出土。土器は、26～28、32は円筒上層a1式、31、33、34は、円筒下層d1式、29、30は、縄文前期後葉～中期前葉。掲載した以外に、土器片が、10×10cm1点、9号袋×5袋程度出土。

なお、以上の他に、第71図46、52～55他の土器、写真図版121の69～122の72、123の102、103他の石器も出土している（第71～73図に一部図示）。土器は、46、53、54は、円筒上層a1式、52は、五領ヶ台I a式であろう。55は時期不明だが古いかも知れない（縄文早期～前期前半）。ところで、「第2～3号住居跡」となっているのは、第2号と第3号を通してベルトを設置し掘り下げたため、遺物は、四区画に準じた方向で、北側に①→②→③→④、南側に⑤→⑥→⑦→⑧の区画で取り分けている（③、⑦はどちらに帰属するか不明。①、②、⑤、⑥は本住居）。また第2号か3号住居のどちらから出たかはっきりしない土器片が、9号袋×2程度出土している。第71図6の円盤状土製品、写真図版183の5のコハクも、どちらから出土したかはっきりしない。また、「第2～3号住居跡」で取り上げた石器製作時の剥片が、6,432.28gある。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉円筒上層a1式期と思われる。

第3号住居跡（第12・13・70～73図、写真図版8・9・120～126・178～181・183）

〔位置・検出状況〕調査区中央部。8B～Cグリッド。前年度調査終盤に確認。次年度丁寧に検出したが、明確なプラン、第3号住居跡との新旧関係は掴めなかった。仕方がないので、第2号住居の軸方向のベルトを第3号住居まで通して設定し、断面から、プラン、新旧関係を明確にしようとした。南北ベルトは、土坑あるいは出入り口状遺構らしいものが確認されていたので（第64号土坑）、それを通して設定した。精査に入ったのは、土坑の精査がほぼ一通り終わり、再び調査員3人体制に戻った10月以降である。第2号住居が思った以上に浅く、壁がはっきりしなかったが、第3号住居の床とはレベル差があり、二つの住居の重複であろうという見通しはたったので、登録。半裁時に出土した土器は、登録前だったので、第2・3号として上げている。

〔図・精査状況〕南北断面（A-A'）、石囲炉の南側の石の北側の土場、認識の違いか、合わない。東西断面（B-B'）の石囲炉の西側の石の西側の土場、合わない。B'側のカクラン範囲、崩れたせいか合わない。石囲炉のセクション・ポイント、調査最終期でだめ押しと平行していたせいか、セクション・ポイント抜かれてなくなり記入していない。お詫び申し上げる次第である。C-C'は、東西方向に割り南側から記録、D-D'は、南北方向に割り西から記録している。

最後に精査した住居であり、下に土坑が隠れているという見通しを持っていたので、かなり焦って精査したため、多くの不備がある。

〔重複〕西側、第2号住居と重複し、覆土および炉の位置から第2号の方が新しいと思われる。北西側第64号土坑と重複し、断面から土坑の方が新しい。北側、第68号土坑と重複し、住居検出面では確認できず床面

で確認したが、第64号土坑との関係から、第68号土坑の方が新しい。西側第67号土坑と重複し、土坑上面に黄褐色土を貼っていたことから、土坑の方が古い可能性が高い。南側、第72号土坑と重複。本土坑は、第3号住居の柱穴検出時に確認したもので、土坑の方が古い可能性がある。北西隅、第65号、第66号土坑と重複するが、両土坑とも上面にある第2号住居跡の炉を断ち割った際に検出したため、新旧関係ははっきりしない。

〔覆土・堆積状況〕3層を基本的な覆土とするようだが、IV層再堆積土に炭化物を含むという今回の調査で多くの遺構に見られた土。

〔平面形・規模〕6.8×4.7m程度の楕円形。周溝があるので間違いないと思われる。

〔壁・床・掘り方〕壁～底IV層で、汚れており固く締まらない。浅く、壁の上面が木根等によって汚れており、壁も床も明確には検出できなかった。第67号土坑との重複部分は、黄褐色土を貼っているようである。だめ押しで20cm以上掘り下げたが、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕床面検出時に10個、土坑含めて精査全て終了したダメ押し時に6個登録。床面が汚れていて明確には検出できなかった。床面検出時には、その他にも柱穴らしいものを確認したが、半裁した結果ボツ。柱穴4・6は怪しく、9もやや怪しい。覆土は、皆同じで、にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト、汚れIV層再堆積、フカフカ、根穴より淡い。だめ押し時に検出したものは、柱穴11、12が、褐色土(10YR4/4)シルト、ローム粒多く、1～2mmの炭化物含む。柱穴13・15は、褐色土(10YR4/6)シルト、粘性あり、全体が一様で汚れIV層再堆積、炭化物含まず疑似現象との区別つきづらいが、検出面から柱穴に間違いないと思われる。柱穴14は、柱穴11・12より地の色が濃く、床面で検出したものに近い。暗褐色土(10YR3/4)シルト、ややボソボソ、他の性質は柱穴11・12と同じ。柱穴16は、柱穴11・12により地の色がずっと明るく、ローム粒多く、他は柱穴11・12と同じ。

4本柱四角形という支柱穴の構造をとるものと思われる。それぞれの位置に複数の柱穴が確認されたことから、建て替えがなされているのであろう。北西部分の柱穴が極端に少ないのは、第2号住居の炉、第65号、第66号土坑と重なる位置にあり、検出しにくかったためと思われる。

〔炉〕75×70程度の範囲に一周礫が巡り、中央に土器底部が埋設される土器埋設石囲炉。土器は赤く良く焼けており石のほとんどは火を受けて赤くなっているが、焼土の形成は非常に弱い。調査最終時に焦って精査を進め、普段精査を担当していない作業員に精査をやってもらったため指示が十分に伝わらず、断ち割りに石を取り除かれてしまった。平面図が断面図とうまく合わないのはこのためである。お詫び申し上げる次第である。

〔その他の付属施設〕周溝が巡る。北～西にかけて検出できなかったのは、この部分が遺構の重複著しく確認しづらかっただけかも知れない。二重に巡る場所もあり、柱穴のみならず周溝からも建て替えの可能性が示唆される。覆土は、柱穴1～10と同じで、にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト、汚れIV層再堆積、フカフカ、根穴より淡い。

〔出土遺物〕第70図35～45の土器、写真図版120の51～122の68の石器類(第71図に一部図示)、写真図版178の966～181の1060他の石器製作時の剥片(Rフレイク含む)(掲載分348.45g、総量1,558.01g)が出土している。土器は、36～38、45は、円筒上層a1式、41は、円筒上層a2式の可能性が高い。40は、縄文前期後葉～中期前葉、35、39、42～44は、時期不明。

なお、以上の他に、第71図49～51、62、63等の土器、写真図版122の82～123の101、125の131～126の146他の石器も出土している(第71～73図に一部図示)。土器は、49は円筒上層b式?、50、62は、円筒上層a1

式、51、63は時期不明。ところで、「第2～3号住居跡」となっているのは、第2号と第3号を通してベルトを設置し掘り下げたため、遺物は、四区画に準じた方向で、北側に①→②→③→④、南側に⑤→⑥→⑦→⑧の区画で取り分けている（③、⑦はどちらに帰属するか不明。④、⑧は本住居）。掲載した以外に、9号袋×7程度の土器片が出土し、その他、第2号か3号住居のどちらから出たかはっきりしない土器片が、9号袋×2程度出土している。第71図6の円盤状土製品、写真図版183の5のコハクも、どちらから出土したかはっきりしない。また、「第2～3号住居跡」で取り上げた石器製作時の剥片が、6,432.28gある。

〔時期〕出土土器と重複関係から、縄文時代中期前葉（円筒上層a1式期？）の可能性が高い。

第4号住居跡（第14・15・73・74図、写真図版10～12・126・127）

〔位置・検出状況〕第4A号、第4B、C号炉跡を精査した後、これにレベル的に合う床面を見つけ、竪穴住居跡の存在を考えたが、それは初年度の調査終盤であった。次年度は、この住居の柱穴を捜すところから始めた。周囲に古代の住居があり汚れているせいか、なかなか検出できなかった。あまりそれらしくはなかったが、4つの柱穴、さらにダメ押しで2つの柱穴を見つけた。しかし、本住居の床と考えて残しておいたⅢ層の下から、焼土（第41号）が検出され、柱穴が、この焼土に伴うものである可能性も捨てきれないので、一緒に掲載した。ただし、詳細は、本章最後の焼土の節参照。

〔図・精査状況〕柱穴6は、調査員の意思疎通がうまくいかず平面図を作成していなかった。お詫び申し上げる次第である。柱穴6の位置は、柱穴4の東隣か、柱穴3の東隣である。同じくF-F'は、F側崩れて合わず、H-H'は、崩れたのか全く合わない。炉跡については、後述。第41号焼土については、焼土の節参照。

〔重複〕古代の第10号住居跡に切られる。周囲に第2号～第6号土坑があるが、新旧関係は不明。想定した床面が正しいとしたら、第41号焼土は、本遺構より古い。

〔覆土・堆積状況〕認定時既になくなっていたので、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕炉跡東側に残したⅢ層が床面だとすれば、水平で、比較的固く締まるが、表面に凹凸がありボソボソした部分もある。壁、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴1～4は、同時に検出し、1は比較的是っきり検出。他は断ち割ってみた結果それらしいものを登録（ボツになったものも多かった）。3は、怪しいが、1、2との並びがよいので、含めた。覆土は、全体的ににぶい黄褐色～灰黄褐色土だが、3と4はやや異質である。柱穴5と6は、地山上面を20cm下げて第5～6号土坑のプランを確認する際に検出。

〔炉〕3つの土器埋設遺構。詳細は、後で別に述べる。

〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕以下に述べる炉体土器の他に、本住居に帰属する可能性のある遺物として、第73図68～70の土器、写真図版126の147～127の159の石器類（第73～74図に一部図示）、石器製作時の剥片26.24gある。土器は、69は円筒下層d1式、その他も円筒下層d式の可能性が高い。掲載した以外に、本遺構に関係する土器破片が、9号袋×1分あるが、本遺構に帰属するかどうかは不明である。

〔時期〕出土土器から縄文時代前期末（円筒下層d1式期？）の可能性が高い。

第4A号炉跡（第14・15・第73図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕調査区西端。2Dグリッド。Ⅲ層中で確認。

〔図・精査状況〕検出面で確認した焼土の範囲が、断ち割った際の焼土の範囲と大きく異なったため、焼土

範囲合わない。その理由としては、検出面で、覆土が被っていたことや焼土粒が密集していたことにより燃焼範囲を見誤ったことが挙げられる。

〔重複〕 東側第10号住居と重複し、壊されている。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕 土器埋設炉。土器の周囲に約80×50cmの範囲で焼土が不整形に広がっている。土器は、深鉢形土器の底部が正位に埋設されている。

〔焼土〕 土器の周囲に約80×50cmの範囲で焼土が不整形に広がっていたが、不整形なのは攪乱を受けているためか。検出時の最大厚約14cm。Ⅲ層中に形成されているためか、あまりしっかりしていないようである。

〔付属施設〕 ないと思われる。

〔所属施設〕 Ⅲ層上面でほぼ検出され周囲にⅢ層が広がるが、第10号住居のカマド東側に残しておいたⅢ層上面がどうやら住居床面であることが1年目の調査の最後に判明し、この点から判断すると、この住居の炉跡である可能性が高い。なお、本遺構の北東側に隣接して第4 B、C号炉跡があるが、検出面の高さがほぼ同じであることから、これも同じ住居の炉跡の可能性が高い。これらを総称して第4号住居跡と仮称する。第4号住居の詳細は、上で別に述べた。

〔出土遺物〕 炉体土器は、口縁部が欠損しており（第73図64）、時期の特定が難しいが、円筒下層d式の可能性があるか。

〔時期〕 炉体土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

第4 B、C号炉跡（第14・15・73図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2 Dグリッド。Ⅲ層中で確認。

〔図・精査状況〕 西（B'）側の焼土が、断ち割りの際に崩れたため、平面図と断面図の範囲合わない。

〔重複〕 南側第10号住居と重複し、壊されている。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕 土器埋設炉で、東西に隣接して三つの土器がL字状に並んで埋設されている。土器は、どれも深鉢形土器の底部が正位に埋設されている。周囲には焼土が広がるが、南側が第10号住居で壊されているため範囲は不明である。

〔焼土〕 東西方向に約70cm、南北方向は35cm以上（住居に壊されているため不明）にわたって広がる。検出面からの最大厚10cm。

〔付属施設〕 ないと思われる。

〔所属施設〕 Ⅲ層上面でほぼ検出され周囲にⅢ層が広がるが、第10号住居のカマド東側に残しておいたⅢ層上面がどうやら住居床面であることが1年目の調査の最後に判明し、この点から判断すると、この住居の炉跡である可能性が高い。なお、本遺構の南西側に隣接して第4 A号炉跡があるが、検出面の高さがほぼ同じであることから、これも同じ住居の炉跡の可能性が高い。これらを総称して第4号住居跡と仮称する。第4号住居の詳細は、上で別に述べた。

〔出土遺物〕 炉体土器（第73図65～67）は、どれも口縁部が欠損しており、時期の特定が難しいが、円筒下層d式を中心とした時期のものと思われる。

〔時期〕 炉体土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

第5号住居跡（第16・17・74図、写真図版12・13・116・127・128）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面クリーニングして第5A、B号炉跡検出。前年度県教育委員会の試掘で竪穴住居跡とされたものは、本遺構かも知れない。周囲をクリーニングして竪穴を捜したが、検出位置が法面の一番上近くにあり、ほとんどが削平されているためか見つけることはできなかった。それで現場では炉跡として登録したが、後に柱穴が確認されたこともあり、また調査区境の断面に竪穴らしいものも確認されたため、住居跡を想定した。なお、調査区境をクリーニングした際、別の炉跡（第5C号）も検出されたが、この炉跡が帰属する竪穴範囲が推測できず、この炉より東側の調査区境断面図の作成を省略したため、一緒に掲載する。また、第42号焼土も、炉跡と柱穴から推定される竪穴の範囲に入るので一緒に掲載する。ただし、詳細は、本章最後の焼土の節参照。

〔図・精査状況〕調査区境断面図（A-A'）のセクション・ポイント平面図に記入漏れ。西側の角がセクション・ポイントAの位置になる。炉跡については後述、焼土については本章最後の焼土の節参照。

〔重複〕第5B号炉跡は第91号土坑、第42号焼土は第90号土坑の検出面にある（より新しい）。周囲には、その他の遺構も広がるが、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕断面図（A-A'）の2層が相当するか。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕壁、底は、調査区境に相当する部分があるか。掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕周囲を丹念に検出したが、法面に位置し水田造成時に南側は大きく削平されたためか、北側の高い方にしか見つけられなかった。断ち割った結果7基を登録。あまりはっきりしないが、第4号、第6号住居跡に比べればそれらしい。断面図は、次年度の調査最終時であったため作成しなかったが、覆土は、柱穴1～3が、濃淡の違いはあるが、にぶい黄褐色土（10YR5/3）シルト、粘性あり、V層ダマ状（径1cm）ブロック、炭化物含む。すごく淡く、周囲の根穴とほとんど区別できない。柱穴4、5は、灰黄褐色土（10YR4/2）シルト、性質は1～3と同じ。柱穴6は、灰黄褐色（10YR4/2）～黒褐色土（10YR3/2）の間、性質は1～3と同じ。柱穴7は、いったんは疑似現象かと思ったが思い直した。1～3と4～5の中間的。深さは、柱穴1約19cm、2約44cm、3約44cm、4約33cm、5約20cm、6約56cm、7約59cm。

〔炉〕最初は第5A、B号炉跡のみかと考えていたが、第5C号炉跡、第42号焼土も同じ軸線上に乗り、一連のものかも知れない。詳細は、炉跡については後述、焼土については本章最後の焼土の節参照。

〔その他の付属施設〕不明。

〔出土遺物〕以下の第5A～C号炉跡炉体土器の他、第74図75～78の土器、石器製作時の剥片41.69g出土。土器は、75、76は、円筒下層d1式か、77、78?は、縄文中期前葉。写真図版127の165～128の172の石器類（一部第74図に図示）も、周囲から出土している。

〔時期〕第5A～C号炉跡の炉体土器から、縄文時代中期前葉と思われる。

第5A・B号炉跡（第16・17・74図、写真図版13・116・127）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面クリーニングして検出。前年度県教育委員会の試掘で竪穴住居跡とされたものは、本遺構かも知れない。周囲をクリーニングして竪穴を捜したが、検出位置が法面の一番上近くにあり、ほとんどが削平されているためか見つけることはできなかった。それで現場では炉跡として登録した。

〔図・精査状況〕断面図はB-B'で、土器東側測り間違いか合わない。焼土範囲は認識の差で合わない。

〔重複〕第91号土坑の検出面にある（より新しい）。なお、検出時には、土坑があまりに小さかったため炉跡の掘り方かと思っていた。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕 土器埋設炉。土器の数から考えると2基になるが、一連のものと思われる。5 A号炉は、深鉢形土器の底部を正位に埋設。5 B号炉は、円筒上層a1式の底部を欠いた深鉢形土器を正位に埋設（口縁部も欠いているが、元はあった可能性がある）。掘り方は、一応それらしいものが確認されている（断面図参照）。

〔焼土〕 東側の土器の周囲には、円形に焼土が発達している（直径約50cm、最大厚10cm）。そこから、西側の土器にかけてはブロック状の焼土が見られ、西側の土器の周りには焼土は検出されていない。

〔付属施設〕 不明。

〔所属施設〕 周囲に検出された柱穴は、本炉跡が帰属する竪穴住居跡のもの可能性がある。また、調査区境を記録した断面図（A-A'）中央に見られる落ち込みは、その竪穴である可能性もある。第5 C号炉跡、第42号焼土とも同じ軸線上に乗っており、より大きな住居の炉跡の可能性もある。

〔出土遺物〕 第74図71が5 A号炉の炉体土器、72が5 B号炉の炉体土器。71は、はっきりしないが、72は円筒上層a1式と思われる。77も5 A号炉付近から出土しているが、時期ははっきりしない。78も同様である。写真図版127の160、161の石器類（一部第74図に図示）、写真図版116の11の焼粘土塊も出土している。掲載した以外に、本遺構に関する（検出時も）土器として、10×10cm 2個、9号袋×0.8程度の土器片が出土しているが、本遺構に帰属する可能性は低いものと思われる。

〔時期〕 5 A号炉は、はっきりしないが、縄文時代前期末～中期前葉辺りか。5 B号炉は、縄文時代中期前葉円筒上層a1式期と思われる。

第5 C号炉跡（第16・17・74図、写真図版13・127）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。15Cグリッド。第5 A、B号炉跡が帰属する竪穴を捜そうと、調査区境をクリーニングしていたときに検出。すぐ横の断面の丁度良い高さに床面らしいものが確認されたが、立ち上がりははっきりせず（そのため、時間が限られていたこともあって、本炉跡より東側の断面は記録しなかった）、また周囲に柱穴も確認されなかったので、炉跡として登録。

〔図・精査状況〕 焼土範囲認識の違いで、合わない。〔重複〕 ないものと思われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため不明だが、A-A'断面図の2c層が相当する可能性が高い。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕 土器埋設炉。円筒上層a1式の底部を欠いた深鉢形土器を正位に埋設（口縁も欠いているが元はあった可能性が高い）。掘り方は、それらしいものが確認された。

〔焼土〕 やや偏ってはいるが、土器を中心に周囲直径約50cmの円形に広がる（厚さ10cm弱）。

〔付属施設〕 不明。

〔所属施設〕 竪穴住居跡に帰属する可能性が高く、断面図には床らしいものが確認されたが、その広がりには不明で、付近には柱穴も確認できなかった。ただし、第5 A号、第5 B号、さらに第42号焼土も同じ軸線上に乗っており、これらは一連の炉で一つの竪穴住居跡に帰属するのかも知れない。

〔出土遺物〕 第74図73=74が炉体土器で、円筒上層a1式と思われる。掲載した以外に、本遺構に関する（検出時も）土器として、5×5cm未満の土器片が10個程度出土しているが、本遺構に帰属する可能性は低いものと思われる。また、炉体土器から、写真図版127の162～164の石器類が出土（一部第74図に図示）。

〔時期〕 炉体土器から、縄文時代中期前葉円筒上層a1式期と思われる。

第6号住居跡（第17・74図、写真図版14・15・116・128）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。前年度終盤、焼土群と共に第6号炉跡検出。次年度の最初にクリーニングした後、これに伴う柱穴を捜した。あまりはっきりしなかったが、それらしいものが確認されたので、竪穴住居跡に認定した。

〔図・精査状況〕柱穴1、測り間違いか、合わない。炉跡については後述。

〔重複〕炉の上に第13号焼土がある（より新しい）。その他にも焼土群が周囲に見られるが、形成層から考えて、何れの焼土も本炉（住居）跡より新しいと思われる。その他、周囲に第35号等の土坑が見られるが、新旧関係は不明。

〔覆土・堆積状況〕（炉跡）検出時既になくなっていたため、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕炉跡の状態から考えて、柱穴検出面（IV層上面）が床であったと推測される。特に硬く締まることもなく全く床らしくない。掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕最初のクリーニング時に2つ、後で20cm下げた土坑検出時に1つ認定。クリーニング時には、その他にも3つ検出したが、半裁した結果疑似現象とわかった。何れの柱穴も立ち上がりははっきりせず、周囲に見られる根穴との区別は明確ではない。柱穴1の覆土には焼土が認められた。前年度の調査範囲にも存在していた可能性があるが、認定されたものはなかった。一応それらしいものも検出され半裁したと記憶しているが、疑似現象ばかりで柱穴と認定できるものはなかった。ただし、次年度の柱穴も上記のようなものだったので、積極的に柱穴とするかどうかの判断の違いによるだけの可能性が高い。

〔炉〕石囲炉。詳細は後述。〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕写真図版116の12の焼粘土塊が柱穴から出土。周囲から、第74図79～82の土器が出土している。土器は、80? = 81? は円筒下層b2式の、82は円筒下層b1式の可能性がある。79は時期不明。

〔時期〕時期を特定できるものがないが、出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第6号炉跡（第17・74図、写真図版14・128）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。前年度焼土群と共に既に検出していた。

〔図・精査状況〕焼土範囲、認識の違いで合わない。石も、断ち割り時に落下してしまったので、合わない。

〔重複〕北西側、本遺構の上面に第13号焼土がある（より新しい）。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕石囲炉。75×70cmの、南東側に開くコ字形。石の抜き取り痕は確認できず、元々開いていた可能性が高い。コ字の南西部分の石がないのは、この部分に焼土が重複しており、また木根があり、抜き取り痕らしい黒土も見られたことから、石が抜き取られた可能性が高い。この位置は、開口部から見て第7号炉跡と同じ位置で、事実としたら、当時の慣習を垣間見せるもので非常に興味深い。各石の炉内側は、何れも良く焼けており、特に北西部分の石は、花崗岩であるためボロボロになっている。掘り方は、はっきりしないが、それらしいものが確認されている。

〔焼土〕直径約50cmの円形の範囲に見られ、北東側は一部石の向こう側まで形成されている。最大厚10cmで、比較的良く焼けているが、根によるカクランを多く受けている。

〔付属施設〕不明。

〔所属施設〕上で別に述べた柱穴が伴うとしたら、竪穴住居跡だった可能性が高い。

〔出土遺物〕コの字形に囲う炉石の反対側に、写真図版128の173の石器類出土（第17図）。北西側石の向こう側に土器の底部片が正位で出土（第74図79）。黒こげである。石器製作時の剥片9.25g出土。掲載した以外に、本遺構に関係する（検出時等）土器破片が9号袋×1分ある。本遺構に帰属するものはほとんどないと思われるが。

〔時期〕時期を特定できるものがなく不明だが、出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第7号住居跡（第18・74図、写真図版15～17・128）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7 Bグリッド。前年度の調査終盤、IV層上面で第7号炉跡検出。次年度、この面で柱穴を捜したところ、あまりそれらしくないが比較的多くの柱穴が検出されたので、竪穴住居跡を想定した。

〔図・精査状況〕柱穴の、E-E'のセクション・ポイントEが合わない。J-J'のセクション・ポイントJ'完掘後崩れた。炉跡については後で別に述べる。

〔重複〕炉跡下に第47号土坑がある（本遺構の方が新しい）。周囲に土坑群が広がるが、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕検出時既になくなっていたため、不明。〔平面形・規模〕不明。

〔壁・床・掘り方〕炉の位置から、柱穴検出面が床面であると思われるが、特に固く締まらず全くそれらしくない。壁は消失。掘り方は不明。

〔柱穴〕炉跡検出面（IV層上面）で、13個検出し、半裁の結果2個は疑似現象と判断し、2基を除いて、あまりそれらしくないが11個を認定。柱穴が南側に広がらず不自然なのは、調査を別々に行ったためである。南側調査時にも、柱穴らしいものは確認されたが、半裁した結果立ち上がりもはっきりせず、それらしくなかったので疑似現象と考え遺構と認定しなかった。北側を調査したときは、炉跡があるということで、怪しいものでも積極的に柱穴に認定した。その差がこの結果になっていると思われる。柱穴6と11は、覆土等から柱穴らしいが、他は立ち上がりもはっきりせず根穴ともほとんど違わない。柱穴11は、土坑と予測していたシミを掘り下げた底から検出されたもので、確認面が低いせいか極めてはっきり円を描いて確認された。

〔炉〕石囲炉。詳細は、後述。〔その他の付属施設〕不明。

〔出土遺物〕柱穴から第74図83～86の土器、写真図版128の174～176（一部第74図に図示）の石器類が出土。土器は、83は時期不明、84、85？、86？は円筒上層a1式の可能性がある。掲載した以外に、本遺構に関係する（検出時等）土器破片が9号袋×1/2分ある。本遺構に帰属するものはほとんどないと思われるが。

〔時期〕出土遺物から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第7号炉跡（第18図、写真図版15・16）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7 Bグリッド。前年度IV層上面で検出。

〔図・精査状況〕断面B-B'のBの方の石、合わない。

〔重複〕第47号土坑の上面にある（本遺構の方が新しい）。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕石囲炉。60×40cmのコ字形。西側、石の抜き取り痕は見られず、元々なかったものと思われる。コ字の北東側の石がないが、検出面黒く、抜き取られた可能性もある。この位置は、開口部から見て第6号炉跡と同じ位置で、事実としたら、当時の慣習を垣間見せるもので非常に興味深い。南

側の比較的大きな石を除き、何れの石も火を受けて赤くなっており、特に東側の小さな石は花崗岩であるためボロボロである。南北断面の北側の石は、下がきれいな黄褐色土であるため掘り方をはっきり確認することができた。しかし、同断面の南側の石は、周囲が黒っぽい土のため、はっきりしない。

〔焼土〕 焼土粒は多く見られるが、焼けている面は残っていない。片づけがなされたせいか。石器製作時の剥片も多く出土している。

〔付属施設〕 不明。

〔所属施設〕 上で述べた柱穴が本遺構に帰属するとしたら、竪穴住居跡であった可能性が高い。

〔出土遺物〕 石器製作時の剥片69.72g出土。

〔時期〕 不明だが、今回の調査結果全体から縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第8号住居跡（第19図、写真図版17・18・128）

〔位置・検出状況〕 調査区東部西。10Cグリッド。周囲（西以外）の調査範囲外に続く。前年度の最後に炉跡検出。規模が大きく焼土が明瞭に形成されていることから、最初から竪穴住居跡を想定して精査。次年度最初に、周囲を丹念に検出したところ、はっきりした柱穴が確認された（はっきりしすぎて新しい可能性もあるか）。南側は水田造成時の削平、北～東側は調査範囲外のため、全容不明。本遺構は当初から竪穴住居跡として登録されていたが、今回報告するに当たって他の同様遺構の様式に合わせて報告するものである。

〔図・精査状況〕 炉跡については後述。

〔重複〕 炉跡第100号土坑と重複（土坑の方が新しい）。

〔覆土・堆積状況〕 検出時既になくなっていたため、不明。〔平面形・規模〕 不明。

〔壁・床・掘り方〕 炉跡の南側は硬く締まり（IV層）、それらしい。壁、掘り方は確認できず。

〔柱穴〕 西側に弧を描いて並ぶように4基検出。柱穴4（E-E'）は、ややあやしいが、他は黒褐色の柱あたりらしいものが確認され、今回の調査では最も明確に認定できたものである（ただし、はっきりしすぎて、新しいものの可能性をめぐり去れない）。南側は水田造成時の削平（法面）、北～東側は調査範囲外のため、柱穴の広がり不明。

〔炉〕 後述。〔その他の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 柱穴から写真図版128の177の石器類出土。5×5cm未満の土器破片4個が出土しているが、本遺構に本当に帰属するかは定かでない。時期も不明。

〔時期〕 不明だが、今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第8号炉跡（第19図、写真図版17・18）

〔位置・検出状況〕 調査区東部西。10Cグリッド。東側の調査範囲外に続く。前年度の最後に検出。規模が大きく焼土が明瞭に形成されていることから、最初から竪穴住居跡を想定して精査。次年度最初に、周囲を丹念に検出したところ、はっきりした柱穴が確認された（はっきりしすぎて新しい可能性もあるか）。こうした経緯のため、本遺構は当初から竪穴住居跡の炉跡として登録されていたが、今回報告するに当たって他の同様遺構との兼ね合いから、あえて炉跡として別に報告するものである。

〔図・精査状況〕 平面実測時出したらなかったせいか、合わない。

〔重複〕 西側に飛び地状に柱穴大に広がる焼土を第100号土坑が切る（より新しい）。

〔覆土〕 検出時既になかったため、不明。

〔種類・平面形・規模・掘り方〕地床炉か。石囲炉の可能性も十分あるが、上面が根穴により汚れており、炉石の抜き取り痕は確認できなかった。規模は、東側の調査範囲外に続くため不明。

〔焼土〕規模も大きく良く焼けている。調査した範囲では、最大厚約7cm。本遺構は次年度の最初に調査しており、大量の土坑群を早く手に付けなければとあせっていたためか、断ち割り時の注記を忘れて完掘してしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔付属施設〕不明。

〔所属施設〕周囲に検出された柱穴と共に、本遺構を炉跡とする竪穴住居跡に帰属する可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕時期を特定できるものがないが、今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第9号住居跡（第19図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6Cグリッド。初年度の最初の頃に調査した第9号炉跡は、焼土が確認できず、また石が焼けていないこともあって、当初配石遺構としていた。しかし、二カ年の調査を終えて、周囲には竪穴住居跡が広がり、また石囲炉も近くにあることがわかり、炉跡と考えた方が良いと思うようになった。今回の調査で明らかに屋外炉と言えるものは存在せず、竪穴住居跡の存在を想定した。このような経緯のため、柱穴は登録されていない。根穴かどうかははっきりしないものは検出し、断ち割りはしたが、それらしいものはなかった。積極的に柱穴とする気持ちはなかった。第6号、第7号住居跡などの柱穴から考えれば、柱穴がないのは、単にその気持ちによる部分の可能性が高い。ここに、調査範囲を細かく分断して行った弊害が如実に表れている。以下、配石遺構改め炉跡について詳述する。

第9号炉跡（第19図、写真図版18、183）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6Cグリッド。IV層検出面で確認。規模から炉跡と考えたが、礫が全く火を受けておらず焼土も確認できなかった。配石遺構として登録。ただし北西側1mほど離れた地点の土坑（第101、102号土坑）検出面では焼土ブロックが確認されている。

〔図・精査状況〕西側の配石断面図と合わない。

〔重複〕配石遺構検出時には確認できなかったが、下部から第101号、第40号土坑が検出されている。明らかに本遺構の方が新しい。

〔覆土・堆積状況〕調査員が確認した時には既に配石が露頭していたため不明だが、検出状況から考えてⅢ層の一部として良いと思う。

〔平面形・方向・規模〕北西～南東方向に主軸を持つ長方形～長楕円形。約75×35cm。

〔配石の構成〕石囲炉のように角礫を長方形～長楕円形に配置しただけで特に組んではないようである。

〔石の性質〕火は受けていないようである。石質は鑑定していない。

〔石の掘り方・設置の仕方〕根等の攪乱もあり、はっきりしないが、断面から推測すると、皿状に掘り窪めたところに石を並べ、その上に1層の土を被せたものか。

〔付属施設〕確認できなかった。

〔下部構造〕下に第101号土坑（第40号土坑も関係？）があり、これに関係する可能性が高い。ただし、第101号の覆土はⅣ～Ⅴ層再堆積の褐色土で積極的に埋め戻したとする根拠はなく（第40号は後述のように不明）、墓壙かどうかは不明であるが、角張った楕円形という今回の調査で他とはやや異なる形から墓壙の可

能性が窺われるかも知れない。

〔所属施設など〕もし本遺構が炉跡だとしても、付近に柱穴は検出されておらず堅穴住居跡の一部にはならないものと思われる。

〔出土遺物〕すぐ南側の検出面で琥珀出土（写真図版183の16）。確認時には壊れてしまったので加工品かどうかは不明。

〔時期〕時期を特定できる遺物はないが、重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第10号住居跡（第20・75図、写真図版19～21・128・129）

〔位置・検出状況〕調査区西端。2 D グリッド。南側の調査範囲外に続く。主としてIV層上面で黒土で検出したが、周囲にⅢ層に近い暗褐色土が広がり、第11号住居ほど明確には検出できなかった。13年度調査終盤に、それは、周囲に縄文時代の遺構が広がり、それを掘り込んで構築されているためと気づいた。道路造成時に削平され、南に行くほど削平の度合いは大きい。〔図・精査状況〕カマド断面、平面図と焼き口部分合わない。平面図では3層の一部まで焼土範囲と含めていたためのものである。

〔重複〕第4 B、C号炉跡を壊して構築。床下から、第5、6号土坑を検出。調査区境付近水路によって壊されている。

〔覆土・堆積状況〕上部黒土、下部黒褐色～暗褐色土。4層は住居外から続くカマドと推測される部分を覆っている。

〔平面形・規模〕南側の調査範囲外に大きく続くため不明。東西は約4.7m。

〔壁・床・掘り方〕壁は削平されているため非常に浅く不明である。床は特に締まる部分はなく、北西隅は根による攪乱のためカソボソな所がある。Ⅲ～IV層を壁、IV層を床とする。完掘後セクションポイントに沿ってトレンチを入れたが、掘り方ははっきりせず、少なくとも面的な広がりを持っている部分はなかった。

〔柱穴〕数回床面をクリーニングし、あやしいものを断ち割ったが、皆疑似現象で柱穴と思しきものはほとんど確認できなかった。南東部分に検出された1基も、輪郭がボヤーとしていて確実性は薄い。半裁時断ち割り、完掘時掘りすぎたので、形は確かでないが、直径約30cm、床面からの深さ約15cm。覆土は、黒褐色（10YR3/2）シルト、わずかに炭化物含む。

〔カマド〕カマド本体は残っておらず、その部品と思しき礫を含む4層が相当部分に広がる。この4層は住居北側から流入する形で広がっているが、由来がはっきりせず、カマド本体が崩れたとしては、粘土やロームブロック、焼土ブロックの混入が少ない。

焼き口は、65×50cmにわたって焼土が形成されており、最大厚約10cm。煙道および煙出には、熱を受けて硬化した部分はない。これは、煙道が縄文時代の土坑を壊して構築されているためか。

〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕（出土状況）南西隅の水路近くの床面で（1cm浮く）、土師器甕の破片が横倒しになった状態で出土（写真図版20～21）（第75図1）。同一個体と思われる破片が、そのすぐ西から出土し、付近に木根があることから、これによって攪乱されたのかも知れない。カマド焼き口前方の4層中で、住居方向に傾斜して底部破片が出土（写真図版20）（第75図2）。そのすぐ下南側に磨石出土。

（遺物）第75図1～3の土師器出土。出土量が少なく残りが悪いので、はっきりしないが、八木編年のG期

(9世紀後葉)(第V章第2節参照)に相当するか。写真図版128の178～129の193(一部第75図に図示)の石器類が出土しているが、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕出土土器から、平安時代(9世紀後葉?)と思われる。

第11号住居跡(第21・22・75図、写真図版21・22・129・130)

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。古代の竪穴住居跡によく見られる黒土で明確に検出。

〔図・精査状況〕南北断面(A-A)完掘時掘り広がったため上場、下場平面図と合わない。東西断面の東(B)側の上場も。カマド断面、石が平面図と微妙に合わない(測り位置によるものと思われる)。煙出、完掘時掘り広がったため平面図と合わない。

カマド断面

〔重複〕覆土上面から第105号土坑が掘り込まれている(住居より新しい)。

〔覆土・堆積状況〕1層は、住居と第105号土坑の覆土。上半部黒褐色～黒色土、下半部褐色～黄褐色土。11層には灰白色火山灰が含まれる。覆土の性質及び形態から、自然堆積の可能性が高い。

〔平面形・規模〕約3.3×3mの隅丸方形。

〔壁・床・掘り方〕壁は、垂直に近く外反するようである。床は特に締まる部分はなかった。IV層を壁と床とする。完掘後セクションポイントに沿ってトレンチを入れたが、掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕床面を数回クリーニングし、あやしいものを断ち割ったが、皆疑似現象で柱穴と思しきものは確認できなかった。

〔カマド〕検出時、煙出は黒いシミが柱穴状に円くはっきり見え、カマド本体との間は、地山の黄褐色土に近い土が広がり所々黒褐色土がブロック状に見られるという状態であった。断ち割り時には煙道上面には既に黄褐色土は見られず、この点から考えれば掘り込み式ということになるが、検出状況からはくり抜き式の可能性が窺われる。本来くり抜き式だったものが煙道部分が大きく削平されたため掘り込み式に見える可能性もある。

カマド本体は石組みの立派なものであるが、それを覆っていたはずの粘土は残っておらず石も多くは崩れ、その上の煙出に向かう部分も家の中に向かって崩れていた(カマド断面の2、3、7?層)。焚口焼土に接する北側の石、およびそれに東側に隣接する石は立石で、地中に15cm程度埋設されていた。西側の石は赤く明らかに火を受けているが、東側の石は赤くない。ただしやや脆いので火を受けているかも知れない。

焚口は、90×70cmの範囲で焼土が形成されており、最大厚約8cm。煙道および煙出は、熱によって硬化した部分は全く見られなかった。

〔その他の付属施設〕カマド南側、住居南東隅に浅い窪みが検出された。約60×50cmの不整形円で、床面からの深さ約5cm、覆土は単層で、暗褐色(10YR3/4)シルト、ややボソボソでダマ条のロームブロック、焼土ブロック、炭化物含む。埋め戻したような土であり、竪穴を掘った時の窪みを平らにならしただけなのかも知れない。

〔出土遺物〕(出土状況)カマド北側の床面直上から比較的残りの良い土師器(a土器)(第75図4)、その他の土器片が出土した(第22図)。(遺物)第75図4の土師器が出土。1点のみで、また残りが悪いため、時期を特定するのは難しいが、第10号住居跡出土土器とほぼ同じくらいか。写真図版129の194～130の208(一部第75図に図示)の石器類出土しているが(一部第105号土坑出土分含むか)、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕出土土器から、平安時代と思われる。

2. 住居状遺構

竪穴住居跡に類似するが、炉やカマドを持たない遺構である。縄文時代1基と古代1基検出された。規模は何れも小さい。

第1号住居状遺構（第23・75図、写真図版22・116・130）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。6Cグリッド。IV層上面で、輪郭はぼんやりしていたが、中央に濃い灰黄褐色土を持つ比較的大きなシミを検出。規模から住居状遺構かと考えたが、比較的小さいので半裁した。その結果、浅く底が平らだったので、住居状遺構に認定。土坑でなく住居状遺構としたのは、規模、深さ、底が平らという3点からであるが、墓と推定した第104号土坑も、これらの条件を満たし、本遺構よりさらに大きい。位置も近く、同じ仲間とすることも不可能ではないが、覆土が全く異なり、本遺構は他の多くの遺構に近く、同じ時期と考えられる。しかし、規模と深さが他の土坑類と全く異なるので、別の遺構と考えた。すぐそばに該期の竪穴住居跡が存在することも、住居状遺構に分類する根拠である。

〔図・精査状況〕浅いため底が軟らかく汚れており、半裁時中央付近掘りすぎ（副穴状の部分）。その他の壁、底の部分も掘りすぎが多い（特に半裁時に掘った南側）。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕全て似たような土だが、下に行くほど淡い。北西隅、6層の下にIV層再堆積土あり（炭化物少し混じる）。

〔平面形・規模〕1.9×1.4m程度の楕円形か。

〔壁・床・掘り方〕壁上25cmIV層、壁下5cm～底V層。掘り方は確認できなかった。

〔柱穴〕確認できなかった。〔その他の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第75図87～95の土器、写真図版130の209～210の石器類（一部第75図に図示）、写真図版116の13の焼粘土塊、石器製作時の剥片39.73gが出土。土器は、93、95?は円筒上層a1式の可能性があり、87～92、94は、縄文前期中葉～中期前葉。掲載した以外に、9号袋×1.3程度の土器破片出土。

〔時期〕出土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

第2号住居状遺構（第23・第75図、写真図版23・130）

〔位置・検出状況〕調査区西。3Dグリッド。IV層黒土で検出。検出面では第1号陥し穴状遺構とくっついて見え、隅丸方形の土坑の北西隅に溝状の土坑が連続しているように見えた。半裁した結果、壁と底を確認して土坑と認定したが、その形態と規模から、報告書記載の時点で住居状遺構に改めた。

〔図・精査状況〕西（A）側の上場完掘時掘り広がったため合わない。第1号陥し穴状遺構との重複関係を把握するため、北西隅にサブトレンチを入れたが、その際狭くて土層が十分に把握できなかったので、掘り広げて本遺構を壊した。

〔重複〕北西隅第1号陥し穴状遺構と重複。覆土はよく似ているが、断面から住居状遺構の方が新しい。

〔覆土・堆積状況〕上部黒土、中部黄褐色土、黒褐色土と黄褐色土の混土、下部黒～黒褐色土。中部は埋め戻した土のようである。平面図に示したように、底面中央から北側にかけて焼土粒を多量に含むブロックが検出された。炭化物や炭化材らしいものも含み、底面から約10cmの高さで見られたが、断面図の相当層は確認できなかった。

〔平面形・規模〕 約2.2×1.9mの隅丸方形。

〔壁・底・掘り方〕 壁は垂直に近く外反。掘り方は確認しなかった。壁～底IV層。

〔柱穴〕 検出できなかった。

〔その他の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 写真図版130の211～215の石器類が出土しているが（一部第75図に図示）、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕 覆土から古代の可能性が高く、今回の調査結果全体から平安時代（9世紀後葉）の可能性がある。

〔所見〕 古代の第10号住居跡に隣接することから、物置などの付属施設なのかも知れない。

3. 土坑・墓壇

（人によって）地面に掘られた穴のうち、竪穴住居跡（第1節）、住居状遺構（第2節）、溝状の陥し穴状遺構（第4節）を除いたものである。

縄文時代104基（第1号～第104号）、古代1基（第105号）ある。縄文時代のものは、墓壇の可能性のあるもの（第101号～第104号）とそれ以外に分け、それ以外のもは、フラスコ然としたものとそうでないもの（第98号～第100号）に分けた。同じ種類の中では、西から東へ番号をふっている。前期中葉～中期前葉のものがほとんどを占め（中でも前期末～中期初頭）、その他早期の可能性のあるフラスコ状土坑が2基ある（第18号、第57号）。なお、フラスコ状土坑については、第Ⅶ章に一覧表がある。

本遺跡では、オーバーハングがきつく三角形に近いフラスコ状土坑が多かった。そのため、口が狭く、また掘り終わると、そのそばから崩れてしまい、精査するのも容易でない。そこで、半裁する際には、トレンチ状に掘って断ち割り、他の部分の壁は完掘時に同時に掘ることにした（写真図版25等参照）。なお、こうした方法のため、完掘時には、通常の部分（断面実測した部分）と正反対の方向にも覆土が残ることになる。これについても、基本的には断面実測した部分と同様に層ごとに遺物を取り上げたが、断面実測した層と同じかどうか見極めが付かない場合には「○○相当層」という言葉を使っている。

〔平面形・規模〕 の欄の「上場」は、上述のような形のため、検出時の姿がどれだけ本来の「開口部」の形を示しているか不明なため、あえて使用したものである。〔断面形・深さ〕 の欄の「袋状」は、「口」が底より小さく壁がオーバーハングしているものを総称しており、「フラスコ状」は、「袋状」のうち、口付近が垂直に近く立ち上がるもので「フラスコ形」に近いものを指す。

第1号土坑（第24・75図、写真図版23・130・131・182・183）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2D～Eグリッド。IV層褐色土で検出。水路を除去しクリーニングしたところ暗褐色の円いシミを検出。半裁したところ壁と底を確認し土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕 東（A'）側の底、平面図測り間違いのため合わない。深さの割に口が狭く、精査が難しくなったのでサブトレンチを入れて上場南側を壊した。

〔重複〕 上面に第24号焼土を検出。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の暗褐色～褐色土。

〔平面形・規模〕 上場は上記の理由で不明。底は、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕 三角形に近い袋状。約90cm。

〔壁・底面〕 壁は、直線的にオーバーハングする。壁上30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 調査した範囲では確認できなかった。

〔出土遺物〕 第75図96、97の土器片、写真図版130の216～131の222の石器類（一部第75図に図示）、写真図版182の3の軽石加工品？、写真図版183の6のコハク、石器製作時の剥片4.93gが出土。土器は、96は円筒下層d1式、97は特定できない。

〔時期〕 出土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性はある。

第2号土坑（第24・76図、写真図版23・24・131）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2Dグリッド。IV層褐色土で検出。水路を除去しクリーニングしたところ暗褐色の円いシミを検出。半裁したところ壁と底を確認し土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕 上場崩れたせいか合わない。深さの割に口が狭く、精査が難しくなったのでサブトレンチを入れて上場南側を壊した。サブトレンチの位置は、図が煩雑になるので今回は省略した。

〔重複〕 北側第3号土坑と重複。検出面では重複しておらず完掘時に重複だと気づいたため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の暗褐色～褐色土。下半の方が暗い。15～16層は、自然現象によってV層が変化したもので掘りすぎと考えていたが、15層は違うかも知れない（後述）。

〔平面形・規模〕 上場は、直径90cm程度の円形か。底は、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕 三角形に近い袋状。約1.1m。

〔壁・底面〕 直線的にオーバーハング。壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 副穴があった可能性がある。今断面図を見ると、ほぼ中央にそれらしい落ち込みがあり、15層を後から堆積したものと捉えることも可能だからである。ただし、現場では、15層が手で握るとブロック状に分かれ、いかにも自然現象で地山が変化した土のようであり、副穴の覆土とは思えなかった記憶がある。副穴と想定される部分の西側の下場も不整形であった。いずれにしろ記録が残っていないので定かではなく、調査が甘かったことは認めざるを得ない。

〔出土遺物〕（出土状況） 断面図1層下部の礫の上から比較的大きな土器片出土（写真図版24）。北西方向にやや傾斜している。（遺物） 第76図98～101の土器片、写真図版131の223～227の石器類（一部第76図に図示）が出土。土器は、時期が特定できないが、何れも縄文時代前期末～中期前葉の可能性が高いか。

〔時期〕 出土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性はある。

第3号土坑（第24・76図、写真図版24・131）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2Dグリッド。IV層褐色土で検出。上面の土が非常に淡かったので疑似現象だと思っていた。念のため半裁したところ暗褐色土が下に続き、壁と底を確認して土坑と認定。

〔図・精査状況〕 深さの割に口が狭く、精査が難しくなったのでサブトレンチを入れて上場南側を壊した。サブトレンチの位置は、図が煩雑になるので今回は省略した。

〔重複〕 南側第2号土坑と重複。検出面では重複しておらず完掘時に重複だと気づいたため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 口（首）が狭いせいか、極めて特徴的な堆積状態である。上部褐色土、その下は基本的に黒褐色～暗褐色土と褐色土～黄褐色土の交互層で、下部に黒褐色土があり、その上付近から大量の土器破片が出土している。

〔平面形・規模〕 上場は直径90cm程度の円形か。底は、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕口が大きく外反するフラスコ形。約1.5m。

〔壁・底面〕壁は、底からやや丸みを帯びて強くオーバーハングし、その後垂直に近い状態で立ち上がり、最後に強く外反する。壁上20cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底に花崗岩の露頭が見える。

〔副穴等の付属施設〕底面ほぼ中央に約0.6×0.4mの隅丸長方形の副穴検出。底面からの深さ約20cmで、四隅に深さ約5cm（何れも）の細い溝が付く。

〔出土遺物〕（出土状況）底面から上約32cm、炭化物、ロームブロックが顕著な15～16層（白色粘土含まれていないから、おそらく16層）から大量の土器片出土（写真図版24）。ほぼ水平方向に面的に広がるが、基本的に中央（南側？）に向かって傾斜しているようで、中央付近では緩やかに、壁付近ではやや強く傾斜している。半裁時には記録していないので、南側にも続いていたかどうかは定かでないが、記憶では同様に土器が出土したと思う。北壁の底から上2cmでも比較的大きな土器片が出土（平面図に記載）。下は灰黄褐色（10YR4/2）のボソボソの土で南東方向にやや傾斜している。

〔遺物〕第76図102～115の土器、写真図版131の228～234の石器類（一部第76図に図示）が出土。土器は、102～104、107、108、111、113、114は円筒下層d1式、106、109、110、112は、円筒下層c～d式？、115は縄文前期後半。105は時期不明。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末（円筒下層d1式期？）と思われる。

〔分類・所見〕検出面から出土した土器（114）と下部から出土した土器（107、108）がほぼ同時期ということで、埋めもどされている可能性が高い。覆土、断面形、底面施設、遺物の出土状況に顕著な特徴が見られ、特異な土坑である。

第4号土坑（第25・77図、写真図版25・132）

〔位置・検出状況〕調査区西部西端。2Dグリッド。地山上面で、ぼんやりではあるが円形のシミが確認できた。ただし、周囲にはっきりしない土坑があったため、20cm下げてから掘り始めた。

〔図・精査状況〕トレンチの西側、東側の上場、崩れたため合わない。北側、中段に洞窟状の庇がある。調査者は掘れる土だったと言うが、周囲に根が見られて締まり弱かっただけの可能性が高い。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、黄褐色～褐色土と灰黄褐色～黒褐色土の交互層、下半、締まり弱くボロボロのⅤ層ブロック顕著に含むが、上半と同じく交互層。締まり等土性から、1～7層以外、全て埋めもどした土と思われる（1、7層も？）。

〔平面形・規模〕上場は約1.7×1.4mの楕円形、底は直径約1.3mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕約1.5mの袋状で、口が大きく広がる。

〔壁・底面〕壁上20～30cmⅣ層、その下Ⅴ層、底から15cm以下Ⅵ層？ 底は、大きな礫を含む砂質シルトで、他のⅥ層とやや異なる。川砂がキラキラしている。いわゆる段丘堆積物。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われるが、地層の関係で不明。

〔出土遺物〕第77図116～118の土器、写真図版136の235、236の石器類（第77図に図示）が出土。土器は、118は円筒下層b2式、他は不明。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕口が大きく広がることと覆土から、周囲を削って埋め戻していると思われる。基盤層を掘り抜いている。

第5号土坑（第25・77図、写真図版25・132・183）

〔位置・検出状況〕 調査区西部西。2Dグリッド。第2号住居の床を10cm下げて確認。

〔図・精査状況〕 西側の上場崩れて合わない。副穴、測り間違いか、西側の上、下場全く合わない。

〔重複〕 上に第2号住居がある（新しい）。

〔覆土・堆積状況〕 黄褐色～褐色土と灰黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕 上場は、約1.2×1mの楕円形。底は直径約1.5mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.8mの袋状。

〔壁・底面〕 V層。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり（底V層）。

〔出土遺物〕（出土状況）北東壁付近、9層から完形に近い土器～大きな土器片出土（写真図版25）。No.1は、9層上部で、東西方向にはほぼ水平に横倒しになって出土。No.2も、9層上部で、土坑の中央に向かって傾斜して出土。No.3は、9層中部で、南北方向に横倒しになって（土圧でつぶされている）壁側に僅かに傾斜して出土。土器を含む層の下の土はボロボロと崩れる土。

〔遺物〕 第77図119～127の土器、写真図版132の237、238の石器類（一部第77図に図示）、写真図版183の7のコハク、石器製作時の剥片21.07gが出土。土器は、122は円筒下層c式？、125は円筒下層d2式、127は円筒下層d1式？、120は縄文前期末～中期初頭、119、121、123、124、126は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性はある。

第6号土坑（第25・77図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 調査区西部西。2Dグリッド。前年度第10号住居跡カマド煙道半裁中に下に土坑があることに気づいた。次年度にプラン検出を試みたが、住居内で汚れているせいか、なかなか掘めず、結局20cm下げてやっと確認できた。〔図・精査状況〕 完掘時掘り方悪く、西側の下場掘りすぎで合わない。北側に見えるのは、カマド半裁時のトレンチ後である。〔重複〕 上部に第10号住居跡あり（新しい）。

〔覆土・堆積状況〕 上に住居あり、さらに下げすぎたせいか、単層に近い。ほとんどを占める1層は、霜降り土で埋めもどしたものである。2層は、ほぼIV層そのもの、3層は、褐色土。

〔平面形・規模〕 約1.7×1.5mの不整形円形。北西側に突出部があるのは、崩れたのか（明らかに掘れる土で、掘りすぎではない）。

〔断面形・深さ〕 深さ約30cmのタライ形。

〔壁・底面〕 V層。底はガチガチに固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 第77図128の土器片が出土、円筒下層b2式か。掲載した以外に9号袋×1/4程度の土器片出土。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕 覆土の共通性から、フラスコ状土坑に含めたが、深さと断面形が顕著に異なり、別に扱った方が良かったかも知れない。

第7号土坑（第26図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 調査区西部西。3 C～Dグリッド。北側調査範囲外に続く。地山上面は、ほとんど区別できない土（2層）だったため確認できなかったが、20cm下げたところ、はっきり区別できる3層が出てきたため、明確に検出。〔図・精査状況〕 副穴東側下場合わない。

〔重複〕 調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 霜降土（ロームブロック多く散る）と黄褐色土の交互層。水平堆積。堆積状態及び土性（特に霜降り）から、埋めもどしていると思われる（特に3、5、6層）。

〔平面形・規模〕 上場は不明。底は直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.4mのフラスコ形。

〔壁・底面〕 壁上部IV層、その下～底V層。断面図参照。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。

〔出土遺物〕 5×5cmおよびそれ以下の土器片が6点出土、時期は特定できない（手違いで1点も掲載していない）。石器製作時の剥片52.38g出土。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 掘り込み面がわかる。水平堆積。

第8号土坑（第26・77図、写真図版26・132）

〔位置・検出状況〕 調査区西部。3 Dグリッド。IV層中褐色土で既に検出されていた。水田造成時にIV層まで削平されて盛土がなされ、北半分上を水路が東西に走っていた。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 半裁後上場崩落したため不明。平面図は、現地での判断で作成しており、最終的な判断とは異なっている（詳細は次項参照）。

〔重複〕 東側第9号土坑と重複し、9号の方が新しい（詳細は後述）。北側第10号土坑と重複。半裁途中で東隣の第9号土坑と重複しているとわかった。境界付近があいまいで、またフラスコ状土坑という狭い中での作業のためわかりづらく新旧関係に悩んだが、第8号の覆土が特徴的であったため、これを頼りにし、9号の東壁との非対称性から西壁は壊されているものと考え、問題となる11層は、8号を作る際に掘り出された13層が再堆積したものと解釈し、9号→8号と半裁時には考えた。狭く暗かったこともあり、この時には8号と9号の間の段差はそんなに大きくないように見え、その不自然さには気づいてなかった。底と立ち上がりも確認したが、この段差が取れるようには思えず、これで間違いないと判断した。8号の方が新しいのなら、こうしたこともあり得ると考えていたのである。その後、半裁時に残っていた上の水路が撤去され口も崩れて中の様子が見やすくなり、その不自然さに気づいた。11層を9号帰属と考え、8号→9号と逆転させた方が合理的ではないかと思いついた。しかし、忙しさにかまけ例の段差については忘れてしまった。完掘写真を撮る時も、底面土に全く不自然なところがなく通常のV層に見えたこともあって思い出せなかった。さらに、完掘した結果北側に8号土坑の底が続いて重複していることがわかり、頭がそのことにばかり向いてしまったためでもある。報告書執筆の時点で、その不自然さにやっと気づいたのである。平面図を見てわかるように、8号の方が新しく底をより深く掘り込んでいて、境の段差が逆ならありうるが、その逆はあり得ないはずである。したがって、12層の東は掘り足らず9号の方が新しいと現時点では考える。

〔覆土・堆積状況〕 上部褐色土、中部上半暗褐色土、下半黄褐色土、下部褐色～黄褐色土。東から西に向かっ

て傾斜。11層は、前述のように第9号の方に帰属する可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場は全て崩落し、前述のように精査に問題があり、はっきりしない。底径約1.5m?

〔断面形・深さ〕袋状。約80cm。

〔壁・底面〕壁はかなりきつくオーバーハングする。底は平らで固く締まる。壁上20cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕(出土状況)底面直上北西隅に比較的大きな土器片出土(第77図129)(写真図版26)。北西方向に傾斜し、南東側は底面から約11cm、北西側は約4cm、南東側は底から8cmがロームブロック多い褐色土(10YR4/4)で、その上に黒褐色土(10YR3/1)が2cmあり、その上に土器はある。

(遺物)第77図129～131の土器、写真図版132の239、240の石器類(一部第77図に図示)が出土。土器は、129は円筒下層b2式、130は同d1式、131は同c式。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期中葉の可能性がある。

第9号土坑(第26・77図、写真図版26・132)

〔位置・検出状況〕調査区西部。3Dグリッド。IV層中褐色土で既に検出されていた。水田造成時に削平されて盛土がなされ、北半分上を水路が東西に走っていた。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕半裁後上場崩落したところがあり一部不明。平面図は、現地での判断で作成しており、最終的な判断とは異なっている(詳細は第8号参照)。底面直上に14層があり、はっきりしないので、サブトレンチを入れて確認した。

〔重複〕西側第8号土坑と重複し、最終的に9号が新しいと判断した(詳細は第8号参照)。

〔覆土・堆積状況〕上半褐色土、下半黄褐色土。11層は本土坑に属し、両層の中間的。

〔平面形・規模〕上場は崩落し前述のように精査に問題があり、はっきりしない。底、約1.8×1.6mの楕円形か。

〔断面形・深さ〕袋状か。約60cm。

〔壁・底面〕東壁から判断すると、直線的にオーバーハングするようである。底はほぼ平ら。壁上10cmIV層、その下～底V層。底はサブトレンチを入れて確認。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第77図132の土器出土、縄文時代前期後半か。写真図版132の241の石器が出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第10号土坑(第27・77図、写真図版27)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3Dグリッド。前年度調査した第8号土坑と底面が重複していたため検出できたが、上面の覆土は周囲の地山とほとんど同じで、検出面では確認できない。〔図・精査状況〕西側の上場崩れたのか合わない、西側下場測り間違いか合わない。南側に重複している第8号土坑の平面図が前年度作成したものと微妙に異なるが、前年度の調査範囲は埋めもどしてしまったため合わせられない。底は、根が入り込んでいるせいもあってわかりづらく、半裁時サブトレンチ状に掘りすぎ。

〔重複〕南側第8号土坑と重複。底面付近のみ重複し、新旧関係は確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕上半、IV～V再堆積の黄褐色土、下半、今回の調査でよく見られた炭化物散る灰黄褐色

土と、黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場、直径約1mの不整形円形。底は、約1.6×1.4mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.9mのフラスコ状で、底に段があるようだ（次項）。

〔壁・底面〕壁IV～V層、底V層。底中央付近に段があるようである。半裁時には、根が入り込んでいたこともあって、フラスコ状土坑に段があるはずがないと思いきみ、土も締まり以外はV層によく似ており9層は根によるカクランと考えていた。しかし、後からよく見ると、良く締まる部分が面的に広がって顕著に連続的に落ち込み、段があると考えた方が自然である。

〔副穴等の付属施設〕かなり印象が異なるが、一段落ち込む部分を副穴と捉えることも可能か。

〔出土遺物〕第77図133の土器が出土、時期は特定できない。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器片6点出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕底に段を持つ。

第11号土坑（第27・77図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3Dグリッド。IV層を10cm下げた面で、にぶい黄褐色土がはっきりした円を描いているのを確認。〔図・精査状況〕平面実測前に上場崩落。東側下場、測り間違いか全く合わない。半裁時、底がわかりづらいこともあって、トレンチ状に掘りすぎ。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕今回の調査でよく見られた炭化物散る灰黄褐色土を基本とし、西端と、東端の中層にIV～V層再堆積の黄褐色土が見られる。西端は根によるカクラン多くてははっきりしない。灰黄褐色土の部分は、全体的によく似ているが最上層は黒っぽい土が混じっていて顕著に異なる。その他はよく似ていて、汚れIV層の再堆積に炭が散るもので、各層の違いは色の濃淡の相対的な差でしかない。

〔平面形・規模〕上場は崩落して不明。底は、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約40cmの袋状。

〔壁・底面〕壁上30cmIV層、壁下10cm～底V層。

〔副穴等の付属施設〕半裁時掘りすぎのため不明。

〔出土遺物〕（出土状況）土器、礫比較的多く出土。オーバーハングに隠れた壁近くからNo.1～3土器が出土（第27図、写真図版27）。第77図134の大部分を占めるNo.2土器は、表面を上にして口縁部を奥に胴部を土坑中心に向け僅かに傾斜した状態で出土。134の一部を占めるNo.1土器は、内面を上にしてほぼ水平に出土。No.3土器も内面を上にし、東に向かってやや緩やかに傾斜して出土した。No.1土器より大きな破片ではあったが、胴部破片だったため掲載基準を満たさず不掲載。

〔遺物〕第77図134～136の土器、石器製作時の剥片32.33g出土。土器は、134は、半完形の土器ながらやや特異であるため時期が特定しにくい、縄文時代前期後葉～末か。135、136は、前期末～中期前葉か。掲載した以外に、10×10cm1点、9号袋×3程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕浅い。

第12号土坑（第27・78図、写真図版27・28・132）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3C～Dグリッド。北側調査範囲外に続く。地山面を10～20cm下げた

ところで、にぶい黄褐色土の半円を見つけた。周囲に広がる根によるカクランと同じものと考えたが、念のため半裁したところ1m以上下がり、土器も出てきて土坑と判明。

〔図・精査状況〕土器の位置東側合わない。南側奥の壁、軟らかくどンドン奥に入っていってしまい、暗くてよく見えないのでサブトレンチを入れた結果、土は全く汚れていないので、たまたまこの部分の土が軟らかいのだと判断。〔重複〕調査範囲内では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上1/3根によるカクランに近いにぶい黄褐色土の汚れで、区別ほとんどなし。下2/3土坑によく見られる灰黄褐色土で互いによく似る。

〔平面形・規模〕上場不明だが、楕円形か。底も、不整形で不明。

〔断面形・深さ〕深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上50cmIV層、その下～底V層で、底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕覆土、黄褐色（10YR5/6）地に灰黄褐色（10YR4/2）の斑。シルト。炭化物含み、固く締まる。

〔出土遺物〕（出土状況）底面直上から2つの破片（No.1と2）（第78図137～139）、2つの完形土器（No.3と4）（第78図140、142?）が出土した（第27図、写真図版27～28）。1と2は、4の上から出土し、1はほぼ水平だがほんの僅か中央に向かって傾き、2は中央奥に向かって傾き、両方とも9層上面の出土らしい。3と4は中央に向かって横倒しになっており、3は土圧でつぶれているが、4はつぶれていない。両方とも12層上面から出土しているようで、土器の中には上から9層、10層が、ほぼ水平に堆積している。

〔遺物〕第78図137～142の土器、写真図版132の242の石器、石器製作時の剥片21.45g出土。土器は、139?、140、142は円筒下層d1式、141は同b2式、137は、同c～d式か、138は特定できなかった。なお、139は、第17号出土破片と接合している。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕他の時期の土器片が混じっているものの、完形に近い土器は円筒下層d1式が主体を占めるので、縄文時代前期末か。

〔分類・所見〕掘り込み面がわかる。断面形、土器の出土状況に特徴。

第13号土坑（第28・77図、写真図版28・132）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3C～4Dグリッド。うすぼんやりとした灰黄褐色土で検出。

〔図・精査状況〕セクション・ポイントAが崩落してしまっただが、西側下場以外合っているようだ。隣の第14号土坑と同時に検出し、検出面では重複していなかったが、これまでの例からその可能性があり、通してトレンチ状に半裁した。第14号との境付近崩落。

〔重複〕第14号土坑と重複し、接するような微妙な重複の仕方、断面図の形から第14号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ていることもあり、確信はない。

〔覆土・堆積状況〕22層以外ほぼ同じ灰黄褐色土で、各層の違いは、黄色みの強さ、炭化物の大きさの違いに過ぎない。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.9mの円形。底は、約1.6×1.3mの不整楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.9mの袋状。

〔壁・底面〕壁は根穴多く、上部20～40cmIV層、その下～底V層で、底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕掘りすぎてよくわからなくなってしまっただが、あったようだ。

〔出土遺物〕（出土状況）北側奥18層上面で、完形に近い土器がほぼ水平に横倒しになった状態で出土（第

77図143) (写真図版28)。(遺物) 第77図143~145の土器、写真図版132の243の石器、石器製作時の剥片31.32g、剥片B類24.01gが出土。土器は、143は円筒下層c式、144、145は同d式。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉(円筒下層c式期?)の可能性はある。

第14号土坑 (第28・78図、写真図版28・29・132)

〔位置・検出状況〕 調査区西部中央。4C~Dグリッド。うすぼんやりとした灰黄褐色土で検出。

〔図・精査状況〕 セクション・ポイントAが崩落してしまったが、合っているようだ。隣の第13号土坑と同時に検出し、検出面では重複していなかったが、これまでの例からその可能性があると思い、通してトレンチ状に半裁した。第13号との境付近崩落。

〔重複〕 第13号、第15号土坑と重複。第13号とは、接するような微妙な重複の仕方、断面図の形から本土坑の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ていることもあり、確信はない。第15号とは、底部付近しか重複しておらず、新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕 東側中央部黄褐色土である他は、全体的に似た灰黄褐色土で、第13号土坑との違いは黄色みが強いだけ。

〔平面形・規模〕 上場、約1.2×1mの不整楕円形。底は、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.7mの袋状。

〔壁・底面〕 壁上部30cm程度IV層、その下~底V層で、底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 第78図146~148土器、写真図版132の244~246の石器類、石器製作時の剥片4.65g、剥片B類18.79g出土。土器は、147、148は円筒下層d1式、146は特定できない。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性はある。

第15号土坑 (第28・29・78図、写真図版29・132)

〔位置・検出状況〕 調査区西部中央。4Cグリッド。調査区隅に疑似現象ともつかない薄いシミを見つけ、試しに半裁したところ、はっきりした覆土が出てきて土坑と認定。〔図・精査状況〕 セクション・ポイントBが崩落してしまったが、大体合っているようである。北西側、第16号土坑との重複部分崩落。

〔重複〕 西側第16号土坑、南側第14号土坑と重複。いずれも底面付近のみの重複で、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 上半部はにぶい黄褐色土で、ほとんど区別できない。中部は灰黄褐色土でやはりほとんど区別つかないが、その下の9層ははっきり暗い。下部は黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場崩落したため不明だが、楕円形か。底は、直径約1.8mの不整円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.2mの袋状。

〔壁・底面〕 壁は上部40cmIV層、下部~底V層。壁の下の方は、凹凸が激しく、棒状の工具でつついて掘っている様子が窺われる。底は今一つ固く締まらない。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 (出土状況) 南西隅の底から9cmの部分(10層?)で、内面を上に向けたほぼ水平の状態と比較的大きな土器片が出土(第78図149)(第28図、写真図版29)。

〔遺物〕第78図149～153の土器、写真図版132の247～249の石器類（一部第78図に図示）、石器製作時の剥片220.63g、剥片B類61.00g出土。土器は、150、153は円筒下層d1式、149、151、152は縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕開口部狭い。

第16号土坑（第28・29・78図、写真図版29・132・133・182）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。3～4 Cグリッド。北側の調査範囲外に続く。地山を10～20cm下げたところで調査区境に直径30cm程度の半円形のシミがはっきりと確認できた。

〔図・精査状況〕半裁し始めたところ、南側に比較的大きな土器片が出土したため狭く掘りづらくなったので北側に掘り広げた結果、上場があまりに狭かったため北側の上場がなくなってしまった。南側の上場も蕪崩落。〔重複〕東側第15号土坑と重複し、底付近のみのため新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕掘りすぎて上場付近なくなってしまったが、上半灰黄褐色土、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の薄い交互層（ただし違いはあまり顕著でない）。底はV層ブロック。

〔平面形・規模〕上場は、直径0.3m程度の円形だった。底は、直径約1.5mの円形か。

〔断面形・深さ〕袋状。深さは、崩落したため不明。

〔壁・底面〕壁上40cmIV層、その下～底V層。底は硬く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕（出土状況）南側上場直下、比較的大きな土器片が出土（写真図版29）。内面を上に向けてほぼ水平（ほんの少し西側に傾斜）（第78図154）。底部直上、副穴の南西横、内面を上に向け土坑の中心に向かって僅かに傾斜して土器片が出土（第78図159）。9～10層上面。

〔遺物〕第78図154～160の土器、写真図版132の250～133の252の石器類（一部第78図に図示）、写真図版182の4の軽石加工品？、石器製作時の剥片17.51g出土。土器は、154、155、156、158、159？、160？は、円筒下層d1式、157も同様か。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第17号土坑（第29・79図、写真図版30・133）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。4 Dグリッド。地山を20cm下げた面の灰黄褐色土で比較的是っきり検出。〔図・精査状況〕西側上場ほんの少しだが崩れたため合わない。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕中部西側隅が黄褐色土である他は、上から下までほとんど同じ（今回の調査でよく見られた）炭混じりの灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場は、0.8×0.6mの楕円形か。底は、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30～40cmIV層、その下～底V層。壁は根にやられてははっきりしない部分ある。底は固く締まる。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第79図161～165土器、写真図版133の253、254の石器類、石器製作時の剥片87.32g、剥片B類3.71g出土。土器は、161？=165、162=164は、円筒下層d1式、163は時期不明（古いか）。第78図139にも、本遺構から出土した破片が含まれていて（「半裁時」で取り上げ、詳細は第V章本文補足参照）、第12号土坑

出土破片と接合している（円筒上層d1式?）。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕開口部狭い。

第18号土坑（第29・79図、写真図版30・133）

〔位置・検出状況〕調査区西。4 Dグリッド。IV層上面褐色土で検出。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕東（A'）側完掘時底が掘り広がったため合わない。上場が崩れたので下場のみ掲載。精査時に北側にまだ水路が走っていたので、該当部分だけ掘り広げた。掘り慣れない作業員が掘ったので南側掘りすぎ多い。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕IV～V層再堆積の褐色土。濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ。

〔平面形・規模〕上場は崩れたため不明。底は、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕袋状。約50cm。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁IV層、底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや北西寄りに直径約45cmの副穴検出。半裁時掘りすぎ、完掘時それに合わせて掘られてしまったので、深さ不明。覆土は、黄褐色土（10YR5/6）シルト、ややもろく炭化物含む。

〔出土遺物〕第79図166の土器出土、縄文時代早期後葉赤御堂式か。写真図版133の255～257の石器類出土（一部第79図に図示）。

〔時期〕今回の調査で検出された他の土坑に比べ特に異なった特徴は見られないが、出土土器から考えると古いのかも知れない。

〔分類・所見〕早期後葉土器片出土。

第19号土坑（第30・79図、写真図版30・133・182）

〔位置・検出状況〕調査区西部。4 Dグリッド。南側の調査範囲外に続く。周囲は手違いで重機によりV層まで下げられてしまったようである。V層中褐色土のシミで検出。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。覆土は地山が汚れたような土でわかりづらかった。水田造成時に削平。

〔図・精査状況〕上場は、削平されてしまったのでない（写真に写っているのはあくまで単に掘り始めた面である）。

〔重複〕調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕ほとんどが地山が汚れたような粘土質の土でよく似ている。

〔平面形・規模〕上場は削平されてしまったため不明。底は、直径約1.9mの円形？

〔断面形・深さ〕断面図を見ると、袋状を呈するようである。約70cm。

〔壁・底面〕壁はオーバーハングするようである。底は平らなようであり、断面図の西側は、写真を見ると測り間違いで、もっとスムーズに傾斜するようである。壁はIV層、底はV層のようである。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。断面図にあり写真に写っている副穴状のものは掘りすぎである。

〔出土遺物〕第79図167、168の土器、写真図版133の258、259の石器類出土（一部第79図に図示）。写真図版182の5の軽石加工品？出土。土器は、167は円筒下層c～d式、168は不明。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第20号土坑（第30図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕調査区西部。4 Dグリッド。南側の調査範囲外に続く。周囲は手違いで重機によりV層まで下げられてしまったようである。V層中褐色土のシミで検出。水田造成時に削平。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕上場は、削平されてしまったのでない（写真に写っているのはあくまで単に掘り始めた面である）。

〔重複〕調査できた範囲では、ないようである。

〔覆土・堆積状況〕1層と8層以外、ほとんど同じで汚れたIV層。

〔平面形・規模〕削平されてしまったため不明。底は、直径約1.7mの円形？

〔断面形・深さ〕断面図を見ると、袋状を呈するようである。約70cm。

〔壁・底面〕壁はオーバーハングするようである。底は平ら。壁はIV～V層、底はV層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第21号土坑（第30・31・79図、写真図版31・116・133）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。4 Cグリッド。灰黄褐色土で検出。北隣にも同様なシミが検出されたので、同時にトレンチ状に半裁した結果、南側のみが土坑と判明。周囲、壁、底根によるカクラン多い。

〔図・精査状況〕東側上場崩壊（西側上場は正しいと思う。半裁時、南側隅掘り誤って、残すべき部分も掘ってしまった）。〔重複〕北東隅、第23号土坑と重複。底面付近のみ重複し、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上2/3灰黄褐色土で、ほとんど区別つかない。下部暗褐色土、最下部きれいな黄褐色土（IV層再堆積）。

〔平面形・規模〕上場は不明。底は、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約1.1mのフラスコ形。

〔壁・底面〕壁上40～50cmIV層、その下V層（赤色パミス含む）。底はVI層で軟らかい。

〔副穴等の付属施設〕底に小穴が見られるが、根によるカクラン等を円く掘ってしまったもので、副穴ではないと思う。

〔出土遺物〕第79図169～174の土器、写真図版133の260、261の石器類（一部第79図に図示）、写真図版116の14の焼粘土塊、石器製作時の剥片222.92g出土。土器は、169は円筒下層b1式か、170は円筒下層d1か、171≒172、173？=174は、円筒下層d2式。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半（末？）の可能性はある。

〔分類・所見〕口狭い。

第22号土坑（第30・31・79図、写真図版31・116・133）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央東寄り。4 Cグリッド。地山を10～20cm下げたところ、にぶい黄褐色土が検出された。根によるカクランによく似ており形が変なので疑似現象だろうと思ったが念のため半裁してみた。しばらくその思いは変わらなかったが、約1m下から土器が出てきたので、もっと掘り下げたところ、はっきりした黒土が出てきた。〔図・精査状況〕上場崩壊。〔重複〕第23号土坑とは接するか。

〔覆土・堆積状況〕上半、根による汚れとほとんど区別できないにぶい黄褐色土、下半、一部にV層ブロック多く含む特徴的な層が見られるが（14層）、その他は黒褐色と黄褐色の交互層。

〔平面形・規模〕上記の検出状況と上場崩壊したため、不明。底は、約2.3×2mの円形。

〔断面形・深さ〕上半分は上記のような覆土のため、はっきりしない。北側下部にも同様の場所がある。上場が崩落したような不整フラスコ状。約1.1m。

〔壁・底面〕壁上40cmIV層、その下V層で、底はVI層。底と壁明確に区別。底は軟らか。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第79図175～181の土器、写真図版133の262～264の石器類（一部第79図に図示）（一部第23号土坑出土品含むか）、写真図版116の15の焼粘土塊、石器製作時の剥片57.42g出土。土器は、175は円筒下層d2式、176=177?、178は、円筒上層b式、179は中期前葉?、180は縄文時代前期後半、181は不明、掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕断面非対称。大型?

第23号土坑（第30・31・79図、写真図版31・32・133・134）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央東寄り。4 Cグリッド。地山を10～20cm下げたところで、灰黄褐色土を検出。疑似現象の可能性は低いのではないかと考えていたが、半裁時下の方から地山とほとんど区別できない黄褐色土が出てきて底が不整形になり、トレンチ状に狭く掘っていたこともあって土坑として良いか悩んだ。曇りの日によく見たら黄褐色土の周りに境界線（壁～底）が引けることがわかり、土坑と認定。

〔図・精査状況〕完掘時掘り広がったため、南側の下場、副穴の上、下場合わない。段取り悪く、半裁時第22号土坑のトレンチと接してしまい、その後崩落。西側の上場も、北側の一部崩れた。半裁時下げすぎ。

〔重複〕第21号土坑と重複するが、底部付近のみのため新旧不明。第22号土坑と接するか。

〔覆土・堆積状況〕上部、濃淡の違いはあるがほとんど同じ灰黄褐色土（南側下部は顕著に濃い）、下部地山とほとんど区別できない黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場崩落したため不明。底は、約2.2×1.9mの楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mの袋状。

〔壁・底面〕南側壁上50cm、北側壁上30cm、IV層、その下～底V層。根特に多い。

〔副穴等の付属施設〕あり。

〔出土遺物〕（出土状況）中央より西寄り副穴西、底直上（底から5cm、下は10層）、比較的大きな破片（No.1）が内面を上に向けて完全に水平に出土（第79図182）（写真図版31～32）。

〔遺物〕第79図182～187の土器、写真図版134の265の石器、石器製作時の剥片12.3g、剥片B類92.20g出土。写真図版133の263、264の中にも、本遺構出土品が含まれているかも知れない。土器は、182、183、185?、187は、円筒下層d1式、186は円筒下層c～d式、184は不明。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出

土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末円筒下層d1式期の可能性が高い。

第24号土坑（第32・80図、写真図版32・134・183）

〔位置・検出状況〕 調査区西部中央。4～5Cグリッド。地山面を10～20cm下げたところで、輪郭ははっきりしなかったが中央の黒褐色土ではっきりと確認。東側にうすぼんやりしたにぶい黄褐色土が認められ、重複している土坑があるかと同時に半裁したが、30cm程度の深さはあったが、底がはっきりせず、第52号土坑と同様人によって意図的に掘られたもの（遺構）ではないと判断。出土遺物もほとんどなかった。

〔図・精査状況〕 副穴合わず、平面図の方が間違っているか。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 上部黒褐色土、中部（両脇）黄褐色～にぶい黄褐色土、下部、灰黄褐色～黒褐色土と黄褐色～にぶい黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕 上場、直径約1.5×1.3mの円形。底、直径約2.5mの円形。

〔断面形・深さ〕 上場崩落しているのか、口の広いフラスコ状。深さ約1.2m。

〔壁・底面〕 壁上30cmIV層（北側は削平してしまったため無い）、その下～底V層。底は、西半VI層、東半V層、副穴底VI層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。最下層の12層下面で副穴は検出できた。

〔出土遺物〕 第80図188～194の土器、写真図版134の266～273の石器類（一部第24図に図示）、写真図版183の8、9のコハク、石器製作時の剥片268.15gが出土。土器は、188? = 190 = 192は、円筒下層b1式、189、191、193、194は不明。図示した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期中葉の可能性はある。

〔分類・所見〕 東側に見られたのは、埋め戻し穴の可能性はある（第52号土坑参照）。大型。

第25号土坑（第32・80・81図、写真図版32・33・134～137・182）

〔位置・検出状況〕 調査区西。5C～Dグリッド。IV層検出面で、周囲の土坑と異なりはっきりとした黒土（Ⅲ層）で検出。ただし黒土の周囲は他の土坑と同様のためプランははっきりとは確認できなかった。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 完掘時西側掘り広がったため、断面図の上場、下場と合わない。東側の壁上部6層と区別し難かったのでサブトレンチを入れた。北側の壁中央の一部掘りすぎ。南側の壁上部一部掘りすぎ。西側底掘りすぎ。調査序盤に慣れない作業員が掘ったため掘りすぎが多い。

〔重複〕 南側に第2号陥し穴状遺構が重複。検出面および上場では重複しておらず、第25号土坑を精査中に重複に気づいたため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕 上部黒褐色～暗褐色土、中部（両脇）黄褐色～褐色土、下部暗褐色土と褐色土の交互層。フラスコ状土坑に一般的堆積状況から自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕 1.8×1.8m程度の隅丸方形～円形。下場は直径2.4m程度の円形～隅丸方形。

〔断面形・深さ〕 フラスコ状。約1.1m。

〔壁・底面〕 全周オーバーハング。壁上40～50cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 検出できなかった。

〔出土遺物〕(出土状況) 半裁時3層西下部～9層上面から比較的大きな土器破片出土(写真図版32～33)。断面図にあるように7層と10～11層の間からほぼ水平に比較的大きな土器片出土。15層から比較的大きな土器片がまとまって出土(水平)(写真図版60)。

〔遺物〕第80図195～204の土器、第81図1の石製垂飾品、写真図版134の274～136の297の石器類(一部第80～81図に図示)、写真図版182の6の軽石加工品?出土。写真図版136の298～137の313の石器類の中にも、本遺構出土品が含まれているかも知れない。土器は、195は円筒上層b式、199?、202は、円筒下層d1式、203は円筒下層d2式?、197?、198?は、円筒上層a1式?、196、204は、円筒下層c～d式、200は不明、201は縄文時代前期末～中期初頭。なお、196は、第36号土坑出土土器片と接合しているようである。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕大型。

第26号土坑(第33・81図、写真図版33・137・183)

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。5Cグリッド。地山を10～20cm下げたところで、輪郭はぼんやりだが中央に黒褐色土が見られ、比較的是っきり検出。〔図・精査状況〕セクション・ポイントA'側トレンチ崩れ、半裁時掘り足らなかったためか東側下場合わない。北東側上～壁崩落、南側壁崩落で、南側の上場以外は全て原形を留めていない。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、最上部黒褐色土、その下黄褐色土、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の交互層。2層は、周囲の根穴による汚れと区別できない。

〔平面形・規模〕上場楕円形か。底、直径約2.6mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上、東側30cm、西側50cm、IV層、その下V層。底は、南東部はV層で固く締まり、それ以外はVI層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕(出土状況)北側奥壁際底面直上(底から2cm)から完形土器が倒立して出土(No.1)(第81図205)(写真図版33)。逆位にほぼ直立しており(やや東から西に傾く)、下は北側の壁奥まで16cm、上は同じく6cm、上部は6cmで壁に到達する、壁の最も奥に安置されていた。炭化物含む灰黄褐色土(15層)上にあり、10層の土まで被っていたようである。

〔遺物〕第81図205～217の土器、写真図版137の314～316の石器類(一部第81図に図示)、写真図版183の10のコハク、石器製作時の剥片461.72g、剥片B類13.99gが出土。土器は、206は円筒上層a2式、207は大木7a式系、209は円筒上層a1式?、210、216は、円筒上層b式、212は円筒下層c～d式、205、215は不明、208?、211、213?、214、217?は、中期前葉。掲載したほかに、9号袋1分の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕上半の黄褐色土は頸が崩れたものか。断面富士山形。大型。

第27号土坑(第33・81図、写真図版33・34・137)

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5Cグリッド。地山を10cm下げたところで比較的是っきり確認。

〔図・精査状況〕南西隅崩落。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕中部両脇(4層)黄褐色土、下部(6層)黒土、それ以外ほとんど同じにぶい黄褐色土。

〔平面形・規模〕崩落しているのか、上場は約1.7×1.6mの不整楕円形。底は、約2.4×2.1mの楕円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.8mの袋状。北側は検出時に削平してしまったため底まで45cmしかない。

〔壁・底面〕 壁上15cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。周囲に根もあるので確信は持てないが、底に見える黒い点々は掘り方か（写真図版34）。〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況） 底面直上から5点の比較的大きな遺物が出土し、うち1点は、半裁時トレンチ状に掘った部分の東端7層上面ほぼ水平の状態が出土した土器だったが、精査時に動かしてしまったので位置は記録していない（第81図223?）。その他の4点のうちNo.1～3は土器で（第81図218～220）（第33図、写真図版33～34）、1は底部が横倒しになった状態で土に接する部分は水平、2もほぼ水平、3は中心に向かってほんの僅か傾斜し、2と3は7層、1は出土層が確認できなかったが7層より上である。No.4は自然礫であるが、枕石状であり、南東側奥の壁際で7層上面にほぼ水平に出土し（底面から北側16cm、南側18cm）遺棄している可能性を窺わせる。

（遺物） 第81図218～223の土器、写真図版137の317、318（第81図に図示）の石器類、石器製作時の剥片33.99g出土。土器は、219は円筒下層d2式?、220、222?は、円筒下層d1式、223は円筒上層a1式、218は円筒下層c～d式、221は前期末～中期初頭。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕 大型。

第28号土坑（第34・81図、写真図版34・137・138・183）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東。5Cグリッド。地山を10～20cm下げたところで、中央が黄褐色土、その周囲に灰黄褐色土が広がる二重の円をはっきりと確認。

〔図・精査状況〕 セクション・ポイント合わない（おそらくA）。北西隅トレンチ横上から底まで崩落。南東隅、第104土坑との間も崩落。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 最上部黄褐色土、その下灰黄褐色土、中部褐色～黄褐色土、最下部黒褐色土。中部は比較的特徴があり、両脇の土以外は比較的是っきり識別できる。ただし層は厚いが細分はできない。8層は堆積量が多く、残り半分では、奥の壁際まで半周広がり西側では底まで広がっていた。

〔平面形・規模〕 上場は崩落しているのか、約1.7×1.7mの不整形。底は、直径約2.7mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.3mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁上30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底は固く締めり凹凸ある。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況） 1、9層は土器出てない。10層は出土。

（遺物） 第81図224～228の土器、写真図版137の319～138の323の石器類（一部第81図に図示）、写真図版183の11のコハク、石器製作時の剥片529.09gが出土。土器は、224、225、227は、円筒下層d1式、226は円筒上層b式、228は円筒上層a1式か。掲載した以外に、9号袋×2.5程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕 大型。

第29号土坑（第34・82図、写真図版34・35・138・182）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東。5～6Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもポヤーとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。

そこで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通して半裁してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103号、第104号は、よく見れば、はっきりと確認できたが、第29号、第30号はやや苦勞した。上面の土及びその長さから、2つの土坑が重複していると思われるのだが、似た土で、また周囲の地山が根で汚れているため、底と壁がはっきりしないのだ。何とか一応の結論は出したが（断面図での第29号の北側の壁は不自然とは思っていた）、次項に記すように紆余曲折がある。

〔図・精査状況〕上場崩落し、A'側断面図より掘り広がった。完掘時、重複する第30号土坑に変化が見られ、30号土坑と一続きの一つの楕円形土坑と思うに至ったが、報告書執筆時点で再び疑問に感じている（詳細は第30号土坑参照）。しかし、既に真相は不明である。お詫び申し上げる次第である。壁、底も含めて木根非常に多い。

〔重複〕北側第30号土坑と重複するが、前述のように一つと同じ土坑の可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕灰黄褐色土と黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕重複と崩落のため、不明。

〔断面形・深さ〕深さ約1mか。

〔壁・底面〕壁上20cmIV層、その下～底V層。底はあまり固く締まらない。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）No.1は、比較的大きな土器片で内面を上に向け北東方向（中央）に向かって急傾斜して3層上面から出土（第82図229）（写真図版35）。No.2は、2層の比較的上から西に傾斜して出土（第82図252）。

（遺物）第82図229～234、252の土器、写真図版182の7の軽石加工品？、石器製作時の剥片230.53g、剥片B類2.80gが出土。土器は、230、234は、円筒上層a1式、232は中期前葉？、229、231、233、252は、時期不明。また、第90図367にも、本土坑から出土した破片が含まれていて（5層出土。詳細は第V章本文補則参照）、第58号、第63号土坑出土破片と接合している（縄文前期末）。掲載した以外に、10×10cm程度の破片1、9号袋×1程度の土器片が出土。その他、半裁時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり（第82図247～252）、不掲載破片が、9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類（一部第82図に図示）、第82図2の土偶（円筒上層a式期）も、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。土器は、247は円筒下層d2式？、248は五領ヶ台I a式系、249？、251は、円筒上層a1式、250は、縄文早期貝殻文期（白浜式？）、252は時期不明。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

第30号土坑（第34・82図、写真図版34・35・138）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5～6Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもボヤーとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。そこで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通して半裁してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103号、第104号は、よく見れば、はっきりと確認できたが、第29号、第30号はやや苦勞した。上面の土及びその長さから、2つの土坑が重複していると思われるのだが、似た土で、また周囲の地山が根で汚れているため、底と壁がはっきりしないのだ。何とか一応の結論は出したが（断面図での第29号の北側の壁は不自然とは思っていた）、次項に記すように

紆余曲折がある。

〔図・精査状況〕上場崩落し、A'側断面図より掘り広がった。完掘時、18層もその上のIV層と考えていた土も覆土とわかった。またV層と考え底と思っていた土も覆土とわかり、結果的に底は第29号土坑と同じ高さで繋がってしまった。そうして、改めて平面形や壁を見ると楕円形の一つの土坑と見てもさほど不自然ではないように思われ、野外調査の最後にはそのように考えるようになっていた。しかし、報告書執筆時点で改めて検討してみると、壁は二つの弧を描くように続いており、平面形が楕円形に見えるに至ったのは上場が崩れた部分が多かったせいだったのではないかと思直している。ただし事実がどうだったかはわからない。壁、底も含めて木根非常に多い。東側の壁は全て崩落。

〔重複〕南側第29号土坑と重複するが、前述のように一つの同じ土坑の可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕中部に黄褐色土入る他は、にぶい黄褐色土～灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕崩落と重複のため不明。

〔断面形・深さ〕深さ約0.7mか。

〔壁・底面〕壁上20cmIV層、その下～底V層。底はあまり固く締まらない。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕時期を特定できる土器は出土しなかった（手違いで1点も掲載しなかった）。9号袋×1/2程度の土器片が出土。その他、半裁時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり（第82図247～252）（時期は、第29号土坑参照）、不掲載土器片が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類（一部第82図に図示）、第82図2の土偶（円筒上層a式期）も、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第31号土坑（第35・82図、写真図版35・116・138・139）

〔位置・検出状況〕調査区西部東側。5～6Cグリッド。前年度の調査区との境で、上部に黒褐色土が見られることもあって地山上面で既に検出し南側の一部を掘り下げていた。今年度は検出面をさらに10cm下げたため明確に検出。〔図・精査状況〕西側の下場掘りすぎのため合わない。平面図の下場の形もう少しきれいな円になる。本土坑半裁後、北側に広がる土坑群が確認され、検出面でプランが確認できなかったため、本土坑まで通して南北に半裁した。

〔重複〕北側、第104号土坑と重複し、本土坑の方が新しい。覆土がはっきり異なるので間違いはない。東側に黒いシミを見つけ、別の土坑がからんでいるのかと思ったが、精査したところ底がはっきりせず疑似現象であることがわかった。

〔覆土・堆積状況〕上半、黒～灰黄褐色のブロック状の土（あまり広がらない）、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約2.2mの円形。

〔断面形・深さ〕全周強いオーバーハング。深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20cmIV層、その下～底V層。底は一部赤色パミス含み固く締まる（鹿沼土のような感じ）。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第82図235～246の土器、写真図版138の330～335の石器類（134は写真図版139）（一部第82図に図示）、写真図版116の16の焼粘土塊、石器製作時の剥片587.38g出土。土器は、235？、237？？、

238?、243?は、円筒下層d2式、236、246?は、円筒上層b式、239、242は、円筒上層a1式?、244は五領ヶ台I a式系、245は円筒下層d1式、241は円筒下層c～d式、240は時期不明。図示した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。その他、半裁時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり(第82図247～252)(時期は、第29号土坑参照)、不掲載土器片が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類(一部第82図に図示)、第82図2の土偶(円筒上層a式期)も、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

第32号土坑(第35・82・83図、写真図版35・138～140)

〔位置・検出状況〕調査区西。5Dグリッド。IV層褐色土で検出。周囲に疑似現象が点々とあり、土坑かどうか確信は持てなかったが、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕上場全て崩落したので下場のみ掲載。半裁時予想より深く狭くて掘れなくなってしまったのでサブトレンチを入れた(南側)。

〔重複〕上面に第6号焼土を検出。東側第33号土坑と重複。検出面では重複しておらず、精査中に重複しているとわかったため、新旧関係を確認することはできなかった。なお、両土坑の間に褐色土のシミが見られるが、あまり広がらず不整形であり、周囲に点在するものと同じ疑似現象であろう。

〔覆土・堆積状況〕上部褐色土(一部黄褐色土)、中部暗褐色土、下部黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場は崩落、底は調査範囲外に続くため不明だが、1.8×1.5mの楕円形か。

〔断面形・深さ〕袋状。約85cm。

〔壁・底面〕壁は全周オーバーハングするようである。壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕調査した範囲では確認できなかった。

〔出土遺物〕第82図253、254の土器、写真図版138の336～140の355の石器類(一部第82～83図に図示)出土。土器は、253は縄文前期末か?、254は不明。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第33号土坑(第35・83図、写真図版36・140・141)

〔位置・検出状況〕調査区西。5Dグリッド。IV層褐色土で検出。周囲に疑似現象(根による攪乱)が点々とあり、土坑かどうか確信は持てなかったが、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。南側の調査範囲外に続く。

〔図・精査状況〕口が非常に狭く深いので通常のやり方では精査できず、サブトレンチを入れた。

〔重複〕上面に第10号焼土を検出。西側第32号土坑と重複。検出面では重複しておらず、精査中に重複しているとわかったため、新旧関係を確認することはできなかった。なお、両土坑の間に褐色土のシミが見られるが、あまり広がらず不整形であり、周囲に点在するものと同じ疑似現象であろう。上場東側にも同様のものが広がる。

〔覆土・堆積状況〕6、8層がV層のブロックを含むのが特徴的なくらいで、濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕上場(口)は、根による攪乱を受けているのではっきりしない点があるが直径約30cmの円～楕円形か。底は、直径約1.6mの円～楕円形。口は、底部に比べ著しく北西に偏っている。

〔断面形・深さ〕口が極めて細いフラスコ状。深さ約1.5m。

〔壁・底面〕壁は全周強くオーバーハング。壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第83図255、256の土器出土、255は円筒下層d1式か、256は時期不明。写真図版140の356～141の382の石器類出土（一部第83図に図示）。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕今回の調査を代表するように細い開口部を持つ。縄文人はどのように掘ったのか。

第34号土坑（第36・83図、写真図版36・141）

〔位置・検出状況〕調査区西寄り、調査範囲際。5Dグリッド。IV層で黄褐色土で検出。疑似現象との区別が難しく、プランは半裁後に確認。半裁後底と立ち上がりが確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕半裁後上場崩落したため、平面図は下場のみ掲載。北側は疑似現象と重複しており掘りすぎで半裁時に壊してしまったので、下場も不明。

〔重複〕ないと思われる。北側は疑似現象（根）と重複。

〔覆土・堆積状況〕疑似現象と見間違えるような褐色土で、全体的によく似ている。

〔平面形・規模〕上場は崩落したため不明。下場は、直径約1.1mの円形。

〔断面形・深さ〕北側が疑似現象と重複しているためか不整形である。約50cm。

〔壁・底面〕北壁以外はオーバーハングしている。底は平ら。壁上26cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや北側から直径約25cm、底面からの深さ約7cmの副穴検出。覆土は手違いで記録されておらず不明。

〔出土遺物〕（出土状況）西壁に近接した底面直上から、ほぼ完形の鉢形土器が北側に口を向けて、そのまま土圧で押しつぶされたような形で出土（第83図257）（第36図、写真図版36）。底面からは約6cm浮いているが底面と平行に寝た状態で、4層から出土しているようである。黒こげでボロボロになった状態のため、復元することはできなかった。

〔遺物〕第83図257の土器出土、時期は縄文時代前期末辺りか。写真図版141の383、384の石器類出土（一部第83図に図示）。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第35号土坑（第36・83図、写真図版36・141・142）

〔位置・検出状況〕調査区西。5C～Dグリッド。IV層褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、怪しいものを半裁したところ褐色土が下に続き、底と壁を確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕口が狭い割に深く掘るのが容易でなかったので断ち割ってサブトレンチを入れた。

〔重複〕上面に第8号焼土を検出。

〔覆土・堆積状況〕濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕上場直径約50cmの円形？、底直径約1.4mの円形。

〔断面形・深さ〕口が非常に狭いフラスコ形。約90cm。

〔壁・底面〕底から途中までかなりオーバーハングがきつく、その上は垂直に近く立ち上がる。壁上部40cm

IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 第83図258～260の土器、写真図版141の385～142の389の石器類（一部第83図に図示）が出土。土器は、259は円筒下層c～d式、258は縄文時代前期後半、260は時期不明。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性はある。

〔分類・所見〕 首狭いフラスコ状。

第36号土坑（第36・80・83・84図、写真図版36・37、142～144・170）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6Cグリッド。IV層検出面で、周囲の土坑と異なりはっきりとした黒土（Ⅲ層）で検出。ただし黒土の周囲は他の土坑と同様のためプランははっきりとは確認できなかった。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 南側の上場、崩れたりして正確でないので省略。西（A'）側の上場、測り間違いか、合わない。半裁時、狭く深いため精査が容易でなく、サブレンチを入れた。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 上部黒褐色土、その下全てIV～V層再堆積の褐色土。濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ。

〔平面形・規模〕 上場は崩落したため不明。底は、直径約2.6mの円形。

〔断面形・深さ〕 フラスコ状。約1.6m。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。壁上約50cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕（出土状況）13層中深鉢形土器の胴部が西から東へ傾斜して出土。14層中（上面？）にはほぼ水平の状態で土器片がまとまって出土し、一番東側の土器は南東側にやや傾き、その上に石皿が南向きに傾斜して出土（写真図版37）。石皿は、底面のほぼ中央の位置になる。

〔遺物〕 第83図261～第84図270の土器が出土。第80図196土器の一部破片も、本遺構（検出面？）から出土しているようである。写真図版142の390～144の419の石器類出土（一部第84図に図示）。土器は、261は大木7a式系？、262？、264、269は、円筒上層b式、263、266、268、270は、円筒下層d1式、267は円筒上層a2式、265は不明。写真図版170の786、787の石器類も本遺構から出土している可能性がある。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性が高い。

〔分類・所見〕 大型。口広いフラスコ。

第37号土坑（第37・84図、写真図版144・145）

〔位置・検出・精査状況〕 調査区西～中央。6C～Dグリッド。大部分が南側の調査範囲外にある。第38、39号土坑の半裁時、覆土分層の際南壁に不自然なところがあり、南側に土坑が重複していることがわかった。ほとんどが調査範囲外であり、また表土から底面までは深く（約1.4m）、調査範囲内の狭い範囲（40cm幅）を精査するにはかなりの危険が伴うので、精査はしなかったが、断面から37号の方が新しいことは確実である。

〔重複〕 上記のように、北側第39号土坑と重複し、37号の方が新しい。

〔出土遺物〕 重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、

272)、円筒上層a 1 式と思われる。写真図版144の420～145の444（一部第84図に図示）の石器類も同様である。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第38号土坑（第37・84図、写真図版37・144・145）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 C グリッド。IV 層面褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所があるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定したが、三つの土坑が重複していた。

〔図・精査状況〕 底半裁後に掘り広がったため合わない。

〔重複〕 南側第39号土坑と重複。一緒に半裁したが底面が二段になり重複と判断。段差の最も自然な解釈、黄褐色土がブロック状に入るといふ第39号土坑の覆土の特徴、39号の南壁から類推した北壁の形状から、断面図のように判断し、39号の方が新しいと考えた。東側第40号土坑と重複。検出面では確認できず、39号土坑完掘の際底面で、黒土が東側に続いていることから初めて別の土坑と重複していると気づいたため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕 最上部黒褐色土、下部濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ暗褐色土。

〔平面形・規模〕 上場は崩落してしまったので不明。底は、重複しているためはっきりしない。

〔断面形・深さ〕 袋状か。約80cm。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。壁上50cm IV 層、その下～底 V 層。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、272）、円筒上層a 1 式と思われる。写真図版144の420～145の444の石器類（一部第84図に図示）も同様である。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第39号土坑（第37・84図、写真図版37・144・145）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 C グリッド。IV 層面褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所であるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定したが、三つの土坑が重複していた（第37図）。

〔図・精査状況〕 底半裁後に掘り広がったため合わない。上場崩落したため底のみ記載。

〔重複〕 北側第38号土坑と重複。一緒に半裁したが底面が二段になり重複と判断。段差の最も自然な解釈、黄褐色土がブロック状に入るといふ第39号土坑の覆土の特徴、39号の南壁から類推した北壁の形状から、断面図のように判断し、39号の方が新しいと考えた。南側第37号土坑と重複。覆土分層の際南壁に不自然なところがあり、南側に土坑が重複していることがわかった。ほとんどが調査範囲外であり、また表土から底面までは深く（約1.4m）、調査範囲内の狭い範囲（40cm幅）を精査するにはかなりの危険が伴うので、精査はしなかったが、断面から37号の方が新しいことは確実である。東側第40号土坑と重複。検出面では確認できず、39号土坑完掘の際底面で、黒土が東側に続いていることから初めて別の土坑と重複していると気づいた

ため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕最上部黒褐色土、上部黒褐色土と黄褐色土の混土（黄褐色土のブロック）、中部黒褐色土、下部黄褐色土。最上部は自然堆積、上部は人為堆積（埋め戻し）の可能性が窺われる。

〔平面形・規模〕上場は崩落してしまったので不明。底は、重複しているためはっきりしないが、2.1×1.9m程度の楕円形か。

〔断面形・深さ〕袋状。約1.3m。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁上60cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕断面写真にはそれらしいものが底面中央付近に見られるが、雨後のクリーニングの際削って無くなってしまったようである。お詫び申し上げる次第である。

〔出土遺物〕重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、272）、円筒上層a1式と思われる。写真図版144の420～145の444の石器類（一部第84図に図示）も同様である。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第40号土坑（第37・84図、写真図版37・144・145）

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6Cグリッド。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面では確認できなかった。半裁時に検討した結果、口が直径約40cm程度で非常に狭かったため土坑の可能性を疑うことができず、第37～39号土坑等を割ったトレンチから外れた模様である。第39号土坑完掘の際底面で、黒土が東側に続いていることから初めて土坑があると認識できた。

〔図・精査状況〕土坑があると確認できた時点では、東側の覆土は残っていたので半裁した。ところが二日の休みを挟んで現場に来てみると上場は全て崩落していたのである。オーバーハングがかなりきつい壁だったせいと思われるが、いかに初年度の調査終盤で急いでいたとは言え、あまりに考えがなかったと反省する次第である。以上の経緯のため、断面図も上場もなく、底のみの掲載である。なお、図面上本土坑の底が一周しているのは、全ての土坑の中で最も深く掘り込まれていたため、新旧関係を表現しているわけではない。

〔重複〕北東隅上面に第9号炉跡があり明らかに炉跡が新しい。西側第38、39号土坑、東側第101、102号土坑と重複するが、上記の検出状況のため、新旧関係はいずれも不明である。お詫び申し上げる次第である。

〔覆土・堆積状況〕上記の経緯のため不明である。

〔平面形・規模〕上場は崩落して不明。底は直径約2mの円形。

〔断面形・深さ〕袋状か。約1.5m。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁上60cmⅣ層（下方、根が深く入っているためⅤ層を誤認？）、その下～底Ⅴ層。南東壁の底面直上に花崗岩の露頭。

〔副穴等の付属施設〕底面中央に約40×30cmの楕円形で底面からの深さ約10cmの副穴検出。調査員が確認したときには完掘されていたため覆土は不明。

〔出土遺物〕重複が著しく特定できず、第37～40号土坑出土として取り上げた土器片が2点あり（第84図271、272）、円筒上層a1式と思われる。写真図版144の420～145の444の石器類（一部第84図に図示）も同様である。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第41号土坑（第37・85図、写真図版37・145・146）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6～7Cグリッド。南側調査範囲外に続く。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、IV層褐色土で検出し、半裁したところ、壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 西側の壁ははっきりしなかったのでサブトレンチを入れた。うっかり底まで入れてしまったので底も不明になってしまった。

〔重複〕 調査した範囲ではないと思われる。壁の項参照。

〔覆土・堆積状況〕 上部暗褐色土（Ⅲ層に酷似）、中部褐色土（今回の調査でよく見られるⅣ～Ⅴ層再堆積土）、下部黄褐色土と褐色土の交互層。上部と下部から、自然の堆積の可能性が高い。

〔平面形・規模〕 上場はサブトレンチで壊してしまったため推測できない。底は、直径1.8m前後の円形か。

〔断面形・深さ〕 袋状（次項参照）。約1.1m。

〔壁・底面〕 断面を見ると、西壁が不自然な形をしているが、サブトレンチを入れた結果、15層の下が掘れるようには思えなかった。途中の突出部を底にして上にもう1基フラスコ状土坑が重複しているのかも知れないが、覆土は比較的似ており顕著な違いは見いだせず、また底を認識することはできなかった。ただし、報告書執筆時点で再検討してみれば、16～17層と18～19層の間が比較的大きく異なっており、覆土を底としたためしっかりせず下に落ち込んだ可能性も考慮すれば、上にもう1基あると考えた方がより自然かも知れない。壁はオーバーハング。壁、検出面から50cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕 調査した範囲では確認できなかった。

〔出土遺物〕 第85図273、274の土器、写真図版145の445～146の450の石器類（一部第85図に図示）出土。土器は、273は円筒下層d2式？、274は円筒下層c～d式。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕 断面非対称。

第42号土坑（第38・85図、写真図版38・146）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東端。6Cグリッド。住居ベルト残して掘り下げた際、黒かったので間違っ
て掘り下げた。この時点ではプランは確認できず、当初は住居の周溝かと思っていたが、予想より深く大きく、土坑であろうとわかった。住居精査終了後、床面を下げたプランを大まかに掴み、半裁。

〔図・精査状況〕 トレンチ南側崩れ、上場全く合わない。上場が段をなしてわかりにくいこともあり、上場をどこと捉えるかという認識の違いのせいかも知れない。南側上場、徳利状に開き、住居の壁を削っている可能性を疑ったが、根による汚れと判断。

〔重複〕 第1号住居跡中に検出。新旧関係ははっきりしないが、検出状況から本土坑の方が古い可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕 上から下までほとんど同じボロボロの灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場不明。底、直径約1.6mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕 上面皿状に開いて段をなし、壁はオーバーハングきつい。フラスコ状。深さ約1.5m。

〔壁・底面〕 壁上Ⅳ層、下Ⅴ層、底Ⅵ層（白色粘土層）。壁と底ははっきり分かれる。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。

〔出土遺物〕 第85図275～280の土器、写真図版146の451～454の石器類（一部第85図に図示）、石器製作時の剥片189.34gが出土。土器は、275は円筒下層b2式？、277は五領ヶ台Ⅰa式系？、278？、279？？は、円筒下層b1式？、280は円筒上層a1式？、276は縄文前期中葉か。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出

土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕皿状に開く上場は、第52号土坑のように、埋め戻し穴の可能性もあるかも知れない。首狭い。

第43号土坑（第38・85図、写真図版38・146）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6～7Cグリッド。焼土断ち割り時、下の様子がおかしいと気づいた。両側に地山そっくりの土が入っていたので確信は持てなかったが、掘り下げたら土坑とわかった。

〔重複〕上面に第30号焼土あり（より新しい）。第1号住居跡と重複し、新旧関係ははっきりしないが、住居精査時全く確認できなかったことから、土坑の方が古い可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕上部にぶい黄褐色土、中部Ⅳ～Ⅴ層再堆積の黄褐色土、下部にぶい黄褐色土（一番下はⅤ層再堆積？）。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕検出面のせい、壁～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色土（10YR4/6）シルト、粘性あり、1～2mmの炭化物、5mm～1cmのⅤ層ブロック多く含む。

〔出土遺物〕第85図281の土器（円筒下層c～d式か？）、写真図版146の455～457の石器類（一部第85図に図示）、石器製作時の剥片529.57g出土。掲載した以外に、10×10cm1点、9号袋×1/4程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第44号土坑（第38・85図、写真図版38・146）

〔位置・検出状況〕調査区西部東端。6B～Cグリッド。第1号住居跡柱穴捜すため床面をクリーニングした時に発見。プランは掴めなかったが、半裁した結果、柱穴ではなく土坑と確認。住居跡精査後、改めて床面を下げてプランを確認。

〔図・精査状況〕南側上場崩れて合わない。北側上場測り間違いで合わない。上場、図示したものとそれほど遠くなかったと思われるが、精査中に崩れている可能性が高い。

〔重複〕第1号住居跡と重複。検出状況から、本土坑の方が古い可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕汚れⅣ～Ⅴ層の再堆積土と暗褐色土の交互層。南側の上面に確認された層は、地山とほとんど区別できない。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径約1.4mの円形。

〔断面形・深さ〕崩れているためか不整形。約0.9m。

〔壁・底面〕検出状況のせいで、壁～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり？ 他と異なり上場がはっきりせず、ガラガラと立ち上がる。

〔出土遺物〕第85図282～284の土器、写真図版146の458（＝第85図458）の石器、石器製作時の剥片13.90g出土。土器は、282、284は、縄文中期前葉、283は縄文前期末～中期初頭。掲載した以外に、10×10cm2点、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第45号土坑（第39・85図、写真図版38・146・147）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西端。7 B～Cグリッド。地山上面で、第7号炉跡に伴う柱穴を捜していた際に検出。炭化物を花崗岩のように顕著に含む灰黄褐色土だったので、比較的是っきり確認したが、あまりに小さかったので、半裁前は柱穴と思っていた。〔図・精査状況〕北側上場はっきりしなかったのでサブトレンチを入れた。

〔重複〕東側第48号土坑と重複し、断面から48号の方が新しい。底付近のみ重複。本土坑を精査したときには、まだ48号は検出しておらず、半裁した際に偶然あたった。48号は、初め住居状遺構と考えていたので、さらに別の土坑があるのだと思っていた。

〔覆土・堆積状況〕断面図に見える下部の花崗岩の直下と間を置いて、その下がやや黄色みが強いというだけで、ほとんど同じ灰黄褐色土。炭化物を花崗岩のように特徴的に含む。

〔平面形・規模〕上場0.8×0.6mの楕円形。底、直径約1.3mの円形。

〔断面形・深さ〕南側上部洞穴状に僅かにオーバーハングし、二段のオーバーハングになっている。深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cm IV層、その下～底 V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）炭化物多く含むのに、他に比べて土器が出土しない層が非常に多かった。

〔遺物〕第85図285、286の土器、写真図版147の459、146の460の石器類、石器製作時の剥片89.42g出土。土器は、286は円筒下層c～d式か、285は時期不明。掲載した以外に、9号袋半分強程度の土器片が出土している。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕口狭い。

第46号土坑（第39・85・86図、写真図版39・146～148）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7 Cグリッド。IV層面褐色土で検出。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕測り間違いでセクションポイント合わない。完掘時掘り広がったため（おそらく掘りすぎ）、断面図と平面図合わない。半裁時口が狭かったので南側を壊して精査（トレンチ）。ところが、調査序盤で作業員が慣れていなかったため断面を垂直に下ろすことができず、下方をかなり抉ってしまった。下方に合わせて断面を垂直にするように求めたが、なかなか垂直に下ろすことができず、とうとう上場がなくなってしまった。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕断面実測できたところでは、全てIV～V層再堆積の褐色土。濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じ。

〔平面形・規模〕前述のように、上場は精査中に壊してしまったため不明であり、下場は掘りすぎている可能性が高いので不明。

〔断面形・深さ〕フラスコ状か。約90cm。

〔壁・底面〕全周オーバーハング？ 壁上部IV層、壁下部～底部V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第85図287、288の土器、写真図版146の461～148の466の石器類（一部第85～86図に図示）出土。土器は、287は円筒上層a1式？、288は縄文時代前期末辺りか。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

第47号土坑（第39・40・86図、写真図版39・148）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7B～Cグリッド。地山上面で、前年度既に検出し少し掘り下げていた。〔図・精査状況〕オーバーハングきつく、南半分上場崩落。〔重複〕上面で第6号炉跡を検出（新しい）。精査中に、北側の第48号土坑とくっついてしまったが、重複はしていない。後述のように、本土坑自体が2つの土坑の重複の可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕西側の1、2、10層以外、V層ブロックの含む量と濃淡の違いはあるが、ほとんど同じ灰黄褐色土。3層はIV層そのものに近く、壁が崩落したものか。

〔平面形・規模〕検出面では気づかなかったが、掘り上げた後、壁と底を見ると、中央付近がくびれて二つの円が連結したようになっており、本来は二つの土坑が重複していたのが、上場が崩れて一つに見えた可能性もある。

〔断面形・深さ〕オーバーハングきつい。深さ約0.7mの袋状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmIV層、その下～底V層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）北側壁近く、比較的まとまった土器片が土坑の中心に向かって僅かに傾斜して出土（写真図版39）。（遺物）第86図289～296の土器、写真図版148（＝第86図）の467の石器、石器製作時の剥片132.9gが出土。土器は、290、293は、円筒下層d1（d2？）式？、289？、291、292？、294、295？は、円筒上層a1式、296は円筒下層d2式。掲載した以外に、9号袋×3/4程度土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

〔分類・所見〕断面非対称。

第48号土坑（第39・40・86・87図、写真図版39・40・148）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7Bグリッド。IV層上面で住居状のように広いシミを確認。プランははっきり掘めなかったが、近くに竪穴住居跡があるため、これ以上下げられず、十字ベルトを設定して、これに沿ってトレンチ状に掘り下げた。その結果、第52号土坑と同様で上面に埋め戻し穴がある土坑であることがわかり、東西方向のベルトを除去して掘り下げた。

〔図・精査状況〕セクション・ポイントB崩落。全体的に崩落ひどく、ずれている。

〔重複〕覆土上部南側に第33号焼土がある（より新しい）。西側、第45号土坑と重複し、断面から本土坑の方が新しい（第45号の断面参照）。南側に第47号土坑あるが、重複していない（間が崩落しただけ）。後述のように、本土坑自体が重複かも知れない。

〔覆土・堆積状況〕上部埋め戻し穴覆土は、淡い土、その下は、よく似ており、濃淡の違いはあるがV層ブロックを特徴的に含む灰黄褐色土。中位に段があるが、土層の類似性、堆積状況から、土坑の重複でなく一つの土坑に段があるのだと考えた。

〔平面形・規模〕崩落ひどく、不明。

〔断面形・深さ〕全体的にオーバーハングきつく、上場全周精査しているそばから崩れたため不明。中位段～下位底にかけての壁もオーバーハングしており、すぐ崩れてしまった。深さ約0.8m。

〔壁・底面〕壁上20cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。下位の段（底）はネットネトしていて、中位の段の底の方が固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）No.1土器（第86図297）は、ほぼ完形で、土坑中央部から、北から南に僅かに傾斜して出土（下3層）。No.2土器（第86図298）は、ほぼ水平に略完形の土器が土圧で押しつぶされたような状態で出土（1層）（第39図）。写真図版40参照。

〔遺物〕第86図297～316の土器、第87図7の円盤状土製品、写真図版148の468～479の石器類（一部第87図に図示）、石器製作時の剥片961.12g、剥片B類10.29g出土。土器は、297、298？、300（下層d2式？）、307、308？、310、314、316は、円筒上層a1式、304、312は、円筒下層d1式、305は円筒上層a2式、311は円筒下層d2式？、315は円筒下層b2式？、299は縄文前期末～中期初頭、301？、303？、309は、中期前葉、302、306、313は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×3程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕半裁時確認された段を、同じ土坑の段と考えていたが、完掘後、北西側にも段が確認され、中段が一つの楕円形になり、下位が円形を呈することがわかった。これを見る限り、二つの土坑の重複と考えた方が自然である。しかし、覆土は上記の通りで、真相は不明である。上場の広がり、第52号土坑同様、深い土坑を埋め戻すために掘られた穴と考える。大型？

第49号土坑（第40・87図、写真図版40・148・149）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。Ⅳ層黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分にトレンチを入れた結果、三つの土坑の底と壁が確認された。

〔図・精査状況〕上場は、トレンチと掘りすぎ（疑似現象との重複）によってほとんどがなくなってしまった。南側疑似現象があり、一緒に掘ってしまったので第75号土坑と重複しているように見える。

〔重複〕北側第50号土坑、第51号土坑と重複。間にトレンチが入ってしまったため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、その下基本的には黄褐色土と黒褐色～暗褐色土の交互層。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕上場トレンチと崩落によって不明。底、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕断面図を見る限り、口がほぼ垂直に立ち上がるフラスコ形。約1.1m。

〔壁・底面〕壁は、底からきつくオーバーハングし中程からほぼ垂直に立ち上がる。壁～底Ⅳ～Ⅴ層（根による攪乱を受けているせいか境界が曖昧で区別できない）。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや北東寄りに約45×30cmの楕円形の副穴が検出された。底面からの深さは約20cmで覆土は9層である。

〔出土遺物〕重複著しく、本遺構に帰属すると特定できた遺物はない（第87図、写真図版148の480～149の483参照）。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕首狭い。

第50号土坑（第40・87図、写真図版41・148～152）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7 Cグリッド。IV層黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分にトレンチを入れた結果、三つの土坑の底と壁が確認された。

〔図・精査状況〕上場はトレンチによって南半分消失。

〔重複〕東側第51号土坑と重複。断面から判断すると第50号の方が新しい。南側第49号土坑と重複し、間にトレンチが入ってしまったため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上から下まで、濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場は、直径50cm程度の円形か。底は、直径約1.25mの円形。

〔断面形・深さ〕断面図を見る限り、口が極めて細いフラスコ形。約1m。

〔壁・底面〕壁は、底から緩やかにオーバーハングした後急傾斜で立ち上がり、最後に外反するようである。壁上部60cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕重複著しく、本遺構に帰属すると特定できた遺物は少ない（第87図、写真図版148の480～152の535参照）。319土器の一部は、本土坑からも明らかに出土している。縄文中期前葉か。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕首狭い。

第51号土坑（第40・87図、写真図版41・148～152）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7 Cグリッド。IV層黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分にトレンチを入れた結果、三つの土坑の底と壁が確認された。

〔図・精査状況〕上場は、トレンチによって南半分消失し、北側は疑似現象と重複していたため掘りすぎ、不明である。東（B'）側完掘時底掘り広がったため合わない。

〔重複〕西側第50号土坑と重複。断面から判断すると第50号の方が新しい。南側第49号土坑と重複し、間にトレンチが入ってしまったため新旧関係不明。北～東側疑似現象による攪乱を受けている。

〔覆土・堆積状況〕上から下まで、濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕上記の理由で上場不明。底も重複によって壊されたため不明。

〔断面形・深さ〕断面図を見る限り袋状。約60cm。

〔壁・底面〕壁は、オーバーハングするようである。壁上部60cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕重複著しく、本遺構に帰属すると特定できた遺物は少ない（第87図、写真図版148の480～152の535参照）。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第52号土坑（第41・88図、写真図版41・42・152）

〔位置・検出状況〕 調査区西部北東隅。6 B グリッド。地山上面で、淡い色（にぶい黄褐色）のシミを見つけた。それらは、不整形で輪郭はボヤーとしていたが、比較的濃いところに注目すれば、南北に延びる楕円形とその西側の円形、あるいは南北に並ぶ円形2つと西側の1つと見ることもできた。プランがうまく掘めなかったが、住居の隣だったので検出面をこれ以上上げるわけにはいかず、これらを同時に掘ることとし、楕円形の西側を掘り、その南側から隣の土坑にベルトを通して、歪んだ「T」字状に土層を残して掘り始めた。検出面で確認されたシミは30cm程度と浅く、その下の中央部には大きな土坑が検出された。このシミの部分は、ボヤーとして底も壁もはっきりしないが、ある程度の深さを持って面的に広がり、住居状の楕円形遺構2基が南北と東西に広がり、それが重複しているのか、そして、その下に土坑があるのかとしばらく悩んだ。完形に近い土器（No.0）が出土していることも拍車を掛けた。結局、フラスコ状土坑より新しい割にはあまりに輪郭がぼんやりしており、覆土も地山汚れ土で、底が不整形でうねっているため、人によって意図的に掘られたものではないと判断し遺構とは認定せず、下の土坑だけ遺構として扱った。その正体はわからなかったが、下の土坑を中心に広がるということで、土坑の上場が崩れたのかと漠然と考えていた。

〔図・精査状況〕 西側上場崩落。底面下げすぎ。その他にも掘りすぎ多い。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 最上部、にぶい黄褐色土、中央（上部）灰黄褐色～黒褐色土、両脇（下部）黄褐色土、最下部灰黄褐色土と黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕 上場、不明（「埋め戻し穴」あり）。底、直径約2.1mの円形

〔断面形・深さ〕 袋状。深さ約1.3m。

〔壁・底面〕 壁上30～40cm IV層、その下～底 V層。底の一部、東壁の奥底近く軟らかい。土は地山の色で炭はほとんど含まないので、再堆積土でなく、地山そのものが何らかの影響で軟らかくなったものと判断。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。

〔出土遺物〕（出土状況） 2層中からNo.0土器出土（第88図322）。胴部下半で、底を北側上に向けながら大きく傾斜している。No.1（第88図323）は、比較的大きな破片で、11～12層上面から北側に強く傾斜して出土。No.2（第88図324）は、完形土器で、12層上面層からほぼ水平で北東方向に向かってやや傾斜して出土。写真図版41～42参照。

〔遺物〕 第88図322～334土器、写真図版152の536～540の石器類（一部第88図に図示）、石器製作時の剥片352.27g、剥片B類3.73gが出土。土器は、323は五領ヶ台I a式系、324、327、328？、330、332、333は、円筒下層d 1式、325、331、334は、円筒上層a 1式、326は円筒下層d 2式、329は円筒下層c～d式、322は中期前葉？ 図示した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 上面のシミが何なのか、ずっと悩んでいたが、第48号土坑でも同様なものが見られたとき、ひらめくものがあった。本土坑は、第48号と同様比較的規模が大きく、また住居のそばにある。今回の調査では、フラスコ状土坑はしばしば埋めもどしているのが確認された。埋めもどすにあたって土をどこから持ってくるかが問題となろう。本土坑の場合は、規模が大きいため埋めもどすために多くの土が必要になる。土が足りなくなったため周囲の地山を削って埋めたのではないだろうか。同時期に存在したか不明だが、住居のそばにあったため早急に埋めもどす必要があったのかも知れない。埋めもどすために掘った浅い穴は、住居のそばに窪地があるのは不都合ということで、後日また改めて地山土で埋めもどしたのではないか。

第53号土坑（第41図、写真図版42・152）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西隅。6～7 Bグリッド。地山上面で比較的はっきり円形の灰黄褐色土を確認。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部灰黄褐色土、中部汚れIV～V層再堆積でほとんど同じ、下部は一番上が黒褐色土で炭化物多い、その下がにぶい黄褐色土、最下層がV層再堆積。

〔平面形・規模〕上場、約1.1×0.6mの楕円形。底、直径約1.9mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕写真図版152の541～543の石器類、石器製作時の剥片713.58g出土。時期が特定できる土器はなかったようである（手違いで1点も掲載しなかった）。5×5～10×10cmの破片1、5×5cmの破片2、それ以下の破片33点出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第54号土坑（第42・88図、写真図版42・152・153）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西隅。7 Bグリッド。地山から20cm下げたところで検出。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕中央部炭化物多く、下部は黄褐色土で、その他は全体的によく似たにぶい黄褐色～灰黄褐色土。下半部は細かく分かれる。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.9mの不整円形。底、直径約1.7mの円形

〔断面形・深さ〕深さ約1.2mの袋状。

〔壁・底面〕壁上30cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕第88図335～337の土器、写真図版152の544～153の549の石器類（一部第88図に図示）、石器製作時の剥片87.79g出土。土器は、335は円筒下層c～d式、336は円筒下層d1式？、337は前期末～中期初頭あたりか。掲載した以外に、5×5～10×10cmの破片2、5×5cmの破片2、それ以下の破片42点出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕堆積状態に特徴。

第55号土坑（第42・89図、写真図版43・153）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北西。7 Bグリッド。地山上面で疑似現象ともつかないシミを見つけたが、近くに住居が検出されたためこれ以上下げられず、試しに半裁したところすぐ多量の土器が出土して土坑とわかった。西側に検出されたシミは、半裁の結果疑似現象とわかった。周囲は木根多い。

〔図・精査状況〕上場の形がわかりづらく、平面図作成時の西側上場の認識が断面図と異なっていたため合わない。南側上場崩れていないようである。

〔重複〕西側第56号土坑と重複し、断面図から本土坑の方が古い。第56号は、本土坑と違って炭化物もほとんど含まず黄色みが強いので、はっきり区別できる。

〔覆土・堆積状況〕上半、灰黄褐色土～にぶい黄褐色土、下半、最上部特徴的な黒褐色土、その下IV～V層

再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場、約1.2×1mの不整楕円形。底、直径約2.2mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.3mの袋状。

〔壁・底面〕 壁上20～30cm IV層、その下～底 V層。底には、レモン色 (2.5Y8/6) のブロックが見られ、硬質でツルツル。

〔副穴等の付属施設〕 底中央が窪んでいるが、副穴あったのか不明。

〔出土遺物〕 (出土状況) 3層上面に土器片多く発見。No. 1 (第89図339の一部) (写真図版43) は、ほぼ水平に堆積、No. 2 (第89図339の一部) は、西側下方に向かって緩やかに傾斜。No. 3 (第89図339の一部) は、礫の上であり、北東に向かってやや強く傾斜。底面中央付近で完形土器出土 (第89図338)。6層上面で頭を出した。西に向かって傾斜している。

〔遺物〕 第89図338～347の土器、写真図版153の550～555の石器類 (一部第89図に図示)、石器製作時の剥片123.84g、剥片B類1.05g出土。土器は、338、342?、347?は、円筒下層d 2式、339?、341、343?、344、345、346は、円筒下層d 1式、340は円筒下層c～d式。掲載した以外に、9号袋×1.3程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕 大型?

第56号土坑 (第42・43・89図、写真図版43・44)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北隅。7 Bグリッド。上に切り株あり木根多く、また住居の近くだったため下げられず、検出面では確認できなかった。第55号土坑の重複から存在を確認。確認前、上面の土は第2号住居に似ていたので、住居の張り出し部かと思っていた。

〔図・精査状況〕 南側の中間場の落ち際、水糸からの高低差大きかったせいか、少しずれている。西側オーバーハングきつく大幅に崩れた。

〔重複〕 西側第55号土坑と重複し、第55号の断面から本土坑の方が新しい (55号の記載参照)。北側、第57号土坑と重複しているが、第57号の精査中底付近で気づいたので、新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕 上部、ボヤーとしたにぶい黄褐色土、中部、中央黒褐色、両脇黄褐色土、下部、黄褐色土と黒褐色土の薄い交互層。中部と下部の間大きな礫目立つ。

〔平面形・規模〕 上場不明だが、「埋め戻し穴」を持つと考える。底、直径約2.5mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.8mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁上30cm IV層、その下～底 V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 (出土状況) 覆土中央部、8層以下、一抱えもある礫がゴロゴロ出土、板状が多いが棒状もある。その下から、半完形土器が押しつぶされて大きな破片となって出土 (写真図版43～44)。

〔遺物〕 第89図348～353土器、石器製作時の剥片161.64g、剥片B類27.95g出土。土器は、348、349?、350、351、352?、353?は、円筒下層d1式。掲載した以外に、10×10cm以上2、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性はある。

〔分類・所見〕 第52号土坑同様、「埋め戻し穴」を持つと考える。覆土中位から大きな礫。大型。

第57号土坑（第43・89図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北西隅。7 A～Bグリッド。地山を10cm下げたところで検出。上に切り株あり、また検出面にも根が多く残存し、覆土も根による汚れとほとんど区別できなかったが、試しに半裁したところ、灰黄褐色のよりはっきりした土が出てきて底も確認され、土坑と認定。

〔図・精査状況〕 上場崩れたためか掘り広がって合わない。

〔重複〕 南側第56号土坑と重複。底面付近のみなので新旧不明。

〔覆土・堆積状況〕 IV～V層の再堆積である褐色～にぶい黄褐色土とにぶい黄褐色～灰黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕 上場、直径約1.1mの円形。底、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約1mの袋状。

〔壁・底面〕 壁上40cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 副穴とそれに繋がる3つの小溝跡。

〔出土遺物〕 第89図354～360の土器、石器製作時の剥片29.72g出土。土器は、355は縄文早期貝殻文寺の沢式、357は縄文前期前葉？、354、356、358～360は、時期不明。図示した以外に9号袋半分程度の土器片が出土。

〔時期〕 他より古い土器が出ているが数が少なく、また遺構自体は他と特に異なってはいず、混入の可能性も否定できない。

〔分類・所見〕 副穴に小溝。早期土器片出土。

第58号土坑（第43・90図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北。7 Bグリッド。地山上面で検出。根による汚れに近い色だが、はっきりした円形だった。〔図・精査状況〕 半裁時副穴未検出。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 両脇の一部黄褐色土の他は、みなにぶい黄褐色土でほとんど区別つかない。

〔平面形・規模〕 上場。直径約0.8mの不整円形。底、直径約1.6mの円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.9mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁上30cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 副穴とそれに繋がる小溝跡あり。

〔出土遺物〕（出土状況）中位の高さから比較的大きな土器片が、ほぼ水平に出土（No.1）（第90図361）。層不明。写真図版44参照。

〔遺物〕 第90図361～368土器、石器製作時の剥片62.6g出土。土器は、362、363、366は、円筒下層d1式、361？、368？？は、円筒下層d2式、364は円筒上層a1式？、365、367は、縄文前期末？ 367は、第29号、第63号土坑出土破片と接合している。掲載した以外に、10×10cmの破片1、9号袋×1/2程度の土器片が出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕 副穴に小溝。

第59号土坑（第44・90図、写真図版45・153）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北隅。7 A～Bグリッド。地山面を20cm下げたところで検出。はっきりし

ない根による汚れのような土で、あまり期待していなかったが、半裁し深く掘り下げた結果、壁と底が確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 上場崩れたせいか合わない。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 上記のような土で、また浅いせいか区別できなかったが、濃淡で2層に細分。上部の方がロームブロック多い。ただし、土器の出土状況を見ると、1層は土器の上を通過して東西に続きそうである。

〔平面形・規模〕 上場崩落したため不明。底は、約1.5×1.2mの不整楕円形。

〔断面形・深さ〕 約0.4mの袋状。

〔壁・底面〕 壁IV層、底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 検出面で土坑と確認できなかったため半裁時トレンチ状に深く掘り下げたため不明。

〔出土遺物〕 (出土状況) 完形に近い土器が、土坑のほぼ中央から水平に近い状態で、口を北東方向に向けて出土している (No. 1) (第90図369) (第44図、写真図版45)。2層上面からか。北東側の一部は土圧でつぶされたような状態で出土しているが、それ以外は本来の位置から外れており、立っている破片もある。

(遺物) 第90図369～372の土器、写真図版153の556、557の石器類 (一部第90図に図示) 出土。土器は、369、372は円筒上層d 1式?、370は縄文前期後半、371は時期不明。掲載した以外に10×10cmの破片1、9号袋×2程度の土器片が出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性はある。

〔分類・所見〕 浅い。

第60号土坑 (第44・90図、写真図版45・153)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北隅。7 Aグリッド。地山を10～20cm下げたところで根によるカクランに近い汚れたIV層を検出。あまり望みはないと思って半裁したら、はっきりした灰黄褐色土が出てきた土坑と判明。〔図・精査状況〕 西側上場崩れたため合わない。根によるカクラン受けているため、半裁した断面でも東西両側の境ははっきりしなかった。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 上半IV～V層再堆積の黄褐色土 (炭化物もほとんどない)、下半灰黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場、約1.3×1.2mの不整楕円形。底、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕 全周オーバーハング。深さ約0.7mの袋状。

〔壁・底面〕 壁上20cm IV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 副穴とそれに続く十字状の小溝跡が検出。底面からの深さ、副穴30cm、溝3cm、副穴の底には花崗岩がある (元々現地にあったものではないようだ)。溝覆土、黄褐色土 (10YR5/6) 粘土質シルト、IV層再堆積。

〔出土遺物〕 第90図373の土器 (時期不明)、写真図版153の558の石器、石器製作時の剥片1.69g出土。出土遺物は少なく、掲載されたもの以外に土器片が5×5cmより小さなものが4片。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕 副穴に小溝。

第61号土坑 (第45・90図、写真図版45・153)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北隅。7～8 Aグリッド。地山を20cm下げたところで検出。上に切り株あり、木根が多く残存しているところでぼんやりとした土で検出されたため、ほとんど期待はしていなかった。

試しに半裁し大きめに掘り下げたところ、底と壁が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕東側、崩れたのか掘りすぎたのか、上、下場とも合わない。木根ひどくて土が汚れており、壁わかりづらい。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕西上隅がやや黄色みが強い程度で、ほとんど同じにぶい黄褐色～灰黄褐色土。ただし、周囲のIV層よりは濃くはっきりと区別できる。

〔平面形・規模〕上場、約1.3×1.2mの円形。底は、約1.6×1.5の不整楕円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。約0.4mの袋状。

〔壁・底面〕壁上15cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/4）シルト、5mm程度のダマ状のロームブロック含む。周囲の根穴とほとんど同じ土。

〔出土遺物〕第90図374～376土器、写真図版153（＝第90図）の559の石器類、石器製作時の剥片34.28g出土。土器は、376は円筒上層a1式？、374、375は時期不明。掲載した以外に9号袋1/2程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕浅い。

第62号土坑（第44・90図、写真図版46・154）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北隅。7A～8Bグリッド。検出面を10cm下げたところ、にぶい黄褐色土ながら比較的はっきり検出できた（基準杭直下）。

〔図・精査状況〕セクション・ポイントのBは実測時動かされていた。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕黄褐色～にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の交互層に近い。中央に最も暗い層がある。

〔平面形・規模〕上場、約1.3×1.2mの不整楕円形。底は、直径約1.9mの円形。

〔断面形・深さ〕約1mの袋状。

〔壁・底面〕壁上30cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/4）シルト、IV～V層の粒子細かいブロック多く、2mm大、1cm大の炭化物も多い。深さ5cm。これとは別に、底面のより東寄り、下から二番目のV層再堆積土の上面で柱穴様の副穴らしいものが確認された。西端がはっきりしなくて変だったので、さらに下げたら、なくなってしまい、底面中央に前述のはっきりした副穴が検出されたのである。

〔出土遺物〕第90図377土器（時期不明）、写真図版154の560、561の石器類、石器製作時の剥片13.39g出土。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第63号土坑（第45・90図、写真図版46・154・182）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北。8Bグリッド。地山上面で検出。上部に切り株あり、検出面にも木根多く残りわかりづらかったが、近くに住居が検出されたため、これ以上下げられなかった。プランははっきりしない根による汚れのようなもので、あまり期待しないで試しに半裁したところ、炭化物多く含むはっきりした覆土が検出され、壁と底も確認できたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕西側の上場少し崩れたせいで合わない。

〔重複〕ないと思われる。ただし、西側、第58号土坑の半裁時のトレンチと重複している。

〔覆土・堆積状況〕中部に炭化物多く含む灰黄褐色土が見られる他は、全てよく似た（特に上はほとんど区別できない）にぶい黄褐色土。

〔平面形・規模〕上場、約1×0.8mの楕円形。底は、直径約2.1mの円形

〔断面形・深さ〕上部は皿状に広がり段を持つ。オーバーハングきつい。深さ約1.1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕小さめの副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/6）シルト、1cm台のⅤ層ブロック、1～3mmの炭化物含む。

〔出土遺物〕第90図378～388土器、写真図版154の562～565の石器類（一部第90図に図示）、写真図版182の8の軽石加工品、石器製作時の剥片71.17g出土。土器は、378？、380、381=382=383=388、385、387は、円筒下層d1式、84は円筒下層c～d式、386は縄文前期後半、379は縄文前期末～中期初頭。第90図367にも、本土坑から出土した破片が含まれていて（「半裁時」で取り上げ。詳細は第Ⅴ章本文補足参照）、第29号、第58号土坑出土破片と接合している（縄文前期末）。掲載した以外に9号袋×1.5程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性がある。

〔分類・所見〕首極端に狭い。

第64号土坑（第46・91図、写真図版46・154・155）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央～北。8Bグリッド。第3号住居跡検出時、住居覆土上面にⅢ層に近い黒褐色土の円いシミを幾つか検出。半裁したところ、そのほとんどは木根によるⅡ～Ⅲ層の落ち込みであったが、本遺構は土坑になった。検出時、本遺構は住居の外にも広がり、出入り口状遺構の可能性もあると考えていたので、住居の南北ベルトに合わせて半裁した。上面には木の切り株が多くあった。

〔図・精査状況〕トレンチの南側崩れて合わない。

〔重複〕第3号住居跡と重複し、検出状況及び断面から、本土坑の方が新しい。南西側第68号土坑と重複。検出面が異なり、また第68号は検出面でもプランがはっきり確認できなかったため、新旧関係ははっきりしないが、第68号の第64号土坑と重複する部分が、Ⅳ～Ⅴ層の土で補強してあった。明らかに第68号の中心に向かって傾斜しており、このことから第68号の方が新しいと考えても良かろう。南側、第65号土坑と重複。第65号は、第2号住居跡炉断ち割り時に確認したもので、検出面が異なり新旧関係不明。ただし、第65号の覆土が一般的なフラスコ状土坑の覆土で、第64号土坑の最上部に黒褐色土が入っていることを考えて、第64号土坑の埋没時間が他と比べて特に長くかかっていないと仮定すれば、第64号の方が新しい可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部（両脇）黄褐色土、下部黒褐色～暗褐色土と黄褐色土の薄い交互層。底面直上一抱えもある礫多く出土（写真図版46）。

〔平面形・規模〕上場、約2×1.7mの楕円形。底は、約2.5×2.25mの楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第91図389～413の土器、写真図版154の566～155の581の石器類（一部第91図に図示）、石器製作時の剥片724.1g、剥片B類50.19g出土。土器は、389は円筒上層a2式？、392、393、396、397？、398？、

401、404?、405、406、407（下層d2式?）、408、409、412（下層d2式?）は、円筒上層a1式、393?、397は、円筒上層b式、403、413は、円筒下層d1式、410?、411は、大木7a式系、399、400?は、前期末～中期初頭、390?、395?、402は、中期前葉、391、394、402は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×3程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性が高い。

〔分類・所見〕上場が広いのは、第52号土坑同様、「埋め戻し穴」によるためか。住居より新しい。

第65号土坑（第46・47・92図、写真図版46・47・155）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8Bグリッド。第3号住居4～5号炉検出の際周囲が褐色土で覆われているのをいぶかしくは思っていたが、検出面上部に切り株があり周囲に木根が多く残っていたことから、土坑だという認識はなかった。結局炉断ち割り後土坑と認定。

〔図・精査状況〕調査最後に確認・精査したため、周囲はだめ押しを併行して行っており、そのせいでセクション・ポイントのA'消失。周囲が木根によって汚れており、全体的に掘りすぎ。

〔重複〕上面に第2号住居の炉がある（より新しい）。第3号住居の範囲内でもあるが、新旧関係ははっきりしない。東側第66号土坑と重複し、境界付近ははっきりしない部分はあるが、断面から本土坑が新しいと判断。北側、第64号土坑と重複するが、検出面が異なり新旧関係不明。ただし、第65号の覆土が一般的なフラスコ状土坑の覆土で、第64号土坑の最上部に黒褐色土が入っていることを考えて、第64号土坑の埋没時間が他と比べて特に長くかかっていると仮定すれば、第64号の方が新しい可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕上部IV層粒子多く散る褐色土、下部暗褐色土。

〔平面形・規模〕重複著しく、不明。

〔断面形・深さ〕約0.5mの袋状。

〔壁・底面〕壁IV層、底V層最上面。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕時期を特定できる土器はなく（手違いで1点も掲載しなかった）、5×5cm以下の土器破片23点出土。写真図版155（＝第92図）の582～584の石器類、石器製作時の剥片70.65g出土。

〔時期〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕浅い。

第66号土坑（第46・47・92図、写真図版46・47）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8Bグリッド。第3号住居4～5号炉検出の際周囲が褐色土で覆われているのをいぶかしくは思っていたが、検出面上部に切り株があり周囲に木根が多く残っていたことから、土坑だという認識はなかった。結局炉断ち割り後土坑と認定。

〔図・精査状況〕調査最後に確認・精査したため、周囲はだめ押しを併行して行っており、そのせいでセクション・ポイントのA'消失。周囲が木根によって汚れており、北側は全体的に掘りすぎ、南側は炉跡断ち割り時のトレンチで消失。

〔重複〕上面に第2号住居の炉がある（より新しい）。第3号住居の範囲内でもあるが、新旧関係ははっきりしない。東側第66号土坑と重複し、境界付近ははっきりしない部分はあるが、断面から本土坑が新しいと判断。南側第67号土坑と重複しているようだが、間に木根入っているので定かでない。

〔覆土・堆積状況〕黄褐色土とにぶい黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕重複著しく、はっきりしない。底は、楕円形？

〔断面形・深さ〕重複著しく、はっきりしないが、フラスコでない？ 深さ約0.4m。

〔壁・底面〕壁Ⅳ層、底Ⅴ層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第92図414の土器が出土、縄文中期前葉か。掲載した以外に、9号袋×1/4程度の土器片出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕浅い。

第67号土坑（第46・47・92図、写真図版47・155）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8 Bグリッド。住居跡重複部分で床と壁の把握に苦慮していたとき、第3号住居跡の床面と考えていた黄褐色土が剥がれることに気づいた。その下に土坑があるのを確認。住居精査後、改めて検出したら、黄褐色土の周囲に灰黄褐色土が円形に巡ることが、わかった。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく上場全周崩落。

〔重複〕第2号、第3号住居跡と重複し、検出状況から何れよりも新しいと思われる。北側、第66号土坑と重複（間に木根入っているので定かでない）？

〔覆土・堆積状況〕最上部（壁際）灰黄褐色土、上半ロームブロック多い埋めもどした土、下半暗褐色土と黄褐色土の薄い交互層。

〔平面形・規模〕上場、崩落したため不明。底、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕オーバーハングきつい。深さ約0.8mの袋状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）No.1土器（第92図415）は、内面を上に向けて、9層上面から壁際ほんの僅か中央に向かって傾斜して出土（写真図版47）。

（遺物）第92図415～417の土器、写真図版155の585～588の石器類（一部第92図に図示）、石器製作時の剥片434.27g出土。土器は、415、417は、円筒上層a1式、416は中期前葉か（大木7 a式系？）。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第68号土坑（第47・92図、写真図版48・155・156・183）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8 Bグリッド。住居柱穴検出時、柱穴の北西側に黒褐色土が細長く長楕円形に広がるのを確認したが、あまりに長いので土坑にはならないと考えていた。試しに半裁したところ土坑になることがわかった。

〔図・精査状況〕東側の上場、第3号住居跡の柱穴の形の可能性が高い。ただし、これが本当に柱穴だったかどうか定かでなく、本来第68号土坑の上場だった可能性もある。北西側上場崩落。

〔重複〕北西側、第64号土坑と重複。第64号の底の方が低いのだが、そこに地山土が貼ってあり、本土坑の底の高さに合わせてある（写真図版48）。明らかに本土坑の中心に向かって傾斜しており、本土坑に伴うものと思われる。このことから、本土坑の方が新しい。第3号住居跡と重複。検出状況からははっきりしないが、住居跡が重複する第64号土坑との関係から、本土坑の方が新しいようである。

〔覆土・堆積状況〕最上部炭化物多い黒褐色土、上部暗褐色土、中部焼土粒目立つ暗褐色土（一部壁崩落土）、下部暗褐色土、最下部Ⅳ層再堆積土。

〔平面形・規模〕上場、約2.2×0.8mの不整長楕円形。底は、約2.3×1.5mの楕円形。

〔断面形・深さ〕北西側上場、段になっており、浅く細長く第64号土坑の方へ続く。深さ約1.2mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕副穴はないと思われる。第64号土坑との重複部分に地山土を貼って、底と壁の延長部分がスムーズになるよう調整している。中から遺物は出土しなかった。

〔出土遺物〕第92図418～426の土器、写真図版155の589～156の609の石器類（一部第92図に図示）、写真図版183の12のコハク、石器製作時の剥片1,792.79g、剥片B類33.25gが出土。土器は、420?、422?、424、426は、円筒上層a1式、421?、423は、円筒上層b式、419は円筒上層a1～a2式、425は縄文中期前葉、418は時期不明。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕北西側の段は、第52号土坑のように、埋め戻し穴か。口狭い。底、極端な楕円形。

第69号土坑（第48・93・94図、写真図版48・156・157）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北隅。8 Aグリッド。東側の調査範囲外に続く。地山を20cm下げたところで検出。上部に黒土があったためはっきりと確認。〔図・精査状況〕南側トレンチ崩れたのか合わない。西側上場は崩れていない。〔重複〕調査した範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部Ⅲ層に似た土、中部、にぶい黄褐色土でほとんど同じ、下部、炭化物と焼土粒多く含む黒褐色土と、にぶい黄褐色土の薄い交互層。

〔平面形・規模〕上場、不明。底は、直径約2.2mの円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約2.2mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上、西側30cm、東側60cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あるが、調査員が確認する前に掘られてしまったので覆土不明。

〔出土遺物〕（出土状況）土器が非常に多く出土した。ただし、土坑の約半分が調査範囲外に続き狭いこともあって土器を残して掘り進めることが難しく、出土位置を記録できたものは少ない。No.1と2は、半裁時トレンチより西側から出土した。No.1（第93図427、428）は、23相当層（黒土）から18cm上の21層相当層?（底から34cm）から、多くの破片がほぼ水平に折り重なって出土。No.2土器（第93図430）は、底から37cm、25層上面からほぼ水平に表面を上にして口縁を奥に向けて出土。No.3と4は、半裁時のトレンチより出土（第48図）。No.3（第93図429）は、底から14cm、26層上面、ほぼ水平に裏面を上に向けて出土（写真図版48）。No.4（第93図431～433）は、24層から破片が折り重なるように出土。なお、調査時に誤って重複して番号を付けてしまったので、No.1と2が二つずつあり、No.3を調査時には「No.1」と、No.4を「No.2」と付けている。層名を併記していたので、該当する土器の番号変更は無理はなかったが、層名を併記していない「No.2土器の奥」、「No.2土器脇」は、記憶にのみ基づいているので、誤りがあるかも知れない。

〔遺物〕第93図427～第94図465の土器、写真図版156の610～157の622の石器類（一部第94図に図示）、石器製作時の剥片975.33g、剥片B類8.35g出土。本遺構出土土器は、円筒下層d式か円筒上層a1式か微妙なも

のが多いので、曖昧な部分を残すが、427、454?は、円筒下層d 2式、430、437、440、443、465?は、円筒下層d 1式、429、434、436?、439、441、444??、445、447～449、450?、451、452?、453?、455～458、460は、円筒上層a 1式、428、461は、円筒下層d2式と大木 6式との折衷土器、431、464は、縄文前期末?、432は縄文時代前期後葉～中期前葉、433、435、438は、縄文前期末～中期初頭、446、459?は、円筒下層c～d式、442は縄文中期前葉?、462、463は、縄文時代前期後葉～中期前葉。掲載した以外に9号袋×3程度の土器片が出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期末の可能性が高い。

〔分類・所見〕 掘り込み面わかる。深い。土器の出土量多い。大型?

第70号土坑（第48・95図、写真図版49・157・158）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北東隅。8A～Bグリッド。東側調査範囲外に続く。地山上面で、あまりはっきりしない灰黄褐色土で検出。近くに住居あるため下げられず、取りあえず半裁してみたら、壁と底が確認されて土坑と認定。

〔図・精査状況〕 下部出っ張ったまま断面図を作成してしまったため、平面図に大きな不整合が見られる。調査区境に検出され、上場が小さな割に深かったため、西側（調査範囲内）の上場なくなってしまった。周囲木根多く、かなり下の方まで地山は壊されている。

〔重複〕 南西側上部で、第23号焼土検出（焼土の方が新しい）。その他は、調査した範囲ではないと思う。

〔覆土・堆積状況〕 中部汚れた黄褐色土、最下部V層再堆積?の褐色土、その他はほとんど全て黄褐色のダマが入る灰黄褐色土。土性から、全て埋めもどした土と思われる。

〔平面形・規模〕 上場、不明。底は、直径約1.5m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕 範囲内は全周オーバーハング。深さ約1.7mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁上10cm上IV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 半裁時下げすぎたためはっきりしないが、6～7cmの窪みがあり副穴あったかも。

〔出土遺物〕（出土状況） 西側部分6層より上は何も出土しなかった。

〔遺物〕 第95図466、467の土器出土し、何れも円筒上層d 2式（上層a 1式?）? 写真図版157の623～158の628の石器（一部第95図に図示）、石器製作時の剥片979.38g出土。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 上場が大きく開くのは、覆土の堆積状況から、第52号土坑同様「埋め戻し穴」と考えられる。掘り込み面わかる。首狭い。

第71号土坑（第49・95図、写真図版49・158）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部中央東端。8B～Cグリッド。地山上面、楕円形の灰黄褐色土で検出。周囲に木根多く残っており、はっきりした土でなかったため確証は持てなかった。半裁し上半まで下げ、土器は出てきたが木根によるカクランと区別できなかった。一応さらに下げてもらったら、はっきりした底と副穴が確認できたので、土坑と認定。

〔図・精査状況〕 南側半裁時のトレンチにより消滅。南側壁崩落。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 根によるカクラン著しく、層プライマリーではないようだ。上半、灰黄褐色土、下半、

黄褐色土と灰黄褐色土の交互層だが、特徴的な土なし。9層は、8層が、11層は、10層が、根によるカクランを受けて脆くなったものと思われる。

〔平面形・規模〕上場、楕円形か。底、直径約2mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.3mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cm IV層、その下～底 V層。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、にぶい黄褐色土（10YR5/4）粘土質シルト、固く締まる。

〔出土遺物〕第95図468～473の土器、写真図版158の629～632の石器類、石器製作時の剥片162.28g出土。土器は、468=471、469?、470?、472、473は、円筒下層d1式。図示した以外に、9号袋×1分の土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末の可能性が高い。

第72号土坑（第49・95図、写真図版49・158）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8 B～Cグリッド。住居柱穴検出時に確認。プランははっきり確認できなかったが、他の柱穴と比べて特に黒さ目立ち、土坑との目星を付けていた。

〔重複〕第3号住居跡と重複し、検出状況から本土坑の方が古い可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕上部炭化物多い黒褐色土、中部地山が崩れたような土、下部暗褐色土。

〔平面形・規模〕上場、1.2×0.8mの不整楕円形。底、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕オーバーハングかなりきつい。深さ約1mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上20～30cm IV層、その下～底 V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第95図474の土器出土、円筒上層a1式と思われる。写真図版158の633～636の石器類（一部第95図に図示）、石器製作時の剥片434.35g出土。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕首狭い。

第73号土坑（第49・95図、写真図版49・158）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8 Cグリッド。地山上面で、南側の黒褐色土で検出。半裁後、この黒褐色土は、本遺構とは直接関係なく、より北側が中心であることが判明。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく上場全周崩落。

〔重複〕南東側第5号陥し穴状遺構と重複、断面図から明らかに本遺構の方が古い。

〔覆土・堆積状況〕最上部黒褐色土、上～中部、暗褐色土（5、6層以外よく似る）、下部、黒褐色土→黄褐色土→暗褐色土。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハングきつい。西側上部、洞窟状に段をなすが、本当かどうか調査員が確認する前に掘られてしまったのではっきりしない。深さ約1.1mの不整袋状。

〔壁・底面〕壁上20～30cm IV層、その下～底 V層。〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第95図475～484の土器、第95図3の土偶、写真図版158の637～640の石器類（一部第95図に図示）、石器製作時の剥片278.03g出土。土器は、476?、477?、478?、479?、480、481?、482?は、円筒

上層a1式、483は円筒下層d1式？、484は縄文前期末～中期初頭、475は時期不明。掲載した以外に、9号袋×1.5程度土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性が高い。

〔分類・所見〕最上部の黒褐色土は、カクランか（根腐れ？）。第52号土坑のような埋め戻し穴の可能性もなくはないが、埋め土が他と全く異なる。

第74号土坑（第50・95図、写真図版50・158・159）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド北東隅。IV層褐色土で検出。周囲に疑似現象が点々と見られる地区である。半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕調査序盤で作業員が慣れていなかったため断面を垂直に下ろすことができず、下方をかなり抉ってしまった。下方に合わせて断面を垂直にするように求めたが、なかなか垂直に下ろせず、とうとう上場がなくなってしまった。底も掘りすぎの部分があり破線にしてある。お詫び申し上げる次第である。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕濃淡の差や含まれるものが異なるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕上場はなくなってしまったので不明、底は直径約1.3mの円形。

〔断面形・深さ〕袋状。深さは、上場壊してしまったので不明だが、70cm程度か。

〔壁・底面〕全周オーバーハングか。壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央よりやや南寄りに直径約30cm、底面からの深さ約8cmの副穴検出。確認した時には既に完掘されてしまっていたので覆土不明。

〔出土遺物〕第95図485、486の土器、写真図版158の641～159の644の石器類（一部第95図に図示）出土。土器は、485は大木7a式系、486は円筒上層a1式？

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第75号土坑（第50・95図、写真図版50・151・152・159・160）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド。IV層点々と広がる黒褐色土で検出。周囲に疑似現象が広がる土坑集中区で、検出面でプランは確認できなかった。最も濃い部分を東西方向に半裁したところ下に褐色土が続いていたが、疑似現象との区別がつかなかった。そこで南北方向にもトレンチを入れ、やっと底と壁を確認して土坑と認定した。

〔図・精査状況〕北側根による攪乱とサブトレンチと崩落により上場不明。

〔重複〕ないと思われる。北側根による攪乱。

〔覆土・堆積状況〕濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。上面の黒褐色土は本土坑とは関係なく根による攪乱と思われる。

〔平面形・規模〕上記の理由で上場不明。底は直径約1.9mの円形。

〔断面形・深さ〕断面から推測するとフラスコ状。約80cm。

〔壁・底面〕断面から推測すると、底から垂直に近い状態でオーバーハングし、その後直線的にオーバーハング、最後に外反するようである。〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第95図487～489の土器、写真図版159の645～160の671の石器類（一部第95図に図示）出土。土器は、487は円筒上層a1式、488、489は、円筒下層d2式？ 写真図版151の521～152の535の石器の中にも、

本遺構出土品が含まれているかも知れない。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第76号土坑（第50・96図、写真図版50・160）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7～8 Cグリッド。IV層面点々と広がる黒褐色土で検出。疑似現象と思いながら念のため半裁したところ、下は褐色土が続いた。ただし遺構と断定するには難しい土だったので、サブトレンチを入れたところ、壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 上場は崩落したため底部のみ形成。副穴測り間違いか合わない。

〔重複〕 東側第4号陥し穴状遺構と重複し、陥し穴の方が新しい（第77号土坑の断面図参照）。第77号土坑とも重複しているようだが、検出面では重複しておらず、また断面では間に第4号陥し穴状遺構があるためはっきりしないが、底部の形から判断すると第76号の方が新しいと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土だが、上半明るく下半暗い。

〔平面形・規模〕 上場は崩落したため不明。底は直径1.6m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕 袋状。約70cm。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。壁上部30～50cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 底面中央よりやや南寄りに直径約30cm、底面からの深さ約13cmの副穴検出。南側から細い溝（深さ約4cm）が接続する。東側の壇は掘りすぎか。この穴は、半裁時には掘りすぎと判断していたため覆土等は不明。完掘時溝状のものが検出されたため副穴かと思いついたものである。

〔出土遺物〕 第96図490、491の土器、写真図版160の672～680の石器類（一部第96図に図示）出土。土器は、490は縄文前期末～中期初頭？、491は時期不明。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕 断面非対称。副穴に小溝。

第77号土坑（第50・96図、写真図版50・160・161・169）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7～8 Cグリッド。IV層面点々と広がる褐色土で検出。疑似現象と思いながら念のため半裁したところ、下にはっきりした褐色土が出てきた。ただし遺構と断定するには難しい土だったので、断ち割ったところ、壁と底が確認されたので土坑と認定。

〔図・精査状況〕 東（B'）側下場完掘時掘り広がったため合わない。検出面では疑似現象と断定できるような状態であったため半裁した場所が悪く、北側の上場は壊してしまった。南側の上場は崩落してしまったため、底のみ記載。

〔重複〕 西側第3号陥し穴状遺構と重複し、陥し穴の方が新しい（断面図参照）。第76号土坑とも重複しているようだが、検出面では重複しておらず、また断面では間に第3号陥し穴状遺構があるためはっきりしないが、底部の形から判断すると第76号の方が新しいと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 半裁した場所が悪く上部は不明だが、下部は、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。

〔平面形・規模〕 上場は崩落したため不明。底は直径1.6m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕 袋状。約70cm。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングか。周囲の土は、IV層とV層の境がはっきりしない。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 第96図492（時期不明）が、本遺構と第4号陥し穴状遺構のどちらからか出土。写真図版160の681～161の688の石器類出土（一部第96図に図示）（684～688は第4号落とし穴状遺構出土の可能性がある）。写真図版169の778のフレイクも本遺構出土の可能性がある。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第78号土坑（第51・96図、写真図版51・161）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7 Dグリッド。IV層で検出。極めて淡い褐色土だったので疑似現象と考えていた。念のため半裁したところ下に褐色土が深く続き、はっきりした壁と底を確認して土坑と認定。

〔図・精査状況〕 副穴の特に西側、断面図と合わない。深かったため測り間違っただけと思われる。深さの割に口が狭く精査が難しくなったので南側にサブトレンチを入れた。

〔重複〕 南側第79号土坑と重複。検出面では重複せず1 mも離れており、底まで掘り下げた時点で重複とわかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。本土坑の場合は特に黄色みが強く地山とよく似ている。

〔平面形・規模〕 上場は直径50 cm程度の円形か。底は直径約1.9 mの円形。上場は底面の中心より北に偏るようである。

〔断面形・深さ〕 フラスコ状。約1.3 m。

〔壁・底面〕 壁は、底から直線的にオーバーハングし最後に外反。壁上50 cm IV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 底面ほぼ中央に直径約40 cm、底からの深さ約20 cmの副穴が検出された。覆土は10層。

〔出土遺物〕 第96図493の土器出土。縄文前期中葉か。写真図版161の689、690の石器類出土。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 首狭い。

第79号土坑（第51・96図、写真図版51・161～163）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7 Dグリッド。IV層で検出。極めて淡い褐色土だったので疑似現象と考えていた。念のため半裁したところ下に褐色土が深く続き、はっきりした壁と底を確認して土坑と認定。

〔図・精査状況〕 西（B）側の底、完掘時掘りすぎたため断面図と合わない。深さの割に口が狭く精査が難しくなったので掘り広げたが、半裁箇所が結果的に上場の中心から大きく北にずれていたため、北側を掘りすぎて、半裁した（断面実測した）場所は上場がなくなってしまった。

〔重複〕 北側第78号土坑と重複。検出面では重複せず1 mも離れており、底まで掘り下げた時点で重複とわかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡や含まれるものの違いはあるが、ほとんど同じIV～V層再堆積の黄褐色土。本土坑の場合は特に黄色みが強く地山とよく似ている。1層は本土坑に含まれるかどうか微妙である。

〔平面形・規模〕 上場は、上記のように北側を大きく掘りすぎてしまったため不明。底は、約2.6×2.1 mの楕円形。

〔断面形・深さ〕 フラスコ状のようである。約1.6 m。

〔壁・底面〕 全周オーバーハングのようだが、壊してしまい詳細不明。壁は、上部40 cm IV層、その下V層。

底は、にぶい黄橙色（10YR6/3）を中心にして様々な色が混じり合う砂礫層（ただし礫はほとんどない）。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第96図494～496の土器、写真図版161の691～163の707の石器類（一部第96図に図示）出土。土器は、495は円筒上層a 2式？、496は円筒上層a 1式、494は時期不明。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕大型？

第80号土坑（第51・97図、写真図版51・163）

〔位置・検出状況〕調査区中央部南東。8 Cグリッド。地山上面で、円形の灰黄褐色土を検出。小さく柱穴と考えていたが、底に大きく広がった。

〔図・精査状況〕周囲に疑似現象多く、それらを全て断ち割ったため、北側の上場崩落。

〔重複〕検出面より上で第80号焼土検出（より新しい）。北西側第5号陥し穴状遺構と重複。検出面では重複しておらず、底付近のみで、新旧関係不明だが、陥し穴状遺構の覆土がⅢ層に近いことから、土坑の方が古い可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕上から下までほとんど全く同じローム粒混じり灰黄褐色土。特に1～3層はほとんど同じ、4層は、やや暗く、ロームブロックや土器の位置から考えると、さらに細かく分層できるかも。1～3層の違いは、1層は締まり、3層はやや暗くロームブロック含むこと。

〔平面形・規模〕上場不明。底、約1.9×1.7mの楕円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハングきつい。深さ約0.8mのフラスコ状。

〔壁・底面〕壁上30cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕（出土状況）No.1土器は、口縁部破片で、ほぼ水平で3層上面から出土しているらしい（第97図497）（第51図、写真図版51）。

〔遺物〕第97図497～504の土器出土。写真図版163の708、709の石器類（一部第97図に図示）、石器製作時の剥片145.58g出土。土器は、497、501？は、円筒下層d2式、498？、499？=500？、502、503？、504？は、円筒上層a 1式。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片が出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期末～中期初頭の可能性がある。

〔分類・所見〕首狭い。

第81号土坑（第52・97図、写真図版52・163）

〔位置・検出状況〕調査区中央部南東隅。8 Cグリッド。Ⅳ層上面1層で確認。はっきりしない土で疑似現象の可能性もあったが、その広さから住居状遺構の可能性もあると考え、十字に土層ベルトを設定して掘り始めた。1層を取り除いた結果、中央付近境ははっきりしないが円形に落ち込むことがわかったので、南北ベルトを取り去り土坑として掘り始めた。また、東側の1層下にこれとは別の土坑が存在することもわかった（第82号土坑）。

〔図・精査状況〕覆土が、1層以外地山とほとんど区別できないため、トレンチ状に東西に大きく掘り広げた。また互いに極めてよく似ているため分層発掘は難しかった。〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕全体的によく似た黄褐色土で、1～4層は極めてよく似ているが、5層は黄色みが強く、

7層は、肌色っぽい。1層は、穴の範囲よりかなり広く周囲に広がり、この穴に関係ないかもしれない。1層は、2層に似た土に根によるものか淡い黒土の斑が入る。

〔平面形・規模〕 上場みな崩れたので不明。底は、直径1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕 オーバーハングきつく、上場みな崩れた。深さ約0.9m。

〔壁・底面〕 壁上30cm IV層、その下～底 V層。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。

〔出土遺物〕 (出土状況) 西側の上部から完形に近い大きな土器が出土した(写真図版52)。No.1(第97図505)は、口を南側に向けて南北方向に横倒しになって土圧でつぶれたような状態で出土した完形土器である。下は水平で2層上面から1層の土を被って出土。No.2(第97図506)は、その北側から、内面を上に向けて、穴の中央に向かって大きく傾斜して3層上面から出土。

〔遺物〕 第97図505～509の土器、写真図版163の710～712の石器類(一部第97図に図示)、石器製作時の剥片30.26g出土。土器は、505は円筒上層a1式、508は円筒下層c式?、509は円筒上層b式?、506、507は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 覆土から考えると、黒土が全く入っていないのが気になるが、埋めもどしているのかも知れない。そう考えると、1層の在り方が第52号土坑と共通しており、周囲の地山を掘って埋めたため黒土が全く入っていないのかも知れない。底と開口部の差なく、特徴的な断面形。

第82号土坑(第52・97図、写真図版52・163)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部南東隅。8Cグリッド。東側調査範囲外に続く。地山上面で第81号土坑の元となる住居状遺構を検出し、十字ベルトを掛けてトレンチ状に掘り下げてクリーニングした際、東端に黒い半円形のシミがあることがわかった。境ははっきりしておらず、上に切り株があったので根によるカクランと考えたが、試しに掘り下げたところ、非常に深い土坑であることがわかった。

〔図・精査状況〕 調査できた範囲は少して土坑が非常に深かったため掘り広げざるを得ず、調査した範囲には上場全く残っていない。西側に見える小穴は、第81号土坑半裁の際のトレンチである。

〔重複〕 ないと思われる。上から見ると第81号土坑に重複しているように見えるが、高低差があり重複していない。

〔覆土・堆積状況〕 上部黒土、中部にぶい黄褐色土で5～8層ほとんど区別なし、下部にぶい黄褐色土と黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕 上場、直径1.8m程度の円形か。底、直径約3mの円形か。

〔断面形・深さ〕 オーバーハングかなりきつい。深さ約1.9mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 壁は、上が崩れているのか、底からオーバーハングした後垂直に近く立ち上がる。底はVI層上面かV層がグライ化したものと思われるクリーム色～オレンジ色の土。

〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 第97図510～515の土器、写真図版163(=第97図)の713、714の石器類、石器製作時の剥片261.75g、剥片B類2.59g出土。土器は、510?、512は、円筒上層b式、511は円筒上層a2式、513、515は、円筒上層a1式、514は大木7a式系。掲載した以外に9号袋×1程度の土器片が出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕大型。特徴的な断面形。

第83号土坑（第53・第97図、写真図版52・163・183）

〔位置・検出状況〕調査区東部西端。9 Dグリッド。地山を15cm下げたところで炭化物散る灰黄褐色土を検出。〔図・精査状況〕副穴の東側の下場合わない（完掘時掘り広がったためか）。〔重複〕ないと思う。

〔覆土・堆積状況〕全体的によく似るが、中部の両脇、下部はIV層の再堆積土で、中部はブロック状。その他は灰黄褐色土でよく似るが、最上部、上部は炭化物多い。

〔平面形・規模〕上場、約0.8×0.7mの楕円形。底、直径約0.9mの円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.8mの袋状。

〔壁・底面〕V層。上部は根の影響を受けているのでそうでもないが、下は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ある。深さ約20cm。

〔出土遺物〕（出土状況）南側上場付近覆土上部（2か4層。傾斜方向から考えれば2層）から、土器底部正位で出土（第97図517）。北西から南東方向に傾斜。

（遺物）第97図516～518の土器、写真図版163（＝第97図）の715の石器類、写真図版183の13のコハク、石器製作時の剥片23.51g出土。土器は、516は円筒下層d 2式（上層a1?）?、518は円筒上層a 1式、517は時期不明。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕小型。上場と底の差ない。

第84号土坑（第53・97図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11C～Dグリッド。法面をクリーニングした時点では確認できなかったが、20cm下げたら、はっきりした円形のプランを確認できた。ただし覆土は周囲の土とほとんど同じかより暗い程度であった。水田造成時に削平されているが、検出時の高さから、北側はそれほどでもないと思われる。〔図・精査状況〕副穴掘りすぎたのか断面図と合わない。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、にぶい黄褐色土、下半、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の薄い交互層。異様に水平に堆積しており、土性からも埋めもどしている可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場、直径約0.9mの不整円形。底、直径約1.7mの円形。

〔断面形・深さ〕深さ約1.3mの袋状。

〔壁・底面〕壁は直線的にオーバーハングする。北壁上部IV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。周囲は花崗岩がむき出しになっている。

〔出土遺物〕第97図519の土器出土（円筒下層d1式?）。石器製作時の剥片4.56g出土。出土遺物は少なく、掲載した以外に、5×5cm以下の土器片が19個出土しているのみ。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕堆積状態に特徴。底に花崗岩。

第85号土坑（第53・54・98図、写真図版53・54・116・163・164）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11C～Dグリッド。法面をクリーニングしてすぐ検出。ただし、ボンボ

ソの土だったので重複関係が読みとれず、20cm下げた。それでもはっきりしなかったが、おそらく2基が重複しているのだろうと思い、東西に通して半裁。底～壁を出した結果、南側にもう1基あることがわかった(第87号)。水田造成時に削平され、南側上場はほとんど残っていない。

〔図・精査状況〕完掘後北側上場崩落。

〔重複〕東側第86号土坑と重複。断面から第86号の方が新しい。南側第87号土坑と重複しているが、水田造成時に削平され、さらに検出時に確認できなかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上部ボソボソの黄褐色土、中部、炭化物、焼土粒多い灰黄褐色～黒褐色土で、それぞれの層は薄い、下部灰黄褐色～にぶい黄褐色土。東から西に傾斜。

〔平面形・規模〕上場崩落し重複ひどく、不明。

〔断面形・深さ〕壁が崩れているのか、深さ約0.6mの不整袋状。

〔壁・底面〕削平されているため、ほぼV層。上の方は根によってボソボソ。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕(出土状況) 写真図版53～54参照。No.2(第98図523)は、外側を上に向けて、ほぼ水平で出土(下は6層)。No.3(第98図521の一部)は、内面を上に向けてその下から土層の傾斜に沿って東から西に向かって大きく傾斜(下は8層)。No.4(第98図521の一部)も、内面を上に向けて土層の傾斜に沿って北側から南側に大きく傾斜して出土(下は6層)。No.5(第98図524)は、底部破片で底を上に向けて、土層の傾斜に沿って東から西に大きく傾斜して出土(下は9層)。

〔遺物〕第98図520～532の土器、写真図版163の716～164の721の石器類(一部第98図に図示)、写真図版116の17の焼粘土塊、石器製作時の剥片408.18g出土。写真図版164の722、723の石器も出土か(一部第98図に図示)。土器は、520、523、526?、527～531、532?は、円筒上層a1式、525は縄文中期前葉、521、524は、縄文前期末～中期前葉、522は時期不明。掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。その他、「第85～86号土坑」で取り上げた石器製作時の剥片が92.11gある。

〔時期〕出土土器から、縄文時代中期前葉の可能性が高い。

〔分類・所見〕断面非対称。

第86号土坑(第53・54・98図、写真図版53・54・164)

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11Cグリッド。法面をクリーニングしてすぐ検出。ただし、ボソボソの土だったので根穴と勘違いされ、一部掘られてしまった。重複関係が読みとれず、20cm下げた。それでもはっきりしなかったが、おそらく2基が重複しているのだろうと思い、東西に通して半裁。底～壁を出した結果、南側にもう1基(第87号)あることがわかった。水田造成時に南側大きく削平。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく、北側上場崩落。

〔重複〕西側第85号土坑と重複。断面から本土坑の方が新しい。南側第87号土坑と重複しているが、水田造成時に削平され、さらに検出時に確認できなかったため、新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕上半、炭化物混じりIV層再堆積土、下半、霜降りの埋め戻し土～IV層再堆積土。水平堆積。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、約2.5×2.1mの楕円形。

〔断面形・深さ〕深さ約0.9mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているためか全てV層のようである。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色土(10YR4/4)シルト、もろい。汚れIV層再堆積。

〔出土遺物〕第98図533～536の土器、石器製作時の剥片480.34g出土。534、535?は、円筒下層d1式、536は円筒下層b1式?、533は、縄文中期前葉? 掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。写真図版164の722、723の石器も出土か（一部第98図に図示）。この他、「第85～86号土坑」で取り上げた石器製作時の剥片が92.11gある。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後半の可能性はある。

第87号土坑（第53図、写真図版53・54）

〔位置・検出状況〕調査区東部西。11C～Dグリッド。法面をクリーニングしてすぐ検出。ただし、重複関係が読みとれず、20cm下げた。それでもはっきりしなかったが、おそらく2基が重複しているのだろうと思ひ、東西に通して半裁（第85号、第86号。その結果、南側にもう1基あることがわかった（第87号土坑）。水田造成時に大きく削平され、東側の壁と副穴のみ残存。〔図・精査状況〕上記理由で平面図のみ。

〔重複〕北西側第85号、北東側第86号土坑と重複するが、上記検出状況のため新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕掘り上げた後気づいたため不明。

〔平面形・規模〕削平のため不明。〔断面形・深さ〕削平のため不明。

〔壁・底面〕確認できたのはV層のみ。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、にぶい黄褐色土（10YR3/3）シルト、固く締まる。ローム粒、1mm程度の炭化物含む。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第88号土坑（第54・98図、写真図版55・164）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面を20cm下げたところではっきりと確認。南側に位置するので、水田造成時に大きく削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕上場崩れたため合わない。副穴が対応しないのは測り間違いか。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕ほぼ同じ黒褐色のブロック状の土（V層ブロック含む）。埋めもどした土と思われる。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、直径約2.1mの円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.8mの袋状。

〔壁・底面〕壁はV層、底はVI層（砂混じり土）。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/6）粘土質シルト、汚れIV層再堆積土で、V層ブロック含む、固く締まる。

〔出土遺物〕第98図537～540の土器、写真図版164の724の石器、石器製作時の剥片21.58g出土。土器は、537、538?、539?、540は、円筒下層d1式。掲載した以外に、土器が、10×10cmの破片1、5×5cmの破片1、それ以下の破片8点出土している。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性はある。

〔分類・所見〕堆積状態に特徴。

第89号土坑（第54・98図、写真図版55・164・183）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。14Cグリッド。南側の調査範囲外に続く。法面下を20cm下げたところで覆土が黒いのではっきり確認。水田造成時に大きく削平されているものと思われる（法面及び水路。東西方向にトレンチ状に延びるのは水路跡である）。

〔図・精査状況〕 東側上場僅かに崩れたため合わない。副穴は本物かどうか不明。北側上場完掘後崩れたものと思われる。〔重複〕 調査した範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土とにぶい黄褐色土（ブロック状）の交互層。埋めもどした土と思われる。

〔平面形・規模〕 上場、直径約1.5mの不整形円形。底、約1.9×1.7mの不整形円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.6mの袋状。

〔壁・底面〕 削平されているせいかV層。底は固く締まる。底には火山灰状のものが見られる（鹿沼土のよう）。

〔副穴等の付属施設〕 平面図に記録されているが、非常に浅く不整形で小さく、掘り方（掘削時の工具痕）と考えた方がよいと思われる。

〔出土遺物〕 第98図541～547の土器、写真図版164の725～729の石器類（一部第98図に図示）、写真図版183の14のコハク、石器製作時の剥片1,304.9g、剥片B類11.65g出土。土器は、541は五領ヶ台I a式系、544、546、547は、円筒下層d 1式、545は円筒下層d 2式？、542は縄文前期末？、543は縄文前期後葉～中期前葉、掲載した以外に、9号袋×1程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性がある。

第90号土坑（第55・99図、写真図版55・164）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。14Cグリッド。法面をクリーニングした際、上面に焼土が検出され、周囲に灰黄褐色土が広がっていた。焼土断ち割り時に土坑と確認。水田造成時に大きく削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕 西側の下場、測り間違いか2段とも合わない。半裁時西側に段が見えたが、調査終盤で忙しかったこともあり、特に気にとめなかった。覆土が似ているので、重複ではないと思う。周囲の柱穴確認するため、特に北側を20cm程度下げている。法面の傾斜が緩やかに見えるのは、このためである。

〔重複〕 上面に第42号焼土（第5号住居跡？）あり（より新しい）。北東側柱穴と重複するが（第5号住居跡）、検出面が異なり新旧関係不明。

〔覆土・堆積状況〕 基本的に霜降りで、黄褐色土と灰黄褐色土の交互層。

〔平面形・規模〕 上場、崩れているのか、不整形のため不明。底、直径約1.5mの円形。中段に西側に張り出す段あり。

〔断面形・深さ〕 西側に段がある。深さ約1mの袋状。

〔壁・底面〕 北側壁上5cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。覆土は、灰黄褐色土（10YR4/2）シルト、もろい、汚れIV層再堆積。

〔出土遺物〕 第99図548～550の土器、写真図版164（＝第99図）の730～732の石器類、石器製作時の剥片177.02g、剥片B類11.54gが出土。土器は、548は円筒上層a 1式、550は円筒下層d 1式、549は縄文中期前葉。掲載した以外に、9号袋×1.5程度の土器片出土。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

〔分類・所見〕段あり。

第91号土坑（第55・99図、写真図版56・164・165）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央。14Cグリッド。法面クリーニングしたら土器埋設炉を検出。周囲に灰黄褐色土広がっていたが、掘り方かと思っていた。炉跡断ち割り時、土坑と確認。水田造成時に削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕周囲、炉跡（第5号住居跡）に伴う柱穴捜すため、20cm程度下げ、段状になっている。

〔重複〕上面に第5A、B号炉跡（住居跡）検出（より新しい）。

〔覆土・堆積状況〕上部（中心部）灰黄褐色土、上部東脇IV層再堆積土、下半両脇黒褐色～暗褐色土。最下部（底中央）V層再堆積土。

〔平面形・規模〕上場、直径0.9m程度の円形か。底、直径約1.5mの円形。

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約1.3mの袋状。

〔壁・底面〕北側、壁上20cmIV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第99図551、552の土器、写真図版164の733～165の739の石器類（一部第99図に図示）、石器製作時の剥片555.3g、剥片B類24.23gが出土。土器は、両方とも円筒下層d1式か。掲載した以外に、9号袋×1/2程度の土器破片出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第92号土坑（第55・99図、写真図版56・165）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央～西。14～15Cグリッド。南側調査範囲外に続く。法面下を20cm下げたところで、覆土が黒いのははっきり確認。水田造成時に大きく削平されているものと思われる（法面及び水路。東西方向にトレンチ状に延びるのは水路跡である）。

〔図・精査状況〕上場は完掘後全て崩落。副穴、東側上場合わないのは認識の違いか。

〔重複〕調査した範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、やや霜降りの灰黄褐色土、下半、炭化物含むにぶい黄褐色～暗褐色土。埋めもどした土と思われる。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、直径約1.8mの円形

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約0.5mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているためV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕第99図553、554の土器、写真図版165（＝第99図）の740の石器、石器製作時の剥片97.39g出土。土器は、553、554？？は、円筒下層d1式。掲載した以外に、9号袋×1/2程度土器片出土。

〔時期〕出土土器から、縄文時代前期後葉～末の可能性はある。

第93号土坑（第56・99図、写真図版56）

〔位置・検出状況〕調査区東部中央～東。15Cグリッド。北側の調査範囲外に続く。法面をクリーニングしたら、西に炉跡、東に焼土が検出された。いくらクリーニングしても住居のプラン掘めなかったので、20cm

下げたところ、土坑を確認。水田造成時に削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕 セクション・ポイント、測り間違いで全然合わない（特にA）。南半の上場崩落。

〔重複〕 調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 上から下まで同じような層が見られるが、上半が大きなまとまりを持つのに対し、下半は薄い層に分かれる（地山ブロック含む霜降り層と灰黄褐色土の交互層）。埋めもどした可能性が高い。

〔平面形・規模〕 上場不明。底、直径約1.8mの円形か。

〔断面形・深さ〕 深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕 北側上20cm IV層、その下～底 V層。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。覆土は、褐色（10YR4/4）地に黄褐色（10YR5/6）の霜降り、シルト、IV層ブロック多く、炭化物含む。

〔出土遺物〕 第99図555の土器出土（円筒下層d1式?）。掲載した以外に、5×5 cmより小さい土器破片16点出土。石器製作時の剥片58.74g出土。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 首狭い。特徴的な堆積状況。

第94号土坑（第56・99図、写真図版56）

〔位置・検出状況〕 調査区東部東。15～16Cグリッド。法面を20cm下げたところで覆土が黒いのはっきり確認。水田造成時に大きく削平されているものと思われる。

〔図・精査状況〕 東側下場、完掘時掘りすぎたのか合わない。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 弱い霜降りの灰黄褐色土～にぶい黄褐色土。埋めもどした土と思われる。

〔平面形・規模〕 上場、直径約1.3mの不整形円形。底、直径約1.8mの円形。

〔断面形・深さ〕 全周オーバーハング。深さ約0.55mの袋状。

〔壁・底面〕 削平されているためかV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕 副穴あり。覆土は、にぶい黄褐色土（10YR4/3）シルト、もろい、細かいV層ブロック散る。

〔出土遺物〕 第99図556の土器出土（時期不明）。掲載した以外に、5×5 cm以下の土器破片11点出土。石器製作時の剥片15.12g出土。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第95号土坑（第56・99図、写真図版57・165）

〔位置・検出状況〕 調査区東部東端。16Cグリッド。地山を20cm下げたところで、比較的是っきりした土で検出。水田造成時に、下方中心に削平されていると思われる。

〔図・精査状況〕 セクション・ポイント全く合わない。動かされたのか、測り間違いか不明。両方ともそうだが、A側は上場少し崩れているが、ほぼそのままの状態を示していると思われる。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 上部、にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の交互層（やや霜降り）、中部、V層ブロックの層、下部、灰黄褐色土。上～中部は、その土性から埋めもどされていると思われる。

〔平面形・規模〕 上場、直径0.8m程度の円形か。底、直径約1.9mの円形

〔断面形・深さ〕全周オーバーハング。深さ約1.4mのフラスコ状。

〔壁・底面〕削平されているためかV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。

〔出土遺物〕第99図557～560の土器、写真図版165の741、742の石器類（一部第99図に図示）、石器製作時の剥片840.53g出土。土器は、557?、558、559は、円筒下層d1式、560は円筒下層c式?? 掲載した以外に、5×5cm以下の土器片が15点出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性はある。

〔分類・所見〕堆積状況に特徴。

第96号土坑（第57図、写真図版57）

〔位置・検出状況〕調査区東部東端。16B～Cグリッド。北側の調査範囲外に続く。地山を20cm下げて比較的はっきりした土で検出。〔図・精査状況〕調査できた範囲が狭く、また深かったため、掘り広げざるを得ず、上場は全くなくなってしまった。〔重複〕調査できた範囲では、ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上半、にぶい黄褐色土、下半、中央に黒褐色土、その他はにぶい黄褐色～灰黄褐色土の交互層（やや霜降り土）。下半は、その土性から埋めもどしていると思われる。

〔平面形・規模〕上場不明。底、直径1.5m程度の円形か。

〔断面形・深さ〕深さ約1.4mのフラスコ状で、上が開く。

〔壁・底面〕北側、壁上20cmIV層、その下から底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕調査できた範囲にはなかった。

〔出土遺物〕時期を特定できる土器片はなかった（手違いで1点も掲載しなかった）。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器破片1点出土。石器製作時の剥片0.42g出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕断面形・堆積状態に特徴。

第97号土坑（第57・99図、写真図版57）

〔位置・検出状況〕調査区東部東端。17B～Cグリッド。南側の調査範囲外に続く。地山を20cm下げたところで、黒褐色土ではっきり確認。南側にあり、水田造成時に大きく削平されている。

〔図・精査状況〕オーバーハングきつく上場全周崩れた。副穴上場西側、測り間違いか合わない。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕霜降度弱い、灰黄褐色～にぶい黄褐色土。土性から、埋めもどした土の可能性はある。

〔平面形・規模〕上場崩落のため不明。底、直径約2.3mの円形

〔断面形・深さ〕オーバーハングきつい。深さ約0.6mの袋状。

〔壁・底面〕削平されているせいかV層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕副穴あり。覆土は、褐色土（10YR4/4）シルト、もろい、1～5mm程度のロームブロック霜降り状に含む。

〔出土遺物〕出土遺物非常に少ない。第99図561の土器出土（時期不明）。掲載した以外に、5×5cmより小さい土器破片1点出土。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第98号土坑（第57図、写真図版57）

〔位置・検出状況〕 調査区東部西端。10C～Dグリッド。周囲削平されているためか、IV層で灰黄褐色土の円形をはっきりと確認。〔図・精査状況〕 掘りすぎ多く、上下場推定。〔重複〕 ないと思う。

〔覆土・堆積状況〕 削平されているためか浅く、単層。ローム隆霜降る、埋めもどした土。

〔平面形・規模〕 上場、0.8×0.7m程度の楕円形か。

〔断面形・深さ〕 深さ約10cmの浅皿状。

〔壁・底面〕 IV層で、締まらない。

〔副穴等の付属施設〕 掘りすぎのせいか、確認できなかった。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 浅く、覆土は第8号炉跡に伴う？柱穴2に似る。この住居に帰属する可能性が高いが、覆土はフラスコ状土坑によく似る。

第99号土坑（第57・99図、写真図版58）

〔位置・検出状況〕 調査区東部西端。9Dグリッド。ダメ押しで、地山面から45cm下げた面で土器片が出土し注意したが、周囲より土がボソボソしている程度で、はっきり穴とは確認できなかった。半裁したところ、覆土は一樣のフカフカのロームで根によるカクランと見間違うが全体が一樣で周囲との境がはっきりし、底・壁が明瞭に確認できたので、土坑と認定。〔図・精査状況〕 西側上部崩れたせいか合わない。半裁時、中央付近下げすぎ。〔重複〕 ないと思う。

〔覆土・堆積状況〕 一樣のフカフカのローム。

〔平面形・規模〕 上場、1.3×1.1m程度の隅丸長方形～楕円形。

〔断面形・深さ〕 深さ約0.3mの袋状。

〔壁・底面〕 V層。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔副穴等の付属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 第99図562の土器出土（縄文中期前葉）。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片10点出土。石器製作時の剥片5.45g出土。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 ダメ押しで検出したので、浅い？

第100号土坑（第58・99図、写真図版58・165）

〔位置・検出状況〕 調査区東部西端。10Cグリッド。IV層中黒褐色土で、第8号炉跡に伴う？焼土を切っていることもあり、明確に検出。〔図・精査状況〕 南側掘りすぎ、下げすぎ。

〔重複〕 第8号炉跡に伴う？焼土を切る。

〔覆土・堆積状況〕 上部黒褐色土、下部黄褐色土。上面はフラスコ状土坑に比べ顕著に黒い。

〔平面形・規模〕 上場、直径約0.8mの不整形円形。〔断面形・深さ〕 深さ約0.3mの浅皿状。

〔壁・底面〕 ほぼV層。〔副穴等の付属施設〕 ないと思われる。

〔出土遺物〕 第99図563の土器出土（縄文中期前葉）。写真図版165の743の石器出土。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片5点出土。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 断面形、覆土、深さなどから、フラスコ状土坑とは顕著に異なる。

第101号土坑（第58・99図、写真図版58・165）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 C グリッド。IV層面褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所であるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定したが、二つの土坑が重複していた（第101、102号）。

〔図・精査状況〕 セクションポイント A は推定復元である（完掘時に作業員が移動）。周囲に疑似現象が広がり掘りすぎが非常に多く、完掘時には形がほとんど捉えられなくなってしまった。

〔重複〕 南東隅上面に第9号炉跡があり明らかに配石遺構が新しい。北側に第102号土坑が重複。検出面では1基（102号）しか確認できなかったが、半裁の結果、想定より南側まで土坑が続いていること、底面に段差が見られることから、二つの土坑の重複を考えた。覆土の違いはほとんどないが、段差との整合性および北壁の形から、2～3層と5層の間に不連続面を想定し、二つの土坑を区別した。上面が第101号土坑であり、こちらが新しい。下に第40号土坑が重複しているが、これは第39号土坑の完掘時に初めて認識できたため、新旧関係も確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕 ほとんど同じIV～V層再堆積の褐色土。

〔平面形・規模〕 掘りすぎが多く不明だが角張った楕円形か。

〔断面形・深さ〕 階段状の不整形。約40cm。

〔壁・底面〕 底は階段状。ほぼ壁IV層、底V層。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 第99図564の土器出土（時期不明）。第99図565の土器（時期不明）、写真図版165の744～747の石器類（一部第99図に図示）も、本遺構出土の可能性がある。

〔時期〕 今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 形から、墓壇の可能性もある。

第102号土坑（第58・99図、写真図版58・165）

〔位置・検出状況〕 調査区西～中央。6 C グリッド。IV層面褐色土で検出。土坑が重複して集中する場所であるが、周囲に疑似現象が広がりプランは全く確認できなかった。重複する第40号土坑も同様で、こちらは検出時には認識できなかった。本土坑の場合は、半裁の結果壁と底が確認されたので土坑と認定したが、二つの土坑が重複していた（第101、102号）。

〔図・精査状況〕 セクションポイント A は推定復元である（完掘時に作業員が移動）。周囲に疑似現象が広がり掘りすぎが非常に多く、完掘時には形がほとんど捉えられなくなってしまった。

〔重複〕 南側に第101号土坑が重複。検出面では1基（102号）しか確認できなかったが、半裁の結果、想定より南側まで土坑が続いていること、底面に段差が見られることから、二つの土坑の重複を考えた。覆土の違いはほとんどないが、段差との整合性および北壁の形から、2～3層と5層の間に不連続面を想定し、二つの土坑を区別した。上面が第101号土坑であり、こちらが新しい。下に第40号土坑があるが、これは第39号土坑の完掘時に初めて認識できたため、新旧関係も確認できなかった。

〔覆土・堆積状況〕ほとんど同じⅣ～Ⅴ層再堆積の褐色土だが、7層がやや濃い。中央に礫が見られ、隣接する第101号土坑や、最終的に炉跡として報告したが配石遺構（第9号炉跡）との関連も窺われる。

〔平面形・規模〕掘りすぎが多く不明。

〔断面形・深さ〕掘りすぎが多く不明。約50cm。

〔壁・底面〕壁はオーバーハングしているところがある。壁下20cm～底Ⅴ層、その上Ⅳ層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第99図565の土器が本遺構出土の可能性もある（時期不明）。写真図版165の744～747の石器類（一部第99図に図示）も、本遺構出土の可能性はある。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

〔分類・所見〕形から墓壇の可能性もある。

第103号土坑（第58・59・82・99図、写真図版59・138・165）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5～6 Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、検出面を20cm下げてもポヤーとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。そこで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通してトレンチ状に半裁してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103、104号は特に淡い土だったが、断面の立ち上がりを追ってよく見れば上面でも一応プランは確認できた。ただし、トレンチ状に半裁した部分より東側のプランはなかなか掴めず、地山面から30cm下げ移植ベラで丁寧に検出してやっとわかった。

〔重複〕北側第29号土坑、南側第104号土坑に極めて近接するが、重複はしていないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上層はⅤ層ブロック多く含む褐色土、中層はにぶい黄褐色土、下層は灰黄褐色土と、似てはいるがはっきり識別できる。ほぼ水平堆積で、覆土の特徴からも埋めもどしている可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場、1.2×1.2m程度の不整隅丸方形。

〔断面形・深さ〕壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さ約0.5m。

〔壁・底面〕壁上10cmⅣ層、その下～底Ⅴ層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第99図566、567の土器、写真図版165（＝第99図）の748の石器、石器製作時の剥片2.46g出土。土器は、566は円筒下層d1式？、567は時期不明。掲載した以外に9号袋×1/3程度土器片が出土。その他、半裁時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり（第82図247～252）（時期は第29号土坑参照）、不掲載土器が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類（一部第82図に図示）、第82図2の土偶（円筒上層a式期）、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕第104号土坑と極めて類似した検出状況と出土土器、および今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性はある。

〔分類・所見〕形と覆土から、墓壇の可能性が高い。

第104号土坑（第58・59・82・100図、写真図版59・60・138・165～168）

〔位置・検出状況〕調査区西部東。5～6 Cグリッド。上に切り株あって検出面にも多くの木根が残り、出面を20cm下げてもポヤーとしたにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が幾つか並ぶのが確認できただけであった。そ

ここで、既に検出精査を進めていた第31号土坑まで通して半裁してみた。それでもよくわからなかったが、曇りの日に熟視、熟慮し、4つの土坑が並んでいるのだと考えた。第103、104号は特に淡い土だったが、断面の立ち上がりを追ってよく見れば上面でも一応プランは確認できた。ただし、南側の第31号土坑と重複している部分は、中間的な覆土が見られ、どっちに帰属するかはっきりせず、またその西側は地山が汚れているのか覆土なのかははっきりせず、プランは掴めなかった。

〔図・精査状況〕北側の上場合わない。プランが掴めなかった南西部については、重複する第31号土坑を完掘した後その壁を精査し、ここから立ち上がりを捜し上面と対応させた。すると、黒土が点々と弧を描いて続いていること(30層)に気づき、その周囲に32層がとりまくことがわかった。半裁ベルト挟んで南東側、34層の下にぶい黄褐色(10YR4/2)地に黄褐色(10YR5/6)の斑、シルトで、IV層ブロック、炭化物、土器混じりの土が見られたが、底は木根でボコボコで傾斜しており、根穴か、崩れたもので、第104号土坑とは関係ないらしい。

〔重複〕南側第31号土坑と重複し、断面から本土坑の方が古い。北側第103号土坑と接するが重複はしていないと思われる。北西側第28号土坑と接するが、精査中に間が崩落してしまった。

〔覆土・堆積状況〕上層にぶい黄褐色土、中層地山再堆積の黄褐色土、下層灰黄褐色土。覆土の特徴及び水平堆積から、埋めもどしている可能性が高い。

〔平面形・規模〕上場、2.5×1.7m程度の隅丸長方形～楕円形。

〔断面形・深さ〕壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さ約0.45m。

〔壁・底面〕西側、壁上10cm、東側、壁上20cm、IV層、その下～底V層。底は固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕(出土状況)第59図参照。半裁時トレンチ状に掘った部分の東隅から、2点の比較的大きな土器片が出土(写真図版60)。No.1は(第100図568の一部)、外面を上に向けて(下にあるのは32層)、No.2は(第100図568の一部)、内面を上に向けて(下にあるのは32層最下部)、どちらも土坑の中心に向かって緩やかに傾斜。また、土坑中央～西寄りの34層上面から、No.3～9の比較的大きな土器片が出土(第100図569、No.4を除く)(写真図版59)。3は北隅にあり、北から南に大きく傾斜(底から北36cm、南24cm、以下同じ)、4はその南で北西から南東に傾斜(30cm)(接合せず時期特定できないため不掲載か)、5は北から南に傾斜(22～13cm)、6(30cm)と7(30～24cm)は、ほぼ水平だが、6は南西から北東へ、7は東から西へ僅かに傾斜、8は北東から南西に強く傾斜(33～21cm)、9は西から東へ緩やかに傾斜(20～16cm)。同じ層中だが、さらに下から、後述の粘土板を挟んで2点の一抱えもある板状の礫が出土(写真図版167の756、168の757)。北側のもは底から2cmでほぼ水平、南西側のもは底から3cmでほぼ水平。土坑中央で底に接して一抱えもある白色粘土板が出土。粘土板と礫はほぼ同じ形状規模である。

〔遺物〕第100図568～580の土器、写真図版165の749～166の755、167の756、168の757の石器類(一部第100図に図示)、石器製作時の剥片123.81g、剥片B類9.71gが出土。土器は、568は円筒下層b2式、570?、574?、575?、580?は、円筒下層b1式、571、573?は、縄文中期前葉、569は縄文前期中葉、572、576≒577≒578?≒579は、時期不明。掲載した以外に、9号袋×2程度の土器片出土。その他、半裁時に、第29、30、31、103、104号土坑一括で取り上げた土器があり(第82図247～251)(時期は、第29号土坑参照)、不掲載土器破片が9号袋×1程度ある。写真図版138の324～329の石器類(一部第82図に図示)、第82図2の土偶(円筒上層a式期)、石器製作時の剥片367.64gも、同様である。

〔時期〕縄文中期前葉の可能性のある土器は、重複する第31号土坑に本来帰属する可能性が高いと考えられ、

出土土器から、縄文時代前期中葉円筒下層b式期の可能性が高い。

〔分類・所見〕形、遺物の出土状況、覆土から、墓壇の可能性が高い。

第105号土坑（第59図、写真図版60・129）

〔位置・検出状況〕調査区中央。7Cグリッド、第11号住居内。住居にベルトを設定して掘り下げていたところ、土坑状の落ち込みが検出された。断面を観察した結果、住居床面より高い位置から掘り込まれていたので土坑として独立して認定した。

〔図・精査状況〕北西部分掘りすぎ。

〔重複〕第11号住居と重複し、より新しい。

〔覆土・堆積状況〕上部黒土、中部黒褐色土、下部黒褐色土と黄褐色土の交互層。1層は、大幅に東側まで広がっているが、これは、土坑の東壁は住居覆土であるため崩れやすく、そこに流入したためと考えられる。

〔平面形・規模〕東壁を上記のように判断すれば、約1.6×1.2mの隅丸長方形。

〔断面形・深さ〕約80cm。

〔壁・底面〕壁は、底から中央付近まではほぼ垂直に立ち上がり、そこから大きく直線的に外反する。底～壁下20cmV層、その上IV層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。覆土下部から比較的大きな礫が出土している。

〔出土遺物〕写真図版129の194～197の石器類の中に本遺構からの出土品が含まれている可能性があるが、その多くは周囲の縄文時代の遺構からの紛れ込みと思われる。

〔時期〕重複関係と覆土から、平安時代と考えられる（9世紀後葉？）。

4. 陥し穴状遺構

平面形が溝状で、底が極端に細く狭い土坑である。7基検出したが、第7号は疑似現象の可能性が高い。調査区中央部の3基は並んでいるようにも見えるが、基本的にはみな単独で点在しているようである。

遺構記載の用語について。平面形は、長軸の長さ：単軸の長さの比率によって楕円形、長楕円形、溝状に区別している。断面形は、縦断面は、壁の立ち上がりの形態によって、逆三角形、四角形、直角三角形（片側オーバーハング）、三角形（両側オーバーハング）に区別している。横断面は、Y字状、V字状、I字状を区別しているが、これは本来同じ形状のものが削平がひどくなるほど変わり（右に行くほどひどくなる）、削平の度合いしか示していない可能性がある。

第1号陥し穴状遺構（第60・100図、写真図版60）

〔位置・検出状況〕調査区西端。3Dグリッド。IV層黒土で検出。第2号住居状遺構と同時に検出し、覆土がよく似ていたため、その一部のように見えた。

〔図・精査状況〕口の割に深く精査が難しくなったためサブトレンチを入れ、底も壊した。検出面ではっきりしなかった第2号住居状遺構との重複関係をはっきりさせるためにサブトレンチを入れ、壁と底を一部壊した。

〔重複〕南東側第2号住居状遺構と重複し、住居状遺構の方が新しい（第23図参照）。

〔覆土・堆積状況〕上部暗褐色土、中部褐色土、下部暗褐色土。

〔平面形・規模〕約2.2×0.5mの長楕円形。

〔断面形・深さ〕縦断面直角三角形。横断面V字状。約80cm。

〔壁・底面〕長軸方向東側オーバーハング。壁上20cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第100図581の土器出土（縄文前期末～中期初頭か）。

〔時期〕今回の調査結果全体から、縄文時代中期の可能性がある。

第2号陥し穴状遺構（第60・100図、写真図版61・166）

〔位置・検出状況〕調査区西。4～5Dグリッド。検出面IV層、黒土ではっきりと陥し穴状遺構と確認。トレンチを入れた結果、壁と底が確認できたので陥し穴状遺構と認定。

〔図・精査状況〕セクションポイントA、精査中に動かされたため合わない。

〔重複〕東端第25号土坑と重複。検出面および上場では重複しておらず、第25号土坑を精査中に重複に気づいたため新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部褐色土、下部暗褐色土。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕約3.8×0.6mの溝状だが、東端が北側に向かって曲がっている。

〔断面形・深さ〕縦断面は三角形。横断面I字状で幅広い。約80cm。

〔壁・底面〕長軸方向の両端オーバーハング。底は、東側に向かって傾斜（西端は約50、東端は約90cm）、西端は四角くなっている。壁上30cmIV層、その下～底はV層。底はガリガリと固く締まる。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第100図582～584の土器、写真図版166の758～765の石器類（一部第100図に図示）が出土。土器は、582?、583は、円筒上層b式、584は円筒下層c～d式?

〔時期〕出土土器の時期は重複する第25号土坑の時期と重複しているので、どちらに本来的に帰属するかどうか不明である。覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代中期の可能性がある。

第3号陥し穴状遺構（第61・101図、写真図版61・166～169）

〔位置・検出状況〕調査区中央。8Cグリッド。北西に隣接して第4号陥し穴状遺構がある。IV層面黒土ではっきりと陥し穴状遺構と確認。トレンチを入れた結果、壁と底が確認できたので陥し穴状遺構と認定。

〔図・精査状況〕最初にトレンチを入れたところ若干掘りすぎあり。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部褐色土、下部黄褐色土、最下部黒褐色土。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕約3.9×0.9mの溝～長楕円形。

〔断面形・深さ〕縦断面三角形。横断面底幅広のV字状。約1.1m。

〔壁・底面〕長軸方向の両端オーバーハング。特に西端は上場端から50cmも潜り込む。底はV層。壁も全てV層?

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第101図585の土器出土（時期不明）。写真図版166の766～169の777の石器類出土（一部第101図に図示）。

〔時期〕覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代中期の可能性がある。

第4号陥し穴状遺構（第61・96・101図、写真図版61・169）

〔位置・検出状況〕調査区中央。8Cグリッド。南東に隣接して第3号陥し穴状遺構がある。IV層面黒土で陥し穴状遺構と確認。トレンチを入れた結果、壁と底が確認できたので陥し穴状遺構と認定。

〔図・精査状況〕口の割に深く精査が難しくなったためサブトレンチを入れた。検出時には第76号、第77号土坑は認識しておらず、結果的に重複関係にありながら同時に精査してしまった。そのため重複部分の上場は消失。

〔重複〕北西側第77号土坑と重複し、陥し穴状遺構の方が新しい（第50図参照）。

〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部黄褐色土と褐色土の交互層、下部暗褐色土。自然堆積と思われる。

〔平面形・規模〕約3.2×0.5mの溝～長楕円形。

〔断面形・深さ〕縦断面四角形。横断面V字状。約90cm。

〔壁・底面〕壁上40cmIV層、その下～底V層。

〔副穴等の付属施設〕ないと思われる。

〔出土遺物〕第101図586の土器出土（円筒上層b式?）。写真図版169の778の石器類出土（第77号土坑出土の可能性も）。その他、第96図492（時期不明）が、本遺構と第77号土坑のどちらからか出土。

〔時期〕覆土と重複関係と出土土器から、縄文時代中期の可能性はある。

第5号陥し穴状遺構（第62・101図、写真図版61・62・169）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。8Cグリッド。上面に黒褐色土が溝状に広がり、IV層上面ではっきりと確認。〔図・精査状況〕A-A'断面、A側測り間違いか合わない。C-C'断面、測り間違いかほとんど合わない。狭く深く、掘りすぎ多い。また第73号土坑と重複部分は、狭くて暗くて掘りづらく、土坑完掘時に見たら奥行き16cm程掘り足らなかったことがわかった。

〔重複〕北西側、第73号土坑と重複。検出面でも重複しているのがわかったが、土坑の上面にカクランによるものか黒褐色土が広がっていたので新旧関係はよくわからなかった。そこで重複部分をトレンチ状に断ち割った結果、本遺構の方が新しいとわかった。南東側、第80号土坑と重複。底付近しか重複しておらず、新旧関係不明だが、覆土と本遺跡のこれまでの調査例から、陥し穴の方が新しい可能性が高い。

〔覆土・堆積状況〕上部、黄褐色土と黒褐色土混じり、中部、黄褐色土のブロック含む暗褐色土、下部、ボソボソの暗褐色土。

〔平面形・規模〕約3.1×0.5mの溝形。

〔断面形・深さ〕縦断面三角形。横断面v字形。深さ約1.2m。

〔壁・底面〕壁上20cmIV層、その下から底V層。

〔副穴等の付属施設〕確認できなかった。

〔出土遺物〕第101図587の土器出土（円筒上層a1式）。写真図版169の779、780の石器類出土（一部第101図に図示）。掲載した以外に、5×5cm以下の土器破片23個出土。石器製作時の剥片35.33g出土。

〔時期〕覆土と重複関係と出土土器から、縄文時代中期前葉以降の可能性はある。

第6号陥し穴状遺構（第62・101図、写真図版62・170）

〔位置・検出状況〕調査区東部東。15Cグリッド。法面を20cm下げたところで、細長いボヤーとした灰黄褐色土を確認。倒木が腐ったものかとも思ったが、半裁。大きく断ち割っても、あまり陥し穴らしくない覆土

で遺構との確信は持てなかったが、下場が水平に延びることを重視して、遺構と判断。陥し穴状遺構が、法面に切られ、特に斜面下側が大きく削平されたため消失したものと考えた。

〔図・精査状況〕 A-A'断面、A側の上場崩れたのか合わない。下場は掘りすぎでなくなった。B-B'断面、平面図のセクション・ポイントのB'の位置おそらく間違い。トレンチの位置合わない。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 削平されているためか単層。一般的な覆土と異なって固く締まり、地山が根で汚れたような土。

〔平面形・規模〕 溝形？ 斜面下（南）側消失したため不明。

〔断面形・深さ〕 縦断面の北側階段状にオーバーハング。南側は削平されたため不明。横断面I字形。深さ約45cm。

〔壁・底面〕 削平されているため、全てV層？

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 第101図588の土器出土（円筒下層c式？）。写真図版170（=第101図）の781の石器出土。掲載した以外に、5×5cm未満の土器破片1個出土。石器製作時の剥片0.31g出土。

〔時期〕 今回の調査結果全体からは、縄文時代中期の可能性はあるが、他の陥し穴状遺構とやや異なること、出土土器から、他の時期の可能性もある。

第7号陥し穴状遺構（第62図、写真図版62）

〔位置・検出状況〕 調査区西端。2Dグリッド。第10号住居内。水路下にあり、南側の調査範囲外に続く。住居平面写真撮影の清掃の際に、調査範囲外に延びる溝状の褐色土を確認。他と比べて覆土が淡く木根が含まれていたのが疑似現象と思ったが、一応調査範囲境を掘り下げてみた。よくわからないので両側、下方に広げサブトレンチを入れたが、何とも言えない。周囲に木根があり疑似現象（木根の攪乱）の可能性が高いと思われるが、決め手に欠けるので一応陥し穴状遺構に認定して、精査・報告した。

〔図・精査状況〕 測り間違いのせいかセクションポイントA'合わない。精査状況は上記参照。

〔重複〕 第10号竪穴住居下に検出。この部分は水路に壊されているので決め手に欠けるが、検出状況からは住居の方が新しい可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕 削平されているためか、他と異なり下まで淡い覆土でIV～V層の再堆積の黄褐色土。1層はV層そのものようにも見え、やはり疑似現象か。

〔平面形・規模〕 サブトレンチで壊し、大部分が調査範囲外にあるので不明だが、残っている部分から推測すると、溝状か。

〔断面形・深さ〕 縦断面不明。横断面I字状か。約40cm。削平されている（V層中）とは言え、他と比べてあまりに浅く、やはり疑似現象か。

〔壁・底面〕 調査範囲内に検出された長軸方向の北端はオーバーハングしない。壁～底V層。

〔副穴等の付属施設〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 出土土器がないことと、今回検出された他の陥し穴状遺構と大きく異なるため、時期不明。

〔分類・所見〕 疑似現象（木根による攪乱）の可能性が高い。

5. 焼 土

焼土は、42基検出され、その他、第2号住居床面に検出されたものが2基ある。炉跡の可能性もなくはないが、ご今回の調査で検出された竪穴住居跡の炉は、土器埋設炉、石囲炉と、はっきりした施設を持つ場合がほとんどであり、検出された焼土は、数カ所に極端に集中し、炉跡と異なった傾向を持つので、炉跡の可能性は低いと考える。ほとんどがⅢ層中に形成されており、縄文時代の可能性が高い。

以下、報告は、集中ごとにまとめて行うが、概要について。

本章冒頭でも述べたように、東部（水路部分）以外の検出は基本的に前年度に行っていて、東部（水路部分）、第22号、第33号、第35号、第41号以外の焼土は、前年度の検出の後シートを被せて冬～春を過ごしており、残存状況に影響があったかも知れない。

今回検出された焼土の性格は不明だが、数カ所に極端に集中することが特徴としてあげられ、また他の遺跡に比べて石器製作時の剥片が石器類の組成の中で多くを占め、そのほとんどが遺構外のⅢ層から出土し集中焼土の近くから見つかることも多かったことから、石器製作に何らかの関係があるかも知れないが、本書では、遺物の取り上げ区画が大きかったこと（5×5m）、時間的な余裕のなさなどから、地点ごとの剥片出土量を示せなかった。

第1号～第10号焼土（第63・101図、写真図版62～64）

〔位置・検出状況〕調査区西。5C～Dグリッド。土坑集中区と重なるが、中心はより西にずれている。検出作業中ほとんどがⅢ層中に検出されたが、Ⅳ層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。

〔図・精査状況〕平面図は多少のカクランを無視して作成しているため、断面図と合わないところがある。第1号、第5号は、下げすぎで焼土ほとんどなくなってしまったので断面図は作成していない。第2号は、セクションポイントAが測り間違いで位置合わない。第4号は、セクションポイント合わない（C'測り間違い？）。第8号は、平面図と断面図合わない（測り間違いか）。

〔重複〕第6号の下に第32号土坑、第8号の下に第35号土坑、第10号の下に第33号土坑が検出された。周囲に根によるカクランも多い。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕1号→長楕円形？・不明・10cm、2号→長楕円形？・不明・約5cm、3号→不整楕円形・約80×65cm・約5cm、4号→楕円形？・不明・約5cm、5号→円形・約24×24cm・6cm、6号→円形・約40×36cm・約5cm、7号→長楕円形・約80×30cm・約8cm、8号→円形・約50×50cm・約8cm、9号→不整楕円形・約64×46cm・約10cm、10号→楕円形・約40×30cm・約4cm。

〔燃焼状態〕記録が残っていない。

〔形成層〕Ⅲ層。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕第3号焼土とその周辺から、第101図589の土器出土（円筒下層c～d式？）。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第11号～第14号焼土（第63・101図、写真図版64・170）

〔位置・検出状況〕調査区西部中央。5Cグリッド。Ⅲ層で検出。調査した年度が異なるので別々に扱った

が、第1号～第10号焼土と一連のもの可能性もある（特に第9号）。ただし、その間は比較的疎らである。

〔図・精査状況〕第11号焼土のA'側合わない。第12号焼土、焼土範囲の認識の違いか全く合わない。これらは、平面図を光波測量によって作成したことに拠るもの可能性が高い。

〔重複〕第13号焼土、一部第6号炉跡覆土上に形成（より新しい）。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕11号→三日月形・約30×20cm・約5cm、12号→不整楕円形・約45×35cm・約8cm、13号→不整楕円形・約70×45cm・約10cm、14号→楕円形・約25×14cm・約6cm。

〔燃焼状態〕第11号は、根によるカクランを受けているせいか焼土の形成今一つ。他は良く焼けている。

〔形成層〕Ⅲ層。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕第12号焼土を中心として、第101図590～593の土器出土。590、593は、円筒上層a1式？、592は円筒上層b式？、591は時期不明。第13号焼土から写真図版170（＝第101図）の783の石器、石器製作時の剥片1.22gが出土しており、またクリーニングの際写真図版170（＝第101図）の782の石器出土している。掲載した以外に、第12号から5×5cm未満の土器破片2個、第13号から5×5cm未満の土器破片3個出土。その他、周囲から、5×5cm以下の土器破片10個出土。「第11～14号焼土」から石器製作時の剥片12.75g出土。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性がある。

第15号～第23号焼土（第64・101図、写真図版64～66・170）

〔位置・検出状況〕調査区中央部北東隅。8A～Bグリッド。東側の調査範囲外に続くと思われる。Ⅲ層で検出。第22号だけは後で検出したもので、第70号土坑のプランをはっきりさせるため検出作業を繰り返したところ、焼土の一部が検出されたので、東側に調査範囲を拡張したものである。上に切り株多く残っていたところで、木根によるカクラン著しい。

〔図・精査状況〕第15号、A側焼土範囲の認識の差により合わない。第16号、平面図A'側焼土でないものを含んでいた。第17号、第20号、焼土範囲の認識の差によりほとんど合わない。第18号、第19号、第21号、平面図焼土でないものを含んでいたため合わない。第22号、G'側、焼土範囲の認識の差に寄り合わない。第23号のH側も同様である。

〔重複〕第23号焼土は、第70号土坑覆土に一部かかる（より新しい）。その他、第69号土坑が近くにある。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕15号→楕円形・約44×28cm・約6cm、16号→不整円形・約46×44cm・約12cm、17号→不整楕円形・約66×40cm・約16cm、18号→不整楕円形・約84×60cm・約12cm、19号→不整楕円形・約36×24cm・約6cm、20号→円形・約40×35cm・約10cm、21号→不整円形・約52×46cm・約6cm、22号→不整方形・約74×70cm・約10cm、23号→楕円形・約26×18cm・約4cm。

〔燃焼状態〕根によるカクランのせいか、全体的にあまり良くないが、第16号、第22号は厚く焼土が形成され、第22号は表面が非常に固く締まっていた。

〔形成層〕Ⅲ層上面。第22号だけは、他より標高が低い、それはこの場所のⅢ層が落ち込んでいたためである。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕第101図594～598の土器出土。594は円筒下層d 2式?、595は円筒下層c～d式、596～598は時期不明。第15号～第21号焼土クリーニングの際、写真図版170(=第101図)の784、785の石器類出土。掲載した以外に、第21号から5×5cm未満の土器破片1個、第22号から5×5cm未満の土器破片4個、第29号から5×5cm未満の土器破片5個出土。その他、周囲から5×5cm以下の土器破片23個出土。石器製作時の剥片が、16号から5.05g、17号から2.16g、18号から0.70g、21号から5.70g、22号から4.19g、29号から1.70g、「第15～21号焼土」として36.30g出土している。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第24号・第25号焼土(第65図、写真図版66)

〔位置・検出状況〕調査区最西端。2Dグリッド。

〔重複〕第24号焼土の下に第1号土坑を検出。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕24号→不整円形・約36×30cm・約4cm、25号→不整長楕円形・約70×35cm・約4cm。

〔燃焼状態〕記録が残っていない。

〔形成層〕Ⅲ層。

〔所属施設〕両方とも固く焼けしまっている。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第26号焼土(第65図、写真図版66)

〔位置・検出状況〕調査区西。3Dグリッド。検出作業中ほとんどがⅢ層中に検出されたが、Ⅳ層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔図・精査状況〕断面図作成時セクションポイントの落とした位置が間違っていたようで、平面図の焼土範囲と断面図のそれは、セクションポイントをずらせば合う。

〔重複〕第11号土坑の上面に検出(より新しい)。

〔覆土〕検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕きのこ形・約44×44cm・約8cm。

〔燃焼状態〕固く焼けしまる。

〔形成層〕第11号土坑覆土上面。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕重複関係から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性はある。

第27号・第28号焼土(第65図、写真図版67)

〔位置・検出状況〕調査区西～中央。6Cグリッド。検出作業中Ⅲ層中に検出されたが、Ⅳ層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔図・精査状況〕下げすぎで焼土ほとんどなくなってしまったので断面図は作成していない。

〔重複〕ないと思われる。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕 27号→楕円形・約38×26cm・厚さ下げすぎて不明、28号→楕円形・約40×24cm・4cm。

〔燃焼状態〕 記録が残っていない。

〔形成層〕 III層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第29号焼土（第65・101図、写真図版67・116）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東端。6Cグリッド。住居検出時、IV層上面で検出。根によるカクランあり。

〔図・精査状況〕 半裁時、A側欠けてしまったためか合わない。

〔重複〕 第1号住居跡に近接するが、重複してはいないと思われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 楕円形・約54×37cm・約8cm？

〔燃焼状態〕 根によるカクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕 IV層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 第101図599の土器（時期不明）、写真図版116の18、19の焼粘土塊出土。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある

第30号焼土（第65図、写真図版67）

〔位置・検出状況〕 調査区西部東端。6～7Cグリッド。IV層上面に検出した際には、そのレベルから第1号住居跡に帰属するものと考えていたが、住居精査の結果、住居外に位置することがわかった。

〔図・精査状況〕 焼土範囲の認識の違いか、A'側合わない。

〔重複〕 第43号土坑の覆土上面に形成（より新しい）。第1号住居跡に近接。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整形・約120×70cm・約8cm。

〔燃焼状態〕 土坑覆土中に形成されているわりには、非常に良い。

〔形成層〕 第43号土坑覆土上面～IV層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉～中期前葉の可能性が高い。

第31号焼土（第65図、写真図版67）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部西端。7B～Cグリッド。III層上面で検出。中央が窪み、カクランを受けている。〔図・精査状況〕 焼土範囲の認識の違いか合わない。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕不整形（方形？）・140×80程度？・約4 cm。

〔燃烧状態〕カクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕Ⅲ層上面。

〔所属施設〕周囲を検出したが、柱穴らしいものは確認できなかった。ただし、第7号炉跡に伴うとした柱穴の中に本遺構に帰属するものが存在する可能性もある。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第32号焼土（第66・101図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西端。7 Bグリッド。Ⅲ層上面で検出。根によるカクラン著しい。現地性の焼土でない可能性もある。

〔重複〕ないと思われるが、第45号、第48号土坑に近接。

〔覆土〕検出時既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形・約42×40cm・不明。

〔燃烧状態〕根によるカクランのせいか、非常に悪くブロック状。投げ捨て焼土の可能性もある。

〔形成層〕Ⅲ層上面。

〔所属施設〕不明。

〔出土遺物〕周囲から第101図600の土器出土（時期不明）。掲載した以外に、5×5 cm未満の土器破片3個出土。石器製作時の剥片0.54g出土。

〔時期〕形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第33号焼土（第66図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部西。7 Bグリッド。第48号土坑精査中に検出。変な形だが、面的な広がりをもっており、現地性の焼土と判断。〔図・精査状況〕焼土範囲の認識の違いか、合わない。

〔重複〕第48号土坑覆土上層に形成（より新しい）。〔覆土〕第48号土坑覆土（1層最上部？）。

〔平面形・規模・厚さ〕不整形・約28×6cm・約8 cm。

〔燃烧状態〕比較的しっかり焼けている。

〔形成層〕第48号土坑覆土（1層？）。

〔所属施設〕不明だが、第7号炉跡に伴うとした柱穴の中に本遺構に帰属するものがある可能性もなくはない。

〔出土遺物〕なかったようである。

〔時期〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

第34号焼土（第66図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕調査区中央部中央。7 Bグリッド。Ⅲ層上面で検出。木根によるカクラン著しい。

〔図・精査状況〕平面図光波測量で行ったせいか、A'側合わない。

〔重複〕ないと思われるが、第2号住居跡に近接。

〔覆土〕検出時既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整楕円形・約18×10cm・不明。

〔燃焼状態〕 根によるカクラン受けているせいか、非常に悪い。

〔形成層〕 Ⅲ層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第35号焼土（第66図、写真図版68）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北。7 B グリッド。住居プランを確定しようと検出作業を繰り返す中で、検出。Ⅲ層上面～第56号土坑覆土上面。上面切り株多かったところで、木根によるカクラン著しい。〔図・精査状況〕 焼土範囲の認識の違いか、合わない。〔重複〕 第56号土坑の上面に検出（より新しい）。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不明・60×30cm程度？・約2 cm。

〔燃焼状態〕 平均的。〔形成層〕 Ⅲ層上面～第56号土坑覆土上面。〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 石器製作時の剥片7.15g出土。

〔時期〕 重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期末～中期前葉の可能性はある。

第36号焼土（第66図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕 調査区中央。7 C グリッド。検出作業中Ⅲ層中に検出されたが、Ⅳ層まで下げてしまったので、かなり薄くなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土〕 検出時に既になくなっていたため不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整楕円形・約46×20cm・約6 cm。

〔燃焼状態〕 固く締まる。

〔形成層〕 Ⅲ層。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第37号焼土（第67図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部東。8 C グリッド。Ⅲ層上面で検出。木根によるカクラン著しい。

〔重複〕 下に第80号土坑がある（より古い）。〔覆土〕 検出時に既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整楕円形・約26×14cm・不明。

〔燃焼状態〕 カクランを受けているせいか、焼土の形成弱い（淡い）。〔形成層〕 Ⅲ層上面。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 時期が特定できない5×5 cm未満の土器破片2個出土（手違いで1点も掲載しなかった）。石器製作時の剥片8.78g出土。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第38号焼土（第67図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部南。8 C グリッド。〔重複〕 ないと思われる。北西方向に根によるカクラン。〔覆土〕 検出時に既になくなっていたので不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整円形・約42×34cm・約4 cm。

〔燃焼状態〕 明瞭に焼土が形成されている。〔形成層〕 III層上面。〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 石器製作時の剥片2.55g出土。

〔時期〕 形成位置から、縄文時代前期前葉～中期前葉の可能性はある。

第39号焼土（第67図、写真図版69）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。15 C グリッド。第5 C号炉跡が帰属する竪穴住居跡を確認しようと検出を繰り返していた際に、調査区境に検出。〔重複〕 ないと思われる。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整円形・約30×28cm・約3 cm。

〔燃焼状態〕 法面上面で根によるカクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕 III層上面か。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第40号焼土（第67図、写真図版70）

〔位置・検出状況〕 調査区東部東。15 C グリッド。第5 C号炉跡が帰属する竪穴住居跡を確認しようと検出を繰り返していた際に、調査区境に検出。〔図・精査状況〕 焼土範囲の認識の違いか、合わない。

〔重複〕 ないと思われる。〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・厚さ〕 不整楕円形・約30×20cm・約6 cm。

〔燃焼状態〕 法面上面にあり根によるカクランを受けているせいか、あまり良くない。

〔形成層〕 IV層上面か。

〔所属施設〕 不明。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 形成層から、縄文時代前期中葉～中期前葉の可能性はある。

第41号焼土（第14～15図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕 調査区西部西端。2 D グリッド。第4号炉跡に伴うと考えていた床（III層）の下から検出。中央部が窪んでいた。

〔図・精査状況〕 作業手順の都合上、検出した後しばらく放置していたためボロボロになってしまった。

〔重複〕 第4号住居（炉）と重複し、より古い。

〔覆土〕 汚れたIV層再堆積土。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕 直径約60cmの不整円形。約5 cm。

〔燃焼状態〕 検出時は比較的良かったという記憶がある。〔形成層〕 III層上面か。〔所属施設〕 第4号住居に

伴うと考えている柱穴群は、本遺構を炉跡とする住居に帰属する可能性もなくはない。

〔出土遺物〕 なかったようである。

〔時期〕 重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性はある。

第42号焼土（第16～17図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 調査区東部中央。14Cグリッド。法面をクリーニングした時点で検出。

〔図・精査状況〕 焼土範囲認識の違いで、合わない。

〔重複〕 第90号土坑覆土中にある（より新しい）。

〔覆土〕 検出時既になくなっていたため、不明。

〔平面形・規模・断面形・厚さ〕 30×15cmの不整楕円形。約5cm。

〔燃焼状態〕 覆土中には比較的良いと思われる。

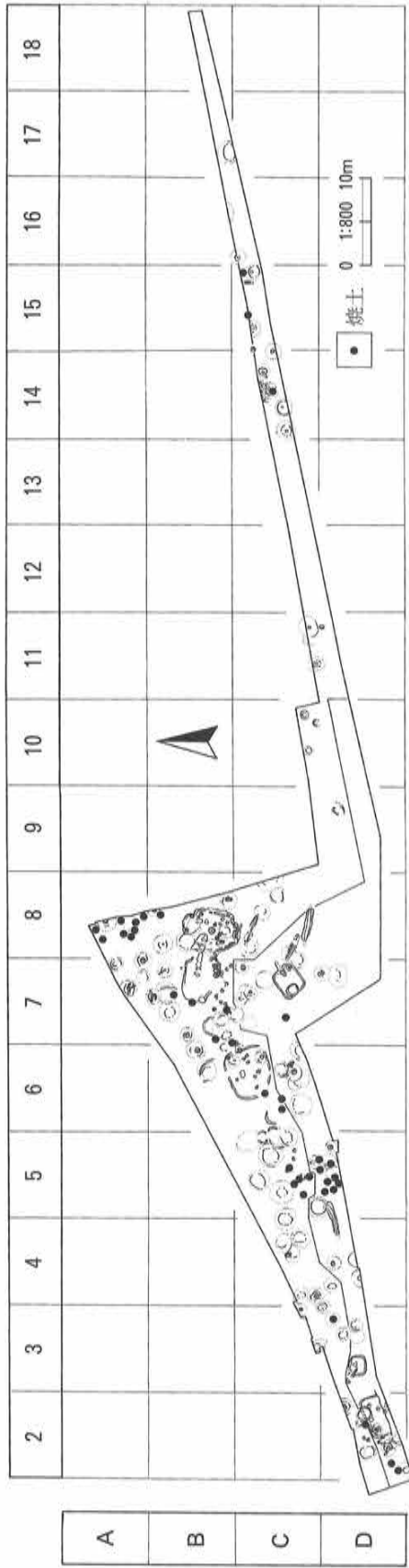
〔形成層〕 第90号土坑覆土。

〔所属施設〕 周囲に検出された柱穴は、第5号炉跡ではなく、本遺構に伴うものかも知れない。

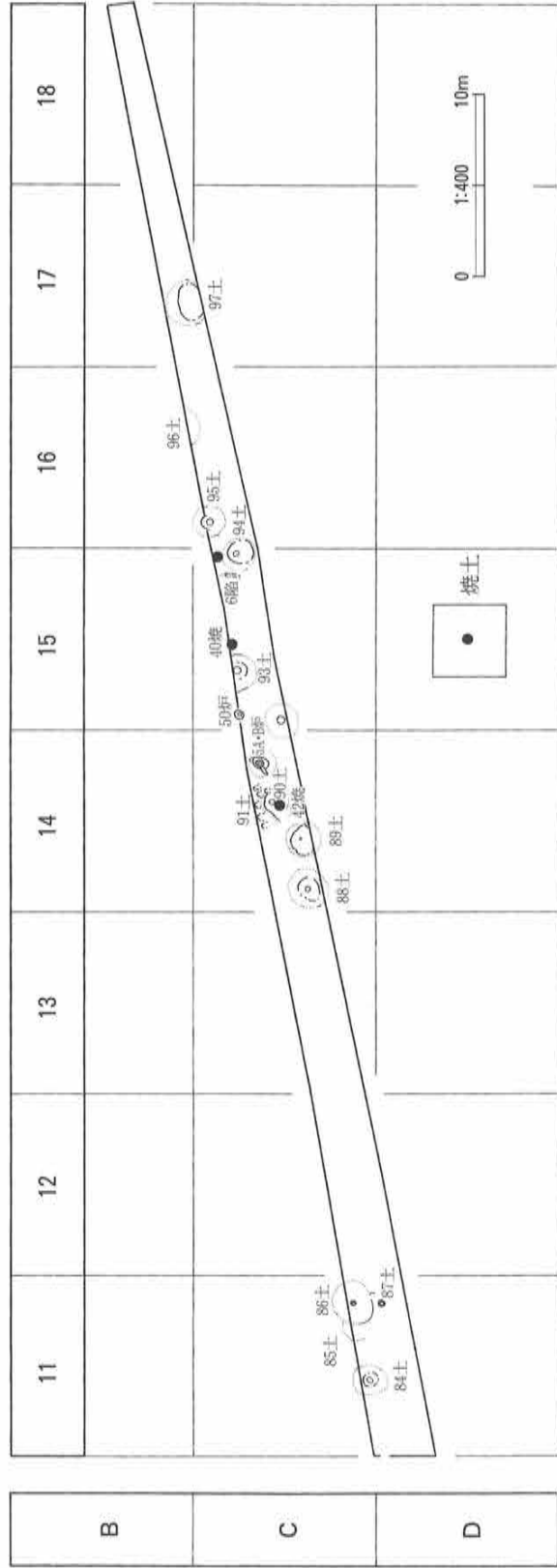
〔出土遺物〕 石器製作時の剥片441.79g出土。

〔時期〕 重複関係から、縄文時代中期前葉の可能性はある。

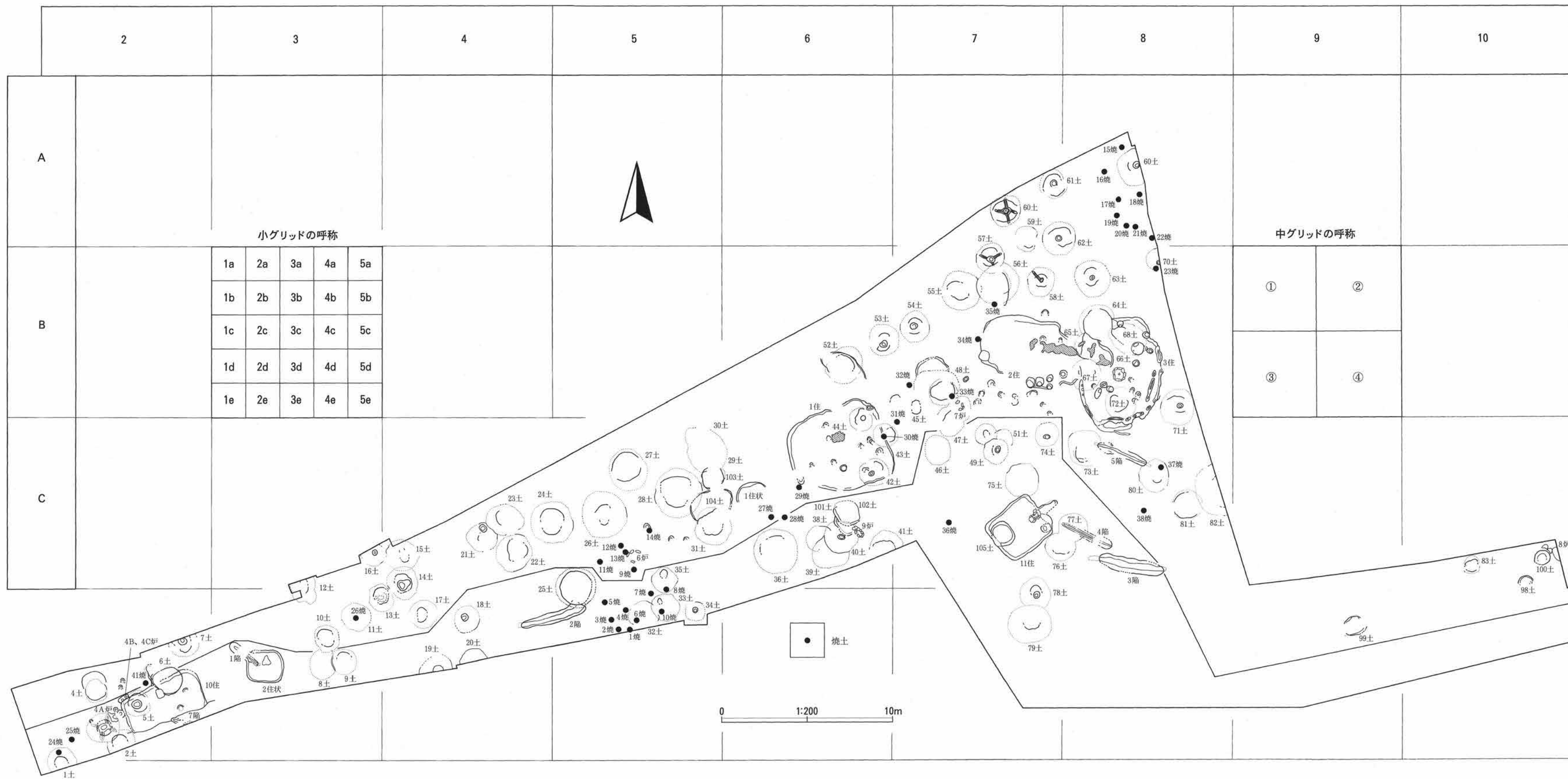
●遺構全体図



●地区別全体図(1) (水路部分)



第6図 遺構全体図・地区別全体図(1)

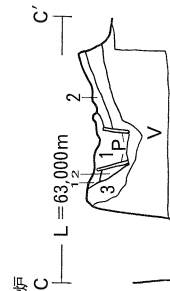
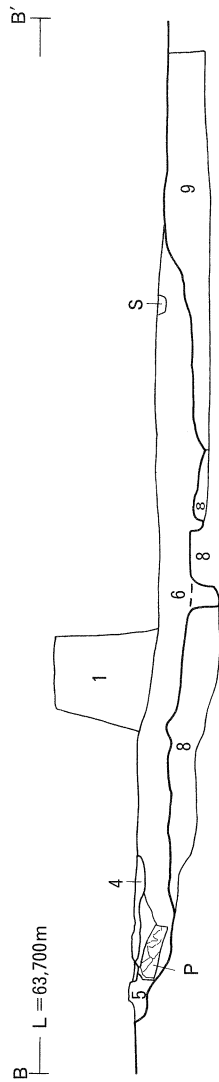
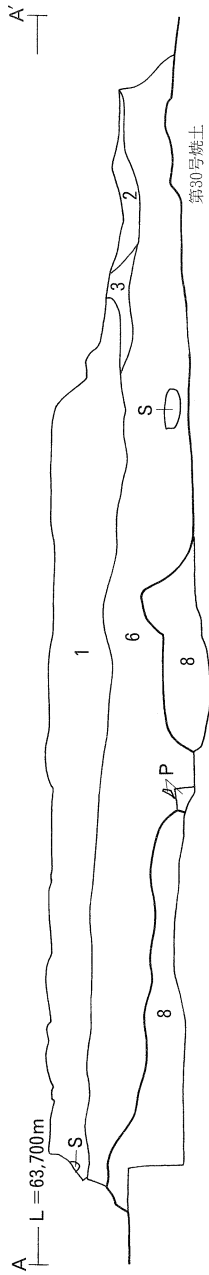


第7図 地区別全体図(2) (道路部分)

● 第1号住居跡



第8図 第1号住居跡(1)



1. 黒色(10YR2/1)シルト いわゆるクロボク土。(II層)
2. 暗褐色(10YR3/4)と黒色(10YR2/1)の混合に褐色(10YR4/6)ブロック混入。シルト 粘性あり。IV層粒子、ブロック多く含む。III層と同じか。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしめる。IV層粒子、細かいブロック、1~2mmの炭化物含む。
4. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック混入。粘土質シルト。IV層ブロック多く含む、黄土粒も含む。
5. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック混入。粘土質シルト。IV層ブロック多く含む、黄土粒も含む。
6. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性あり。1~5mmの炭化物多く、IV層粒子、ブロック含む。土坑の基本的な黄土に似る。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性あり。性質は6層と同じだが、色調は6層と8層の中間的である。
8. 暗褐色(10YR3/4)と褐色(10YR4/6)の混合。粘土。汚れており、炭化物等も含むが、住居平面形、床面の高さの整合性からIV層の上面が混在しているためと判断。固くしめることもなく、いわゆる掘り方理土、床面の上かつたものとも異なる。
9. 褐色(10YR4/4)粘土。IV層。8層とはほとんど同じだが、より明るくIV層とはっきりしているのでも別に扱った。

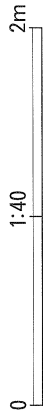
柱穴

No.	1	2	3	4	5
径(cm)	32×(32)	34×(16)	24×(32)	22×(20)	40×(40)
深さ(cm)	42	39	42	27	30

柱穴 (ダメ押し)

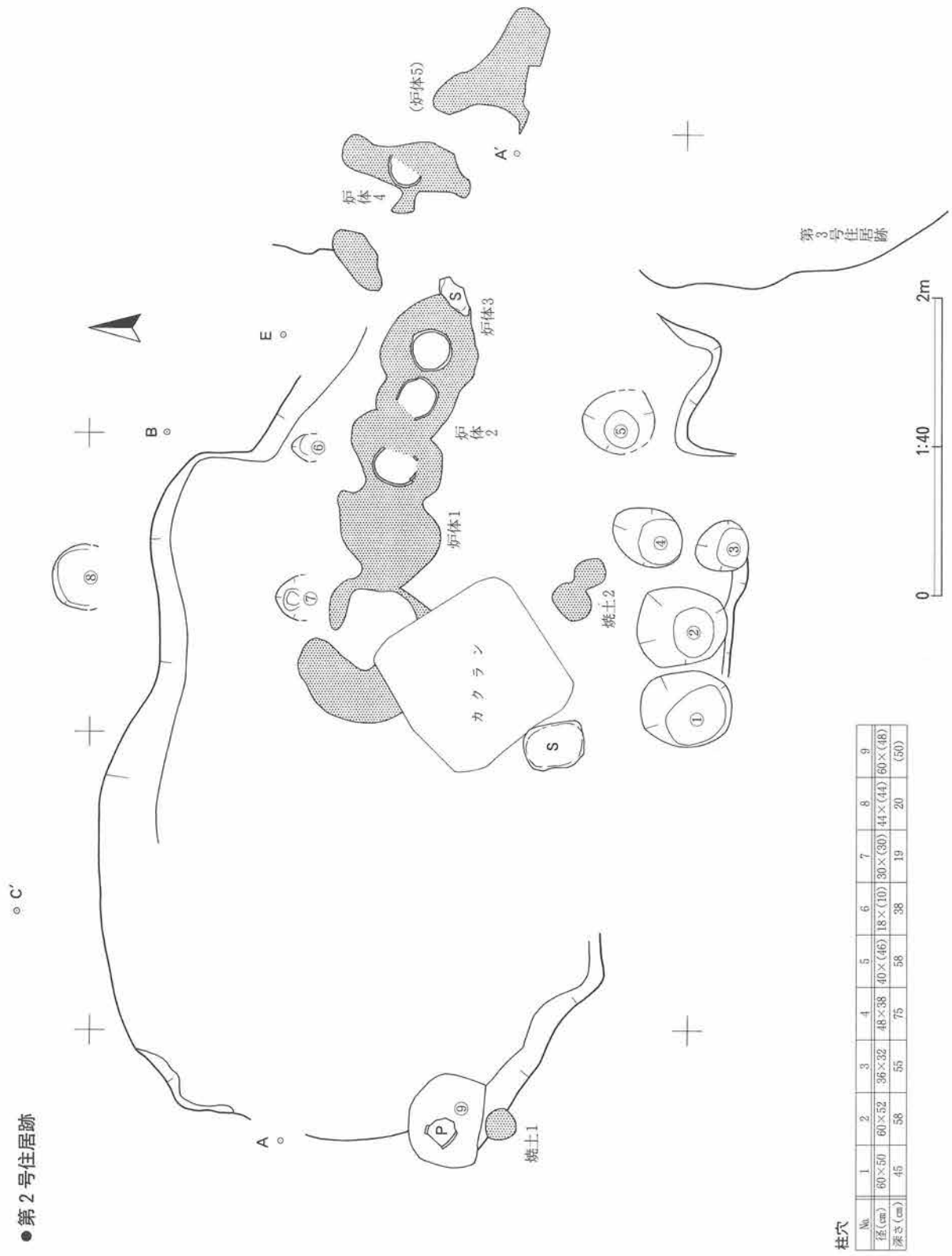
No.	6	7	8	9	10	11
径(cm)	26×(24)	34×(40)	26×(32)	36×(40)	38×(40)	26×(28)
深さ(cm)	44	27	40	22	34	26

1. 暗褐色(7.5YR3/4)に暗赤褐色(5YR3/6)ブロックまだらに入る。シルト
2. 暗赤褐色(5YR3/6)砂質シルト もろい。黄土
3. 褐色(7.5YR4/4) 粘土質シルト もろい。熱でV層が変化したもの。



第9図 第1号住居跡(2)

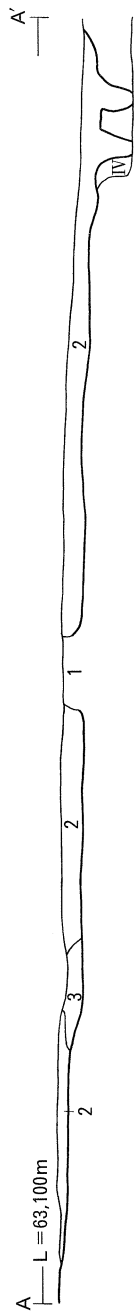
● 第2号住居跡



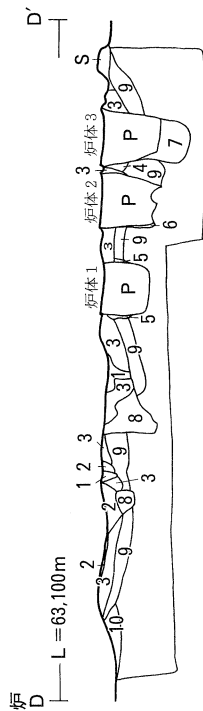
柱穴

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9									
径 (cm)	60	50	60	52	36	32	48	38	40	46	18	10	30	30	44	44	60	48
深さ (cm)	45	58	55	75	58	58	38	19	20	50								

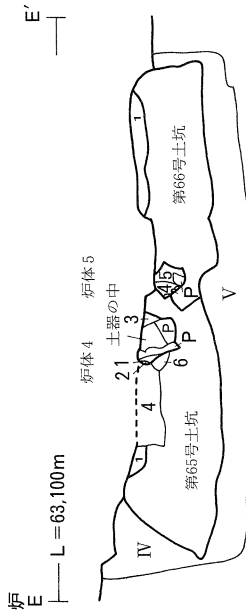
第10図 第2号住居跡(1)



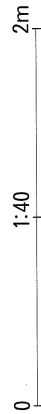
1. 黄褐色(10YR5/8)と暗褐色(10YR3/4)の混合 稀薄の土で、水路埋設時の掘り方埋土(カクラン)。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト 1~2mm炭化物、焼土粒、IV~V層ブロック含む。分離できるもの筈に若干の違いがあり、分離できる可能性があるか不明。
3. 暗褐色(10YR3/4)に黒褐色(10YR2/2)、赤褐色(5YR4/8)ブロック状に混入。シルト、非常に固くしまる。黒土、V層ブロック、焼土ブロック含む、1層にやや傾きカクランの可能性もある。
4. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。IV層が根によるカクランを受けたものと思われる。



1. 暗褐色(7.5YR3/4)シルト もろい。根によるカクラン。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト 焼土粒、ローム粒含む。
3. 暗赤褐色(5YR3/6)シルト 固くしまる。焼土。
4. 赤褐色(5YR4/8)シルト 粘性あり。焼土？
5. 赤褐色(5YR4/8)と暗褐色(10YR3/3)の混入。シルト もろい。掘り方に焼土粒がいっぱい入ったものか。
6. 褐色(10YR4/6)と暗赤褐色(5YR3/6)の混入。シルト もろい。ローム粒多く、焼土粒含む。掘り方埋土。
7. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(7.5YR2/3)の混入。シルト 固くしまる部分ともろい部分あり。ローム粒含む。掘り方埋土か。
8. 暗褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。焼土粒含む。根によるカクラン？
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。IV層が熱によって変質したもの。
10. 黄褐色(10YR5/6)に暗褐色(10YR3/3)まだらに入る。粘土 IV層が汚れたもの。



1. 暗赤褐色(5YR3/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 暗褐色(10YR3/3)に暗赤褐色(5YR3/6)ブロック状に入る。シルト 7層に似る。
3. 暗褐色(10YR3/3)と暗赤褐色(5YR3/6)、褐色(10YR4/6)の混入。シルト 固くしまる。焼土粒含む。7層よりローム粒子多く明るい。炬体土器掘り方埋土か。
4. 暗褐色(10YR3/4)と暗赤褐色(5YR3/6)の混入。シルト 固くしまる。焼土粒多。炬体土器内部。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。ローム粒子多い。炬体土器内部。



焼土 1
F F'
L = 63,400m



1. 赤褐色(5YR4/8)シルト 固くしまる。焼土。

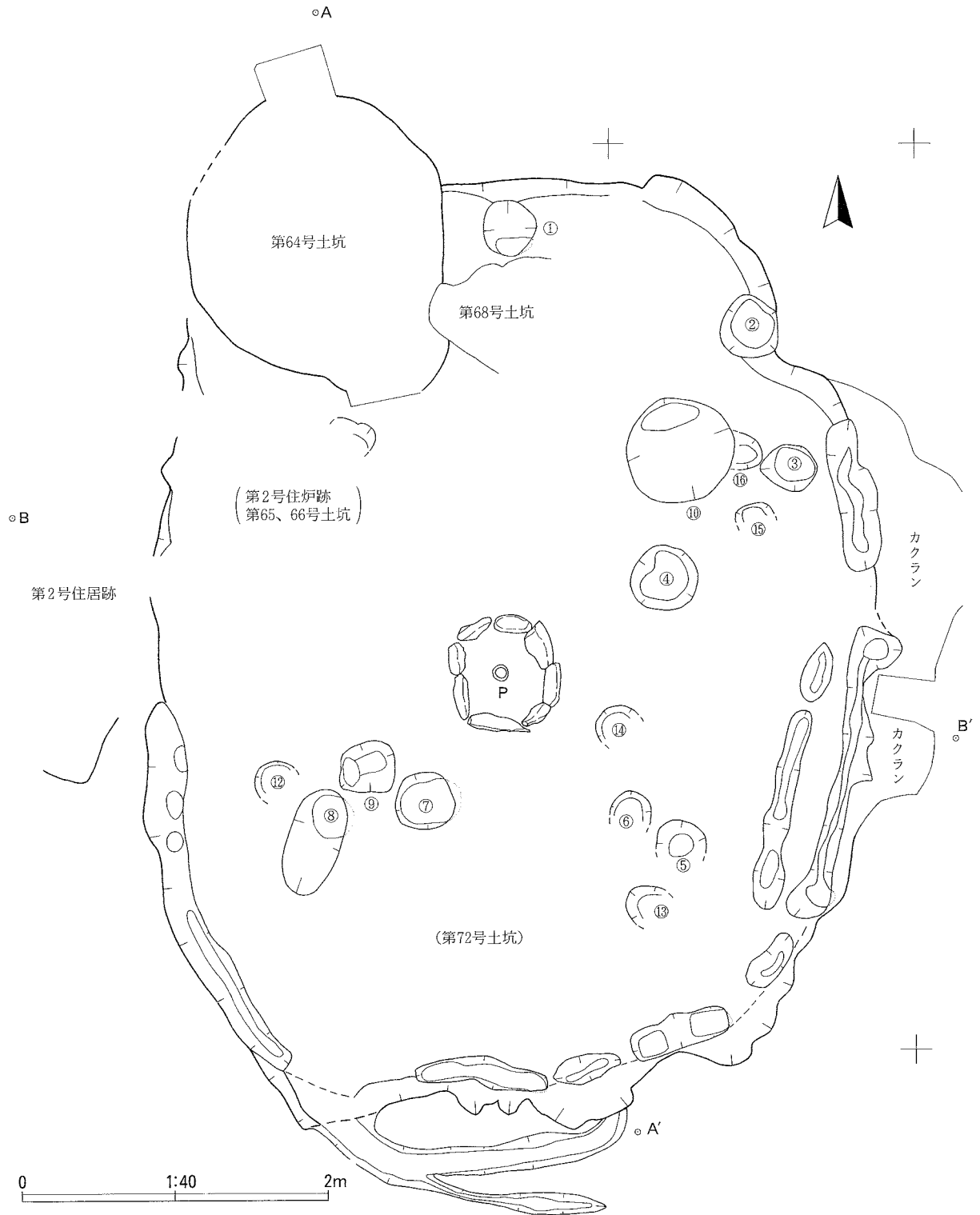
焼土 2
G L = 63,200m G'



1. 暗褐色(10YR3/4)シルト もろい。根穴。
2. 赤褐色(5YR4/6)シルト 固くしまる。焼土。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。熱によってIV層が変化した部分。

第11図 第2号住居跡(2)

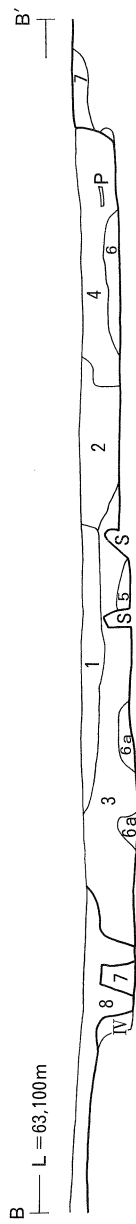
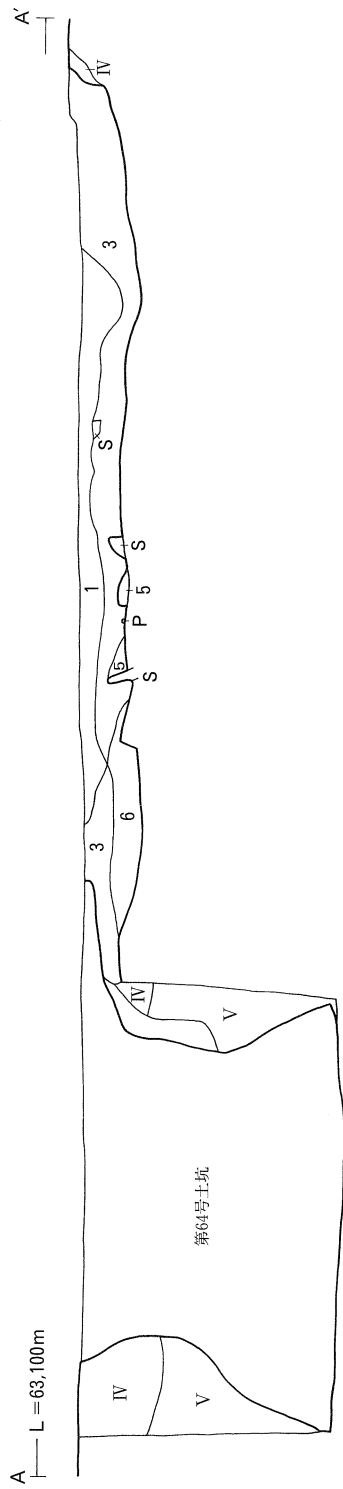
● 第3号住居跡



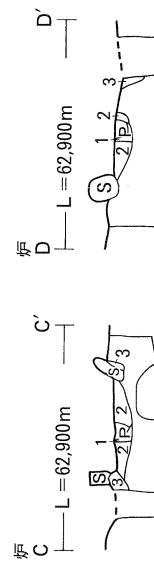
柱穴

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
径 (cm)	37×34	42×38	36×30	42×42	33×(32)	26×(36)	39×(37)	70?×(33)	40×(38)	70?×70?	30?×?	29×(33)	30×(36)	30×(32)	26×(28)	24×?
深さ (cm)	67	28	35	17	55	28	34	55	45	88	30	17	23	21	15	29

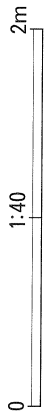
第12図 第3号住居跡(1)



1. 黒色(10YR2/1)シルト クロガクにIV層粒子散る。炭化物、焼土粒含む。
2. 黒褐色(10YR2/2)に黄褐色(10YR5/6)類に入る。シルト 黒土とIV層再堆積土の混土。炭化物含む。1層と3層の中間的。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 汚れIV層再堆積土に炭化物含む。よくある造構の覆土。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト 3層の一部と思われるが、黄色味が弱く、8層に近い。
5. 暗褐色(10YR3/3)に暗黄褐色(5YR3/6)まだらに入る。シルト 粘性強い。焼土粒多く含む。炉の覆土。
6. 黄褐色(10YR5/6)に暗褐色(10YR3/4)ブロック入る。粘土 IV層と思われ。6aでは上面が焼けている。
7. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)ブロック入る。粘土 IV層が根によって汚れたものと思われる。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭化物散る。3層に似るが黄色味が弱く暗い。第2号住居跡覆土。

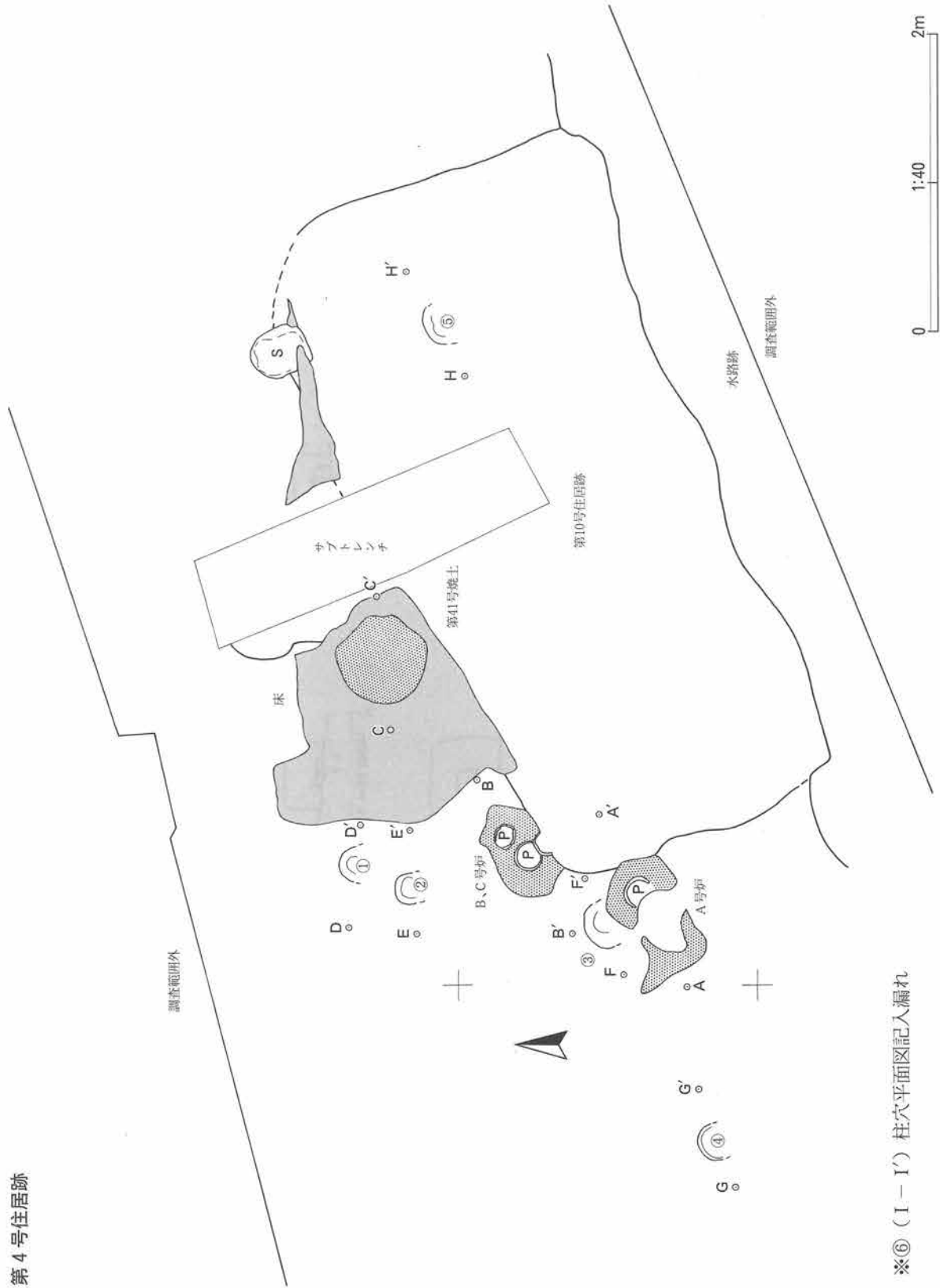


1. 暗赤褐色(5YR3/6)シルト もろい。焼土？
2. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)と赤褐色(5YR4/6)類に入る。シルト 焼土粒多く、炭化物含む。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性あり。腐り方理土。



第13図 第3号住居跡(2)

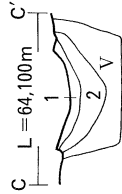
● 第4号住居跡



第14図 第4号住居跡(1)

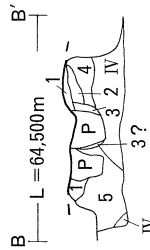
※⑥ (I-I') 柱穴平面図記入漏れ

第41号焼土



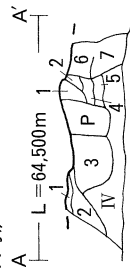
1. 暗赤褐色(5YR3/6)砂 ポロポロ崩れる。焼土。
2. 褐色(10YR4/6)シルト ポロポロ崩れる。V層が熱によって変化したもの。

B、C号炉

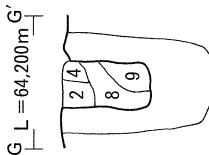
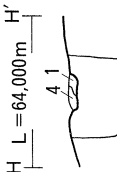
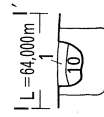
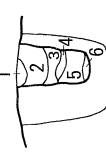


1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 固くしまる。ローム粒多。熱による硬化。
3. 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト ローム粒、炭化物含む。掘り方埋土。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。III層の一部？
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。III層。

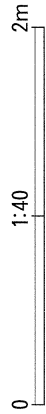
A号炉



1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト 固くしまる。IV層が熱によって固くなった部分。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 炭化物含む。III層に似る。掘り方埋土？
4. 黄褐色(10YR5/6)砂質シルト IV層がバサバサになった部分。
5. 褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。IV層が根によるカクランを受けた部分。
6. 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物含む。焼土粒多。第10号住居跡の3層に似る。
7. 黒褐色(10YR3/1)シルト ややもろい。A 2 F第10号住居跡の裏土(やや2層に似ている)。

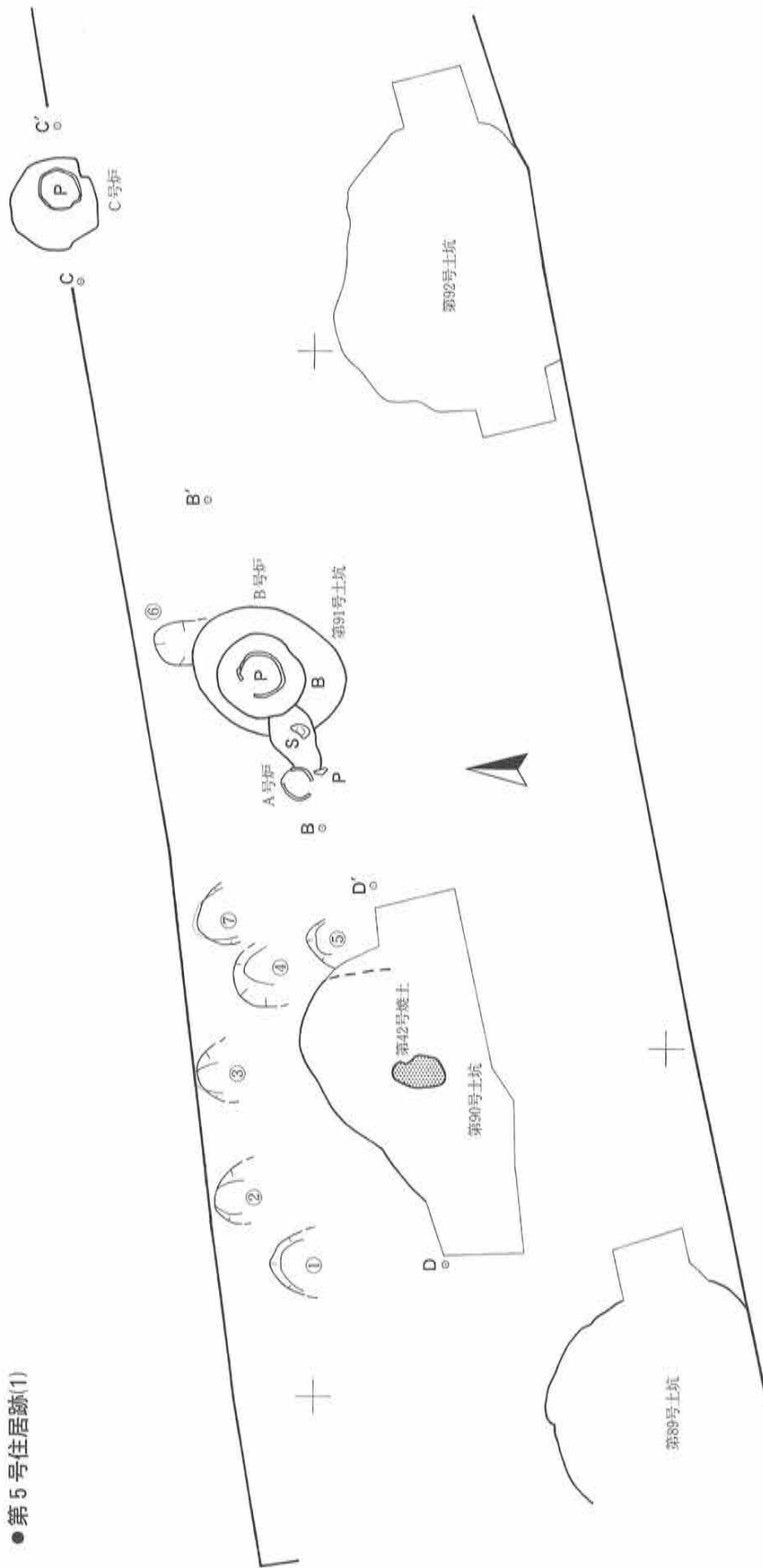


1. 灰黄褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。炭化物わずかに含む。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 固くしまる。汚れ地山再堆積に炭化物含む。
3. 灰黄褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。1層より暗い。炭化物含む。
4. 褐色(10YR4/6)粘土 地山再堆積。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。
6. にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土 汚れ地山再堆積。
7. 黒褐色(10YR3/2)シルト 他と比べて暗く、炭化物多い。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
9. 灰黄褐色(10YR3/2)シルト
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。汚れV層再堆積。掘り方埋土。

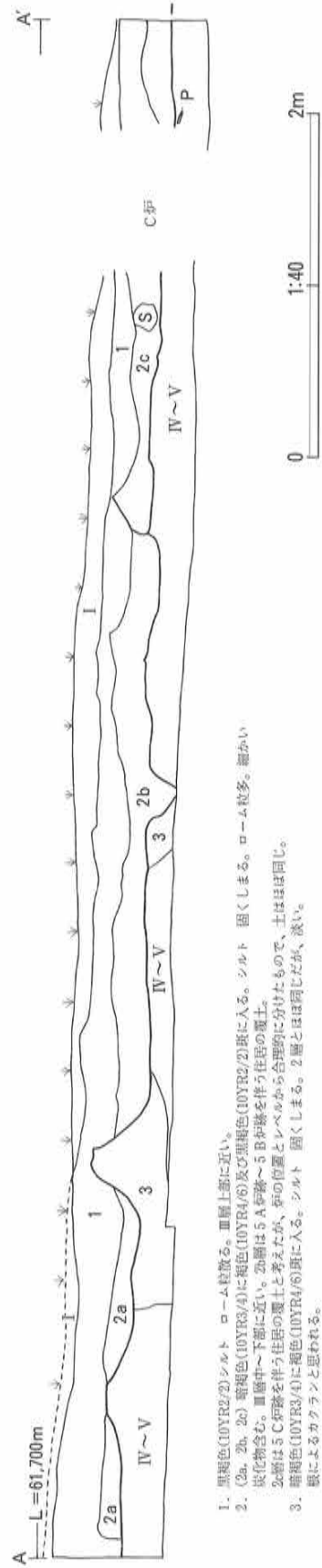


第15図 第4号住居跡(2)

● 第5号住居跡(1)

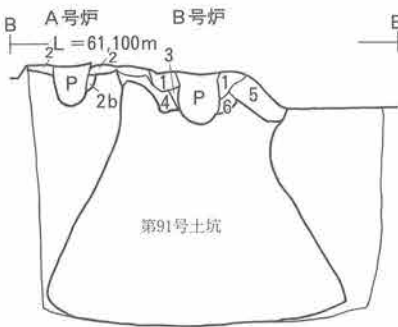


第16図 第5号住居跡(1)



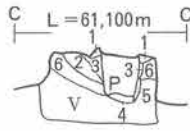
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト ローム粒散る。Ⅲ層上部に厚い。
2. (2a, 2b, 2c) 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)及び黒褐色(10YR2/2)班に入る。シルト 固くしまる。ローム粒多。細かい炭化物含む。Ⅲ層中～下部に近い。2b層はS A 炉跡～S B 炉跡を伴う住居の遺土。
2層はS C 炉跡を伴う住居の遺土と考えたが、炉の位置とレベルから合理的に分けたもので、土はほぼ同じ。
3. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)班に入る。シルト 固くしまる。2層とはほぼ同じだが、深い。眼によるカクランと思われる。

● 第5号住居跡(2)



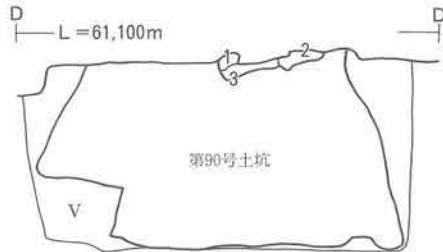
1. 赤褐色(5YR4/8)砂質シルト 5 B炉跡の焼土。
2. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6), 赤褐色(5YR4/8)斑に入る。シルト 固くしまる。4層に焼土粒多く含む。
- 2b. 2層の中とほとんど同じだが、焼土粒含まない。もろい。5 A炉跡掘り方埋土か。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト ややもろい。焼土粒含む。5 B炉跡掘り方埋土か。
4. 暗褐色(10YR3/3)に赤褐色(5YR4/8)ブロック入る。シルト 固くしまる。3層に似るが、ロームブロック含む。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 4層に似るが焼土粒含まない。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。ローム粒含む。

C号炉



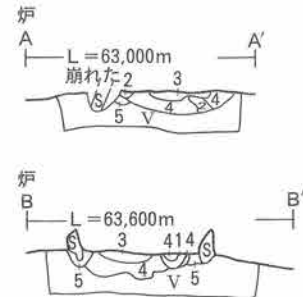
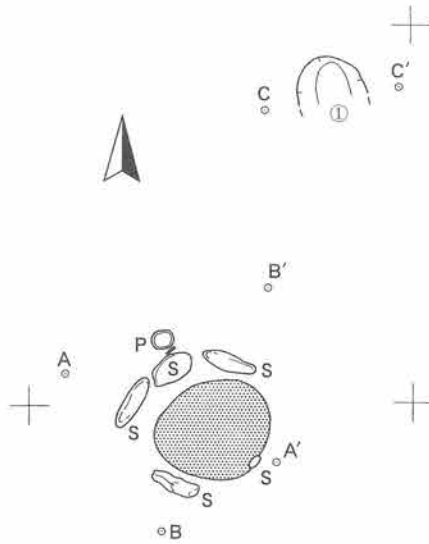
1. 暗赤褐色(5YR3/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
3. 赤褐色(5YR4/6)に黒褐色(10YR2/3), 褐色(7.5YR4/6)の混合。シルト 焼土粒多く含む。掘り方埋土?
4. 暗褐色(10YR3/4)と黒褐色(10YR2/3)の混合。粘土質シルト 固くしまる。焼土粒含む。掘り方埋土?
5. 褐色(7.5YR4/6)粘土 周囲のV層よりやや汚れて見える。掘り方埋土?
6. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。V層が熱で変化したもの。

第42号焼土



1. 赤褐色(5YR4/8)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。焼土粒、ローム粒多い。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ローム粒散る。

● 第6号住居跡



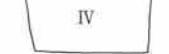
1. 褐色(7.5YR4/4)シルト もろい。根によるカクラン。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト もろい。根によるカクラン。
3. 褐色(7.5YR4/4)シルト 非常に固くしまる。焼土粒多い。炉覆土?
4. 赤褐色(5YR4/6)シルト 焼土。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 部分的に焼土粒含む。2層との違いほとんどないが、炉石掘り方埋土か。

C L=63,600m C'

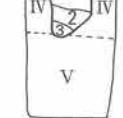


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 焼土粒混じる。汚れIV層の再堆積土。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)シルト 固くしまる。焼土のように見えたが、固いブロックが多く含まれているだけだった。
3. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしまる。焼土粒が混じる以外はV層とほとんど同じ。
4. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。V層が汚れた再堆積土。
5. 暗褐色(10YR3/3)粘土 固くしまる。V層とは同じ。
6. 暗褐色(10YR3/4)粘土 花崗岩状に1cm程度の炭化物含む。本遺跡のフラスコ状土坑によくある土。

D L=63,400m D'



E L=63,300m E'

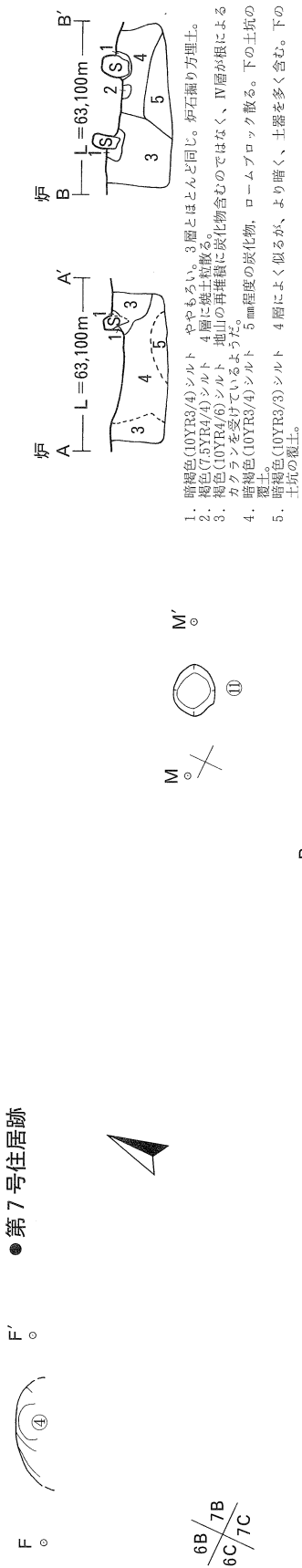


1. 褐色(10YR4/4)シルト ローム粒多く、焼土粒散り、1mm程度の炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。1層に似るが、ローム粒より多く、焼土粒含まず、3mm程度の炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。ローム粒含む、1mm程度の炭化物含む。

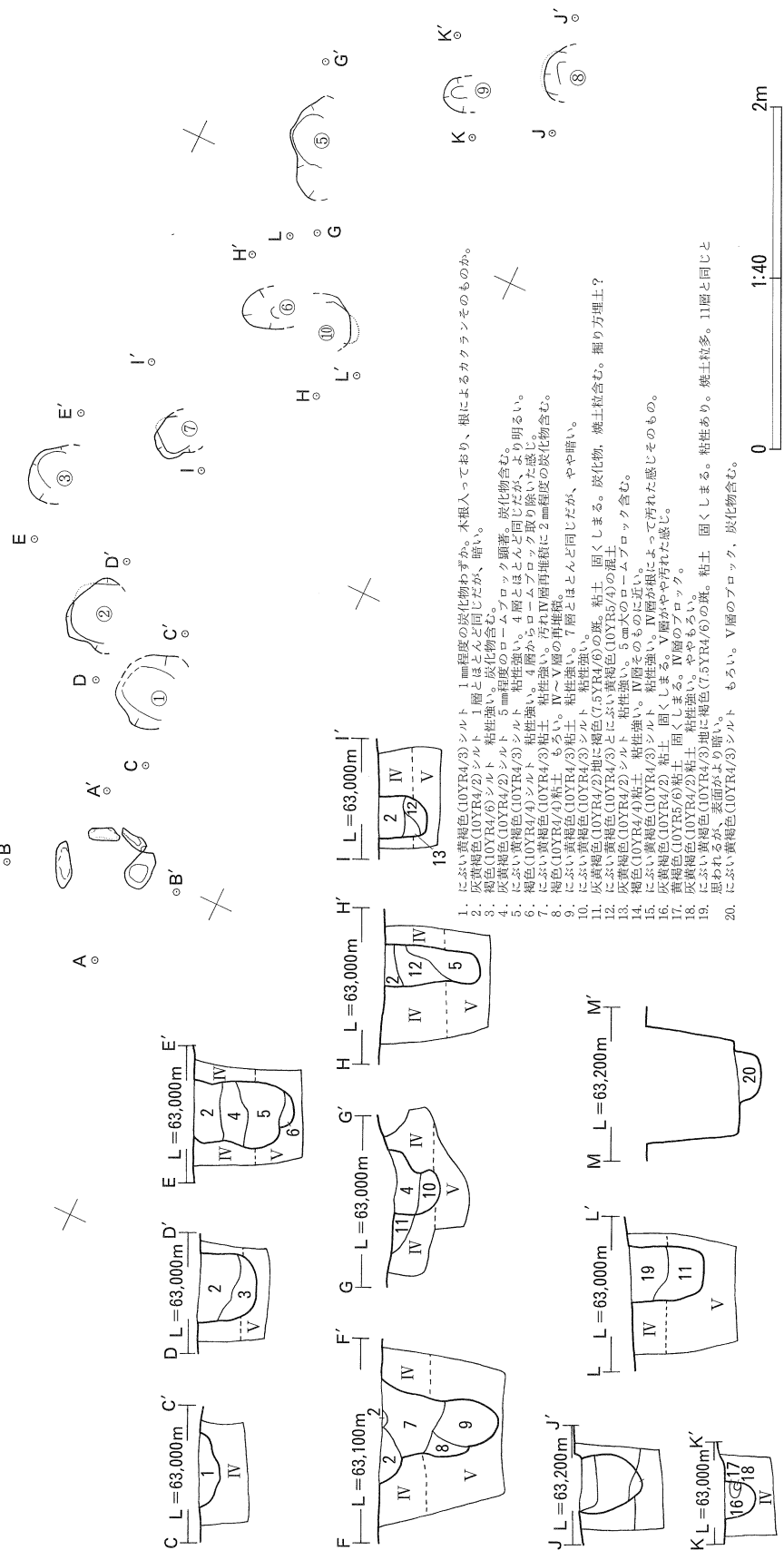
0 1:40 2m

第17図 第5号住居跡(2)、第6号住居跡

● 第7号住居跡



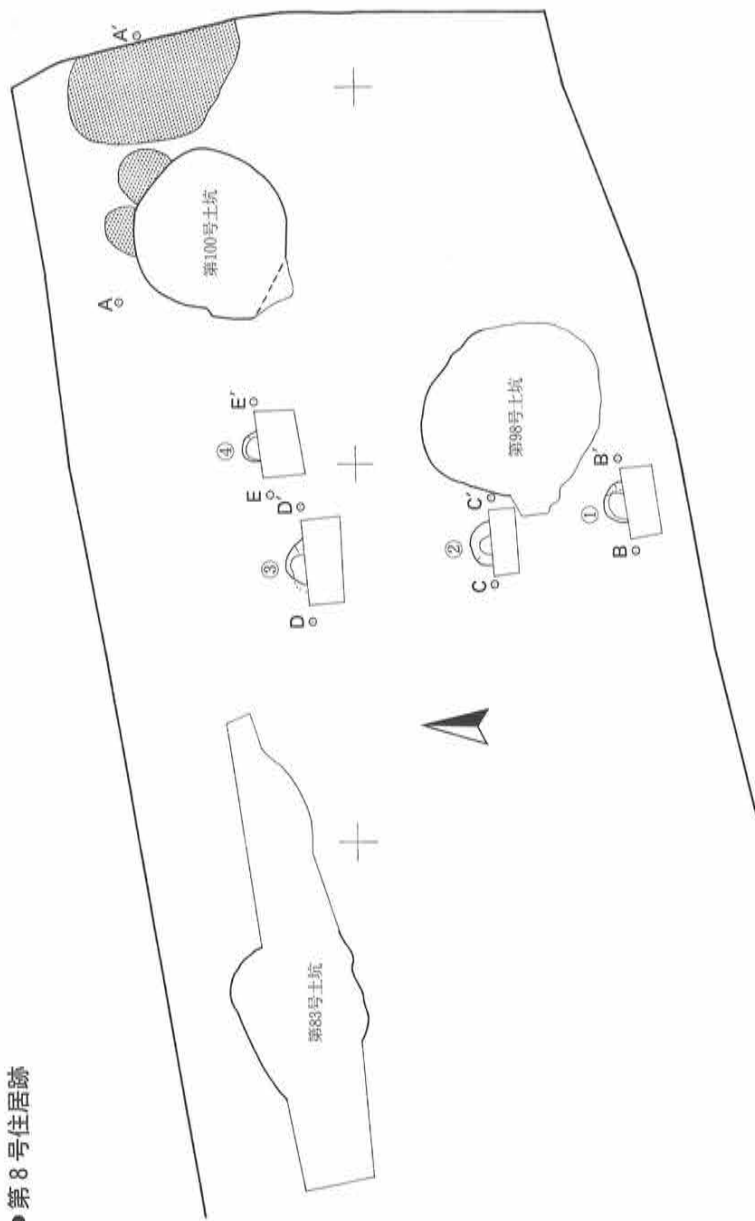
1. 暗褐色(10YR3/4)シルト ややもろい。3層とはほとんど同じ。炉石振り方理土。
2. 褐色(7.5YR4/6)シルト 4層に焼土粒散る。地山の再堆積に炭化物含むのではなく、IV層が根によるカクランを受けているようだ。5mm程度の炭化物散る。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 5mm程度の炭化物、ロームブロック散る。下の土坑の覆土。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 4層によく似るが、より暗く、土器を多く含む。下の土坑の覆土。



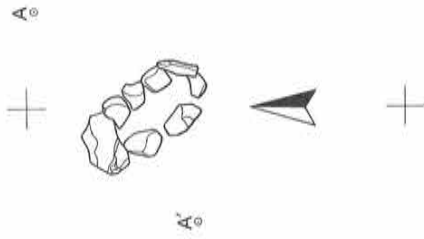
1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 1層とはほとんど同じだが、暗い。
2. 灰黄褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。炭化物含む。
3. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。炭化物含む。
4. 灰黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
5. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
6. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
8. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
9. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
10. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
11. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
12. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
13. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
14. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
15. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
16. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
17. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
18. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
19. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
20. 暗褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。

第18図 第7号住居跡

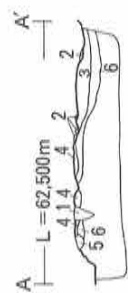
● 第8号住居跡



● 第9号住居跡



1. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。2層より厚い。根による汚れの可能性もあるが、灰石混じりか。
2. 褐色(10YR4/6)粘土 IV層に似るがやや汚れている。第101号土坑覆土と思われる。
3. 褐色(10YR4/4)粘土 2層と4層の中間的。第101号土坑覆土と思われる。第101号土坑覆土と思われる。
4. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 第101号土坑覆土と思われる。



1. 粘土が根によるカクランを受けたもの。
 2. 粘土を覆う黒土。
 3. 粘土。
 4. 粘土に黒土が混じったもの。
 5. 根によるカクラン。
 6. IV層が黒によって固く変質したもの。
- ※住記忘れにより詳細は不明。

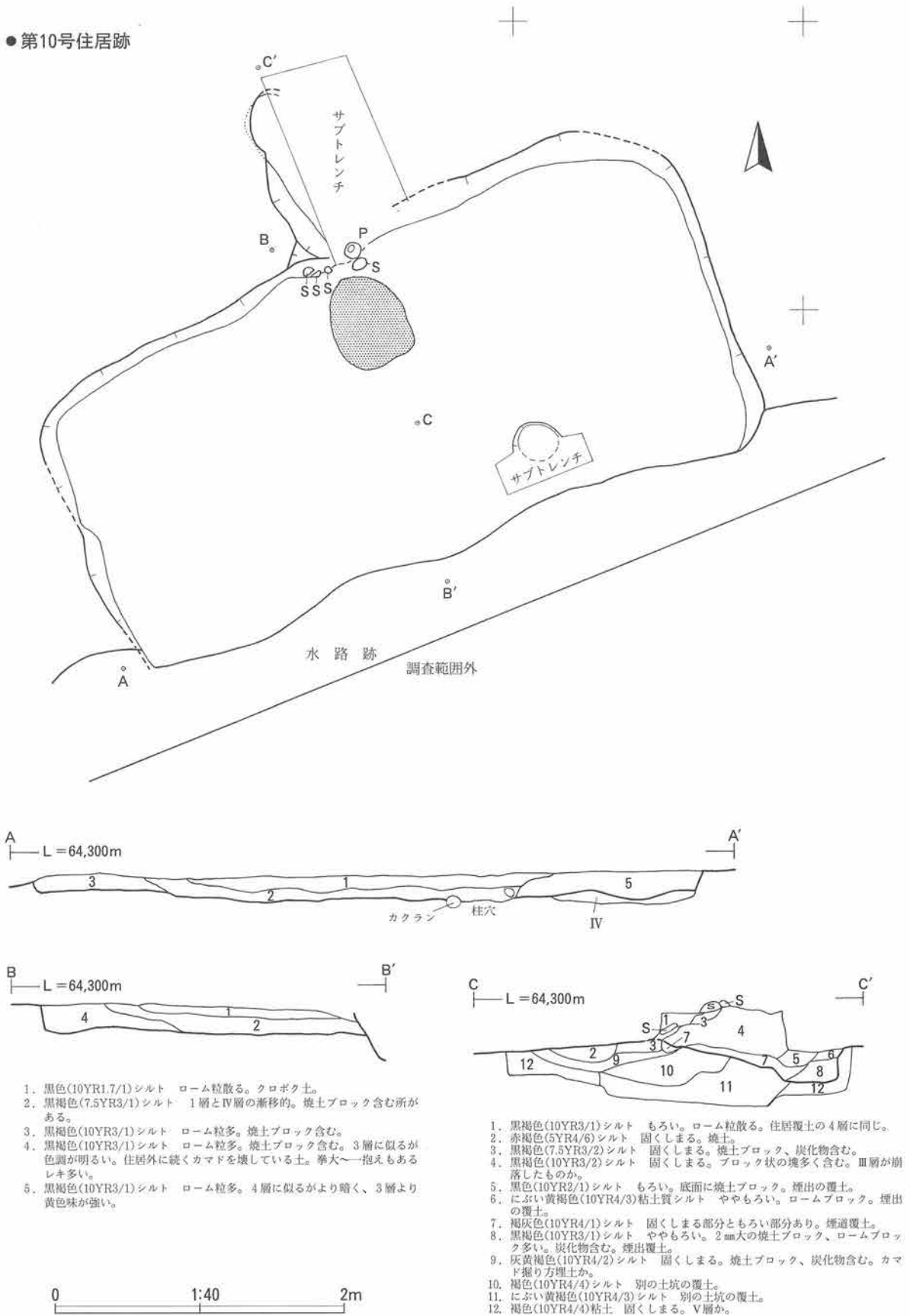


1. 褐色(10YR4/4)と黒褐色(10YR3/1)の混土。シルト。ローム粒多い。2mm程度の炭化物含む。2層と3層が混合したよう。
2. 黒褐色(10YR3/2)シルト。ローム粒散る。柱線跡か。
3. 褐色(10YR4/4)粘土。汚れたIV~V層の再堆積。盛り方理土か。
4. 黒色(10YR2/1)シルト もろい。根によるカクランを受けている。2層とほとんど同じだが、より黒い。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト もろい。ローム粒散る。4層に似るがより黒い。
6. 黒色(10YR1.7/1)シルト。ローム粒散る。他の覆土より圧倒的に黒く、根穴の可能性がある。



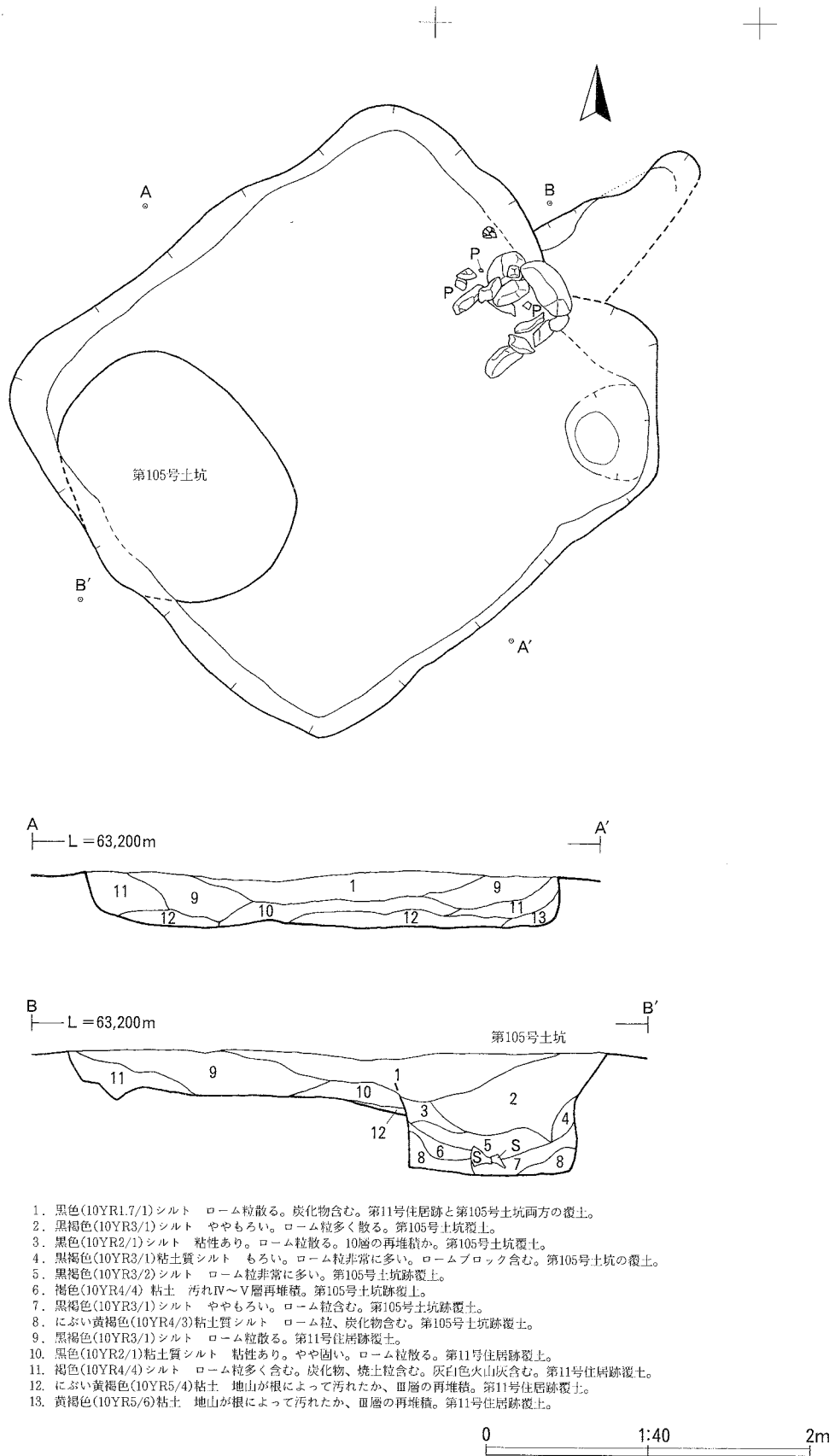
第19図 第8号、第9号住居跡

● 第10号住居跡



第20図 第10号住居跡

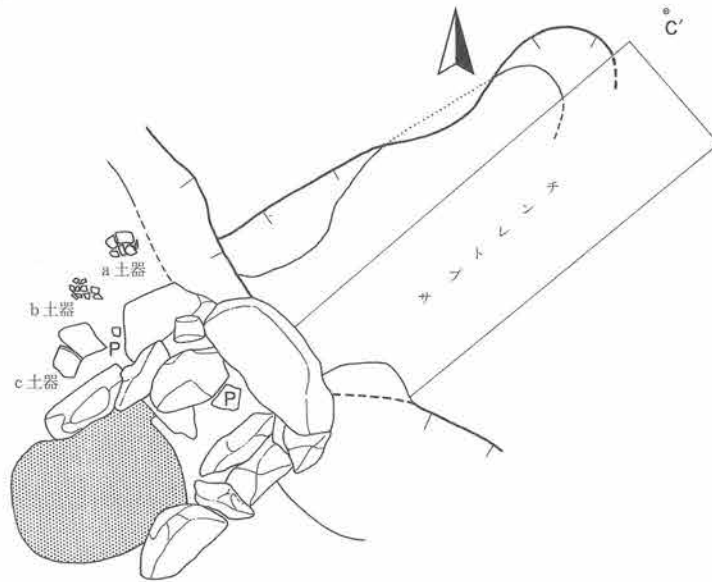
●第11号住居跡



1. 黒色(10YR1.7/1)シルト ローム粒散る。炭化物含む。第11号住居跡と第105号土坑両方の覆土。
2. 黒褐色(10YR3/1)シルト ややもろい。ローム粒多く散る。第105号土坑覆土。
3. 黒色(10YR2/1)シルト 粘性あり。ローム粒散る。10層の再堆積か。第105号土坑覆土。
4. 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト もろい。ローム粒非常に多い。ロームブロック含む。第105号土坑の覆土。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト ローム粒非常に多い。第105号土坑跡覆土。
6. 褐色(10YR4/4)粘土 汚れIV~V層再堆積。第105号土坑跡覆土。
7. 黒褐色(10YR3/1)シルト ややもろい。ローム粒含む。第105号土坑跡覆土。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト ローム粒、炭化物含む。第105号土坑跡覆土。
9. 黒褐色(10YR3/1)シルト ローム粒散る。第11号住居跡覆土。
10. 黒色(10YR2/1)粘土質シルト 粘性あり。やや固い。ローム粒散る。第11号住居跡覆土。
11. 褐色(10YR4/4)シルト ローム粒多く含む。炭化物、焼土粒含む。灰白色火山灰含む。第11号住居跡覆土。
12. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 地山が根によって汚れたか、Ⅲ層の再堆積。第11号住居跡覆土。
13. 黄褐色(10YR5/6)粘土 地山が根によって汚れたか、Ⅲ層の再堆積。第11号住居跡覆土。

第21図 第11号住居跡(1)

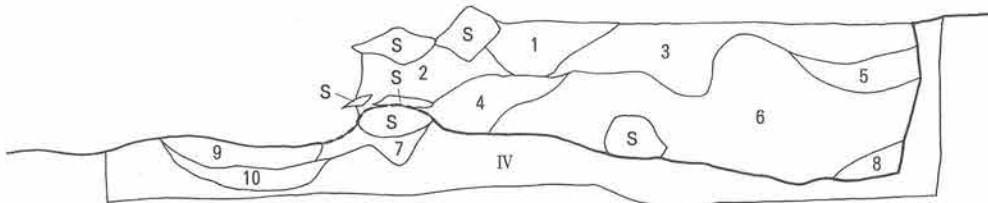
●第11号住居跡 カマド



C

C L = 63,200m

C

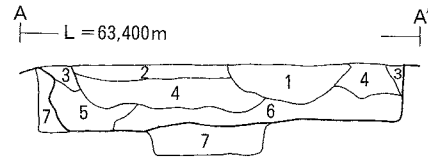
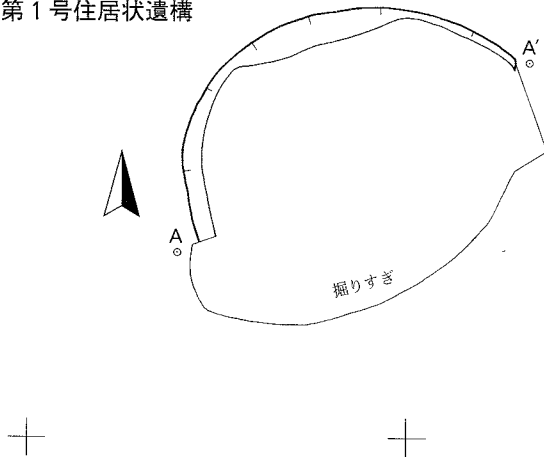


1. 黒色(10YR2/1)シルト ローム粒散る。上面に炭化物。住居覆土の1層と同じ？
2. 黒褐色(10YR3/2)シルト もろい。ローム粒散る。住居覆土と同じ？
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト 灰白色火山灰、ロームブロック含む。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト ややもろい。ロームブロック、焼土ブロック含む。炭化物含む。3層に似る。カマド天井部が落盤したもの？
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト ローム粒散る。炭化物含む。6層に似るが、より暗い。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト 硬化したロームブロック、焼土ブロック含む。ローム粒多。炭化物含む。カマド天井部が落盤したものらしい。ただし底面は焼けておらず、硬化もしていない。
7. 黒褐色(10YR3/2)シルト 非常にもろい。ローム粒散る。石をどけてみたところ、2層と同じようである。
8. 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土ブロック含む。
9. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 焼土。
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト IV層が火を受けて硬化したもの。

0 1:20 1m

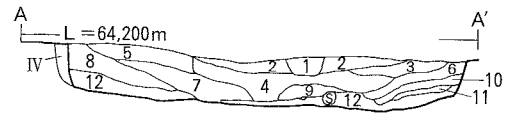
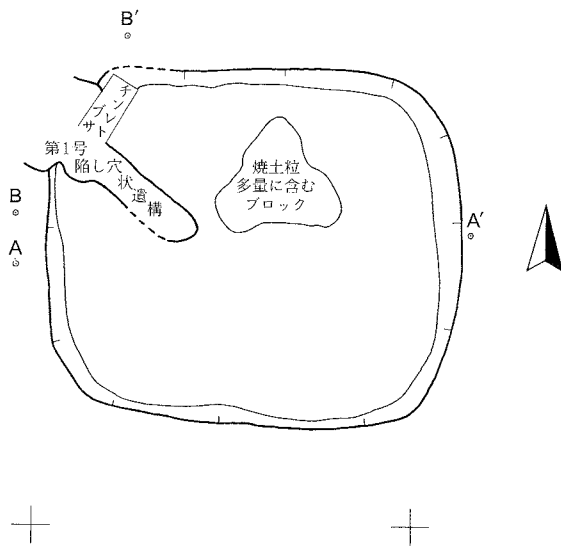
第22図 第11号住居跡(2)

● 第1号住居状遺構

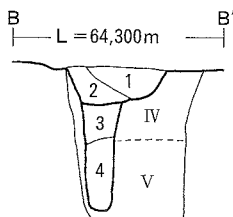


1. 黒褐色(10YR2/3)シルト 5mm程度の炭化物多く、ローム粒含む。最も暗い層。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト 1層より明るく、炭化物の粒小さく少ないが、それ以外は同じ。
3. 褐色(10YR4/4)シルト V層の再堆積。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト 2層よりローム粒多く明るい。焼土ブロック含む。
5. 褐色(10YR4/4)シルト V層の汚れ再堆積に炭化物含む。
6. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)がブロック状に入る。粘土質シルト 4層に似るがV層ブロック多く含む。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層が根によるカクランを受けて汚れたもの。

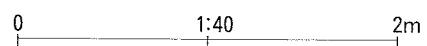
● 第2号住居状遺構



1. 黒色(10YR1.7/1)シルト クロボク。
2. 黒色(10YR2/1)シルト
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト ローム粒多い。
4. 黒褐色(10YR3/1)シルト ロームブロック含む。
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト ダマ状にロームブロック含む。ローム粒多い。
6. にぶい黄褐色(10YR4/2)シルト もろい部分あり。ロームブロック含む。
7. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト ロームブロック多く、埋めもどした土に近い。
8. 黒褐色(10YR3/1)地に霜降り状に黄褐色(10YR5/6)。シルト 埋めもどした土か。
9. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV層のブロック。
10. 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト やや固い。上面に線状に黒色(10YR2/1)。根の腐ったものか。
11. 黒色(10YR2/1)粘土質シルト ややもろい。ロームブロック含む。
12. 黒褐色(10YR3/2)シルト ややもろい。

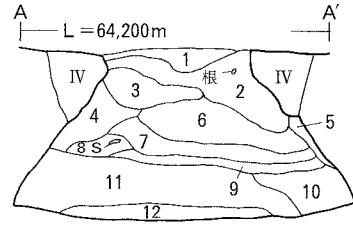
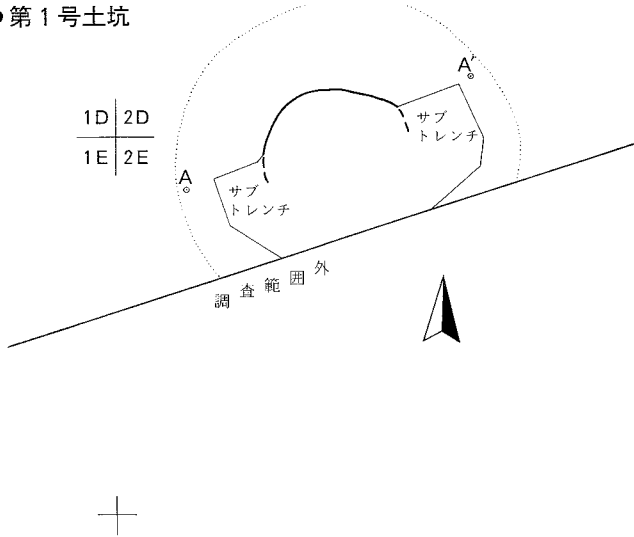


1. 黒褐色(10YR3/1)～暗褐色(10YR3/3)シルト ローム粒散る。炭化物含む。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性あり。IV層の再堆積。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 粘性強い。IV層の再堆積。
4. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 粘性強い。もろい。汚れIV層の再堆積。



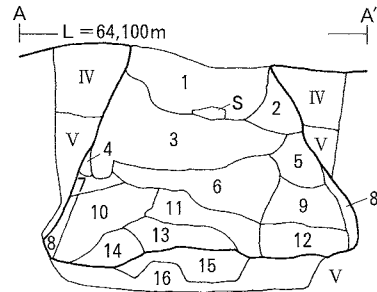
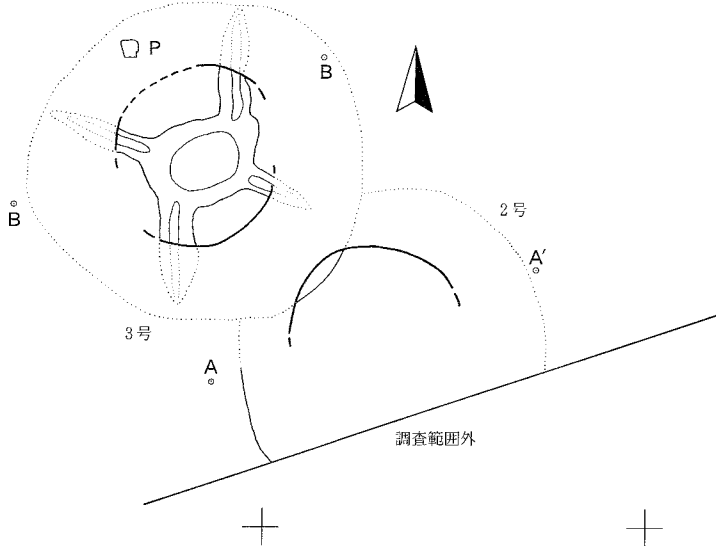
第23図 第1号、第2号住居状遺構

● 第1号土坑

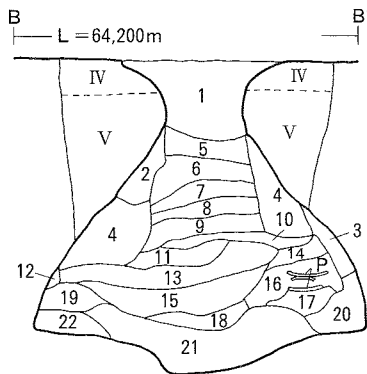


1. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。2~3mmの炭化物多い。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。汚れIV~V層の再堆積に炭化物含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ダマ状のロームブロック含む。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性あり。3層によく似るがロームブロック少ない。
5. 褐色(10YR4/4)シルト 非常にもろい。汚れIV層の再堆積。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト V層のブロック多。炭化物含む。
7. 褐色(10YR4/6)シルト ややもろい。V層のブロック非常に多い。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト
9. 褐色(7.5YR4/4)シルト 非常にもろい。汚れIV層の再堆積。
10. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性あり。汚れIV層の再堆積で、9層によく似るが、より暗い。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト ローム粒多い。
12. 褐色(7.5YR4/4)シルト IV~V層の再堆積。

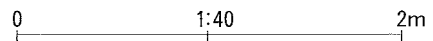
● 第2号、3号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物多い。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。炭化物含む。1層によく似るが、より明るい。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性あり。V層のブロック含む。1層と3層の中間的な明るさ。
4. 褐色(7.5YR4/4)シルト 非常にもろい。V層のブロック含む。
5. 褐色(7.5YR3/4)シルト 粘性あり。2層によく似るが、より暗い。
6. 褐色(7.5YR3/4)シルト 粘性あり。炭化物、小さなロームブロック含む。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト ダマ状のロームブロック含む。
8. 褐色(7.5YR4/4)シルト 粘性あり。非常にもろい。
9. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト IV~V層の汚れ再堆積に炭化物含む。
10. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭化物多い。ローム粒含む。
11. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 粘性あり。
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる部分あり。
13. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。
14. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。
15. 褐色(7.5YR4/4)シルト 粘性強い。非常にもろい。
16. 褐色(10YR4/6)粘土 非常に固くしまる。V層が根等によって変質したものと思われる。

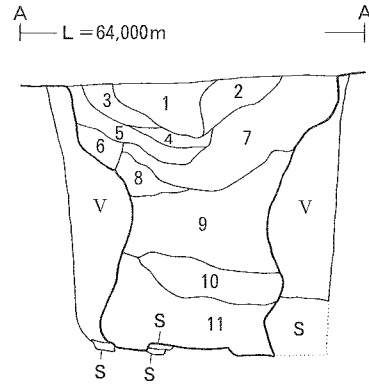
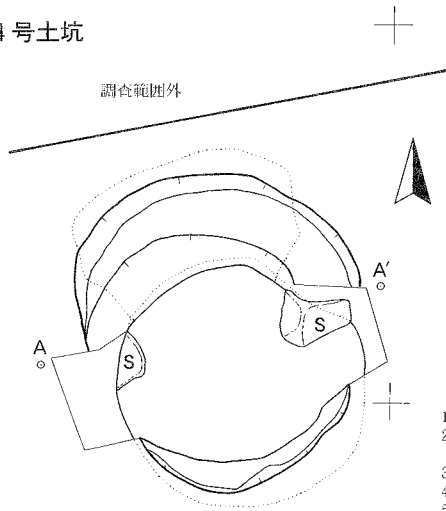


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。炭化物、ダマ状のロームブロック含む。第2号土坑の1層と非常によく似る。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト 非常にもろい。ローム粒含む。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 非常にもろい。粘性あり。IV~V層の再堆積。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい。粘性あり。2層によく似るが、より暗い。
5. 褐色(10YR4/4)シルト 非常にもろい。汚れIV層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト IV層の再堆積。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物含む。
8. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 粘性強い。汚れIV層の再堆積。
9. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。炭化物含む。
10. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 粘性強い。IV層の再堆積。
11. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる部分あり。
12. 暗褐色(10YR3/4)シルト 非常にもろい。
13. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。砂を含む。
14. 暗褐色(10YR3/3)シルト 非常にもろい。16層より暗い。
15. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性あり。炭化物多く、白い灰(粘土質)含む。
16. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 非常にもろい。ローム粒、炭化物含む。
17. 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト 最ももろい。
18. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。
19. 明褐色(7.5YR5/6)粘土質シルト IV層の再堆積。
20. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 粘性強い。
21. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。
22. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。もろい。



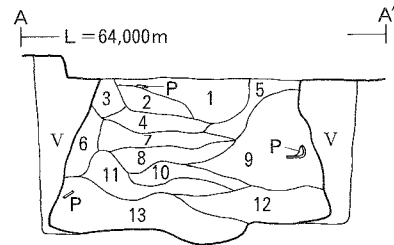
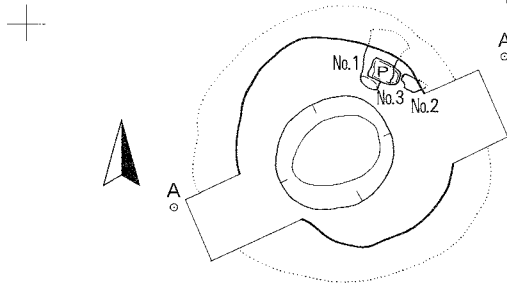
第24図 第1号~第3号土坑

● 第4号土坑



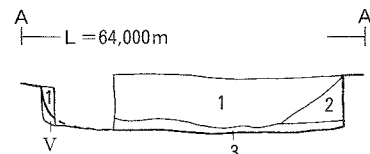
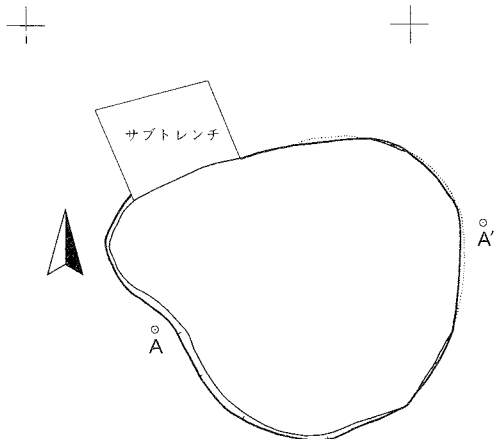
1. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV層粒子多。2~10mmの炭化物多い。
2. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト しまる部分ともろい部分あり。IV~V層の再堆積(細かいV層ブロック)に7層の土混じる。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。IV~V層の再堆積(細かいV層ブロック含む)に1層の上混じる。
4. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。1層とほとんど同じ(炭灰含む)。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト しまる部分ともろい部分あり。3層とほとんど同じ(炭化物比較的多い)。
6. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。2~3cm大のV層ブロック含む。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。1~3cmの炭化物多い。V層ブロック含む。
8. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。汚れIV~V層の再堆積(細かいV層ブロック)に炭化物含む。
9. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/3)まだらに入る。粘土質シルト もろい。IV~V層の再堆積(V層ブロックは1cm大が主だが、2cm程度のも)と7層土の混土。埋め戻した土と思う。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト もろい。IV~V層の再堆積(1~4cmのV層ブロック多)。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト もろい。9層の逆で7層土にIV~V層再堆積土(細かいV層ブロック)混じる。

● 第5号土坑

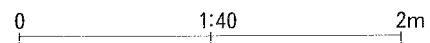


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 2~5mmの炭化物多く含む。
2. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積に炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 2~5mmの炭化物含む。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト V層の汚れ再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。ややもろい。3, 7層とほとんど同じだが、もろい。
7. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 3層とほとんど同じだが、やや暗い。
8. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。V層の汚れ再堆積に炭化物含む。
9. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト V層のブロック含む。IV~V層の再堆積。
10. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。
11. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト IV~V層の汚れ再堆積に炭化物含む。
12. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)がまだらに入る。粘土質シルト もろい。IV層の汚れ再堆積。
13. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)の小ブロック混じる。シルト粘性強い。

● 第6号土坑

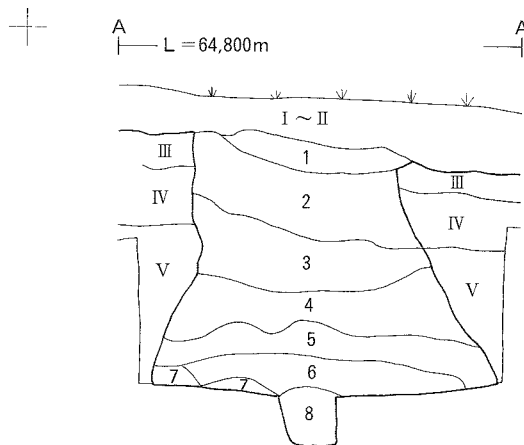
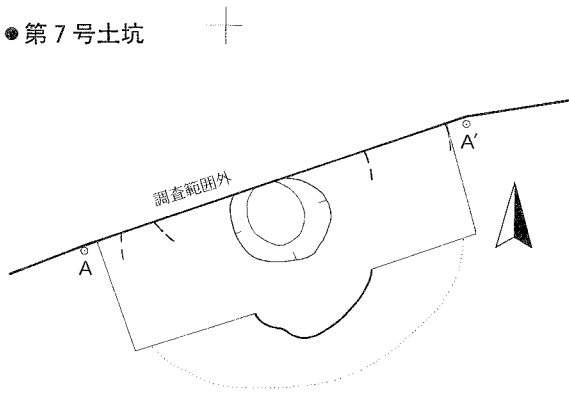


1. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。黄褐色土に黒土がブロック状に混じる。明らかに埋め戻した土。
2. におい黄褐色(10YR4/3)と褐色(10YR4/6)の混合。粘土質シルト IV~V層の再堆積。
3. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 非常に固くしまる。V層の汚れ再堆積?



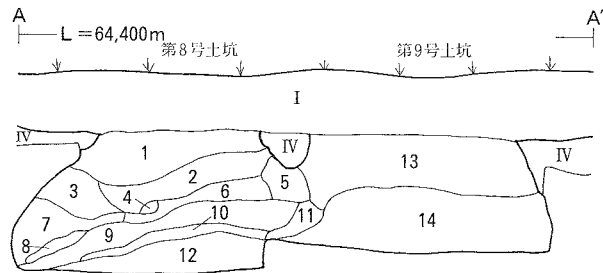
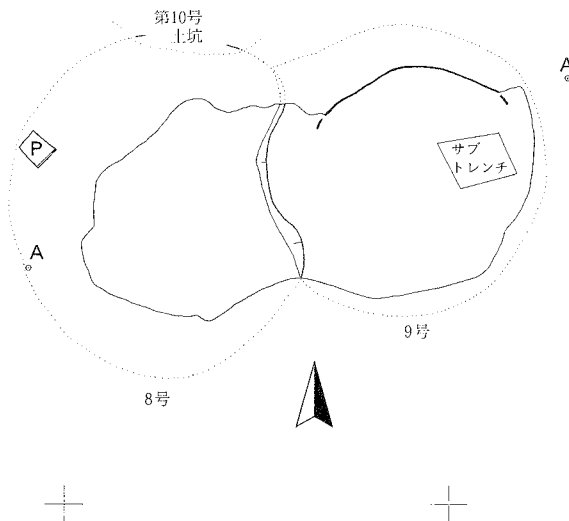
第25図 第4号~第6号土坑

● 第7号土坑

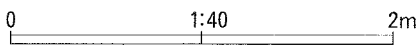


1. 黒褐色(10YR2/3)シルト IV～V層ブロック多。2～3mmの炭化物、焼土粒含む。III層上部に似る。
2. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 炭化物、焼土粒含む。周囲のIII層と区別できない。
3. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10YR2/3)混じる。粘土質シルト しまる部分ともろい部分あり。IV～V層ブロック顕著に含む崩降状の上。
4. 黄褐色(10YR5/8)粘土質シルト IV～V層の再堆積 (V層ブロック含む)。
5. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10YR2/3)混じる。粘土質シルト しまる部分ともろい部分あり。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。色調は明るい、3層とほとんど同じ。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)に褐色(10YR4/6)ブロック混じる。シルト しまる部分ともろい部分あり。6層とほとんど同じだが、V層ブロック顕著。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)に黄褐色(10YR5/8)ブロック混じる。シルト もろい。7層とほとんど同じだが、V層ブロック少なく、もろい。

● 第8、9号土坑

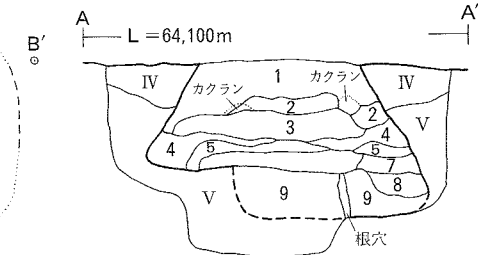
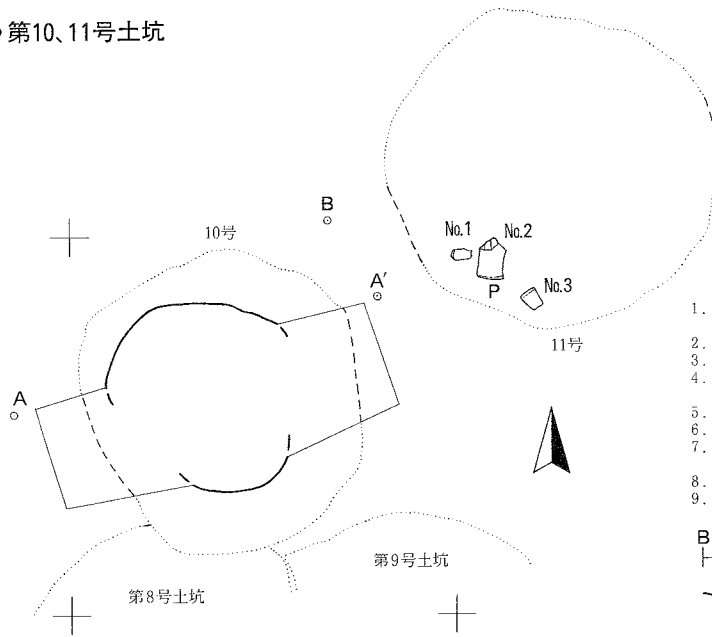


1. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 固くしまる。ローム粒散る。炭化物含む。13層によく似る。第8号土坑の覆土。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト 固くしまる。1層によく似るが、より暗く、ダマ状のブロック含む。第8号土坑の覆土。
3. 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 固くしまる。2層とほとんど同じだが、より暗い。第8号土坑の覆土。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト 固くしまる。V層のブロック。第8号土坑の覆土。
5. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 固くしまる。2層とほとんど同じだが、より明るい。13層に非常によく似ており、第8号土坑の覆土。
6. 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだが、より黒く見える。第8号土坑の覆土。
7. 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだが、ロームのダマ多く、より明るい。第8号土坑の覆土。
8. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 固くしまる。汚れたIV～V層の再堆積。第8号土坑の覆土。
9. 褐色(10YR4/6)砂質シルト 固くしまる。IV～V層の再堆積。第8号土坑の覆土。
10. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 固くしまる。ローム粒多く含む、炭化物含む。第8号土坑の覆土。
11. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 固くしまる。ロームブロック、炭化物含む。13層と14層の混土的。
12. 黄褐色(10YR5/6)シルト 粘性強い。IV～V層の再堆積。第8号土坑の覆土。
13. 褐色(10YR4/4)砂質シルト 固くしまる。ローム粒散り、炭化物含む。第9号土坑の覆土。
14. 黄褐色(10YR5/6)砂質シルト 固くしまる。IV～V層の再堆積に炭化物混じる。第9号土坑の覆土。

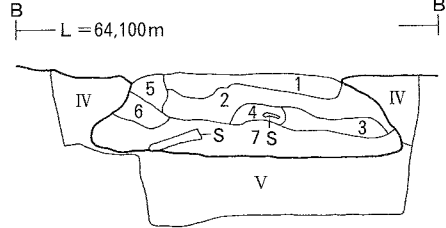


第26図 第7号～第9号土坑

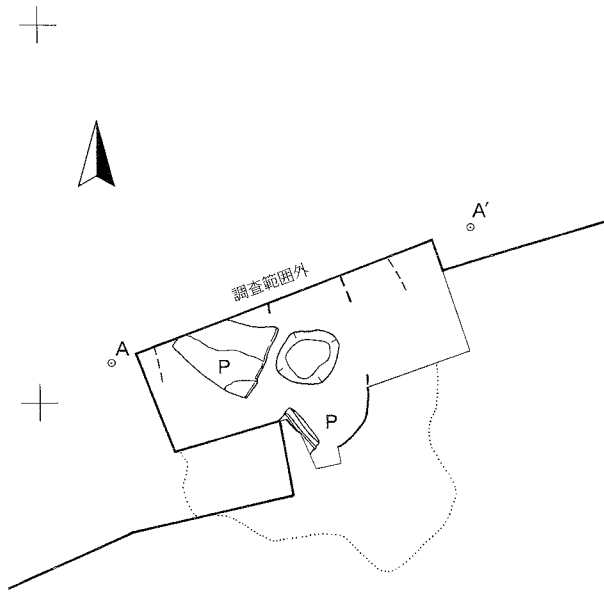
●第10、11号土坑



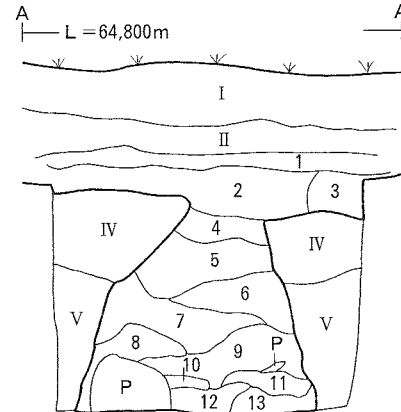
1. 黄褐色(10YR5/6)シルト 根によるカクラン多く、一部ボソボソ。IV～V層の再堆積。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。汚れたIV～V層の再堆積。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。5mm程度の炭化物多く含む。
4. 黄褐色(10YR5/6)地に斑に灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。IV～V層の汚れ再堆積。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 固くしまる。IV～V層の再堆積。
6. にぶい黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。炭化物、斑土粒含む。
7. にぶい黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。6層とほとんど同じだが黄色味が強い。
8. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。粘性あり。根によるカクランか。
9. 褐色(10YR4/6)粘土 V層が根によるカクランを受けたような上。V層よりはしまり弱い。



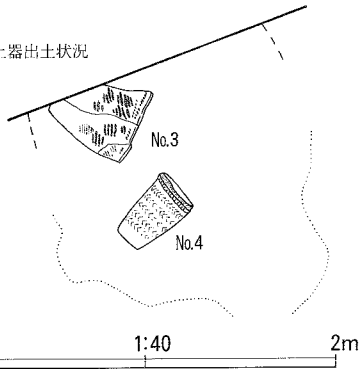
●第12号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)地に黒褐色(10YR3/1)の斑。粘土質シルト 固くしまる。レモン色の土?のブロック、炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。細かいローム粒散る。炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。2層に似るが炭化物少なく黄色味が強い。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。
5. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。IV～V層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。IV～V層の再堆積。根によるカクラン多い。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 非常に固くしまる。ローム粒散る。炭化物含む。



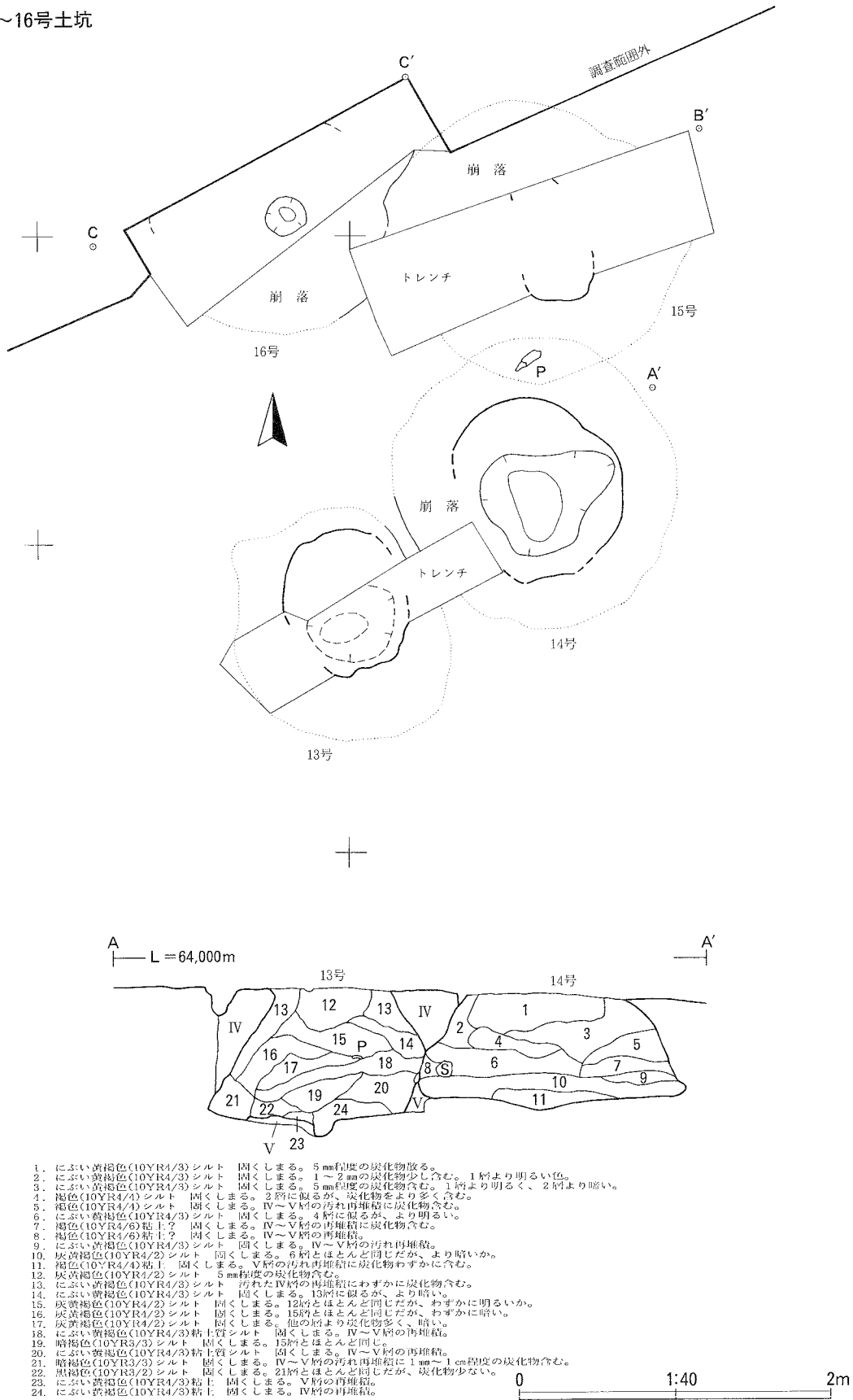
土器出土状況



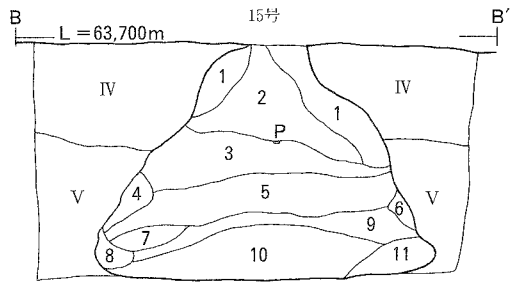
1. 黒褐色(10YR3/2)シルト 皿層の一部。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト ローム粒多い。炭化物わずかに含む。皿層の一部と思われる。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ローム粒非常に多い。炭化物わずかに含む。皿層の一部と思われる。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)地に黄褐色(10YR5/6)の斑。シルト ロームブロック含む。IV層が根によって汚れた程度。
5. 褐色(10YR4/4)粘土 4層との違いはロームブロック含まず、黄味がうすいだけ。汚れIV層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)粘土 5層とほとんど同じだが、ロームブロック含む。炭化物わずかに含む。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 6層とほとんど同じだが、より暗く、炭化物が多い。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 7層とほとんど同じだが、より暗く、固くしまる。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 固くしまる。8層とほとんど同じだが、より明るい。
10. 黒褐色(10YR3/2)粘土
11. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。もろい。9層とほとんど同じだが、より明るい。
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性非常に強い。もろい。ローム粒少なく、より一様に暗い。
13. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 固くしまる。11層とほとんど同じだが、ローム粒少なく、より一様に明るい。

第27図 第10号～第12号土坑

● 第13～16号土坑

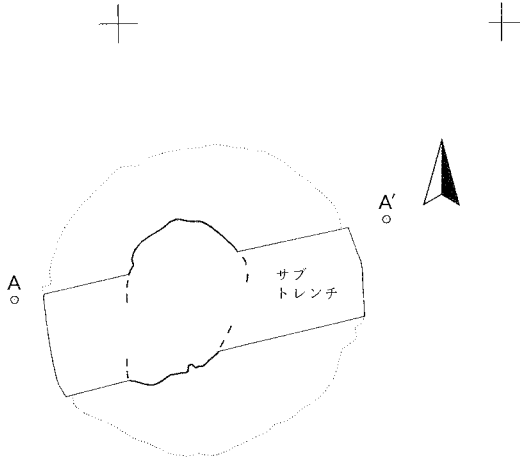


第28図 第13号～第16号土坑(1)

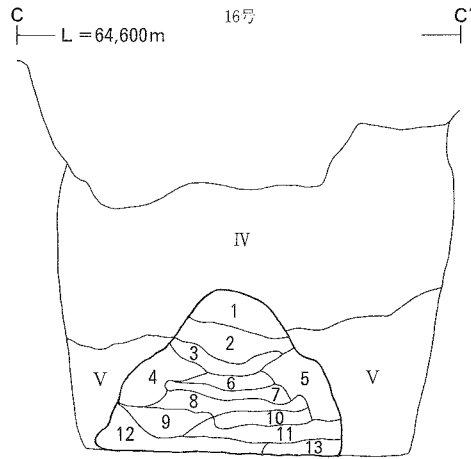
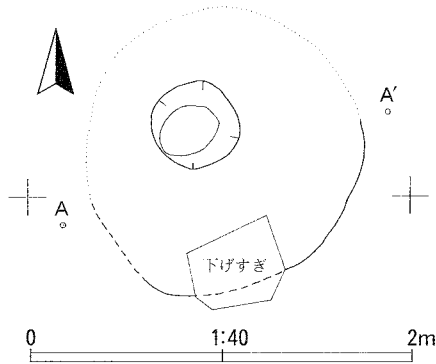


1. 褐色(10YR4/6)シルト 炭化物わずかに含む。汚れIV層の再堆積。根によるカクランのせい、2層との境、周囲のIV層との境ははっきりしない。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 1~5mm程度の炭化物含む。径5mm程度のロームブロック含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。2層とほとんど同じだが、2層より暗い。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。ロームブロック含まない以外3層とほとんど同じだが、より暗い。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだが、より明るい。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト ややもろい。5層とほとんど同じだが、より暗い。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる部分ともろい部分あり。炭化物含む。5層より暗く、9層より明るい。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる部分ともろい部分あり。根によるカクラン受ける。炭化物多い。
9. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。炭化物最も多く、顕著に暗い。
10. 褐色(10YR4/4)粘土 ややもろい。IV~V層の再堆積。
11. 褐色(10YR4/4)粘土 もろい部分と固くしまる部分あり。10層とほとんど同じだが、より暗い。

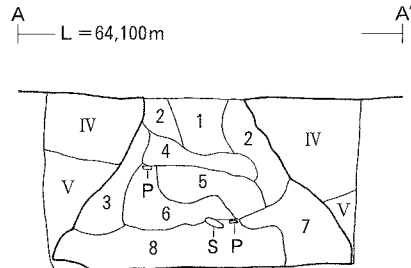
●第17号土坑



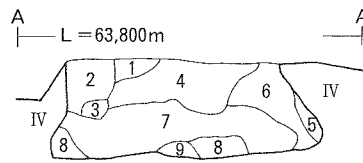
●第18号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)地に暗褐色(10YR3/4)の餅。シルト IV層起源土多い。炭化物含む。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 1層に似るが、IV層起源土少ない。
3. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性やや強い。2層とほとんど同じだが、さらにIV層起源土少ない。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる部分あり。2層とほとんど同じだが、炭化物多い。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。もろい。4層とほとんど同じだが、炭化物少ない。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる部分あり。2層とほとんど同じだが、炭化物含まない。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。3層とほとんど同じ。
8. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。固くしまる部分あり。汚れIV層の再堆積。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。6層とほとんど同じ。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。もろい。8層に似るが、暗い。
11. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。IV層起源土の上含む。9、10層に似るが、より暗い。
12. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。固くしまる。汚れV層のブロックの再堆積。
13. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 粘性強い。もろい部分多い。V層のブロック含む。



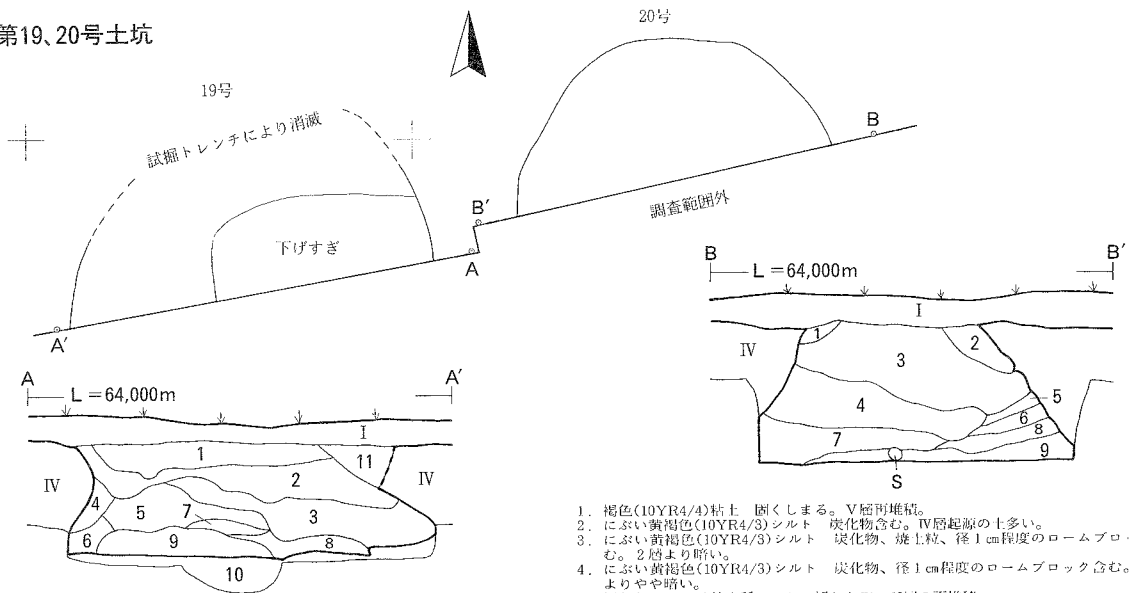
1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。炭化物わずかに含む。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)地に褐色(10YR4/6)の斑。シルト ローム粒多く、炭化物わずかに含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 2層とほとんど同じだが、より暗いか。
4. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。ロームブロック、炭化物含む。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物多く含む、最も暗い。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。ローム粒多い。炭化物含む。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。6層とほとんど同じだが、炭化物が大きく(1cm大)、多い。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。6層とほとんど同じだが、ローム粒より少ない。



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ややもろい。4層が根によるカクランでボンボンになったもの？
2. 黄褐色(10YR5/6)地ににぶい黄褐色(10YR4/3)混じる。粘土質シルト IV層と4層の混土的。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。V層のブロック。
4. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト 固くしまる。ローム粒散り、炭化物含む。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。木根が腐ったもの？
6. 褐色(10YR4/4)シルト 4層に似るが、よりローム粒多い。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。4層に似るが、ダマ状のロームブロック含む。
8. 黄褐色(10YR5/8)粘土 固くしまる。炭化物含む。V層のブロック。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。炭化物、焼土粒含む。V層のブロック。

第29図 第13号~第16号土坑(2)、第17号、第18号土坑

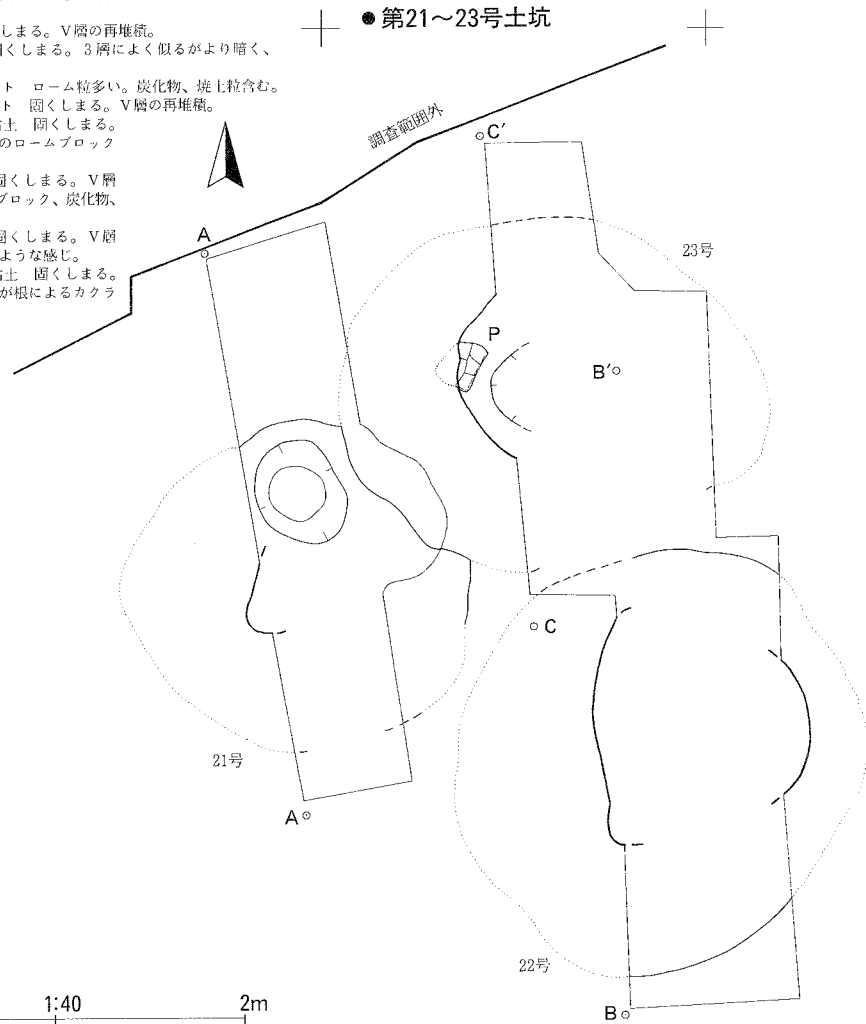
● 第19、20号土坑



1. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。炭化物多い。V層と2層の混土の。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。炭化物最も多い。ダマ状のロームブロック含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。2層とよく似るが、より明るく、炭化物少ない。
4. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。V層の再堆積。
5. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。3層とよく似るがより暗く、2層より明るい。
6. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト ローム粒多い。炭化物、焼土粒含む。
7. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 固くしまる。IV～V層の再堆積にダマ状のロームブロック含む。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。V層の再堆積にダマ状のロームブロック、炭化物、焼土粒含む。
10. 黄褐色(10YR5/8)粘土 固くしまる。V層に似ているが、やや濁ったような感じ。
11. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 固くしまる。炭化物二番目に多い。IV層が根によるカクランを受けたもの？

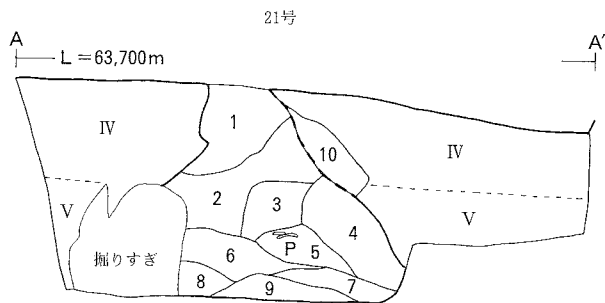
1. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。V層再堆積。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物含む。IV層起源の土多い。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物、焼土粒、径1cm程度のロームブロック含む。2層より暗い。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物、径1cm程度のロームブロック含む。3層よりやや暗い。
5. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 汚れたIV～V層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト ややもろい。IV層起源の土含む。
7. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。炭化物、焼土粒含む。4層より黄色味が強い。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV～V層の再堆積。
9. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。V層の再堆積。7層より暗い。

● 第21～23号土坑

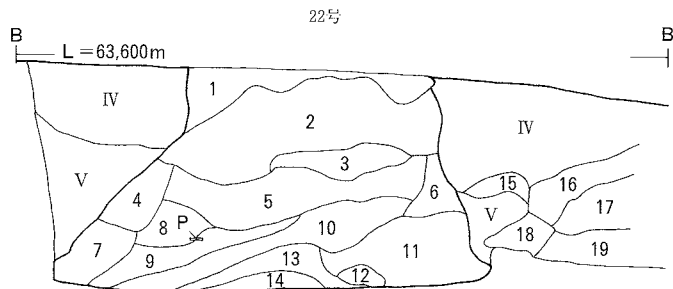


0 1:40 2m

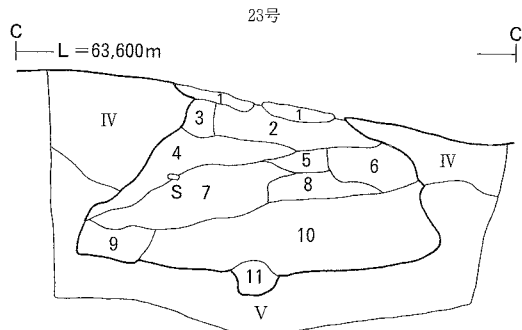
第30図 第19号、第20号土坑、第21号～第23号土坑(1)



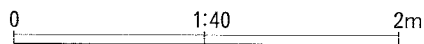
1. におい黄褐色(10YR4/3)地に黄褐色(10YR5/6)の斑。シルト ローム粒多く、1mm程度の炭化物散る。
2. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。1層に似るが、ローム粒より少なく、炭化物の粒が大きい(3~5mm)。
3. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 2層よりさらにローム粒少ない。
4. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV~V層の再堆積に3~5mmの炭化物含む。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだが、より暗い。
6. 灰黄褐色~におい黄褐色(10YR4/2~4/3)シルト 粘性強い。ローム粒、炭化物含む。最も暗い層。
7. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。IV~V層の汚れ再堆積。
8. 褐色(10YR4/4)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 粘性強い。6層に似るが、よりローム粒多い。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 もろい部分と固くしまる部分あり。IV~V層の再堆積。
10. におい黄褐色(10YR4/3)地に黄褐色(10YR5/6)の斑。シルト 1層に非常によく似るが、ローム粒多く、炭化物ほとんど含まない。根によるカクランと考える。



1. 褐色(10YR4/6)におい黄褐色(10YR5/3)混じる。シルト IV層が根によるカクランを受けたものに近い。
2. 褐色(10YR4/6)粘土 ごくわずか1mm程度の炭化物含む。IV層の再堆積?
3. 褐色(10YR4/6)におい黄褐色(10YR5/3)混じる。粘土 1層より暗い。1~3mmの炭化物含む。
4. 褐色(10YR4/6)に灰黄褐色(10YR4/2)混じる。シルト もろい。汚れIV~V層の再堆積に炭化物含む。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土 ややもろい。IV~V層の再堆積に炭化物含む。
6. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。5層とほとんど同じだが、より暗い。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV~V層の再堆積。
8. 褐色(10YR4/6)シルト もろい。IV~V層の再堆積。
9. 褐色(10YR4/1)シルト ややもろい。最も暗い層。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。汚れIV~V層の再堆積。
11. 黄褐色(10YR5/6)粘土 非常に固くしまる部分ともろい部分あり。IV~V層の再堆積。拳人以上のV層ブロック含む。
12. 褐色(10YR4/6)粘土 もろい。IV~V層の再堆積。
13. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。9層に似るが、ローム粒多。
14. 灰黄褐色(10YR4/2)と黄褐色(10YR5/6)の混土。シルト 粘性強い。13層に似るが、上部にV層ブロック含む。
15. 黄褐色(10YR5/6)におい黄褐色(10YR5/3)の混土。粘土 非常に固くしまる。V層が根によるカクランを受けたもの。
16. 第23号土坑の4層
17. 第23号土坑の7層
18. 第23号土坑の9層
19. 第23号土坑の10層

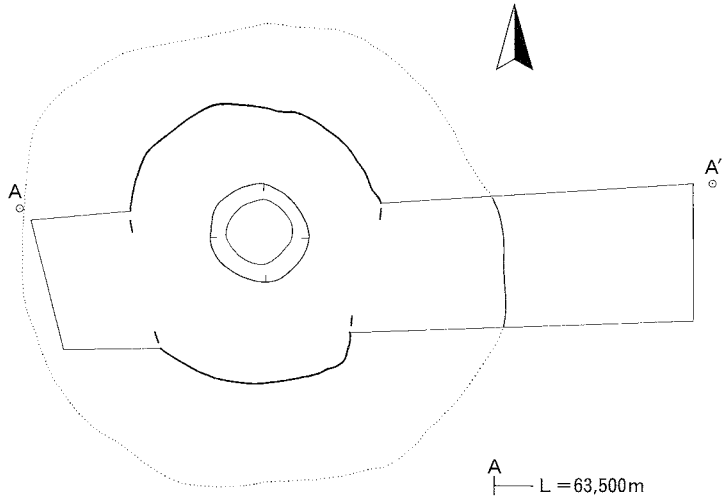


1. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。2mm程度の炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 2層との違いは炭化物含まないことと黄色味が強いこと。
4. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。ロームブロック顕著に含むのが特徴。
5. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。4層に似るが、より暗い。
6. 褐色(10YR4/6)シルト 汚れIVの再堆積。
7. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。最も暗い層。炭化物比較的多い。
8. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。5層に似るが、やや暗い。
9. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。粘性ややあり。汚れIV~V層の再堆積。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。粘性あり。IV層の再堆積。
11. 褐色(10YR4/4)粘土 粘性強い。汚れV層の再堆積か。

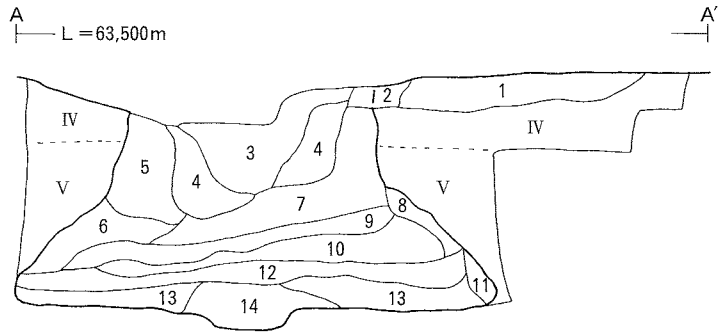


第31図 第21号~第23号土坑(2)

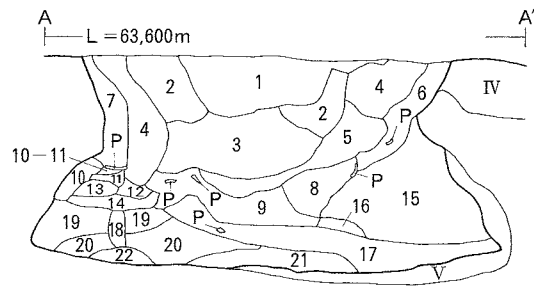
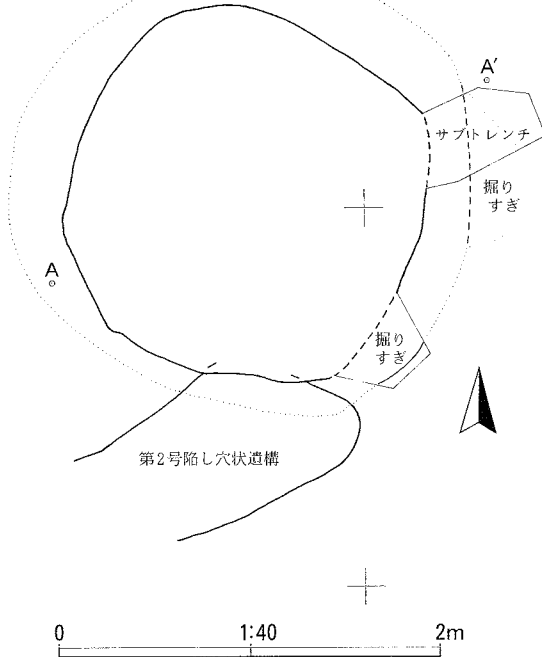
●第24号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト IV層が根で汚れた感じ。下場がはっきりしないので別の土坑とはせず、第52号土坑と同様に判断。
2. 褐色(10YR4/4)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。シルト ややもろい。炭化物わずかに含む。1層よりさらに根によるカクラン的。
3. 黒褐色(10YR3/1)シルト 1mm程度の炭化物多い。
4. 黒褐色(10YR3/1)と褐色(10YR4/4)の混土。シルト 1mm程度の炭化物多い。
5. 黄褐色(10YR5/6)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。シルト 炭化物含む。IV層の汚れ再堆積。
6. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層の細かいブロック再堆積。
7. 褐色(10YR4/6)地にわずかに黒褐色(10YR3/1)の斑。粘土 IV層の再堆積に炭化物含む。
8. 褐色(10YR4/4)粘土 もろい。IV層の汚れ再堆積。
9. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。
10. 黄褐色(10YR5/6)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。粘土 IV～V層の再堆積。
11. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 非常にもろい。ローム粒多。
12. 褐灰色(10YR4/1)シルト
13. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 12層とほとんど同じだが、より明るい。
14. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 13層とよく似るが、より明るい。



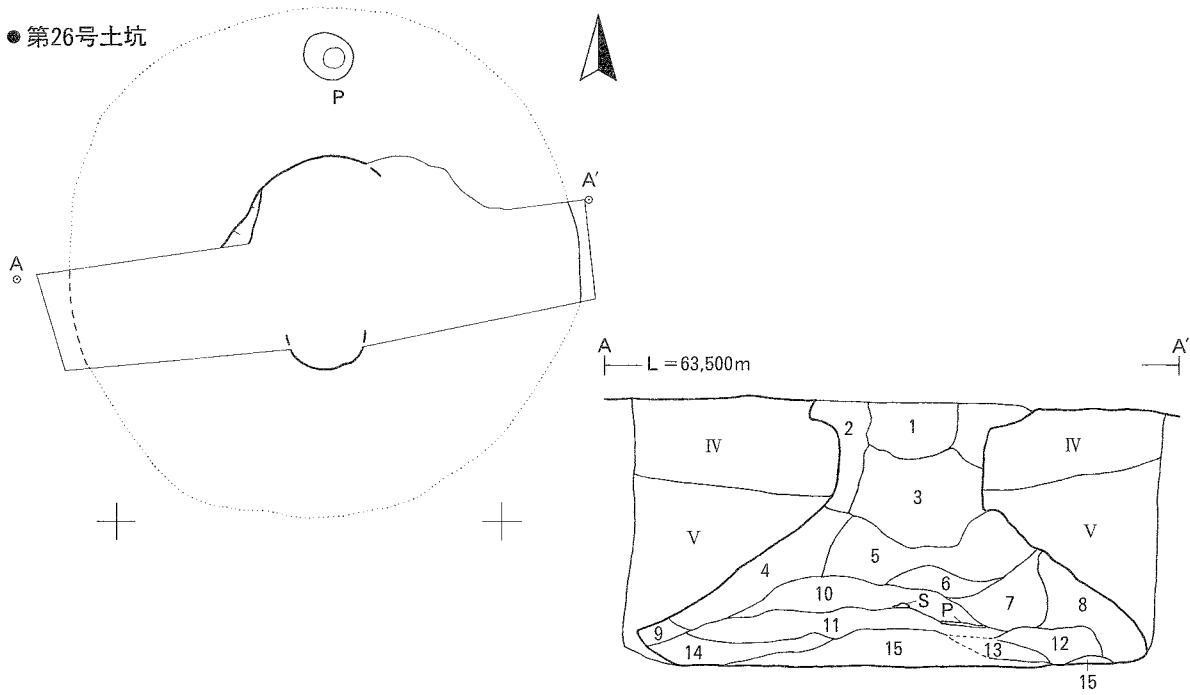
●第25号土坑



1. 黒褐色(10YR2/2)シルト 固くしまる。ローム粒散る。炭化物わずかに含む。
2. 黒褐色(10YR2/3)シルト 固くしまる。1層とほとんど同じだが、より明るい。
3. 黒褐色(10YR2/3)シルト 固くしまる。1、2層とほとんど同じだが、色調が1、2層の間期的。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ローム粒多。炭化物含む。
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。2層とほとんど同じ。
6. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。汚れIV～V層の再堆積に炭化物混じる。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。6層によく似るが、基本的な色調がより明るい。
8. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ロームブロック、炭化物含む。
9. 黒褐色(10YR2/2)シルト 固くしまる。粘性あり。3層によく似るが、より暗く、ローム粒少ない。
10. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト ややもろい。粘性あり。汚れIV層の再堆積。
- 10-11. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト ややもろい。
11. 褐色(7.5YR4/4)粘土質シルト IV層の再堆積。
12. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。ローム粒多く含む。
13. 暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルト ややもろい。粘性強い。汚れIV層の再堆積。
14. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ローム粒多く含む。
15. 褐色(7.5YR4/4)粘土 ややもろい。IV(～V層)の再堆積。
16. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。ローム粒多。
17. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。炭化物含む。
18. 褐色(7.5YR4/3)粘土 もろい。IV層のブロック。
19. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。炭化物含む。III層に少し似る。
20. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 炭化物含む。
21. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。粘性あり。炭化物含む。
22. 褐色(7.5YR4/4)粘土 固くしまる。V層のブロック。

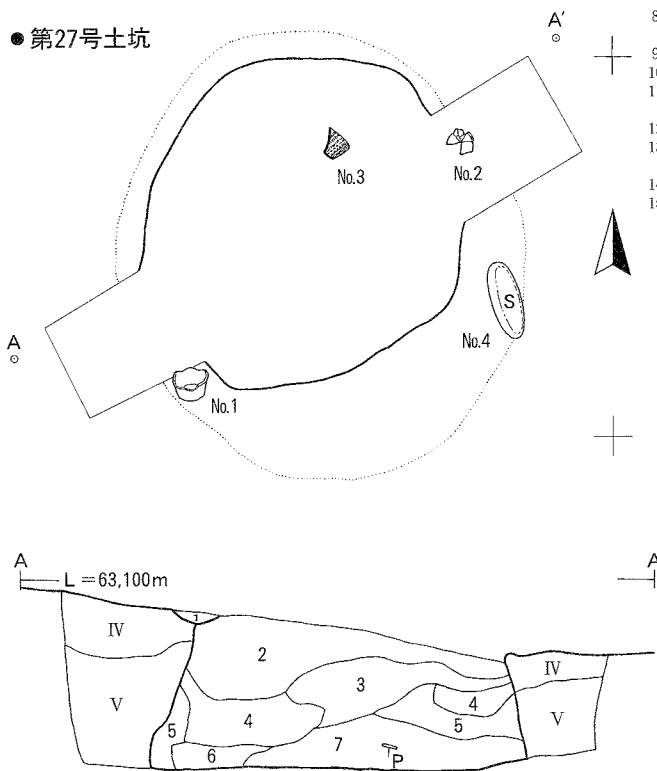
第32図 第24号～第25号土坑

● 第26号土坑

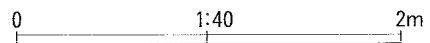


1. 黒褐色(10YR3/1)とにぶい黄褐色(10YR4/3)の混土。シルト 固くしまる。細かい炭化物散る。ローム粒多い。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)と黄褐色(10YR5/6)の混土。粘土
3. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV~V層の再堆積でV層ブロック含む。
4. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト もろい。ローム粒多い。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト 粘性強い。ローム粒、炭化物含む。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。ローム粒多い。4層より明るい。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)と黄褐色(10YR5/6)の混土。シルト 粘性強い。ローム粒多い。6層に似るが、より明るい。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)に黄褐色(10YR5/6)の斑。シルト 非常にもろい。7層に似るが、より暗く、ローム粒少ない。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV~V層の再堆積。
10. 黄褐色(10YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。粘土 IV層の汚れ再堆積。
11. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。炭化物比較的多い。5層に似るが、より明るい。
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 粘性強い。IV層の汚れ再堆積。10層より明るい。
13. にぶい黄褐色(10YR4/3)と黄褐色(10YR5/6)の混土。粘土 粘性強い。非常にもろい。12層とほとんど同じだが、より明るい。
14. 褐色(10YR4/4)シルト 非常にもろい。IV層の汚れ再堆積に炭化物含む。
15. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。IV層の汚れ再堆積で、14層より暗い。

● 第27号土坑

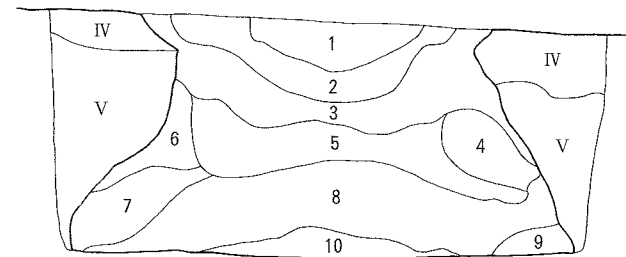
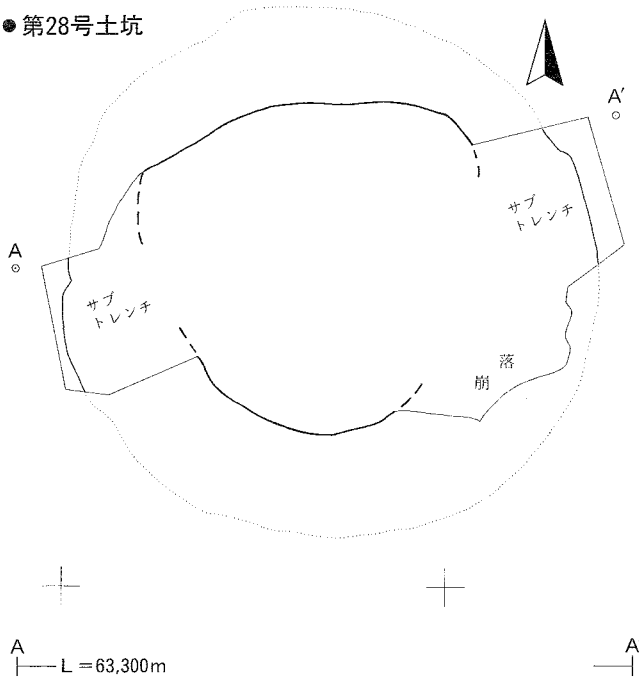


1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい。根によるカクラン。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 汚れIV層の再堆積に1mm程度の炭化物含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。炭化物含む。
4. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト IV層の再堆積に炭化物わずかに含む。
5. 褐色(10YR4/4)シルト ローム粒多い。炭化物含む。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ローム粒、炭化物多い。3層とほとんど同じだが、炭化物より多い。



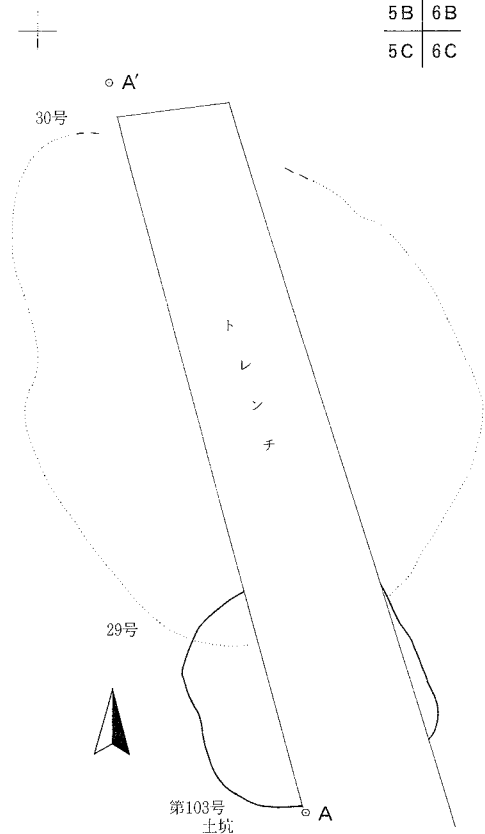
第33図 第26号、第27号土坑

● 第28号土坑



1. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。IV層の再堆積。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 1~3mmの炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト IV層の汚れ再堆積に3mm程度の炭化物含む。
4. 褐色(10YR4/6)粘土 V層のブロック再堆積で、IV層の土も混じる。
5. 褐色(10YR4/6)粘土 3層とほとんど同じだが、より明るい。
6. 褐色(10YR4/6)粘土 4層とほとんど同じ。
7. 褐色(10YR4/6)粘土 6層によく似るが、IV層起源の土は含まないようである。
8. 褐色(10YR4/6)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。粘土 ややもろい。3層とほとんど同じ。東西両側はV層のこまかいブロックを多く含み、別層かも。
9. 褐色(10YR4/6)粘土 もろい。V層の細かいブロック再堆積。
10. 黒褐色(10YR3/2)シルト IV層の細かいブロック、炭化物含む。

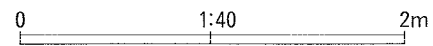
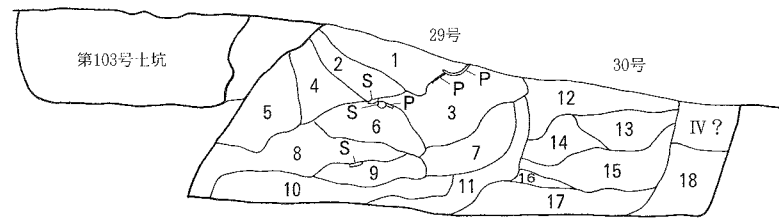
● 第29、30号土坑



5B	6B
5C	6C

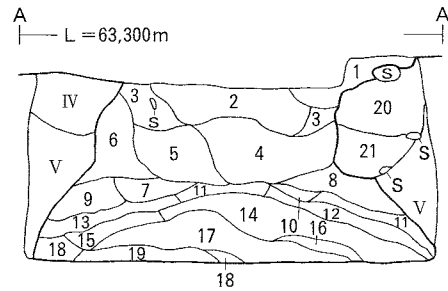
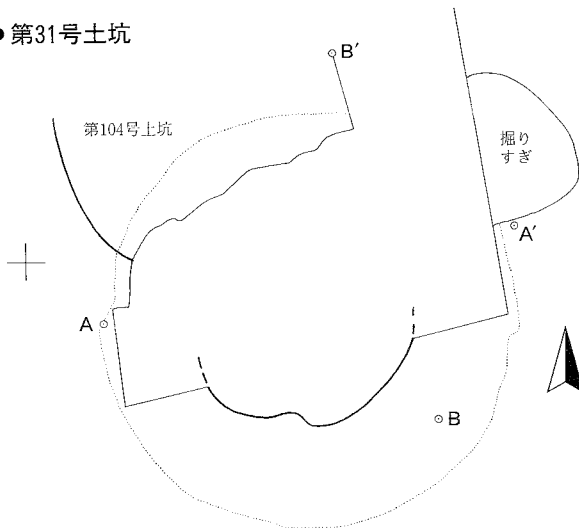


1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 5mm程度の炭化物比較的多い。下部に土器含む。第29号土坑。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 汚れIV層再堆積。第29号土坑。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 1層に似るが、より明るく炭化物少ない(1mm程度のもの)。第29号土坑。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土? IV層再堆積。第29号土坑。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土? 4層とほとんど同じだが、より暗い。第29号土坑。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)地に黄褐色(10YR5/6)の斑。シルト IV層ブロック含む。第29号土坑。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層再堆積に1mm程度の炭化物わずかに含む。第29号土坑。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層汚れ再堆積。7層とほとんど同じ。第29号土坑。
9. 褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。第29号土坑。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層再堆積。第29号土坑。
11. 灰黄褐色(10YR4/2)と黄褐色(10YR5/6)の混土。シルト IV層粒子含む。1mm程度の炭化物わずかに。第29号土坑。
12. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 2層とほとんど同じだが炭化物含み、より暗いようだ。第30号土坑。
13. 褐色(10YR4/6)シルト 汚れIV層再堆積に5mm程度の炭化物含む。第30号土坑。
14. 褐色(10YR4/4)シルト IV層粒子多い。
15. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト IV層ブロック含む。
16. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層の再堆積。
17. 黄褐色(10YR5/6)粘土 やわらかく汚れているが、IV層の一部か。
18. 黄褐色(10YR5/6)粘土 やわらかく汚れているが、IV層の一部か。本根多い。



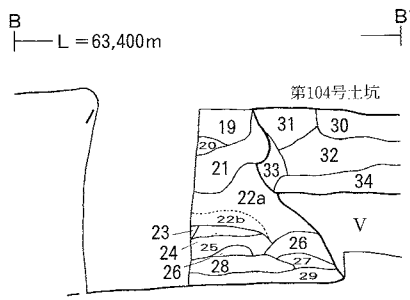
第34図 第28号~第30号土坑

●第31号土坑

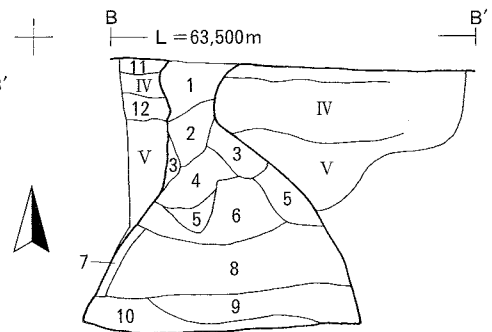
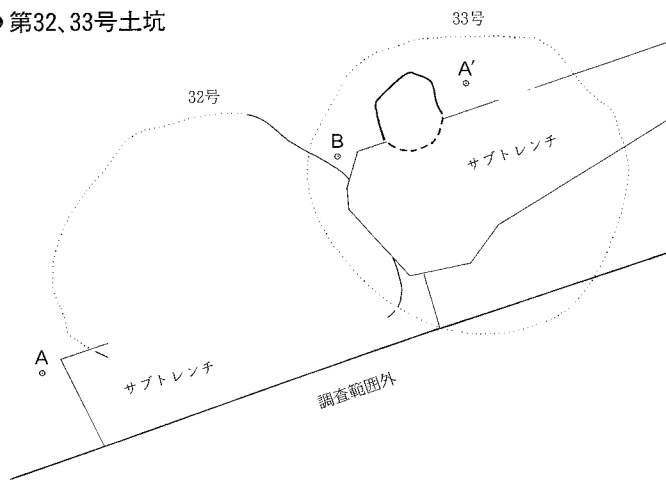


1. 黒褐色(10YR3/1)地に黄褐色(10YR5/6)の斑。シルト 2mm程度の炭化物、1cm大のロームブロック含む。
2. 黒褐色(10YR3/1)シルト 1層との違いは色と、ロームブロックほとんど含まないこと。焼土粒含む。
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。2層との違いはローム粒多いこと。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト 2層との違いは色と、炭化物多いこと。3層より暗い。
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト 3層とほとんど同じだが、より明るい。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 3層よりローム粒多く、より明るい。
7. 黒褐色(10YR3/2)シルト 5, 6層より暗く、4層とほとんど同じ。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。汚れIV層再堆積に炭化物含む。
9. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。粘性強い。汚れIV層再堆積。
10. 黒褐色(10YR3/1)シルト 粘性強い。炭化物含む。
11. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト ロームブロック含む。
12. 黄褐色(10YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト V層再堆積。焼土ブロック含む。
13. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 IV層再堆積。
14. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 7層とほとんど同じだが、より明るい。
15. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。汚れIV層再堆積。
16. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層再堆積。
17. 黒褐色(10YR3/2)シルト 14層とほとんど同じだが、より暗い。
18. 黄褐色(10YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 粘性強い。もろい。IV層のブロック多い。
19. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層の再堆積。
20. 黄褐色(10YR5/6)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。粘土 炭化物、焼土粒わずかに含む。IV層が根によるカクランで汚れたものと思う。
21. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物、焼土粒含む。20層と同様と考えるが、それにしては一様で、やや不自然である。

L = 63,400m

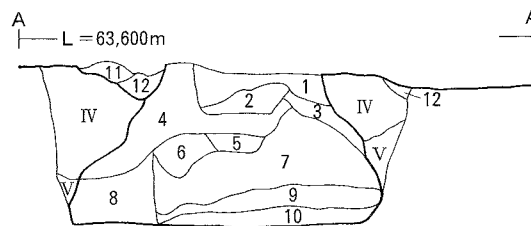


●第32、33号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。2mm程度の炭化物、ロームブロック含む。
2. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 固くしまる。IV～V層の再堆積に炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。
4. 褐色(10YR4/4)シルト ダマ状のロームブロック多く含む。炭化物含む。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。ローム粒、炭化物含む。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。ダマ状のブロック、炭化物、焼土ブロック含む。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物(2mm～1cm)最も多く含む。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト ロームブロック、径2cm程度の炭化物含む。7層よりやや暗い。
9. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。汚れたIV～V層の再堆積に炭化物含む。
10. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。炭化物、焼土粒含む。9層より暗い。
11. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 焼土粒含む。焼土遺構が根によるカクランを受けたもの。
12. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト 固くしまる。熱によってIV層が硬化したもの。焼土遺構に伴う。

L = 63,600m

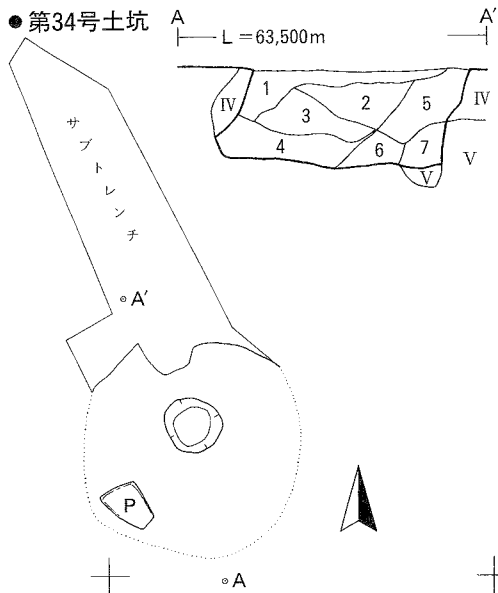


1. 褐色(10YR4/4)シルト 炭化物含む。ローム粒多い。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 部分的にもろい。IV層のブロック含む。
4. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト ややもろい。粘性あり。炭化物、焼土粒含む。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト ローム粒、ブロック、炭化物含む。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。ダマ状のロームブロック、炭化物含む。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 非常にもろい。
8. 褐色(10YR4/4)シルト 部分的に固くしまる。V層のブロック、炭化物含む。
9. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト ダマ状のロームブロック、炭化物含む。
10. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 9層とほとんど同じだが、よりしまる。
11. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。根による汚れ。
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 非常に固くしまる。焼土粒、炭化物含む。根によるカクラン。

0 1:40 2m

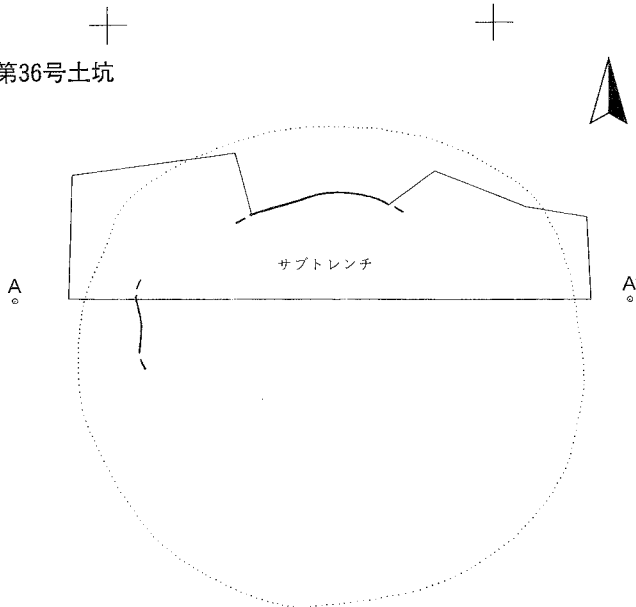
第35図 第31号～第35号土坑

●第34号土坑

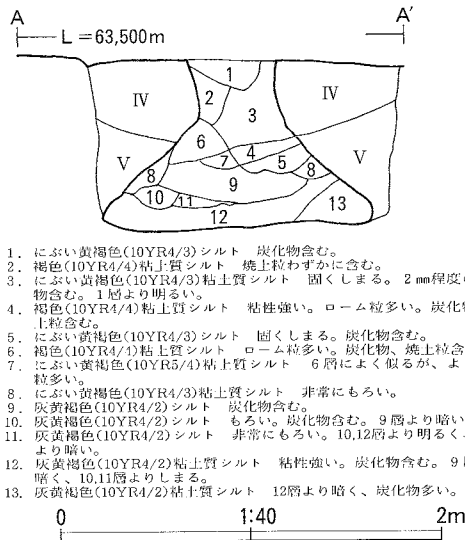
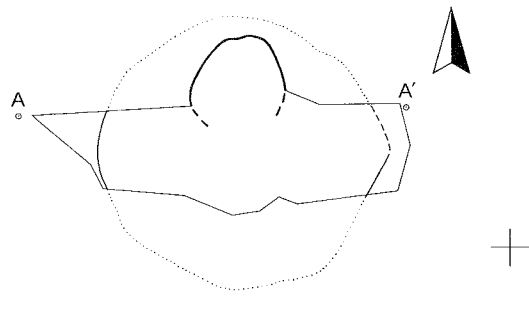


1. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。炭化物含む。
2. 黄褐色(10YR5/6)地ににおい黄褐色(10YR5/4)のブロック。粘土質シルト 炭化物、焼土粒含む。IV～V層と1層の混上の。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。ややもろい。炭化物含む、焼土粒わずかに含む。1層によく似るがより明るい。
4. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。炭化物、焼土粒含む。1、3層によく似るが、より暗い。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積に炭化物、焼土粒含む。
6. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。V層の再堆積。
7. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。V層の再堆積に焼土粒多く、炭化物含む。

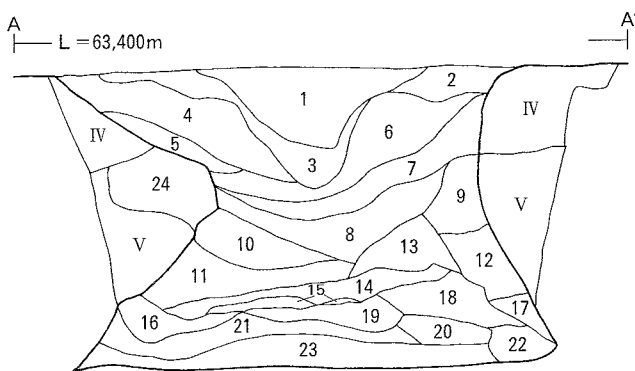
●第36号土坑



●第35号土坑



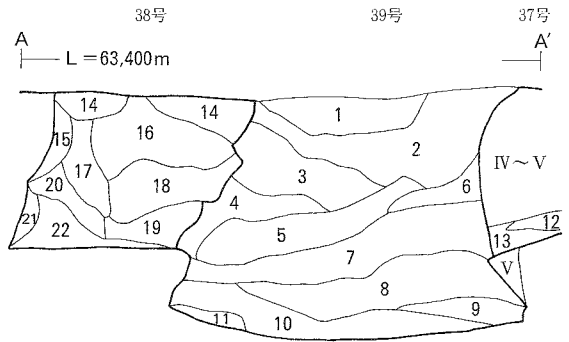
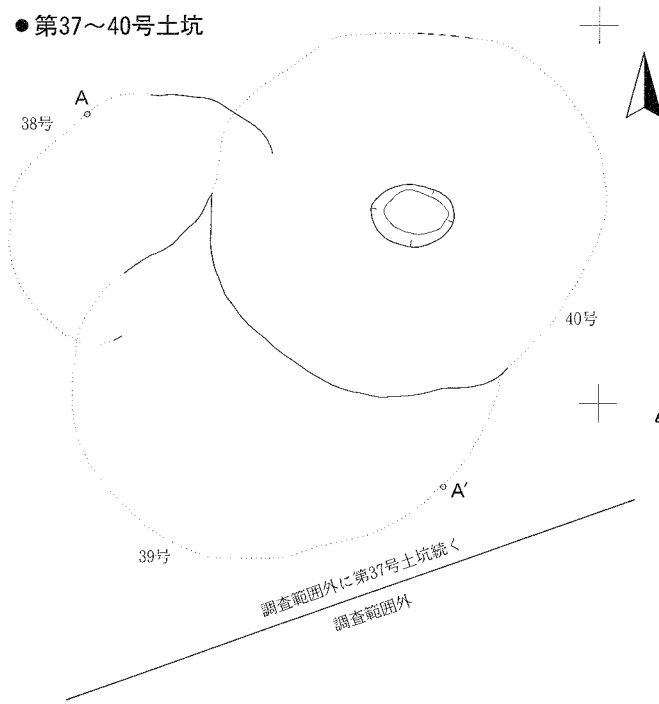
1. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 焼土粒わずかに含む。
3. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。2mm程度の炭化物含む。1層より明るい。
4. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 粘性強い。ローム粒多い。炭化物、焼土粒含む。
5. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。炭化物含む。
6. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト ローム粒多い。炭化物、焼土粒含む。
7. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 6層によく似るが、より焼土粒多い。
8. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 非常にもろい。
9. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。9層より暗い。
10. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト もろい。炭化物含む。9層より暗い。
11. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 非常にもろい。10,12層より明るく、9層より暗い。
12. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト 粘性強い。炭化物含む。9層より暗く、10,11層よりしまる。
13. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト 12層より暗く、炭化物多い。



1. 黒褐色(10YR2/2)シルト ローム粒散る。炭化物含む。
2. 黒褐色(10YR2/3)シルト 固くしまる。1層と色調が異なるだけ。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ローム粒多く、炭化物含む。
4. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。ローム粒多く含む。炭化物、焼土粒含む。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層の再堆積。
6. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト ローム粒多く、炭化物含む。
7. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 汚れIV～V層の再堆積に炭化物含む。
8. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 汚れIV～V層の再堆積に炭化物含む。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV～V層の再堆積。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV～V層の再堆積。
11. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 汚れIV～V層の再堆積。反対側に大きな石皿。
12. 褐色(10YR4/6)粘土 V層のブロック多い。IV～V層の再堆積にほんの少し炭化物含む。
13. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層の再堆積にほんの少し炭化物含む。
14. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト
15. におい黄褐色(10YR5/4)と黒褐色(10YR2/2)の混上。粘土質シルト。場所によってもろい。
16. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 汚れIV～V層の再堆積。
17. 黄褐色(10YR5/6)とにおい黄褐色(10YR4/3)の混上。粘土質シルト
18. 褐色(10YR4/6)粘土 IV～V層の再堆積。
19. 黄褐色(10YR5/6)粘土 場所によってもろい。IV層～V層の再堆積。
20. 灰黄褐色(10YR4/2)地に多量の黄褐色(10YR5/6)のブロック。粘土 場所によってもろい。V層のブロック状再堆積。
21. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土 IV～V層の再堆積。
22. 黄褐色(10YR5/6)に黒褐色(10YR3/1)混じる。粘土 非常にもろい。
23. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土
24. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 炭化物、レキわずかに含む。根によるカクランと思われる。

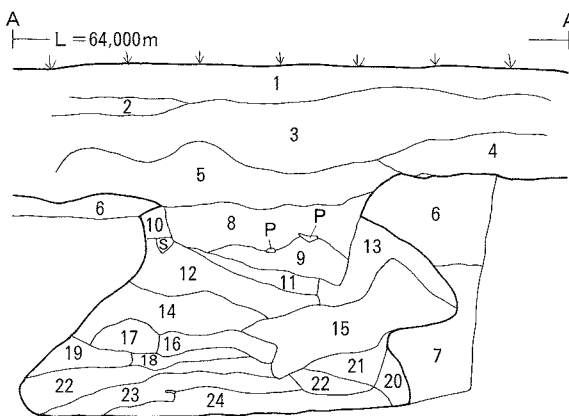
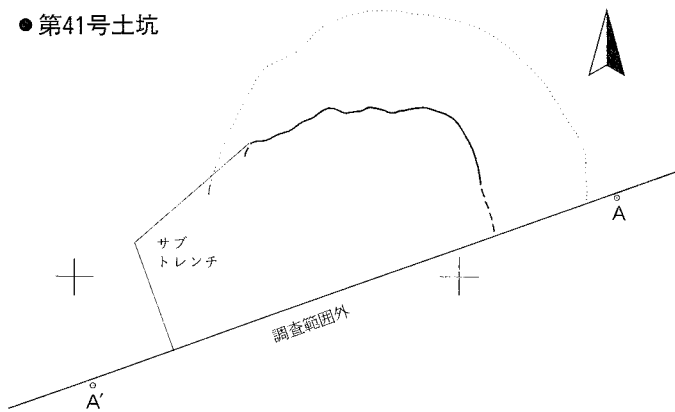
第36図 第34号～第36号土坑

●第37～40号土坑

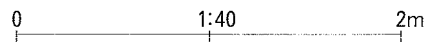


1. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。径4～5cmのロームブロック含む。炭化物含む。第39号土坑の覆土。
2. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。1, 3層との違いは、ロームブロックほとんど含まないことだけ。第39号土坑の覆土。
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。下面に沿って帯状のロームブロック並ぶ。第39号土坑の覆土。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだが、ロームブロック含まない。第39号土坑の覆土。
5. 黄褐色(10YR5/6)地に黒褐色(10YR3/2)混じる。シルト ローム粒、ブロック多い。炭化物含む。第39号土坑の覆土。
6. 褐色(10YR4/6)とにぶい黄褐色(10YR4/3)の混土。シルト 粘性強い。2, 5層に似るが、ロームブロックほとんど含まない。第39号土坑の覆土。
7. 黒褐色(10YR3/2)シルト 粘性強い。ローム粒、炭化物含むが、ロームブロックはほとんど含まない。第39号土坑の覆土。
8. 黄褐色(10YR5/6)のすき間ににぶい黄褐色(10YR4/3)。粘土 固くしまる。V層の再堆積に炭化物含む。第39号土坑の覆土。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 もろい。IV～V層の再堆積に炭化物含む。第39号土坑土坑の覆土。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。ややもろい。炭化物、焼土粒含む。第39号土坑の覆土。
11. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。V層のブロック。第39号土坑の覆土。
12. 明褐色(7.5YR5/6)シルト 焼土粒多い。第37号土坑の覆土。(調査範囲外に続く)
13. 明褐色(7.5YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 粘性強い。焼土粒、炭化物含む。第37号土坑の覆土。
14. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。第38号土坑の覆土。
15. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。第38号土坑の覆土。
16. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。炭化物、ダマ状のロームブロック多く、焼土粒含む。第38号土坑の覆土。
17. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。炭化物含む。ローム粒多い。
18. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。17層より暗い。2mm程度の炭化物含む。
19. 褐色(10YR4/4)シルト ローム粒多く、炭化物、焼土粒含む。
20. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。汚れIV層の再堆積に炭化物含む。
21. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。握りすぎか(V層)?
22. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト 固くしまる。炭化物、焼土粒含む。

●第41号土坑

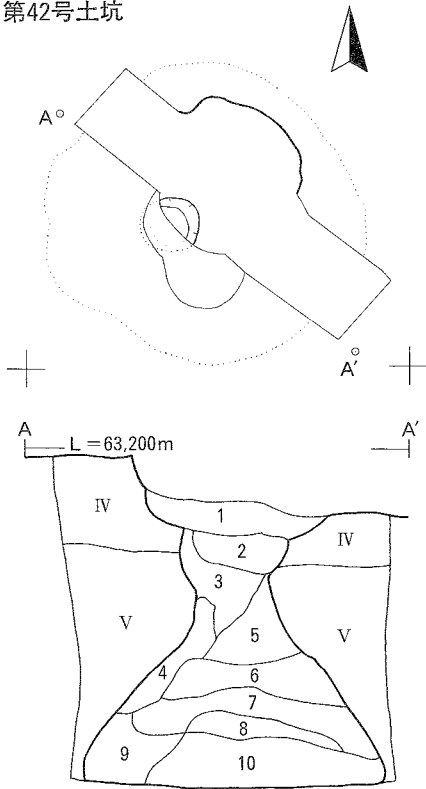


1. 盛土(1層) 上面-耕作土、下部-黄褐色土と黒土の混合層。
2. 黒色(10YR2/1)に黄褐色(10YR5/6)混じる。シルト 固くしまる。I層の一部と思われる。
3. 黒色(10YR1.7/1)シルト II層。
4. 黒褐色(10YR2/2)シルト III層の一部。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト III層。
6. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。V層。
8. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト 固くしまる。ローム粒多。炭化物含む。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト やや粘性あり。炭化物、焼土粒、ローム粒含む。
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 IV層が根によってよごれたものか。
11. 褐色(7.5YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積に焼土粒が多く混じったもの。
12. 褐色(10YR4/4)粘土 IV～V層の再堆積に炭化物、焼土粒混じる。
13. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト しまる部分ともろい部分あり。IV層が根によるクラックを受けたものに近い。
14. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV～V層の再堆積に炭化物混じる。
15. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV～V層の再堆積に焼土粒多く、炭化物混じる。
16. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV～V層の再堆積。
17. 黄褐色(10YR5/8)粘土 もろい。IV層の再堆積。
18. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
19. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト IV～V層の再堆積に炭化物混じる。
20. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 非常にもろい。IV層の再堆積。
21. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。V層の再堆積。
22. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層の再堆積。
23. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物混じる。
24. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 固くしまる。V層の再堆積に炭化物、焼土粒混じる。



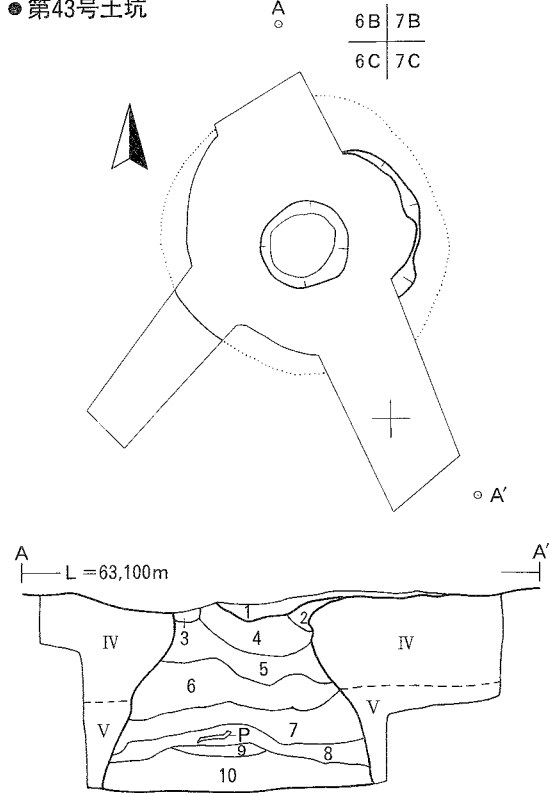
第37図 第37号～第41号土坑

● 第42号土坑



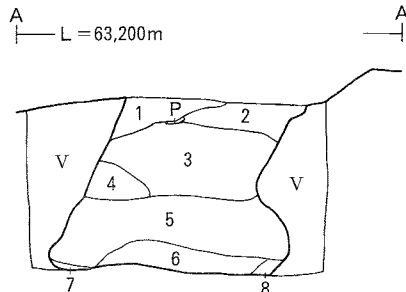
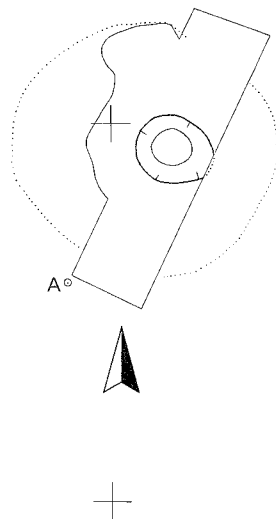
1. 褐色(10YR4/4)シルト IV層粒子、ブロック多い。炭化物含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。1mm程度の炭化物、5mm程度のIV層ブロック散る。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。2層とほとんど同じだが、より暗い。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 非常にもろい。
5. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)ブロックまだらに入る。シルト もろい。VI層粒子、IV~V層粒子、ブロック含む。
6. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)小ブロックまだらに入る。シルト もろい。5層に似るが、より暗い。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 非常にもろい。5層とほとんど同じ。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。6層に少し似るが、より暗く、炭化物含む。
9. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック入る。シルト 最ももろい。V層ブロック多く含む。
10. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)混じる。シルト 7層とほとんど同じ。

● 第43号土坑



1. 第30号焼土。
2. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 焼土粒含む。IV層再堆積。
3. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト ほぼIV層そのもの。
4. 暗褐色(10YR3/4)と褐色(10YR4/6)の混合に明赤褐色(2.5YR5/8)まだらに入る。シルト IV層粒子多く、炭化物含む。
5. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/4)まだらに入る。シルト IV層粒子多い。
6. 褐色(10YR4/6)シルト IV層再堆積に炭化物含む。
7. 褐色(10YR4/6)に明赤褐色(2.5YR5/8)小ブロックまだらに入る。シルト IV層再堆積に炭化物含み、焼土粒多い。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。V層ブロック含む。
9. 褐色(10YR4/4)に黄褐色(10YR5/6)ブロックはいる。シルト もろい。V層ブロック再堆積。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 汚れV層再堆積。

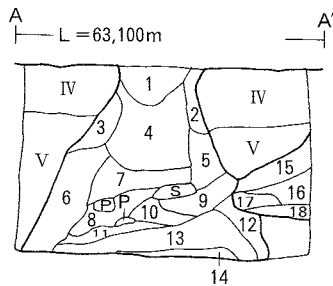
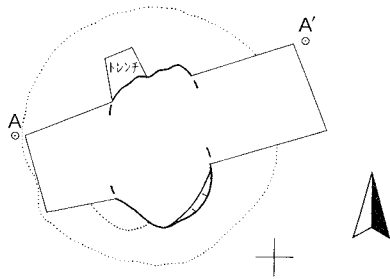
● 第44号土坑



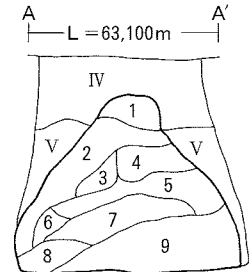
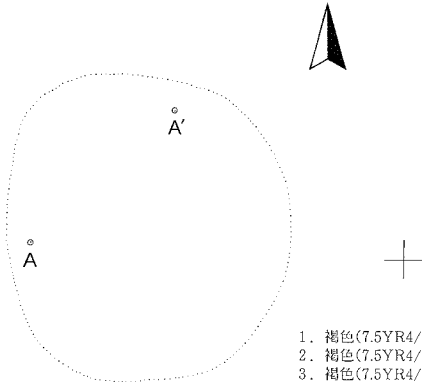
1. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト IV層再堆積(周囲のIV層とほとんど区別できない)。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。ローム粒、1mm程度の炭化物含む。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。2層とほとんど同じだが、炭化物の粒大きく(5mm)、より暗い。
4. 黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。粘土質シルト ややもろい。IV層の再堆積に炭化物含む。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。3層に性質は似るが、ずっと暗い。
6. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト もろい部分と固くしまる部分あり。V層再堆積と5層の混土。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土 もろいが、V層そのものらしい。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土 周囲とやや異なって見えるが、V層そのものらしい。

第38図 第42号~第44号土坑

●第45号土坑



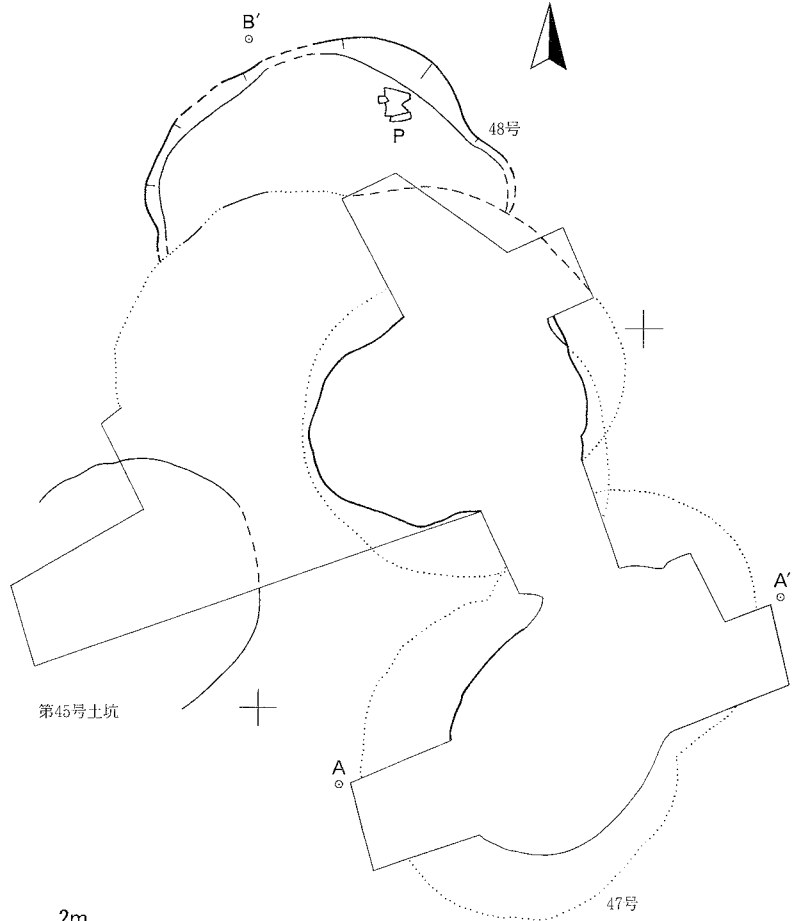
●第46号土坑



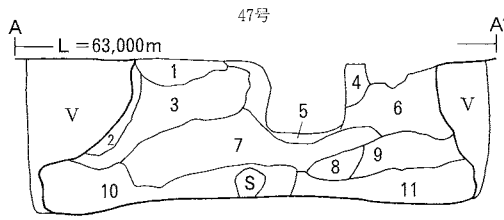
1. 褐色(7.5YR4/3)粘土質シルト ややもろい。炭化物含む。
2. 褐色(7.5YR4/3)粘土質シルト 焼土粒多く、炭化物含む。
3. 褐色(7.5YR4/4)粘土 もろい。IV層の再堆積。
4. 褐色(7.5YR4/4)粘土 もろい。IV層の再堆積。3層よりやや明るい。
5. 褐色(7.5YR4/3)粘土 非常にもろい。粘性強。
6. 褐色(7.5YR4/4)粘土 非常にもろい。粘性強。IV層の再堆積。
7. 褐色(7.5YR4/4)粘土 非常にもろい。粘性強。IV層の再堆積。
8. 褐色(7.5YR4/3)粘土質シルト 非常にもろい。粘性強。V層の再堆積？
9. 褐色(7.5YR4/3)粘土 粘性強。V層の再堆積。

●第47号、48号土坑

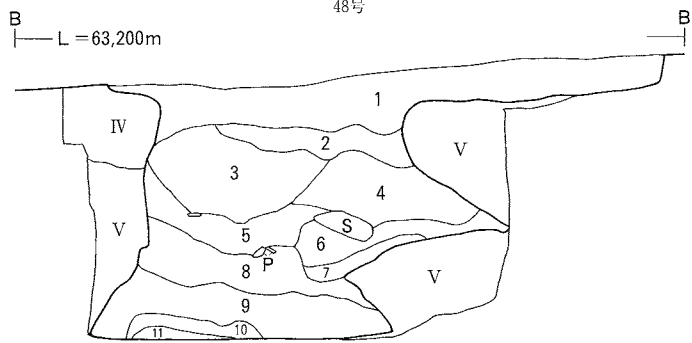
1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 2~5mmの炭化物、同じ大きさのロームブロック含む。
2. 褐色(10YR4/4)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。シルト 固くしまる。炭化物含む。ロームブロック多い。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 1層とほとんど同じだが、よりローム粒多く、黄色い。
4. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。1層より明るく、3層より暗い以外はほとんど同じ。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。3層とほとんど同じ。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 3層とほとんど同じだがより暗く、4層より明るい。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 4,6層とほとんど同じだが、より暗い。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。6,7層とほとんど同じだが、ローム粒より多く黄色い。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。固くしまる。周囲の層とほとんど同じだが、5cm大のロームブロック多い。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。9層よりロームブロック少なく暗い。
11. 褐色(10YR4/4)粘土 ややもろい。IV層の再堆積。
12. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。9層とほとんど同じだが、ロームブロック少ない。
13. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。
14. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。粘性あり。12層とほとんど同じだが、ロームブロックほとんど含まない。
15. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性あり。2,5,9層とほとんど同じだが、ロームブロックほとんど含まない。隣の土坑の覆土。
16. 褐色(10YR4/6)シルト ややもろい。IV層の再堆積に炭化物含む。隣の土坑の覆土。
17. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 15層とほとんど同じで、12層より明るい。隣の土坑の覆土。
18. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 非常に固くしまる。5mm大のロームブロック多い。隣の土坑の覆土。



第39図 第45号、第46号土坑、第47号、第48号土坑(1)

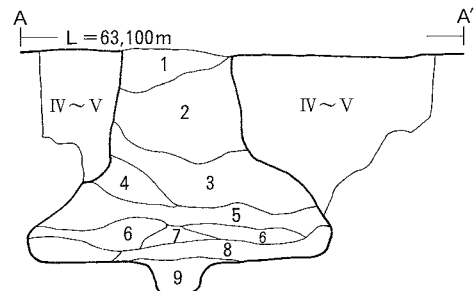
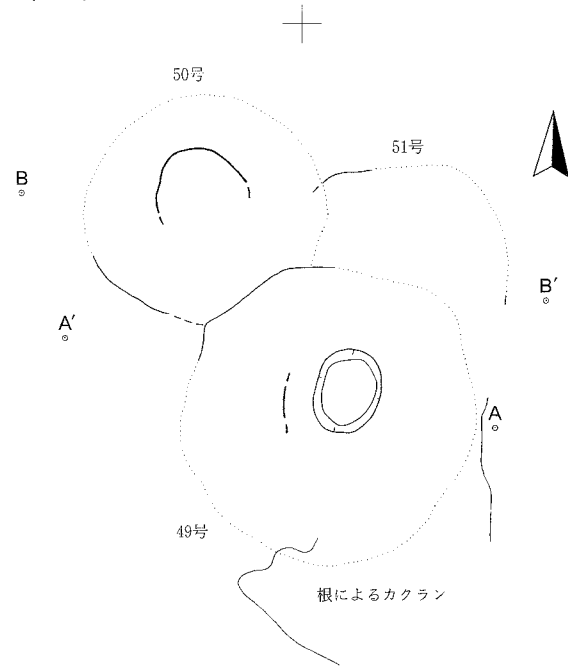


1. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。5mm程度のV層ブロック、2~3mmの炭化物含む。崩れたところにたまった土か。
2. 黒褐色(10YR3/2)と黄褐色(10YR5/8)の混合。シルト IV層の汚れ再堆積。
3. 黄褐色(10YR5/8)粘土 V層再堆積(そのものに近い。上が崩れたのか)。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。1~2mmの炭化物含む。1層に似るが、より明るい。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 1, 4層の中間的。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 4層よりIV~V層粒子、ブロックさらに多く明るい。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 5層に似るが、V層ブロック多く拳大のものもある。根のカクラン多い。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。5層に似るが、より暗い。
9. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)ブロック混じる。シルト 固くしまる。7層に似るが、炭化物少なく、のっぺりとした印象。
10. 黒褐色(10YR2/3)シルト 粘性あり。もろい部分ある。7層に似るが炭化物の粒1~2cm大と大きく、やや暗い。根によるカクランあり。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。9層とほとんど同じだが、V層ブロックほとんど含まない。

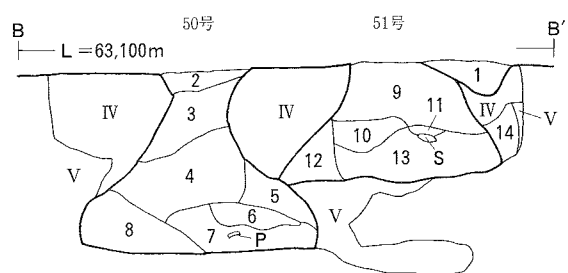


1. 褐色(10YR4/4)に褐色(10YR4/6)ブロック入る。シルト 拳大のIV~V層ブロック含む。2~5mmの炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 1層とほとんど同じだが、やや暗いか。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 1層に似るが、5cm大のIV~V層ブロック顕著でより暗い。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト 3層とほとんど同じだが、ブロック小さい。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 4層とほとんど同じだが、より暗い。
6. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)まだらに入る。シルト 固くしまる。4層とほとんど同じだが、より明るい。
7. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)の小ブロックはいる。シルト 固くしまる。6層とほとんど同じだが、より暗い。
8. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)ブロック入る。シルト 固くしまる。5層とほとんど同じだが、ブロック大きく2~5cm。
9. 暗褐色(10YR3/4)シルト 5層とほとんど同じ。
10. 暗褐色(10YR3/3)に黄褐色(10YR5/6)ブロック入る。シルト 固くしまる。基本的な性質は9層と同じだが暗い。
11. 黄褐色(10YR5/6)に暗褐色(10YR3/3)ブロック入る。粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積。

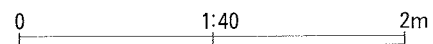
●第49号~51号土坑



1. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。炭化物含む。
2. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト 固くしまる。ローム粒多く、2mm程度の炭化物比較的多い。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。2層に似るが、ローム粒より多く、炭化物より大きい(3~5mm)。
4. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだがより暗い。
5. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。2層に似る。
6. 褐色(10YR4/4)粘土 IV層の再堆積に炭化物含む。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。5層に似る。
8. 黒褐色(10YR3/1)シルト 固い所ともろい所がある。炭化物最も多い。
9. 褐色(10YR4/4)シルト ボソボソ。IV層の再堆積に炭化物含む。

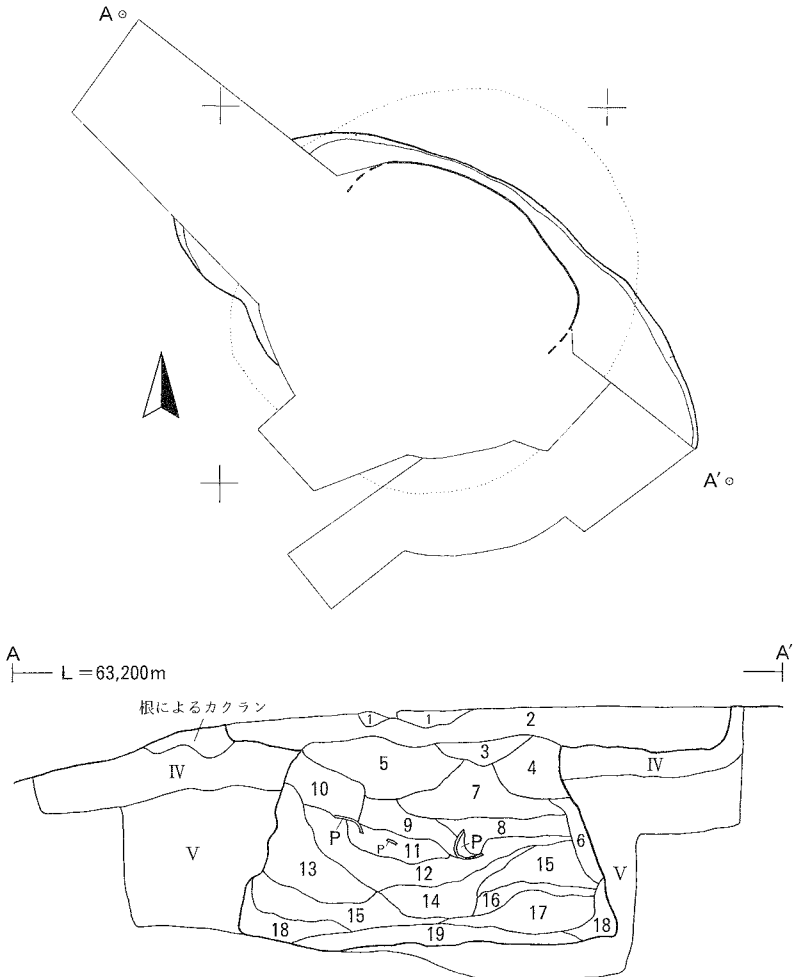


1. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 根による汚れ。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。炭化物含む。第50号土坑覆土。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ローム粒多い。炭化物含む。第50号土坑覆土。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 3層より暗い。炭化物含む。第50号土坑覆土。
5. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト ローム粒、ブロック多い。炭化物含む。第50号土坑覆土。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物、塊土粒含む。第50号土坑覆土。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい。炭化物含む。6層、7層より暗い。第50号土坑覆土。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい。炭化物含む。4層より暗く、7層より明るい。第50号土坑覆土。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。ダマ状のロームブロック含む。炭化物含む。第51号土坑覆土。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。第51号土坑覆土。
11. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。10層に似る。第51号土坑覆土。
12. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる。炭化物含む。第51号土坑覆土。
13. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。炭化物含む。第51号土坑覆土。
14. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト V層が根によって汚れ、やわらかくなったもの。



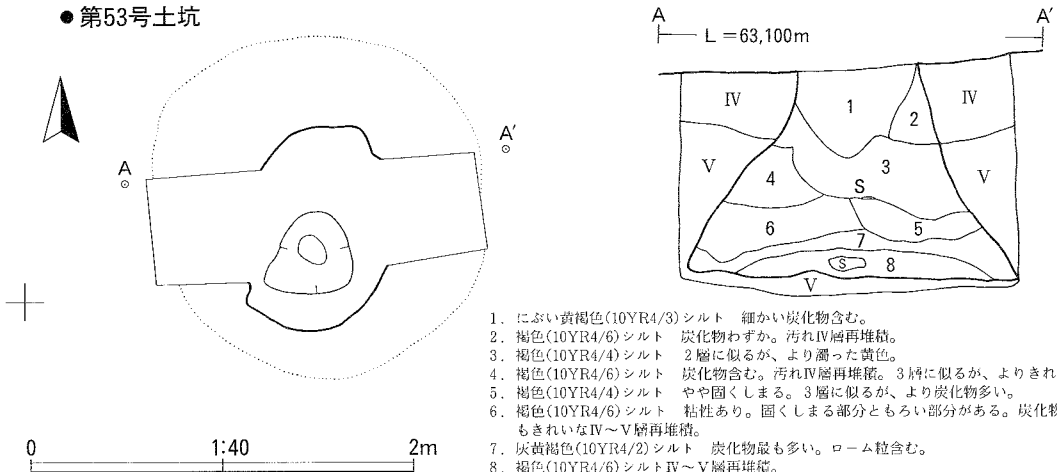
第40図 第47号、第48号土坑(2)、第49号~第51号土坑

● 第52号土坑



1. 褐色(10YR4/6)シルト 1mm程度の炭化物含む。IV層が根によって汚れた感じ。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ローム粒多い。1~5mm程度の炭化物散る。
3. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 1~5mm程度の炭化物散る。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 2層によく似るが、ローム粒ほとんど含まない。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。1~5mmの炭化物散る。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘上 IV~V層の再堆積にわずかに炭化物含む。4層に似るが、炭化物ほとんどない。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 5層とほとんど同じだが、ローム粒多く、より明るい。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 7層とほとんど同じだが、炭化物少なく、やや暗いか。
9. 黒褐色(10YR3/2)シルト 固くしまる。5層とほとんど同じだが、ローム粒やや少なく暗いか。8層に似るが、より暗い。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト IV層の汚れ再堆積に炭化物散る。
11. 中褐色(10YR3/1)シルト 9層とほとんど同じだが、より暗い。
12. 灰黄褐色(10YR4/2)粘上 粘性あり。ローム粒多く、炭化物散る。
13. 黄褐色(10YR5/6)粘上 IV層の再堆積。
14. 黒色(10YR2/1)シルト ややもろい。ロームブロック、炭化物含む。最も黒い。
15. 褐色(10YR4/4)粘上 IV~V層の汚れ再堆積。
16. 灰黄褐色(10YR4/2)地に褐色(10YR4/4)の泥。IV層の再堆積に14層の上混じる。
17. 黄褐色(10YR5/6)粘上 V層のブロック含む。IV~V層の再堆積。
18. にぶい黄褐色(10YR4/3)と黄褐色(10YR5/6)の混上。粘上 V層のブロック顕著。IV~V層の再堆積。
19. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘上 V層の汚れ再堆積。

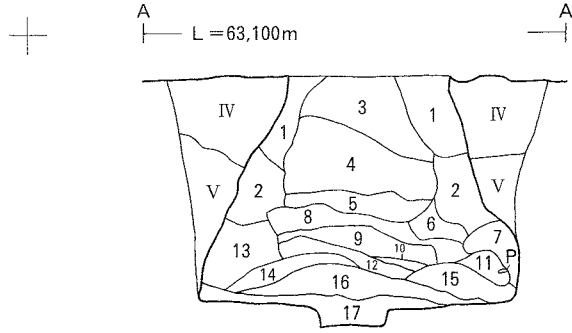
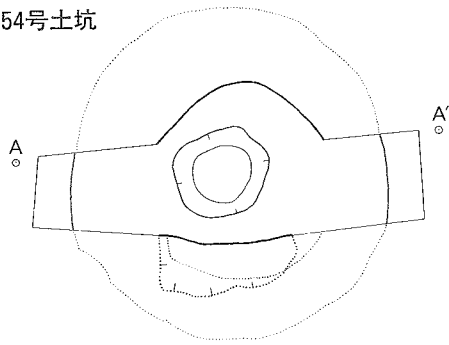
● 第53号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 細かい炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 炭化物わずか。汚れIV層再堆積。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 2層に似るが、より濡った黄色。
4. 褐色(10YR4/6)シルト 炭化物含む。汚れIV層再堆積。3層に似るが、よりきれいな黄色。
5. 褐色(10YR4/4)シルト やや固くしまる。3層に似るが、より炭化物多い。
6. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性あり。固くしまる部分ともろい部分がある。炭化物含む。最もきれいなIV~V層再堆積。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物最も多い。ローム粒含む。
8. 褐色(10YR4/6)シルト IV~V層再堆積。

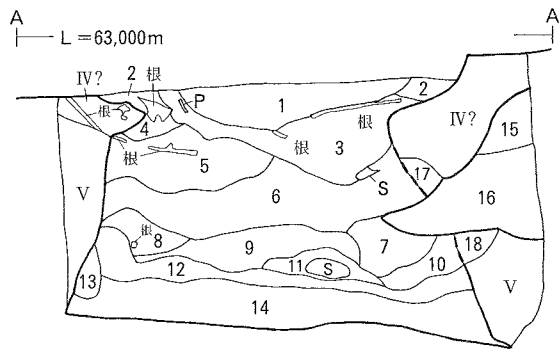
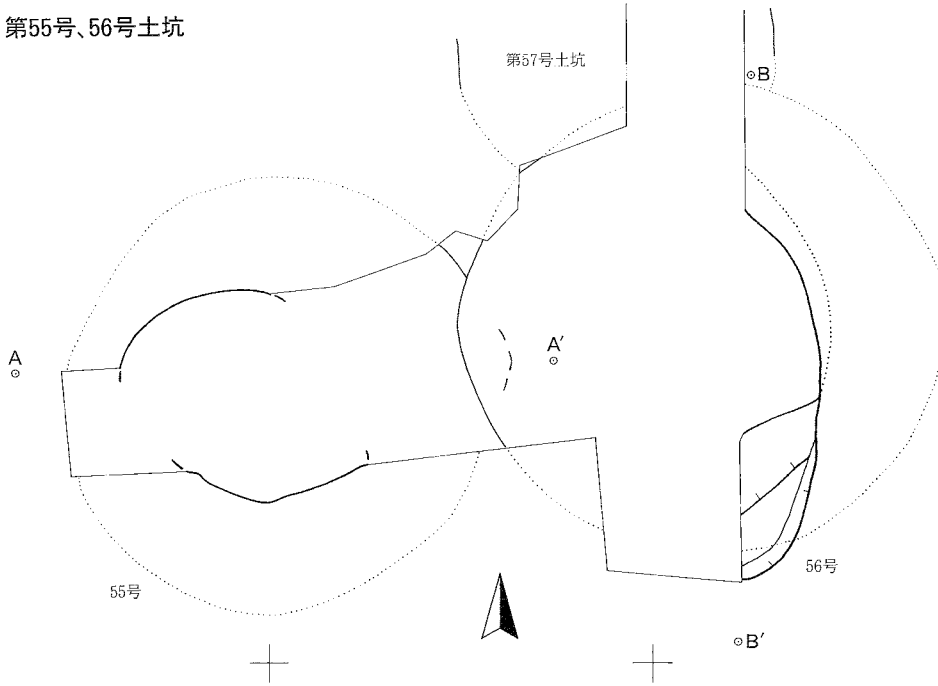
第41図 第52号、第53号土坑

● 第54号土坑

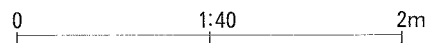


1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト IV層の汚れ再堆積に炭化物わずかに含む。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性あり。1層との違いは、より暗く、炭化物やや多く含むこと。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 2層とほとんど同じだがやや暗い。
4. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 3層とほとんど同じだが、やや暗い。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)地に黒褐色(10YR3/1)の塊。シルト。炭化物最も多く含む。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性强い。ややもろい。炭化物二番目に多い。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV~V層の再堆積でV層のブロック顕著。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト V層の再堆積に炭化物含む。
9. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 8層とほとんど同じだが、より暗く、より炭化物多い。
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 IV層の再堆積。
11. 灰黄褐色(10YR4/2)地に黄褐色(10YR5/6)のブロック。粘土V層のブロック多い。
12. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土 9層とほとんど同じだが、炭化物少なく、より暗い。
13. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ややもろい。9層等に似た土層だが、より暗く炭化物多い。
14. 褐色(10YR4/6)粘土 もろい。IV層の汚れ再堆積。
15. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土 同くしまる。V層の汚れ再堆積。
16. 褐色(10YR4/6)粘土 IV層の再堆積。
17. 褐色(10YR4/4)粘土 IV層の汚れ再堆積。

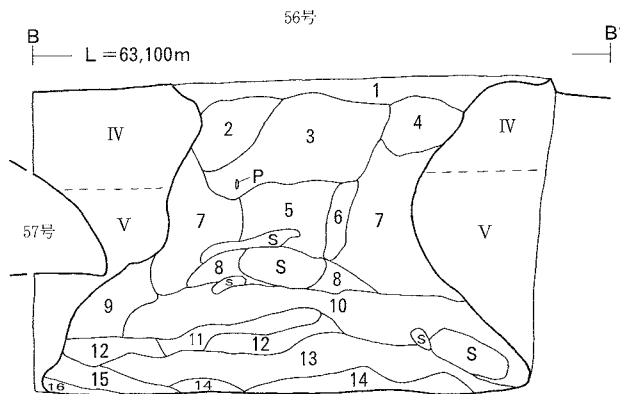
● 第55号、56号土坑



1. 暗褐色(10YR3/3)シルト 2~5mmの炭化物含む。周囲の中で顕著に暗い。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト IV層が根で汚れたものか。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 1層に似るが、ローム粒、ブロック顕著に含み、より明るい。
4. 褐色(10YR4/6)粘土? 固くしまる。IV層が根によるカクランを受けたものか。
5. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。IV層の汚れ再堆積。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト V層のブロック、IV層粒、炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR3/4)と褐色(10YR4/4)の混合。シルト ややもろい。6層に似るが、V層のブロックより顕著。
8. 褐色(10YR4/4)粘土? V層の再堆積。
9. 黒褐色(10YR2/3)シルト 灰、炭化物多量に含み、最も暗い層。
10. 褐色(10YR4/4)粘土? IV~V層の再堆積。
11. 黒褐色(10YR2/3)に暗褐色(10YR3/4)をまだらに含む。シルト 9層とほとんど同じだが、より明るい。
12. 暗褐色(10YR4/4)粘土質シルト V層の再堆積(ブロック顕著)。
13. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト もろい。IV~V層の再堆積。
14. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト V層の再堆積(ブロック顕著)。
15. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト IV~V層の再堆積というより、そのものに近い。別の土坑の覆土?
16. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV層の再堆積に炭化物わずかに含む。
17. 褐色(10YR4/6)粘土 V層のもの?
18. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 16層とほとんど同じだが、より暗く、炭化物含まない。

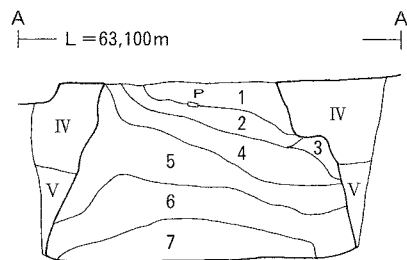
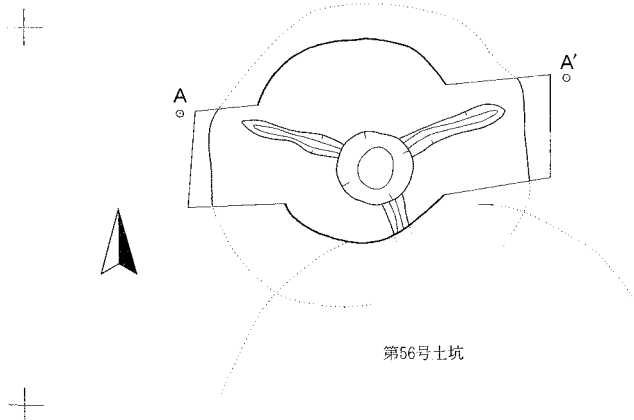


第42図 第54号土坑、第55号、第56号土坑(1)



1. 褐色(10YR4/4)シルト 1~2mmの炭化物, 拳大のIV層ブロック含む。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 1~5mmの炭化物, 5mmのIV層ブロック含む。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 2層に似るがより暗く、炭化物多い。
4. 褐色(10YR4/6)シルト IV層再堆積。
5. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)小ブロック入る。シルト 炭化物, 灰多く、IV層ブロック含む。
6. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト 2層に似るが、より明るい。
7. 褐色(10YR4/6)シルト 汚れIV層再堆積。
8. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)まだらに入る。シルト もろい。6層に似るがより暗い。
9. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 固くしまる部分ともろい部分あり。IV~V層の再堆積 (V層ブロック多い)。
10. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト もろい。8層に似るが、よりIV~V層の再堆積多く含む。
11. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト もろい。V層ブロック再堆積。
12. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。粘土質シルト もろい。IV~V層再堆積に炭化物含む。
13. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト もろい。V層ブロック多の再堆積。
14. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 非常にもろい。IV~V層の再堆積。
15. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 9層と同じ。
16. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 非常にもろい。V層の再堆積。

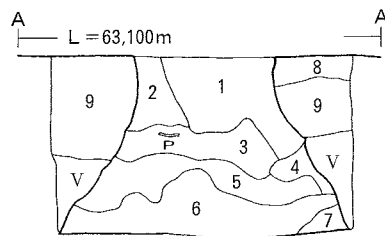
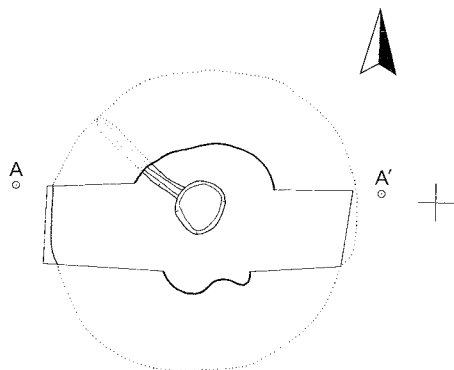
●第57号土坑



1. 褐色(10YR4/4)粘土 2~3mmの炭化物わずか。IV層が根で汚れたかんじ。
2. におい黄褐色(10YR4/3)粘土 1層とほとんど同じだが、より暗い。
3. 褐色(10YR4/4)粘土 2層とほとんど同じだが、より暗い。IV層が根で汚れたものと思われる。
4. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層の再堆積に炭化物含む。
6. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 汚れIV~V層の再堆積。
7. 褐色(10YR4/4)粘土 粘性あり。固くしまる。V層の再堆積。

7A	8A
7B	8B

●第58号土坑

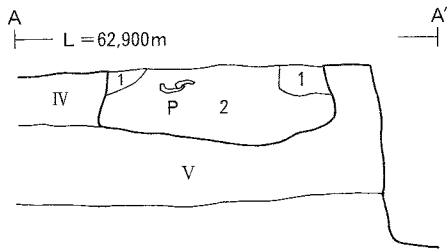
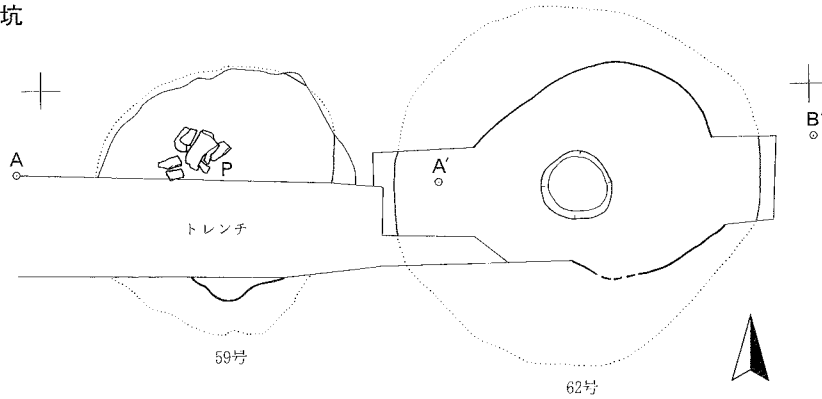


1. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 1~2mmの炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 1層とほとんど同じだが、炭化物含まず、より明るい。
3. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 1層とほとんど同じだが、炭化物少なく、より暗い。
4. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。汚れIV層の再堆積に炭化物含む、3層より明るい。
5. 褐色(10YR4/6)粘土 粘性強い。IV層の再堆積。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土 固くしまる。汚れV層の再堆積。
7. 褐色(10YR4/6)粘土 ややもろい。IV層の再堆積。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。IV層の一部で黄味が強い。
9. におい黄褐色(10YR5/4)粘土 IV層の一部で、根によるカクランのせいか汚れている。一番よく見られるIV層。

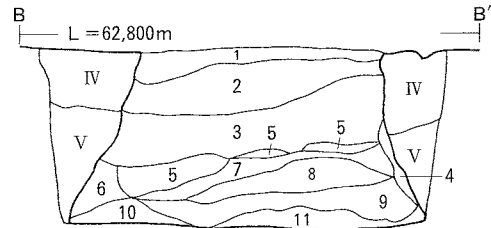
0 1:40 2m

第43図 第55号、第56号土坑(2)、第57号、第58号土坑

● 第59号、62号土坑

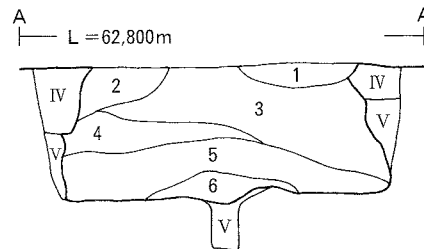
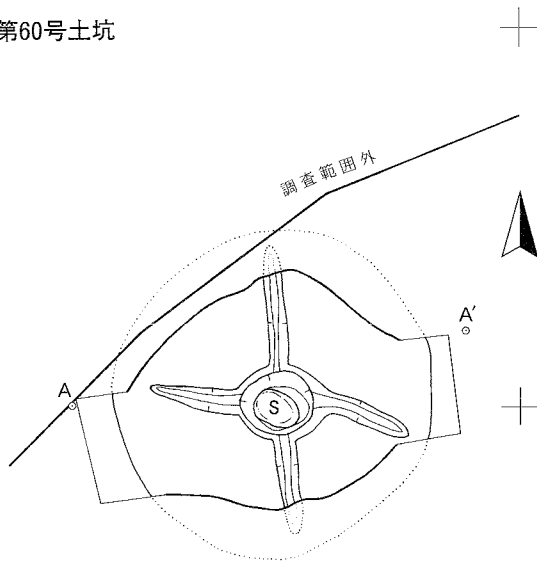


1. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト IV層の再堆積。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。1~5mmの炭化物散る。

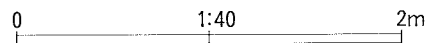


1. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV~V層の汚れ再堆積に炭化物散る。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物最も多く含む。IV~V層の汚れ再堆積。
3. 褐色(10YR4/4)シルト IV~V層の再堆積に炭化物含む。
4. 褐色(10YR4/6)シルト もろい部分あり。V層のブロック、炭化物含む。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト もろい部分と固い部分あり。V層のブロック含むIV~V層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)シルト もろい部分あり。V層のブロック多量に含む、炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。炭化物含む。最も暗い層。
8. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV層の汚れ再堆積に炭化物含む。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト もろい部分と固くしまる部分あり。V層の再堆積。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト もろい。IV~V層の再堆積。
11. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 固くしまる。V層の汚れ再堆積。

● 第60号土坑

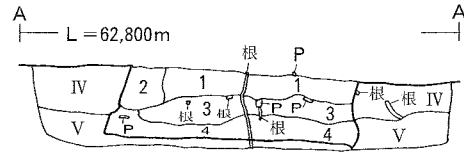
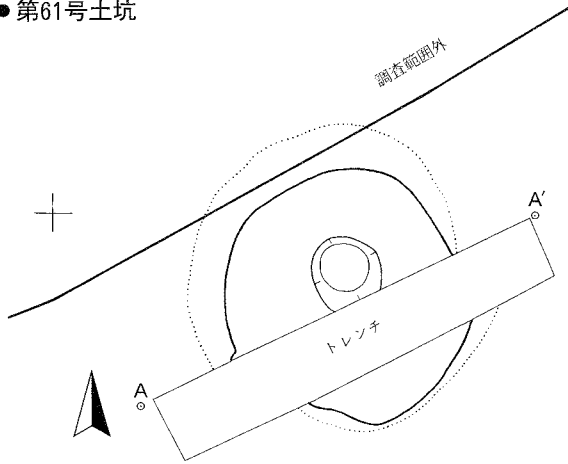


1. 褐色(10YR4/4)シルト 2,3層よりはっきりと暗い。根による汚れとほとんど同じ。
2. 黄褐色(10YR5/6)粘土 ほとんどIV層のもの。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 2層とほとんど同じだが、V層のブロック顕著に含む。IV~V層の再堆積。
4. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。2層とほとんど同じだが、より暗いか。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 非常に固くしまる。顕著に暗く、土器含む。炭化物ほんのわずか含む。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土 非常に固くしまる。IV~V層の汚れ再堆積。



第44図 第59号、第60号、第62号土坑

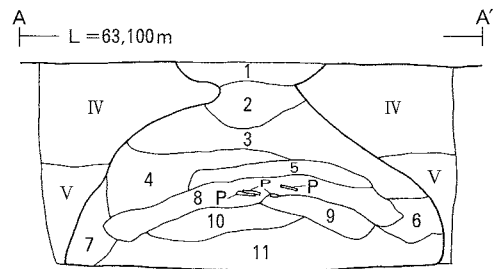
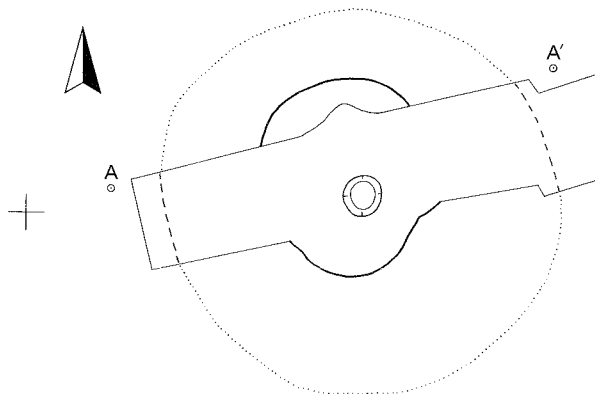
●第61号土坑



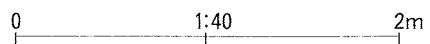
1. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV層起源の上多く、1～5mmの炭化物散る。
2. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 汚れIV層再堆積に炭化物含む
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。IV～V層起源の上。1～2mmの炭化物含む。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。3層とほとんど同じだが、5層ブロック多く、より明るい。

●第63号土坑

7A	8A
7B	8B

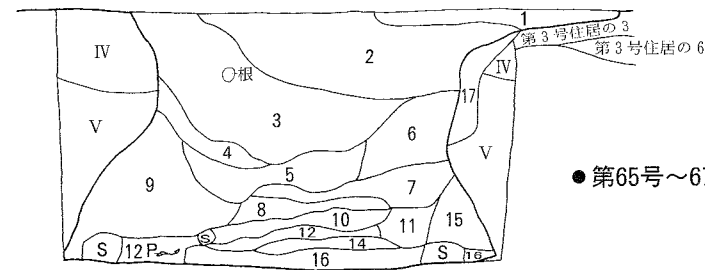
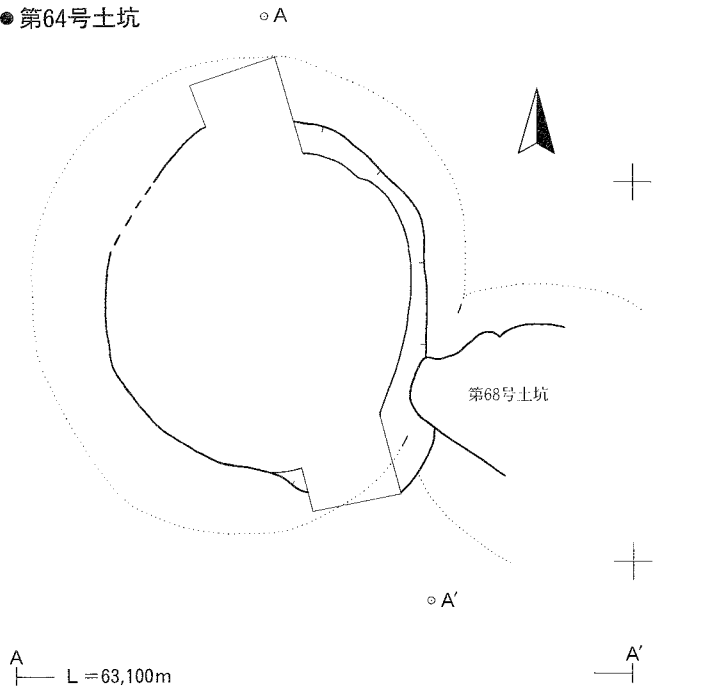


1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。細かい(1mm)炭化物、焼土粒含む。
2. 褐色(10YR4/4)シルト IV層ブロック、粒子多。1mm程度の炭化物散る。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 2層とほとんど同じだが、より明るい。
4. 褐色(10YR4/4)シルト 3層とほとんど同じだが、より暗く、炭化物大きい(5mm)。
5. 褐色(10YR4/4)粘土 汚れIV層再堆積に炭化物含む。2層より明るい。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト V層ブロック顕著に含み、炭化物含む。汚れIV層再堆積。
7. 褐色(10YR4/4)粘土 IV層再堆積。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物最も多く暗い層。下部に土器多い。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層再堆積に炭化物含む。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土 粘性強い。9層とほとんど同じだが、より汚れている。
11. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 汚れIV～V層再堆積。



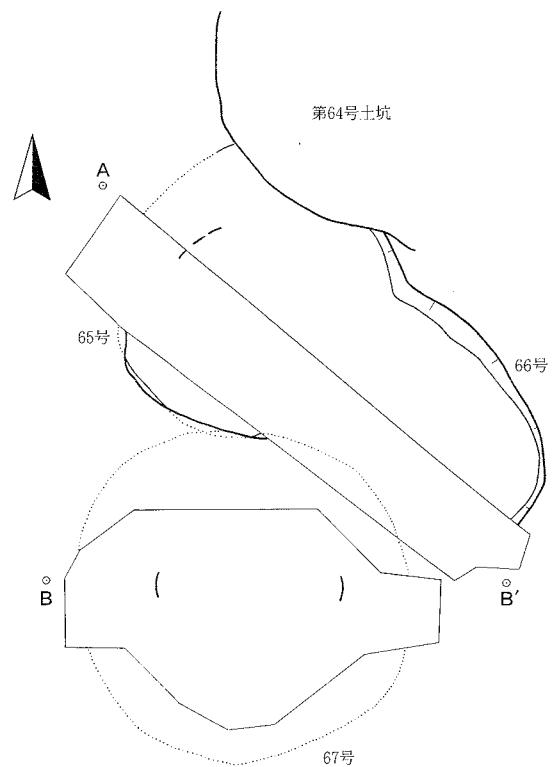
第45図 第61号、第63号土坑

● 第64号土坑

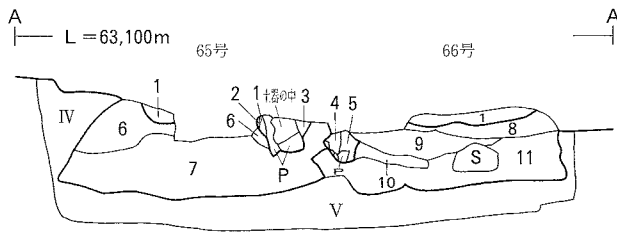


● 第65号～67号土坑

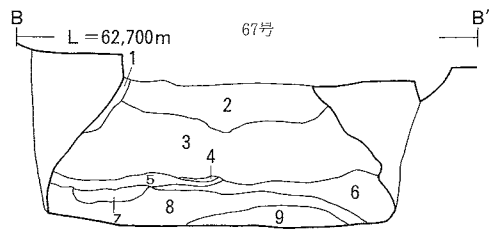
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト ローム粒散る。第3号住居跡の2層に似る。炭化物含む。
2. 黒褐色(10YR2/2)に褐色(10YR4/4)斑に入る。シルト ややもろい。1層とほとんど同じだが、より淡い。
3. 黒褐色(10YR2/3)に褐色(10YR4/4)斑に入る。シルト 2層とほとんど同じだがIV層粒子多い。
4. 褐色(10YR4/6)シルト 汚れIV層再堆積。
5. 黒褐色(10YR2/3)に褐色(10YR4/4)斑に入る。シルト 粘性あり。3層とほとんど同じ。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。4層と5層の中間的。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト IV～V層の再堆積。
8. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強く、二番目に暗いが、基本は3層と同じ。
9. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト ボンボン。7層とほとんど同じ。
10. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしまる。汚れV層再堆積?
11. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/4)斑に入る。シルト 粘性強く、8層とほとんど同じ。
12. 黒褐色(10YR2/2)シルト 粘性あり。ボンボン。最も暗いが、基本は8層と同じ。
13. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック入る。シルト 粘性強く、大部分はもろい。IV層ブロック含む。
14. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト V層再堆積。
15. 暗褐色(10YR3/3)に黄褐色(10YR5/6)斑に入る。シルト 粘性強く、ややもろい。9層より暗いが、基本は同じ。
16. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)斑に入る。シルト 粘性強い。
17. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV～V層が根によるカクランを受けたものか。



第46図 第64号土坑、第65号～第67号土坑(1)

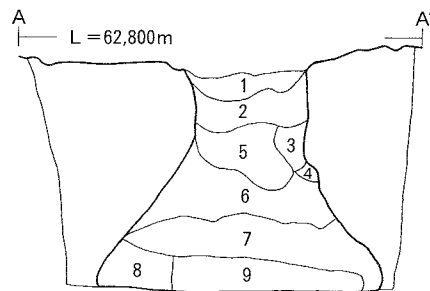
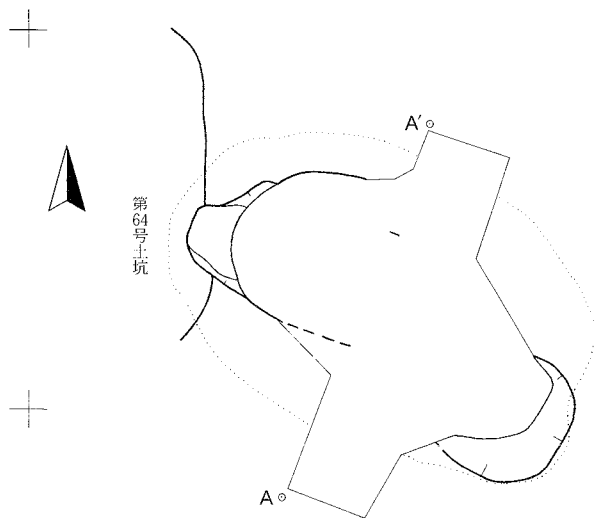


- 1～5：第2号住居跡。
6. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト 霜降状にロームブロック含む。第65号土坑遺土。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ロームブロック、炭化物、焼土ブロック含む。
8. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。IV～V層再堆積。焼土粒含む。
9. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV層粒子、炭化物含む。
10. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。8層とほとんど同じ。
11. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 10層に似るが、より暗い。

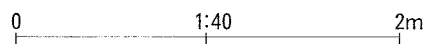


1. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト もろい部分と固くしまる部分あり。IV～V層ブロック含む。
2. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト IV～V層ブロック再堆積。
3. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 2層と同じだが色調がやや異なる。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト 非常にもろい。
5. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10YR3/2)斑に入る。粘土質シルト ややもろい。粘性あり。IV～V層再堆積。
6. 黒褐色(10YR3/2)シルト IV～V層ブロック含む。
7. 褐色(10YR4/6)シルト もろい。IV～V層再堆積。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性あり。IV～V層粒子散る。
9. 黒色(10YR2/1)シルト IV～V層ブロック含む。

●第68号土坑

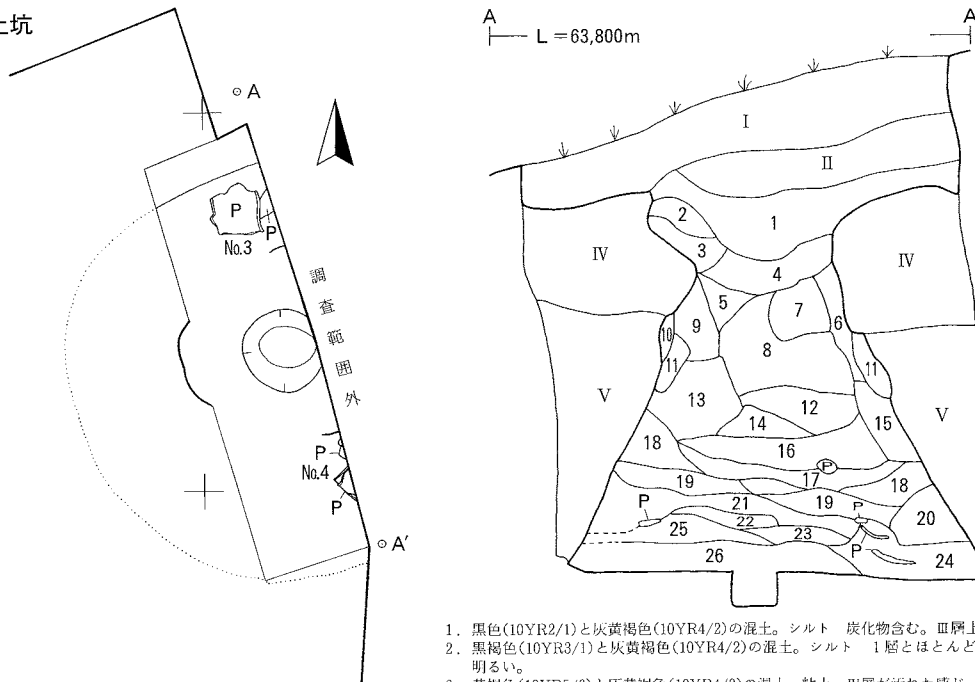


1. 黒褐色(10YR2/3)シルト 炭化物多く含み、ローム粒含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭化物、ローム粒含む。
3. 褐色(10YR4/6)に黄褐色(10YR5/6)ブロックはいる。粘土質シルト IV～V層再堆積。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト V層ブロック。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 2層より明るく、炭化物少ない。
6. 暗褐色(10YR3/4)に赤褐色(2.5YR4/8)小ブロック斑に入る。シルト もろい。焼土粒多く、炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト もろい。5層とほとんど同じだが、やや暗いか。
8. 暗褐色(10YR3/3)シルト もろい。7層とほとんど同じだが、ずっと暗い。
9. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV～V層再堆積。



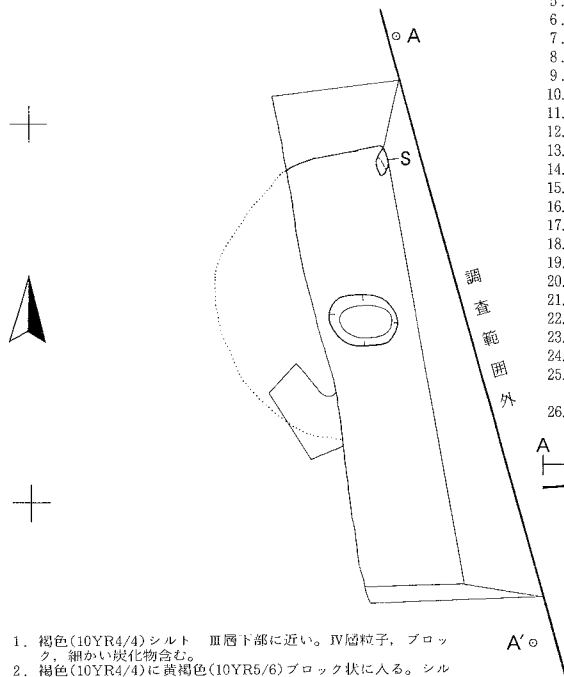
第47図 第65号～第67号土坑(2)、第68号土坑

●第69号土坑



1. 黒色(10YR2/1)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 炭化物含む。皿層上部に似る。
2. 黒褐色(10YR3/1)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 1層とほとんど同じだが、より明るい。
3. 黄褐色(10YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。粘土 IV層が汚れた感じ。
4. 褐灰色(10YR4/1)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 2層とほとんど同じだが、より明るい。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。IV層粒子多い。
6. 黄褐色(10YR5/6)とにぶい黄褐色(10YR4/3)の混土。粘土 汚れIV層再堆積。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 5層とほとんど同じだが、より暗い。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。7層に似るが、IV層粒子ほとんど含まず、より暗い。
9. 褐色(10YR4/4)粘土 汚れIV層再堆積。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土 もろい。IV層再堆積。
11. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしめる。V層再堆積。
12. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強い。炭化物含む。8層より暗い。
13. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ややもろい。8層と12層の中間的。
14. 黒褐色(10YR3/2)シルト ややもろい。12層に似るが、灰を多く含んでいるためかより暗い。
15. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト ややもろい。9層と13層の中間的。
16. 褐色(10YR4/4)シルト 汚れIV層の再堆積に炭化物含む。
17. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。焼土粒、灰、炭化物を多く含む。焼土粒は一番多い。
18. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい。粘性強い。炭化物、灰を含む。
19. 黒褐色(10YR3/2)シルト 灰、焼土粒を二番目に多く含む。炭化物は最も多い。
20. 褐色(10YR4/4)シルト 非常にもろい。炭化物含む。
21. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 非常にもろい。IV層の汚れ再堆積に炭化物を多く含む。
22. 褐灰色(10YR4/1)シルト 非常にもろい。粘性強い。炭化物多く含む。
23. 黒褐色(10YR3/1)シルト 粘性強い。灰最も多く、最も暗い。炭化物含む。
24. 黒褐色(10YR3/1)シルト 粘性強い。非常にもろい。炭化物、灰を多く含む。土器も多い。
25. 黄褐色(10YR5/6)地に灰黄褐色(10YR4/2)の斑。シルト 2層に似るが、より汚れている。上面に土器含む。
26. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。

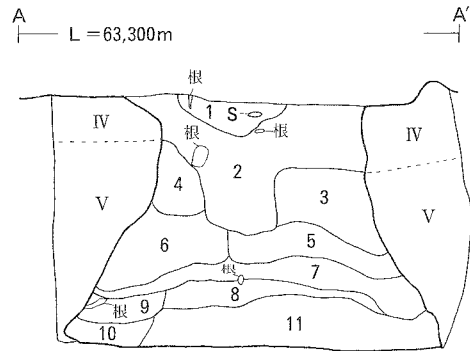
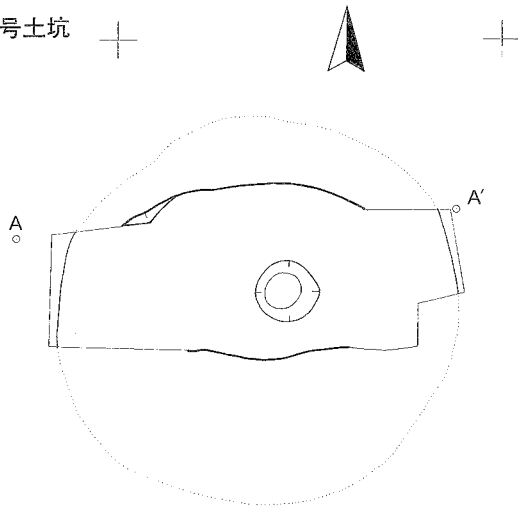
●第70号土坑



1. 褐色(10YR4/4)シルト III層下部に近い。IV層粒子、ブロック、細かい炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)に黄褐色(10YR5/6)ブロック状に入る。シルト 固くしめる。1層とほとんど同じだが、IV層ブロック大きく、基本的な色調が暗い。
3. 褐色(10YR4/4)に黄褐色(10YR5/6)斑に入る。シルト 固くしめる。1層とほとんど同じだが、IV層起源土多い。
4. 褐色(10YR4/4)に暗褐色(10YR3/3)と黄褐色(10YR5/6)斑に入る。シルト 固くしめる。3層とほとんど同じだが、汚れている。(根によるカクランか。)
5. 褐色(10YR4/4)に黄褐色(10YR5/6)斑に入る。シルト 3層とほとんど同じだが、ややもろい。
6. 黄褐色(10YR5/6)に暗褐色(10YR3/3)斑に入る。シルト ややもろい。上の層より、より縮降状に混じる。
7. 暗褐色(10YR3/3)に黒褐色(10YR2/3)ブロック状に入る。シルト 4層に似るが、より暗い。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 7層とほとんど同じだが、より固く緻密である。
9. 暗褐色(10YR3/4)シルト ややもろい。7層とほとんど同じだが、IV層起源土より多く明るい。
10. 黒褐色(10YR2/3)シルト もろい。8層に似るが、より暗くもろい。
11. 暗褐色(10YR4/4)シルト 固くしめる部分あり。IV～V層の汚れ再堆積。
12. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしめる。V層のブロックというよりV層そのもの？
13. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層が根によるカクランを受けたもの。

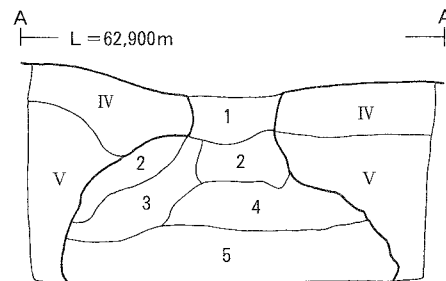
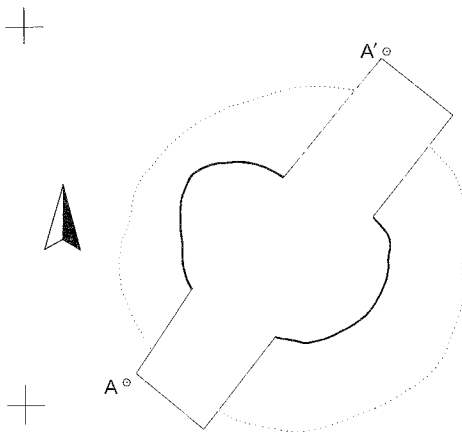
第48図 第69号～第70号土坑

●第71号土坑



1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。炭化物、焼土粒わずかに含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)と褐色(10YR4/6)の混合。シルト 粘性強い。IV～V層の再堆積。
3. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積に炭化物含む。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト V層の再堆積。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる部分ともろい部分あり。IV～V層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト もろい。IV層の再堆積。
7. 暗褐色(10YR4/4)粘土質シルト IV層の汚れ再堆積。両端は本根によるカクラン受けている。
8. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 粘性強い。V層の再堆積。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 粘性強い。非常にもろい。8層が本根によるカクランを受けたものらしい。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 粘性強い。非常にもろい。11層が本根によるカクランを受けたものらしい。
11. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしまる。V層の再堆積に炭化物含む。

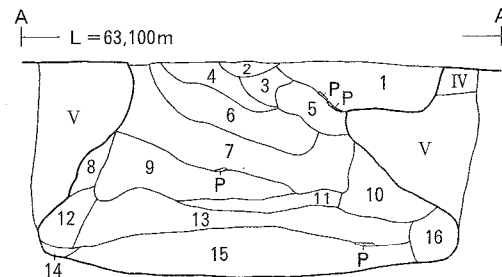
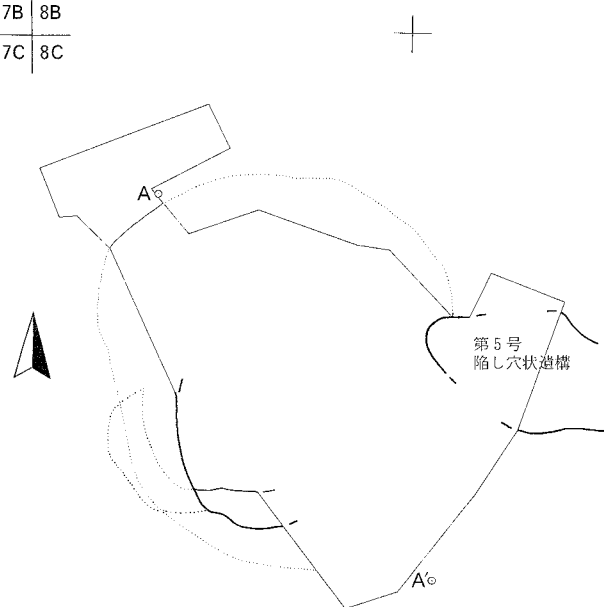
●第72号土坑



1. 黒褐色(10YR2/3)に褐色(10YR4/6)ブロックはいる。シルト 5mm程度の炭化物、ロームブロック含む。
2. 褐色(10YR4/6)と黄褐色(10YR5/6)の混合。粘土質シルト V層ブロックの再堆積(くずれたもの)。
3. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)ブロックはいる。シルト もろい。傘状のV層ブロック顕著に含む。
4. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト もろい。汚れIV層再堆積。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性あり。ややもろい。炭化物含む。

●第73号土坑

7B | 8B
7C | 8C

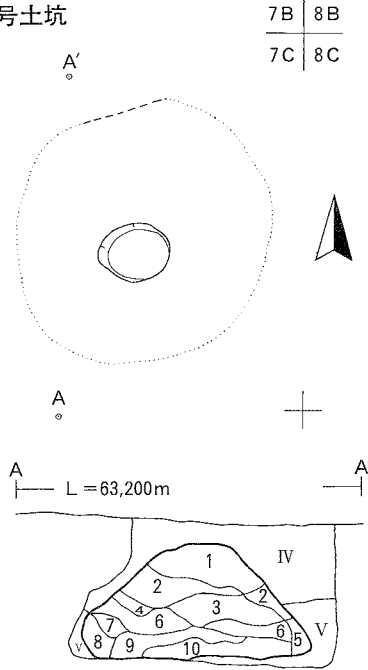


1. 黒褐色(10YR2/2)シルト クロボクにIV層粒子、炭化物含む。カクラン?
2. 黒褐色(10YR2/3)シルト 固くしまる。3mm程度の炭化物含む。6層の再堆積?カクラン?
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。炭化物ほとんど含まない。
4. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。1～2mmの炭化物含む。3層に似る性状だが、より明るい。
5. 暗褐色(10YR3/3)と黄褐色(10YR5/6)の混合。シルト 固くしまる。4層地にIV層ブロック含む。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。3～7mmの炭化物比較的多く含む。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。6層とほとんど同じだが、炭化物少なく、より明るい。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト もろい部分あり。V層ブロック再堆積。
9. 暗褐色(10YR3/3)シルト 7層とほとんど同じだが、より暗い。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。7層地にIV層ブロック含む。
11. 黒褐色(10YR2/3)シルト 固くしまる。最も暗い特徴的な層。炭化物多い。
12. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト ややもろい。IV～V層再堆積土(V層ブロックは細かい)。
13. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性あり。汚れIV～V層再堆積土に炭化物含む。
14. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。もろい。15層が根によるカクランを受けたものか。
15. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性あり。固くしまる。9層とほとんど同じ。
16. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 粘性あり。13層とほとんど同じだが、より汚れている。

0 1:40 2m

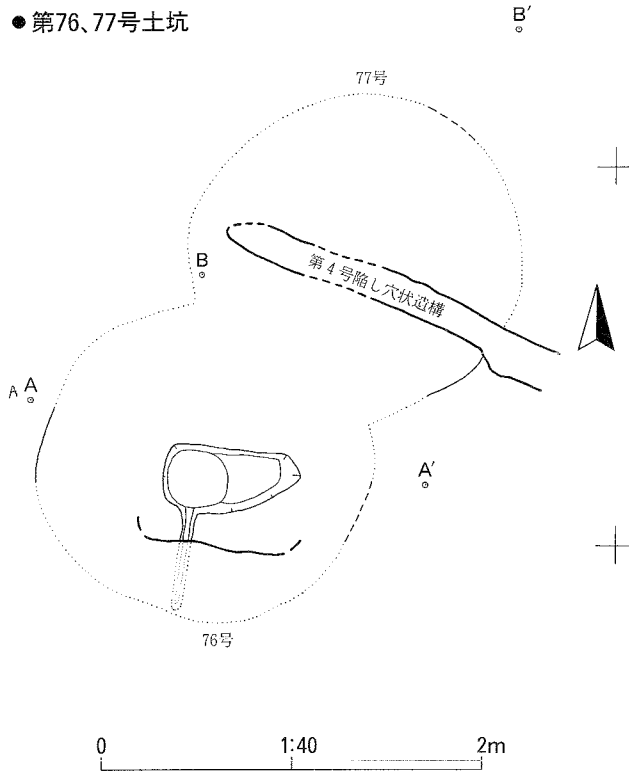
第49図 第71号～第73号土坑

●第74号土坑

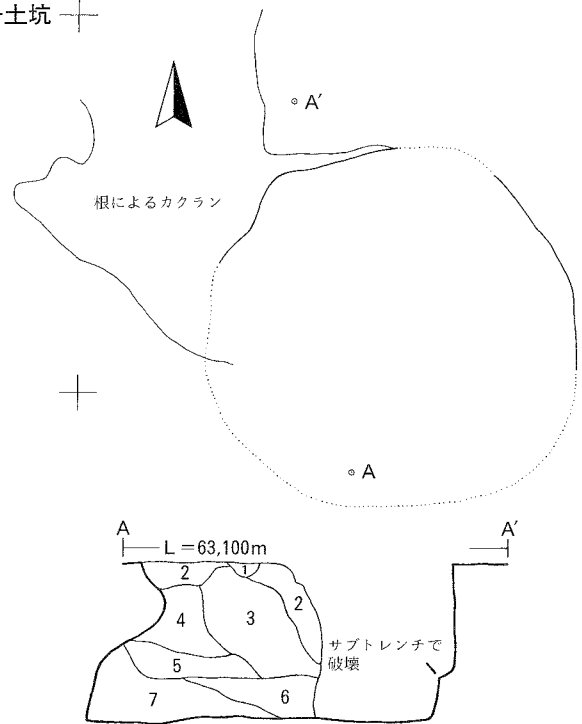


1. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。IV~V層の再堆積に炭化物混じる。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。ローム粒、小さなブロック多い。炭化物わずかに含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 2層とほとんど同じだが2層より暗い。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 IV~V層のブロック。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 汚れたIV~V層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。ローム粒多い。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい。炭化物含む。
8. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト もろい。汚れたIV~V層の再堆積。
9. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 固くしまる。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。ローム粒、炭化物含む。2層に似るが、よりしまる。

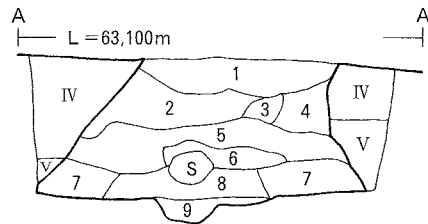
●第76、77号土坑



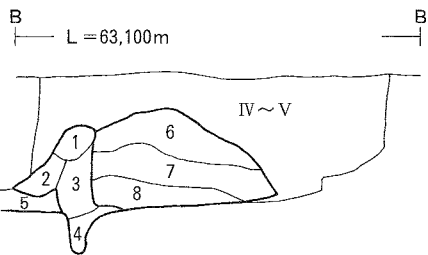
●第75号土坑



1. 黒褐色(10YR3/1)シルト
2. 上部黒褐色(10YR3/1)、下部褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。上部と下部は漸移的(根による汚れ?)。炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 汚れたIV層の再堆積に炭化物含む。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV層の再堆積に炭化物含む。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト 粘性強い。汚れたIV層の再堆積に炭化物含む。
6. 褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト 固くしまる。
7. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 固くしまる。IV~V層の再堆積。



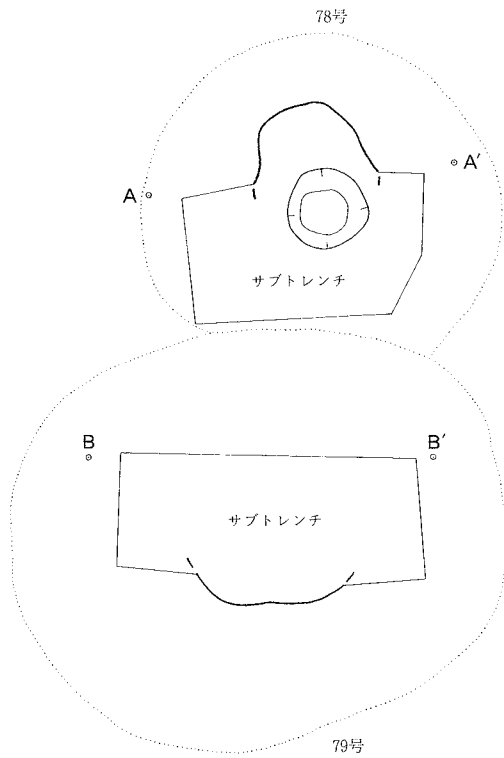
1. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト 汚れたIV~V層の再堆積に炭化物含む。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 粘性強い。汚れたIV~V層の再堆積に炭化物、焼土粒含む。
3. にぶい黄褐色(10YR6/4)粘土 V層のブロック。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層の再堆積。3層より暗い。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 炭化物含む。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。
7. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト 粘性強い。
8. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 固くしまる。V層の再堆積。
9. 半歳時V層と考えていたが、V層ではなかったようである。



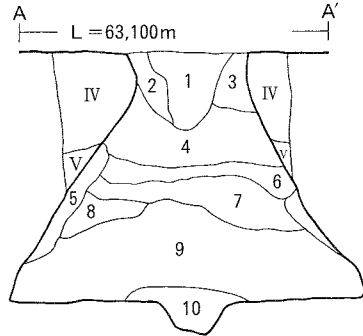
1. 褐色(10YR4/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。粘土 第4号陥し穴状遺構の覆土。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 炭化物含む。第4号陥し穴状遺構の覆土。(根によるカクランを受けている?)
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 炭化物含む。2層とほとんど同じ。第4号陥し穴状遺構の覆土。
4. 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト ボンボン。第4号陥し穴状遺構の覆土。
5. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 ややボンボン。第76号土坑の覆土。
6. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト IV~V層の再堆積。第77号土坑の覆土。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物含む。第77号土坑の覆土。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV~V層の再堆積。第77号土坑の覆土。

第50図 第74号~第77号土坑

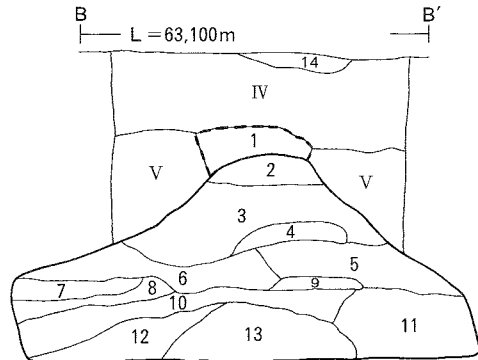
● 第78号、79号土坑



7C | 8C
7D | 8D

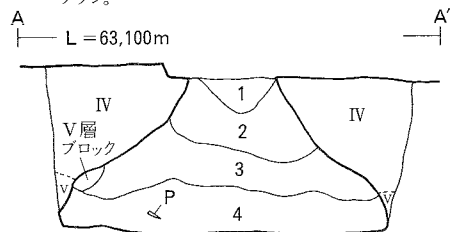
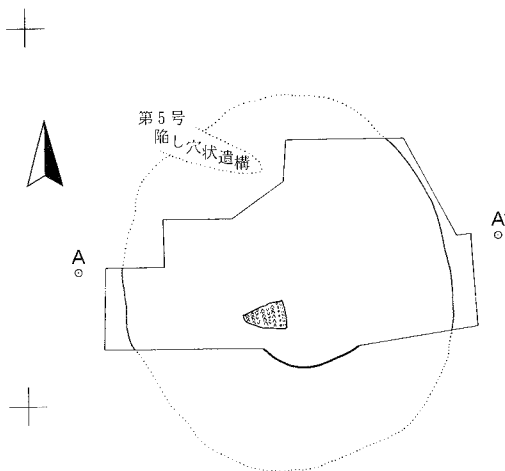


1. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 固くしまる。炭化物含む。
2. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 炭化物含む。1層より若干明るい程度。
3. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 粘性強い。IV層の再堆積に炭化物含む。
4. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 粘性強い。焼土粒、炭化物含む。
5. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 粘性強い。IV層の再堆積に炭化物含む。
6. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 固くしまる。炭化物含む。
7. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト やや固くしまる。炭化物比較的多い。
8. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 粘性強い。IV層の汚れ再堆積。
9. 黄褐色(10YR5/8)粘土質シルト 粘性強い。V層のブロック多い。炭化物含む。本土坑の覆上の中ではっきり違うのは、この層だけ。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 粘性強い。非常にもろい。



1. 黄褐色(10YR5/6)粘土 部分的に固くしまる。V層が根によるカクランを受けたもの?
2. 黄褐色(10YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。粘土 粘性強い。1層と3層の漸移層的。第79号土坑の覆上?
3. におい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。ややもろい。炭化物含む。
4. におい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト 粘性強い。IV層の再堆積。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 炭化物含む。
6. におい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 粘性強い。もろい。IV層の再堆積に炭化物が含まれている感じ。
7. におい黄褐色(10YR5/3)粘土 IV~V層の再堆積。
8. におい黄褐色(10YR5/3)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト 非常にもろい。炭化物多量に含む。
9. 黄褐色(10YR5/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。シルト ややもろい。V層のブロック、炭化物含む。
10. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 粘性強い。IV~V層の再堆積に炭化物含まれている感じ。
11. 黄褐色(10YR5/6)粘土 粘性強い。IV~V層の再堆積。(V層のブロック多い)
12. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土 粘性強い。IV~V層の再堆積。
13. におい黄褐色(10YR5/4)粘土 粘性強い。IV~V層の再堆積に炭化物含む。
14. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 固くしまる。焼土粒含む。根によるカクラン。

● 第80号土坑

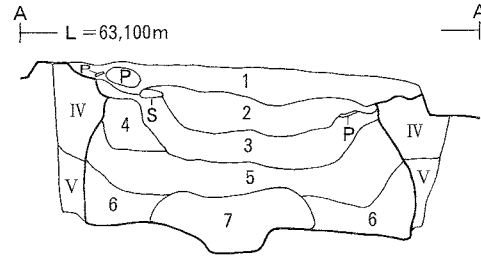
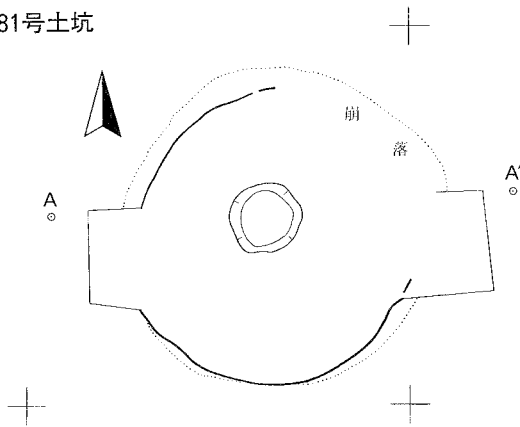


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 1~2mmの炭化物多く含み、焼土ブロック含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト ややもろい。1層との違いはややもろい点だけ。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト ややもろい。2層とほとんど同じだが、焼土粒含まず、IV~V層ブロックの粒子多く、より明るい。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 細かい炭化物散る。所々IV~V層再堆積土が広がるが、層として分けられない。他より暗い。

0 1:40 2m

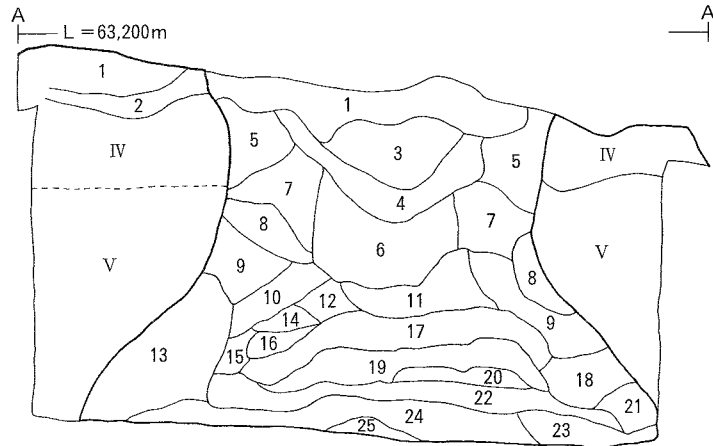
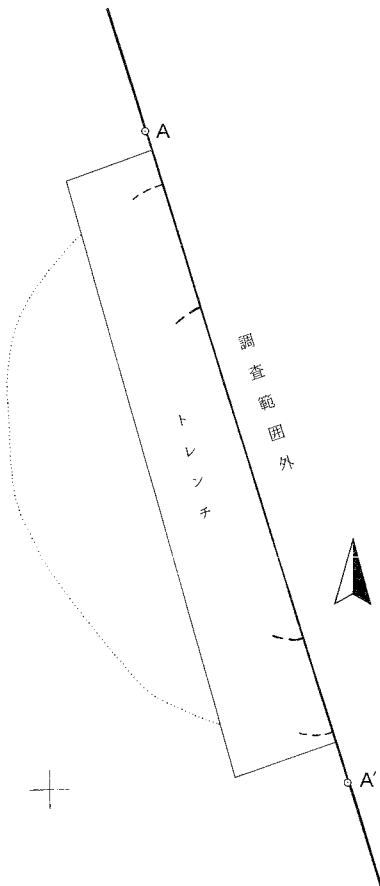
第51図 第78号~第80号土坑

● 第81号土坑

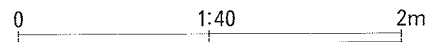


1. にぶい黄褐色(10YR5/4)地に黒褐色(10YR3/2)の斑。シルト 固くしまる。1~2mm程度の炭化物含む。焼土粒含む。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 固くしまる。1~2mm程度の炭化物最も多い。
3. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 固くしまる。2層とほとんど同じだが、炭化物少なく、より明るい。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 固くしまる。1cm大の炭化物含む。3層より明るい。
5. 黄褐色(10YR5/6)地ににぶい黄褐色(10YR5/4)の斑。粘土 固くしまる。汚れIV層の再堆積。
6. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 粘性強い。IV~V層の再堆積。
7. にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土 粘性強い。固くしまる。

● 第82号土坑

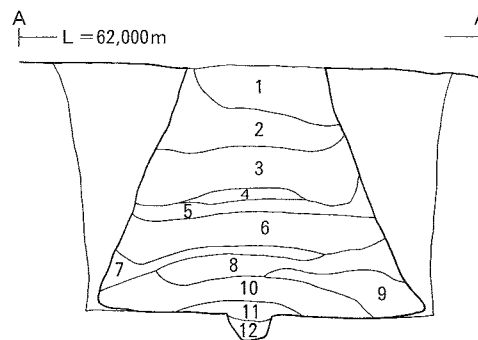
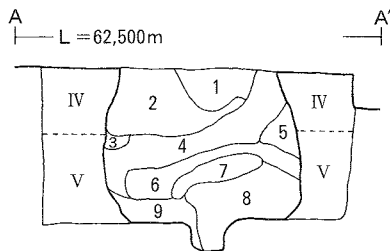
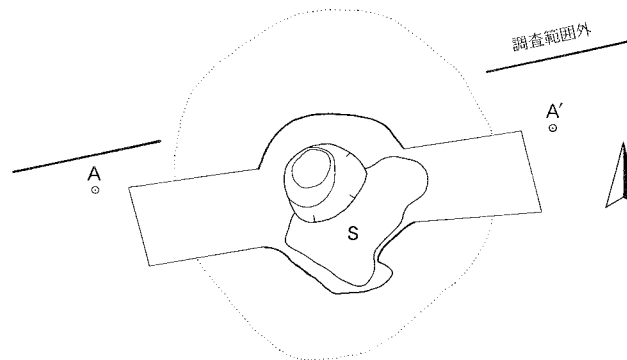
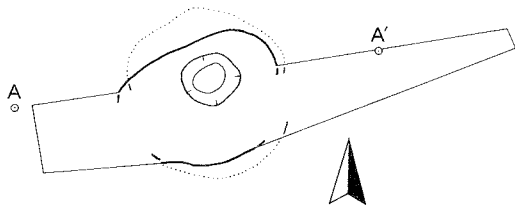


1. 黒褐色(10YR2/2)シルト ローム粒子散る。II層とほとんど同じ。
2. 黒褐色(10YR2/3)シルト ローム粒子散る。III層の明るい部分とほとんど同じ。
3. 黒色(10YR1.7/1)シルト ローム粒子散る。1~2層とほとんど同じだが黒い。
4. 黒褐色(10YR2/2)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト 粘性強く、1層と2層の中間的。
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。ローム粒多く、炭化物含む。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。やや固くしまる。5層に似るが、より暗く、炭化物比較的多い。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。5層とほとんど同じだが、より暗い。(6層より明るく、炭化物少ない)。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘性強い。ややもろい。7層とほとんど同じだが、ほんの少し明るい。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)と褐色(10YR4/6)の混合。シルト 粘性強い。汚れIV層再堆積。
10. 暗褐色(10YR4/4)シルト 粘性非常に強い。9層に似るが、より暗い。
11. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性あり。6層とほとんど同じだが、より明るい。
12. 暗褐色(10YR4/4)シルト 粘性強く、10層とほとんど同じだが、より暗い。
13. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR4/4)の混合。シルト 粘性強く、V層のブロックがほとんどを占めるV層の再堆積。
14. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。IV層再堆積。
15. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。V層のブロック含むIV~V層の再堆積。
16. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。固くしまる。炭化物含む。
17. 暗褐色(10YR3/3)と褐色(10YR4/6)の混合。シルト 粘性強い。IV層の汚れ再堆積に炭化物含む。
18. 暗褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。13層と同じ。
19. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。炭化物比較的多い。
20. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性強い。IV層の再堆積に炭化物含む。
21. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性強い。非常にもろい。
22. 暗褐色(10YR3/3)と褐色(10YR4/6)の混合。シルト 粘性強い。IV層の汚れ再堆積に炭化物わずかに含む。
23. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。非常にもろい。21層よりローム粒多いか(ほとんど同じ)。
24. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性強い。IV層の汚れ再堆積に炭化物含む。22層より暗い。
25. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。



第52図 第81号、第82号土坑

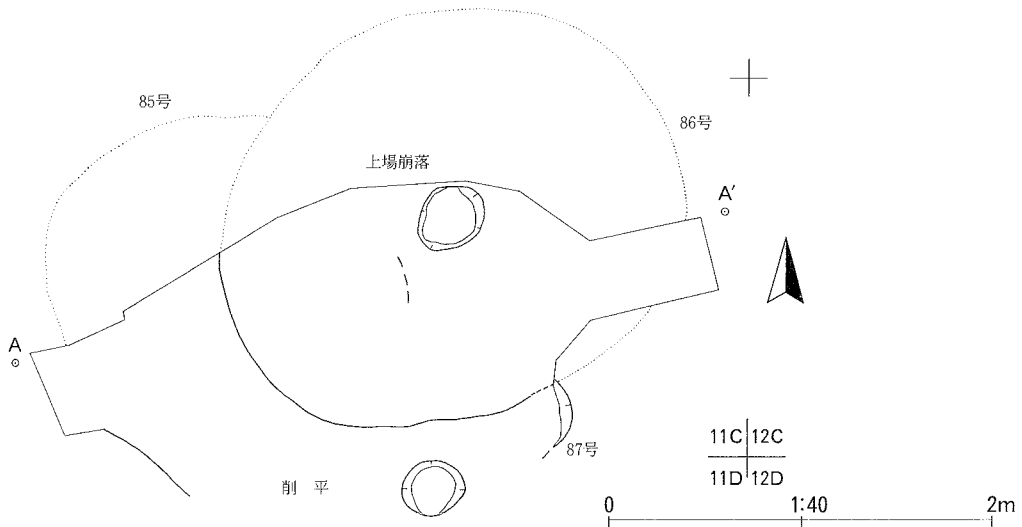
●第83号土坑



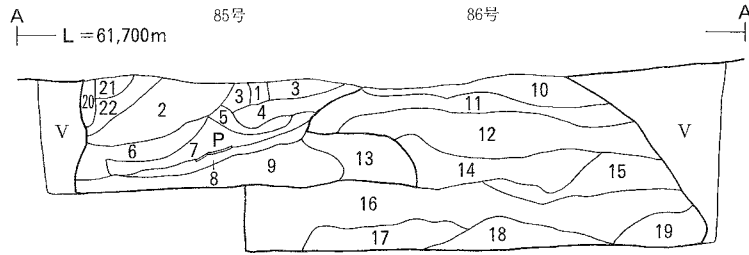
1. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト 1mm程度の炭化物非常に多く含み、1cm程度の炭化物も含む。
2. 褐色(10YR4/4~4/6)粘土質シルト 1~5mm程度の炭化物含む。
3. 明褐色~褐色(7.5YR5/6~4/6)粘土 もろい。IV層の再堆積。
4. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト IV層の再堆積に1mm~1cmの炭化物含む。
5. 褐色(7.5YR4/6)粘土 IV層の再堆積。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強い。炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR3/3~3/4)シルト IV層の再堆積に炭化物わずかに含む。
8. 暗褐色(10YR3/3~3/4)粘土 IV層の再堆積。
9. 暗褐色(10YR3/4)粘土 8層とほとんど同じだが、色調が灰色がかっている。

1. 褐色(10YR4/4)シルト 汚れIV~V層再堆積(細かいV層ブロック含む)に1~5mmの炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)に褐色(10YR4/6)混じる。シルト 1層に性質は似るが、V層ブロック大きく多い。
3. 褐色(10YR4/6)に褐色(10YR4/4)混じる。シルト V層ブロックの集まり。
4. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしまる。汚れV層再堆積。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。V層再堆積。
6. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)斑に入る。粘土質シルト 固くしまる。汚れV層再堆積(ブロック状)に炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 6層とほとんど同じだが、より一様。
8. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)斑に入る。粘土質シルト 固くしまる。6層と7層の中間的。
9. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしまる。7層とほとんど同じ。
10. 褐色(10YR4/4)シルト 8層に似るがよりV層土多く、明るい。
11. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 粘性強い。汚れV層再堆積。
12. クリーニング時に掘られてなくなってしまった。

●第85号~87号土坑

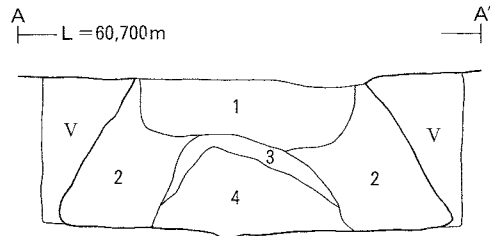
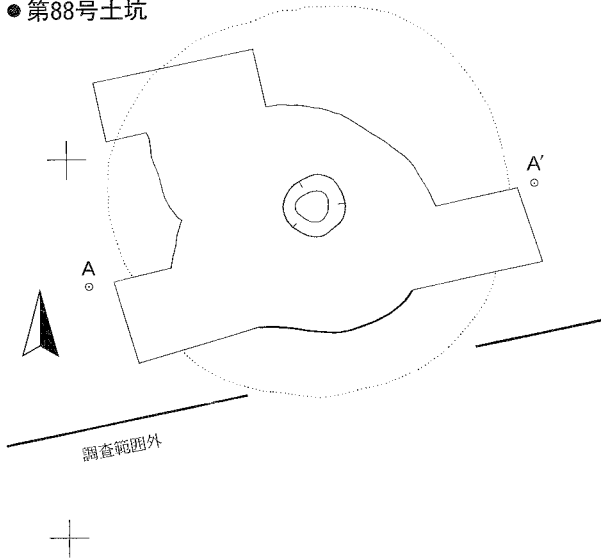


第53図 第83号、第84号土坑、第85号~第87号土坑(1)



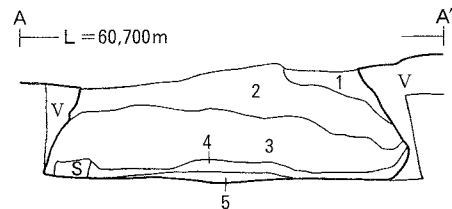
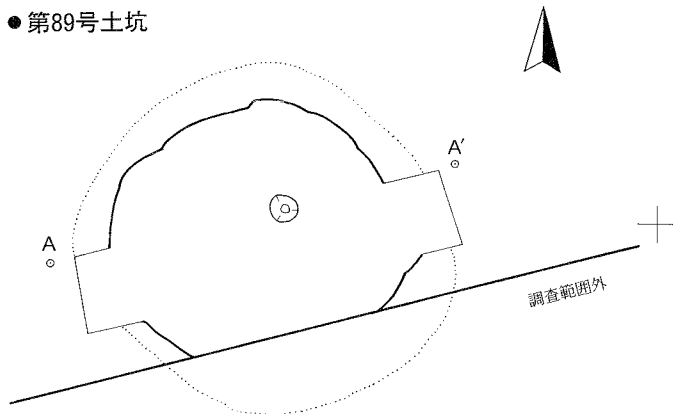
1. 暗褐色(10YR3/3)に明赤褐色(5YR3/6)斑に入る。シルト もろい。根によるカクランで4層の土が押し上げられたもの。第85号土坑覆土。
2. 褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。汚れIV~V層再堆積に炭化物含む。第85号土坑覆土。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト IV~V層砂子。炭化物含む。第85号土坑覆土。
4. 暗褐色(10YR3/3)に明赤褐色(5YR3/6)混入。シルト 炭化物、焼土粒多く。IV~V層ブロック含む。第85号土坑覆土。
5. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしめる部分ともろい部分あり。IV~V層再堆積。第85号土坑覆土。
6. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/4)ブロック混入。シルト ややもろい。3層とはほぼ同じ。第85号土坑覆土。
7. 黒褐色(10YR2/2)と暗褐色(10YR3/3)の混合に明赤褐色(5YR3/6)斑に入る。シルト 非粘ともろい。4層とはほぼ同じ。第85号土坑覆土。
8. たがい黄褐色(10YR4/3)シルト もろい部分多い。IV層の再堆積。第85号土坑覆土。
9. 暗褐色(10YR3/4)シルト 炭化物。IV~V層砂子含む。よく見られる土坑の覆土。第85号土坑覆土。
10. 暗褐色(10YR3/4)シルト IV層汚れ再堆積に炭化物含む。第86号土坑覆土。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト 10層と基本的同じだが、炭化物より多い。第86号土坑覆土。
12. たがい黄褐色(10YR4/3)シルト IV~V層汚れ再堆積(V層ブロック含む)に炭化物含む。10層より明るい。第86号土坑覆土。
13. 褐色(10YR4/4)シルト ややもろい。12層に似るがより明るく、炭化物ほとんど含まない。第86号土坑覆土。
14. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしめる部分あり。やや霜降状の汚れIV~V層再堆積。埋め戻した土? 第86号土坑覆土。
15. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしめる。14層に似るが、より一様で暗い。第86号土坑覆土。
16. 暗褐色(10YR3/3)と褐色(10YR4/4)の混合。シルト 固くしめる部分ともろい部分。霜降状の土で埋めもどした土。第86号土坑覆土。
17. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト 固くしめる。16層と同じ性質だが、より一様で暗い方の土が2層になっている。第86号土坑覆土。
18. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト もろい。IV~V層再堆積。第86号土坑覆土。
19. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしめる。V層の汚れ再堆積か。第86号土坑覆土。
20. 褐色(10YR4/6)粘土 もろい。V層が根によるカクランを受けたものと思う。
21. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしめる。V層。
22. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしめる。V層が一部根によるカクランを受けたものと思う。

● 第88号土坑

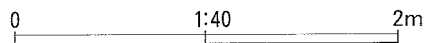


1. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック混じる。シルト IV~V層ブロック含む。2層ほど顕著ではないが、ブロックの寄せ集め。
2. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)、黒褐色(10YR2/3)ブロック混じる。シルト ボロボロ崩れる。ブロックの寄せ集め。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘性強い。この土だけが他に顕著に異なり、ブロック状でない。
4. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック混じる。シルト 粘性あり。1層とほとんど同じ。

● 第89号土坑

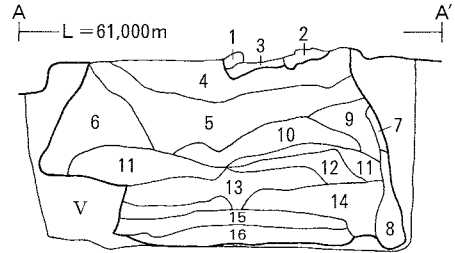
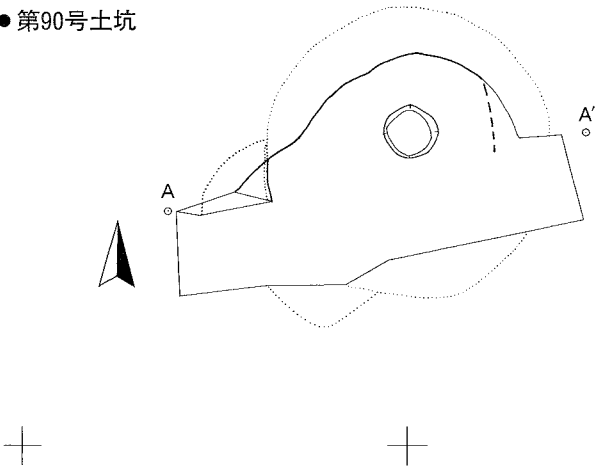


1. 暗褐色(10YR3/3)と褐色(10YR4/6)の混合。シルト IV~V層ブロック顕著な霜降に近い土。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト 炭化物含む。一般的な土坑の覆土。
3. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/3)斑に入る。粘土質シルト V層ブロック顕著なIV~V層再堆積。埋めもどし土と思われる。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性強く、炭化物含まないが、2層に似る。
5. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック混入。IV~V層汚れ再堆積。焼土ブロック含む。



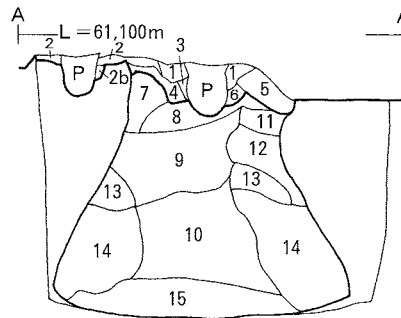
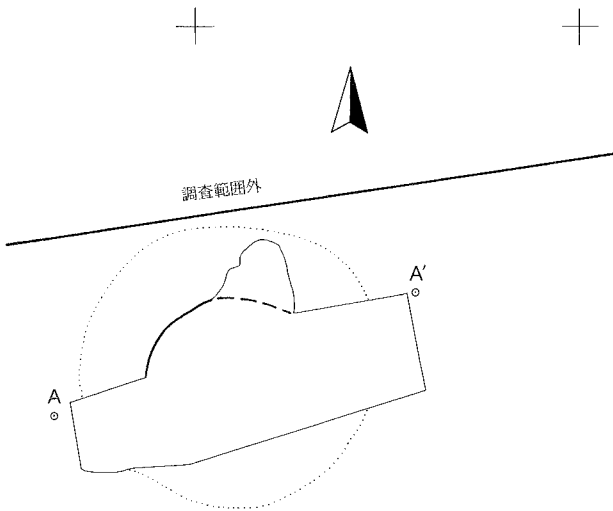
第54図 第85号~第87号土坑(2)、第88号、第89号土坑

● 第90号土坑



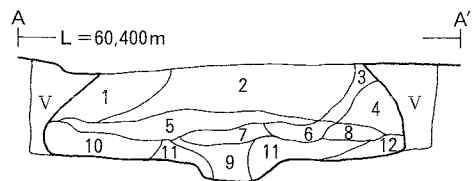
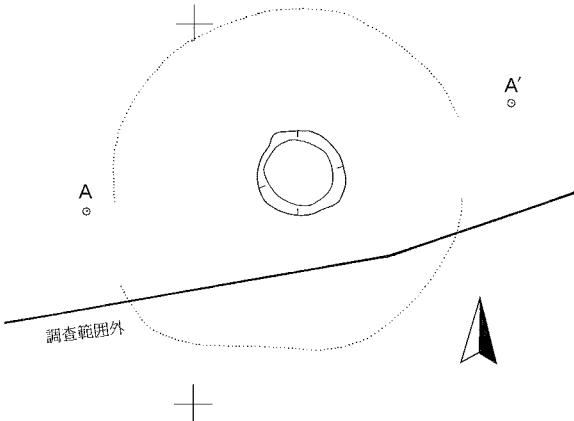
- 1～3. 第42号焼土遺構
4. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト 固くしまる。ロームブロック含む。
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。4と同じ性質だが、より暗い。
6. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/4)斑に入る。シルト 汚れIV～V層再堆積。
7. 黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト 6層に似る。
8. 暗褐色(10YR3/3)に黄褐色(10YR5/6)斑に入る。シルト 5層に似るが、より暗い。
9. 暗褐色(10YR3/3)と黄褐色(10YR5/6)の混合。シルト 固くしまる。8層とほとんど同じ。
10. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/4)斑に入る。粘土質シルト 6層とほとんど同じだが、より明るい。
11. 暗褐色(10YR3/3)に黄褐色(10YR5/6)ブロック入る。シルト 5層とほとんど同じだが、より暗い。
12. 黄褐色(10YR5/6)に暗褐色(10YR3/3)斑に入る。シルト 固くしまる。V層ブロック多のIV～V層再堆積。
13. 黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト 10層とほとんど同じ。
14. 黒褐色(10YR2/3)に黄褐色(10YR5/6)ブロック入る。シルト 固くしまる。11層とほとんど同じ。
15. 黄褐色(10YR5/6)シルト 固くしまる。13層とほとんど同じだが、より明るい。
16. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。14層とほとんど同じ。

● 第91号土坑

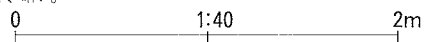


- 1～6 : 5 A 炉跡, 5 B 炉跡
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。ローム粒多い。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。7層に似るが、より暗い。
9. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)斑に入る。シルト 霜降状にローム粒含む。炭化物わずかに含む。
10. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)斑に入る。シルト ややもろい。9層とほとんど同じだが、より暗い。
11. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。IV層再堆積。
12. 黄褐色(10YR5/6)粘土 固くしまる。IV層再堆積。
13. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。ロームブロック含む。
14. 黒褐色(10YR2/3)シルト 固くしまる。13層に似るが、より暗い。
15. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 固くしまる。V層再堆積。

● 第92号土坑

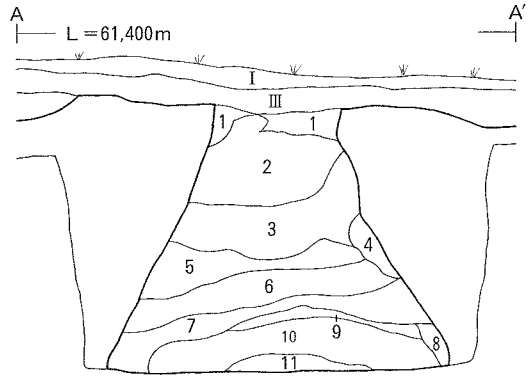
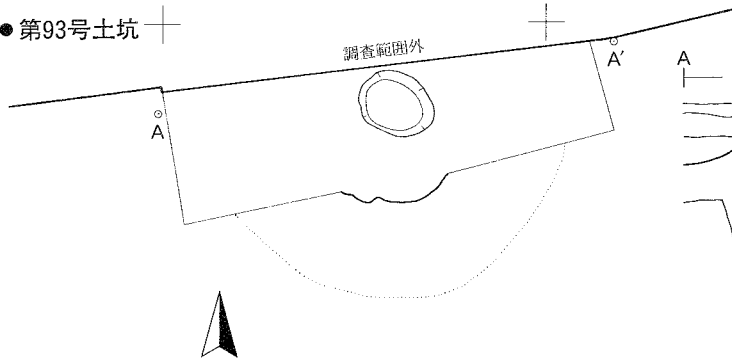


1. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)ブロック斑に入る。シルト 固くしまる。炭化物含む。霜降の埋めもどし土。
2. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック斑に入る。シルト 固くしまる。1層と同じだが色調が明るい。
3. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト 固くしまる。1層と同じだが黄褐色土が主体。
4. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)ブロック斑に入る。シルト 固くしまる。2層とほとんど同じ。
5. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/4)ブロック入る。シルト 粘性強い。もろい。3層に似るが、さらに黄色い。
6. 黒褐色(10YR2/3)シルト もろい。炭化物 灰多く含む。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性あり。炭化物 多く含む。6層に似るが、より明るい。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 非常に固くしまる。5層とほとんど同じ。
9. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック入る。シルト ややもろい。2層と3層の中間的。
10. 暗褐色(10YR3/4)シルト 非常に固くしまる。2層より固く、霜降度弱い。炭化物含む。
11. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。しまり以外は10層と同じ。
12. 暗褐色(10YR3/4)シルト もろい部分と固くしまる部分あり。11層より炭化物多く、暗い。



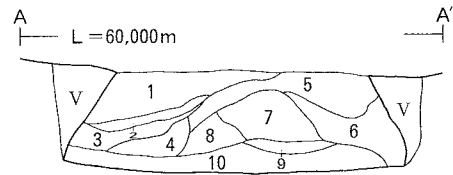
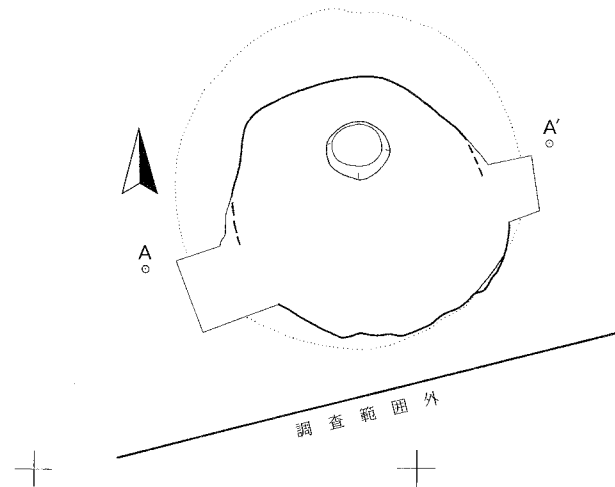
第55図 第90号～第92号土坑

●第93号土坑



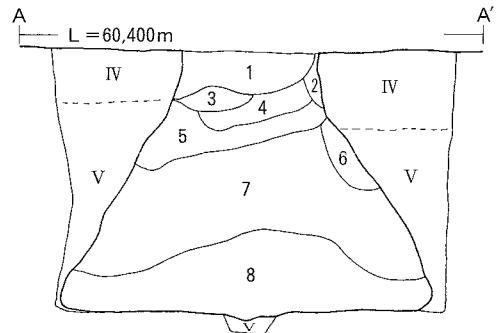
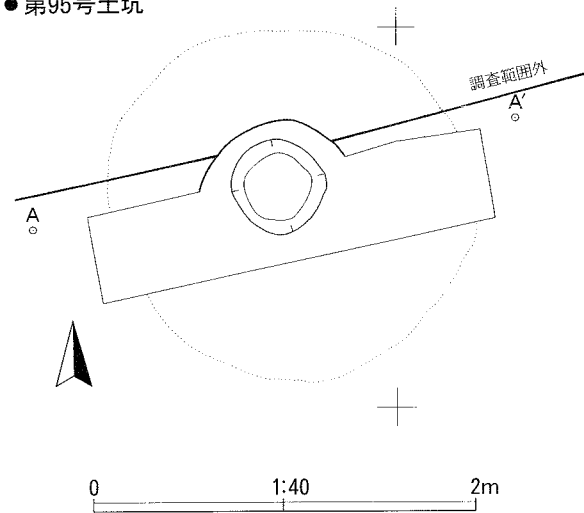
1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。ロームブロック多く含む。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。2mm~3cm大のロームブロック散る。炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト 固くしまる。IV~V層再堆積に炭化物含む。
4. 黄褐色(10YR5/6)に暗褐色(10YR3/4)、(10YR3/3)ブロック入る。粘土V層ブロックを主体とする。
5. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)ブロック入る。シルト 固くしまる。ロームブロックやや多く、炭化物含む。
6. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)斑に入る。シルト 固くしまる。ローム粒多い。炭化物含む。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト 固くしまる。6層に似るが、より暗い。
8. 黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/3)の混合。シルト もろい部分と固くしまる部分あり。ロームブロック含む。
9. 褐色(10YR4/6)シルト 粘性あり。汚れIV~V層再堆積。
10. 暗褐色(10YR3/3)に褐色(10YR4/6)ブロック入る。シルト 粘性あり。固くしまる。7層に似るが、よりローム粒多く明るい。
11. 暗褐色(10YR3/3)と褐色(10YR4/6)の混合。粘土質シルト 固くしまる。汚れV層再堆積。

●第94号土坑



1. 黒褐色(10YR2/2)、黄褐色(10YR5/6)、暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト 霜降上で埋めもどした土。
2. 褐色(10YR4/6)に黒褐色(10YR2/2)ブロック、暗褐色(10YR3/4)斑に入る。シルト 1層と同じだが黄褐色が多い。
3. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)斑に入る。シルト 1層とほとんど同じ。
4. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/6)ブロック斑に入る。シルト もろい。1層と同じだが、明るい。
5. 黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合に黒褐色(10YR2/2)ブロック入る。シルト 1層とほとんど同じだが、より黄褐色土多い。
6. 黄褐色(10YR5/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト 4層とほとんど同じ。
7. 褐色(10YR4/6)に暗褐色(10YR3/4)斑に入る。シルト 粘性あり。1層と同じだが、黄褐色土主体か。
8. 暗褐色(10YR3/4)と褐色(10YR4/6)の混合。シルト ややもろい。4層に似るが、より明るい。
9. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 6層とほとんど同じだが、V層ブロック少ない。
10. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 6層とほとんど同じ。

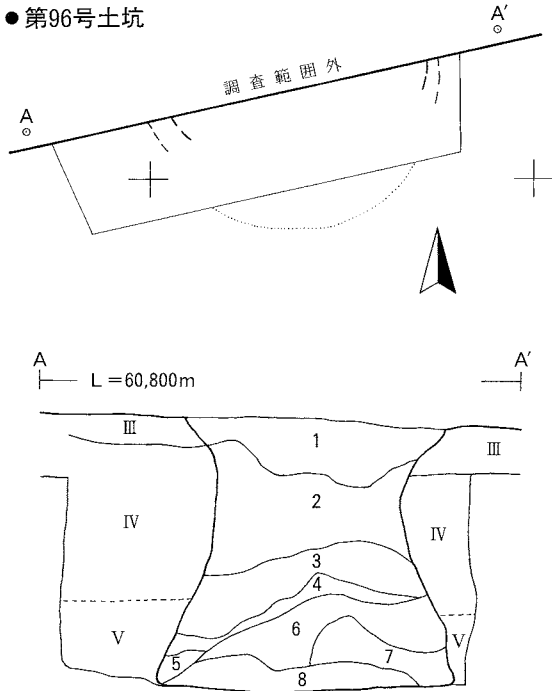
●第95号土坑



1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。IV~V層粒子、細かいブロック多い。炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV層汚れ再堆積。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。1層とほとんど同じだが、やや暗い。
4. 黒褐色(10YR2/2)に暗褐色(10YR3/4)斑に入る。シルト 固くしまる。やや霜降状にIV層ブロック含む。
5. 暗褐色(10YR3/3)に暗褐色(10YR3/4)と褐色(10YR4/6)ブロック斑に入る。シルト 固くしまる。4層に似るがずっと明るい。
6. 暗褐色(10YR3/4)と黄褐色(10YR5/6)の混合。シルト もろい部分あり。5層の上にV層ブロック多く含む。
7. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト もろい部分あり。V層ブロックで構成。埋めもどした土か。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト やや霜降状にIV~V層ブロック含む。埋めもどした土か。

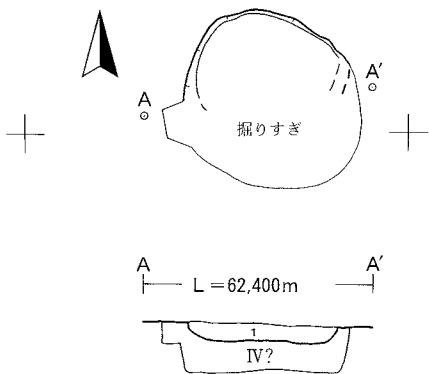
第56図 第93号~第95号土坑

●第96号土坑



1. 暗褐色(10YR3/4)シルト III層より暗く、炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)シルト IV層の汚れ再堆積に炭化物含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。IV層の汚れ再堆積に炭化物多く含む。
4. 暗褐色(10YR3/4)に黒褐色(10YR2/2)ブロック混入。シルト 固くしまる。霜降土に近く、IV～V層粒子、ブロック含む。炭化物含む。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト もろい。V層ブロック多く含む。IV～V層再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)シルト 固くしまる。3層に似るが、炭化物少ない。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。6層に似るが、より暗く、V層ブロック顕著。
8. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる。7層とほとんど同じだが、より暗い。

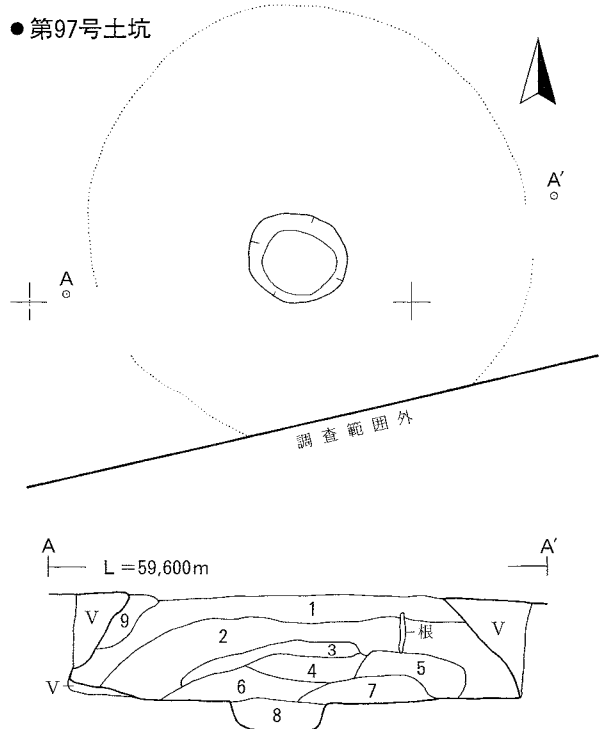
●第98号土坑



1. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト 固くしまる。霜降状に細かいローム粒多く含む。

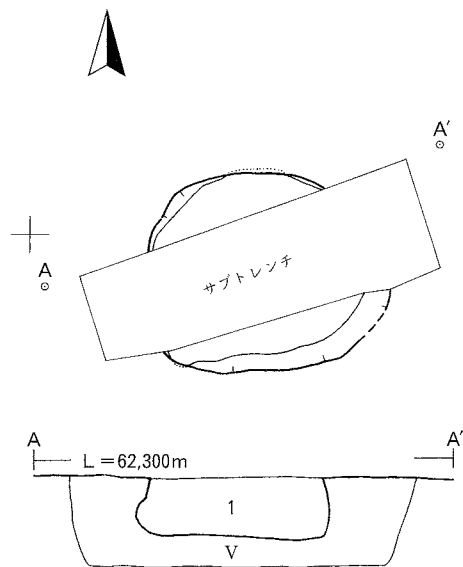
0 1:40 2m

●第97号土坑



1. 黒褐色(10YR2/2)に黄褐色(10YR5/6)ブロック混じる。シルト 霜降土で埋めもどした上。
2. 暗褐色(10YR3/4)に黄褐色(10YR5/6)、黒褐色(10YR2/2)ブロック混じる。シルト 1層と同じだが、黄色味が強い。
3. 褐色(10YR4/4)シルト もろい。2層よりさらに黄色味が強い。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト 1層と2層の中間的。
5. 暗褐色(10YR3/4)に褐色(10YR4/4)混じる。シルト ややもろい。3層とはほとんど同じ。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト 霜降度弱い。
7. 暗褐色(10YR3/4)シルト 固くしまる部分あり。5層に似るが、霜降度弱い。
8. 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘性あり。もろい。霜降度弱く、V層の細かなブロック含むといった感じ。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土 V層が根で汚れたもの。

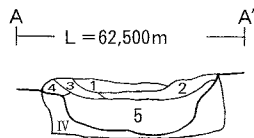
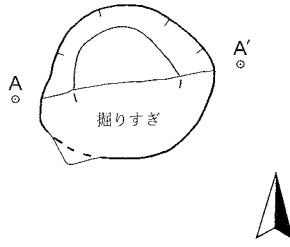
●第99号土坑



1. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 土器を含む。IV層の再堆積。

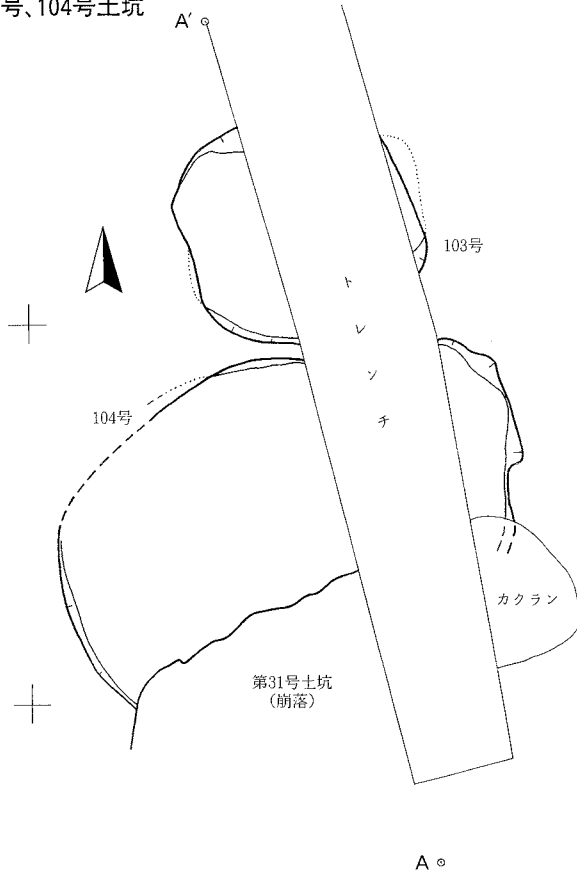
第57図 第96号～第99号土坑

●第100号土坑

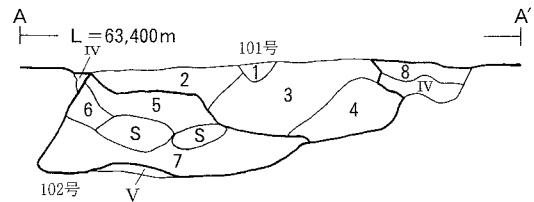
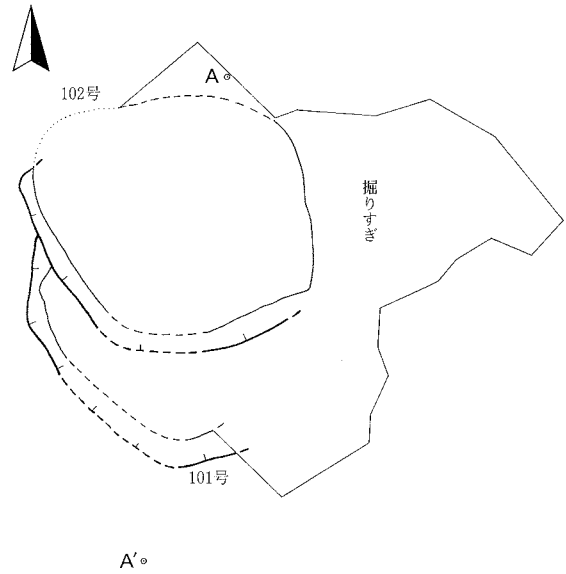


1. 黒褐色(10YR3/1)地にふい黄褐色(10YR5/4)混じる。シルト 多量の灰、ローム粒含み、2~3mmの炭化物も多い。焼土粒含む。
2. 黒色(10YR2/1)シルト 灰、炭化物最も多く含む。ローム粒含む。焼土粒含む。
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト 1層に似るが、ローム粒少ない。
4. 褐色(10YR4/4)粘土 固くしまる。IV~V層の汚れ再堆積。
5. 褐色(10YR4/4)シルト IV~V層の汚れ再堆積。4層よりしまりが弱い。

●第103号、104号土坑

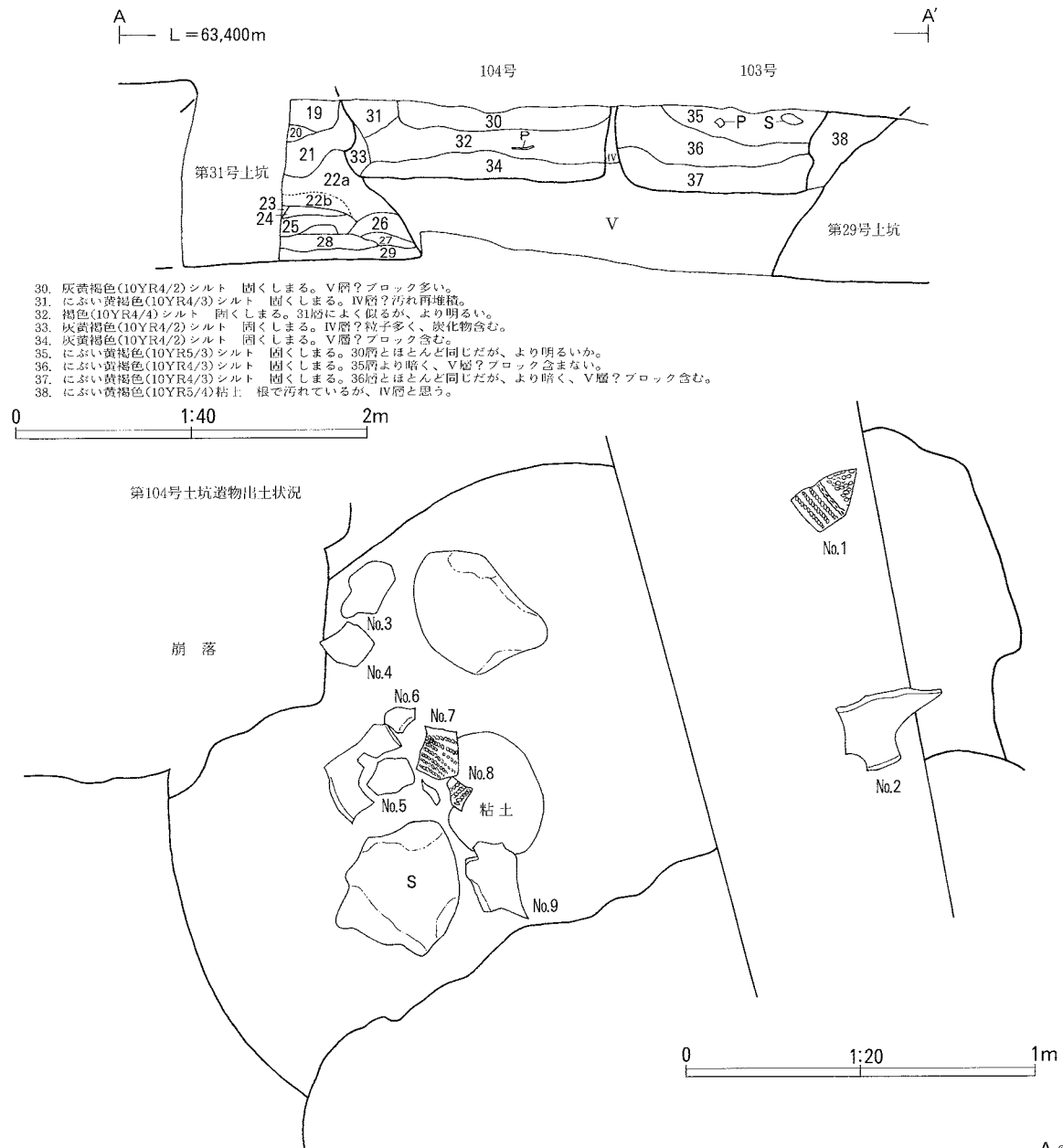


●第101号、102号土坑

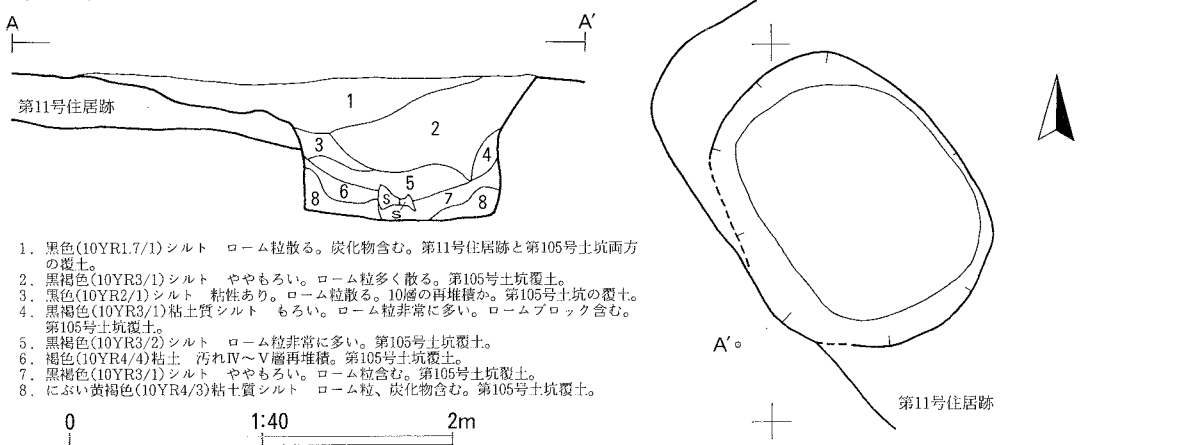


1. 褐色(7.5YR4/6)シルト 固くしまる。焼土粒多い。炭化物含む。どちらの土坑とも関係ない?
2. ぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。炭化物含む。どちらの上坑とも関係ない?
3. 褐色(10YR4/4)粘土 炭化物含む。第101号土坑覆土。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 炭化物含む。第101号土坑覆土。
5. ぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 固くしまる。粘性強い。炭化物含む。第102号土坑覆土。
6. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト 粘性強い。炭化物含む。第102号土坑跡覆土。
7. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性強い。第102号土坑覆土。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 根による汚れ?土坑とは関係ない。

第58図 第100号~第102号土坑、第103号、第104号土坑(1)



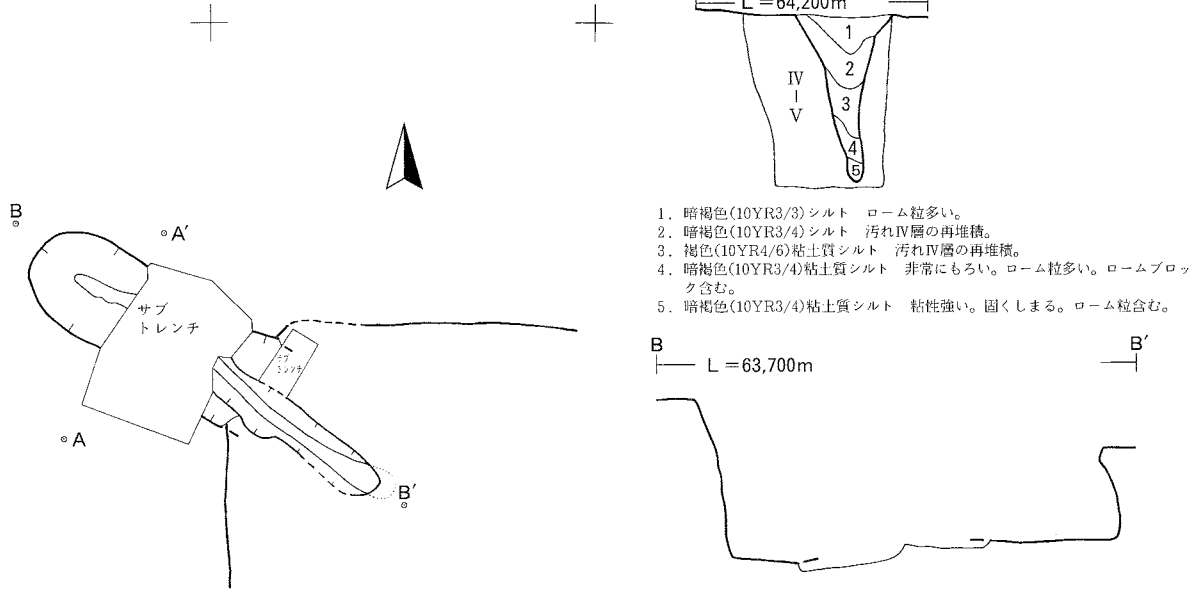
●第105号土坑



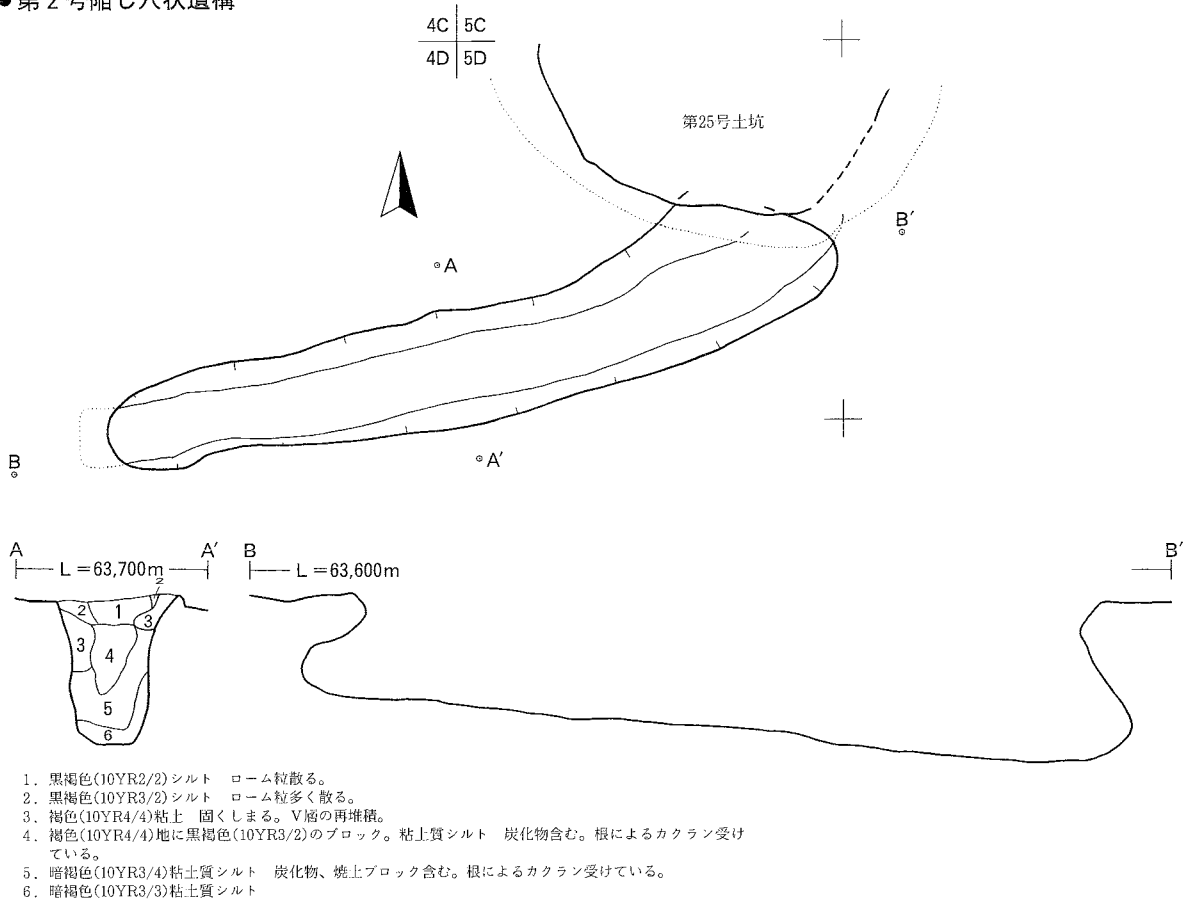
1. 黒色(10YR1.7/1)シルト ローム粒散る。炭化物含む。第11号住居跡と第105号土坑両方の覆土。
2. 黒褐色(10YR3/1)シルト ややもろい。ローム粒多く散る。第105号土坑覆土。
3. 黒色(10YR2/1)シルト 粘性あり。ローム粒散る。10層の再堆積。第105号土坑の覆土。
4. 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト もろい。ローム粒非常に多い。ロームブロック含む。第105号土坑覆土。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト ローム粒非常に多い。第105号土坑覆土。
6. 褐色(10YR4/4)粘土 汚れIV~V層再堆積。第105号土坑覆土。
7. 黒褐色(10YR3/1)シルト ややもろい。ローム粒含む。第105号土坑覆土。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト ローム粒、炭化物含む。第105号土坑覆土。

第59図 第103号、第104号土坑(2)、第105号土坑

● 第1号陥し穴状遺構



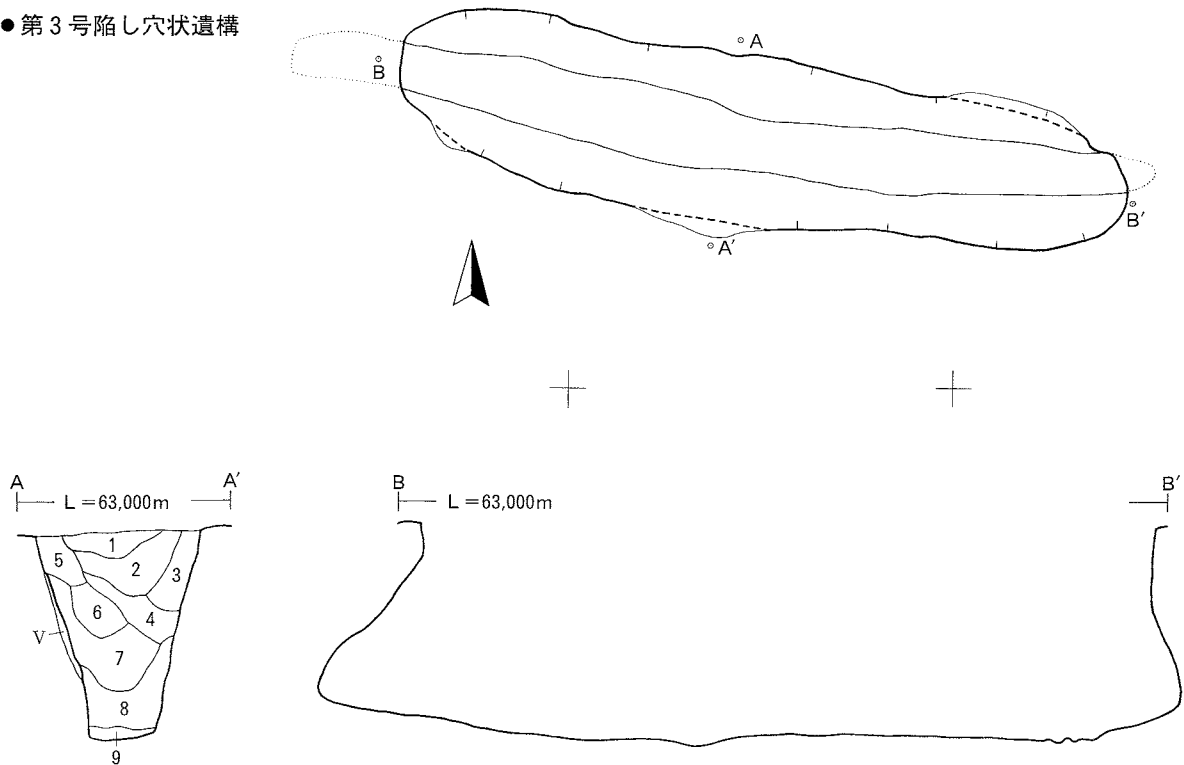
● 第2号陥し穴状遺構



0 1:40 2m

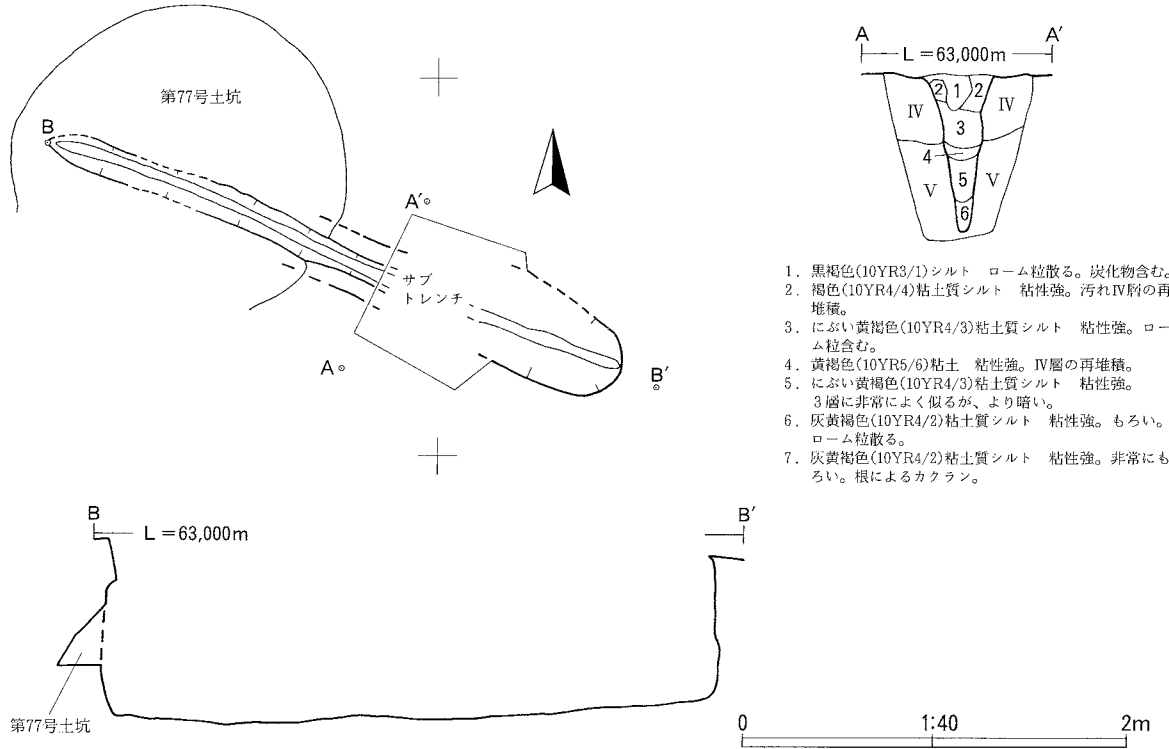
第60図 第1号、第2号陥し穴状遺構

● 第3号陥し穴状遺構



1. 黒褐色(10YR3/2)シルト ローム粒多い。
2. 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト ローム粒含む。
3. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト ローム粒多い。
4. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 粘性強い。IV層の汚れ再堆積。
5. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト 粘性強い。IV層の再堆積。
6. 黄褐色(10YR5/6)粘土 IV~V層の再堆積。7層より汚れていたのでもうひとつ、根によるカクランの量が違うだけのようで、7層と同じかもしれない。
7. 黄褐色(10YR5/8)粘土 IV~V層の再堆積。根によるカクラン受けている。
8. 黄褐色(10YR5/8)粘土質シルト もろい。V層のブロック非常に多い。
9. 黒色(10YR1.7/1)シルト 非常にもろい。

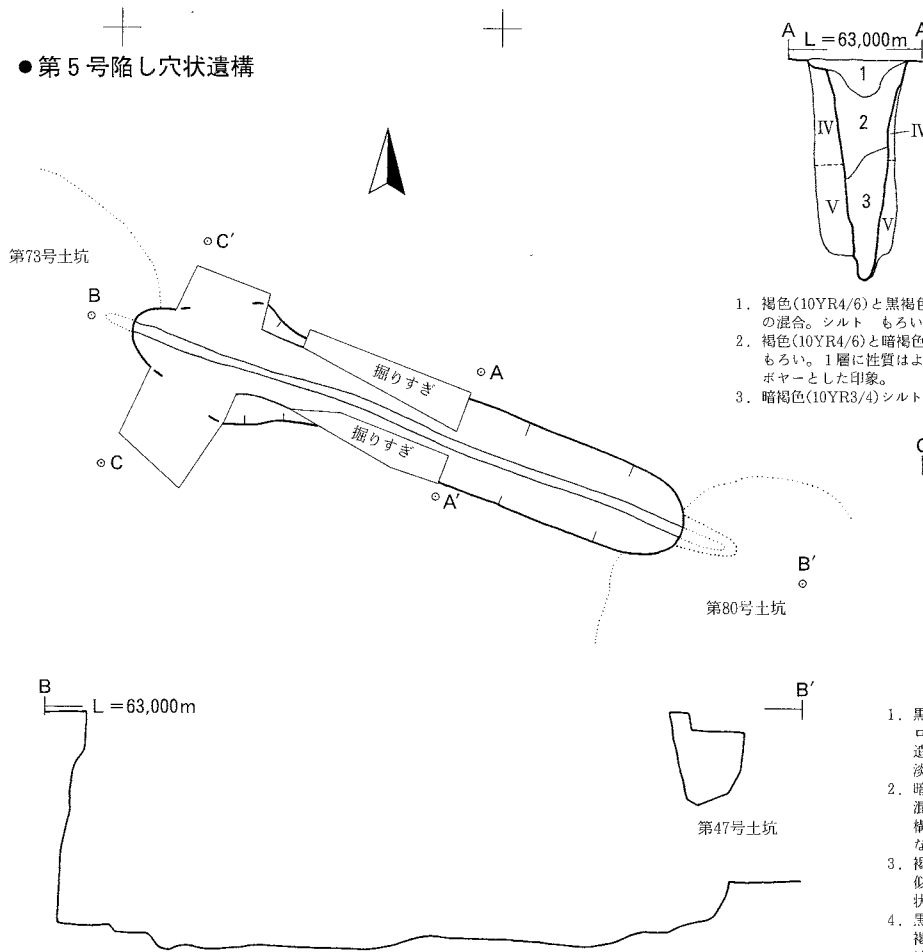
● 第4号陥し穴状遺構



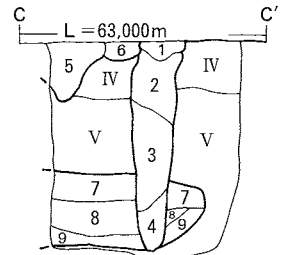
1. 黒褐色(10YR3/1)シルト ローム粒散る。炭化物含む。
2. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト 粘性強。汚れIV層の再堆積。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 粘性強。ローム粒含む。
4. 黄褐色(10YR5/6)粘土 粘性強。IV層の再堆積。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト 粘性強。3層に非常によく似るが、より暗い。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト 粘性強。もろい。ローム粒散る。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト 粘性強。非常にもろい。根によるカクラン。

第61図 第3号、第4号陥し穴状遺構

●第5号陥し穴状遺構

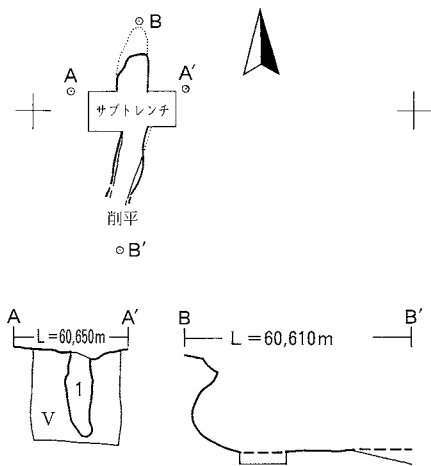


1. 褐色(10YR4/6)と黒褐色(10YR2/2)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト もろい。黄褐色地に黒斑。
2. 褐色(10YR4/6)と暗褐色(10YR3/4)の混合。シルト もろい。1層に性質はよく似るが、両方の土の色が近く、ボヤーとした印象。
3. 暗褐色(10YR3/4)シルト 非常にもろい。IV層汚れ再堆積。



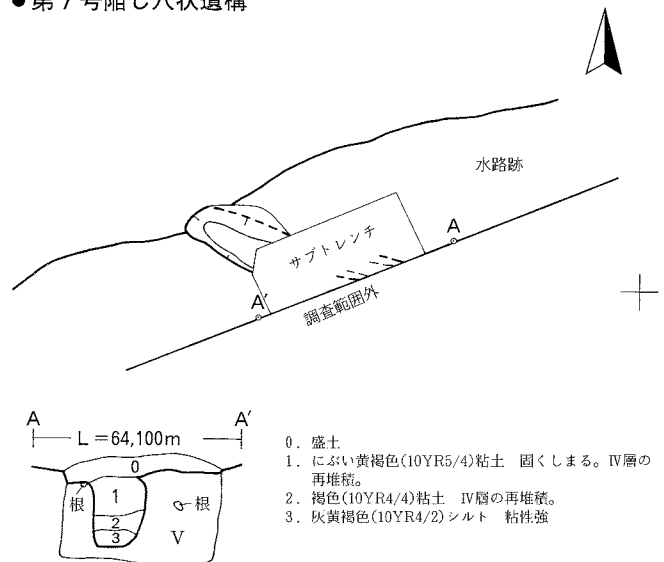
1. 黒褐色(10YR2/2)に黄褐色(10YR5/8)ブロック斑に入る。シルト 第5号陥し穴状遺構の1層に相当すると思うが、黒色土が淡い。
2. 暗褐色(10YR3/4)と黄褐色(10YR5/8)の混合。シルト もろい。第5号陥し穴状遺構の2層に相当すると思うが、黄褐色土少ない。
3. 褐色(10YR4/4)シルト 粘性あり。2層に似るが、より黄褐色土多い。第5号陥し穴状遺構の覆土。
4. 黒褐色(10YR2/2)と褐色(10YR4/4)と黄褐色(10YR5/6)の混合。粘土質シルト 粘性強い。もろい。IV層の再堆積に黒色土含む。第5号陥し穴状遺構の覆土。
5. 第73号土坑の1層と同じ。
6. 第73号土坑の2層と同じ。
7. 第73号土坑の9層に似る。
8. 第73号土坑の13層と同じ。
9. 第73号土坑の15層と同じ。

●第6号陥し穴状遺構

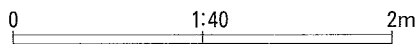


1. 褐色(10YR4/4)シルト 炭化物含む。根でV層が汚れたような感じ。

●第7号陥し穴状遺構

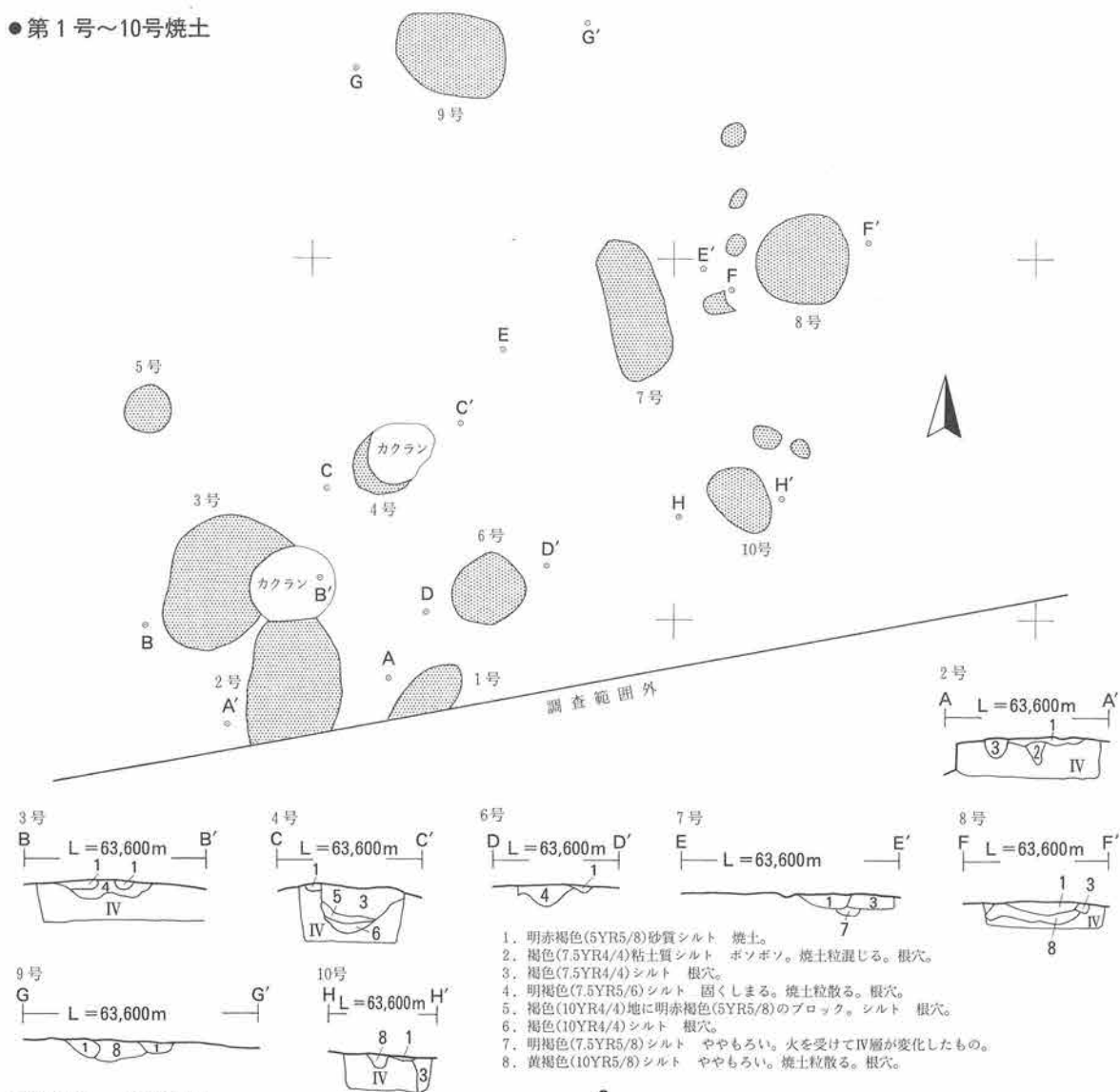


0. 盛土
1. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土 固くしまる。IV層の再堆積。
2. 褐色(10YR4/4)粘土 IV層の再堆積。
3. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘性強

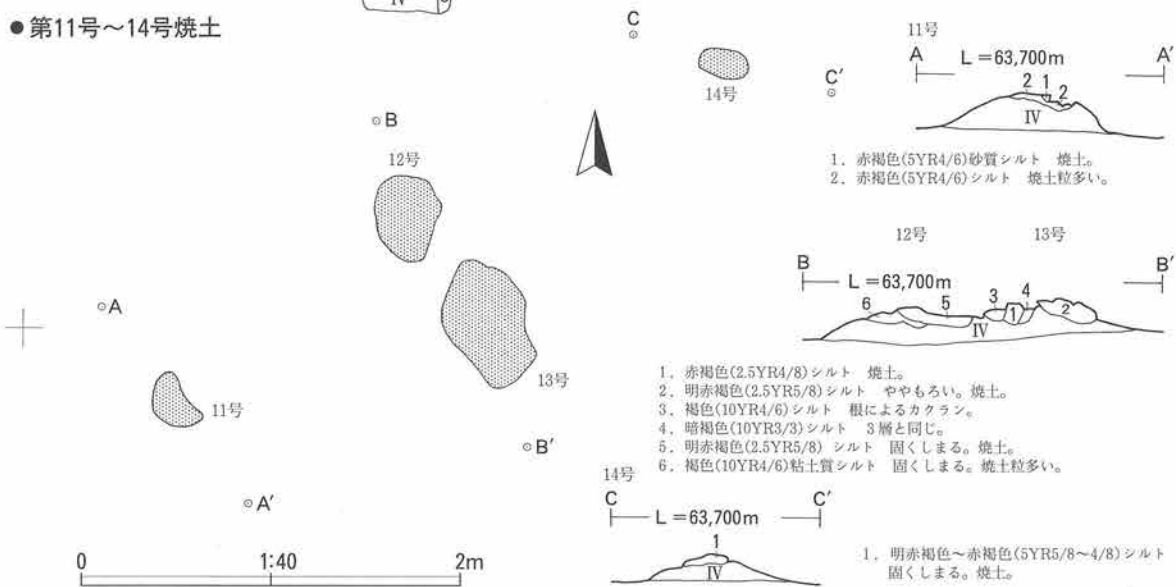


第62図 第5号～第7号陥し穴状遺構

●第1号～10号焼土

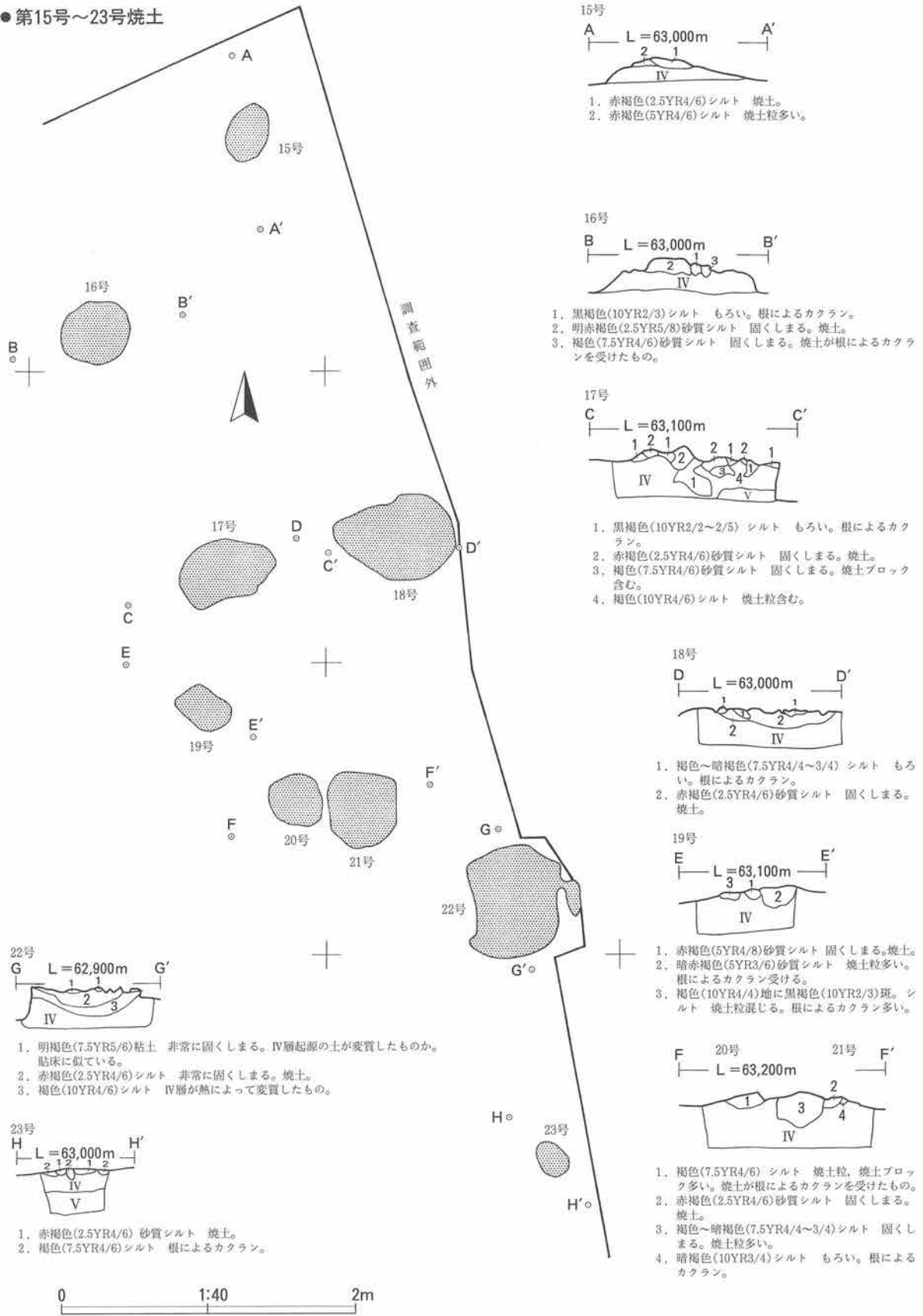


●第11号～14号焼土



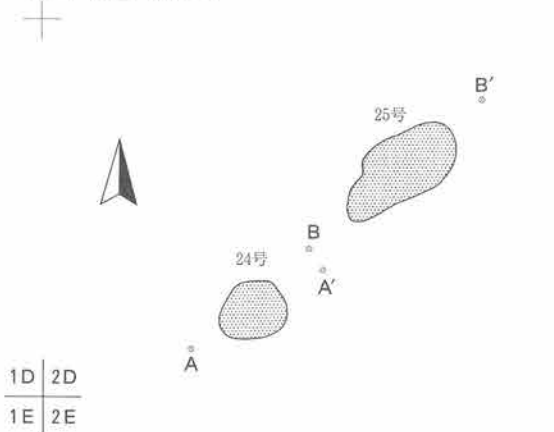
第63図 第1号～第14号焼土

● 第15号～23号焼土

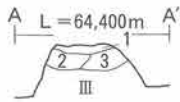


第64図 第15号～第23号焼土

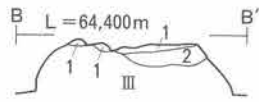
●第24号、25号焼土



1D | 2D
1E | 2E



1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト 火を受けたせいか固くしまる。
3. 黄褐色(10YR5/6)砂質シルト III層が火を受けて固くなったもの。

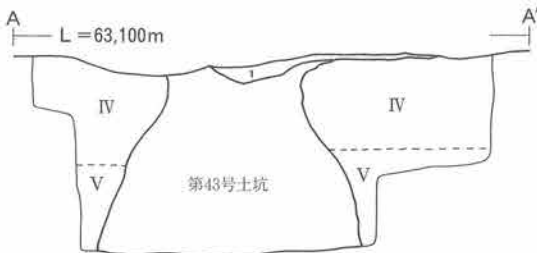
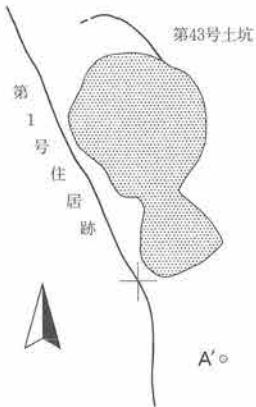


1. にぶい赤褐色(5YR4/3)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト 火を受けたせいか固くしまる。

●第30号焼土

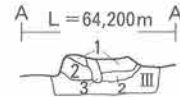
A○

6B	7B
6C	7C



1. 明赤褐色(2.5YR5/8)シルト 固くしまる。

●第26号焼土

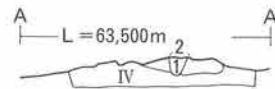
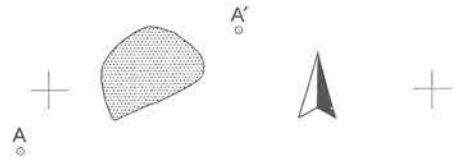


1. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 黄褐色(10YR5/6)シルト III層が火を受けて固くなったもの。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト もろい。根によるカクラン。

●第27号、28号焼土

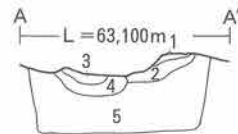
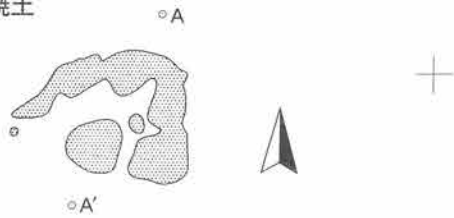


●第29号焼土



1. 黒褐色(7.5YR3/2)シルト 根によるカクラン。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)砂質シルト 焼土がカクランを受けたもので、他の土が混入している。

●第31号焼土

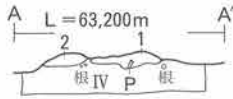
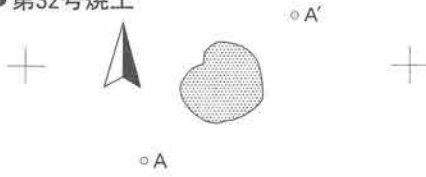


1. 褐色(7.5YR4/4)シルト 固くしまる。焼土。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。熱によってIV層が変質したもの。
3. 1層と2層の混土。上面に1層、下部に2層。ただし、焼土の発達は弱く、ブロック状を呈する所が多い。
4. 褐色(10YR4/6)シルト 固くしまる。2層が根によるカクランを受けたもの。
5. IV層だが、根によるカクラン多い。

0 1:40 2m

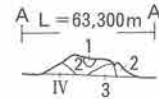
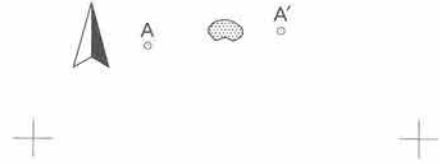
第65図 第24号～第31号焼土

●第32号焼土



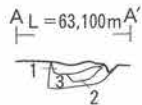
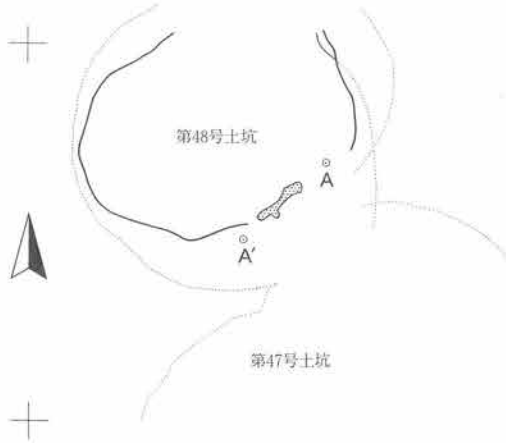
1. 暗褐色(10YR3/4)シルト 焼土粒含む。焼土が根によるカクランを受けたもの。
2. 褐色(10YR4/4)シルト 焼土粒含む。焼土が根によるカクランを受けたもの。

●第34号焼土



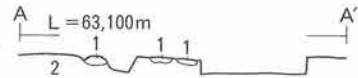
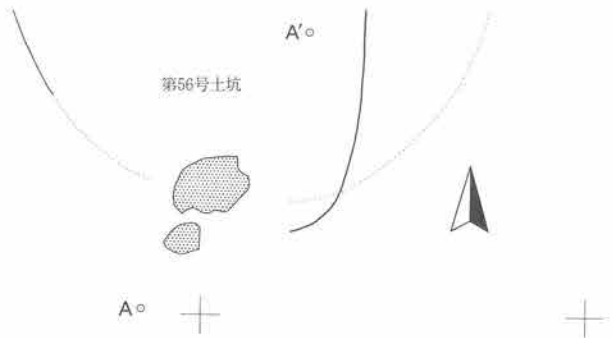
1. 褐色(7.5YR4/6)シルト 焼土粒多い。焼土がカクランを受けたものか、そうでない現地性でないものか不明。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト 皿層。
3. 褐色(10YR4/6)シルト 汚れたIV層。

●第33号焼土



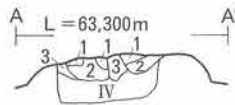
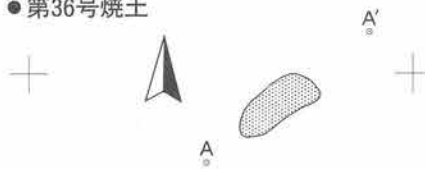
1. 明赤褐色(5YR5/8)シルト 固くバサバサしている。焼土。
2. 暗赤褐色(5YR3/6)シルト 固くバサバサしている。焼土粒含む。熱で3層が変化した部分。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 炭化物含む。下部土坑の覆土。

●第35号焼土

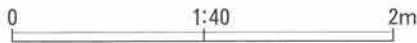


1. 赤褐色(5YR4/8)シルト 固くバサバサしている。焼土。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 南側の住居の覆土によく似る。

●第36号焼土

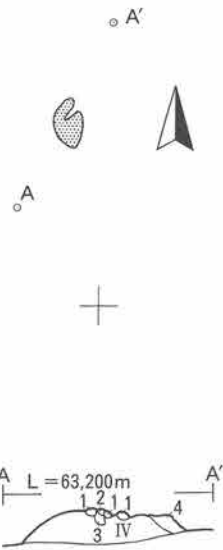


1. 橙色(5YR6/6)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 明褐色(7.5YR5/6)砂質シルト 固くしまる。熱によって変化したIV層。
3. 黄褐色(10YR5/6)シルト もろい。根によるカクラン。



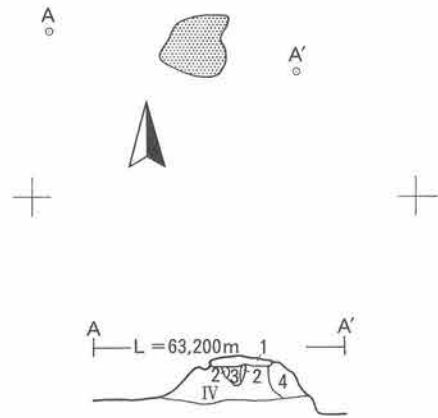
第66図 第32号～第36号焼土

● 第37号焼土



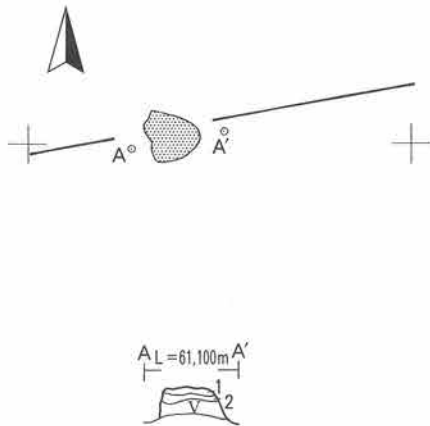
1. 褐色(7.5YR4/6)シルト もろい。焼土粒多い。
2. 明赤褐色(5YR5/8)シルト 固くしまる。焼土ブロック。
3. 黒褐色(10YR2/3)シルト もろい。根によるカクラン。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト Ⅲ層。

● 第38号焼土



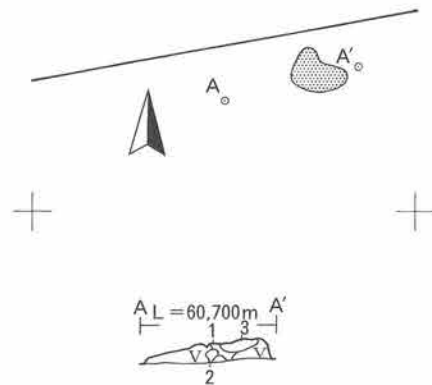
1. 赤褐色(2.5YR4/8)シルト 焼土。
2. 赤褐色(2.5YR4/6)シルト もろい。焼土がカクランを受けて移動。
3. 褐色(10YR4/6)粘土 固くしまる。IV層に根によるカクラン混じる。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト Ⅲ層。

● 第39号焼土



1. 赤褐色(5YR4/8)砂質シルト 固くしまる。焼土。
2. 黄褐色(10YR5/6)シルト 固くしまる。V層が熱により変化したもの。

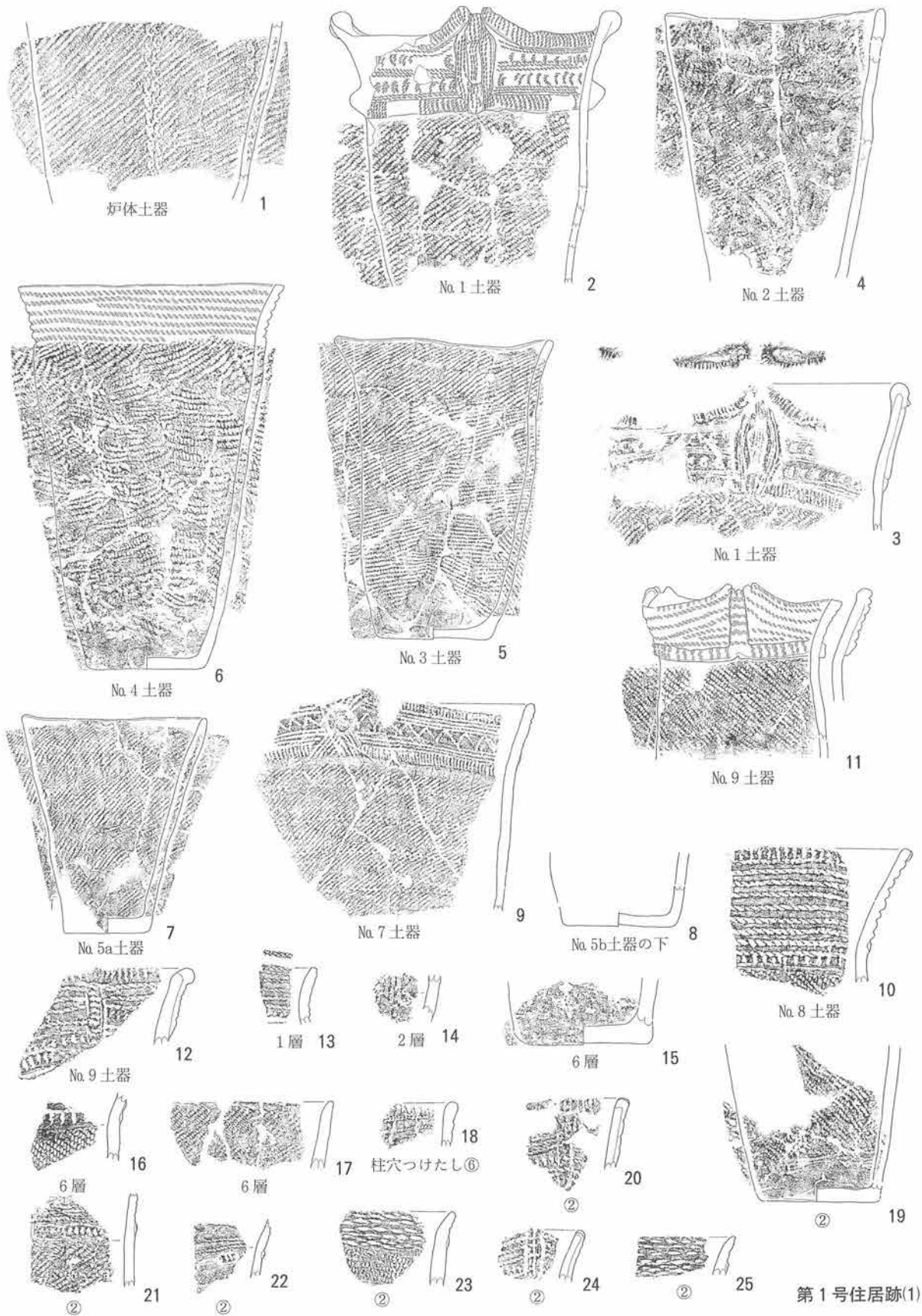
● 第40号焼土



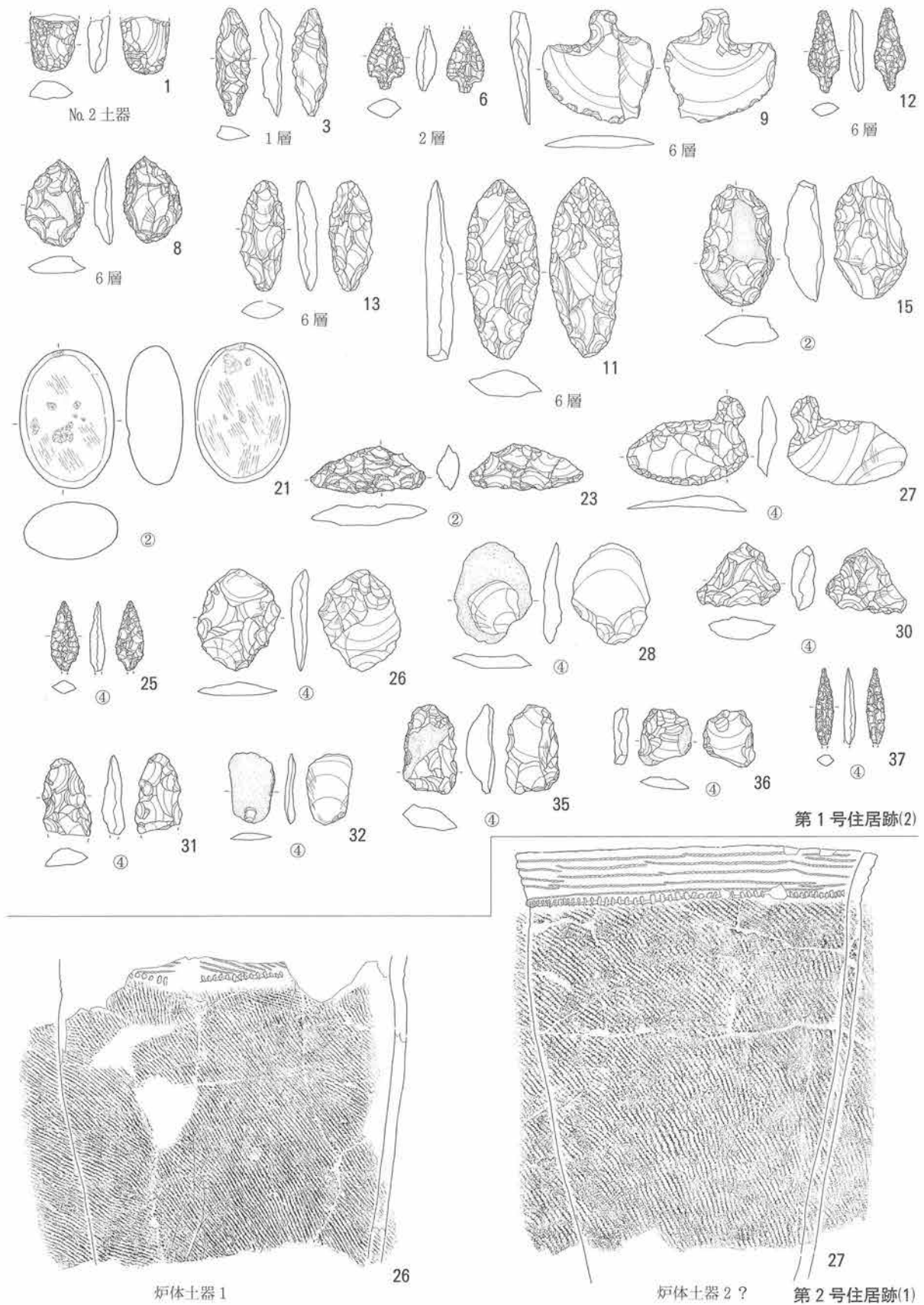
1. 暗褐色(10YR3/3)シルト もろい。根によるカクラン。
2. 褐色(10YR4/6)シルト 根によるカクラン。
3. 赤褐色(5YR4/8)シルト 固くしまる。焼土。



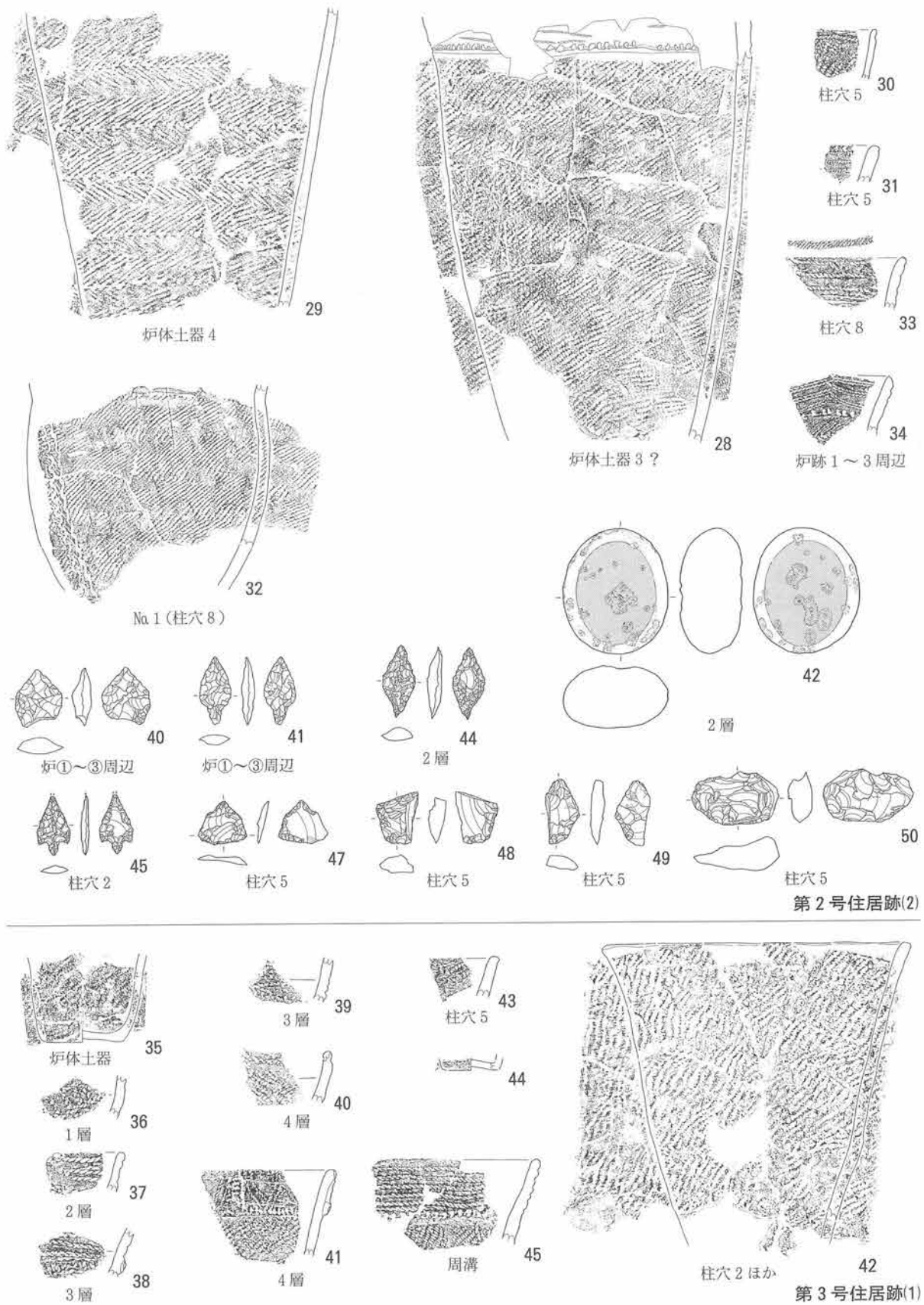
第67図 第37号～第40号焼土



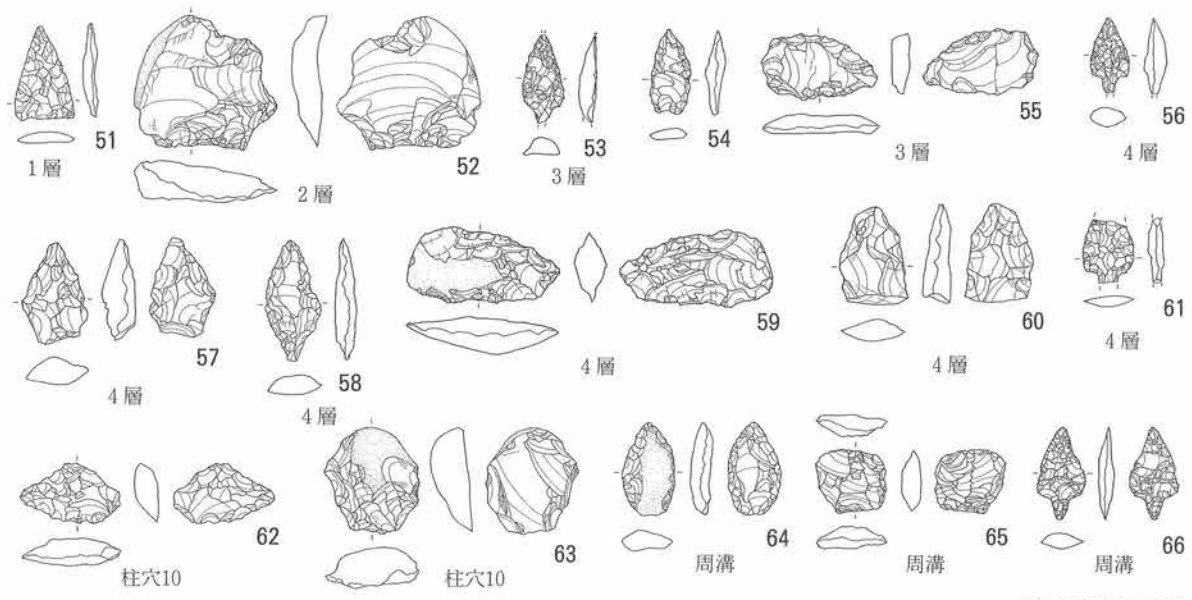
第68図 第1号住居跡(1)出土遺物 (1/5)



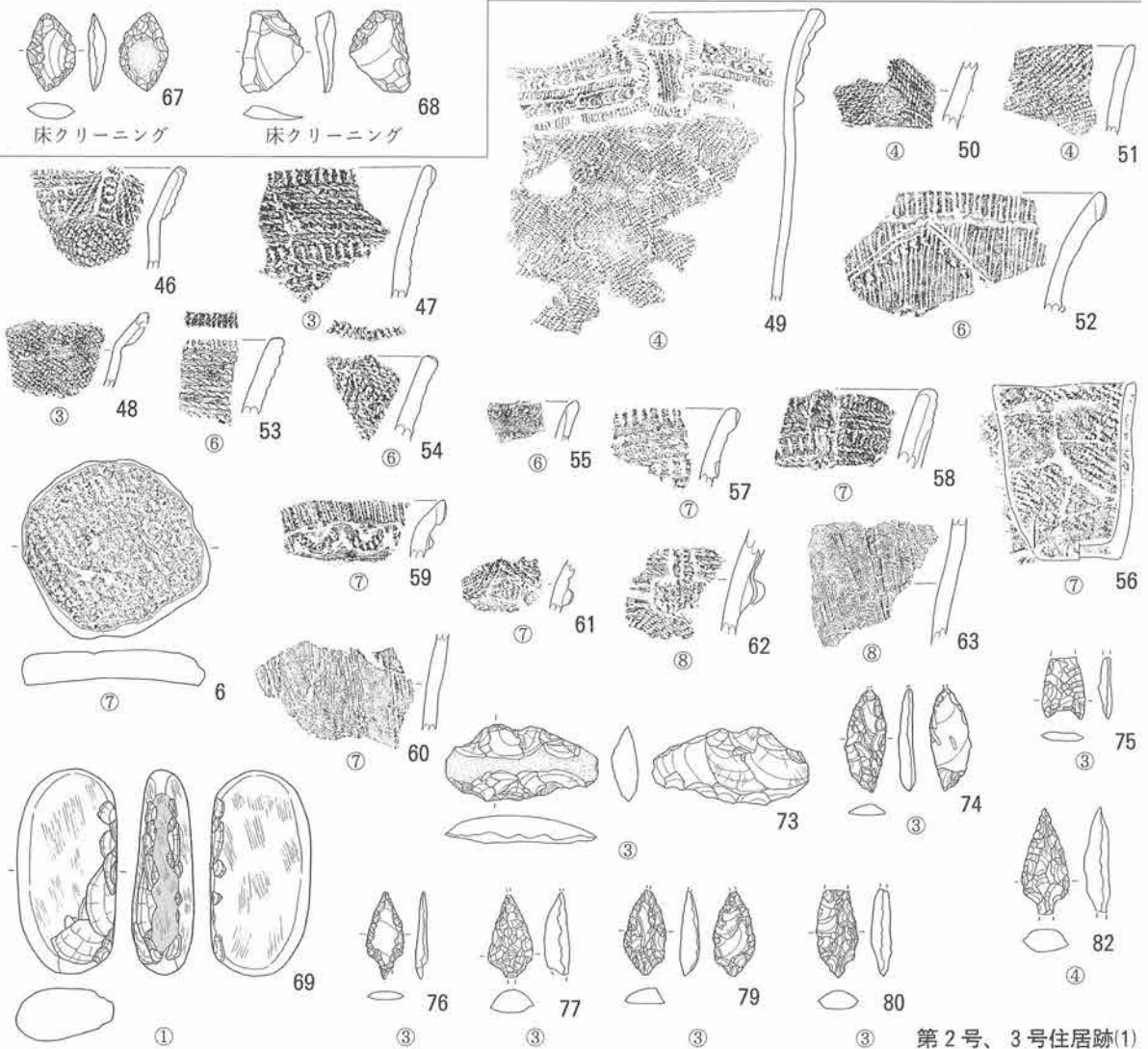
第69图 第1号住居跡(2)、第2号住居跡(1)出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



第70図 第2号住居跡(2)、第3号住居跡(1)出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)

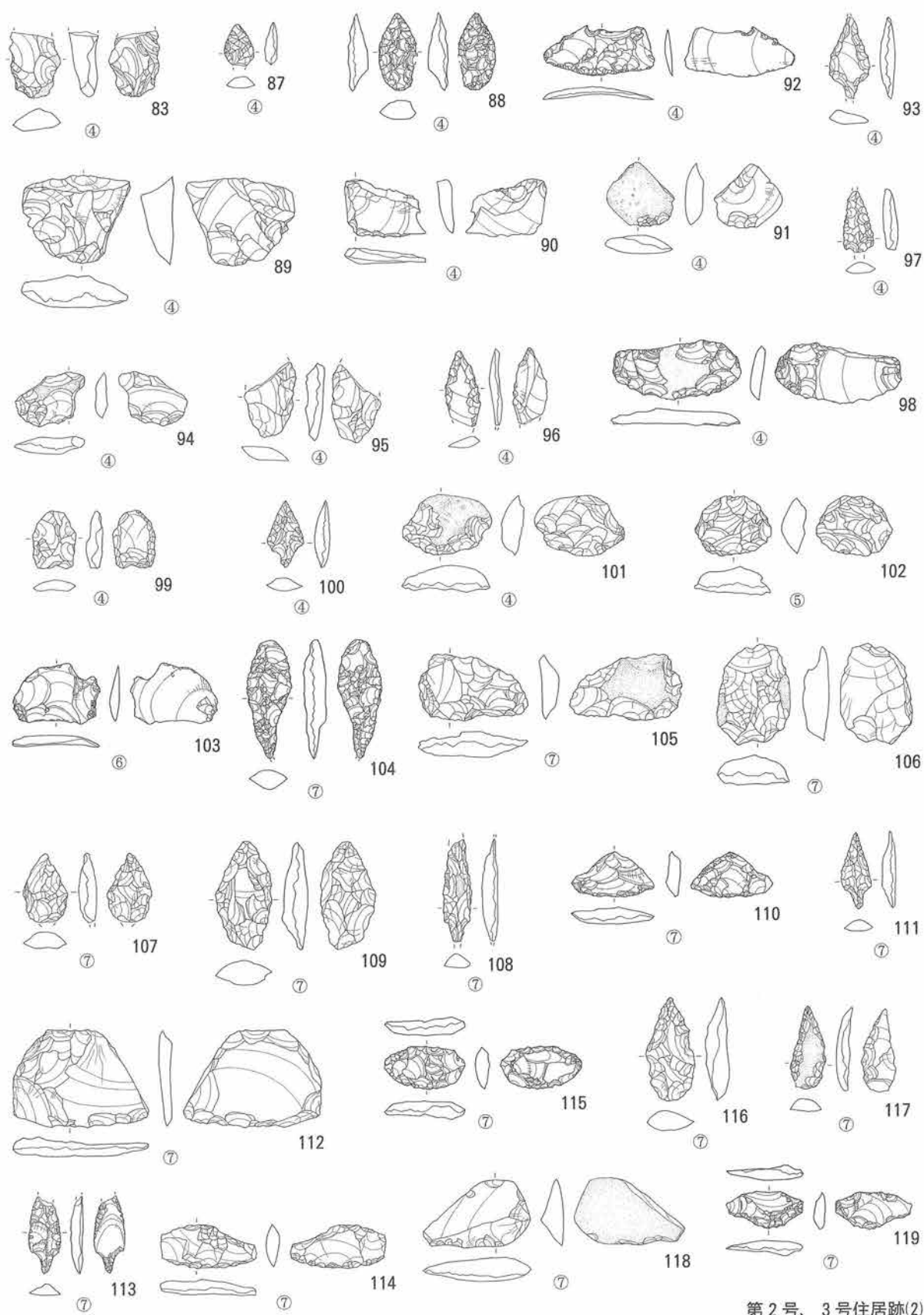


第3号住居跡(2)



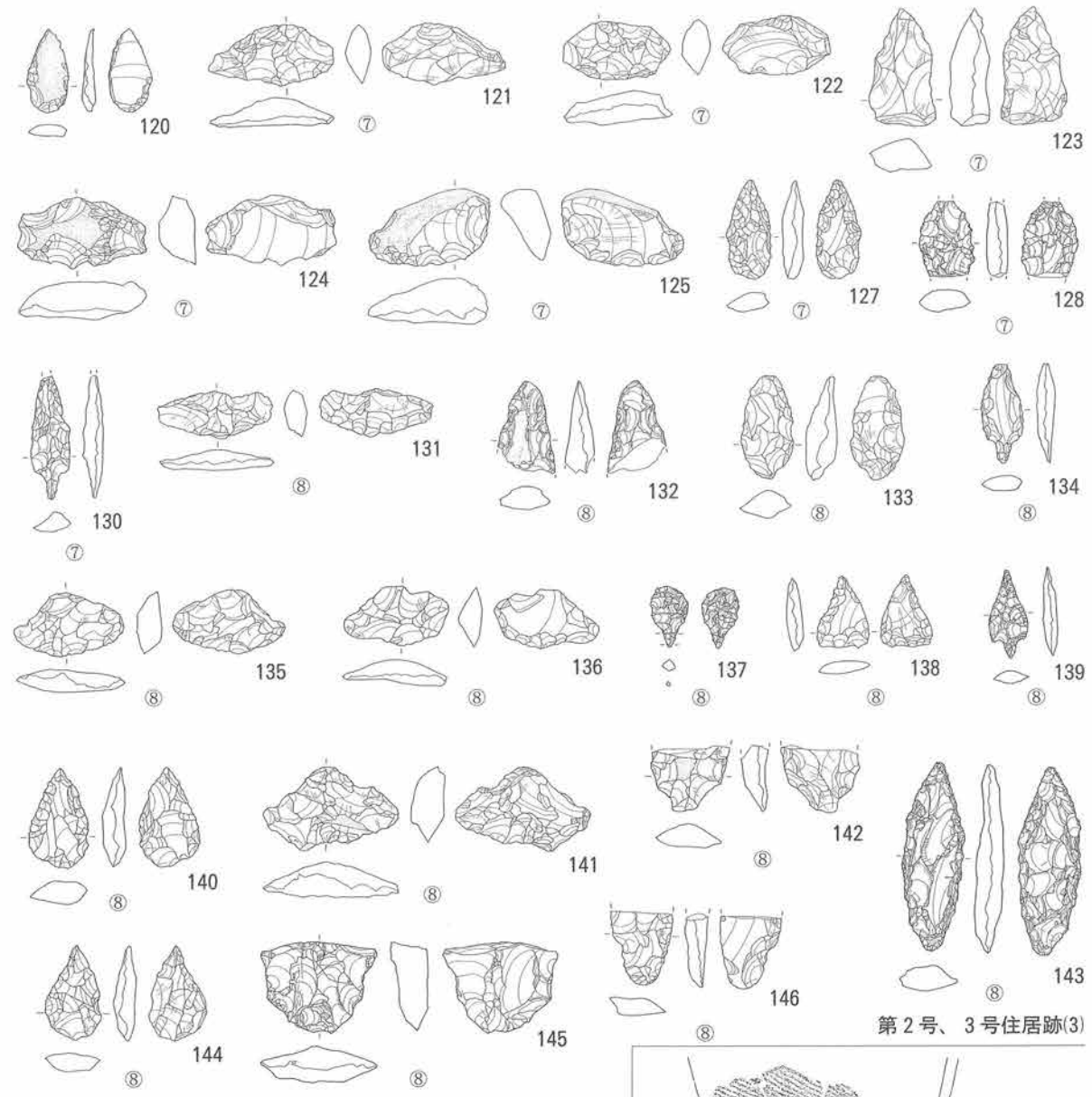
第2号、3号住居跡(1)

第71図 第3号住居跡(2)、第2号、第3号住居跡(1)出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器・土製品1/3)

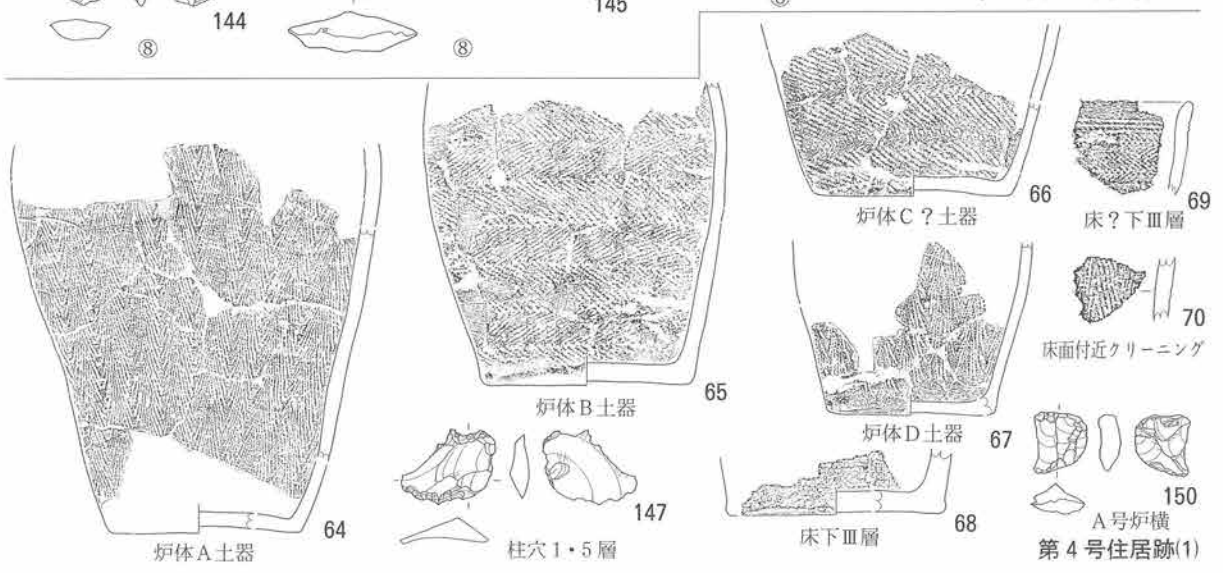


第2号、3号住居跡(2)

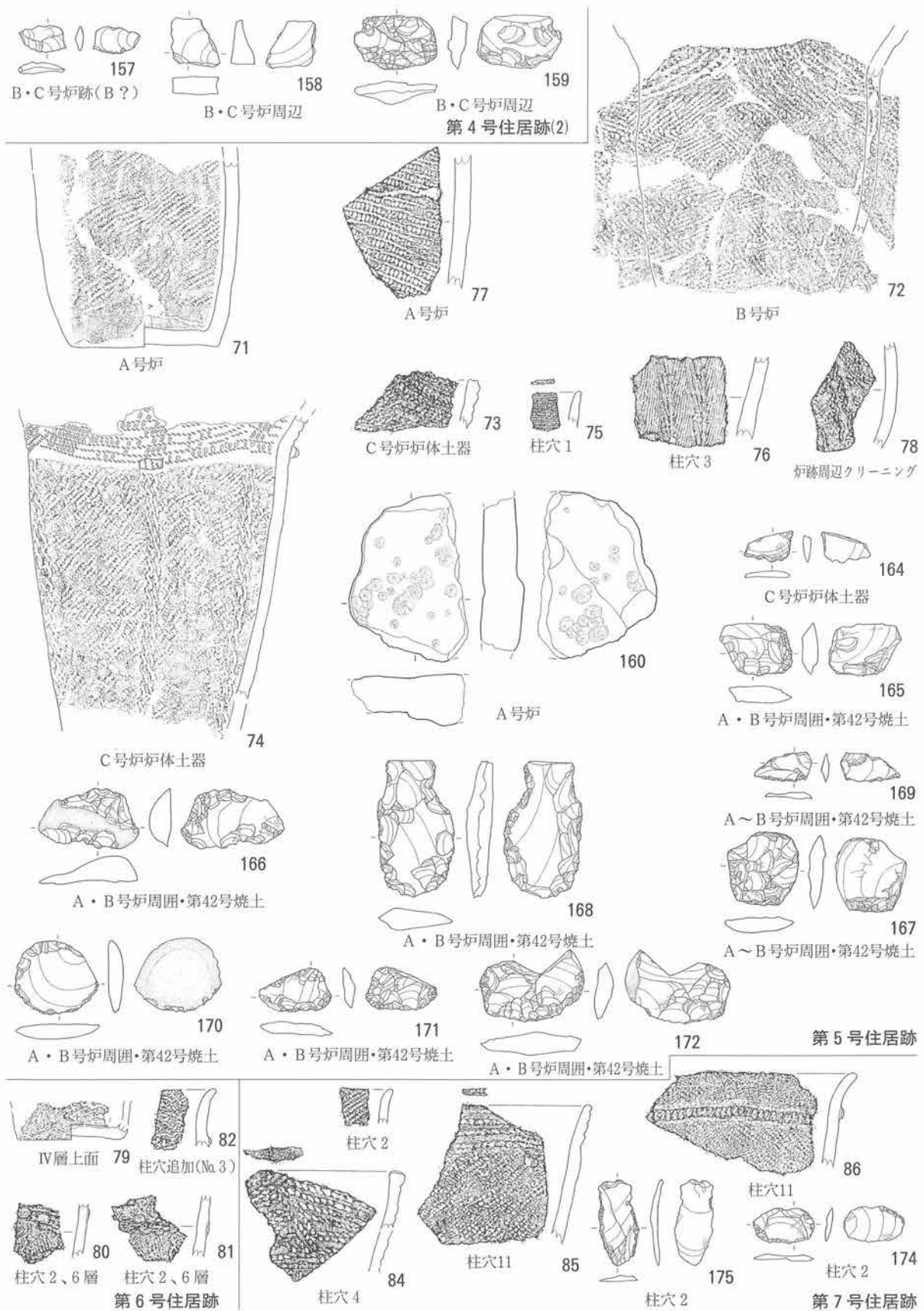
第72図 第2号、第3号住居跡(2)出土遺物
(剥片石器1/3)



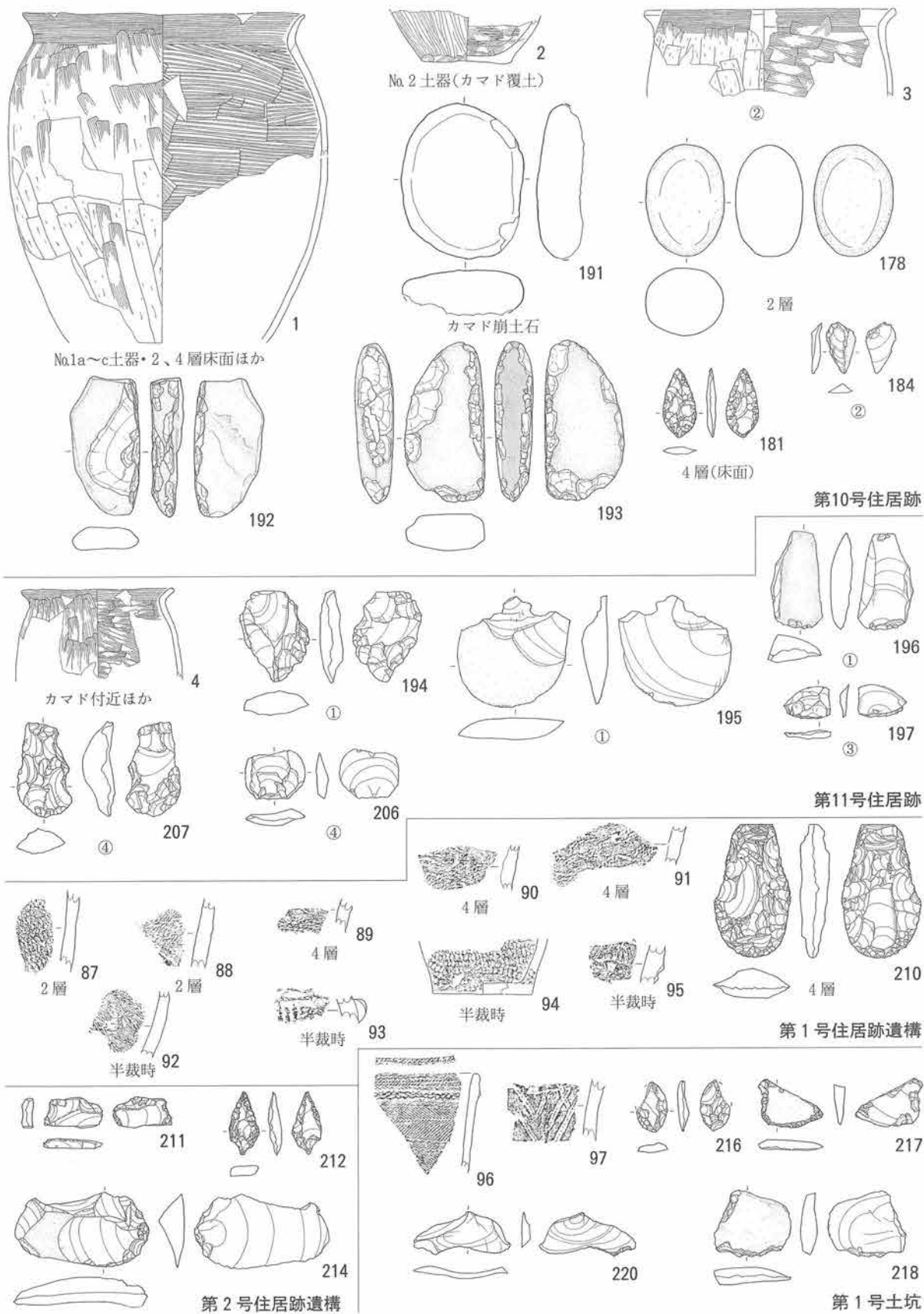
第2号、3号住居跡(3)



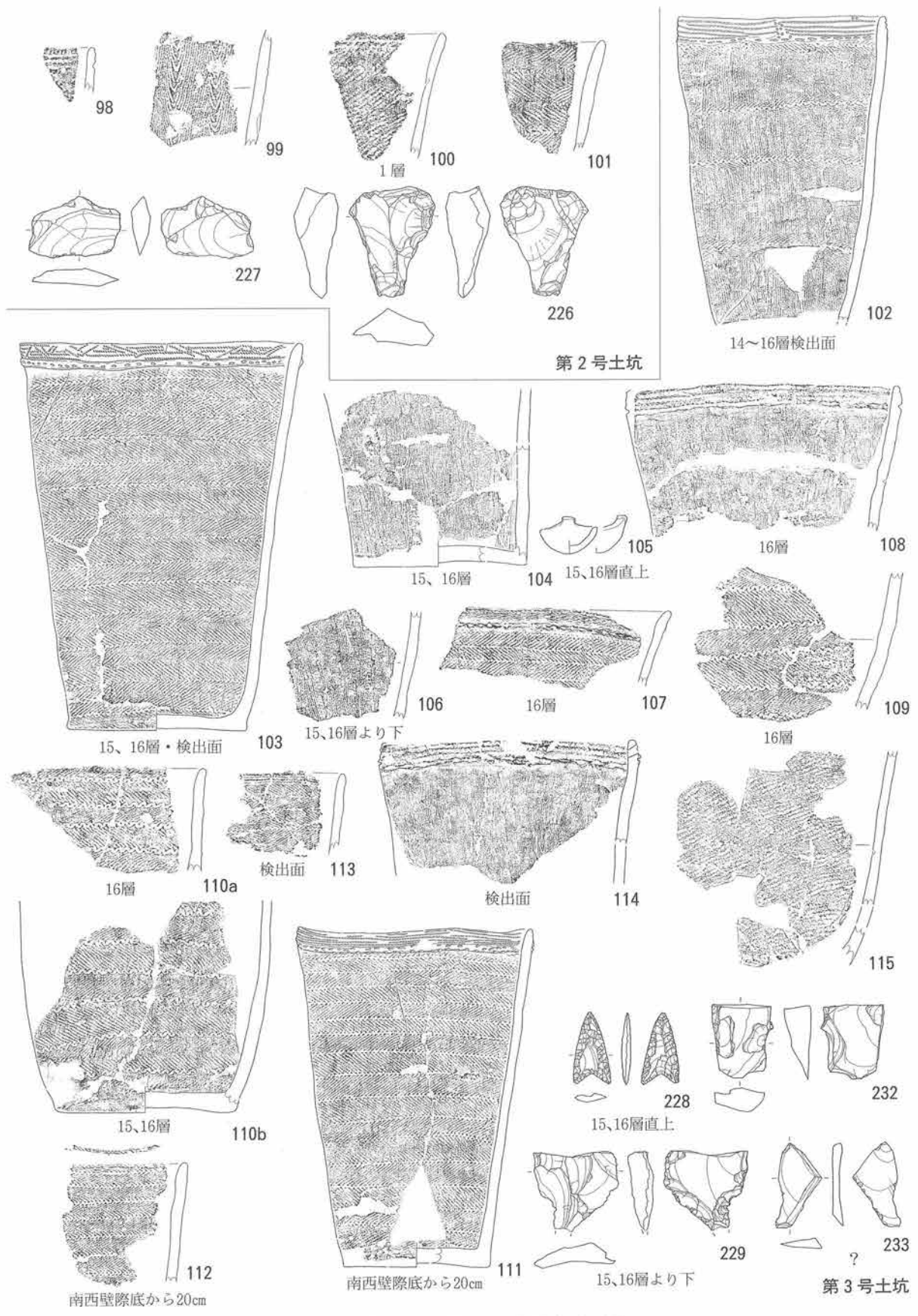
第73図 第2号、第3号住居跡(3)、第4号住居跡(1)出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



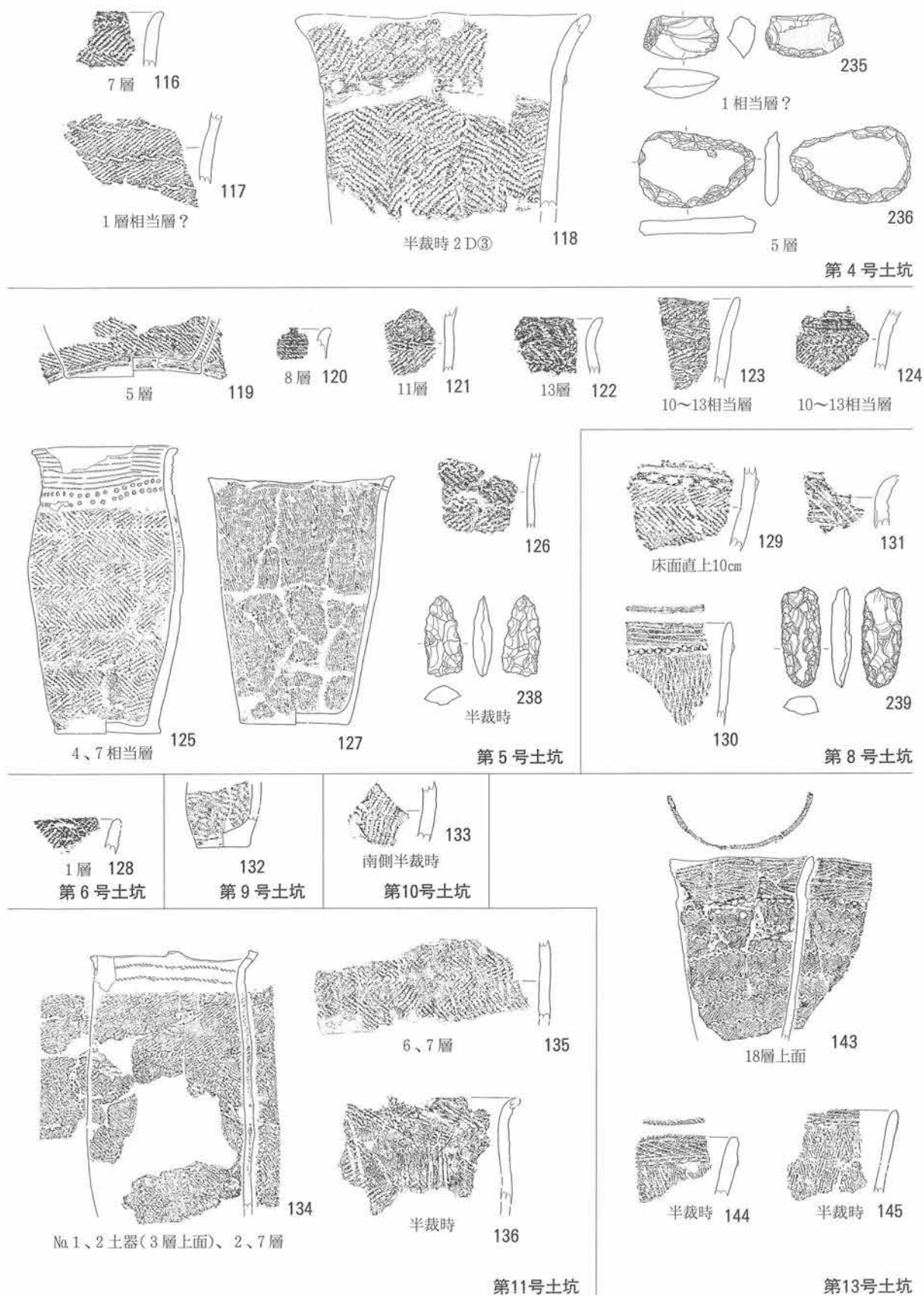
第74図 第4号住居跡(2)、第5号～第7号住居跡出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



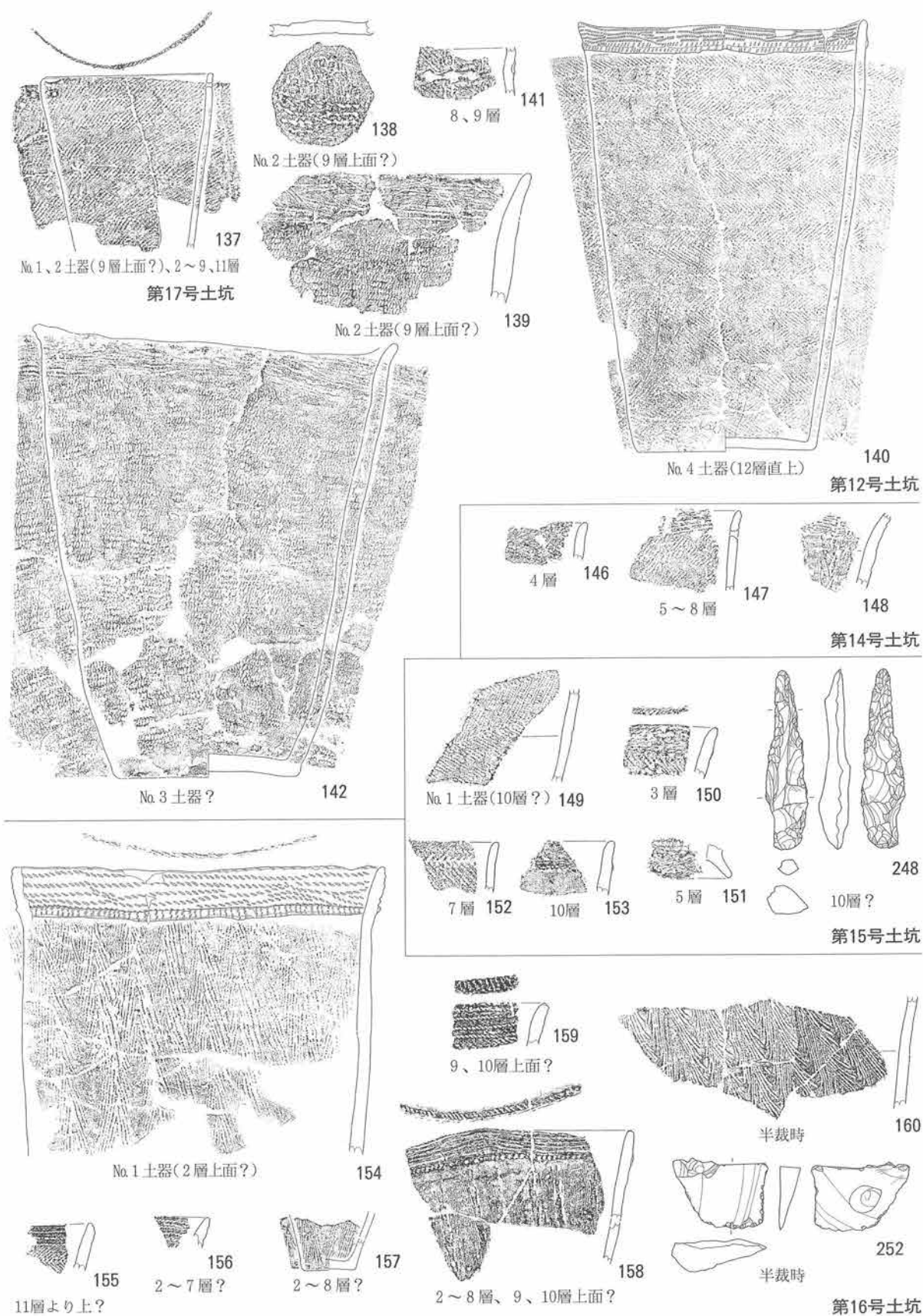
第75図 第10号、第11号住居跡・第1号、第2号住居状遺構・第1号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



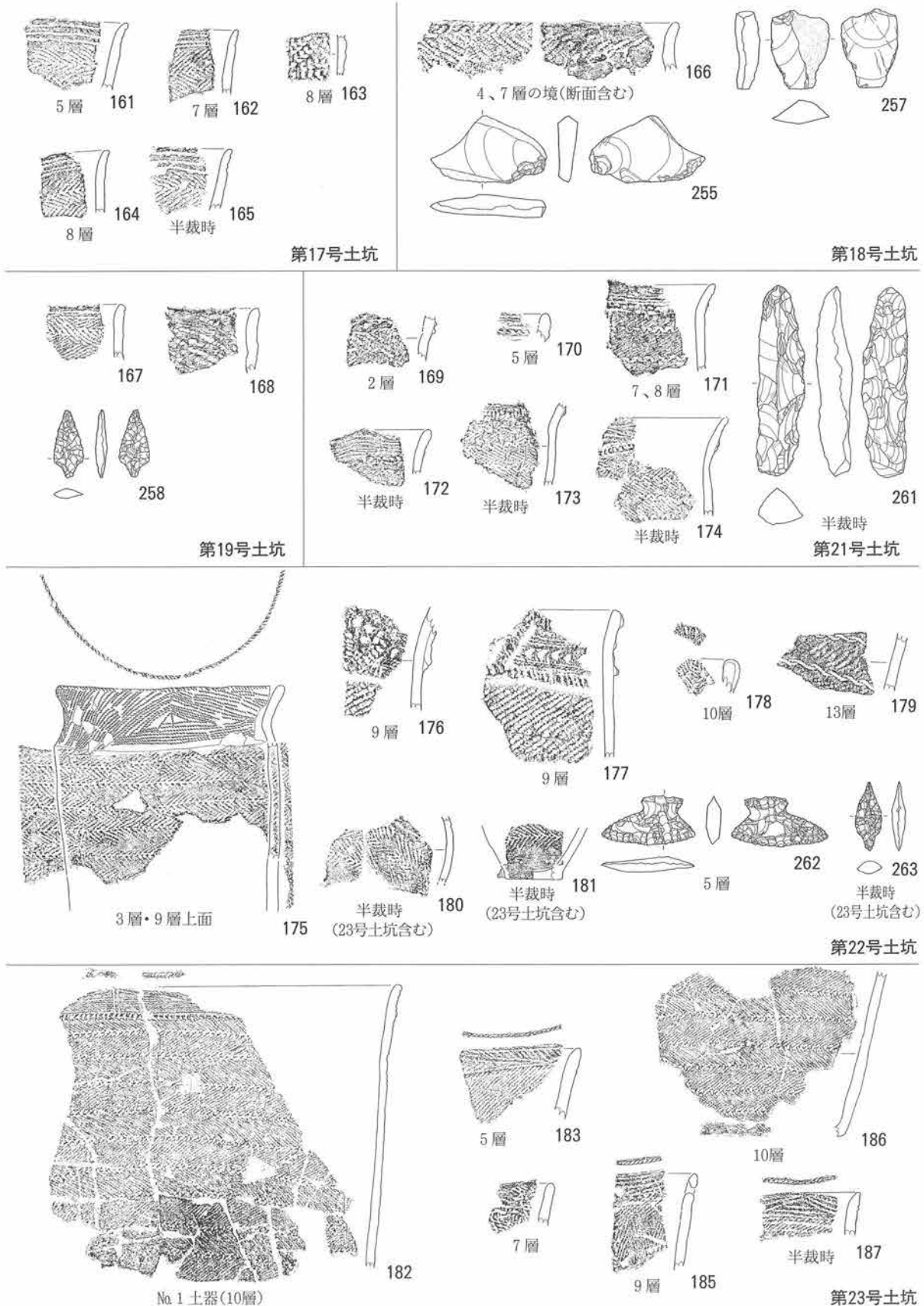
第76図 第2号、第3号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



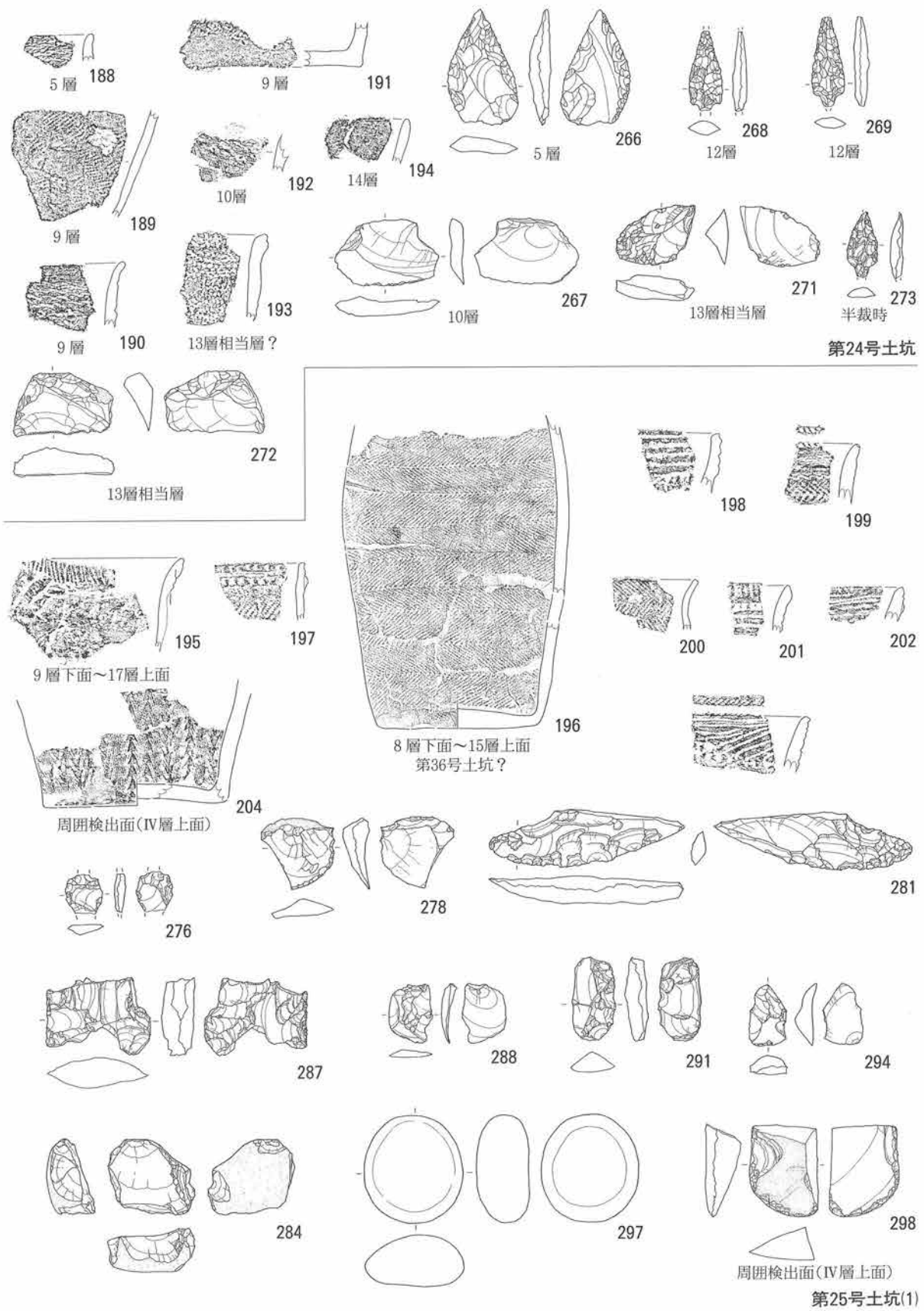
第77图 第4号~第6号、第8号~第11号、第13号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



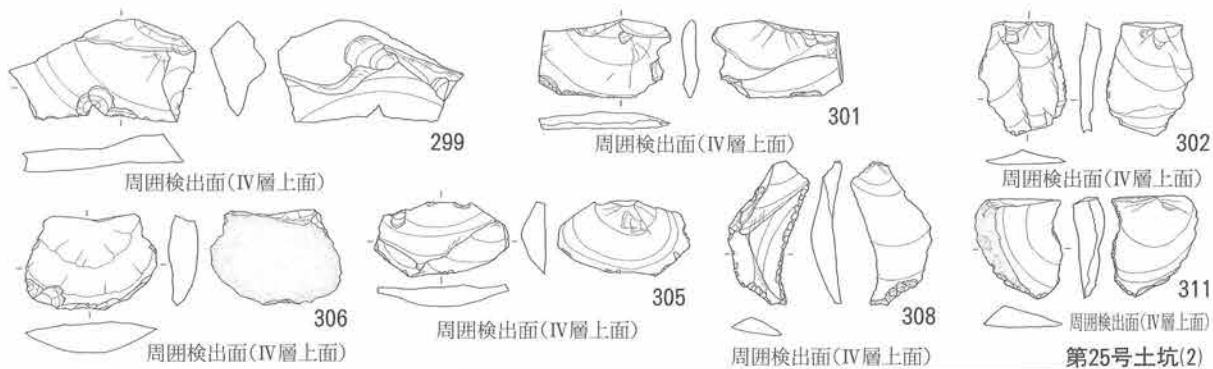
第78図 第12号、第14号~第16号土坑出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



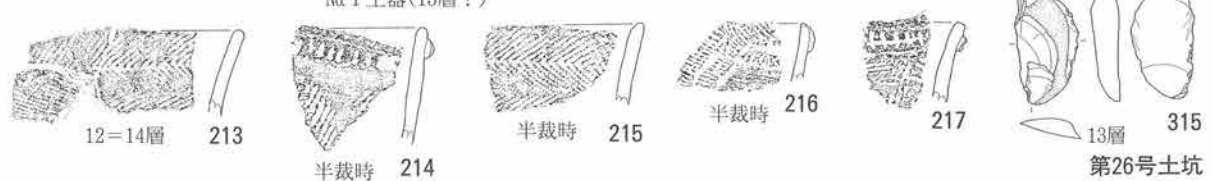
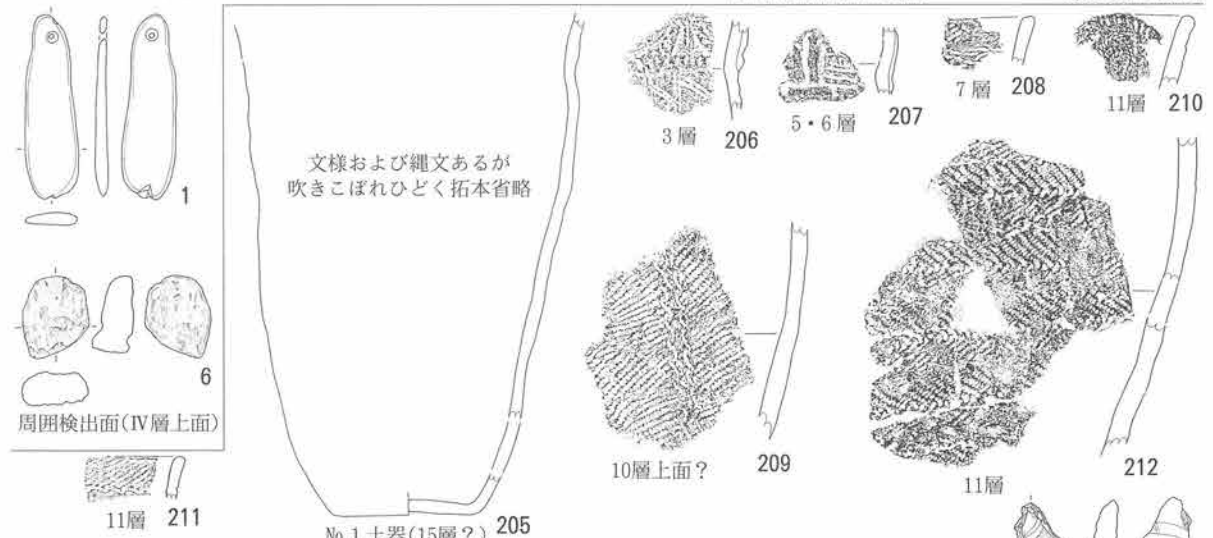
第79図 第17号～第19号、第21号～第23号土坑出土遺物
 (土器1/5、剥片石器1/3)



第80图 第24号、第25号土坑(1)出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



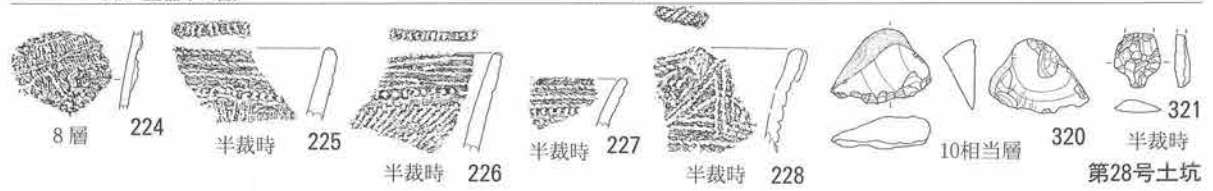
第25号土坑(2)



第26号土坑

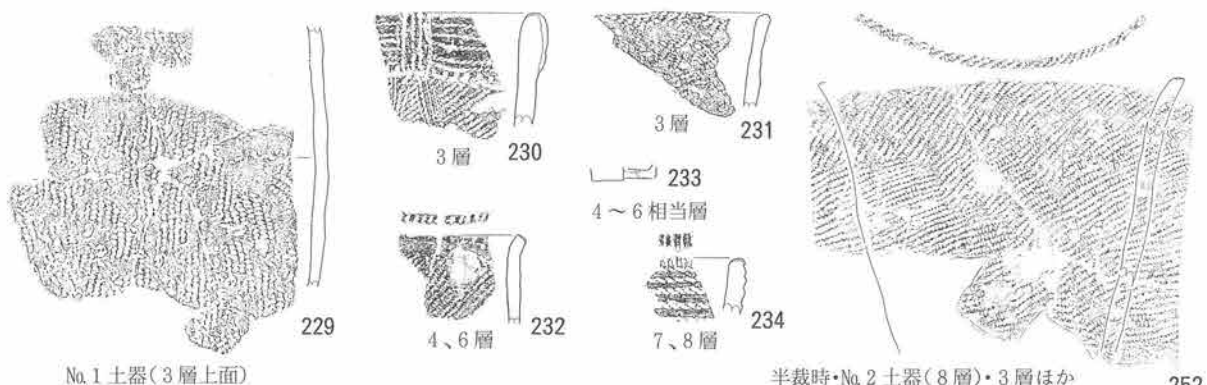


第27号土坑



第28号土坑

第81図 第25号土坑(2)~第28号土坑
(土器1/5、剥片石器石製品1/3)

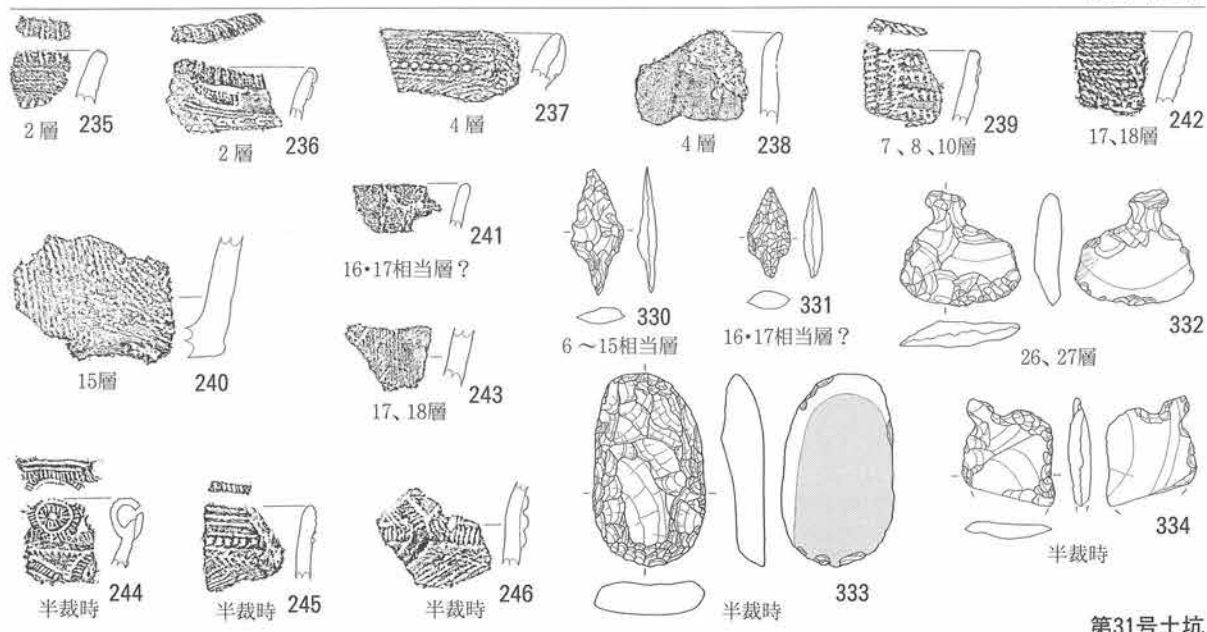


No. 1 土器(3層上面)

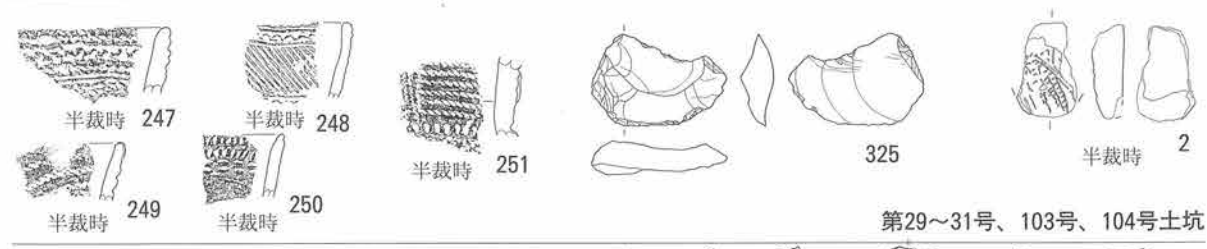
半裁時・No. 2 土器(8層)・3層ほか

252

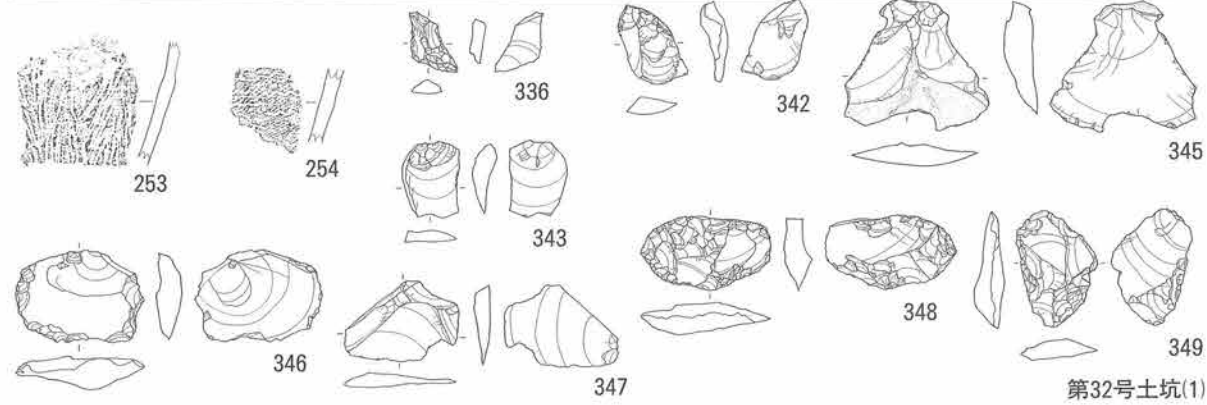
第29号土坑



第31号土坑

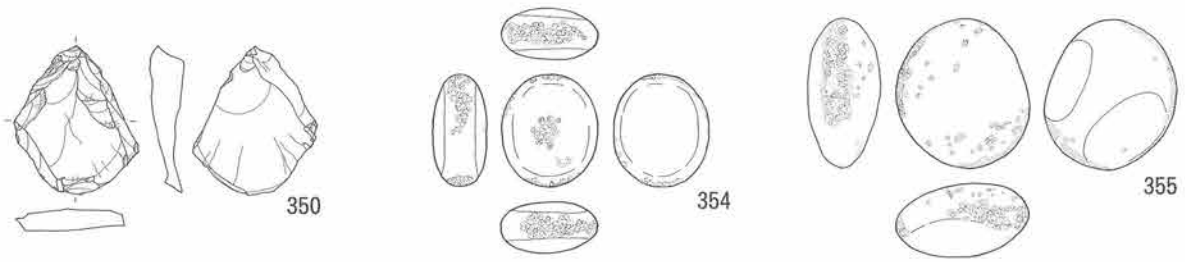


第29~31号、103号、104号土坑

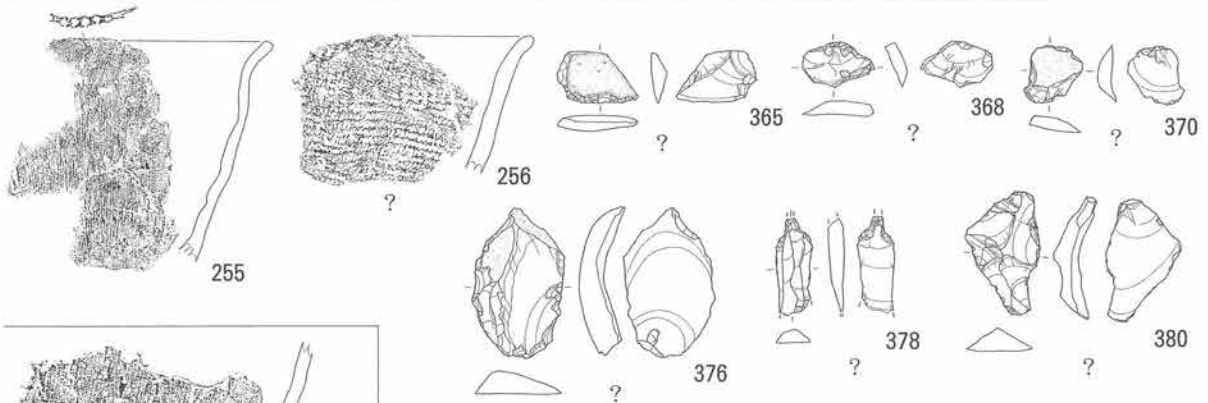


第32号土坑(1)

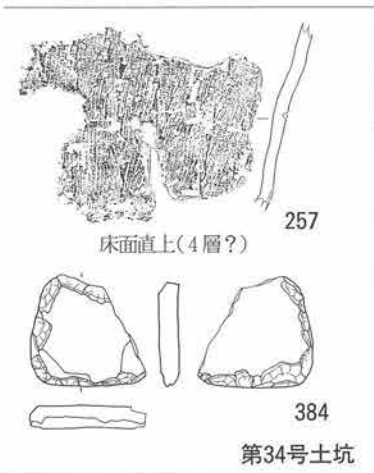
第82图 第29号~第32号土坑(1)出土遺物
(土器、礫石器1/5、剥片石器、土製品1/3)



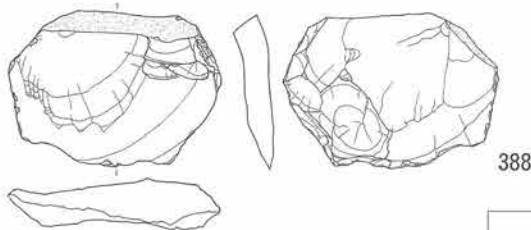
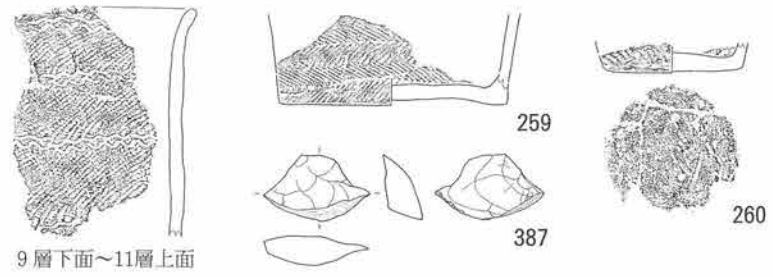
第32号土坑(2)



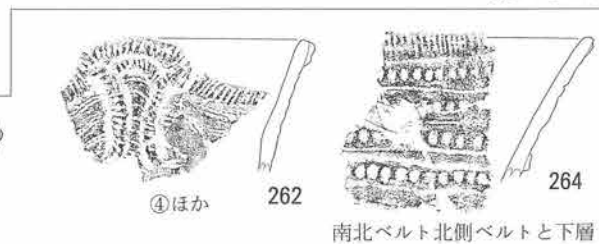
第33号土坑



第34号土坑



第35号土坑



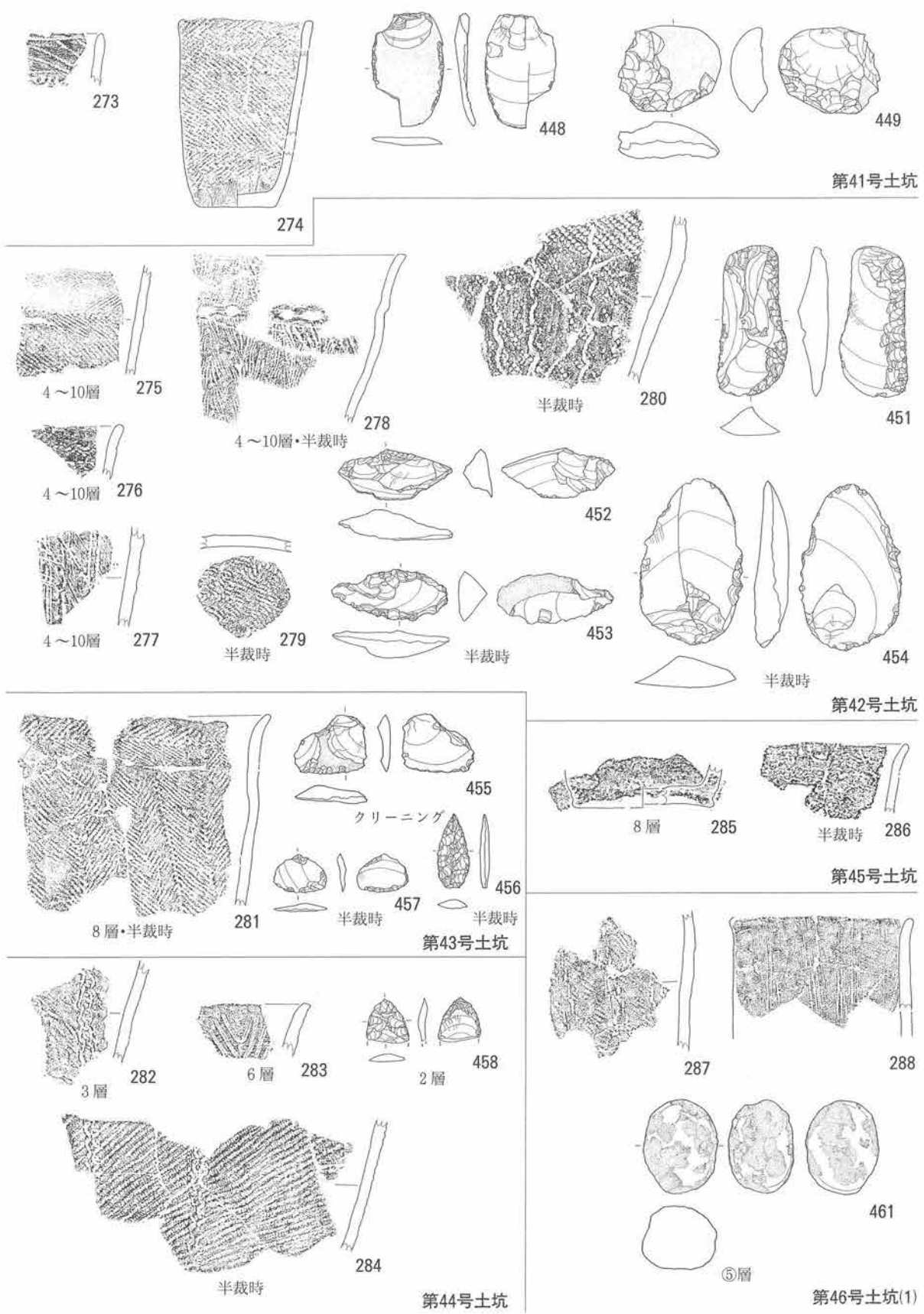
第36号土坑(1)

第83図 第32号土坑(2)、第33号~第36号土坑出土遺物
(土器、礫石器1/5、剥片石器1/3)

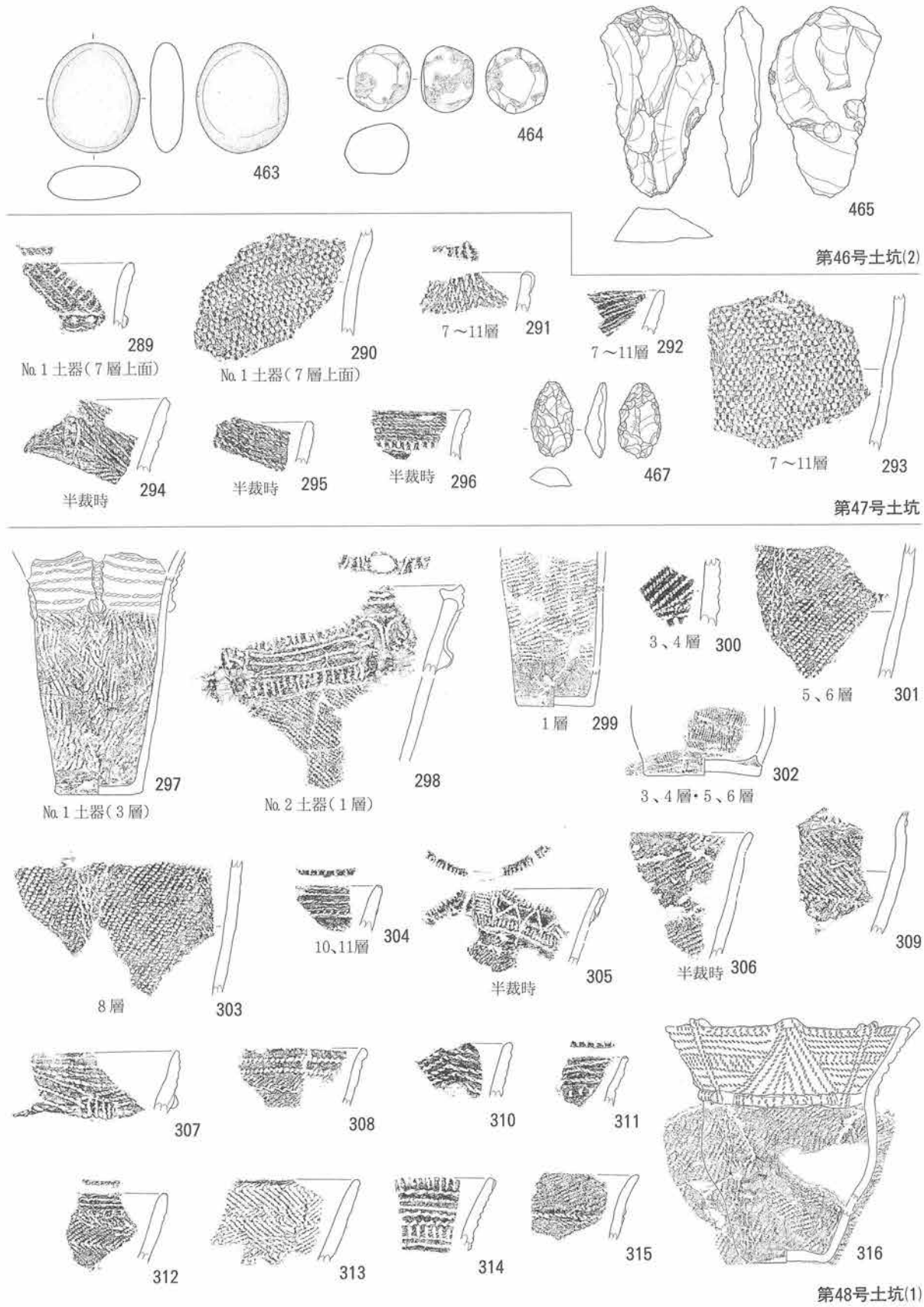


第37号～40号土坑

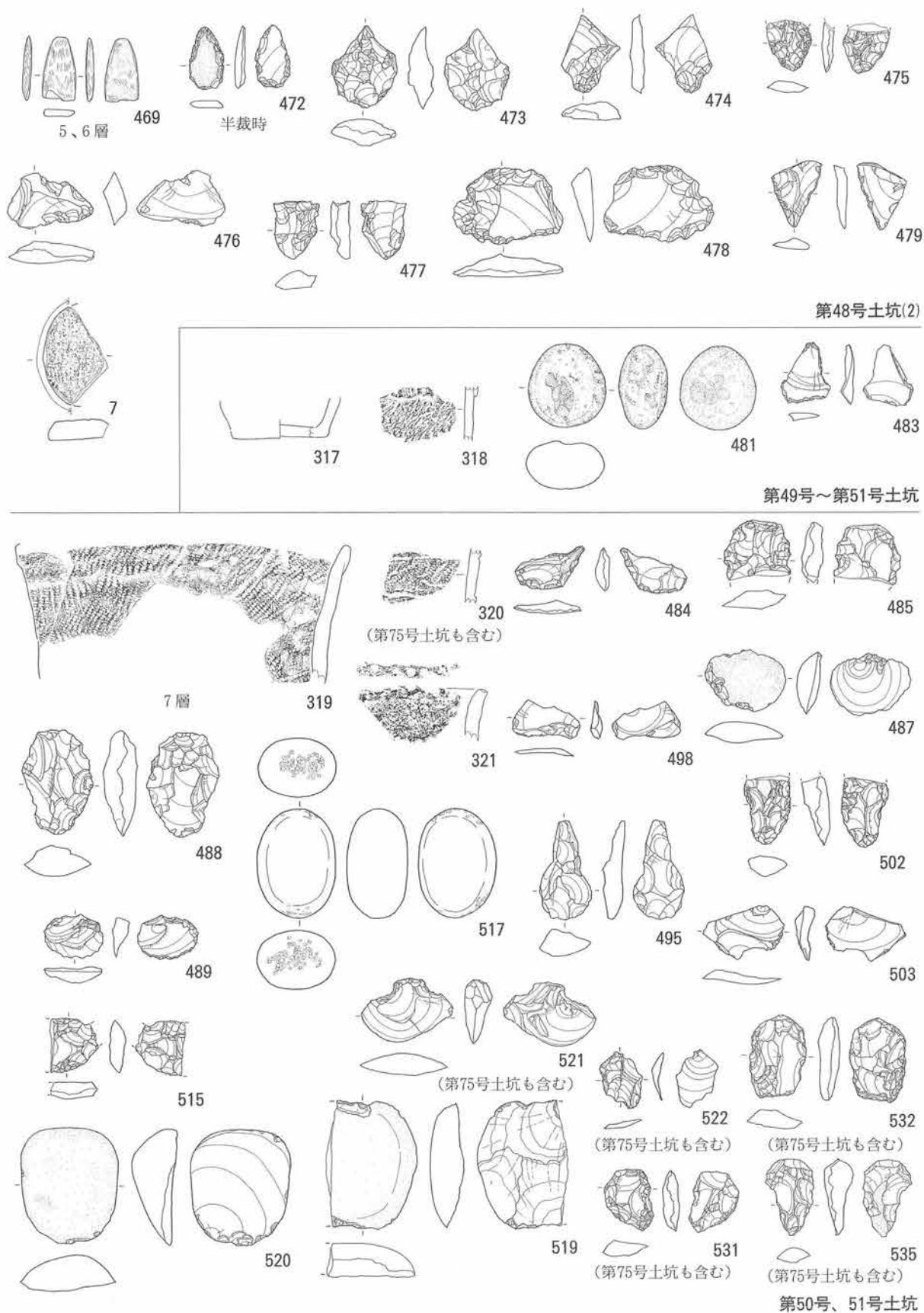
第84図 第36号土坑(2)～第40号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



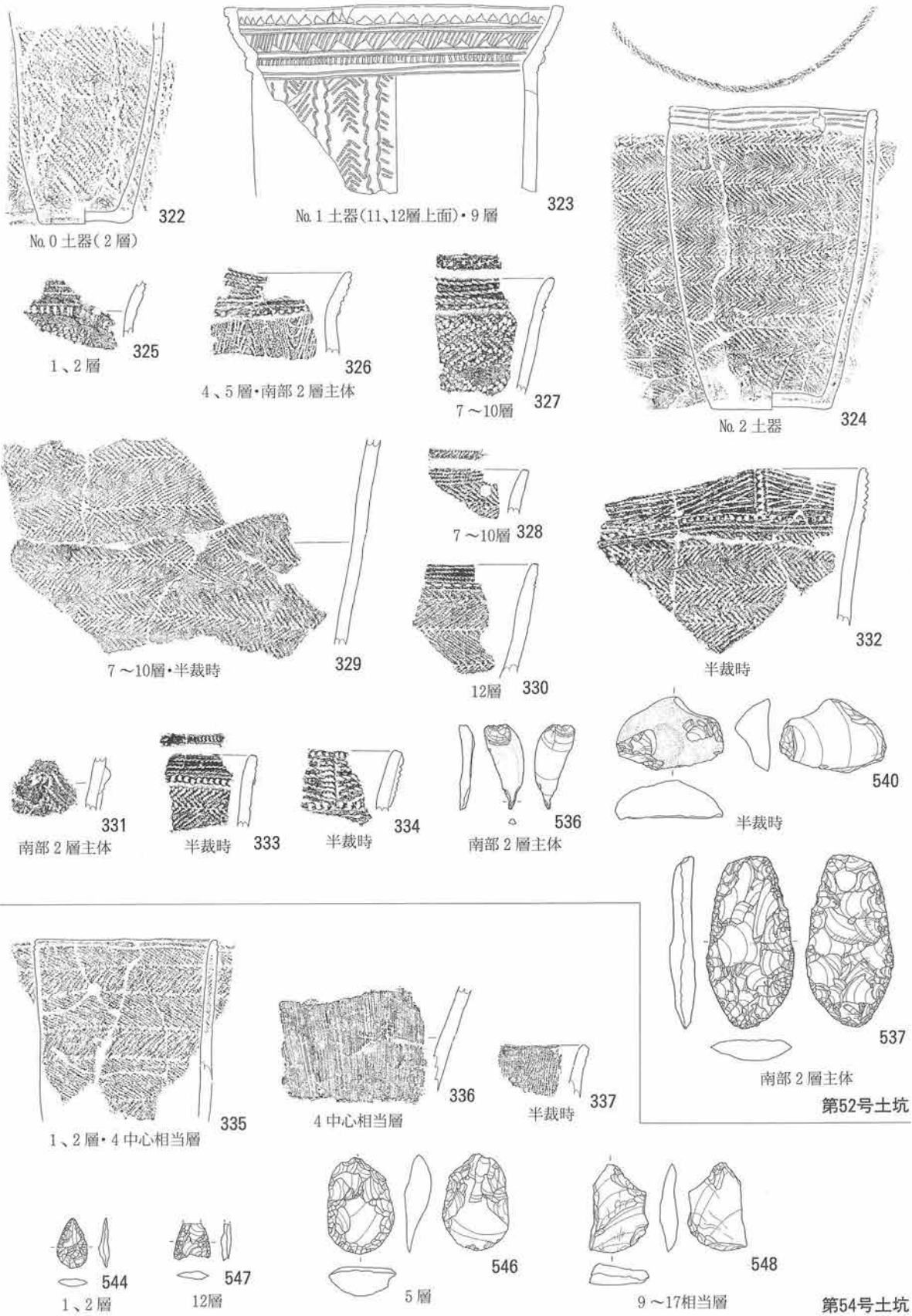
第85図 第41号～第46号土坑(1)出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



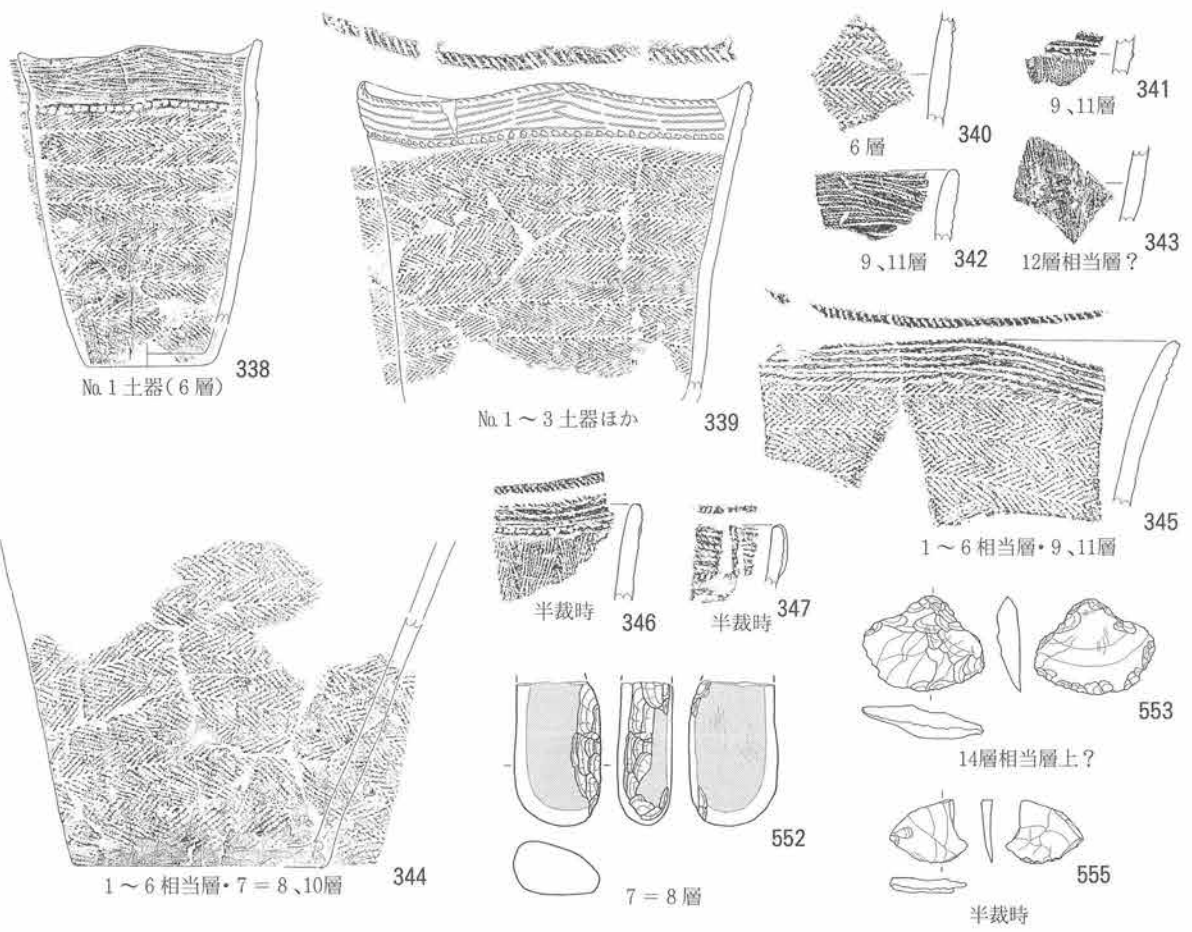
第86图 第46号土坑(2)~第48号土坑(1)出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



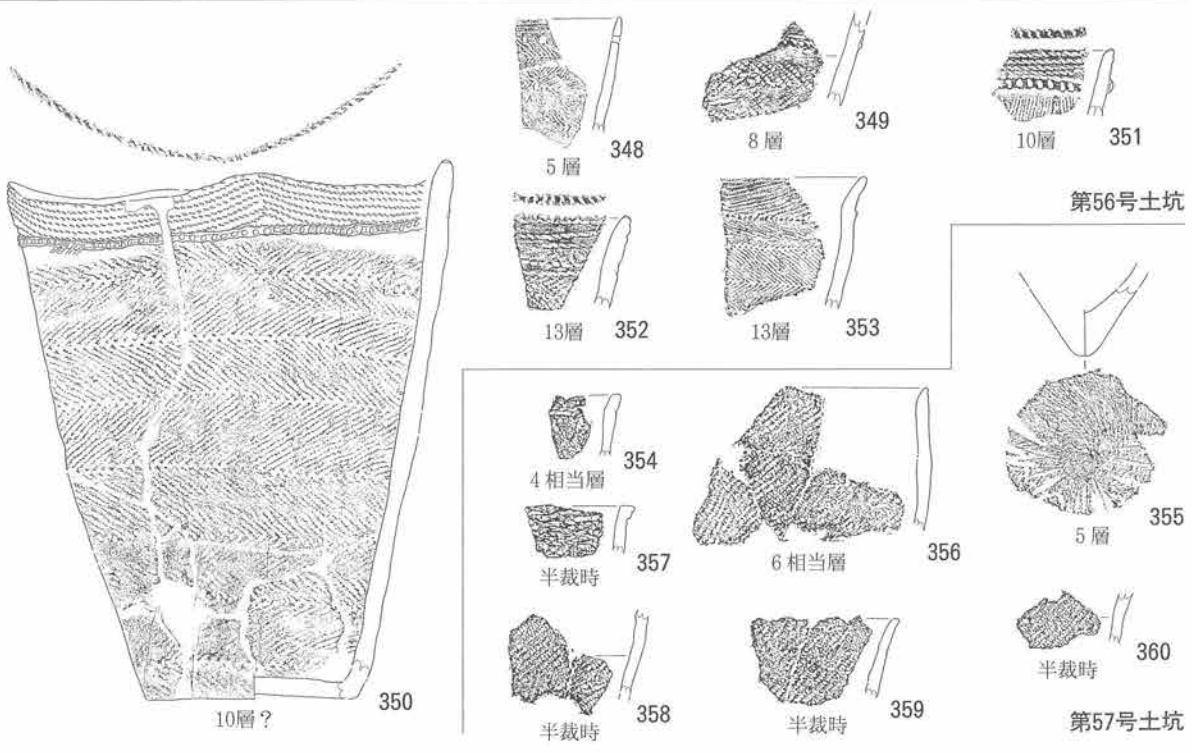
第87図 第48号土坑(2)~第51号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器・土製品1/3)



第88図 第52号、第54号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



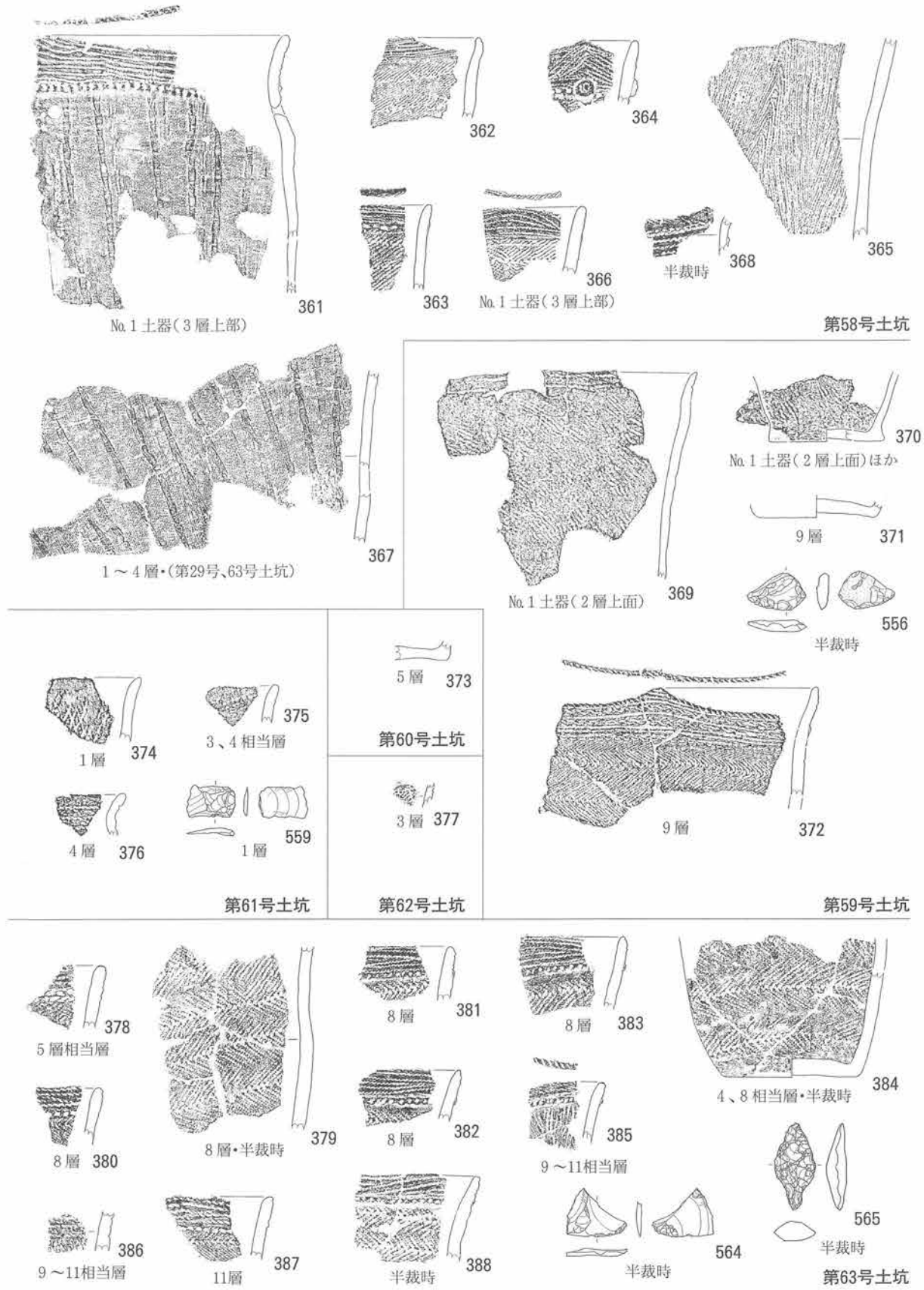
第55号土坑



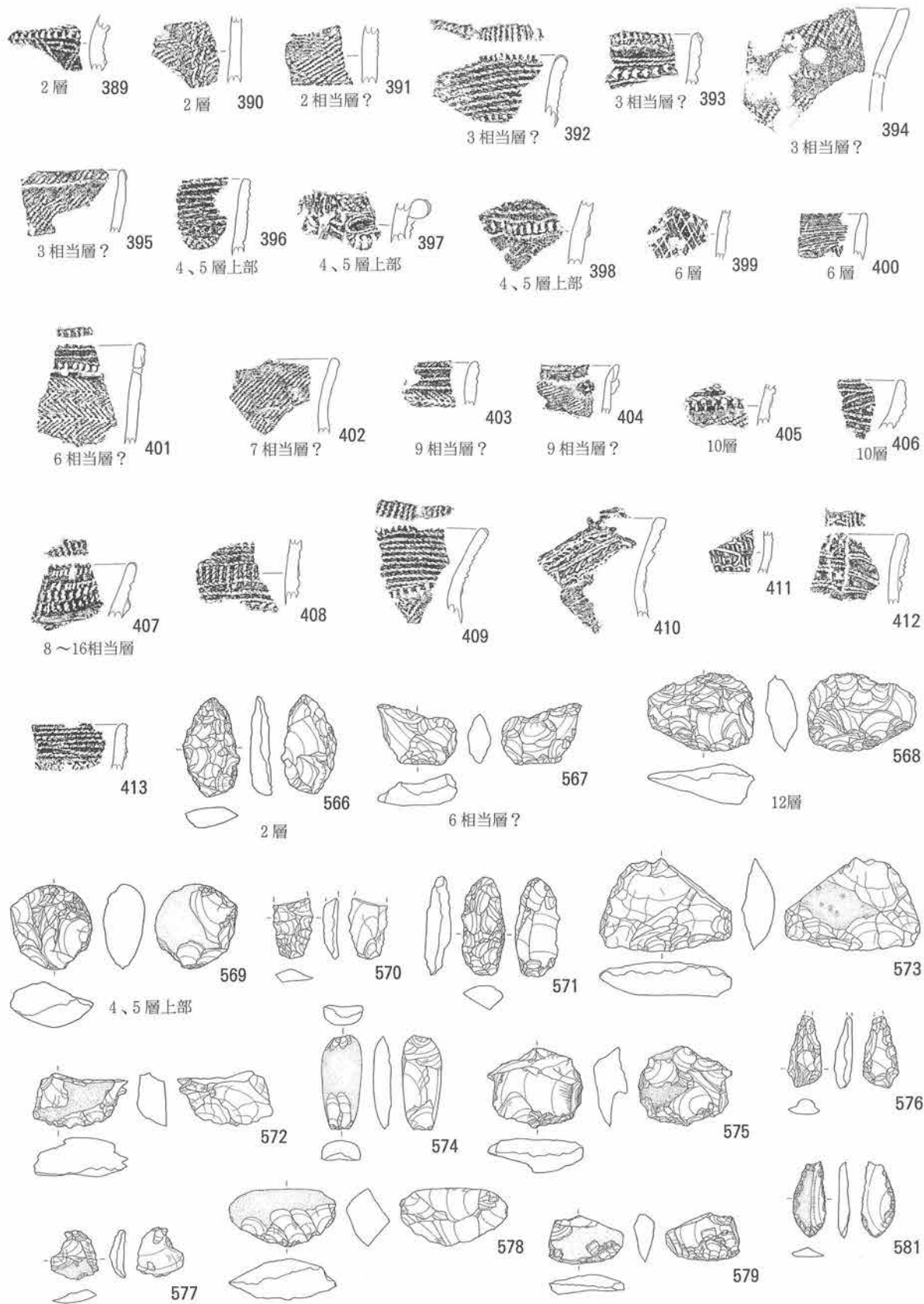
第56号土坑

第57号土坑

第89图 第55号~第57号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)

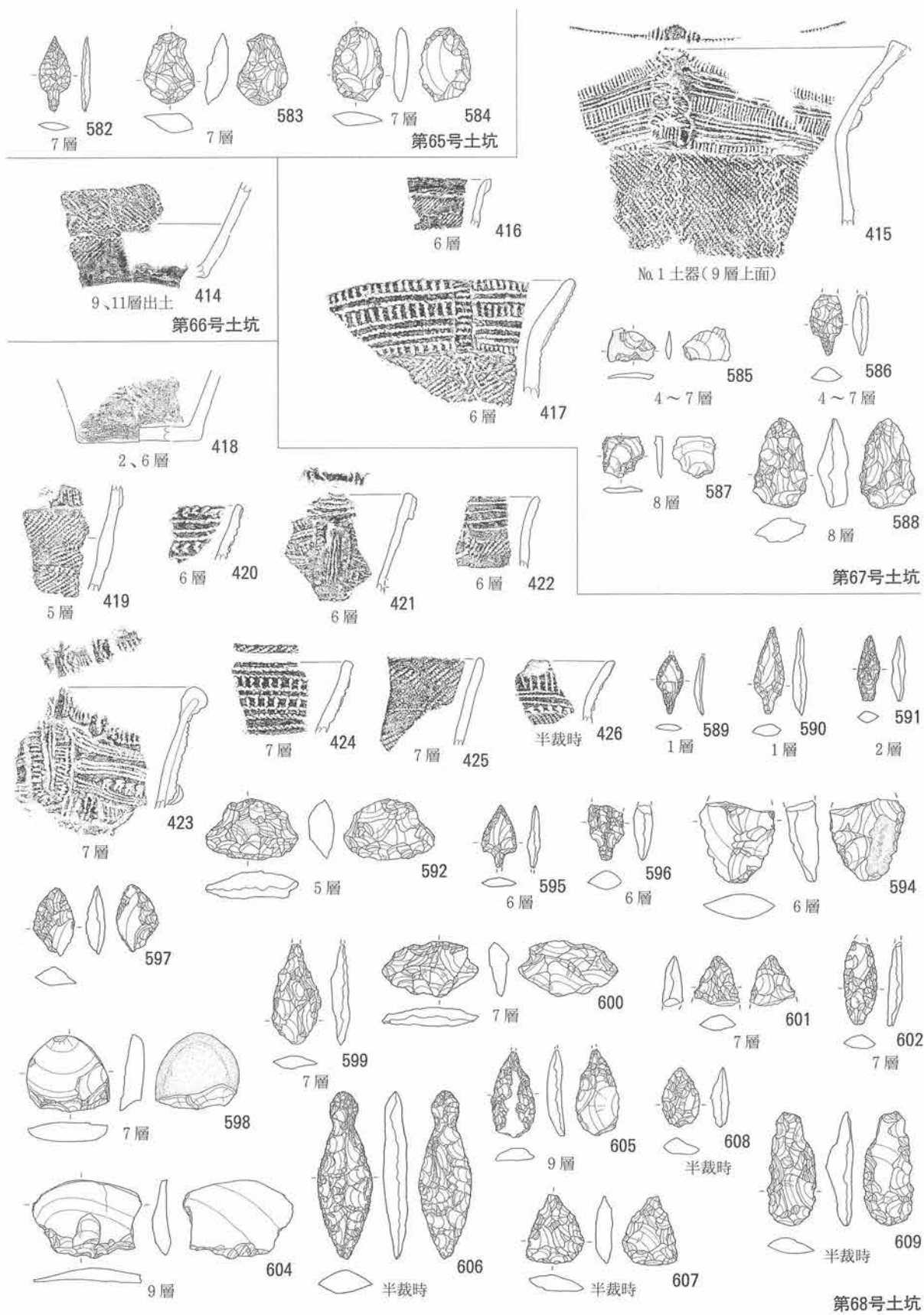


第90図 第58号~第63号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)

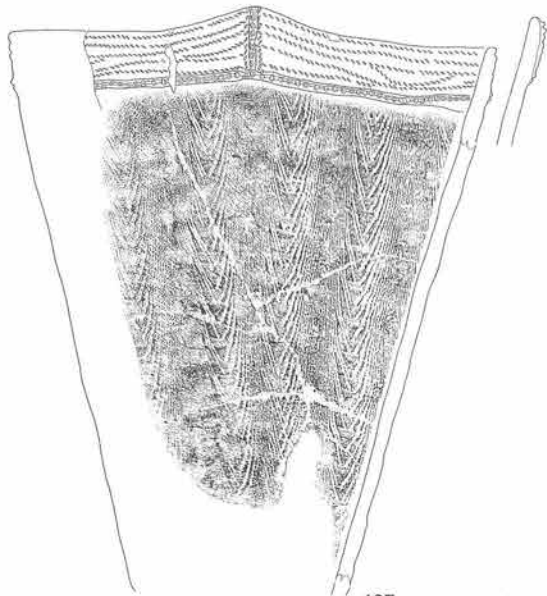


第64号土坑

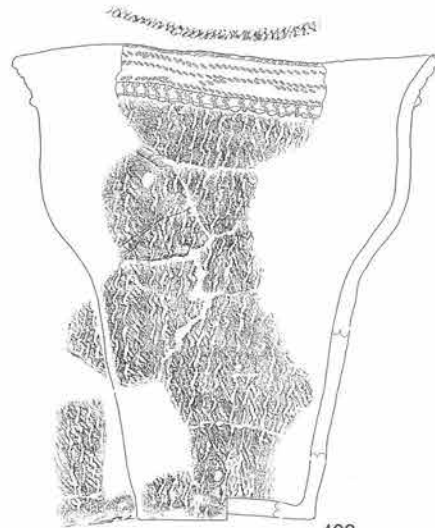
第91图 第64号土坑出土遗物
(土器1/5、剥片石器1/3)



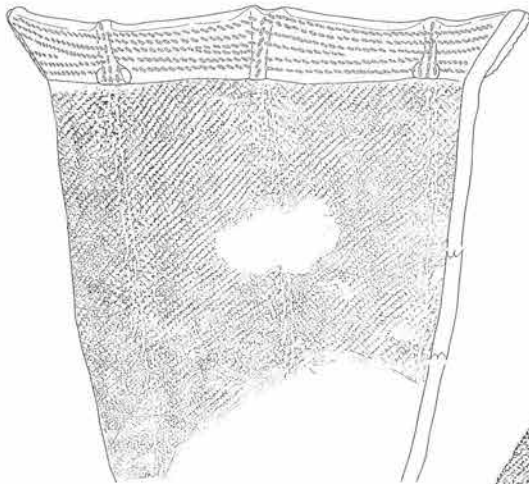
第92図 第65号~第68号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



No. 1 土器(21層?)ほか 427



No. 1 土器(21層?)ほか 428



No. 3 土器(26層上面)ほか 429



No. 2 土器 430



No. 4 土器(24層) 431



No. 4 土器(24層) 432



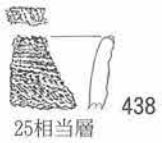
No. 4 土器(24層)



No. 2 土器の奥 434



No. 2 土器脇 436



25相当層 438



25相当層 439



No. 2 土器脇 437



No. 2 土器の奥・24相当層



半裁時 441



半裁時 442



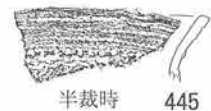
半裁時 440



半裁時 443



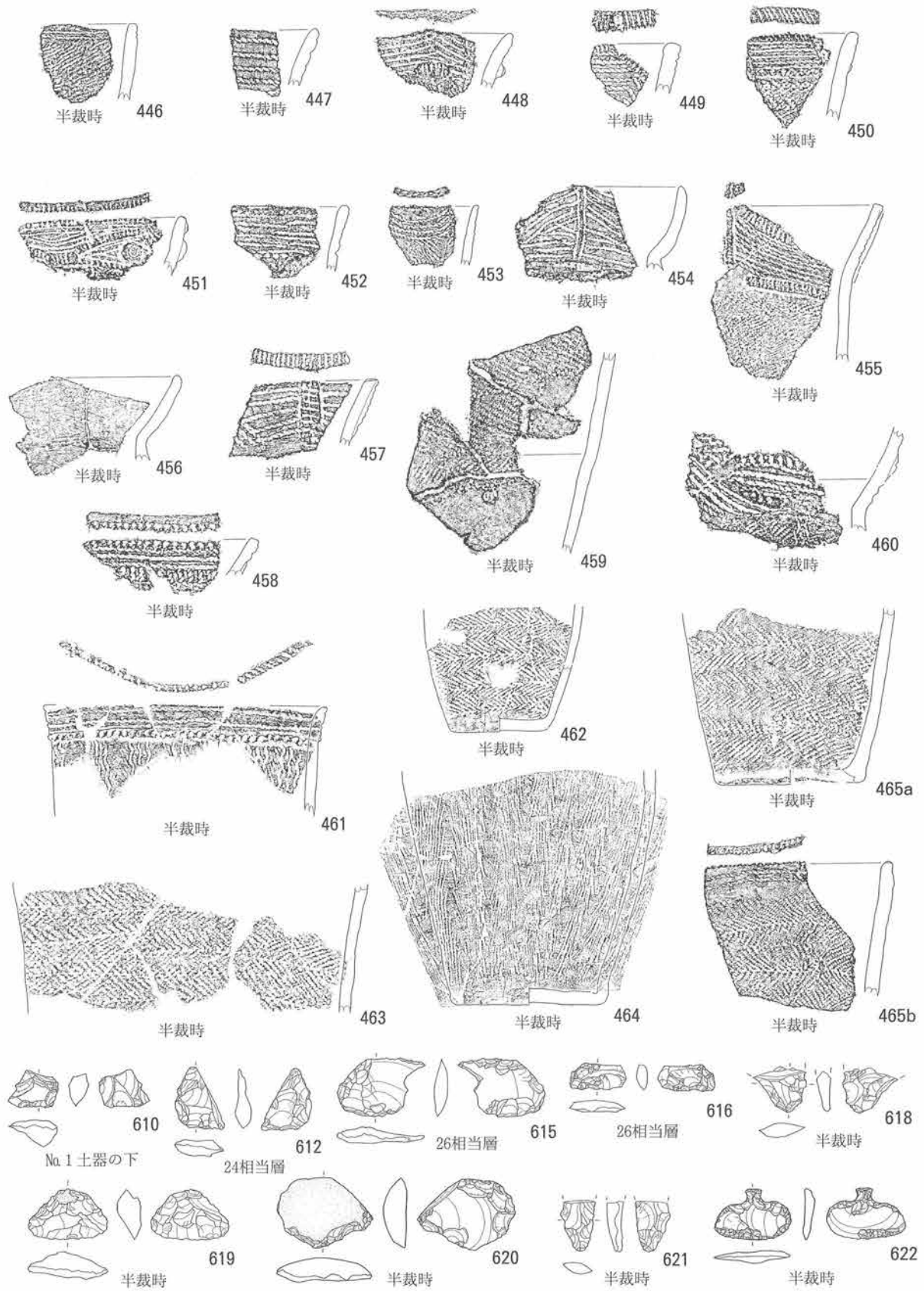
半裁時 444



半裁時 445

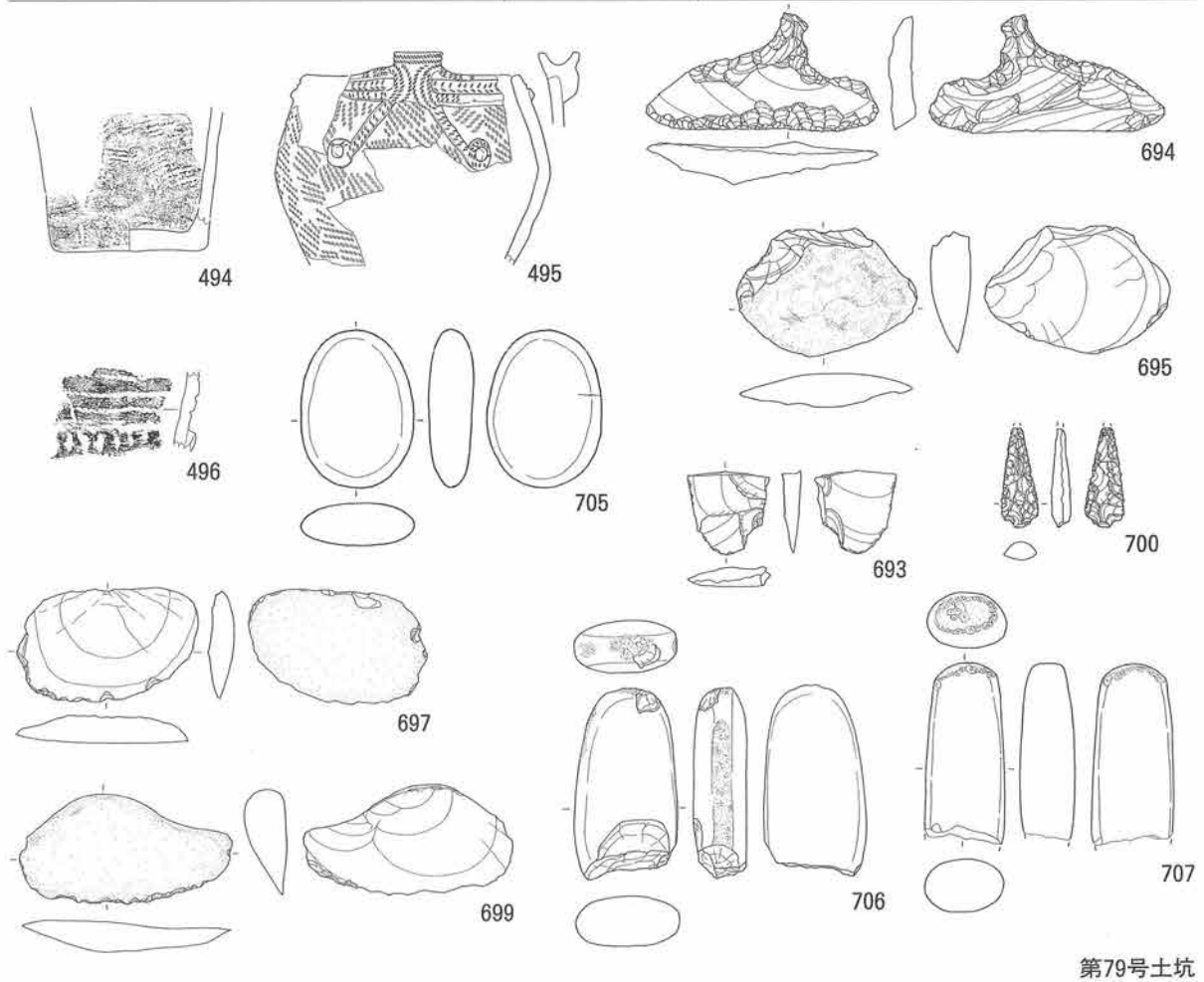
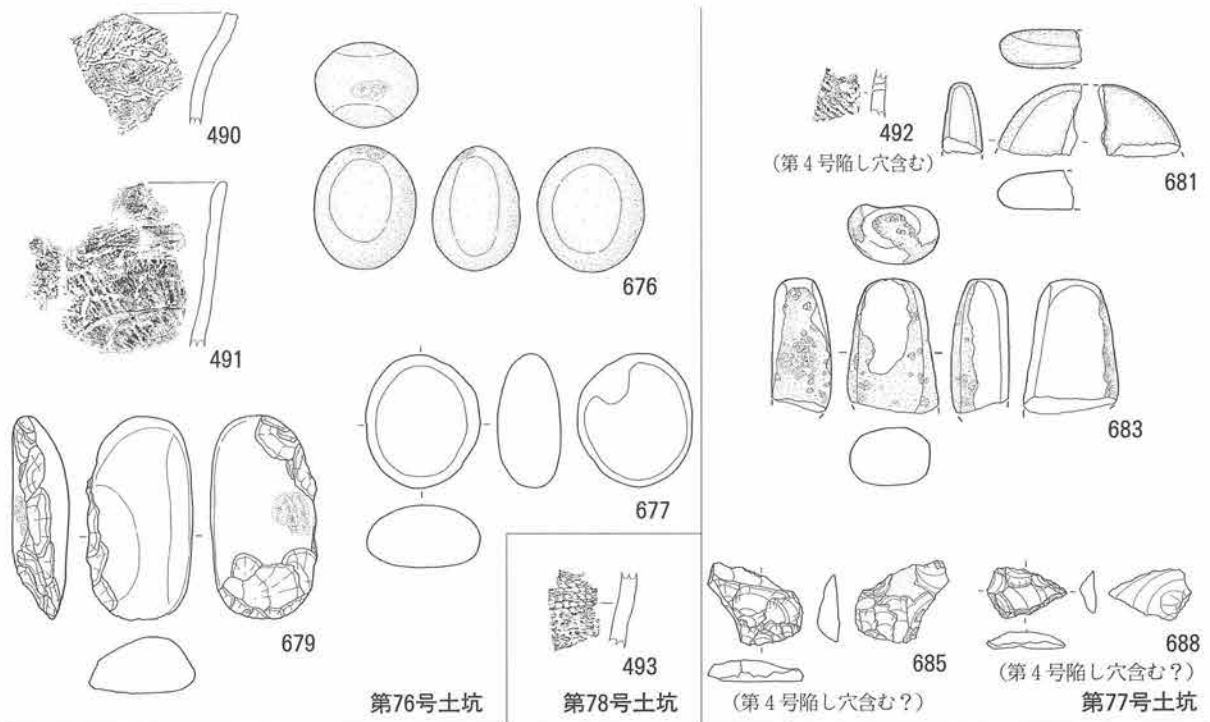
第69号土坑(1)

第93図 第69号土坑(1)出土遺物 (土器1/5)

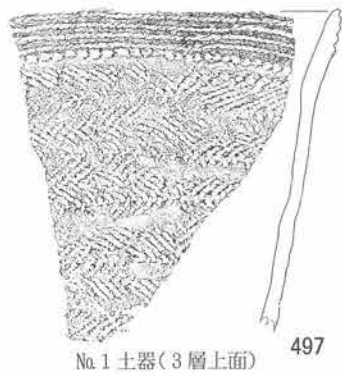


第69号土坑(1)

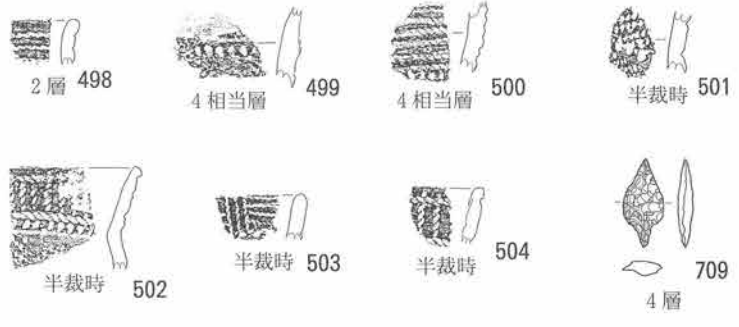
第94図 第69号土坑(2)出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



第96図 第76号～第79号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)



No. 1 土器(3層上面) 497



第80号土坑



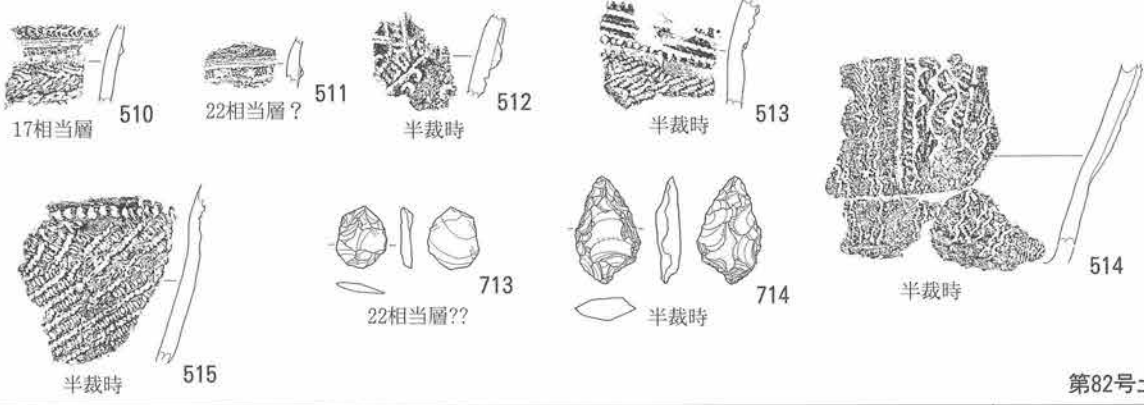
No. 1 土器(2層上面)・1層 505



No. 2 土器(3層上面)ほか 506



第81号土坑



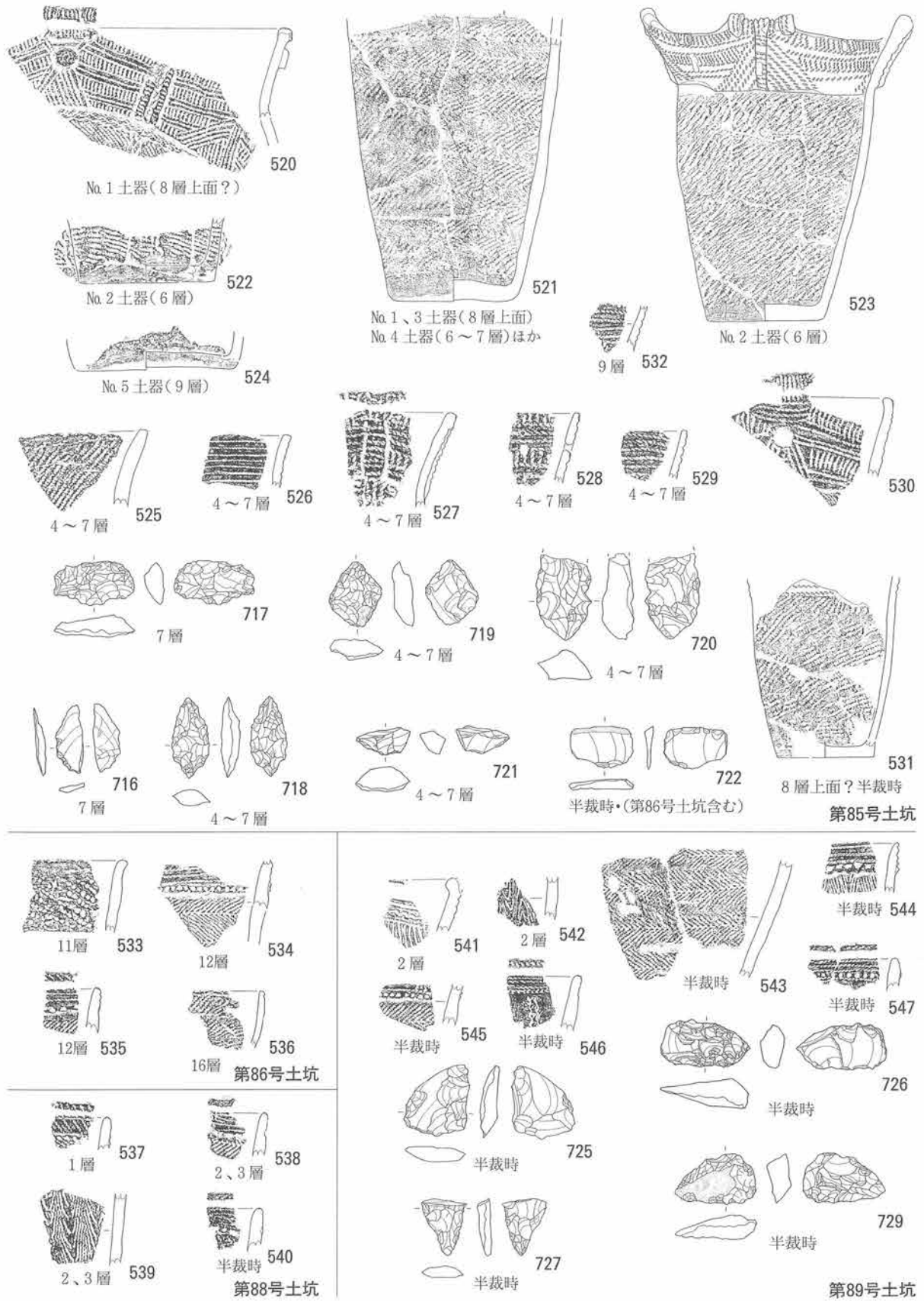
第82号土坑



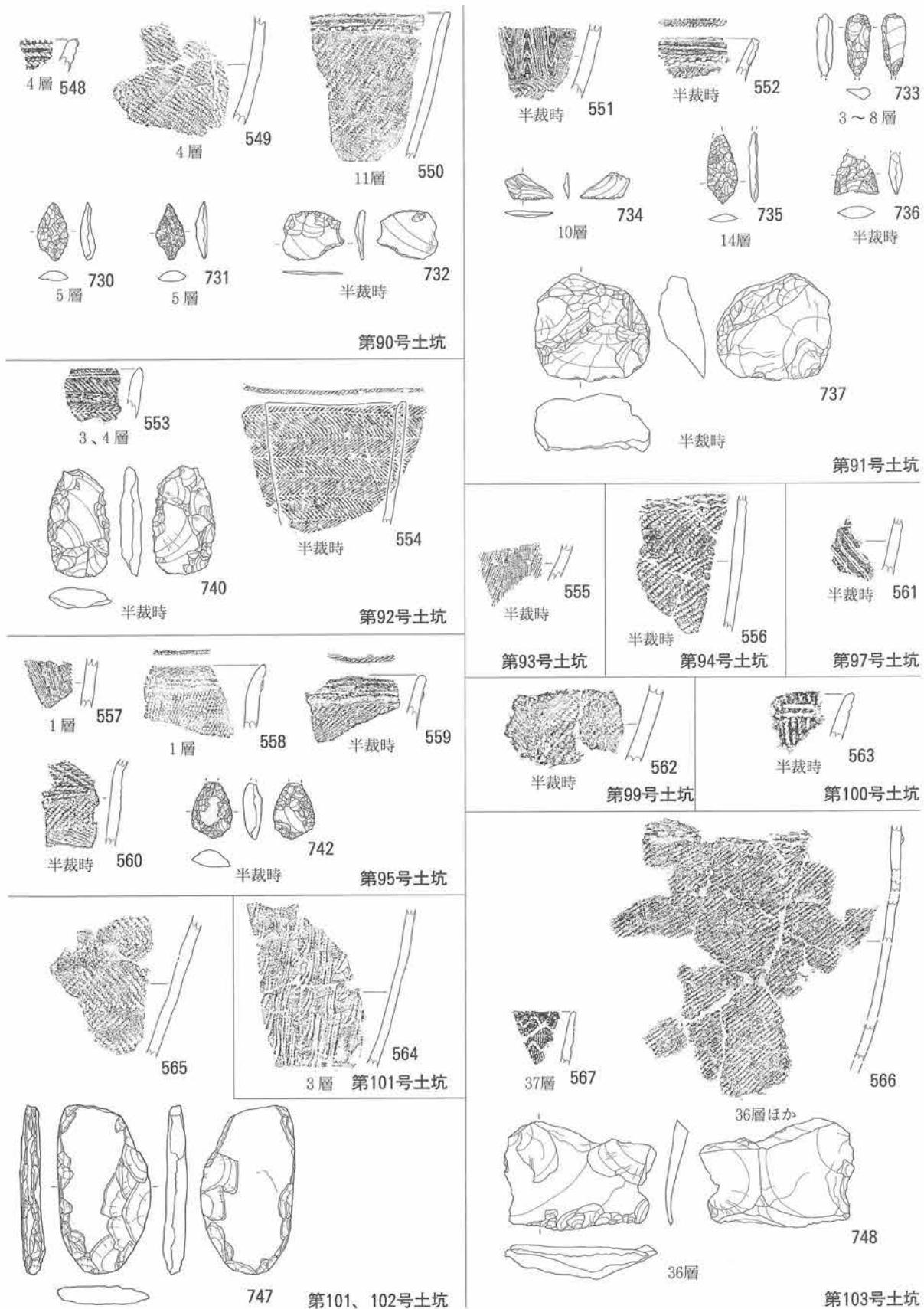
第83号土坑

第84号土坑

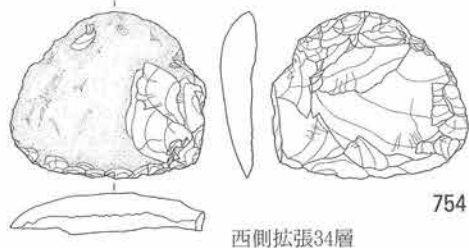
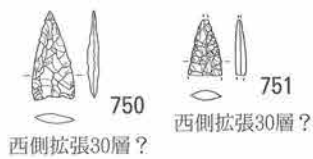
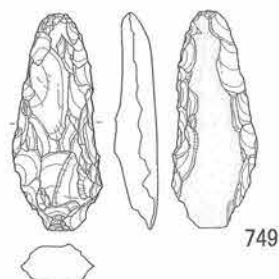
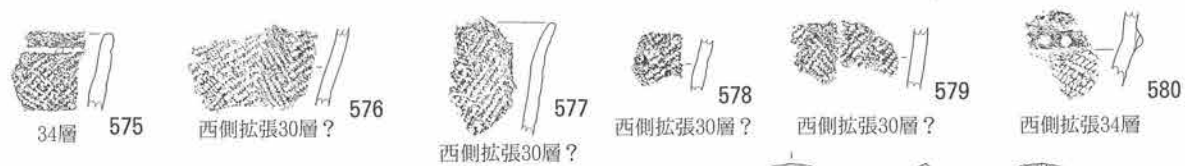
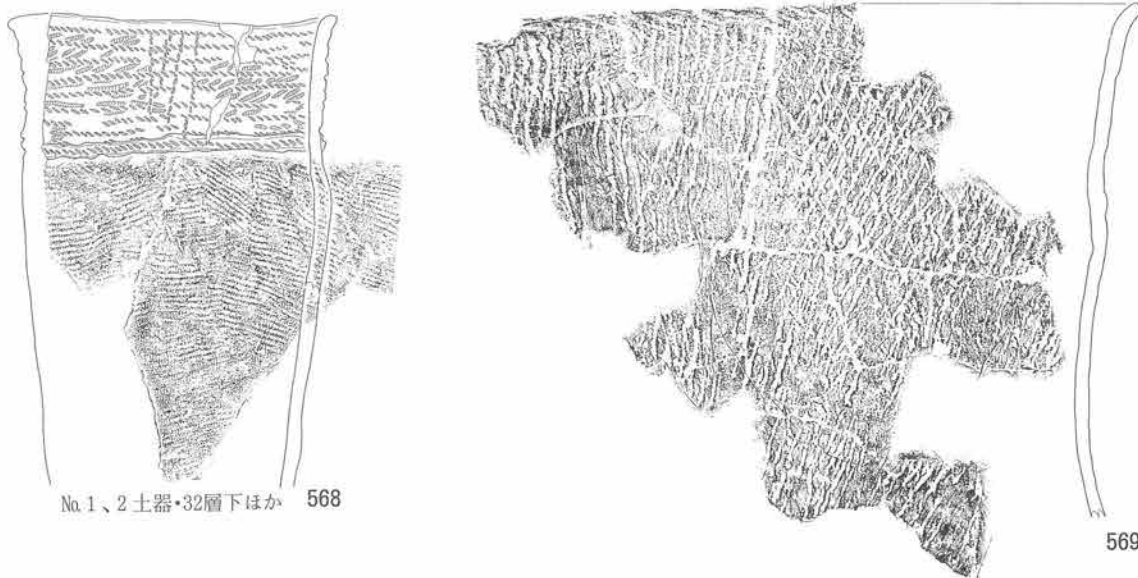
第97図 第80号～第84号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



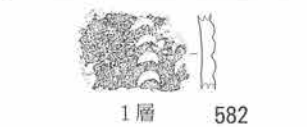
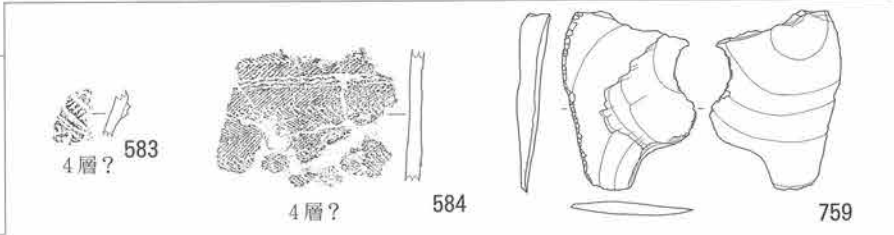
第98図 第85号、第86号、第88号、第89号土坑出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



第99図 第90号~第95号、第97号、第99号~第102号、第103号土坑出土遺物
(土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)

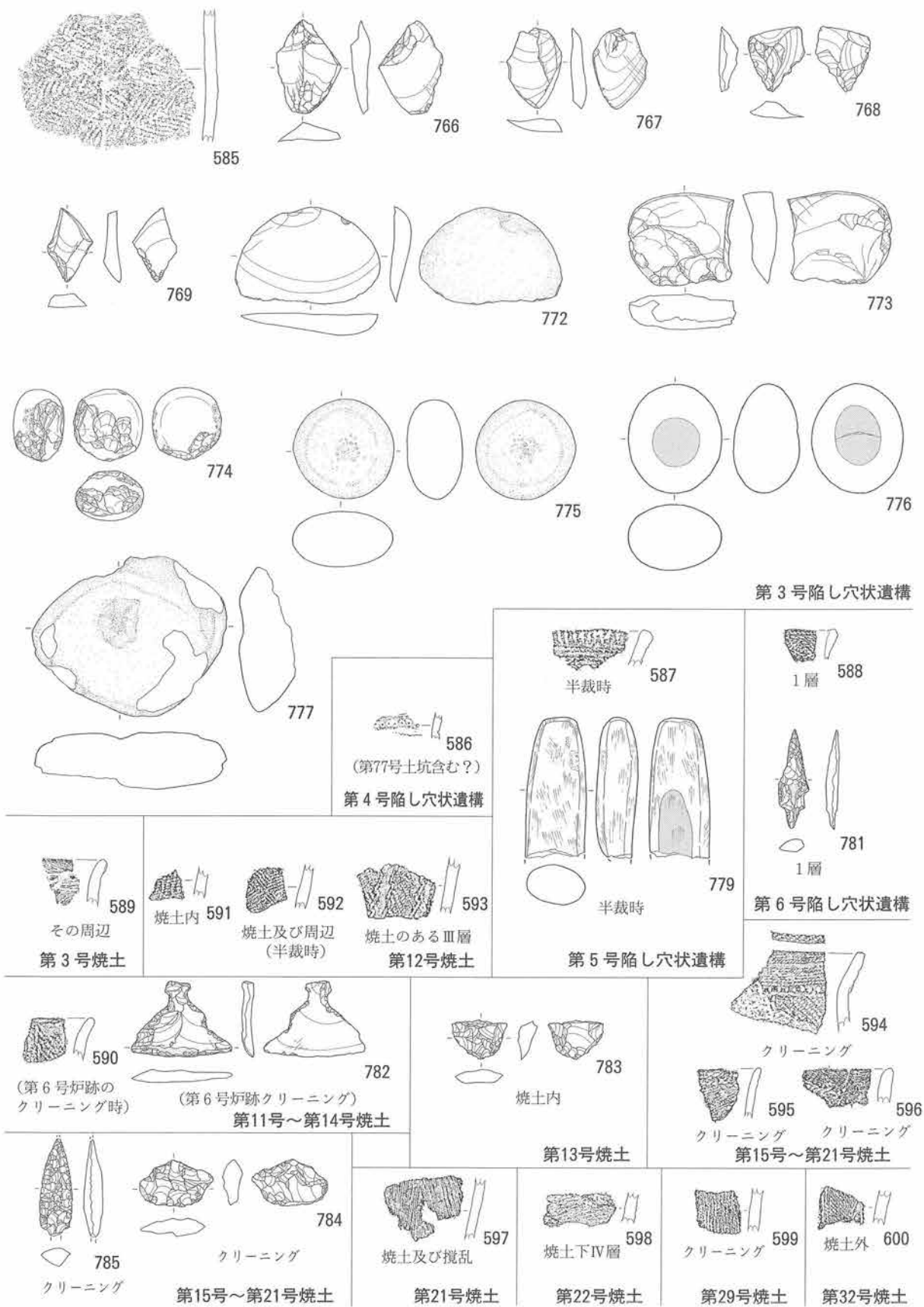


第104号土坑



第2号陥し穴状遺構

第100図 第104号土坑・第1号、第2号陥し穴状遺構出土遺物
(土器1/5、剥片石器1/3)



第101図 第3号～第6号陥し穴状遺構・第3号、第11号～第22号、第29号、第32号焼土出土遺物
 (土器・礫石器1/5、剥片石器1/3)

V. 遺物

今回出土した遺物は、縄文土器（30×40×30cmのコンテナ）37箱、土師器約20点、土製品は23点（土器？1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点）、石器は973点、石器製作時の剥片67,336.74g、石製品は8点（垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点）、アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点である。

遺物の記載は図と表で行い、本文中にはその補足と概要のみ記したので、ここで、図版、写真図版、表を見る際の留意事項について述べておく。

本章では遺構出土の遺物も含めているが、それぞれ、その種類の遺物の中で最初に並べている。遺構出土の遺物は、第IV章の最後に遺構ごとの集成図を掲げているので参照していただきたい（第68図～第101図）。個々の遺物（遺構内）の出土状況は第IV章を参照していただきたい。

遺構外出土の遺物は、遺構出土遺物の後に出土位置の順（はっきりしているもの→はっきりしないもの、はっきりしているものはグリッド順としているが、若干混乱がある）に並べている。出土位置の欄の遺構の①、②等については第IV章の冒頭部分、グリッドの①、②については第III章を参照していただきたい。遺物の取り上げは、第III章に記したように、完掘時には基本的に層ごとに取り上げたが、初年度はこの原則に従えなかった場合が多い。また次年度でも、覆土に変化がなくて識別しにくい場合には、「○～△層」と、複数の層ごとを一括して取り上げたものもある。「○相当層」とは、○層と離れた地点にある層（土）が○層と同じと思われるが確信が持てない層である。フラスコ状土坑を半裁する際、安全上の理由でトレンチ方式にしたため、覆土が、通常残る所（断面実測をする側）と反対側にも残ることになったので、命名の必要が生じた。

1. 縄文土器（第103図～第183図、写真図版71～114）

〔概要〕大コンテナ（30×40×30cm）で37箱出土し、早～前期前半の土器が数点、後期の可能性のある土器が1点出土している他は全て前期中葉～中期前葉の土器のようで、中でも前期末～中期前葉の土器が大部分を占める。前期末は、大木6式系および折衷土器、中期前葉には、大木7a式系、五領ヶ台1a式系土器が認められる。

〔掲載基準〕口縁部は5×5cm以上、胴部は10×10cm以上の破片、底部のみの場合は一周しているもの、小型土器は1/2以上のものを掲載しているが、遺構内はこの限りでなく、基準を満たさない土器でも必ず1点以上は掲載している。また、出土点数が少ない時期・型式、他と大きく異なる特徴を持つ土器も、この限りでなく積極的に掲載している。同一箇所から出土した同一個体破片で接合しないものについては、1点のみ掲載して、その他の破片については文章で補足するに留めたが、一部徹底していない所がある（No.381～383）。違う地点から出土した同一個体破片で接合しないものについては、同じ番号でa、bを付けることにしたが（No.110a、b）、この基準は徹底していないところが多い（No.1、3など）。

〔記載要領・表の見方〕記載は基本的に図と表で行ったので、最初にその作成要領、表を見る際の留意事項について述べておく。出土位置あるいは本文記載に示した分数は、掲載土器のうちその場所から出土した土器がどれだけの割合あるのかを示す。外面、内面の観察事項の欄の「→」は施文順序を表す。「半裁竹管状沈線」とは、半裁竹管状工具による沈線の略である。備考の欄の付着物の「スス」「吹きこぼれ」「おこげ」

は、厳密に区別しておらず、単に付着している量によって分けている（右に行くほど多い）。「焼けはじけ」とは、煮炊きによって土器の表面に直径0.5～1 cm程度の円がたくさんできたように剥落した状態を示し、剥落がひどい場合を「ただれている」と表現している。上記以外の事項については本章の冒頭部分を参照していただきたい。なお、掲載順序についても、冒頭に述べたとおりなのだが、不注意で不手際が生じている（No.829～831の順序）。

〔出土状況〕 遺構内遺物の個々の出土状況は第IV章を参照していただきたい。出土量は、前期末～中期前葉の土器が大半を占め、遺構内外とも変わらない。土坑からは、早期～前期前半の土器なども出土している。第1号住居跡は円筒上層a 1式の、第3号、第12号土坑は、円筒下層d 1式の、第48号土坑は円筒上層a 1式の、第69号は円筒下層d 2式（前後の過渡期？）の、比較的良好な資料と言えようが、どちらかと言えば前期末～中期前葉は混入するケースが多いようだ

〔型式学的特徴〕 ミニチュアおよびやや変わった器形と思われるのは、44、56、105、132、151（台）、157、180？、194？、233、274、299、348、395？、453（片口状？）、495（異形鉢）、536、595？、696、757、836、839。

その他、特に気をついた点。半裁竹管状工具による刺突は、逆コ字状で上下が棘状（三角形）になっているものがほとんどを占める。

〔時期・型式〕 時期・型式を同定するに当たっては参考文献に掲げたものを参照したが、円筒下層d 2式と円筒上層a 2式の特徴を報告者が十分に理解し得なかったため、特に円筒下層d 1式～上層a 2式については同定間違いが多々あるものと思われる。

縄文時代早期は、166、250、355。250、355は、早期前葉貝殻文土器で、250は白浜式、355は寺の沢式か。166は、早期後葉表裏縄文土器で、赤御堂式か。その他、後述のように早期～前期中葉の可能性のある土器片もある（55、163）。

前期前葉の可能性のあるものは、357（下層a？、深郷田？、大木1式？）。

前期中葉のうち、円筒下層b1式と思われるのは、82、124、169？、188？=190=192、265？、278？（b2式？）、279？、536？、570？、574？、575？、580？、641（a～b1式）。

円筒下層b2式と思われるのは、80？=81？、118、128？、129、141、253？、275？、315、568、638、640、643、743？、882？

前期後葉（円筒下層c式）と思われるのは、122？、131、143、289、508？、560？、588？、624？、871、873。134も、この前後の可能性があるが、特異な土器であるため、はっきりしない。

前期末葉のうち、円筒下層d1式と思われるのは、23？=25、31、33、34、69、75？、76？、96、102～104、107、108、111、113、114、127？、130、139？、140、142、144、145、147、148、150、153～156、158、159？、160？、161？=165、162=164、170？、182、183、185？、187、199？、202、220、224、225、227、245、255？、263、266、268、270、290？（d2式？）、293？（d2式？）、304、312、324？、327、328？、330、332、333、336？、339？、341、343？、344、345、346、348、350、352？、353？、362、363、366、369？、372？、378？、380、381=382=383=388、385、387、401、403、413、430、437、440、443、465？、468=471、469？、470？、472、473、483、519？、534、535？、537、538？、539？、540、544、546、547、550、551？、552？、553、554？、555？、557？、558、559、566？、601？、602？、603、604？、605=606、607、608、609？、611？、612、614、615、617、619～621、625～627、628？、630？、631～633、636、637、644、647、651、669、672、682、686？、698、721、735？、738、745、793、802、807、809？、843、

850?、857、862、874?、875?、879?、880?、884、885、886?、887?、896?、899? 924。

円筒下層d2式と思われるのは、125?、171=172、173?=174、175、203?、219?、235?、237??、238?、243?、247?、273?、296、311?、326、338、342?、347?、361?、368??、427、454、466(上層a1式?)、467(上層a1式?)、488?、489?、497、501(上層a1式?)、516(上層a1式?)、545?、594?、642?、645?、657?、683(上層a1式?)?、684(上層a1式?)?、706?、710?、714?、725?、727??、729?、740?、747、788?、801(上層a1式?)、804、808?、830(上層a1式?)?、834、837(上層a1式?)?、846?、858?、859?、883?、892?、893?=894、903?、904、906?、916、923?、925?

前期末と思われるもので、異系統及び折衷土器。大木6式系の可能性のあるのは、769、大木6式と折衷的と思われるのは、401、428(大木7a式との折衷?)、461、

中期前葉のうち、円筒上層a1式と思われるものは、5?、6、10~12、13?、16、18?、20、21?、22?、24、26~28、32、36~38、45~48、50、53、54、57、58、61、62、73、74、84、85?、86?、93、95?、197?、198?、209?、223、228?、230、234、239?、242?、249?、251、271、272、280?、287?、289?、291、292?、294、295?、297、298?、300(下層d2式?)、307、310、314、316、325、331、334、364?、376?、392、393、396、397?、398?、404?、405、406、407(下層d2式?)、408、409、412(下層d2式?)、415、417、420?、422?、424、426、429、434、436?、439、441、444??、445、447~449、450?、451、452?、453?、455~458、460、474?、476?、477?、478(下層c式?)?、479?、480、481?、482?、486?、487、496、498?、499?=500?(下層d2式?)、502、503?、504?、505、513、515、518、520、523、526?、527~531、532?、548、587、590?、593?、610?、635、646?、650、653、664~666、667?、668、670、671?、673、675、676、679、680?、681、685、687、688、690、691?、693?、694?、695?、700、701?、702、704、705、712?、713?、716、720?、723?、724?、730、734?、741、744?、748、753、758、760、761、762?、763、764、766、768、770、771?、773?、774?、776?、777、778=789?、779、780、781、782?、783、785、786、787?、790、791?、792?、800、803、810、811?、812?、813、814?、815?、817?、818、820?、821?、823?、825、827、829、831、833、838、840、842、844、845、851?、852?、853、855、864、866、868、870?、872、876?、888?、891、897?、898、902、905、907、908、909?、911~913、914?、918、920、921、922。

円筒上層a2式と思われるものは、9、41、206、267、305、389?、495?、511?、677?、707?、711?、717、731、736?、754、755、765、794=806、805(a1式?)、832、847?、878?、889、890??

円筒上層b式と思われるものは、2=3、49?、59?、176=177?、178、195、210、216、226、236、246?、262?、264、269、393、397、421?、423、509、510?、512、582?、583、586?、655?、658、663、699、709、715、718、726、728?、733(上層c式?)?、795、797?(a2式?)、822?、867、877?、895??、900?、901?

中期前葉の異系統と思われるもの。大木7a式系と思われるものは、207、261?、410?、411、416??、485、514、652、817、828、835、919? 五領ヶ台Ia式系の可能性のあるものは、52、244(大木7a式系?)?、277(大木7a式系?)?、248、323、541、656、708、756、

後期前葉の可能性のあるものは、847?(蜃沢式~十腰内I式古?)。

上記以外のほとんど全ては、縄文時代前期中葉~中期前葉、中でも前期末~中期前葉(円筒下層d1式~円筒上層b式)に相当するものが多いと思われる。しかし、次の2点については、破片ながら別の時期の可

能性がある。55と163がそれである。何れも側面圧痕のようで、前期中葉～中期前葉にも主体的に見られるものであり、特に163については、これが密でなければ円筒上層b式であってもおかしくない。しかし、印象が全く違う。数人の上司・同僚にも当たってみたが、何れも、「古いのではないか」、「早期～前期前葉ころではないか」という意見は一致したが、小破片であるため、これ以上の特定には至らなかった。

(1) 遺構出土の土器（第103図1～第156図600、写真図版71～101）

いずれの遺構も、前期中葉～中期前葉、中でも前期末～中期前葉の土器を主体とするが、最も数の多い土坑には、前期中葉も含め比較的古い土器も認められ、早期～前期前葉の土器も出土している。しかし、前期中葉を除き複数出土するということはなく、どちらかと言えば紛れ込みといった状況を呈している。

(a) 竪穴住居跡出土の土器（第103図1～第112図86、写真図版71～77）

中期前葉を主体とするが、第4号住居跡のように前期末も見られる。他の時期は少ない（55は古いか）。第1号住居跡は、円筒上層a1式の比較的良好な資料と言えようか。以下、表の補足。

2の突起間、口唇も側面圧痕。胴部には、何らかの縄の押捺らしきものが見える。外面、胴部上半スス付着。6の外面、底から1/3より下二次焼成でひどく摩耗。内面、1/3より下黒い。内面整形、頸部屈曲部より上ヨコミガキ、その下タテミガキ。

26の内面、胴部上部には黒斑が一周しており、焼けはじけが見られる。

27の内面、口縁の屈曲部摩耗、外面も一部摩耗。

42の取り上げ、柱穴2が24/28、「床クリーニング」1/28、「第2～3号住居跡④」3/28。

65の取り上げは、「炉体土器」12/15、「炉跡」1/15、「炉周辺」2/15。内面は、底から高さ15cmくらいまで帯状に黒く、その上は二次焼成で脆く白い。

71の内面下部ススが付着しているが、底面はない。

74の施文順序、口縁側面圧痕→胴部綾線文→突起。頸部突起4単位。口縁部文様意匠（波状文）4単位で、波頂部は頸部突起の間に来る。胴部の綾線文は、8単位で、波頂部と頸部突起の両方に対応。内面、頸部の屈曲部より下は黒、上は赤い。内面上部、外面下部、焼けはじけ。外面胴部中央、ススの帯が見える。外面上部、二次焼成強く白くなっている。

(b) 住居状遺構出土の土器（第112図87～95、写真図版77）

他の遺構と同様、前期末～中期前葉の土器を主体とする。

(c) 土坑出土の土器（第112図96～第156図580、写真図版77～100）

前期中葉～中期前葉がほとんどで、中でも前期末～中期前葉の土器を主体とするが、163?、166、250、355、357のように、早期～前期前半の土器も認められる。第3号、第12号土坑は、円筒下層d1式の、第48号土坑は円筒上層a1式の、第69号は円筒下層d2式（前後の過渡期?）の、比較的良好な資料と言えようが、どちらかと言えば前期末～中期前葉は混入する機会が多いようだ（報告者の型式認識に問題があるのかも知れないが）。以下、表の補足。

96の口縁部、羽状の意匠だが、間隔が開きすぎているところあり、側面圧痕か。頸部、高め隆帯上横から刺突（口ほど深くない）。

100の出土状況、写真図版24参照。

102の出土位置は、検出面6/28、14～16層1/28、15～16層直上2/28、16層2/28、同じく16層（断面図にあり）17/28。出土状況は、写真図版24参照。施文順序は、頸の隆帯→口、胴。口～頸部の刺突は、同じ細く尖った棒状工具で施文しており、口縁部は垂直方向に深く、頸部は横から突き刺している。口縁部中央の側面圧痕を縦断している刺突群は、3単位だが、それぞれの構成は微妙に異なっている。その間の口縁最上部にも刺突群が見えるが、3単位かどうかは不明（欠けているため）。

胴部の文様は、結束部分だけ生かし、羽状部を消そうとして、単軸絡状体を上書き施文している。

103の取り上げは、「写真図版24に出土状況を示したもの（15～16層）」4/20、「16層（断面図にあり）」3/20、同じく「16層」6/20、「南東壁際底から20cm（16層）」3/20、「検出面」4/20。口縁部の波状意匠15単位で、図正面に見えるように一箇所だけ異なる部分ある。胴部の縄文は、底付近までである。底面ナデ（丁寧）。頸部の刺突は、深く尖った棒状工具で。外面上半スス付着。内面、10×5cmの範囲、ひどくただれ、焼けはじけが一杯。

104の注記に不備があり割合不明だが、判明できたものには、16層、15～16層、南側壁際底から20cmがある。内面底部ただれ。

107の胴部、結束1種（LR、RL）ヨコ逆位交互に。

110Bの出土状況は、写真図版24参照。外面、底面中央摩耗。

111の施文順序は、隆帯→側面圧痕・羽状縄文→隆帯ナデ・刺突。刺突は、細く尖った棒状工具により横方向から。外面、底から1/3二次焼成で赤というより白い。内面底面ただれ。

118の取り上げ位置は、第4号土坑が6/11、2D③・包含層が5/11。

125の取り上げは、「4、7相当層」が1/14、「半裁時」が13/14。施文順序は、胴→頸（→頸ナデ）、外面上部スス付着、下部二次焼成。内面上部ただれ。

127の内面は、底面は二次焼成で赤く、その周囲の胴部はススが付着していて、スポット・ライトが当たったかのように見える。

134の出土位置、No.2土器（3層上面）22/27、No.1土器（3層上面）2/27、7層2/27、2層1/27。

137の出土位置、No.1土器（9層上面？）5/10、No.2土器（9層上面？？）2/10、11層2/10、2～9層1/10。外面二次焼成で摩耗。

139の出土位置、第12号土坑・9層上面2/3、第17号土坑（半裁時）1/3。

140の口縁部突起（波状口縁）、7単位か（明瞭でなく乱れている）。頸部隆帯上に結束1種施文されているところあり。胴部の羽状縄文、中央より上に逆位に施文されているところあり。外面、胴部下1/2摩耗、上スス付着。内面、中位一周帯状にスス付着。

143の出土状況、写真図版28参照。胎土繊維含む。内面焼けはじけ。

145の同一個体破片、多くあるが（5×5cmで4片）、接合しない。

150の外面、スス付着、摩耗。

158の出土割合、2～8層1/7、9～10層上面？6/7。

171の胎土、繊維、石含む。内面スス付着。

175の取り上げ、3層1/16、9層上面？が6/16、「半裁時」9/16。外面、頸の屈曲部ナデで光沢が見られる。

183の内面、焼けはじけ？

185の補修孔、内面上下瓢箪状に二連結していて上の穴は未貫通。外面摩耗ひどい。

196の取り上げは、「写真図版32～33に出土状況を示したもの（15層）」5/13、「8層下面～15層上面」4/13、

「第25号土坑」とだけ記載3/13、「6 C③の土坑（第36号土坑）」（検出面？）1/13。内面、胴部中央帯状にスス付着。外面は、特に下部にスス顕著で、上部は赤く二次焼成を受けている。

205の口縁部付近、折り返しなのか、剥落している。胴部縄文、上部1/4周、結束1種（RR？、LR）ヨコ？、その他の部分は痕跡的で、吹きこぼれ厚く不明だが、他の原体もありそう。胴部のケズリ粗く、土器に当たって太い沈線状になっているところある。外面吹きこぼれ、胴部上半（底から10cmより上）、内面お焦げ、上部にもあるが概ね胴部下半に集中し底にはない。吹きこぼれ、お焦げ、いずれもすごく、器面全面を全周厚く覆っている（大分剥落してしまったが）。

226の刺突列、上の隆帯が覆い被さってつぶされている。

230の口縁部隆帯低め。胴部は、LRヨコが基本のようだが、隆帯下だけはLRヨコ（0段多条？）→単軸絡1A（R、L）タテ。

252の取り上げ、「第29号土坑 No.2土器（8層）」5/20、「同・3層」8/20、「第29～31号、第103号、第104号土坑 半裁時」5/20、「5 C②・IV層-10cm」2/20で、後ろから2番目の出土位置のため、手違いで、この位置に入ってしまった。

261の取り上げ、「写真図版37に出土状況を示したもの（23層上面）」2/15、「南北ベルト北側・ベルトと下層」5/15、「南北ベルト南側・ベルトと下層」4/15、「6 C③土坑？」2/15、「第36号土坑」のみ3/15

262の取り上げ、第36号土坑④1/5、6 C③の土坑？（第36号？）4/5。

267の取り上げ、「写真図版37に出土状況を示したもの（14層下部）」7/19、「写真図版37に出土状況を示したもの（17層下面～18層上面）」5/19、「④」2/19、「南北ベルト南側・ベルトと下層」5/19。頸部隆帯間の文様意匠は、波頂部4単位が基本のようだが、一箇所5波頂ある。外面、お焦げ非常に多く厚く付着していて原体ははっきりしない。外面、底から8cm赤く二次焼成を受けていて一部ただれており、その上はお焦げが付着。内面、口縁部付近と底は二次焼成のためか赤く、その間は黒い。

270の口縁部、折り返しか。

278の半分は、「半裁時」で取り上げ。

281の取り上げ割合、8層1/2、半裁時1/2。歪みひどく、径復元できない。

297の口縁部隆帯、胴部の縦綾線文と対応しているようで、4単位か。外面底面、ナデ。内面整形、光沢はないが細長い工具痕でミガキか。ススは、内面は、底部下から5cmの範囲に帯状に（底面にはなし）、外面は胴部上半中心。

301と303、同一個体。

316の二股の方の口縁突起、頸部の突起、さらに胴部の綾線文に対応。外面、胴部突出部より下二次焼成で赤い。内面、全体的に摩耗気味。

323の出土位置、No.1土器（11～12層上面）4/5、9層1/5。

324の外面、底面ミガキ。外面底から1/3やや摩耗。

326の出土割合、南部2層主体4/5、4、5層1/5。口縁部左端の円形の割れ口、補修孔の未貫通か。

327の頸部刺突、刺す又状工具によるものか、上下二個一対。

330の胴部原体、結束1種（RL+附加条R、LR+附加条L）。外面表皮、パラパラと剥落する。

332の施文順序、胴→頸側面圧痕。

338の外面、口縁～胴部上半スス付着、胴部下二次焼成で白～赤いが、一部底から頸部まで幅20cm白く摩耗している。

339の取り上げ、No. 1 土器4/77、No. 2 土器9/77、No. 3 土器4/77、1～5層10/77、7 = 8層2/77、半裁時48/77。

344の出土位置、1～6相当層が1/8、7 = 8層が5/8、10層が2/8。

345の出土割合、1～6相当層1/2、9、11層1/2。

350の施文順序は、口縁部側面圧痕→頸隆帯→胴部羽状縄文。

366の頸部微隆帯下の側面圧痕上に羽状縄文が覆い被さっている。

367の出土位置、第29号土坑・5層1/5、第58号土坑・1～4層1/5、同・半裁時1/5、第63号土坑・半裁時2/5。第58号土坑の場所に掲げられているのは不明だが、最初の登録時にこの注記のみ移記したためか。また、一つだけ離れた第29号土坑から出土しているのが気になるが、現場で付けた仮番号は、第29号土坑→D65F土坑、第58号土坑→D64F土坑、第63号土坑→D69F土坑であり、64を65と書き間違えた可能性もなくはないが、遺構名はプレートに記してその場に置いているので、考えにくい。

381は、382、383と同一個体。388ともか？

384の取り上げは、「半裁時」3/6、「4相当層」2/6、「8相当層」1/6。原体の附加条が、RLにLがうまく絡んでおらず、結節状になっている。

427の取り上げ、No. 1 土器（21層？）14/41、No. 2 土器（24層）12/41、No. 2 土器の奥7/41、25層相当層2/41、半裁時6/41。内面、底付近スス。

428の出土位置、No. 1 土器（21層？）6/24（底部）、No. 2 土器の脇6/24、25層相当層1/24、半裁時11/24。二次焼成で赤くなっている。

429の取り上げは、「No. 3 土器（26層上面）」27/32、「5層相当層」3/32、「半裁時」2/32。胴部の綾線文（結節回転文）は、口縁部の突起のどちらにも対応。

430の取り上げ、No. 2 土器1/2、半裁時1/2。外面、上から10cmスス、その下二次焼成で摩耗しているが、一部、上から下までただれており、その部分は内面も同様。

433の取り上げ、No. 4 土器3/6、No. 2 土器の奥2/6、半裁時1/6。外面、底から10cmより下摩耗しているが、底面はしていない。

435の出土割合、No. 2 土器の奥10/11、24相当層1/11。外面、二次焼成で赤い（オレンジ色）。内面、底付近スス付着、底面直上ただれ、底面は二次焼成で赤い（オレンジ色）。

440の頸部、刺突列と羽状縄文の間に無文帯。外面、口縁部特に摩耗。

455の外面、頸部隆帯下に無文帯。内面整形、屈曲部より上ヨコミガキ、下タテミガキ。

505の取り上げ、No. 1 土器（2層上面）4/9、1層4/9、本遺構南西部及びその周辺（底）1/9。

515のスス付着位置は、外面は頸部付近にとどまり、内面は外面に対応するように、丁度それが途切れる辺りから下に見られる。

520の口縁部に垂下する隆帯、一部剥落しているが、その下は無文。その隆帯間には、上に口が開くコ字状（縦の棒は棘状になっている）の刺突列。ボタン状貼付文の上の側面圧痕、渦巻き状に。

521の取り上げは、「半裁時」2/9、「No. 1（8層上面？）（残した土器）」1/9、「No. 3（8層上面）」4/9、「No. 4（6～7層）」2/9。外面、上部帯状にスス付着、下部二次焼成で赤い。内面、下部帯状にスス付着、上部と底面は二次焼成で赤い。

523の底部～底面ナデ。頸部直下幅3cmで帯状に一周スス付着し、それに直交するように、吹きこぼれがほぼ等間隔で（突起の間）口縁から垂下し（4箇所というか4単位？）、ススから下に約7cm続いているが

(胴部突出部まで)、一箇所だけほぼ底まで続く。胴部突出部より下は二次焼成で赤くなっている。

566の取り上げ位置、「第103号土坑・36層」1/5、「第29～31号、103、104号土坑・半裁時」2/5、「5 C②・IV層-10cm」2/5。

568の取り上げ位置は、No. 1 土器 (32層下) 3/16、No. 2 土器 (32層下) 11/16、32層2/16。胴部の結節回転文(綾線文)は、部分的にしか見られない。

569には、図示した以外に接合しない破片が図示した分の半分位あり、それらを含めた取り上げ位置は、No. 7 土器 (34層上面) 36/167、No. 5 土器 (34層上面) 33/167、No. 9 土器 (34層上面) 21/167、No. 3 土器 (34層上面) 18/167、「北西隅(崩落)・32層?」18/167、No 7 土器 (34層上面) の下12/167、No. 6 土器 (34層上面) 9/167、No. 8 土器 (34層上面) 6/167、30層6/167、31層3/167、「第29、30、103、104、31号土坑・半裁時」3/167、拡張区32層? 2/167。図示した以外の破片の原体は、バラけていてよくわからない。

572の出土位置は、第104号土坑・30層が1/3、5 C④・IV層-10cmが2/3。

(d) 陥し穴状遺構出土の土器 (第156図581～588、写真図版100)

やはり前期末～中期前葉が多く、どちらかと言えば中期前葉の土器が多いか(小片ばかりで何とも言えないが)。

(e) 焼土出土の土器 (第156図589～600、写真図版100～101)

やはり前期末～中期前葉の土器が主体。

(2) 遺構外(遺物包含層含む) 出土の土器 (第157図601～第183図926、写真図版101～114)

ほとんど全て前期中葉～中期前葉の土器である。以下、表の補足。

606と605は同一個体? 頸部、低め隆帯上に竹管状工具で刺突。補修孔あり。

607の同一個体破片、口縁～胴部の10×10cmのものが2片、胴部破片が10×10cmのもの1片、5×5cmのもの4片あり。

614の施文順序、胴部→口縁部。

615の口縁部圧痕、ススでよく見えず他の部分は摩耗してはっきりしない。単軸絡1Aナナメ回転の可能性もある(一部にそのような痕跡)。

620の施文順序、口、胴→頸部隆帯ナデ。胴部原体、最上部LRヨコ、その下单軸絡1A(R、L)タテ。

632の胴部、左上単軸絡1タテ施文。胴部、単軸絡1(L)タテ→LRタテ、ヨコ→結束(R)ヨコ。

646の内面、土師器の黒色処理のように黒く光沢あり。

655の口縁部隆帯剥落部にも吹きこぼれベトリと付着。

656の下段の大きな三角形の彫り去り部分、下描き状の細く鋭い沈線が見られる。

698の頸部、刺突列と羽状縄文の間に無文帯。

721の頸部、隆帯の下無文帯。

737と739、同一個体。

738の胴部原体、結束1種(LR、RL+附加条R)。

747の外表面、胴部下部の屈曲部から下は摩耗し、それより上にスス付着。

752の外表面、上3/4二次焼成強く赤く摩耗している。内面、中央焼けはじけ見られ、その下はススが付着して

いる。

800の頸部隆帯の下ナデ。胴部の結束1種の原体は、RL+附加条L?を左巻き、LR+附加条R?を右巻きか。附加条には節のようなものが見え、それぞれLR、RLの可能性もある。

809の出土割合、③が1/7、④が6/7。

825の口～胴部の施文順序は、隆帯→竹管状刺突→ナデ→側面圧痕。外面下部スス付着。

827の頸部の半裁竹管状刺突、角張って逆コ字状。

829の頸部刺突、半裁竹管状でなく円形のものも。

832の施文順序、口縁部側面圧痕→頸部隆帯→胴部羽状縄文。

843の取り上げ、Ⅱ層下部～Ⅲ層上部1/2、Ⅲ層1/2。胴部の原体LRは附加条でない。隆帯に沿ってナデている。口縁部、意図的なものか、爪形圧痕ランダムにある。

844の内面、底の方におこげ付着。外面スス全体に付着。胎土3～5mmの石多い。

858の施文順序、胴部→口縁部側面圧痕。頸部刺突、両端尖っている工具か。

904には、接合しない同一個体破片が、口縁部破片5×5cmのもの1片、胴部破片10×10cmのもの2片ある。口縁部刺突、逆コ字状。胎土繊維含む。

926の刺突は、角棒状工具によるもので逆コ字状。

参考文献

- 石岡憲雄 1999「東北地方 前期（円筒下層式）」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
今村啓爾 1985「五領ヶ台式土器の編年」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』4
江坂輝弥編 1970『石神遺跡』ニュー・サイエンス社（1976年再版）
工藤竹久 1989「縄文尖底系土器様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
小林達雄ほか 1989『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
1988『縄文土器大観3 中期Ⅱ』小学館
鈴木克彦 1999「東北地方 中期（円筒上層式）」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
富樫泰時 1989「貝殻沈線文系土器様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
中村五郎 1996「図版50～95」『画龍点睛』山内先生没後25年記念論集刊行会
丹羽 茂 1989「中期大木式土器様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
三宅徹也 1977「円筒土器の概念とその崩壊」『青森県立郷土館調査研究年報』3
1982「円筒土器」『縄文文化の研究3 縄文土器Ⅰ』雄山閣
1989「円筒土器下層様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
1989「円筒土器上層様式」『縄文土器大観1 草創期 早期 前期』小学館
山内清男 1979『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

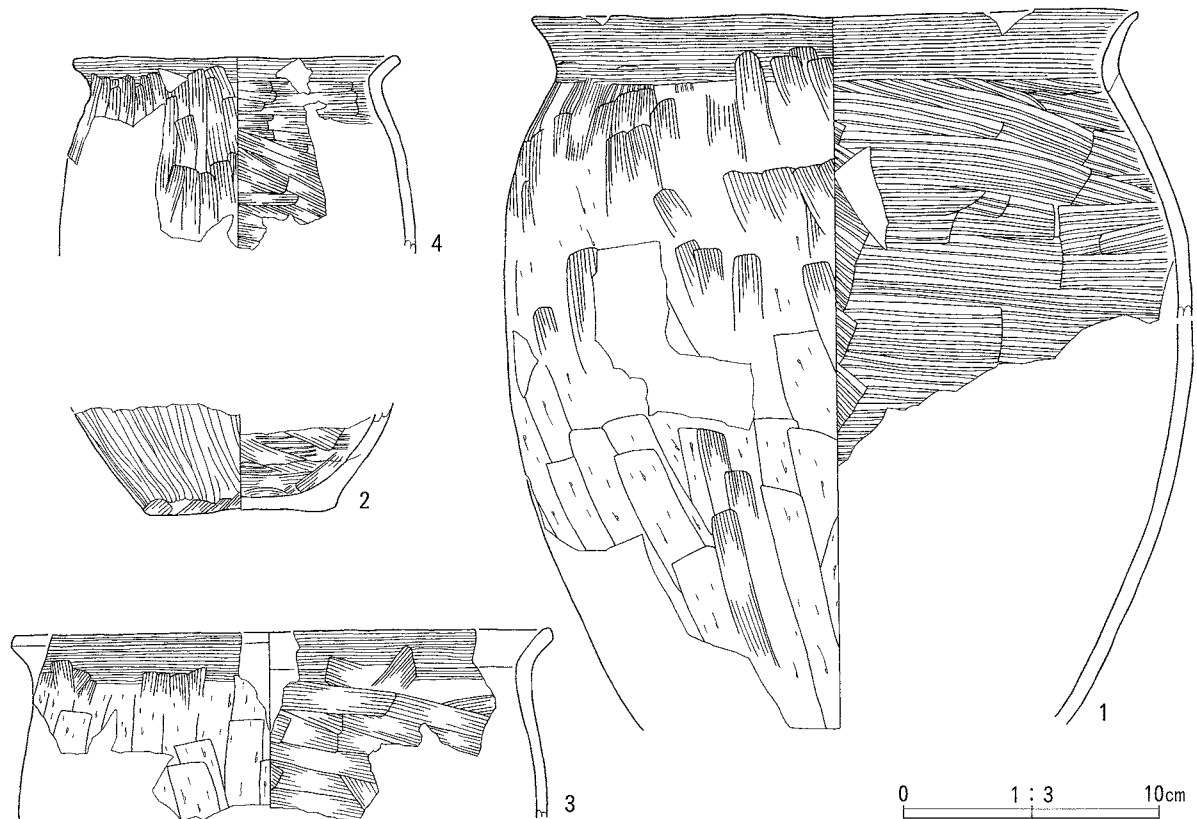
2. 土師器 (第102図1~4、写真図版115)

古代の竪穴住居跡から、土師器が約20点出土している。出土点数が少なく、また坏類が見られないなど、時期推定が難しいが、何れも八木編年のG期(9世紀後葉)辺りに相当するか(八木 1998)。なお、表の見方などの注意事項は、本章の冒頭部分に述べているが、出土位置に示した分数は、掲載土器のうちその場所から出土した土器がどれだけの割合あるのかを示す。

以下、表の補足。1の取り上げは、No.1a土器4/47、No.1b土器8/47、No.1c土器12/47、床面2/47、2層3/47、4層5/47、①6/47、住居北西隅付近(第4A号炉跡付近)7/47(何れも第10号住居跡内)。外面、ケズリ目立つ。外面、肩付近吹きこぼれ。外面、粘土まくれ痕。外面、口縁は赤っぽく、胴部は灰色。2の出土状況、写真図版20にあり。上の割れ口、粘土接合痕からの剥離(内傾)。外面摩耗しており調整痕ははっきりしないが、細い工具痕であることは確か(ミガキと言えるかどうかは疑問)。内外面スス付着しており、特に外面はタール状。3の外面、スス付着。4の取り上げ、カマド付近?1/3、カマド掘方付近1/3、②1/3(何れも第11号住居跡内)。外面は、焦げ茶色でやや光沢があり、今回出土した土師器の中では最も残りが良い。

参考文献

八木光則ほか 1998「馬淵川流域」『第24回古代城柵官衙遺跡検討会 シンポジウム「城柵と地域社会の変容」資料集 東北地方の古代集落』第1分冊



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部)	内面 (口縁部/胴部/底部)	残存状況	備考	本文 記載
1	第10号住居・No.1a~c土器、2層、4層、床面ほか	甕	口：ヨコナデ/胴：ヘラケズリ→ナデ	口：ヨコナデ/胴：ハケメ	口のみほぼ一周	口以外1/2周以下	p.208
2	第10号住居 No.2土器(カマド覆土)	甕・底部	胴：ナデ?/底前：木線裏→ナデ	胴：ハケメ/底：ナデ	一周		p.208
3	第10号住居②	甕・口縁部	口：ヨコナデ/胴：ヘラケズリ→ナデ	口~胴：ナデ	小破片	1/3周・外ケズリ目立つ	p.208
4	第11号住居 カマド付近ほか	甕・口縁部	口：ヨコナデ/胴：ヘラケズリ→ナデ	口：ヨコナデ/胴：ナデ	1/2周以下	内外スス付着	p.208

第102図 土師器

3. 土製品 (第184図1～9、写真図版115～116、観察表は写真図版の方にある)

今回の調査で出土した土製品は23点で、土器? 1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点である。以下、それぞれについて概要と表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭にある。

(1) 土器? (第184図1、写真図版115の1)

土器と思われるが確信が持てないもの。1点出土した。土器の把手が1/2周弱欠けたものか。図の下端の部分は、差し込み式になっていたようで、元々粘土接合面からの剥離である。外面調整は、ナデのようだが、それほど土師器らしくはなく、遺構外出土でもあるため時期は特定できない。

(2) 土偶 (第184図2～5、写真図版115の2～5)

4点出土。小片なので土偶でない可能性のあるものも含んでいる。2は、裏面が無文で極めて平坦であり土偶でない可能性もあるが、表面に「疑似絡条体圧痕文」(鈴木 1985: p.74)が見られ、鈴木克彦氏によれば、土器には見られない文様のようなので(同: p.77)、土偶と考えておく。また、鈴木氏によれば、円筒上層a式期と考えて良さそうである(同: p.77)。3のような無文の胴長の形態は、本遺跡で主体を占める縄文時代中期前葉までには見られないようであり(『土偶とその情報』研究会 1994)、他の時期のものか土偶でないかも知れない。4の「疑似絡条体圧痕文」および時期については、2参照。5のような無文で長い腕部は、本遺跡で主体を占める縄文時代中期前葉まで、特に円筒上層圏には見られないようであり(『土偶とその情報』研究会 1994)、大木式の影響を受けているのかも知れない。

(3) 円盤状土製品 (第184図6～9、写真図版116の6～9)

4点出土。7は、はっきりしないが胎土に繊維は含まれないようで、そうすると4点全て縄文時代中期前葉の可能性がある。

(4) 焼粘土塊 (写真図版116の10～23)

14点出土。形状から大きく3種類に分けられる。粘土をそのまま手の中でひねったような形で、やや重いもの(手びねりと仮称)、表面の凸凹著しく(ギザギザ)金平糖のような形状で、やや重め、土器破片(が摩耗した)のように見える場合もあるもの(金平糖状と仮称)、方形を基本としたブロック状で軽く、表面が滑らかで、朱～クリーム色を呈するもの(軽石状と仮称)。ほとんどが以上の3種類のいずれか、あるいは折衷的な特徴が見られるが、17は顕著に異なり、18も手びねりに近いがやや異なるか。

割れてしまったものの大きさは、観察表中に記さなかったもので、ここで割れてしまった中で最大の破片の大きさを付記しておく。10は、3.5×2.3×2.4cmで、その他1片あり。11は、3.0×1.9×2.7cmで、その他1片あり。12は、3.4×3.1×2.3cmで、その他1片あり。14は、3.3×2.6×2.3cmで、他に数片あり。20は、2.3×2.1×1.5cmで、その他1片あり。

参考文献

小笠原好彦 1984「縄文時代前・中期の土偶」『宮城の研究第1巻 考古学篇』清文堂出版

『土偶とその情報』研究会 1994『土偶シンポジウム2秋田大会 東北・北海道の土偶I』

鈴木克彦 1985「土偶の研究(II)―円筒土器文化に伴う土偶―」『日高見国―菊地啓治郎学兄還暦記念論集―』(北上市)

4. 石器（第185図～第227図、写真図版117～181、観察表は写真図版の方にある）

〔概要〕石器は973点、石器製作時の剥片67,336.74gが出土した。

素材剥片が極めて多く、接合を試みたが（作業員2名で半月）ほとんどつかなかった。しかし、同一母岩と思われるものは多く、接合しないのは、ツールとして他に運ばれた部分が多いためと考えられる。

また、調査・整理時には気づかなかったが、磨製石斧の未製品と思われるものが出土しており、本遺跡で石器の製作が行われていたことは確実であろう。

次に述べる押圧剥離系列の石器に、石匙などの定型（整形？）石器が少ないのが本遺跡の特徴で、未製品様の石器も多く、二次加工を受けているらしいのに刃が付いておらず、剥片とすべきかスクレイパーA類とすべきか悩むものは非常に多かった。そして、剥片に分類したものも含めて、石鏃、尖頭器様の形をした剥片の片側縁辺部に半周～一周剥離をしたものが非常に多かった。

石器組成を問題にできるような調査はしていないが、石鏃・尖頭器が多く磨敲器類が少ないとは言えるだろう。遺構はフラスコ状土坑を主体としているので、意外にも思える。

〔分類〕石器の分類は、大工原豊氏の分類を参考にした（大工原 1998）。打製系列、使用痕系列（研磨痕・敲打痕により石器と認識できるもの）、複合技術系列（直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる）の三つに大別され、打製系列は、押圧剥離系列（調整に押圧剥離を多用）、直接打撃系列（調整に直接打撃を多用）からなる。

各系列の主要な器種として、押圧剥離系列には石鏃、石錐等が、直接打撃系列には打製石斧等が、使用痕系列には凹石、敲石等が、複合技術系列には磨製石斧等が入る。押圧剥離系列の石器製作の過程で出る剥片をフレイク（剥片）A類、打製系列のそれをフレイク（剥片）B類とした。

〔出土点数〕以上の分類に基づくと、石鏃163点、尖頭器96点、石篋28点、石錐6点、石匙25点、スクレイパーA類・Uフレイク・Rフレイク313点、打製石斧40点、スクレイパーB類3点、磨敲器類269点、石皿6点、台石1点、砥石2点、磨製石斧21点、剥片A類66,683.03g、剥片B類653.71gが調査で出土した。

スクレイパーB類は、直接打撃系列の石質で一部剥離痕が見られるもの。出土量が極めて少なく、磨敲器類の破片をスクレイパーB類としている可能性がある。フレイクB類の認定は難しく、本当のその器種が押圧剥離系列で使っていないか確証を得るのが難しいので、認定されたものは少ない。

〔掲載基準〕遺構内出土ツールは、はっきりしないものも含め全て掲載した。遺構内出土石器製作時の剥片も、初年度は全て掲載したが（ただし図化は最小限にとどめた）、次年度はあまりに出土が多かったため、重量のみ計測し割愛した。ただし、第1号住居跡出土のものは後ろにまとめて掲載した（写真図版171の791～178の965）。第3号住居跡については一部掲載した（写真図版178の966～181の1060）。

今回の調査では、遺構内出土品が多かったため、遺構外については、3点しか掲載できなかった（788～790）。また、未加工の軽石も、素材ということで便宜的に剥片類と一緒に扱い、石器に含め、遺構内出土分については、剥片同様に扱い掲載している。

〔記載要領・表の見方〕写真だけのものも多いので観察表は写真図版の方に掲載した。掲載順序は、遺構内については出土位置（遺構）に従って、遺構外については分類に従っている。その他、本章の冒頭部分参照。

(1) 石鏃

遺構内95点、遺構外68点、計163点出土。丁寧に作っておらず、剥離いい加減で裏面ほとんどないものが

多いのが特徴である。64?、472?、605は未製品と思われる。遺構内出土品のうち該当するのは、6、12、25、40?、41、44、45、51、53、54、56、57?、58、61、64、66、67?、74?、75、76、77、79、80、82、87、88、93、96?、97、100、107、108、111、113、116?、120?、127、130、134、138?、139、140?、144?、181、212、216?、228、238、258、263、268、269、273、276?、321、330、331、422、432、456、458?、472、544、547、565、576?、582、586、589、590、591?、595、596、597?、599?、602?、608、628?、634?、700、709、710、715、718、727?、730、731、735、736、742?、750、751、755、781、785で、尖頭器に含めた248も、石鏃に含めた方がよいかも知れない。

(2) 尖頭器

遺構内62点、遺構外34点、計96点出土。石鏃に類似するものが多いが、より大きいもので、本遺跡では石鏃と異なり両面剥離されているのが普通である。石篋に含めないのは、先端が尖っているものがほとんどだからである。石鏃の未製品が含まれている可能性もある（石鏃に再利用が続けられているとしたら、一番最初に作られたものは大きい）。417と789は、舌状の部分がある。788も同様だが、石匙と考えるのが普通かも知れない。ただし、今回出土した石匙と異なり表裏面とも全面剥離である。遺構内出土品のうち該当するのは、8、11、13、15、31、60、62?、83?、95?、109、121?、123?、128、131?、132、133、135?、136?、142?、143、146?、248?、266、400?、417?、430?、453?（未製品?）、467?、473?、475?、477?、479?、485?、488?、502、515?、531?、532?、535?、566?、568?、571?、584?、588、592?、594?、600、601?、607?、618?、621?、627?、636?、638、714?、717?、720?、729?、749?、768?、783?、784?。788?、789、790は、図も掲載しているが、遺構外出土である。

以下、表の補足。789と790は、折り重なるように出土したが、削平されていた地点で、下は地山（IV層）、上は表土（I層）という場所なので、どの程度原位置を保っているか定かでない。

(3) 石篋

遺構内5点、遺構外23点、計28点出土。尖頭器と異なり両端が弧を描き広いものである。遺構内出土のうち該当するのは、210、451、537、609?、740。

(4) 石錐

遺構内のみ6点出土。該当するのは、37、104、137?、536?、671、733?

(5) 石匙

遺構内15点、遺構外10点、計25点出土。本遺跡出土品は、剥離が少なく特に裏面に施したものは非常に少ない。遺構内から出土したのは、9、27、168、262、332、334、378（石匙の未製品?）、403、408?、410、419、606、622、694、782。

(6) スクレイパーA類・Uフレイク・Rフレイク

遺構内151点、遺構外162点（全て「スクレイパーA類」）、計313点出土。押圧剥離系列の製作過程で生み出された剥片に二次加工を施したものである。いわゆる不定石器も含む。ここに含めたものは基本的には刃部を持つが、本遺跡では、剥片に二次加工（剥離）を施しながら刃部を持たない、製作途上とも言える剥片

が非常に多く、これらは基本的には剥片（フレイク）扱いにしたが、あまりに剥離数が多く悩んだ末こちらに含めてしまったものもある。また、遺構外出土でただの剥片類（フレイク類）に含めた中に、Uフレイク、Rフレイクが混じっている可能性が高い。

遺構内出土のうち、スクレイパーA類としたのは、120点あり、1、3?、23?、26、30、32、35、36、47、48、49、50?、52?、55?、59、63、68、71、73、89、90、91、92、94、98、99、101、102、103、105、106、110?、112、114、115、117、118、119、122、124、125、141、145、147、159、164、166、169、170、171、172、175、194、199?、200?、207、211?、217、218?、229、235、239?、252、261、267、271、272、278、281、287?、291?、293?、299、308、315、317、318、320、325、337、338、346、348、349、409、421?、437、438、474?、478、484?、487、496?、546、548、553、556、570?、573?、575?、578?、579?、581、604、605?、612?、615、619、620?、623?、625?、635、637、712?、713?、725?、726?、748、754。Uフレイクとしたのは11点で、150?、174?、233、255?、288、302、311、454?、455、641?、734。Rフレイクとしたのは18点で、157、365、380、395?、448、457、476、489、503?、564、574、587、688、698?、716、722、759、787? どちらかわからず二次加工剥片としたのは2点で、16、22?

(7) ピエス・エスキーユ

使用の結果石器に認定される（岡村 1983）という意味では使用痕系列だが、剥片自体は押圧剥離系列の中で生み出されたものであるし、何よりも形態の類似性から、押圧剥離系列に含めた。遺構内から4点出土し、65?、167?、196?、492?が該当。遺構外は、剥片類（フレイク類）に混じっている可能性が高い。

(8) 打製石斧

遺構内20点、遺構外19点、計40点、さらに打製石斧B類が、遺構内1点、遺構外8点、計9点出土。打製石斧B類としたものは、剥離が一部にとどまり敲石と区別しがたいもので、磨製石斧にも似ている。打製石斧としたもののうち半円扁平でないものは、磨製石斧の未製品の可能性が高い（538、550、683）遺構内出土のうち、打製石斧としたものは、192?、193?、236、237、249、251、253?、265、333、381?、382?、384、542、557、562?、593?、679、690、747、780。打製石斧B類としたのは、724。

(9) スクレイパーB類

直接打撃系列で生み出される剥片に刃部が付いているもの。遺構内2点、遺構外1点、計3点出土。遺構内出土は、298、699?

(10) 磨敲器類（凹石、敲石、磨石）

これらは使用痕が複合することが多いので一緒に扱う。遺構内123点、遺構外146点、計269点出土。遺構内出土のうち「磨敲器類」としか認識できなかったものが32点あり、4?、5?、17?、34、46、70?、81、84?、176?、177?、202?、204?、209、222?、240、241?、279?、324?、335?、336?、351?、352?、353?、429?、470?、549?、560?、580?、681、702?、703?、743が該当する。

・凹石

磨敲器類のうち、はっきりとした凹みを持つもの。遺構内7点、遺構外18点特定できた。遺構内出土は、21、42、160?、327、329、613、777が相当。

・ 敲石

磨敲器類のうち、凹みを持たず、はっきりした敲打痕を持つもの。敲石は、雑多なもので構成され主流となるものはないので、特に分類はしなかった。遺構内45点、遺構外54点出土。191の出土状況は、写真図版20にある。遺構内出土は、2、18、19、20、24?、28、39、72、78?、86、161?、162、178、191、234、264、297、319、322?、328、354、355、416、441?、442、443、461、464、468、481、517、543?、551、558?、563?、626、631?、633、640、682?、739、752?、753、774、775?が該当。

・ 磨石

磨敲器類のうち、凹みも敲打痕も持たないもの。一般的な磨石は62点、磨石B類は22点、磨石C類は29点出土し、総計113点。

磨石B類は、長方形を基本とした石の縁辺部に磨面（敲打によって面になった部分?）があり、その横に剥離が見られるものである。今から考えれば敲石の中に含めた方が良かったかも知れない。そして、今年度当センターが調査し報告者が担当した石器製作址、北上市金附遺跡の出土品を見れば、磨石B類は、磨製石斧の未製品である可能性が高く、磨面と考えたものは、細かい敲打によってできた面であるようだ。

磨石C類は、扁平な円～楕円形の海岸によく見られる礫で、使用しているかどうか定かでないものである。

一般的な磨石は、遺構内21点、遺構外41点出土し、遺構内出土品は、85、163?、243?、244?、245?、246?、254?、260?、316、326?、389、415、462、463、518、644?、676、677?、678、741?、776。磨石の中には、ススが付着しているものがあり、これは押圧剥離系列の石器を作る前の母岩を示しているのかも知れない。

磨石B類は、遺構内9点、遺構外13点、遺構内は、43、69、270、323、471、541、552、611、706?が該当。706は、他のものと異なって側面の磨面の横に敲打面（剥離）を持っていないが、他の場所には見られるので本類に含めた。

磨石C類は、遺構内9点、遺構外20点、遺構内は、242、285、444、617、629、630、639、705、708が該当する。

(11) 石皿・台石

石皿は、遺構内5点、遺構外1点、計6点出土し、遺構内は、10?、459?、460?、756?757?が該当。本遺跡出土の石皿は、自然礫をそのまま使用したもので、使用痕跡も薄い。台石としたのは、石皿様のものだが細長く厚みのあるもので、遺構内から1点出土している（38?）。

(12) 砥石

遺構内1点（728）、遺構外1点、計2点出土。

(13) 磨製石斧

遺構内12点、遺構外9点、計21点出土。遺構内は、14、247、314、469（小型）、538、550、624、632、683、707、723、779が該当する。538は未製品かも知れない。そして、既述のように、打製石斧の一部、磨石B類は、磨製石斧の未製品である可能性が高い。

(14) その他

未加工の軽石は、素材ということで便宜的に剥片類と一緒に扱い石器の中に含めたが、250のように加工が疑われるものあり、また加工品として石製品の中で扱ったものも、はっきりしないものが多いので、軽石ということで一括して別にまとめた方が良かったかも知れない。遺構内3点（129、250、554）、遺構外5点出土。

この他、遺構内出土の中には、積極的に石器とは認められないまでも、その疑いのあるものは含めているが、器種の特定までには至っていないものがある（126、173、431、545、561、711）。

その他、遺構外から棒状の石が1点出土しているが石棒とするには躊躇を覚え、石器には含めなかった。

参考文献

岡村道雄 1983「ピエス・エスキーユ、楔形石器」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣

大工原豊 1998「縄文時代の石器研究の方法」『遺跡・遺物から何を讀みとるか』（帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集1）岩田書院

5. 石製品（第184図、写真図版182の1～8、観察表は写真図版の方にある）

今回の調査で出土した石製品は8点で、垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点である。以下、それぞれについて概要と表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭に述べている。

(1) 垂飾品（第184図1、写真図版182の1）

穿孔が見られ垂飾品と考えられるもの。1点出土した。

(2) 円盤状石製品？（第184図2、写真図版182の2）

正確には多角形であり円盤状ではない。遺構外から1点出土。

(3) 軽石加工品（第184図、写真図版182の3～8）

加工した可能性のある軽石を掲げた。6点出土。なお、未加工の軽石は、素材ということで便宜的に剥片類と一緒に扱い石器の中に含めた。

6. アスファルト、コハク、その他（写真図版182～183）

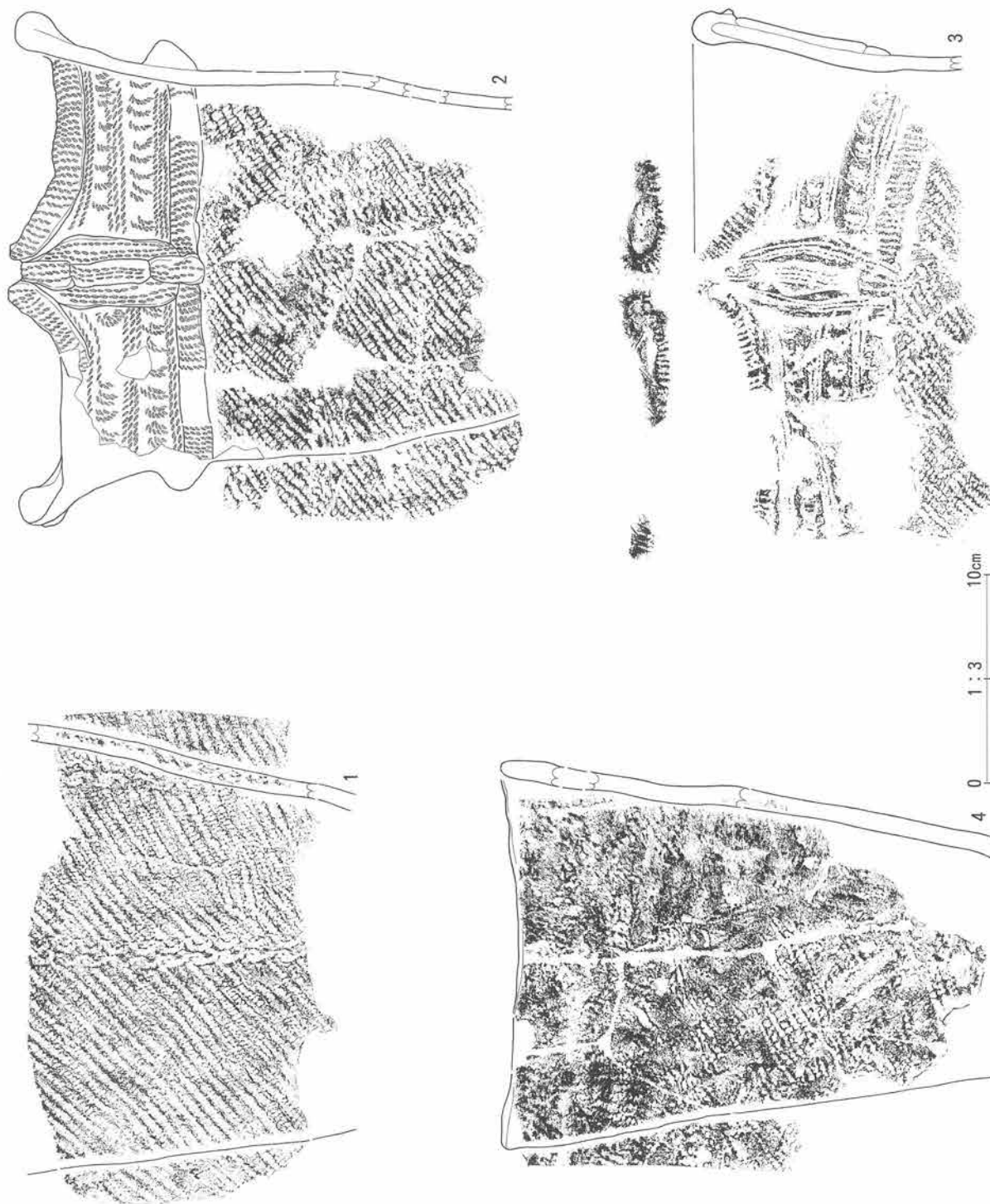
アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点が出土し、その他、炭化物なども出土しているが小片ばかりで同定に耐えうるものはなかった。なお、軽石については、加工したものについては石製品で、未加工のものについては石器の中に含めた。

(1) アスファルト（写真図版182）

遺構外から1点出土した。割れてしまったが、最大片は5×3×2.5cmの大きさがある。

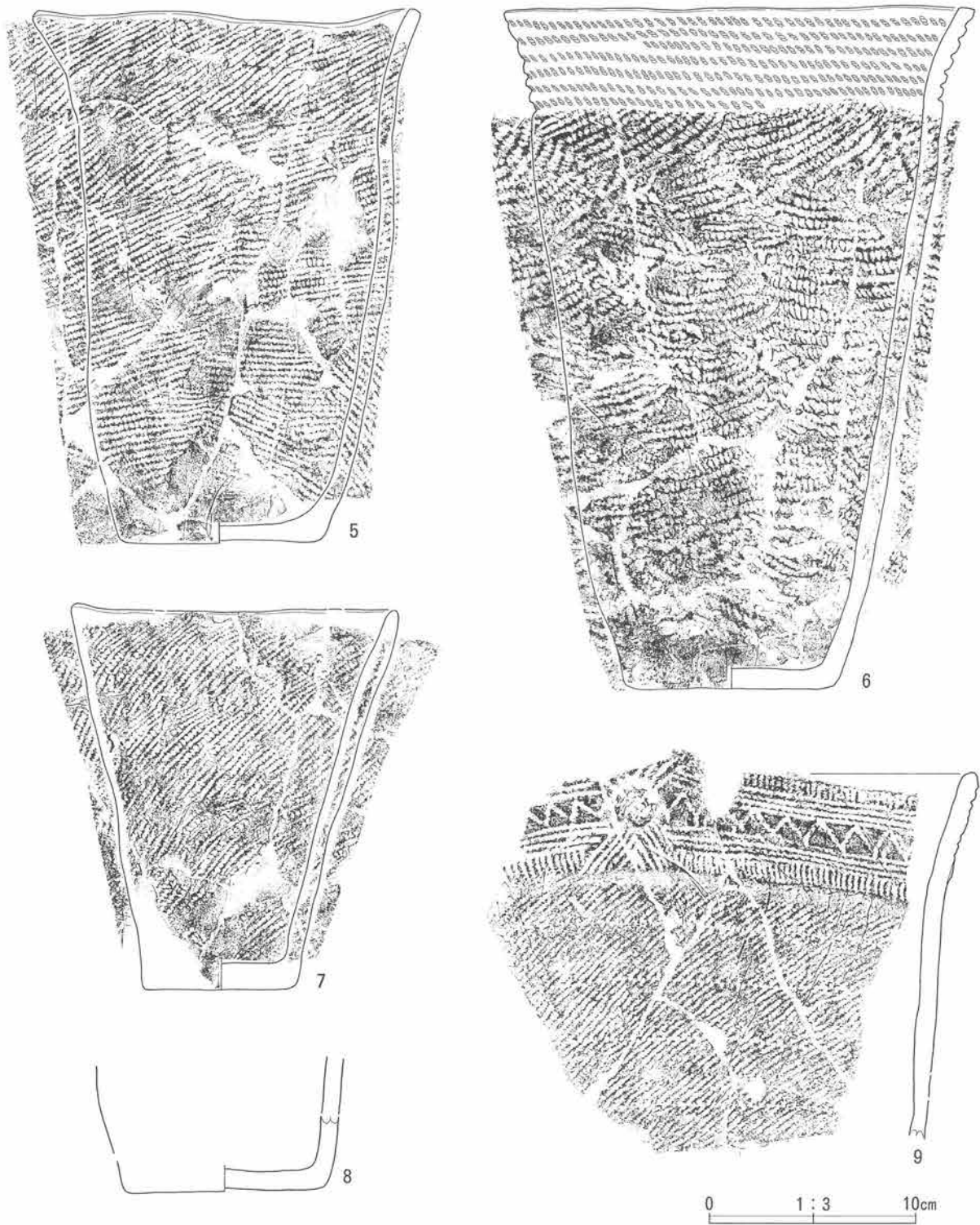
(2) コハク（写真図版183）

18点出土。県内遺跡からの出土としても比較的多い方と言えようが、一大産地である久慈のすぐ隣にあるのだから、ある意味当然であろう。縄文時代の遺構から出土したものが多数を占め、この時代のものが主体である可能性が高いが、15、17、18などはⅡ～Ⅲ層から出土しているので古代のものも含まれているかも知れない。



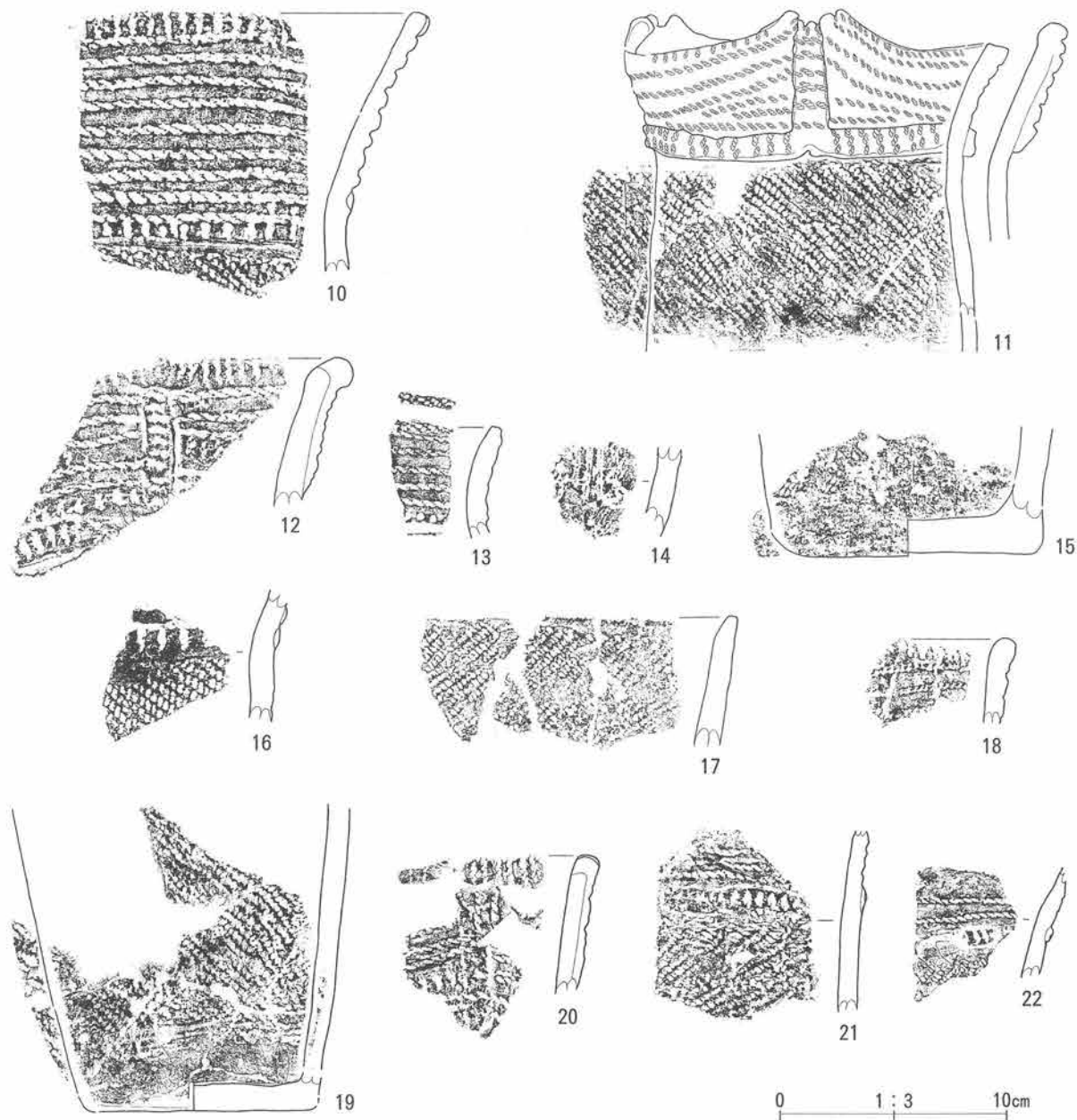
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
1	第1号住居跡 炉体土器	深鉢 (1/2周強)	LRヨコ→結節 (R) タテ	ミガキ?	胎土繊維・外面スス	
2	第1号住居跡 No.1土器	深鉢 (1/2周弱)	突起4単位? / 口:L副圧 (隆帯上も) / 胴との境:ナデによる無文帯 / 胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外面スス	p.202
3	第1号住居跡 No.1土器				*2と同一個体	
4	第1号住居跡 No.2土器	鉢(2/3周弱)	4波状? / 疎らな縄文 (LRヨコ、ナナメ)	ナデ	胎土繊維	

第103図 縄文土器(1)



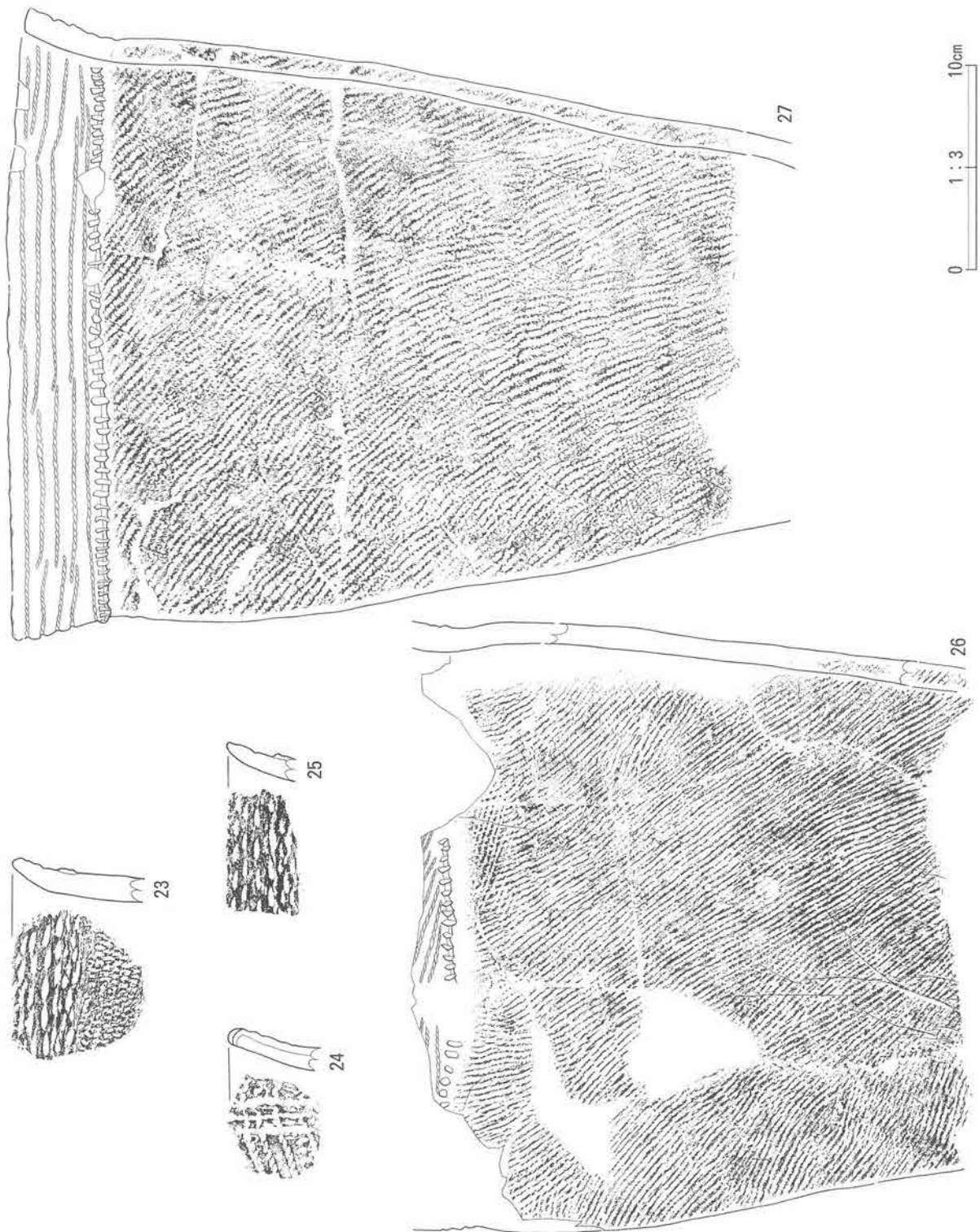
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
5	第1号住居跡 No.3土器	鉢(底近くのみ一週)	口～胴上LRヨコ、胴下LRナナメ→底部～底面ナデ	ただれ	胎土繊維、小石含む	
6	第1号住居跡 No.4土器	深鉢 (一部欠)	口：無文地にLR側圧/胴上：LRヨコ/胴下LRタテ→底部ナデ/底面：ナデ?	ミガキ	胎土小石含む	p.202
7	第1号住居跡 No.5 a 土器	鉢 (口ほか欠)	口～胴：LR (太さの異なる原体を焼り合わせ?) ヨコ/底～底面：ナデ	ナデ	胎土繊維：外面一部摩耗	
8	第1号住居跡・No.5 b 土器の下	底部 (底のみ一週)	胴：LRヨコ/底部：ナデ/底面：ミガキ?	ナデ		
9	第1号住居跡 No.7土器	深鉢・口縁部	口：L側圧(ギケン状貼付文上も?) / 胴：結束3種 (LR、?) ?ヨコ重ねて羽状にならない?	ナデ	繊維・外スス・内外摩耗	

第104図 縄文土器(2)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
10	第1号住居跡 Na8土器	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:深い刺突(縄の押圧?)列、その下ヨコナデ/胴:RLRヨコ	ミガキ	胎土繊維・外吹きこぼれ	
11	第1号住居跡 Na9土器	深鉢(ほぼ一周)	突起3単位/口:LR側圧(隆帯状も・突起は口唇部まで)/胴:RLRヨコ	ミガキ	外面スス付着	
12	第1号住居跡 Na9土器	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維・外スス	
13	第1号住居跡・1層	深鉢・口縁部	口唇:LRタテ?/口:LR側圧/頸:低く細い隆帯に竹管状刺突列	ナデ	外面スス付着	
14	第1号住居跡・2層	深鉢・胴部	単軸絡1(R)?タテ	ナデ	外摩耗・内スス	
15	第1号住居跡・6層	底部(底のみ一周)	胴:LRタテ/底部:ナデ/底面:ナデ	ナデ	胎土小石・底部摩耗	
16	第1号住居跡・6層	深鉢・頸部	口:LR側圧/頸:ヨコナデ(太く浅い沈線状)/胴:RLR?ヨコ	ナデ	外面吹きこぼれ	
17	第1号住居跡・6層	深鉢・口縁部	LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
18	第1号住居跡 柱穴つけたし⑥	深鉢・口縁部	単軸絡1(R) 側圧?	ただれ		
19	第1号住居跡②	底部(底のみ一周)	LRタテ→底部ナデ/底面:ナデ	ナデ	胎土小石めだつ	
20	第1号住居跡②	深鉢・口縁部	口唇:LR側圧/口:LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
21	第1号住居跡②	深鉢・頸部	口:LR側圧/頸:隆帯上にLR側圧/胴:LRヨコ?	ナデ	胎土繊維・内黒・外赤	
22	第1号住居跡②	深鉢・頸部	口:LR側圧/頸:隆帯上にLR側圧/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維・内外スス	

第105図 縄文土器(3)



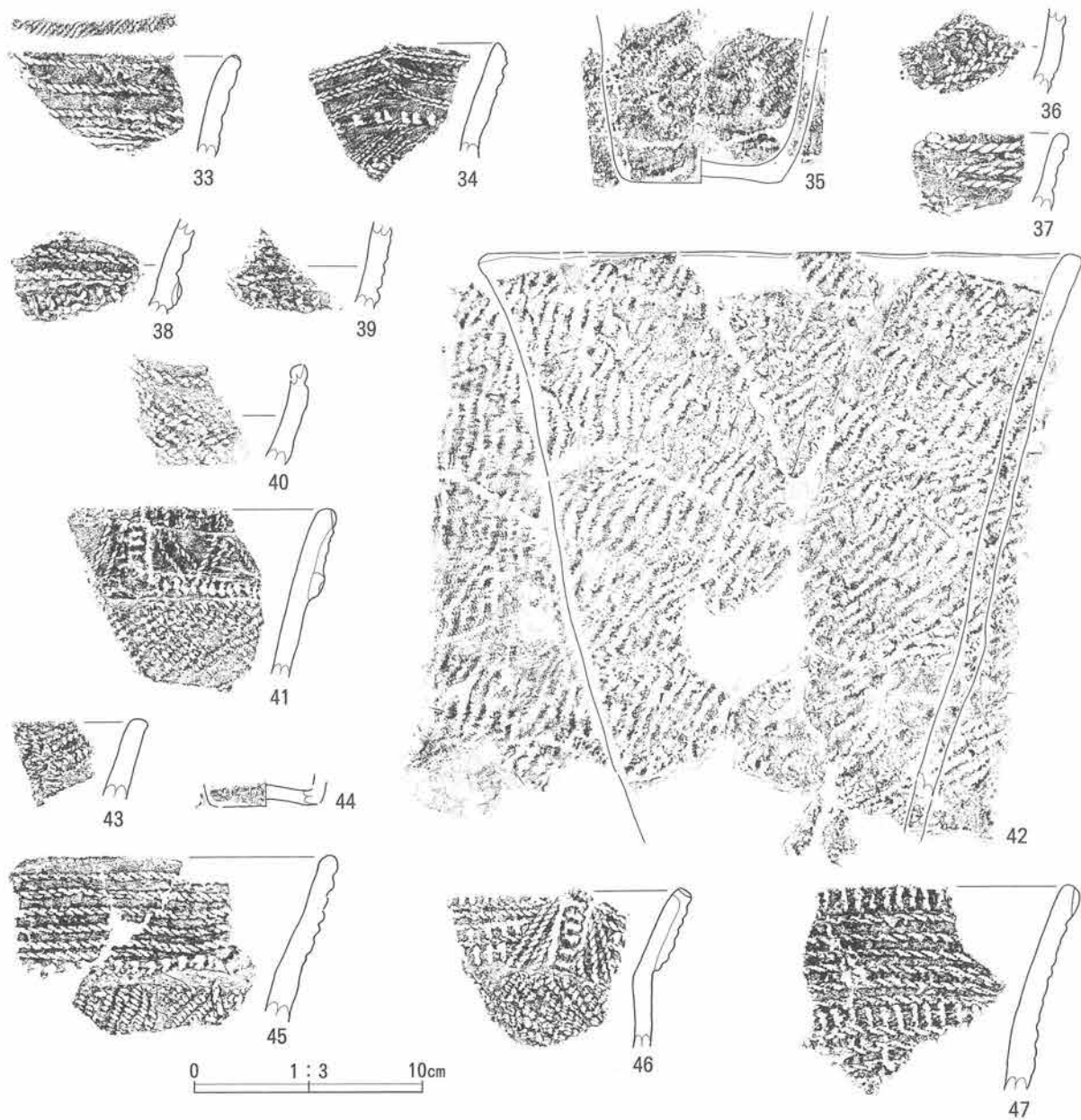
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
23	第1号住居跡②	深鉢・口縁部	口：横からの細長い刺突/頸：低い隆帯に同様の刺突/胴：多軸絡(?)タテ	ミガキ	胎土繊維混入・25と同一	
24	第1号住居跡②	深鉢・口縁部	LR側圧	ミガキ		
25	第1号住居跡②	深鉢・口縁部	*23と同一個体	ミガキ		
26	第2号住居跡 炉体土器1	深鉢(一周)	口：R側圧/頸：低い隆帯?上から下からの刺突/胴：単軸絡1(R)タテ、ナナメ	ミガキ	胎土繊維・外面一部摩耗	p.202
27	第2号住居跡 炉体土器2?	深鉢(胴下のみ一周)	口：LとR側圧/頸：低い隆帯に下からの刺突列/胴：RLヨコ、ナナメ	ミガキ	口唇摩耗	p.202

第106図 縄文土器(4)



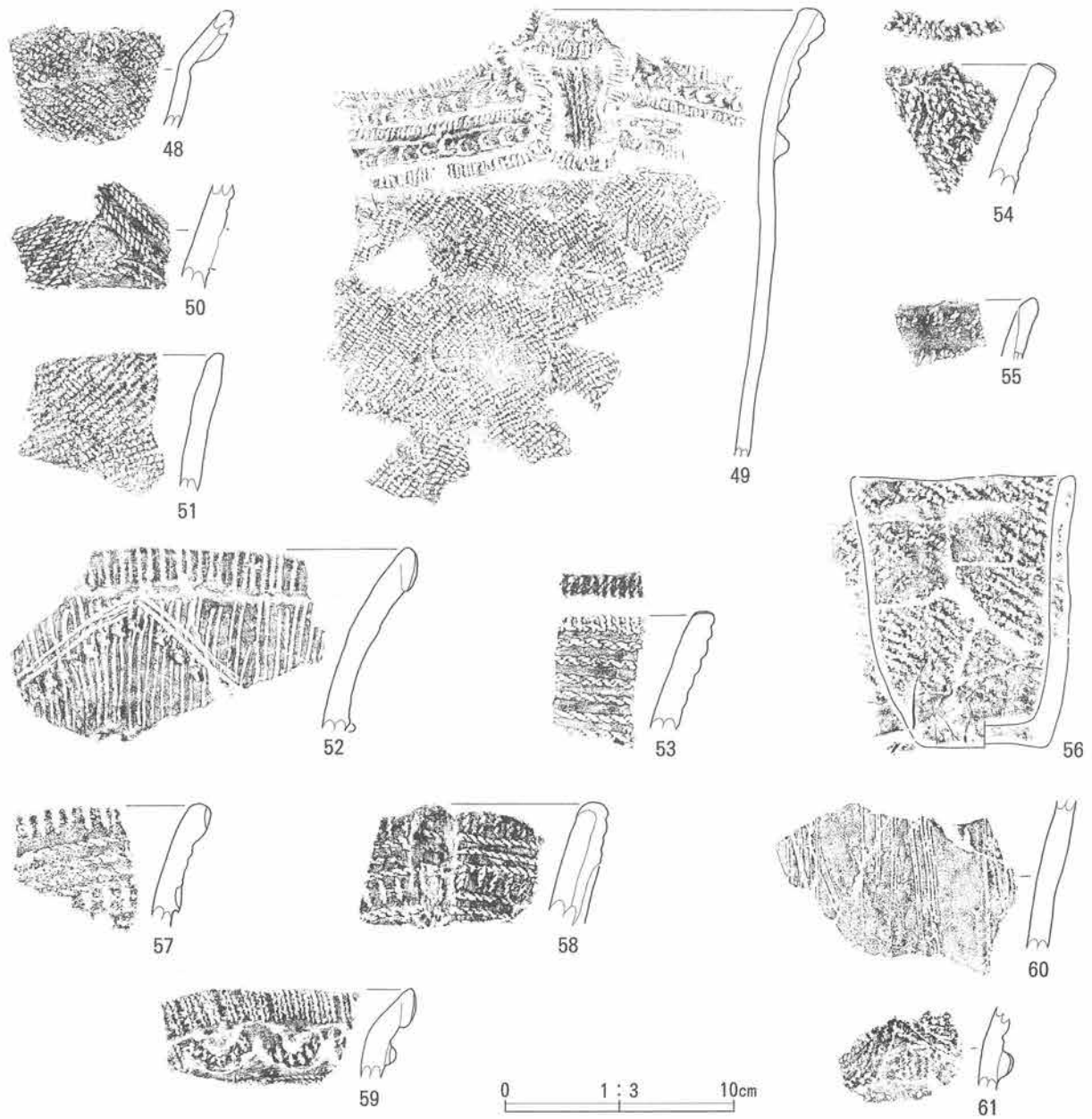
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
28	第2号住居跡 炉体土器3?	深鉢(口、底欠)	口: R側圧/頸: 低い隆帯? 上にR? 側圧/胴: LRヨコ	ナデ	胎土繊維・口縁摩耗	
29	第2号住居跡 炉体土器4	深鉢(1/3周強)	結束1種(LR, RL) ヨコ (*外面二次焼成で摩耗)	ミガキ?	胎土繊維、石	
30	第2号住居跡 柱穴5	口縁部	口: R側圧/胴: LRヨコ	ナデ		
31	第2号住居跡 柱穴5	深鉢・口縁部	単軸絡1(?) 側圧	ナデ	外摩耗	
32	第2号住居跡 No1(柱穴8)	胴部(1/2周弱)	LRヨコ→結節(R) タテ	ミガキ	胎土繊維混入	

第107図 縄文土器(5)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
33	第2号住居跡 柱穴8	深鉢・口縁部	口唇:Lヨコ/口:L側圧	ナデ	外吹きこぼれ	
34	第2号住居跡炉跡1~3周辺	深鉢・口縁部	波状線//口:LとR-細側圧/頸:半截竹管状工具による刺突/胴:結紮理(L?,?)ヨコ	ナデ	外面スス付着	
35	第3号住居跡 炉体土器	底部(一周)	胴:LRヨコ/底部~底面:ナデ	ナデ	内外面摩耗	
36	第3号住居跡・1層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
37	第3号住居跡・2層	深鉢・口縁部	縦隆帯刺落・R側圧	ナデ	胎土繊維・外スス	
38	第3号住居跡・3層	深鉢・頸部	口:L側圧/頸:隆帯上にLR側圧	ナデ	胎土繊維、石・外スス	
39	第3号住居跡・3層	深鉢・頸部	口:L側圧/頸:L側圧?	ナデ	外面スス付着	
40	第3号住居跡・4層	深鉢・口縁部	波状口縁?//口:L側圧/胴:LRタテ	ミガキ?		
41	第3号住居跡・4層	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:LRヨコ	摩耗	胎土繊維・外口縁スス	
42	第3号住居跡 柱穴2ほか	深鉢(1/2周弱)	口唇:強いナデ/口~胴:LR(0段多茶?)ヨコ、ナナメ	ミガキ?	胎土小石・外面胎土まくれ	p.202
43	第3号住居跡 柱穴5	深鉢・口縁部	LRヨコほか??	ミガキ?	外面スス付着	
44	第3号住居跡 周溝	底部(ほぼ一周)	底面揚底状	ナデ	胎土繊維混入	
45	第3号住居跡 周溝	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:LRヨコ、一部側圧	ミガキ	胎土繊維・外吹きこぼれ	
46	第2~3号住居跡②	深鉢・口縁部	口縁隆帯状//口:L側圧(隆帯上も)/胴:RLR?ヨコ	ナデ	胎土繊維混入?	
47	第2~3号住居跡③	深鉢・口縁部	LR側面圧痕	ナデ	胎土繊維混入	

第108図 縄文土器(6)



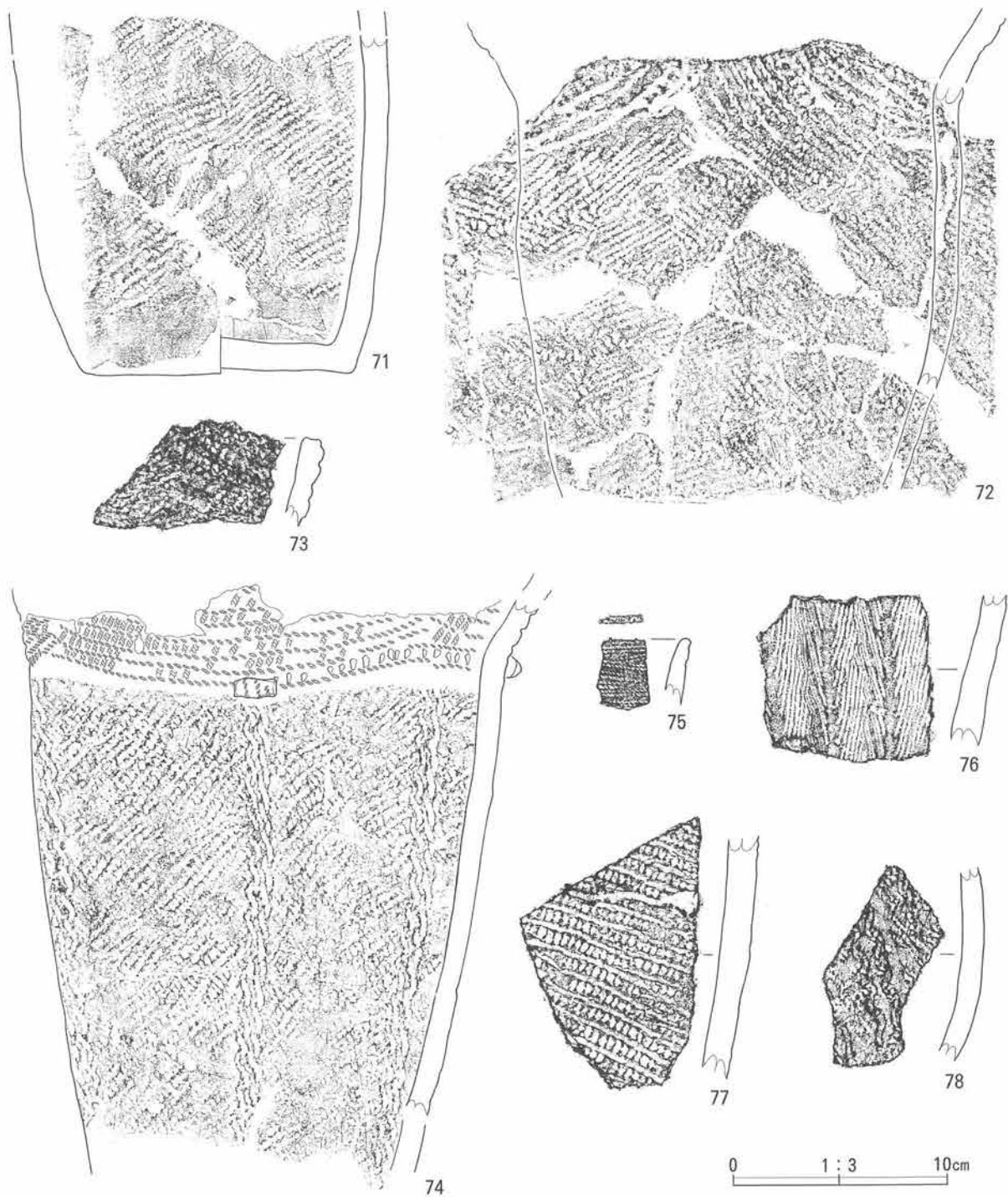
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
48	第2~3号住居跡③	深鉢・口縁部	波状口縁・波頂下縦長突起・口縁隆帯状//LRタテ	ナデ		
49	第2~3号住居跡④	深鉢(1/5周)	口唇:R側圧/口:隆帯上はR、下はLR側圧/弱:LRヨコ//隆帯に沿ってナデ→縄文	ミガキ	胎土繊維・外面スス	
50	第2~3号住居跡④	深鉢・口縁部	L側圧・ボタン状貼付文剥落	ミガキ	胎土繊維混入	
51	第2~3号住居跡④	深鉢・口縁部	LRヨコ	ナデ	外面スス付着	
52	第2~3号住居跡⑥	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による刺突列、沈線	ナデ	外面吹きこぼれ?	
53	第2~3号住居跡⑥	深鉢・口縁部	口唇~口縁最上部:LR側圧?(口唇ナデで痕跡的)/口:LR側圧	ミガキ		
54	第2~3号住居跡⑥	深鉢・口縁部	突起//口唇~口縁:R側圧	ナデ		
55	第2~3号住居跡⑥	深鉢・口縁部	L側圧?	ナデ	外面剥落	
56	第2~3号住居跡⑦	鉢(口ほか欠)	口~胴RLヨコ、ナナメ→底部~底面ナデ	ミガキ???	外面二次焼成で赤い	
57	第2~3号住居跡⑦	深鉢・口縁部	?側圧(摩耗して見えない)	摩耗	内外面摩耗	
58	第2~3号住居跡⑦	深鉢・口縁部	口唇またぐ隆帯・LR側圧	ナデ(丁寧)	胎土繊維・外スス・内摩耗	
59	第2~3号住居跡⑦	深鉢・口縁部	LR?側圧	ナデ(丁寧)	胎土繊維・外スス	
60	第2~3号住居跡⑦	深鉢・胴部	櫛歯状沈線	ミガキ?	繊維・内面一部スス	
61	第2~3号住居跡⑦	深鉢・口縁部	口:長楕円形貼付文、R側圧/胴:LRヨコ?	摩耗		

第109図 縄文土器(7)



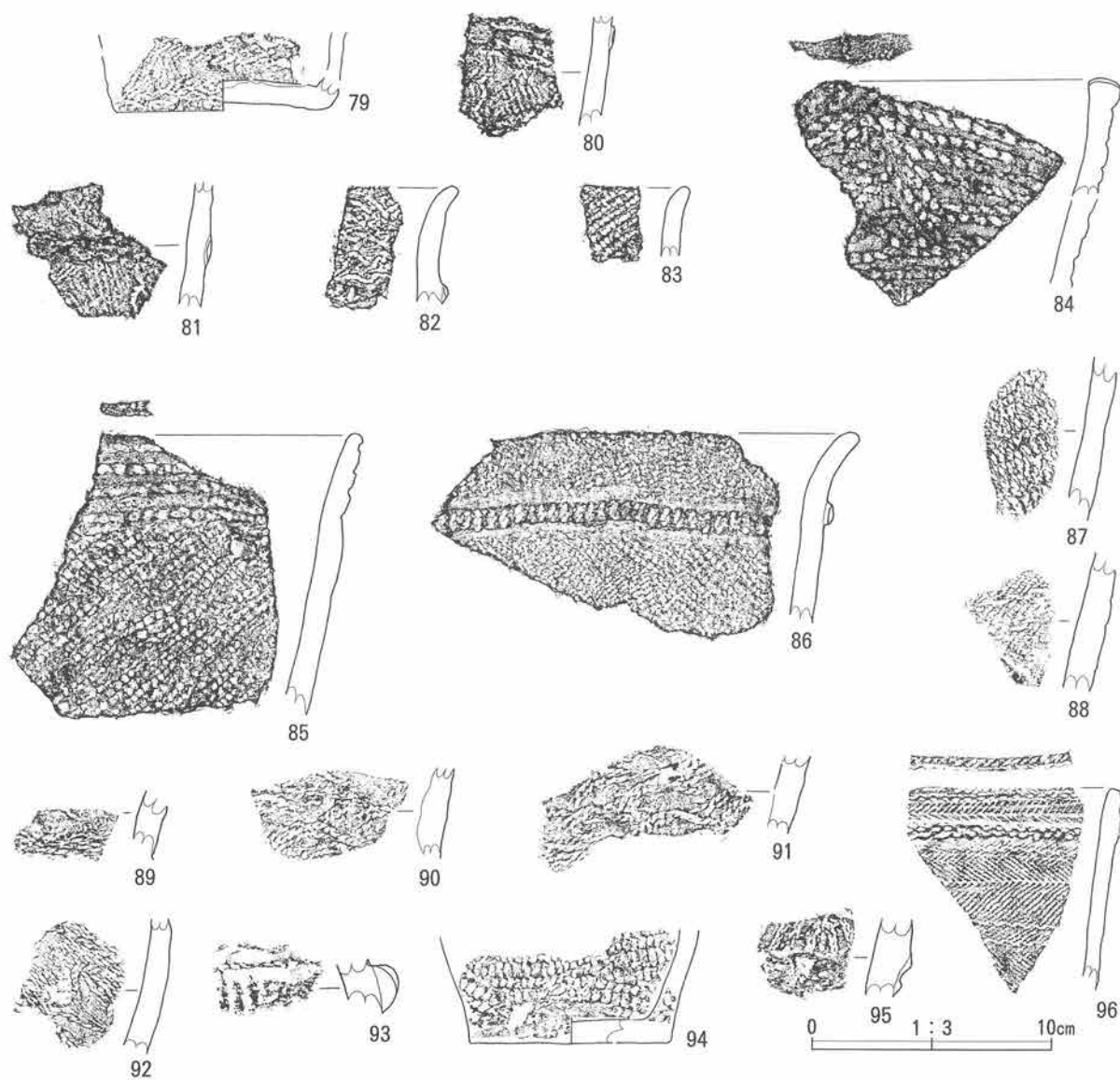
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
62	第2~3号住居跡⑧	深鉢・頸部	口:LR側圧/胴:LRヨコ	ミガキ?	胎土繊維混入	
63	第2~3号住居跡⑧	深鉢・胴部	単軸絡1A(L,R)?タテ	ミガキ	胎土繊維混入	
64	第4A号炉跡 炉体A土器	底部(1/2周弱)	単軸絡1A(L) タテ→底部ナデ/底面:ミガキ	ナデ	外面二次焼成で赤い	
65	第4B~D号炉跡 炉体B土器	底部(底のみ一周)	結束第1種(LR,RL) ヨコ交互/底面:ミガキ	ミガキ	外面胴部ボロボロ	p.202
66	第4B~D号炉跡 炉体C?土器	底部(底のみ一周)	結束第1種(LR,RL) ヨコ交互→底部ナデ/底面:ミガキ	ミガキ		
67	第4B~D号炉跡 炉体D土器	底部(1/2周弱)	単軸絡1A(R) タテ→底部ナデ/底面:ミガキ	ナデ		
68	第4A~C号炉跡に伴う?・床下Ⅲ層	底部(1/4周弱)	多軸絡(?) タテ→底部~底面ナデ	ナデ丁寧	繊維・外二次焼成	
69	第4A~C号炉跡・床?下Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:単軸絡6Aヨコ/頸:LR側圧/胴:結束1種(RL,LR)ヨコ	ナデ	繊維・外スス、摩耗	
70	第4A~C号炉跡・床面付近 クリーニング	深鉢・胴部	単軸絡1Aタテ	ナデ	繊維・外スス、やや摩耗	

第110図 縄文土器(8)



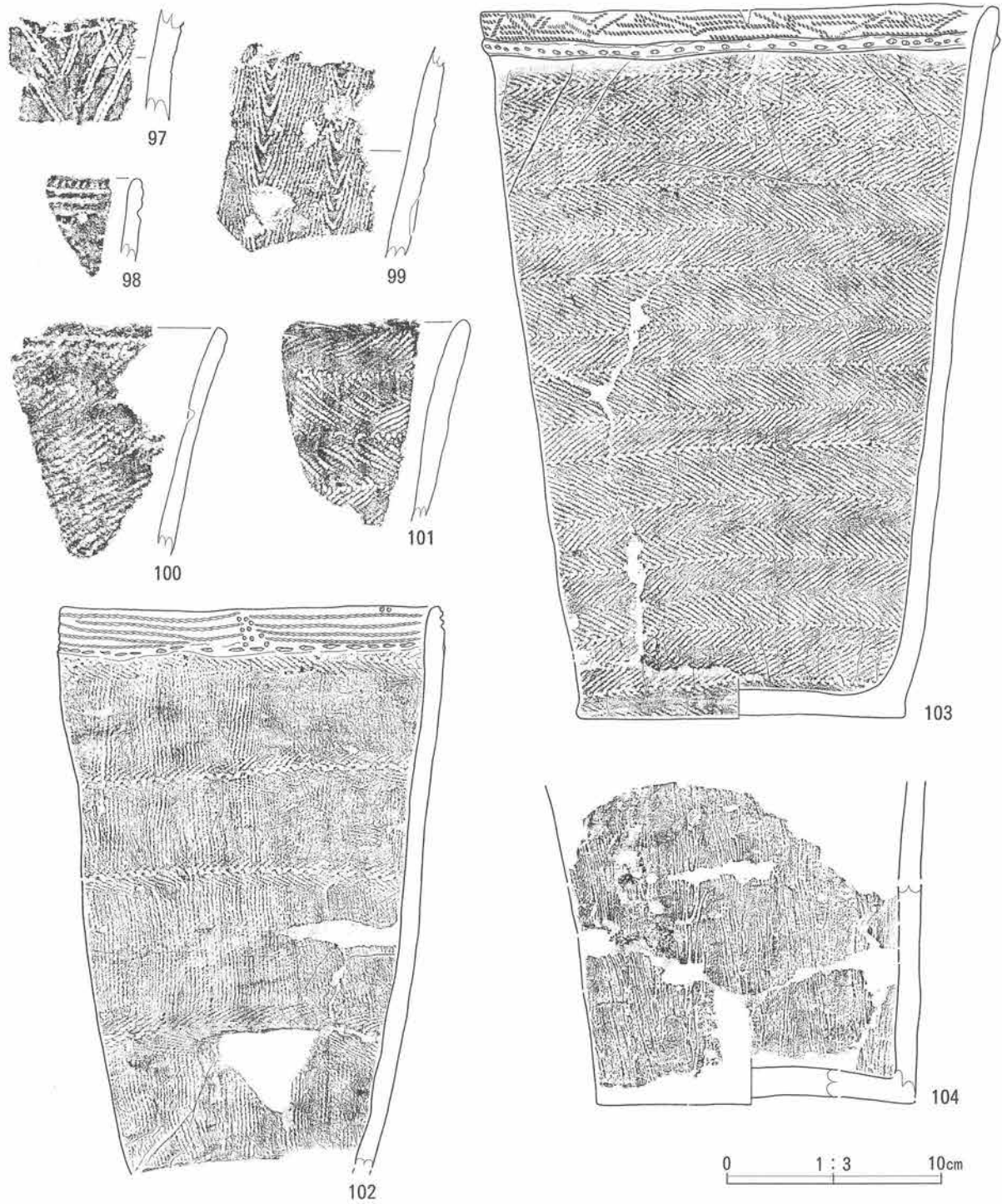
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載	
71	第5A号炉跡	底部(一周)	LRヨコ→底部ナデ(光沢) / 底面:ナデ(丁寧)	ミガキ?	内外面スス付着	p.202	
72	第5B号炉跡	胴部(一周)	施文胴→口//口:LR側圧 / 胴:結束1種(LR, RL)ヨコ	ナデ	外一部摩耗・内口摩耗		
73	第5C号炉跡	炉体土器	深鉢・口縁部	LR側圧	摩耗		
74	第5C号炉跡	炉体土器	胴部(一周)	口LRヨコ→LR?側圧 / 頸:突起上にLR側圧 / 胴:LRヨコ→結節Lタテ	ミガキ	胎土繊維・内外面スス	p.202
75	第5号住居跡	柱穴1	深鉢・口縁部	L側圧	ナデ	口唇摩耗・外スス	
76	第5号住居跡	柱穴3	深鉢・胴部	単軸絡1Aタテ	ナデ	外スス、内面黒色	
77	第5A号炉跡		深鉢・胴部	RLにRを左巻き(附加条)ヨコ	ナデ	内面整形痕明瞭	
78	第5号炉跡	炉跡周辺クリーニング	深鉢・胴部	LR?+結節Rタテ	ナデ		

第111図 縄文土器(9)



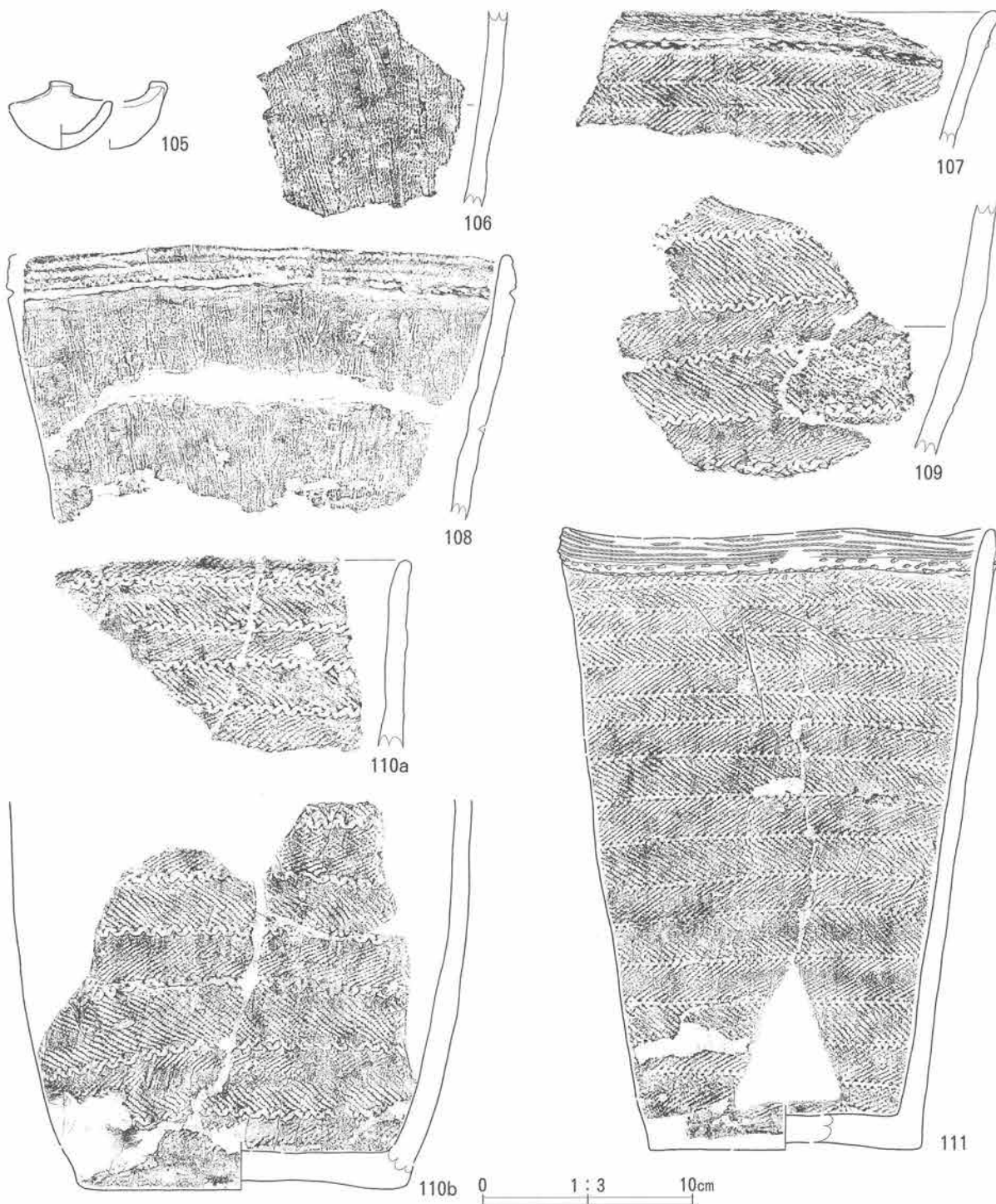
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
79	第6号炉跡 横(図面あり)・IV層上面	底部(一周)	底部:LR+結節Rヨコ/底面:ナデ	ただれ		
80	第6号炉跡に伴う?柱穴2・6層	深鉢・頸部	頸:低い幅広隆帯に押圧/胴:斜縄文・結節Lタテ(*外黒く、摩耗)	摩耗	繊維・81と同一個体?	
81	第6号炉跡に伴う?柱穴2・6層	深鉢・頸部	口:L側圧/頸:低い隆帯に押圧/胴:斜縄文・結節タテ(*外白く、摩耗)	摩耗	繊維・80と同一個体?	
82	第6号炉跡に伴う?柱穴追加(No.3?) 半裁時	深鉢・口縁部	口:結節(R)ヨコ/頸:低め隆帯に押圧	黒こげ	胎土繊維混入	
83	第7号炉跡に伴う?柱穴2	深鉢・口縁部	LRヨコ	ナデ		
84	第7号炉跡に伴う?柱穴4 半裁時	深鉢・口縁部	波頂部口唇:LR側圧/口:L側圧	摩耗	外面摩耗	
85	第7号炉跡に伴う?柱穴11・上部カクラン?	深鉢・口縁部	LR側圧/胴:LRヨコ (*補修孔→内面その下に未貫通孔・外スス)	ナデ	繊維・内摩耗、スス	
86	第7号炉跡に伴う?柱穴11・上部カクラン?	深鉢・口縁部	口~頸:RLナメ・隆帯に沿ってナデ・高め隆帯上LR側圧/胴:RLヨコ、ナメ	ナデ	吹きこぼれ	
87	第1号住居状遺構・2層	深鉢・胴部	LL?ヨコ	ナデ	内面スス付着	
88	第1号住居状遺構・2層	深鉢・胴部	LR+結節Rヨコ	ナデ	胎土繊維多い	
89	第1号住居状遺構・4層	深鉢・胴部	結節(R)ヨコ? *90と同一個体?	ナデ	胎土繊維・外スス	
90	第1号住居状遺構・4層	深鉢・胴部	LR+結節Rナメ? *89と同一個体?、91と同一個体	剥落	胎土繊維、金雲母・外スス	
91	第1号住居状遺構・4層	深鉢・胴部	*90と同一個体	剥落	胎土繊維、金雲母・外スス	
92	第1号住居状遺構 半裁時	深鉢・胴部	単軸絡1A(R)タテ?	ナデ		
93	第1号住居状遺構 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧?、突起下深く円い刺突列	ナデ		
94	第1号住居状遺構 半裁時	底部(1/4周弱)	LRタテ、ナメ/底面:ナデ	ナデ	胎土繊維	
95	第1号住居状遺構 半裁時	深鉢・胴部	単軸絡1A(R、L)タテ?	ナデ	胎土繊維、金雲母	
96	第1号土坑	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:深い横から刺突・結節ヨコ/胴:結節ヨコ・結節Rヨコ	ナデ	繊維・外全面スス	p.202

第112図 縄文土器(10)



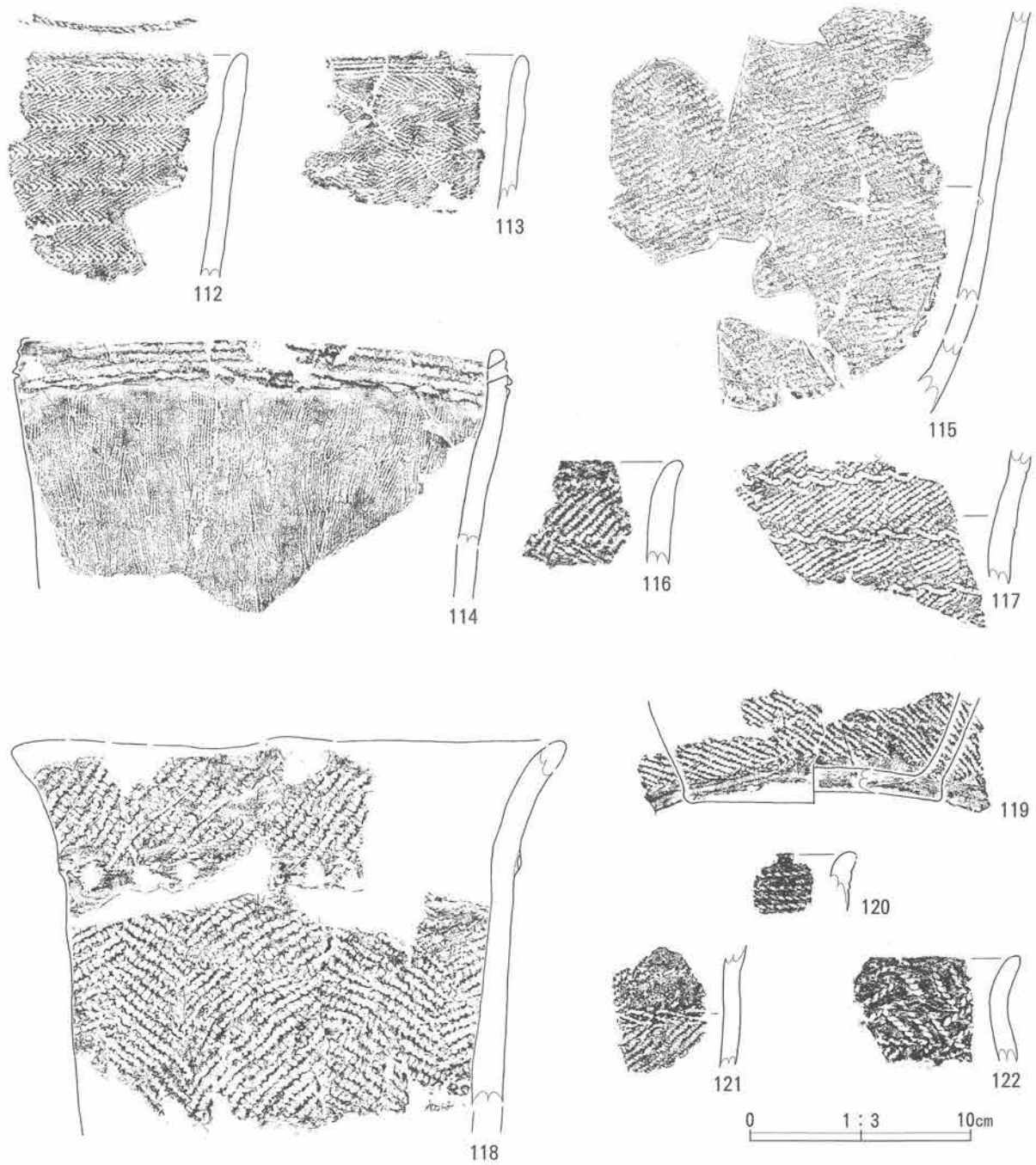
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
97	第1号土坑	深鉢・胴部	単軸絡1A (L, R) タテ	ナデ	内面お焦げ	
98	第2号土坑	深鉢・口縁部	側圧?、内外灰色摩耗で、全く不明。	ナデ?		
99	第2号土坑	深鉢・口縁部	単軸絡1A (R, L) タテ	ナデ	胎土繊維・外スス	
100	第2号土坑・1層	深鉢・口縁部	口: LR? 側圧/胴: LRヨコ?	摩耗	繊維・内外摩耗	p.203
101	第2号土坑	深鉢・口縁部	結束1種 (LR, RL) ヨコ逆位交互に (一部口唇部まで)	ミガキ?	繊維多・内下スス	
102	第3号土坑・14~16層	深鉢 (上半のみ一周)	口: L側圧、刺突/頸: 隆帯上に細い刺突列/胴: 結束第2種ヨコ→単軸絡1タテ	ミガキ?	外面上スス付着	p.203
103	第3号土坑・15~16層	深鉢 (一部欠損)	口唇: LRヨコ/口: LR側圧/頸: 隆帯上に横から刺突列/胴: 結束1種 (RL, LR) ヨコ逆交互	ミガキ	胎土繊維・外面たれ、スス	p.203
104	第3号土坑・15~16層	底部 (3/4周弱)	胴: 単軸絡1A (L) タテ/底面: ミガキ	ミガキ	外面底二次焼成	p.203

第113図 縄文土器(11)



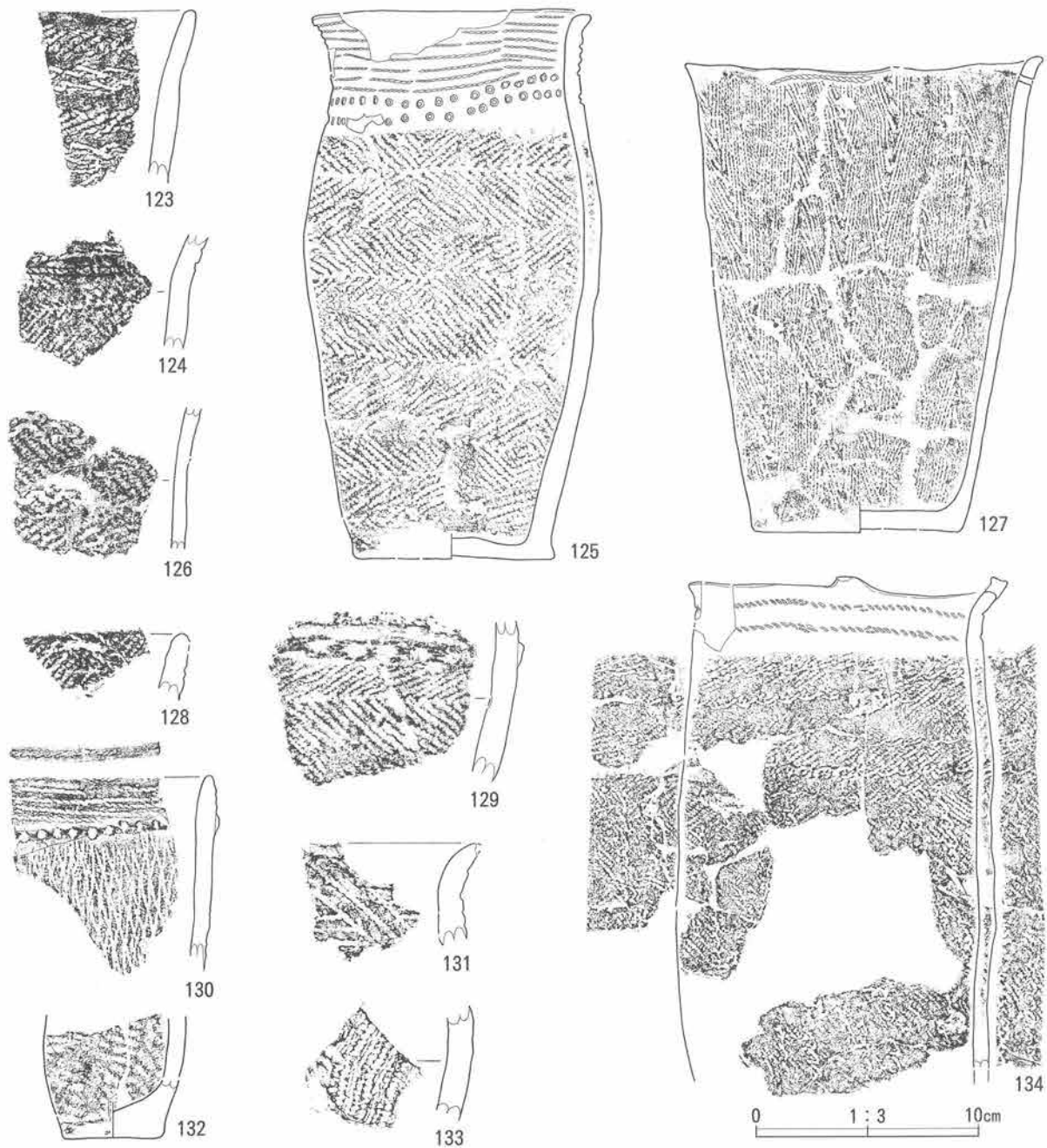
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾・地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
105	第3号土坑・15~16層直土	小形 (完形)	突起1単位/手づくね	指などで		
106	第3号土坑・15~16層より下	深鉢・胴部	単軸絡1A (L) タテ	ナデ	繊維・内外スス付着	
107	第3号土坑・16層	口縁部 (1/5周)	口: LR側圧・結節Rヨコ/頸: 低隆帯上横から刺突/胴: 結束ヨコ→結節Rタテ	ミガキ	繊維多・外スス、一部摩耗	p.203
108	第3号土坑・16層	深鉢 (1/4周弱)	口: 単軸絡5 (L) 側圧/頸: 深い刺突/胴: 単軸絡1A (L) タテ	ミガキ?	繊維・外スス・内外摩耗	
109	第3号土坑・16層	深鉢・胴部	結束2種 (LR, RL) ヨコ (*110と同一個体?)	ナデ	繊維・内摩耗	
110a	第3号土坑・南東壁際底から20cm (16層)	深鉢・口縁部	結束2種 (LR, RL) ヨコ (*A, B同一個体)	ナデ	繊維・外スス・109と同?	
110b	第3号土坑・15~16層	底部 (底のろ一周)	胴: 結束2種 (LR, RL) ヨコ/底: ナデ/底面: ナデ (丁寧)	ナデ	内面底ただれ	p.203
111	第3号土坑・南西壁際底から20cm	深鉢 (底欠)	口: R側圧/頸: 隆帯上、下に刺突列/胴: 結束第1種 (LR, RL) ヨコ交互/底面: ミガキ	ミガキ	外面上スス付着	p.203

第114図 縄文土器(12)



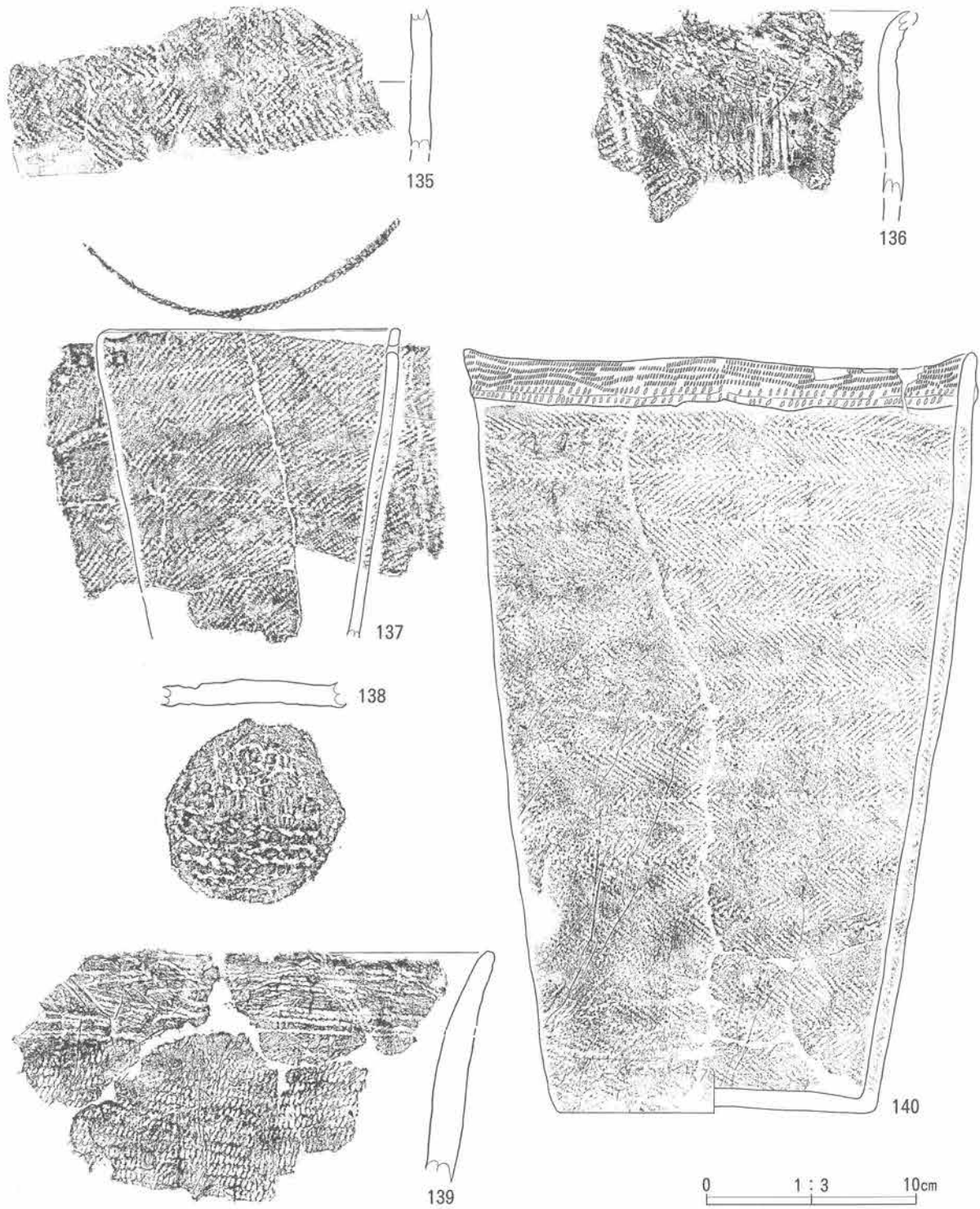
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
112	第3号土坑・南西壁際底から20cm	深鉢・口縁部	口唇:RLヨコ?(口縁部の続き?) / 口~胴:結束1種(RL, LR)ヨコ	ナデ雑	繊維・外スス	
113	第3号土坑・検出面	深鉢・口縁部	口:R側圧/胴:結束1種(RL, LR)ヨコ	ナデ	繊維・外スス	
114	第3号土坑・検出面	深鉢(口1/4周)	口:単軸路5(R)押圧/頸:隆帯上に深い刺突/胴:単軸路1A(L)タテ	ミガキ	繊維・補修孔・外スス	
115	第3号土坑	胴部(1/3周弱)	LRヨコ	ナデ	内面底スス付着	
116	第4号土坑・7層	深鉢・口縁部	結束1種(LR, RL)ヨコ	摩耗	繊維・内外摩耗	
117	第4号土坑・1層相当層?	深鉢・胴部	LRヨコ→結節Rヨコ	ナデ	繊維・外スス	
118	第4号土坑 半裁時、2D③	深鉢・口縁部	頸隆帯→口~胴LRヨコ、タテ→頸部押圧列→ナデ	ナデ	胎土石含む	p.203
119	第5号土坑・5層	底部(1/4周)	RLヨコ→底部ナデ/底面:ミガキ?	ナデ	繊維・外や摩耗	
120	第5号土坑・8層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
121	第5号土坑・11層	深鉢・頸部	LR(0段多条?)ヨコ→結節Rヨコ	ナデ	繊維・内面黒	
122	第5号土坑・13層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	胎土繊維混入	

第115図 縄文土器(13)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
123	第5号土坑・10~13相当層	深鉢・口縁部	LRヨコ?→結節Rヨコ	ナデ	繊維・吹きこぼれ	
124	第5号土坑・10~13相当層	深鉢・頸部	頸:無文部にL、R側圧/胴:結束1種(RL、LR)ヨコ	ナデ	繊維多・外スス、摩耗	
125	第5号土坑・4、7相当層、半裁時	鉢(欠損)	口:R側圧/頸:竹管状工具による刺突列/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ	底面:ガキ・外面スス	p.203
126	第5号土坑	深鉢・胴部	RL、LR?ヨコ→結節Rヨコ	摩耗	繊維多・外摩耗、内スス	
127	第5号土坑	鉢(一部欠損)	口~胴:単軸絡1A(R、L)タテ/底面:ナデ	ナデ	外上スス、下二次焼成	p.203
128	第6号土坑・1層	深鉢・口縁部	LRヨコ→L?側圧	ナデ?	繊維・外剥落	
129	第8号土坑・底面直上(10cm)	深鉢・頸部	頸:低い隆帯に押圧・上隆帯に沿ってL側圧/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	剥落	黒こげで脆い・外スス	
130	第8号土坑	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ?/口:L側圧/頸:高め隆帯に押圧(側圧?)/胴:単軸絡5(R)タテ	摩耗	繊維・外面全面スス	
131	第8号土坑	深鉢・口縁部	L側圧	ナデ	黒こげで脆い	
132	第9号土坑	底部(底のみ一周)	胴:LRタテ/底面:ミガキ	ナデ	胎土繊維・スス・小砂?	
133	第10号土坑 南側半裁時	深鉢・胴部	RLにLを左巻き(附加条)ヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	
134	第11号土坑・No.1~2土器(3層上面、2、7層)	鉢(4/5周以下)	突起2単位(上押圧)/口:L側圧(一周しない)/口~胴:LR+結節Rヨコ、タテ	ただれ		p.203

第116図 縄文土器(14)



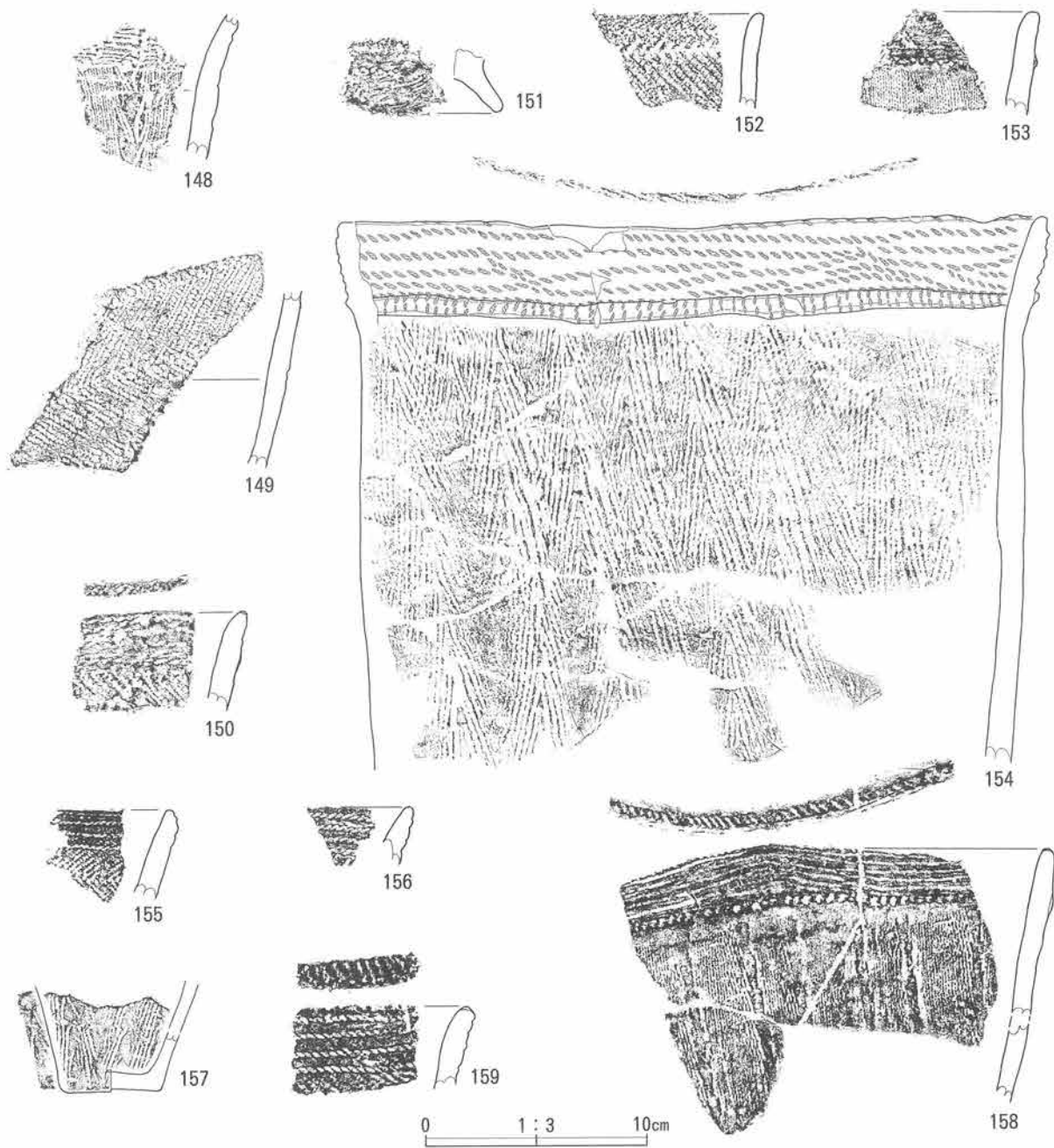
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
135	第11号土坑・6層、7層(6層2/5、7層3/5)	深鉢・胴部	結束1種(RL、LR)ヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
136	第11号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	RLヨコ?→整形痕(ナデタテ)→口縁LR側圧、胴部LRヨコ(*整形痕明瞭)	ナデ	繊維・外全面スス	
137	第12号土坑・No1~2土器(9層上面?)、3~4、11層	鉢(3/4周以下)	口唇:L.Rヨコ/口~胴:結束1種(LR、?)?ヨコ重ね施文?	ナデ	胎土繊維・補修孔	p.203
138	第12号土坑・No2土器(9層上面?)	底(一周なし)	底面:網代痕(側圧?)→ナデ	ナデ?	内面スス付着	
139	第12号土坑・No2土器(9層上面?) 第17号土坑	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:多軸絡(?)タテ?	ミガキ?	胎土繊維・外面スス	p.203
140	第12号土坑・No4土器(12層直上)	深鉢(一部欠損)	破損口縁/口:準輪帯(?)押圧/肩:器蓋上にも押圧/腹:若軸絡(LR、RL)ヨコ/底面:ナデ	ナデ	繊維・内外スス	p.203

第117図 縄文土器(15)



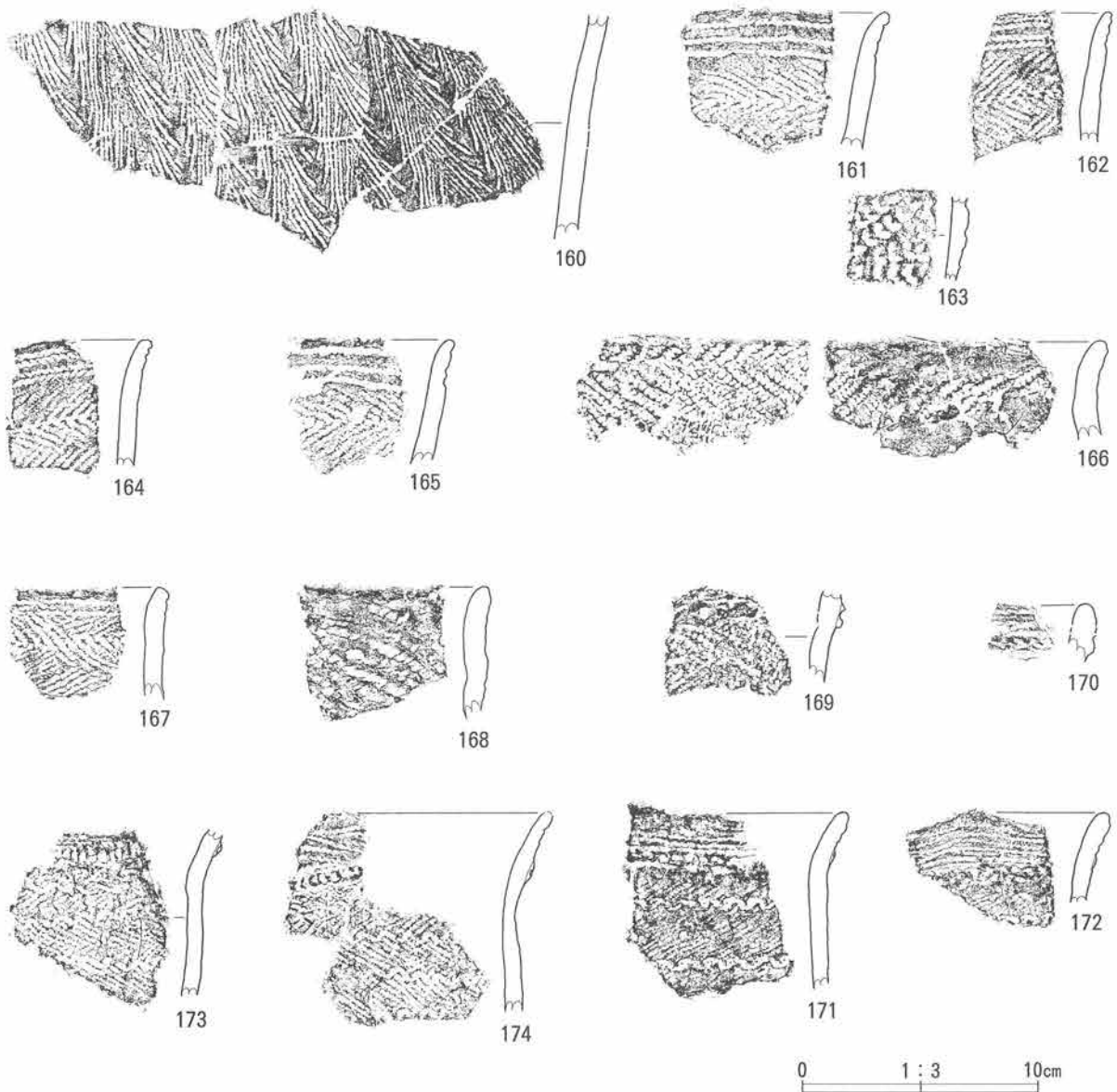
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
141	第12号土坑・8~9層	深鉢・頸部	口:LRタテ?→R側圧/頸:深い押圧/胴:LRタテ?→R側圧?	ナデ	繊維・内外黒	
142	第12号土坑・No.3土器?	深鉢・底部	底面:網代痕 (*凹形だが周囲欠けていて径不明)	ナデ	繊維・内面スス	
143	第13号土坑・18層上面	鉢(L/3周以下)	口唇:RLヨコ/口:L側圧/頸:横からの深い刺突/胴:基束2種(LR、RL)ヨコ	ナデ	内外面スス(内面底多い)	p.203
144	第13号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:RLヨコ?/口:R側圧/頸:低い隆帯上横から刺突/胴:単軸絡1Aタテ	ミガキ	繊維・外やや摩耗	
145	第13号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(L?)側圧/頸:低い隆帯上横から刺突/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ミガキ?	外面スス付着	p.203
146	第14号土坑・4層	深鉢・口縁部	LRヨコ?	ナデ	繊維・吹きこぼれ	
147	第14号土坑・5層~8層	深鉢・口縁部	口:R側圧/胴:LRヨコ	ナデ	繊維・外スス・補修孔	

第118図 縄文土器(16)



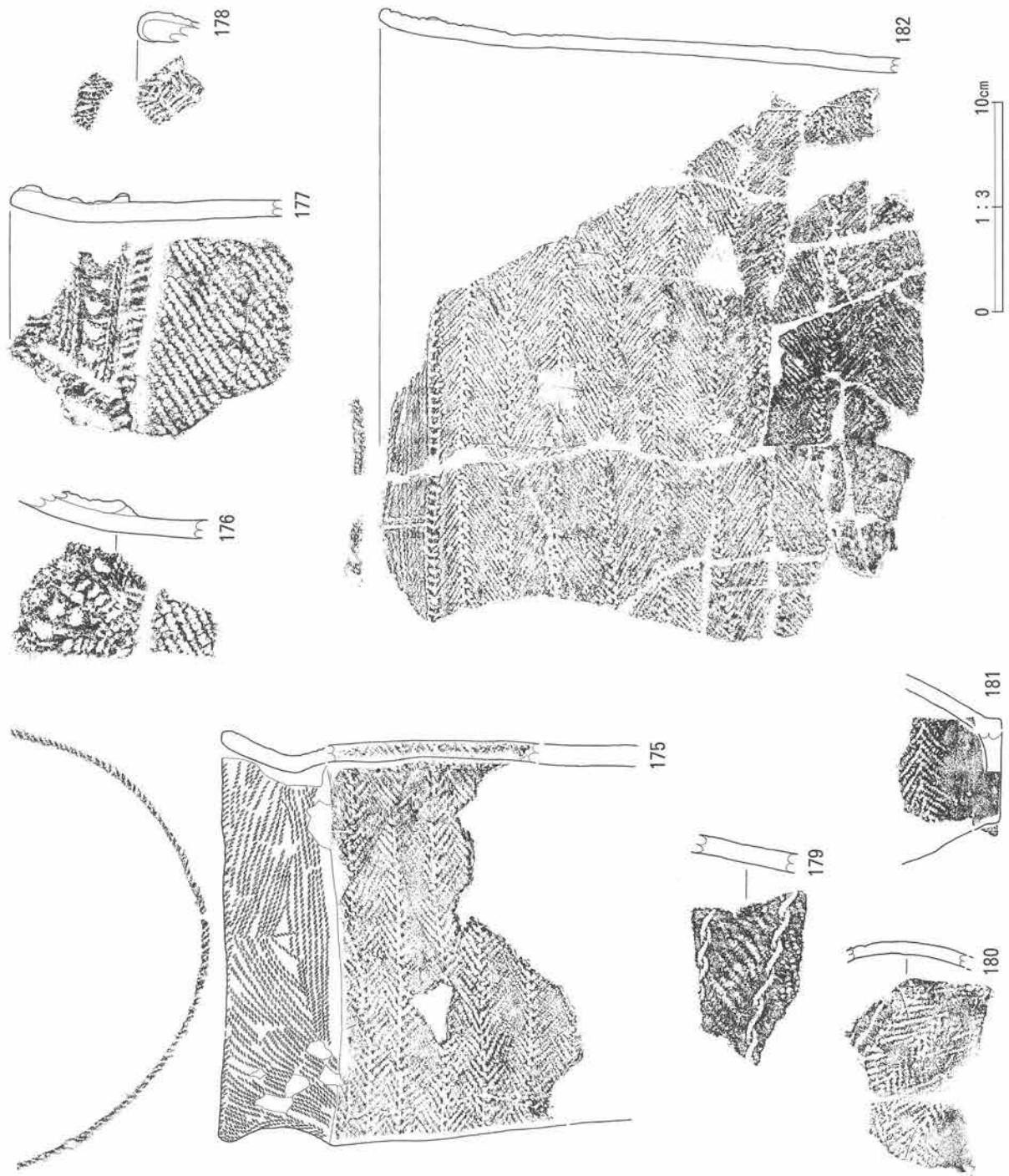
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
148	第14号土坑	深鉢・口縁部	口:単軸絡6A(R)ヨコ/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ミガキ	胎土繊維・外ヤや摩耗	
149	第15号土坑・No1土器(10層?)	深鉢・胴部	結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ光沢	胎土繊維混入	
150	第15号土坑・3層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ?/口:RL側圧/頸:低い隆帯にRL側圧?/胴:RLヨコ	ナデ	繊維・内外焼けはじけ	p.203
151	第15号土坑・5層	台部?(1/4周)	LRヨコ?	ナデ	胎土繊維混入	
152	第15号土坑・7層	深鉢・口縁部	結束1種(LR+R?、RL+L?、附加条)ヨコ	ミガキ	繊維・吹きこぼれ	
153	第15号土坑・10層	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:細く高い隆帯上細く深い刺突/胴:単軸絡1(L)?タテ	ミガキ?	胎土繊維混入	
154	第16号土坑・No1土器(2層上面?)	深鉢(1/4周以下)	口唇:胴部原体ナメ?/口~頸:隆帯上も含めRL側圧/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ミガキ?	繊維・外上スス、中上摩耗	
155	第16号土坑・最上部暗褐色土(11層より上)	深鉢・口縁部	口:R側圧/胴:結束1種(LR、RL)//施文順序胴→口	ナデ	外面スス付着	
156	第16号土坑・2~7層?	深鉢・口縁部	口:RL側圧/頸:低い隆帯に刺突?	ナデ	胎土繊維・外スス	
157	第16号土坑・2~8層?	鉢(一周)	単軸絡1A(R、L)タテ/底面:ナデ	ミガキ?	内外面スス(外ケール状)	
158	第16号土坑・2~8層、9~10層上面?	深鉢・口縁部	波状口縁//口唇~口:L側圧/頸:低め隆帯に刺突?/胴:単軸絡1A(L)タテ	摩耗	繊維・内外摩耗	p.203
159	第16号土坑・9~10層上面?	深鉢・口縁部	口唇~口:LR側圧/胴:RLヨコ	ミガキ	繊維・吹きこぼれ	

第119図 縄文土器(17)



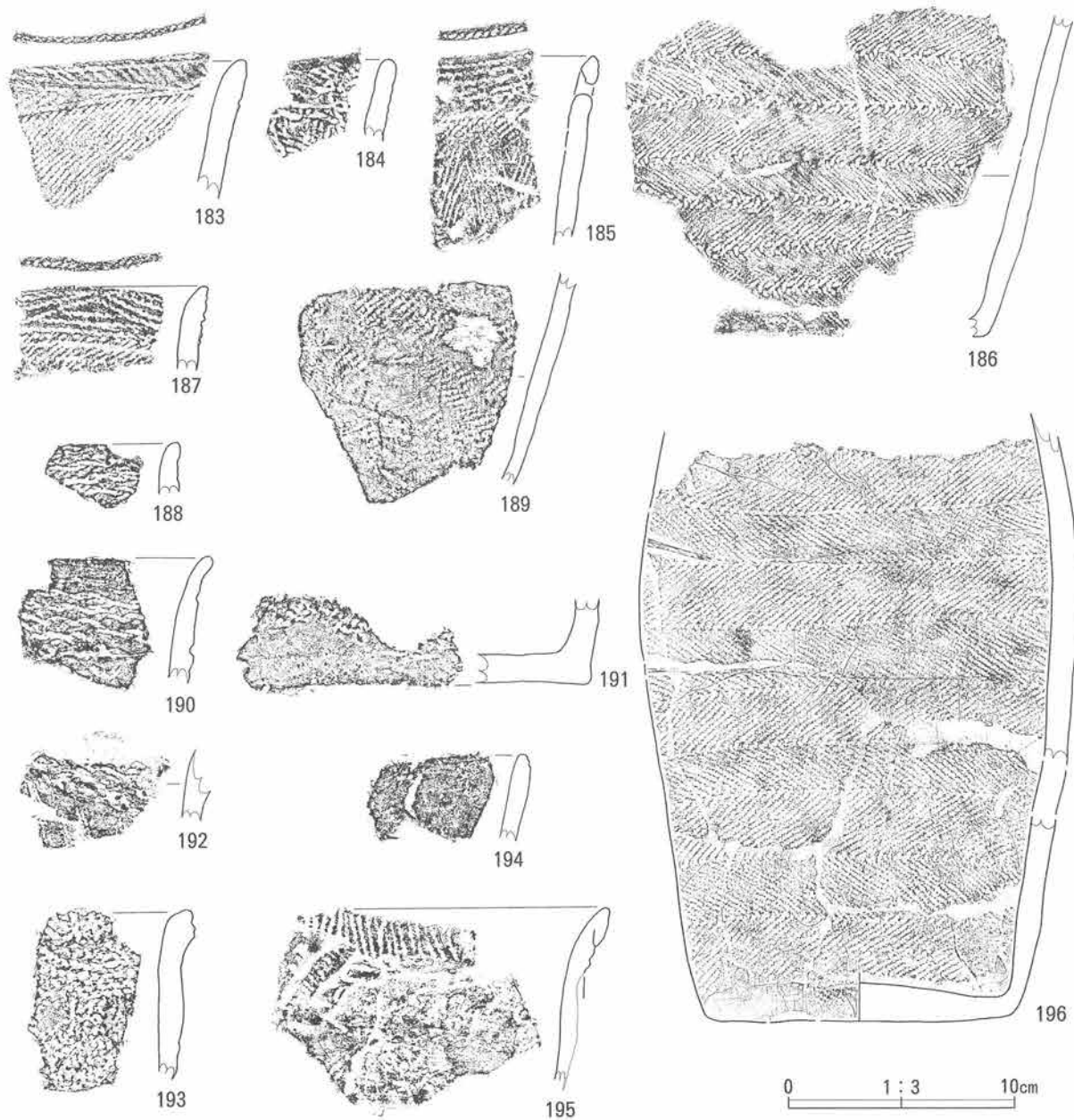
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
160	第16号土坑 半裁時	深鉢・胴部	単軸路1A (L, R) タテ	ミガキ	胎土繊維混入	
161	第17号土坑・5層	深鉢・口縁部	口: R側圧/胴: 結束1種 (RL, LR) ヨコ	ナデ	内外全面スス・165と同一	
162	第17号土坑・7層	深鉢・口縁部	口: L, R側圧/胴: 結束1種 (LR, RL) ヨコ	ナデ	外全面スス・161と同一?	
163	第17号土坑・8層	深鉢?・胴部?	馬蹄形側圧 (R) ??・隆帯?剥落	ナデ	外面スス付着	
164	第17号土坑・8層	深鉢・口縁部	口: L, R側圧/胴: 結束1種 (LR, RL) ヨコ	ナデ	外全面スス・162と同一?	
165	第17号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口: R側圧/胴: 結束1種 (RL, LR) ヨコ	ナデ	161と同一個体	
166	第18号土坑・4層と7層の境(断面含む)	深鉢・口縁部	口内面: LRヨコ/口: 最上部LRヨコ、その下RLヨコ→櫛歯状工具痕	ナデ	胎土繊維混入	
167	第19号土坑	深鉢・口縁部	口: LR側圧/胴: 結束1 (LR, RL) ヨコ逆位交互に	ナデ	外面スス付着	
168	第19号土坑	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	胎土繊維・外スス	
169	第21号土坑・2層	深鉢・頸部	頸: 隆帯上深め刺突/胴: RLヨコ?	摩耗	胎土繊維混入	
170	第21号土坑・5層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
171	第21号土坑・7~8層	深鉢・口縁部	口: R側圧/頸: 隆帯上横から刺突/胴: LR+結節R?ヨコ	ナデ	172と同一?	p.203
172	第21号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口: R側圧/頸: 高め隆帯上横から深い刺突/胴: 結節ヨコ??	ナデ	外スス・171と同一?	
173	第21号土坑 半裁時	深鉢・頸部	口: L側圧/頸: 低隆帯上C字形刺突/胴: 結束1種 (LR, RL) →結節Rヨコ	ただれ	胎土繊維・174と同一	
174	第21号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口: L側圧/頸: 低隆帯上C字形刺突/胴: 結束1種 (LR, RL) →結節Rヨコ	ただれ	173と同一個体	

第120図 縄文土器(18)



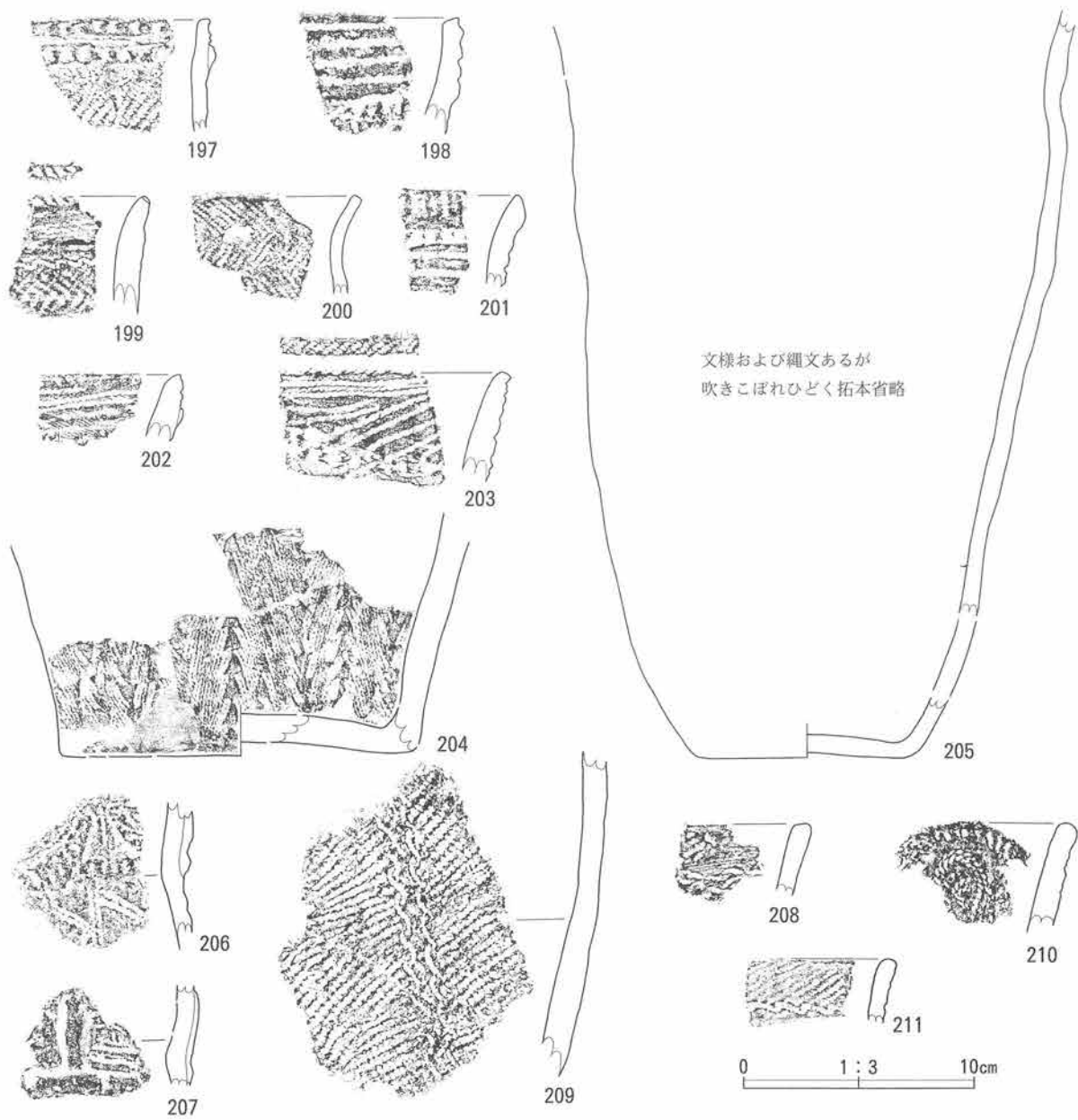
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
175	第22号土坑・3層、9層上面	深鉢(2/3周弱)	口唇~頸:L側圧/結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	p.203
176	第22号土坑・9層	深鉢・口縁部	口:高い隆帯上L側圧?・馬蹄状押圧(LR?) / 胴:LRヨコ	ナデ	吹きこぼれ・177と同一?	
177	第22号土坑・9層	深鉢・口縁部	口:高い隆帯上L側圧?・R、L側圧、馬蹄状押圧(LR?) / 胴:LRヨコ	ナデ	吹きこぼれ・176と同一?	
178	第22号土坑・10層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ		
179	第22号土坑・13層	深鉢・胴部	LR+結節Rヨコ	ナデ	外面摩耗	
180	第22号土坑(一部第23号土坑含む) 半截時	小型鉢?	口:R側圧/胴:結束1種(RL+結節R?、LR)ヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
181	第22号土坑(一部第23号土坑含む) 半截時	底部(1/2周以下)	結束1種(RL、LR)ヨコ→底部~底面ナデ?	ナデ	繊維・内面スス	
182	第23号土坑・No1土器(10層)	深鉢(1/4周弱)	口:L側圧/頸:低い隆帯上に半截竹管状工具による押し刺突/胴:結束1種(RL、LR)逆位交互ヨコ	ミガキ	繊維・二次焼成摩耗	

第121図 縄文土器(19)



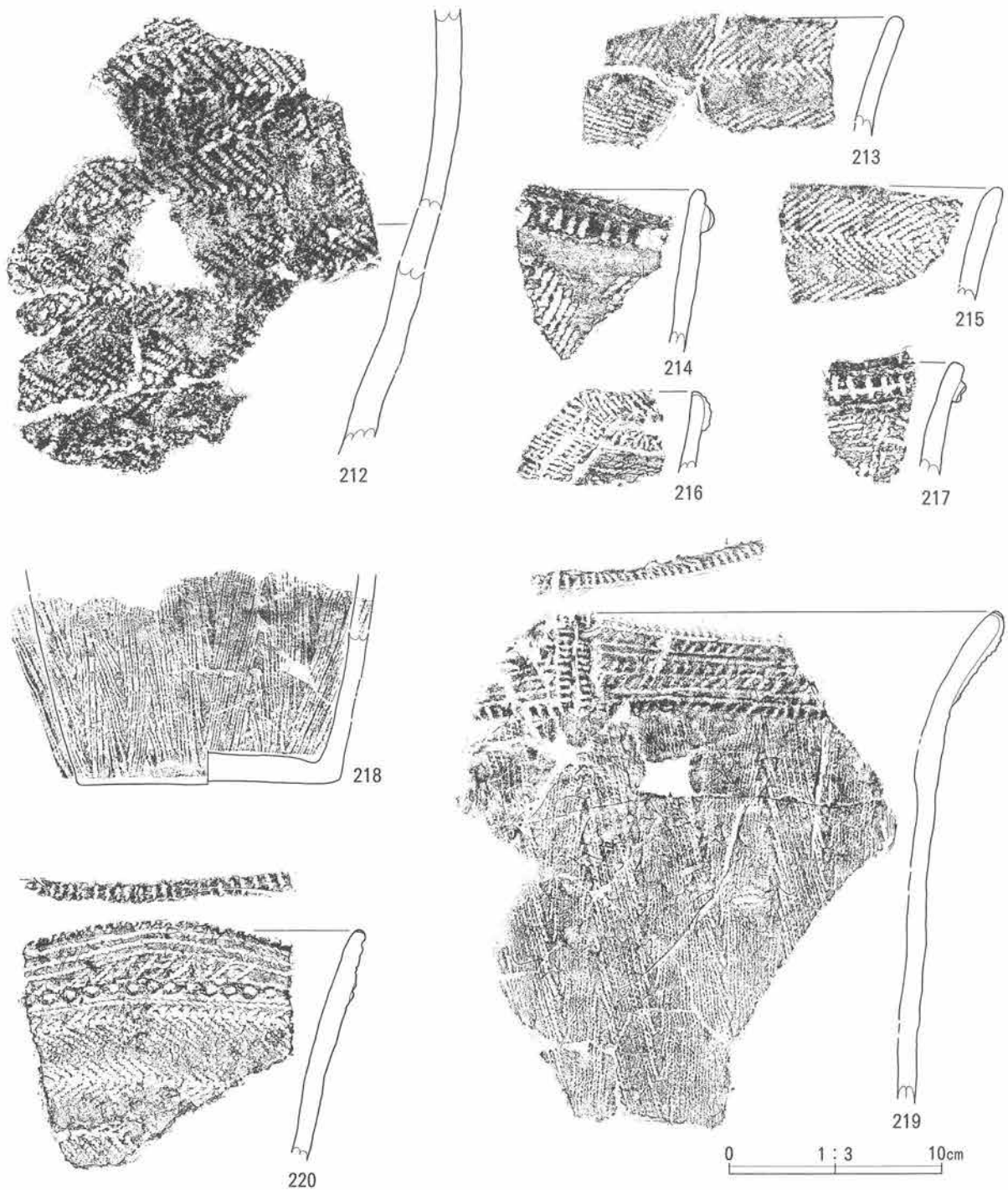
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文 記載
183	第23号土坑・5層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:LR側圧/胴:LRヨコ//口、胴→頸水平方向側圧	ナデ	繊維・外全面スス	p.203
184	第23号土坑・7層	深鉢・口縁部	Rヨコ?・結節(1?)ヨコ	ただれ	胎土繊維・外スス	
185	第23号土坑・9層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:LR?側圧/頸:低い隆帯上刺突/胴:単軸略1Aタテ	ナデ	繊維・内面スス	p.203
186	第23号土坑・10層	深鉢・底部	結束1種(LR、RL)ヨコ逆位交互に→底部~底面ナデ	ミガキ		
187	第23号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:LR側圧/頸:低隆帯上横から深い刺突/胴:LRヨコ	ナデ	繊維・外やや摩耗	
188	第24号土坑・5層	深鉢・口縁部	結節(R)ヨコ *190と同一個体?	ナデ	胎土繊維・外スス	
189	第24号土坑・9層	深鉢・胴部	LRヨコ、ナナメ	ナデ	外上、内下スス	
190	第24号土坑・9層	深鉢・口縁部	口:結節(R)ヨコ/頸:低い隆帯に太い竹管状刺突 *190と同一、188とも?	ナデ	胎土繊維・外スス	
191	第24号土坑・9層	底部(1/4周以下)	胴:斜縄文(原体不明)/底部~底面:ナデ	ナデ	繊維・内面スス、摩耗	
192	第24号土坑・10層	深鉢・頸部			*190と同一個体	
193	第24号土坑・13層相当層?	深鉢・口縁部	口縁隆帯状//口:LR側圧/胴:原体不明(結節ヨコ?)	ナデ?	胎土繊維・内面摩耗	
194	第24号土坑・14層	口縁部(1/4周弱)	(ナデ)	ナデ光沢	胎土繊維・外スス	
195	第25号土坑・9層下面~17層上面	深鉢・口縁部	R側圧(隆帯上も) (*剥落著しい)	ナデ	胎土繊維混入	
196	第25号土坑・8層下面~15層上面、第36号土坑?	底部(一部欠損)	結束第1種(LR、RL)ヨコ交互に→底部ナデ/底面:ミガキ	ミガキ?	内外面スス付着	p.203

第122図 縄文土器(20)



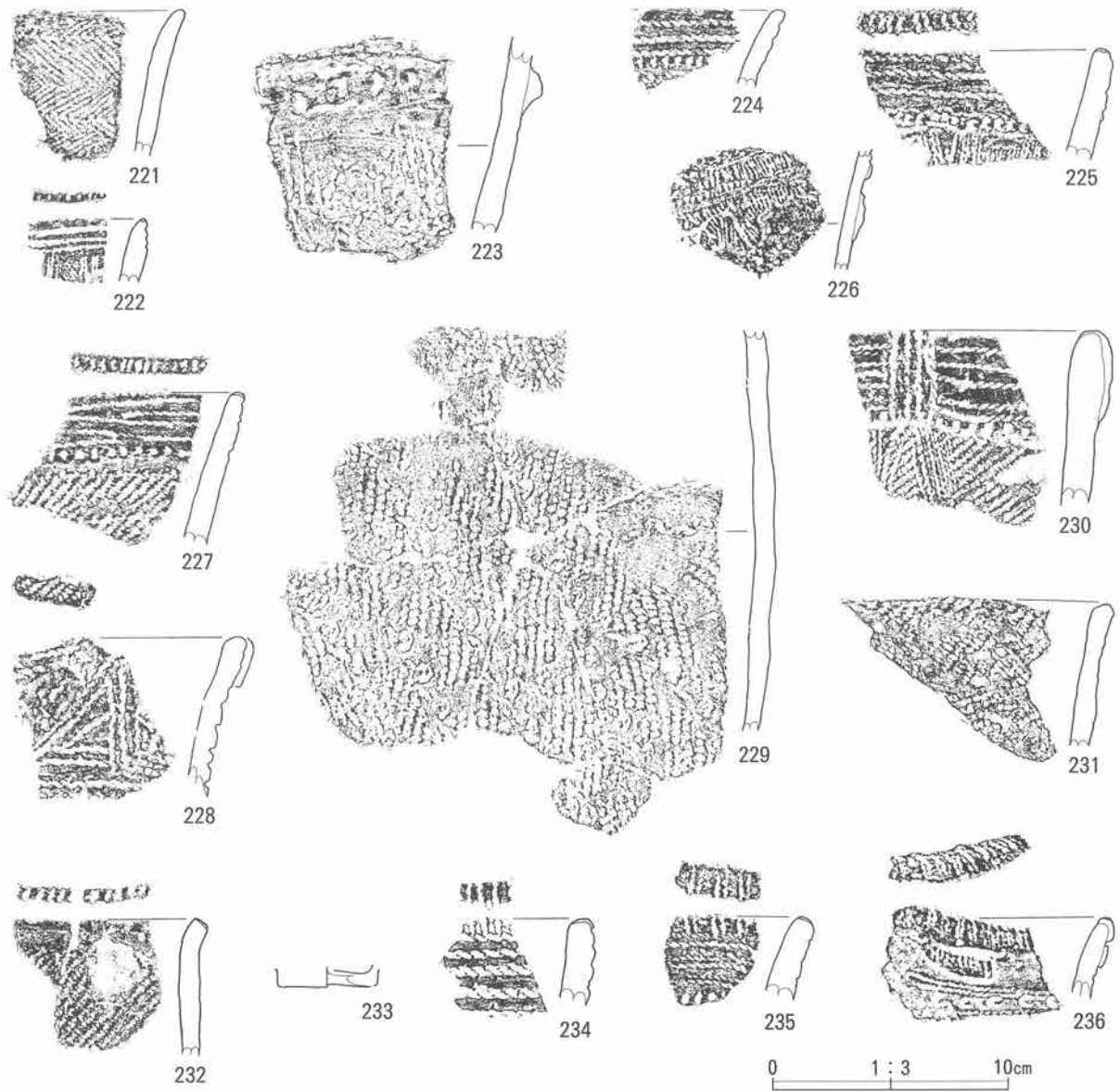
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾・地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
197	第25号土坑	深鉢・口縁部	口～頸: RL側圧 (低めの隆帯上にもC字形側圧) / 胴: LRヨコ	ナデ	吹きこぼれ	
198	第25号土坑	深鉢・口縁部	L側圧 (*外面ただれ、胴部剥落)	ナデ	繊維・内面スス	
199	第25号土坑	深鉢・口縁部	口唇～口: LR側圧 / 頸: 低い隆帯? / 胴: LR+結節 (R) ヨコ	ミガキ	外面摩耗	
200	第25号土坑	深鉢・口縁部	LR, RLヨコ	ナデ	外面スス、内面黒	
201	第25号土坑	深鉢・口縁部	単軸絡1 (?) 側圧・側圧 (原体不明)	ミガキ?	吹きこぼれ	
202	第25号土坑	深鉢・口縁部	口: R側圧 / 頸: 低め隆帯に横からの刺突 / 胴: Rヨコ?	ミガキ		
203	第25号土坑	深鉢・口縁部	口唇: LRヨコ / 口: R側圧 / 頸: 刺突 (側圧?) 列	ミガキ	繊維・内面スス	
204	第25号土坑およびその周囲検出面 (IV層上面)	底鉢 (2/3周弱)	胴: 単軸絡1A (R, L) タテ / 底面: ミガキ	ミガキ	内面底ただれ	
205	第26号土坑・Na1 (15層?)	深鉢 (口欠損)	一箇所胴部縄文、ケズリ→底面～底面ナデ	指なで	吹きこぼれ・内お魚げ	p.204
206	第26号土坑・3層	深鉢・口縁部	L?側圧 (隆帯上も?) (*隆帯上摩耗ひどく、下吹きこぼれで不明)	ナデ	吹きこぼれ・内スス	
207	第26号土坑・5～6層	深鉢・口縁部		剥落		
208	第26号土坑・7層	深鉢・口縁部	LRヨコ?・結節Rヨコ	ナデ		
209	第26号土坑・10層上面?	深鉢・胴部	LRヨコ、ナナメ→結節L?タテ (*外面スス付着)	ナデ	繊維・内焼けはじけ	
210	第26号土坑・11層	深鉢・口縁部	R側圧	ミガキ	外面スス、摩耗	
211	第26号土坑・11層 (断面図にあり)	深鉢・口縁部	口唇: 強いナデ / 口: LRヨコ→結節Rヨコ	ナデ	外面スス付着	

第123図 縄文土器(21)



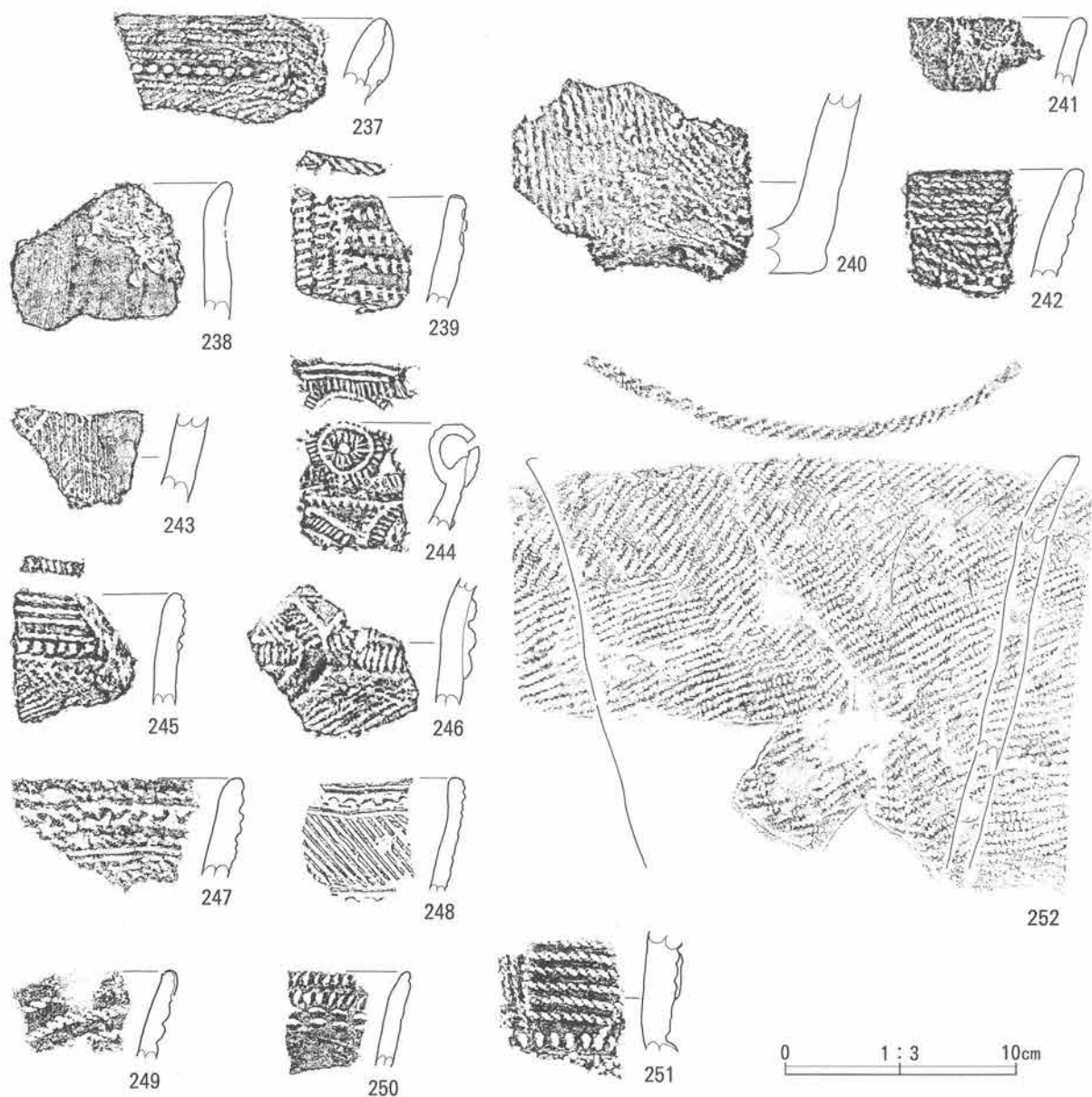
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
212	第26号土坑・11層(断面図にあり)	深鉢・胴部	結束1種(RL+結節L?、LR)ヨコ	ミガキ?	繊維・外を焦げ、二次焼成	
213	第26号土坑・12=14層?	深鉢・胴部	結束1種(LR、RL)ヨコ	摩耗	外スス・内外摩耗	
214	第26号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:上部LR水平方向側圧・中部高い隆帯上LR側圧・下部無文/胴:R?タテ	ナデ	外隆帯下スス付着	
215	第26号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	結束1種(RL、LR)ヨコ (*外全面スス付着)	摩耗	内面焼けはじけ	
216	第26号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	隆帯上L?側圧・隆帯下、R側圧、馬蹄状押圧(R?)?	ナデ	胎土石・外面スス	
217	第26号土坑	深鉢・口縁部	隆帯に沿ってLR側圧・高い隆帯にLR側圧/胴:R+ナメ?	ナデ	繊維・吹きこぼれ	
218	第27号土坑・No.1土器(4層上面)	底部(一周)	胴:単軸絡1A(R)タテ/底面:ミガキ?	ミガキ	胎土繊維・内面黒	
219	第27号土坑・No.2土器(7層)	深鉢	口唇:R側圧/口:R側圧(隆帯上も)/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ミガキ	胎土繊維・外面スス	
220	第27号土坑・No.3(7層)	深鉢・口縁部	口唇~頸:LR側圧(隆帯下も)・隆帯上横から側突/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ?	繊維・外全面スス	

第124図 縄文土器(22)



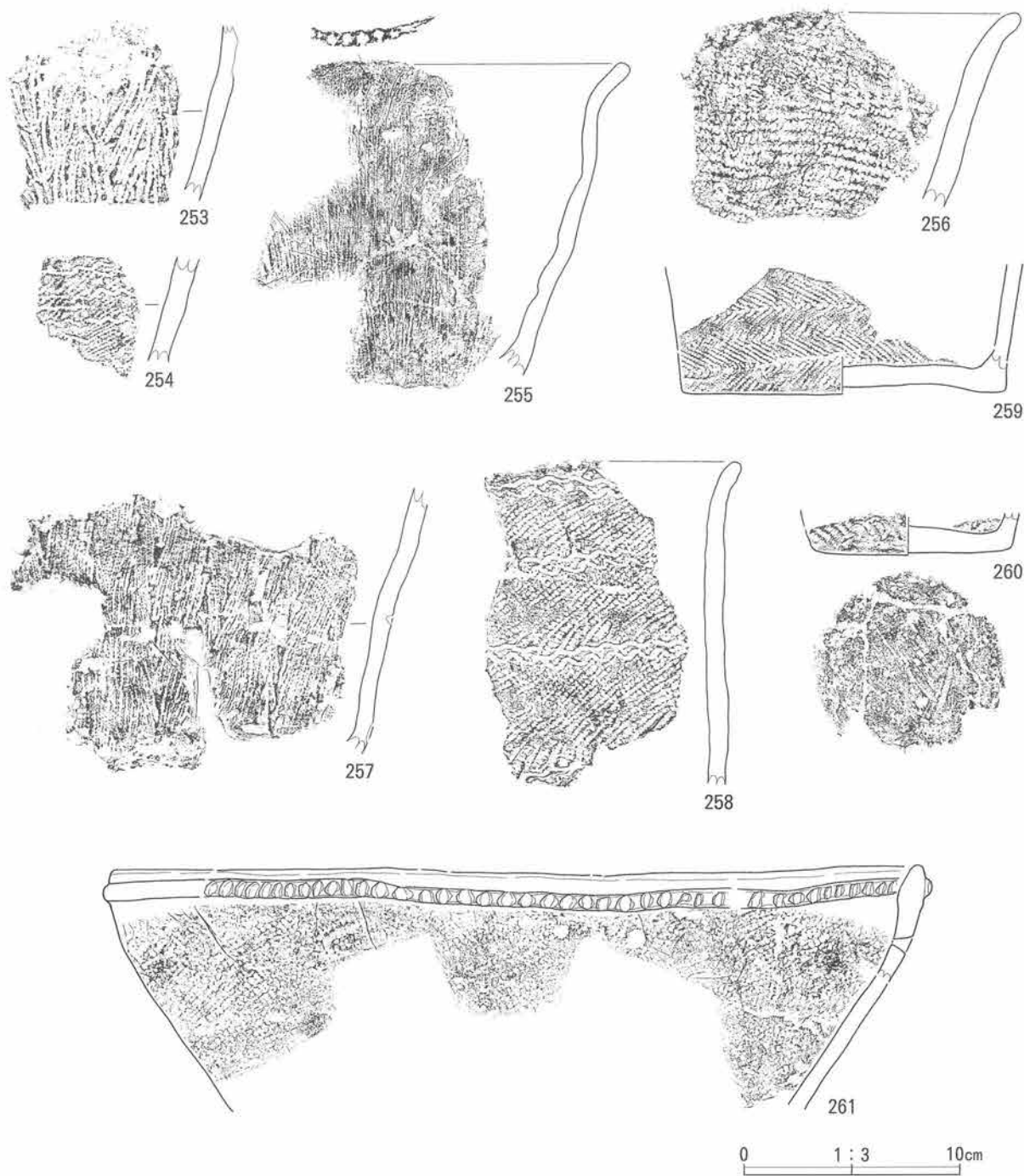
Na	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
221	第27号土坑・4~5相当層	深鉢・胴部	結束1種(LR、RL) ヨコ (*外面スス付着)	ナデ	繊維・内焼けはじけ	
222	第27号土坑・7層	深鉢・口縁部	口唇:刻目/口:L側圧/胴:単軸絡1A(R、L) タテ	ナデ	胎土繊維混入	
223	第27号土坑・7層	深鉢・頸部	頸:高い隆帯にD字形押圧/胴:LRタテ?→縦位の細い押圧?	ナデ	繊維・内外摩耗	
224	第28号土坑・8層	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:LRヨコ	ナデ	外面スス付着	
225	第28号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口:L側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突/胴:単軸絡1Aタテ	ミガキ?	内面焼けはじけ	
226	第28号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	R側圧(隆帯上も)・隆帯に沿って細かい刺突列/胴:Rヨコ?	ナデ	外スス、隆帯剥落	p.204
227	第28号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口:L側圧/頸:刺突(LR側圧?)、下ナデ/胴:LRヨコ		繊維・折り返し口縁	
228	第28号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:Lヨコ/口:L側圧(隆帯上も)	ナデ	胎土繊維混入	
229	第29号土坑・Na1土器(3層上面)	胴部(1/5周以下)	RLRナナメ	ただれ	繊維・内下部お焦げ	
230	第29号土坑・3層	深鉢・口縁部	口唇:突起外LRヨコ/口:R側圧(突起上は口唇まで)/頸:半裁竹管状刻目	ミガキ?	胎土繊維混入	p.204
231	第29号土坑・3層	深鉢・口縁部	LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
232	第29号土坑・4層と6層(接合・6層3/4)	深鉢・口縁部	口唇:R?側圧/口:ナデ/胴:LRヨコ	摩耗	繊維・内外オレンジ色	
233	第29号土坑・4~6層相当層	底部(1/2周弱)	底部~底面:ナデ	ナデ	胎土繊維混入	
234	第29号土坑・7~8層	深鉢・口縁部	口唇:L側圧/口:L側圧	ナデ		
235	第31号土坑・2層	深鉢・口縁部	口唇~口縁:L側圧/頸:刺突列?	摩耗		
236	第31号土坑・2層	深鉢・口縁部	口唇~口縁:R側圧(C字状の押圧も)	ナデ	胎土繊維混入?、外焼けはじけ	

第125図 縄文土器(23)



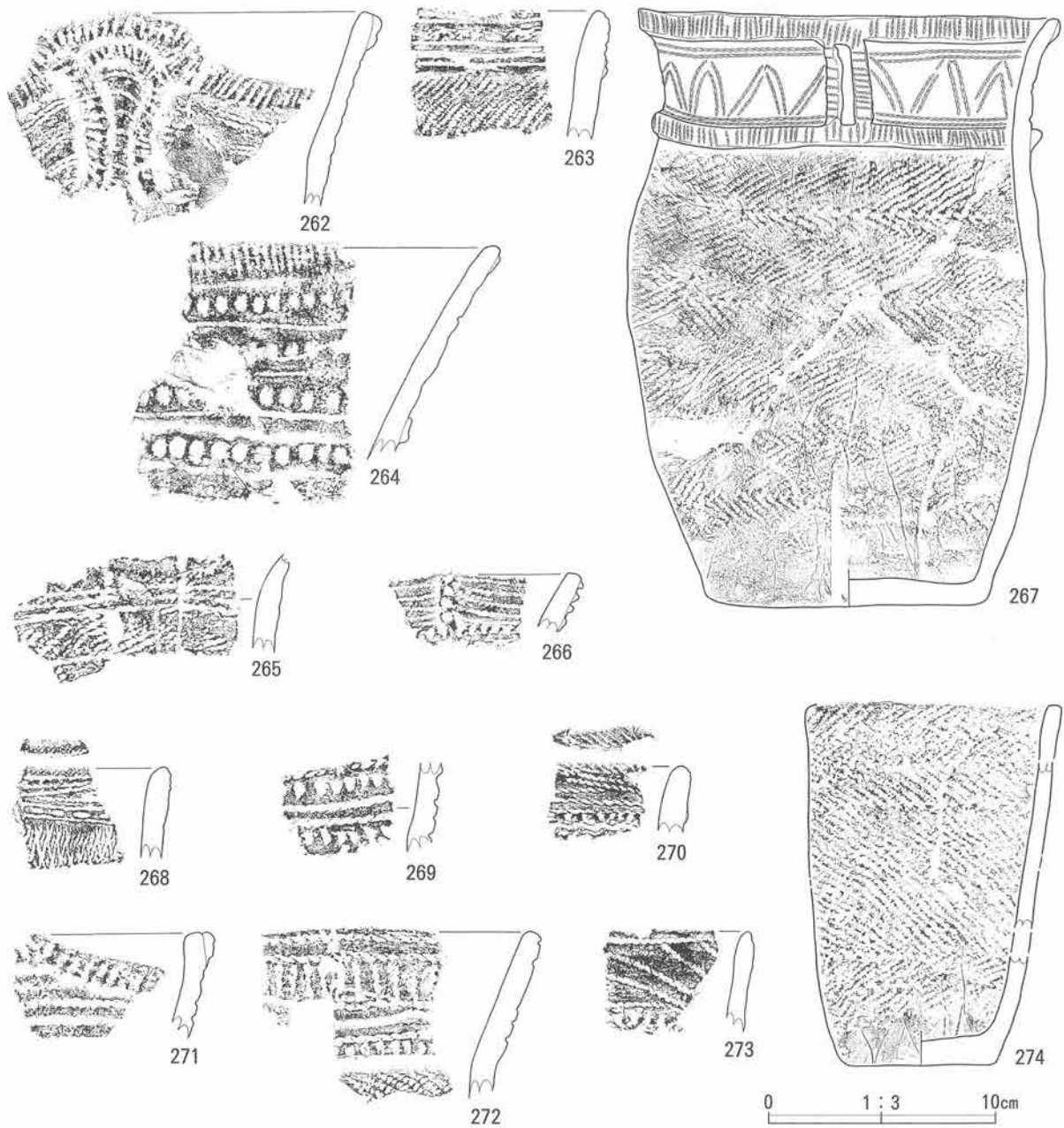
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
237	第31号土坑・4層	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(L?)側圧、底平らな棒状工具による刺突列/胴:RL?タテ	ナデ	胎土繊維混入	
238	第31号土坑・4層	深鉢・口縁部	櫛歯状工具による沈線	ナデ凹凸	胎土繊維多・外スス	
239	第31号土坑・7、8、10層	深鉢・口縁部	口唇:Rヨコ??/口:単軸絡1(R)側圧	ナデ	胎土繊維・内外剥落	
240	第31号土坑・15層	底部破片	胴:単軸絡1(R)ナナメ、RLヨコ/底部~底面:ナデ	ナデ?	胎土繊維・内外摩耗	
241	第31号土坑・16~17相当層?	深鉢・口縁部	単軸絡1A(L)タテ??	ナデ		
242	第31号土坑・17~18層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土石含む	
243	第31号土坑・17~18層	深鉢・胴部	櫛歯状工具による沈線	ナデ	胎土繊維混入	
244	第31号土坑 半裁時	深鉢?・口縁部	先端中空、貫通孔・深い短沈線、刺突	ナデ	内面お焦げ	
245	第31号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:Rヨコ??/口:R側圧/胴:低い隆帯?上に深い刺突列/肩:基軸絡(LR、RL)?ヨコ	ナデ光沢		
246	第31号土坑 半裁時	深鉢・胴部	隆帯上R側圧、その下隆帯に沿ってR、L側圧/LR+結節Rナナメ	ナデ光沢	外吹きこぼれ	
247	第29号~第31号、第103、104号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口縁上から、LR側圧、交互刺突列、LR側圧、半裁竹管状沈線/胴:LRTタテ?	ナデ		
248	第29号~第31号、第103、104号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	細く深めの沈線、刺突	ナデ		
249	第29号~第31号、第103、104号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
250	第29号~第31号、第103、104号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	深めの爪形文	ナデ		
251	第29号~第31号、第103、104号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:LRT側圧(低い隆帯上も)/肩:深い刺突列	ナデ	胎土繊維、白石混入	
252	第29号土坑・No.2土器(8層)、3層ほか	深鉢(胴一周)	口唇:LRヨコ/口~胴:LRTヨコ	ただれ	胎土繊維・外面スス	p.204

第126図 縄文土器(24)



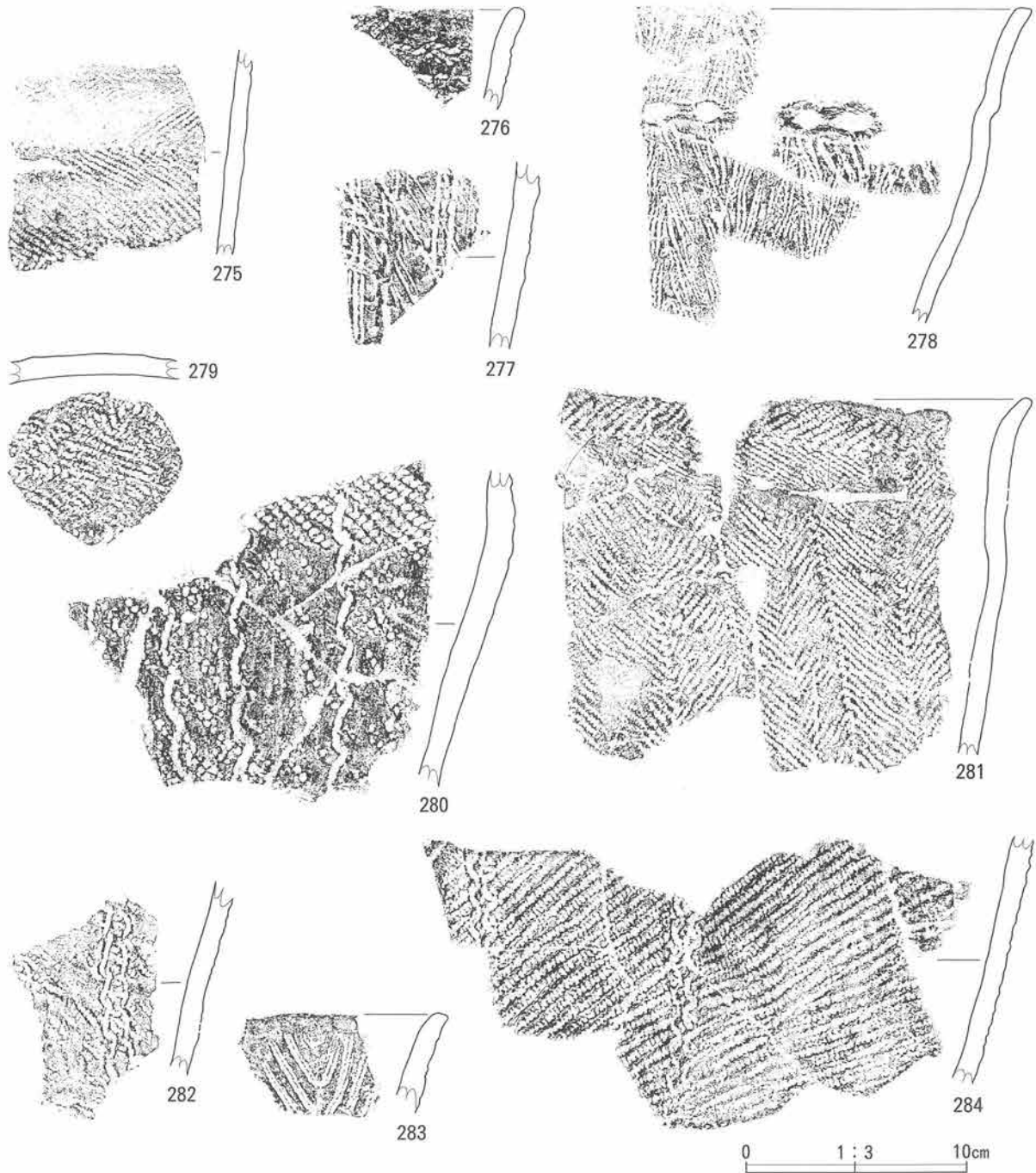
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
253	第32号土坑	深鉢・胴部	単軸絡1A (R、L) タテ	ナデ	繊維・外ス、内お焦げ	
254	第32号土坑	深鉢・胴部	LR? + 結節Rヨコ? (摩耗して不明瞭)	ナデ	胎土繊維・外摩耗	
255	第33号土坑	鉢	口唇: D字形刻目/口~胴: 櫛歯状工具による沈線	ただれ	繊維・外上部スス	
256	第33号土坑?	深鉢・口縁部	LRナナメ	ナデ	繊維・黒こげ	
257	第34号土坑・底面直上 (4層?)	胴部 (1/5以下)	単軸絡1A (R、L) タテ	ナデ	繊維・内面全面スス	
258	第35号土坑・9層下面~11層上面	深鉢・口縁部	LRヨコ→結節 (R) ヨコ (*外ス、内黒)	ナデ	胎土繊維多、石含む	
259	第35号土坑	深鉢 (底一周)	胴: 結束1種 (LR、RL) 逆位ヨコ/底面: ナデ	ナデ?	胎土繊維多い	
260	第35号土坑	底部 (2/3周)	RL (0段多糸) ヨコ/底面: ケズリに近いナデ	ナデ		
261	第36号土坑・23層上面? ほか	深鉢 (1/3周)	口内面: 稜線/口: 隆帯上に押圧列、隆帯両側無文/頸: LRヨコ	ナデ?	補修孔	p.204

第127図 縄文土器(25)



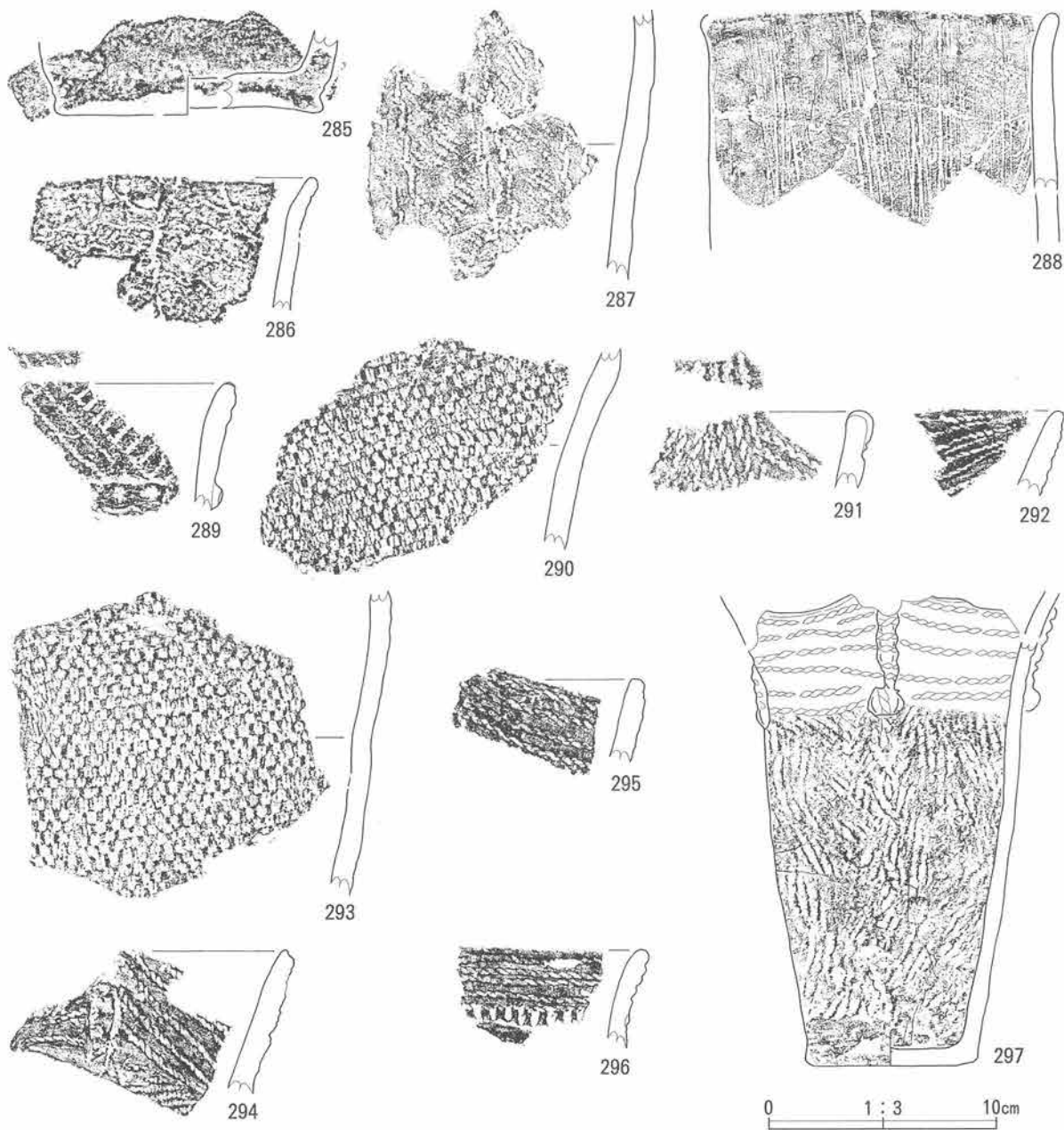
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
262	第36号土坑④ほか	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も)	ナデ		p.204
263	第36号土坑③	深鉢・口縁部	口唇:RLヨコ?/口:R側圧・結節Rヨコ/頸:低め隆帯にR側圧/胴:LRヨコ	ナデ	繊維・外口縁キズ	
264	第36号土坑・南北ベルト北側ベルトと下層	深鉢・口縁部	R側圧(口縁最上部も)・指頭状押圧列(高い隆帯上も)	ナデ	外面スス付着	
265	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:LRヨコ→一部LR側圧	ナデ	繊維・内外やや摩耗	
266	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	深鉢・口縁部	口:高めの隆帯上竹管状刺突・R側圧/頸:低め隆帯に半裁竹管状刺突	摩耗	繊維・外スス・口唇摩耗	
267	第36号土坑・14層下部、17層下面から18層上面	深鉢(一部欠損)	縦線刻/口:LR側圧、隆帯上→R側圧/胴:結束1種(LR+結節R、RL)ヨコ-底部-底面ナデ	ナデ	内外面お焦げ	p.204
268	第36号土坑	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:横からの刺突の上下にLR側圧/胴:単軸絡5(R、L)?タテ	ミガキ?	胎土繊維混入	
269	第36号土坑	深鉢・口縁部	R側圧・馬蹄状押圧(R側圧?)	ミガキ?		
270	第36号土坑	深鉢・口縁部	口唇:瓜形裂目/口:LRヨコ/頸:低め隆帯に半裁竹管状刺突/胴:結節Rヨコ	ミガキ		p.204
271	第37~40号土坑	深鉢・口縁部	口縁隆帯状・LR側圧(突起は口唇部も)	摩耗	吹きこぼれ	
272	第37~40号土坑	深鉢・口縁部	口~頸:LR側圧/頸と胴の間:ナデ帯/胴:RLヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
273	第41号土坑	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:微隆帯に深い刺突(側圧?)	ナデ	繊維・外摩耗・内外黒	
274	第41号土坑	鉢(底のみ一周)	結束1種(LR、RL)ヨコ(正しく羽状をなさない)→底部~底面ミガキ?	ただれ	胎土繊維・外面スス	

第128図 縄文土器(26)



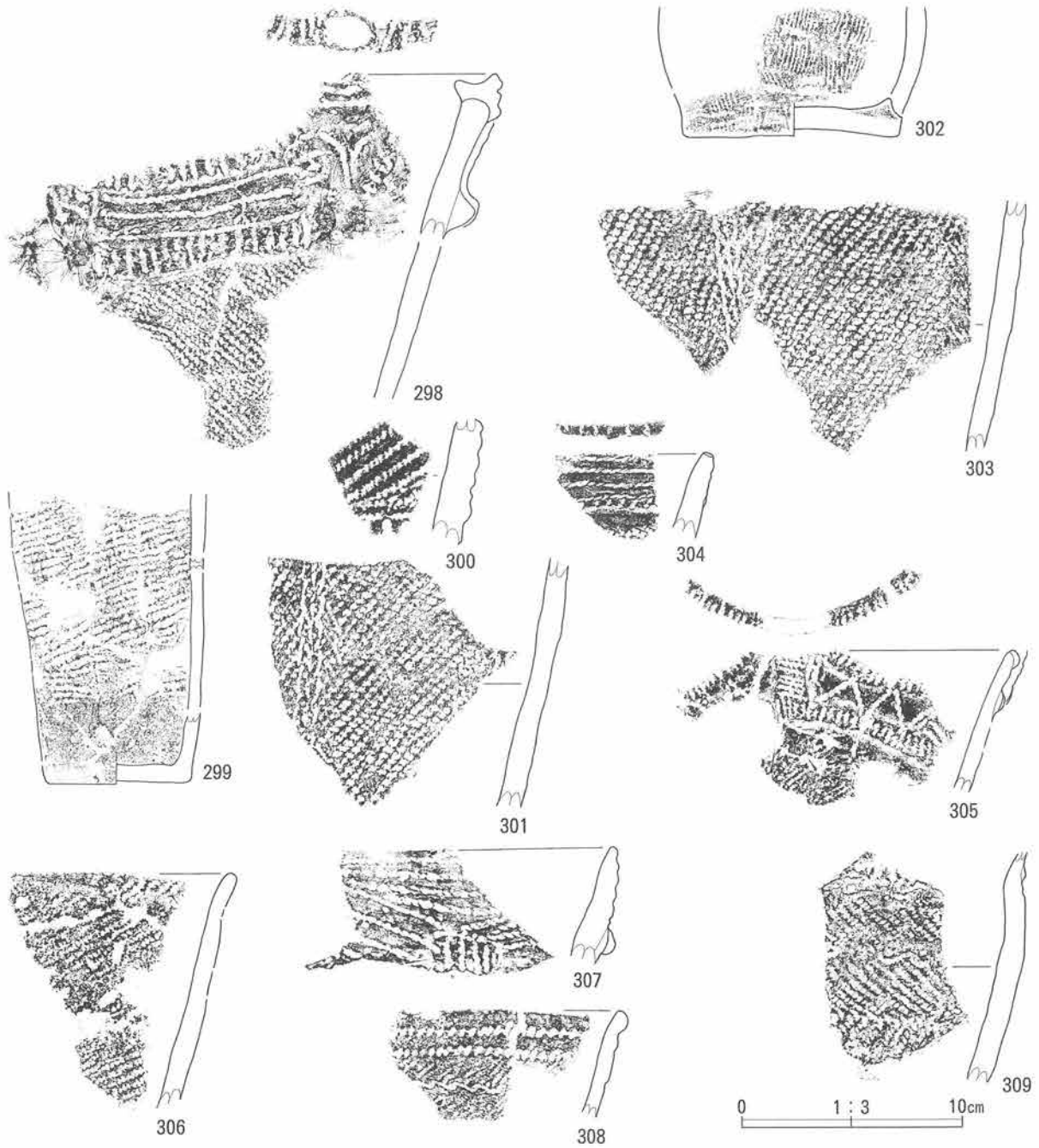
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
275	第42号土坑・4~10層	深鉢・胴部	頸: LR側圧/胴: 結束1種 (LR, RL) ヨコ	ただれ	繊維多・外スス	
276	第42号土坑・4~10層	深鉢・口縁部	結節Rヨコ・LRヨコ??	摩耗	繊維・外黒	
277	第42号土坑・4~10層	深鉢・胴部	半裁竹管杖工具による沈線	ナデ	胎土繊維混入	
278	第42号土坑・4~10層	深鉢・口縁部	単軸絡1A (R, L) タテ (口縁と胴部では逆方向?)・頸: 低い隆帯に深めの押圧	ナデ	胎土繊維混入	p.204
279	第42号土坑 半裁時	深鉢・底部	縁一周欠け径不明・底面: LRヨコ	ナデ	繊維多・内やや摩耗	
280	第42号土坑 半裁時	深鉢・胴部	LRタテ→結節Rタテ	ナデ	外スス・内ナデ工具痕?	
281	第43号土坑 8層、半裁時	深鉢 (1/4周弱)	結束1種 (LR, RL)、口縁部ヨコ、胴部タテ	ナデ	繊維・外スス	p.204
282	第44号土坑・3層	深鉢・胴部	頸: 低い隆帯? / 胴: LR+結節Rタテ	ナデ	胎土繊維混入	
283	第44号土坑・6層	深鉢・口縁部	単軸絡1A (L) タテ	ナデ	胎土繊維混入	
284	第44号土坑 半裁時	胴部 (1/4周)	LR (0段多条?) ヨコ→結節Rタテ	ナデ	胎土繊維・外スス	

第129図 縄文土器(27)



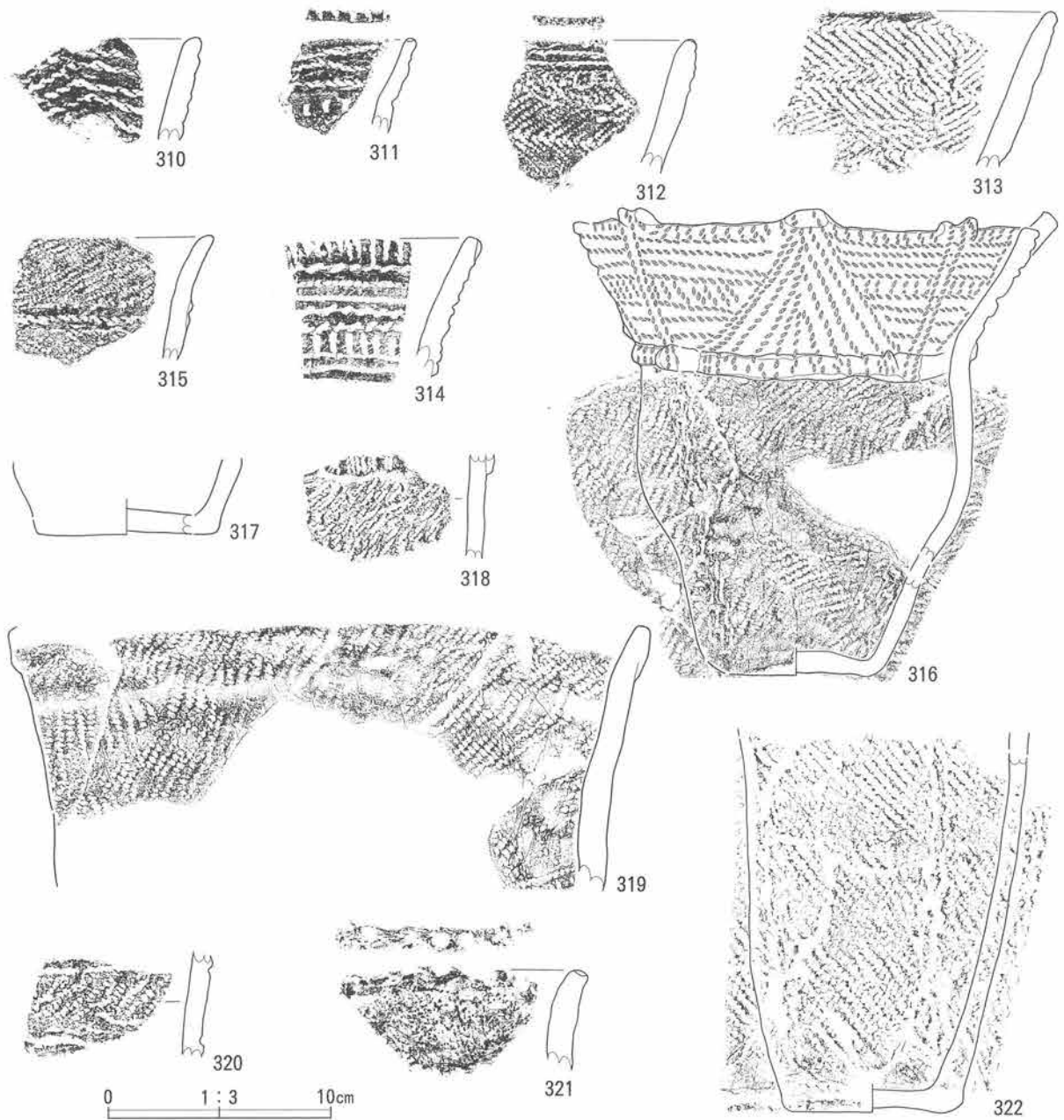
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
285	第45号土坑・8層	底部(1/4周強)	LRヨコ?→底部~底面ナデ	ただれ	胎土繊維・内面ス付着	
286	第45号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR+結節Rヨコ	ナデ	繊維・外面ス	
287	第46号土坑	深鉢・胸部	LRタテ→結節Rタテ	ナデ	胎土繊維多い	
288	第46号土坑	口縁部(2/3周弱)	口唇:強いナデ/口~胸:櫛歯状工具による沈線	ただれ		
289	第47号土坑 No1土器(7層上面)	深鉢・口縁部	口唇~口:R?側圧。/頸:高い隆帯上押圧(*灰色で摩耗ひどく、不明)	摩耗	繊維・摩耗ひどい	
290	第47号土坑 No1土器(7層上面)	深鉢・胸部	多軸絡(?)タテ	摩耗	繊維・内外灰色摩耗	
291	第47号土坑・7~11層	深鉢・口縁部	LR側圧(突起部口唇まで)	ナデ	胎土繊維混入	
292	第47号土坑・7~11層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:L側圧	ミガキ		
293	第47号土坑・7~11層	深鉢・胸部	多軸絡(?)タテ	摩耗	繊維・内外肌色摩耗	
294	第47号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:縦隆帯剥落・L側圧/胴:LRヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	
295	第47号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ丁摩	内外黒	
296	第47号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:深い刻目	ミガキ?		
297	第48号土坑 No1土器(3層)	鉢(口縁欠損)	4波状?//口:R側圧(隆帯上も)/胴:Rイロイロ隆帯下結節R?タテ	ミガキ??	繊維・内外ス	p.204

第130図 縄文土器(28)



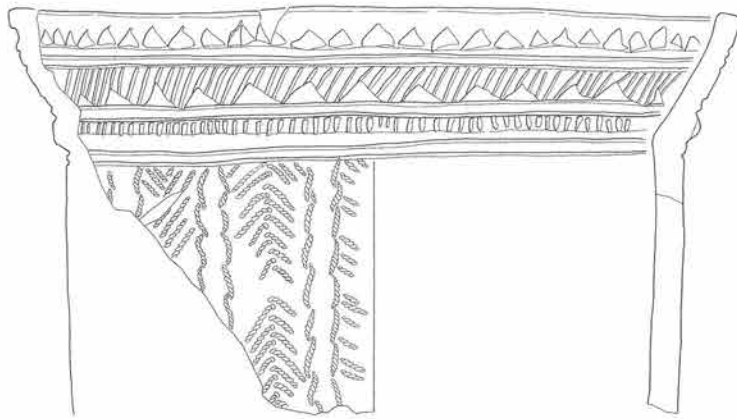
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
298	第48号土坑 No.2土器(1層)	深鉢・口縁部	口: 太く高い隆帯、突起・LR側圧/胴: RLヨコ//突起4単位?	ナデ	外上部、内下部スス	
299	第48号土坑・1層	小型鉢	胴: LRナメ/底~底面: ナデ (*1/2周弱)	ナデ	胎土繊維・外スス	
300	第48号土坑・3、4層	深鉢・口縁部	縄?、単軸絡1(R?)側圧	摩耗	内外摩耗(内特にひどい)	
301	第48号土坑・5、6層	深鉢・胴部	RLRクテー→結節Rクテー(*上の割口接合面から剥離?、その後研磨?)	ナデ	繊維・吹きこぼれ・内スス	p.204
302	第48号土坑・3~4層(1/6)、5~6層(5/6)	底部(底のみ一周)	単軸絡1(?)クテー? (*摩耗ひどい)	摩耗	繊維・内外摩耗ひどい	
303	第48号土坑・8層	深鉢・胴部	*301と同一個体・1/3は「第48号土坑」として取り上げ		内下部スス付着	
304	第48号土坑・10~11層	深鉢・口縁部	口唇: 刻目/口: R側圧/頸: 低隆帯上刺突?/LRヨコ?	ナデ	胎土繊維混入	
305	第48号土坑 半裁時	小型鉢(1/4周)	口: L?側圧(隆帯上も)/胴: LRヨコ?	ナデ	胎土石・外摩耗	
306	第48号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LRヨコ?	摩耗	内外ボロボロ	
307	第48号土坑	深鉢・口縁部	口唇: LRヨコ/口: L側圧(高い貼付文上も)	ナデ		
308	第48号土坑	深鉢・口縁部	口: 単軸絡1(R)側圧/胴: LRヨコ→結節Rヨコ	ただれ	胎土石含む	
309	第48号土坑	深鉢・胴部	結束1種(RL、LR)ヨコ→結節Lヨコ	ナデ	繊維・吹きこぼれ	

第131図 縄文土器(29)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
310	第48号土坑	深鉢・口縁部	二山突起・LR側圧	ナデ丁寧		
311	第48号土坑	深鉢・口縁部	口唇:LR?側圧/口:LR側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突列	摩耗	外黒	
312	第48号土坑	深鉢・口縁部	口:R側圧/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ (*口唇、頸摩耗)	ミガキ	胎土繊維混入	
313	第48号土坑	深鉢・口縁部	結束1種(LR?, RL)ヨコ	ナデ	胎土繊維多	
314	第48号土坑	深鉢・口縁部	LR、単軸絡1(R)側圧 (*下の割れ口輪積み接合面からの剥離)	ミガキ	胎土繊維混入	
315	第48号土坑	深鉢・口縁部	口:LRヨコ/頸:細く高め隆帯間にL側圧/胴:斜縄文?	摩耗	繊維・内外摩耗	
316	第48号土坑	鉢(頸一周)	突起2守単位//口~頸:LR側圧/胴:LRヨコ→結節Rタテ→底ナデ	ナデ	外頸上スス付着	p.204
317	49号、第51号(第50号も?)土坑	底部(1/2周弱)	底部~底面:ミガキ	ナデ?		
318	第49号?(第50、51号?)土坑	深鉢・胴部	頸:高めの隆帯にR側圧/胴:LRヨコ	ナデ	繊維・吹きこぼれ	
319	第50号、第51号土坑、第50号土坑・7層	深鉢(口12/4周)	口:隆帯状折り返し口縁・口~胴:LRヨコ、ナナメ	ミガキ	7層1/4・外二次焼成強	
320	第50号(第51号、第75号も)土坑	深鉢・胴部	LRヨコの上、下に水平方向にLR側圧	ナデ	繊維・内面スス	
321	第50号、第51号土坑	深鉢・口縁部	口唇:押圧列/口:*黒こげで不明(多軸絡タテ??)	ナデ?	繊維・黒こげ	
322	第52号土坑・Na0土器(2層)	鉢(一周)	RLヨコ、ナナメ→結節(L)タテ→底部~底面ナデ//底面に?の圧痕	ただれ	内面二次焼成で赤	

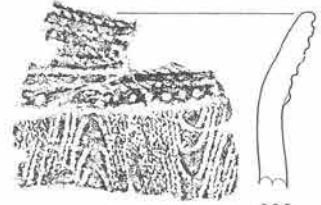
第132図 縄文土器(30)



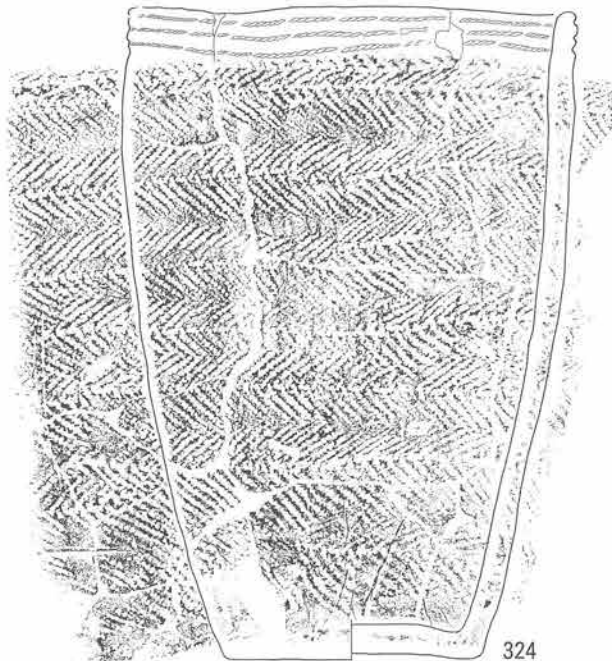
323



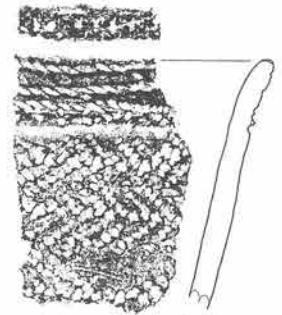
325



326



324



327

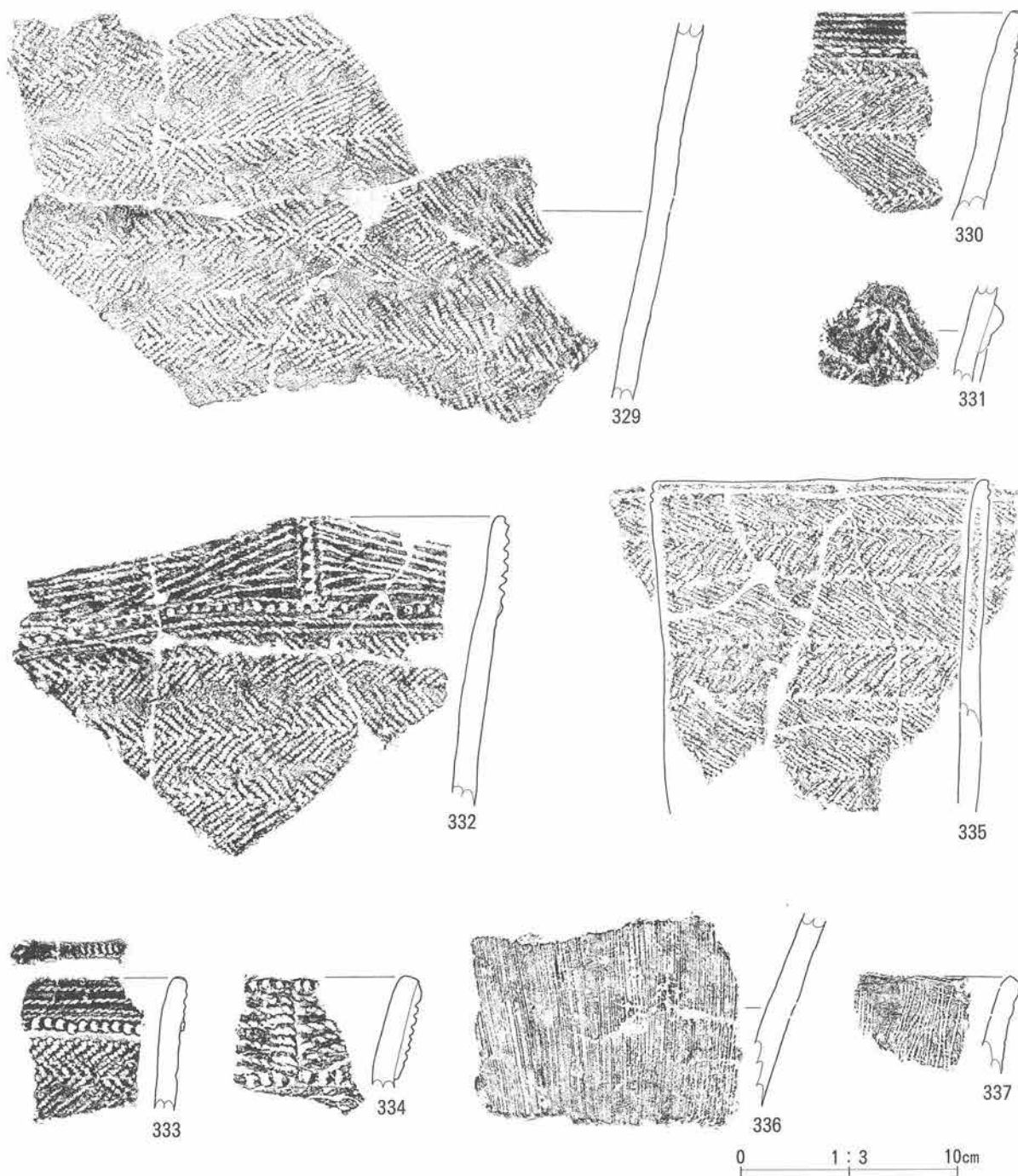


328

0 1 : 3 10cm

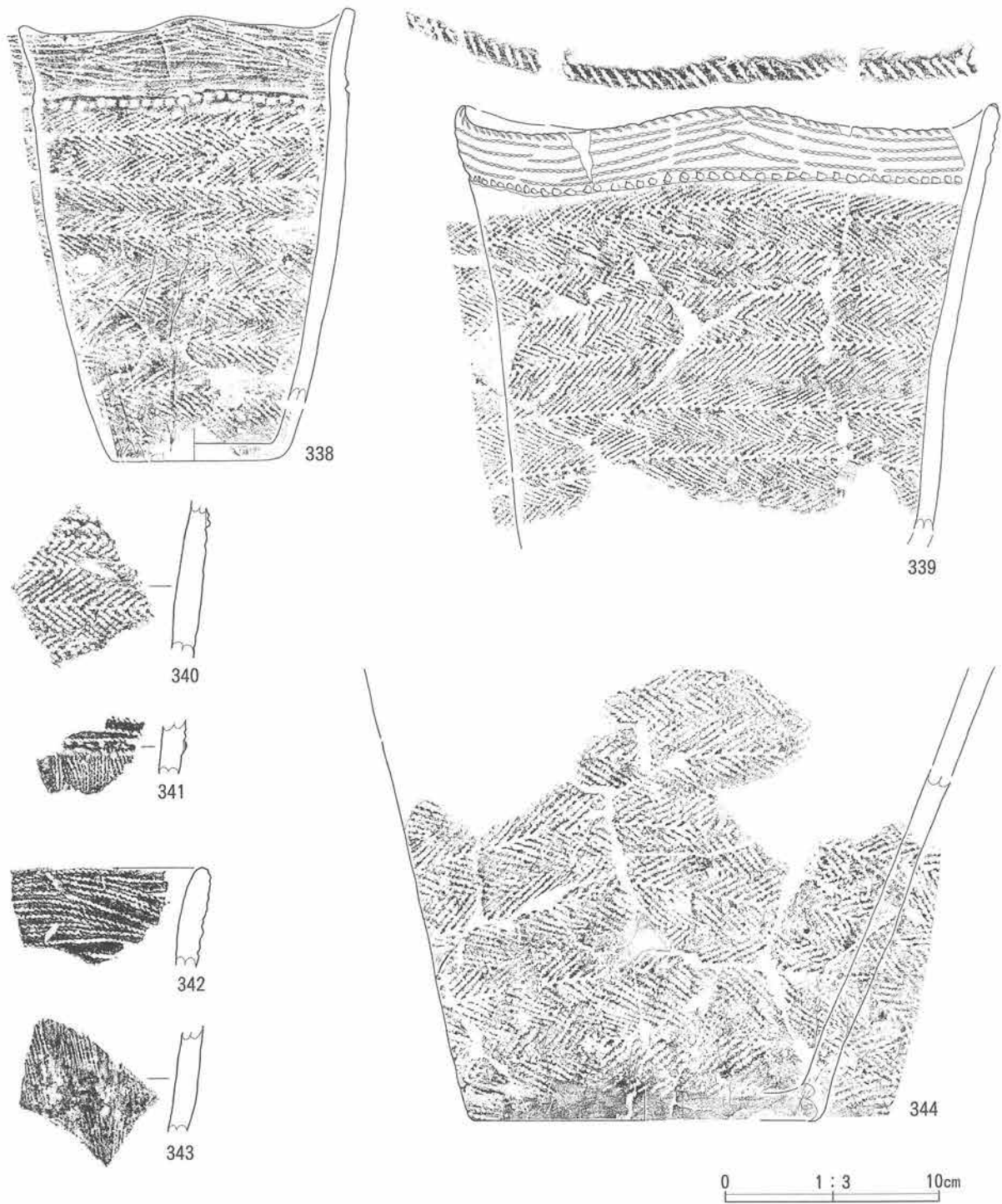
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
323	第52号土坑・No.1土器(11~12層上面)・9層	深鉢(口11/3周)	口唇:強いナデ/口:竹管状工具沈線?/胴:結束1種(LR、RL) タテ→結節Rタテ	ミガキ	外お焦げ付着	p.204
324	第52号土坑・No.2土器	鉢(略完形)	口唇:RL?ヨコ/口:R側圧・太く浅い沈線状ナデ/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ	繊維・内口やや摩耗	p.204
325	第52号土坑・1~2層	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:RLナナメ	摩耗	繊維・外隆帯剥落?	
326	第52号土坑・4.5層・南部2層主体	深鉢・口縁部	波状口縁//口:L側圧/頸:低め隆帯に深い刺突/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ナデ	胎土繊維混入	p.204
327	第52号土坑・7~10層	深鉢・口縁部	口唇:刺目/口:L側圧/頸:低め隆帯に刺突/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ	繊維・外全面スス	p.204
328	第52号土坑・7~10層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:R側圧/胴:結束1種(RL、LR)ヨコ//施文順胴→口	ナデ	繊維・外スス・補修孔	

第133図 縄文土器(31)



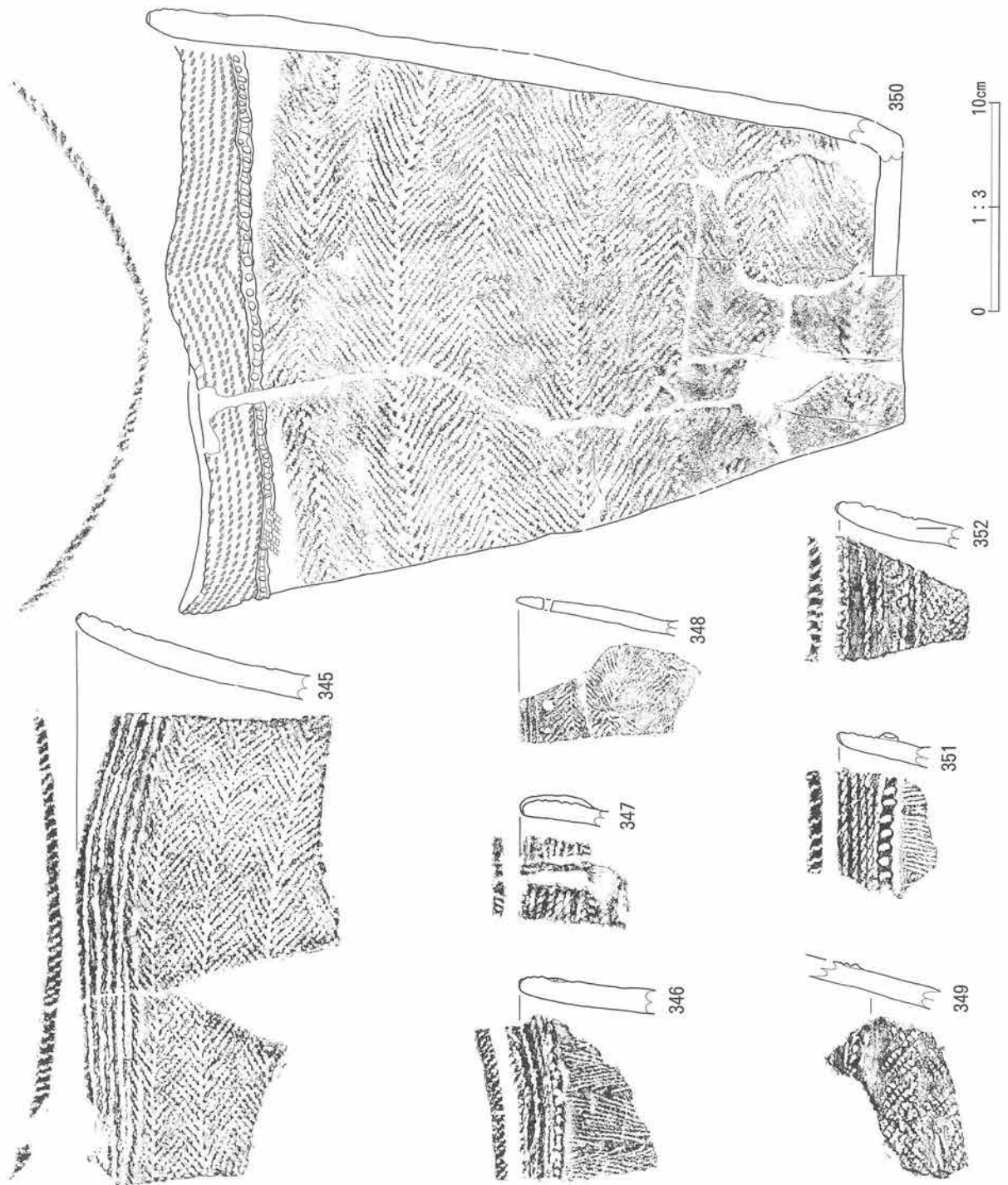
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
329	第52号土坑・7~10層、半裁時	胴部(1/4周弱)	結束1種(LR, RL)ヨコ逆位も	ミガキ?	7~10層3/10・繊維	
330	第52号土坑・12層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:LR側圧/頸:低い隆帯に横からの刺突/胴:結束1ヨコ	ナデ	繊維多・吹きこぼれ	p.204
331	第52号土坑・南部2層主体	深鉢・口縁部	L側圧・高い隆帯(一部剥落)	摩耗	胎土繊維・外スス	
332	第52号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	波状口縁/口~踵:LR側圧、竹管状刺突、頭低い隆帯/胴:結束1種(RL, LR)ヨコ	ミガキ	繊維・内部焼けはじけ	p.204
333	第52号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口:R側圧/頸:低い隆帯にC字形刺突/胴:結束1(LR, RL)ヨコ	ミガキ	外面やや摩耗	
334	第52号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:LR側圧(隆帯上も)/頸:刺突列/胴:結節(R)ヨコほか?	ミガキ		
335	第54号土坑・1、2層、4中心相当層	鉢(1/4周以下)	結束1種(LR+附加条L, RL+附加条R)ヨコ逆位交互→口RL側圧	ただれ	1.2層3/4・繊維・内外スス	
336	第54号土坑・4中心相当層	深鉢・胴部	櫛歯状工具による沈線(※上下割れ口、粘土接合面からの剥離)	ナデ	胎土繊維混入	
337	第54号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	甲軸路1(R)タテ(口縁最上部ヨコ)	ナデ	繊維・内面剥落	

第134図 縄文土器(32)



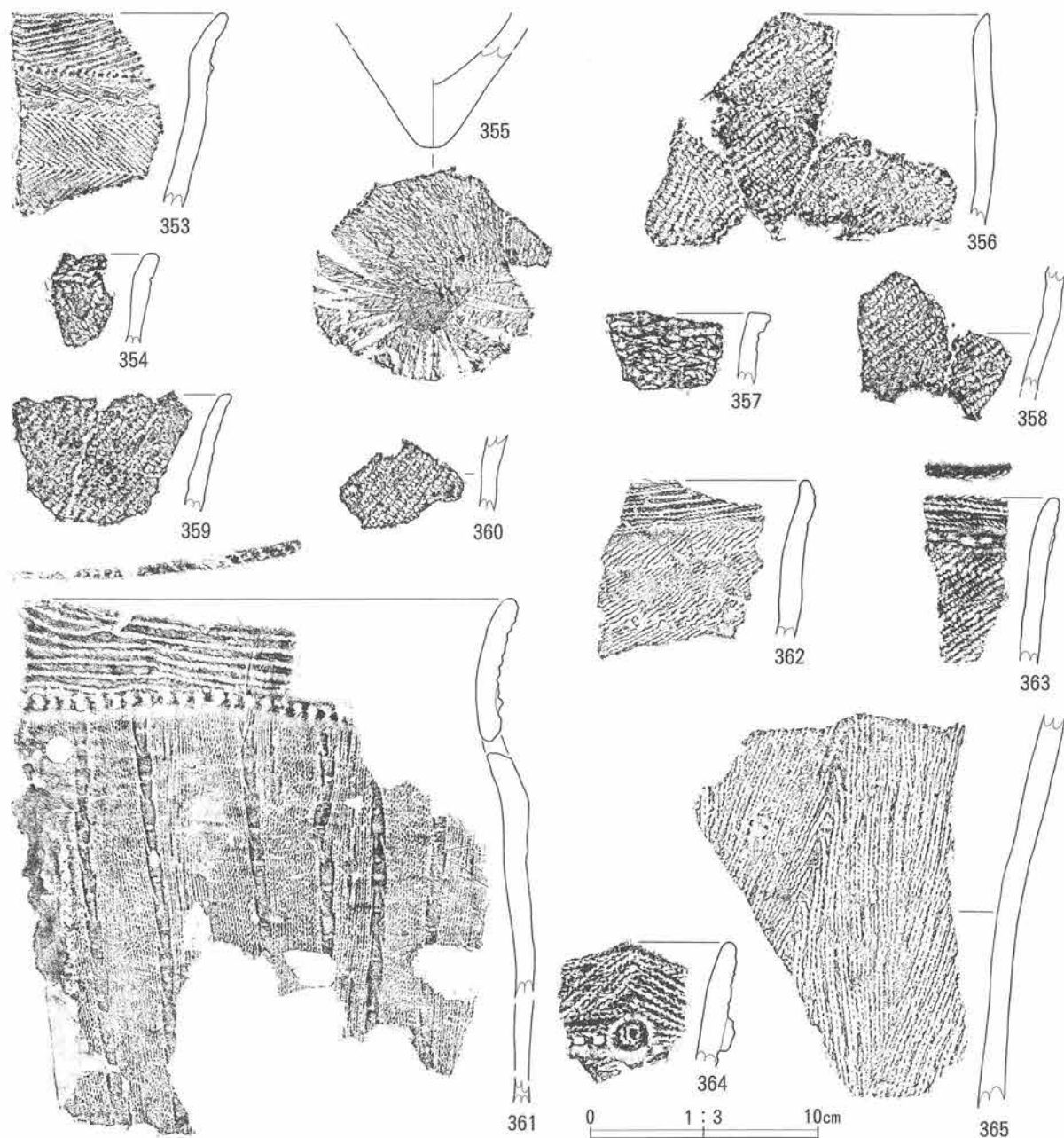
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
338	第55号土坑 Na1土器(6層)	鉢(底のみ欠)	4波状//口:R、L側圧/頸:深い横から刺突/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ	繊維・外スス	p.204
339	第55号土坑 No.1~3土器ほか	深鉢(一周一部)	4波状//口唇~口:L側圧/頸:浅め刺突/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ?	繊維多・内外黒斑	p.205
340	第55号土坑・6層	深鉢・胴部	結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ	内外スス付着	
341	第55号土坑・9、11層	深鉢・頸部	口:L側圧/頸:低め隆帯上刺突・胴:単軸絡1Aタテ//頸・胴の施文	ミガキ	繊維・外スス	
342	第55号土坑・9、11層	深鉢・口縁部	L側圧	ミガキ		
343	第55号土坑・12層相当層?	深鉢・胴部	単軸絡1A(R、L)タテ	ただれ	繊維・吹きこぼれ	
344	第55号土坑・1~6相当層、7=8、10層	底部(7/8周弱)	結束1種(LR、RL)ヨコ~底~底面ミガキ	ミガキ?	外面二次焼成	p.205

第135図 縄文土器(33)



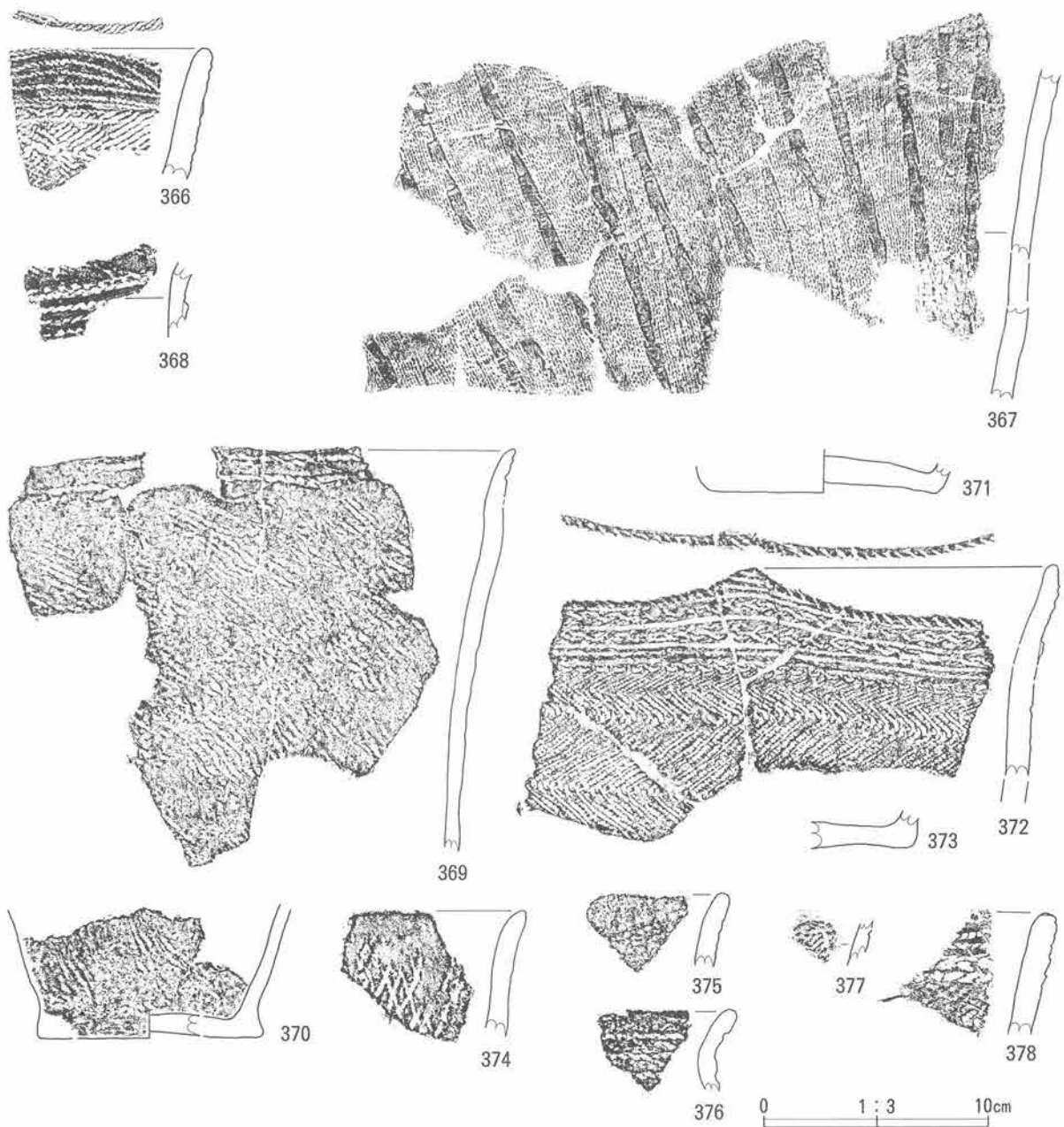
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・裝飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
345	第55号土坑・1~6相当層、9、11層	深鉢 (1/4周弱)	口唇~口:LR側圧/頸:低降帯上部縦文/胴:結束1種 (LR、RL) ヨコ	ミガキ	繊維・波状口縁	p.205
346	第55号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口:LR側圧/頸:横からの深い刺突/胴:単軸絡1A (L) タテ	ナデ丁寧	繊維・内外ス付着	
347	第55号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:高め降帯・L?側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突列	ナデ	外面摩耗	
348	第56号土坑・5層	小型鉢	口:L側圧/胴:結束1種 (LR、RL) ヨコ	ナデ雑	繊維・外全面ス	
349	第56号土坑・8層	深鉢・頸部	口:R側圧/頸:低め降帯上深い刺突/胴:結束1種 (RL、LR) ヨコ	ナデ	内外摩耗	
350	第56号土坑・10層?	深鉢 (一部欠損)	口唇:突起部/口縁:突起部/口:突起部/頸:突起部/胴:突起部 (RL、LR) ヨコ/底面:1?キ	ミガキ	外上部ス、下部二次焼成	p.205
351	第56号土坑・10層	深鉢・口縁部	口唇~口:LR側圧/頸:高め降帯上刻目列/胴:単軸絡1Aタテ	ミガキ?	胎土繊維混入	
352	第56号土坑・13層	深鉢・口縁部	口唇:LR?側圧/口:LR側圧/頸:竹管状刺突/胴:結束1種 (LR、RL) ヨコ?	ミガキ	繊維・頸文様弱い押圧	

第136図 縄文土器(34)



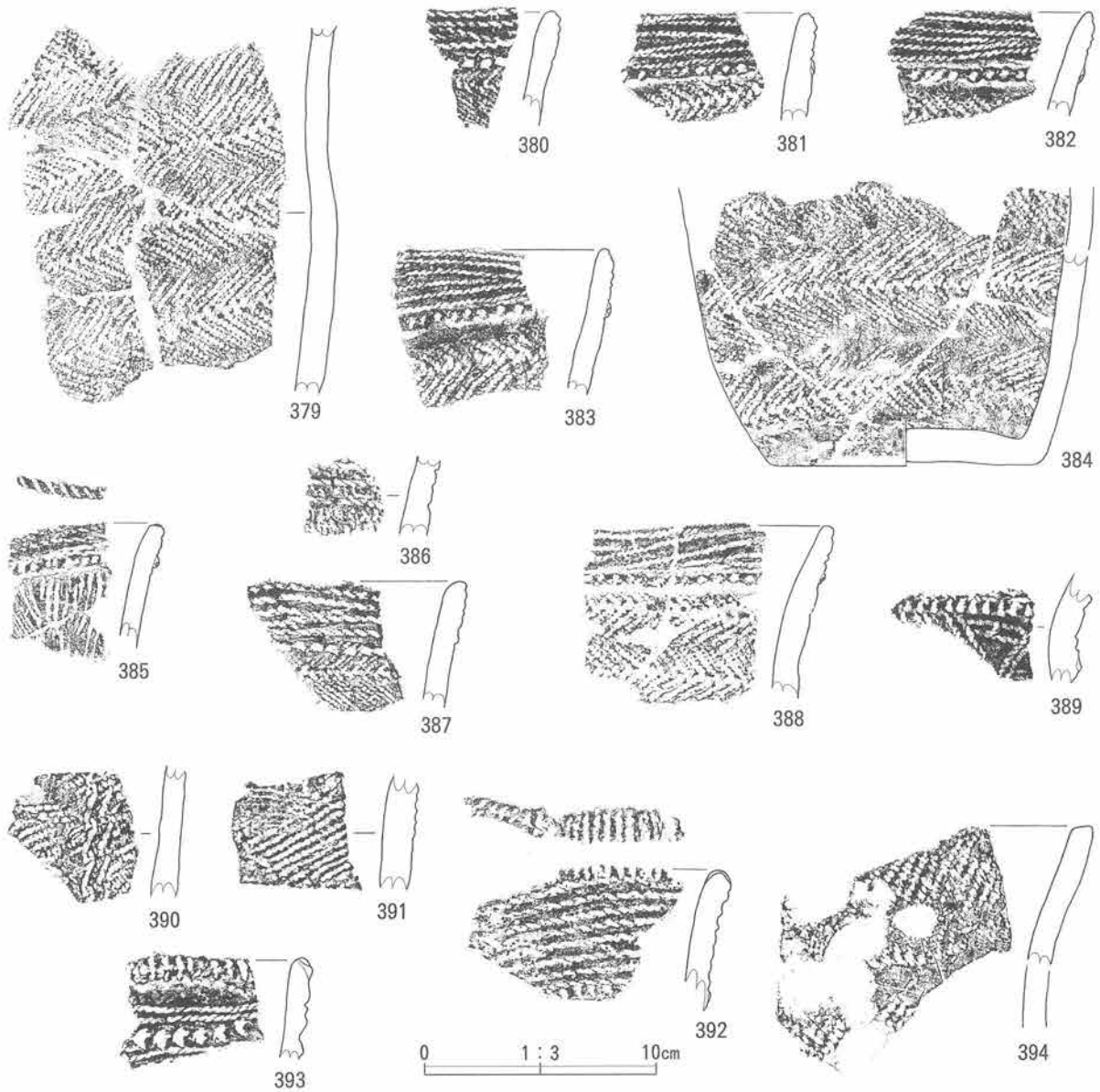
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
353	第56号土坑・13層	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:半葎竹管状刺突・L+結節?ヨコ/胴:結束1種(LR, RL)ヨコ	ミガキ?	胎土繊維・外黒	
354	第57号土坑・4相当層	深鉢・口縁部	口唇:刻目/口:L R+結節(R)?ヨコ	摩耗	外面スス付着	
355	第57号土坑・5層	深鉢・底部	胴:貝殻腹縁文/先端:摩耗	糸痕		
356	第57号土坑・6相当層	口縁部?	LRヨコ *胴1/4周弱・356、358と同一個体	ただれ	外全面スス・内下黒い	
357	第57号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口:結節(L)ヨコ	ナデ		
358	第57号土坑 半裁時	深鉢・胴部	*356、359と同一個体		*356と同一個体	
359	第57号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	*356、358と同一個体			
360	第57号土坑 半裁時	深鉢・胴部	LRヨコ			
361	第58号土坑・No1土器(3層上部)	深鉢(1/5周以下)	口唇~口:L側圧/頸:低い隆帯上D字形刺突/胴:単軸絡1A(R, L)タテ	ただれ ミガキ	*356他と同一個体? 繊維・外剥落・補修孔	
362	第58号土坑	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:Lヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
363	第58号土坑	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:低い隆帯に刺突/LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
364	第58号土坑	深鉢・口縁部	口:R, L側圧/頸:低い隆帯上刺突・ボタン状貼付上L側圧/胴:結節Lヨコ	ナデ	外面スス付着	
365	第58号土坑	深鉢・胴部	単軸絡1A(L)タテ	ナデ	胎土繊維、石・吹きこぼれ	

第137図 縄文土器(35)



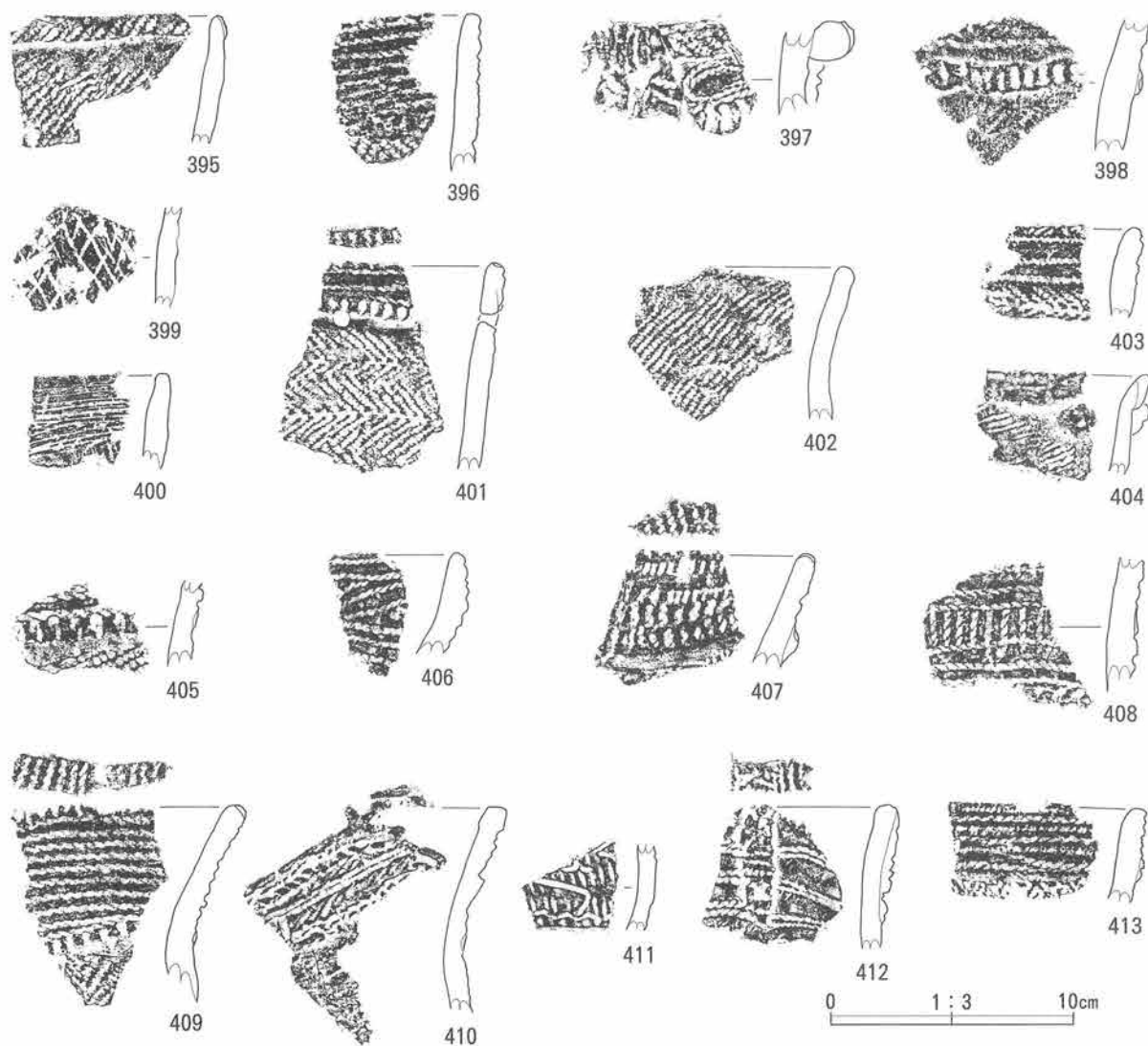
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
366	第58号土坑・No.1土器(3層上部)	深鉢・口縁部	口唇:Lヨコ/口:LR側圧/胴:結束1種(L, RL)ヨコ//施文順字口→胴	ミガキ	頸:微隆帯状	p.205
367	第58号・1~4層/第29、63号土坑	胸部(1/4周弱)	単軸絡1A(R, L)タテ	ミガキ?	胎土繊維混入	p.205
368	第58号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:隆帯状・RL側圧/頸:細く深い刺突列	ミガキ	内面剥落	
369	第59号土坑・No.1土器(2層上面)	深鉢(1/4周弱)	口:L側圧/胴:Lタテ	ナデ	繊維・外面スス	
370	第59号土坑・No.1土器(2層上面)ほか	深鉢・底部	胴下部:Lナナメ?/底部~底面:ナデ	ナデ	胎土繊維混入	
371	第59号土坑・9層	底部(一周)	底部~底面:ミガキ?	ナデ	胎土繊維混入	
372	第59号土坑・9層	深鉢(1/4周弱)	口:頸に隆帯状付-LR+胎即Rヨコ→R側圧/胴:結束1種(附加条、LR+L, RL+R)ヨコ	ミガキ	繊維・外面スス	
373	第60号土坑・5層	底(1/8周弱)	底~底面:ナデ	ナデ	繊維・内面底部スス	
374	第61号土坑・1層	深鉢・口縁部	単軸絡5(R)タテ	摩耗	内外面摩耗	
375	第61号土坑・3~4相当層	深鉢・口縁部	斜縄文?(原体不明)	ナデ?	内外面摩耗	
376	第61号土坑・4層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
377	第62号土坑・3層	深鉢	LRヨコ?→平紐紐側圧??	ナデ	胎土繊維混入	
378	第63号土坑・5層相当層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:半裁竹管状刺突、その下RL側圧/胴:RLヨコ??	ナデ丁寧	口唇刻目?・外スス	

第138図 縄文土器(36)



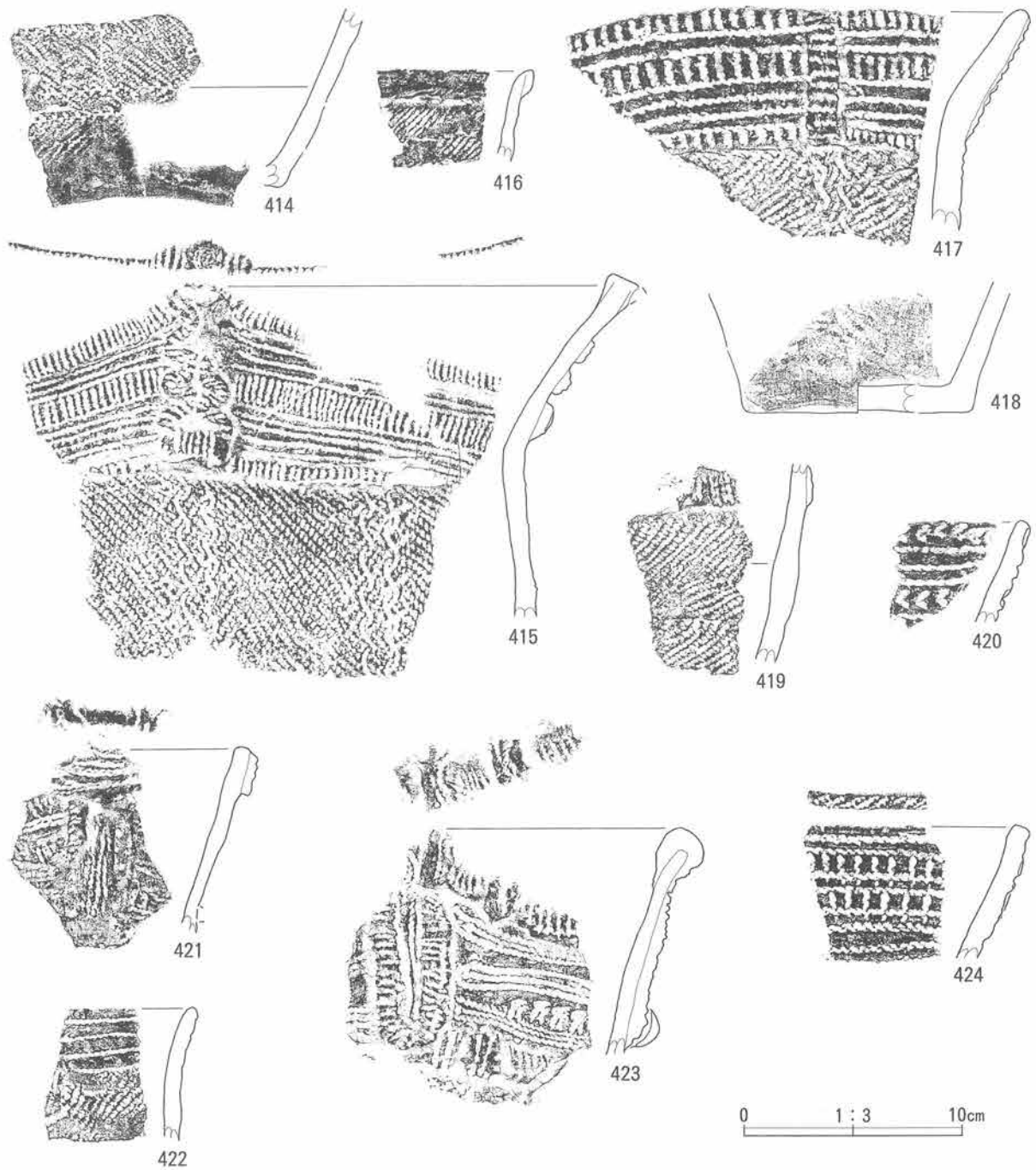
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
379	第63号土坑・8層(3/4)、半裁時(1/4)	深鉢・胴部	結束1種(LR+附加条?、RL+附加条R?) ヨコ逆位交互に	ナデ	繊維・外スス、摩耗	
380	第63号土坑・8層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:浅い刺突/胴:結束1種ヨコ?(摩耗して不明)	ナデ	内外摩耗	
381	第63号土坑・8層	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:低め隆帯上刺突/胴:結束1種(RL、LR)ヨコ	ナデ	ナデ・吹きこぼれ	p.205
382	第63号土坑・8層	深鉢・口縁部			381、383と同一個体	
383	第63号土坑・8層	深鉢・口縁部			381、382と同一個体	
384	第63号土坑・4、8相当層、半裁時	底部(底のみ一周)	結束1種(附加条=LRにR、RLにL?) ヨコ→底~底面ミガキ	ミガキ	外面二次焼成で赤い	p.205
385	第63号土坑・9~11層相当層	深鉢・口縁部	口唇:刻目/口:LR側圧/頸:低め隆帯上C字刺突/胴:単軸絡1Aタテ	ミガキ	内外黒色	
386	第63号土坑・9~11層相当層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:結束1種ヨコ??	ナデ丁寧	外面スス、やや摩耗	
387	第63号土坑・11層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:横からの刺突/胴:結束1種(LR、RL+附加条)ヨコ	ナデ	外スス・内外摩耗	
388	第63号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:低め隆帯上刺突/胴:結束1種(RL、LR)ヨコ	ナデ	繊維・381~383と同一?	
389	第64号土坑・2層	深鉢・口縁部	L?側圧	ナデ?	外剥落・内スス	
390	第64号土坑・2層	深鉢・胴部	RL+結節Rタテ	ナデ	胎土繊維混入	
391	第64号土坑・2層相当層?	深鉢・胴部	単軸絡1(L)(痕跡的)→LRヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
392	第64号土坑・3層相当層?	深鉢・口縁部	口唇~口縁:LR側圧	ナデ	吹きこぼれ	
393	第64号土坑・3層相当層?	深鉢・口縁部	R側圧(口縁最上部も・馬蹄形押圧も)	ナデ	胎土繊維?・外スス	
394	第64号土坑・3層相当層?	深鉢・口縁部	大波状口縁・LRヨコ	ミガキ	繊維・外スス、剥落	

第139図 縄文土器(37)



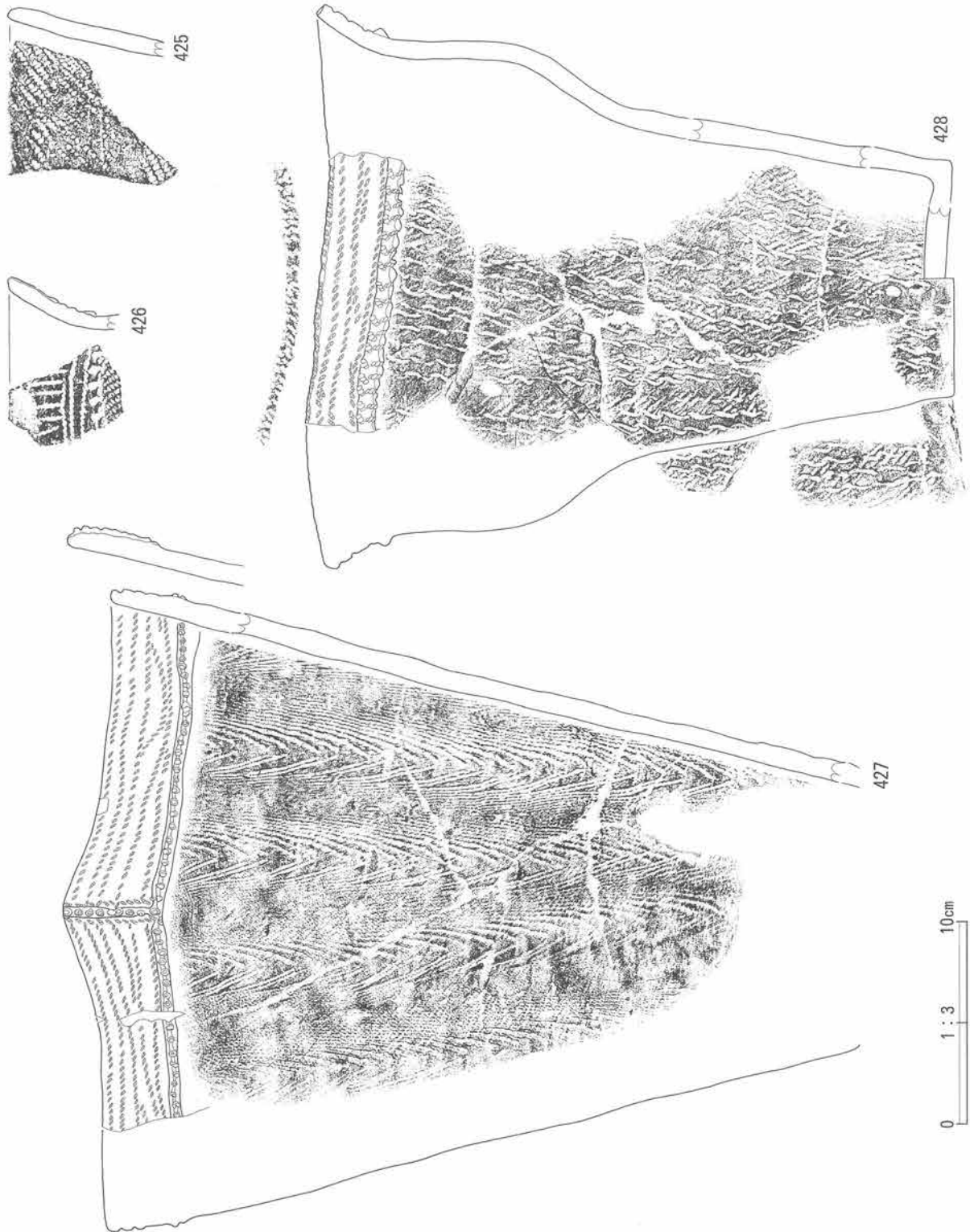
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
395	第64号土坑・3層相当層?	鉢?・口縁部	折り返し口縁・LRヨコ	ナデ輪積痕	内外スス付着	
396	第64号土坑・4~5層上部	深鉢・口縁部	口唇:斜縄文?(摩耗) / 口:L?側圧/胴:LRヨコ	ナデ	吹きこぼれて文様不明瞭	
397	第64号土坑・4~5層上部	深鉢・口縁部	太く高い隆帯・R側圧(隆帯上も・馬蹄形押圧)	ナデ丁寧	内外スス付着	
398	第64号土坑・4~5層上部	深鉢・頸部	摩耗ひどくて不明だが、口縁:L?側圧/頸:隆帯上L?側圧/胴:不明	摩耗	内外摩耗ひどい	
399	第64号土坑・6層	深鉢・胴部	単軸絡5(R) タテ	ナデ雑	繊維・内面スス付着	
400	第64号土坑・6層	深鉢・口縁部	櫛歯状工具による沈線	ただれ	胎土繊維混入	
401	第64号土坑・6層相当層?	深鉢・口縁部	折返し口縁/口唇~口:LR側圧/頸:刻目(側圧?)列/胴:結束1(RL, LR)ヨコ	ナデ	外スス・補修孔	
402	第64号土坑・7層相当層?	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口~胴:LRヨコ	ナデ	外面スス付着	
403	第64号土坑・9層相当層?	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:単軸絡1(L?)側圧/胴:結束1種(RL, LR?)ヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
404	第64号土坑・9層相当層?	深鉢・口縁部	折り返し口縁・ボタン状貼付文・LRヨコ	ナデ雑	内面輪積み痕	
405	第64号土坑・10層	深鉢・頸部	口:LR側圧/頸:逆さ「し」字状にLR側圧列/胴:無文帯FLRヨコ	ナデ		
406	第64号土坑・10層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ丁寧	外面全面スス付着	
407	第64号土坑・8~16層相当層	深鉢・口縁部	L?側圧(口唇、高め隆帯上、隆帯に沿って)・単軸絡1(R)側圧	摩耗	内外摩耗	
408	第64号土坑	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
409	第64号土坑	深鉢・口縁部	口唇~口:LR側圧/頸:刻目状にLR?側圧/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
410	第64号土坑	深鉢・口縁部	突起//口:LRヨコ→半裁竹管状工具による沈線、文様	ナデ	内外スス・外剥落	
411	第64号土坑	深鉢・口縁部	太めで浅い沈線	ナデ	外スス、内お焦げ	
412	第64号土坑	深鉢・口縁部	口唇~口縁右側、高め隆帯上?:LR側圧/口縁隆帯より左側:R?側圧	ナデ	胎土繊維混入	
413	第64号土坑	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(R?)とRL側圧交互に/胴:LRヨコ?	ナデ	繊維・内外やや摩耗	

第140図 縄文土器(38)



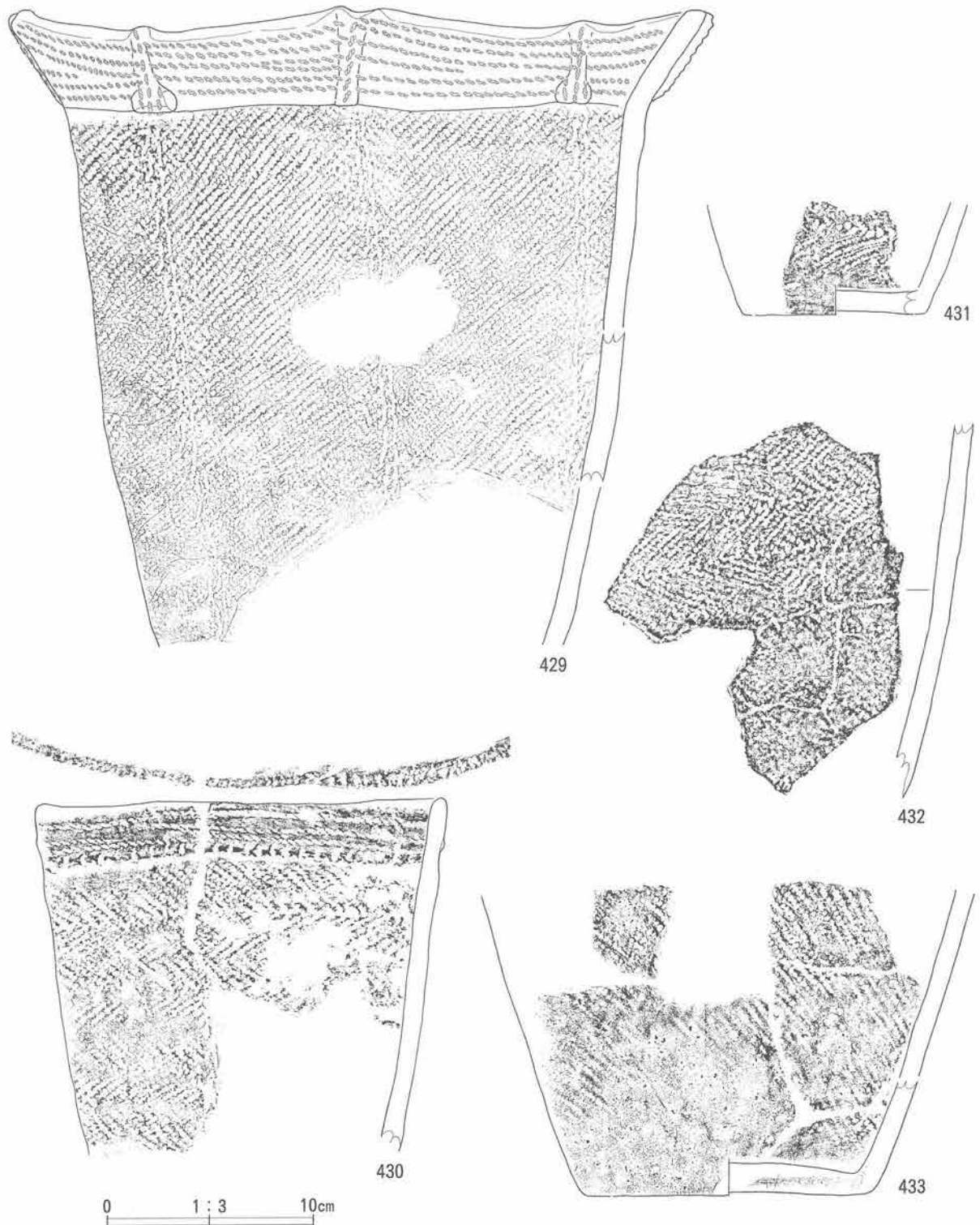
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
414	第66号土坑・9層と11層出土 (接合)	底部 (1/5周弱)	結束1種 (RL、LR) ヨコ→底部～底面ナデ (光沢)	ナデ丁寧	繊維・11層1/7のみ	
415	第67号土坑 No.1土器 (9層上面)	深鉢 (1/4周弱)	口: LR側圧 (隆帯上も・突起は口唇まで)・隆帯剥落/胴: RL.Rヨコ→結節Lタテ	ナデ	内焼けはじけ	
416	第67号土坑・6層	深鉢・口縁部	折り返し口縁・Lヨコ (*下の割れ口、粘土接合面からの剥離)	ナデ雑	吹きこぼれ・内スス	
417	第67号土坑・6層	深鉢・口縁部	口: LR側圧 (隆帯上も) / 胴: LRヨコ→結節Rタテ	ナデ	繊維・内ナデ工具痕	
418	第68号土坑・2層 (2/5)、6層 (3/5)	底 (2/3周)	胴: LRナメ/底～底面: ナデ	ナデ	胎土繊維混入	
419	第68号土坑・5層	深鉢・胴部	頸: 高い隆帯上LR側圧/胴: LRヨコ、ナメ	ナデ	胎土繊維・外スス	
420	第68号土坑・6層	深鉢・口縁部	LR側圧 (馬蹄形に近いもの)	ナデ	胎土繊維混入	
421	第68号土坑・6層	深鉢・口縁部	R側圧 (隆帯上も)・隆帯剥落	ナデ丁寧	外面スス付着	
422	第68号土坑・6層	深鉢・口縁部	口: R側圧/胴: LRヨコ、ナメ (*下の割れ口、粘土接合面からの剥離)	ナデ	胎土繊維・外スス	
423	第68号土坑・7層	深鉢・口縁部	L側圧 (隆帯上も・貼付文上は口唇部まで・馬蹄形も)	ナデ雑	胎土繊維・外スス	
424	第68号土坑・7層	深鉢・口縁部	口唇: LRヨコ/口: LR側圧	ナデ	繊維・外スス、内摩耗	

第141図 縄文土器(39)



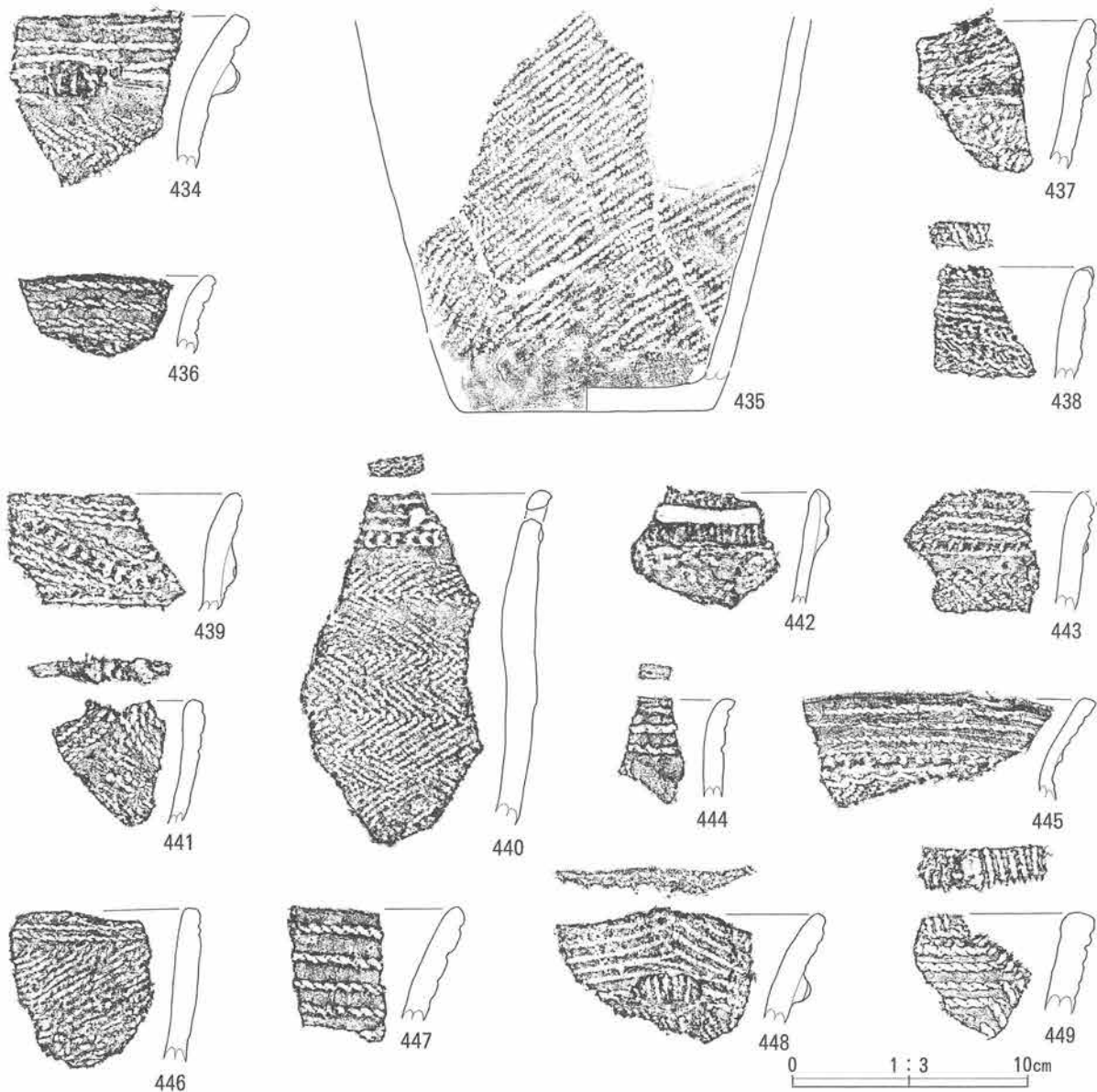
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
425	第68号土坑・7層	深鉢・口縁部	LRヨコ	ミガキ		
426	第68号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口：R側圧／頸：LR？側圧／胴：RLヨコ	摩耗	外面スス付着	
427	第69号土坑 No.1土器(21層?)ほか	深鉢(1/2周以下)	突起//口～頸：LR側圧・縦隆帯・隆帯上深め刺突/胴：単軸絡IA(L)タテ	ナデ	繊維・外上中心スス	p.205
428	第69号土坑 No.1土器(21層?)ほか	深鉢(底4/5周)	口唇～口：LR側圧/頸：高め隆帯上刺突?/胴：L+結節Rタテ/底面：ナデ	ナデ?	繊維・外二次焼成、スス	p.205

第142図 縄文土器(40)



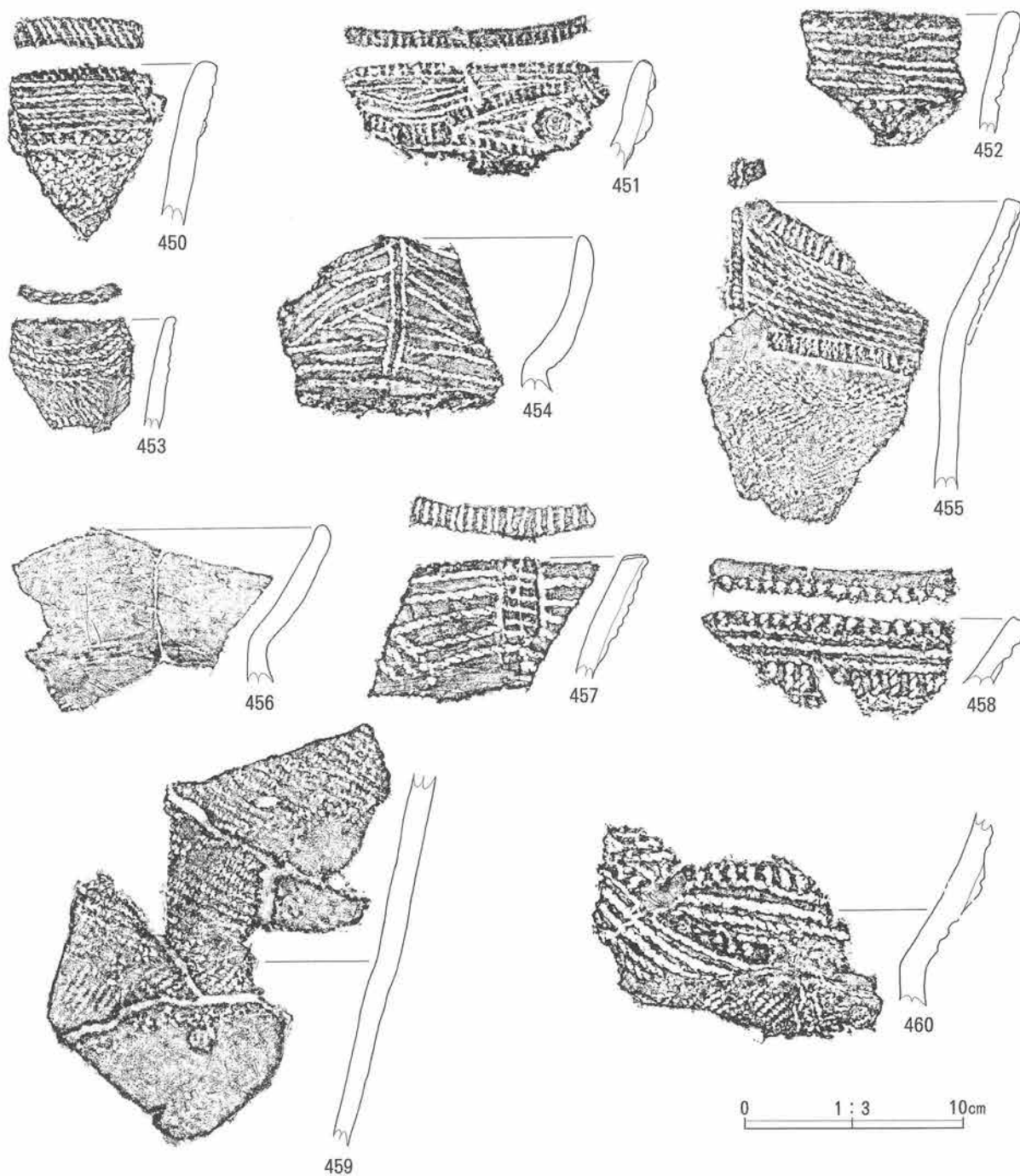
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
429	第69号土坑 Na3土器(26層上面) ほか	深鉢(1/3周)	口縁突起2種4単位・口~頸隆雪状//口:貼付文+LR側圧/胴:LRヨコ→結節Rクテ	ミガキ	胎土繊維・外面スス	p.205
430	第69号土坑 Na2土器	深鉢(1/2周弱)	口唇:RLヨコ?(摩擦)/口:LR側圧/頸:LR側圧?/胴:RL、LRヨコ	ミガキ?	繊維・外スス・内外たぐれ	p.205
431	第69号土坑 Na4土器(24層)	底部(一周)	結束1種(LR+附加条R?、RL)ヨコ→底部~底面ミガキ	ナデ	胎土繊維混入	
432	第69号土坑 Na4土器(24層)	深鉢・胴部	結束1種(LR、RL)ヨコ *外面摩耗	ミガキ	胎土繊維、海綿骨針?	
433	第69号土坑 Na4土器(24層)	底部(1/2周)	RLヨコ→底部~底面ミガキ?	ミガキ?	胎土繊維混入	p.205

第143図 縄文土器(41)



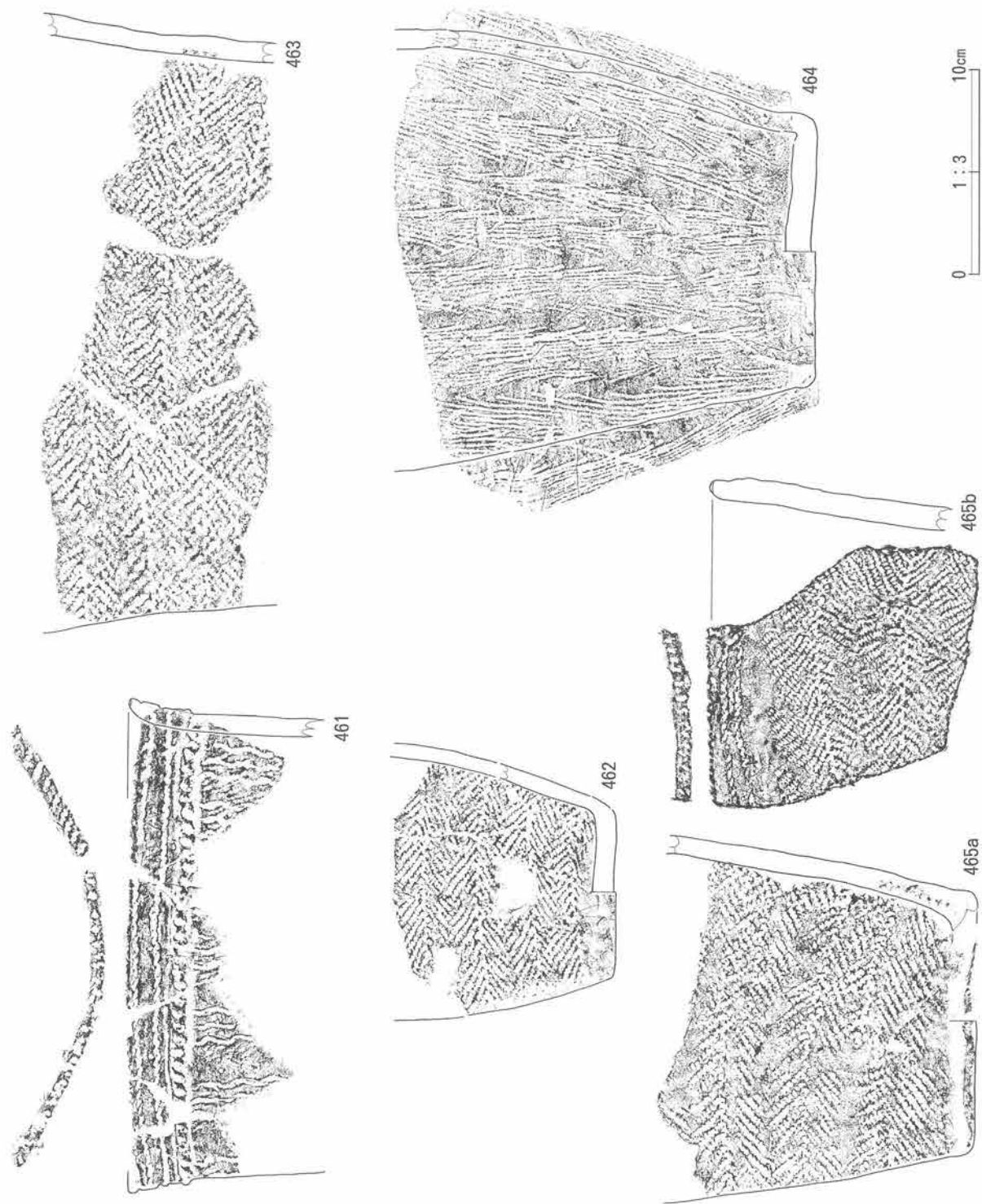
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
434	第69号土坑 No.2土器の裏	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:LRタテ?	ミガキ?	胎土繊維・内外面スス	
435	第69号土坑 No.2土器の裏、24相当層	底部(底のみ一層)	LRヨコ→底部~底面ミガキ?	ナデ	繊維・内スス・外二次焼成	p.205
436	第69号土坑 No.2土器脇	深鉢・口縁部	LR側圧	ミガキ?	胎土繊維混入	
437	第69号土坑 No.2土器脇	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:隆帯/胴:RLヨコ?	ナデ	外面黒	
438	第69号土坑・25層相当層	深鉢・口縁部	口唇~口縁:LR側圧/頸:低い隆帯に半截竹管状工具による押し引き刺突列/胴:R?+結節Rヨコ	ミガキ?	胎土繊維混入	
439	第69号土坑・25層相当層	深鉢・口縁部	LR側圧	ミガキ?	胎土繊維混入	
440	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口唇:LR?ヨコ/口:LR側圧/頸:半截竹管状工具による刺突列/胴:結束種(LR, RL)ヨコ	ミガキ?	繊維・補修孔・外スス	p.205
441	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口縁:L側圧/胴:Lタテ	ナデ	胎土繊維混入	
442	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	隆帯上に側圧?、外面摩耗、剥落ひどく不明	ナデ?	胎土繊維、海綿骨針?	
443	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口:RL側圧/頸:低い隆帯に刻目/胴:RLヨコ?	ナデ	胎土繊維混入	
444	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口:LR側圧/胴:斜縄文?	ナデ	内面スス	
445	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:低い隆帯に半截竹管状工具による刺突列/胴:LR+結節Rヨコ	ミガキ	胎土繊維・外面スス	
446	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:Lヨコ	摩耗	胎土繊維混入	
447	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	LR側圧	ミガキ?	胎土繊維混入	
448	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口:R側圧/胴:LRタテ	ナデ	胎土繊維・外面スス	
449	第69号土坑 半截時	深鉢・口縁部	口唇~口縁:L側圧	ナデ	胎土繊維混入	

第144図 縄文土器(42)



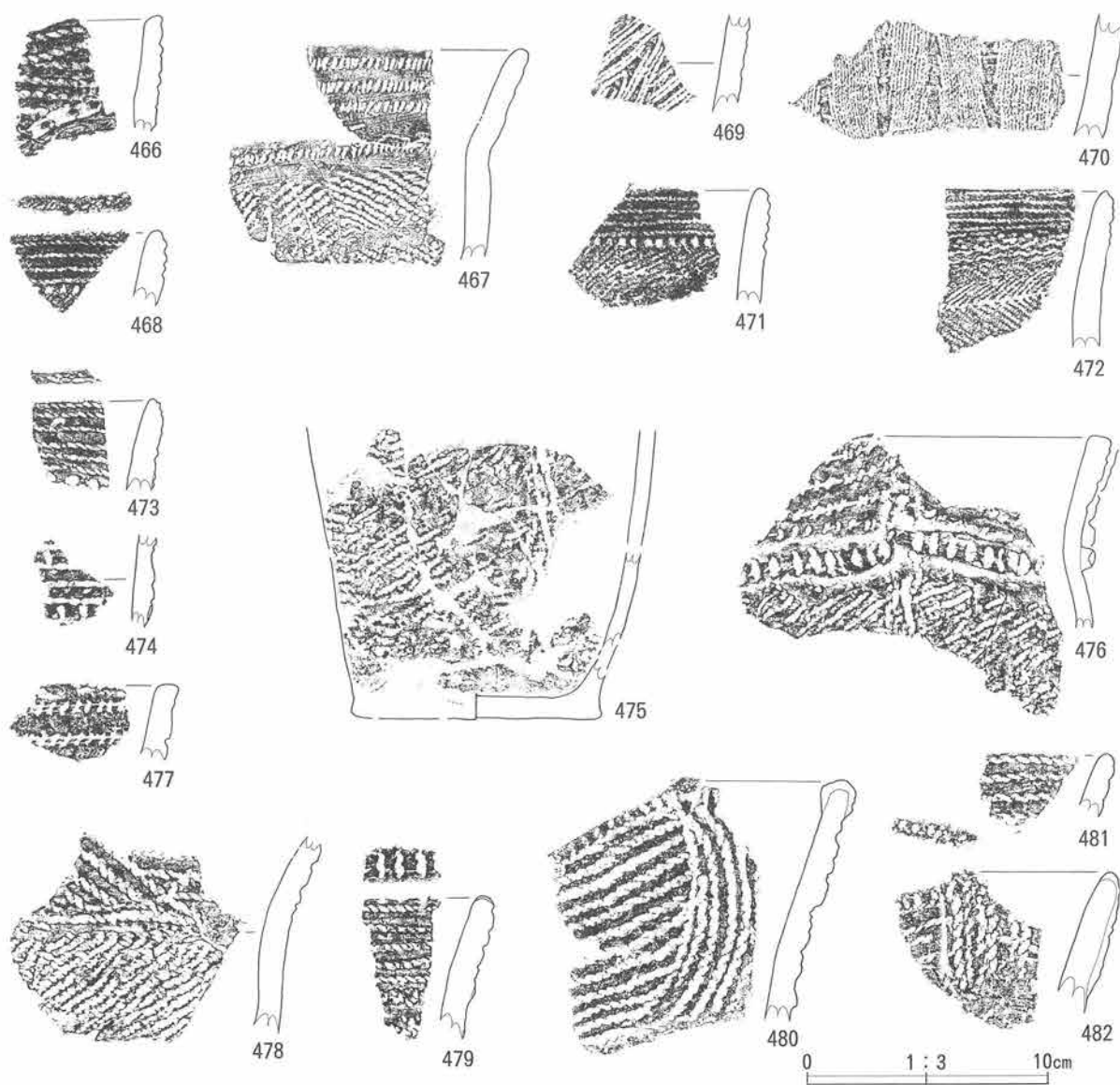
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
450	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口縁:LR側圧/皿:低い隆帯に?の押圧、隆帯下ヨコナデ/胴:RL+結節L?ヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	
451	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口縁:LR側圧/胴:LRヨコ?	ナデ	胎土繊維・外面スス	
452	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	L側圧列の上下に深い竹管状突起列	ナデ?	外吹きこぼれ、内面上摩耗	
453	第69号土坑 半裁時	口縁部	口唇:Lヨコ?(摩耗)/口:L側圧/胴:Lタテ	ナデ		
454	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ?	外面スス付着	
455	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口縁最上部隆帯状//口:LR側圧/胴:LRヨコ	ミガキ	繊維・外下スス	p.205
456	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	(雑なナデ)	ミガキ?	繊維・外面スス	
457	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇~口縁:LR側圧	ミガキ?	胎土繊維混入	
458	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	内外スス付着	
459	第69号土坑 半裁時	深鉢・胴部	結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ	繊維・一部摩耗ひどい	
460	第69号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:LRヨコ	ナデ?	外胴部スス付着	

第145図 縄文土器(43)



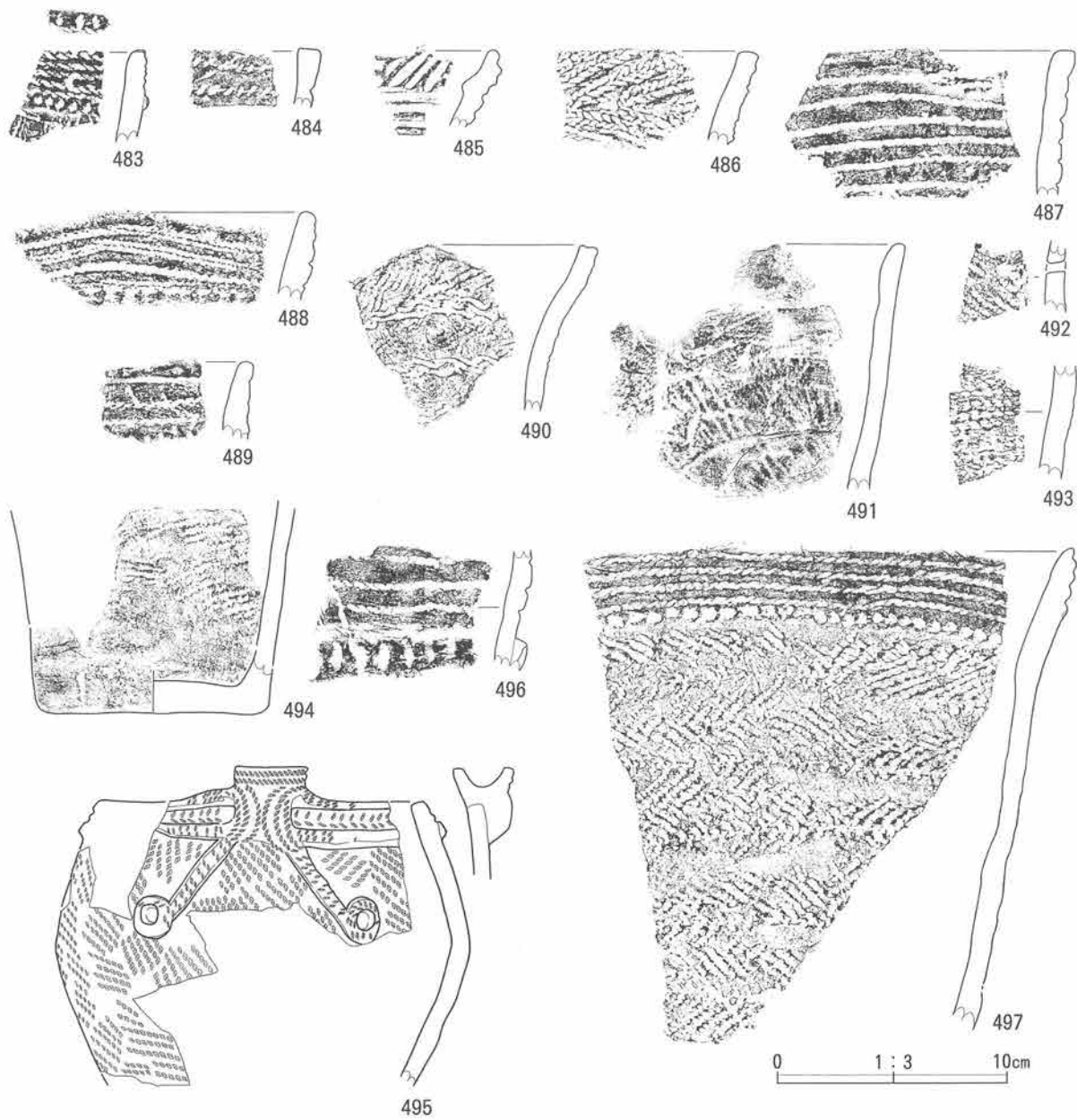
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文 記載
461	第69号土坑 半蔵時	深鉢(1/4周)	口唇~口: LR側圧/頸: 低降帯上C字刻目/RLヨコ??→結節Rタテ	ナデ	繊維・内面一部摩耗	
462	第69号土坑 半蔵時	深鉢(底のみ一周)	結束1種 (RL、LR) ヨコ→底部~底面ナデ	ナデ?	胎土繊維混入	
463	第69号土坑 半蔵時	胴部(1/4周)	結束1種 (LR、RL) ヨコ	ナデ	繊維・内面一部摩耗	
464	第69号土坑 半蔵時	底部(底のみ一周)	胴: 単軸絡1A (L) タテ/底部~底面: ナデ (*外面、胴二次變成、底スス付着)	ミガキ?	内面全面スス付着	
465 a	第69号土坑 半蔵時	底部(1/5周弱)	結束1種 (RL、LR) ヨコ (*下の割れ口、粘土接合面からの剥離)	ナデ	胎土繊維混入	
465 b	第69号土坑 半蔵時	深鉢・口縁部	口唇: LR?側圧/口: 無文地にLR側圧/胴: 口ナデ→結束1種 (RL、LR) ヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	

第146図 縄文土器(44)



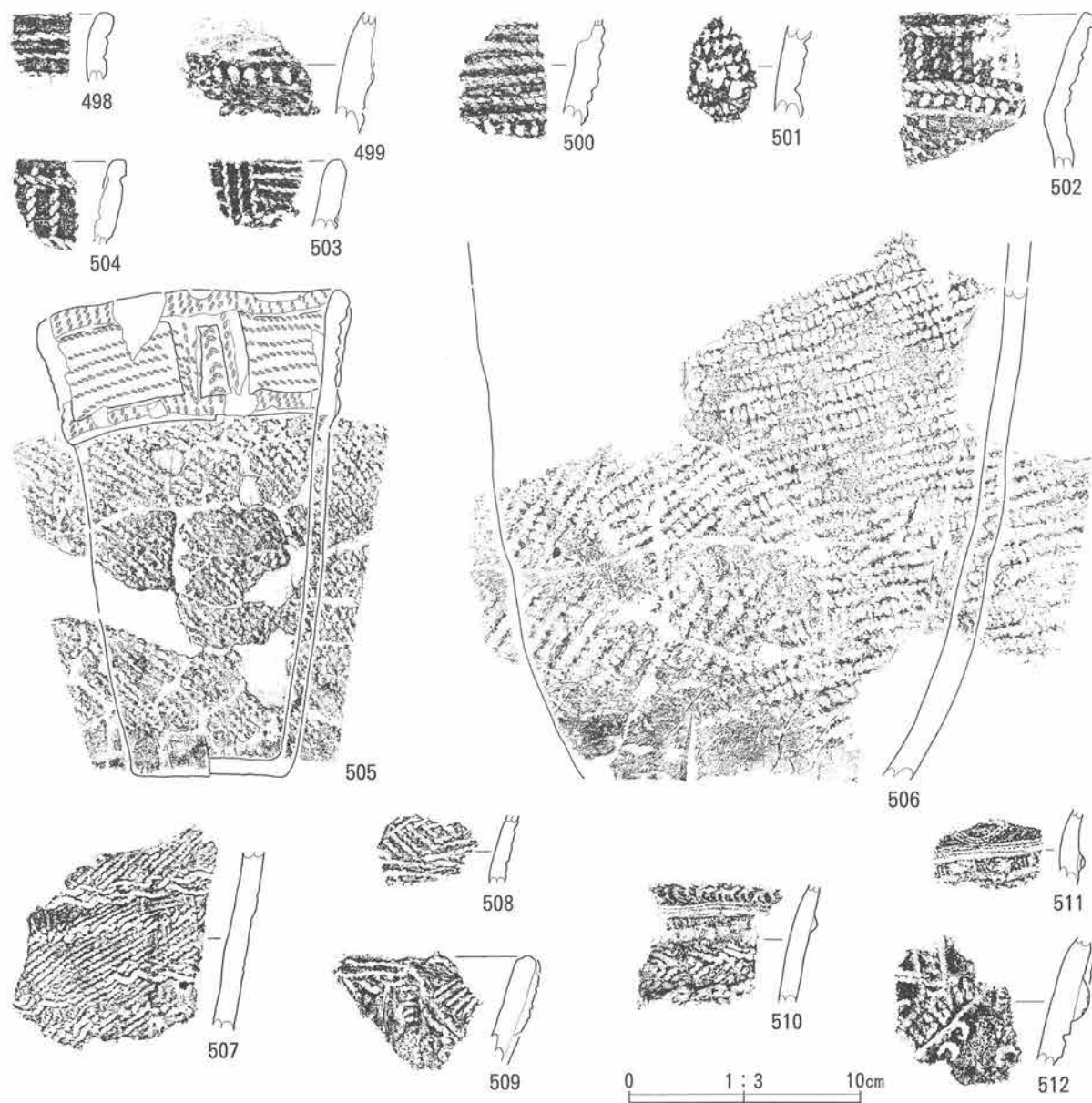
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
466	第70号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:半裁竹管状工具による押し引き刺突	ミガキ	胎土繊維混入	
467	第70号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:ナデ→単軸絡1(R)側圧/胴:LRヨコ、タテ	ナデ	胎土繊維混入	
468	第71号土坑・7相当層	深鉢・口縁部			胎土繊維・471と接合	
469	第71号土坑・10、11層	深鉢・胴部	単軸絡1A(RL、LR)タテ	ミガキ?	胎土繊維混入	
470	第71号土坑・10~11層	深鉢・胴部	単軸絡1A(L)タテ	ミガキ	胎土繊維混入	
471	第71号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:縦長、浅め刺突/胴:LRヨコ?→結節ヨコ??(不明瞭)	ナデ丁寧	繊維・468と接合	
472	第71号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:L?側圧/頸:低隆帯上刺突/胴:最上、結節Rヨコ、下結束1(LR、RL)ヨコ	摩耗	内外摩耗	
473	第71号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇:RLヨコ/口:L側圧/頸:横からの深い刺突	ナデ丁寧	胎土繊維混入	
474	第72号土坑・2層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
475	第73号土坑・No1土器(9層下部~13層上面)	底部(底のみ一層)	胴~底:RLタテ、ナナメ→底部ナデ?/底面:ミガキ	ナデ		
476	第73号土坑・1層	深鉢・口縁部	口:高隆帯上LR?側圧・単軸絡1(R)側圧/胴:LRヨコ→結節LRタテ	ナデ丁寧	内外スス付着	
477	第73号土坑・2層	深鉢・口縁部	単軸絡1(R)側圧	摩耗		
478	第73号土坑・4層	深鉢・頸部	口:LR側圧/胴:LRヨコ	ミガキ		
479	第73号土坑・7層	深鉢・口縁部	口唇~頸:LR側圧(頸の低隆帯上も)/胴:RLRヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
480	第73号土坑・11層	深鉢・口縁部	口唇丸い粘土貼付による突起・LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
481	第73号土坑・15層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	繊維・内面スス付着	
482	第73号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も・口唇部も同じ原体?)	ナデ	繊維・外面スス付着	

第147図 縄文土器(45)



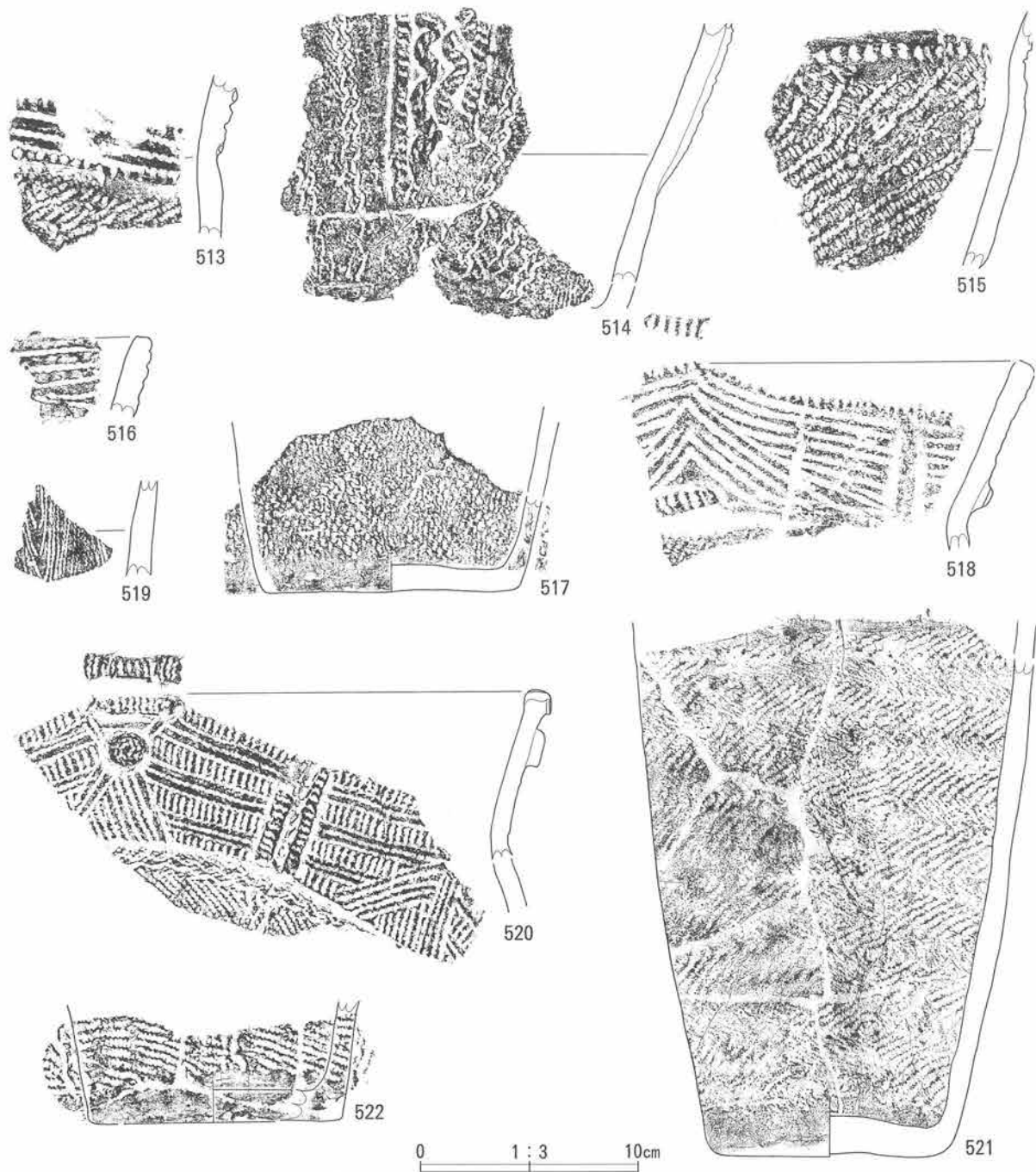
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
483	第73号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇〜口：LR側圧/頸：高め隆帯土刺突/単軸絡1A?タテ	ナデ丁寧		
484	第73号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	単軸絡1(R)側圧	ミガキ	外面スス付着	
485	第74号土坑	深鉢・口縁部	太く深い沈線	ナデ	外面スス付着	
486	第74号土坑	深鉢・口縁部	L、R側圧	ナデ	胎土繊維多い	
487	第75号土坑	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ/口：R側圧 (*口唇部、粘土接合面からの剥離)	ナデ	石、繊維・外スス	
488	第75号土坑	深鉢・口縁部	波状口縁//口：RとLR側圧/頸：横からの刺突列	ナデ	外面摩耗	
489	第75号土坑	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	繊維・外面摩耗	
490	第76号土坑	深鉢・口縁部	突起頂部押圧・LR+結節R?ヨコ	ナデ	繊維・外スス	
491	第76号土坑	(不明)	単軸絡1Aタテ?? (摩耗ひどく、不明)	摩耗	外スス・摩耗ひどい	
492	第77号土坑 (第4号隔し穴状遺構含む)	深鉢・口縁部	RLヨコ? (摩耗) (*胎土繊維、石含む)	ナデ	補修孔(両側から)	
493	第78号土坑	深鉢・胴部	黒こげで摩耗し不鮮明だが、RLRヨコ??	ナデ?	胎土繊維・黒こげ	
494	第79号土坑	底部 (2/3周以下)	LRヨコ?→底部ナデ/底面：ミガキ?	ナデ	胎土繊維多・底面スス	
495	第79号土坑	鉢? (2/3周以下)	口縁、隆帯上LR側圧/胴：RLRヨコ、隆帯端タテ、ナメ (突起帯局部隆帯剥落)	ミガキ	突起下横に貫通してない	
496	第79号土坑	深鉢・口縁部	口：LR側圧/頸：高い隆帯にLR側圧	ナデ	内外全面スス付着	
497	第80号土坑・No1土器 (3層上面)	深鉢 (1/4周弱)	口：R側圧/頸：半裁竹管状工具による刺突列/胴：結束1 (RL、LR) ヨコ	ただれ	繊維・外全面スス	

第148図 縄文土器(46)



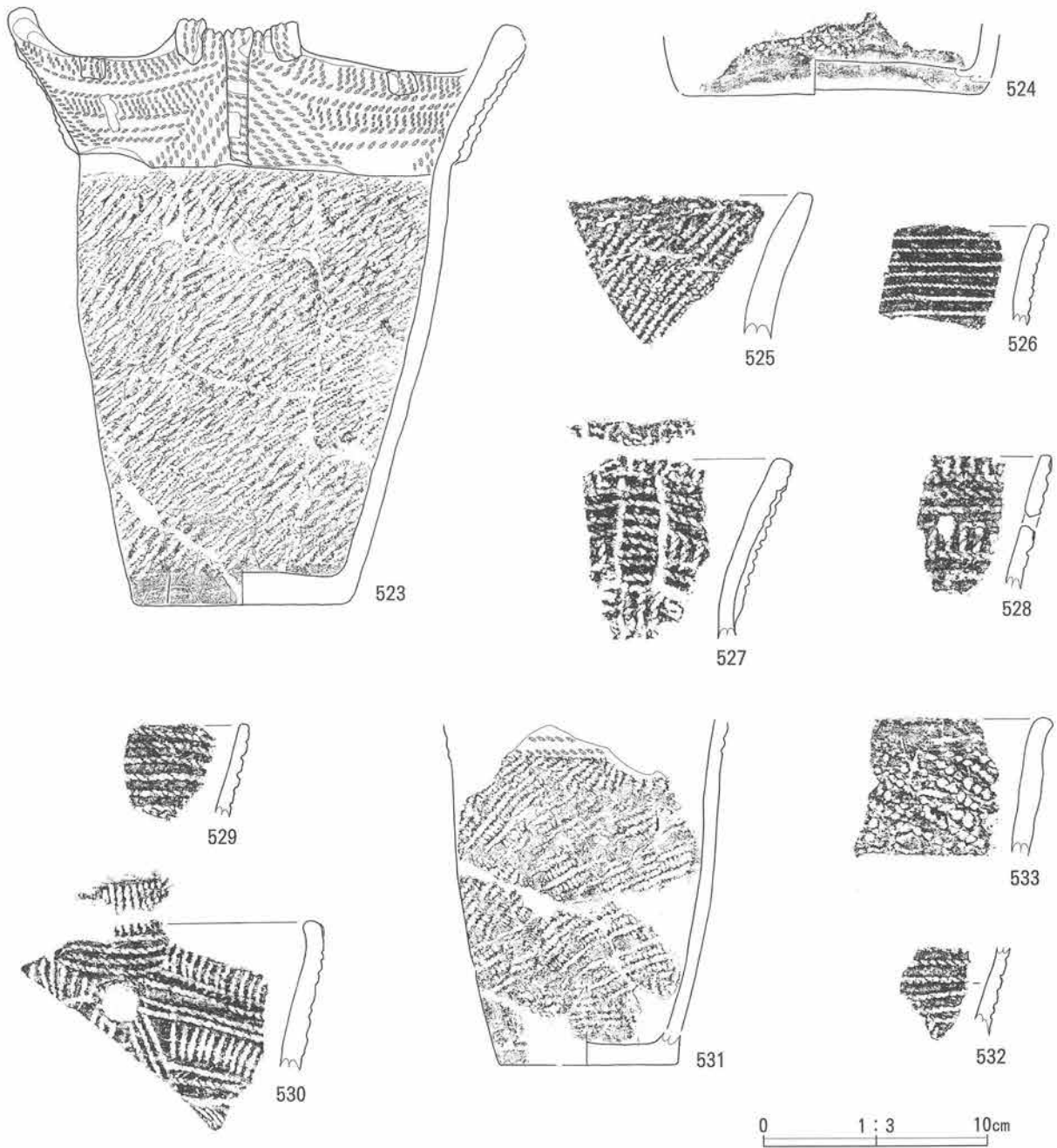
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
498	第80号土坑・2層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
499	第80号土坑・4層相当層	深鉢・頸部	(* 摩耗ひどく不明だが、頸部は刺突?列・下割口粘土接合面から剥離)	摩耗	繊維・718と同一?	
500	第80号土坑・4層相当層	深鉢・口縁部	口:L?側圧/頸:刺突列(* 摩耗ひどい)	摩耗	内外摩耗・717と同一?	
501	第80号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(R)側圧?/頸:深い刺突/胴:LRヨコ	ナデ		
502	第80号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:RLRヨコ?	摩耗	外面全面スス・外剥落	
503	第80号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧・竹管状工具による深い刺突列	ミガキ?	胎土繊維混入	
504	第80号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	外スス・内面剥落	
505	第81号土坑・No.1土器(2層上面)・1層鉢(胴一部・一周)		口:L側圧(隆帯上も)/胴:RLヨコ/底:ナデ/底面:ミガキ?	ただれ	外面スス、二次焼成で赤	p.205
506	第81号土坑・No.2土器(3層上面)ほか	深鉢(1/4周以下)	LRヨコ、ナメー底部ナデ(歪み・他に、1層下部か3層上面1/5出土)	ナデ	胎土繊維・外スス	
507	第81号土坑・2層	深鉢・胴部	LRヨコ→結節(R)ヨコ	ナデ	内面全面スス	
508	第81号土坑・5層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	外スス	
509	第81号土坑 北壁出し	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	外スス	
510	第82号土坑・17層相当層	深鉢・頸部	口:R、L(馬蹄形も)側圧/頸:高め隆帯上側圧/胴:LR?+結節(?)ヨコ	ナデ	外面スス、やや摩耗	
511	第82号土坑・22層相当層?	深鉢・頸部	口:R、L側圧/頸:高め隆帯上側圧(原体不明)	ナデ丁寧	外スス、やや摩耗	
512	第82号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	L側圧(高い隆帯上も・馬蹄形押圧も)	ナデ	外スス、隆帯剥落	

第149図 縄文土器(47)



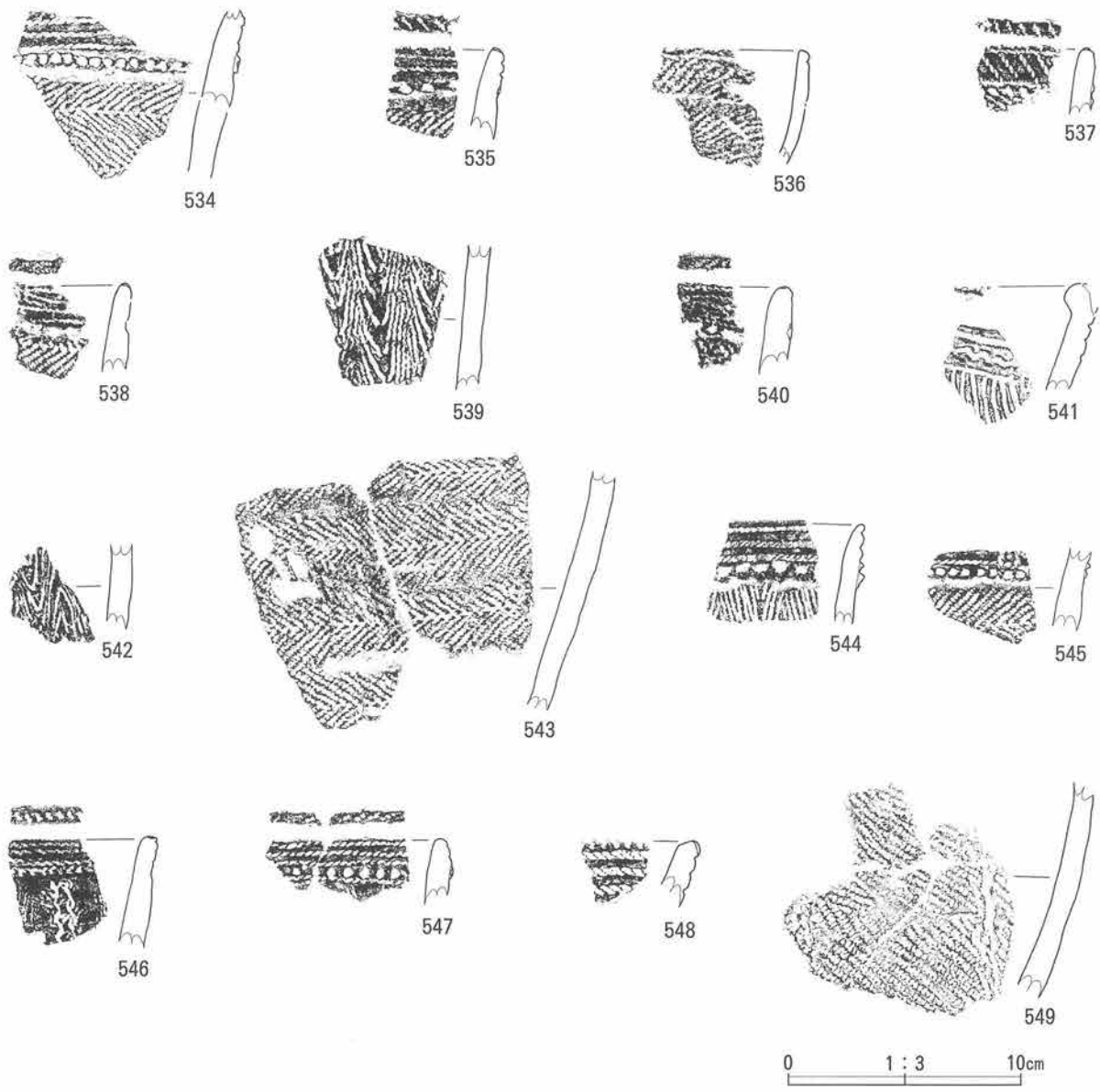
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
513	第82号土坑 半裁時	深鉢・頸部	口：L側圧／頸：深い刺突列／胴：LRヨコ	ナデ	内外摩耗	
514	第82号土坑 半裁時	鉢 (1/3周以下)	高め隆帯上L側圧・隆帯下LR+結節Rタテ (*歪んでいて径出せない)	ただれ	外隆帯剥落・内お焦げ	
515	第82号土坑 半裁時	深鉢・胴部	頸：C字形刻目／胴：LRヨコ	ミガキ	外上、内下スス	p.205
516	第82号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
517	第83号土坑 2層?	底部 (一周ない)	RLRヨコ→底部～底面ミガキ	ナデ	胎土繊維砂混入	
518	第83号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇：側圧? (摩耗) / 口：単軸絡1押圧?・貼付文上側圧? / 胴：LRヨコ?	ミガキ	繊維・外面スス、摩耗	
519	第84号土坑 1層	深鉢・胴部	単軸絡1A (R、L) タテ	ミガキ?	胎土繊維混入	
520	第85号土坑 No.1 (8層上面? 残した土器)	口縁部 (1/4周以下)	口：LR側圧 (突起頂部は口唇まで・隆帯上も) / 胴：RLRヨコ→結節Rヨコ、タテ	ナデ丁寧	胎土繊維・外スス	p.205
521	第85号土坑 No.1, 社器 (8層上面、社器 (6-7層) ほか)	胴～底部 (一周)	結束1種 (LR、R) ヨコ→頸ナデ、底～底面ミガキ	ナデ?	外面スス、内面ただれ	p.205
522	第85号土坑 No.2土器 (6層)	深鉢・底部	胴：LRタテ→底部ナデ/底面：ミガキ	ナデ		

第150図 縄文土器(48)



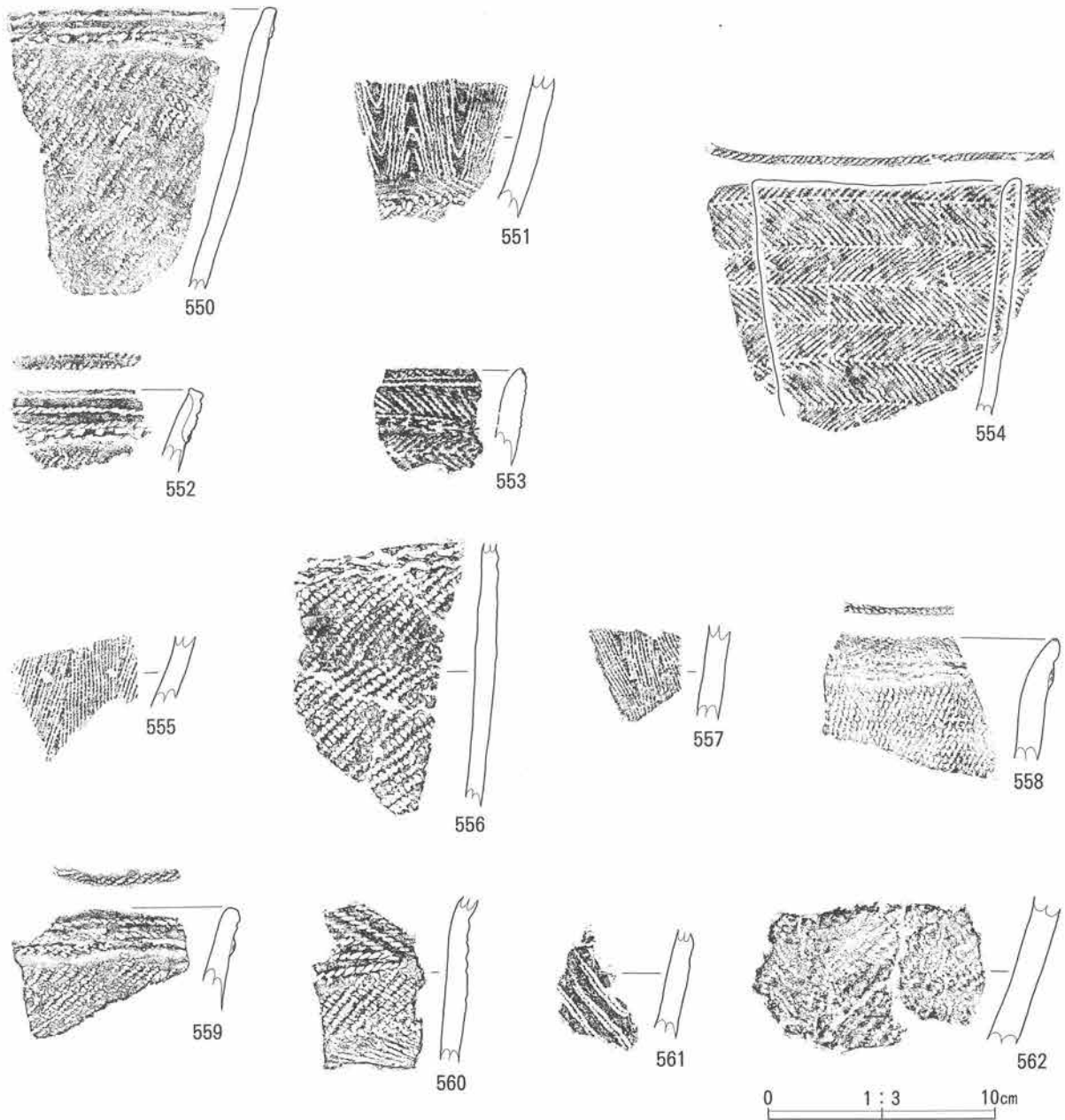
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
523	第85号土坑 No.2土器(6層)	深鉢(口一部欠)	4単位//口:長い=RL、短い=LR(貼付上も、突起間は口唇も)側圧/胴:LLヨコ	ナデ	繊維・吹きこぼれ	p.205
524	第85号土坑 No.5土器(9層)	底部(一周)	LRタテ→底~底面ミガキ	ミガキ?	外面スス付着	
525	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	LRヨコ	ミガキ	外スス、やや摩耗	
526	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	L側圧 (*吹きこぼれ)	ナデ	繊維・内お焦げ	
527	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	LR側圧(低め隆帯上も・摩耗して不明瞭だが、突起口唇部も?)	ナデ	胎土繊維、石・外スス	
528	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	吹きこぼれ・補修孔	
529	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	LR側圧	摩耗	胎土繊維・外スス	
530	第85号土坑・4~7層	深鉢・口縁部	口:LR側圧(突起口唇部も)・ボタン状貼付文剥落?(窪み)/胴:Rヨコ?	ナデ?	繊維・内面やや摩耗	
531	第85号土坑・8層上面?、半裁時	鉢(底のみ一周)	口:LR側圧/胴:LRヨコ→底ナデ/底面:ミガキ//施文順:胴→口	ナデ	「半裁時」取り上げ1/3	
532	第85号土坑・9層	深鉢・口縁部	LR側圧	摩耗	外面スス付着	
533	第86号土坑・11層	深鉢・口縁部	LRタテ?	ケズリ??	胎土繊維、金雲母	

第151図 縄文土器(49)



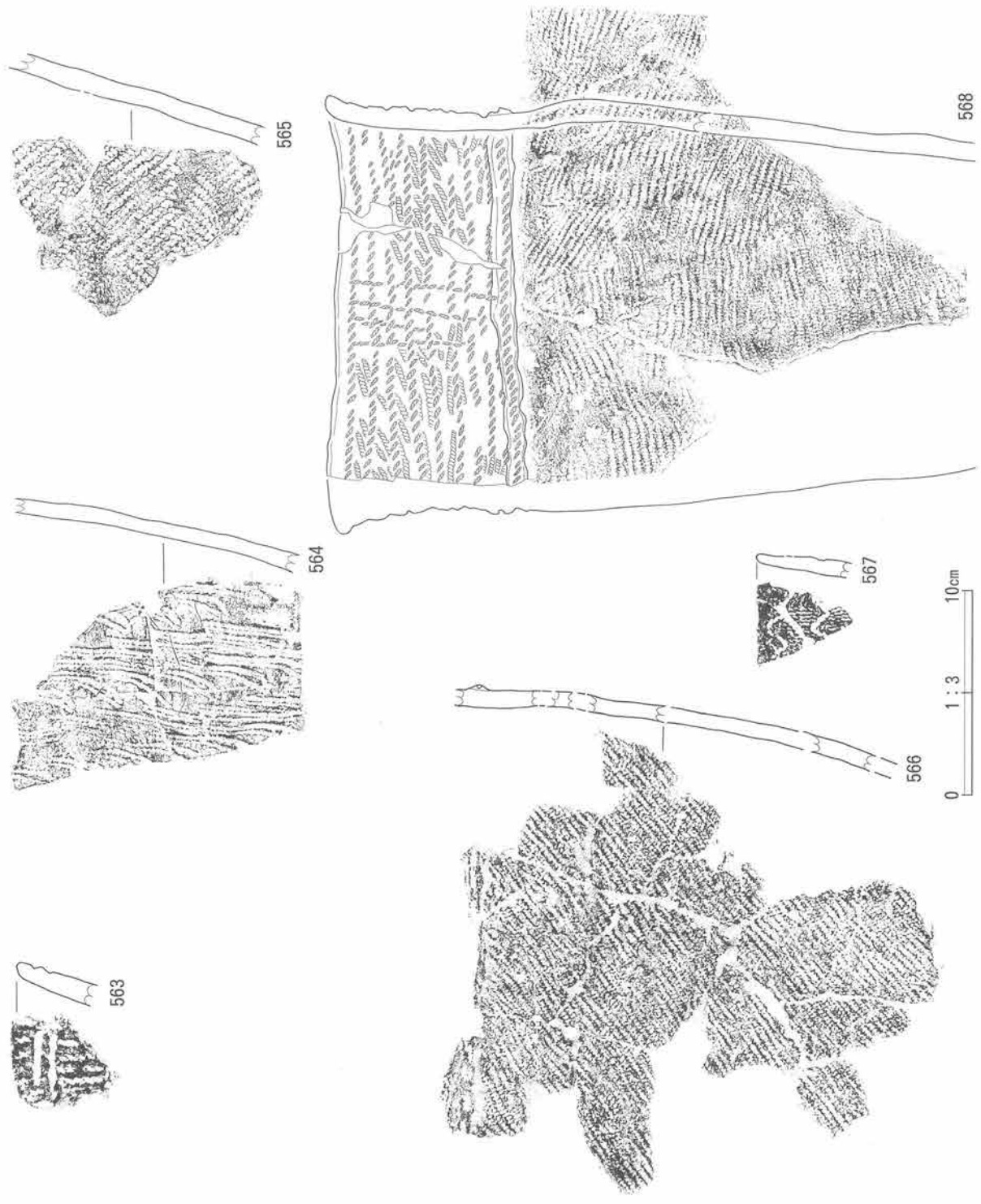
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
534	第86号土坑・12層	深鉢・頸部	口：R側圧／頸：低降帯上半裁竹管状刺突／胴：結束1種 (LR, RL) ヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
535	第86号土坑・12層	深鉢・口縁部	口唇～口：L側圧／頸：刺突／胴：LRヨコ	ナデ	吹きこぼれ	
536	第86号土坑・16層	小型鉢 (1/5周)	LRヨコ～口縁側圧? (原体不明) (*外、内口縁オレンジ、内胴黒)	ナデ	胎土繊維混入	
537	第88号土坑・1層	深鉢・口縁部	口唇～口：LR側圧／頸：LR側圧→深い竹管状工具による刺突	ミガキ?	胎土繊維混入	
538	第88号土坑・2、3層	深鉢・口縁部	口：LR側圧／頸：窪み (隆帯刺突?) / 胴：LRヨコ (*口唇斜縄文?)	ミガキ?	繊維・口唇摩耗	
539	第88号土坑・2、3層	深鉢・胴部	単軸絡1A (R, L) タテ	ナデ	胎土繊維混入	
540	第88号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコ? (摩耗) / 口：LR側圧／頸：竹管状刺突／胴：結束1種ヨコ?	ナデ光沢	繊維・外面摩耗	
541	第89号土坑・2層	深鉢・口縁部	細め深めの沈線	ナデ		
542	第89号土坑・2層	深鉢・胴部	単軸絡1A タテ	ナデ?	内外摩耗 (外特に)	
543	第89号土坑 半裁時	深鉢・胴部	結束1種 (LR, RL) ヨコ逆位交互に	ナデ	繊維・内整形痕明瞭	
544	第89号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口：R側圧／頸：高め隆帯上横から深い角棒状刺突／胴：単軸絡1A タテ	ナデ	外スス・内下ただれ	
545	第89号土坑 半裁時	深鉢・頸部	口：R側圧／隆帯上細く深い刺突／頸：低め隆帯上半裁竹管状刺突	ナデ丁寧	肩：結節 (LR, RL) ヨコ	
546	第89号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇：LR?側E/口：LR側圧／頸：C字形刺突／胴：単軸絡1 (L) ?、結節L? タテ	ミガキ?	繊維・外スス	
547	第89号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコ/口：R側圧／頸：低降帯上竹管状刺突／胴：結節タテ??	ナデ		
548	第90号土坑・4層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
549	第90号土坑・4層	深鉢・胴部	LR+結節R? タテ	ナデ	繊維・内下部黒	

第152図 縄文土器(50)



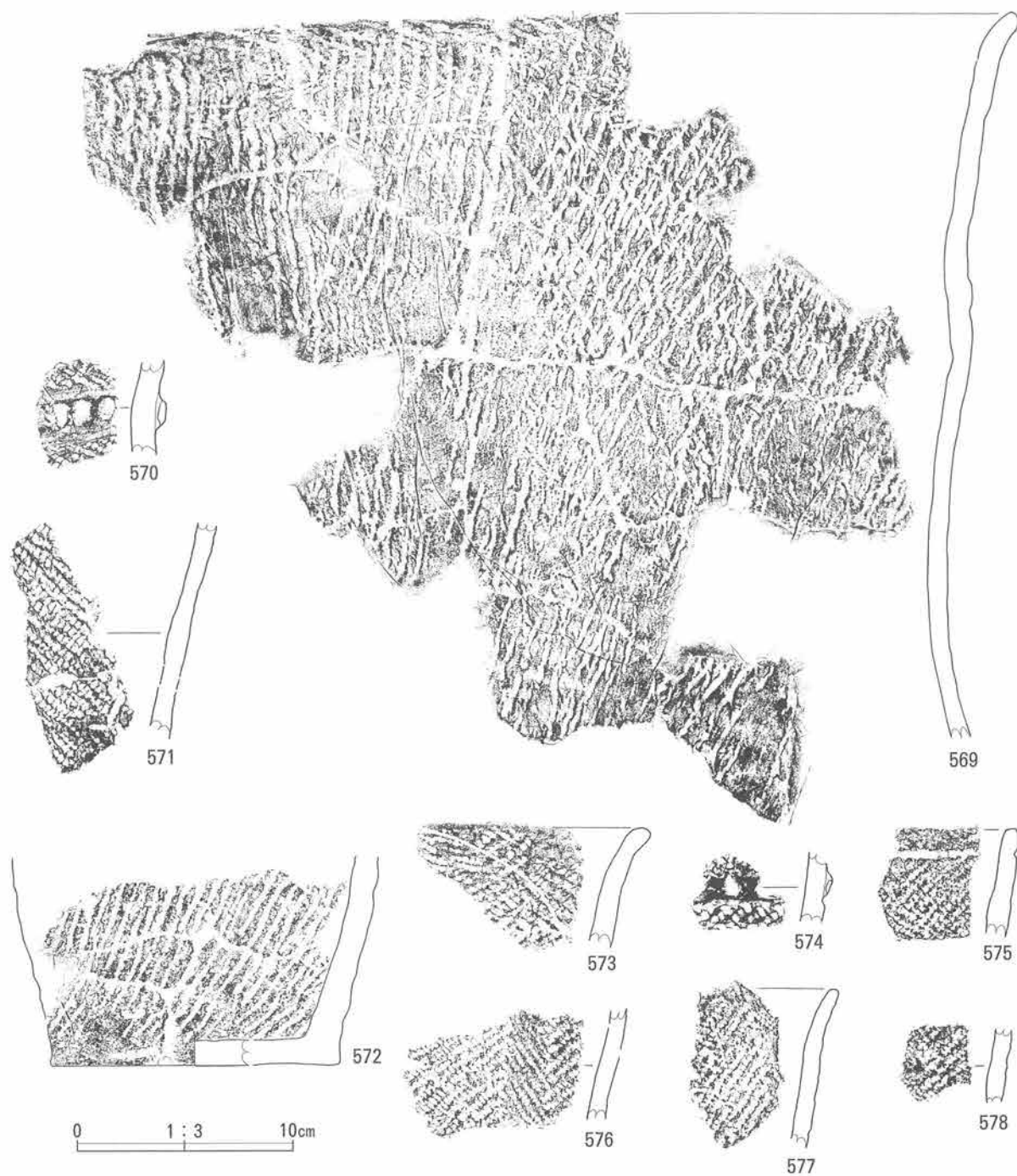
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
550	第90号土坑・11層	鉢(1/5周以下)	口：R側圧/頸：低隆帯上円形刺突/胴：LRヨコ	摩耗	繊維多・外全面スス	
551	第91号土坑 半裁時	深鉢・胴部	単軸絡1A (R, L) →ナデ→結束1種 (RL, LR) ヨコ	ナデ丁寧	胎土繊維混入	
552	第91号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	折り返し口縁/口唇：Lヨコ?/口：L側圧/頸：深い刺突別/胴：RLヨコ	ナデ光沢	胎土繊維・外スス	
553	第92号土坑・3、4層	深鉢・口縁部	口唇：一部RLヨコ/口：R側圧/頸：半裁竹管状刺突/胴：結束1 (L, R) ?ヨコ	ナデ丁寧	内外摩耗	
554	第92号土坑 半裁時	鉢(1/3周以下)	口唇：LRヨコ/口～胴：結束1種 (LR, RL) 逆位交互に施文	ナデ	胎土繊維混入	
555	第93号土坑 半裁時	深鉢・胴部	単軸絡1A (R, LR) タテ	ミガキ?	繊維・内面剥落	
556	第94号土坑 半裁時	深鉢・胴部	LRヨコ→結節Rヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
557	第95号土坑・1層	深鉢・胴部	単軸絡1A (R, L) タテ	ナデ	外スス、内面全面スス	
558	第95号土坑・1層	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコ?/口：L、単軸絡5 (R) 側圧/頸：低め隆帯上深い刺突	ミガキ	繊維・胴：多軸絡タテ	
559	第95号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	小波口縁/口～頸：LR側圧(頸の高め隆帯上も)/胴：LRヨコ	ミガキ	胎土繊維・外スス	
560	第95号土坑 半裁時	深鉢・頸部	口：R側圧/胴：結束1種 (LR, R) ヨコ	ナデ	繊維・内外スス	
561	第97号土坑 半裁時		*図化後、紛失したため、写真もなし。		*図化後、紛失	
562	第99号土坑 半裁時	深鉢・胴部	LRヨコ?→結節(原体不明) タテ(*外面摩耗ひどく不明)	ナデ	繊維・内面お焦げ	

第153図 縄文土器(51)



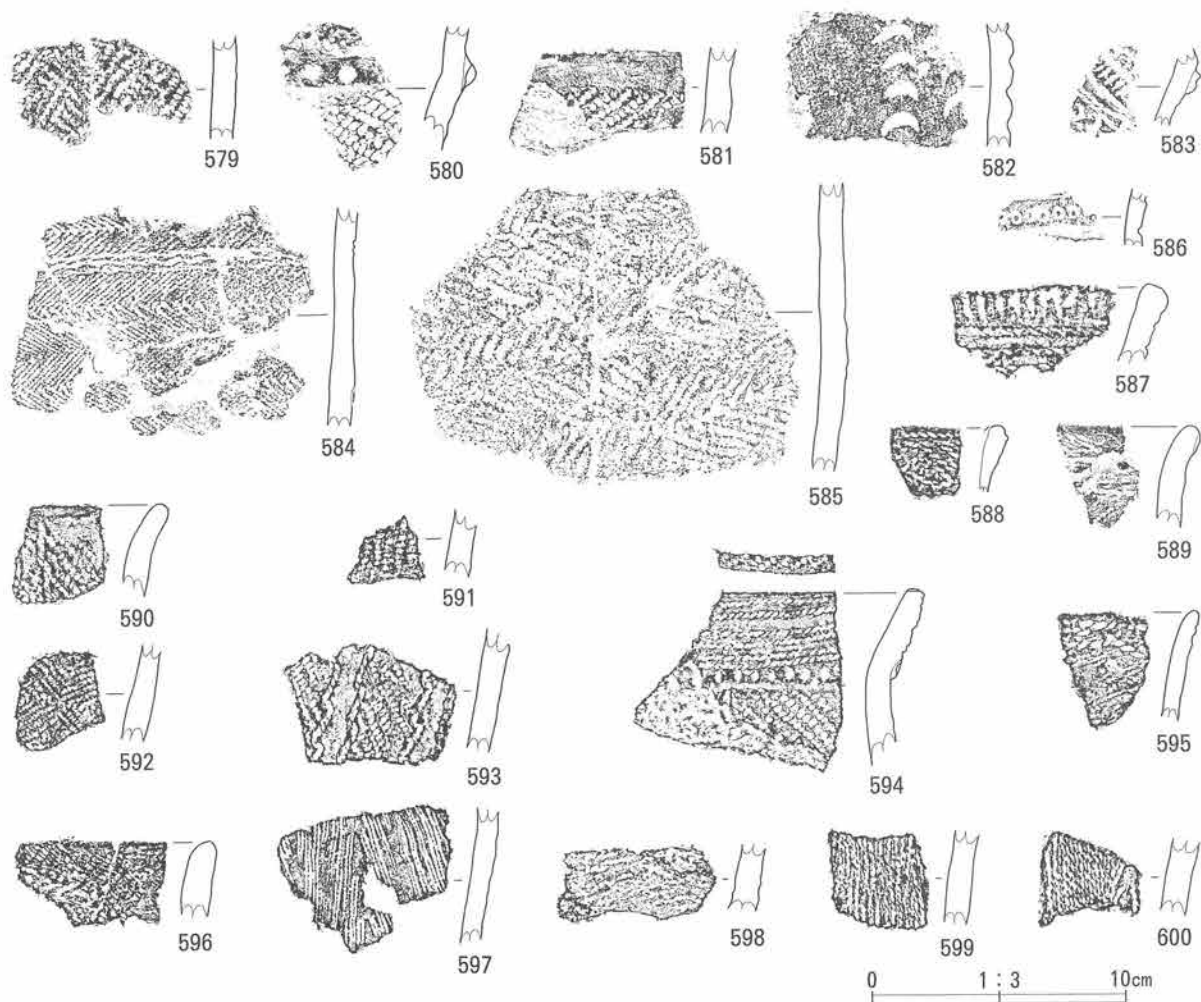
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
563	第100号土坑 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	外面やや摩耗	
564	第101号土坑・3層	深鉢・胴部	単軸絡1A (R) ? タテ (*同じ大きさの破片別にある)	ナデ	繊維多・外上スス、下赤	
565	第101~102号土坑	深鉢・胴部	結束1種 (RL、LR) ヨコ	ナデ	繊維・外スス、内全面スス	
566	第103号土坑・36層ほか	胴部 (1/5周以下)	頸: 低い隆帯上横引き刺突 / 胴: LRヨコ	ナデ	胎土石、繊維・外スス	p.206
567	第103号土坑・37層	深鉢・口縁部	単軸絡1A タテ?? → 結節Rヨコ	ただれ	繊維・外面全面スス	
568	第104号土坑・No.1、2土器 (32層下) ほか	深鉢 (1/2周以下)	口: LRナメ→LRたて→よこ側圧 / 頸: 高め隆帯→LR側圧 / 胴: LRヨコ、ナメ→結節Rナメ	ナデ (雑)	繊維・外脚張出部スス	p.206

第154図 縄文土器(52)



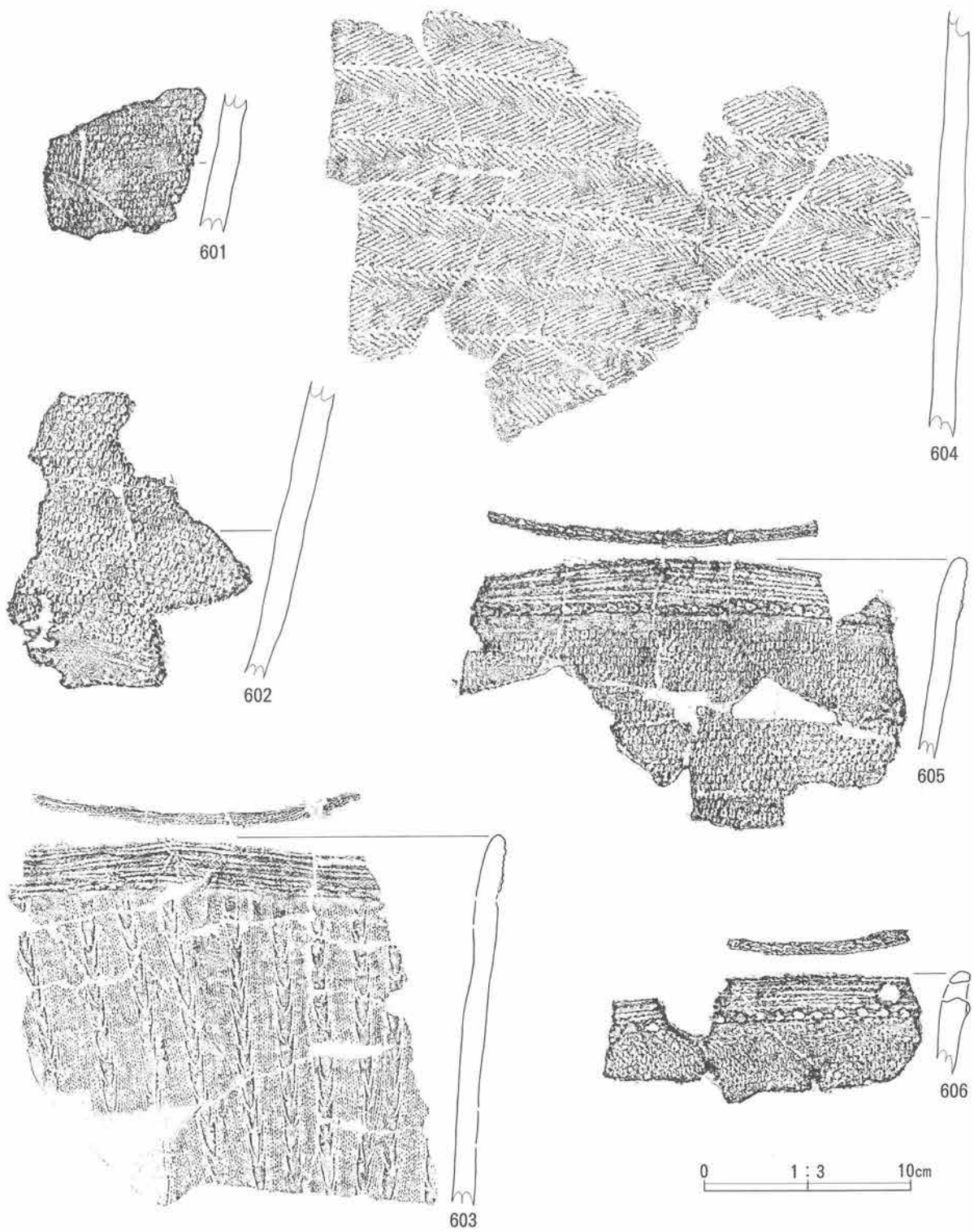
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
569	第104号土坑・No.3, 5~9 (3層上面) ほか	深鉢	縄巻縄文(LRにLを左巻きしたものをヨコに回転)?	指などで(雑)	胎土繊維多・外面スス	p.206
570	第104号土坑・30層	深鉢・頸部	頸高め隆帯(強い押印)・口結束1(LR, RL)ヨコ?、胴LRタテ?→隆帯沿いナデ	ナデ	胎土繊維混入	
571	第104号土坑・30層	深鉢・胴部	RLヨコ→結節Rタテ	ただれ	胎土繊維・外スス	
572	第104号土坑・30層ほか	底部(1/3周以下)	胴:単軸絡1(R)ナナメ/底部~底部:ナデ	ナデ	繊維・内面一部摩耗	p.206
573	第104号土坑・32層	深鉢・口縁部	LRヨコ→RLナナメ?	ナデ	胎土繊維混入	
574	第104号土坑・32層	深鉢・頸部	頸:高め隆帯に爪形状刻目/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
575	第104号土坑・34層	深鉢・口縁部	口:L?側圧/胴:LRヨコ→RLヨコ??	お焦げ多	吹きこぼれ・内縄文?	
576	第104号土坑・西側拡張30層?	深鉢・胴部	結束1種(RL, LR)タテ (*577と同一個体)	ナデ?	繊維多・内ただれ?	
577	第104号土坑・西側拡張30層?	深鉢・口縁部			576と同一個体	
578	第104号土坑・西側拡張30層?	深鉢・胴部	RLタテ	ナデ?	576と同一個体?	

第155図 縄文土器(53)



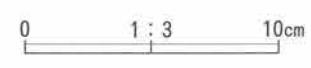
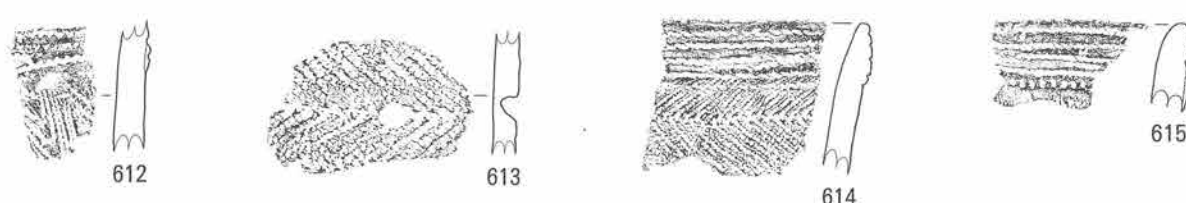
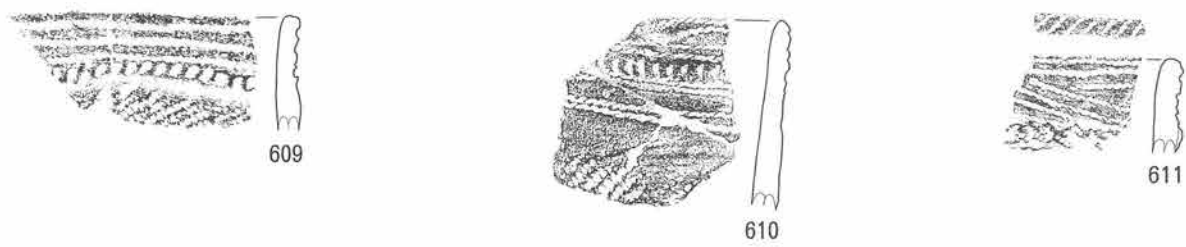
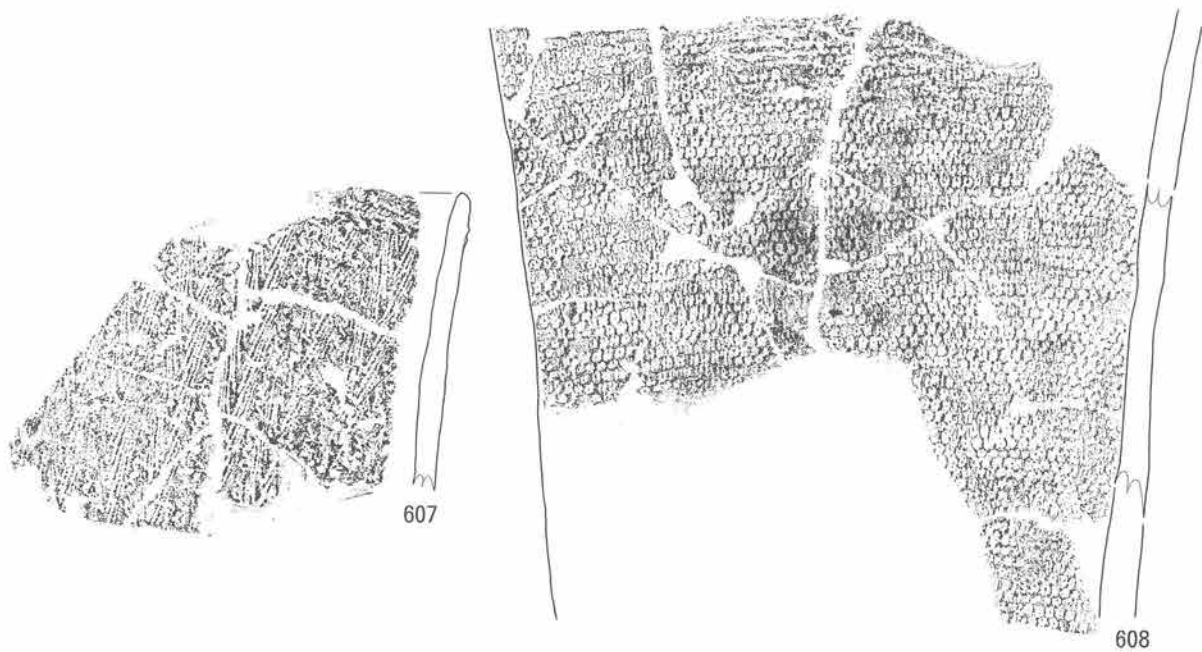
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
579	第104号土坑・西側拡張30層?	深鉢・胴部	LRタテ→RLタテ(結束1種?)	ただれ	576と同一個体?	
580	第104号土坑・西側拡張34層	深鉢・頸部	口:LRヨコ?/頸:高い隆帯上浅い押圧/胴:RLヨコ?	ナデ	胎土繊維混入	
581	第1号陥し穴状遺構	深鉢・頸部	頸:LR側圧・下ナデ/胴:LRヨコ(一部剥落)	ナデ	繊維・内やや摩耗	
582	第2号陥し穴状遺構・1層	深鉢・胴部	馬蹄形押圧(LR?)	ナデ	外面スス付着	
583	第2号陥し穴状遺構・4層?	深鉢・胴部	高めの隆帯上L?側圧・隆帯に沿ってR側圧・LR馬蹄形押圧	摩耗		
584	第2号陥し穴状遺構・4層?	深鉢・胴部	結束1種(RL, LR)ヨコ→結節(R)ヨコ	ナデ	外面摩耗ひどい	
585	第3号陥し穴状遺構	深鉢・胴部	結束1種(RL, LR)ヨコ→結節(R)ヨコ	ナデ	外面お焦げ付着	
586	第4号陥し穴状遺構(第77号土坑含む?)	深鉢・頸部	LR側圧・馬蹄形押圧(LR側圧?)	ナデ		
587	第5号陥し穴状遺構 半裁時	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
588	第6号陥し穴状遺構・1層	深鉢・口縁部	LR側圧	剥落		
589	第3号焼土とその周辺	深鉢・口縁部	口:R側圧(刀傷で不明瞭)?/頸:L側圧/胴:LRヨコ?	ナデ	胎土繊維多く含む	
590	第11~14号焼土と第6号跡のクリーニング時	深鉢・口縁部	RLヨコ?→結節R?タテ	ナデ	胎土繊維含む	
591	第12号焼土 焼土内	深鉢・胴部	LRタテ?	ナデ		
592	第12号焼土 焼土および周辺(半裁時)	深鉢・胴部	結束1種(LR, RL)ヨコ逆位交互に	ナデ	胎土石含む	
593	第12号焼土・焼土のある皿層	深鉢・胴部	RLヨコ?→結節Rタテ	ナデ	胎土繊維混入	
594	第15~21号焼土 クリーニング	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:R側圧/頸:低い隆帯上D字刺突/胴:LRタテ?	ミガキ	繊維・外面摩耗	
595	第15~21号焼土 クリーニング	鉢・口縁部	波状口縁/口:R側圧/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
596	第15~21号焼土 クリーニング	深鉢・口縁部	LRヨコ?	ナデ	胎土繊維混入	
597	第21号焼土 焼土およびカクラン	深鉢・胴部	単軸絡1A(R, L)タテ	ナデ	外スス、内面黒色	
598	第22号焼土・焼土下IV層	深鉢・胴部	RLナナメ?	ナデ	胎土繊維混入	
599	第29号焼土 クリーニング	深鉢・胴部	単軸絡1(R)?タテ	ナデ		
600	第32号焼土 焼土外	深鉢・胴部	単軸絡1Aタテ	ナデ	内面摩耗	

第156図 縄文土器(54)



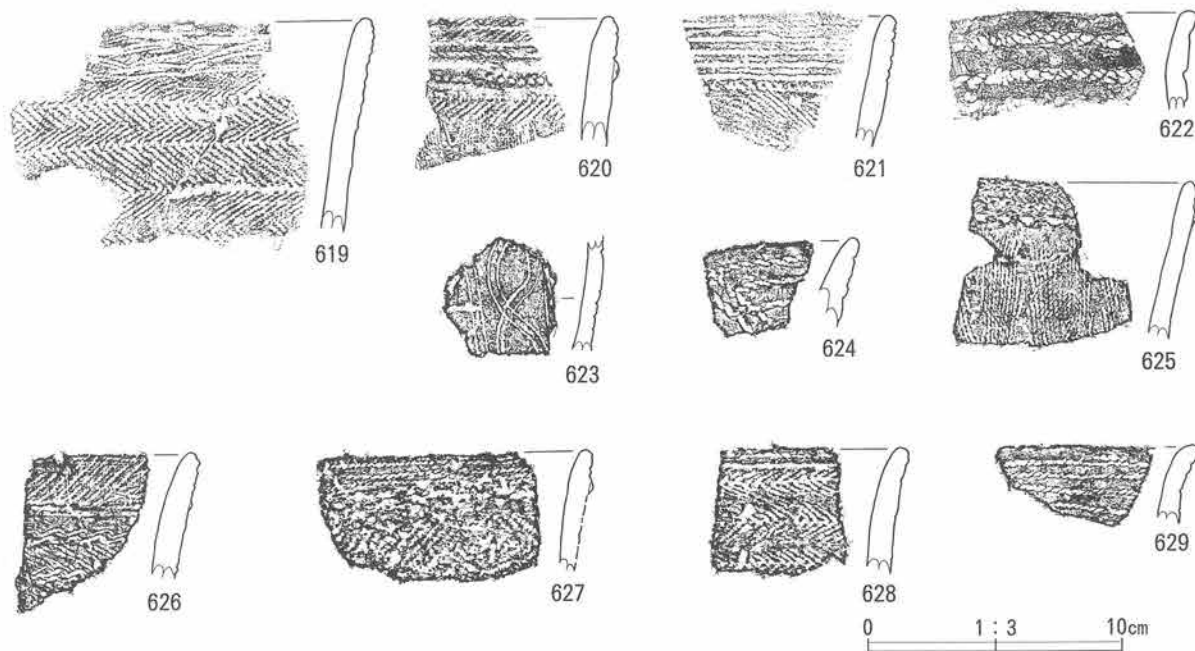
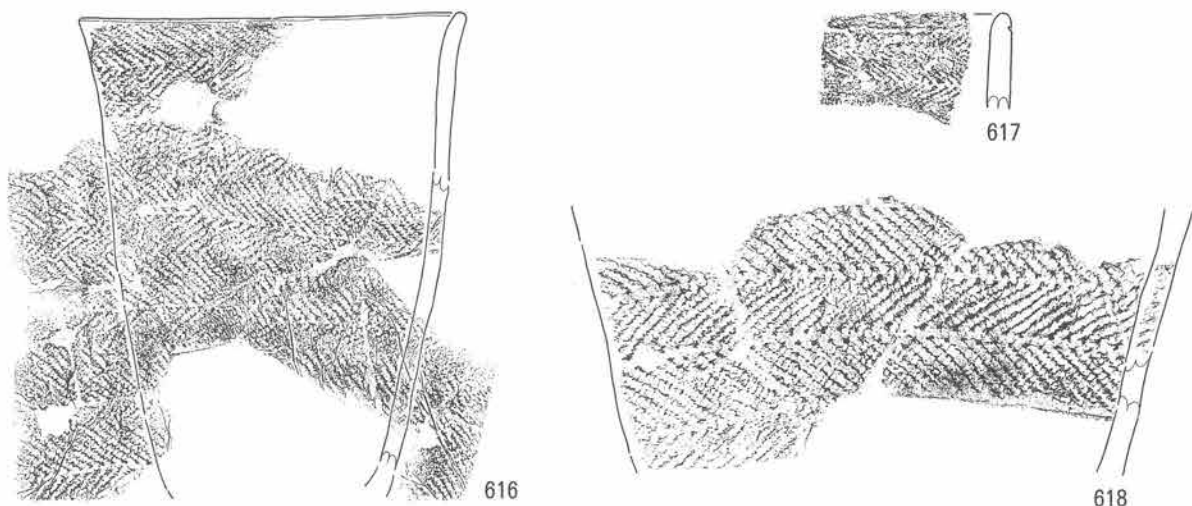
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
601	1D④・No.1土器	深鉢・胴部	多軸絡(?)タテ	ナデ	繊維・外摩耗・内スス	
602	1D④・No.1土器	深鉢・胴下部	胴:多軸絡(?)タテ/胴下部:LRヨコ→ナデ	ミガキ?	繊維・内面スス付着	
603	1D④・No.1土器	深鉢(1/5周)	口唇~口:L、R側圧/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ミガキ	繊維・内面黒色	
604	1D④・No.1土器、その下	深鉢・胴部	結束第1種(LR、RL)ヨコ(*外スス、赤く二次焼成、やや摩耗)	ナデ	繊維・内焼けはじけ	
605	1D④・No.1土器	深鉢(1/5周以下)			606と同一個体らしい	
606	1D④・No.1土器の下	深鉢・口縁部	口唇:多軸絡側圧?/口:単軸絡1(R?)とLR交互側圧/胴:多軸絡タテ	ミガキ	繊維・外や摩耗・内スス	p.206

第157図 縄文土器(55)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
607	1D④・No.1土器下	深鉢	□:単軸絡1(R)側圧/頸:低い隆帯に横から細い刺突/胴:単軸絡1Aタテ	ナデ	繊維・外々や摩耗・内スス	p.206
608	1D④土器集中区	胴部(1/3周弱)	多軸絡(?)タテ	ナデ	胎土繊維・内外面スス	
609	2C②・II層	深鉢・口縁部	□:L側圧/頸:刺突列/胴:LRヨコ	摩耗	繊維・外全面スス	
610	2C②・II層	深鉢・口縁部	□:R側圧・C字形爪形文?/胴:上無文、下LRヨコ	ミガキ	内面焼けはじけ、スス	
611	2C②・II層	深鉢・口縁部	口唇~口:L側圧/頸:低い隆帯上にRLヨコ→深い刺突列	ナデ丁寧		
612	2D①・II層	深鉢・口縁部	□:単軸絡5(R?)側圧・頸低い隆帯/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ナデ	胎土繊維・外スス	
613	2D①・III層	深鉢・胴部	RLR、LRヨコ (*補修孔、外側から開け、未貫通)	ナデ丁寧	繊維	
614	2D①・III層	深鉢・口縁部	□:LR側圧・頸低い隆帯状/胴:結束1種(LR+附加糸L、RL)ヨコ	ナデ	胎土繊維多、石含む	p.206
615	2D①・III層	深鉢・口縁部	□:L側圧/頸:高めの隆帯上に横からの深い刺突/胴:単軸絡1Aタテ?	ナデ	胎土繊維・外スス	p.206

第158図 縄文土器(56)



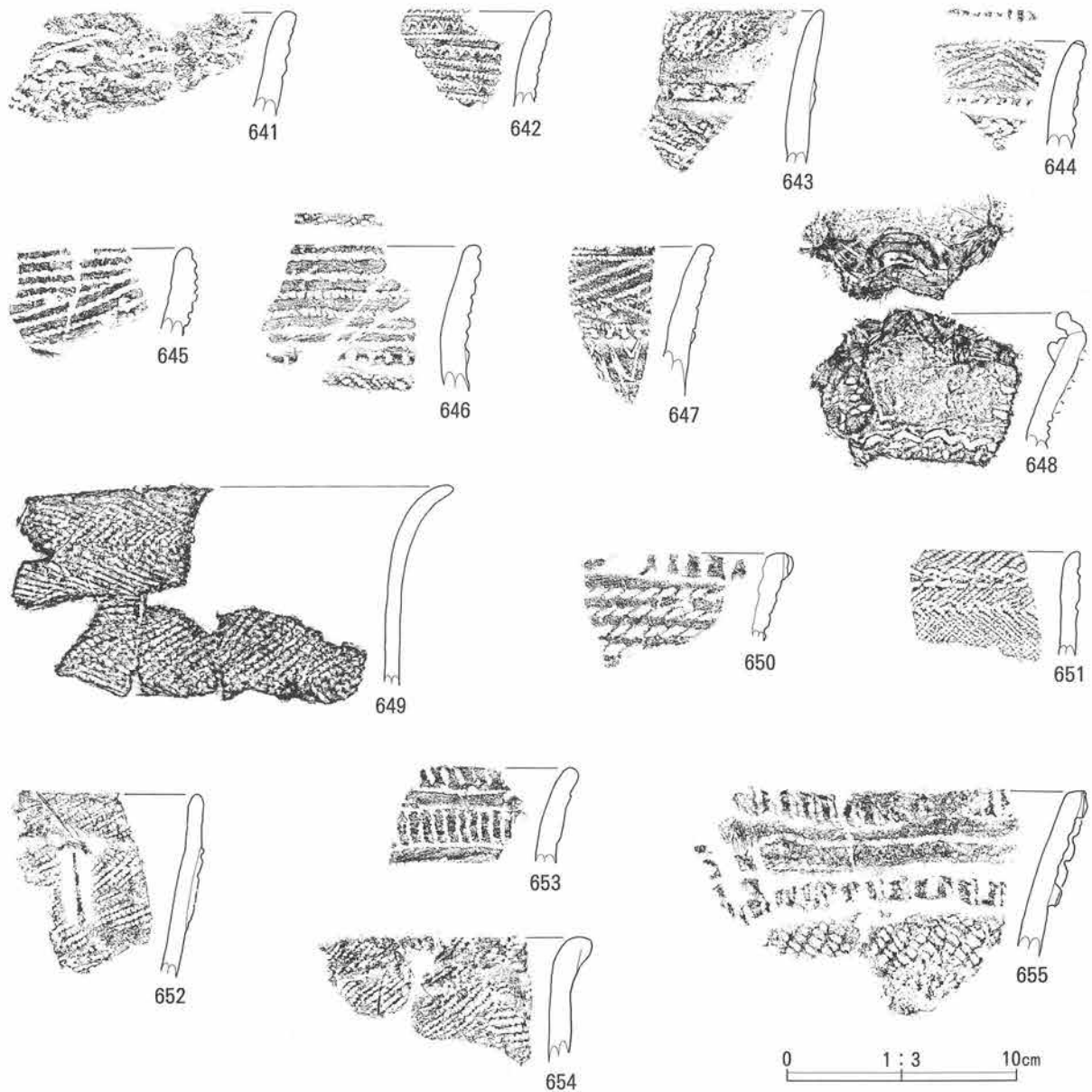
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
616	2D②・Ⅲ層	鉢(胴一周弱)	結束1種(RL, LR)ヨコ逆位交互 (外面スス上部)	ミガキ?	胎土繊維・内外面スス	
617	2D②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:斜縄文?/口:側圧(原体不明)/胴:結束1種(LR?, RL?)ヨコ	ただれ	外お焦げ、摩耗ひどい	
618	2D③・Ⅱ層	胴部(3/4周)	結束1種(RL, LR)ヨコ逆位交互 (*出土位置不明な破片あり)	ミガキ	外面二次焼成で赤い	
619	2D③・Ⅱ、Ⅲ層(*Ⅱ1/3、Ⅲ2/3)	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:結束1種(LR, RL)ヨコ	ナデ	繊維多・外スス	
620	2D③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ?/口:水平LR、斜めL側圧/頸:隆帯に深い刺突	ナデ	外面スス付着	p.206
621	2D③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突列/胴:RLヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
622	2D③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	RL側圧	ナデ	胎土繊維・やや摩耗	
623	2D③・包含層	深鉢・胴部	半裁竹管状工具による沈線	ただれ	内面全面スス付着	
624	2D③・包含層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
625	2D③拡張区・Ⅰ~Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:RL+結節R?ヨコ/頸:低隆帯上横から刺突/胴:単軸路1A(R, L)クテ	ナデ	胎土繊維・外スス	
626	2D③拡張区・Ⅰ~Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:低隆帯に沿って下R側圧/胴:R+結節L?ヨコ	ミガキ	胎土繊維・外スス	
627	2D③拡張区・Ⅰ~Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:隆帯剥落/胴:LR, RLヨコ(間摩耗、結束1種?)	摩耗	繊維・外スス・内外摩耗	
628	2D③拡張区・Ⅰ~Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:R側圧・上部欠損/胴:結束1種(LR, RL)ヨコ逆位交互に	摩耗	胎土繊維・外スス	
629	2D③・Ⅳ層-10cm	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	胎土繊維・外スス	

第159図 縄文土器(57)



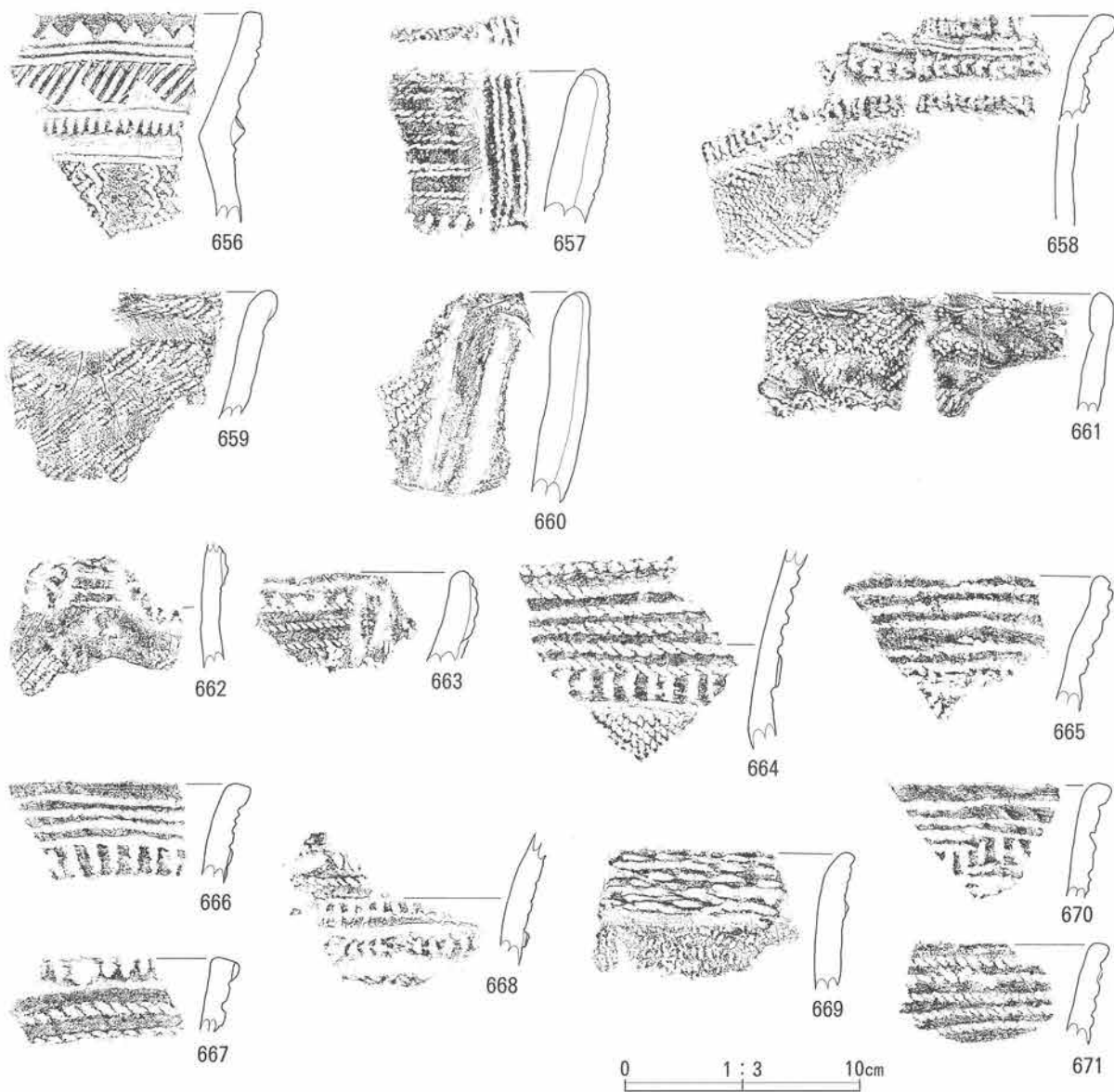
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
630	2D③・IV層-10cm	深鉢・頸部	頸: R側圧/胴: LR+結節Rヨコ	ナデ	繊維・内外ス付着	
631	2D④・II~III層上部	深鉢・口縁部	口唇: 細く深い刻目/口: LR側圧・横からの刺突/頸: 隆帯上に半裁竹管状刺突列	ナデ	胴: 多軸絡タテ	
632	2D④・II~III層上部	深鉢・口縁部	口: 単軸絡S? 側圧→横からの刺突/胴: LRタテ、ヨコ→結束 (R) ヨコほか	ナデ	繊維・刺突は横から	p.206
633	3C④・IV層-15cm	深鉢・口縁部	口: L側圧/頸: 刻目・L側圧/胴: RL?+結節R?ヨコ	ミガキ?	繊維・外面摩耗	
634	3D①・III層	深鉢・口縁部	口唇: 側圧? (摩耗) /口: LR側圧/胴: LRヨコ? (摩耗) (*内外摩耗)	ナデ	繊維・輪積痕・内ス	
635	3D①・III層	深鉢・口縁部	口唇: R側圧/口: 水平LR、垂直R側圧/頸: 側圧?/胴: LRヨコ?	ナデ	口~頸貼合わせ・外ス	
636	3D②・III層	深鉢・口縁部	口唇: LRヨコ?/口: LR側圧/頸: 高め隆帯に刺突/胴: 単軸絡S (R) タテ	摩耗	外面全面ス付着	
637	3D②・IV層-15cm	深鉢・口縁部	口: 単軸絡1 (?) 側圧/頸: C字形刺突/胴: 単軸絡1Aタテ	ただれ	外摩耗、内面ス	
638	4C④・III層	深鉢 (1/4周以下)	口: LRヨコ/頸: 隆帯上に押圧/胴: LR+結節Rタテ	ナデ?	繊維・内面ただれ	
639	4C④・IV層-10cm	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による押し引き沈線	摩耗	胎土繊維混入	
640	4D①付近 (拡張部分?、第18、20号土坑?)	深鉢・口縁部	口内面: LRヨコ/口: 羽状縄文 (LR、RLヨコ) /頸: 低い隆帯/胴: LRヨコ	ナデ	胎土小石、繊維含む	

第160図 縄文土器(58)



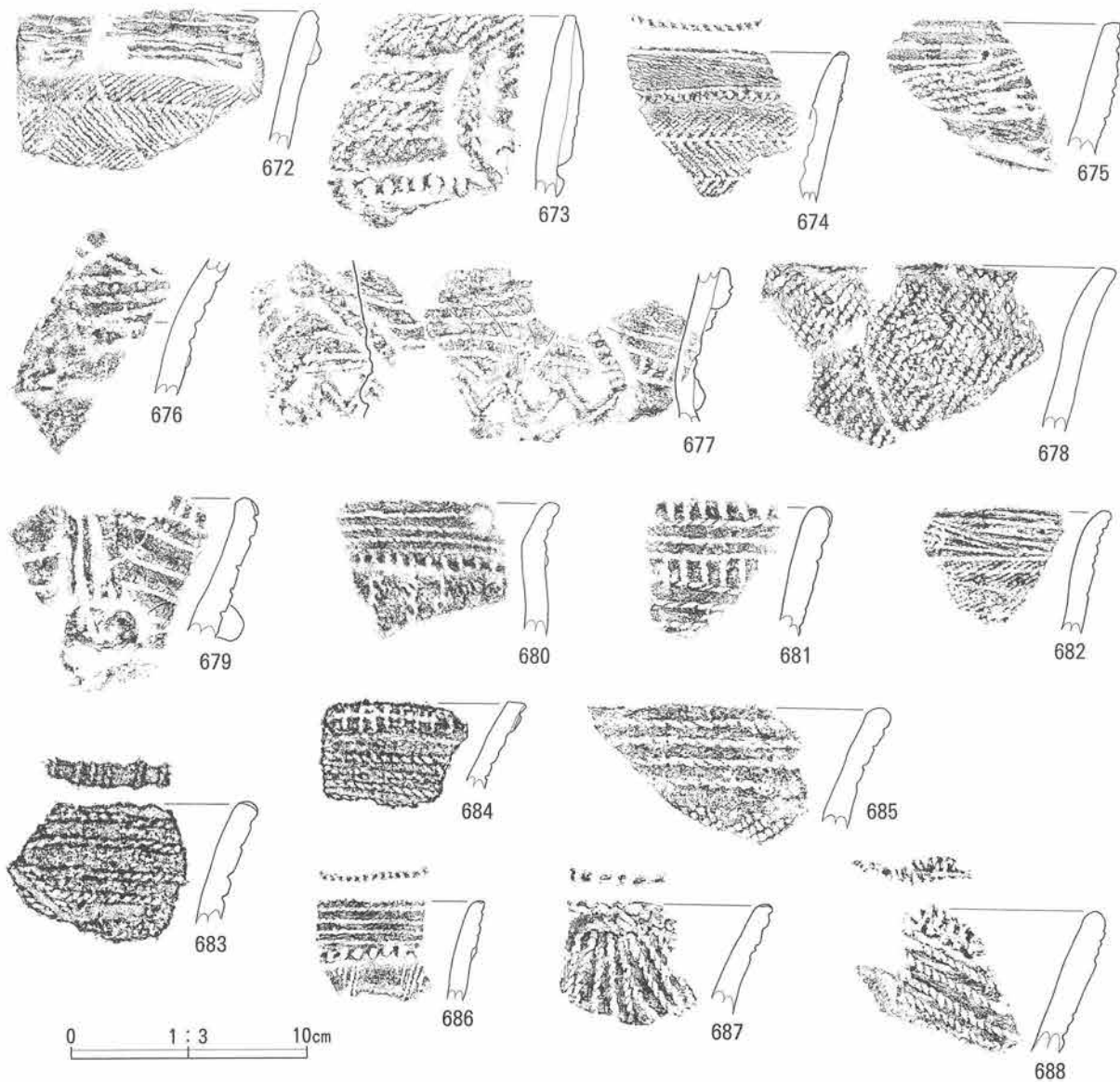
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
641	4D②・II層	深鉢・口縁部	結節(R)ヨコ	ナデ	粘土繊維・金雲母・外スス	
642	5C①・III層	深鉢・口縁部	単軸絡1(R)と単軸絡5(R)交互側圧	ナデ	粘土繊維・外スス	
643	5C③・III層	深鉢・口縁部	口:LRヨコ?/頸:太く低めの隆帯に側圧?/LRタテ	ただれ	繊維・外摩耗・内外スス	
644	5C④・II層	深鉢・口縁部	口唇~頸:LR側圧・隆帯(上半截竹管状刺突)上下も/胴:LR+結節Rヨコ?	ミガキ	粘土繊維混入	
645	5C④・II、III層(*ほぼ1/2ずつ)	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	粘土繊維混入	
646	5C④・III層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ?/口:L側圧/頸:低め隆帯にD字形彫文/胴:RLヨコ?	ミガキ	繊維	p.206
647	5C④・III層	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(R?)側圧/頸:低い隆帯に深い刺突/胴:単軸絡1Aタテ	ミガキ?		
648	5C③~④・IV層上面疑似現象	深鉢・口縁部	粘土継の高めの貼付(内面にも)・太く深めの沈線・刺突	ナデ	外スス・剥落	
649	5C③~④・IV層上面疑似現象	深鉢(1/5以下)	結束1種(LR、R)ヨコ	ナデ	繊維・内面黒く光沢	
650	6B④・II層	深鉢・口縁部	最上部隆帯・RL側圧(隆帯上も)	剥落	繊維・外隆帯剥落	
651	6B④・II層	深鉢・口縁部	口唇:斜縄文(厚減)?/LR+結節(R)ヨコ、その下RL+附加条Rヨコ	ナデ	繊維・頸部頃から深い刺突	
652	6B④・II層	深鉢・口縁部	折り返し口縁・LRヨコ・頸ワンポイント的隆帯	ナデ		
653	6B④・II層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	粘土繊維・外スス	
654	6B④・II層	深鉢・口縁部	口縁高い隆帯状・LRヨコ、ナナメ	ナデ	外吹きこぼれ	
655	6B④・II層	深鉢・口縁部	口:R側圧(隆帯上も)/胴:LRヨコ	ナデ	外吹きこぼれ	p.206

第161図 縄文土器(59)



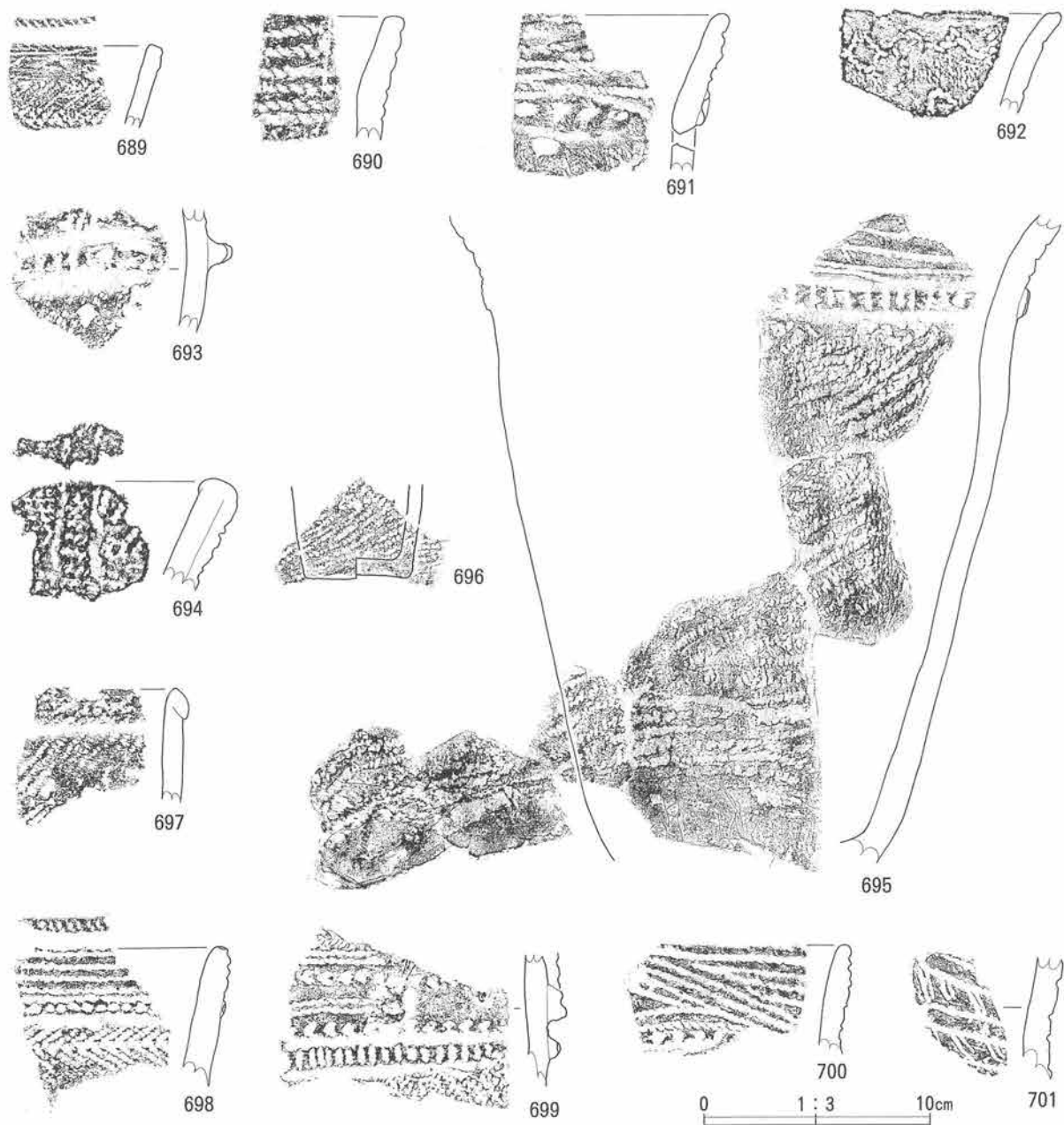
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
656	6B④・II層	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口:三角形部分深い彫り去り/胴:LR+結節Rタテ	ナデ丁寧	外吹きこぼれ	p.206
657	6B④・II層	深鉢・口縁部	口:隆帯以外口唇LRヨコ・R側圧(隆帯口唇も)/頸:刺突(側圧?)	ナデ	胎土繊維混入	
658	6B④・II、III層(*II層2/3、III層1/3)	深鉢・口縁部	口:LR側圧(隆帯上も)/胴:RLRヨコ、ナナメ	ナデ	胎土石混入	
659	6B④・III層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状・LRヨコ・頸部無文帯(縄文→ナデ)	ナデ	外吹きこぼれ	
660	6B④・III層	深鉢・口縁部	高めの隆帯・LRヨコ	ナデ丁寧	外面スス付着	
661	6C①・II層	深鉢・口縁部	内側に折り返し口縁・LR+結節Rヨコ(疎)	ナデ	繊維・輪積痕	
662	6C①・II層	深鉢・口縁部	口:LR側圧(隆帯上も)/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
663	6C①・II層	深鉢・口縁部	L側圧	ナデ	隆帯剥落	
664	6C①・III層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:RLヨコ	ナデ	外面スス付着	
665	6C①・III層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/胴:LRヨコ(*口縁貼り合わせにより成形)	ナデ	外吹きこぼれ	
666	6C①・III層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ丁寧	胎土繊維混入	
667	6C①・III層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状・LR側圧	ナデ	胎土繊維・外スス	
668	6C①・III層	深鉢・口縁部	口:LR側圧(隆帯上も)・隆帯下無文/胴:LRヨコ?	ナデ	外面スス付着	
669	6C①・III層	深鉢・口縁部	口~頸:横からの刺突(低い隆帯上も)・隆帯下無文/胴:多輪格タテ?(摩耗)	ナデ	胎土繊維、石混入	
670	6C①・III層	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口:LR側圧	ミガキ		
671	6C①・III層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	繊維・外スス、摩耗	

第162図 縄文土器(60)



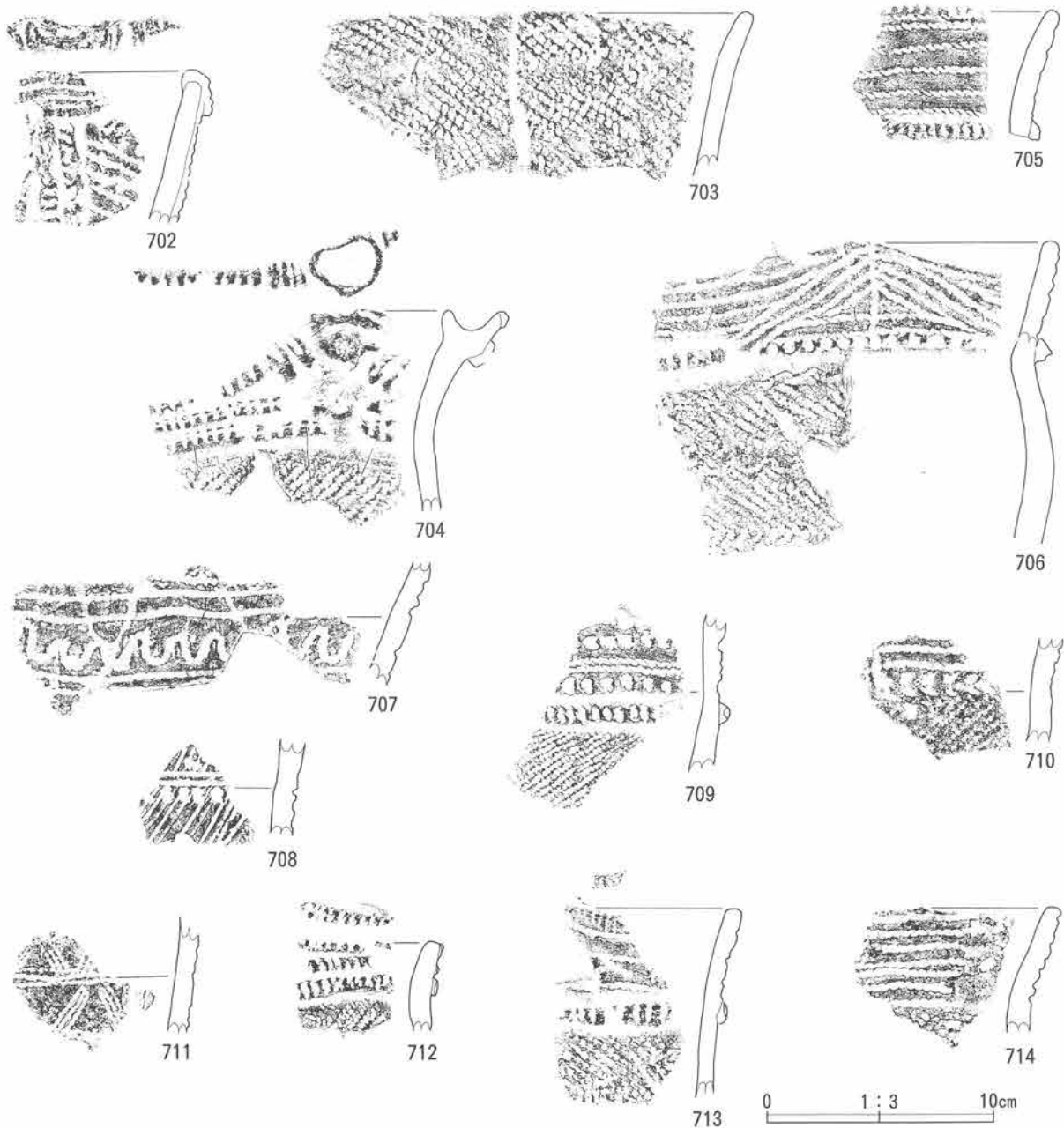
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
672	6C①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：高めの隆帯→R側圧/胴：結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ	繊維・隆帯剥落下無文	
673	6C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口：LRヨコ? (隆帯上も)・LR側圧/頸：隆帯上LR側圧	ナデ	外吹きこぼれ・内輪痕	
674	6C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：LR?側圧/口：LR側圧/頸：低い隆帯に刺突列/胴：結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ	繊維・頸隆帯下結節ヨコ	
675	6C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコ/口：L側圧	ミガキ?	繊維・内面焼けはじけ	
676	6C②・Ⅱ層	深鉢・頸部	口：LR側圧 (*下部、剥落摩耗のため不明)	ミガキ?	繊維・内面焼けはじけ?	
677	6C②・Ⅱ層	頸(1/3周強)	隆帯上はかLR側圧	ナデ		
678	6C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコ/LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外面スス	
679	6C②・Ⅲ層	深鉢・頸部	LR側圧(隆帯上も)	ナデ光沢	繊維・外隆帯剥落	
680	6C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：L側圧?/頸：隆帯上に刺突列/胴：結節タテ (*摩耗ひどく、不明瞭)	摩耗	繊維・内外摩耗	
681	6C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ光沢	胎土繊維混入	
682	6C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：R側圧/胴：LRヨコ	ナデ	外面やや摩耗	
683	6C②坑柱・Ⅰ~Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇~口：R側圧	ナデ	口唇摩耗・吹きこぼれ	
684	6C②坑柱・Ⅰ~Ⅱ層	深鉢・口縁部	口最上部：隆帯上L側圧?・LR側圧	ナデ	胎土繊維、石混入	
685	6C③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口：LR側圧/胴：LRヨコ	ナデ	外吹きこぼれ	
686	6C③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口~頸折り返し/口唇~口：R側圧/頸：深い刺突列/胴：単軸筋1A(R、L)タテ	摩耗	外面スス付着	
687	6C③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇~口縁：LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
688	6C③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	L側圧(口唇部、隆帯上も)	ナデ	胎土繊維混入	

第163図 縄文土器(61)



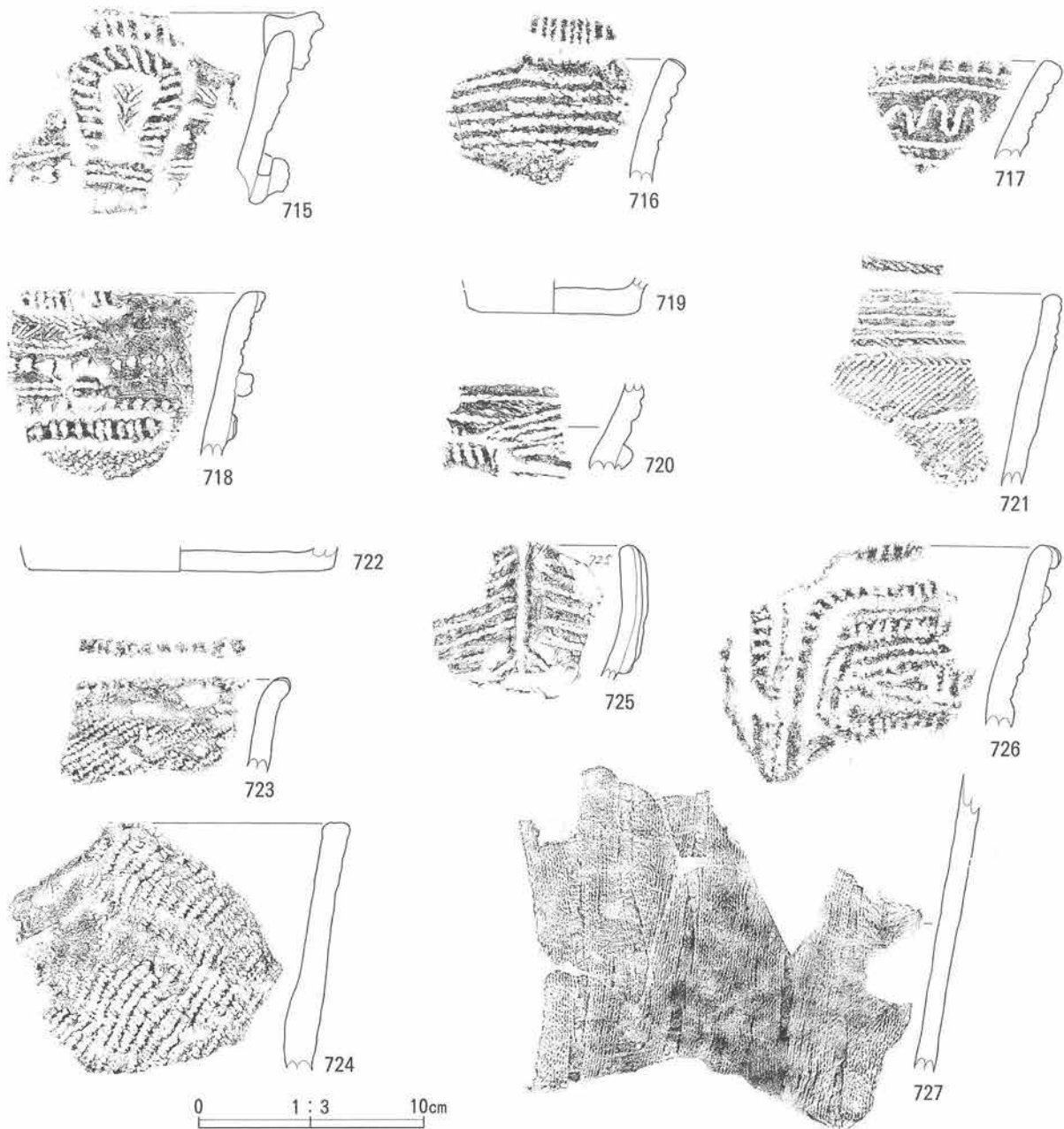
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
689	6C③・II層	深鉢・口縁部	口唇:斜め刻目列(爪形)/口:隆帯剥落?/胴:結束1種(LR, RL)ヨコ	ナデ	胎土繊維多・外スス	
690	6C③・III層	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/LR側圧	摩耗	胎土繊維混・外スス	
691	6C③・III層	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:太く高めの隆帯(押圧列)/胴:単軸絡?タテ	ナデ	繊維・補修孔(両側から)	
692	6C③坑柱・III層	深鉢・口縁部	単軸絡1Aタテ?→結節Rヨコ?	摩耗	繊維・内外摩耗	
693	7A④・II層	深鉢・口縁部	高い隆帯上LR側圧・隆帯下RLRヨコ?	ナデ雑	胎土繊維・外二次焼成	
694	7B①抜根時	深鉢・口縁部	高い隆帯・単軸絡1(R)側圧	ナデ	繊維・外剥落・内摩耗	
695	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢(底1/3周)	口:R側圧/頸:高めの隆帯(R側圧)/胴:LRヨコ、ナメ→底部ナデ	ナデ	胎土繊維混入	
696	7B②付近・I層(腐植土)	底部のみ一周	LRヨコ/底面:ナデ	ナデ	胎土繊維・外スス	
697	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・口縁部	折り返し口縁/口~胴:LRヨコ	ナデ	繊維・外全面スス	
698	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・口縁部	口唇:LR側圧?/口:LR側圧/頸:低い隆帯に深い刺突/胴:結束1(LR, RL)ヨコ	ナデ	繊維・外吹きこぼれ	p.206
699	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・頸部	口:上部胴部と同じ?・LR側圧・高い隆帯/胴:RL+結節Rヨコ?	ナデ		
700	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:深めの刺突列	ナデ	胎土繊維混入	
701	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・口縁部	水平方向にR側圧、それに斜交して半裁竹管状工具による浅い短沈線	ナデ	側圧→短沈線	

第164図 縄文土器(62)



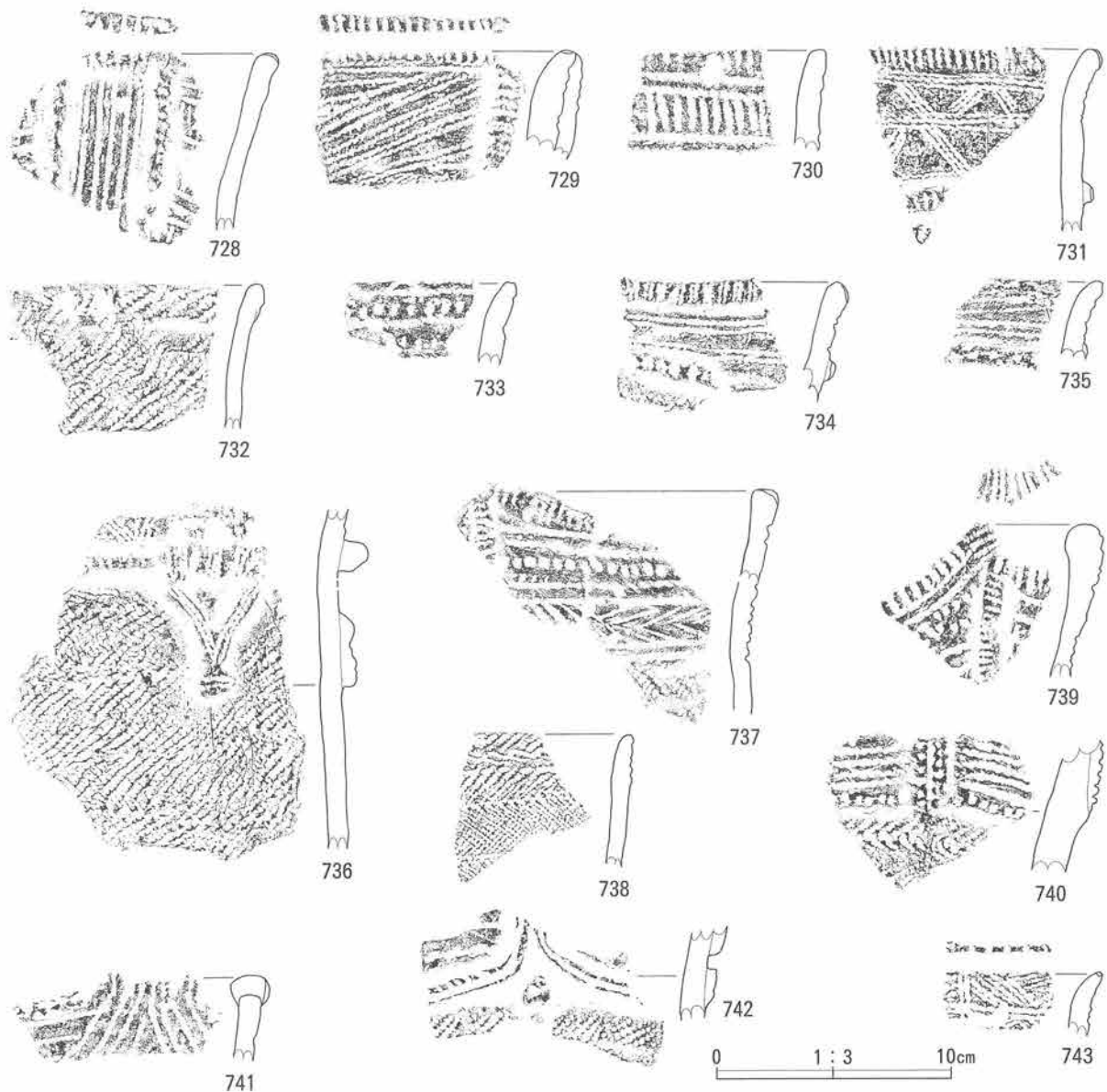
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
702	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・口縁部	L側圧(隆帯上も、突起横隆帯口縁内面まで側圧)	ナデ	繊維・外一部摩耗	
703	7B②付近・I層(腐植土)	深鉢・口縁部	RLRヨコ	ナデ	1/4周劣・胎土繊維	
704	7B②・II層	深鉢・口縁部	口：隆帯上LR側圧(一部口縁内面まで)・頸、隆帯下無文帯/胴：LRヨコ	ナデ	繊維・外スス、剥落	
705	7B②・II層	深鉢・口縁部	口：L側圧/頸：高い隆帯上L側圧	ナデ	繊維・外スス、中摩耗	
706	7B②・II層	深鉢	口：L側圧/頸：深い横からの刺突と突起(L側圧)/胴：結束1(RL+替組L、LR)ヨコ	ナデ	外吹きこぼれ	
707	7B②・II層、7B④・II、III層	深鉢・口縁部	LR側圧 (*②1/8、④II4/8、④III3/8)	ナデ	胎土繊維混入	
708	7B②・II層	深鉢・胴部	半裁竹管状工具による浅い沈線、深い刺突列	ナデ	内面焼けはじけ	
709	7B②・II層	深鉢・頸部	口～頸：LR側圧/高い隆帯/胴：LRヨコ	ナデ		
710	7B②・II層	深鉢・頸部	口：LR側圧/頸：半裁竹管状工具による刺突?/胴：LRヨコ?	ナデ	外面スス、摩耗ひどい所	
711	7B②・II層	深鉢・口縁部	L側圧	ナデ	外面スス付着	
712	7B②・II層	深鉢・口縁部	口：隆帯上LR側圧/胴：LRヨコ?	ナデ	丁寧	外面スス付着
713	7B②・II層	深鉢・頸部	口：L側圧/頸：高めの隆帯にL側圧/胴：RLR?ヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
714	7B②・II層	深鉢・口縁部	縦隆帯剥落・R側圧	ナデ	胎土繊維、石混入	

第165図 縄文土器(63)



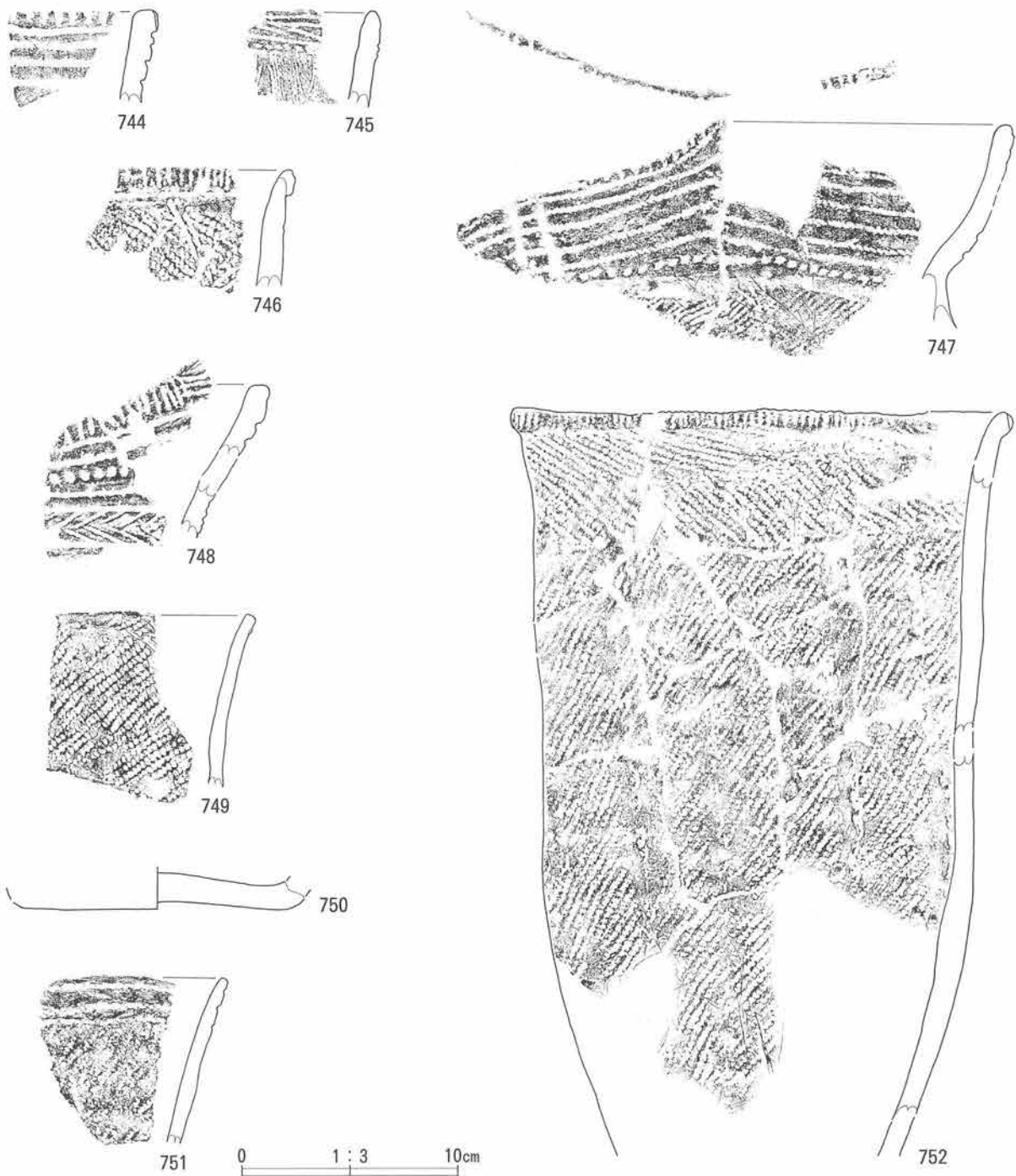
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
715	7B②・II層	深鉢・口縁部	LR側圧・突起下の隆帯に囲まれたところ短沈線による文様	ナデ	下割れ口粘土接合面	
716	7B②・II層	深鉢・口縁部	突起口唇: LR?側圧/口: LR側圧	ナデ		
717	7B②・II層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ丁寧		
718	7B②・II層	深鉢・口縁部	口: 口隆帯下矢羽根状沈線・LR側圧/胴: LRヨコ	ナデ	口縁隆帯剥落	
719	7B②・II層	底部(一周)	底部~底面: ミガキ?	ナデ?	胎土繊維混入	
720	7B②・II層	深鉢・口縁部	L側圧	ミガキ		
721	7B②・II層	深鉢・口縁部	口唇: LRタテ?/口: L側圧/頸: 細く高めの隆帯みにRLヨコ/胴: 筋束1(LR, ?)ヨコ	ナデ	胎土繊維混入	p.206
722	7B②・II層	底部(ほぼ一周)	底面: ナデ	ナデ	胎土繊維混入	
723	7B②・III層	深鉢・口縁部	口唇: 爪形刻目列/胴: LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外ス	
724	7B②・III層	深鉢・口縁部	台形突起・折り返し口縁・LRヨコ	ミガキ?	胎土繊維多・外ス	
725	7B②・III層	深鉢・口縁部	縦隆帯・R側圧(隆帯上も)	ナデ?	繊維・外吹きこぼれ	
726	7B②・III層	深鉢・口縁部	L側圧	ナデ	胎土繊維・外摩耗	
727	7B②・III層	深鉢・胴部	単軸絡1A(R, L)タテ	ミガキ?	胎土繊維・外剥落	

第166図 縄文土器(64)



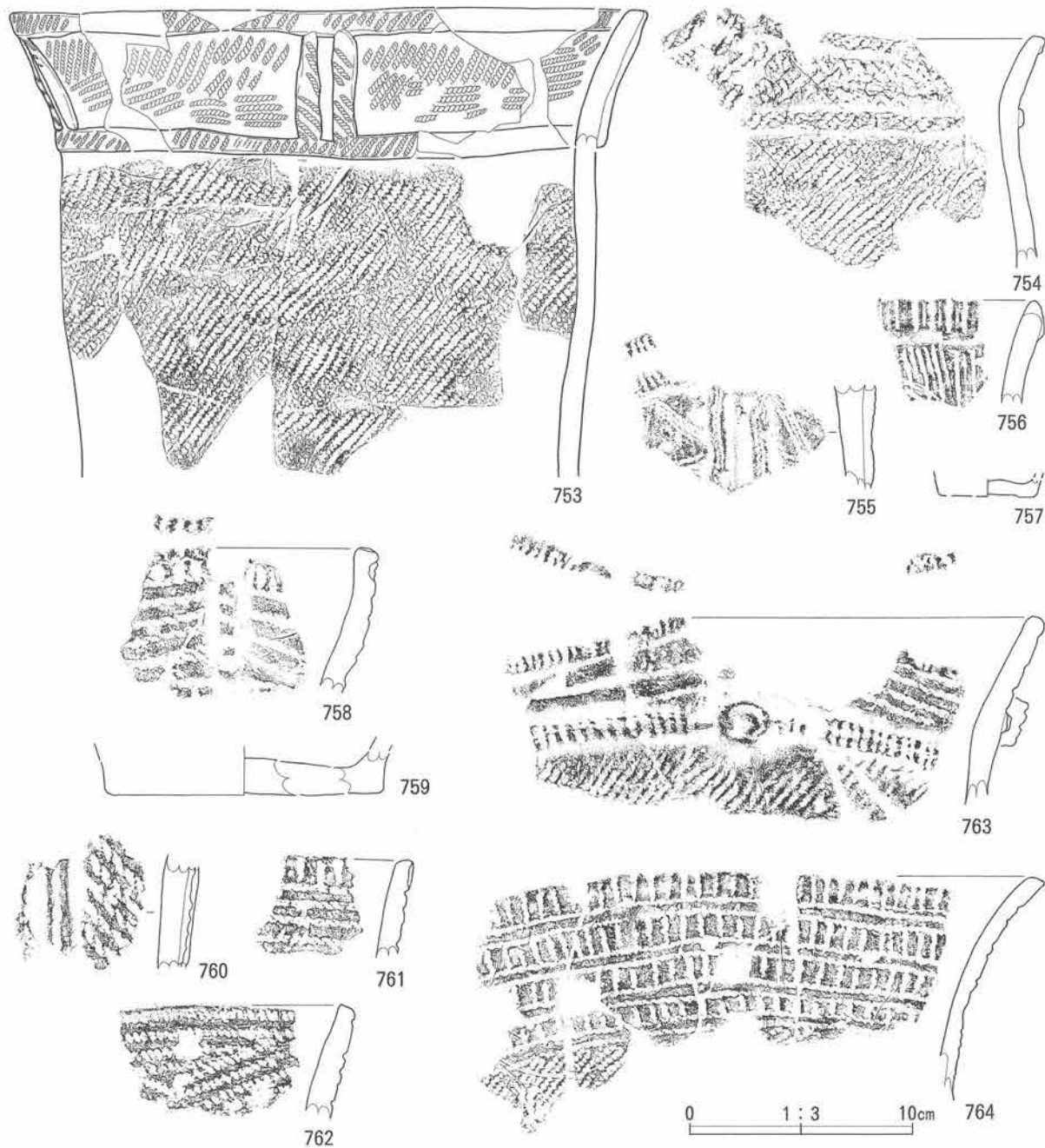
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
728	7B②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	突起口唇刻目/口:LR側圧・高い隆帯	ナデ	内面摩耗	
729	7B②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:R側圧/口:R側圧・高い隆帯	摩耗		
730	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	LR?側圧	ナデ丁寧	外摩耗	
731	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状//口:LR側圧(隆帯上、下も)/胴:LRヨコ?	ナデ	外面スス付着	
732	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	折り返し口縁//口~胴:LRヨコ	ナデ	繊維・輪積り痕明瞭	
733	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ//口:L側圧・半裁竹管状工具による刺突列	ナデ	外やや摩耗	
734	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口縁肥厚・LR側圧(隆帯上も?)・爪形状痕跡	ナデ		
735	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:隆帯上に竹管状工具による刺突列	ナデ	外スス、摩耗	
736	7B③・Ⅱ層	深鉢・胴部	口~頸:高い隆帯・LR側圧/胴:LRヨコ(隆帯そば無文部分あり)	ナデ雑	胎土白砂・外吹きこぼれ	
737	7B③・Ⅱ層、Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:最上、隆帯上R側圧・LR側圧・半裁竹管状刺突列・深い沈線/胴:RLRヨコ	ナデ	繊維・II3/5、III2/5	p.206
738	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇:RLヨコ/口:LR+結節Rヨコ?/頸:横からの深い刺突/胴:結束Iヨコ	ナデ	繊維・外スス、中摩耗	p.206
739	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口最上、隆帯上R側圧・LR側圧・刺突列・爪形状痕跡	ミガキ	胎土繊維・737と同一	
740	7B③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口:縦隆帯→刺突列→LR側圧/頸:刺突列、下無文帯/胴:結束(LR、RL)ヨコ	ナデ	胎土繊維多	
741	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ丁寧	外スス付着	
742	7B③・Ⅲ層	深鉢・頸部	頸:LR側圧、押捺(隆帯上、沿っても)・一部隆帯上爪形文/胴:LRヨコ	ナデ丁寧	外スス、剥落	
743	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:刻目列/口:L側圧?	ナデ	胎土繊維混入	

第167図 縄文土器(65)



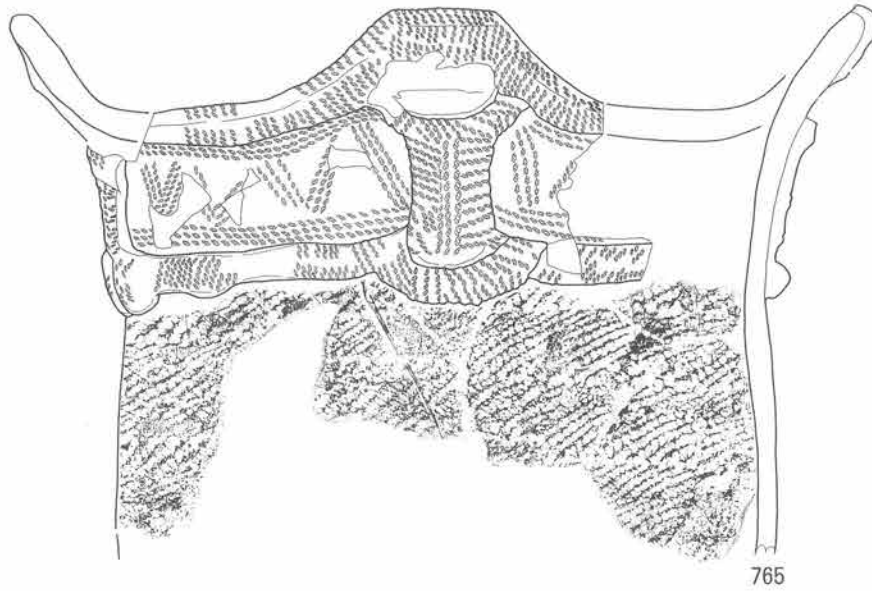
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
744	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	L側圧	ミガキ?	胎土繊維混入	
745	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: R側圧/頸: 細い棒状工具による横からの刺突列/胴: 単軸絡1A (R、L) タテ	ナデ		
746	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状/口: LR側圧(隆帯上、下も)/胴: RLR? ヨコ	ミガキ?	胴部一部へら状工具痕?	
747	7B③・Ⅲ層	口縁(L側より少)	口唇~口直上: L側圧/口: 隆帯~L側圧/頸: 深い棒状刺突列/胴: 斜織文(摩耗)	ナデ	外スス・内焼けはじけ	p.206
748	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口最上: R側圧/口: LR側圧、刺突(押捺?)、細く深い沈線	ミガキ		
749	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇: 強いナデ/LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
750	7B③・Ⅲ層	底部(一周)	底面: ナデ	ナデ	胎土繊維、石混入	
751	7B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口: LR側圧/胴: LRヨコ	指なで	胎土繊維・外スス	
752	7B③・Ⅳ層上面	深鉢(頸のみ一周)	口: 隆帯状に突出(上にLR側圧)/頸: RL+結節Lヨコ/胴: RL+結節L, タテ	ナデ	内外面スス付着	p.206

第168図 縄文土器(66)

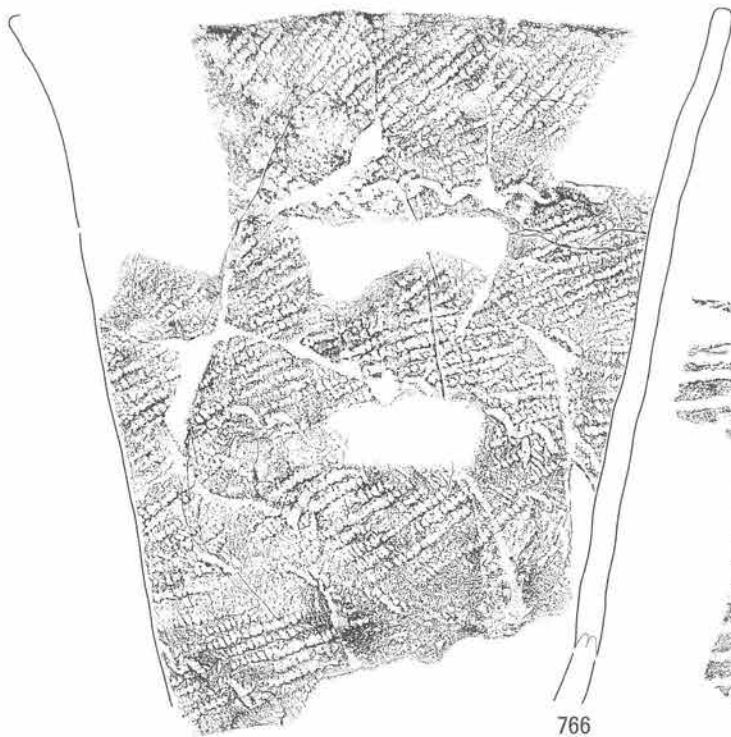


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
753	7B④・II層、III層	深鉢 (1/2周弱)	文様6単位? // /口隆帯→口~胴LRヨコ、ナナメ	ミガキ?	胎土繊維・II層2/3	
754	7B④・II層	深鉢・口縁部	口: 隆帯上もLRヨコ・斜歯文/頸: 隆帯に沿ってナデ/胴: LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外面スス	
755	7B④・II層	深鉢・口縁部	LR側圧 (隆帯上も)	ナデ	胎土白砂・外スス	
756	7B④・II層	深鉢・口縁部	口: 折り返し口縁による隆帯状	ナデ		
757	7B④・II層	底部 (1/2周)	(ナデ光沢)	ナデ		
758	7B④・II層	深鉢・口縁部	口唇: 側圧? (摩耗) / 口: LR側圧 (隆帯上も)	ミガキ?	胎土繊維混入	
759	7B④・II層	底部 (一周)	底部~底面: ナデ	ナデ		
760	7B④・II層	深鉢・口縁部	LR側圧 (隆帯上も)	ナデ	胎土繊維・外面スス	
761	7B④・II層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
762	7B④・II層	深鉢・口縁部	単軸絡1 (R) 側圧	ナデ	胎土繊維混入	
763	7B④・II層	深鉢・口縁部	口: LR側圧 (ボタン状貼付文上も渦巻き状に)・爪形狂痕/胴: LRヨコ	ミガキ	胎土繊維・内外摩耗	
764	7B④・II、III層	深鉢 (1/4周弱)	口唇: 強いナデ/口: LR側圧/胴: LRヨコ // 施文順: 胴→口	ミガキ	II層1/16・外面スス	

第169図 縄文土器(67)



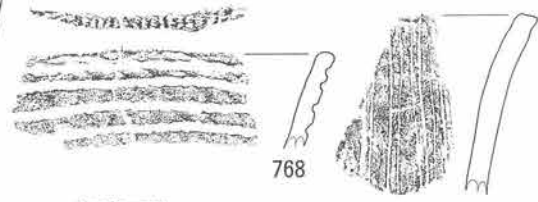
765



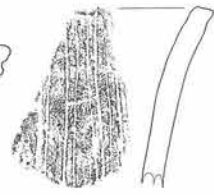
766



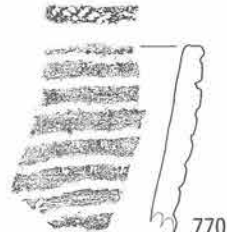
767



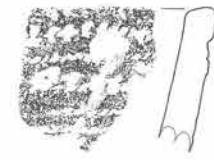
768



769



770

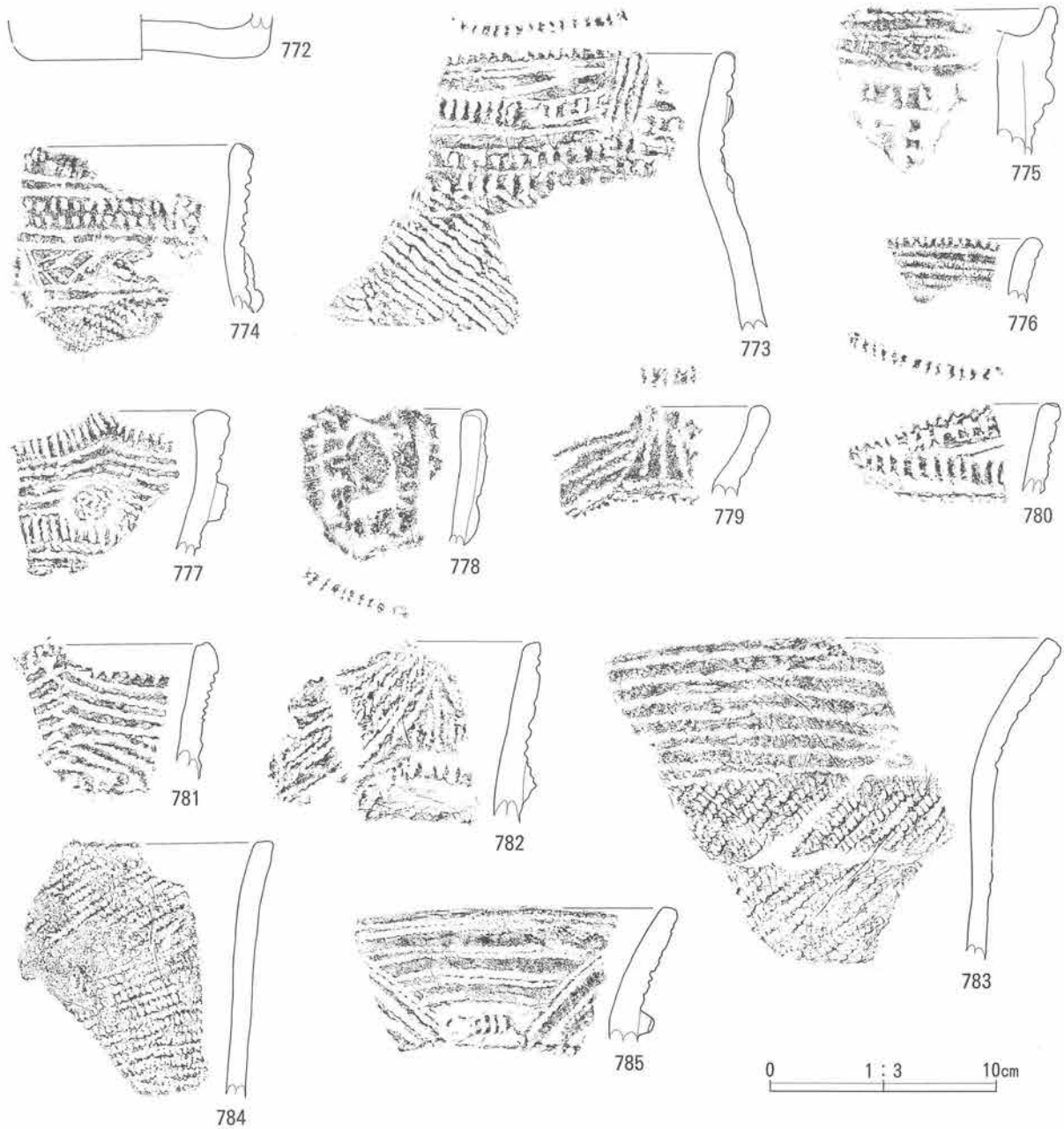


771

0 1:3 10cm

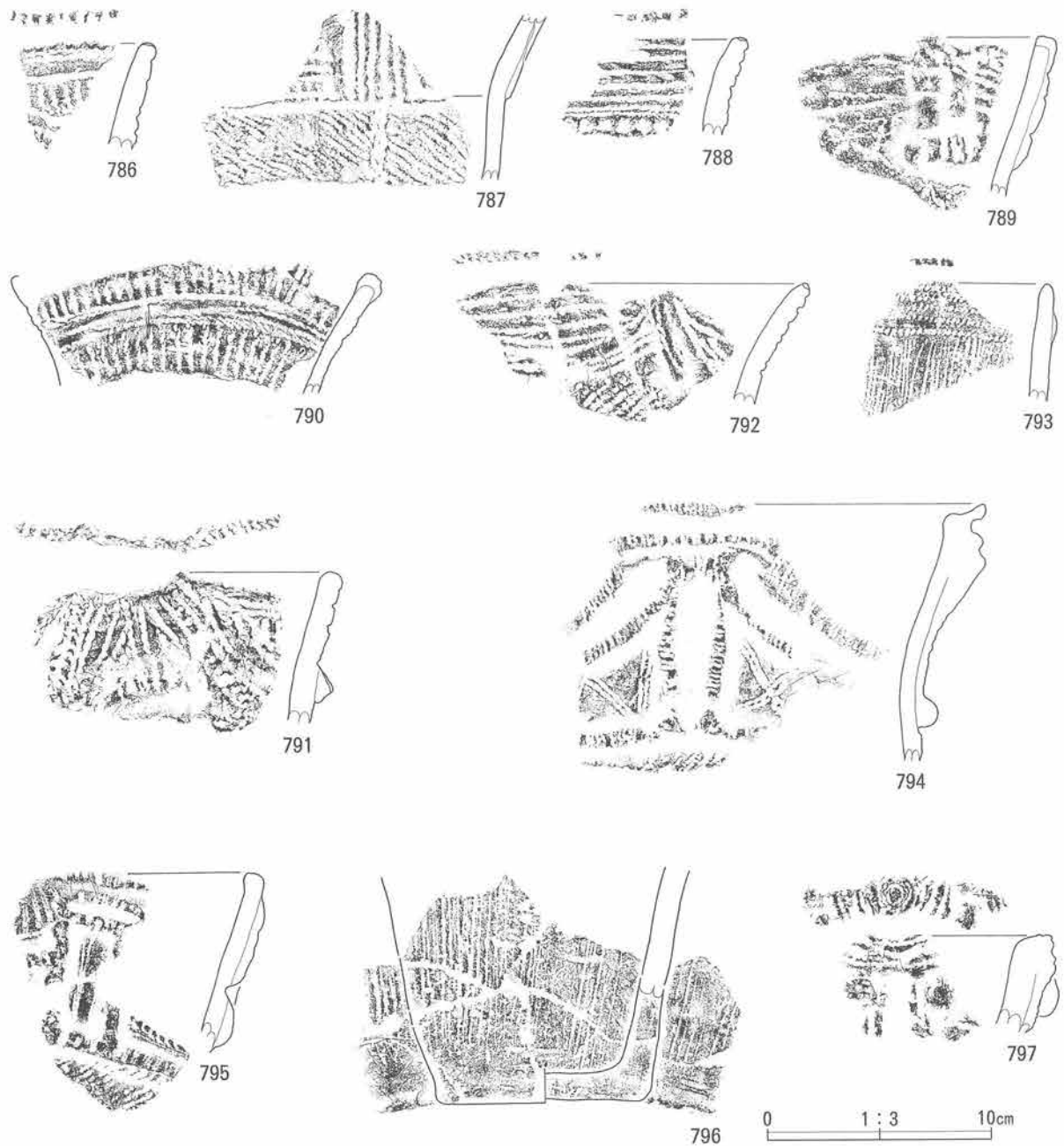
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
765	7B③、④・Ⅲ層	深鉢 (2/3周弱)	4単位//口唇:LR側圧/口:隆帯上ほかLR側圧/胴:LRヨコ	ナデ	④1/12・胴上スス	
766	7B④・Ⅲ層	深鉢 (1/2周以下)	LR+結節Rヨコ、ナナメ (*外面二次焼成で赤い)	ミガキ	内面底スス付着	
767	7B④・Ⅲ層	底部 (1/3周弱)	LRヨコ、ナナメ→結節 (R) タテ→底部ナデ/底面:ナデ?	ナデ	胎土繊維・内面スス	
768	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ?? (摩耗)/口:LR側圧	ナデ	外面やや摩耗	
769	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	歯状工具による沈線タテ	ナデ	胎土繊維・外スス	
770	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ//口:LR側圧	ミガキ?	繊維・外やや摩耗	
771	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	半莖竹管状工具による刺突列?・R側圧 (*摩耗ひどく不明瞭)	ミガキ?	外摩耗ひどい	

第170図 縄文土器(68)



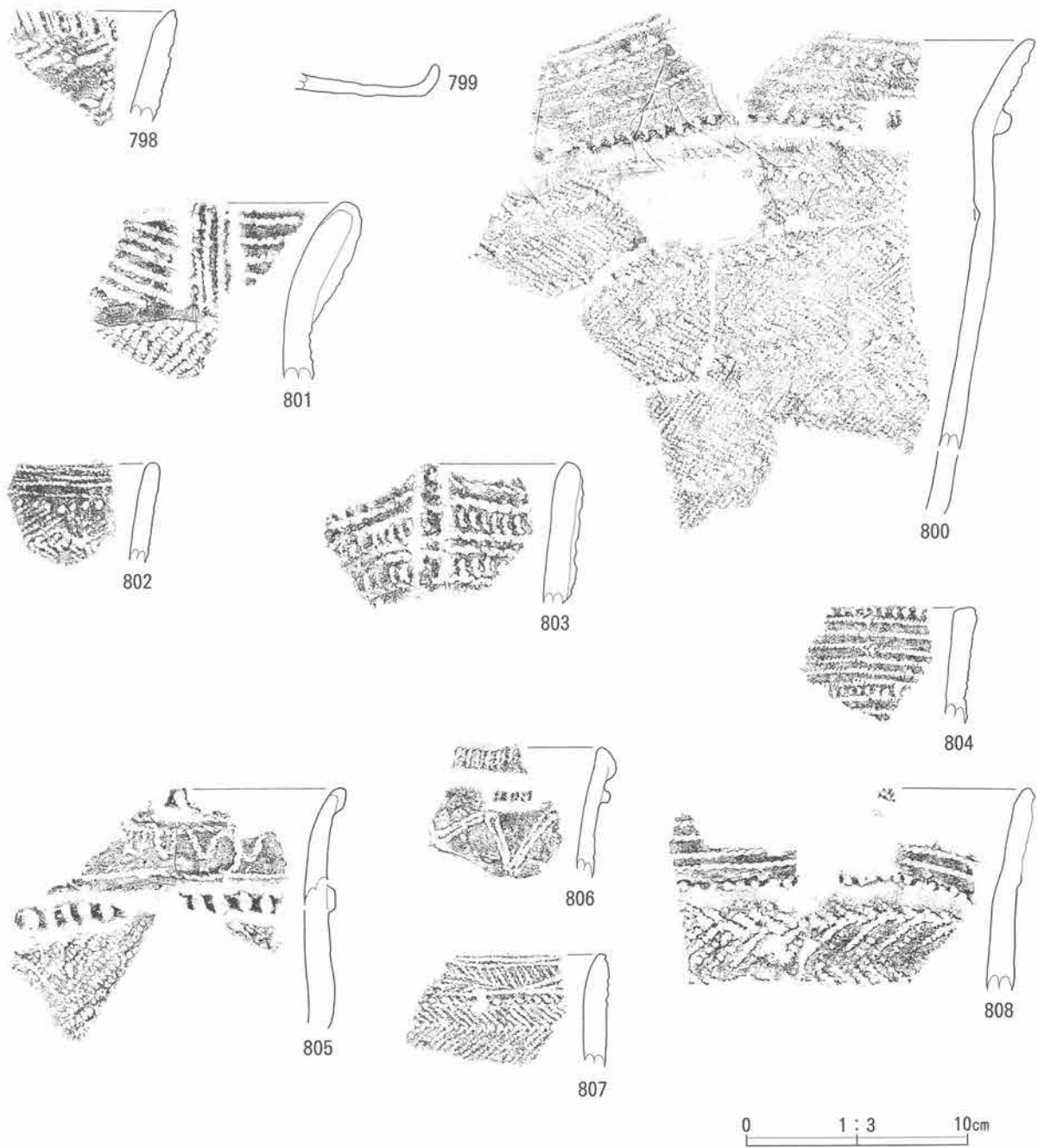
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
772	7B④・Ⅲ層	深鉢・底部	底面：ミガキ	ナデ		
773	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～頸：LR側圧(隆帯上も)・低い隆帯/胴：Rヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	
774	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR側圧・細く深い沈線、刺突/胴：RLRヨコ (*外やや摩耗)	ナデ光沢	繊維・内面擦けはじけ	
775	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	突起頂部深い窪み・LR側圧(隆帯上も)	ナデ丁寧		
776	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：側圧(LR???)?/口：単軸絡1(?)側圧	ナデ		
777	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧(ボタン状貼付文上は高状に)	ミガキ?	外吹きこぼれ	
778	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	低めの隆帯上に刻目?	摩耗	内外摩耗・789と同一?	
779	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：LRヨコ(突起上も)/口：LR側圧/頸：細く深い刺突列	ナデ	繊維・内外スス	
780	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～口：LR側圧	ミガキ?	胎土繊維混入	
781	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧(突起口唇も)	ミガキ	胎土繊維混入	
782	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～口：R側圧(貼付文上も)	ナデ?	胎土繊維混入	
783	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：LR側圧/胴：LRヨコ(*一部はっきり、LRヨコ→LR側圧)	ナデ	石、繊維・吹きこぼれ	
784	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LRヨコ、ナナメ(*外吹きこぼれ)	ナデ	繊維・内面スス付着	
785	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	L側圧(貼付文上も)(*下の割れ口粘土接合面の剥離)	ナデ	吹きこぼれ、内面スス	

第171図 縄文土器(69)



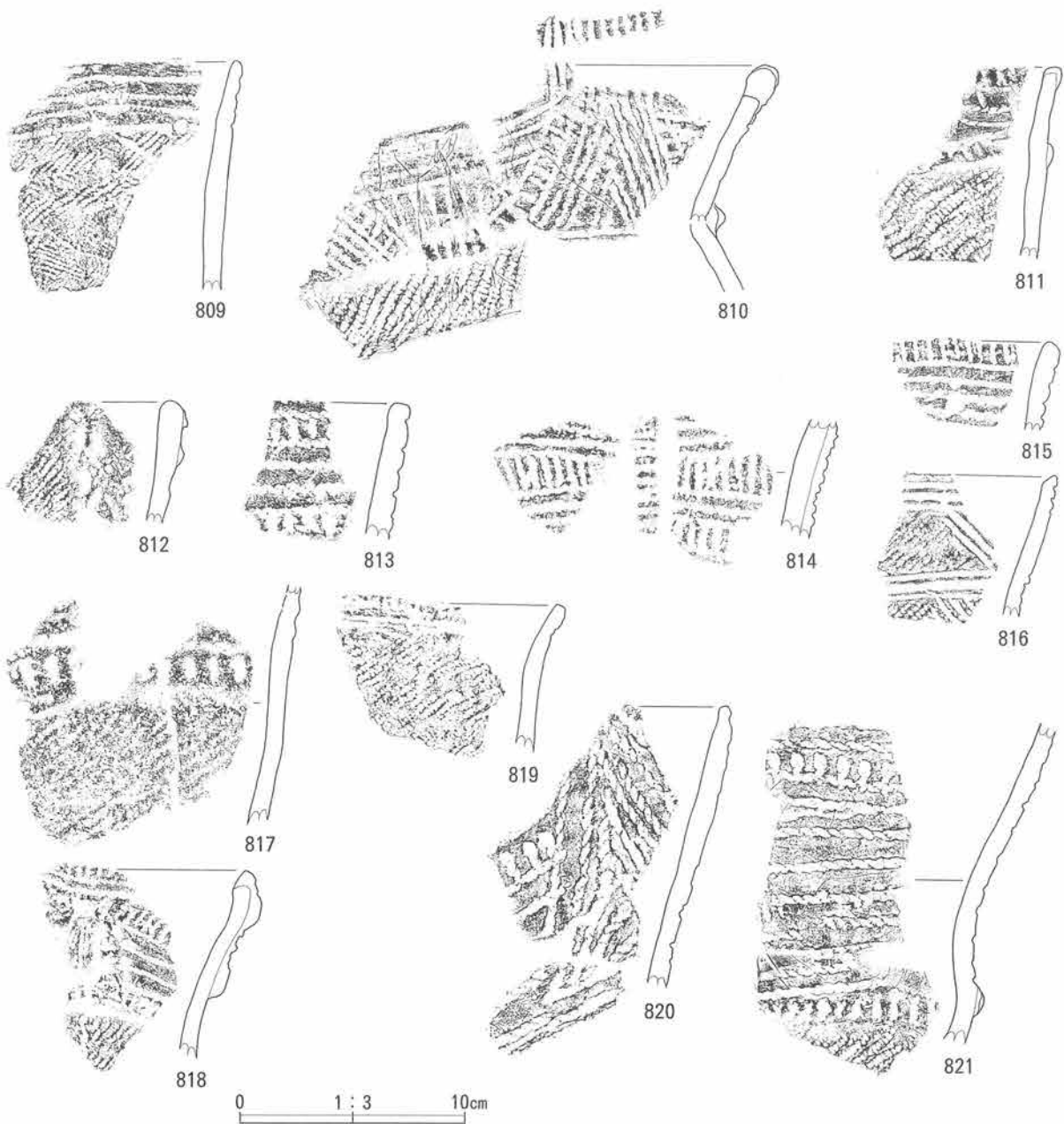
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備考	本文記載
786	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～口：R側圧	ナデ		
787	7B④・Ⅲ層	深鉢・頸部	口：LR側圧・細い隆帯／頸：微隆帯状／胴：RLヨコ→結節(?)タテ	摩耗	外面スス付着	
788	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：側圧?／口：L側圧／頸：深い刺突列	ミガキ	胎土繊維混入	
789	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	R側圧・低めの隆帯上はL?側圧	摩耗	外スス・778と同一?	
790	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧 (突起上は口唇部まで)	ナデ	内面お焦げ付着	
791	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：突起間を除きR側圧／口：R側圧 (貼付文上も)	ナデ	胎土繊維・外スス	
792	7B④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～口：R側圧 (低い隆帯上も)／胴：LRヨコ	ナデ	繊維・内面全面スス?	
793	7C①・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇～頸：単軸絡1 (R)側圧・頸低め隆帯／胴：単軸絡1Aタテ	摩耗	繊維多・内外摩耗	
794	7C①・Ⅱ層 (6/7)、7C②・Ⅲ層 (1/7)	深鉢・口縁部	LR側圧 (高い隆帯上も) (*外面スス付着)	ナデ	繊維・806と同一個体	
795	7C①・Ⅱ、Ⅲ層 (ほぼ1:1)	深鉢・口縁部	口：L側圧 (高い隆帯上も)／胴：LR (0段多条)ヨコ／隆帯→胴部施文	ナデ	胎土繊維、白石・外摩耗	
796	7C①・Ⅲ層	底蓋 (底のみ一周)	櫛歯状沈線タテ／底面：ナデ	ただれ	胎土繊維混入	
797	7C①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	R側圧 (高い隆帯、貼付文上も・突起口唇部は渦巻き状に)	ナデ	繊維・外スス、摩耗	

第172図 縄文土器(70)



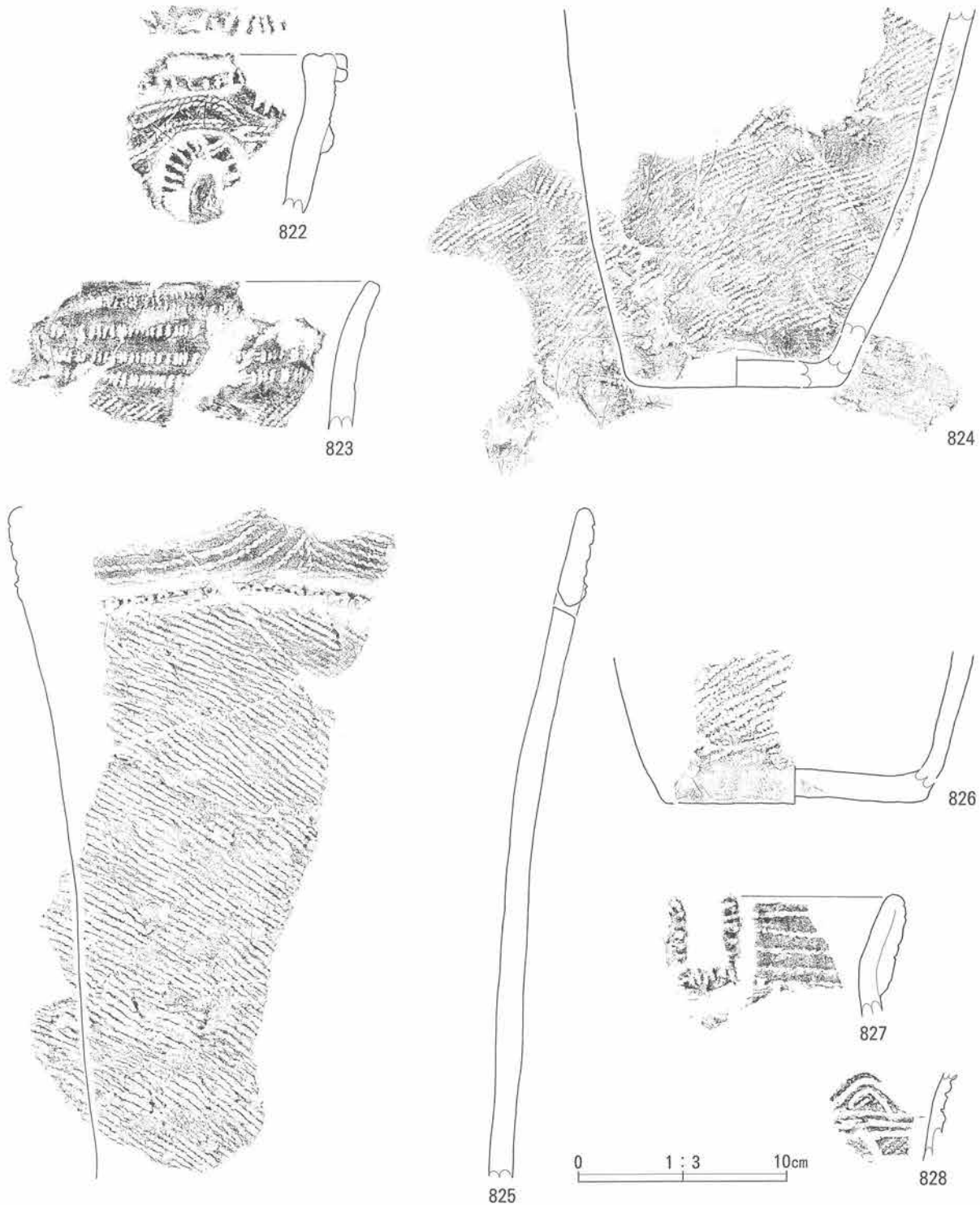
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
798	7C①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	最上部LかRL側圧・LRヨコ?→結節Rヨコ? (*摩耗して、不明瞭)	摩耗	繊維・内外摩耗	
799	7C①・Ⅲ層?	皿?	手づくね	指なで	胎土繊維混入	
800	7C②・Ⅱ層	深鉢	口:LR側圧/頸:低い隆帯上にLR側圧?, ボタン状貼付文/結束1種(附加条)ヨコ	ナデ(丁寧)	胎土繊維・内面ス	p.207
801	7C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口:R側圧(高い隆帯上も)/胴:LRヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	
802	7C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:刻目列/胴:結束1種(LR、RL)ヨコ	ミガキ?	繊維・外やや摩耗	
803	7C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	LR側圧(低め隆帯上も・C字形も?)	ナデ	繊維・外やや摩耗	
804	7C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	深い刻目列・単軸絡1(?)側圧	ナデ	繊維・内外やや摩耗	
805	7C②・Ⅱ(3/5)、Ⅲ層(2/5)	深鉢・口縁部	口~頸:L側圧・高め隆帯上D字形刻目/胴:LRヨコ	ナデ	繊維・内焼けはじけ	
806	7C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧(高い隆帯上も)・隆帯剥落 (*外面スス付着)	ナデ	繊維・794と同一個体	
807	7C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:深め刺突列/胴:結束1種(RL、LR)ヨコ	ミガキ?	繊維・外やや摩耗	
808	7C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:縦隆帯剥落・R側圧/頸:竹管状刺突/胴:結束1種(RL、LR)ヨコ	摩耗	繊維・外スス、摩耗、剥落	

第173図 縄文土器(71)



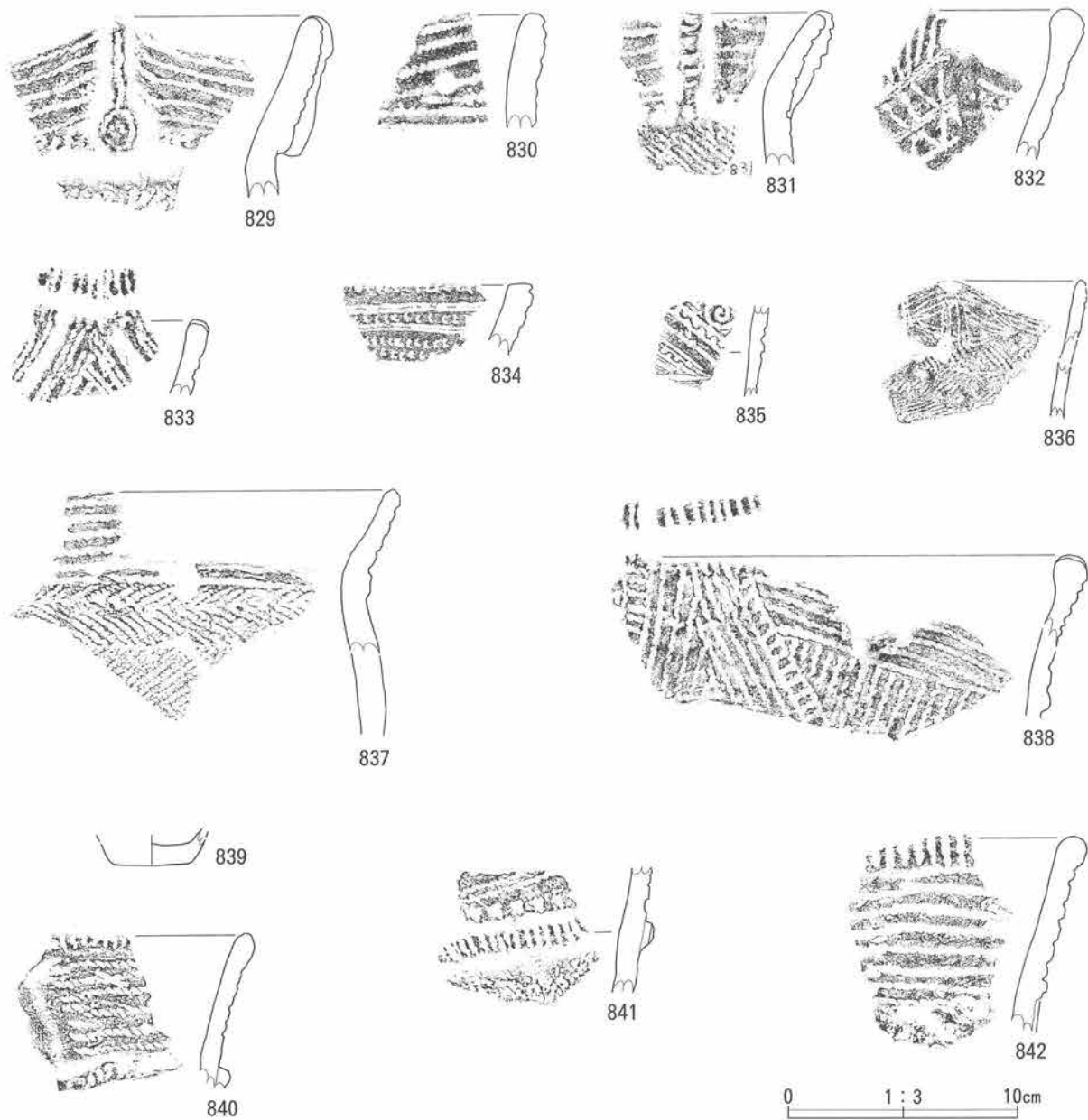
No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
809	8A③付近・I層(竊植土)、④・II層	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(?) 側圧/胴:結束1種(LR, RL)ヨコ (*補修孔、外から)	ナデ	繊維・外スス、中摩耗	p.207
810	8A③・II層	深鉢・口縁部	口:LR側圧(突起頂部は口唇まで) / 胴:LRヨコ	ミガキ?	胎土繊維混入	
811	8A③・II層	深鉢・口縁部	口:R側圧(隆帯上も) / 胴:LRヨコ (*隆帯上摩滅)	ナデ	繊維・内外摩耗・外スス	
812	8A③・II層	深鉢・口縁部	波頂部下細く高めの蛇行隆帯・その周囲LRヨコ	ナデ	外スス、摩耗	
813	8A③・II層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	繊維・内面焼けはじけ	
814	8A③・II層	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も)	ナデ	繊維・外スス・内面黒	
815	8A③・II層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
816	8A③・II層	深鉢・口縁部	口内面に稜・LRヨコ→半裁竹管状工具による深い沈線	ナデ		
817	8A③・II層	深鉢・頸部	口:LR??側圧/胴:LRヨコ? (*摩耗ひどくて不明)	摩耗	繊維・内面焼けはじけ	
818	8A③・II層	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:LRヨコ→結節(L)タテ	ナデ	内外面スス付着	
819	8A③・II層	深鉢・口縁部	口:R側圧/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
820	8A③・II層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
821	8A③・II層	深鉢・口縁部	口:LR側圧(頸部隆帯上も) / 胴:LRヨコ	ミガキ	繊維・内面上部摩耗	

第174図 縄文土器(72)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
822	8A③・II層	深鉢・口縁部	R側圧(隆帯上も)	ナデ丁寧	胎土繊維・外スス	
823	8A③・II、III層(*II3/7、III4/7)	深鉢・口縁部	口:単軸絡1(L)側圧/胴:LRヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
824	8A③・III層	底部(1/3周弱)	LRヨコ、ナナメ→底部ナデ/底面:ナデ?	ナデ(乾き時)	胎土繊維・外面二次焼成?	
825	8A③・III層	深鉢	突起二般/口:LR側圧(突起間も)/頸:隆帯上に竹管状刺突/胴:Rヨコ	ミガキ	胎土繊維・補修孔	p.207
826	8A③・III層	底部(2/3周弱)	LRヨコ→底部ナデ/底面:ナデ(丁寧)	ナデ(丁寧)	胎土繊維	
827	8A③・III層	深鉢・口縁部	口:高い隆帯上は浅めの刻目?・R側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突	ナデ	外面スス付着	p.207
828	8A③・III層	深鉢・頸部	LRヨコ→半裁竹管状工具による深く太め沈線	ナデ		

第175図 縄文土器(73)



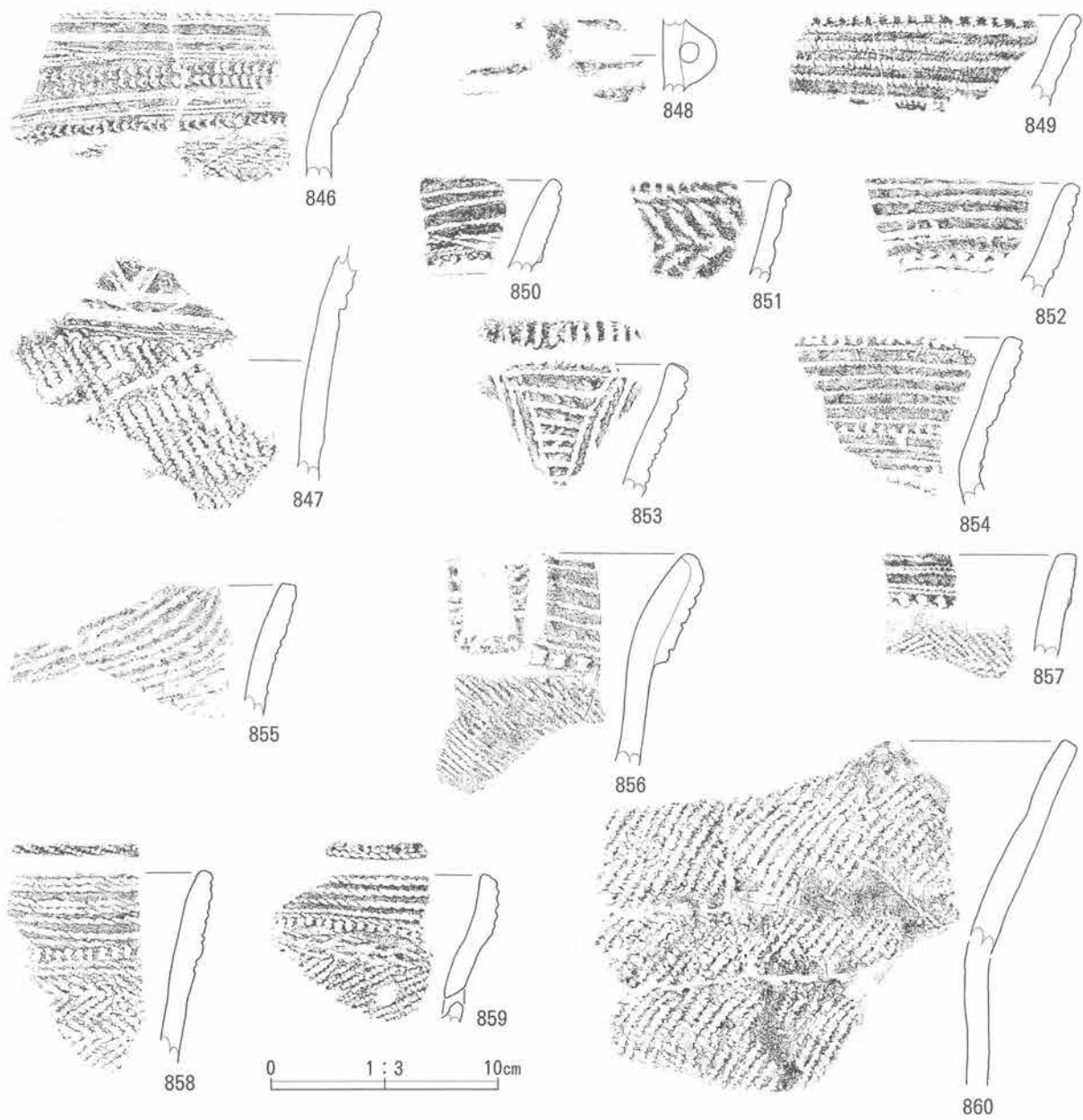
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
829	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:R側圧(高い隆帯上も)/頸:半裁竹管状工具による刺突/胴:LRヨコ?	ナデ	外面スス付着	p.207
830	8B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	単軸絡1(?)側圧 (*下の割れ口、粘土接合面から剥離?)	ミガキ		
831	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:高い隆帯上下から割目・R側圧/頸:半裁竹管状刺突/胴:RLヨコ?	ナデ	胎土白砂混入	
832	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	隆帯剥落・LR側圧	ナデ雑	胎土繊維・外スス	p.207
833	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	L側圧(隆帯上も・突起頂部は口唇部まで)	ミガキ?	繊維・内面一部摩耗	
834	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口:半裁竹管状工具による刺突列・R側圧	ミガキ	胎土繊維混入	
835	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	太めで浅い沈線・交互刺突列	ナデ		
836	8A③・Ⅲ層	鉢・口縁部	口:L側圧(文様意匠あり)/胴:RLヨコ、ナナメ	ナデ雑	胎土繊維・外面スス	
837	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇:RLヨコ?/口:L側圧/結束1種(LR、RL)ヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
838	8A③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧(突起頂部は口唇部も)	ナデ	胎土繊維混入	
839	8A④・Ⅱ層	小型・底部	ナデ (*底部一周)	ナデ		
840	8B①付近・Ⅰ層付近(腐植土)	深鉢・口縁部	L側圧(高い隆帯上も)・縦隆帯剥落	ただれ	胎土繊維・外スス	
841	8B①付近・Ⅰ層付近(腐植土)	深鉢・頸部	口~頸:馬蹄形押圧(LR側圧?)・LR側圧(高めの隆帯上も)/胴:斜縄文?	ナデ	胴部原体不明	
842	8B①付近・Ⅰ層付近(腐植土)	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	外スス・内焼けはじけ	

第176図 縄文土器(74)



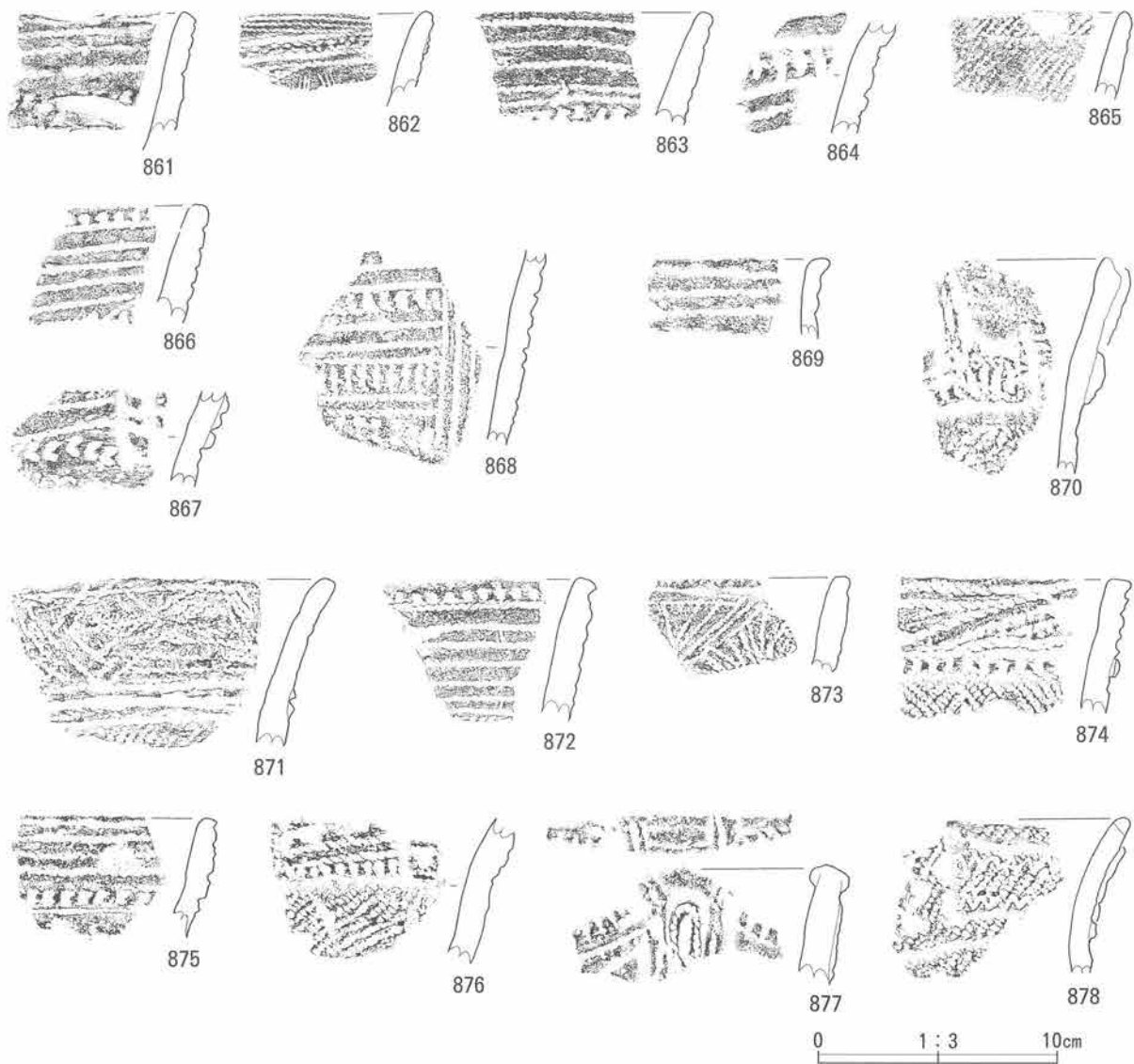
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
843	8B①・II層下部～III層上部、III層	深鉢(底2/3周)	口唇:LR、RLヨコ/口:R側/唇:隆起に竹管状刺突/唇:結束境 LR、RLに附加線(在る)ヨコ-底面:ナデ	ミガキ?	底面:ミガキ	p.207
844	8B①・II層下部～III層上部	深鉢	唇口唇:LR側/口:LR側(突起上) /唇:隆起に竹管状刺突/唇:結束境 LR、RLに附加線(在る)ヨコ-底面:ナデ	ミガキ?	内面お焦げ、外面スス	p.207
845	8B①・II層下部～III層上部	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も・隆帯上とその間は口唇部も)・半蔵竹管状刺突?(側圧?)	ナデ	外面スス付着	

第177図 縄文土器(75)



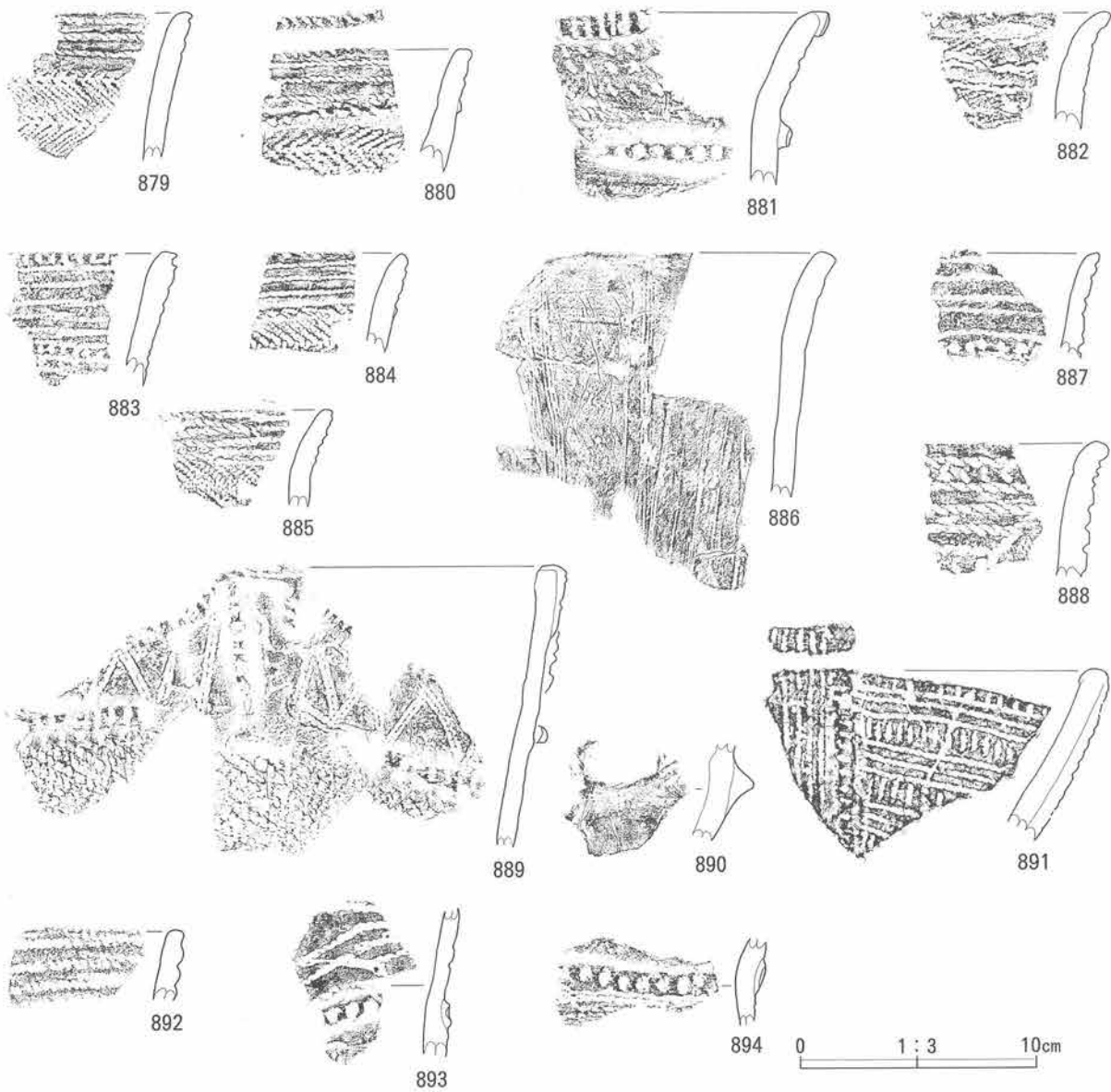
No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・装飾、地文・原体など)	内面 (調整など)	備 考	本文記載
846	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口～頸部隆帯状/口：爪形状刺突列・R側圧/胴：RL+結節(R?)ヨコ	ミガキ?	繊維・内面一部摩耗	
847	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・頸部	口：R側圧/頸：半截竹管状工具による沈線/胴：RLRヨコ	ミガキ?	繊維・内面焼けはじけ	
848	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	壺?・頸部	橋状把手 (*外面スス付着?)	ナデ	内外赤色付着物	
849	8B①・Ⅱ層、Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	単軸絡1(R)側圧 (*外面スス付着)	ミガキ	Ⅱ層3/5、Ⅱ～Ⅲ2/5	
850	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口：R側圧/頸：微隆帯上にLRヨコ→爪形状刺突	ミガキ	外面スス付着	
851	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	LR側圧 (*外面摩耗ひどい)	ミガキ	繊維・内面焼けはじけ?	
852	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口：LR側圧/頸：刺突列?	ナデ	外面吹きこぼれ	
853	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口唇～口：LR側圧	ナデ		
854	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口：C字形刺突列(側圧?)・単軸絡1(?)側圧/胴：RLヨコ?	ナデ	胎土繊維混入	
855	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口：L側圧?(口縁破頂部も)/胴：RLヨコ? (*吹きこぼれひどい)	ナデ	繊維・吹きこぼれ	
856	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口：R側圧・高い隆帯上に爪形文?/頸：低い隆帯に刺突/胴：RL?ヨコ	ナデ	胎土繊維、石混入	
857	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口唇：斜縄文?/口：R側圧/頸：竹管状刺突列/胴：RLヨコ、タテ	摩耗	繊維・口唇摩耗・外スス	
858	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口唇：RLヨコ/口：LR側圧・刺突(側圧?)?/胴：結束(RL、LR)ヨコ	ミガキ	繊維・吹きこぼれ	p.207
859	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口唇：LR側圧?/口：LR側圧/頸：半截竹管刺突/胴：LR+結節(R)ヨコ	ナデ	繊維・外スス、内面焼けはじけ	
860	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	台形突起・LRヨコ	ミガキ	胎土繊維・外スス	

第178図 縄文土器(76)



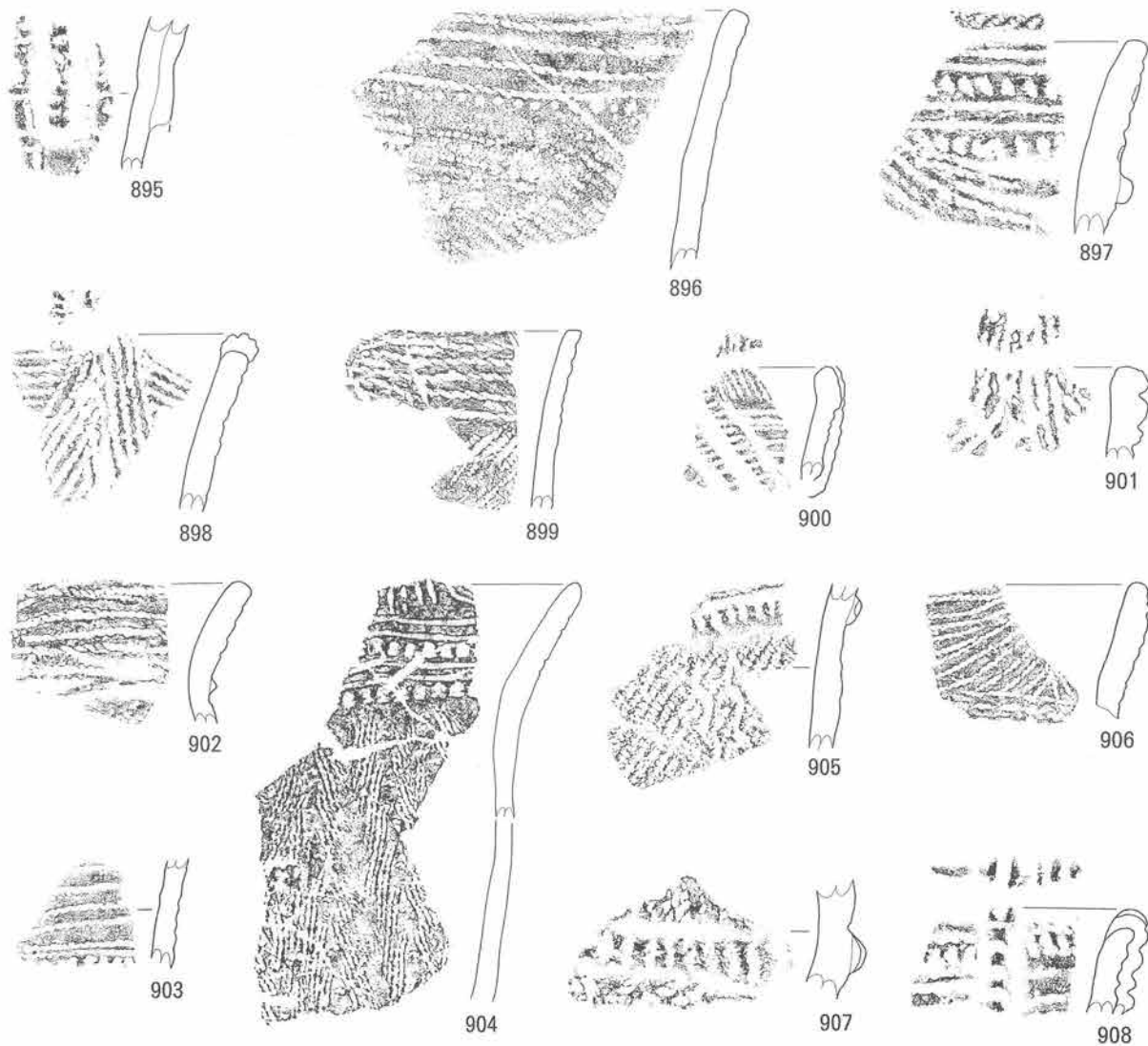
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
861	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突列?→ナデで一部消えてる	ミガキ	繊維・折り返し口縁	
862	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口～頸:LR側圧・低い隆帯上に刺突列2条/胴:単軸絡1Aタテ	ナデ	繊維・折り返し口・外ス	
863	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突	ミガキ	胎土繊維、石混入	
864	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	LR側圧	ミガキ	胎土繊維混入	
865	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	折り返し口縁・LRヨコ(*外口縁部ス付着・下の割口接合面から剥離?)	ナデ	内面輪積痕、ス	
866	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	R側圧・口唇部ミガキ	ミガキ	胎土繊維混入	
867	8B①・Ⅱ層下部～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も)	ナデ	繊維・外ス、中摩耗	
868	8B①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧・半裁竹管状工具による刺突列	ナデ	外面やや摩耗	
869	8B①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	外吹きこぼれ	
870	8B①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口:LR側圧(隆帯上も)/胴:LRヨコ?	ナデ	繊維・外面摩耗	
871	8B①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口～頸:LR側圧・頸に細く高めの隆帯、側圧で縁取り/胴:LRヨコ	ナデ	繊維多・外ス、中摩耗	
872	8B②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	R側圧	ミガキ		
873	8B②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	R側圧	ナデ	胎土繊維・内面摩耗	
874	8B③・Ⅰ層(腐植土)	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:高めの隆帯に側圧(原体不明)?/胴:LRヨコ、タテ?	ナデ	繊維・内面剥落	
875	8B③・Ⅰ層(腐植土)	深鉢・口縁部	口:LR側圧/頸:半裁竹管状工具による刺突列(*熱による灰色変色)	ナデ	繊維・外熱による摩耗?	
876	8B③・Ⅰ層(腐植土)	深鉢・頸部	口:LR側圧(縦位にも)・隆帯/胴:LRヨコ	ナデ	内面焼けはじけ、摩耗	
877	8B③・Ⅰ層(腐植土)	深鉢・口縁部	R側圧(隆帯上も、口唇またく隆帯の場合は口唇部まで)	ナデ		
878	8B③・Ⅰ層(腐植土)	深鉢・口縁部	LRヨコ(隆帯上も)・低めの隆帯・口隆帯下LRヨコ→鋸歯状沈線	ナデ	胎土繊維・外ス	

第179図 縄文土器(77)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・裝飾、地文・原形など)	内面(調整など)	備考	本文記載
879	8B③・II層	深鉢・口縁部	口唇:LRヨコ/口:LR側圧/胴:結束1種(LR, RL)ヨコ逆位交互に	ミガキ	胎土繊維混入	
880	8B③・II層	深鉢・口縁部	口唇~口:L側圧/頸:低い隆帯両脇に深い刺突/胴:結束1(LR, RL)ヨコ	ミガキ?	繊維・内外スス	
881	8B③・II層	深鉢・口縁部	口:R側圧(隆帯上も)・頸:高めの隆帯(押圧列)	ナデ	胎土繊維・外スス	
882	8B③・II層	深鉢・口縁部	結節(R)ヨコ(+LRヨコ??)	ナデ	繊維多・内外摩耗	
883	8B③・III層	深鉢・口縁部	深いC字形刺突列・単軸絡1(R?)側圧	ナデ		
884	8B③・III層	深鉢・口縁部	口:L側圧・不規則爪形痕跡/頸:微隆帯に横から深め刺突/胴:RLヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
885	8B③・III層	深鉢・口縁部	口:L側圧/胴:RLヨコ//施文順序胴→口	ナデ	胎土繊維混入	
886	8B③・III層	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口~胴:櫛歯状沈線縦位に	ミガキ?	繊維?・外口縁スス	
887	8B③・III層	深鉢・口縁部	口:R側圧/頸:深いC字形刺突(R側圧による?)	摩耗	繊維・外や摩耗	
888	8B③・III層	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	胎土繊維混入	
889	8B③・III層	深鉢・口縁部	口:L側圧(隆帯上も)・隆帯下無文/胴:RLRヨコ(突起頂部剥落?)	ナデ	外面口縁部スス付着	
890	8B③・III層	深鉢・口縁部	突起頂部窪み(*外面剥落)	ミガキ		
891	8B③・IV層上面	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も・突起間は口唇部も)	ナデ	内外スス付着	
892	8B④・I層腐植土	深鉢・口縁部	口唇:強いナデ/口:単軸絡1(R)側圧	ナデ丁寧	外黒・中スス	
893	8B④・I層腐植土	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:隆帯に押圧(何らかの圧痕で繊維状)	ナデ	繊維・894と同一	
894	8B④・I層腐植土				893と同一個体	

第180図 縄文土器(78)



0 1 3 10cm

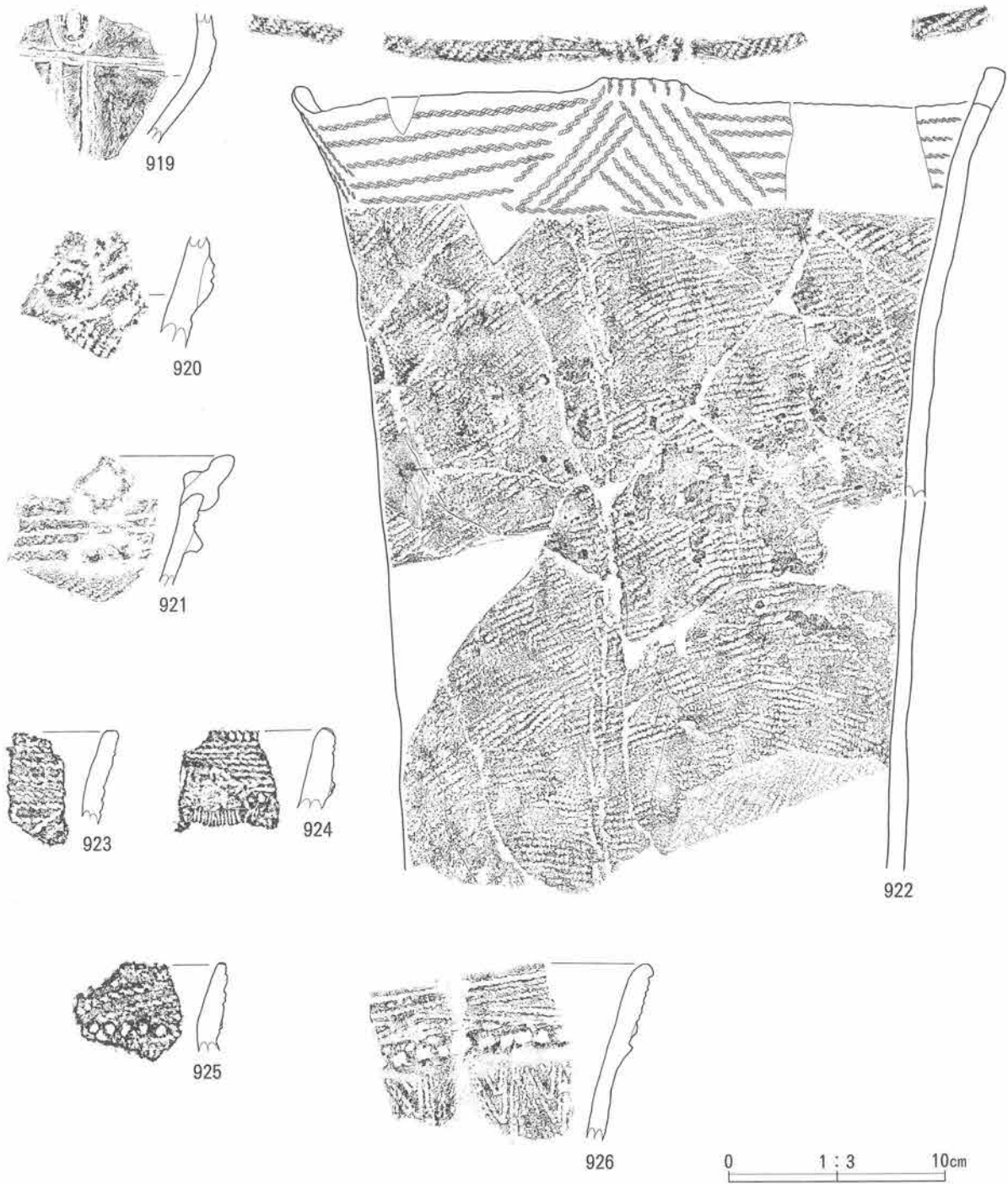
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾、地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
895	8B④・I層腐植土	深鉢・口縁部	LR側圧? (高い隆帯上も) (*摩耗しているため不明)	ナデ	隆帯剥落	
896	8B④・I層腐植土(1/3片)、II層(2/3)	深鉢・口縁部	口: LR側圧/頸: 竹管状刺突列/胴: LRタテ? (*外面摩耗、表面剥落)	ナデ	繊維・口唇摩耗ひどい	
897	8B④・II層	深鉢・口縁部	口唇: LRヨコ/口: LR側圧(貼付文の上も?)・深いC字形刺突(側圧?)	ナデ	繊維・外スス、摩耗	
898	8B④・II層	深鉢・口縁部	LR側圧(突起及びその間の口唇部も)	ナデ	繊維・内面焼けはじけ	
899	8B④・II層	深鉢・口縁部	口唇: 強いナデ/口: LR側圧/胴: LRヨコ	ミガキ	胎土繊維混入	
900	8B④・II層	深鉢・口縁部	口唇~口: L側圧	ナデ	外スス	
901	8B④・II層	深鉢・口縁部	LR側圧(突起口唇部も)	ナデ	胎土石混入	
902	8B④・III層	深鉢・口縁部	口: L側圧/頸: 微隆起(粘土まくれ)/胴: LRLヨコ??	ナデ	繊維、石・吹きこぼれ	
903	8B④・III層	深鉢・口縁部	口: R側圧/頸: C字形刺突列(側圧?)	摩耗	繊維・外面やや摩耗	
904	8B④疑似現象	深鉢	口: 太く浅めの沈線、刺突/胴: 単軸絡1A(R)タテ	ナデ	吹きこぼれ・内お焦げ	p.207
905	8C①・I層	深鉢・胴部	頸: 隆帯上にLR側圧/胴: LRヨコ→結節(R)タテ	ナデ	外面スス、摩耗	
906	8C①・II層	深鉢・口縁部	R側圧 *下の割れ口接合面からの剥離(断面かまぼこ状)	ナデ丁寧	胎土繊維・内面剥落	
907	8C①・III層	深鉢・口縁部	LR側圧(隆帯上も)	ナデ		
908	8C①・III層	深鉢・口縁部	口唇: LR側圧/口: LR側圧(隆帯上も)	ナデ	胎土繊維・内外摩耗	

第181図 縄文土器(79)



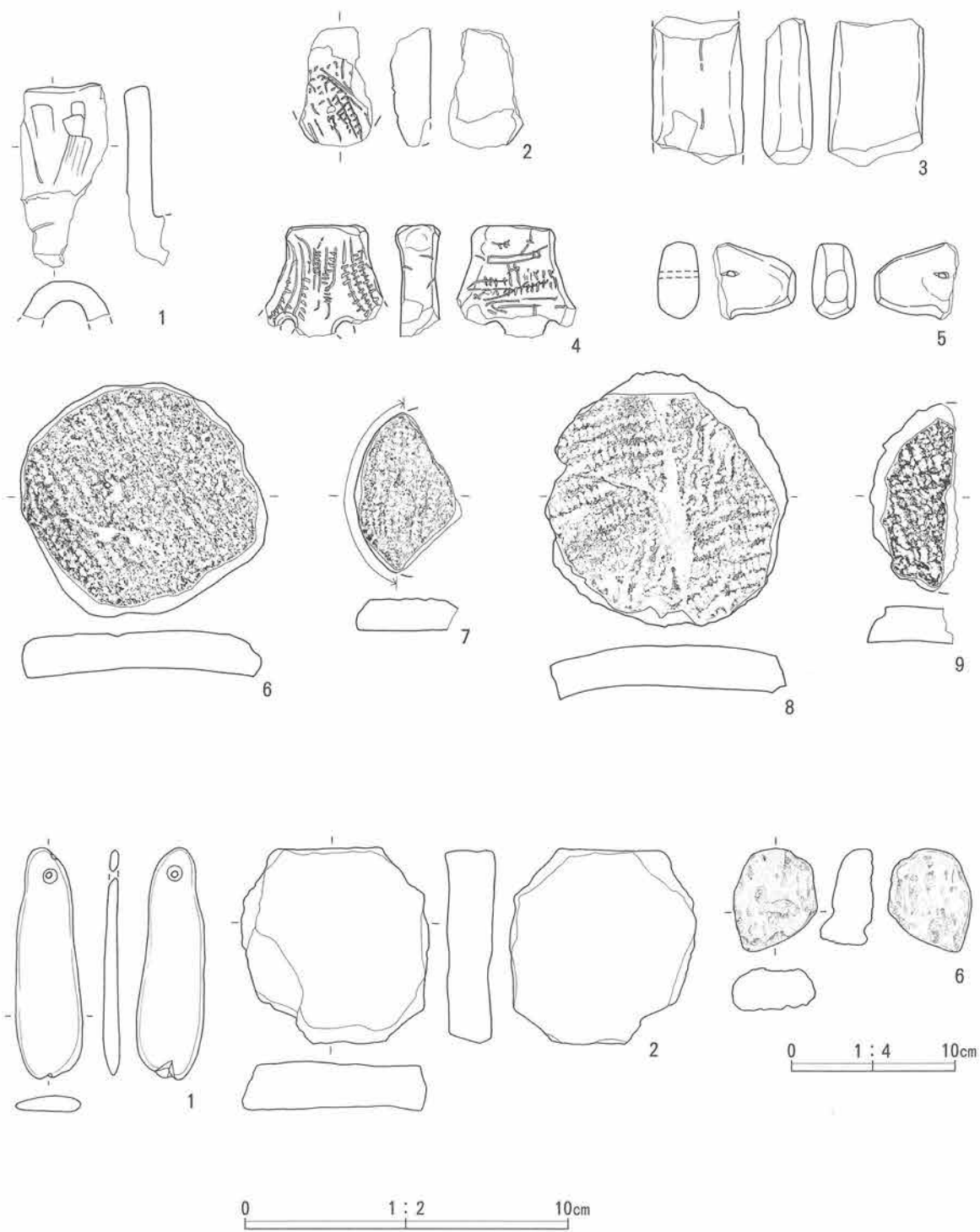
No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (文様・装飾・地文・原体など)	内面 (調整など)	備 考	本文記載
909	8C①・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口～頸隆帯状//口：R側圧/頸：深い竹管状刺突列/肩：斜縄文 (LRヨコ?)	ナデ	繊維・外スス、中摩耗	
910	8C②付近・Ⅰ層 (腐植土)	深鉢・口縁部	口唇ナデで突出//口縁側圧?・LRヨコ、タテ	ナデ	胎土繊維混入	
911	8C②付近・Ⅰ層 (腐植土)	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ	隆帯剥落	
912	8C②付近・Ⅰ層 (腐植土)	深鉢・口縁部	内面～口：RLR?側圧	ナデ	胎土繊維混入	
913	8C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	LR?側圧 (全面吹きこぼれあり不明)	ナデ	繊維・外吹きこぼれ、中スス	
914	8C②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口～頸隆帯状//口：単軸絡1 (R) 側圧/頸：側圧?/肩：Rヨコ	ただれ	胎土繊維・外スス	
915	8C②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LRヨコ、ナナメ	ナデ	繊維・外スス、剥落	
916	8C②疑似現象	深鉢・口縁部	口：R、L側圧/頸：深めD字形刺突・貼付文剥落/肩：RLヨコ	ナデ	胎土繊維・外スス	
917	8C②坑柱・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～口：LRヨコ	ナデ	胎土繊維混入	
918	8C③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR側圧 (隆帯上も)	ミガキ	胎土繊維混入	

第182図 縄文土器(80)

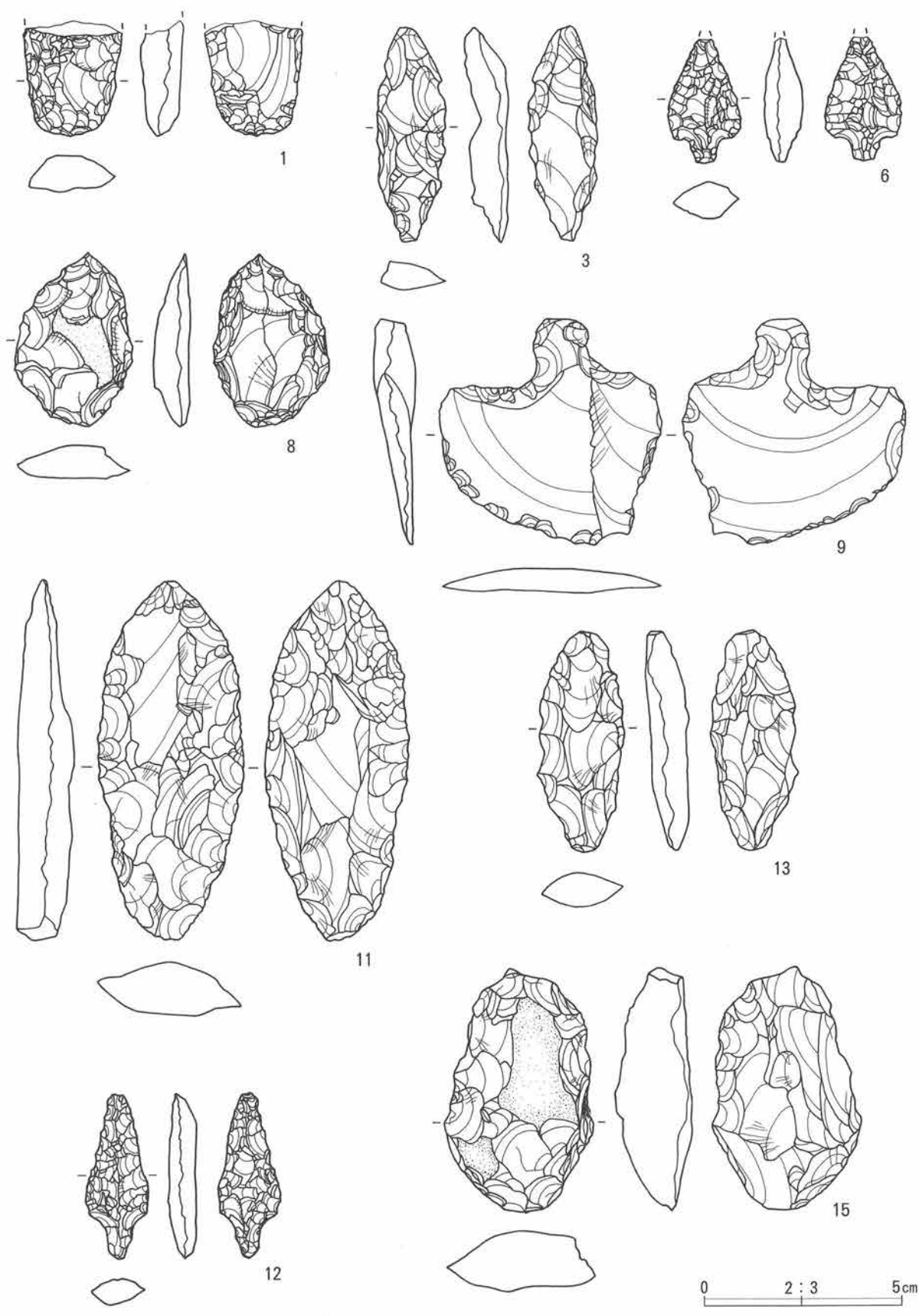


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面(調整など)	備考	本文記載
919	8C③・Ⅲ層	深鉢・胴部	半裁竹管状工具による浅い沈線	ナデ	外面スス付着	
920	8C④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	L側圧(ボタン状貼付文の上は渦状に)	ナデ	胎土繊維・内外やや摩耗	
921	8C④・Ⅲ層	深鉢・口縁部	飾り突起//口:L.R側圧/頸:高いB字状突起/胴:LRヨコ	ナデ	内面お焦げ	
922	8C③・Ⅲ層、8C③~8D①底似現象	深鉢(口ほぼ一周)	4単位//口唇:LRヨコ、突起はLR側圧//口:L.R側圧/頸:LRヨコ、ナメー粘附シテ	ナデ	8C③/24・外お焦げ	
923	9D①・Ⅳ層-15cm	深鉢・口縁部	LR側圧	ナデ		
924	13C④の列・Ⅳ層-20cm	深鉢・口縁部	口:刻目?・LR側圧/頸:高め隆帯上縁からの刺突/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ナデ	胎土繊維・外剥落	
925	14C②付近 断面そうじ時	深鉢・口縁部	口唇:刺突(側圧?)//口:L側圧/頸:低い隆帯上縁く深め刺突	ナデ	吹きこぼれ	
926	試掘トレンチ(中央部北端?)・Ⅱ層上面	深鉢・口縁部	口:L側圧/頸:低い隆帯上に横からの刺突列/胴:単軸絡1A(R、L)タテ	ナデ	繊維・内外やや摩耗	p.207

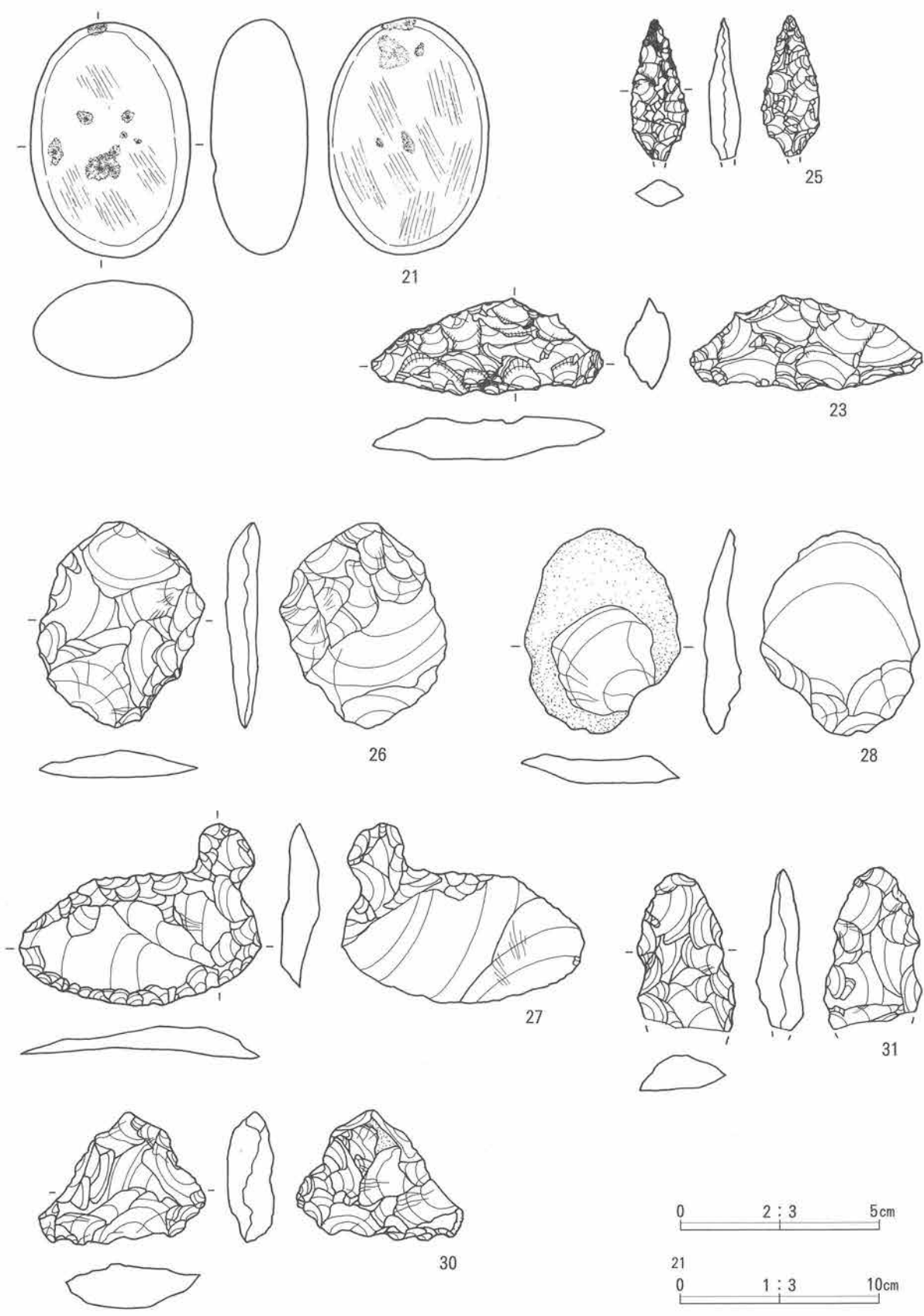
第183図 縄文土器(81)



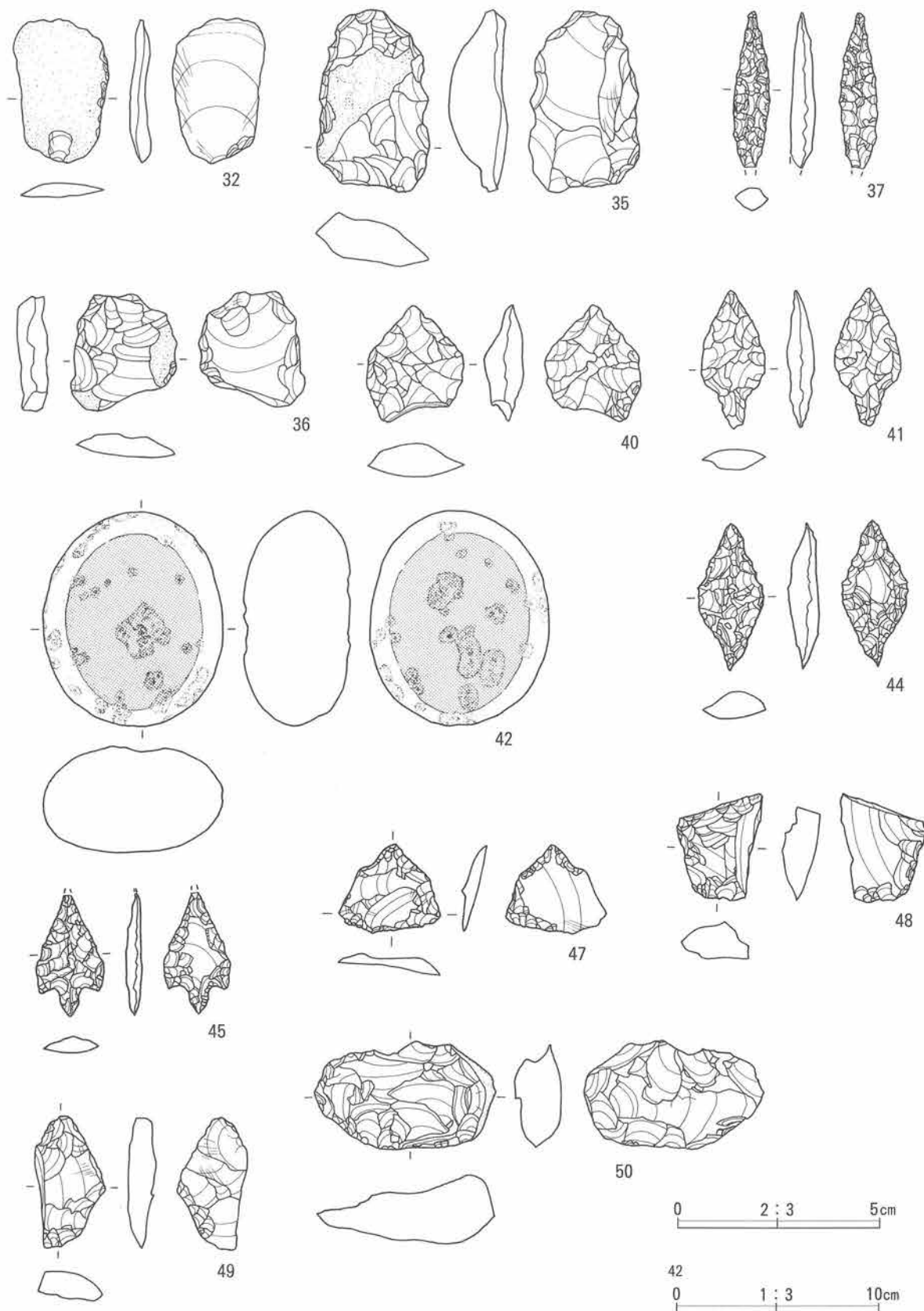
第184図 土製品・石製品



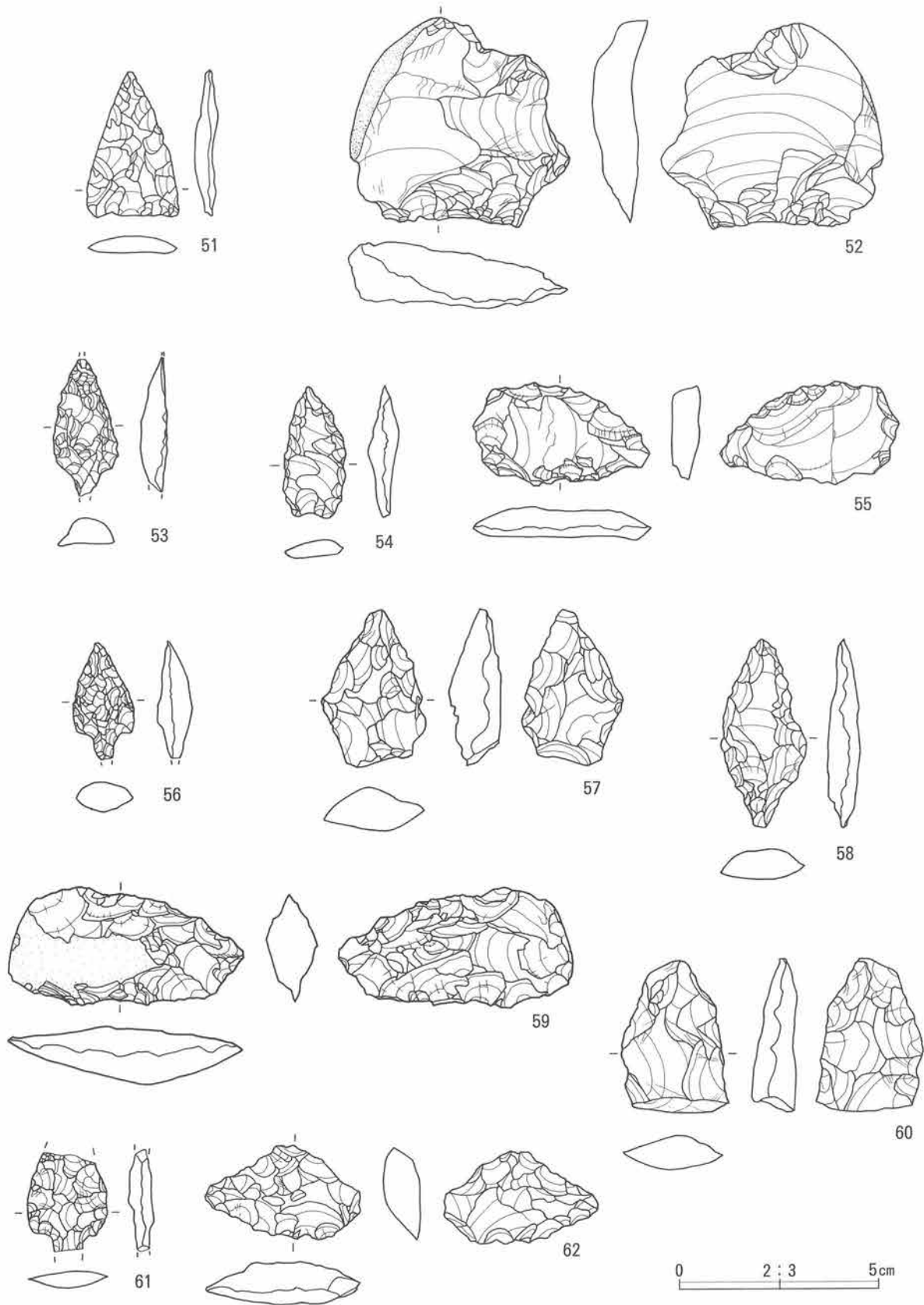
第185图 石器(1)



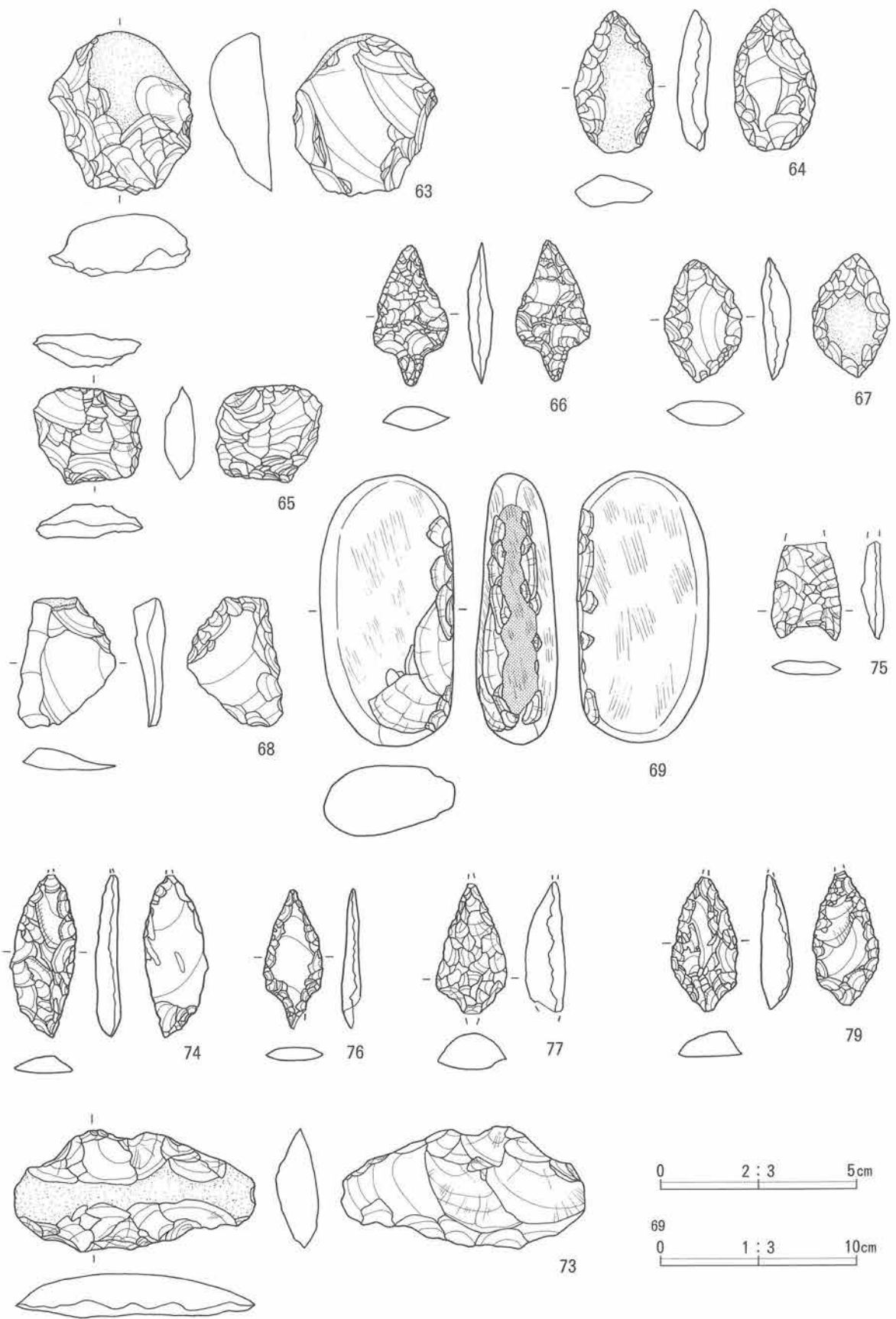
第186図 石器(2)



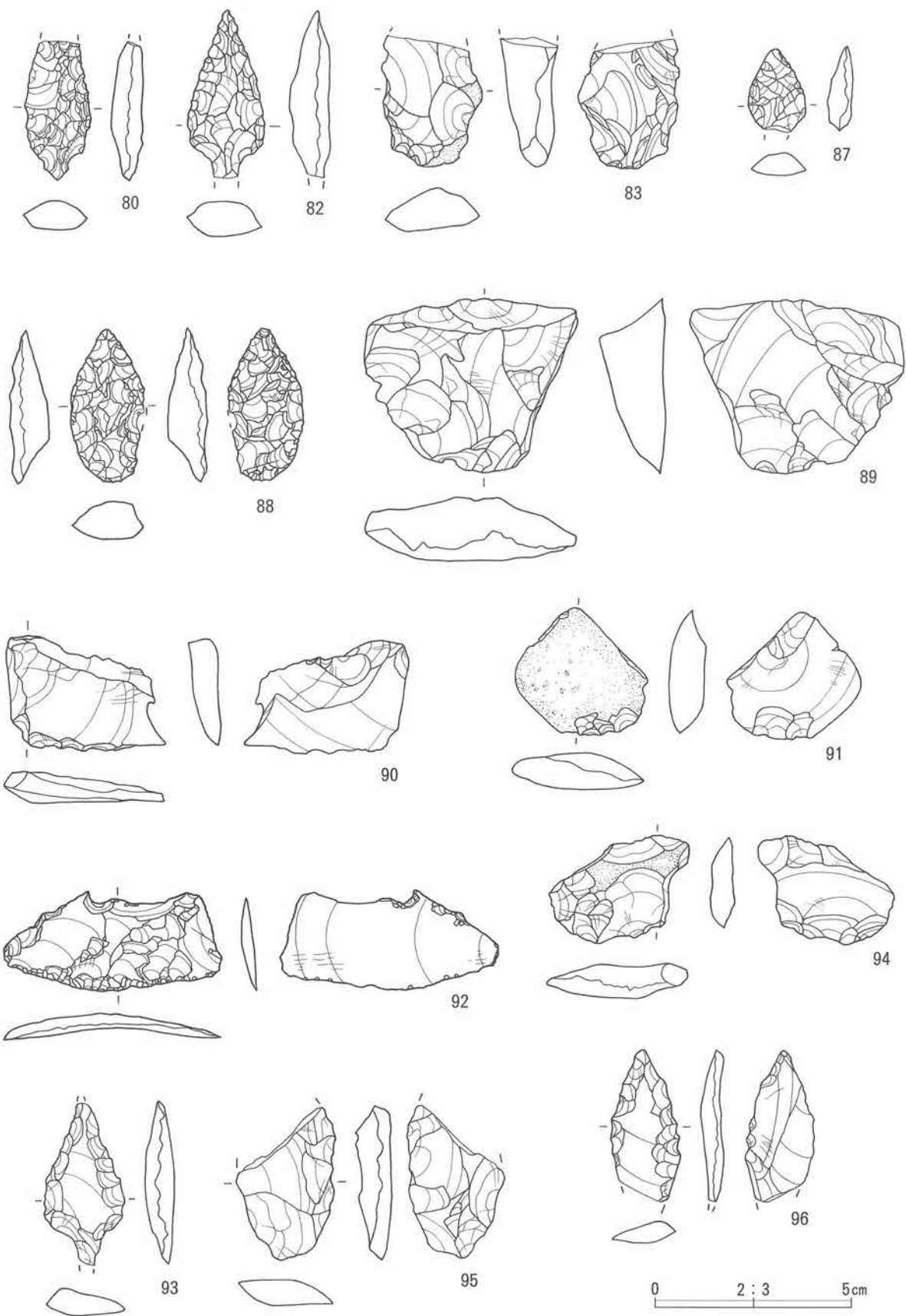
第187图 石器(3)



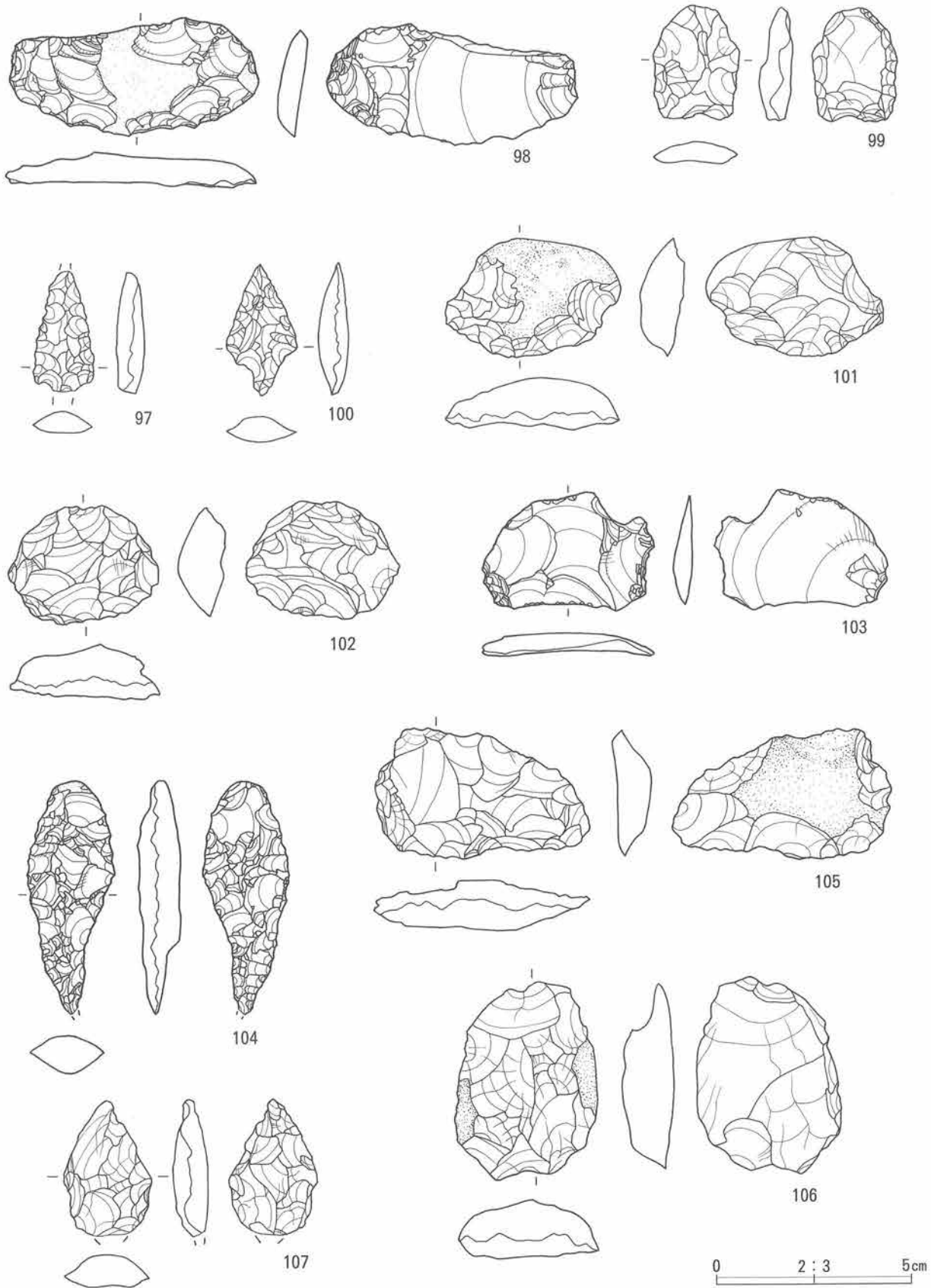
第188図 石器(4)



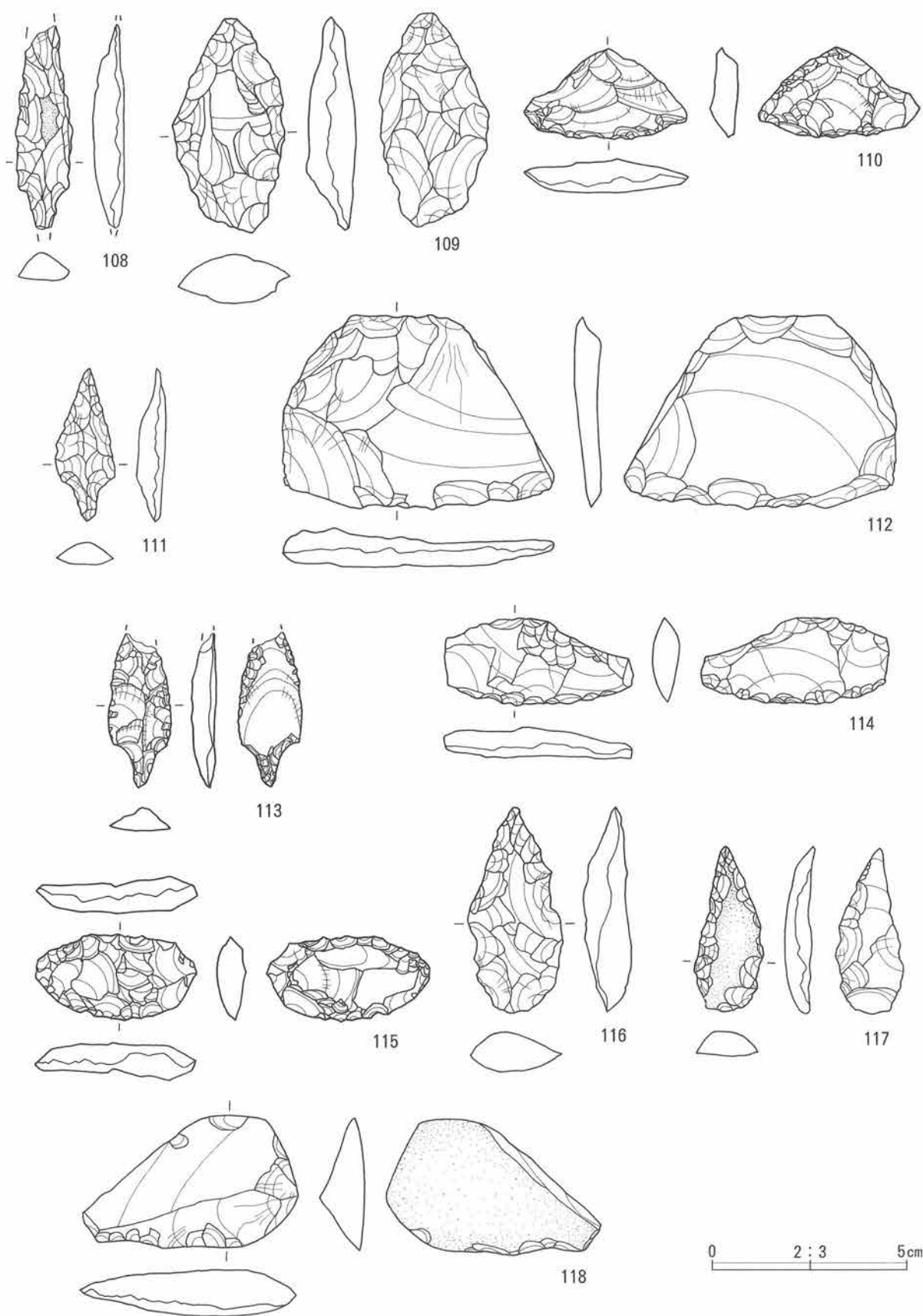
第189图 石器(5)



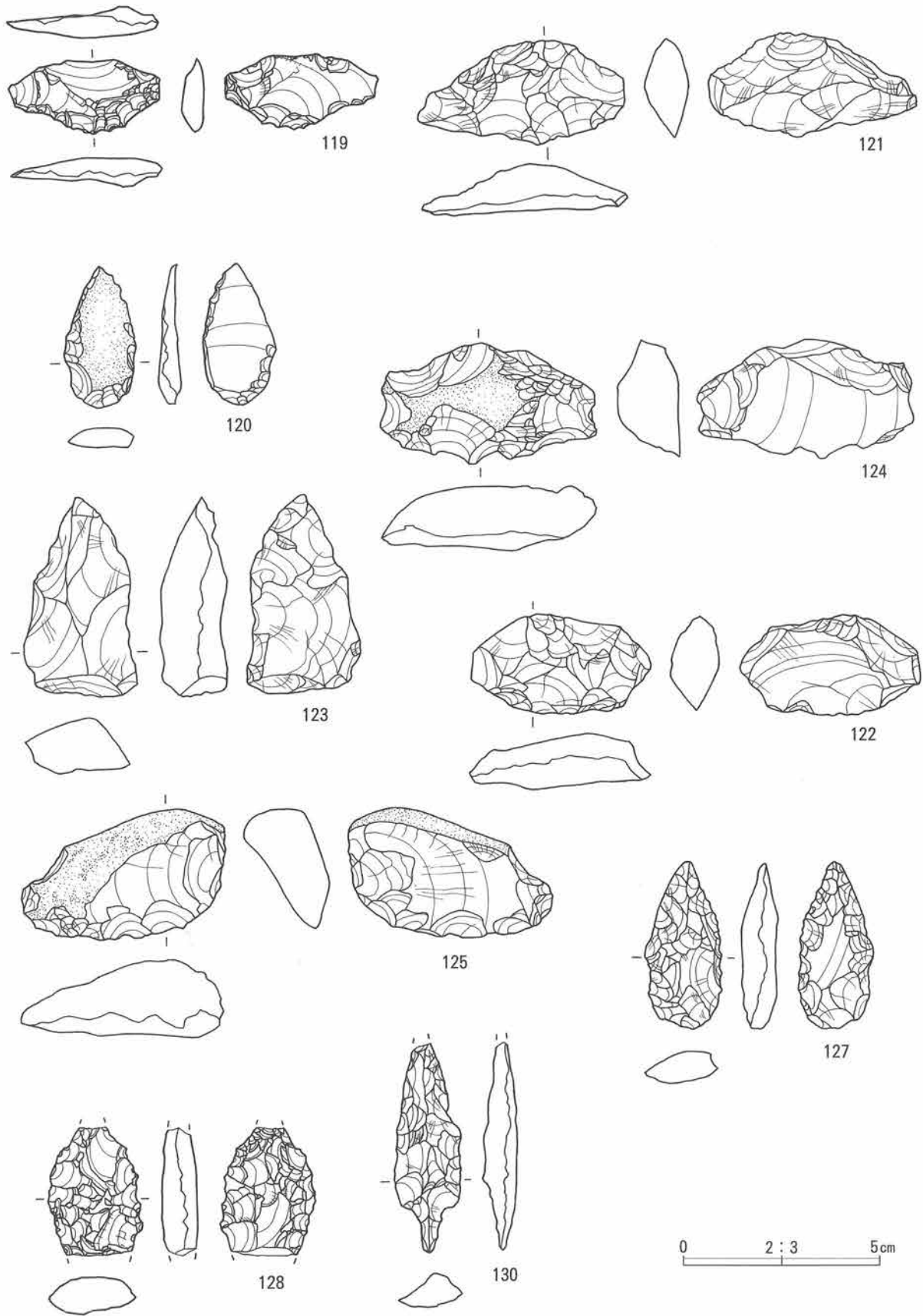
第190图 石器(6)



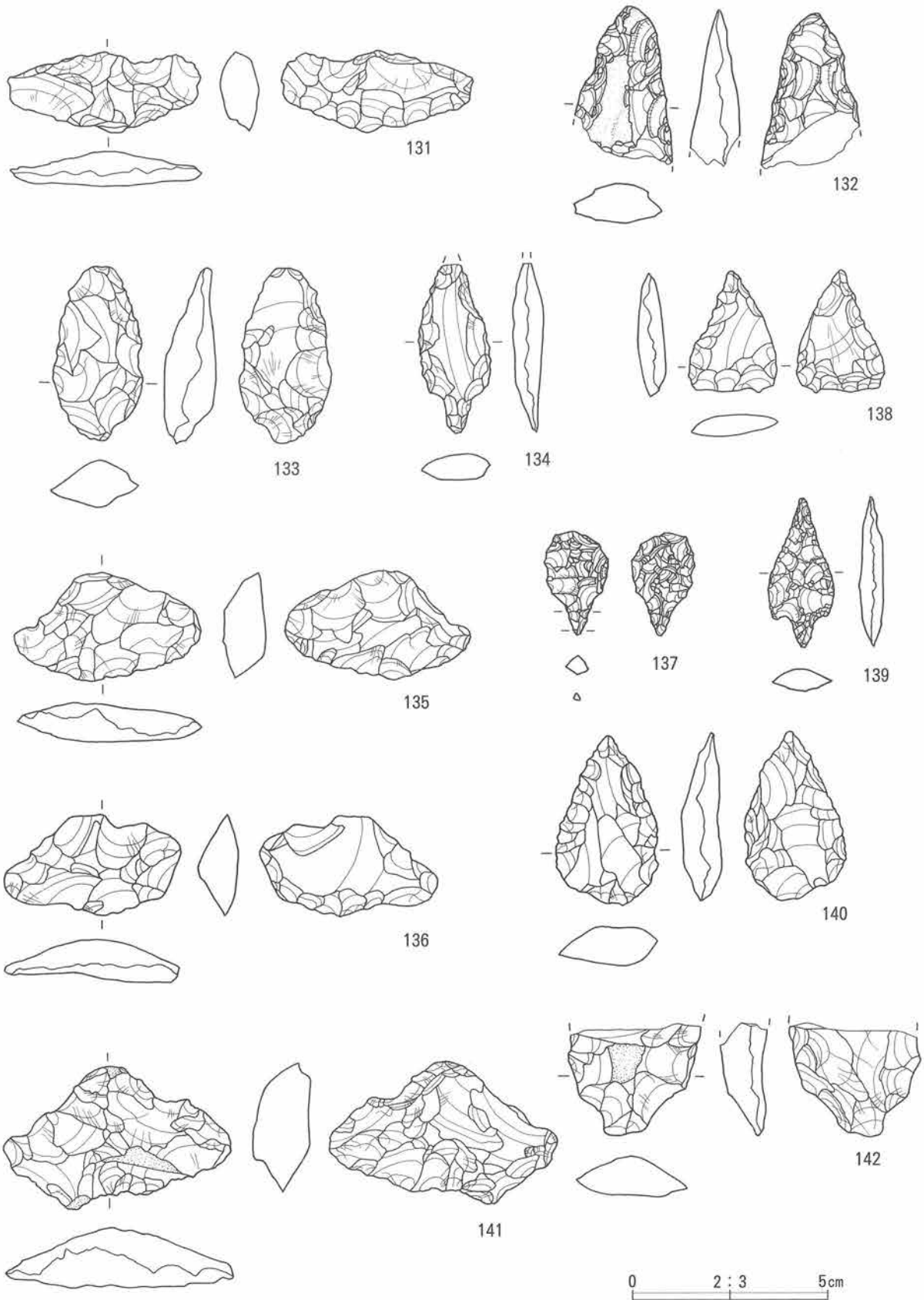
第191图 石器(7)



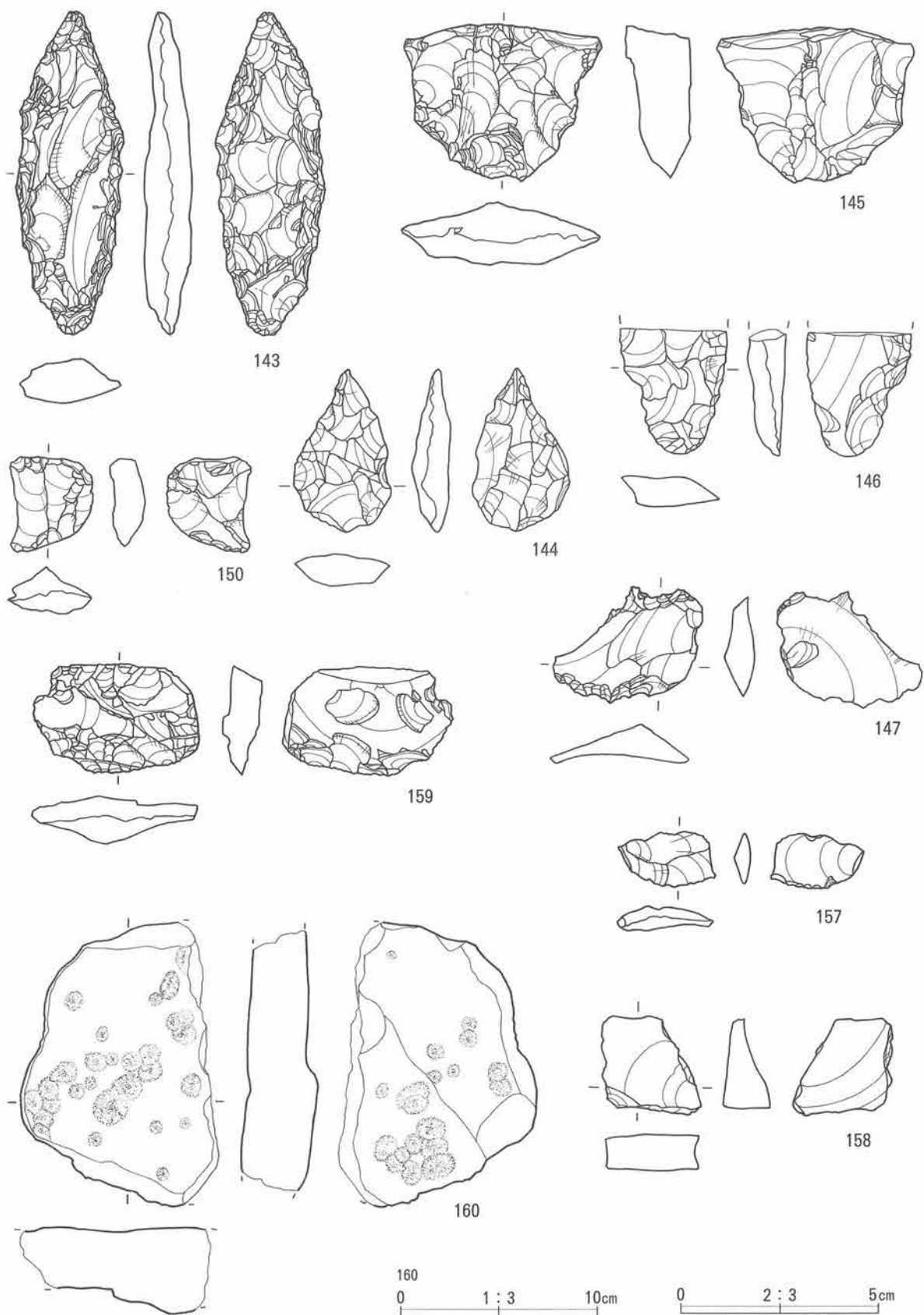
第192図 石器(8)



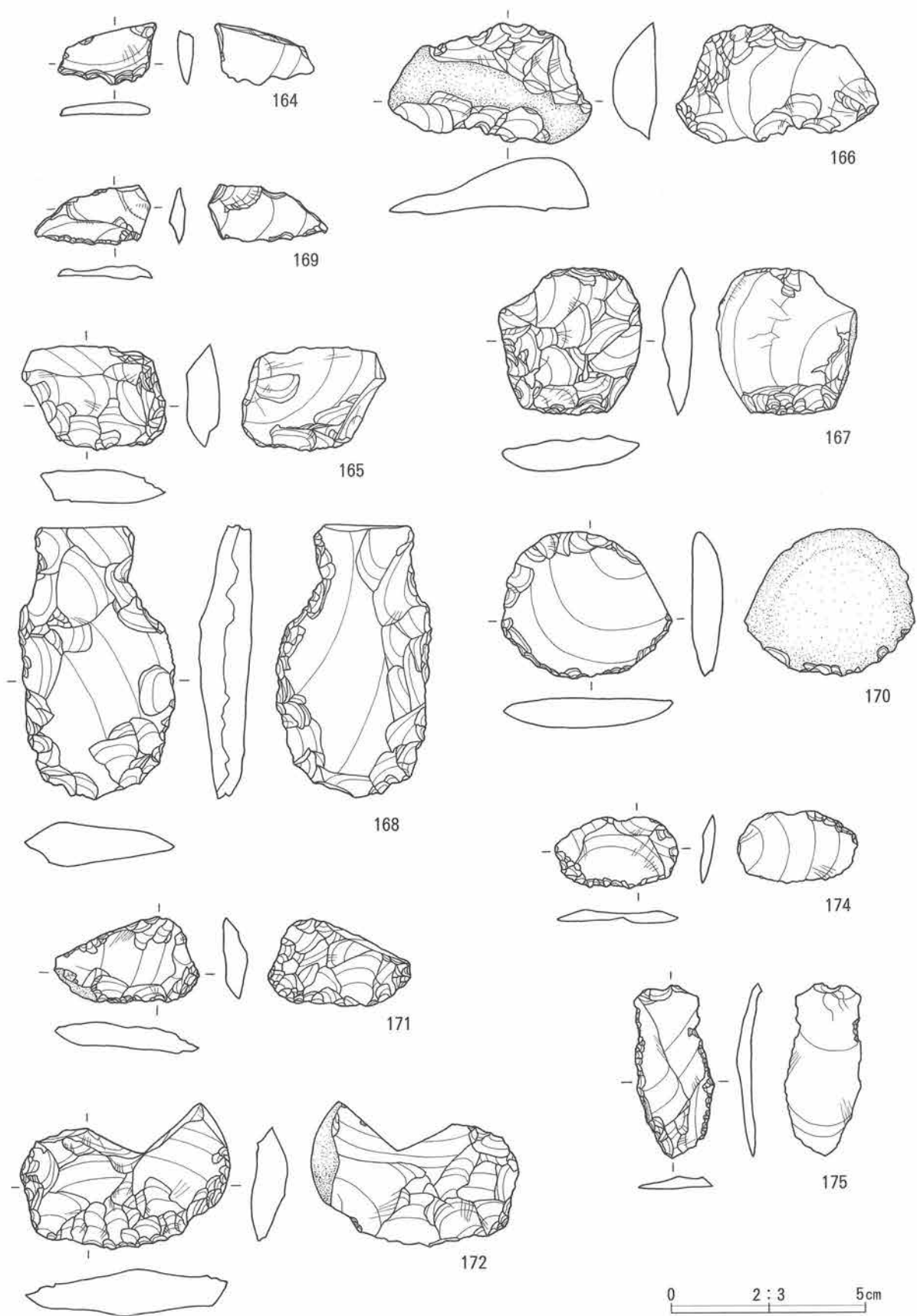
第193图 石器(9)



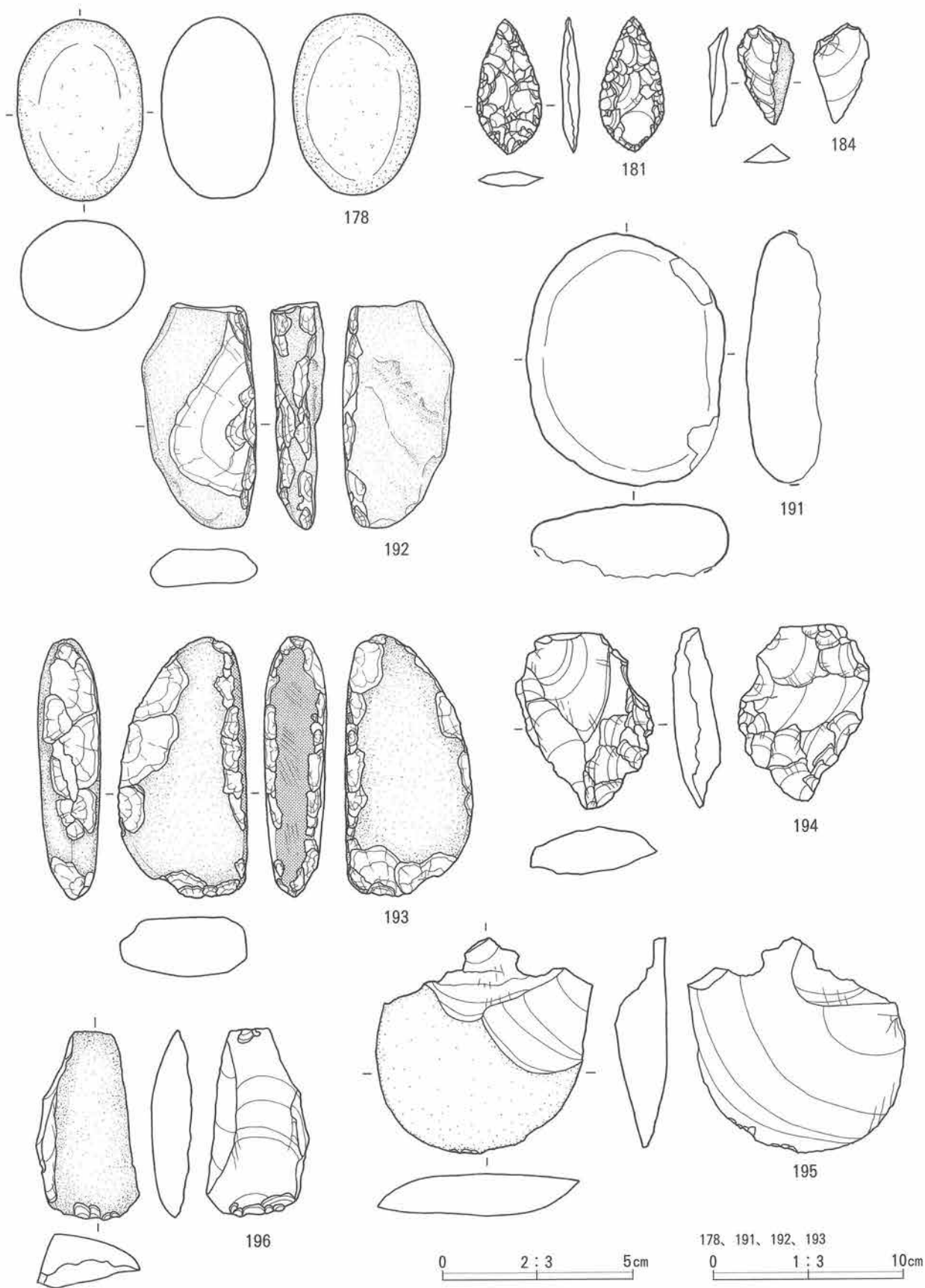
第194图 石器(10)



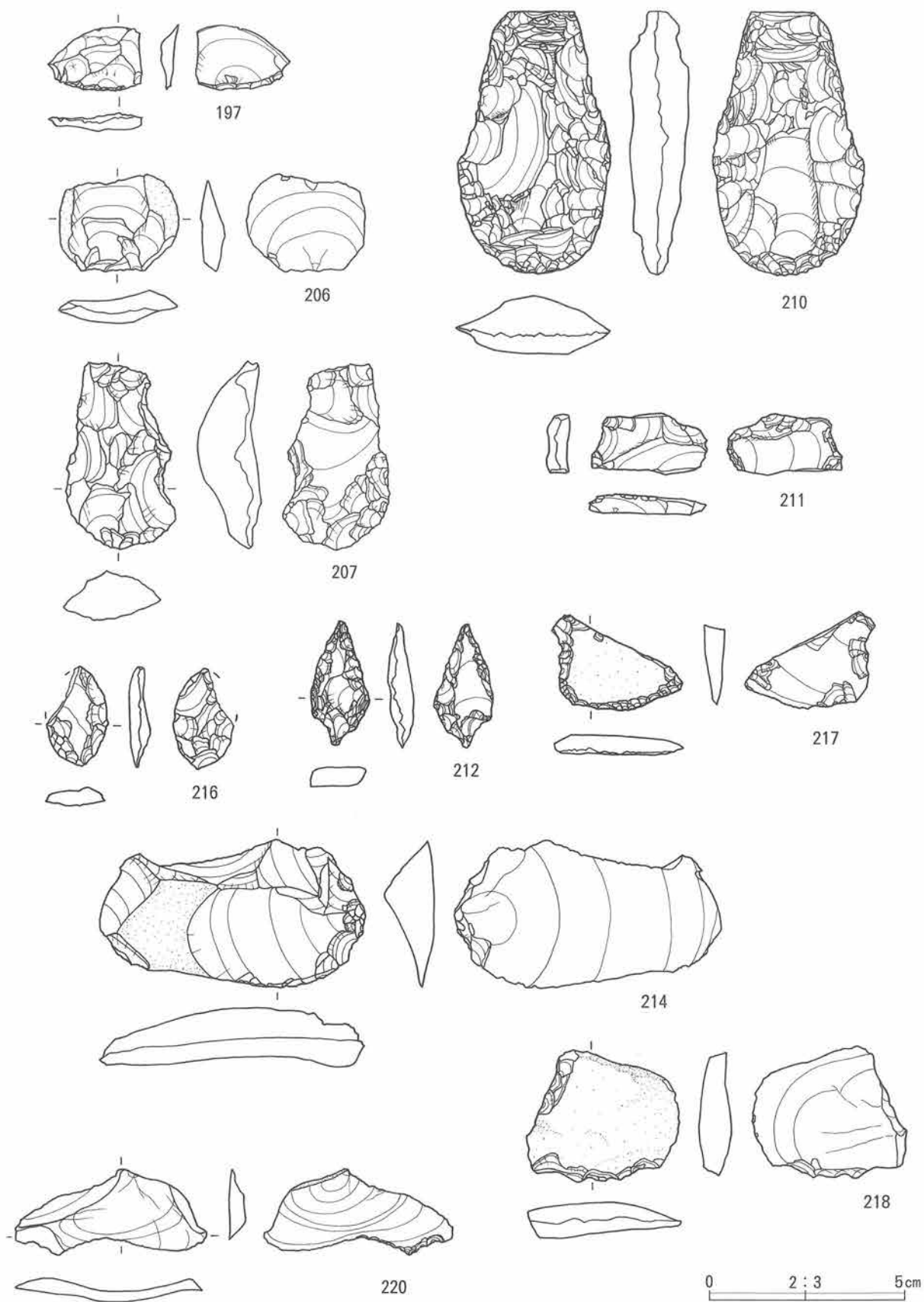
第195図 石器(11)



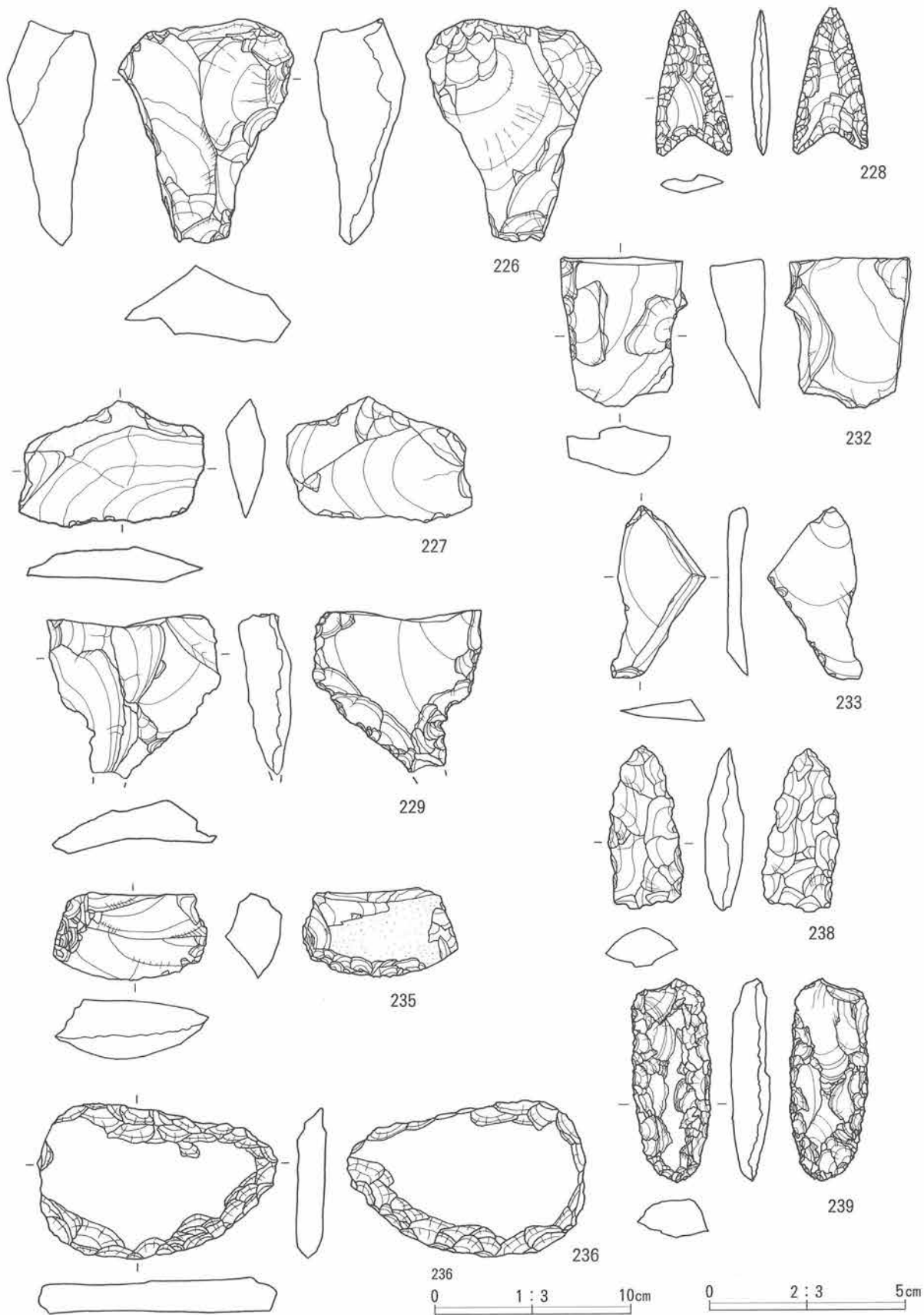
第196图 石器(12)



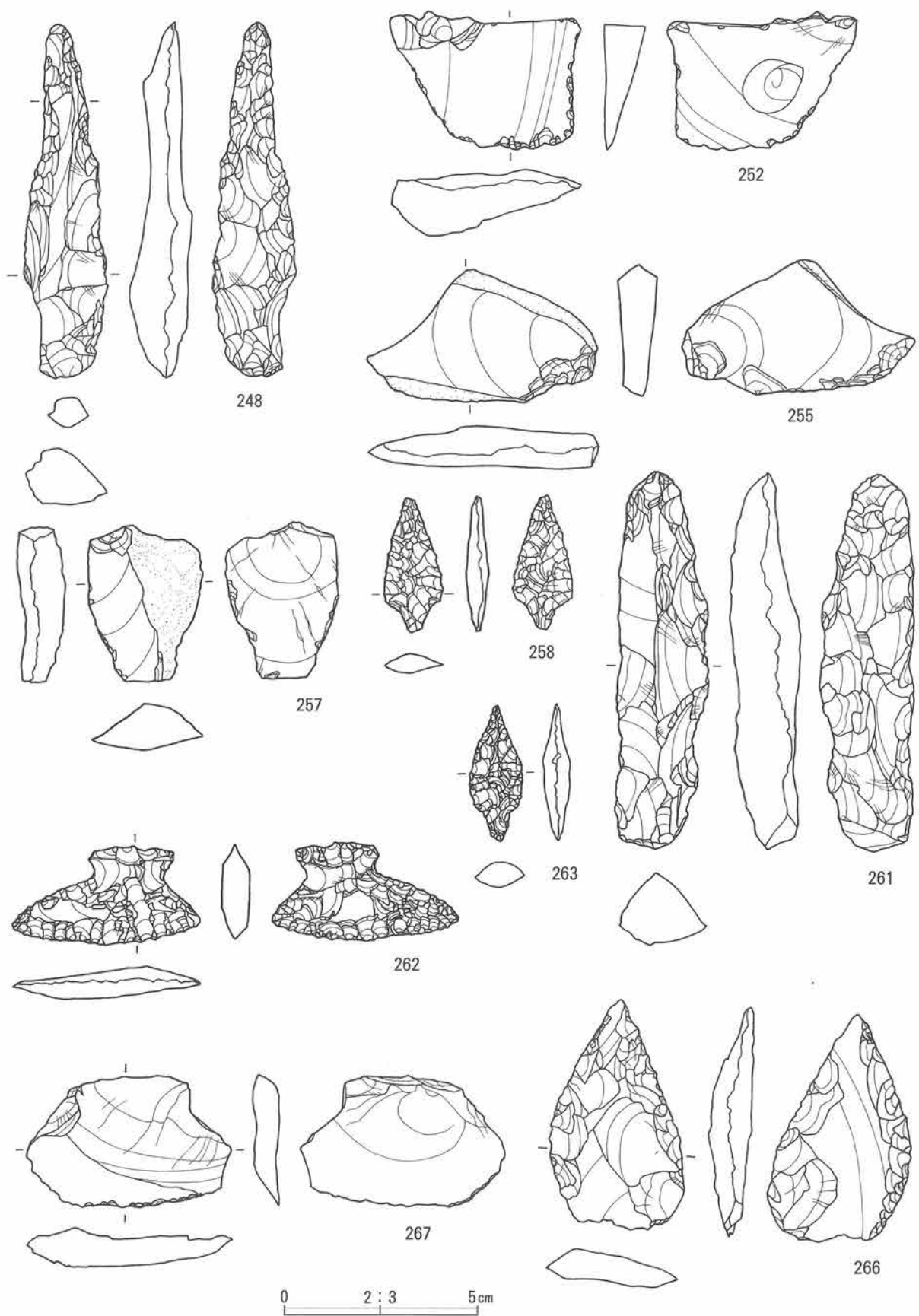
第197图 石器(13)



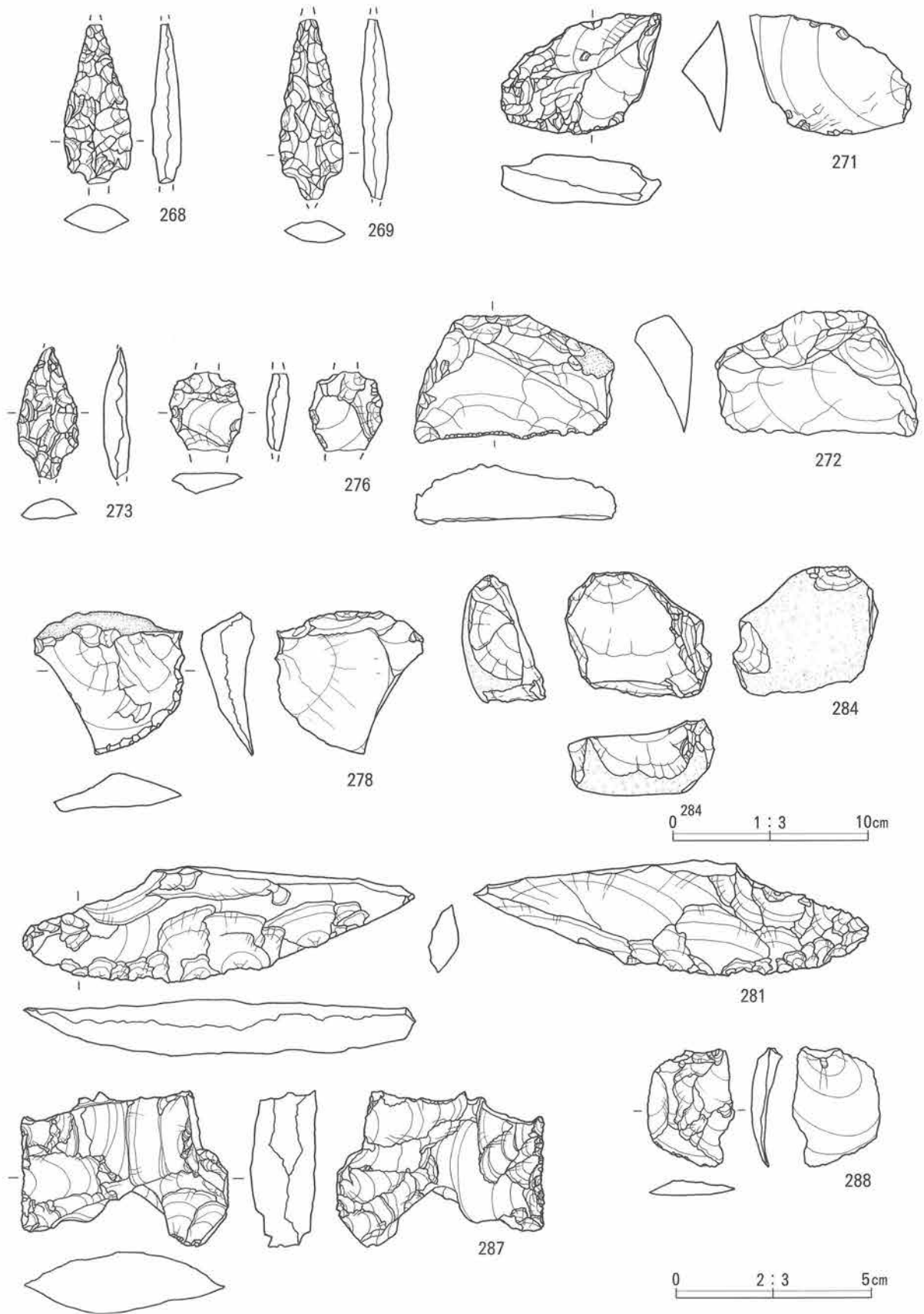
第198图 石器(14)



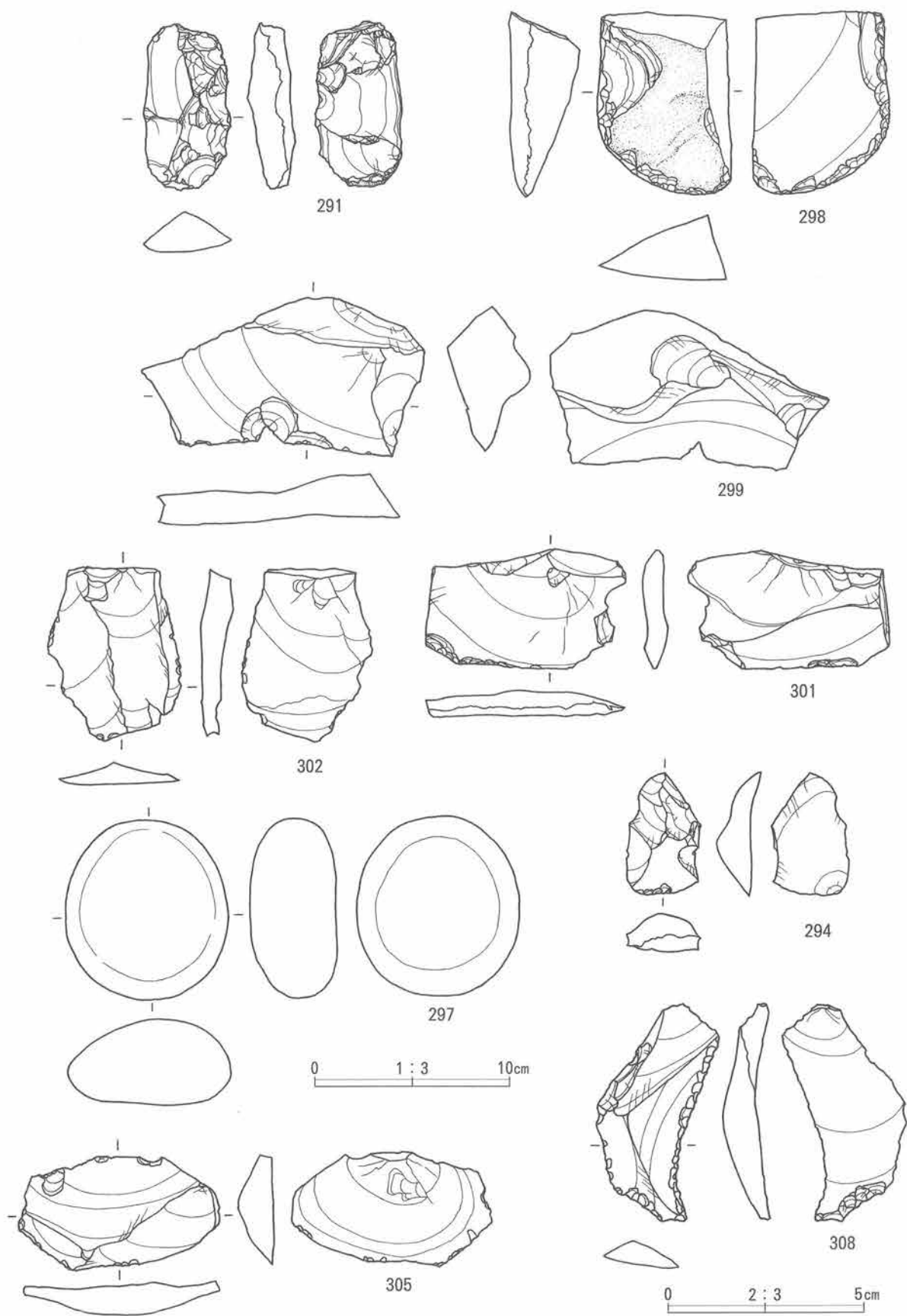
第199图 石器(15)



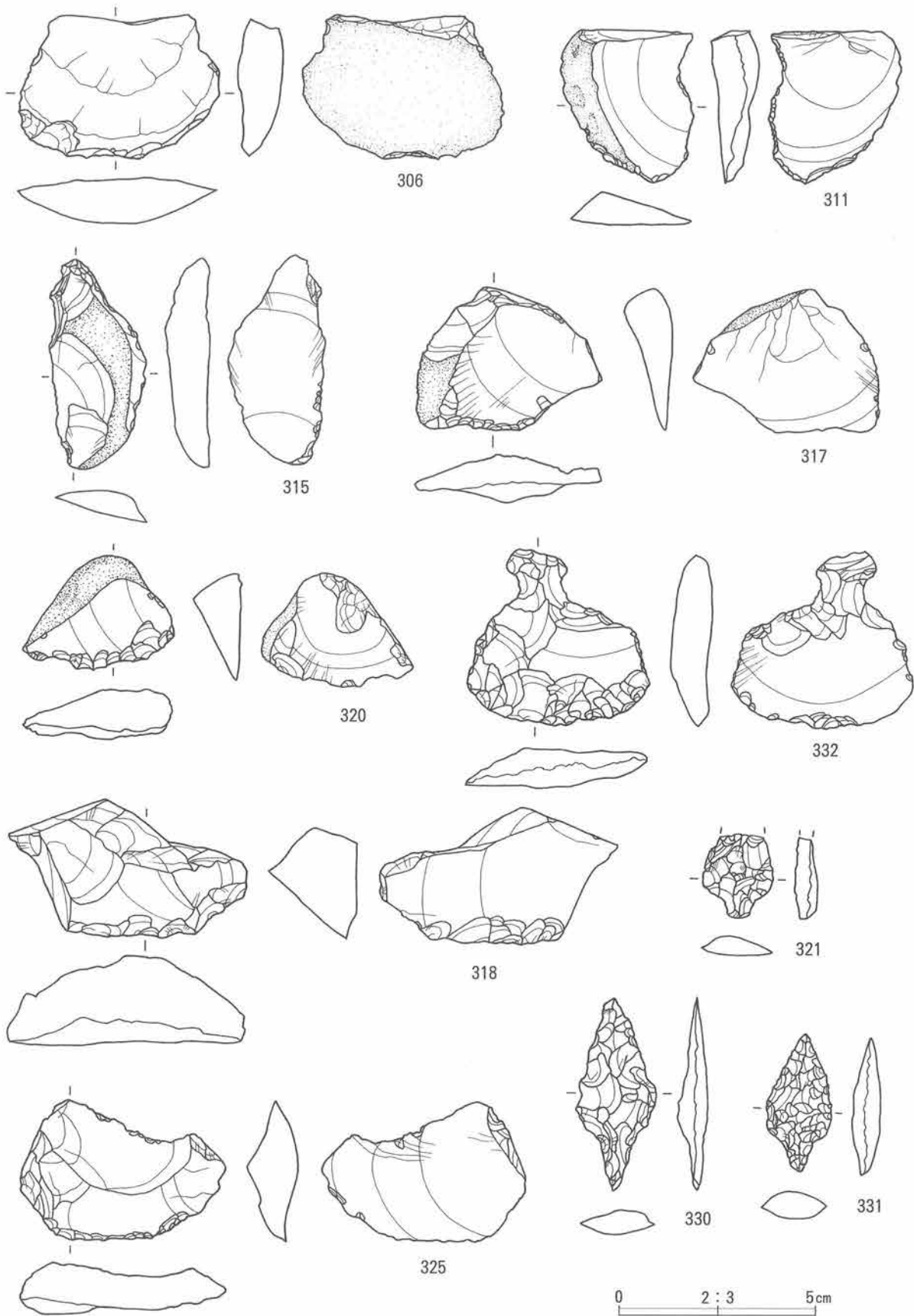
第200图 石器(16)



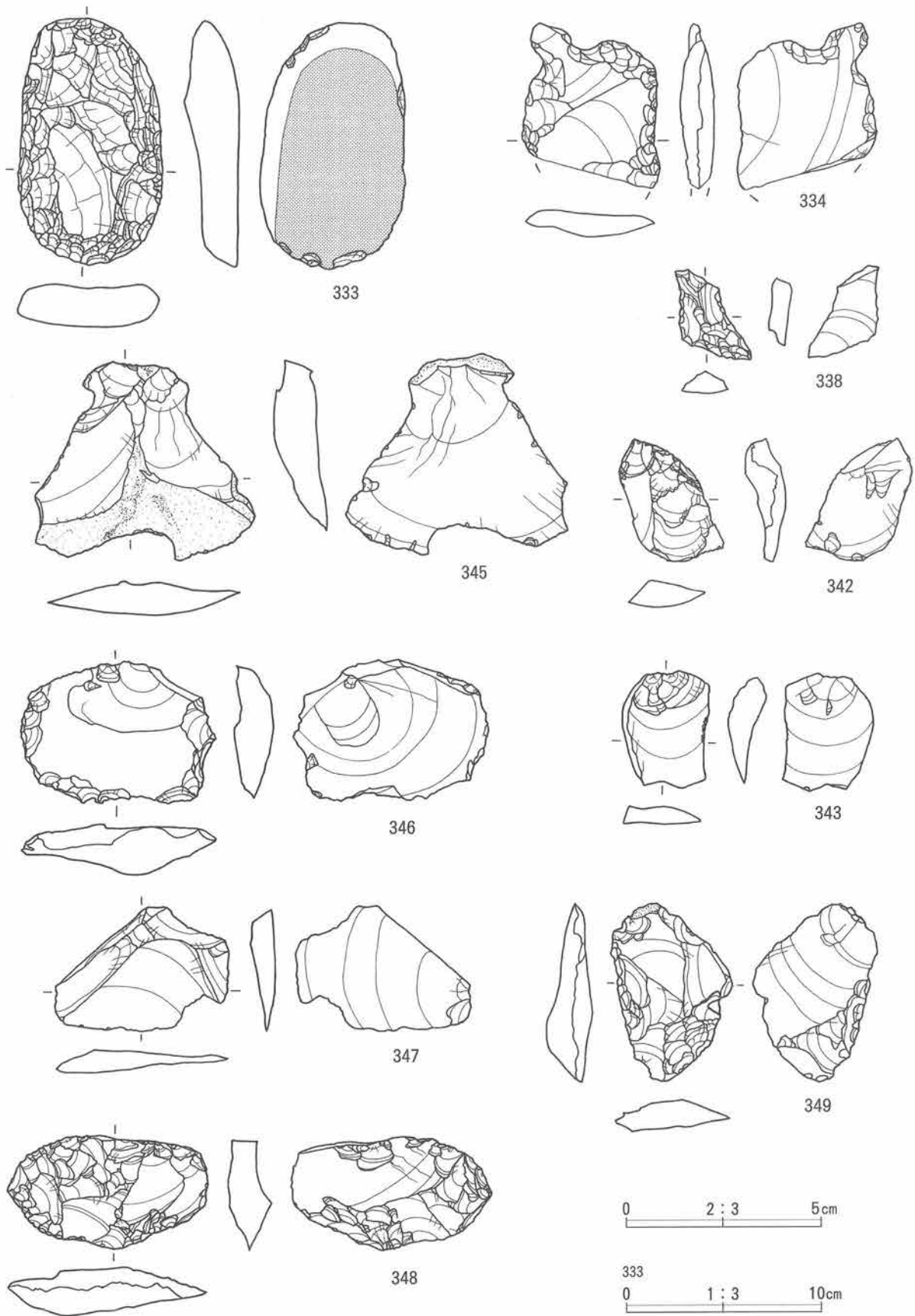
第201图 石器(17)



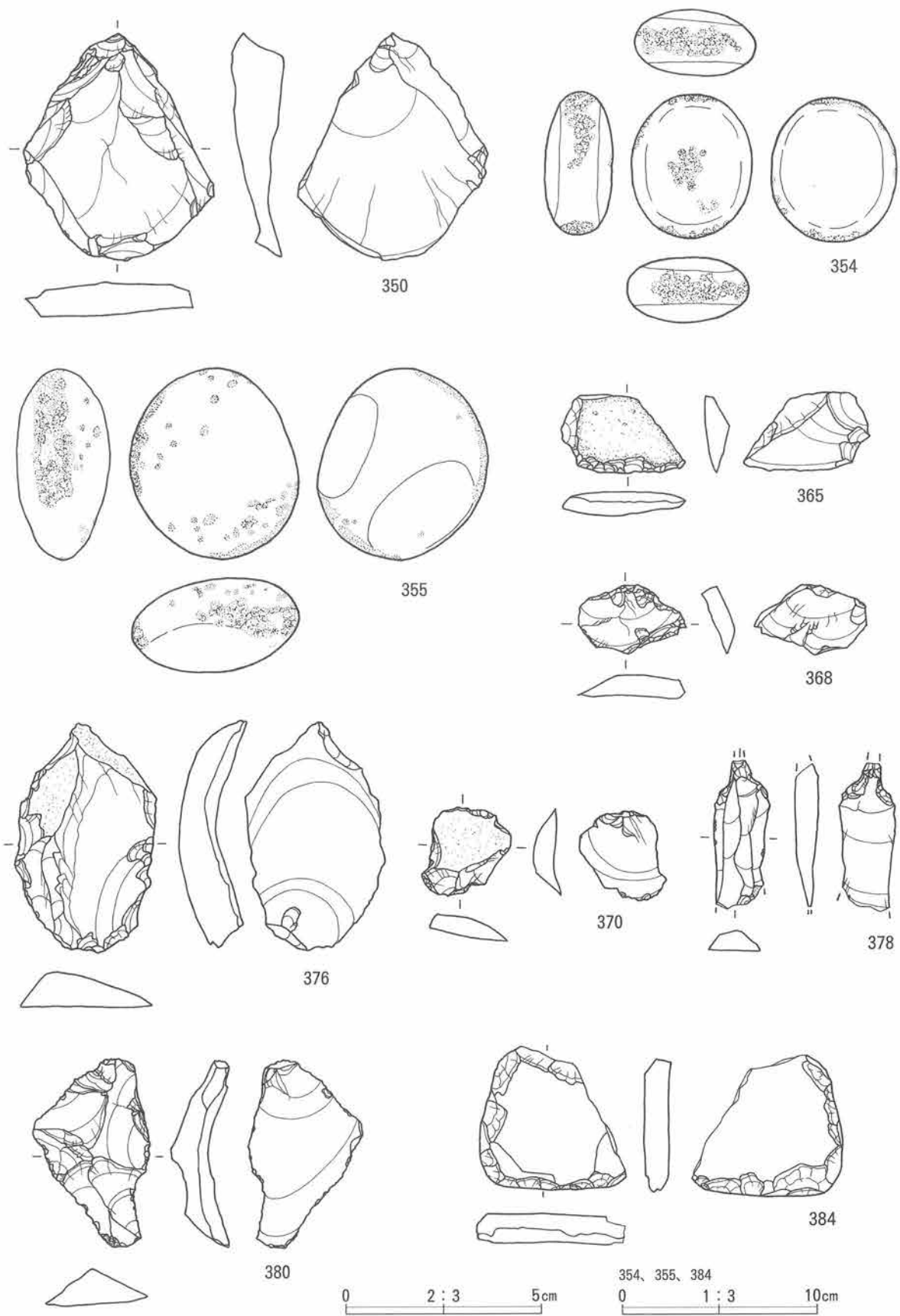
第202图 石器(18)



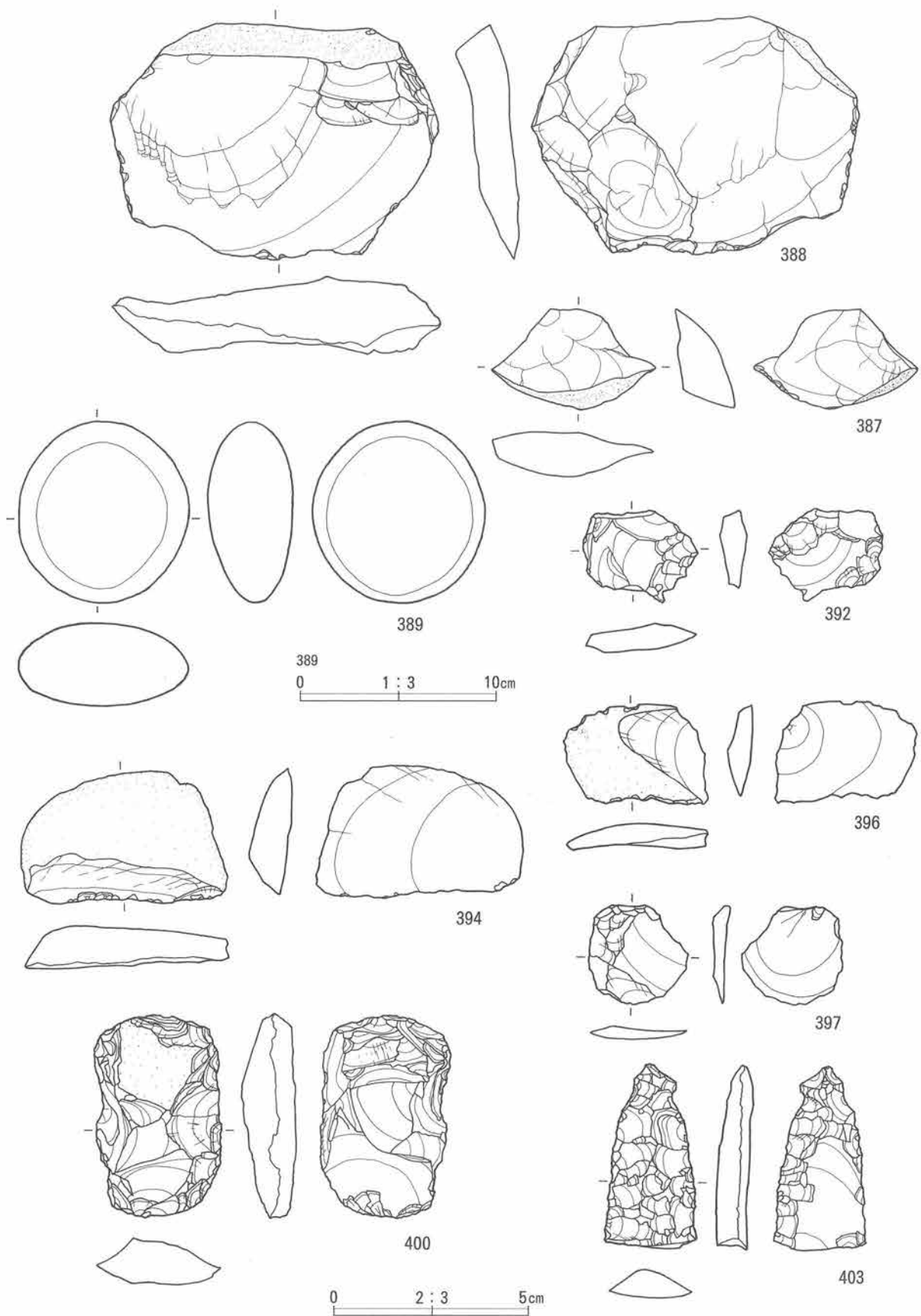
第203图 石器(19)



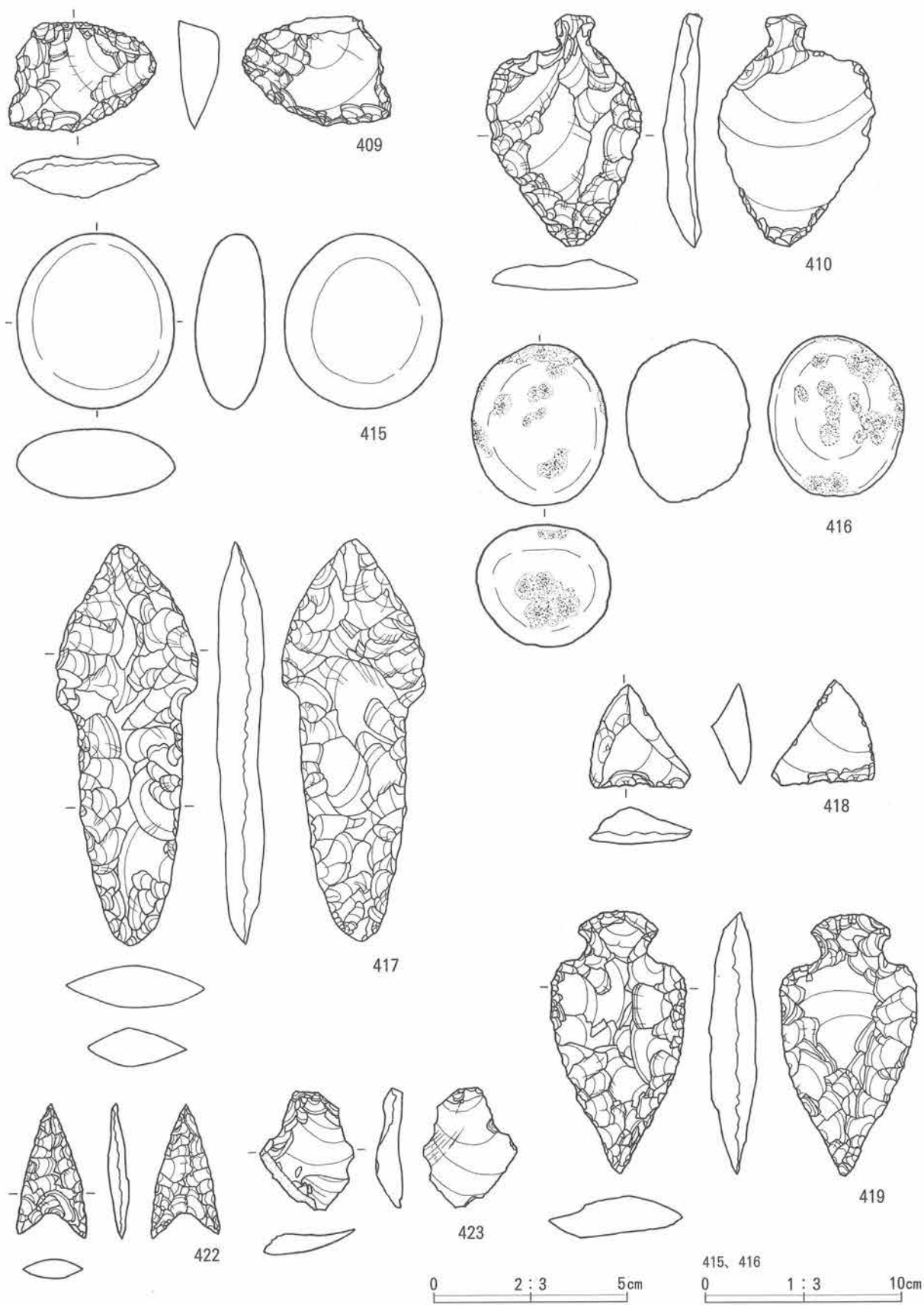
第204图 石器(20)



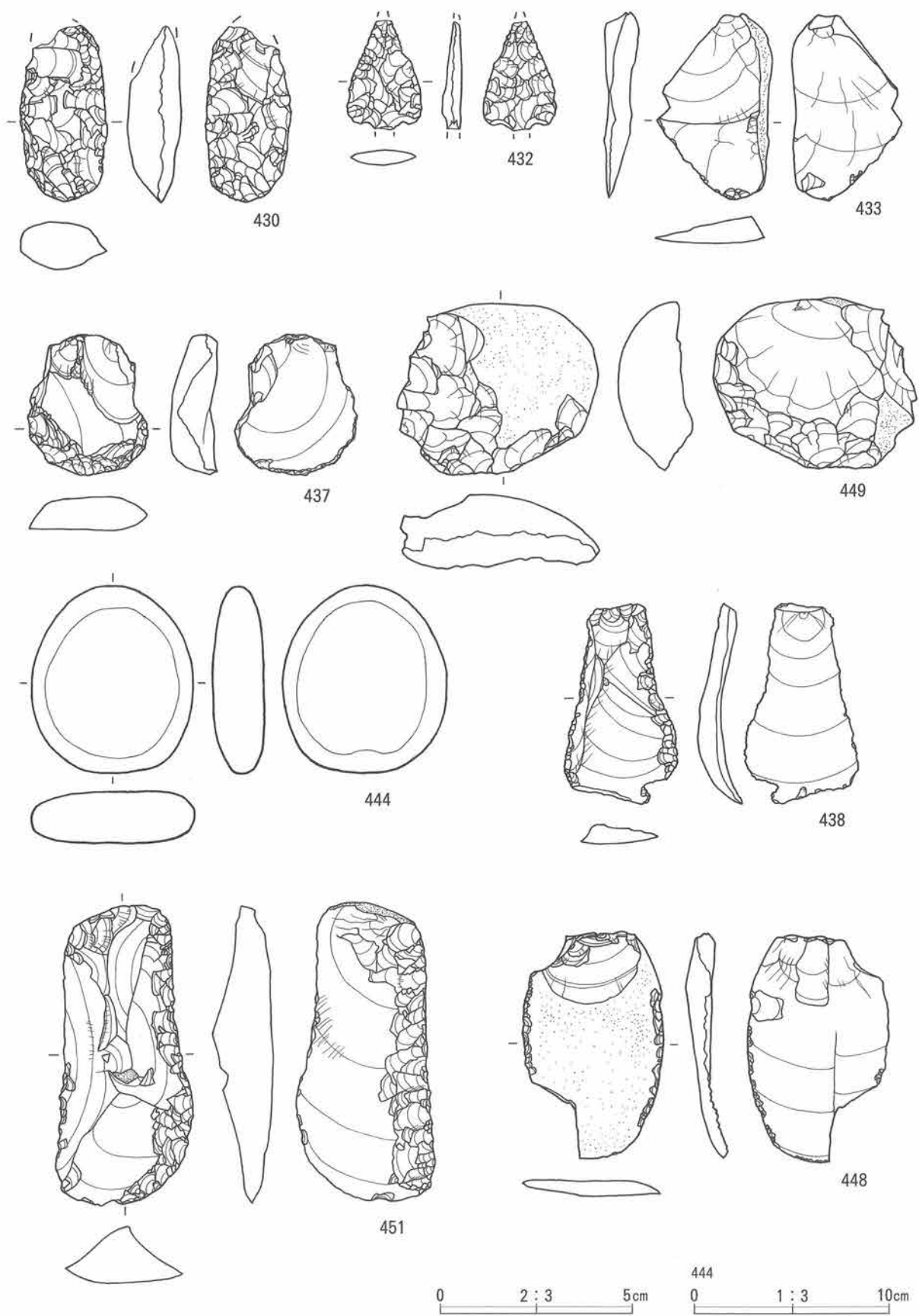
第205图 石器(21)



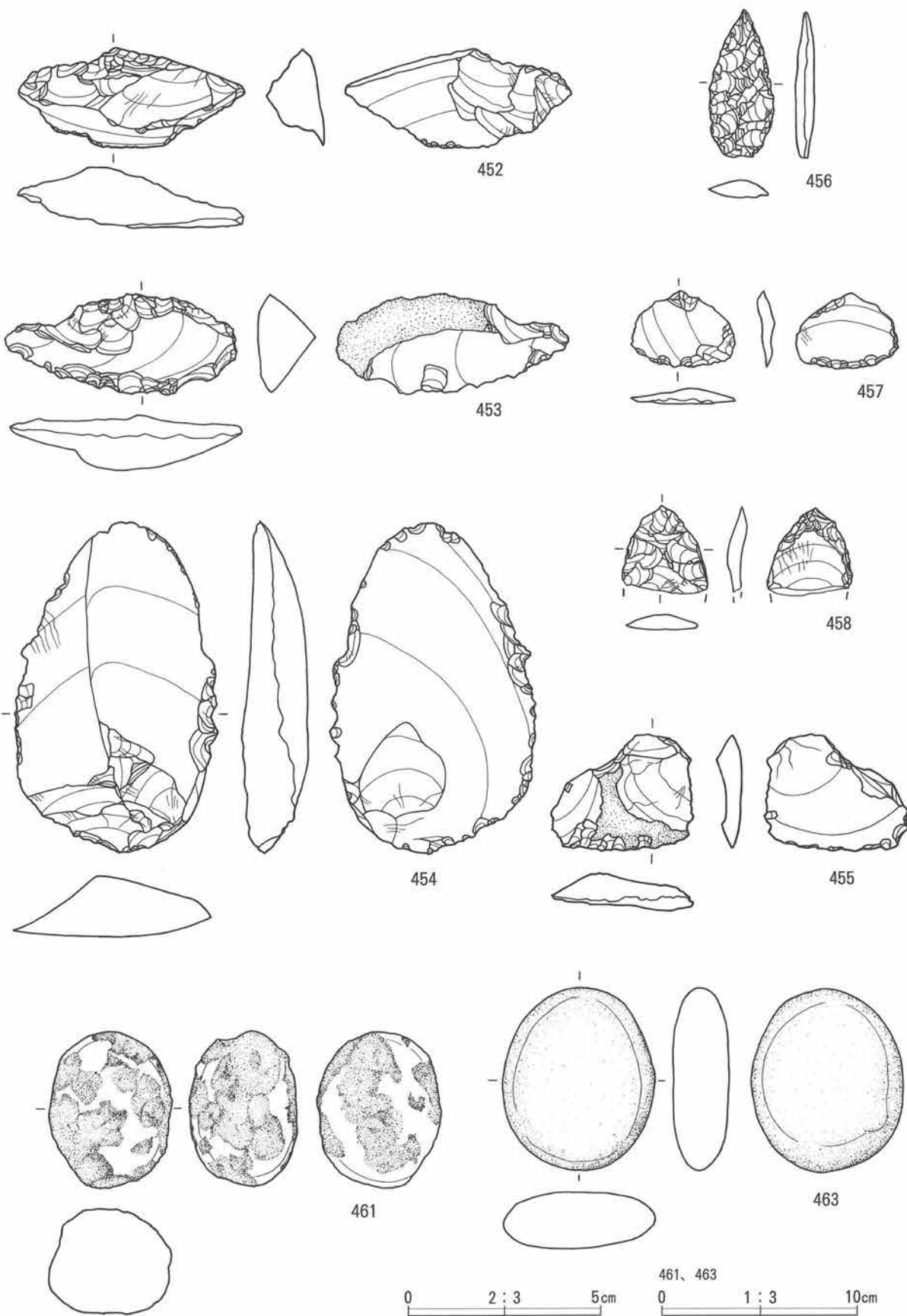
第206图 石器(22)



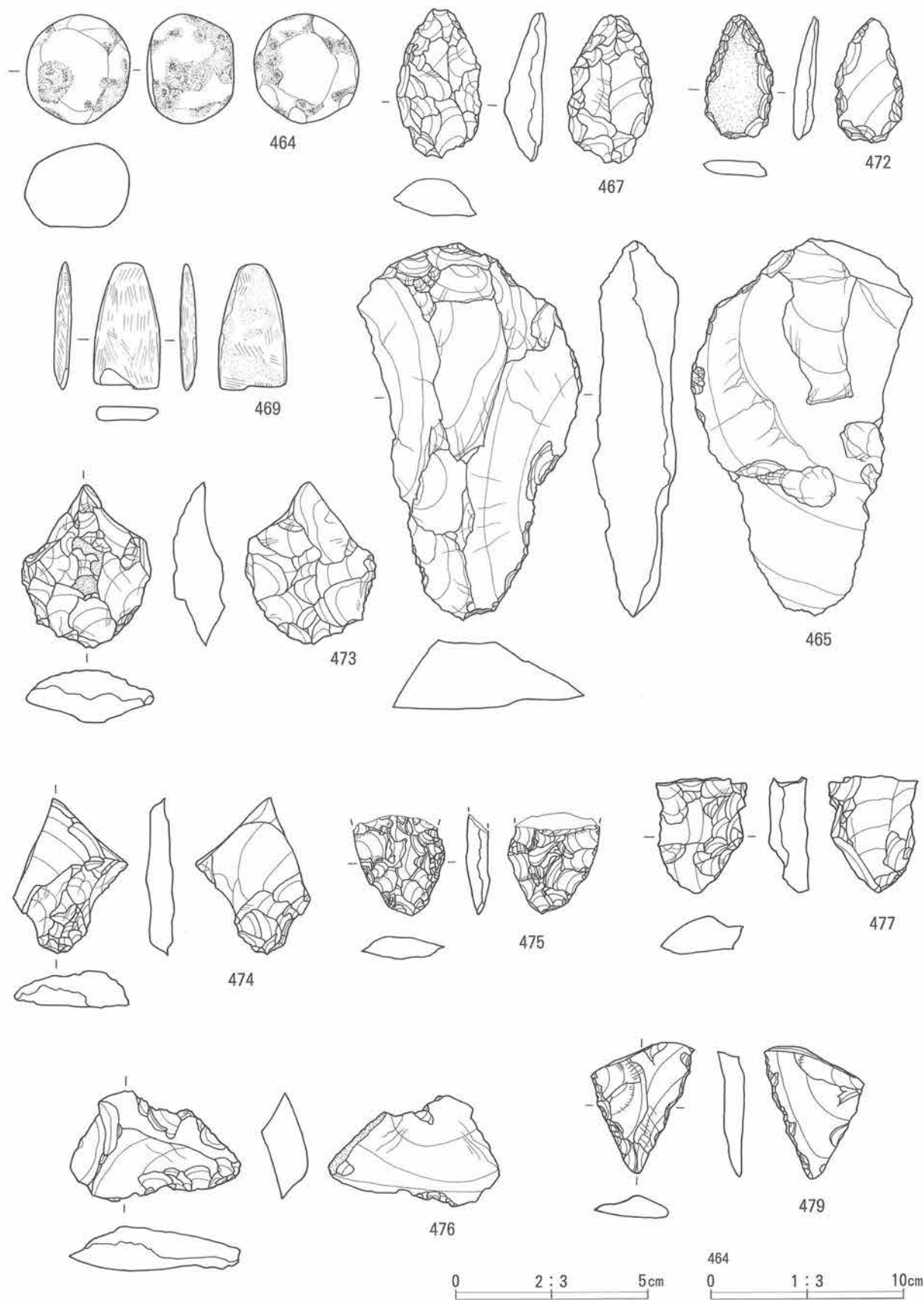
第207図 石器(23)



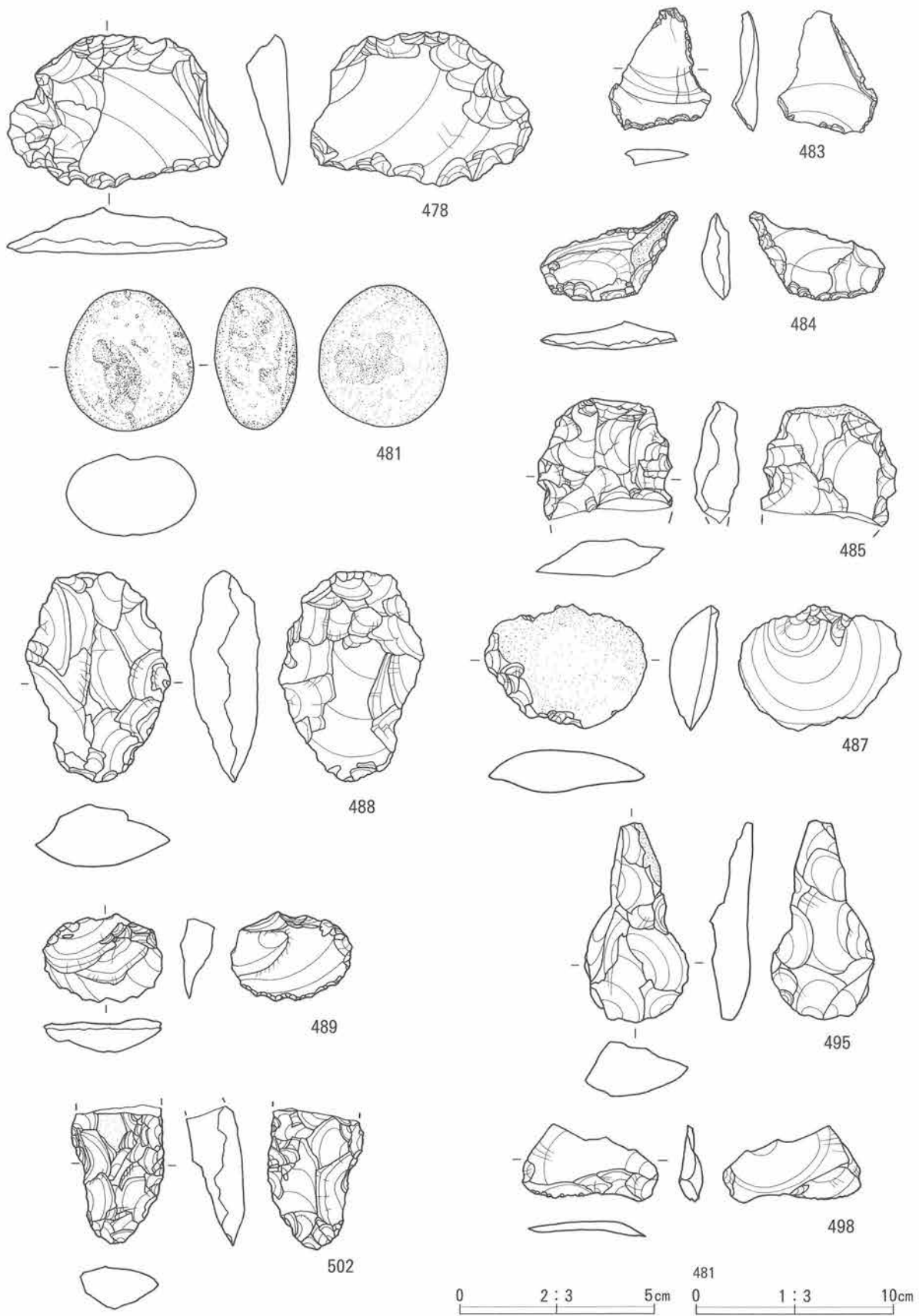
第208図 石器(24)



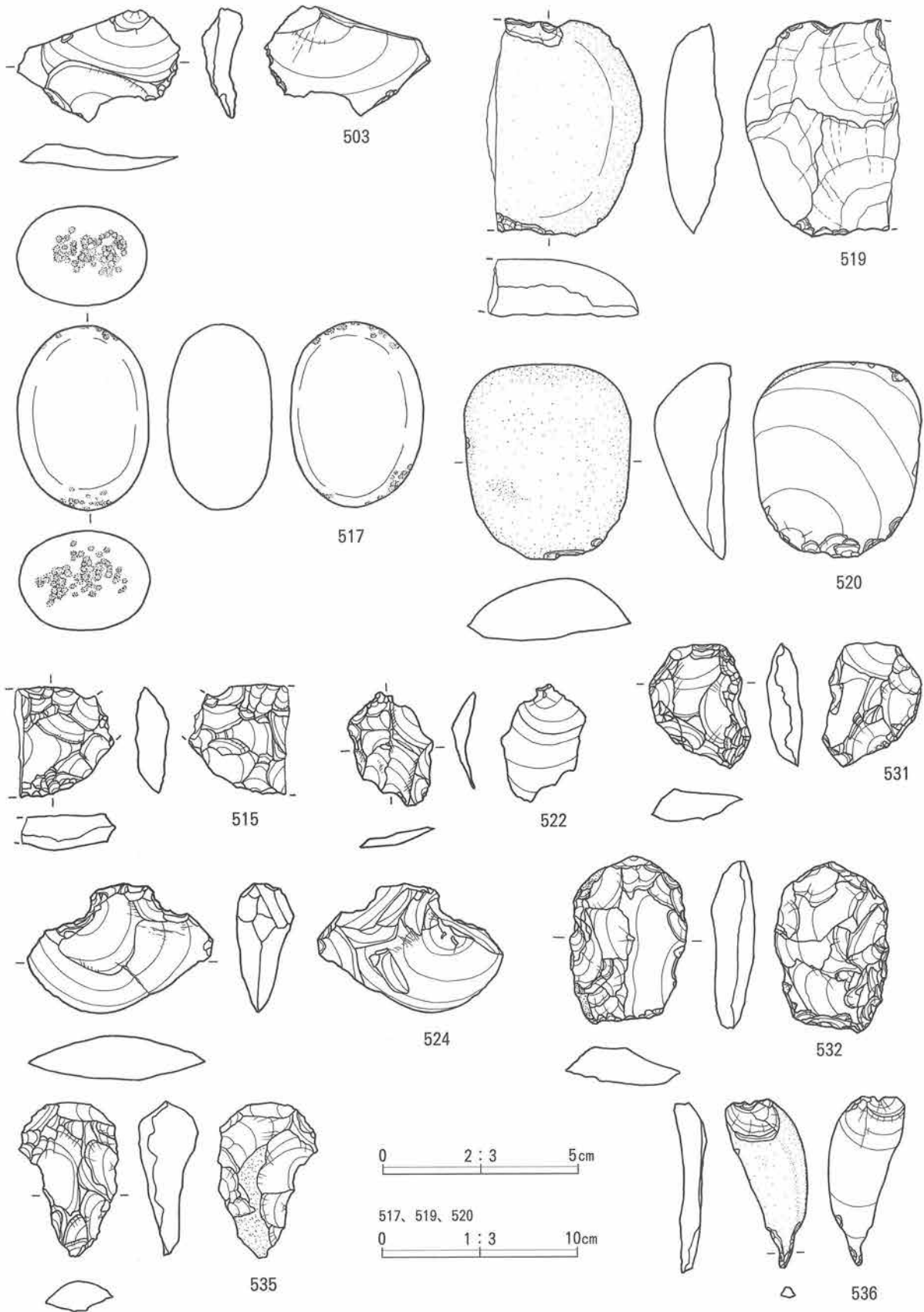
第209図 石器(25)



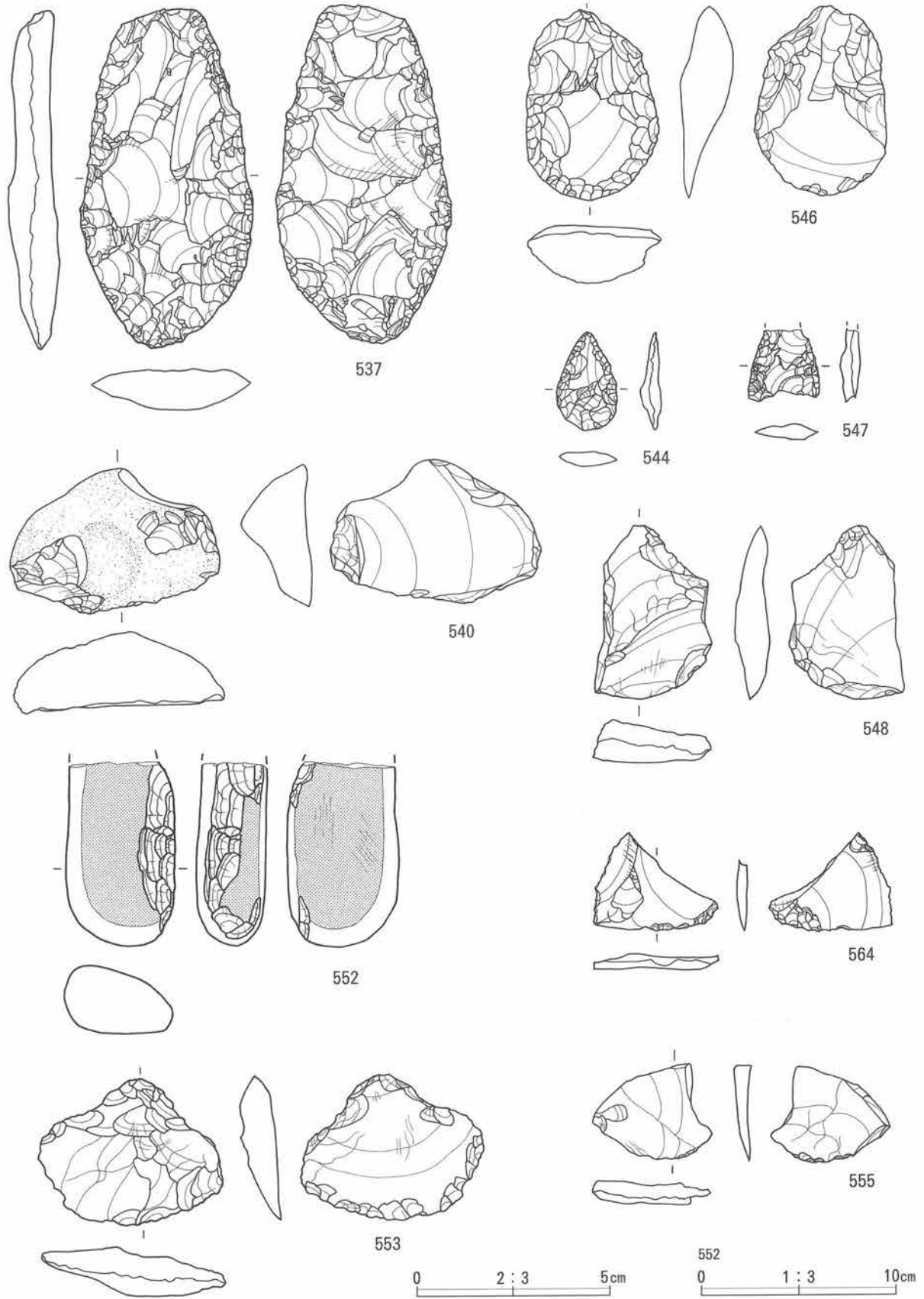
第210图 石器(26)



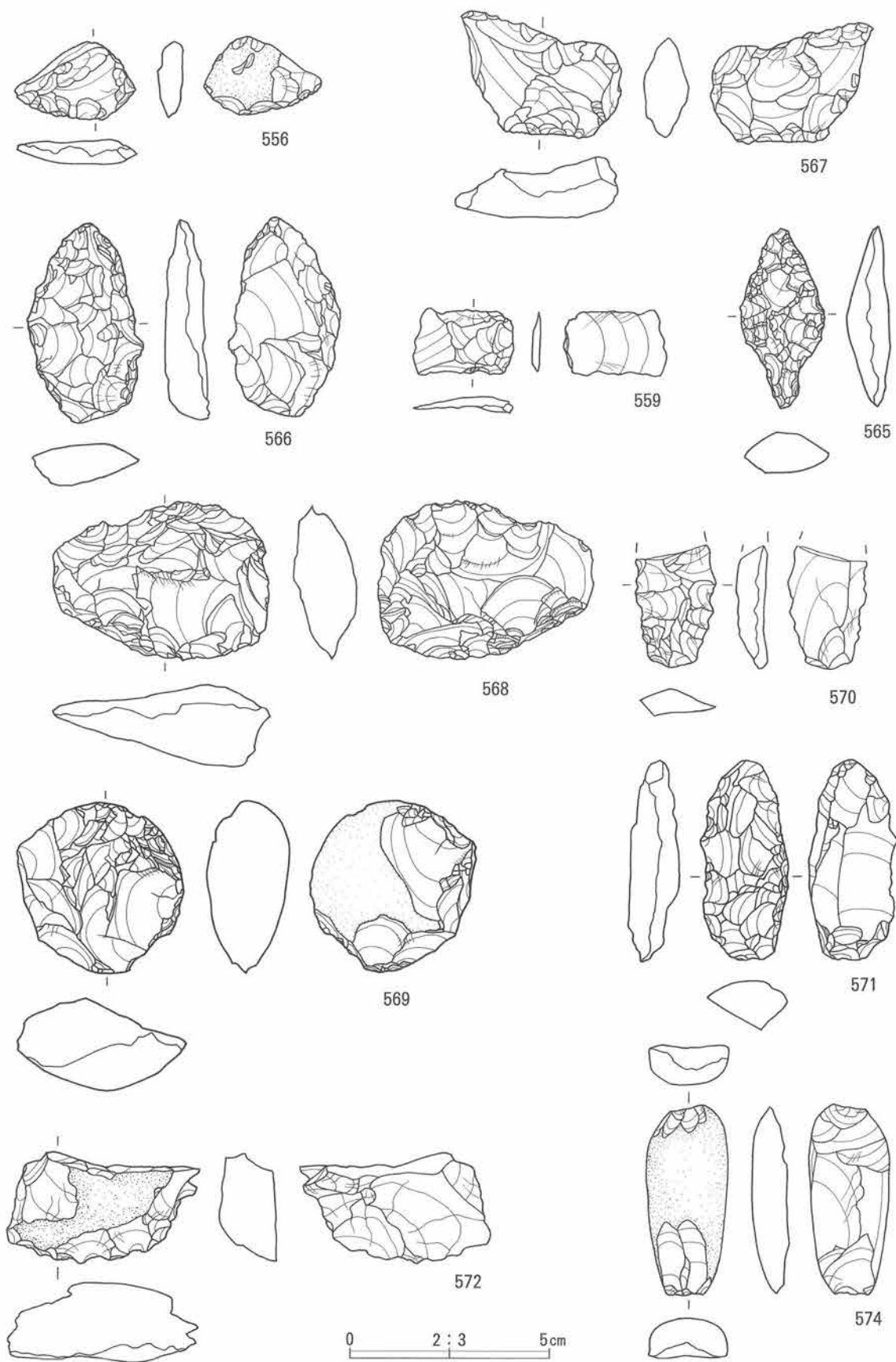
第211图 石器(27)



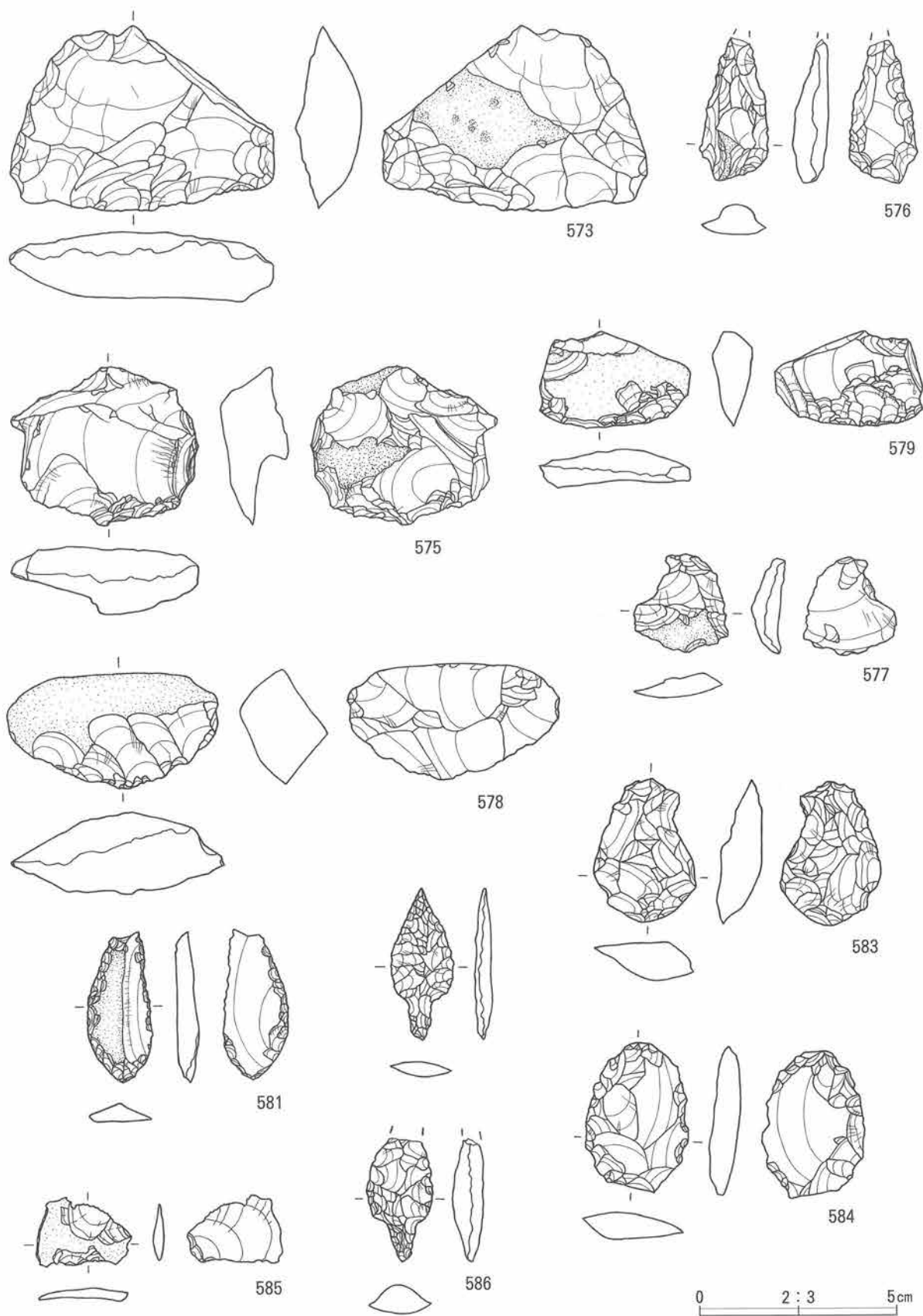
第212图 石器(28)



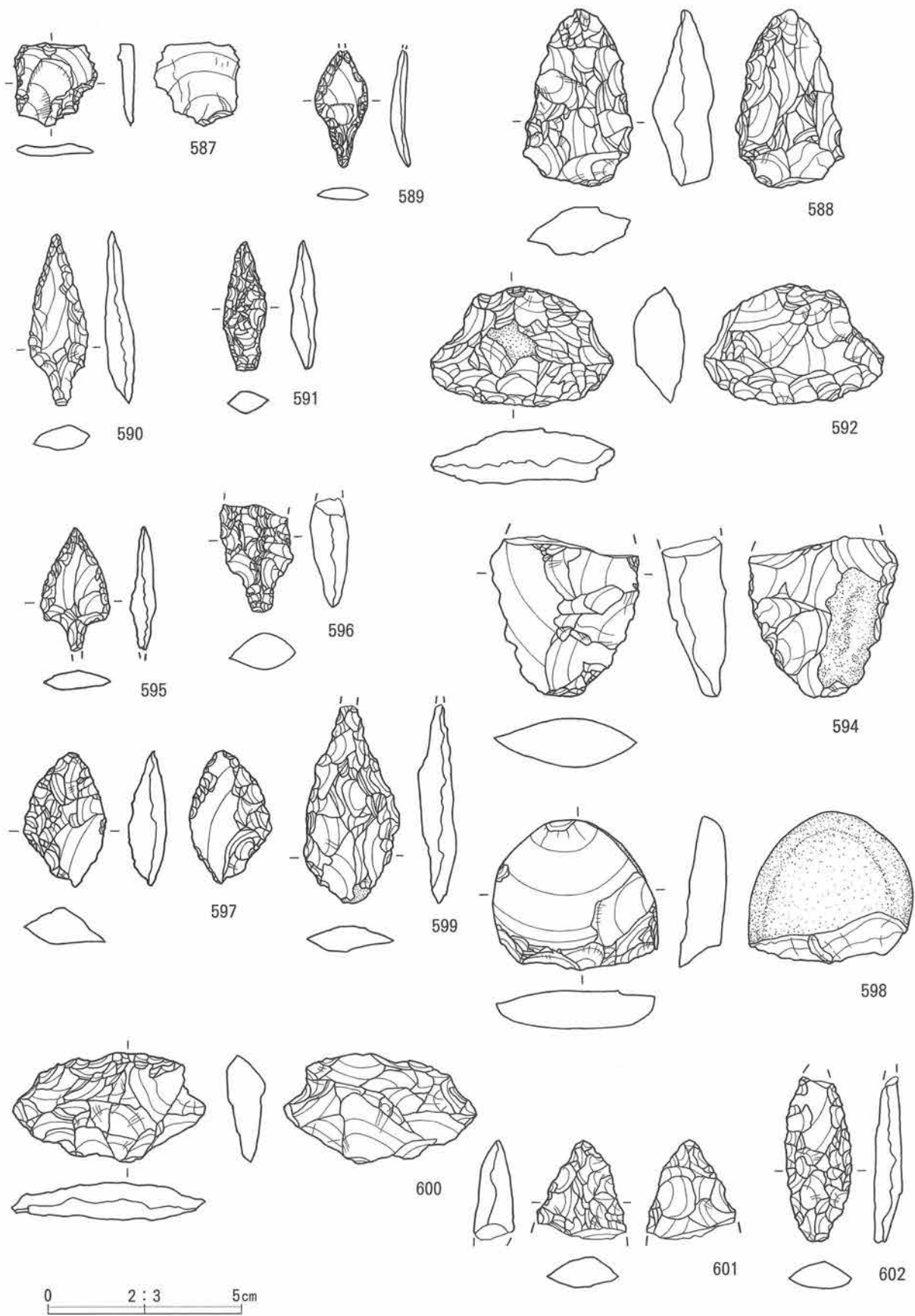
第213图 石器(29)



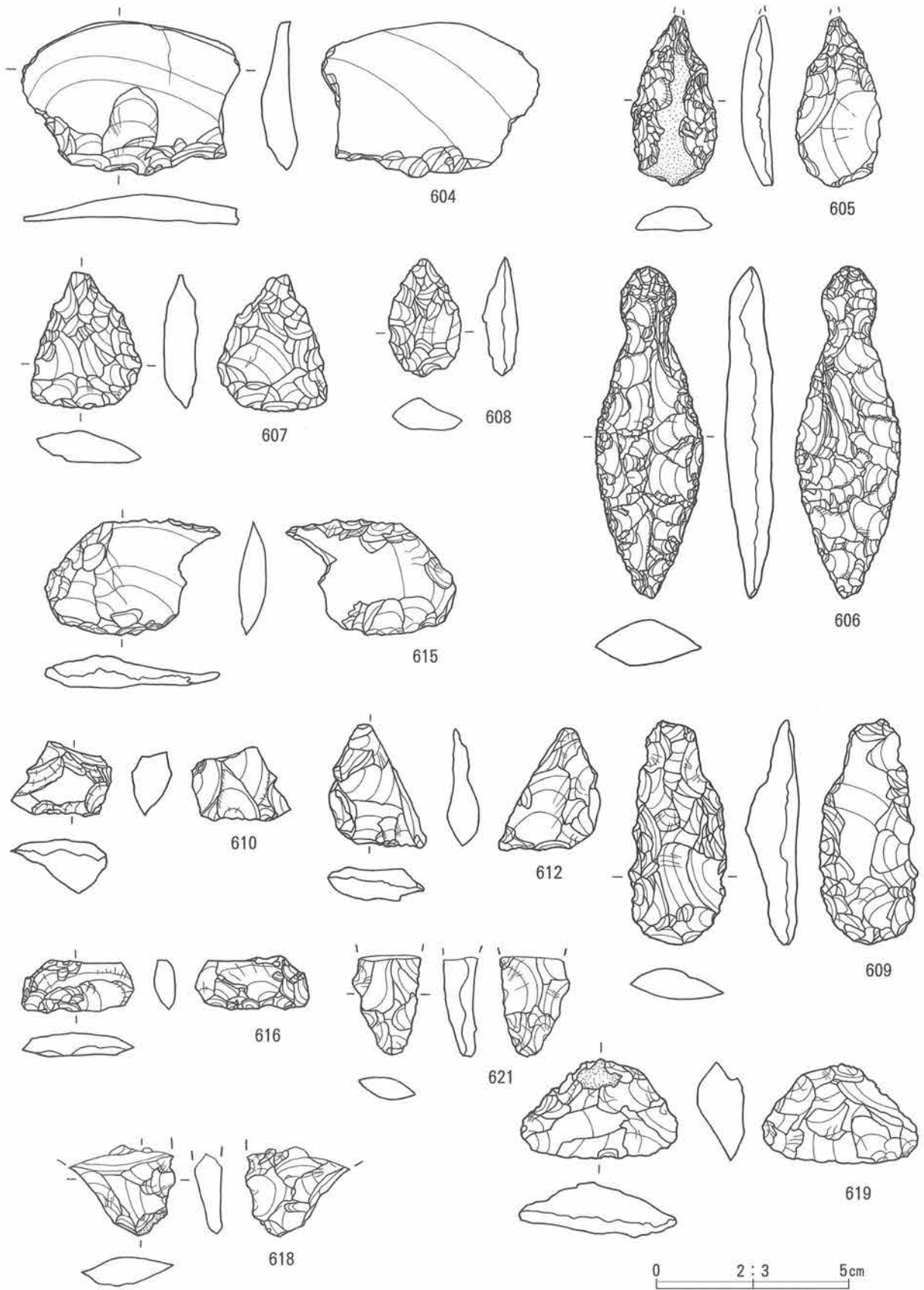
第214図 石器(30)



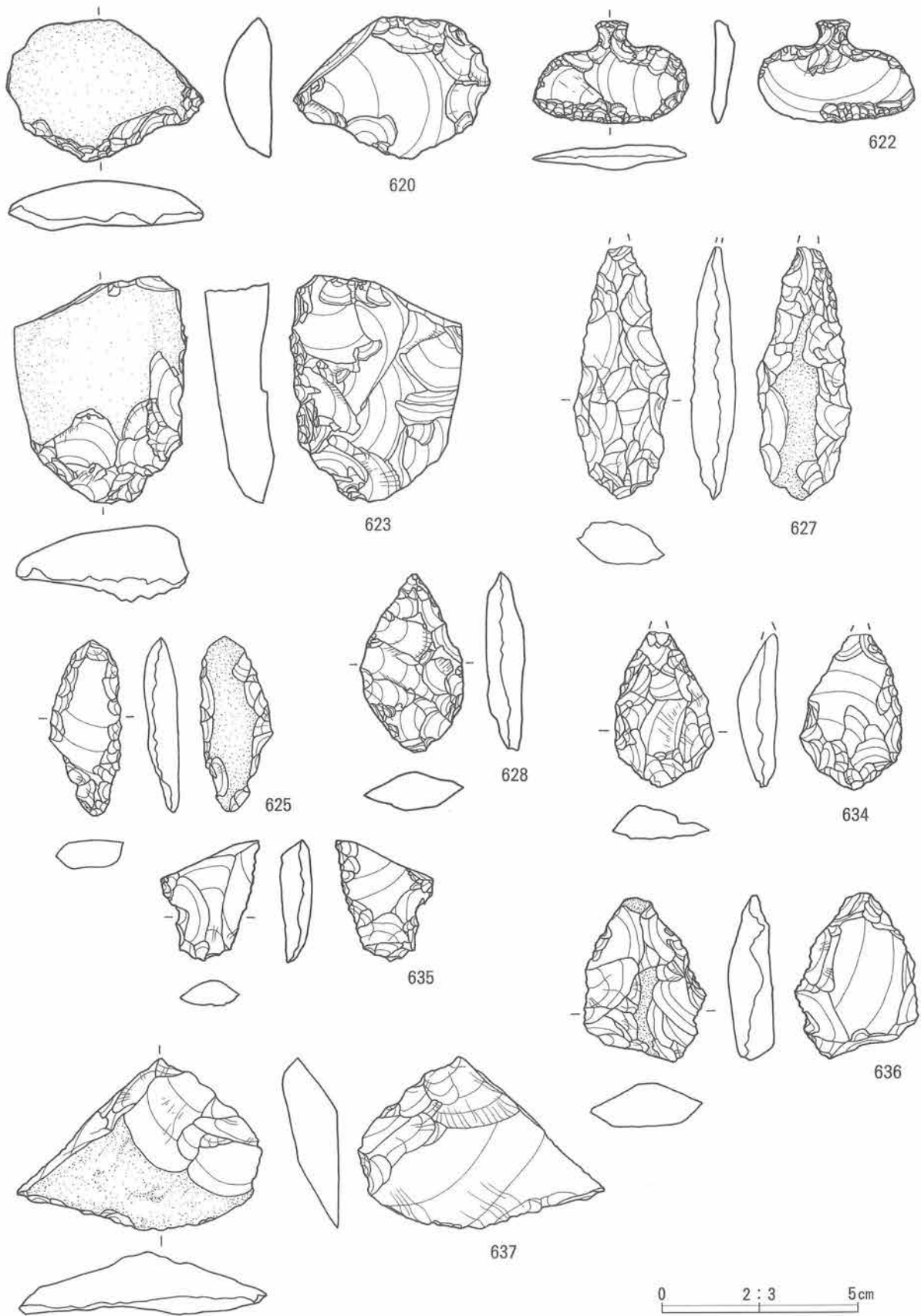
第215图 石器(31)



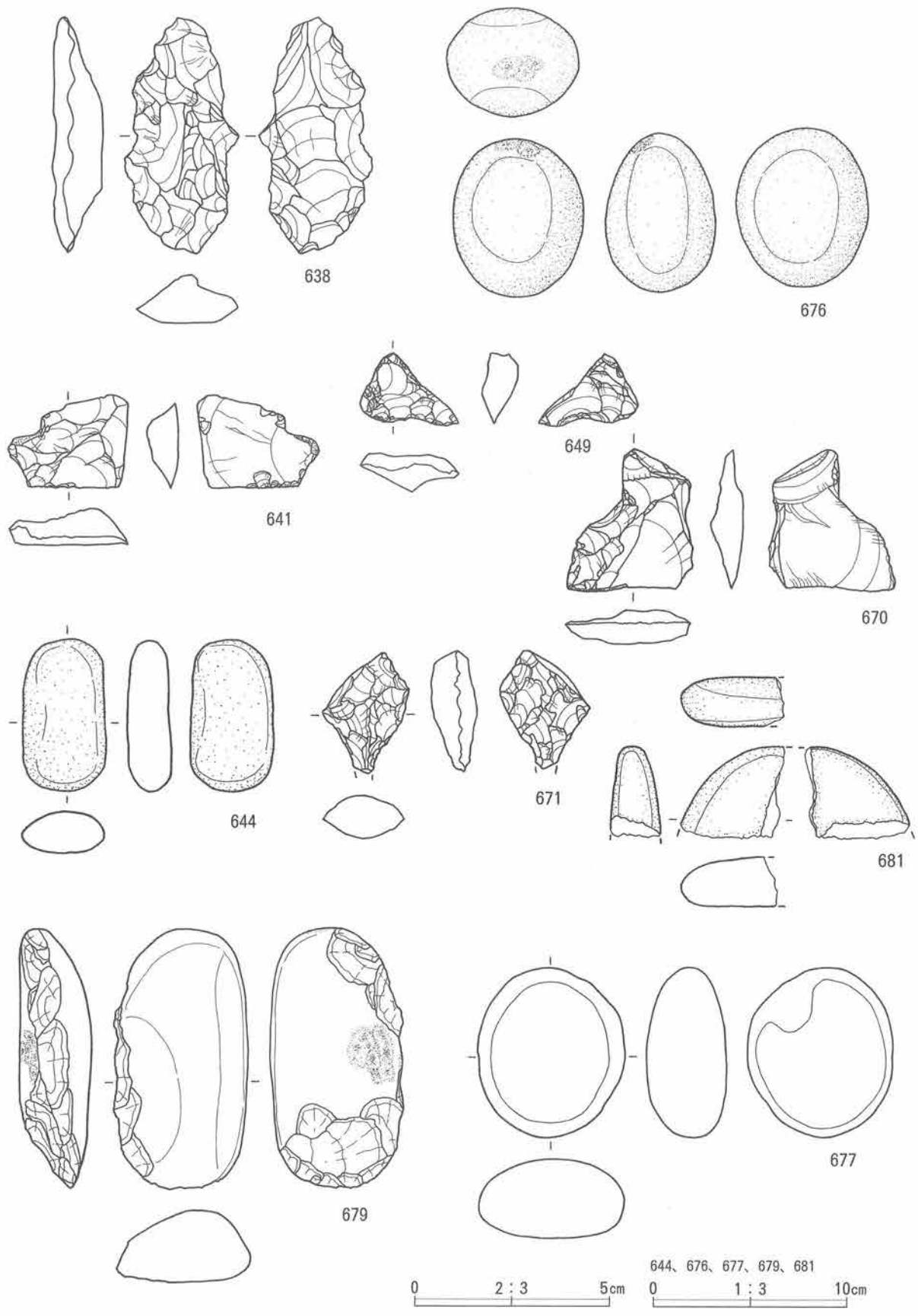
第216图 石器(32)



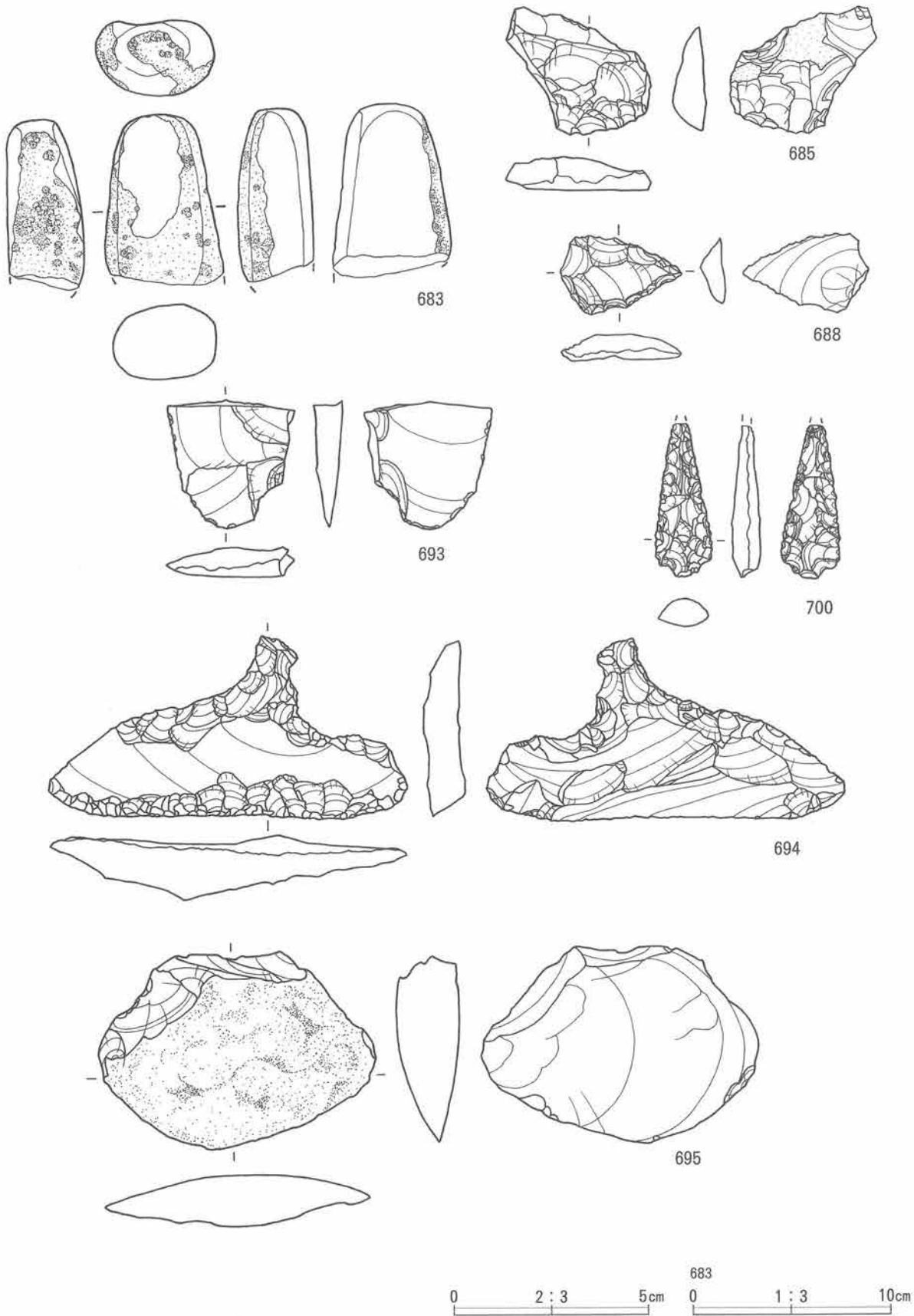
第217图 石器(33)



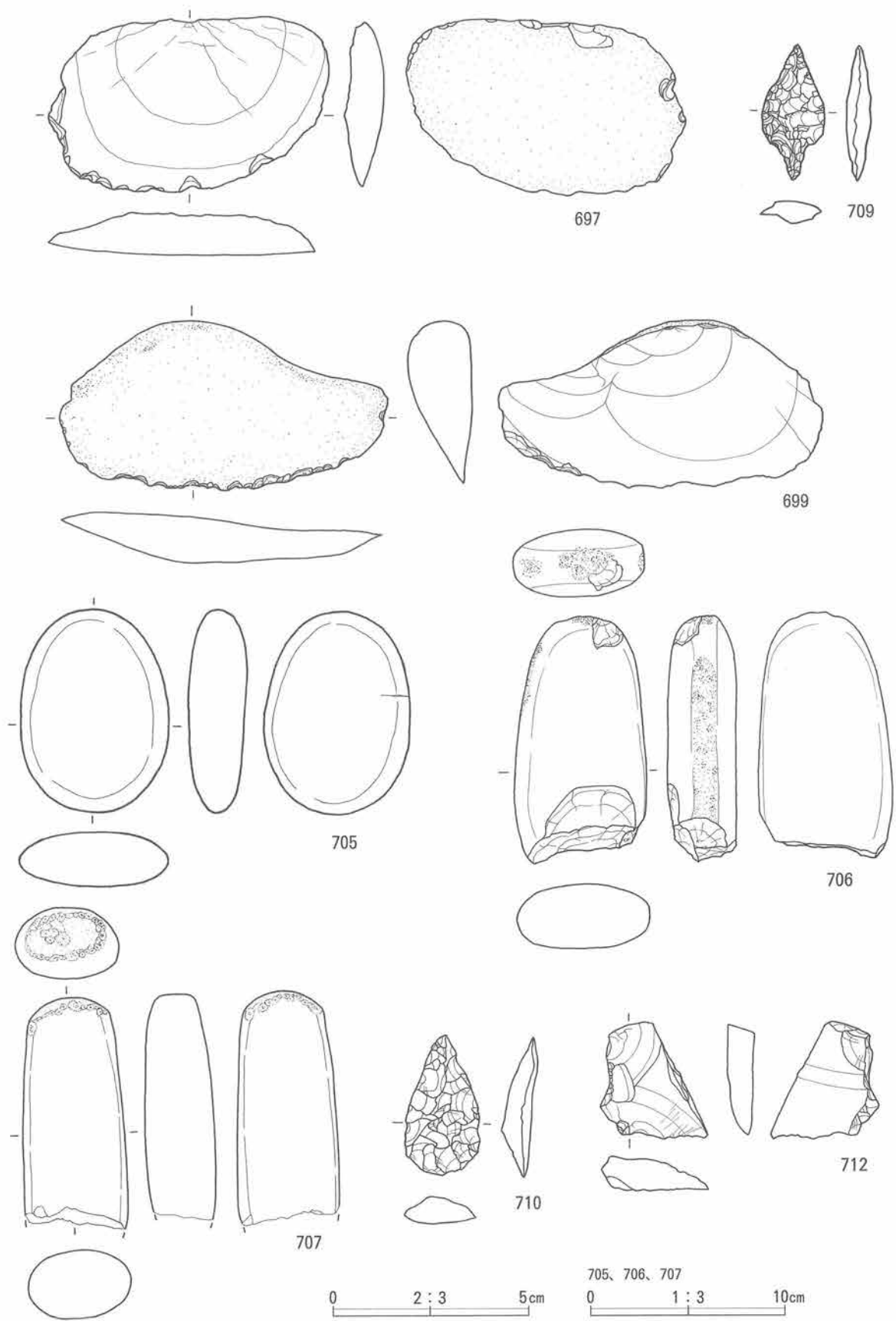
第218図 石器(34)



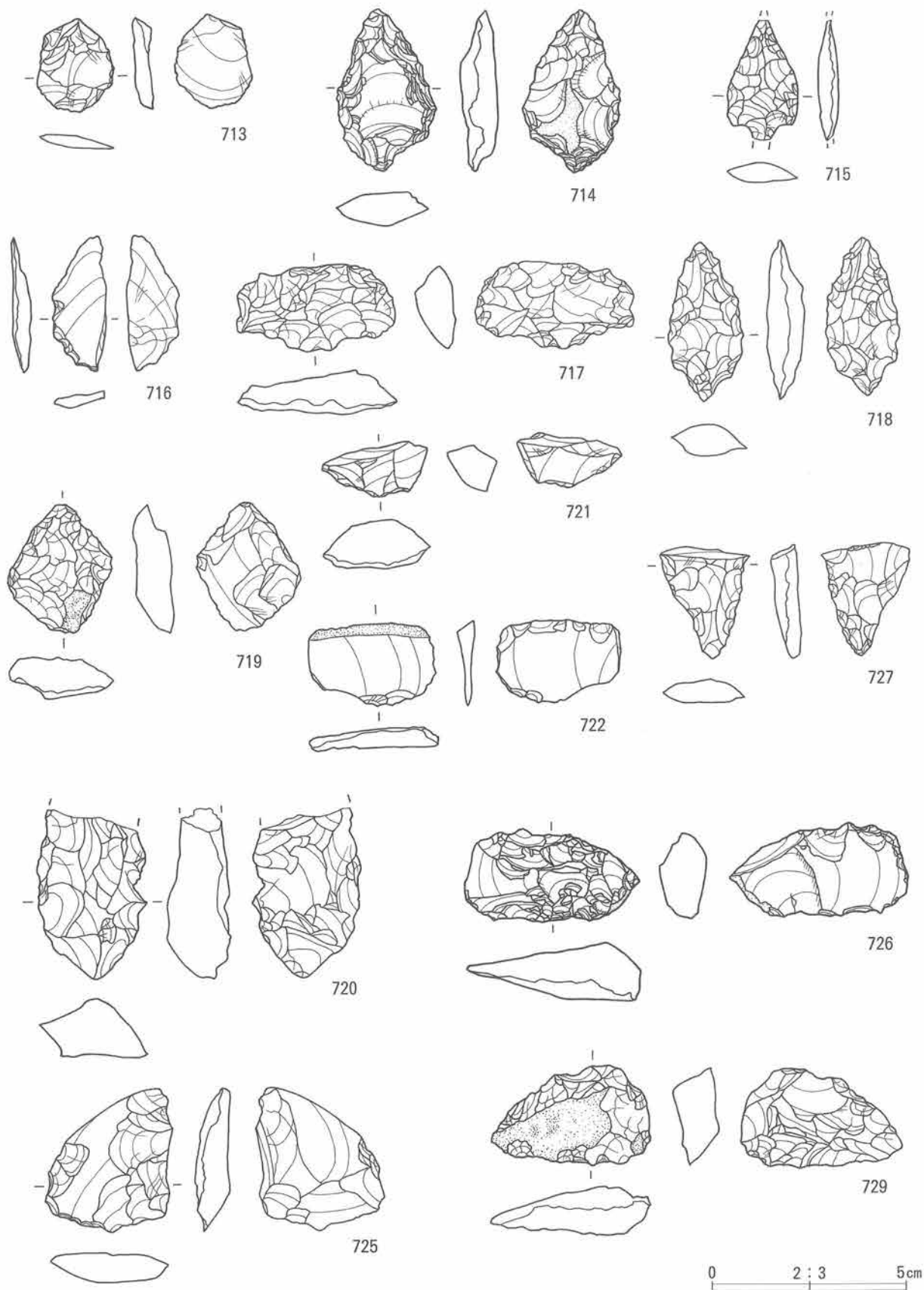
第219图 石器(35)



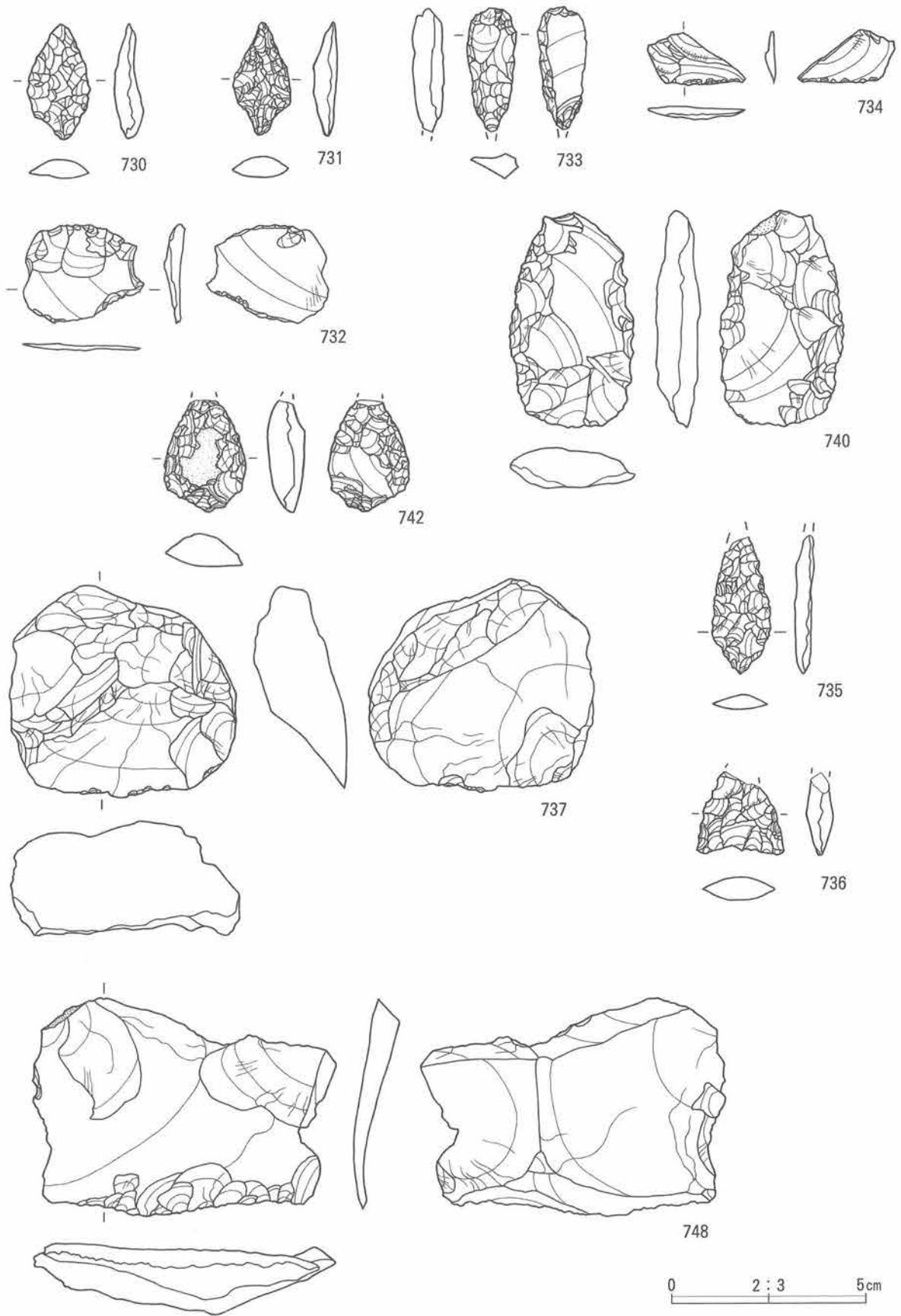
第220图 石器(36)



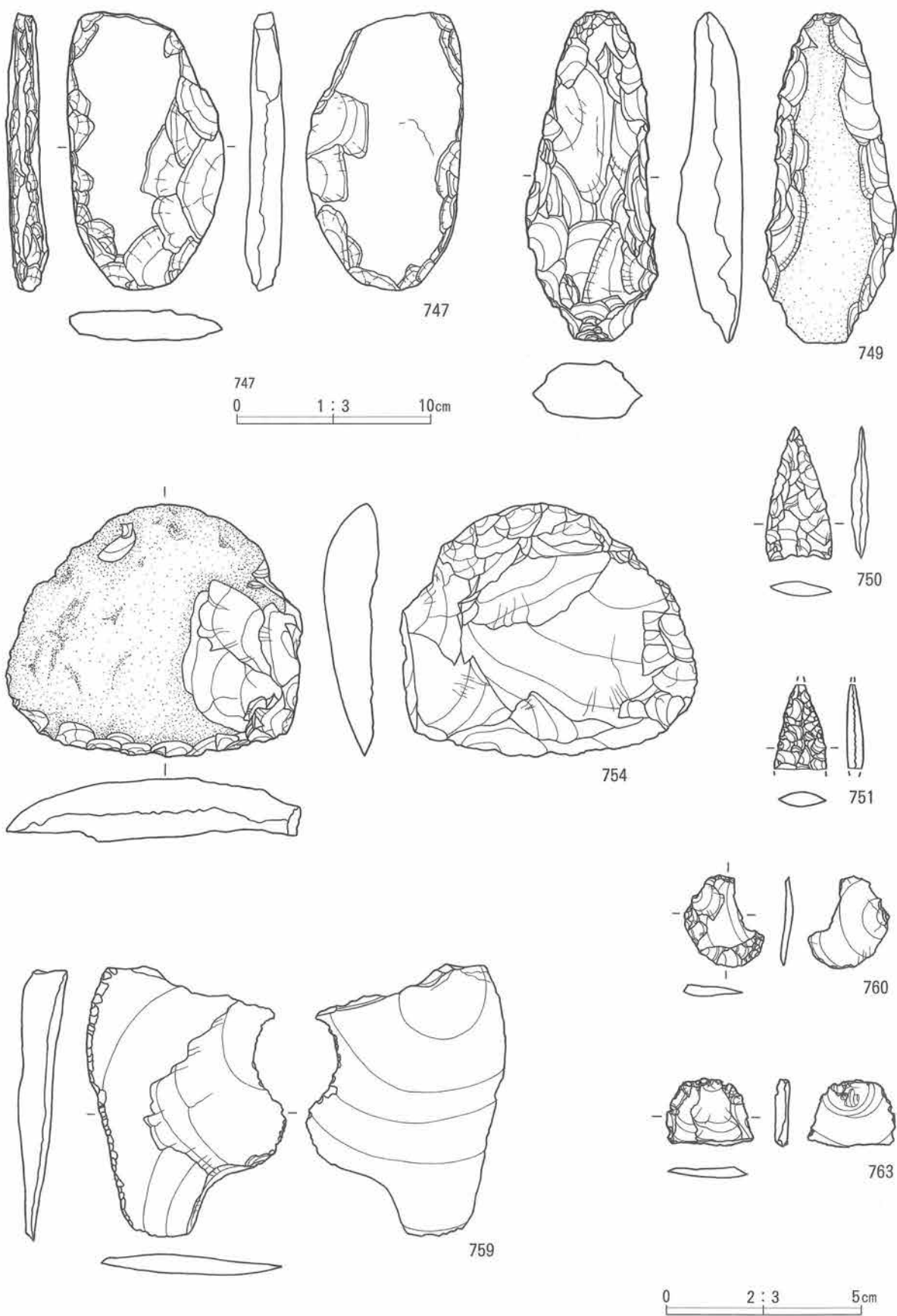
第221図 石器(37)



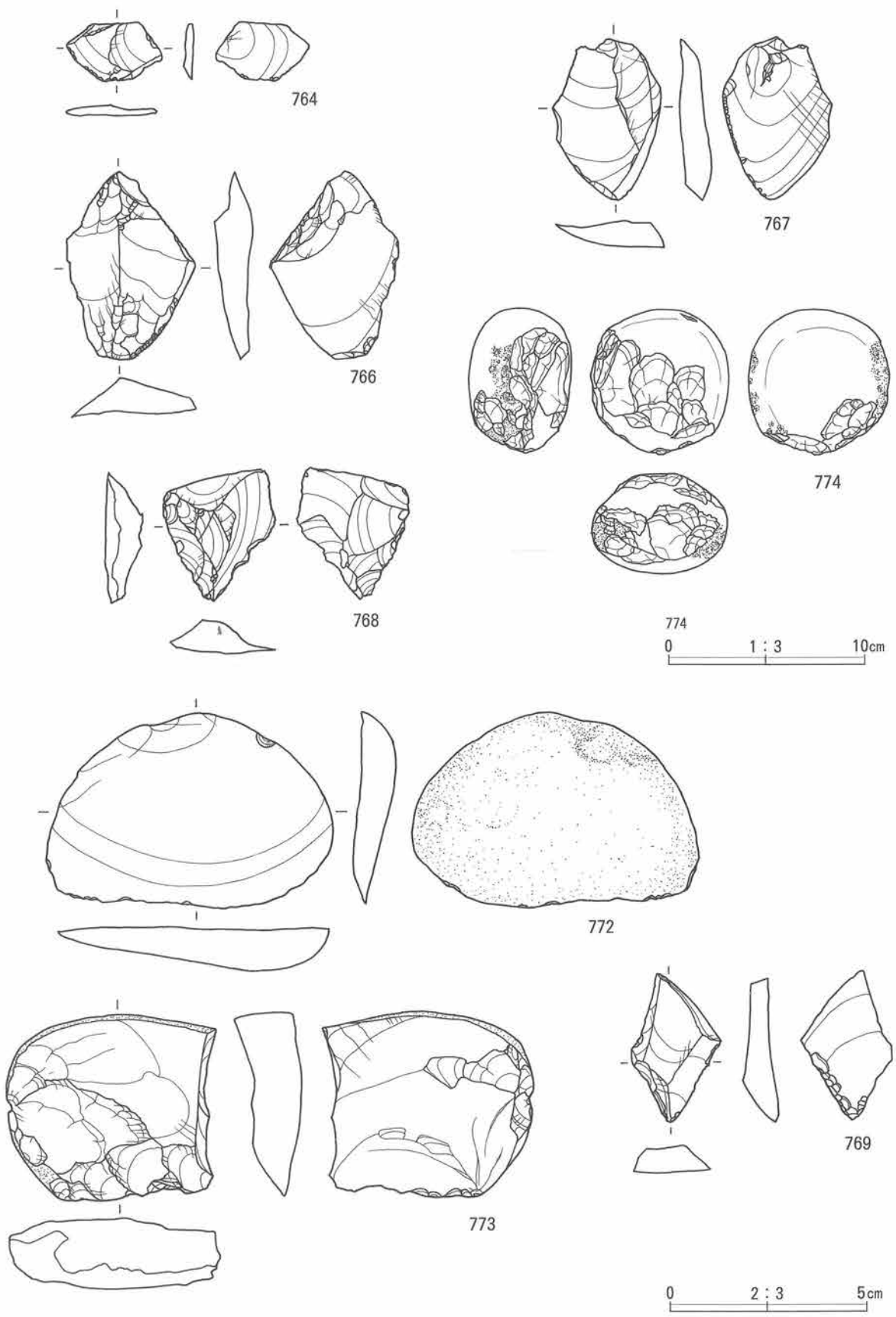
第222图 石器(38)



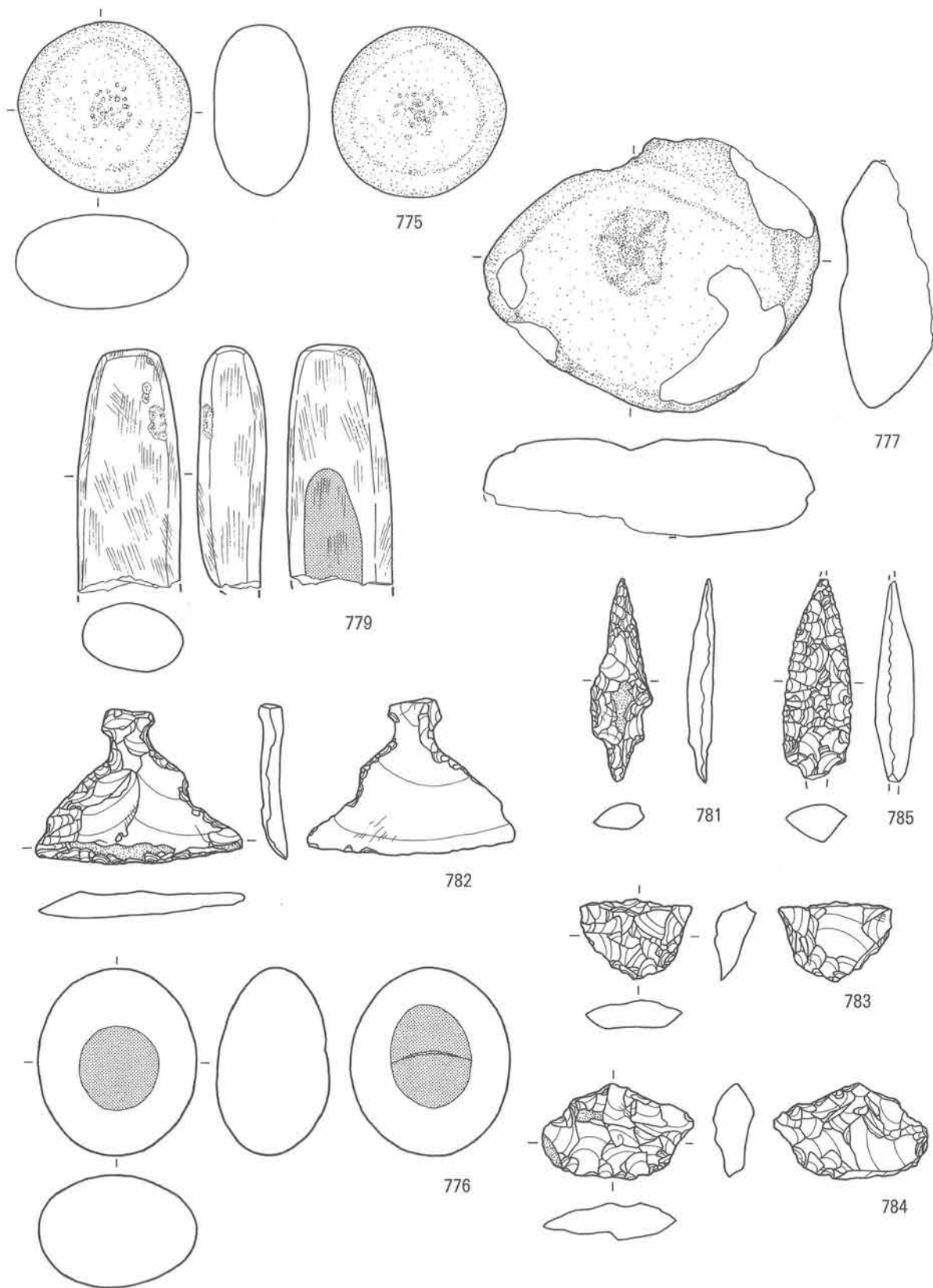
第223图 石器(39)



第224图 石器(40)



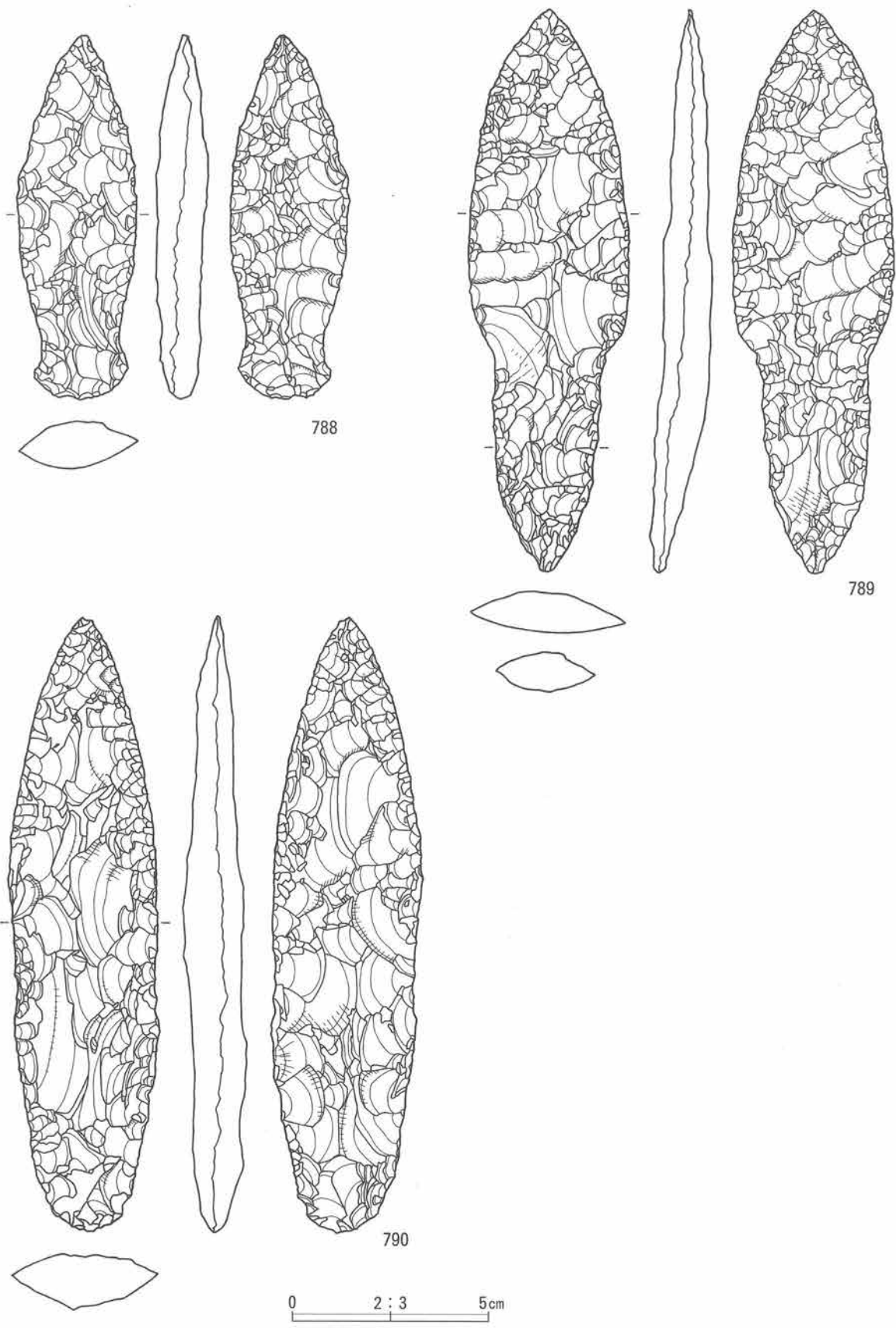
第225図 石器(41)



775、776、777、779
0 1 : 3 10cm

0 2 : 3 5cm

第226図 石器(42)



第227图 石器(43)

VI. 考 察

100基近くと今回の調査で最も多く検出されたフラスコ状土坑について考察を加え、フラスコ状土坑をめぐる諸問題について考えてみたい。

1. 平清水Ⅱ遺跡のフラスコ状土坑（第1表～第3表）

(1) 位置

若干の空白部分はあるが、基本的には調査区全域に見られる（第6図～第7図）。西側調査区の北端は、段丘崖になっており、遺跡の北縁と考えると良いと思われる。フラスコ状土坑は、ほぼ北縁まで広がっていたということになる。分布には多寡が見られ、多重重複する地点もあれば、空白域になる地点もある。幾つかの群に分かれることは明白である。

(2) 平面形

全体的な比較が可能なのは、底面形だけである。基本的にはほとんどが円形で、その中に幾つか楕円形に近い不整形円形が認められるが（第1表底径欄の○×△と記されている土坑）、第66号？、第68号土坑は、はっきりした楕円形である。

開口部の形が確認できたものはほとんどない（第1表備考欄）。上場が確認されたものも原形を留めている場合は極めて少ないと判断されるが、断面形がフラスコ形を呈するものはそう考えても良いであろう（後述）。第3号、第33号、第42号、第50号、第69号、第70号土坑が相当するが、42、69、70号は、調査上の問題で開口部の形を掴めていない。その他の開口部の形は、底面と同じ円形を主体とするようである。

(3) 規模

これも、全体的な比較が可能なのは、底径だけである（第1表）。これを規模ごとに示したのが第2表である。1.5～1.9mの間に87基の約6割を占める54基がある。1.5mと1.8mの二つのピークがあると見ることもできよう。1.9m以上より大きなものは比較的多様で、最大3mのものまで見られる。

(4) 断面形

断面形は、今回調査した遺構の特徴から大きく三つに分けた（埋め戻し穴の部分を除く）。口が外反するフラスコ形（1類）、首はあるが口ははっきりしない富士山形（2類）、口も首もない台形（3類）である。左右非対称であったり形が崩れているもの（他に比べて幅が広いものも含む）については、それぞれ1'～3'類とした（第1表）。2'類の中には、一見3類に見えるものがあるが（第84号土坑）、他の3類に比べて深く形も三角形に近いことから、2類の屈曲部（首）がはっきりしないものと判断した。

今回の調査では、貯蔵穴様のある程度の規模と深さを持つ土坑にピーカー形は検出されていない。このことから、本来は全て同じ形態であったものが、削平の度合いによって3つの形に分かれているのではないかと示唆された。

そこで、検出位置と断面形の相関性を検討してみると、東側調査区（水路部分）では確かにそのような傾向が読みとれる（第6図）。この部分は、法面になっており南側が大きく削平されている。1～2類は、斜面上方である北側にしか認められていない。他の場所でも、概ね1類のそばには2類、3類のそばには2類と、同様の傾向が見られる。1～2類土坑に隣接する第5号土坑が3'類なのは、古代の竪穴住居跡に削平されているためであろう。

しかし、2～3類土坑に囲まれた第33号土坑は1類である。第1号住居と重複し、その床面から検出された第42号土坑が1類である。西側の調査区(2～8グリッド)は、南側は水田造成時に削平を受けているが北側は受けていない。しかし、土坑の断面形は必ずしもこの傾向を反映していない。これらのことから、断面形は、削平によって影響を受けるが、もともと深さによって異なっていた可能性が高い。

(5) 深さと断面形

言うまでもなく検出面からの深さである。最深が第69号の2.2m、最も浅いのが0.4mで4基ある。

前項の検討結果を受けて、断面形と深さの相関性を探ってみた(第3表)。1～3類には、それぞれ1'～3'類を含む。確かに、深いものは1類、浅いものは3類、中間は2類という傾向が読みとれる。

しかし、この傾向にやや外れた数値を示すものがある。1類では、深さ1.1mの第63号、1mの第50号土坑で、浅いのに1類である。第63号は、1類とはしたが他と異なる形態で、口は外反しても首はないに等しく、1類に含めるのがそもそも間違いなのかも知れない。第50号は、断面形はフラスコ形としか言えないが、規模が非常に小さい。2類では、深さ1.6mの第36号、1.8mの第56号、1.9mの第82号土坑が、他から外れている。何れも幅が広く大規模な崩落を窺わせる。底径も大きく、もともとの規模も大きかったようだが。3類では、深さ1.3mの第52号土坑が他から外れている。本土坑は、はっきりした埋め戻し穴を持ち、そうでなかったら2類であった可能性もある。

以上から、第52号土坑はやや苦しいが、それ以外は合理的な原因がつきとめられた。その結果から、前項で得た仮説は「本遺跡のフラスコ状土坑は、規模が同じなら、断面形は深さによってほぼ決まる」と改められる。小規模なら浅くてもフラスコ形になり、大規模なら深くてもフラスコ形にならない場合があるということで、ただし後者は崩落による可能性が高い。

規模と深さによって、断面形が変わる理由は何か。次節で解釈してみたい。

(6) 底面施設

副穴あるいは小溝が確認された土坑は、97基中43基ある。これは、例えばほぼ同じ時期の宮城県小梁川遺跡などと比べて極めて高い比率だが(159基中1割以下。村田 1987:p.424)、どうして、持つ土坑とない土坑があるのか。他の属性との相関性は? 何れも残念ながら読みとることはできなかった。

興味深い施設?として、「貼り壁」が認められた。これは、他土坑と重複する部分の底面に地山土を貼って補強したもので、第68号土坑にのみ見られた。

(7) 覆土

調査時には何度も同じパターンの土層を目にし簡単に類型化できると考えていた。ところが、いざ類型化しようとする、そう簡単ではない。炭化物を含み黒っぽい色を呈するか、地山土の再堆積か、埋め戻し土かという点も含めて類型化しようとしたが、容易でないことがわかった。

結局、ブロック状に層が分かれるか、広がりを持つかという違いに注目し、上から下までブロック状に分かれ全体がモザイク状を呈するもの(A類)、広がりを持ち一様で極端に水平に堆積するもの(D類)を両端に置き、その中間をB、C類とした。B、C類は、何れも下層がブロック状でなく広がりを持つもので、薄い層が何枚も堆積する1類と、比較的厚い層が、少なく堆積する2類とに分けた。B類とC類の違いは、上の層の違いで、上がモザイク状になるものをB類、上が広がりを持つものをC類とした。

D類のうち、ほぼ水平に堆積しているものをDい類、やや斜めになる(曲線を描く)ものをDあ類とした。D1類は、C2類と区別しにくくなるが、Dあ類は厚さが比較的均質なもので、C2類は一様でないものである。B1類、C1類のうちには、最下層がある程度ブロック状になるものも含んでいる。言うまでもなく、

第1表 フラスコ状土坑一覧表

名	位置	底径(m)	深さ(m)	断面形	底面施設	覆土	埋め戻し	遺物出土状況	時期	重複	備考
1	2D~E	1.8	0.9	2'		B2?			前末~		
2	2D	1.6	1.1	2'?	副穴?	A			前末~		上場直径0.9mの円形
3	2D	1.7	1.5	1	副穴・溝	II		下層、多量の土器片	下層d1?		上場直径0.9mの円形
4	2D	1.3	1.5	1?	?	C2?	1~7層以外				上場直径1.7×1.4mの楕円形
5	2D	1.5	0.8	3'	副穴	A		中層、半完形土器	前後?		上場1.2×1mの楕円形
6	2D										他と異なり割愛
7	3C~D	1.8	1.4	2'	副穴	Dい	○				
8	3D	1.5	0.8	3'		B1?		底面直上、土器破片	前中?	→9?・?10	
9	3D	1.8×1.6	0.6	3?		Dい?				8→9?	
10	3D	1.6×1.4	0.9	3		B1?				8?10	段・上場直径1m円形
11	3D	1.7	0.4	3'	?	B2?		下層、半完形土器	前後半?		
12	3C~D	不明	1.1	2?	副穴	A		底面直上、完形土器2	下層d1?		
13	3C~4D	1.6×1.3	0.9	2'?	副穴?	A		下層、半完形土器	下層c?	13→14	上場直径0.9mの円形
14	4C~D	1.8	0.7	3'		B2			前後?	13→?15	上場1.2×1mの楕円形
15	4C	1.8	1.2	2'		C		底面直上、土器破片	前末~	?14?・?16	
16	3~4C	1.5	?	不明	副穴	B1		上層、下層、土器片	前後?	15?16	上場直径0.3mの円形
17	4D	1.6	1	2		A			前後半?		上場0.8×0.6mの楕円形?
18	4D	1.5	0.5	3'	副穴	A			古い?		赤御堂式土器片
19	4D	1.9?	0.7	3'		C1					
20	4D	1.7?	0.7	3?		C1					
21	4C	1.8	1.1	2?		A			前後半?	21?23	
22	4C	2.3×2	1.1	2'		B1かC1			前末~		
23	4C	2.2×1.9	1	2'	副穴	B2		底面直上、大きな土器片	下層d1	21?23	
24	4~5C	2.5	1.2	2' or 2	副穴	B1			前中?		埋め戻し穴・上場1.5×1.3mの円形
25	5C~D	2.4	1.1	2'		B1	×(自然)	中層、土器片多い	前末~	25?2陥	
26	5C	2.6	1.4	2		B1		底、壁際完形土器逆位	中前?		
27	5C	2.4×2.1	0.8	3		A?		底面直上、土器片、礫	前末		掘り方?・上場1.7×1.6m楕円
28	5C	2.7	1.3	2'		Dあ?		最下層遺物出土	前末		上場直径1.7×1.7不整
29	5~6C							上層?土器片出土			不確実なため割愛
30	5~6C										不確実なため割愛
31	5~6C	2.2	1.1	2'		B1			前末~中初	104土→31	
32	5D	1.8×1.5?	0.9	2'?		B2				→6焼?33	
33	5D	1.6	1.5	1		B1				→10焼?32	上場直径0.3mの円~楕円
34	5D	1.1	0.5	3'	副穴	A		底面直上、完形土器	前末~中初		土器は、押しつぶされて出土
35	5C~D	1.4	0.9	2		A			前後半	→8焼	上場直径0.5m円
36	6C	2.6	1.6	2' or 2		C1		中~下層、土器片、石皿	中前		
37	6C~D										大部分調査範囲外のため不明
38	6C	1.5??	0.8	3?		A				→39?40	
39	6C	2.1×1.9	1.3	2'	副穴?	C2	上部人為			38→40?	
40	6C	2	1.5	不明	副穴	不明				38・40・101・102	
41	6~7C	1.8	1.1	2'		C1	×(自然?)		前末?		壁不自然→2基重複?
42	6C	1.6	1.5	1	副穴	C2かD				→1住?	底白色粘土層
43	6~7C	1.5	1	2	副穴	Dあ?			前後?	→3焼?1住?	
44	6B~C	1.4	0.9	2'?	副穴?	Dあ?			前末~中初	→1住?	
45	7B~C	1.3	1	2		B1		炭多いのに無遺物層多い		45→48	二段・上場0.8×0.6mの楕円
46	7C	1.5??	0.9	不明		B2?			前末~		
47	7B~C	不明	0.7	3'		A		北壁近く、土器多め	前末~中初	47→6炉	2基重複?
48	7B	不明	0.8	2'		C1かB2		上、中部、半完形土器	前末	45→48	埋め戻し穴・崩落ひどく不明
49	7C	1.5	1.1	2	副穴	C1	×(自然?)			?50、51	
50	7C	1.3	1	1?		C2?			前末~	51→?49	上場直径0.5m円
51	7C	不明	0.6	2'		C2?				→50?49	重複ひどく不明
52	6B	2.1	1.3	3	副穴	A		上半完形、中部完形土器	前末~		埋め戻し穴
53	6~7B	1.9	1.1	2	副穴	C1					上場1.1×0.6m楕円
54	7B	1.7	1.2	2	副穴	II			前後半		上場直径0.9m不整円
55	7B	2.2	1.3	2'	?	C1		上層土器片多い	前末?	55→56	底硬質・上場1.2×1mの不整楕円
56	7B	2.5	1.8	2'		B2		中層、大きな礫、半完形土器	前後~末	55→?57	埋め戻し穴
57	7A~B	1.6	1	3'	副穴+小溝	C2			古い?	56?57	上場直径1.1m・早~前前土器片
58	7B	1.6	0.9	2	副穴+小溝	B2		中層、大きな土器片	前末?		上場直径0.8m不整円
59	7A~B	1.5×1.2	0.4	3	?	B~D		半完形土器	前末?		
60	7A	1.7	0.7	3'	副穴+小溝	C2					上場1.3×1.2mの不整楕円
61	7~8A	1.6×1.5	0.4	3'	副穴	B~D					上場1.3×1.2mの円
62	7A~8B	1.9	1	2'	副穴	C1					覆土中に副穴検出・上場1.3×1.2不整楕円
63	8B	2.1	1.1	1'	小副穴	C1?			前末?		
64	8B	2.5×2.3	1.4	2'		C1			前末~	31→38・45?	埋め戻し穴?・上場2×1.7m楕円

名	位置	底径(m)	深さ(m)	断面形	底面施設	覆土	埋め戻し	遺物出土状況	時期	重複	備考
65	8B	1.5??	0.5	3		B~D			前後半	→2住→66?	やや異なる型
66	8B	1.5×0.8??	0.4	3'		不明				→2住→66	異なる型
67	8B	1.8	0.8	3		C1		下層、大きな土器片	中前?	2.3住→?66	
68	8B	2.3×1.5	1.2	2	貼壁	Dあ			中前?	64→?3住→?	段・上場2.2×0.8m長楕円土器、半完形に復元
69	8A	2.2	2.2	1	副穴	B1		下層、多量の土器片	前末		
70	8A~B	1.5	1.7	1	副穴あり?	C2?	全て			→23焼	
71	8B~C	2	1.3	2	副穴	B1?			前末		
72	8B~C	1.8	1	2' or 2		B2				72→3住?	上場1.2×0.8の不整楕円
73	8C	1.8	1.1	2'		C2			前末~中初	73→5陥	段?・埋め戻し穴??
74	7C	1.3	0.7?	不明	副穴	不明					
75	7C	1.9	0.8	2'		A?					
76	7~8C	1.6	0.7	3'	副穴+小溝	C2				→4階→77?	
77	7~8C	1.6	0.7	不明		不明				→3階→76?	
78	7D	1.9	1.3	2	副穴	C2				78?79	上場直径0.5m円
79	7D	2.6×2.1	1.6	不明		C1				78?79	底砂礫層
80	8C	1.9×1.7	0.8	2		Dい?		中層、大きな土器片	前末~中初	→90焼→?瀧?	
81	8C	1.7	0.9	2'	副穴	D1		上層?、半完形土器	前後~		埋め戻し穴?
82	8C	3	1.9	2' or 2		B1			中前?		上場直径1.8mの円形
83	9D	0.9	0.8	3'	副穴	A			前後~		上場0.8×0.7mの楕円
84	11C~D	1.7	1.3	2'直線的	副穴	C1	○		前後~		上場直径10.9mの円形・底花崗岩
85	11C~D	不明	0.6	3'		B1?		下層、大きな土器片	中前	→86・?87	重複ひどい
86	11C	2.5×2.1	0.9	3	副穴	C1?	下半		前後半	85→?87	
87	11C~D	不明	不明	不明		不明				?85・?86	削平のため不明
88	14C	2.1	0.8	3	副穴	A	○		前後~前末		
89	14C	1.9×1.7	0.6	3		C1	○		前後~前末		掘り方・上場直径1.5mの不整円
90	14C	1.5	1	3'??	副穴	C1	△		前後半	→4焼・?3住	
91	14C	1.5	1.3	2		A				→5AB炉	
92	14~15C	1.8	0.5	3	副穴	B1?	○		前後~前末		
93	15C	1.8	1.4	2	副穴	C1	○				
94	15~16C	1.8	0.6	3	副穴	BかC	○				上場直径1.3mの不整円
95	16C	1.9	1.4	2	副穴	C2?	上半		前後半		上場直径0.8m円形
96	16B~C	1.5	1.4	1'		C1	下半				
97	17B~C	2.3	0.6	3	副穴	BかC	○				

第2表 フラスコ状土坑規模一覧表

径(m)	点数(基)	備考
0.9	1	
1		
1.1	1	
1.2	1	楕円形
1.3	4	
1.4	3	楕円形 1
1.5	15	楕円形 2
1.6	9	楕円形 1
1.7	9	楕円形 2
1.8	14	楕円形 2
1.9	7	楕円形 1
2	3	楕円形 1
2.1	4	楕円形 1
2.2	4	楕円形 1
2.3	3	楕円形 2
2.4	3	楕円形 2
2.5	2	
2.6	2	
2.7	1	
2.8		
2.9		
3	1	

* 93基のうち、規模不明な6基を除く。
* 楕円形は、長径と短径の平均値。

第3表 フラスコ状土坑深さ一覧表 (形態との相関)

深さ(m)	1類	2類	3類	不明	合計
0.4			4		4
0.5			4		4
0.6		1	5		6
0.7			6	2	8
0.8		4	7		11
0.9		7	2	1	10
1	1	6	2		9
1.1	1	10			11
1.2		4			4
1.3		7	1		8
1.4	1	5			6
1.5	3			1	4
1.6		1		1	2
1.7	1				1
1.8		1			1
1.9		1			1
2					
2.1					
2.2	1				1
	8	47	29	7	91

* 93基のうち、深さ不明な2基を除く。
* 1~3類には、それぞれ1'~3'類を含む。
* 1類→フラスコ形、2類→富士山形
3類→台形

最下層が大きな広がりを持つことは、D類のような不自然な状態でない限り考えにくい。

以上の他、順序が逆になったが、全体として極めて特徴的な堆積状態を示すとして最初に注目したものがあり、これをⅡ類とした。まとめると、A類、B1類、B2類、C1類、C2類、Dあ類、Dい類、Ⅱ類に分けたことになる。

(8) 覆土と埋め戻し

前項の分類は、人為堆積か自然かある程度反映させようとして作成したものである。D類（特にDい類）は人為、B、C類は自然堆積を示すのではないかと推測し、A類も人為の可能性があると考えた（B類の上半も人為？）。

そこで、調査時の所見を横に示し（第1表）、対応するか見てみた。○は人為、△は人為の可能性があり、×は自然堆積を示し、「全て」「上半」「下半」等の言葉は、人為堆積が認められる部分を示したものである。

削平されて当時の土層堆積状態が不明な地点が多く、人為かどうか見極めが付かなかったものがほとんどなので、はっきりしないが、第88号土坑以下を見ると対応しない場合の方が多い。

以下、人為と調査時に判断された土坑でC類と判断されたものをやや詳細に見ていくと、C2類とした第39号は、確かによく見ると層の厚さが均質で、Dあ類に含めた方が良かったかも知れない。C2類？とした第70号も、9層以外は層の厚さが均質である。C1類とした第84号は、層の厚さ自体は不均質だが、堆積方向が不自然である。C1類とした第89号は、最下層は薄く不均質だが、その上は確かに人為を窺わせる。C1類とした第93号も、層の厚さ自体は一部不均質だが、確かに全体としては一様であり不自然である。C2類？とした第95号は、下半に不自然さを感じるが、調査時の判断通り上半が埋め戻されているとしたら、全く対応しない。C1類とした第96号は、確かに全体としては一様であり不自然である。しかし調査時の判断通り下半（だけ）が埋め戻されているとしたら対応しない。

このように、そういう目で見ればある程度対応させることはできるようだが、類型化された土層構造から人為かどうかを判断するのは難しいようである。人為かどうかを詳細に検討した宮城県小梁川遺跡での検討結果を見ると、確かに、D類に代表されるように均質な堆積を示すものに人為が多いとは言えるようだが（村田 1987：第428図）、一見すると自然堆積にしか見えないものもあり（同：1号土坑）、必ずしも1対1には対応していない。

そして、これも小梁川遺跡に示されているが、本遺跡の場合も、全て埋め戻されたと判断されるもの、人為と自然の両方が認められるものと多様である。

(9) 埋め戻し穴と埋め戻す理由

「埋め戻し穴」としたのは、土坑検出面に確認された住居状の穴で、底～壁がはっきりせず疑似現象に近い状態を示し、土坑の中心とは同心円状に対応せず一見すると別の遺構が重複していると感じさせる穴である。第24号、第48号、第52号、第56号、第64号？、第73号？、第81号？土坑に認められた。

この穴の土の行方が気になるが、特定できた土坑はない。地山再堆積土、地山ブロックを含む層などが相当するとは思われるが、また、本末転倒になるが、はっきりと埋め戻しが確認できた土坑も実はない。

なぜ、こうした穴を掘ってでも埋め戻したのか。埋め戻し穴は、比較的規模の大きな土坑に確認されている。規模の大きなものはより危険であるため、積極的に埋め戻したとするのが蓋然性が高いであろう。本遺跡のフラスコ状土坑は、地山の性質によるものか極めて崩れやすく、精査したそばから崩壊していった。もし、廃絶された土坑が、そばにあり、まだ崩れる可能性を残していたら、埋め戻そうと考えるのが自然であ

ろう。あるいは、そもそも埋めるためではなく、次節で述べるように中のものを取り出しやすくするための穴の可能性もある。深いフラスコ形は、底にあるものを取り出すのは容易ではないからである。

(10) 遺物出土状況

他の属性との関係も含めて、顕著な傾向を読みとることはできなかった。土器は、破片～半完形土器と完形土器があり、第12号、第26号土坑からは、底面あるいは直上から完形土器が出土しており、特に第26号は、逆位に安置したような形で奥の壁際から発見されているが、覆土も含め特に目立った特徴は見られなかった。ただし、両土坑とも断面形がフラスコ形に近く原型に近い状態を保っていると考えられ（前述）、その点から土坑掘削後比較的早い段階で埋め戻している可能性がある。墓などに再利用して。

(11) 重複関係

第1表中に略記した。→は新旧関係を示し、○→△が古→新を示す。不確かな場合は、○→△？、新旧関係がはっきりしない場合は、○？△のように示し、何れも自明である相当する土坑名（○とする）を省略し、→△、△→、→△？、△→？（△→○？の意）、？△などと記した場合がある。重複する遺構が、フラスコ状土坑の場合は、番号だけ示し、それ以外の遺構については、番号の後に、住居は住、陥し穴状遺構は陥、焼土は焼、フラスコ状以外の土坑は土と略記した。

陥し穴状遺構と焼土は、何れもフラスコ状土坑より新しいようであり、竪穴住居跡は新旧両方ある。

(12) 時期

第1表では、縄文時代前期中葉～中期前葉とされた土坑については時期を省略した。時期を特定できた土坑は非常に少ない。大部分が前期中葉～中期前葉に納まるようだが、第18号、第57号のように、古くなる可能性を持つものもある。

2. フラスコ状土坑をめぐる諸問題

(1) 位置

該期の遺跡のほとんどがそうであるように、本遺跡も集落内にフラスコ状土坑が群在する。遺跡のすぐ北側の斜面には、現在ナラの木が多く見られ、調査中も多量のドングリが落ちてきた。当時の植生ははっきりしないが、その生態的条件から周囲にドングリ、クリなどの木が生えていた可能性は高く、本来的にはそうした場所であるからこそフラスコ状土坑が掘られたのではないと思われる。縄文時代と言っても、その間には大きな環境の変化があり（安田 1980）一括りにはできないが、気温も上がり下がりしていたのなら同じような植生が周期的には現れたと思われる。その際、同じような生業戦略を採っていたのなら、フラスコ状土坑が周期的に見られるはずであろう。

このことを証明するかのように、少なくとも岩手県では、前～中期集落跡の群在するフラスコ状土坑の中から、思い出したように晩期の土器が出土することがある。例えば、九戸村長興寺Ⅰ遺跡、九戸村嶽Ⅱ遺跡？、二戸市上里遺跡、北上市柳上・上鬼柳Ⅳ遺跡、同 石曾根遺跡（以上、出典は、日本考古学協会 2001参照）、同 煤孫遺跡（(財)岩手県文化振興事業団 1994）など。

前～中期の特異性は、そうした採集の地に竪穴住居を作り集落を営んだことにある。それも、大形住居を持ち拠点的と考えられる集落を。もちろん完全に分かれるわけではないが、どちらかと言えば晩期などの拠点集落に比べ標高の高い場所に立地することが多い。川などから遠く水の便が悪い場所が多いのである。このことは、フラスコ状土坑の中に蓄えたものの採集・加工を、いかに重視し生業戦略の重きを置いていたかを意味するのであろう。

(2) 掘削方法

本遺跡のフラスコ状土坑は、特にも口が狭く、人が入れない場合もしばしばあった（例えば第33号）。仕方なく断ち割って掘ったのだが、縄文人はどのように掘ったのであろうか。

第Ⅲ章に記したように、今回の調査では思い切った断ち割りができず解明できなかったのだが、その痕跡らしいものが僅かに認められた。写真図版34などに見るように、底面に黒土が点々と残るのである。最初は根による攪乱と考えていたが、その間隔は比較的均質であり、深い穴にも認められたことから、掘り方の痕跡ではないかと思うようになった。オーバーハングする壁の表面も著しく凹凸が見られる。これらから、地表に立って尖った棒状の工具（あるいは組み合わせて）で突くようにして掘ったのではないかと想像する。

(3) 同時に存在した数

フラスコ状土坑は、時期が特定されるものは少ない。したがって、同時に存在した数を割り出すのは容易でないのだが、塚本師也氏は、短期集落の数の少ないフラスコ状土坑を対象とし、出土遺物の全点ドットと接合作業を元に、この問題に果敢に取り組んでいる（塚本 1992、1998）。

対象とした栃木県品川台遺跡は、縄文時代前期前葉阿玉台Ⅱ～Ⅲ期の集落跡で、径約100mの環状集落で、住居跡7軒、柱穴群6基、フラスコ状土坑9基が検出され、フラスコ状土坑も間隔を置いて環状に配されているが、他より近接するものが数基あり、それを一括すると5～6群に分かれそうである。調査面積は、約10,000㎡で、調査範囲を越えて集落が広がる可能性は少ないようである。

残念ながら同時存在数の確定までには至らなかったのだが、ある程度の絞り込みには成功している。隣接するフラスコ状土坑の間隔は、最小で約3.8m、平均約7m、同時存在が想定される土坑は、最大4基で、その間は6.6m以上離れており、他より近接する土坑同士の間にも同時存在は想定されていない。

このことから、一つの群の中で同時に存在した土坑は1基ではないかと仮定される。絞り込みが可能な短期の該期遺跡が他にも存在したか資料渉猟する余裕が今ないので、この仮説を強化できないが、この説に則って平清水Ⅱ遺跡の土坑を見してみる。

規模の大きなフラスコ状土坑が、西側調査区の中央付近に偏ること、副穴あるいは副穴+小溝を持つ一群が、西側調査区の北東部分に偏ることが指摘できるが、排他的というほどではなく、また群の中も比較的多様であり、あまり強くは言えないが、群にまとまりがあること、このことから一つの群に一つの経営主体が想像され、それはおそらく一家族であろう。フラスコ状土坑の規模が大きいということは、多くの貯蔵物を必要としたとしたということで、単純に考えれば家族の人数が多かったということになる。家族の人数が短期間に大きく増減するということはないだろうから、一つの群に規模の大きな土坑がしばらく作られ続けるということになるのであろう。

そして、空白域が周囲にあるのに頻繁に重複するということは、竪穴住居によく言われるように、集落内に初めから区画が割り当てられており、それをほみ出すことはできなかったということなのだろう。

(4) 耐用年数

データを取る余裕がないので不正確だが、本遺跡はフラスコ状土坑の重複が多い方だと思われる。前項の区画云々の仮定が正しいとすれば、その原因は、継続期間が長いか頻繁に作り直したかのどちらかであろう。ここで、どちらかに決する決めてはないが、参考になる事実がある。それは、本遺跡のフラスコ状土坑が、形態及び地山の性質から極めて崩れやすいということであり、調査中にも次々に崩落してしまった。前述の栃木県品川台遺跡は、その逆で、崩れやすい首の部分に特に硬くて丈夫な土層を当てて崩落を防いでいる（塚本 1992：p.294）。品川台遺跡のフラスコ状土坑が少ない理由の一つは、耐用年数にもあり、塚本氏は

「1基の袋状土坑の利用期間は、1年ではなく、数年以上にわたった」としている（同：p.297）。

平清水Ⅱ遺跡のフラスコ状土坑を精査した実感として、少なくとも本遺跡の場合、蓋をして中を乾燥しないようにするか、中にものをぎっしり詰めるかしない限り、1年も持たなかつたろうと思われる。そのような手当をしても、周囲に集落があり、頻繁に人が行き来し振動にさらされるのであろうから、数年も持つということは稀であつたろうと推測される。

(5) 形態・機能・用途・使用方法

平清水Ⅱ遺跡では、3つの断面形が認められた。フラスコあるいは袋状という断面形に「内部空間の温度と湿度が一定になることによる保存効果が期待できる」（長岡 1999：p.200）のなら、断面による機能の違いはないのだろうか。実験してみる必要があるが、筆者の調査時の実感では、深くフラスコ形を呈する土坑は、外気の遮断力は強いようで、例えば、2.2mあつた第69号土坑の底は、30℃を越える日でもひんやりと涼しかったのを憶えている。また、物理的な問題として、深い穴を断面台形に掘ったら底面が非常に広がってしまい崩落を止めるのは難しいだろう。したがって、深い袋状土坑を掘るとしたら、フラスコ形に掘らざるを得ないということになる。逆に、フラスコ形にも欠点があり、後で中のもを取り出しにくい。頻繁にものを出し入れするなら、浅い台形の方が便利である。

結局、断面形は、掘り手の規模（容量）と深さ（遮断力）に対する目的を反映しているのだと思われる。つまり、同じ容量でも、遮断力があまり必要なければ台形に掘るし、遮断力が特に必要ならフラスコ形に掘り、容量も遮断力も必要なら大きいフラスコ形に掘るということである。

容量と遮断力に対する目的は、なぜ変動するのだろうか。容量は、中に入れる必要量の変動、例えばその年の堅果類の豊不作の反映などで十分に理解できるが、遮断力は難しい。遮断力が強ければ中のもを長く持たせることができると単純に考えることができるとしたら、その必要性が変動するということであろうか。不作の年に長く持たせたい、あるいは逆に豊作で採れすぎたので腐らせずに長く持たせたい、あるいは、そもそも中に入れる貯蔵物自体が異なり、その貯蔵物の保存性の違いによるものなのか。これ以上、解釈を限定させる材料はないが、前節で群ごとの断面形の分布を見たところ（第6図～第7図）、群ごとに大まかには傾向が一致するが異質なものを含む場合もあつた。

また、前項で述べたように、崩れないように使うには、蓋をするか中にものをびっしり詰める必要があるが、そうした検討を可能にする材料もない。今後の調査での検討に期待したい。

参考文献

- （勸）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994『煤孫遺跡』（第196集）
塚本師也 1992「綜括第1章第2節1. 袋状土坑」『品川台遺跡』（勸）栃木県文化振興事業団
1998「袋状土坑における遺物出土状況と遺構間の出土土器接合」『シンポジウム縄文集落研究の新地平2 発表要旨』縄文集落研究グループ
2001「関東地方東北部における縄文時代の大型貯蔵穴出現期の様相(上)」『研究紀要』9（勸）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
長岡史起 1999「遺構研究 貯蔵穴」『縄文時代』10（第3分冊）（『縄文時代文化研究の100年』）縄文時代文化研究会
日本考古学協会2001年度盛岡大会実行委員会 2001『亀ヶ岡文化—集落とその実体—』
村田晃一 1987「Ⅱ 1(2)フラスコ状土坑」『小梁川遺跡』宮城県教育委員会（第122集）
安田喜憲 1980『環境考古学事始』（NHKブックス365）日本放送出版協会

Ⅶ. まとめ

今回の調査成果をまとめ、若干の解釈を加えて今後の課題としたい。

1. 遺物

今回出土した遺物は、縄文土器（30×40×30cmのコンテナ）37箱、土師器約20点、土製品は23点（土器？1点、土偶4点、円盤状土製品4点、焼粘土塊14点）、石器は973点、石器製作時の剥片67,336.74g、石製品は8点（垂飾品1点、円盤状石製品？1点、軽石加工品6点）、アスファルト1点、コハク（加工品含む）18点である。

石器類の内訳は、石鏃163点、尖頭器96点、石篋28点、石錐6点、石匙25点、スクレイパーA類・Uフレイク・Rフレイク313点、打製石斧40点、スクレイパーB類3点、磨敲器類269点、石皿6点、台石1点、砥石2点、磨製石斧21点、剥片A類66,683.03g、剥片B類653.71gである（器種名は第Ⅴ章参照）。

①縄文土器

・早～前期前半の土器（白浜式、寺の沢式、赤御堂式？ほか）が数点、後期の可能性のある土器が1点出土している他は全て前期中葉～中期前葉の土器（円筒下層b1式～円筒上層b式）のようで、中でも前期末～中期前葉の土器（円筒下層d1式～円筒上層a2式）が大部分を占める。

・前期末は、大木6式系および折衷土器、中期前葉には、大木7a式系、五領ヶ台Ia式系土器が認められる。

五領ヶ台Ia式系と考えたのは、52、244？、248、277？、323、541、656、708、756である。このうち、244は、大木式分布圏に頻繁に見られる系列で、当地方では大木7a式の組成に含めることが多い。その他の土器は、大木7a式分布圏にもそれほど顕著でなく、見た目にも本遺跡から出土した他の土器と大きく異なり、搬入品と考えたいが、関東地方に同じような土器を見つけることができなかつたために五領ヶ台Ia式系としたものである。

本県南部大木式分布圏からは「五領ヶ台Ia式そのものといってよい土器」（今村 1985：p.112）が頻繁に出土しており、最近では青森県でも五領ヶ台式の影響を受けた土器が指摘されている（茅野 2002：p.41）。したがって、本遺跡から出土しても特別なことではないのだが、他の遺跡で出土した土器とやや異なっており、大木式分布圏でもそんなには見られない。永峯（1981）、今村（1985）、小林ほか（1988）、縄文セミナーの会（1995）を参照すると、長野、北陸に見られる土器の方に近いようにも思える。該期の北陸系土器は、日本海側の秋田県では比較的頻繁に出土しており（富樫 1984）、出土してもそれほど特異なことではないと思われるが、こちらについても北陸地方に同じような土器を見つけることはできなかつたので、何とも言えない。

②その他の遺物

・石器製作時の剥片が多量に発見され、また磨製石斧の未製品も見られることから、本遺跡は石器製作址と考えられる。

・石器組成で注目されるのは、該期の遺跡としては珍しく磨敲器類の比率が比較的小さいことと、石鏃・尖頭器類の多さである。

本書で分類した尖頭器のほとんどは、石鏃の大形のものといった形状をしている。また、石鏃といっても

両面を全面剥離しているものは少なく、これらも未製品と言えるかも知れない。すると、石器組成の特異性は、本遺跡が通常の集落跡に石器製作址としての性格が加わっているためと言えるかも知れない。

参考文献

- 今村啓爾 1985「五領ヶ台式土器の編年」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』4
小林達雄ほか編 1988『縄文土器大観3 中期Ⅱ』小学館
縄文セミナーの会 1995『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』
富樫泰時 1984「秋田県における北陸系の土器について」『本荘市史研究』4 本荘市史編さん室
茅野嘉雄 2002「青森県内における縄文時代前期末～中期初頭の異系統土器群について」『研究紀要』7 青森県埋蔵文化財調査センター
永峯光一編 1981『縄文土器大成2 中期』講談社

2. 遺構

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡3棟、炉跡10基（土器埋設炉6基＝炉体土器の数、石囲炉3基、地床炉1基）、住居状遺構1基、土坑・墓壇104基、溝状の陥し穴状遺構7（6?）基、焼土42基、古代（平安時代?）の竪穴住居跡2棟、住居状遺構1基、土坑1基（第105号）検出された。縄文時代の遺構は、前期中葉～中期前葉のものがほとんどを占め（中でも前期末～中期初頭）、その他早期の可能性のあるフラスコ状土坑が2基ある（第18号、第57号）。縄文時代の土坑は、墓壇の可能性のあるもの（第101号～第104号）とそれ以外に分けられ、それ以外のものは、フラスコ然としたものがほとんどである（第Ⅵ章に一覧表）。

①縄文時代の竪穴住居跡・炉跡

竪穴がはっきりと確認できた住居は、5.8×4.8mの隅丸長方形～楕円形・土器埋設炉、短軸4m、長軸9m以上の隅丸長方形～長楕円形・土器埋設炉3+2、6.8×4.7m程度の楕円形・土器埋設石囲炉・周溝の3棟である。この他、上記のように、炉跡と周囲に柱穴が確認されただけの住居跡がある。

岩手県では円筒上層a式期の竪穴住居跡の検出は少なく、今回、二戸市上里遺跡例（（岩手県埋蔵文化財センター 1983）、軽米町水吉VI遺跡例（（岩手県文化振興事業団 1994）しか見つけられなかった。上里遺跡では大形住居（ロングハウス・炉は不明）、水吉VI遺跡では通常規模の住居（何れも楕円形・地床炉）が検出されている。周溝は、両遺跡に認められる。円筒上層a1式期のロングハウスは、秋田県和田Ⅲ遺跡（秋田県教育委員会 2003）、通常規模の住居は秋田県萱刈沢貝塚（八竜町教育委員会 1979）、同 小袋岱遺跡（秋田県教育委員会 1999）などにも見られる。円筒式分布圏の中心青森県には、三内丸山遺跡（青森県教育委員会 2000ほか）を初めとして調査例は多く、岩手県にほど近い畑内遺跡も円筒式期の大集落跡で、該期のロングハウスなどが見られる（青森県教育委員会 2001ほか）。成田滋彦氏によれば、青森県の円筒上層a式期の「炉は、地床炉・土器埋設炉・石囲炉・土器埋設石囲炉」が見られるとのことである（成田 2001：p.34）。筆者が瞥見した感じでは、ロングハウスでは土器埋設炉、通常規模の住居は地床炉が一般的なようにも思われたが、定かではない。平面形も、本遺跡で検出された住居跡は一般的な形態のようである。今回の調査例は残りが悪いので、これ以上の検討は割愛する。

②縄文時代の住居状遺構

1基のみだが、竪穴住居跡に隣接し、物置などの可能性があるかも知れない。

③土坑・墓壇

フラスコ状土坑94基、墓壇1基（第104号土坑）ほか検出された。

- ・本遺跡のフラスコ状土坑は、極端に口が狭いものが多い。

- ・底面直上から完形土器が出土したフラスコ状土坑がある（第12号、第26号土坑）。第26号土坑では、壁近くから逆位に安置したような形で出土した。
- ・本遺跡のフラスコ状土坑について、第Ⅵ章で検討した結果、規模と深さによって断面形が決定されることがわかった。
- ・墓壙と考えた円筒下層b式期第104号土坑の底面直上から、白色粘土板、板状の礫が出土した。

④陥し穴状遺構

調査区に散在する。時期の特定は難しいが、縄文時代中期の可能性はある。

⑤焼土

幾つかの集中地点がある。時期の特定は難しいが、本遺跡で大量に出土した石器製作時の剥片に関係あるかも知れない。

⑥古代の遺構

住居状遺構は竪穴住居跡に隣接し、物置などの可能性があるかも知れない。土坑は、竪穴住居跡の覆土中から掘りこまれている。

参考文献

- 青森県教育委員会 2000『三内丸山遺跡X V』（第283集）
 2001『畑内遺跡Ⅶ』（第308集）
 秋田県教育委員会 1999『小袋岱遺跡』（第285集）
 2003『和田Ⅲ遺跡』（第350集）
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994『水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書』（第219集）
 (財)岩手県埋蔵文化財センター 1983『上里遺跡発掘調査報告書』（第55集）
 成田滋彦 2001「青森県における縄文時代集落の諸様相」『第1回研究集会基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相』縄文時代文化研究会
 八竜町教育委員会 1979『萱刈沢貝塚』

3. 遺跡

①遺跡の性格

・縄文時代早期～前期前半

土器片が数点出土しており、フラスコ状土坑の2基は、この時期の可能性もある。

・縄文時代前期中葉～中期前葉

土器の量が急激に増え、集落が営まれた。遺構としてはフラスコ状土坑が主だが、墓や大形住居も作られ、石器製作も行われるなど、地域の拠点的集落であったと思われる。調査範囲が狭く、集落構造は不明である。

・縄文時代中期？

陥し穴状遺構は、この時期の可能性が高い。廃村になって草が生えだし、これを求めてやってきた動物を落とそうとしたのだと思われる。焼土も、この時期の可能性もあるかも知れない。

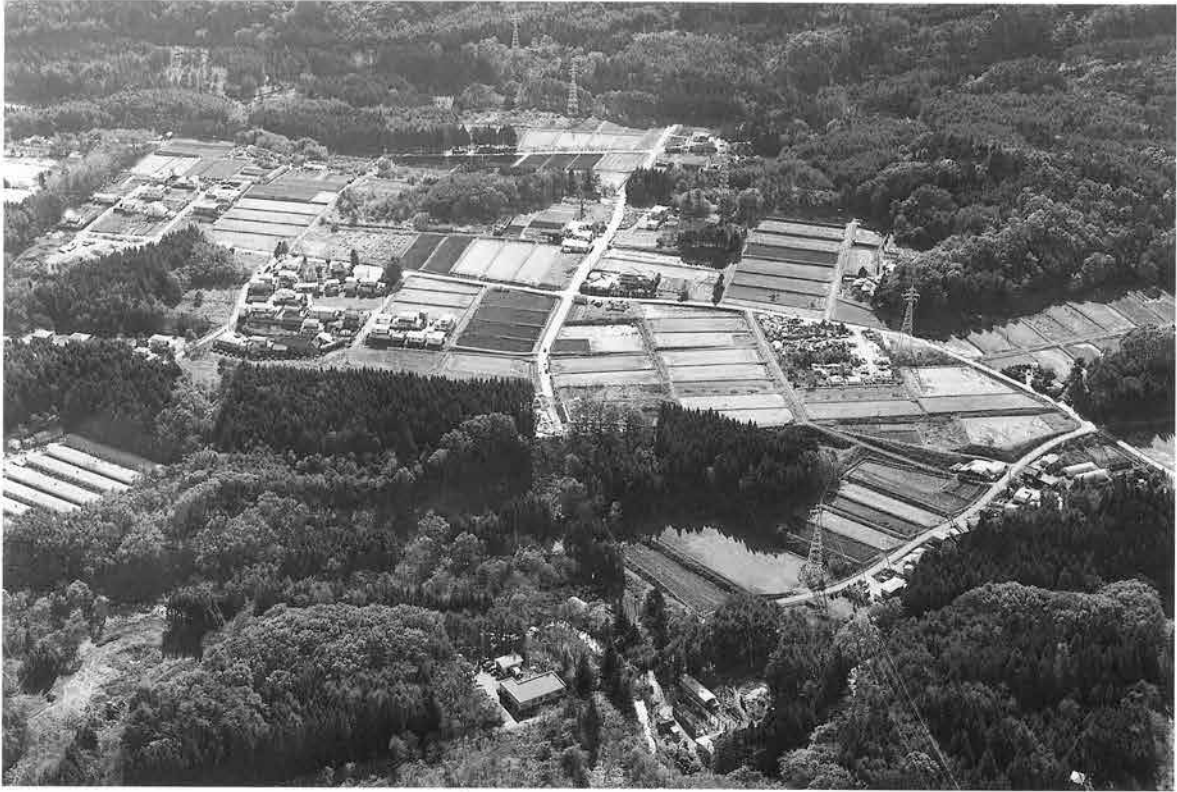
・平安時代

竪穴住居跡2棟、住居状遺構1基、土坑1基が、この時期に属する。遺物の出土は極端に少ない。

②地域の中で

第Ⅱ章第3節で見たように、縄文時代前期中葉～中期前葉の集落跡、平安時代の集落跡は、周囲にかなり広がるようだが、詳細は不明である。

写真図版



遺跡遠景（北側上空から）



調査区全景（次年度）（南側上空から）

写真図版 1 遺跡遠景・調査区全景



調査前風景（西から）



調査区中央部（西から）



調査区西端



調査区西部（東から）



調査区西部（東から）



調査区中央部（西から）



調査区中央部（西から）



調査区西端（次年度）

写真図版 2 調査前風景・調査区地形（初年度～次年度(1)）



調査区中央部（北東から）



調査区西～中央部（東から）



調査区西～中央部（西から）



調査区中央部（西から）



調査区中央部（南から）



調査区中央部（西から）

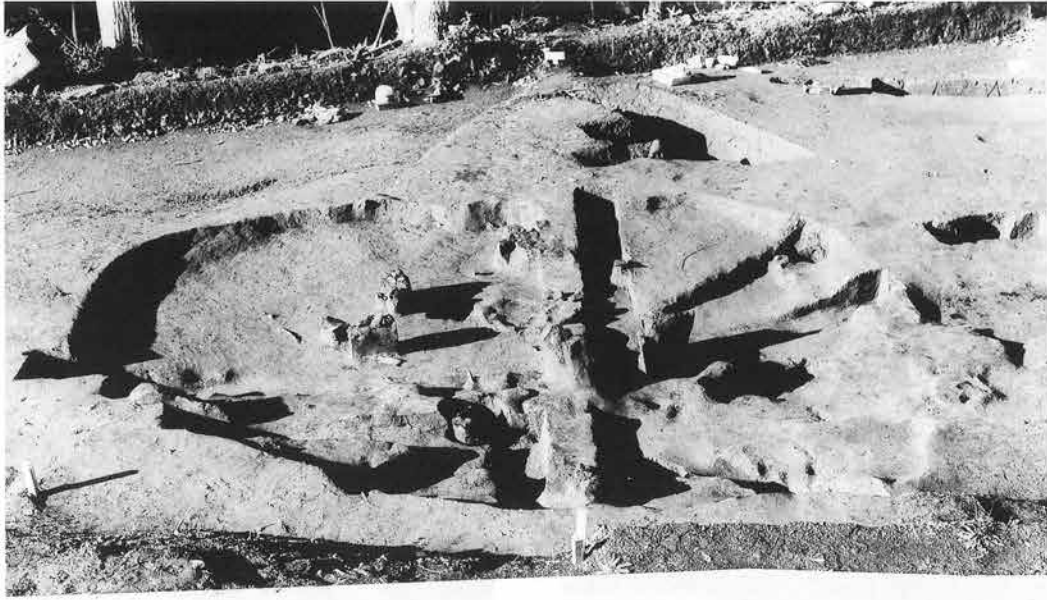


調査区東部（東から）



調査区東部（西から）

写真図版3 調査区地形（次年度(2)）



第1号住居跡全景



覆土断面（南北）



覆土断面（東西）

写真図版4 第1号住居跡(1)



炉跡平面



同 断ち割り



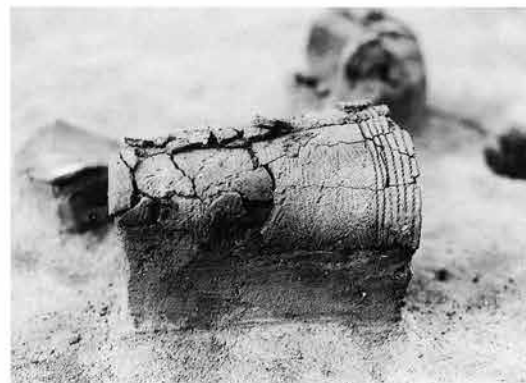
No. 1 土器出土状況



No. 3 土器出土状況 (上から)



No. 3 土器出土状況 (横から)



No. 4 土器出土状況



No. 9 土器出土状況



第 1 号住居跡検出状況

写真図版 5 第 1 号住居跡(2)



第2号住居跡全景



覆土断面（南北1）（西から）

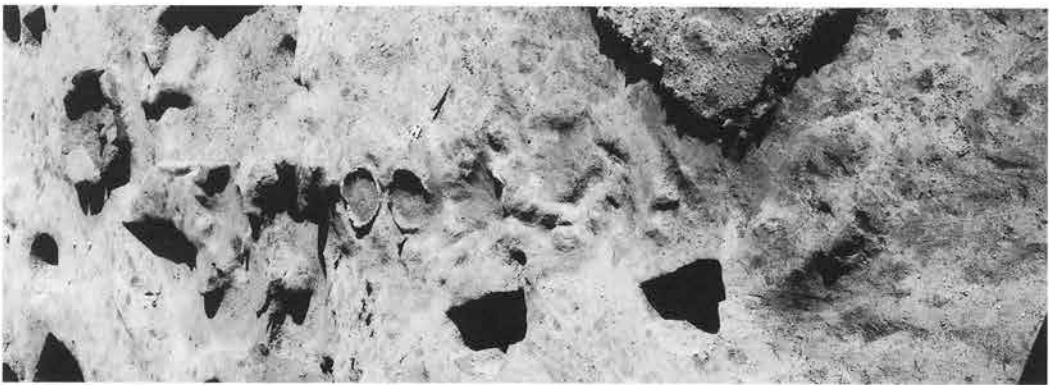


覆土断面（南北2）（東から）

写真図版6 第2号住居跡(1)



覆土断面（東西）



炉跡全景



第1号～3号炉体土器断ち割り



第4号～5号炉体土器断ち割り



焼土1断面

写真図版7 第2号住居跡(2)



焼土 2 断面



周辺の地形

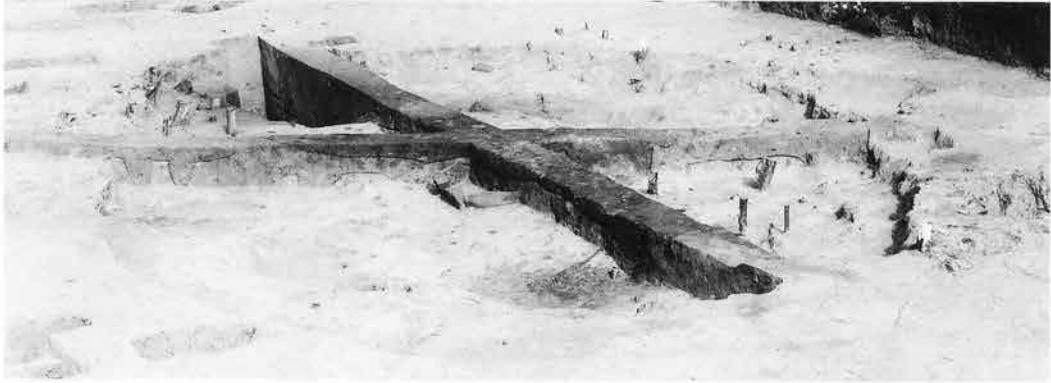


第 3 号住居跡全景



覆土断面 (南北)

写真図版 8 第 2 号住居跡(3)、第 3 号住居跡(1)



覆土断面（東西）



炉跡平面



同 断ち割り（東西）



同 断ち割り（南北）



同 検出状況

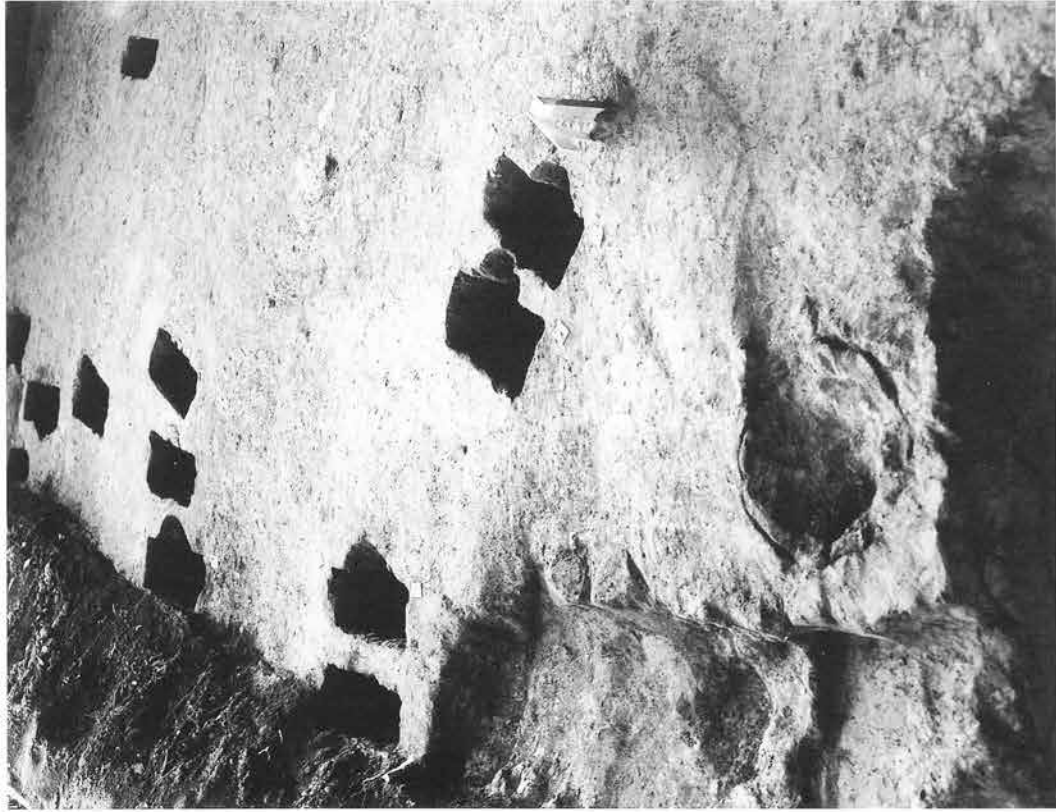


同 精査風景



周辺の地形

写真図版9 第3号住居跡(2)



第4号住居跡全景

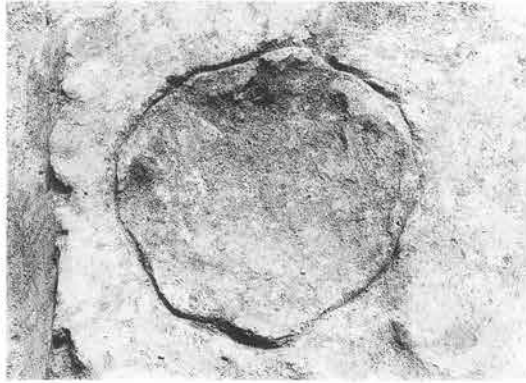


第4 A号炉跡



第4 B、C号炉跡

写真図版10 第4号住居跡(1)



第41号烧土



第4号住居床? 残存部



柱穴 1



柱穴 2



柱穴 3



柱穴 4



柱穴 5

写真図版11 第4号住居跡(2)・第41号烧土



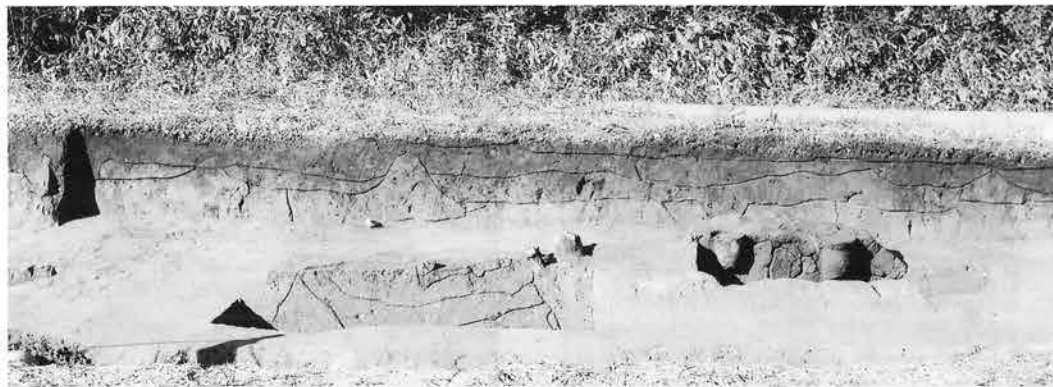
柱穴 6



精査状況



第5号住居跡全景

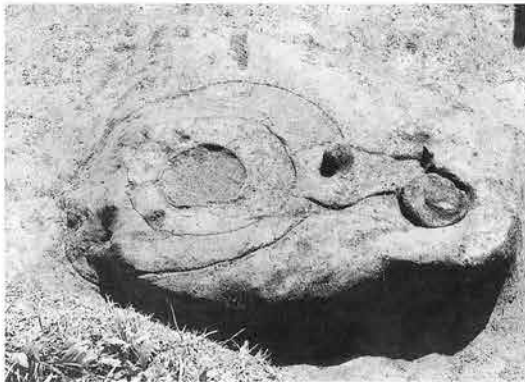


覆土断面？(西半分)

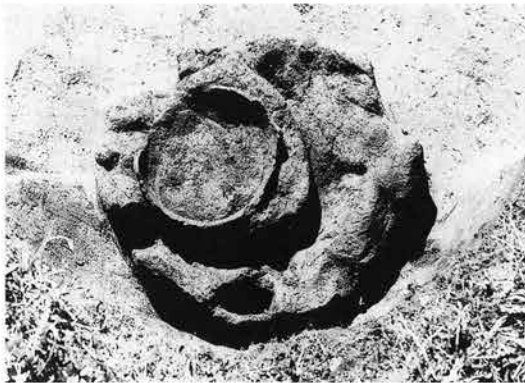
写真図版12 第4号住居跡(3)、第5号住居跡(1)



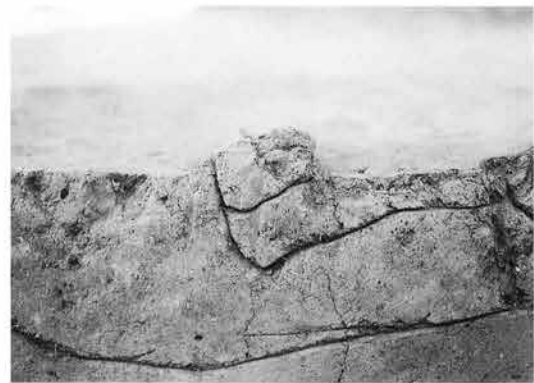
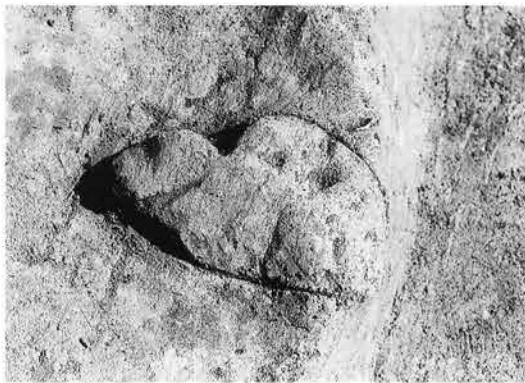
覆土断面？（東半分）



第5 A、5 B号炉跡

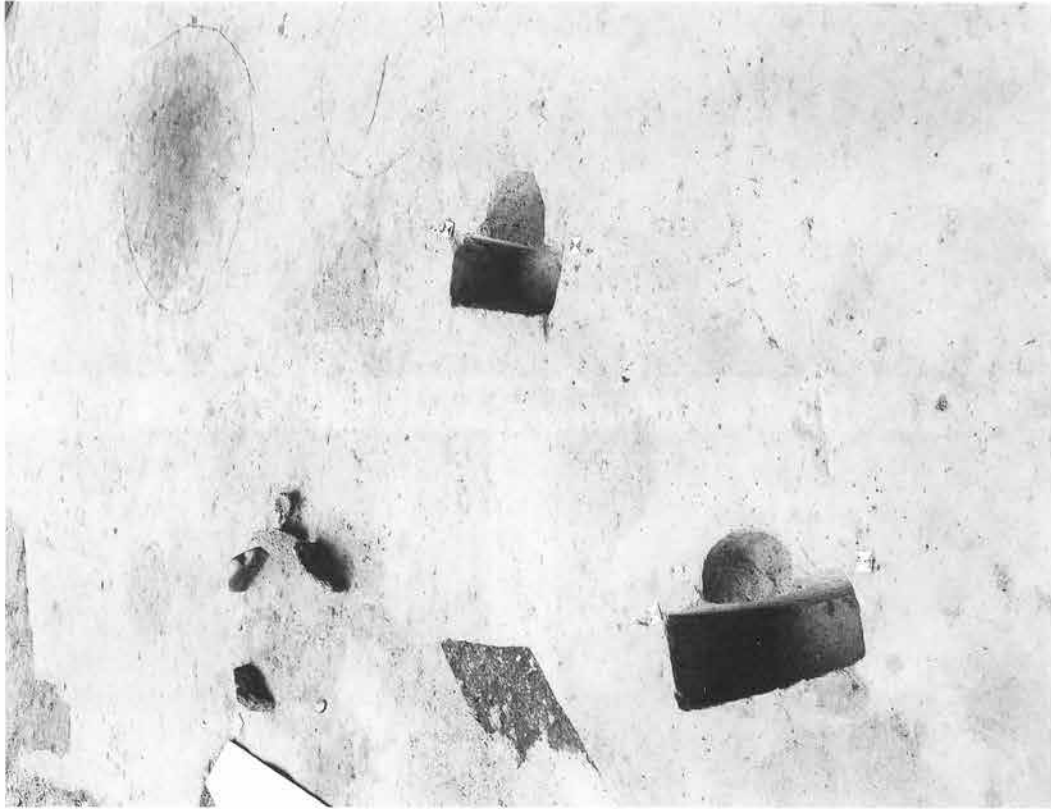


第5 C号炉跡

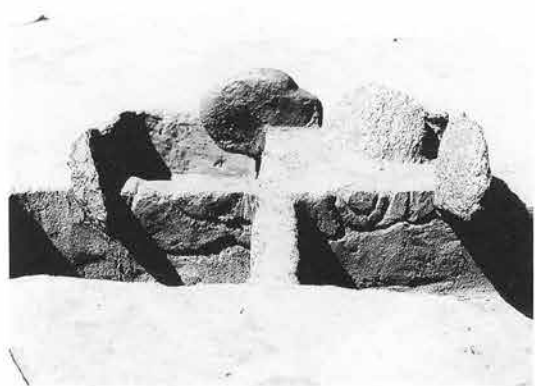


第42号焼土

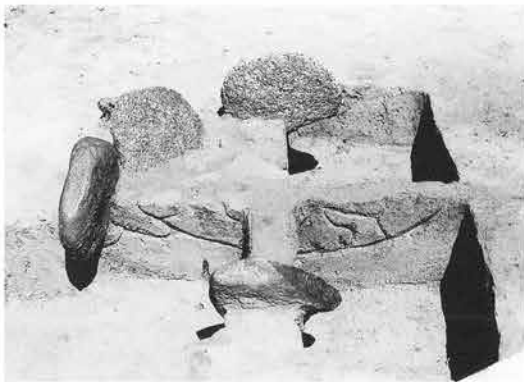
写真図版13 第5号住居跡(2)・第42号焼土



第6号炉跡平面



同 断ち割り (南北)



同 断ち割り (東西)



柱穴1

写真図版14 第6号住居跡(1)



柱穴 2



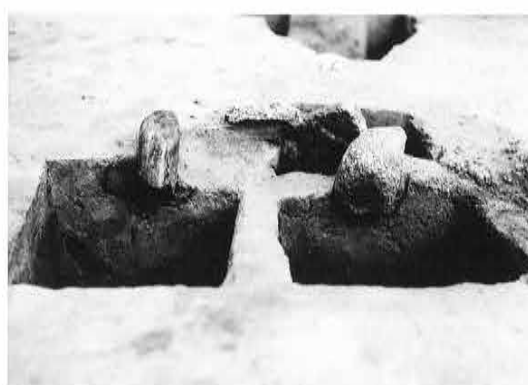
柱穴 3



第7号住居跡全景



第7号炉跡平面



同 断ち割り (南北)

写真図版15 第6号住居跡(2)、第7号住居跡(1)



同 断ち割り (東西)



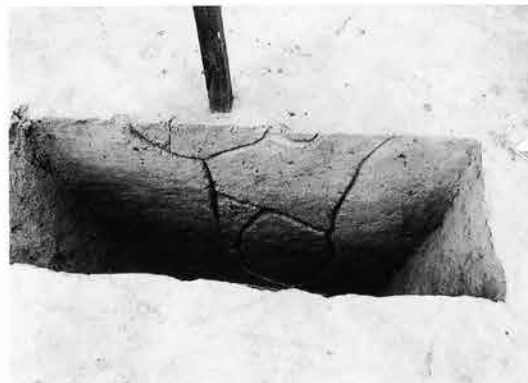
柱穴 1



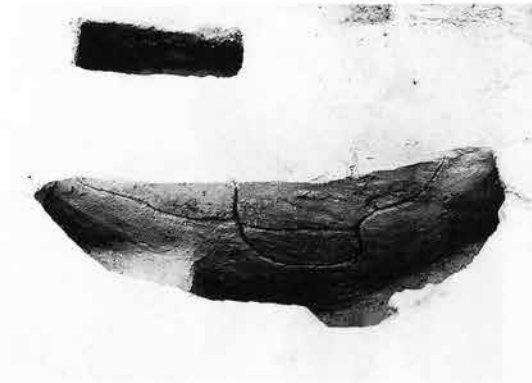
柱穴 2



柱穴 3



柱穴 4



柱穴 5



柱穴 6



柱穴 7

写真図版16 第7号住居跡(2)



柱穴 8



柱穴 9



柱穴 10



柱穴 11



第 8 号住居跡全景

写真図版 17 第 7 号住居跡(3)、第 8 号住居跡(1)



第8号炉跡断ち割り



柱穴1



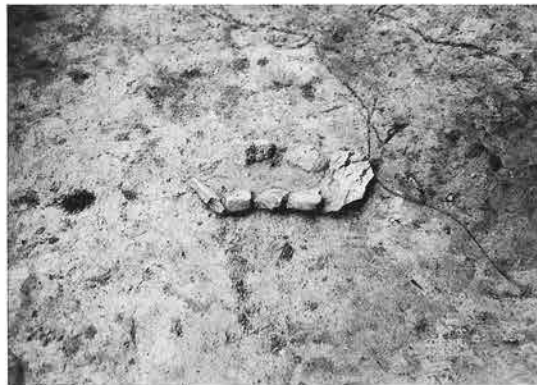
柱穴2



柱穴3



柱穴4



第9号炉跡遠景



第9号炉跡近景



第9号炉跡断ち割り

写真図版18 第8号住居跡(2)、第9号炉跡



第10号住居跡全景



覆土断面（南北）



覆土断面（東西）

写真図版19 第10号住居跡(1)



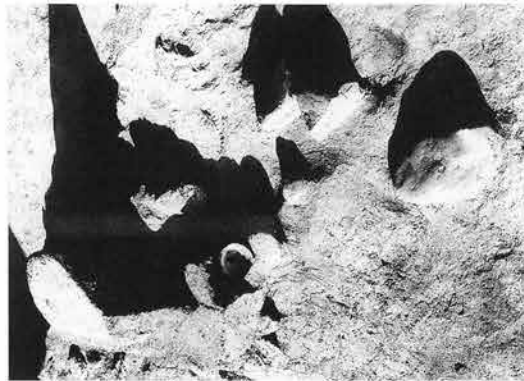
カマド平面



同 断ち割り



同 掘り上がり



同 検出状況 (No. 2 土器)



No. 2 土器出土状況



No. 1 土器出土状況(1)

写真図版20 第10号住居跡(2)



No. 1 土器出土状況(2)

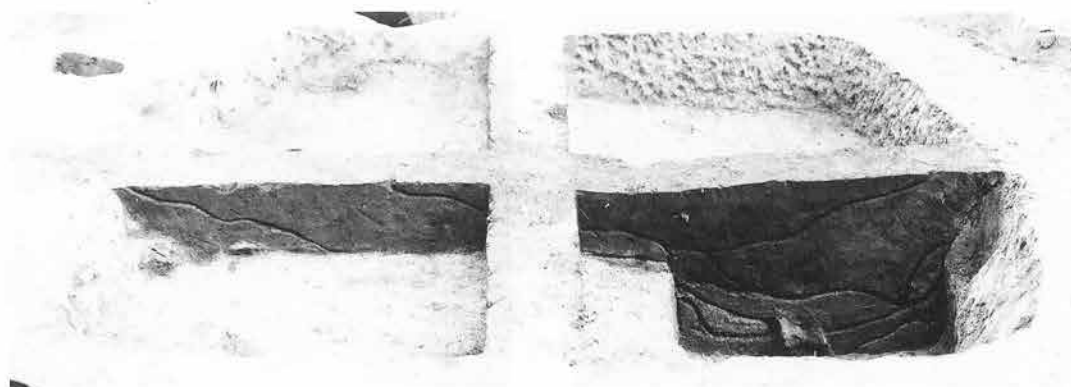


第11号住居跡全景



覆土断面(南北)

写真図版21 第10号住居跡(3)、第11号住居跡(1)



覆土断面（東西）



カマド平面



同 断ち割り



同 掘り上がり



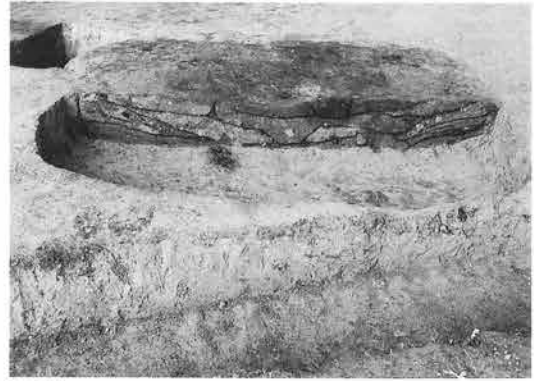
同 検出状況



第1号住居状遺構



写真図版22 第11号住居跡(2)・第1号住居状遺構



第2号住居状遺構



第2号住居状遺構と第1号陥し穴状遺構の重複



第1号土坑



第2号土坑

写真図版23 第2号住居状遺構・第1号陥し穴状遺構・第1号、第2号土坑(1)



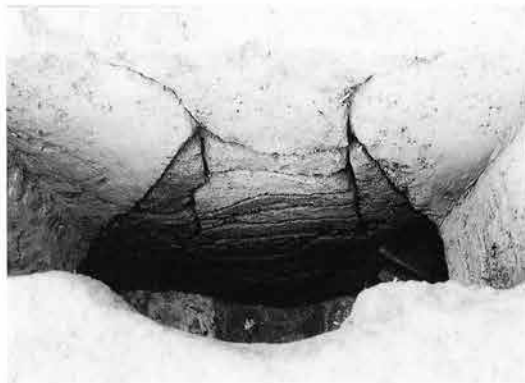
1層下部土器出土状況



第3号土坑平面



同 断面(上部)



同 断面(下部)



16層土器出土状況



同 近景(1)



同 近景(2)

写真図版24 第2号土坑(2)、第3号土坑



第4号土坑



第5号土坑平面

同 断面



同9層土器出土状況（南から）

同 横から



第6号土坑

写真図版25 第4号～第6号土坑



第7号土坑



第8号土坑



同 断面



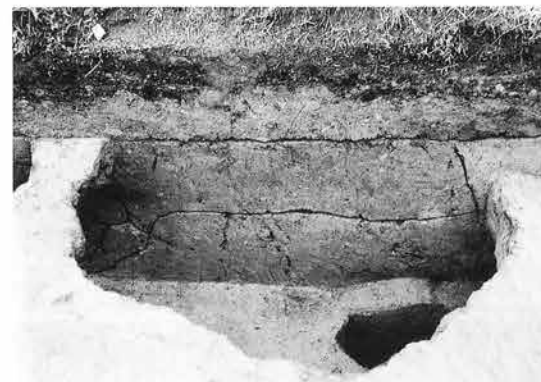
同 土器出土状況（床直）



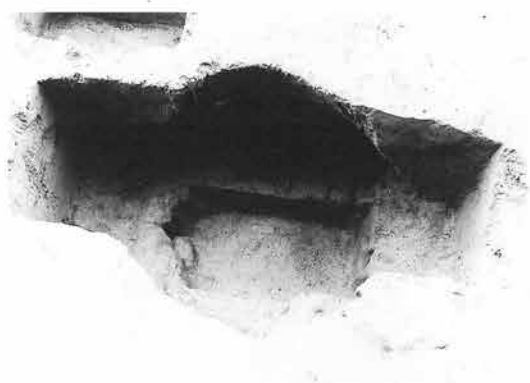
周辺の地形



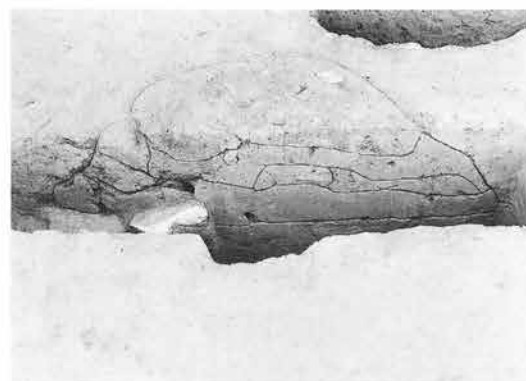
第9号土坑



写真図版26 第7号～第9号土坑



第10号土坑



第11号土坑平面

同 断面



同 土器出土状況

同 横から



第12号土坑

同 No. 1 ~ 4 土器出土状況

写真図版27 第10号、第11号土坑、第12号土坑(1)



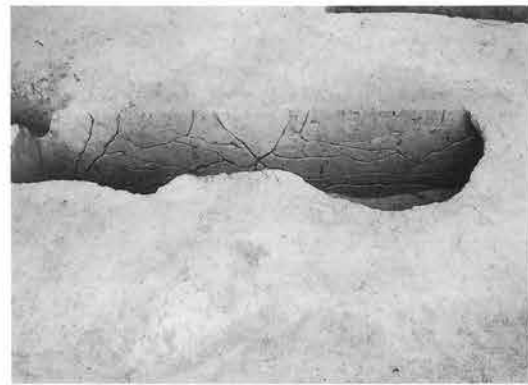
同 No. 1、2、4 土器近景



同 No. 3、4 土器近景



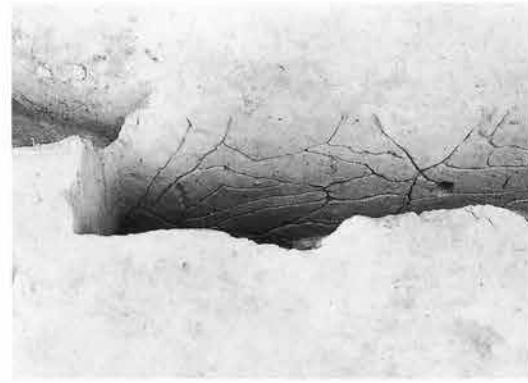
同 No. 3 土器近景



第13号、14号土坑断面



第13号土坑平面



同 断面

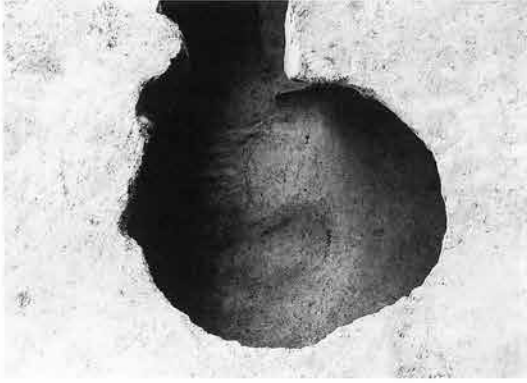


同 土器出土状况 (远景)

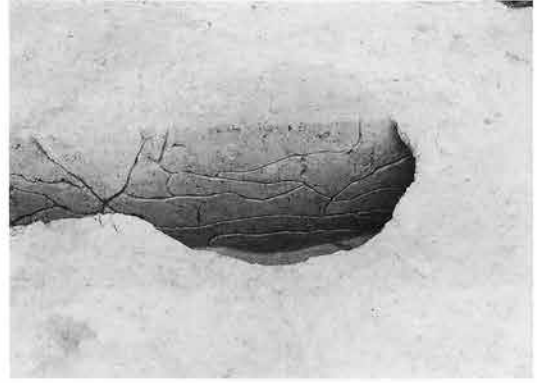


同 近景

写真图版28 第12号土坑(2)、第13号土坑、第14号土坑(1)



第14号土坑平面



同 断面



第15号土坑平面



同 断面



同 土器出土状况



第16号土坑平面

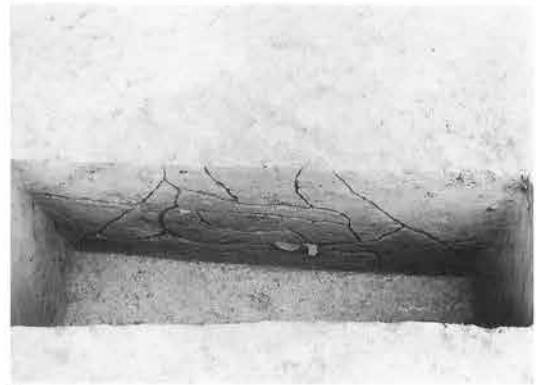
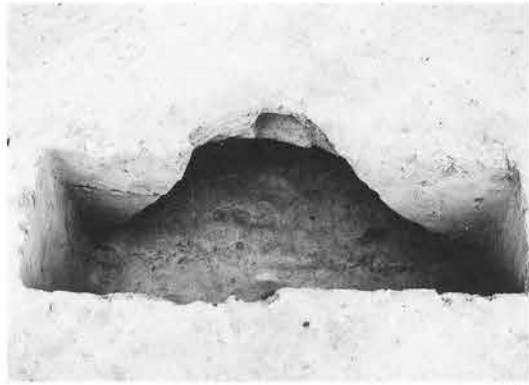


同 断面



同 土器出土状况

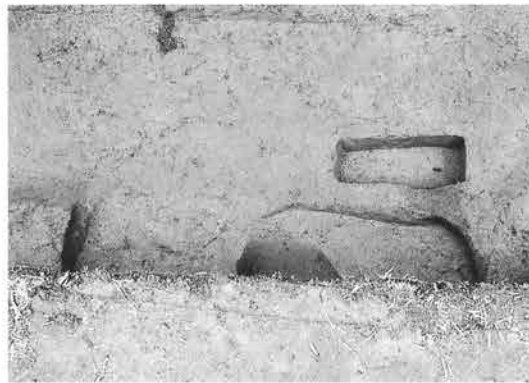
写真图版29 第14号土坑(2)~第16号土坑



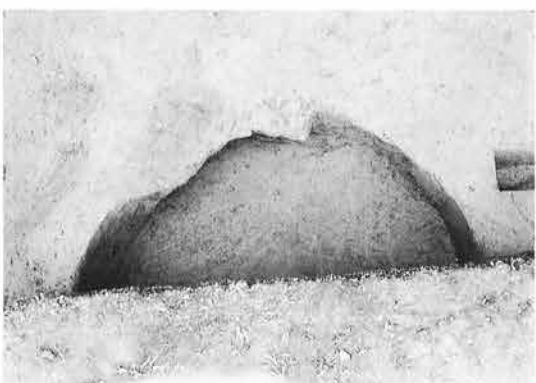
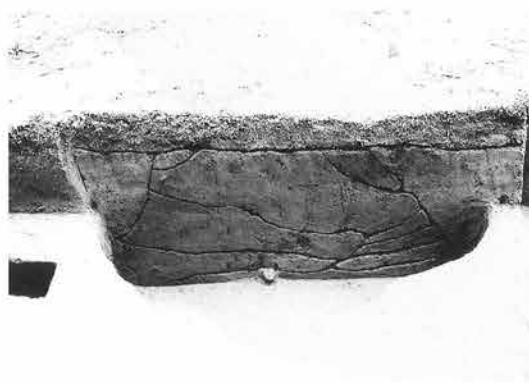
第17号土坑



第18号土坑



第19号土坑

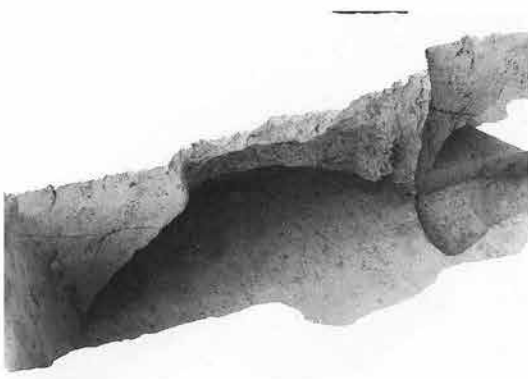
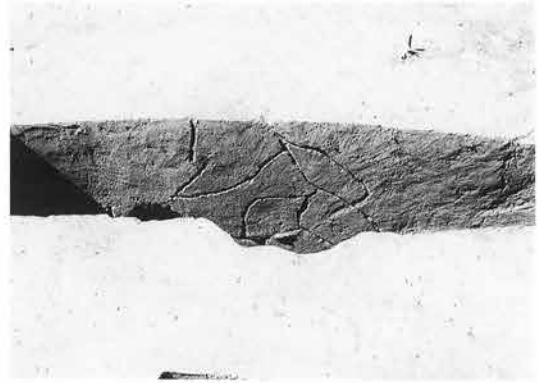


第20号土坑

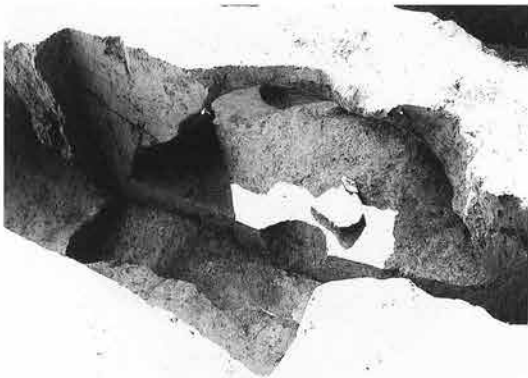
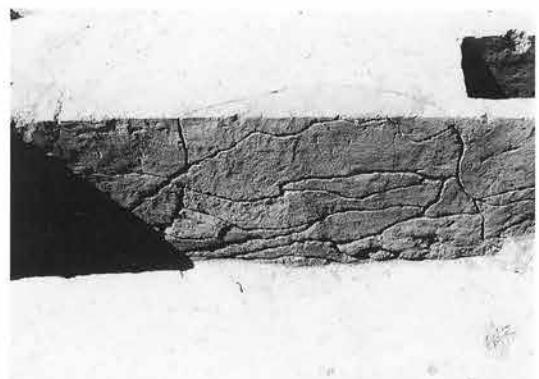
写真図版30 第17号~第20号土坑



第21号土坑



第22号土坑



第23号土坑平面



同 断面



同土器出土状况 (远景)

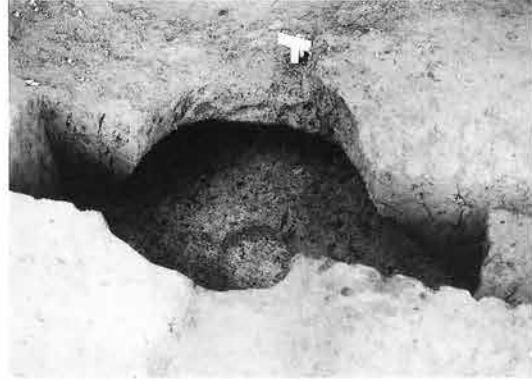


同 近景

写真图版31 第21号~第23号土坑(1)



同 横から



第24号土坑平面



同 断面



同 副穴検出状況



第25号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況（遠景）



同 7層土器出土状況（近景）

写真図版32 第23号土坑(2)～第25号土坑(1)



同 15層土器出土状況（近景）



第26号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況（遠景）



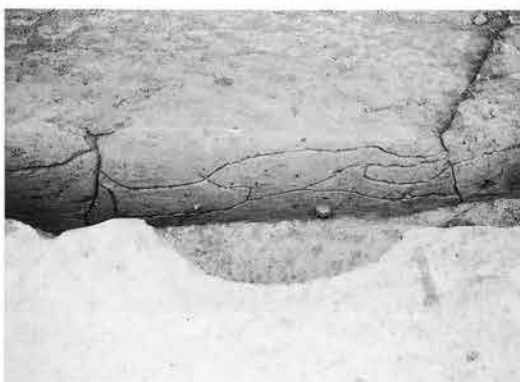
同 近景



同 横から



第27号土坑平面



同 断面

写真図版33 第25号土坑(2)～第27号土坑(1)



同 No. 1 遺物出土状況



同 No. 3 遺物出土状況



同 No. 4 遺物出土状況



同 底面 (近景)



第28号土坑



第29号、第30号土坑



写真図版34 第27号土坑(2)～第29号、第30号土坑(1)



第29号土坑



第30号土坑



周辺の地形



第31号土坑



第32号土坑



写真図版35 第29号、第30号土坑(2)～第32号土坑



第33号土坑



第34号土坑平面



同 断面



同 土器出土状况



第35号土坑平面



同 断面



第36号土坑平面

写真图版36 第33号~第36号土坑(1)



同 断面



同 遺物出土状況



第38号土坑



第39号土坑

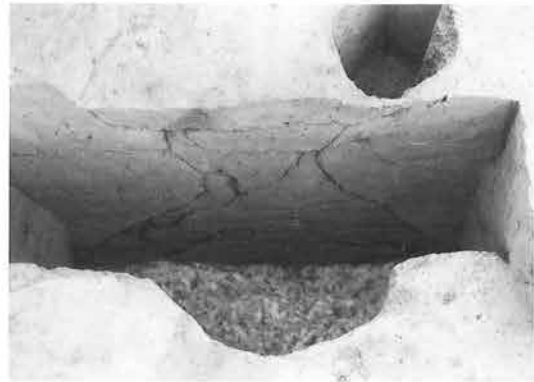


第40号土坑



第41号土坑

写真図版37 第36号土坑(2)、第38号~第41号土坑



第42号土坑



第43号土坑

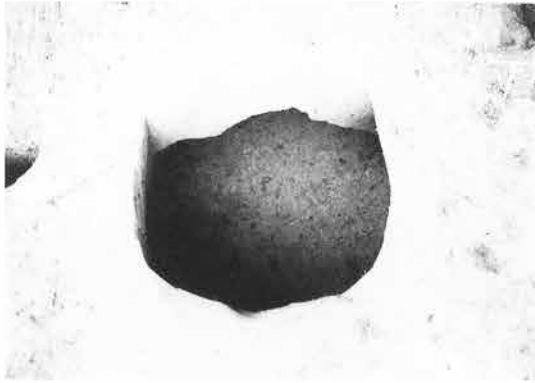


第44号土坑



第45号土坑

写真图版38 第42号~第45号土坑



第46号土坑



第47号土坑平面

同 断面



同 6層下面～7層上面土器出土状況

同 横から



第48号土坑平面

同 断面

写真図版39 第46号～第48号土坑(1)



同 精査状況



同 No. 1 土器出土状況 (遠景)



同 近景



同 横から



同 No. 2 土器出土状況



同 横から



第49号土坑



写真図版40 第48号土坑(2)、第49号土坑



第50号土坑



第51号土坑



第52号土坑平面

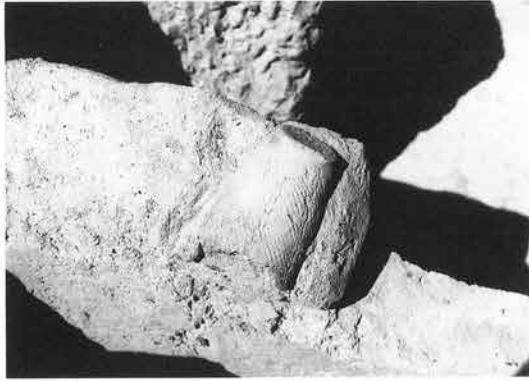
同 断面



同 No. 0 土器出土状況 (遠景)

同 近景

写真図版41 第50号～第52号土坑(1)



同 上から



同No. 1、2 土器出土状況



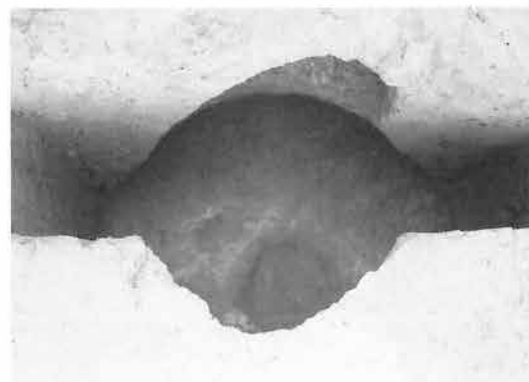
同 近景



同 横から



第53号土坑



第54号土坑



写真図版42 第52号土坑(2)～第54号土坑



第55号土坑平面



同 断面



同No. 1 土器出土状況 (遠景)



同 近景



同 横から



周辺の地形



第56号土坑平面

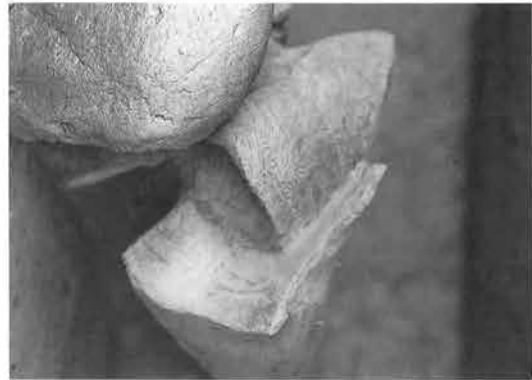


同 断面

写真図版43 第55号、第56号土坑(1)



同 土器出土状況（遠景）



同 近景



同 横から



同 反対側から



第57号土坑



第58号土坑



写真図版44 第56号土坑(2)～第58号土坑



第59号土坑平面



同 断面



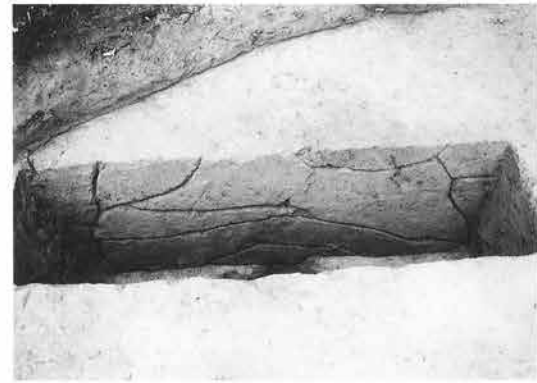
同 土器出土状況



同 横から



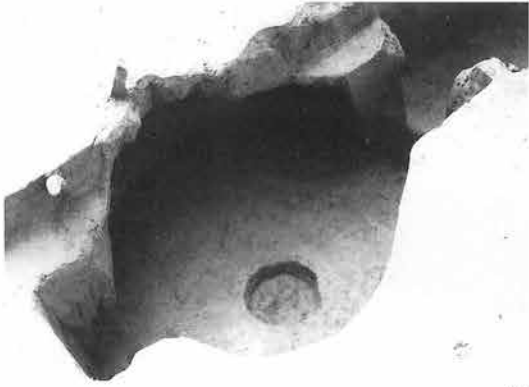
第60号土坑



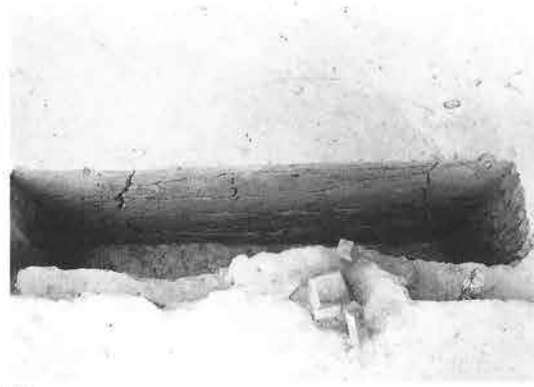
第61号土坑



写真図版45 第59号～第61号土坑



第62号土坑



第63号土坑



第64号土坑平面



同 断面



同 碟出土状况



第65号、66号土坑

写真图版46 第62号~第65号、第66号土坑(1)



第65号土坑



第66号土坑



第67号土坑

同 断面



同 土器出土状况 (远景)



同 近景

写真图版47 第65号、第66号土坑(2)、第67号土坑



第68号土坑平面



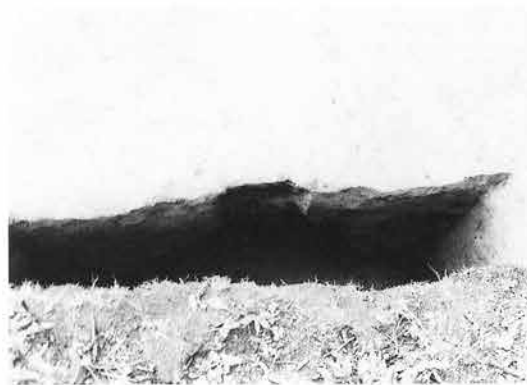
同 断面



同 貼底



同 横から



第69号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況（遠景）



同 横から

写真図版48 第68号、第69号土坑



第70号土坑



第71号土坑

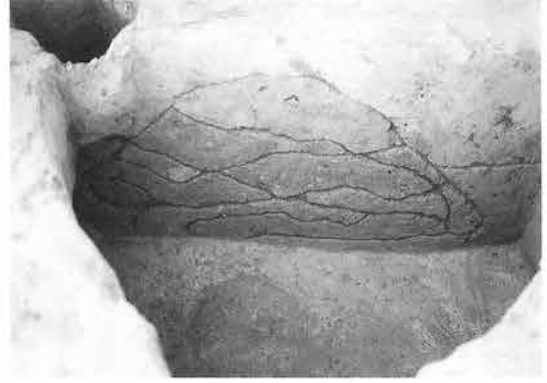


第72号土坑



第73号土坑

写真图版49 第70号~第73号土坑



第74号土坑



第75号土坑



第76号土坑



第77号土坑

写真图版50 第74号~第77号土坑



第78号土坑



第79号土坑



第80号土坑平面

同 断面



同 土器出土状況（上から）

同 横から

写真図版51 第78号～第80号土坑



第81号土坑平面



同 断面



同 土器出土状況（遠景）



同 近景



第82号土坑



第83号土坑



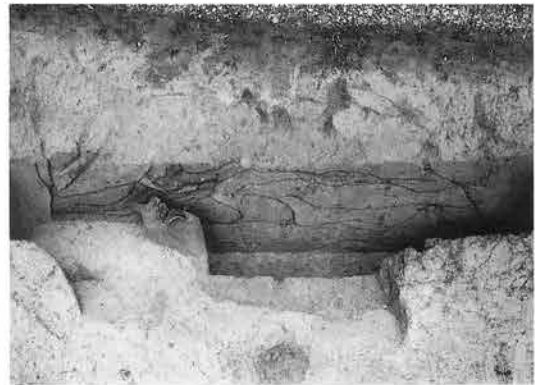
写真図版52 第81号～第83号土坑



第84号土坑



第85号、86号、87号土坑



同 断面



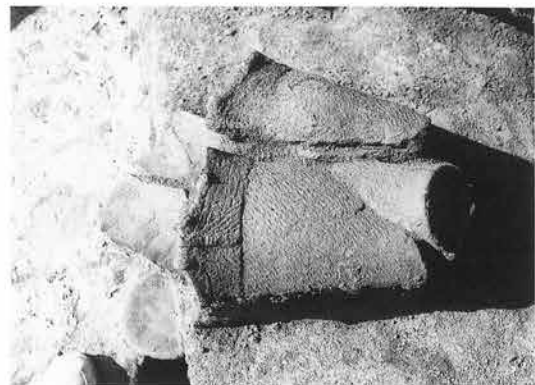
第85号土坑平面



同 断面



同 No. 2、3 土器出土状况 (远景)



同 近景

写真图版53 第84号土坑、第85号~第87号土坑(1)



同 No. 3 土器出土状況（8層上面）



同 No. 4 土器出土状況（6～7層）



同 横から



同 No. 5 土器出土状況（9層）



同 横から



第87号土坑平面



第86号土坑



写真図版54 第85号～第87号土坑(2)



第88号土坑



第89号土坑



第90号土坑平面

同 断面



同 検出状況と第42号焼土



現地説明会

写真図版55 第88号～第90号土坑・第42号焼土



第91号土坑



第92号土坑



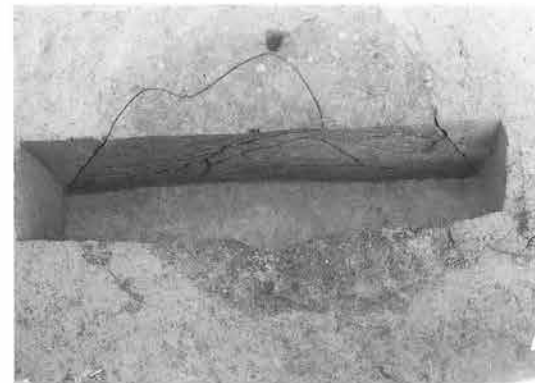
第93号土坑



調査風景（中央部南）



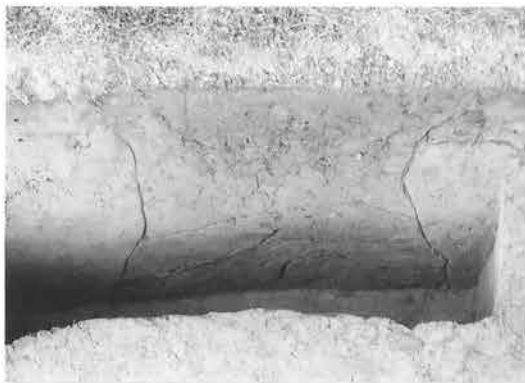
第94号土坑



写真図版56 第91号～第94号土坑



第95号土坑



第96号土坑

調査風景（西部試掘）



第97号土坑



第98号土坑

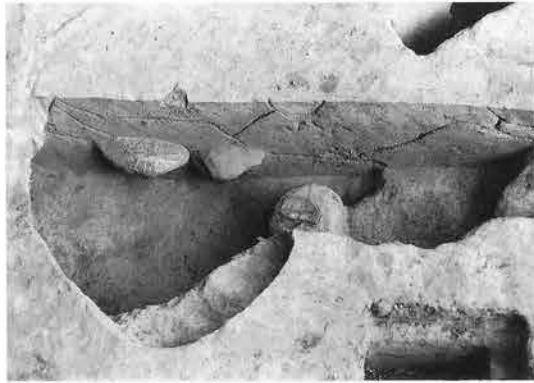
写真図版57 第95号～第98号土坑



第99号土坑



第100号土坑



第101号土坑



第102号土坑

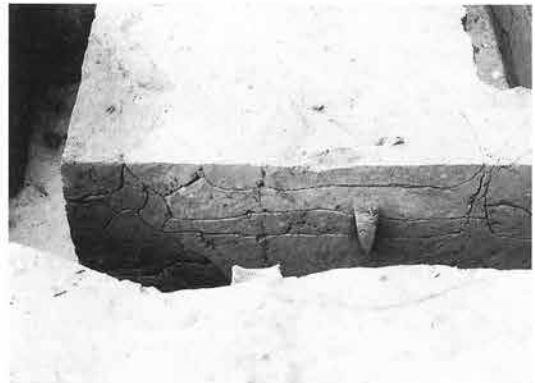
写真图版58 第99号~第102号土坑



第103号土坑



第103号・104号土坑断面



第104号土坑断面



同 平面



同 遺物出土状況（遠景）



同No. 3 ~ 9 土器出土状況



同 横から

写真図版59 第103号、第104号土坑(1)



同 No. 1、2 土器出土状況



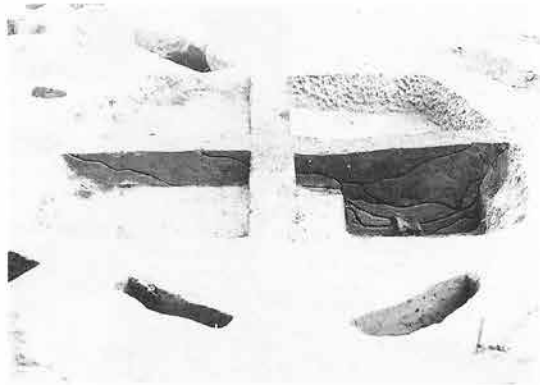
同 横から



第105号土坑平面



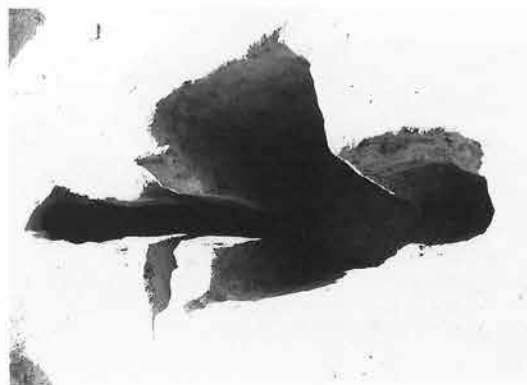
同 断面(1)



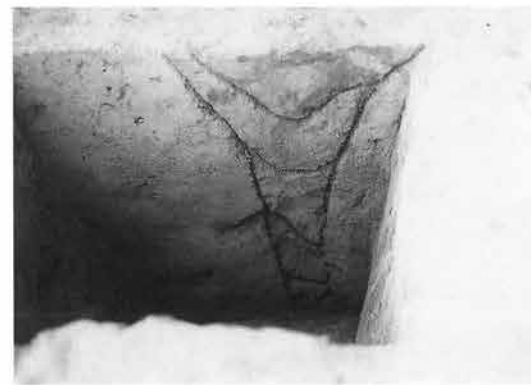
同 断面(2)



第25号土坑15層上面土器出土状況



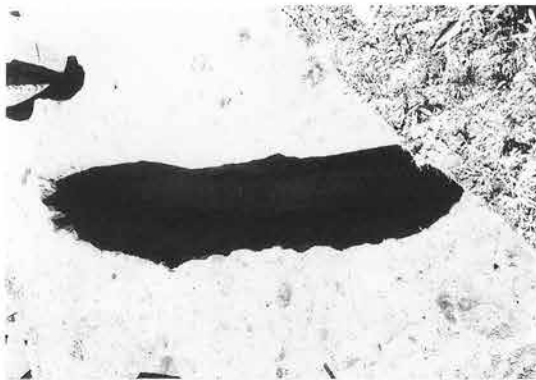
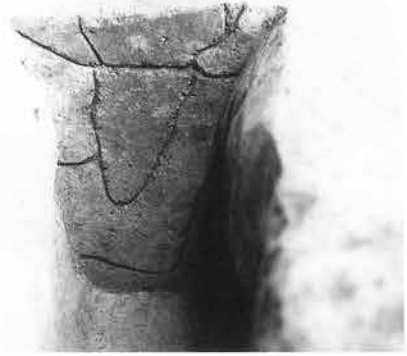
第1号陥し穴状遺構



写真図版60 第103号、第104号土坑(2)、第105号土坑・第1号陥し穴状遺構



第2号陥し穴状遺構



第3号陥し穴状遺構



第4号陥し穴状遺構



第5号陥し穴状遺構平面



同 断面(1)

写真図版61 第2号～第5号陥し穴状遺構(1)



同 断面(2)



遺跡周辺の地形



第6号陥し穴状遺構



第7号陥し穴状遺構

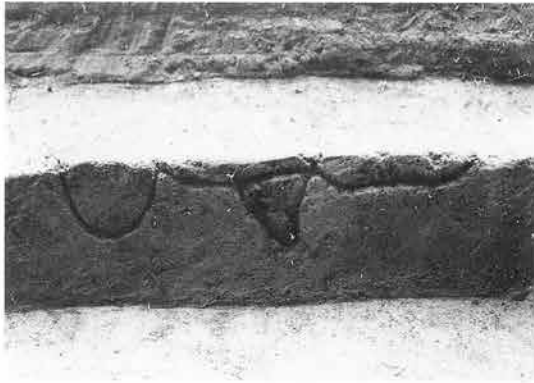


第1号～第5号焼土平面



第1号焼土断面

写真図版62 第5号陥し穴状遺構(2)～第7号陥し穴状遺構・第1号～第5号焼土(1)



第2号烧土断面



第3号烧土断面



第4号烧土断面



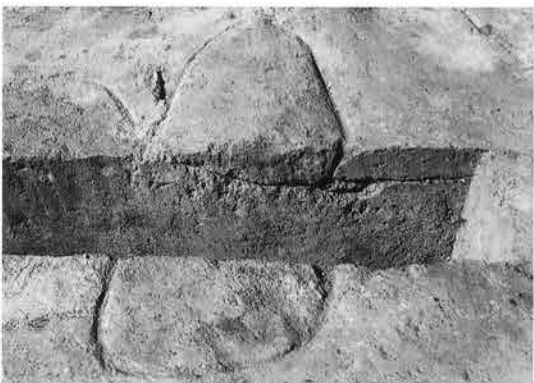
第5号烧土断面



第6号~第10号烧土平面



第6号烧土断面



第7号烧土断面



第8号烧土断面

写真图版63 第2号~第5号烧土(2)、第6号~10号烧土(1)



第9号烧土断面



第10号烧土断面



第11号~第14号烧土平面



第11号烧土断面



第12号烧土断面



第13号烧土平面



第15号~第20号烧土平面



第15号烧土断面

写真图版64 第6号~第10号烧土(2)、第11号~第14号烧土、第15号~第20号烧土(1)



第16号烧土断面



第17号烧土断面



第18号烧土断面



第19号烧土断面



第20号烧土断面



調査風景（西部～中央部）



第22号烧土



写真図版65 第15号～第20号烧土(2)、第22号烧土



第23号烧土



第24号烧土



第25号烧土



第26号烧土

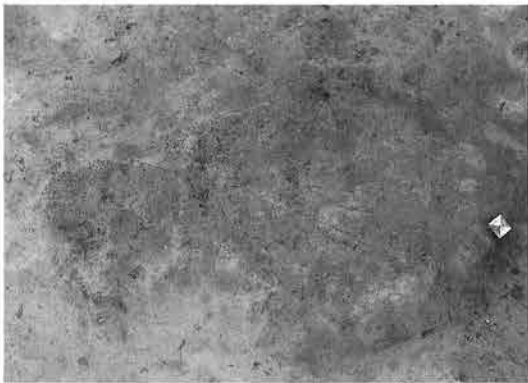
写真図版66 第23号～第26号烧土



第27号烧土、第28号烧土



第29号烧土



第30号烧土



第31号烧土

写真図版67 第27号～第31号烧土



第32号烧土



第33号烧土



第34号烧土



第35号烧土

写真図版68 第32号～第35号烧土



第36号烧土



第37号烧土



第38号烧土



第39号烧土

写真図版69 第36号～第39号烧土



第40号焼土



初年度南側調査区



初年度中央部西側調査区



プレハブから西を望む



中央部から南西を望む



中央部から北側を望む

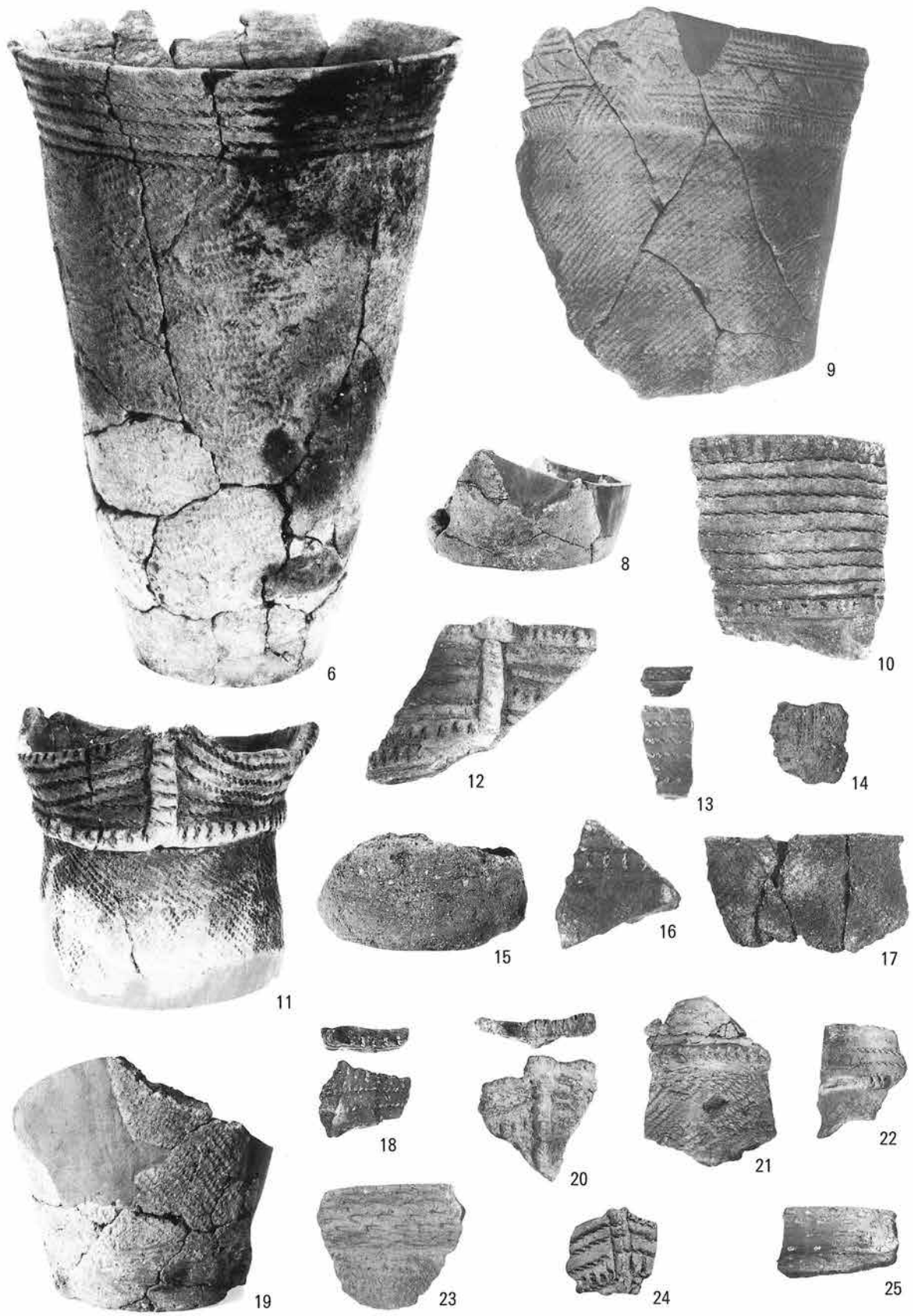


中央部から南を望む

写真図版70 第40号焼土・調査区および周辺の地形



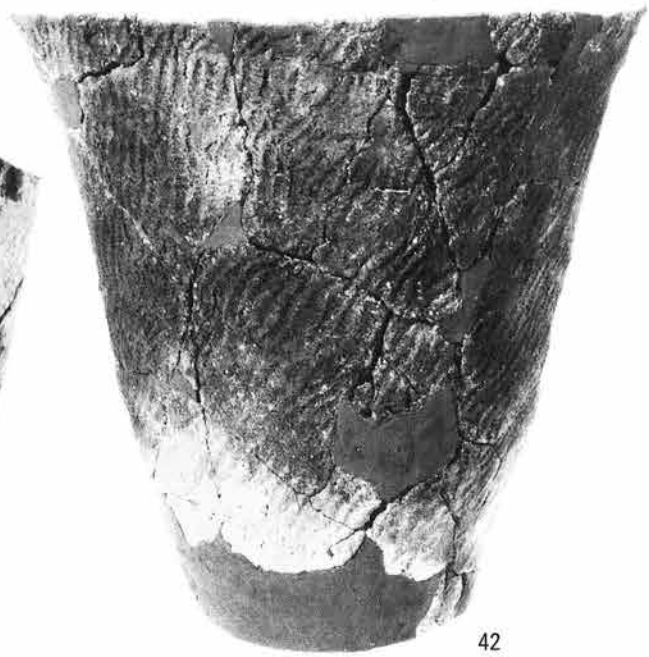
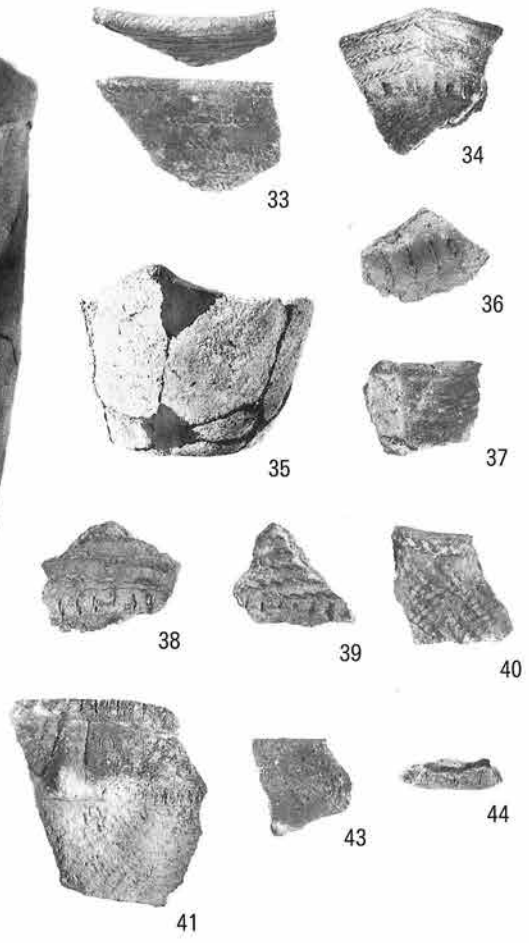
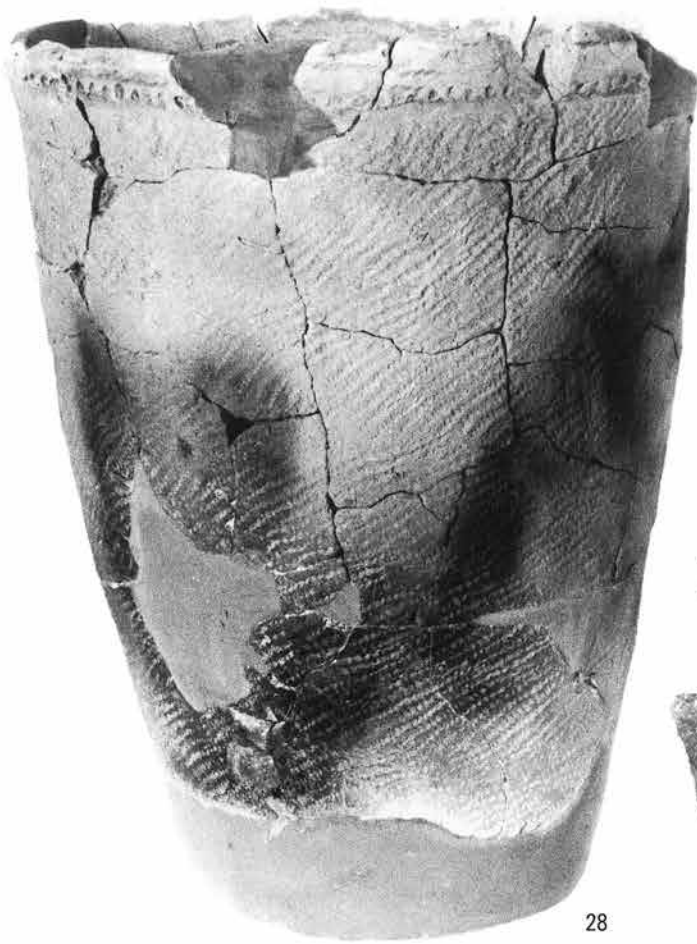
写真図版71 縄文土器(1) (S=1/3)



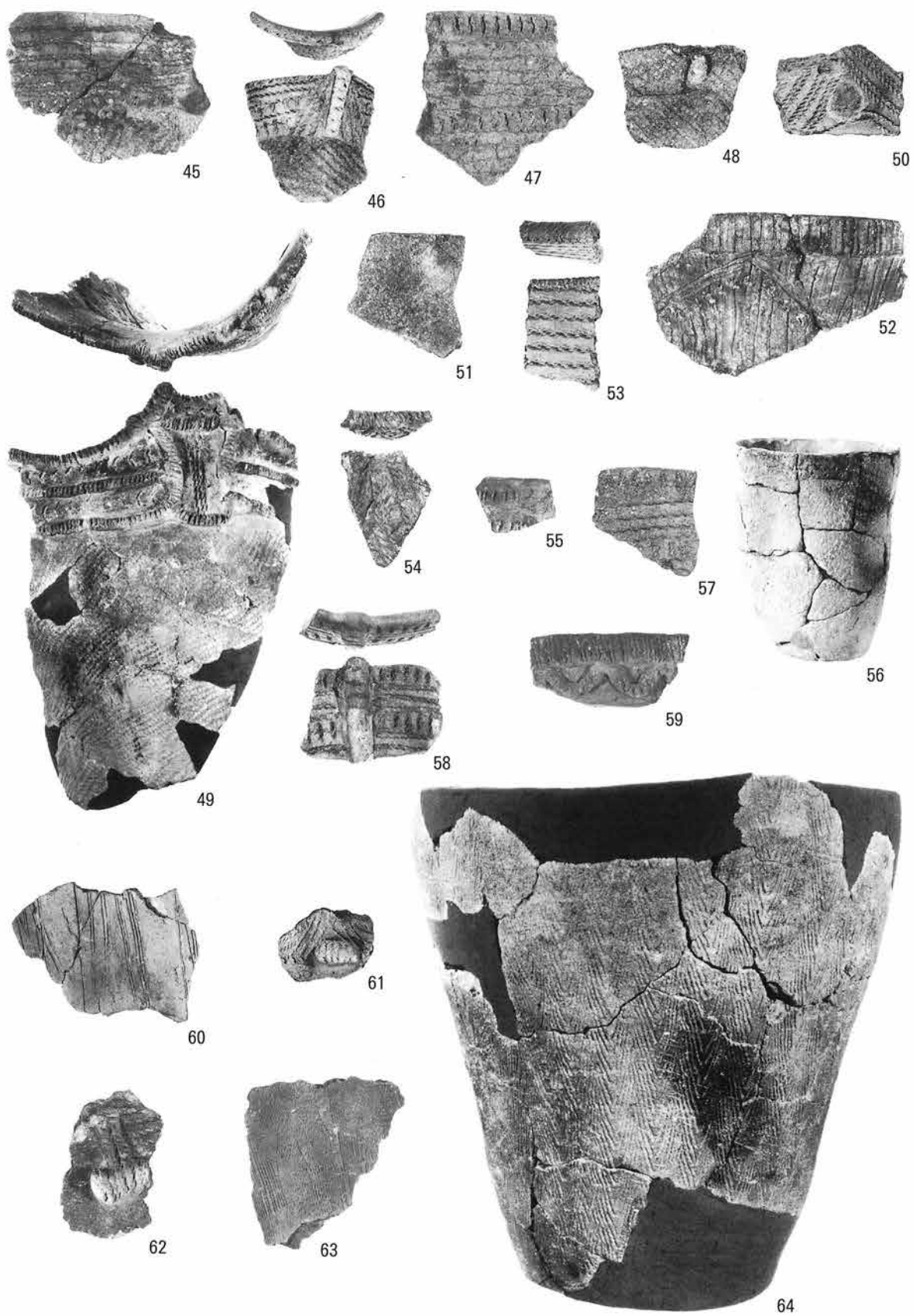
写真図版72 縄文土器(2) (S=1/3)



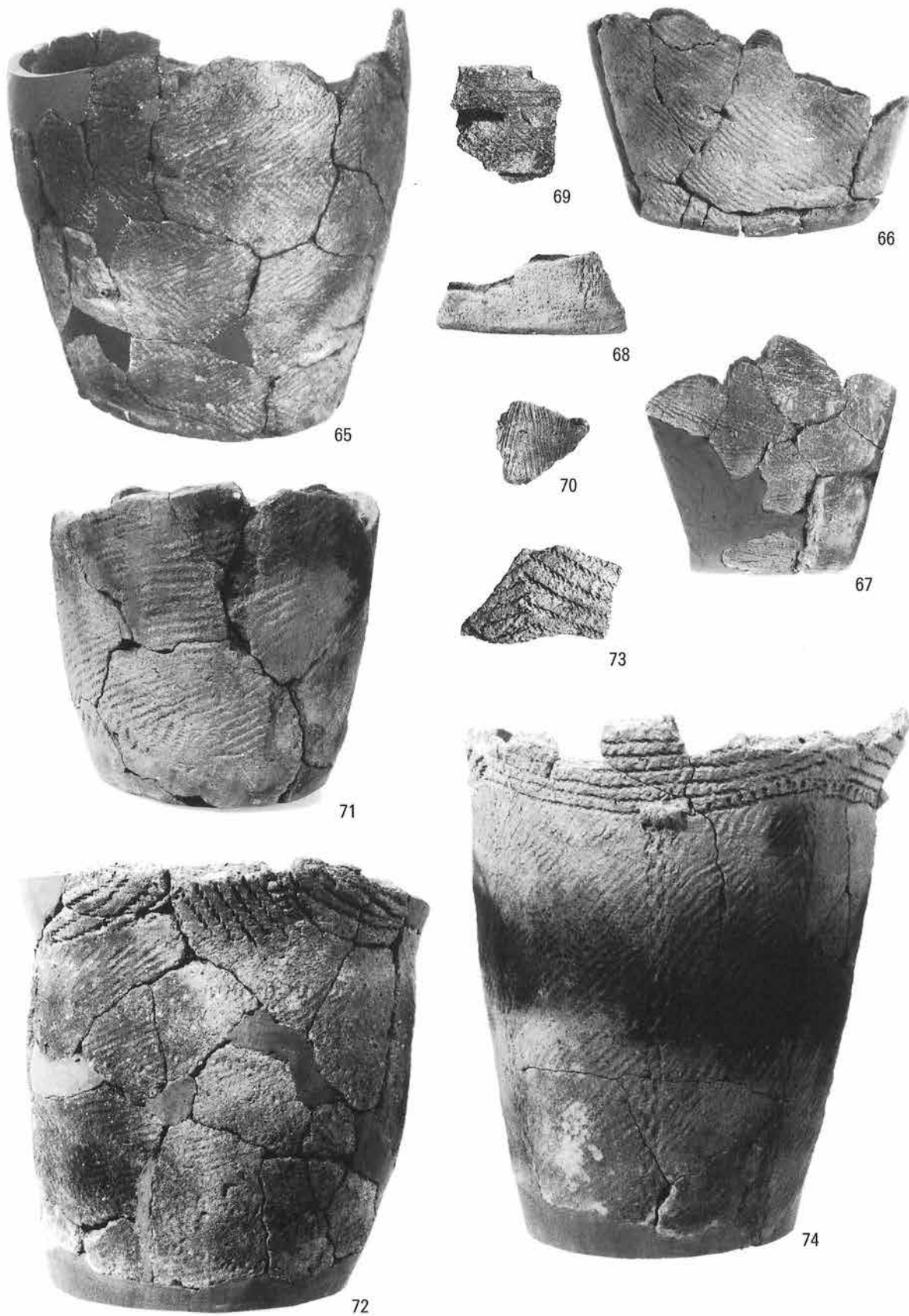
写真図版73 縄文土器(3) (S=1/3)



写真図版74 縄文土器(4) (S=1/3)



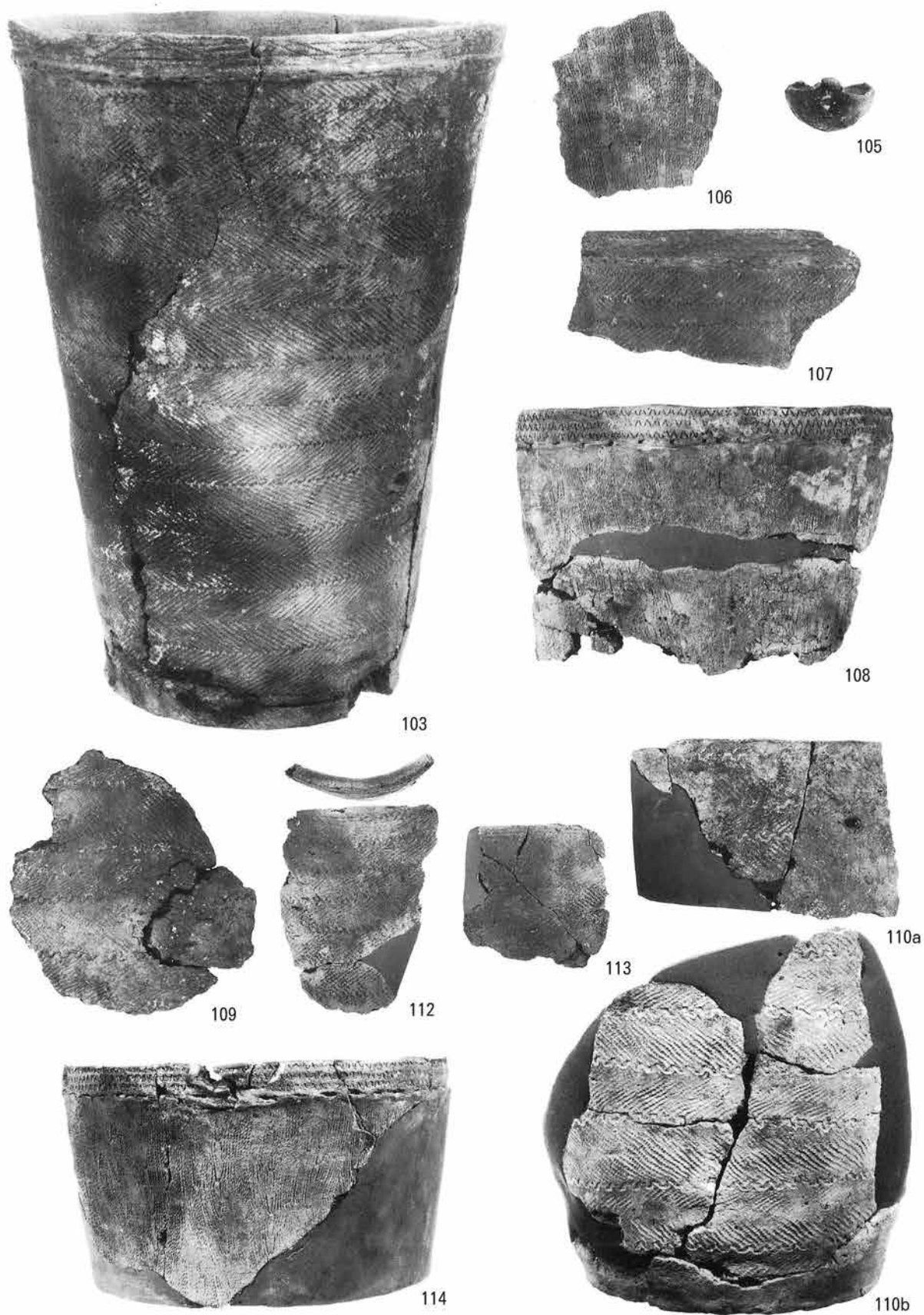
写真図版75 縄文土器(5) (S=1/3)



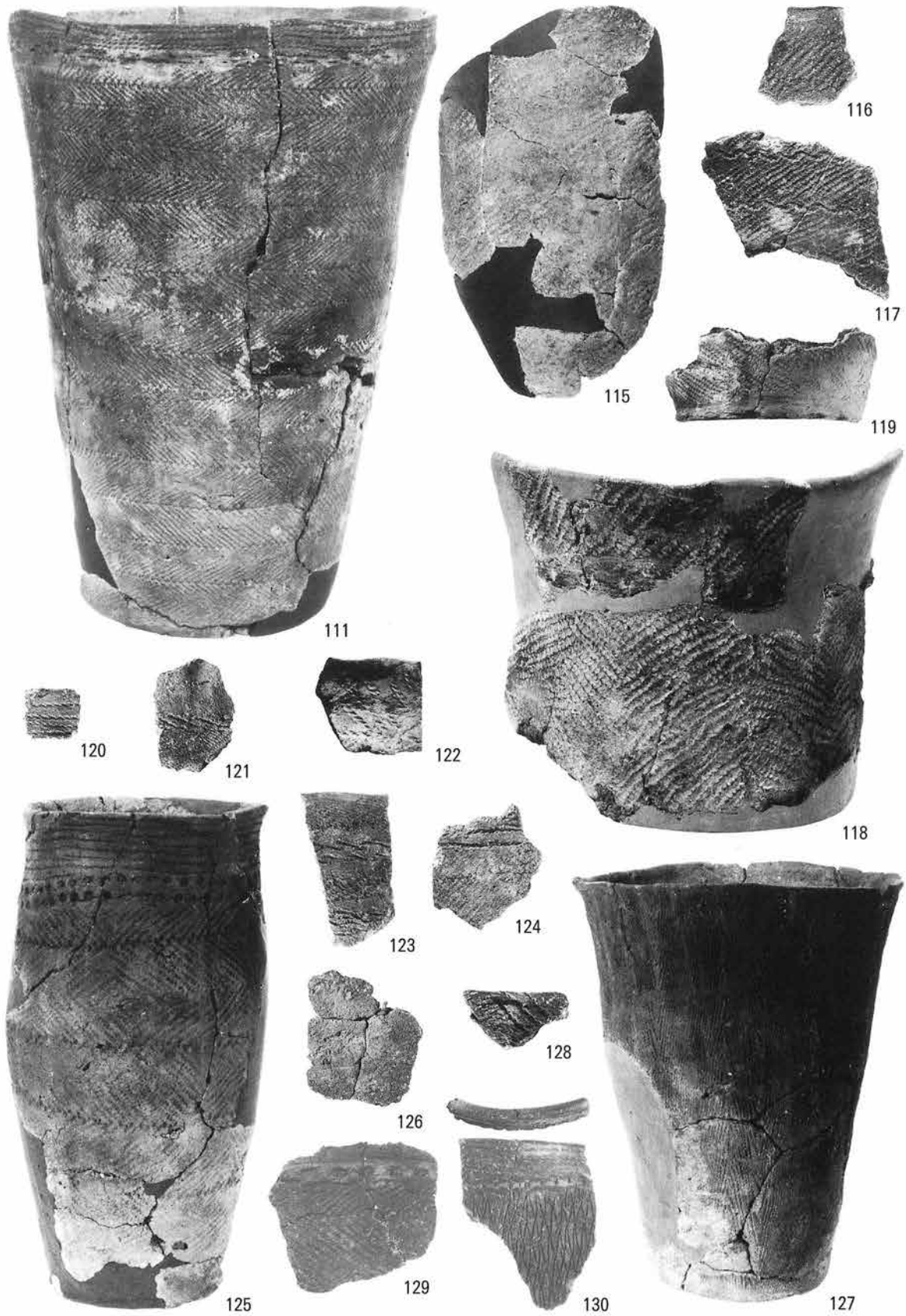
写真図版76 縄文土器(6) (S=1/3)



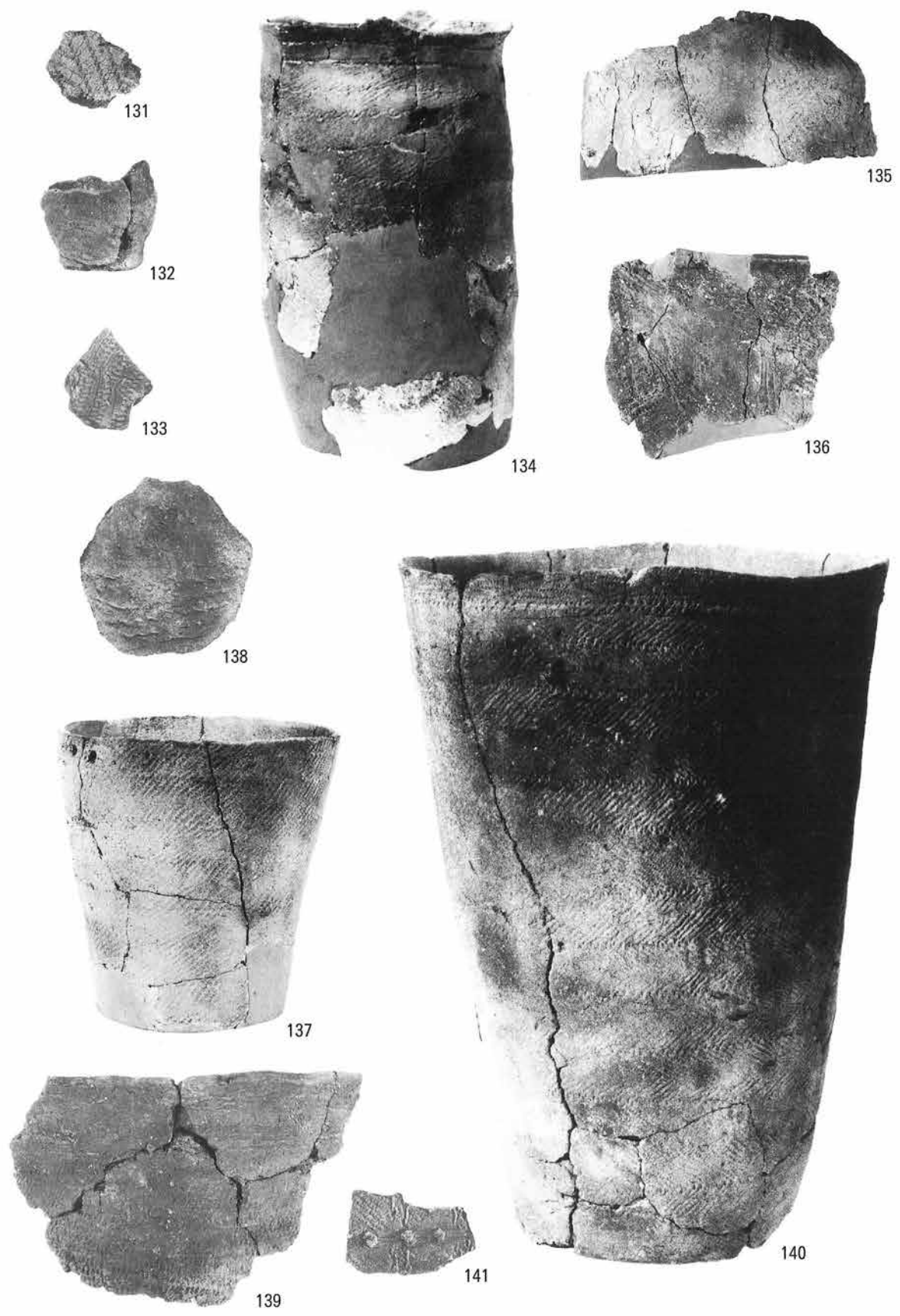
写真図版77 縄文土器(7) (S=1/3)



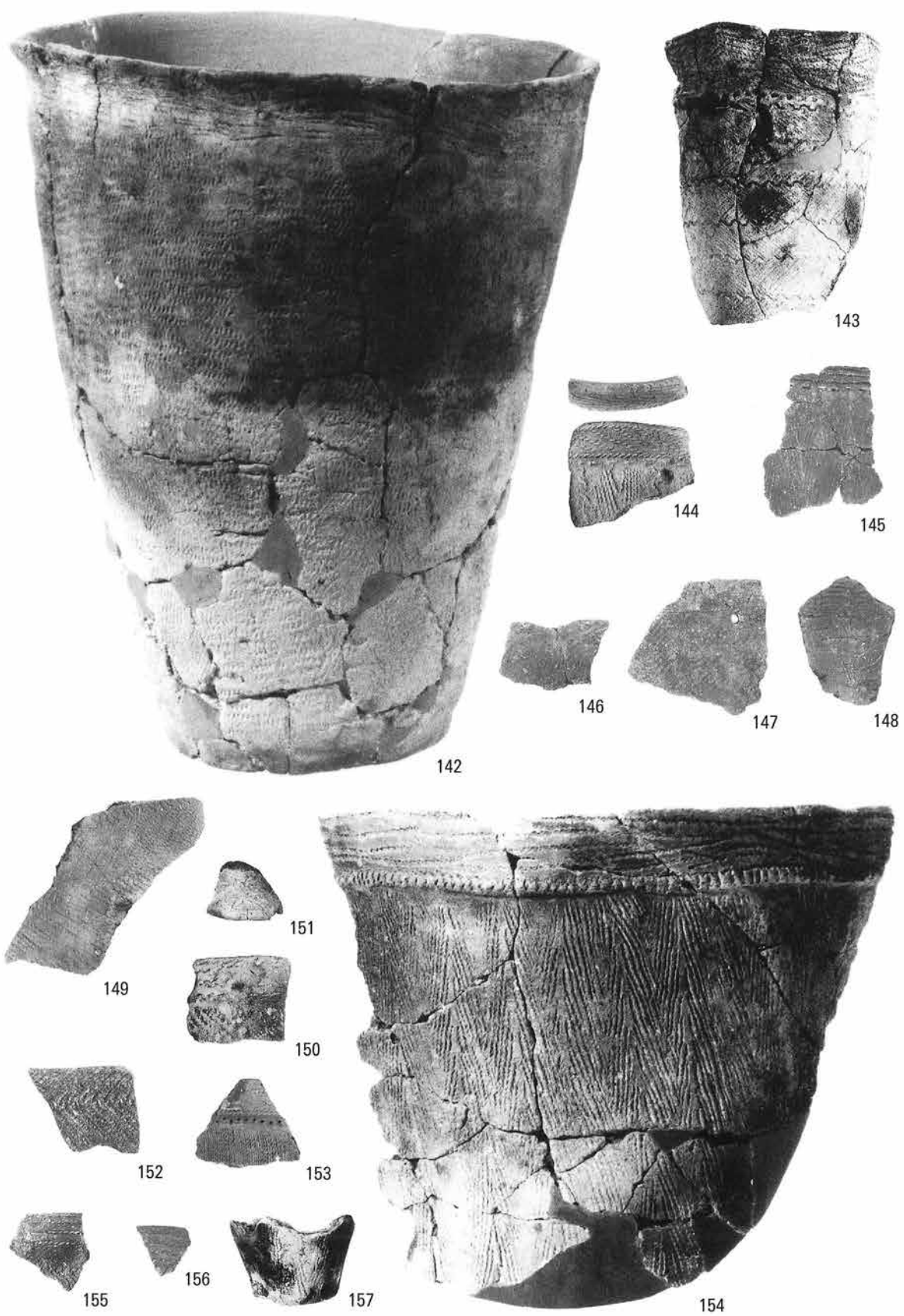
写真図版78 縄文土器(8) (S=1/3)



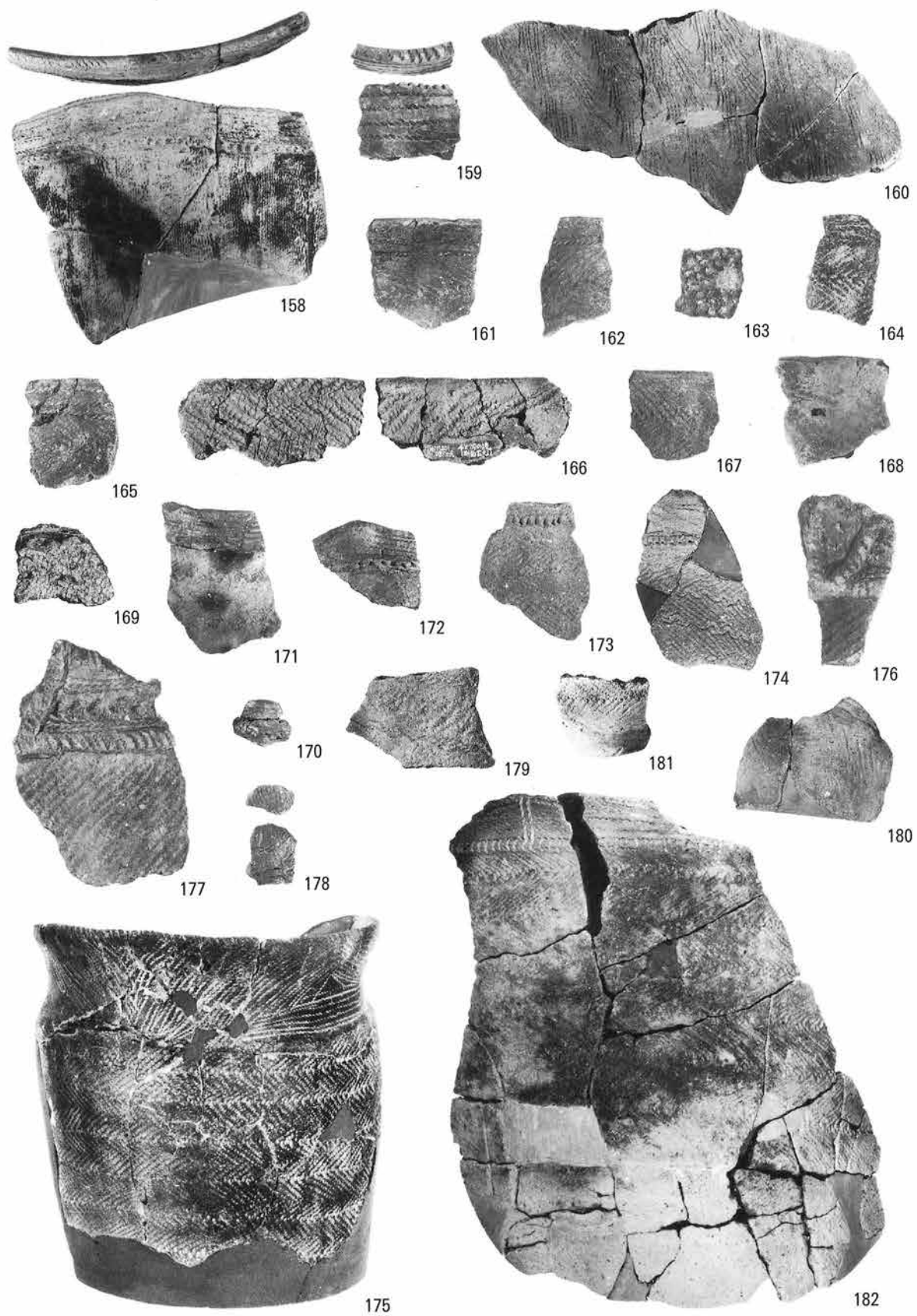
写真図版79 縄文土器(9) (S=1/3)



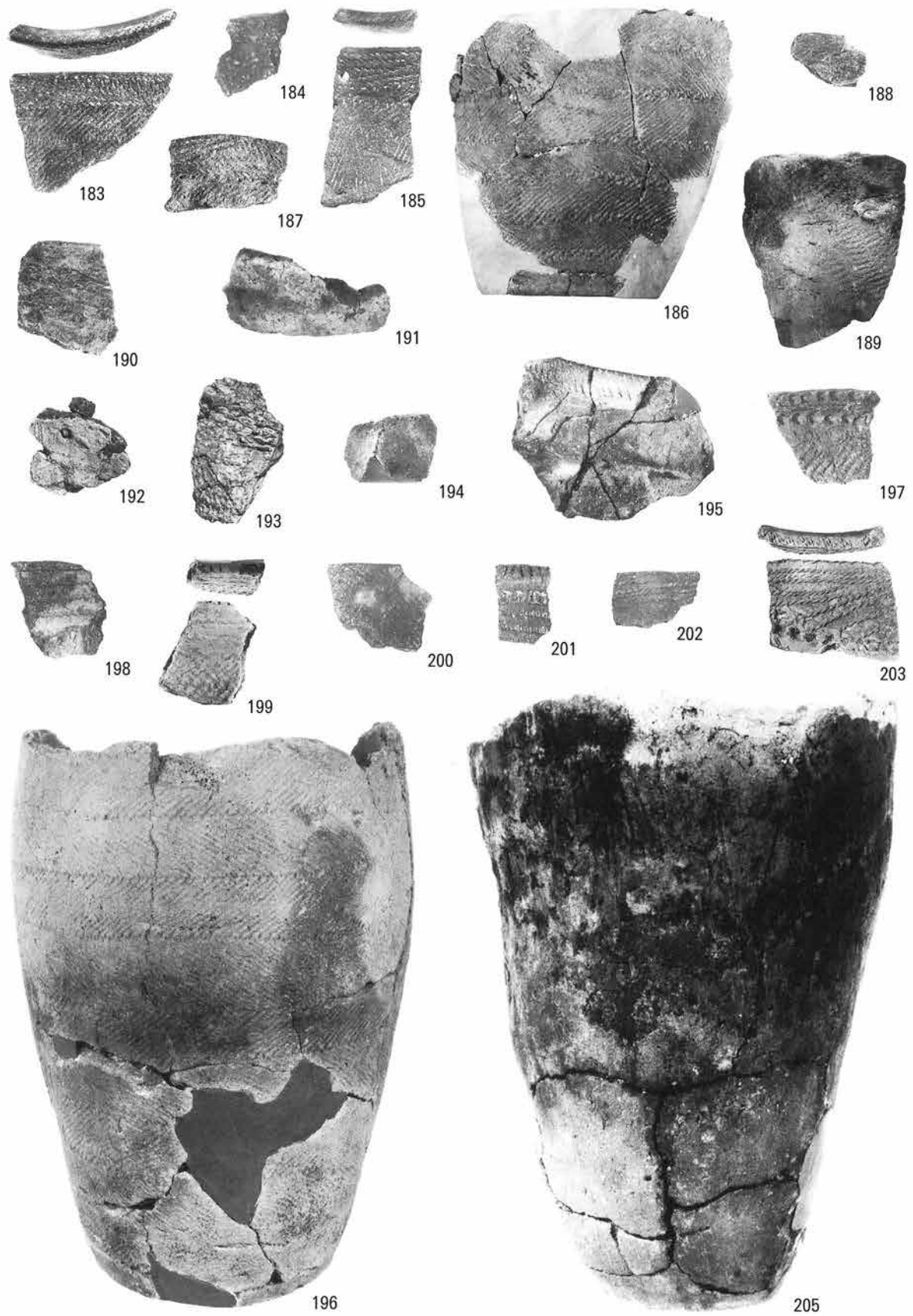
写真図版80 縄文土器(10) (S=1/3)



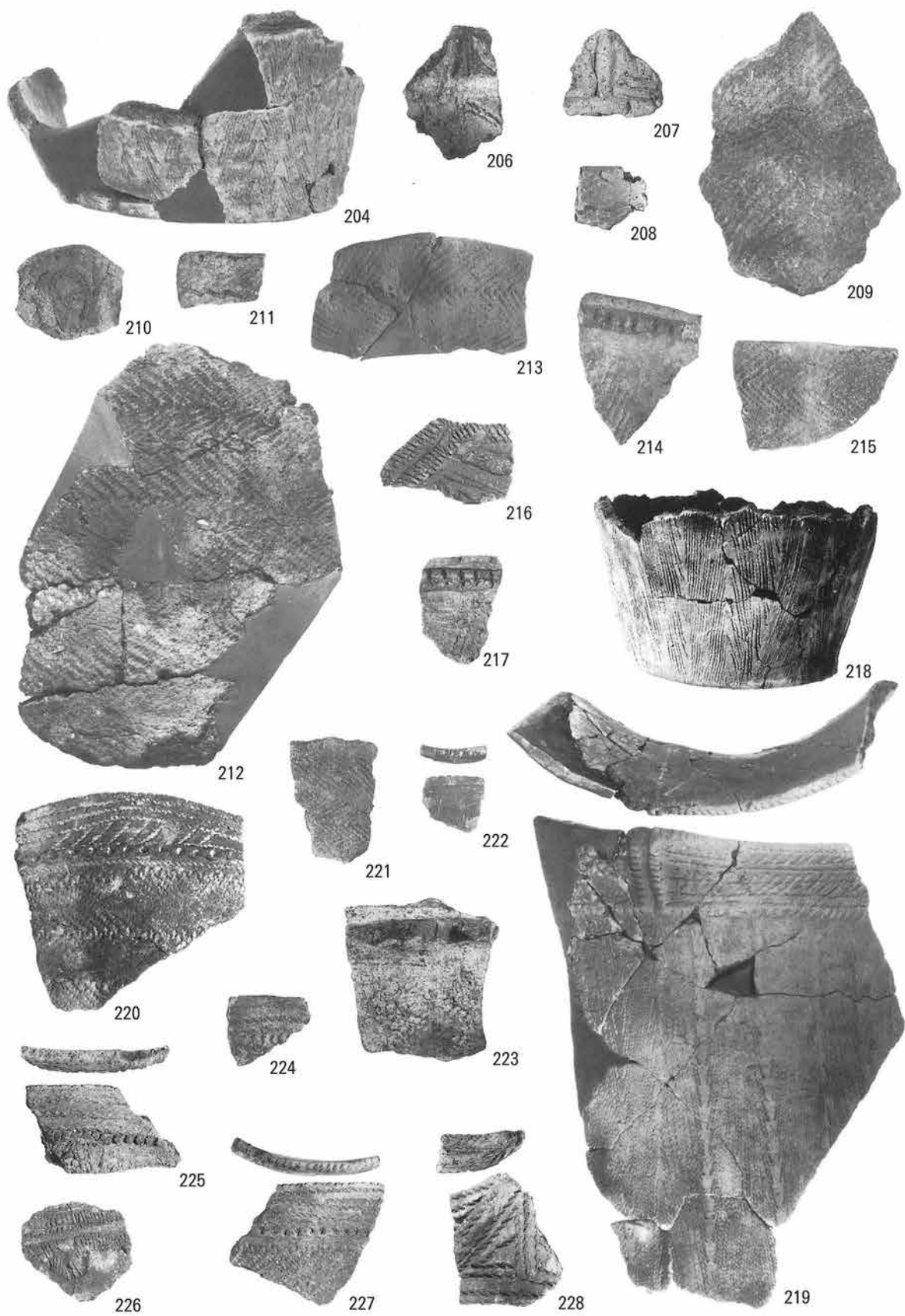
写真図版81 縄文土器(11) (S=1/3)



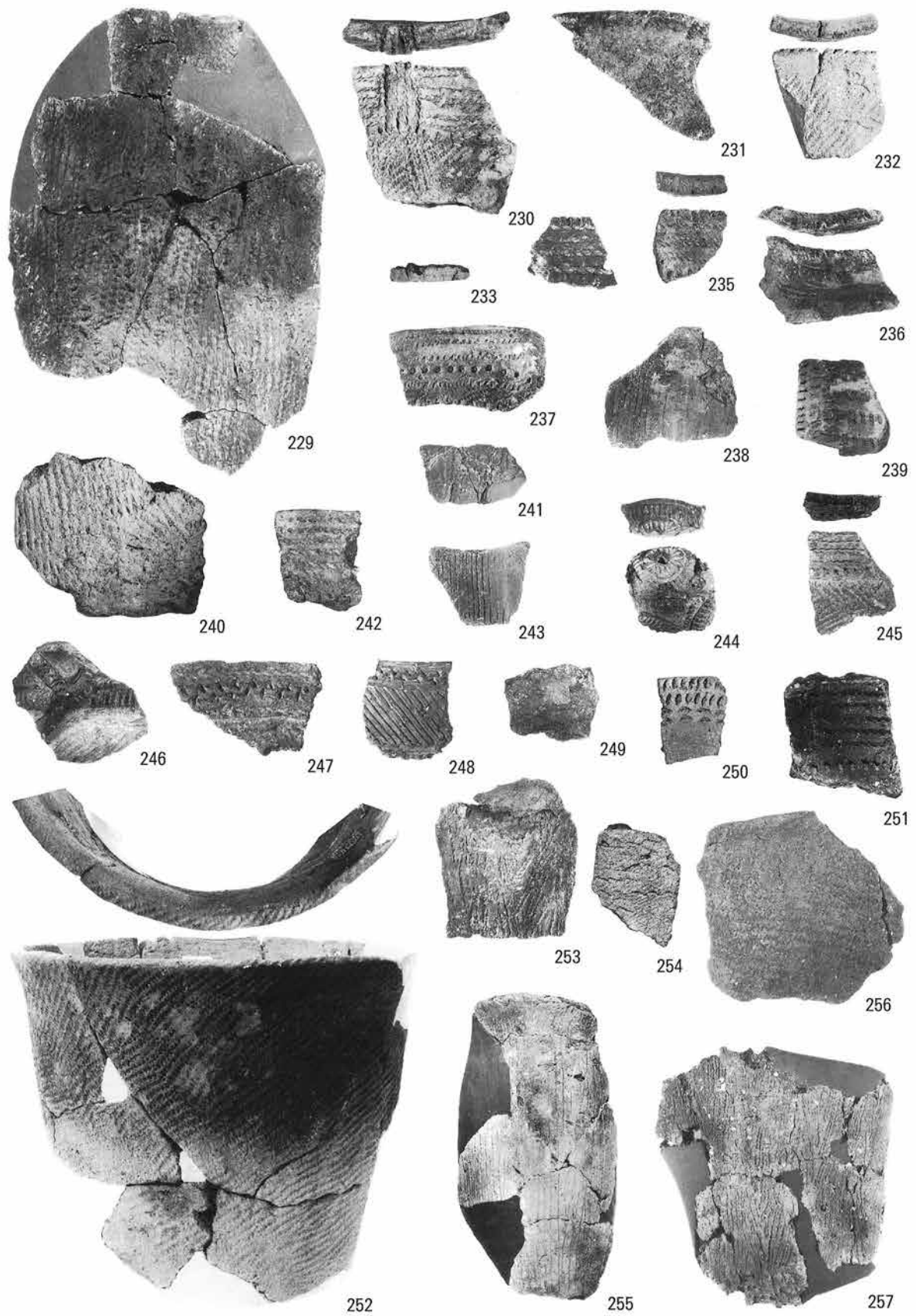
写真図版82 縄文土器(12) (S=1/3)



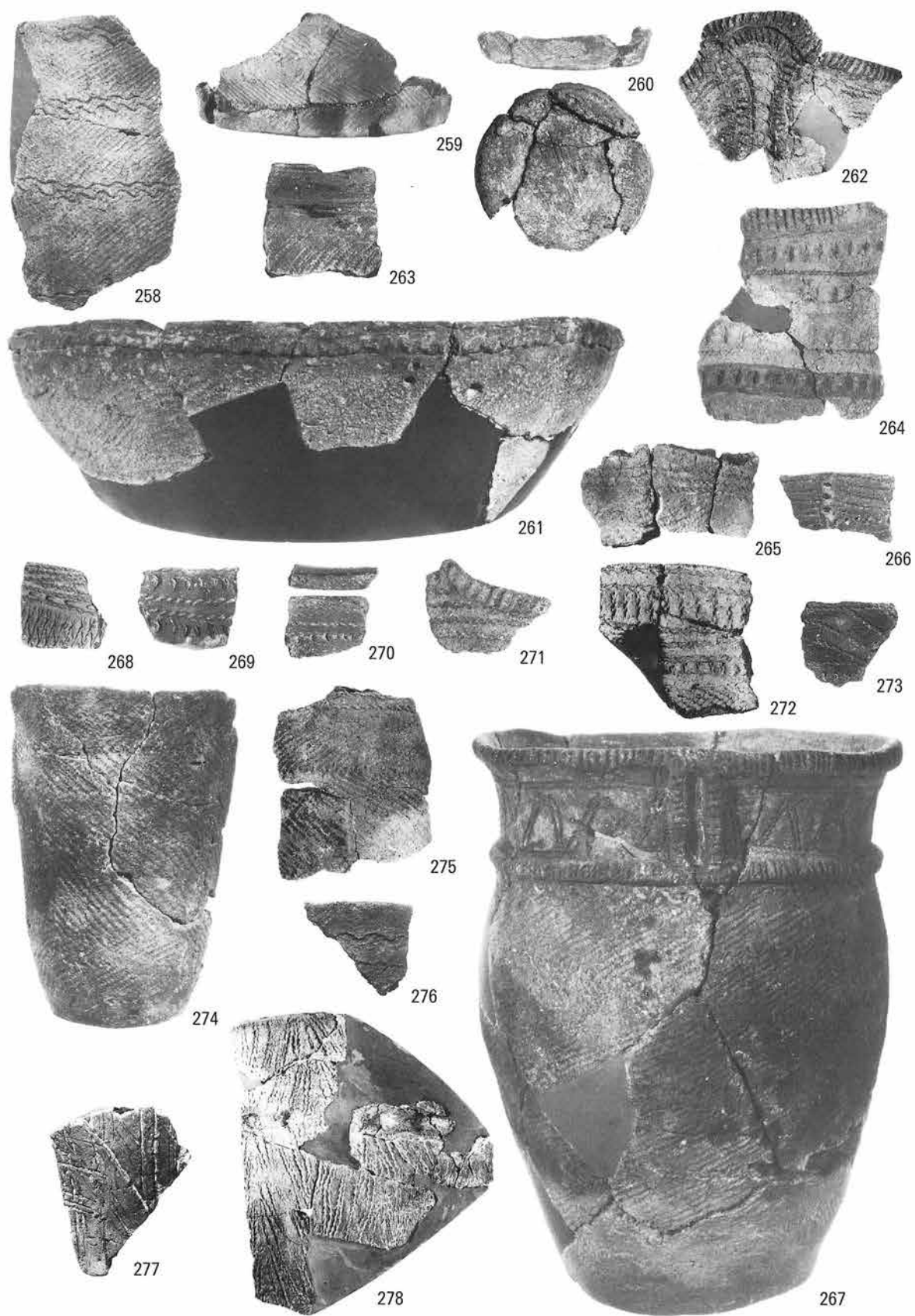
写真図版83 縄文土器(13) (S=1/3)



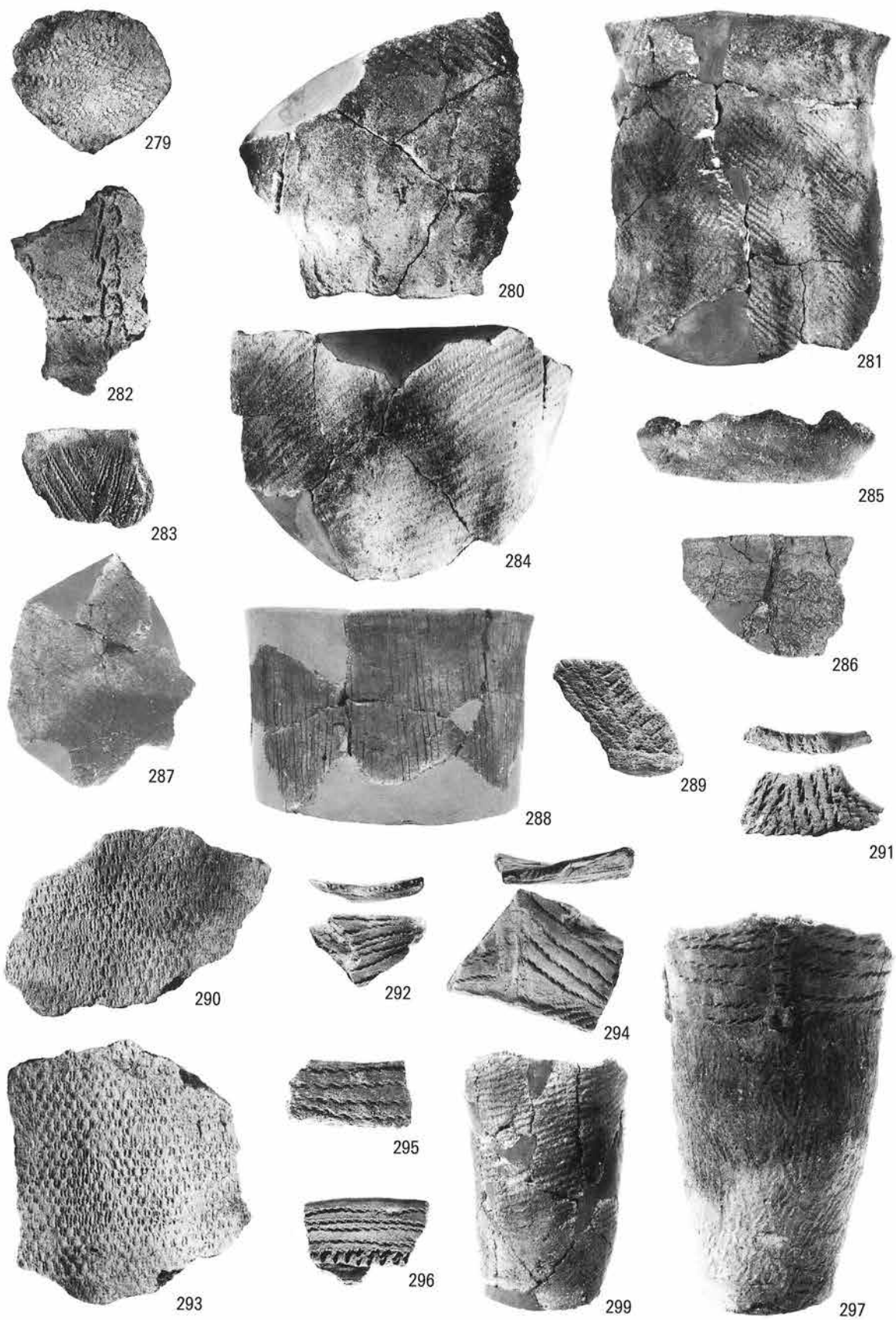
写真図版84 縄文土器(14) (S=1/3)



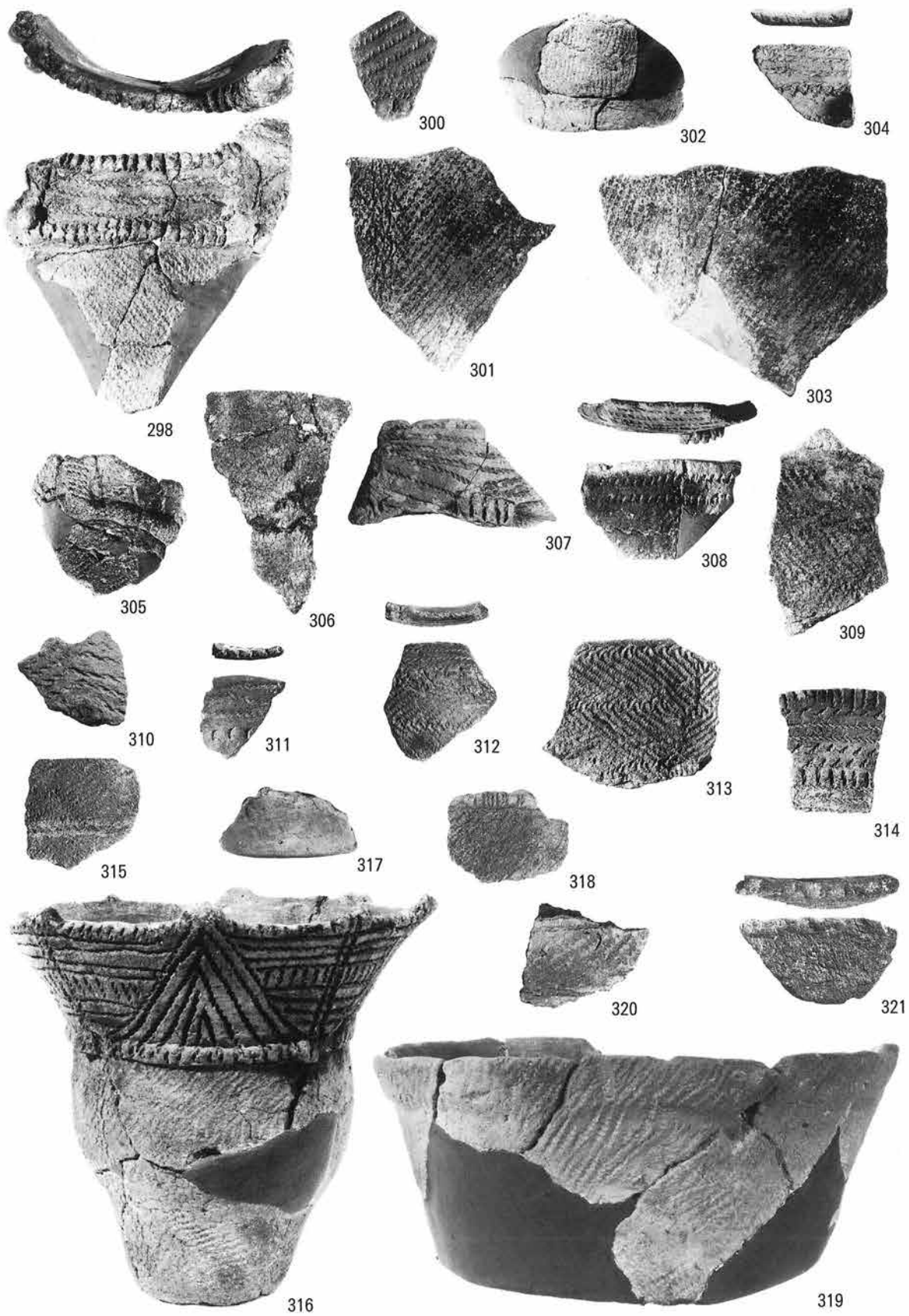
写真図版85 縄文土器(15) (S=1/3)



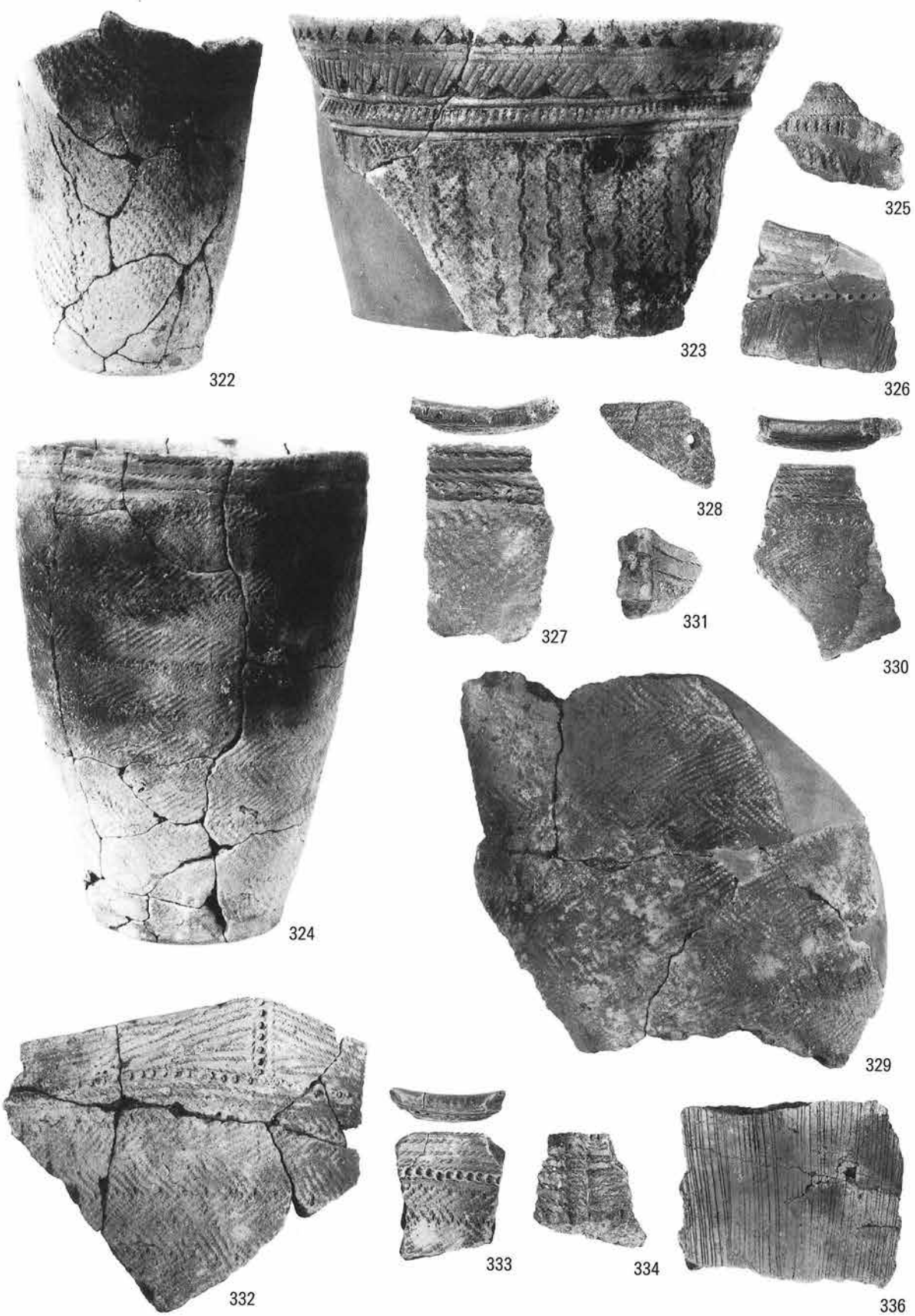
写真図版86 縄文土器(16) (S=1/3)



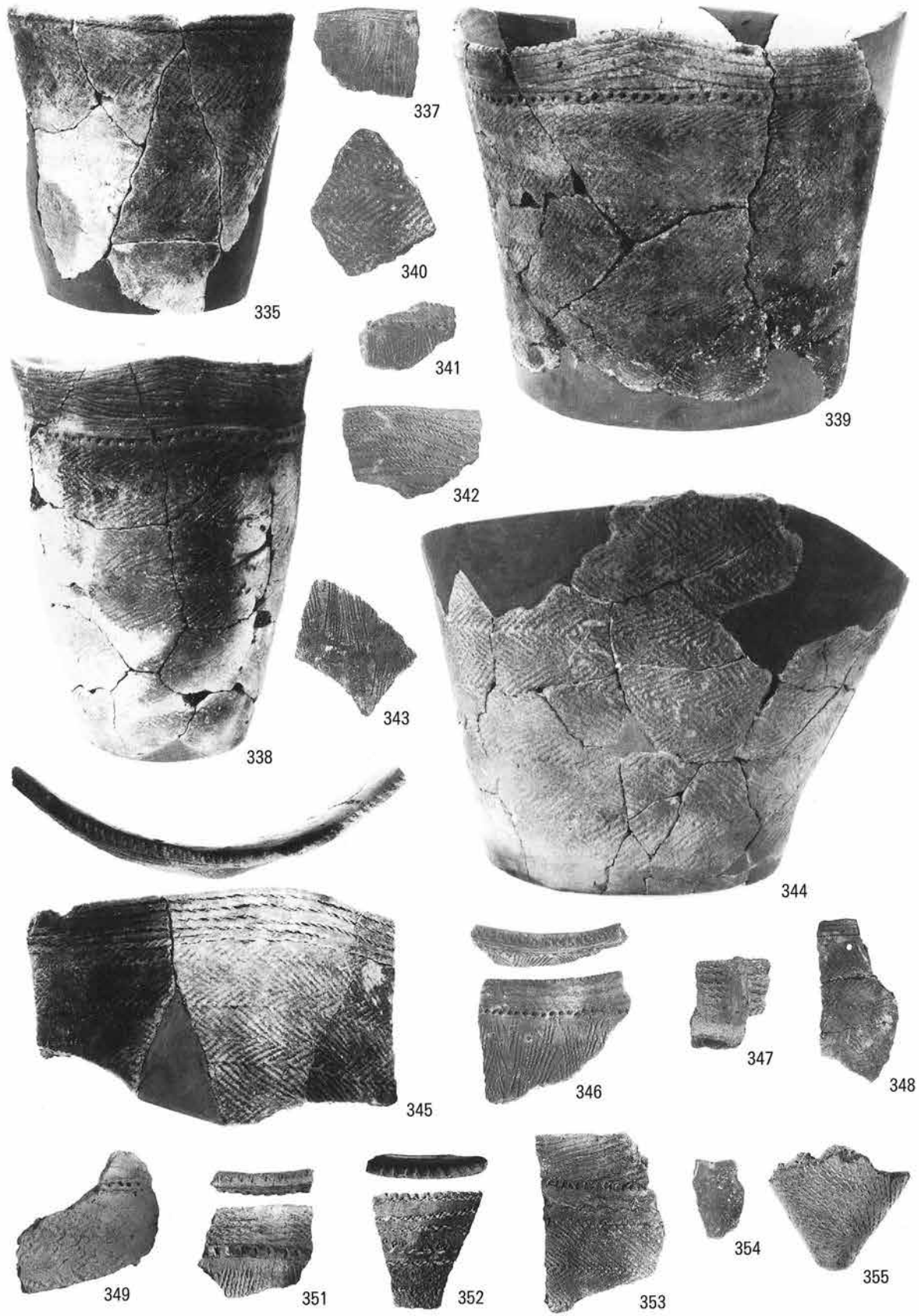
写真図版87 縄文土器(17) (S=1/3)



写真図版88 縄文土器(18) (S=1/3)



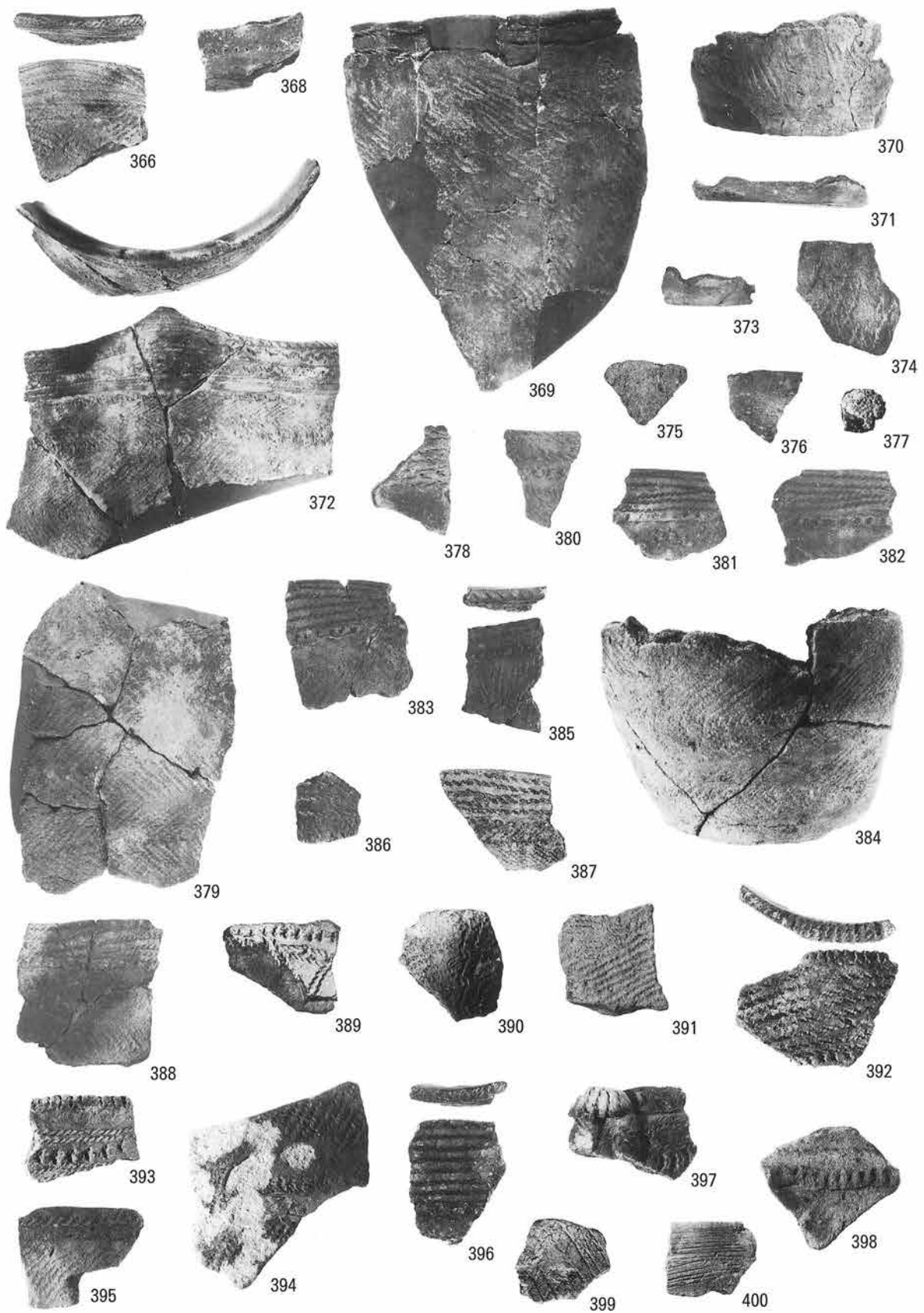
写真図版89 縄文土器(19) (S=1/3)



写真図版90 縄文土器(20) (S=1/3)



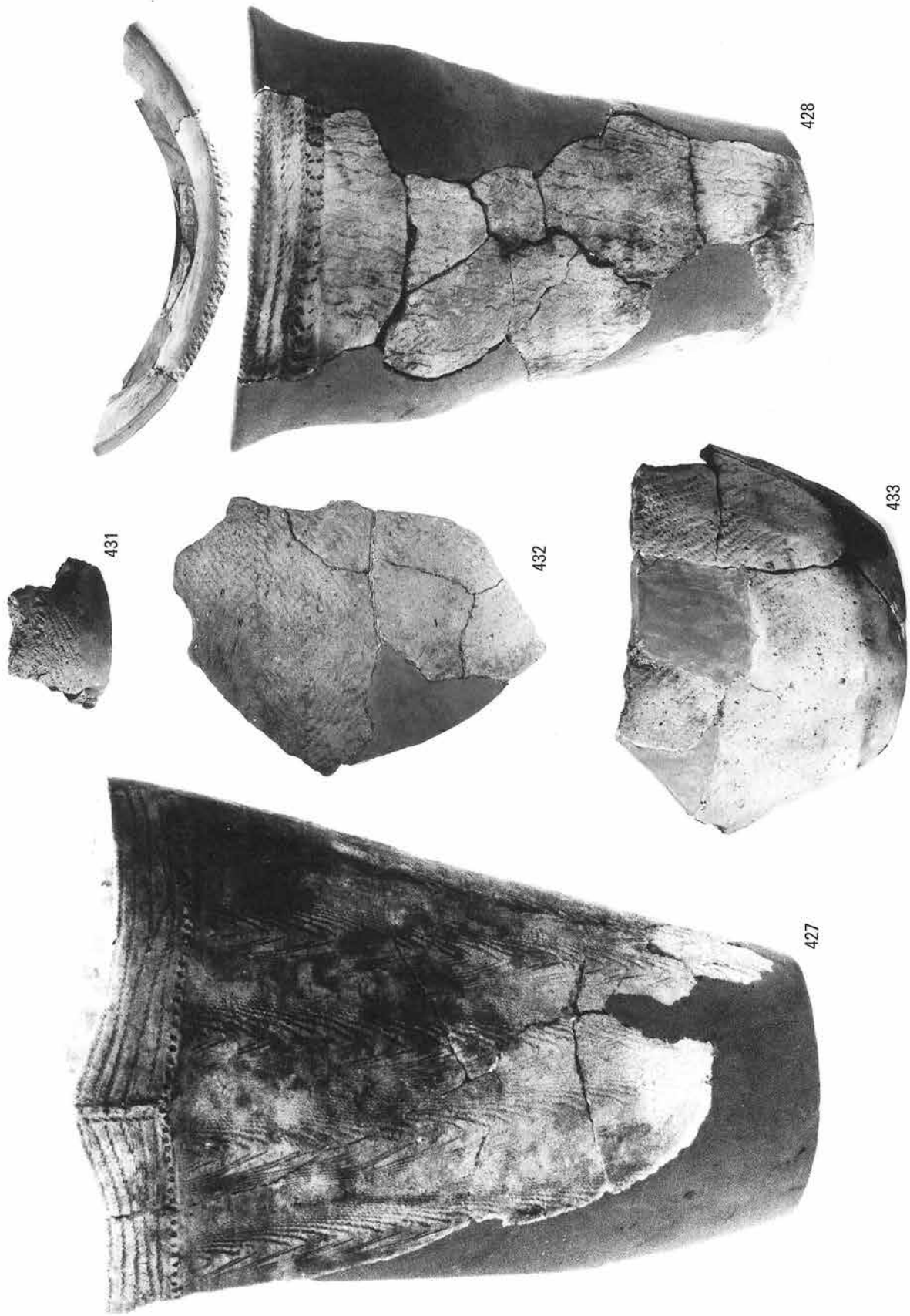
写真図版91 縄文土器(21) (S=1/3)



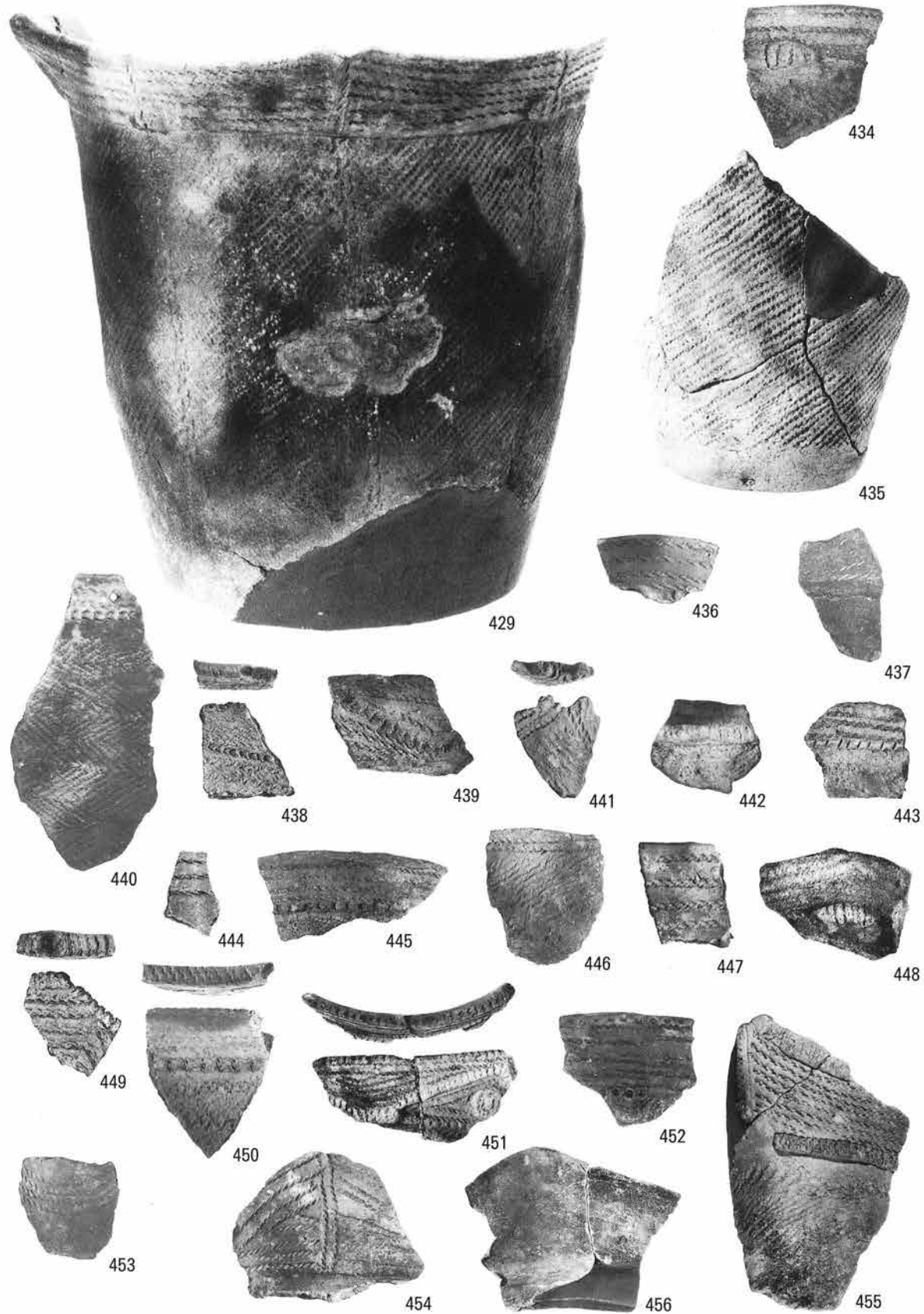
写真図版92 縄文土器(22) (S=1/3)



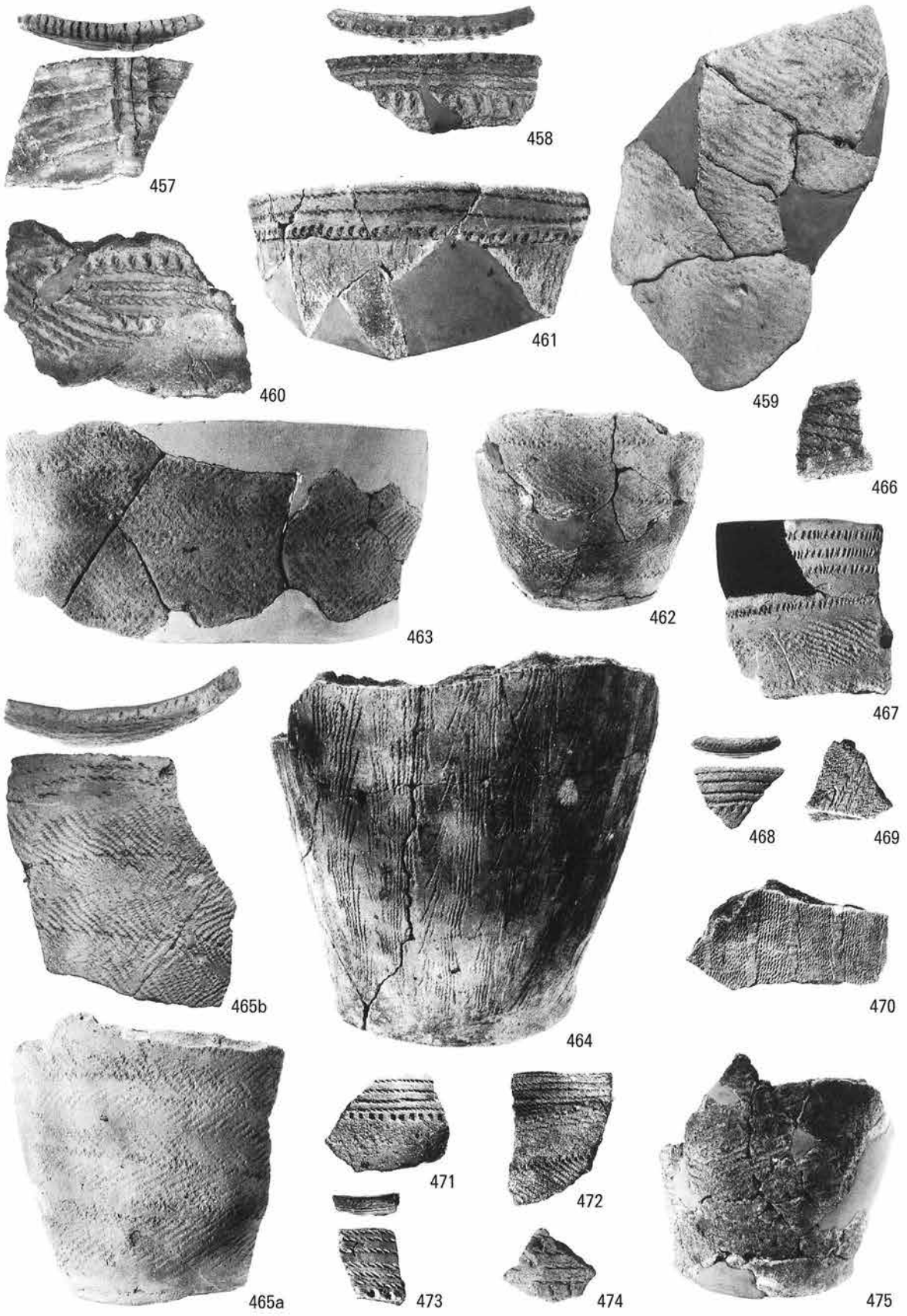
写真図版93 縄文土器(23) (S=1/3)



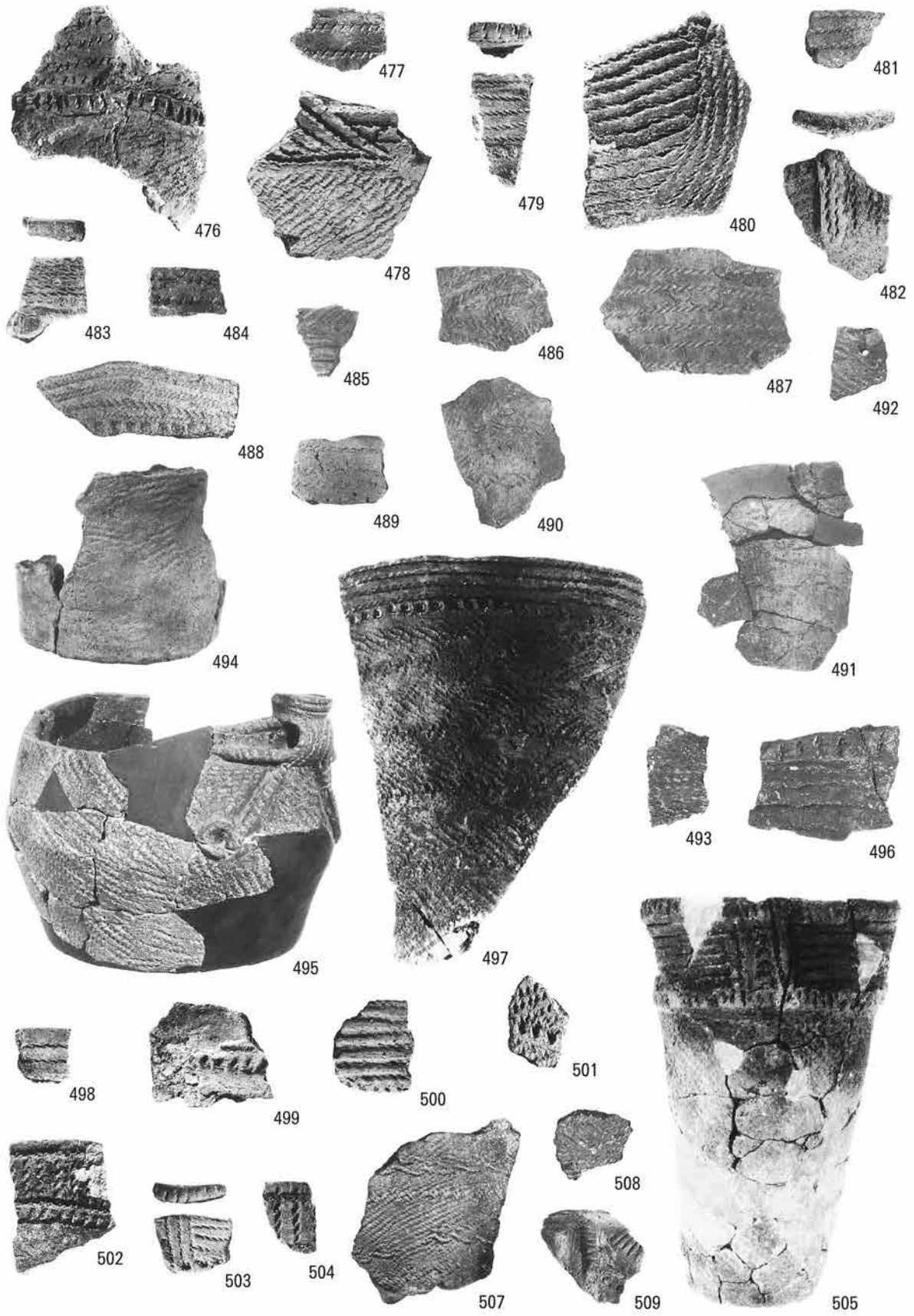
写真図版94 縄文土器(24) (S=1/3)



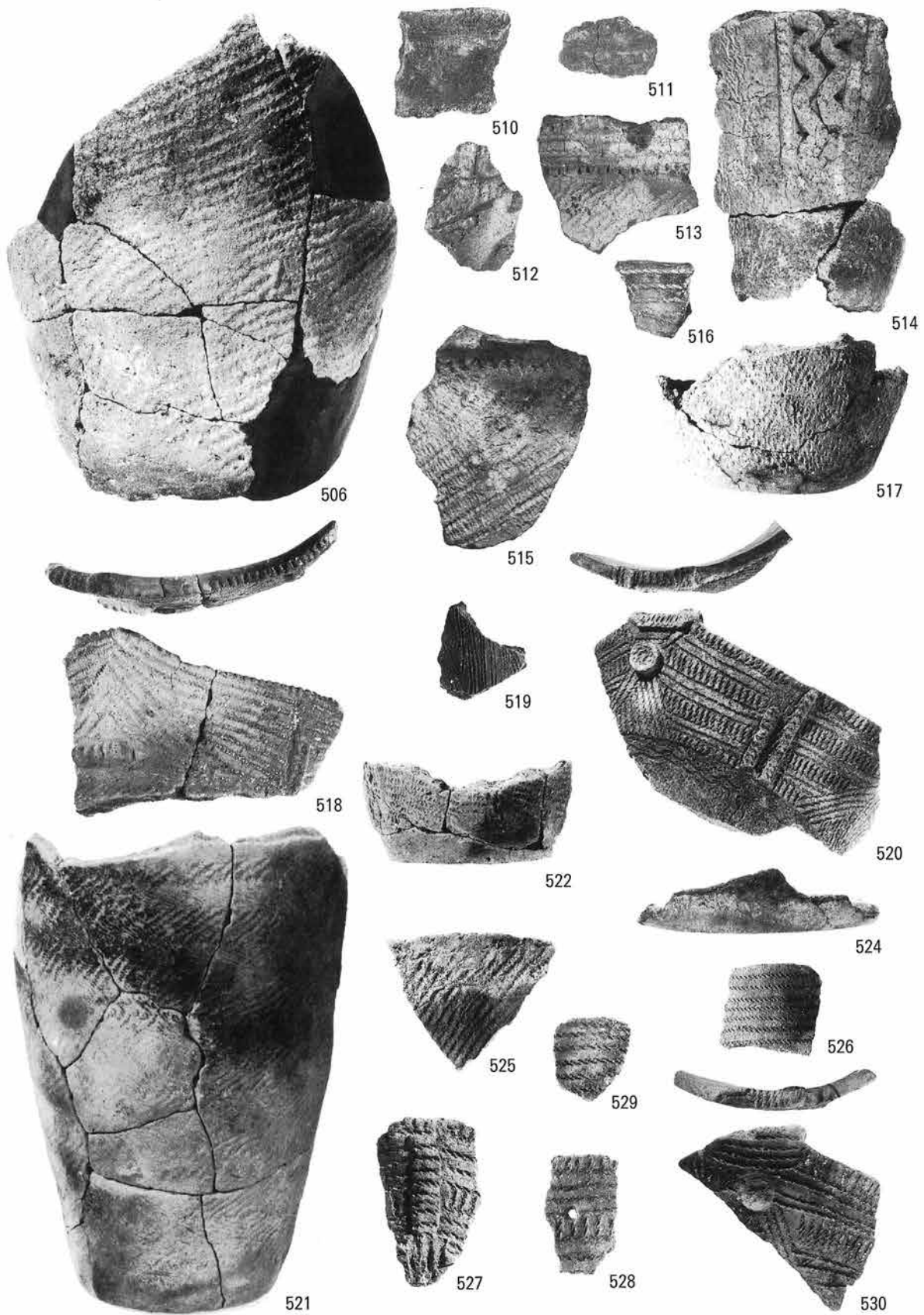
写真図版95 縄文土器(25) (S=1/3)



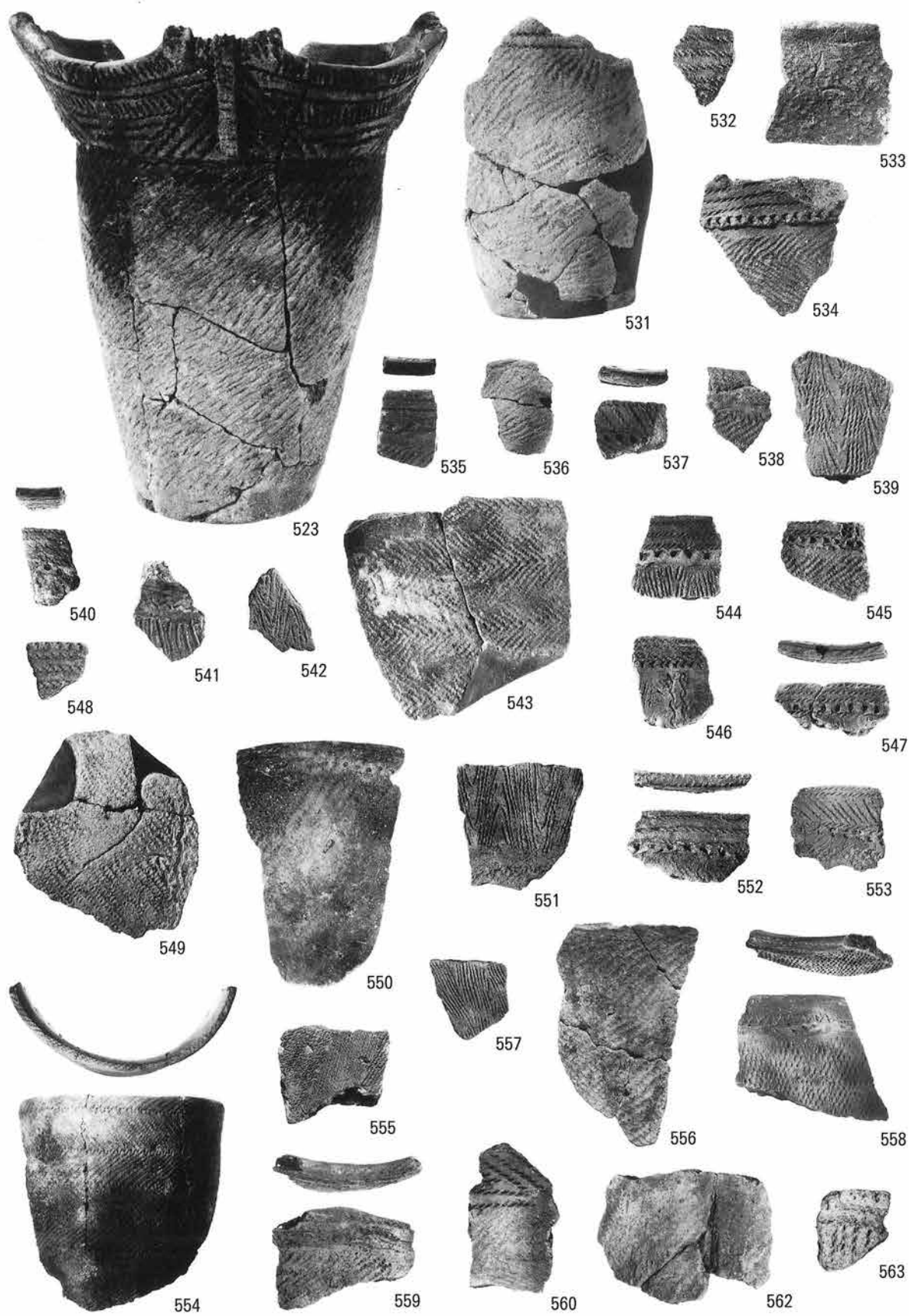
写真図版96 縄文土器(26) (S=1/3)



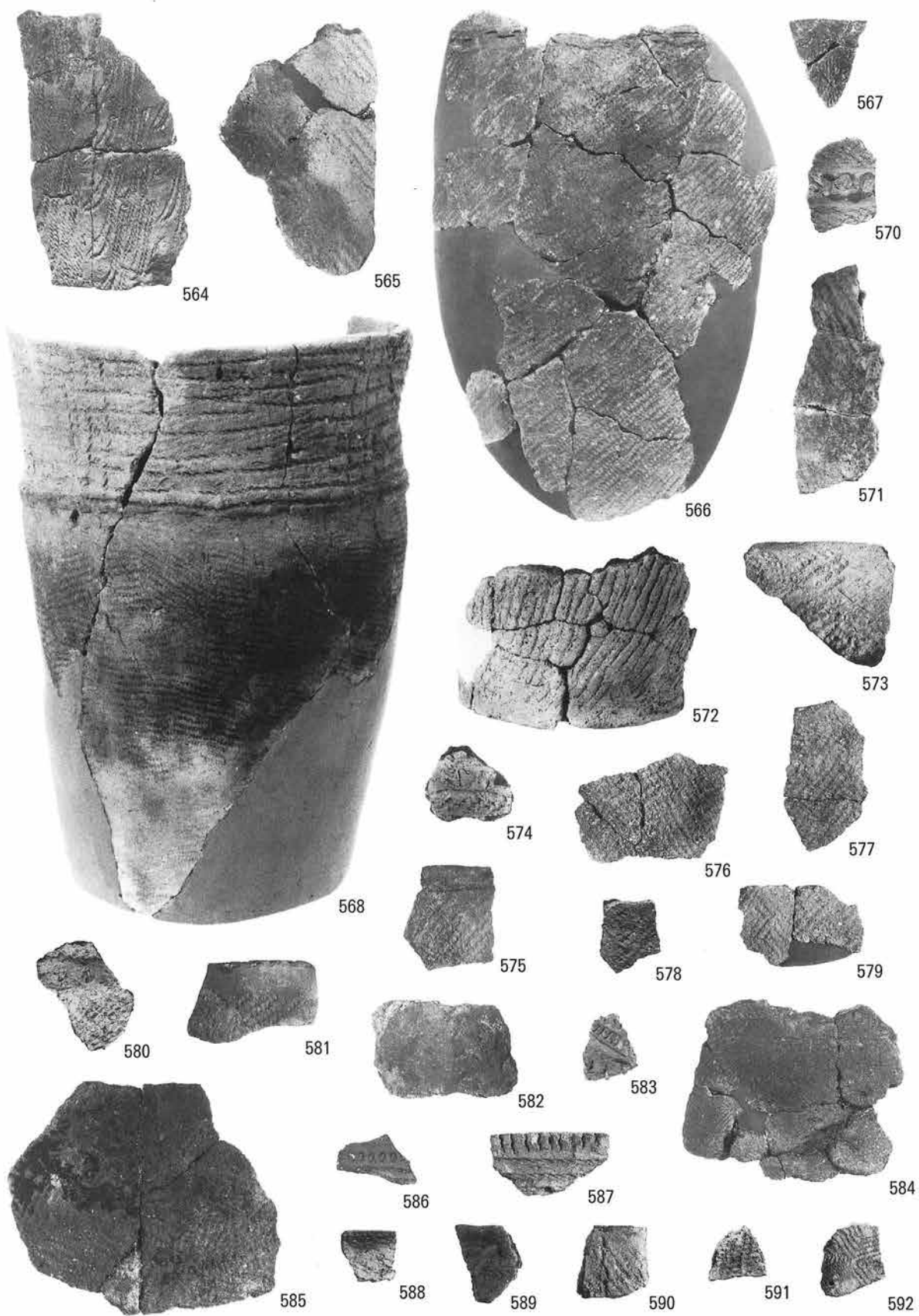
写真図版97 縄文土器(27) (S=1/3)



写真図版98 縄文土器(28) (S=1/3)



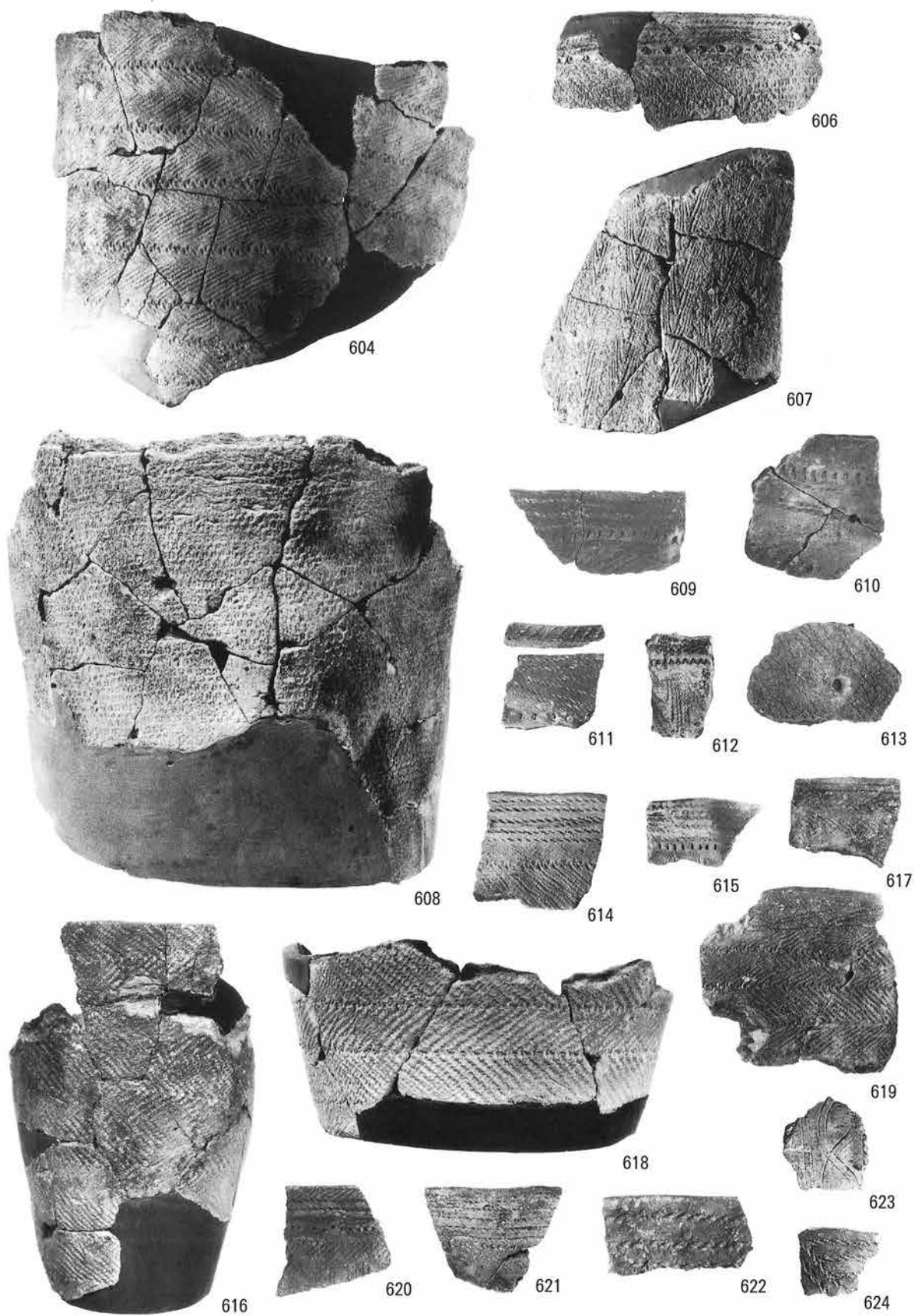
写真図版99 縄文土器(29) (S=1/3) (561紛失)



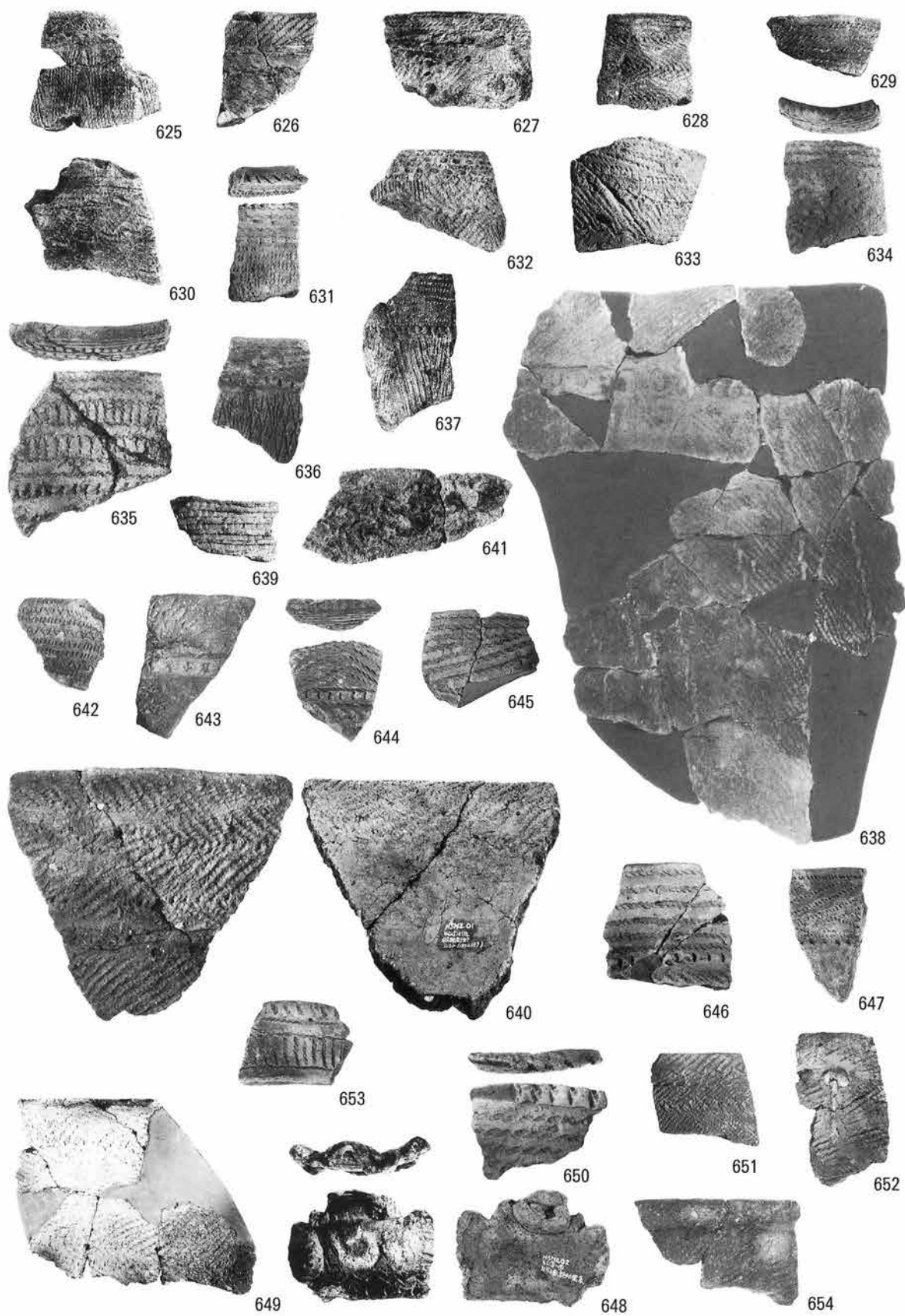
写真図版100 縄文土器(30) (S=1/3)



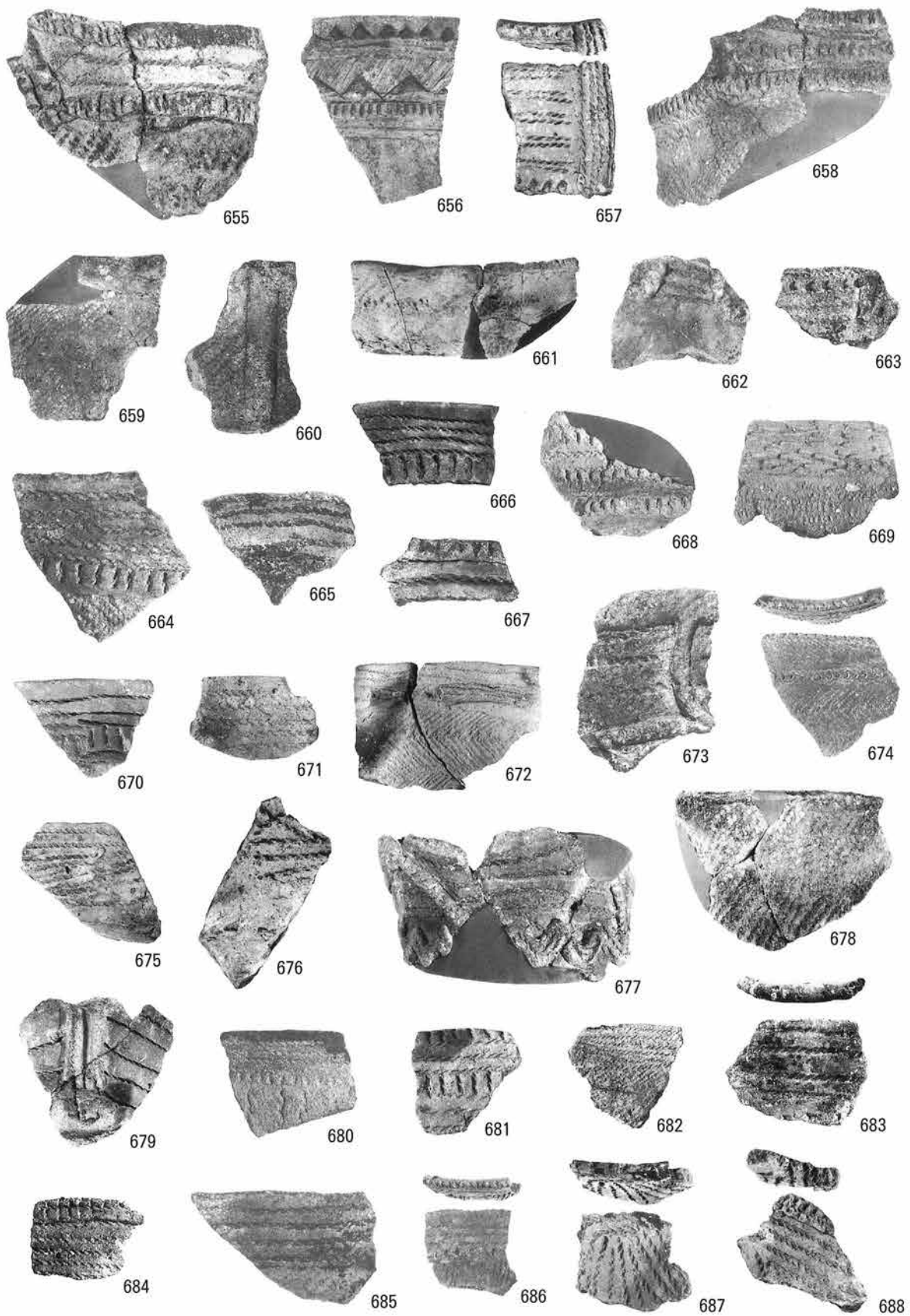
写真図版101 縄文土器(31) (S=1/3)



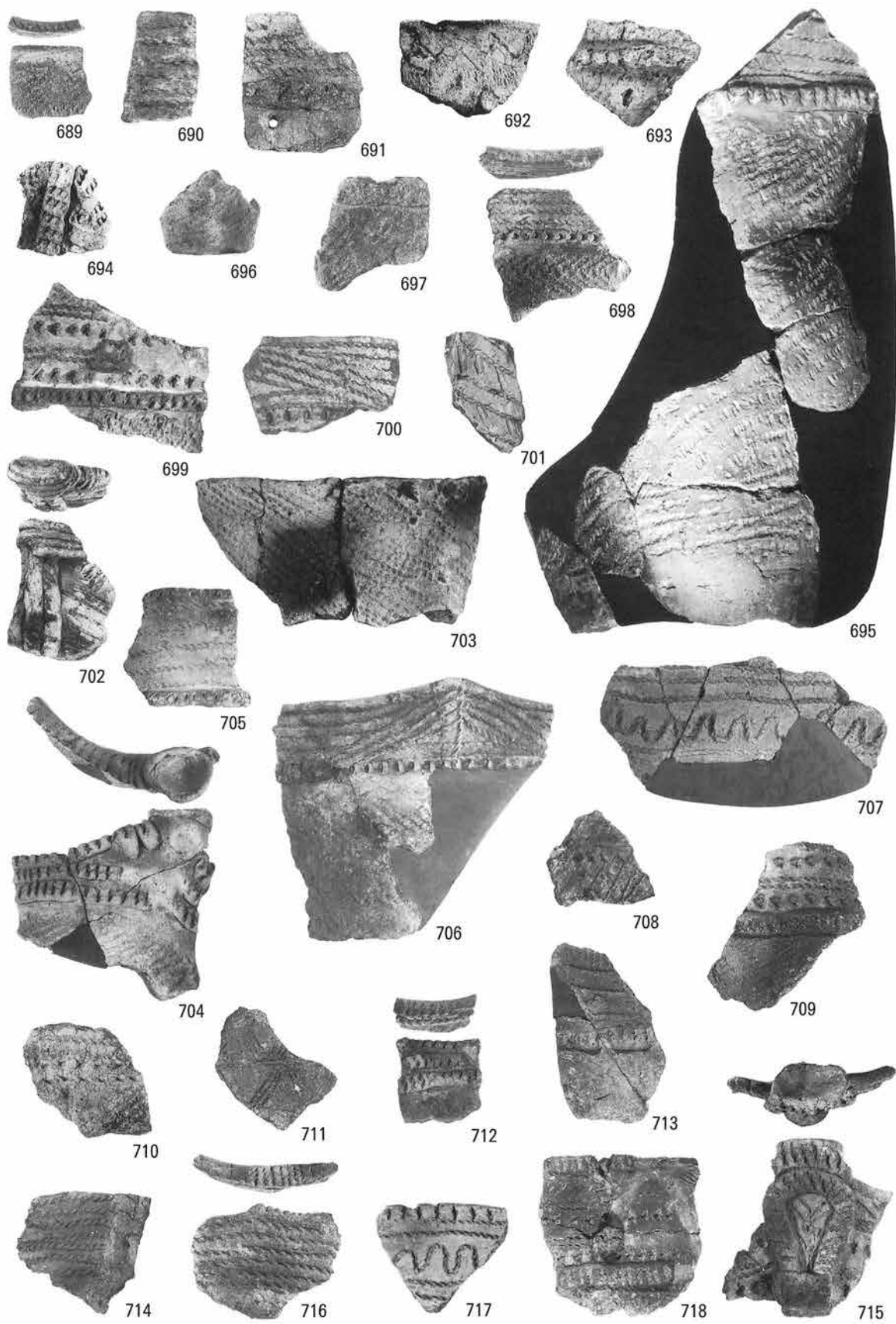
写真図版102 縄文土器(32) (S=1/3)



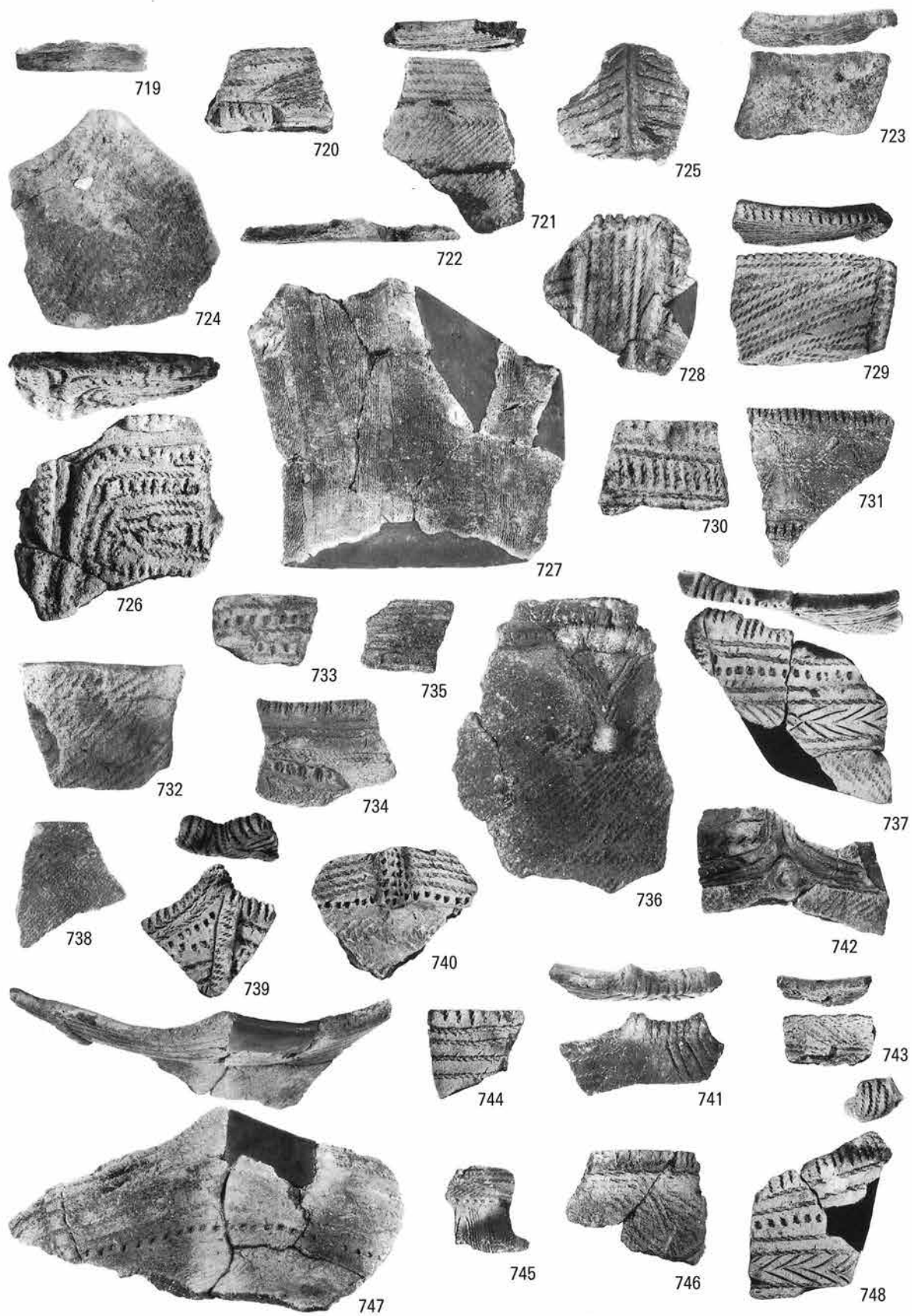
写真図版103 縄文土器(33) (S=1/3)



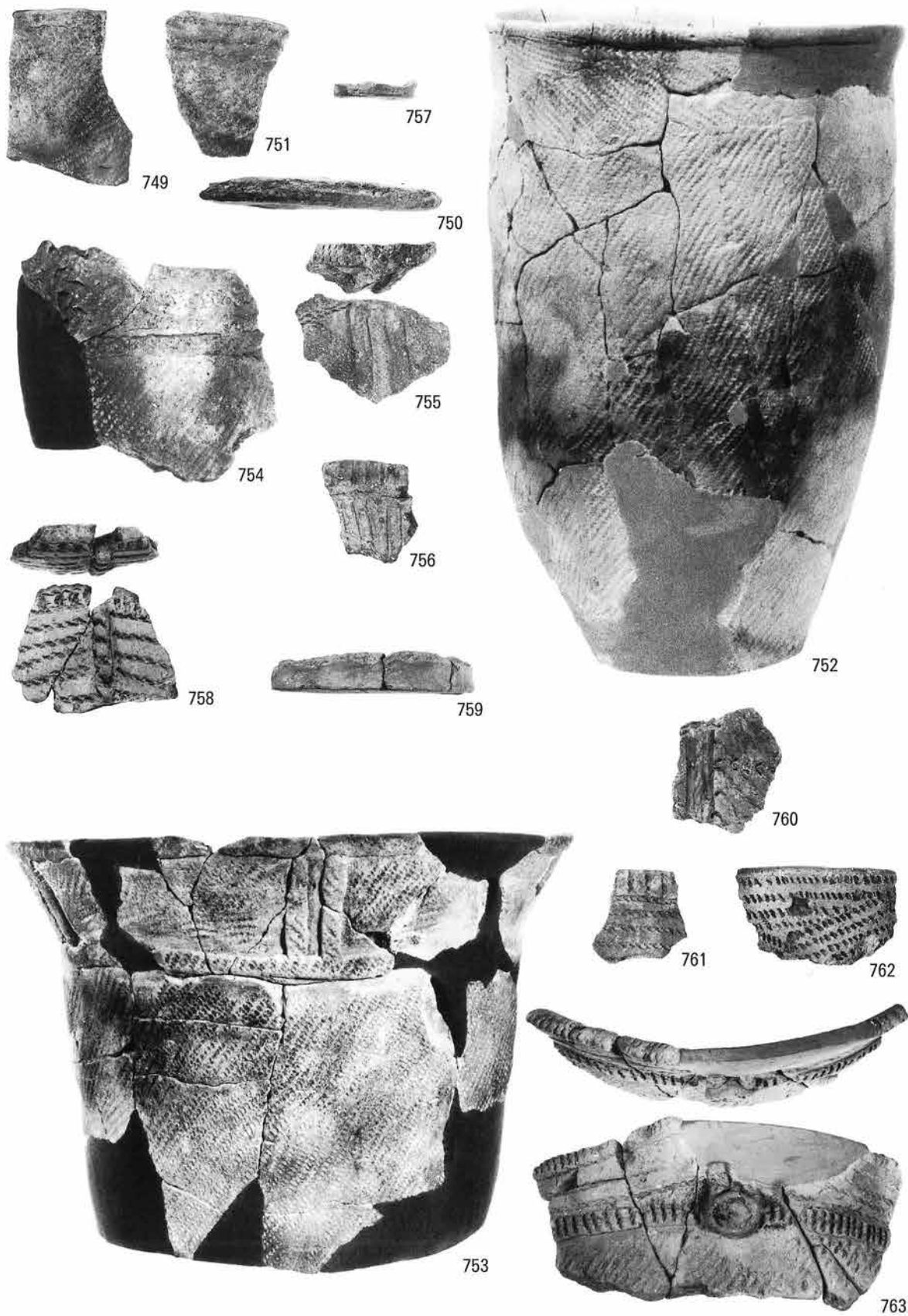
写真図版104 縄文土器(34) (S=1/3)



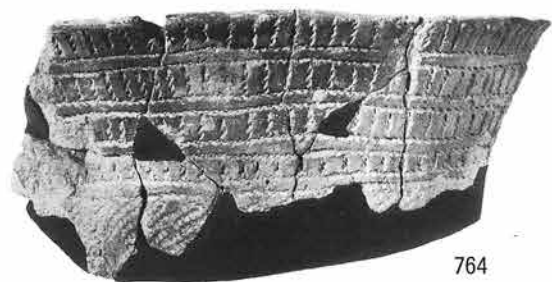
写真図版105 縄文土器(35) (S=1/3)



写真図版106 縄文土器(36) (S=1/3)



写真図版107 縄文土器(37) (S=1/3)



764



767



765



766



768



769



770



771



772



774

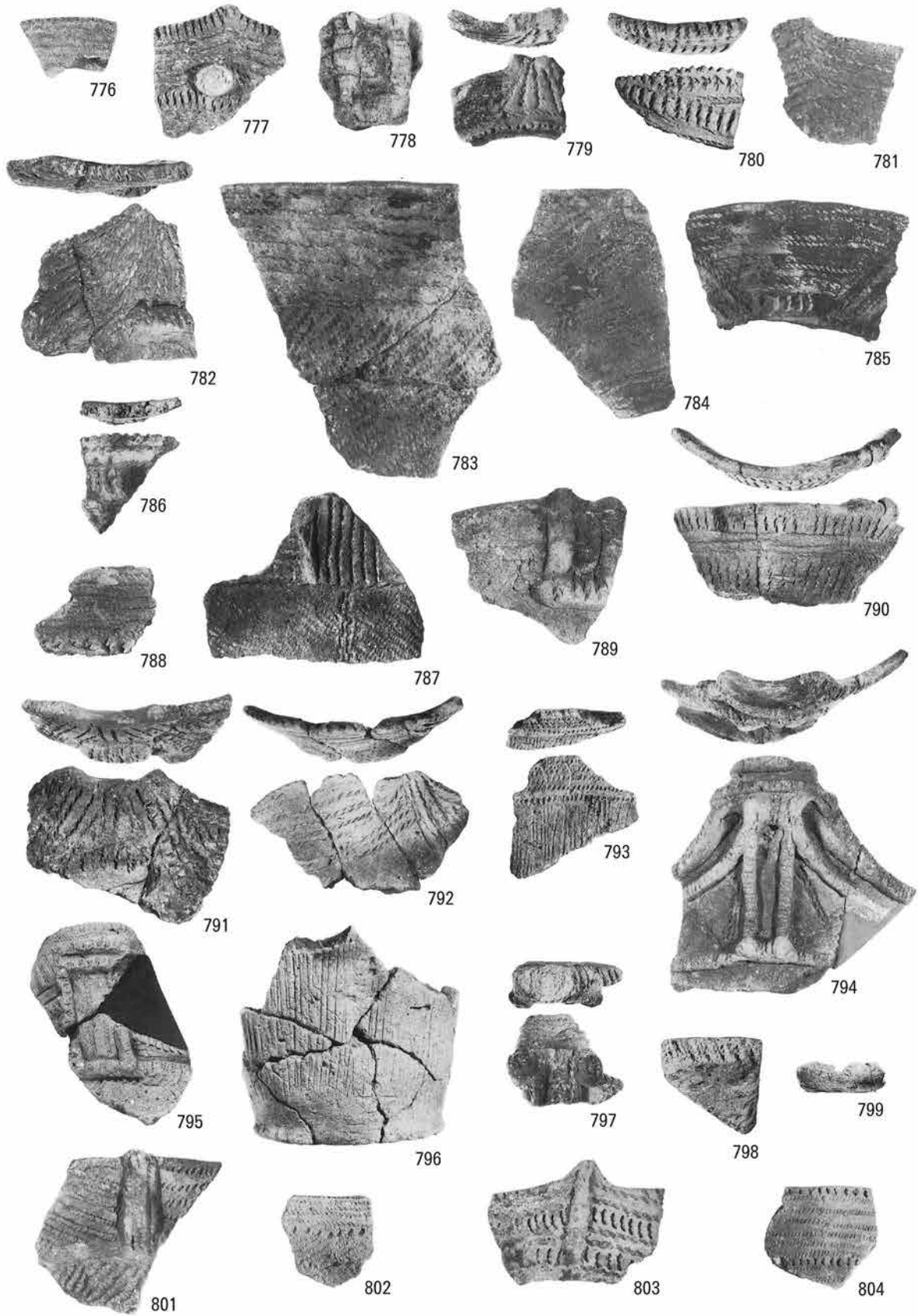


775

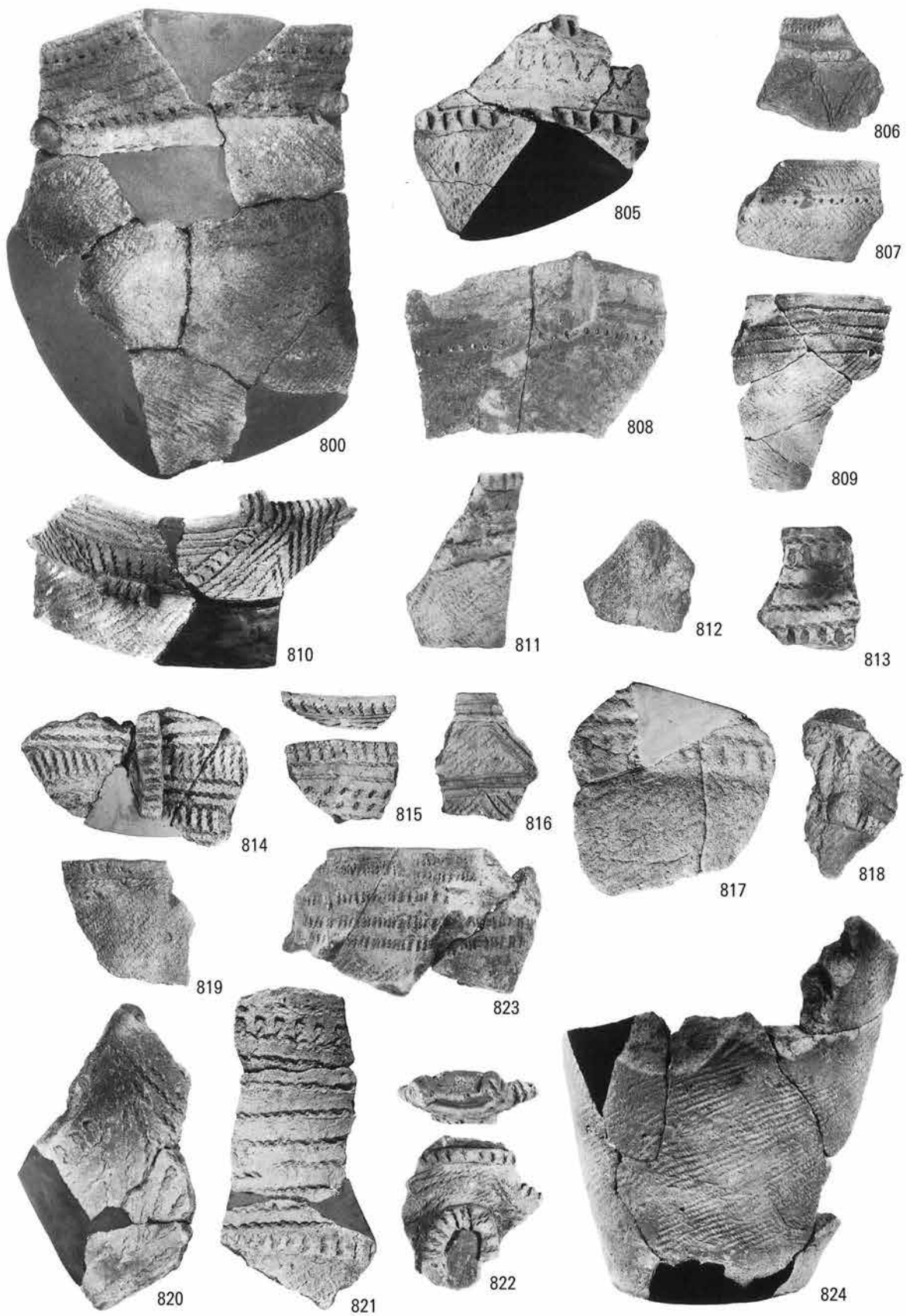


773

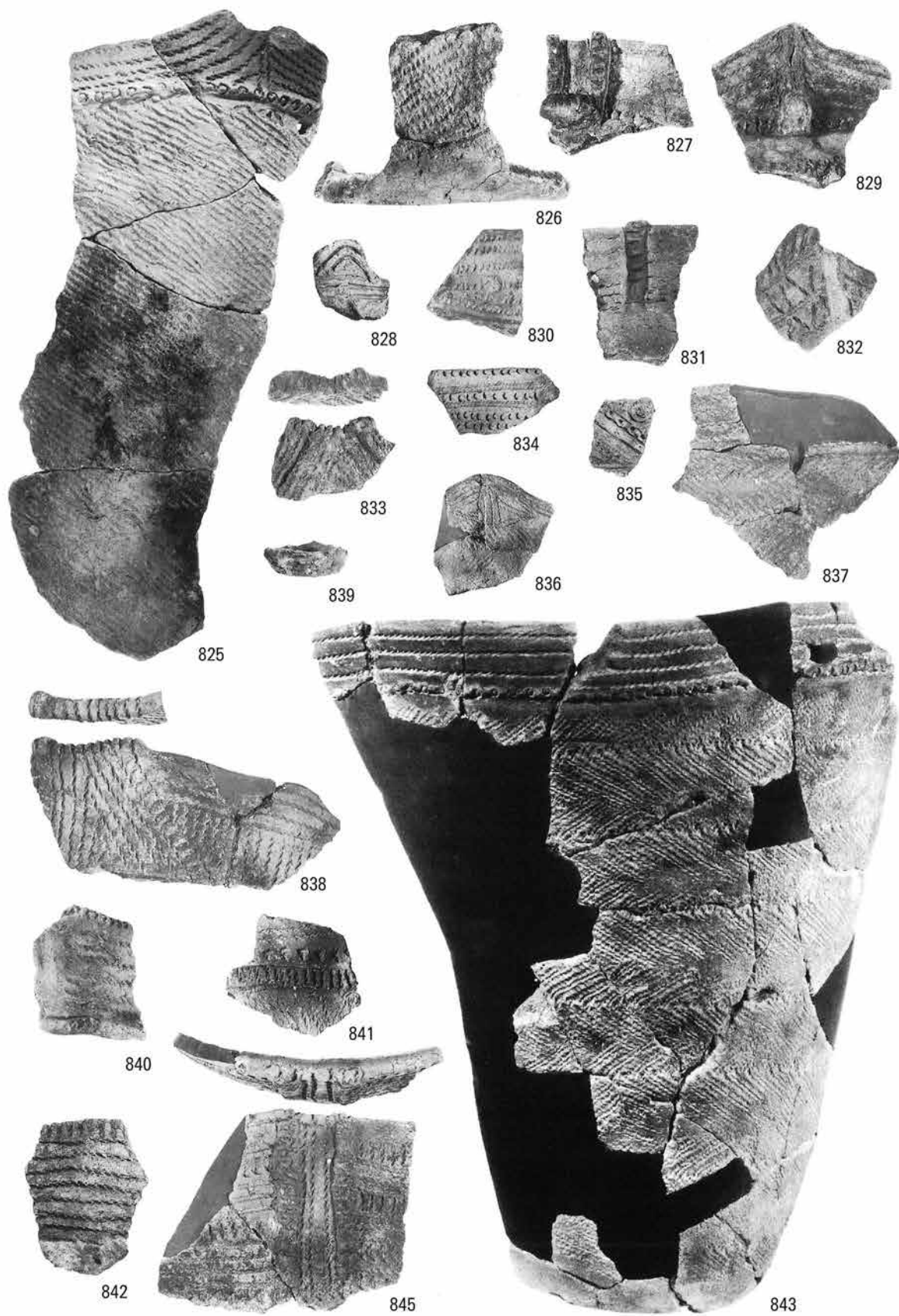
写真図版108 縄文土器(38) (S=1/3)



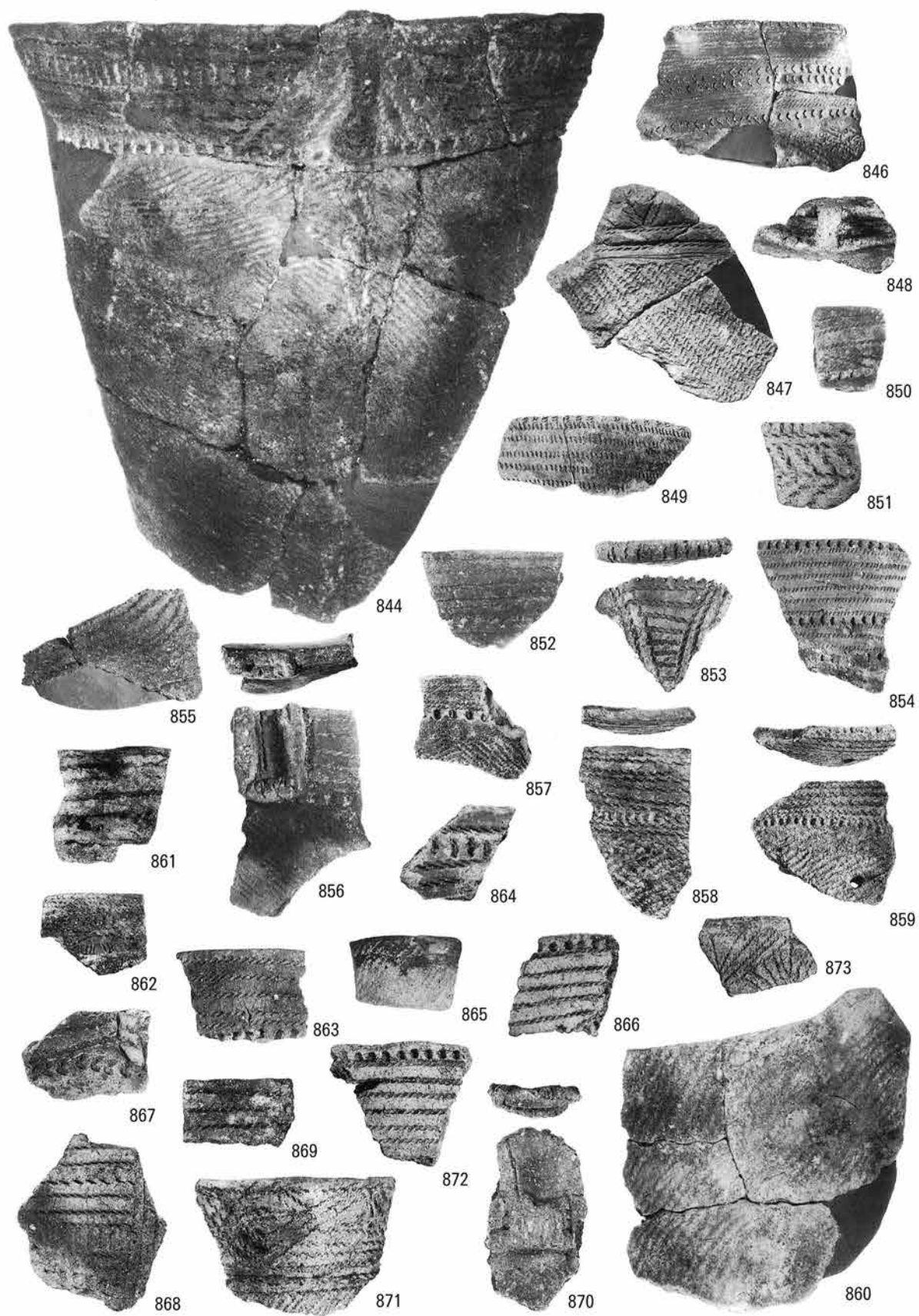
写真図版109 縄文土器(39) (S=1/3)



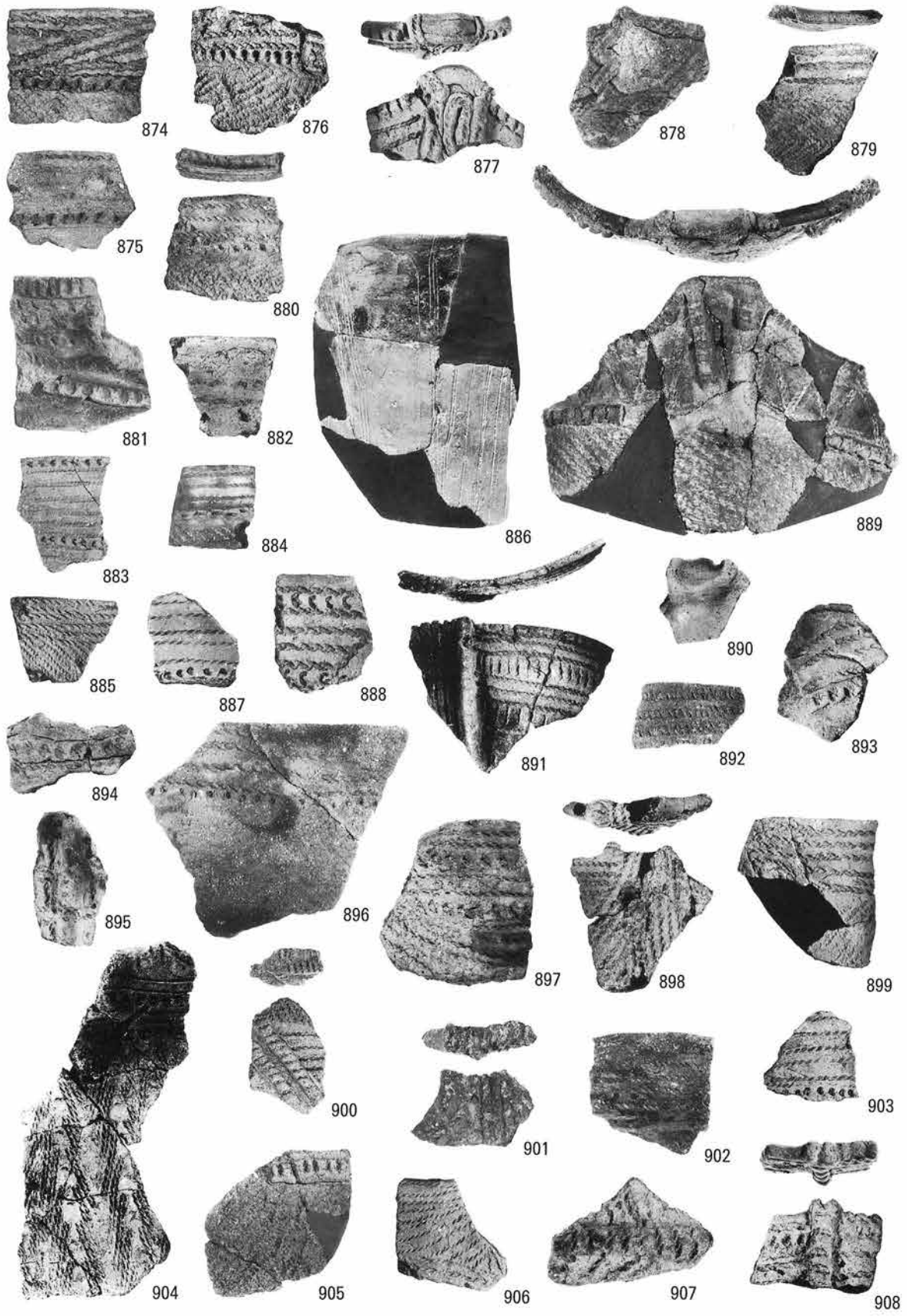
写真図版110 縄文土器(40) (S=1/3)



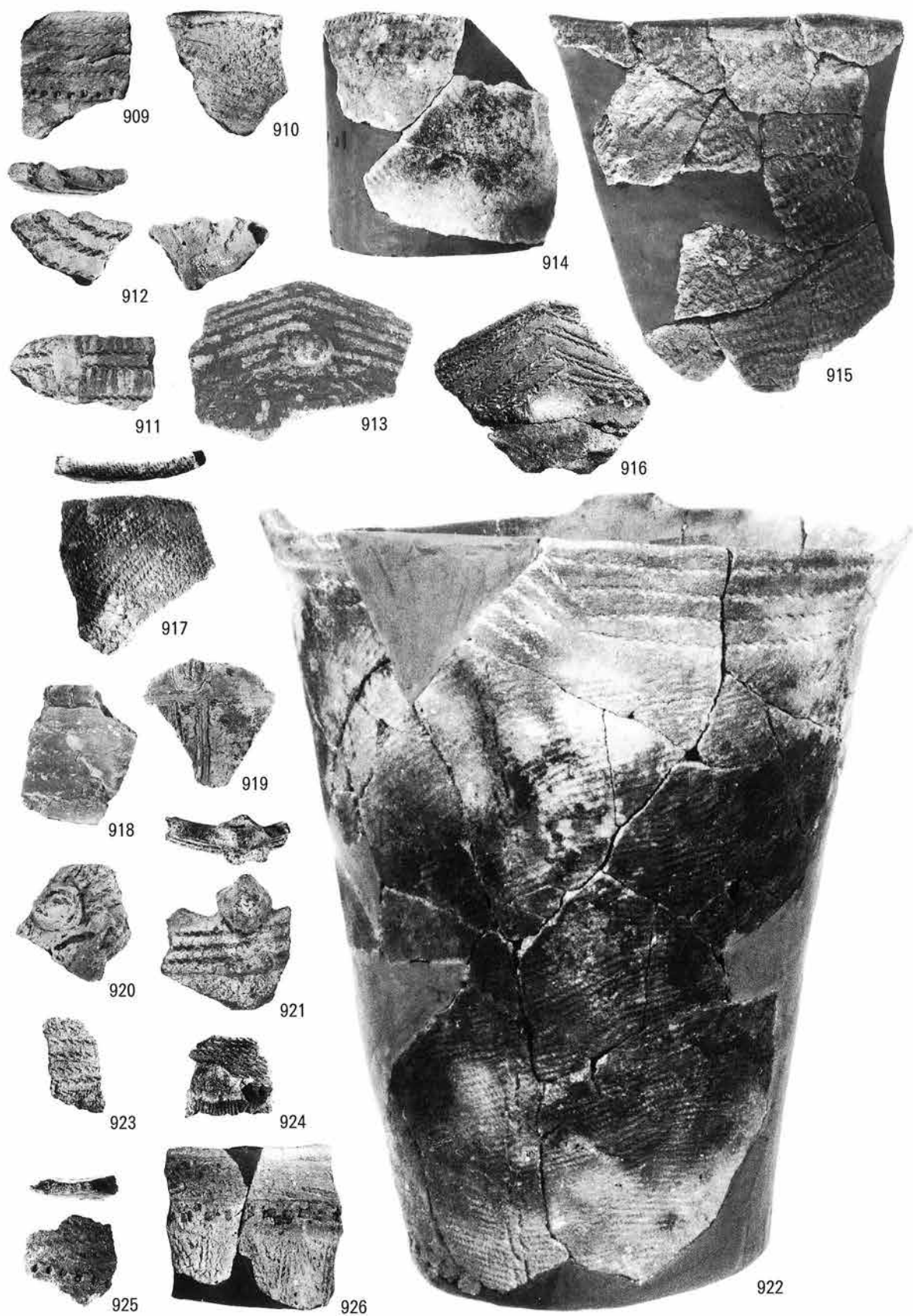
写真図版111 縄文土器(41) (S=1/3)



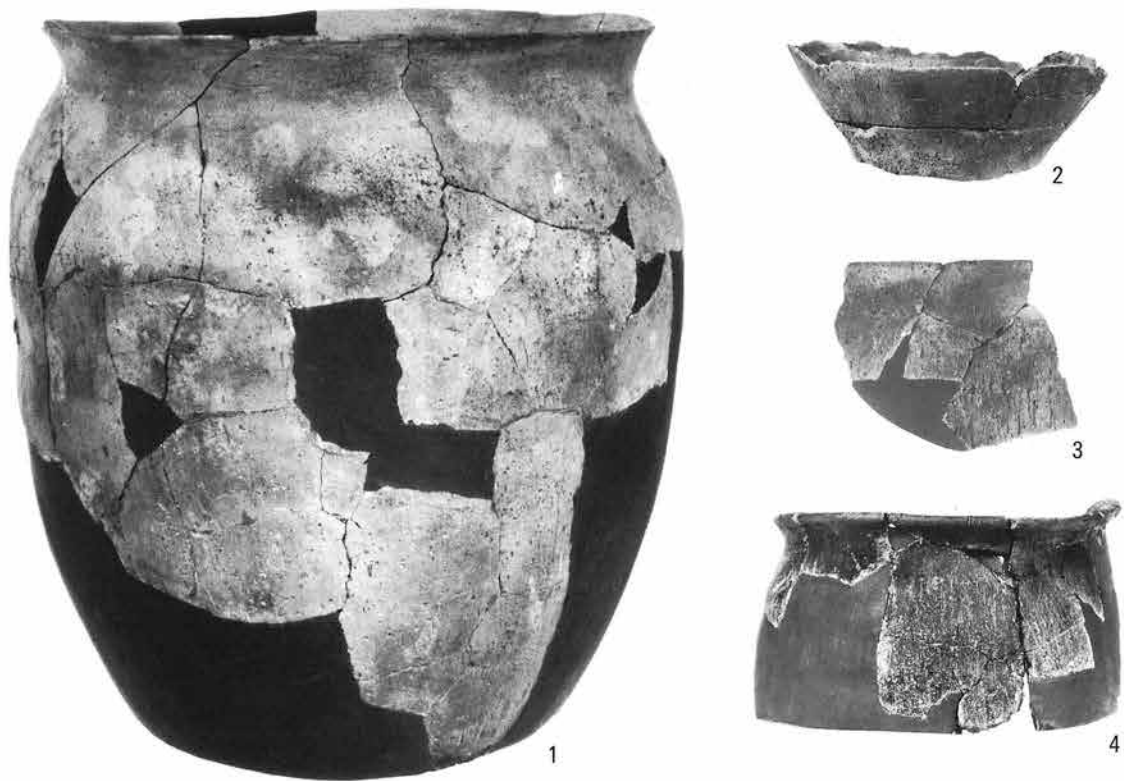
写真図版112 縄文土器(42) (S=1/3)



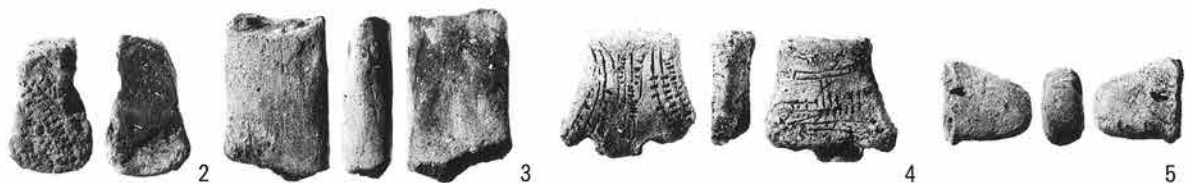
写真図版113 縄文土器(43) (S=1/3)



写真図版114 縄文土器(44) (S=1/3)

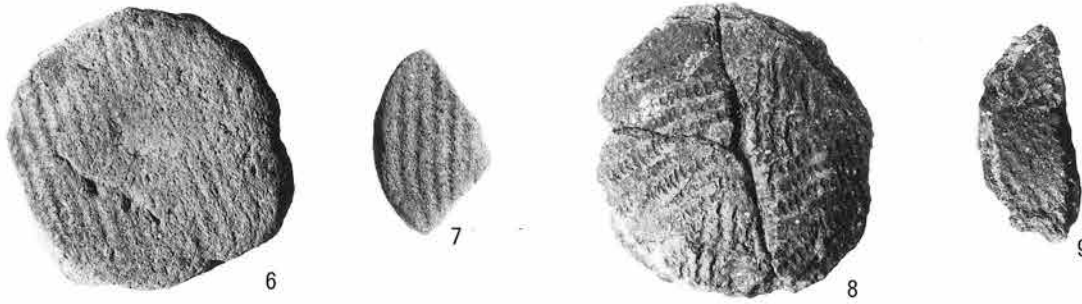


No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	残存状態	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ					
1	土器?	8C③・II層	(5.8)	(2.7)	—	14.72	破片	割口、ピンク色に変色	184図1	p.209

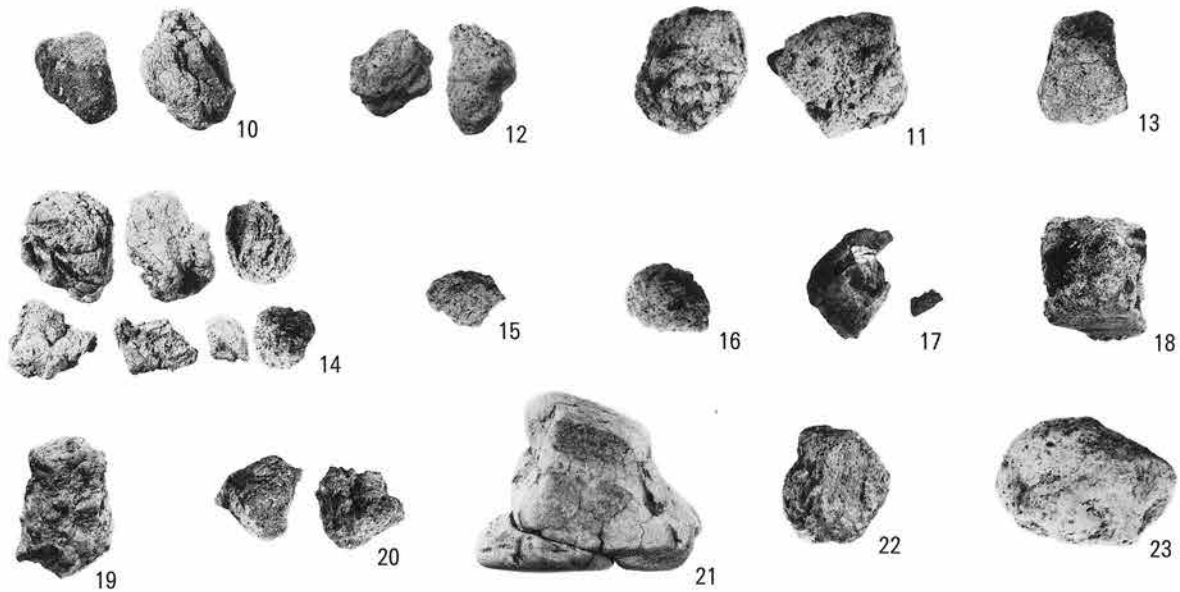


No.	種別	出土地点・層位	重量(g)	残存状況 (部位・割口ほか)	つくり	外面 (文様・装飾)	付着物	備考	図の有無	本文記載
2	土偶	第29~31号、第103、104号土坑・半裁時	8.58	四肢のいずれか?	板状	縦刻線装飾(縦文)・横刻無文(平ら)		粘土残り合わせ・粘土残量・表層欠	184図	p.209
3	土偶	第73号土坑・6層	19.36	胸部?	板状	無文(ナデ)			184図	p.209
4	土偶	東側道路・検出面 (IV層)	13.80	頭部?	板状	縦刻線装飾(縦文)・貫通孔?			184図	p.209
5	土偶	試掘トレンチ1・III層	6.76	左腕?	板状	無文(ナデ)・貫通孔			184図	p.209

写真図版115 土師器 (S=1/3)・土製品(1) (S=1/2)

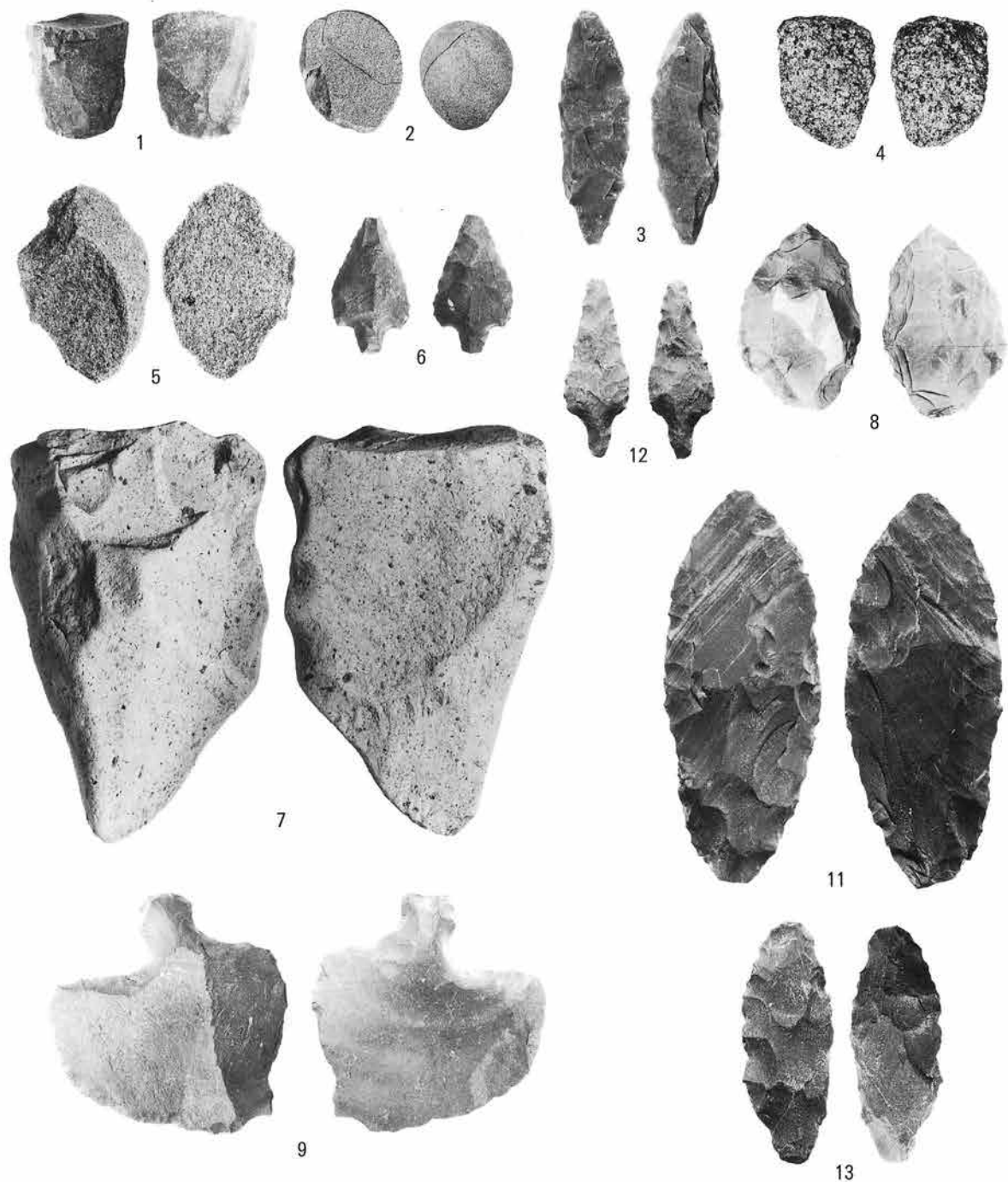


No	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	残存状態	周辺の加工	利用土器の様子	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ							
6	円盤状土製品	第2号~第3号住居㉑	7.6	7.4	1.2	75.05	完形		中期前葉?の胴部破片(LRタテ?)で、外面二次焼成でやや摩耗		184図6	
7	円盤状土製品	第48号土坑	(5.0)	(3.3)	1.0	12.49	破片	研磨	胴部破片(LRヨコ?、海綿骨針)で、外面やや摩耗		184図7	
8	円盤状土製品	8B㉑・Ⅲ層	8.5	8.0	1.3	84.4	完形	未加工	中期前葉?の胴部破片(LRヨコ→結節Lタテ・内面ミガキ)	3片接合→完形	184図8	
9	円盤状土製品	8B㉑疑似現象	(5.9)	(2.7)	1.1	14.16	破片	未加工	胴部破片(結束1種RL、LRヨコ?)		184図9	



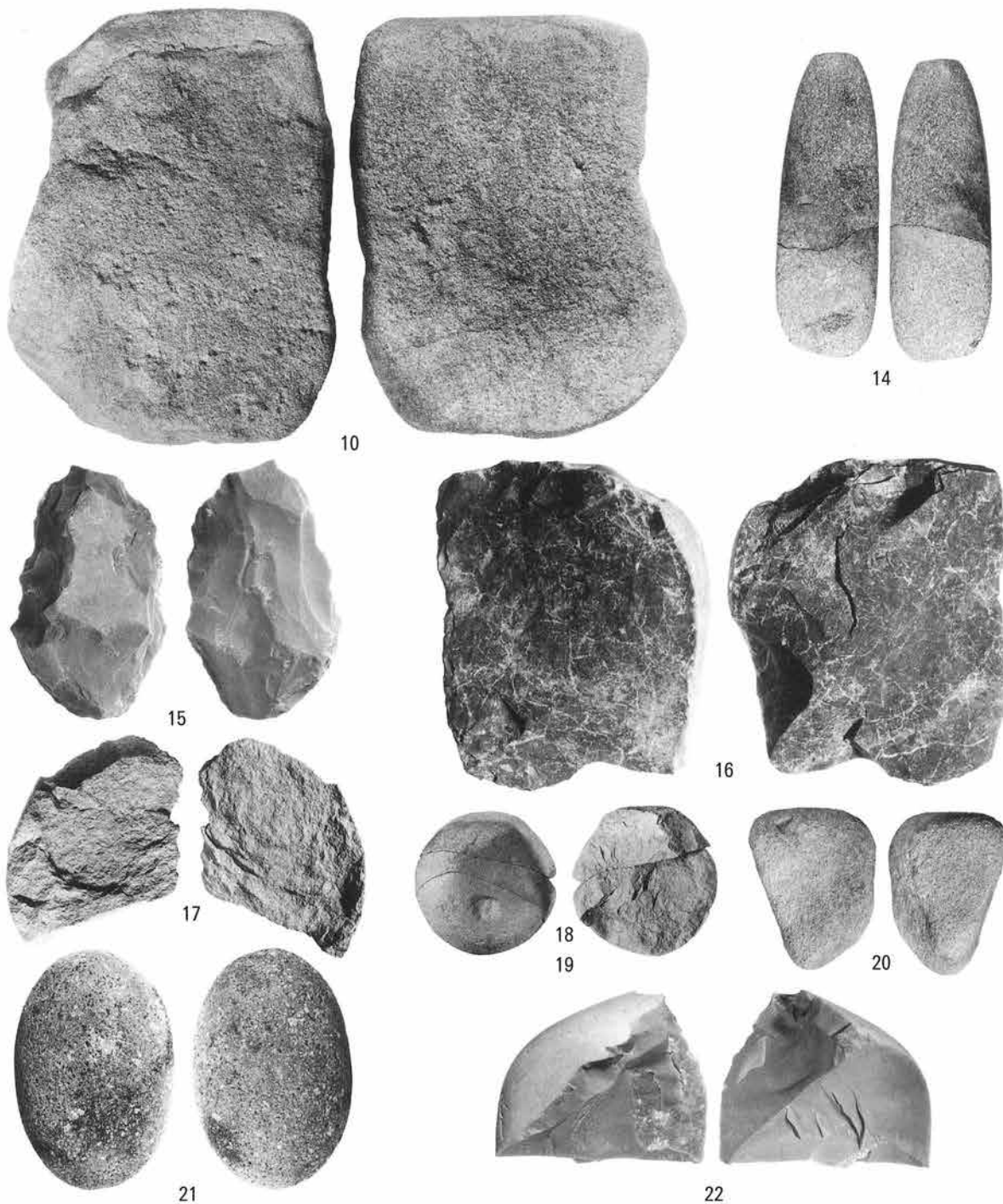
No	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ				
10	焼粘土塊	第1号住居㉑	—	—	—	15.52	手びねり		p.209
11	焼粘土塊	第5B住居 炉跡	—	—	—	19.05	軽石状		p.209
12	焼粘土塊	第6号住居 柱穴2	—	—	—	8.49	手びねり形だが、軽石状		p.209
13	焼粘土塊	第1号住居状遺構	3.3	2.4	1.7	6.89	軽石状だが灰色		
14	焼粘土塊	第21号土坑・6層	—	—	—	26.95	手びねり		p.209
15	焼粘土塊	第22号土坑	2.1	1.5	1.0	1.59	金平糖状		
16	焼粘土塊	第31号土坑・16~17相当層?	2.2	1.8	1.3	2.80	金平糖形だが、軽石状		
17	焼粘土塊	第85号土坑・4~7層	3.4	2.2	2.0	5.85	黒く緻密だが、軽い。		
18	焼粘土塊	第29号焼土クリーニング	3.9	3.1	2.6	19.66	手びねりだが、表面黒く、やや重い。		
19	焼粘土塊	第29号焼土	3.9	2.5	2.1	15.90	手びねりと金平糖の中間型		
20	焼粘土塊	4C㉑・Ⅳ層-10cm	—	—	—	7.05	金平糖状		p.209
21	焼粘土塊	5D㉑・Ⅲ層	6.0	5.2	2.2	43.69	軽石状だが、緻密で重い。		
22	焼粘土塊	7B㉑・Ⅲ層	3.2	2.7	1.6	9.98	金平糖状		
23	焼粘土塊	7C㉑・Ⅱ層	4.9	3.5	3.2	25.42	軽石状		

写真図版116 土製品(2) (S=1/2)



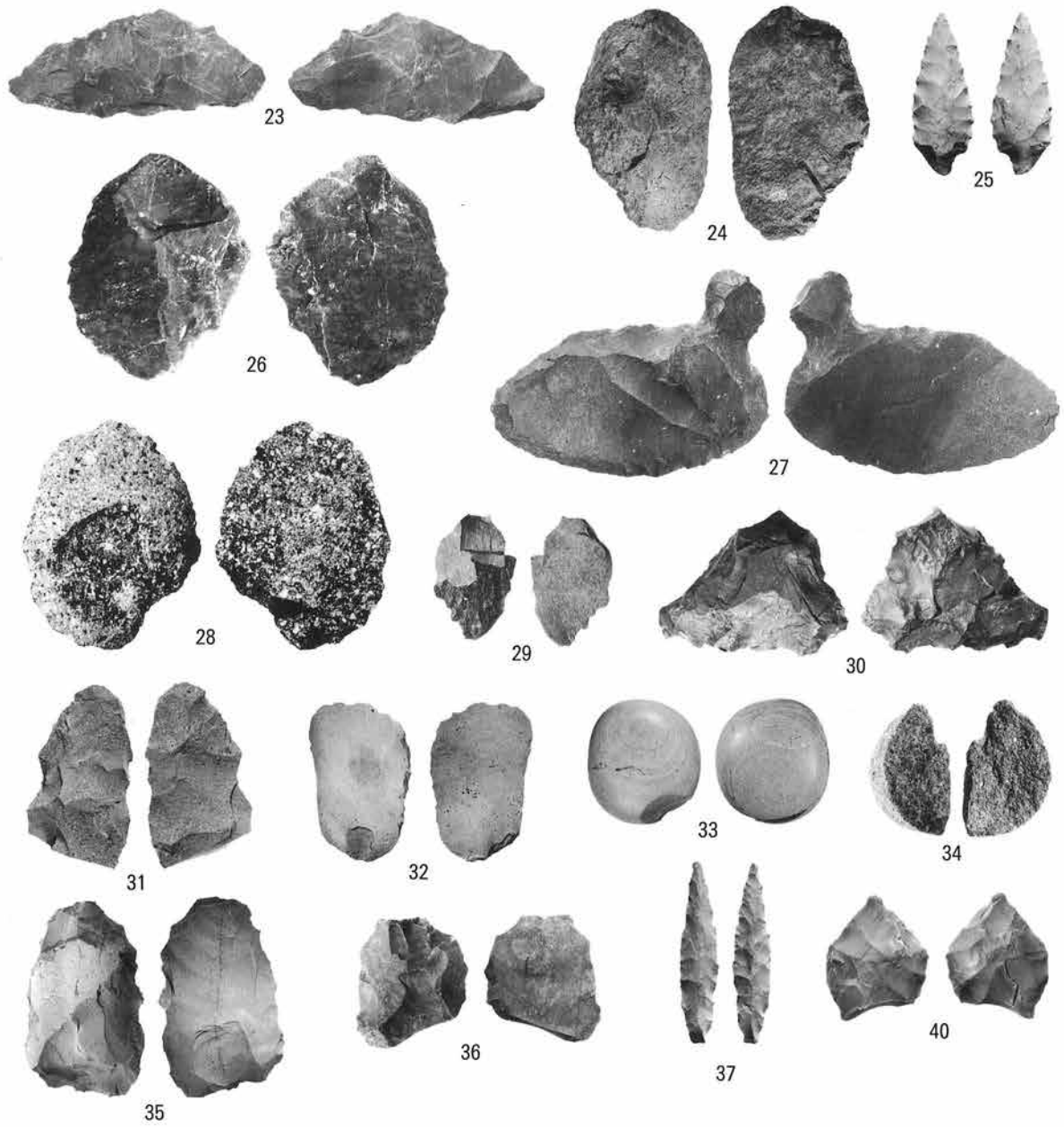
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
1	第1号住居・No.2土器	スクレイパー-A類	3	2.5	1.1	8.25	頁岩(北上)	欠損		185図	
2	第1号住居・1層	敲石	3.76	4.61	4.63	94.96	砂岩(北上)	破片			
3	第1号住居・1層	スクレイパー-A類?	5.6	1.7	1.1	8.61	頁岩(北上)			185図	
4	第1号住居・1層	磨敲器類?	4.55	5.71	2.35	75.69	花崗閃緑岩(北上)	破片			
5	第1号住居・1層	〃	4.5	3.07	0.87	8.88	砂岩(北上)	〃			
6	第1号住居・2層	石鏃	3.25	1.8	1	4.86	頁岩(北上)	鋭・縁欠	凸基	185図	
7	第1号住居・6層	残核?	9.14	5.85	2.84	101.2	凝灰岩(北上)				
8	第1号住居・6層	尖頭器	4.5	3	0.95	11.8	頁岩(北上)				185図
9	第1号住居・6層	石匙	5.9	5.7	1.1	23.55	頁岩(北上)				185図
11	第1号住居・6層	尖頭器	9.3	3.8	1.5	51.8	頁岩(北上)	略完形			185図
12	第1号住居・6層	石鏃	4.3	1.65	0.75	4.45	頁岩(北上)	鋭・縁欠	凸基		185図
13	第1号住居・6層	尖頭器	5.7	2.2	1.1	12.91	頁岩(北上)				185図

写真図版117 石器(1) (2、4はS=1/3 他はS=1/2)



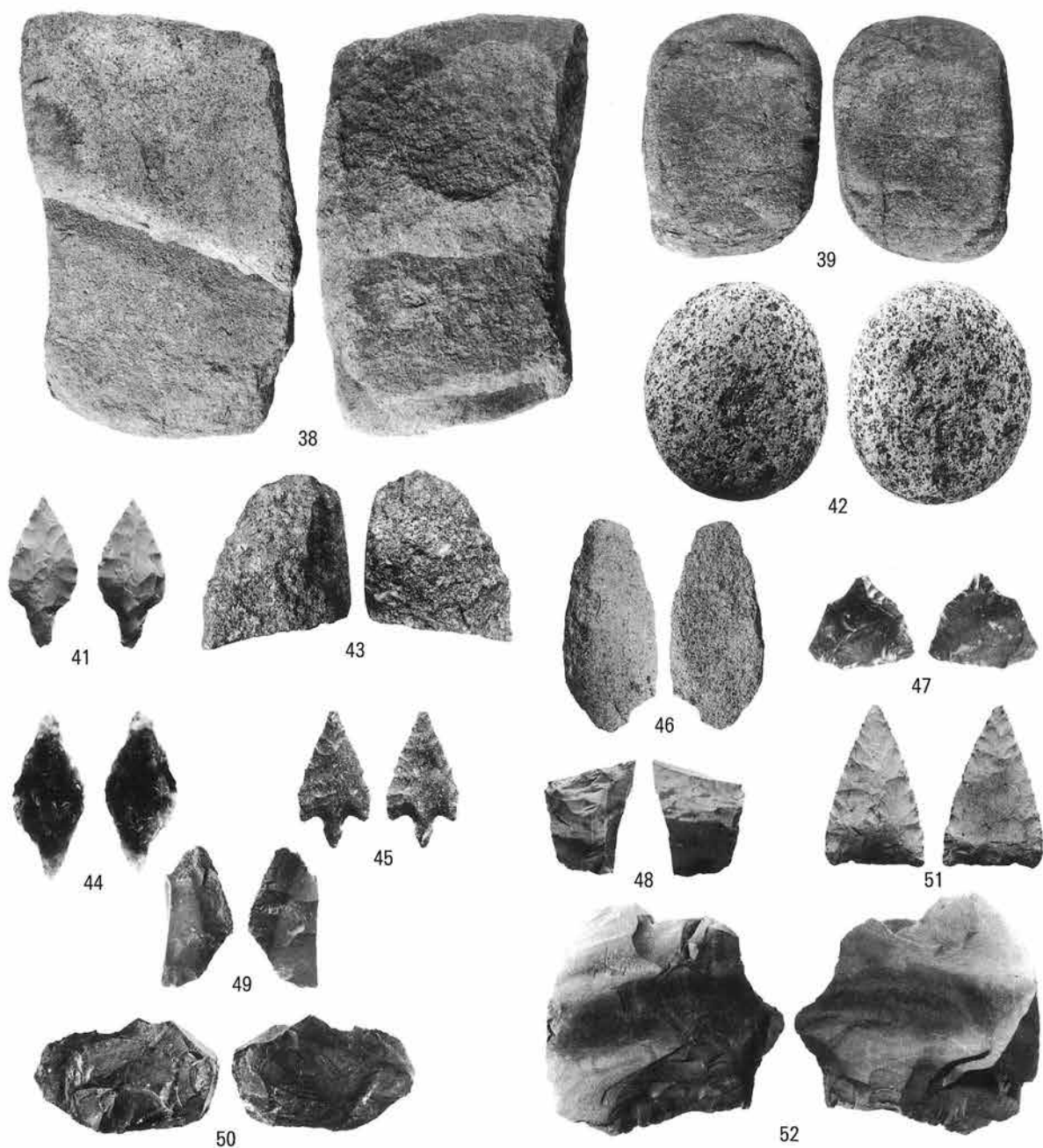
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
10	第1号住居・6層	石皿?	25.5	15.52	5.95	1948.83	砂岩(久慈層群)				
14	第1号住居・7層	磨製石斧	14.51	4.88	3.27	403.48	砂岩(北上)	略完形	片接合(形状状態異なる)・先頭部に縦溝		
15	第1号住居②	尖頭器	6.3	3.8	2	41.33	頁岩(北上)			185図	
16	第1号住居②	二次加工剥片	7.91	6.57	2.66	148.17	チャート(北上)				
17	第1号住居②	磨砕器類?	5.47	3.81	1.29	13.27	砂岩(北上)	破片			
18	第1号住居②	敲石	7.12	6.63	4.08	200.03	砂岩(北上)	1/2	No.19と接合・3片接合		
19	第1号住居②	〃					砂岩(北上)	1/2	No.18と接合 〃		
20	第1号住居②	〃	8.26	5.97	4.21	250.41	砂岩(久慈層群)				
21	第1号住居②	凹石	12.1	8	4.9	681.54	安山岩(北上)		先端部に面をなす行痕あり・断中央凹み	186図	
22	第1号住居②	二次加工剥片?	5.28	4.19	2.29	68.63	頁岩(北上)		同一個体の別の破片あり(小)		

写真図版118 石器(2) (15~17、22はS=2/3 他はS=1/2)



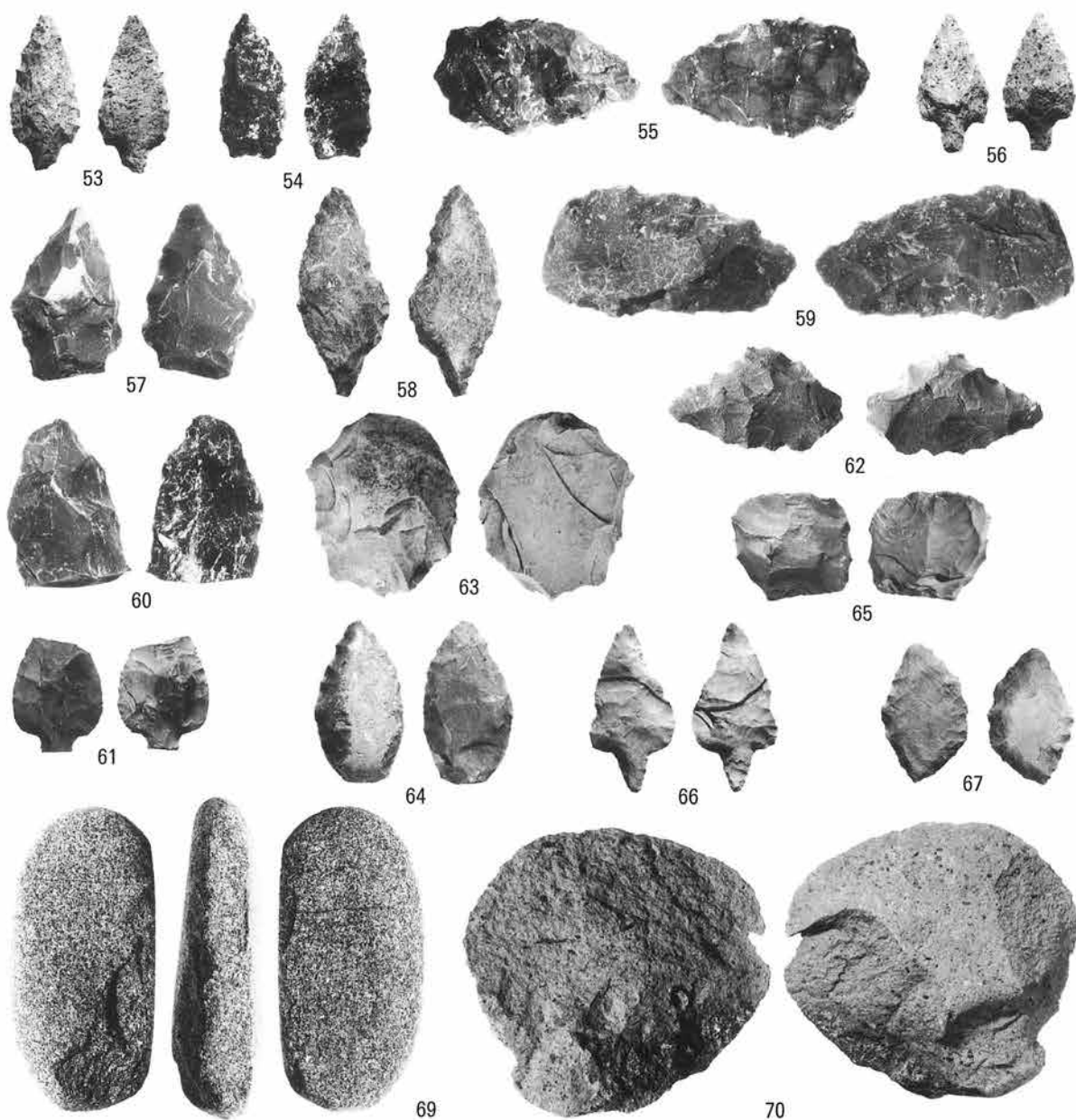
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
23	第1号住居②	スクレイパー-A類?	2.45	5.85	1.15	15.37	頁岩(北上)		尖頭器に近い	186図	
24	第1号住居②	敲石?	4.99	2.89	0.92	11.79	頁岩(北上)	破片			
25	第1号住居④	石鏃	3.6	1.45	0.8	3.06	頁岩(北上)	基部欠損	凸基	186図	
26	第1号住居④	スクレイパー-A類	5.3	4.25	0.85	16.44	頁岩(北上)			186図	
27	第1号住居④	石匙	4.7	6.1	1	20.25	頁岩(北上)	完形		186図	
28	第1号住居④	敲石(の破片)	5.2	4	0.9	14.81	花崗斑岩(北上)	破片		186図	
29	第1号住居④	ただの剥片?	2.85	1.8	0.31	1.62	頁岩(北上)				
30	第1号住居④	スクレイパー-A類	3.4	4.25	1.2	12.61	頁岩(北上)			186図	
31	第1号住居④	尖頭器	4.1	2.5	1.15	9.58	頁岩(北上)	欠損		186図	
32	第1号住居④	スクレイパー-A類	3.65	2.3	0.55	4.16	頁岩(北上)		Rフレイク	187図	
33	第1号住居④	原石?	5.27	4.19	2.82	99.14	頁岩(北上)		2片接合		
34	第1号住居④	磨敲器類	2.96	1.53	0.9	4.27	砂岩(北上)	破片			
35	第1号住居④	スクレイパー-A類	4.6	2.8	1.45	17.07	頁岩(北上)			187図	
36	第1号住居④	スクレイパー-A類	2.95	2.65	0.8	6.08	頁岩(北上)	欠損		187図	
37	第1号住居④	石錐	4	0.9	0.6	1.8	頁岩(北上)	略完形		187図	
40	第2号住居①~③周辺	石鏃?	2.95	2.4	1	5.33	頁岩(北上)	先端欠損?	凸基	187図	

写真図版119 石器(3) (33、38、39はS=1/2 他はS=2/3)



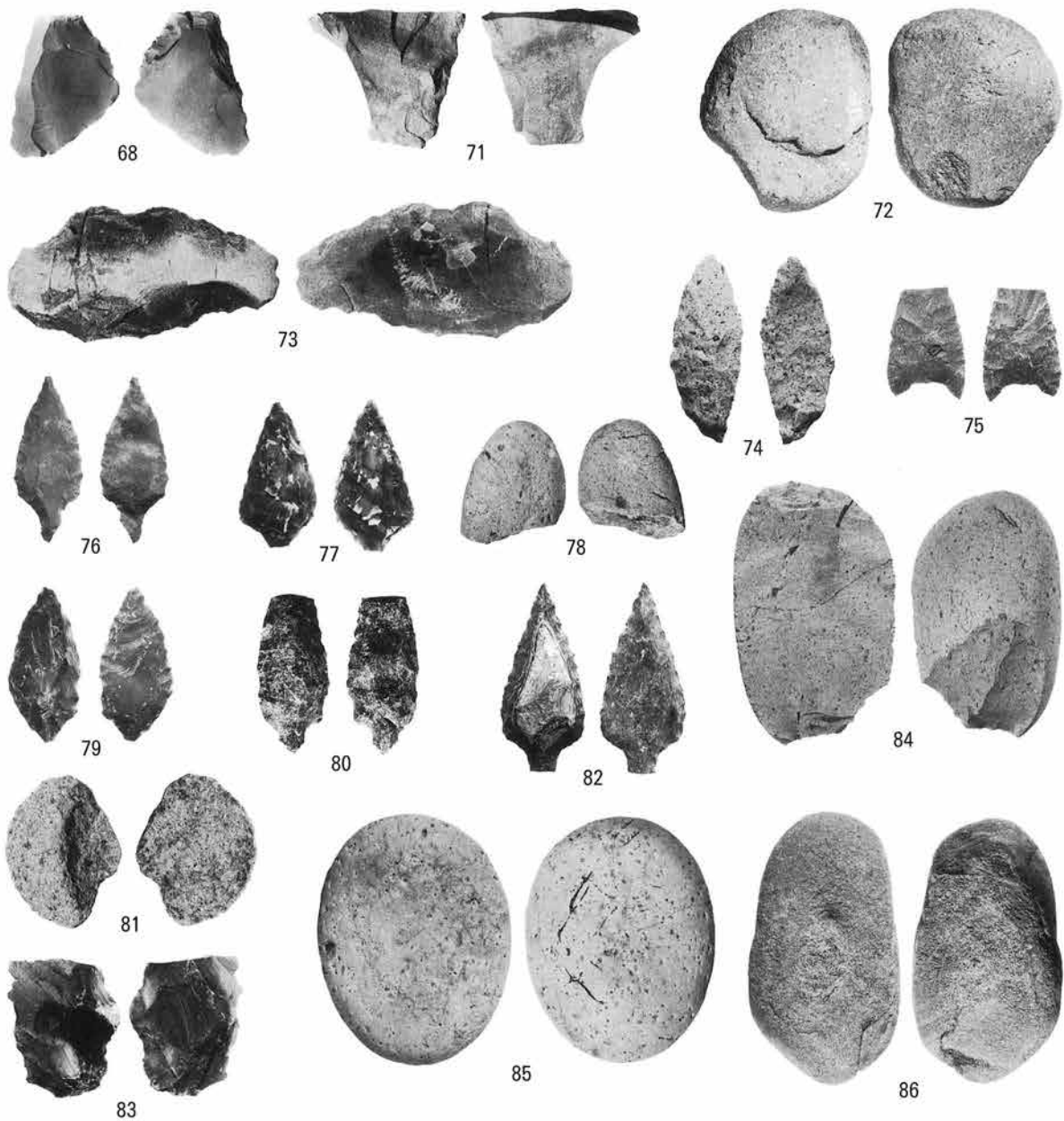
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
38	第2号住居 炉体土器①	台石?	19.4	11.38	7.29	2881.1	砂岩(久慈層群)		石皿?		
39	第2号住居 炉体土器No.3	敲石	11.25	8.15	4.16	685.95	ホルンフェルス(北上)				
41	第2号住居炉①~③周辺	石鏃?	3.5	1.65	0.7	2.52	頁岩(北上)	略完形	凸基		187図
42	第2号住居・2層	凹石	10.8	8.9	5.3	777.59	花崗閃緑岩(北上)		全面に敲打痕		187図
43	第2号住居・2層	磨石B類	9.49	7.01	3.94	293.94	花崗閃緑岩(北上)	欠損	片側側面に平坦面		
44	第2号住居・2層	石鏃	3.75	1.65	0.75	3.61	頁岩(北上)	略完形	凸基		187図
45	第2号住居 柱穴2	石鏃	3.1	1.7	0.4	1.53	頁岩(北上)	略完形	凸基		187図
46	第2号住居 柱穴4	磨敲器類	4.71	2.1	0.51	5.78	砂岩(北上)	破片			
47	第2号住居 柱穴5	スクレイパー-A類	2.3	2.55	0.6	2.06	頁岩(北上)				187図
48	第2号住居 柱穴5	スクレイパー-A類	2.75	2.1	0.9	4.5	頁岩(北上)				187図
49	第2号住居 柱穴5	スクレイパー-A類	3.35	1.8	0.75	4.79	頁岩(北上)	欠損			187図
50	第2号住居 柱穴5	スクレイパー-A類?	3.7	4.45	1.7	18.09	頁岩(北上)				187図
51	第3号住居・1層	石鏃	3.7	2.4	0.6	3.59	頁岩(北上)	完形	平基・裏面加工少ない		188図
52	第3号住居・2層	スクレイパー-A類?	5.3	5.5	1.65	38.77	頁岩(北上)		Uフレイク		188図

写真図版120 石器(4) (38、39、42、43は S = 1/3 他は S = 2/3)



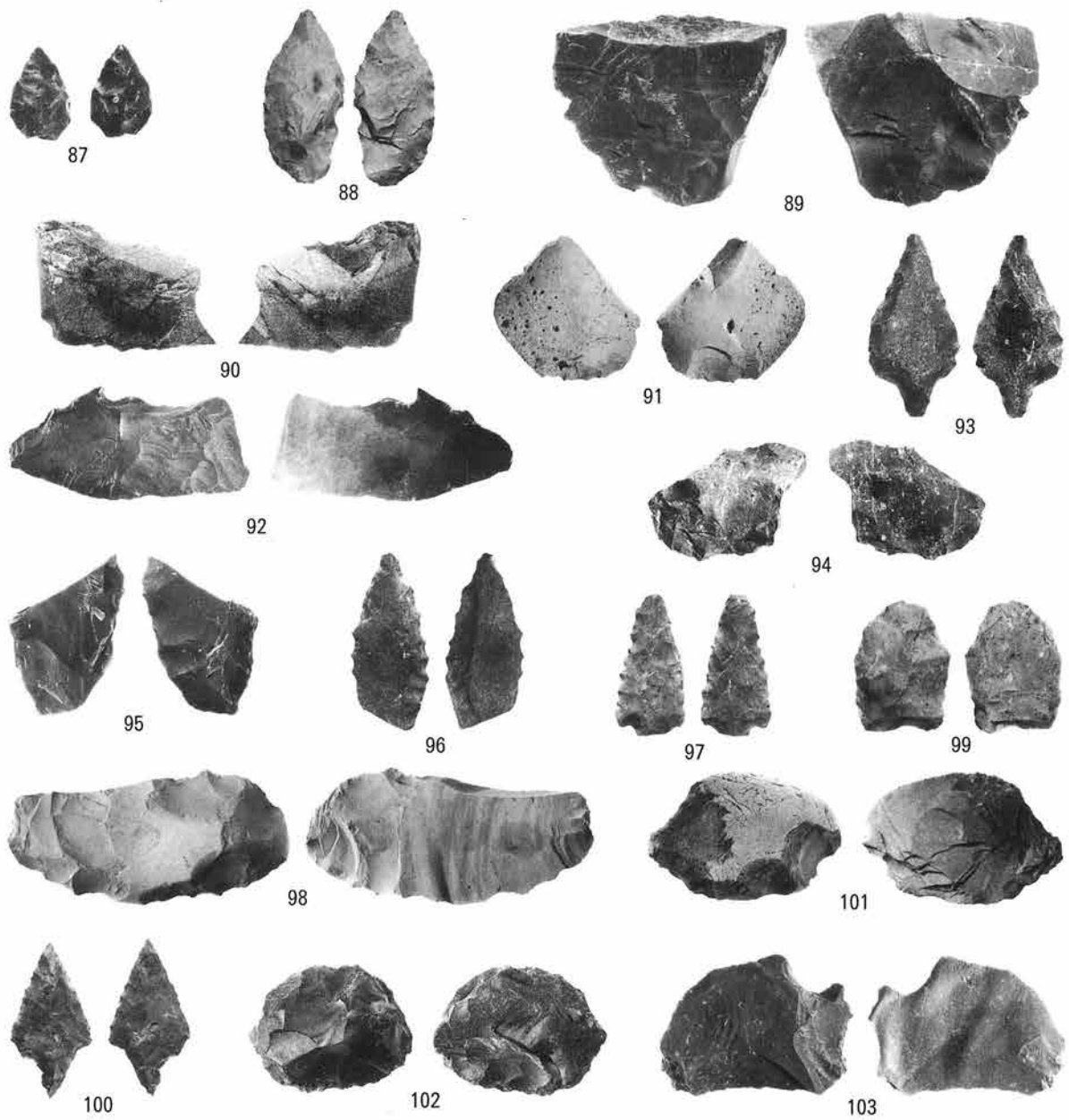
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
53	第3号住居・3層	石鏃	3.5	1.65	0.65	3.11	ホルンフェルス(北上)	残・基部損	凸基・裏面加工少ない	188図	
54	第3号住居・3層	石鏃	3.4	1.6	0.8	3.29	頁岩(北上)	下部欠損		188図	
55	第3号住居・3層	スクレイパー-A類?	2.65	4.5	0.8	10.99	頁岩(北上)		尖頭器?	188図	
56	第3号住居・4層	石鏃	3	1.55	0.9	2.92	頁岩(北上)	基部欠損	凸基	188図	
57	第3号住居・4層	石鏃?	4	2.5	1.35	11.08	頁岩(北上)	基部欠損	尖頭器?	188図	
58	第3号住居・4層	石鏃	4.8	2.15	0.8	7.74	頁岩(北上)		凸基・剥離少ない	188図	
59	第3号住居・4層	スクレイパー-A類	3.1	5.9	1.5	22.05	頁岩(北上)			188図	
60	第3号住居・4層	尖頭器	3.9	2.6	1.1	10.82	頁岩(北上)	1/2先端欠損		188図	
61	第3号住居・4層	石鏃	2.6	2	0.65	2.9	頁岩(北上)	両端欠損	凸基	188図	
62	第3号住居 柱穴10	尖頭器?	3.9	2.4	1.1	8.34	頁岩(北上)			188図	
63	第3号住居 柱穴10	スクレイパー-A類	4.3	3.65	1.6	22	頁岩(北上)			189図	
64	第3号住居 周溝	石鏃の未製品?	3.7	2	0.9	6.49	頁岩(北上)		剥離少ない・スクレイパー-A類?	189図	
65	第3号住居 周溝	ピエス・エスキュー?	2.5	2.7	0.9	5.45	頁岩(北上)			189図	
66	第3号住居 周溝	石鏃	3.65	1.9	0.6	2.97	頁岩(北上)	略完形	凸基	189図	
67	第3号住居 床クリーニング	石鏃?	3.2	2	0.7	4.49	頁岩(北上)		基部剥離少ない・凸基?・スクレイパー-A類?	189図	
69	第2号~3号住居①	磨石B類	14	6.75	4.1	634.57	閃緑岩(北上)			189図	
70	第2号~3号住居①	磨石器類?	6.3	6.27	18.87	62.48	a火山岩(北上) b頁岩(北上)	破片			

写真図版121 石器(5) (69は S=1/3 他は S=2/3)



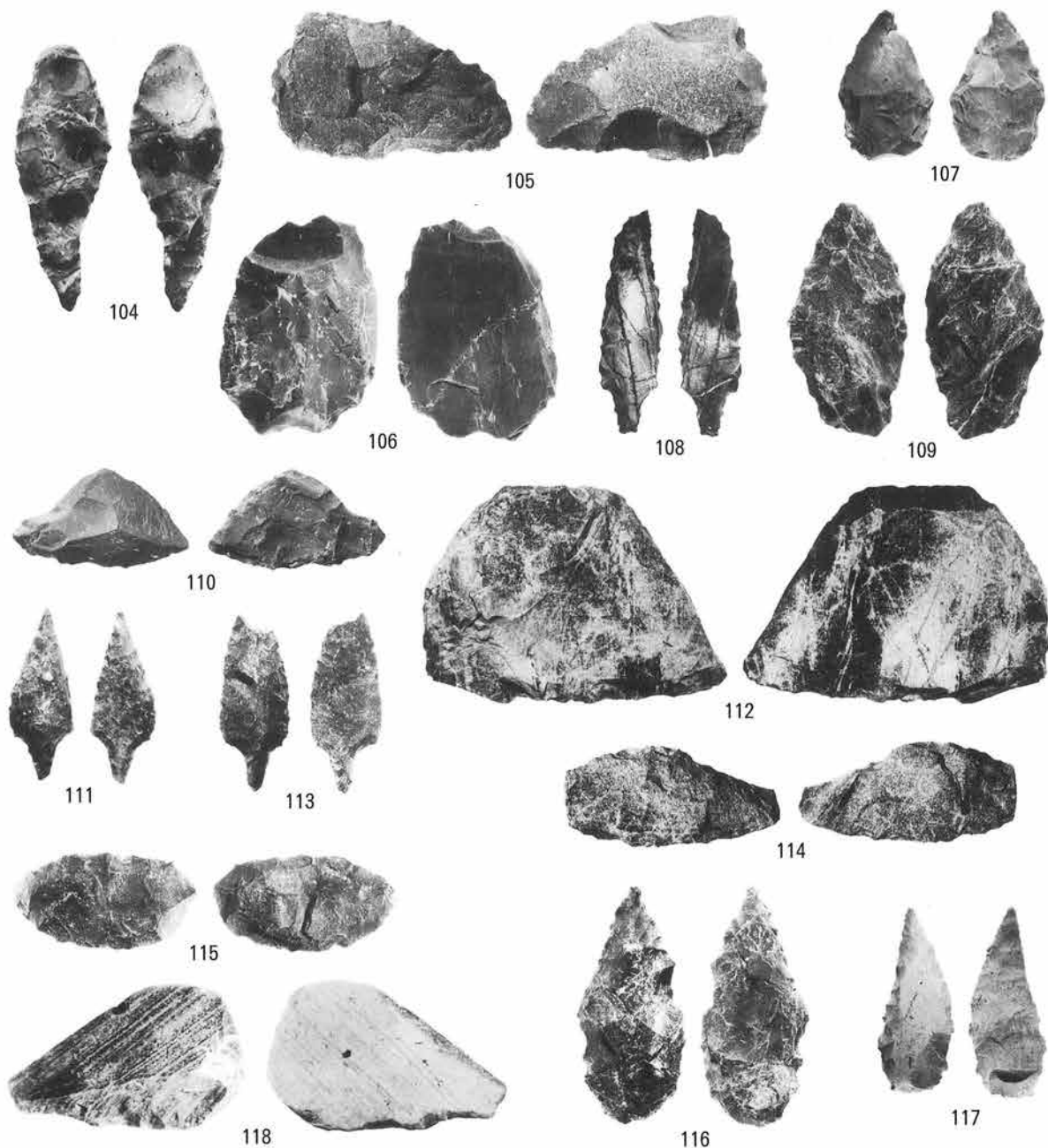
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
68	第3号住居 床クリーニング	スクレイパー-A類	3.9	2.5	0.8	4.68	頁岩(北上)		Uフレイク	189図	
71	第2号~3号住居①	スクレイパー-A類	3.08	3.33	1.1	7.87	砂岩(北上) 凝灰岩(北上)				
72	第2号~3号住居①	敲石	9.33	8.42	4.07	482.73	砂岩(北上)		側面をなす・中央に敲打痕		
73	第2号~3号住居③	スクレイパー-A類	3.1	6.2	1.15	21.23	頁岩(北上)		尖頭器つくりかけ?	189図	
74	第2号~3号住居③	石鏃?	4.2	1.65	0.65	2.93	凝灰岩(北上)		凸基・片端部は2辺削り・スクレイパー型?	189図	
75	第2号~3号住居③	石鏃	2.55	1.8	0.6	2.25	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	189図	
76	第2号~3号住居③	石鏃	3.6	1.5	0.5	2.23	頁岩(北上)	基部欠損	凸基	189図	
77	第2号~3号住居③	石鏃	3.4	1.8	1	5.97	頁岩(北上)	"	"	189図	
78	第2号~3号住居③	敲石?	5.82	4.63	2.52	70.62	凝灰岩(北上)	欠損			
79	第2号~3号住居③	石鏃	3.5	1.7	0.7	4.27	頁岩(北上)	基部欠損	凸基・剥離少ない	189図	
80	第2号~3号住居③	石鏃	3.6	1.7	0.8	5.52	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	190図	
81	第2号~3号住居③	磨敲器類	2.41	3.27	1.15	5.91	凝灰岩(北上)	破片			
82	第2号~3号住居④	石鏃	4.35	1.9	1.05	7	頁岩(北上)	基部欠損	凸基・厚い	190図	
83	第2号~3号住居④	尖頭器?	3.35	2.6	1.5	10.54	頁岩(北上)	先端欠損		190図	
84	第2号~3号住居④	磨敲器類?	5.42	2.22	3.19	35.52	砂岩(北上)	破片	残核?		
85	第2号~3号住居④	磨石	11.69	9.01	3.83	563.81	石英安山岩(北上)	完形	側面敲打?		
86	第2号~3号住居④	敲石	12.39	6.91	4.34	550.16	ホルンフェルス(北上)		表裏中央に浅い凹み		

写真図版122 石器(6) (72、78、85、86は S=1/3 他は S=2/3)



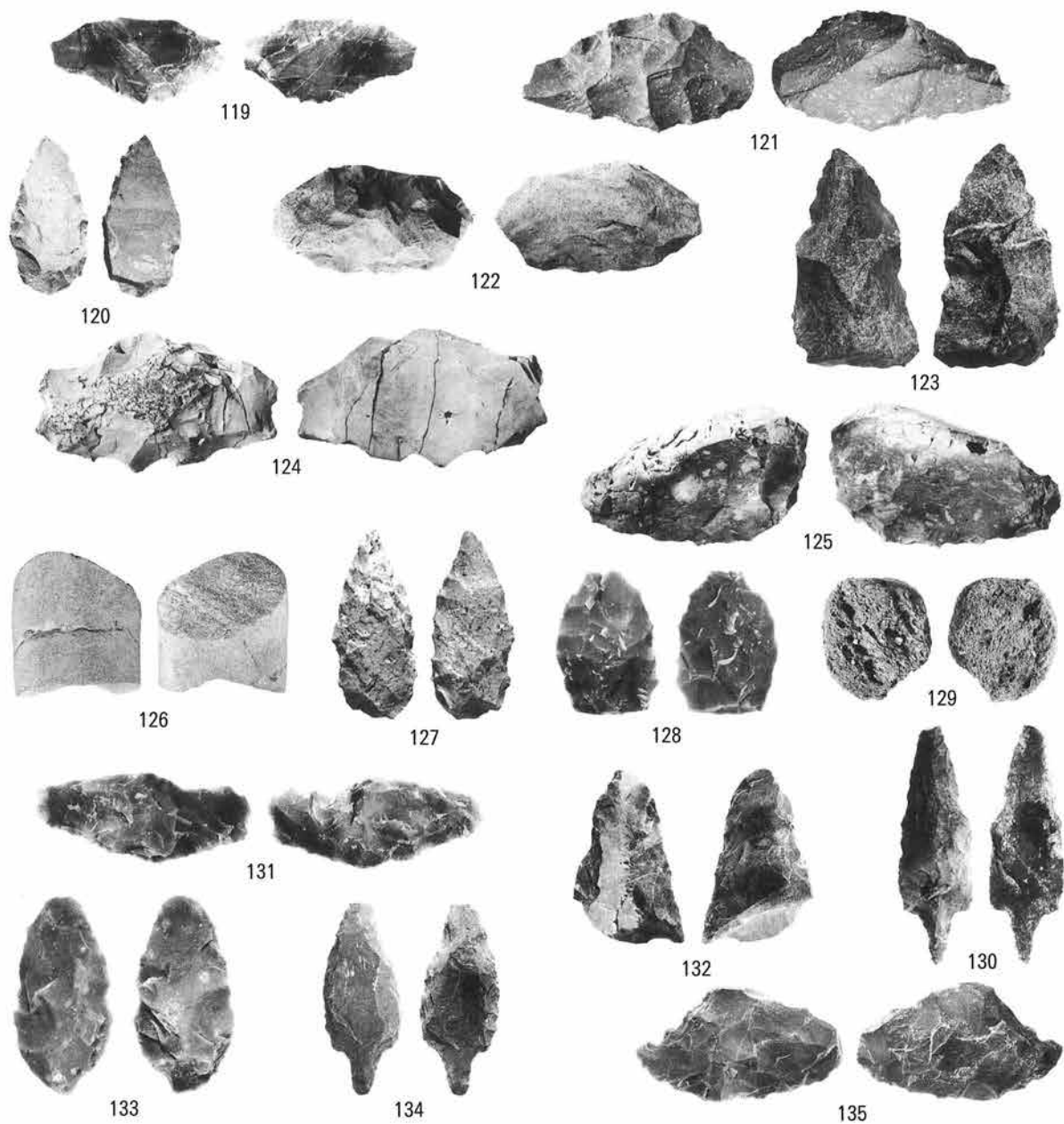
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
87	第2号～3号住居④	石鏃	2.2	1.45	0.7	1.77	頁岩(北上)	基部欠損	凸基	190図	
88	第2号～3号住居④	石鏃	4	1.9	1	6.23	頁岩(北上)	〃	凸基?	190図	
89	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	4.55	5.5	1.7	37.54	頁岩(北上)			190図	
90	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	2.95	4.1	0.85	8.23	頁岩(北上)			190図	
91	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	3.3	3.4	1	9.72	凝灰岩(北上)		Rフレイク	190図	
92	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	2.6	5.6	0.7	5.54	頁岩(北上)			190図	
93	第2号～3号住居④	石鏃	4.2	2.1	0.8	5.81	頁岩(北上)	略完形	凸基	190図	
94	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	2.7	3.5	0.9	8.14	頁岩(北上)		尖頭器?	190図	
95	第2号～3号住居④	尖頭器?	3.95	2.5	0.95	7.43	頁岩(北上)	1/2		190図	
96	第2号～3号住居④	石鏃?	3.9	1.8	0.6	3.24	頁岩(北上)	基部欠損	凸基?・剥離少ない	190図	
97	第2号～3号住居④	石鏃	3.15	1.55	0.7	3.21	頁岩(北上)	〃	凸基	191図	
98	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	3.1	6.4	0.7	17.3	頁岩(北上)			191図	
99	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	3	2.2	0.85	5.31	頁岩(北上)		尖頭器?	191図	
100	第2号～3号住居④	石鏃	3.5	1.8	0.8	3.56	頁岩(北上)	略完形	凸基	191図	
101	第2号～3号住居④	スクレイパー-A類	3.1	4.5	1.4	18.3	頁岩(北上)			191図	
102	第2号～3号住居⑤	スクレイパー-A類	3	3.9	1.45	14.56	頁岩(北上)			191図	
103	第2号～3号住居⑥	スクレイパー-A類	3.1	4.4	0.6	6.42	頁岩(北上)		Uフレイク	191図	

写真図版123 石器(7) (S=2/3)



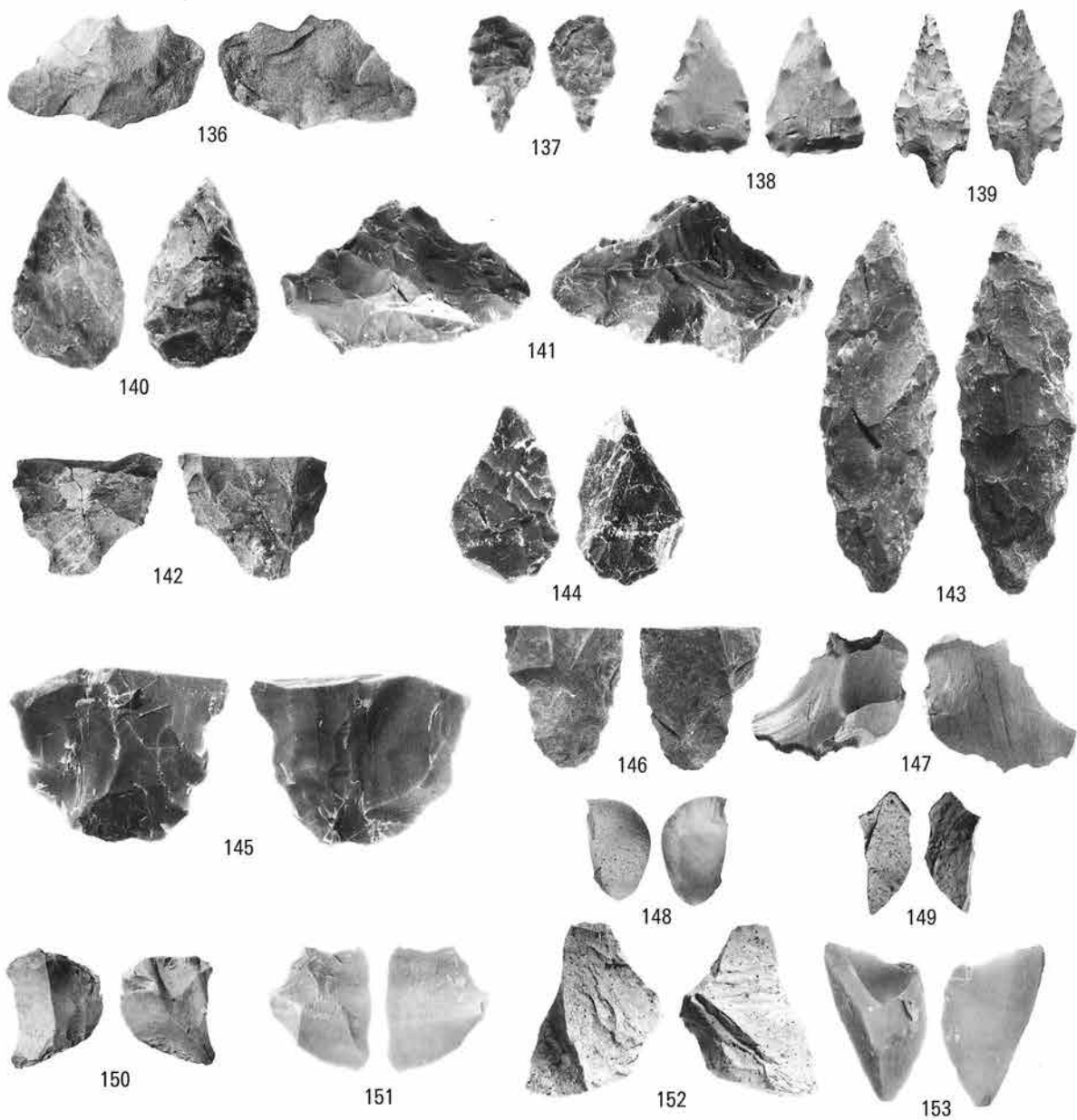
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
104	第2号～3号住居㊦	石錐	6.1	2.3	1.1	12.33	頁岩(北上)	先端欠損		191図	
105	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	3.45	5.6	1.3	21.27	頁岩(北上)		尖頭器?	191図	
106	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	5.2	3.7	1.55	31.73	頁岩(北上)			191図	
107	第2号～3号住居㊦	石錐	3.65	2.3	0.9	6.46	頁岩(北上)		基部欠損? 凸基?	191図	
108	第2号～3号住居㊦	石鏃	5.2	1.5	0.8	5.92	頁岩(北上)	鋭・基部欠損	凸基・片割れ、片割れとど難なし	192図	
109	第2号～3号住居㊦	尖頭器	5.6	2.8	1.3	16.56	頁岩(北上)			192図	
110	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類?	2.35	4.1	0.95	6.75	頁岩(北上)			192図	
111	第2号～3号住居㊦	石鏃	3.95	1.5	0.75	2.95	頁岩(北上)	略完形	凸基	192図	
112	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	5	6.9	1	31.53	頁岩(北上)			192図	
113	第2号～3号住居㊦	石鏃	4	1.6	0.65	3.64	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	192図	
114	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	2.25	4.8	0.8	8.01	頁岩(北上)	両端欠損		192図	
115	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	2.25	4.15	1	7.87	頁岩(北上)		尖頭器?	192図	
116	第2号～3号住居㊦	石鏃?	5.3	2.4	1.2	12.84	頁岩(北上)		凸基・尖頭器?	192図	
117	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	4.3	1.3	0.7	4.91	頁岩(北上)		石鏃?	192図	
118	第2号～3号住居㊦	スクレイパーA類	3.4	5.5	1.2	20.12	凝灰岩(北上)			192図	

写真図版124 石器(8) (S=2/3)



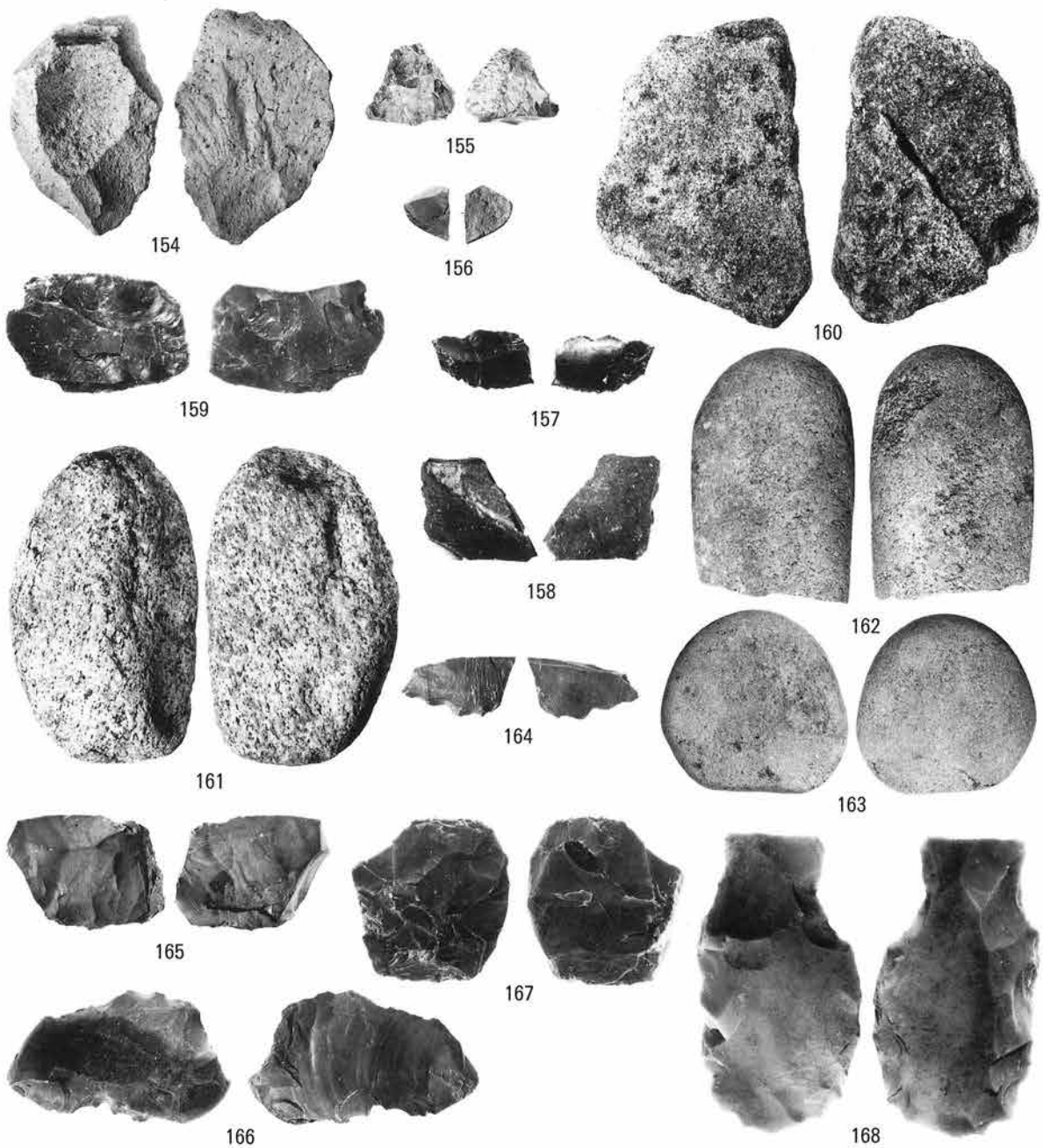
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
119	第2号～3号住居㉑	スクレイパー-A類	1.9	3.85	0.85	4.65	頁岩(北上)		石鏃?	193図	
120	第2号～3号住居㉑	石鏃?	3.65	1.8	0.6	3.43	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	193図	
121	第2号～3号住居㉑	尖頭器?	2.7	5.3	1.25	13.82	頁岩(北上)		〃	193図	
122	第2号～3号住居㉑	スクレイパー-A類	3.6	4.6	1.5	15.07	頁岩(北上)		尖頭器?	193図	
123	第2号～3号住居㉑	尖頭器?	5.15	2.9	1.7	23.86	頁岩(北上)	欠損		193図	
124	第2号～3号住居㉑	スクレイパー-A類	3.1	5.55	1.7	28.35	頁岩(北上)		尖頭器?	193図	
125	第2号～3号住居㉑	スクレイパー-A類	3.35	5.2	2.1	28.24	頁岩(北上)			193図	
126	第2号～3号住居㉑	不明	6.54	6.11	2.69	133.79	頁岩(北上)	破片	磨製石斧?		
127	第2号～3号住居㉑	石鏃	3.35	1.95	0.9	6.43	頁岩(北上)		円基	193図	
128	第2号～3号住居㉑	尖頭器	2.4	3.3	1	8.76	ホルンフェルス(北上)	欠損		193図	
129	第2号～3号住居㉑	軽石(未加工)	1.5	2.75	2.34	2.49	凝灰岩(北上)				
130	第2号～3号住居㉑	石鏃	5.4	1.7	0.95	6.48	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	193図	
131	第2号～3号住居㉒	尖頭器?	2.1	4.9	1	8.04	軽石(北上)		スクレイパー-A類?	194図	
132	第2号～3号住居㉒	尖頭器	4.5	2.5	1.25	9.11	頁岩(北上)	欠損		194図	
133	第2号～3号住居㉒	〃	4.5	2.3	1.35	11.43	頁岩(北上)			194図	
134	第2号～3号住居㉒	石鏃	4.35	1.35	0.8	5.46	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	194図	
135	第2号～3号住居㉒	尖頭器?	2.8	4.7	1.1	12.6	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	194図	

写真図版125 石器(9) (126はS=1/3 他はS=2/3)



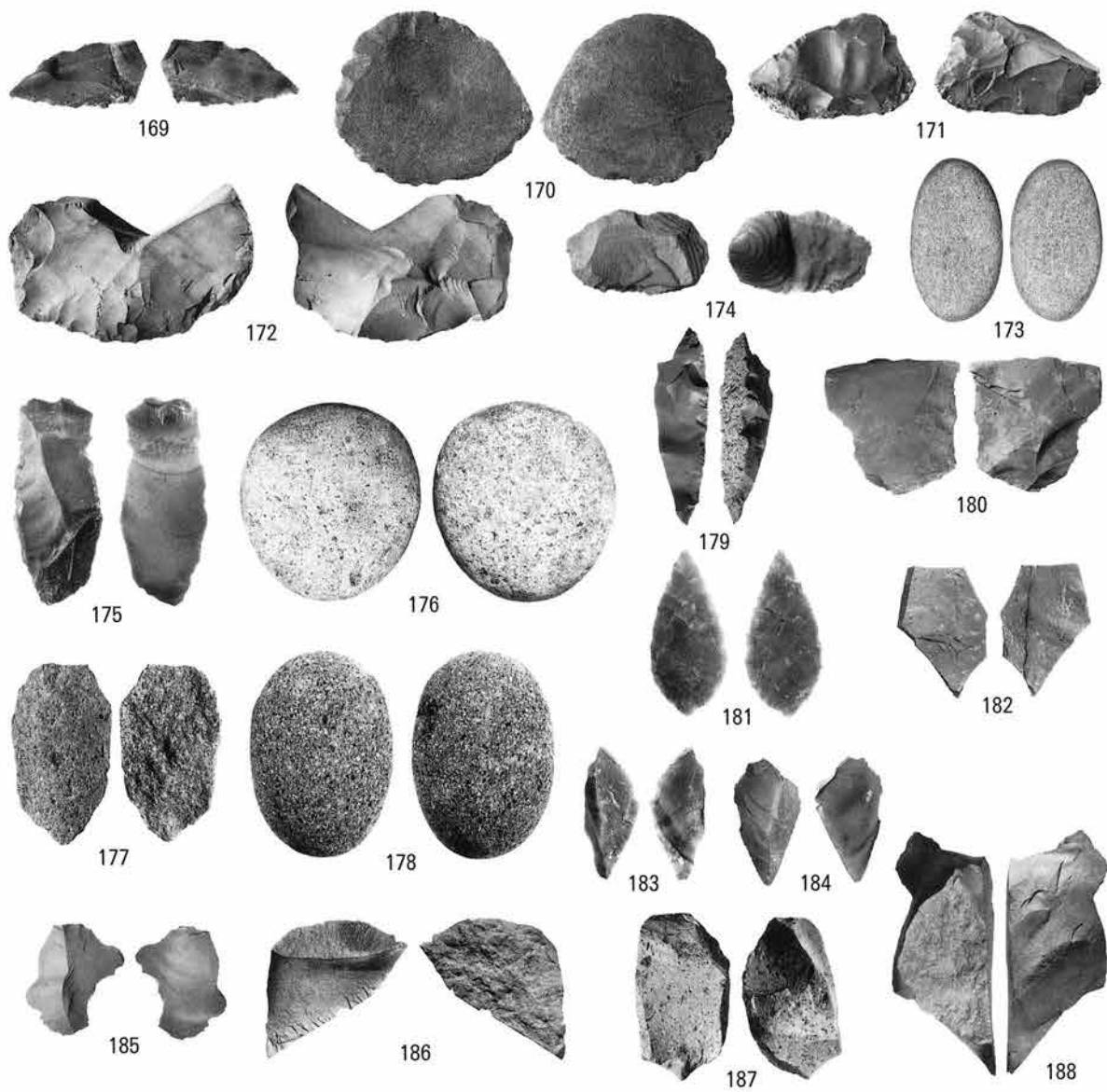
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
136	第2号～3号住居⑧	尖頭器?	2.6	4.5	1.1	10.45	ホルンフェルス(北上)		〃		194図
137	第2号～3号住居⑧	石錐?	2.7	1.65	0.8	2.83	頁岩(北上)		石錐?		194図
138	第2号～3号住居⑧	石鏃?	3.2	2.2	0.7	4.44	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?		194図
139	第2号～3号住居⑧	石鏃?	3.85	1.7	0.6	2.74	凝灰岩(北上)	完形	凸基		194図
140	第2号～3号住居⑧	石鏃?	4.4	2.6	1.05	10.33	頁岩(北上)		尖頭器?・凹基		194図
141	第2号～3号住居⑧	スクレイパー-A類	3.65	5.8	1.5	25.07	チャート(北上)				194図
142	第2号～3号住居⑧	尖頭器?	2.8	3.3	1.2	8.92	頁岩(北上)		破片(患部?)		194図
143	第2号～3号住居⑧	尖頭器	8.2	2.7	1.2	24.58	頁岩(北上)	略完形	他と異なり縦長の一般的な形		195図
144	第2号～3号住居⑧	石鏃?	4.2	2.4	1	7.98	頁岩(北上)		尖頭器?		195図
145	第2号～3号住居⑧	スクレイパー-A類	4	5	1.65	30.09	頁岩(北上)	欠損			195図
146	第2号～3号住居⑧	尖頭器?	3.2	2.7	1	6.6	頁岩(北上)	1/2			195図
147	第4号住居 柱穴1・5層	スクレイパー-A類	2.95	3.7	1	6.24	頁岩(北上)				195図
148	第10号住居北西隅付近 (第4A号炉跡横)	フレイク?	5.03	3.19	1.56	31.23	頁岩(北上)				
149	第10号住居北西隅付近 (第4A号炉跡横)	フレイク	2.71	1.16	0.43	1.22	流紋岩(北上)				
150	第10号住居北西隅付近 (第4A号炉跡横)	Uフレイク?	2.4	2.1	1.2	4	頁岩(北上)				195図
151	第10号住居北西隅付近 (第4A号炉跡横)	フレイク	3.07	2.5	0.58	3.06	頁岩(北上)				
152	第10号住居北西隅付近 (第4A号炉跡横)	〃	3.98	2.51	1.06	8.8	流紋岩(北上)				
153	第10号住居北西隅付近 (第4A号炉跡横)	〃	3.62	1.89	1.26	8.22	珪質頁岩(北上)				

写真図版126 石器(10) (148はS=1/3 他はS=2/3)



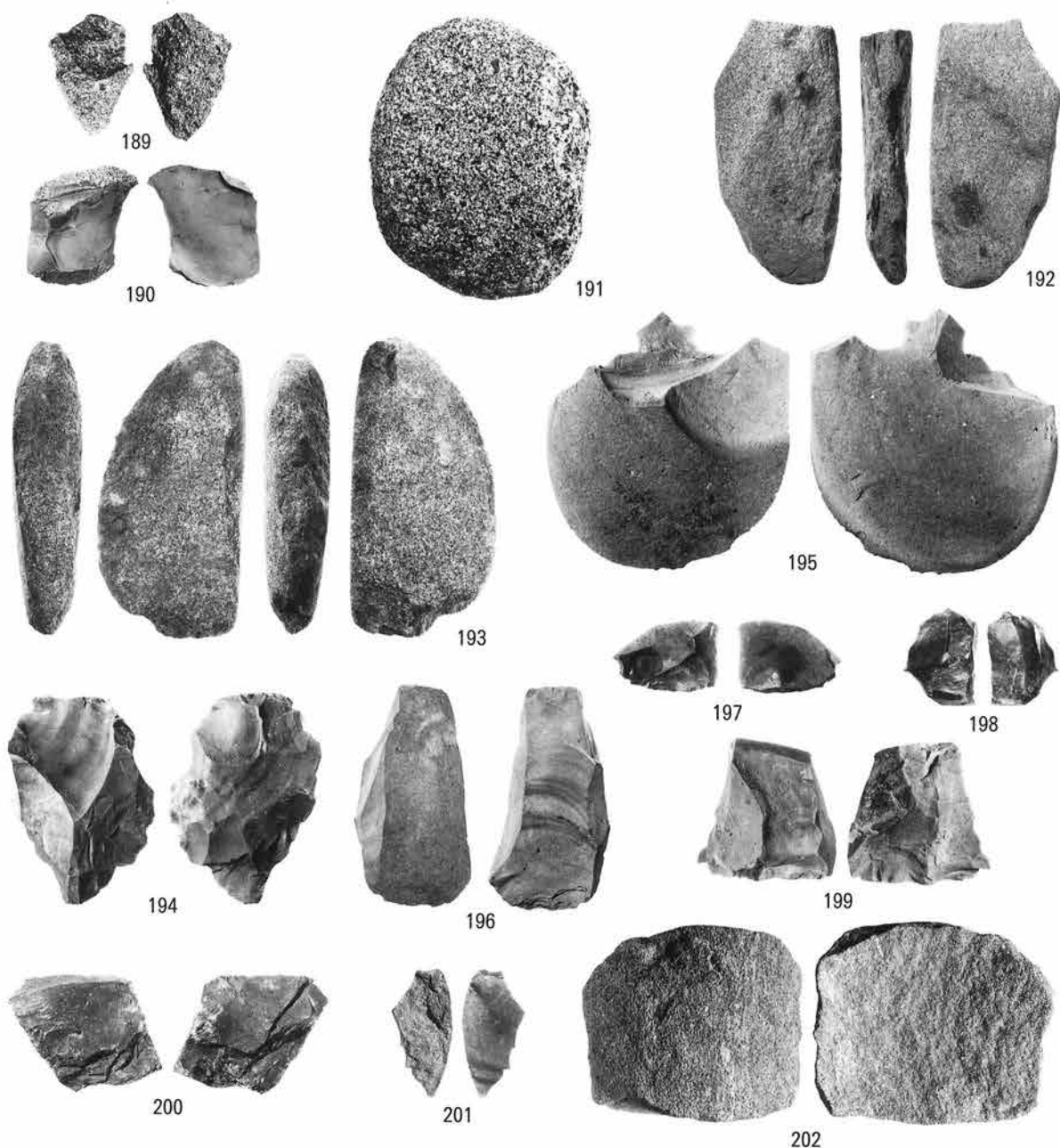
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
154	第10号住居北西隅付近(第4A号炉跡横)	フレイク	5.05	3.46	1.37	15.88	流紋岩(北上)				
155	第10号住居北西隅付近(第4A号炉跡横)	〃	2.15	1.88	0.92	3.14	頁岩(北上)				
156	第10号住居北西隅付近(第4A号炉跡横)	〃	2.57	2.14	1.1	5.62	頁岩(北上)				
157	第4B、C号炉跡(B?)	Rフレイク	1.4	2.4	0.6	1.6	頁岩(北上)			195図	
158	第4B、C号炉跡炉周辺	フレイク	2.5	2.5	1.2	7.54	頁岩(北上)			195図	
159	第4B、C号炉跡炉周辺	スクレイパーA類	2.8	4.2	0.75	11.92	頁岩(北上)			195図	
160	第5A号炉跡	凹石?	14.5	10	4.4	571.88	砂岩(久慈層群)	欠損	石皿状の石に多くの凹み	195図	
161	第5A号炉跡	敲石?	14.82	8.68	4.57	840.43	花崗岩(北上)				
162	第5C号炉跡 炉体土器	敲石	11.78	7.85	4.66	732.95	石英安山岩(北上)	欠損			
163	第5C号炉跡 炉体土器	磨石?	8.48	8.16	2.85	295.53	砂岩(北上)		一辺に磨面		
164	第5C号炉跡 炉体土器	スクレイパーA類	1.6	2.5	0.4	1.89	頁岩(北上)	破片		196図	
165	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	〃	2.7	3.65	0.85	11.12	頁岩(北上)			196図	
166	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	〃	3.05	5.2	0.95	19.25	珪質頁岩(北上)			196図	
167	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	ピエス・エスキュー?	3.8	3.6	0.9	15.05	頁岩(北上)			196図	
168	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	石匙	7.1	3.95	1.35	38.83	珪質頁岩(北上)	略完形		196図	

写真図版127 石器(11) (156、160~163はS=1/3 他はS=2/3)



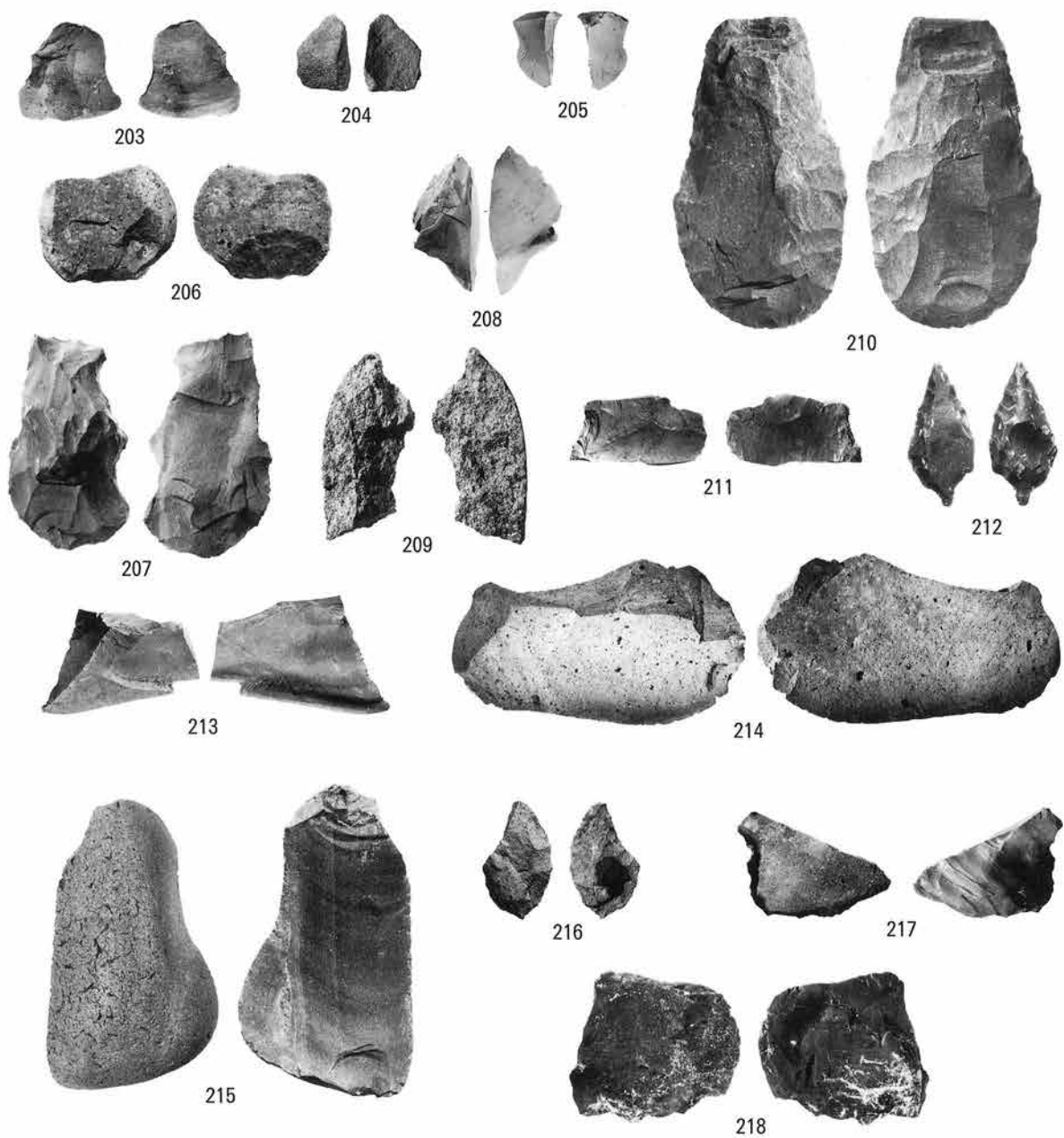
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
169	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	スクレイパーA類	1.5	3.05	0.35	1.63	頁岩(北上)		Rフレイク	196図	
170	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	〃	3.8	4.4	0.8	16.43	ホルンフェルス(北上)		*、図から考えると2層のものが多い	196図	
171	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	〃	2.25	3.65	0.8	6.59	頁岩(北上)			196図	
172	第42号焼土、第5A号~5B号炉跡周囲	〃	3.7	5.3	1.25	21.97	頁岩(北上)	欠損		196図	
173	第6号炉跡炉 図面にあり	不明石製品	7.19	4.06	1.75	84.54	ホルンフェルス(北上)		縁辺部に磨面あり		
174	第7号住居 柱穴2	Uフレイク?	1.9	3.1	0.4	2.31	頁岩(北上)			196図	
175	第7号住居 柱穴2	スクレイパーA類	4.5	2	0.7	3.39	頁岩(北上)		Rフレイク	196図	
176	第7号住居 柱穴4 半裁時	磨破器類?	8.64	7.85	2.36	243.54	石英安山岩(北上)				
177	第8号住居 柱穴・3層	〃	3.76	2.11	0.66	5.68	砂岩(北上)	破片			
178	第10号住居・2層	敲石	9.6	6.6	5.8	546.9	溶結凝灰岩(北上)		頂部に敲打痕	197図	
179	第10号住居・4層	フレイク	4.04	1.08	0.98	3.35	頁岩(北上)				
180	第10号住居・4層	〃	2.89	2.88	0.5	3.7	頁岩(北上)				
181	第10号住居・4層(床面)	石鏝	3.55	1.65	0.4	2.45	珪質頁岩(北上)	完形	円基	197図	
182	第10号住居②	フレイク	3	1.91	0.28	1.87	頁岩(北上)				
183	第10号住居②	〃	2.71	1.2	0.77	2.02	チャート(北上)				
184	第10号住居②	〃	2.7	1.4	0.5	1.27	頁岩(北上)		Uフレイク??	197図	
185	第10号住居②	〃	2.41	2.1	0.39	1.05	頁岩(北上)				
186	第10号住居②	〃	3.83	2.06	0.6	3.53	頁岩(北上)				
187	第10号住居②	〃	3.52	1.99	1.14	8.49	流紋岩(北上)				
188	第10号住居②	〃	5.67	2.25	1.77	18.05	頁岩(北上)				

写真図版128 石器(12) (173、176、178はS=1/3 他はS=2/3)



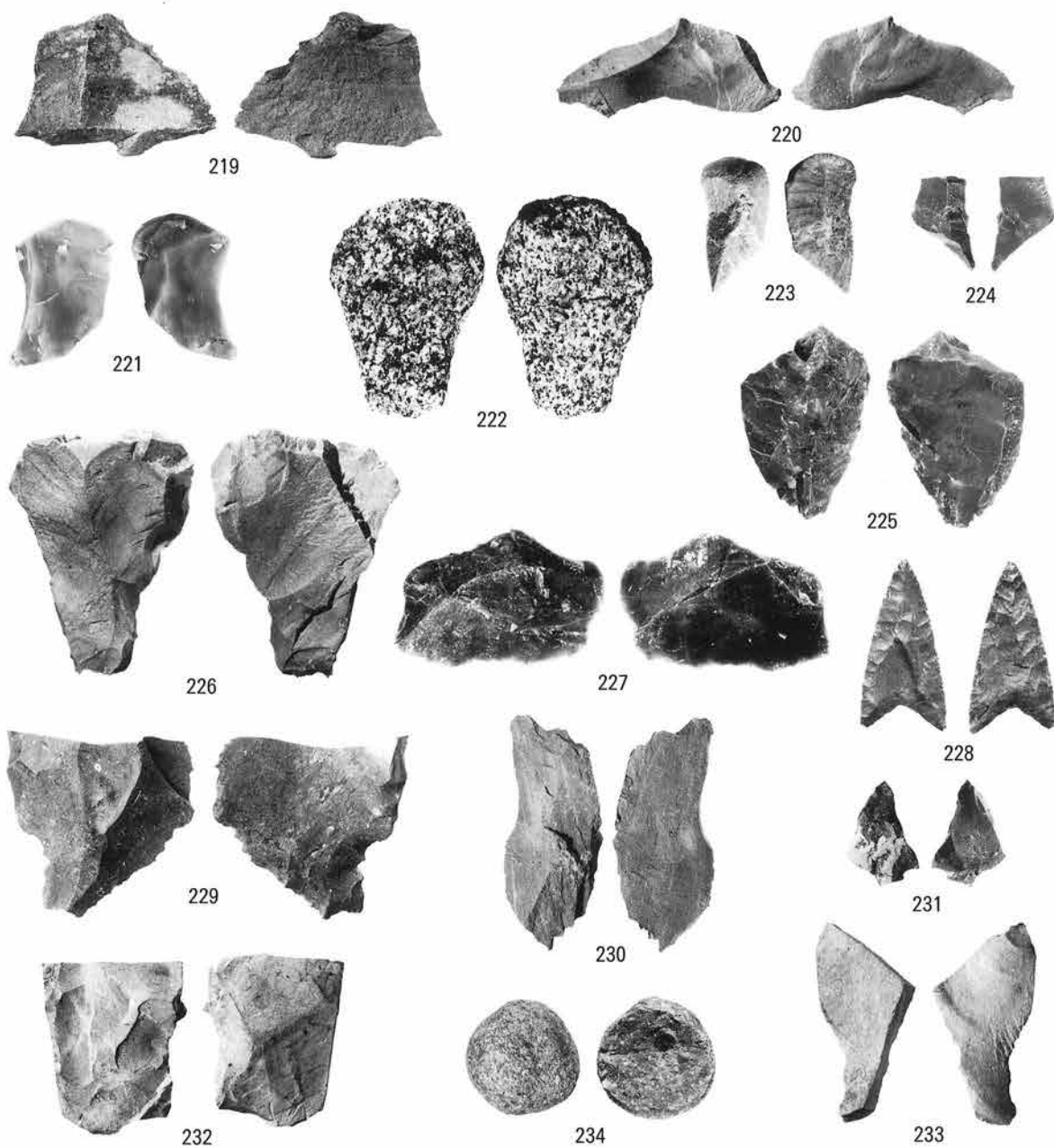
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
189	第10号住居②	フレイクB類	5.36	3.6	1.52	29.84	ひん岩(北上)				
190	第10号住居④	フレイク	2.95	2.47	0.55	3.1	頁岩(北上)				
191	第10号住居 カマド崩土石	敲石	13.35	10.3	4	783.98	花崗閃緑岩(北上)	剥落ひどい		197図	p.213
192	第10号住居	打製石斧?	11.9	5.9	2.7	251.24	ホルンフェルス(北上)	欠損			
193	第10号住居	〃	13.7	6.7	3.3	481.37	はんれい岩(北上)	〃			197図
194	第11号住居(第105号土坑含む)①	スクレイパーA類	4.7	3.5	1.2	17.55	頁岩(北上)		尖頭器?		197図
195	第11号住居(第105号土坑含む)①	フレイク	5.8	5.7	1.8	39.83	頁岩(北上)				197図
196	第11号住居(第105号土坑含む)①	ピエス・エスキュー?	5	3.7	1.4	17.23	頁岩(北上)				197図
197	第11号住居(第105号土坑含む)③	フレイク	2.35	1.6	0.3	1.44	頁岩(北上)				198図
198	第11号住居カマド付近?	〃	2.05	1.57	0.74	2.45	頁岩(北上)				
199	第11号住居カマド付近?	スクレイパーA類?	3.27	3.1	1.6	19.24	頁岩(北上)				
200	第11号住居②	〃	3.75	2.75	0.72	6.83	頁岩(北上)		フレイク?		
201	第11号住居④	フレイク	2.9	1.43	0.31	0.82	頁岩(北上)				
202	第11号住居④	磨敲器類?	3.35	3.71	0.34	49.68	ホルンフェルス(北上)	破片			

写真図版129 石器(13) (189、191~193はS=1/3 他はS=2/3)



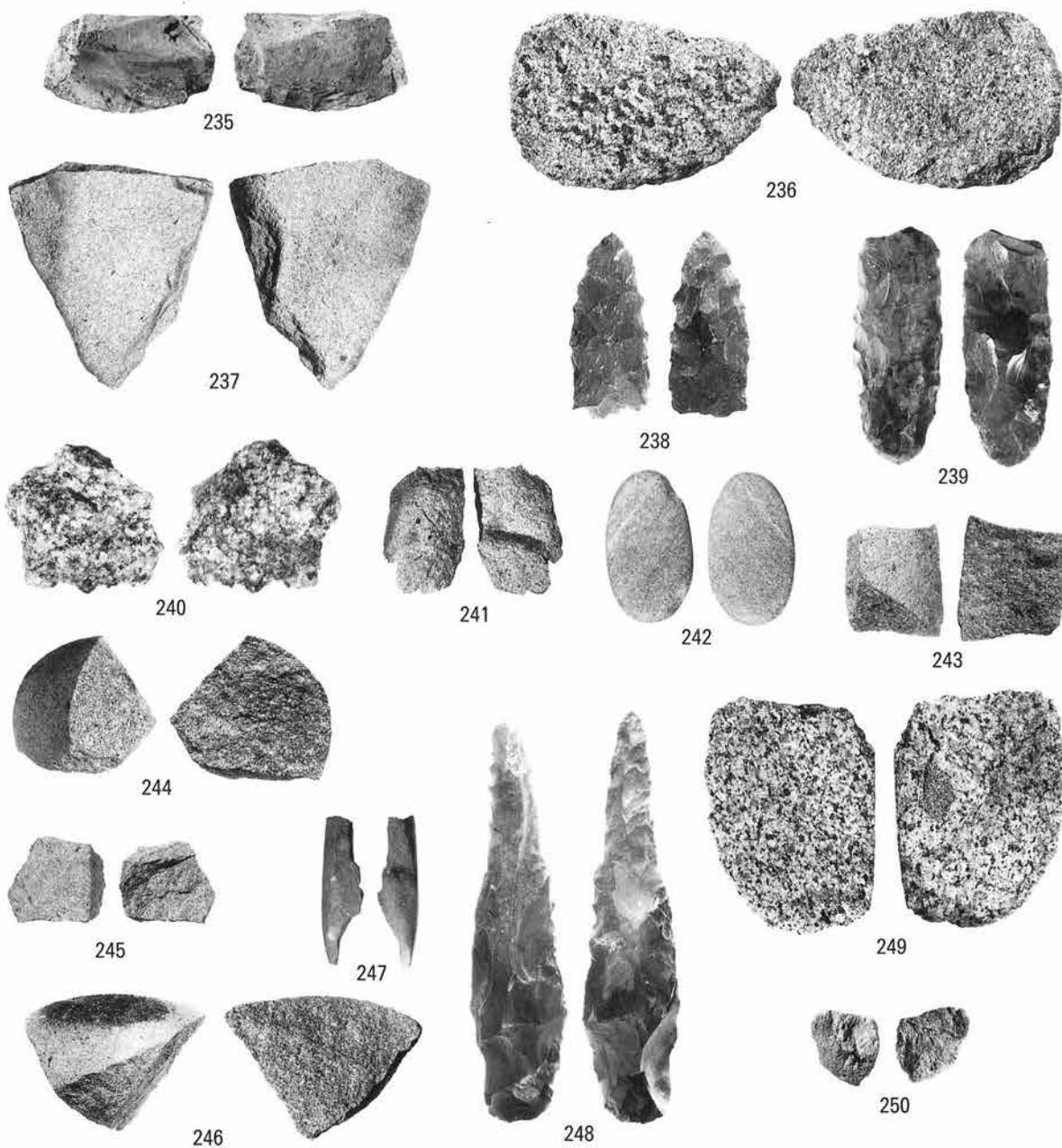
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
203	第11号住居④	フレイク	0.8	0.82	0.3	1.48	頁岩(北上)				
204	第11号住居④	磨砕器類?	3.45	2.25	1.48	9.51	ホルンフェルス(北上)	破片			
205	第11号住居④	フレイク	1.67	1.02	0.58	0.63	頁岩(北上)				
206	第11号住居④	ク	2.5	3	0.8	4.71	流紋岩(北上)			198図	
207	第11号住居④	スクレイパーA類	4.9	2.8	1.1	18.22	頁岩(北上)				198図
208	第11号住居④	フレイク	3.01	1.55	1.28	4.28	頁岩(北上)				
209	第1号住居状遺構・4層	磨砕器類	1.27	3.81	2	10.82	頁岩(北上)	破片			
210	第1号住居状遺構・4層	石筥	6.9	3.9	1.5	38.83	頁岩(北上)		基部に黒色付着物	198図	
211	第2号住状遺構	スクレイパーA類?	1.6	2.9	0.6	2.97	頁岩(北上)		フレイク?	198図	
212	第2号住状遺構	石鏃	3.2	1.5	0.5	2.53	頁岩(北上)	略完形	凸基・裏面剥離少ない	198図	
213	第2号住状遺構	フレイク	2.49	3.75	2.08	9.87	頁岩(北上)				
214	第2号住状遺構	ク	3.8	6.8	1.3	26.76	頁岩(北上)		縁辺部、火を受けているのか赤黒い	198図	
215	第2号住状遺構	ク	6.47	3.69	1.6	39.4	頁岩(北上)				
216	第1号土坑	石鏃?	2.6	1.5	0.5	1.69	頁岩(北上)	欠損		198図	
217	第1号土坑	スクレイパーA類	2.45	3.3	0.55	3.97	頁岩(北上)			198図	
218	第1号土坑	スクレイパーA類?	3.5	3.9	0.8	13.08	チャート(北上)		フレイク?	198図	

写真図版130 石器(14) (204はS=1/3 他はS=2/3)



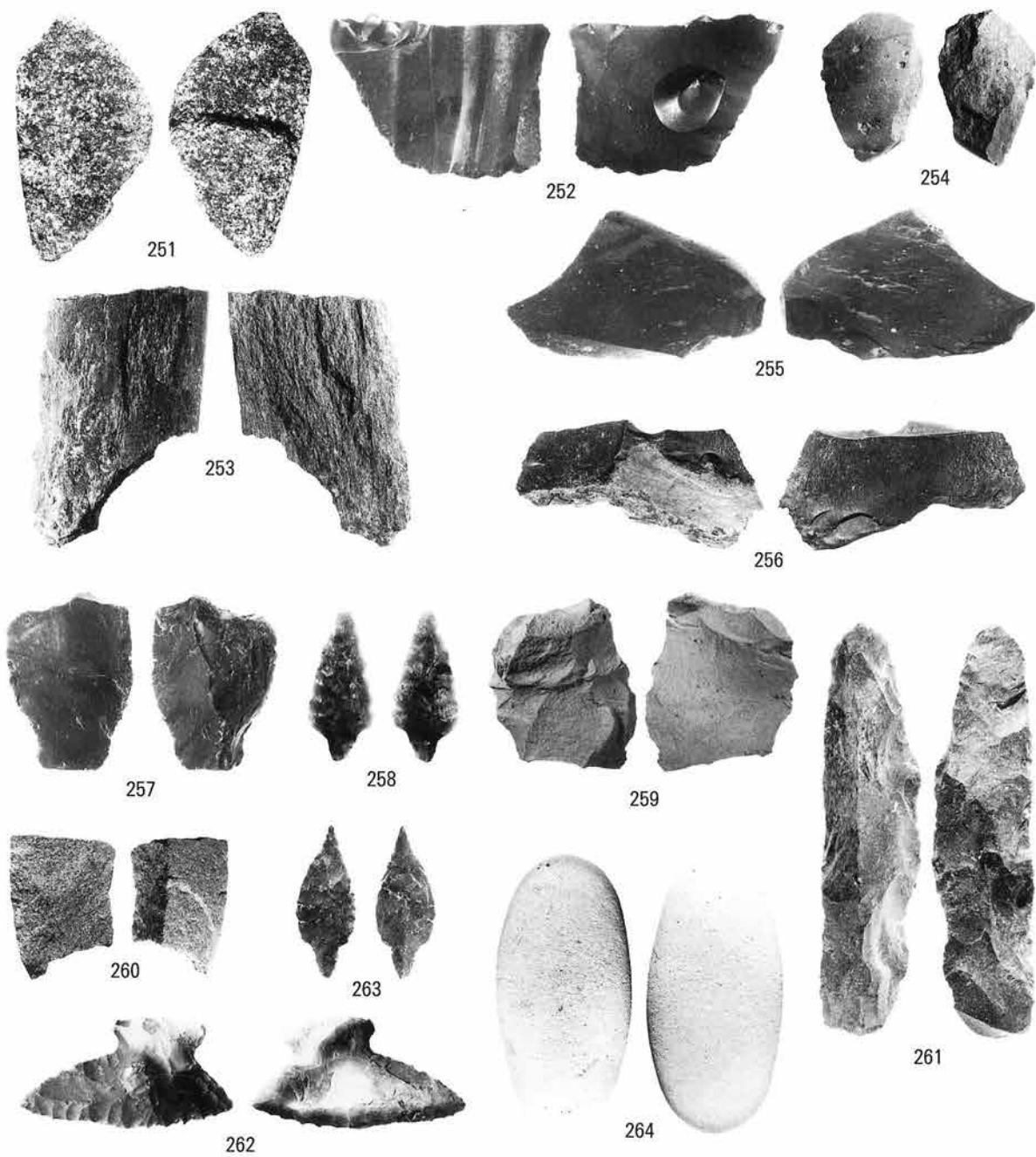
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
219	第1号土坑	フレイクB類	3.25	4.48	0.76	9.17	頁岩(北上)				
220	第1号土坑	フレイク	2.2	4.85	0.4	3.73	頁岩(北上)			198図	
221	第1号土坑	〃	3.58	2.37	0.77	4.65	チャート(北上)				
222	第1号土坑	磨砕器類?	10.29	7.08	2.58	257.49	花崗閃緑岩(北上)		さざるとゴロゴロ崩れる		
223	第2号土坑	フレイク?	3.13	1.47	0.78	2.83	頁岩(北上)				
224	第2号土坑	フレイク	2.15	1.28	0.51	1.21	頁岩(北上)				
225	第2号土坑	フレイク?	4.31	2.94	1.33	15.58	チャート(北上)				
226	第2号土坑	フレイク	5.8	4.4	2	37.47	頁岩(北上)				199図
227	第2号土坑	〃	3.3	4.2	1	14.77	チャート(北上)				199図
228	第3号土坑・15~16層直上	石鏝	3.7	1.9	0.5	2.45	頁岩(北上)	一部欠損	凹基		199図
229	第3号土坑・15~16層より下	スクレイパーA類	4.15	4.35	1.2	17.43	頁岩(北上)				199図
230	第3号土坑・南東壁際底から20cm(16層?)	フレイクB類	5.31	2.22	0.53	5.51	頁岩(北上)				
231	第3号土坑・検出面	フレイク	2.33	1.54	0.58	1.92	頁岩(北上)				
232	第3号土坑	〃	3.8	3.65	1.5	18.64	頁岩(北上)				199図
233	第3号土坑?	Uフレイク	4.5	2.25	0.6	5.08	頁岩(北上)				199図
234	第3号土坑?	敲石	5.05	4.24	5.3	160.98	礫岩(北上)	欠損	全面敲打痕		

写真図版131 石器(15) (222、234はS=1/3 他はS=2/3)



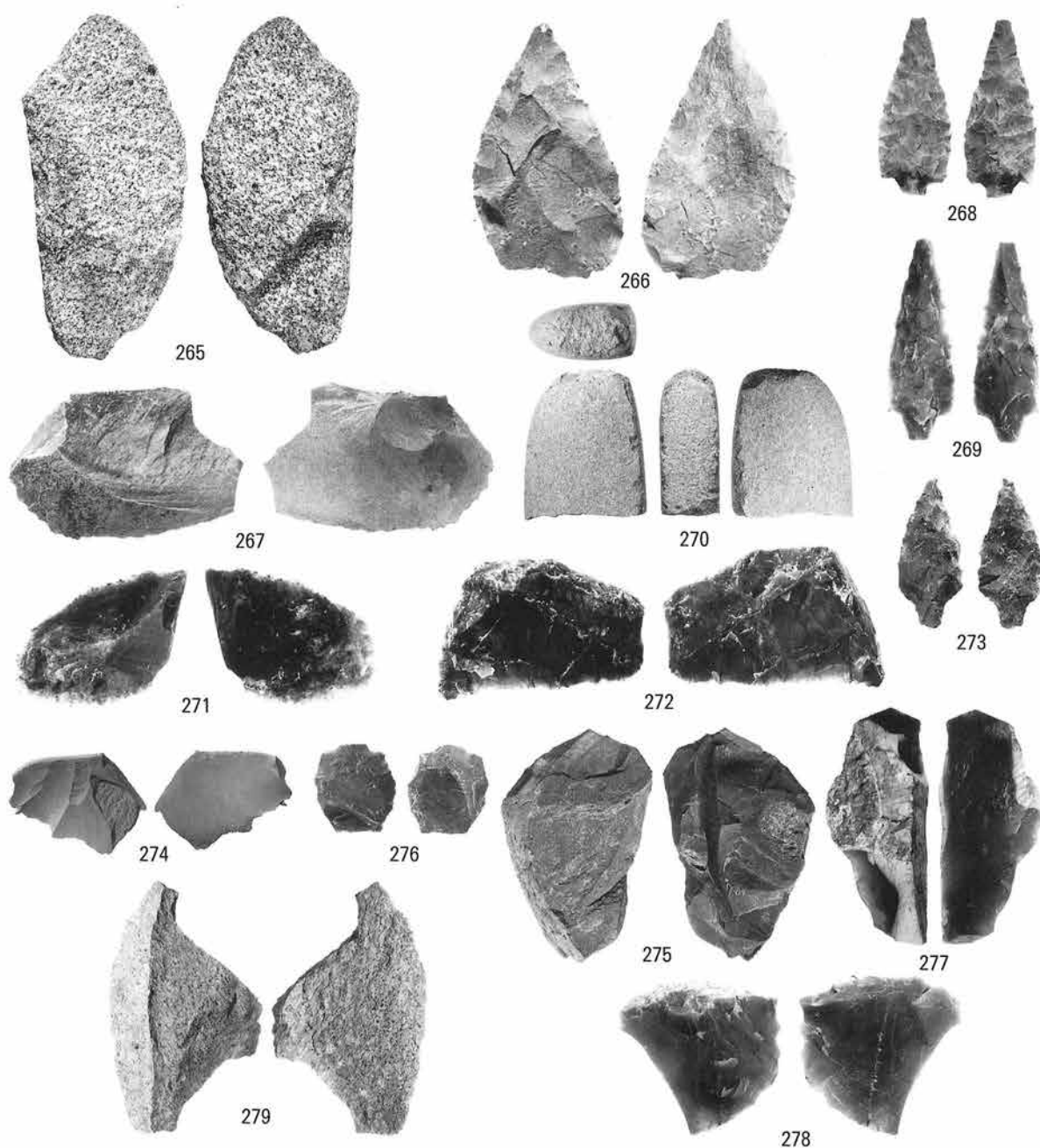
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
235	第4号土坑・1相当層?	スクレイパーA類	2.3	3.9	1.5	11.79	頁岩(北上)			199図	
236	第4号土坑・5層	打製石斧	8	12.15	1.3	257.64	花崗斑岩(北上)			199図	
237	第5号土坑 半裁時	"	10.75	9.23	2.29	244.79	ひん岩(北上)	欠損			
238	第5号土坑 半裁時	石鏝	4.2	1.95	1	6.92	頁岩(北上)		平基	199図	
239	第8号土坑	スクレイパーA類?	5.2	2	1	12.73	頁岩(北上)			199図	
240	第8号土坑	磨敲器類	3.68	3.34	1.1	10.11	花崗閃緑岩(北上)	破片			
241	第9号土坑	磨敲器類?	5.98	3.54	1.17	20.46	ひん岩(北上)	"	スス付着・敲打痕		
242	第12号土坑 半裁時	磨石C類	6.61	3.7	1.24	48.71	ホルンフェルス(北上)				
243	第13号土坑・18層	磨石?	2.55	2.1	1.34	7.39	砂岩(北上)	破片			
244	第14号土坑・3層	磨石?	2.54	2.71	2.91	20.86	砂岩(北上)	破片			
245	第14号土坑・10層	"	2.28	2.1	0.65	2.59	砂岩(北上)	"			
246	第14号土坑 半裁時	"	3.92	2.39	2.33	17.43	砂岩(北上)	"	スス付着		
247	第15号土坑・5層	磨製石斧	6.98	2.07	2.07	35.15	頁岩(北上)	"	表面擦痕多		
248	第15号土坑・10層?	尖頭器? 石鏝?	9.2	2.2	1.6	22.13	頁岩(北上)		磨し途で長い丸頭石・基部部による変色?	200図	
249	第15号土坑 半裁時	打製石斧	10.72	7.93	1.78	262.32	花崗閃緑岩(北上)	欠損	半円扁平		
250	第16号土坑・最上層の次(2層の上まで)	軽石加工品?	1.66	1.46	1.55	0.71	軽石(北上)	破片			

写真図版132 石器(16) (236、237、241、242、247、249はS=1/3 他はS=2/3)



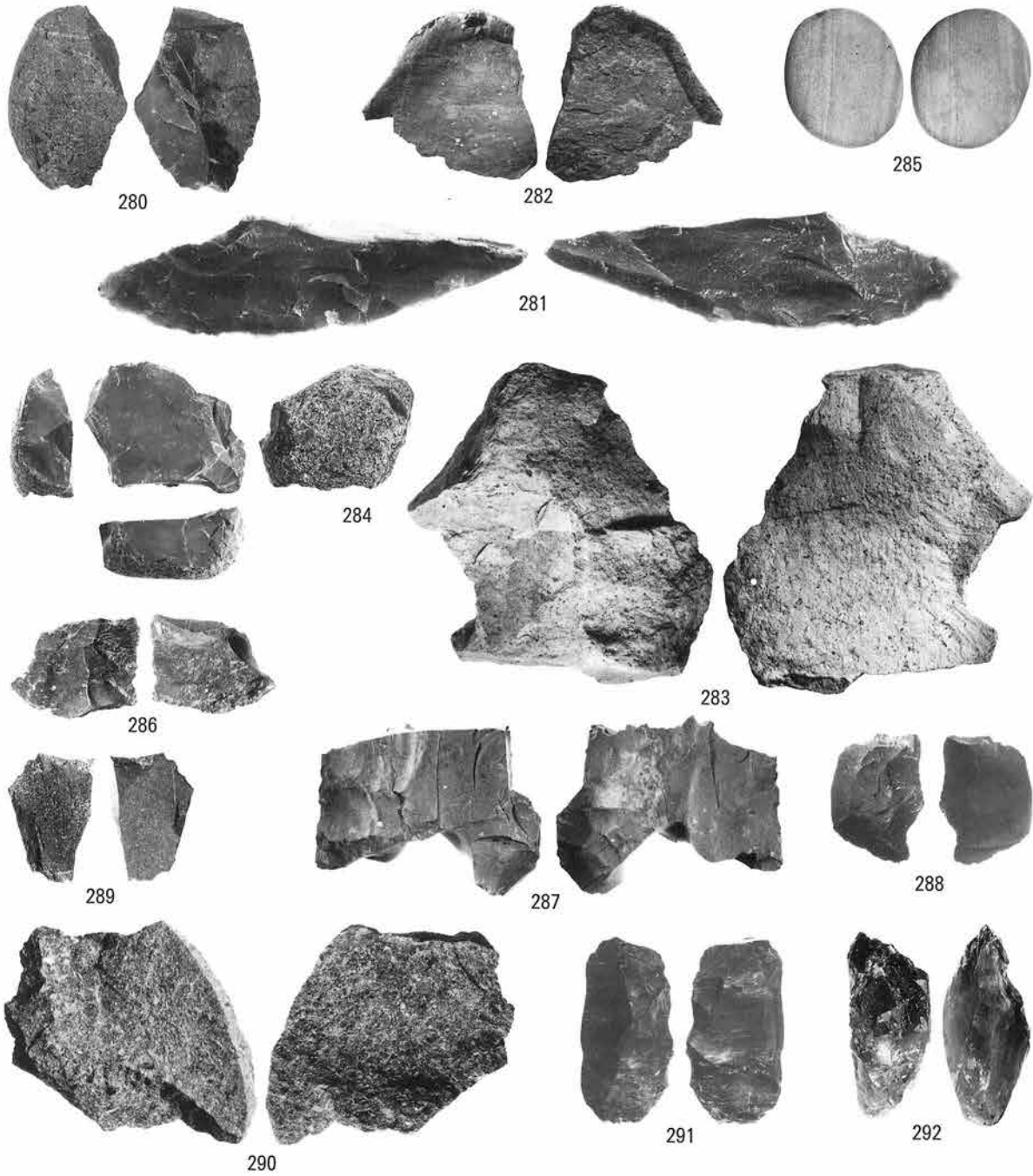
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
251	第16号土坑・9~10層上面?	打製石斧	11.65	6.58	1.96	185.13	花崗閃緑岩(北上)	欠損	半円扁平		
252	第16号土坑 半裁時	スクレイパー-A類	3.6	4.8	1.75	14.99	頁岩(北上)		Rフレイク	200図	
253	第17号土坑・1~6層	打製石斧?	5.83	3.7	0.76	24.35	ホルンフェルス(北上)	破片	石剣類破片?		
254	第17号土坑 半裁時	磨石?	2.23	3.3	2.12	10.39	頁岩(北上)	"			
255	第18号土坑	Uフレイク?	3.5	6.8	1.2	19.55	頁岩(北上)			200図	
256	第18号土坑	フレイク	5.63	2.74	0.66	8.77	頁岩(北上)				
257	第18号土坑	"	4.05	2.9	1.2	14.65	チャート(北上)			200図	
258	第19号土坑	石鏃	3.5	1.55	0.5	2.47	珪質頁岩(北上)	鏃・鏃頭	凸基	200図	
259	第19号土坑	フレイク	3.96	3.2	1.12	11.71	頁岩(北上)				
260	第21号土坑 半裁時	磨石?	3.07	1.82	1.69	11.46	砂岩(北上)	破片			
261	第21号土坑 半裁時	スクレイパー-A類	9.8	2.4	1.9	37.72	頁岩(北上)		No248のような形の未製品?	200図	
262	第22号土坑・5層	石匙	2.6	4.8	0.8	7.73	頁岩(北上)	完形		200図	
263	第22号土坑(一部第23号土坑含む) 半裁時	石鏃	3.55	1.4	0.7	2.33	頁岩(北上)	"	凸基	200図	
264	第22号土坑(一部第23号土坑含む) 半裁時	敲石	13.01	6.35	2.8	305.98	凝灰岩(北上)		側面敲打痕(一部面をなす)		

写真図版133 石器(17) (251、264はS=1/3 他はS=2/3)



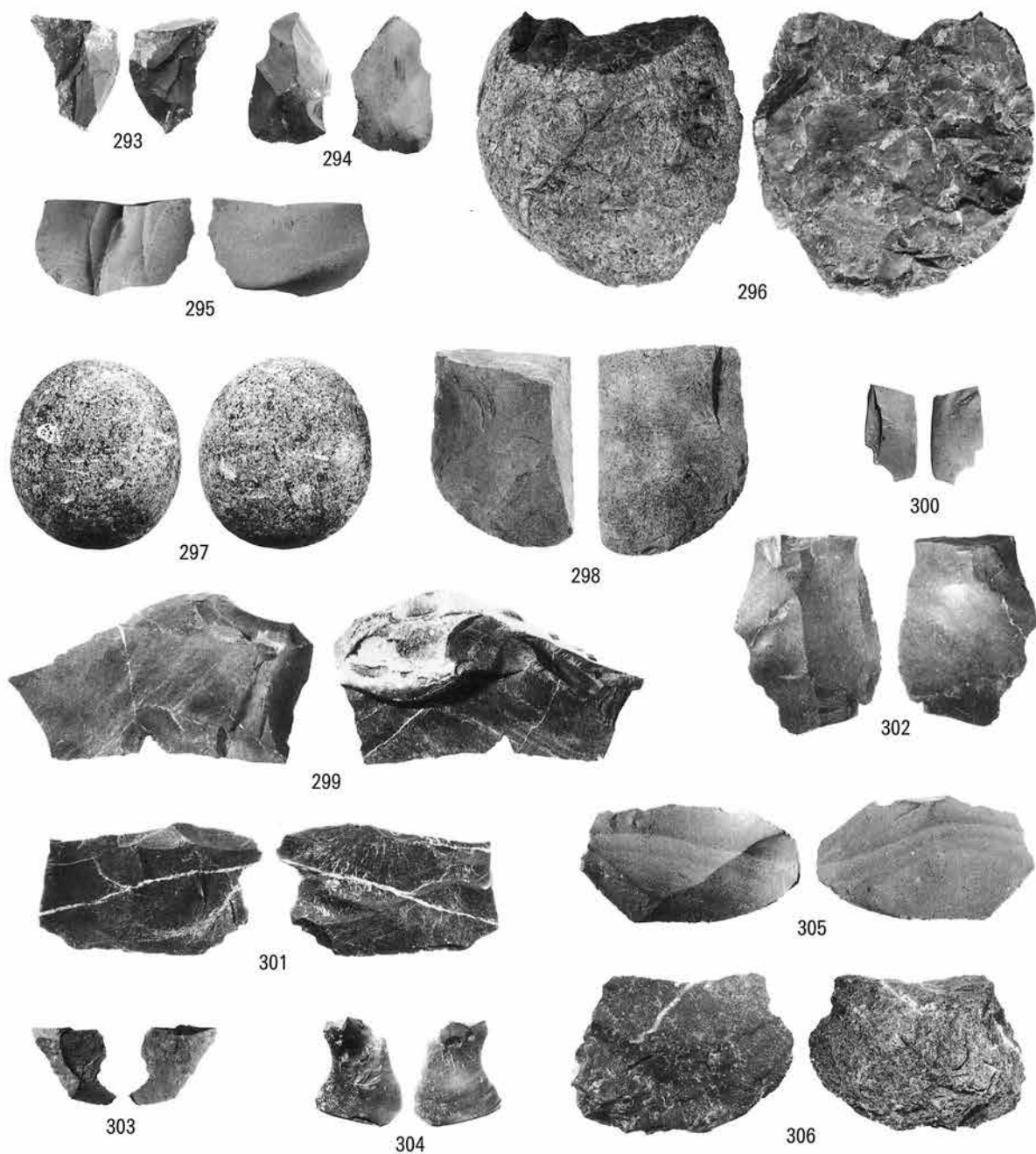
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
265	第23号土坑・10層	打製石斧	15.38	7.03	2.29	297.74	花崗閃緑岩(北上)	一部欠損	半円扁平		
266	第24号土坑・5層	尖頭器	6	3.6	1.15	15.92	頁岩(北上)			200図	
267	第24号土坑・10層	スクレイパーA類	3.45	5.3	1	13.35	頁岩(北上)		Rフレイク	200図	
268	第24号土坑・12層	石鏃	4.1	1.7	0.75	3.98	頁岩(北上)	鏃・鏃頭	凸基・基部黒色付着物	201図	
269	第24号土坑・12層	石鏃	4.65	1.6	0.8	4.81	頁岩(北上)	〃	凸基	201図	
270	第24号土坑・13層	磨石B類	6.88	5.8	2.93	233.83	砂岩(北上)	欠損			
271	第24号土坑・13層相当層	スクレイパーA類	2.85	4.7	1.3	11.88	チャート(北上)		Rフレイク	201図	
272	第24号土坑・13層相当層	スクレイパーA類	3.3	5.1	1.4	20	チャート(北上)		〃	201図	
273	第24号土坑 半裁時	石鏃	3.45	1.6	0.7	2.88	頁岩(北上)	基部欠損	凸基	201図	
274	第25号土坑	フレイク	3.01	2.18	0.44	2.06	頁岩(北上)				
275	第25号土坑	〃	5	3.28	1.09	19.35	頁岩(北上)				
276	第25号土坑	石鏃?	2	1.9	0.6	2.37	頁岩(北上)	胴破片	凸基	201図	
277	第25号土坑	フレイク	5.35	2.28	0.61	7.96	珧質頁岩(北上)				
278	第25号土坑	スクレイパーA類	3.65	3.75	1	11.61	珧質頁岩(北上)		Rフレイク	201図	
279	第25号土坑	磨破器類?	5.72	3.42	0.81	12.12	花崗岩(北上)	破片			

写真図版134 石器(18) (265、270はS=1/3 他はS=2/3)



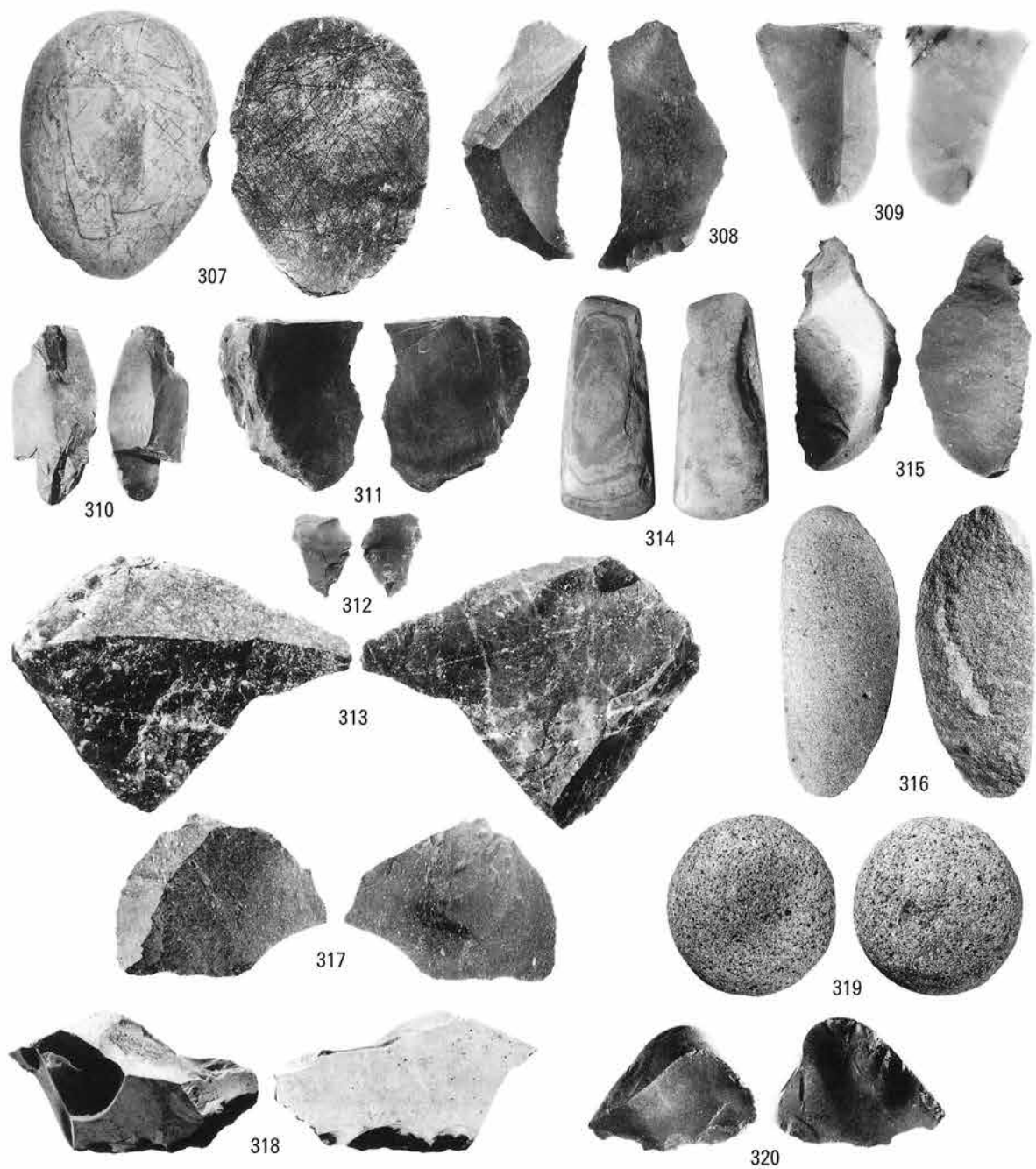
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
280	第25号土坑	残核	4.4	2.43	1.68	24.88	頁岩(北上)				
281	第25号土坑	スクレイパーA類	3.1	10	0.8	36.05	珪質頁岩(北上)			201図	
282	第25号土坑	フレイク	8.14	7.84	2.91	102.86	石英斑岩(北上)				
283	第25号土坑	〃	8.28	7.09	2.13	73.62	流紋岩(北上)				
284	第25号土坑	残核	7.45	6.55	3.7	208.2	赤色頁岩(北上)			201図	
285	第25号土坑	磨石C類	6.72	5.56	1.85	107.1	砂岩(北上)				
286	第25号土坑	フレイク	3.22	2.1	0.93	5.32	頁岩(北上)				
287	第25号土坑	スクレイパーA類?	4	1.6	1.6	35.24	頁岩(北上)			201図	
288	第25号土坑	Uフレイク	3	2.2	0.8	2.68	頁岩(北上)			201図	
289	第25号土坑	フレイクB類?	2.96	2	0.53	3.28	頁岩(北上)				
290	第25号土坑	フレイクB類	6.03	4.87	1.12	27.27	ひん岩(北上)				
291	第25号土坑	スクレイパーA類?	4.3	2.25	1.2	12.05	頁岩(北上)			202図	
292	第25号土坑	フレイク??	4.28	1.8	1.36	12.95	石英(水晶)(北上)				

写真図版135 石器(19) (282、284、285はS=1/3 他はS=2/3)



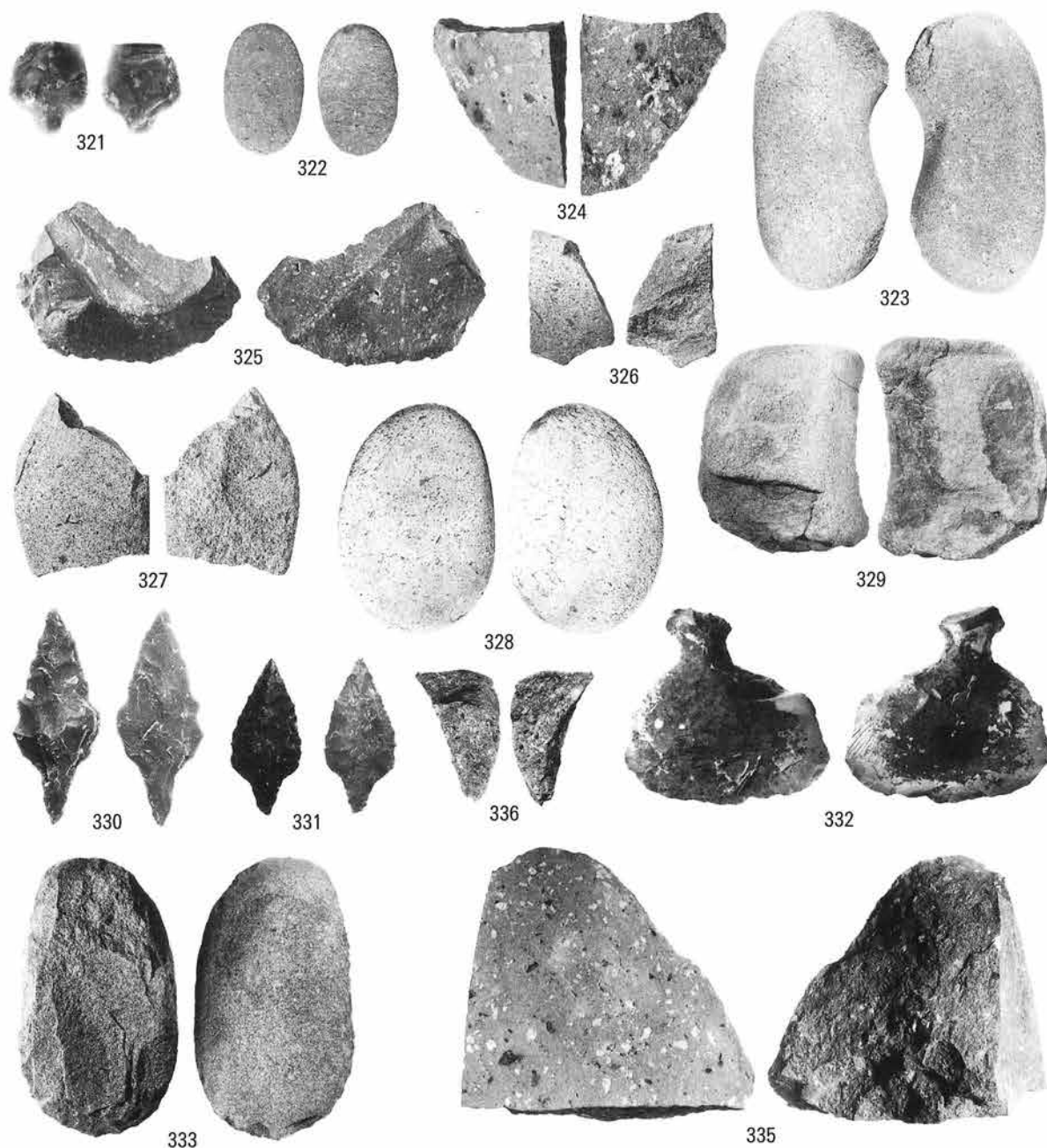
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
293	第25号土坑	スクレイパー-A類?	2.67	1.93	0.86	4.05	赤色頁岩(北上)		フレイク?		
294	第25号土坑	フレイク?	3.15	1.85	1	3.99	頁岩(北上)			202図	
295	第25号土坑	フレイク	3.57	2.28	0.88	8.24	頁岩(北上)				
296	第25号土坑	残核	14.04	12.08	4.03	792.67	チャート(北上)				
297	第25号土坑	敲石	9.3	8.35	4.6	524.22	溶結凝灰岩(北上)		正面中央敲打痕	202図	
298	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	スクレイパー-B類?	4.8	3.4	1.8	30.96	ホルンフェルス(北上)			202図	
299	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	スクレイパー-A類	4.1	7.2	2.2	46.14	頁岩(北上)		Uフレイク	202図	
300	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	フレイク	2.32	1.2	0.29	1.02	頁岩(北上)				
301	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	〃	5.05	3.1	0.65	11.58	頁岩(北上)			202図	
302	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	Uフレイク	4.5	3.4	0.8	10.73	頁岩(北上)			202図	
303	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	フレイク	2.54	1.38	0.71	1.22	頁岩(北上)				
304	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	〃	2.64	2.04	0.4	1.59	頁岩(北上)				
305	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	〃	3	5.1	0.9	11.45	頁岩(北上)			202図	
306	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	フレイク?	3.65	5.1	1.1	23.38	珪質頁岩(北上)			203図	

写真図版136 石器(20) (296、297はS=1/3 他はS=2/3)



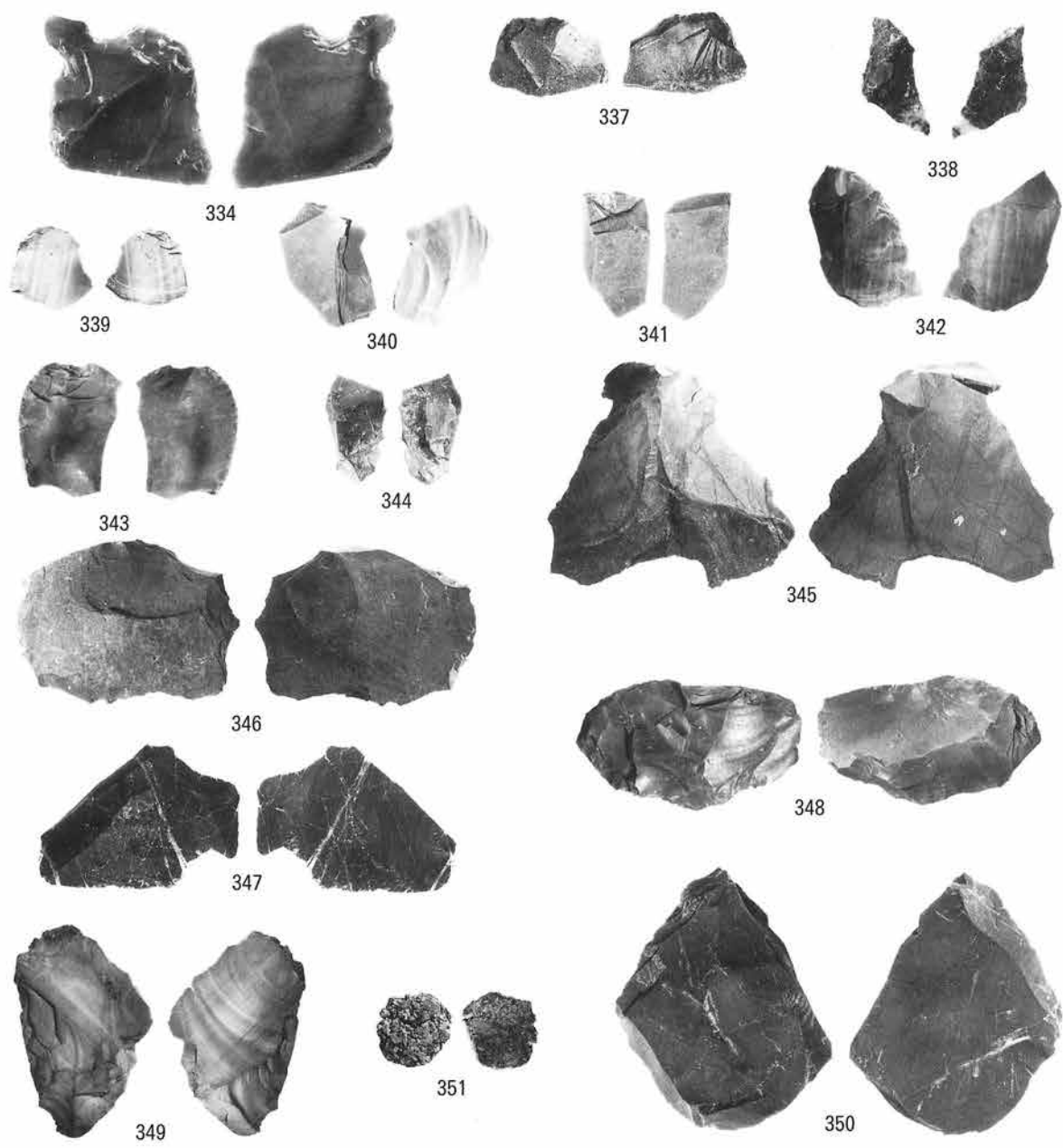
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
307	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	残核?	6.09	4.41	1	38.23	頁岩(北上)				
308	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	スクレイパー-A類	5.6	3.2	1.2	9.92	頁岩(北上)		Rフレイク	202図	
309	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	フレイク	4.06	2.95	0.47	4.51	球質頁岩(北上)				
310	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	〃	3.93	1.8	1.1	7.83	チャート(北上)				
311	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	Uフレイク	4	3.4	1.2	14.56	頁岩(北上)			203図	
312	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	フレイク	2.02	1.37	0.21	0.49	頁岩(北上)				
313	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	〃	8.05	6.24	2.36	74.9	チャート(北上)				
314	第26号土坑・6層相当より下部	磨製石斧	10.68	4.47	1.76	147.72	頁岩(北上)	一部欠損			
315	第26号土坑・13層	スクレイパー-A類	5.45	2.4	1.2	10.45	頁岩(北上)			203図	
316	第26号土坑 半裁時	磨石	13.63	5.59	1.99	187.65	砂岩(北上)	破片	側面磨石B類のような平坦面		
317	第27号土坑・3相当層	スクレイパー-A類	3.7	4.7	1.25	12.86	頁岩(北上)		Rフレイク	203図	
318	第27号土坑・4~5相当層	スクレイパー-A類	3.6	6.1	2.3	40.38	頁岩(北上)		〃	203図	
319	第28号土坑・4、6、7相当層	敲石	8.96	8.54	5.82	635.92	安山岩(北上)		正面中央敲打痕		
320	第28号土坑・10層相当層	スクレイパー-A類	3	3.85	1.3	10.88	頁岩(北上)		Rフレイク	203図	

写真図版137 石器(21) (314、316、319はS=1/3 他はS=2/3)



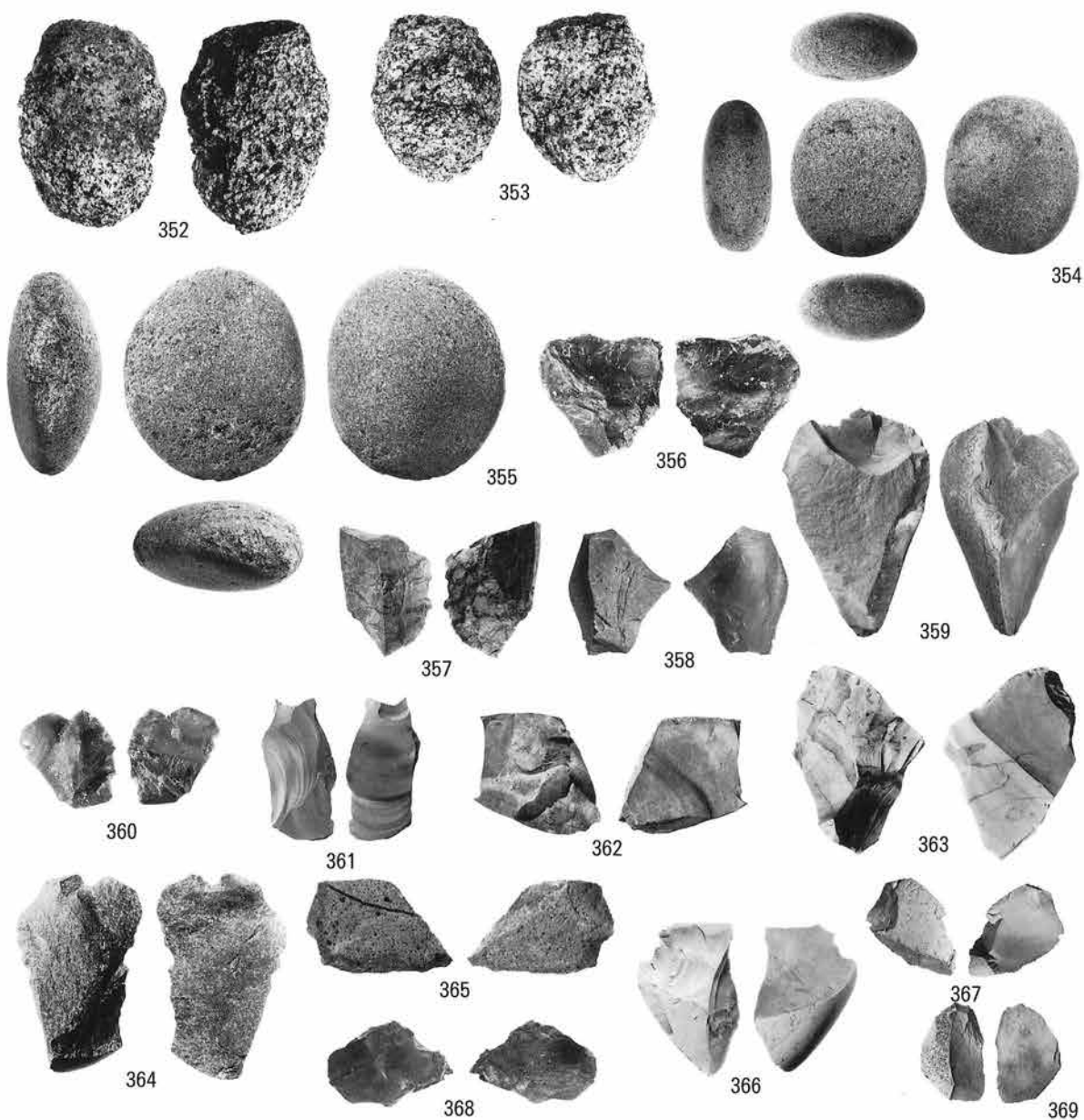
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
321	第28号土坑 半裁時	石鉄	2.2	1.8	0.6	2.04	頁岩(北上)	下部のみ	凸基	203図	
322	第28号土坑 半裁時	敲石?	5.84	3.5	1.05	35.43	砂岩(北上)		縁辺部に敲打痕?・磨石C類影取る		
323	第28号土坑 半裁時	磨石B類?	13.03	6.25	3.07	401.45	ひん岩(北上)		影が他と異なる・縁辺部に敲打痕		
324	第29~31号, 103号, 104号土坑	磨敲器類?	3.77	3.12	1.86	14.55	安山岩(北上)	破片			
325	第29~31号, 103号, 104号土坑	スクレイパー-A類	3.6	5.3	1.35	15.41	頁岩(北上)		Rフレイク	203図	
326	第29~31号, 103号, 104号土坑 半裁時	磨石?	6.8	4.14	2.99	90.16	砂岩(北上)	破片			
327	第29~31号, 103号, 104号土坑 半裁時	凹石	8.9	6.36	2.49	198.13	閃緑岩(北上)	"			
328	第29~31号, 103号, 104号土坑 半裁時	敲石	10.45	7.08	2.68	291.17	砂岩(北上)		縁辺部に敲打痕		
329	第29~31号, 103号, 104号土坑 半裁時	凹石	9.84	7.91	2.66	301.7	ホルンフェルス(北上)		中央部に凹み・不整形		
330	第31号土坑・6~15相当層	石鉄	5	2.1	0.8	4.12	頁岩(北上)	略完形	凸基	203図	
331	第31号土坑・16~17相当層?	"	3.6	1.7	0.75	3.49	頁岩(北上)	完形	"	203図	
332	第31号土坑・26~27層	石匙	4.55	4.65	1	13.23	頁岩(北上)	"	"	203図	
333	第31号土坑 半裁時	打製石斧	12.8	7.3	2.8	334.63	砂岩(北上)		裏面敲打痕	204図	
335	第31号土坑 半裁時	磨敲器類?	6.59	6.08	3.3	136.31	ひん岩(北上)	破片			
336	第32号土坑	"	3.14	1.62	0.72	3.27	石英斑岩(北上)	"			

写真図版138 石器(22) (322、323、326~329、333はS=1/3 他はS=2/3)



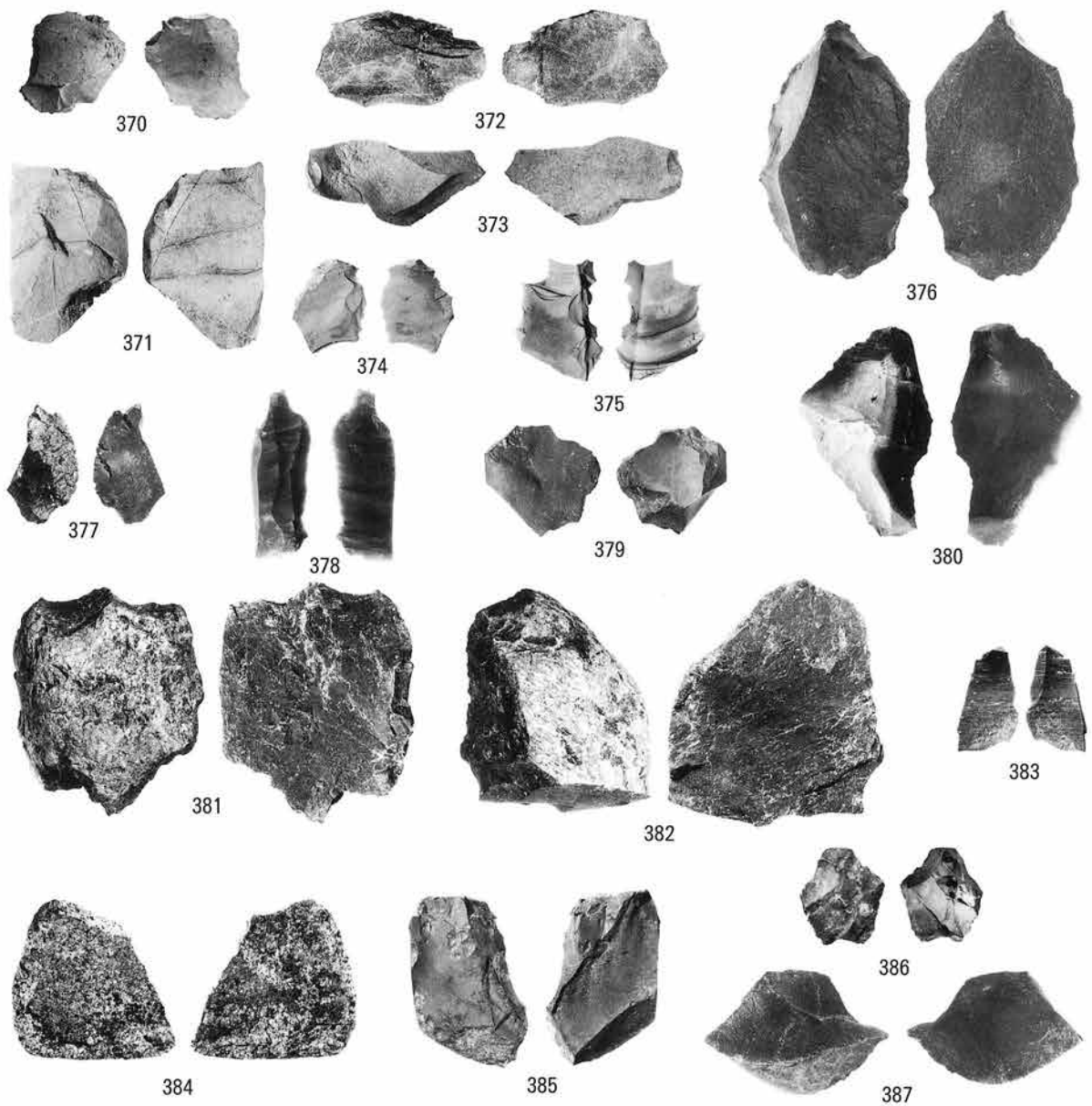
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
334	第31号土坑 半裁時	石匙	4.3	3.55	0.9	13.48	頁岩(北上)	欠損		204図	
337	第32号土坑	スクレイパー-A類	2.64	1.73	0.63	3.37	頁岩(北上)		Rフレイク		
338	第32号土坑	〃	2.3	1.9	0.6	2	頁岩(北上)			204図	
339	第32号土坑	フレイク	1.84	1.69	0.28	0.97	頁岩(北上)				
340	第32号土坑	〃	2.67	1.89	0.47	1.86	頁岩(北上)				
341	第32号土坑	〃	2.87	1.39	1.05	5.22	頁岩(北上)				
342	第32号土坑	〃	3.15	2.65	0.7	4.79	頁岩(北上)			204図	
343	第32号土坑	〃	3	2.2	1.9	4.28	頁岩(北上)			204図	
344	第32号土坑	〃	2.48	1.35	0.6	1.75	頁岩(北上)				
345	第32号土坑	〃	5.15	5.6	1.3	21.29	頁岩(北上)			204図	
346	第32号土坑	スクレイパー-A類	3.65	4.5	1	19.92	頁岩(北上)		Rフレイク	204図	
347	第32号土坑	フレイク	3.2	4.5	0.6	8.26	頁岩(北上)			204図	
348	第32号土坑	スクレイパー-A類	2.95	5.05	1.1	14.39	頁岩(北上)			204図	
349	第32号土坑	〃	4.6	3.1	1.2	11.82	頁岩(北上)			204図	
350	第32号土坑	フレイク	5.85	4.8	1.35	30.16	頁岩(北上)			204図	
351	第32号土坑	磨石器類?	3.55	3.27	1.4	33.88	花崗閃緑岩(北上)		破片(粉々)		

写真図版139 石器(23) (351はS=1/3 他はS=2/3)



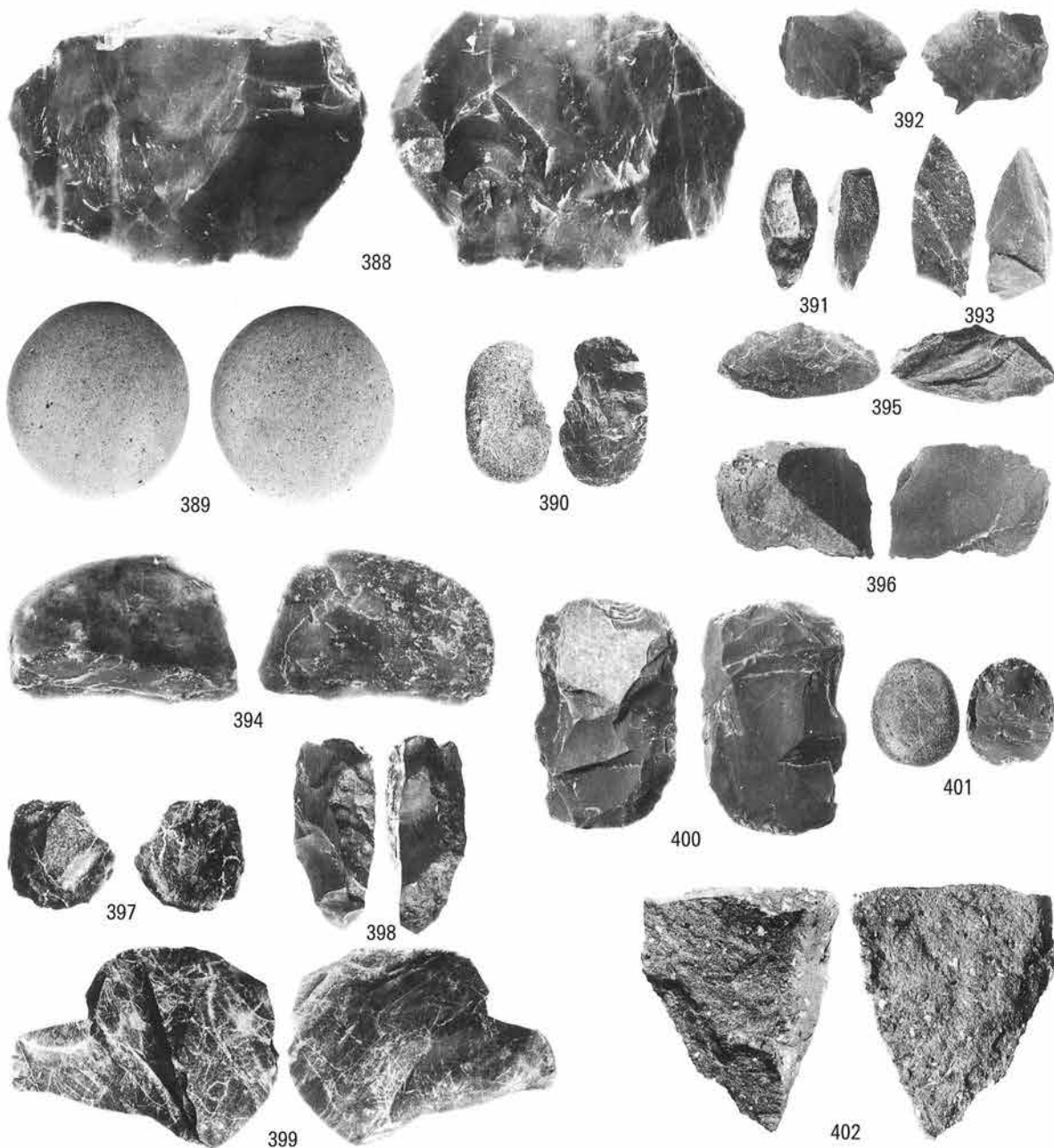
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
352	第32号土坑	磨敲器類?	10.24	6.8	4.71	493.23	花崗閃緑岩(北上)	欠損	粉々に		
353	第32号土坑	"	7.93	5.26	5.69	297.71	花崗閃緑岩(北上)	"	"		
354	第32号土坑	敲石	7.4	6.2	3.4	228.05	砂岩(北上)		縁辺部、正面中央に敲打痕	205図	
355	第32号土坑	"	9.9	8.6	4.7	497.48	砂岩(北上)		縁辺部に敲打痕	205図	
356	第33号土坑	フレイク	2.9	2.81	0.43	3.67	頁岩(北上)				
357	第33号土坑	"	1.42	2.26	1.2	4.14	頁岩(北上)				
358	第33号土坑	"	2.24	2.8	0.7	4.12	頁岩(北上)				
359	第33号土坑	"	4.67	2.95	1.44	15.82	頁岩(北上)				
360	第33号土坑	"	2.16	2.46	0.71	2.37	頁岩(北上)				
361	第33号土坑	"	3.05	1.46	0.3	1.42	頁岩(北上)				
362	第33号土坑	"	2.73	2.64	0.63	3.98	頁岩(北上)				
363	第33号土坑	"	4.26	2.82	1.5	15.22	頁岩(北上)				
364	第33号土坑?	"	4.39	2.76	0.83	8.16	頁岩(北上)				
365	第33号土坑?	Rフレイク	2.1	3.1	0.6	3.92	頁岩(北上)			205図	
366	第33号土坑?	フレイク	2.84	2.59	1.61	8.03	頁岩(北上)				
367	第33号土坑?	"	2.46	1.56	0.52	1.6	頁岩(北上)				
368	第33号土坑?	"	2.3	2.8	0.85	2.32	頁岩(北上)			205図	
369	第33号土坑?	"	2.2	1.41	0.37	0.95	頁岩(北上)				

写真図版140 石器(24) (352~355は S = 1/3 他は S = 2/3)



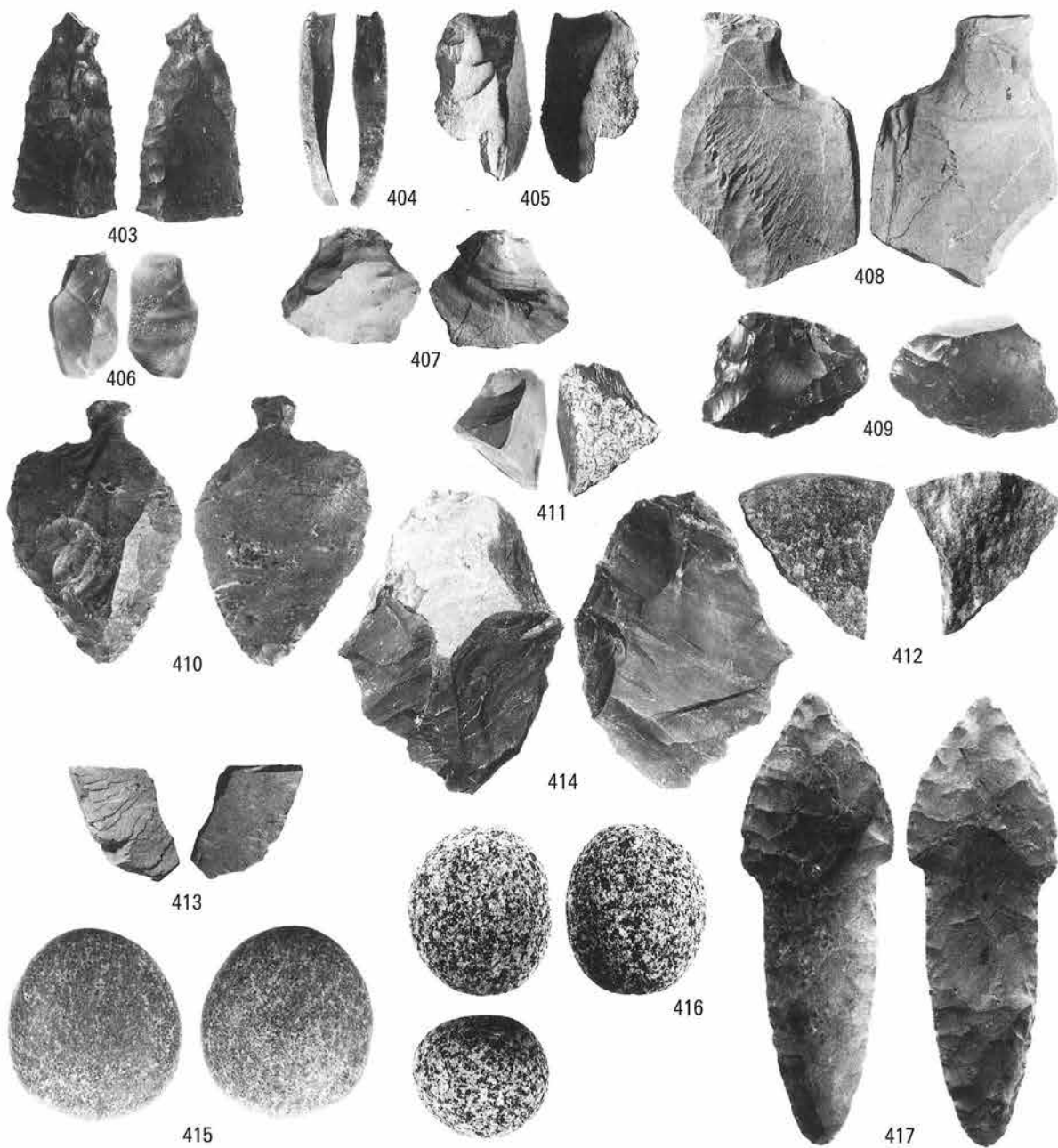
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
370	第33号土坑?	フリイク	2.3	2.25	0.75	2.77	頁岩(北上)			205図	
371	第33号土坑?	〃	4.04	2.64	0.79	9.19	頁岩(北上)				
372	第33号土坑?	〃	3.64	2.09	0.67	4.5	頁岩(北上)				
373	第33号土坑?	〃	3.9	1.81	0.65	4.39	頁岩(北上)				
374	第33号土坑?	〃	2.11	1.57	0.35	0.7	頁岩(北上)				
375	第33号土坑?	〃	2.49	1.78	0.28	1.36	頁岩(北上)				
376	第33号土坑?	〃	5.9	3.6	1.6	20.22	頁岩(北上)			205図	
377	第33号土坑?	〃	2.63	1.47	0.65	2.09	頁岩(北上)				
378	第33号土坑?	石匙の未製品?	3.85	1.4	0.6	3.13	頁岩(北上)	石匙の欠損品?		205図	
379	第33号土坑?	フリイク	2.48	2.38	0.7	3.37	頁岩(北上)				
380	第33号土坑?	Rフリイク	4.85	1.95	0.95	9.68	頁岩(北上)			205図	
381	第33号土坑?	打製石斧?	10.64	8.33	3.57	342.88	チャート(北上)	Na382と同一個体?			
382	第33号土坑?	〃	10.74	9.3	4.74	513.94	チャート(北上)	Na381と同一個体?			
383	第34号土坑	フリイク	2.51	1.31	0.29	0.59	頁岩(北上)				
384	第34号土坑	打製石斧	7.3	7.5	1.5	111.61	花崗閃緑岩(北上)	半円扁平		205図	
385	第35号土坑	フリイク	4.12	2.38	0.92	9.55	赤色頁岩(北上)				
386	第35号土坑	〃	2.17	1.77	0.63	1.06	頁岩(北上)				
387	第35号土坑	〃	2.65	4.15	1.5	12.58	頁岩(北上)			206図	

写真図版141 石器(25) (381、382、384はS=1/3 他はS=2/3)



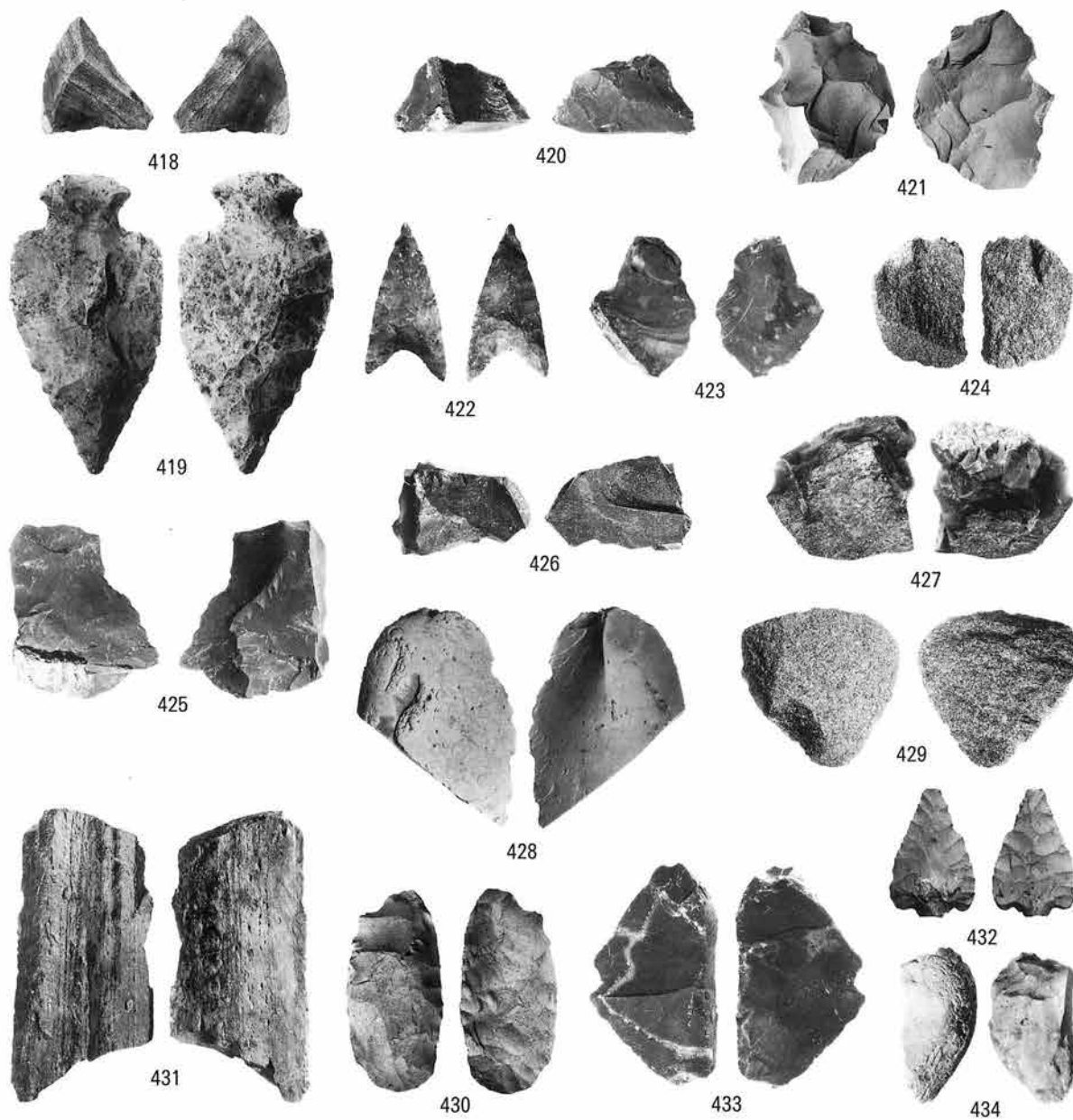
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
388	第35号土坑	フレイク	6.15	8.3	1.6	81.96	チャート(北上)				
389	第35号土坑	磨石	9.4	8.7	4.25	478.08	石英安山岩(北上)			206図	
390	第36号土坑①	残核	6.4	3.75	1.26	36.31	チャート(北上)				
391	第36号土坑②	フレイク	2.78	1.49	0.86	2.96	頁岩(北上)				
392	第36号土坑②	フレイク?	2.4	2.9	0.7	4.31	頁岩(北上)	スクレイパー-A類?		206図	
393	第36号土坑②	フレイク	3.72	1.49	1.36	11.8	頁岩(北上)				
394	第36号土坑②	フレイク?	3.5	5.3	1.1	23.66	チャート(北上)			206図	
395	第36号土坑②	Rフレイク?	3.62	1.71	0.59	4.17	頁岩(北上)				
396	第36号土坑②	フレイク	2.6	3.6	0.7	5.64	頁岩(北上)			206図	
397	第36号土坑②	〃	2.6	2.6	0.4	2.19	頁岩(北上)			206図	
398	第36号土坑③	フレイク	4.4	1.85	1.45	11.04	頁岩(北上)				
399	第36号土坑③	〃	5.84	4.36	1.07	24.01	チャート(北上)				
400	第36号土坑③	尖頭器?	5.3	3.2	1.4	28.72	頁岩(北上)			206図	
401	第36号土坑④	残核	5.12	4.19	1.57	46.75	チャート(北上)				
402	第36号土坑④	フレイクB類	5.35	4.55	1.01	22.75	石英斑岩(北上)				

写真図版142 石器(26) (389、390、401はS=1/3 他はS=2/3)



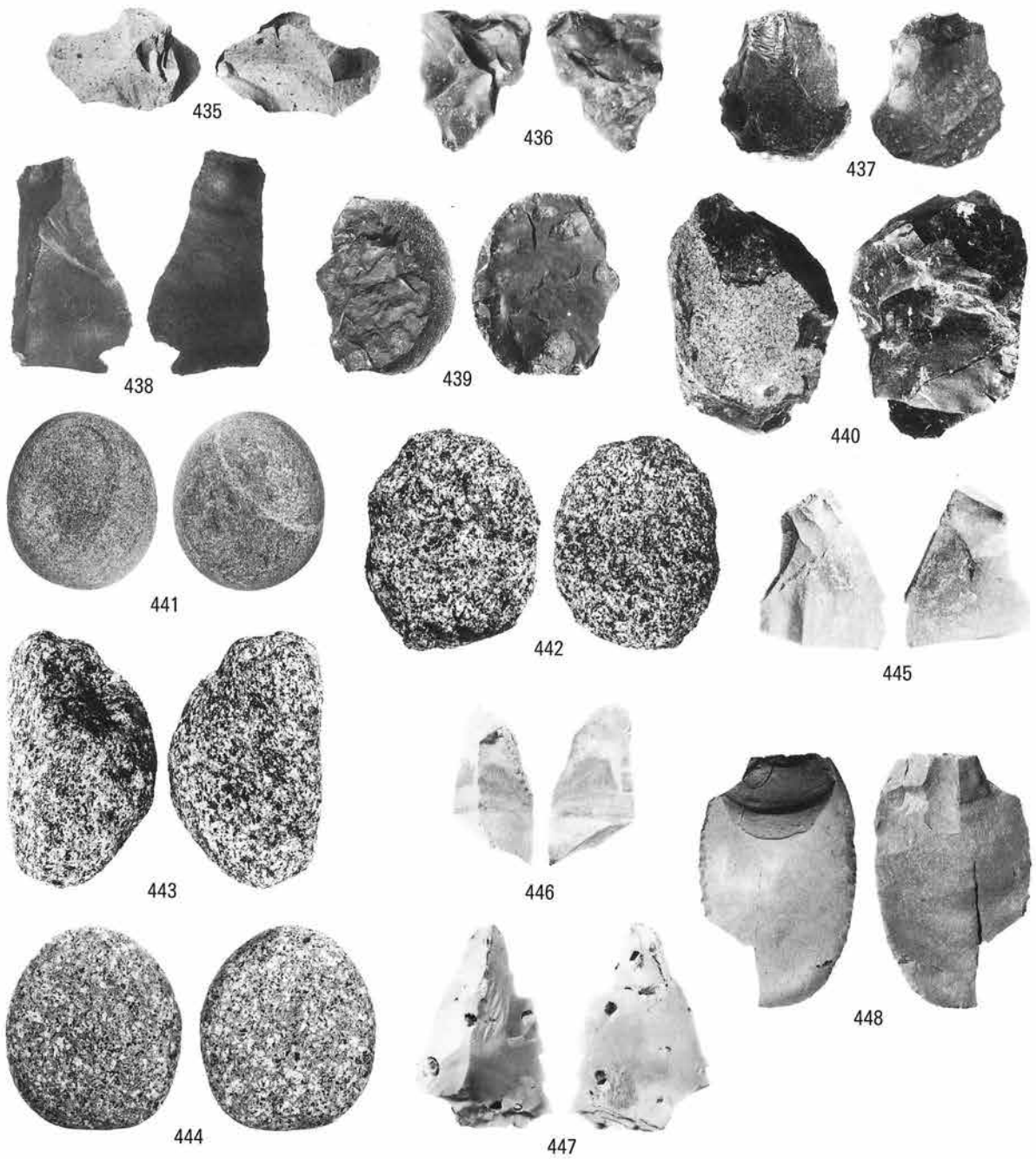
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
403	第36号土坑④	石匙	5.75	2.3	0.7	9.29	頁岩(北上)	欠損		206図	
404	第36号土坑④	フレイク	4.46	0.56	0.76	2.14	頁岩(北上)				
405	第36号土坑④	〃	3.51	2.05	0.74	3.63	頁岩(北上)				
406	第36号土坑④	〃	2.96	1.62	0.35	1.9	珪質頁岩(北上)				
407	第36号土坑④	〃	3.08	2.53	0.62	4.65	頁岩(北上)				
408	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	石匙?	6.1	4.18	0.95	27.3	頁岩(北上)		未製品		
409	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	スクレイパーA類	2.75	3.75	1.05	10.99	頁岩(北上)			207図	
410	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	石匙	6	4	0.9	17.34	頁岩(北上)	略完形		207図	
411	第36号土坑・南北ベルト北側ベルトと下層	フレイク	2.81	2.18	1.78	7.05	頁岩(北上)				
412	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	フレイクB類?	4.07	3.86	1.72	16.94	チャート(北上)		磨石?の破片?		
413	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	〃	3.14	1.88	0.78	5.63	頁岩(北上)				
414	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	フレイク	7	5.32	1.79	60.02	頁岩(北上)				
415	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	磨石	9.05	8	3.6	367.33	石英斑岩(北上)			207図	
416	第36号土坑・南北ベルト北側ベルトと下層	敲石	8.3	6.9	6.3	531.54	花崗閃緑岩(北上)		頂部中心敲打痕	207図	
417	第36号土坑・南北ベルト南側ベルトと下層	尖頭器?	10.4	3.6	1.3	39.3	頁岩(北上)		黒色付着物	207図	

写真図版143 石器(27) (415、416はS=1/3 他はS=2/3)



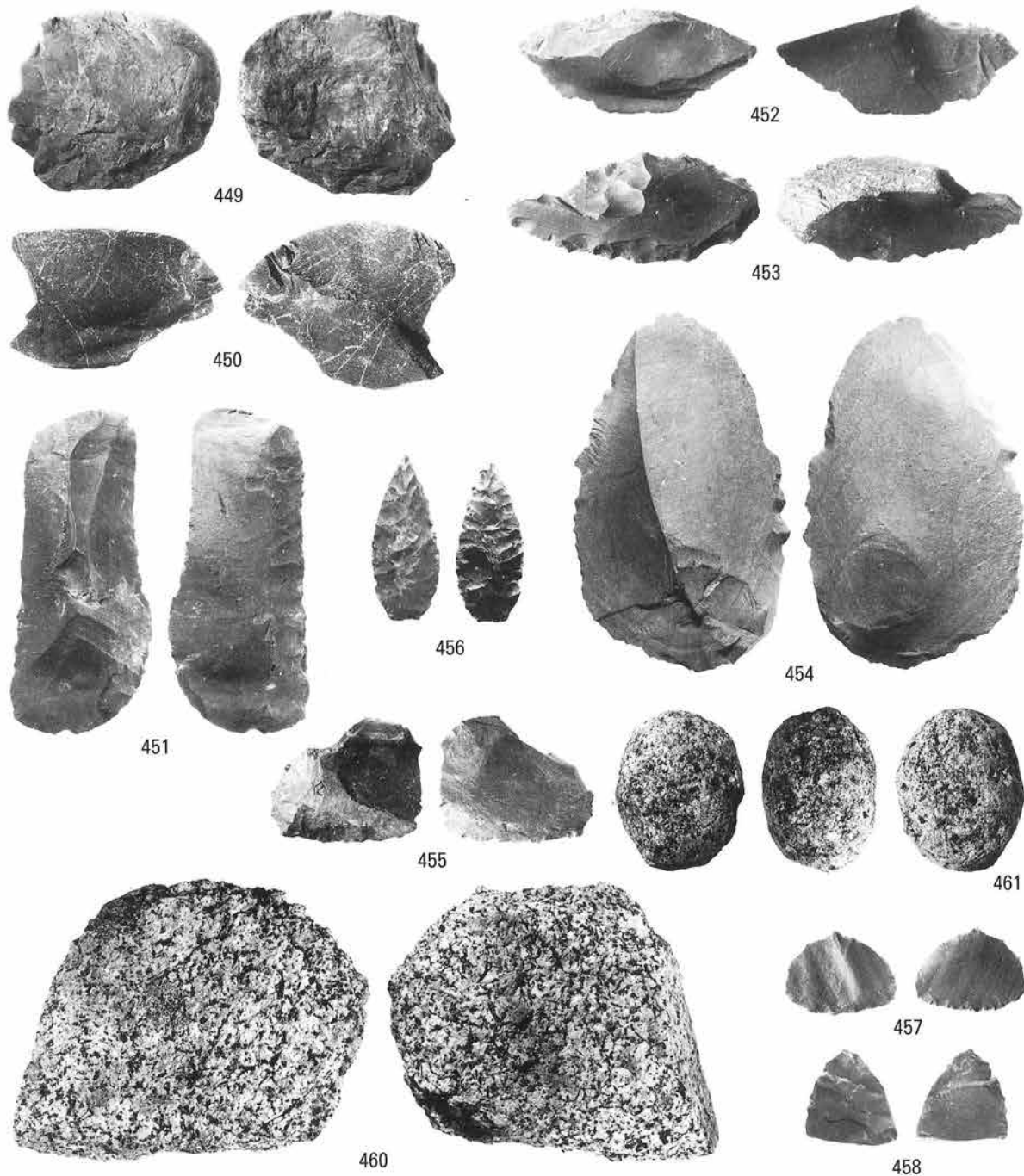
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
418	第36号土坑	フレイク	2.7	2.6	1	4.53	頁岩(北上)			207図	
419	第36号土坑	石匙	6.8	3.45	1.1	22.77	頁岩(北上)	略完形		207図	
420	第37~40号土坑	フレイク	3.24	1.73	1.24	6.29	頁岩(北上)				
421	第37~40号土坑	スクレイパー-A類?	4.06	3.21	1.48	16.33	頁岩(北上)		未製品? フレイク?		
422	第37~40号土坑	石鏃	3.5	1.75	0.5	2.23	頁岩(北上)	略完形	凹基	207図	
423	第37~40号土坑	フレイク	3.1	2.4	0.5	3	頁岩(北上)			207図	
424	第37~40号土坑	フレイク B類	2.9	2.03	0.43	2.76	砂岩(北上)				
425	第37~40号土坑	フレイク	3.83	3.38	1.4	15.09	頁岩(北上)				
426	第37~40号土坑	〃	3.31	2.12	1.36	7.99	頁岩(北上)				
427	第37~40号土坑	〃	3.61	3.58	1.64	13.44	珪質頁岩(北上)				
428	第37~40号土坑	〃	5.17	3.56	0.82	13.14	頁岩(北上)				
429	第37~40号土坑	磨敲器類?	3.69	3.27	0.81	10.03	砂岩(北上)	破片			
430	第37~40号土坑	尖頭器?	4.6	2.2	1.25	12.7	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	208図	
431	第37~40号土坑	不明	6.44	3.08	0.7	21.35	頁岩(北上)		石剣類に関係?		
432	第37~40号土坑	石鏃	2.8	1.9	0.5	2.16	頁岩(北上)	残・破断	凸基	208図	
433	第37~40号土坑	フレイク	4.95	2.75	0.7	8.91	頁岩(北上)			208図	
434	第37~40号土坑	〃	3.5	1.96	1.06	8.54	頁岩(北上)				

写真図版144 石器(28) (S=2/3)



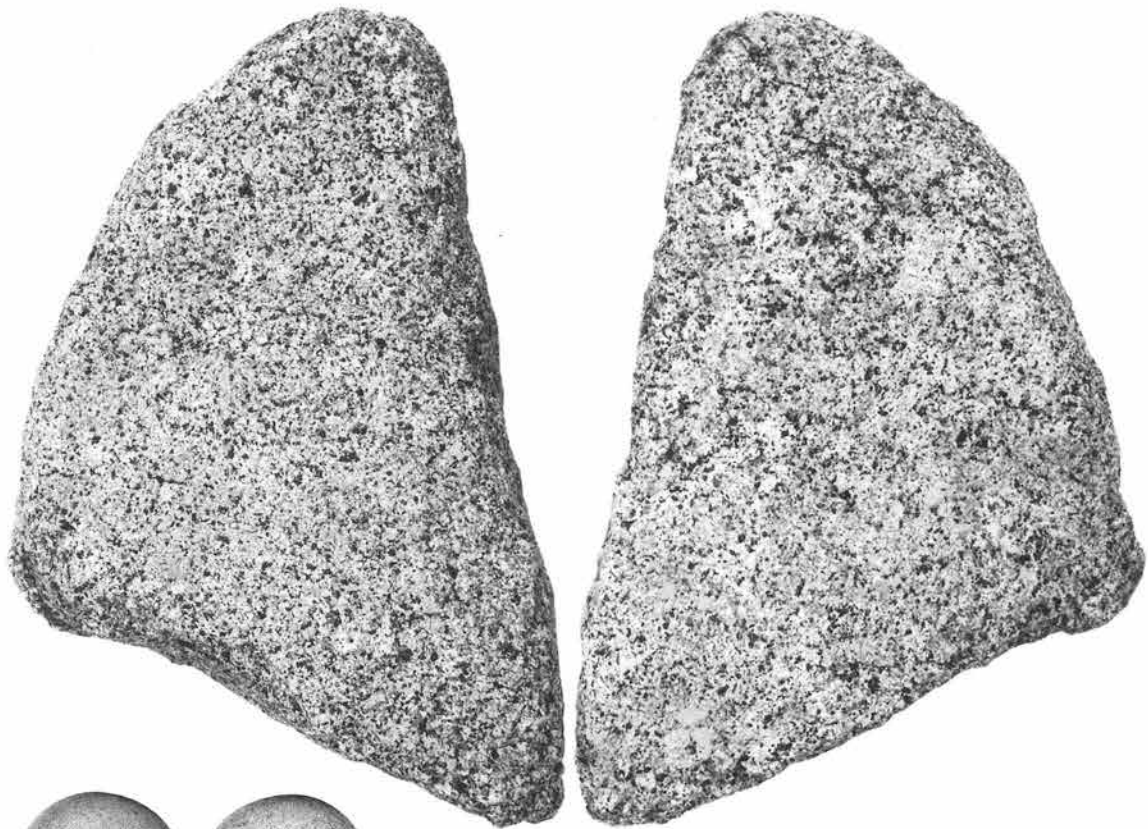
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
435	第37~40号土坑	フレイク	3.71	2.39	1.53	7.51	頁岩(北上)				
436	第37~40号土坑	〃	3.25	2.75	1.34	9.14	頁岩(北上)		未製品?		
437	第37~40号土坑	スクレイパー-A類	3.75	3	1.2	14.42	頁岩(北上)			208図	
438	第37~40号土坑	〃	5.15	2.9	0.5	7.63	頁岩(北上)			208図	
439	第37~40号土坑	フレイク	4.31	3.35	1.1	14.76	頁岩(北上)				
440	第37~40号土坑	石核	6.82	4.14	3.13	74.28	チャート(北上)				
441	第37~40号土坑	敲石?	8.41	7.15	4.31	376.65	ホルンフェルス(北上)		裏面剥落(敲打痕?)		
442	第37~40号土坑	敲石	10.2	7.96	4.69	486.37	花崗岩閃緑岩(北上)		粉々に崩れる		
443	第37~40号土坑	〃	11.99	6.97	4.52	490	花崗岩閃緑岩(北上)		粉々に崩れる・不整形		
444	第37~40号土坑	磨石C類	9.7	8.3	2.6	331.84	花崗岩(北上)			208図	
445	第41号土坑	フレイク	3.6	2.94	0.99	10.1	頁岩(北上)				
446	第41号土坑	〃	3.89	1.83	0.8	4.4	頁岩(北上)				
447	第41号土坑	〃	4.65	3.17	1.11	10.58	頁岩(北上)				
448	第41号土坑	Rフレイク	5.85	3.6	0.4	11.64	頁岩(北上)			208図	

写真図版145 石器(29) (441~444はS=1/3 他はS=2/3)



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
449	第41号土坑	石核	4.45	5.15	1.9	47.93	頁岩(北上)			208図	
450	第41号土坑	フレイク	4.92	3.81	1.07	15.2	チャート(北上)				
451	第42号土坑・4~10層	石筥?	7.8	3.55	1.5	35.77	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	208図	
452	第42号土坑 半裁時	フレイク	2.6	5.8	1.6	13.98	頁岩(北上)			209図	
453	第42号土坑 半裁時	尖頭器?(未製品)	2.7	5.9	1.5	16.19	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	209図	
454	第42号土坑 半裁時	Uフレイク?	8.6	5.3	1.8	64.14	頁岩(北上)		Rフレイク?	209図	
455	第43号土坑 クリーニング	Uフレイク	3.1	3.7	1	7.54	頁岩(北上)			209図	
456	第43号土坑 半裁時	石鏃	3.85	1.65	0.5	2.61	頁岩(北上)	一部欠損	平基?	209図	
457	第43号土坑 半裁時	Rフレイク	2	2.6	0.4	1.64	頁岩(北上)			209図	
458	第44号土坑・2層	石鏃?	2.3	2.2	0.45	2.3	頁岩(北上)	破片	先端部	209図	
460	第45号土坑・底面	〃	16.5	13	6.4	1929.4	花崗閃緑岩	破片	粉々に崩れる		
461	第46号土坑・⑤層(スス)	敲石	7.2	6.4	5.5	391.32	花崗閃緑岩(北上)		表面敲打痕で、じょいも状	209図	

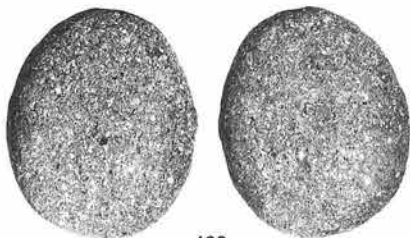
写真図版146 石器(30) (460、461はS=1/3 他はS=2/31/3 他はS=2/3)



459



462



463



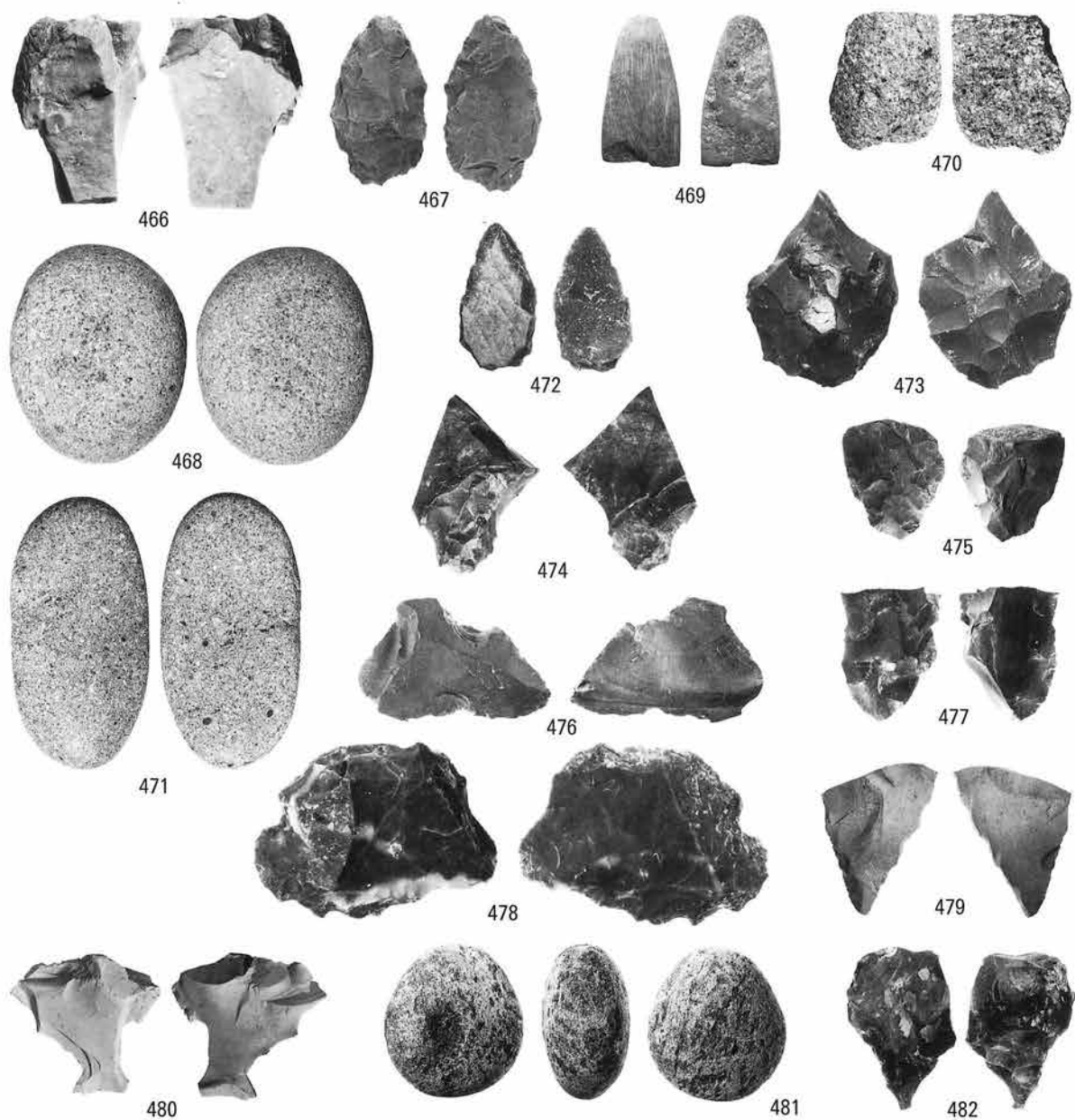
464



465

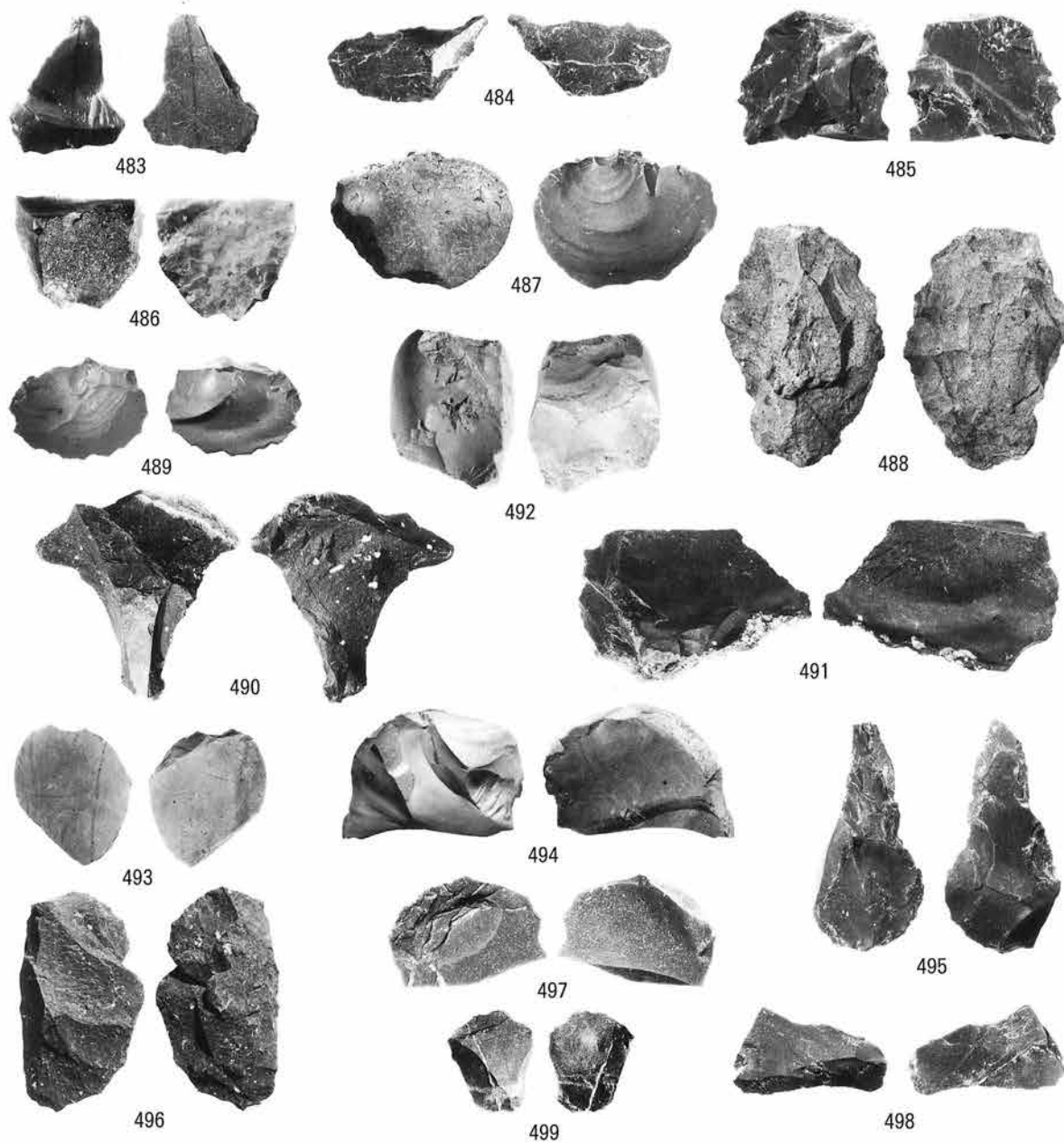
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
459	第45号土坑・9層上面(断面図)	石皿?	29	19.5	7.2	6700	花崗閃緑岩				
462	第46号土坑	磨石	7.76	6.91	3.72	298.47	石英斑岩(北上)				
463	第46号土坑	〃	9.5	7.8	3	308.71	溶結凝灰岩(北上)				209図
464	第46号土坑	敲石	5.7	5.5	4.5	201.13	礫岩(北上)		No.461とほとんど同じ		210図
465	第46号土坑	フレイク	9.8	5.1	1.9	98.54	チャート(北上)				210図

写真図版147 石器(31) (465はS=2/3 他はS=1/3)



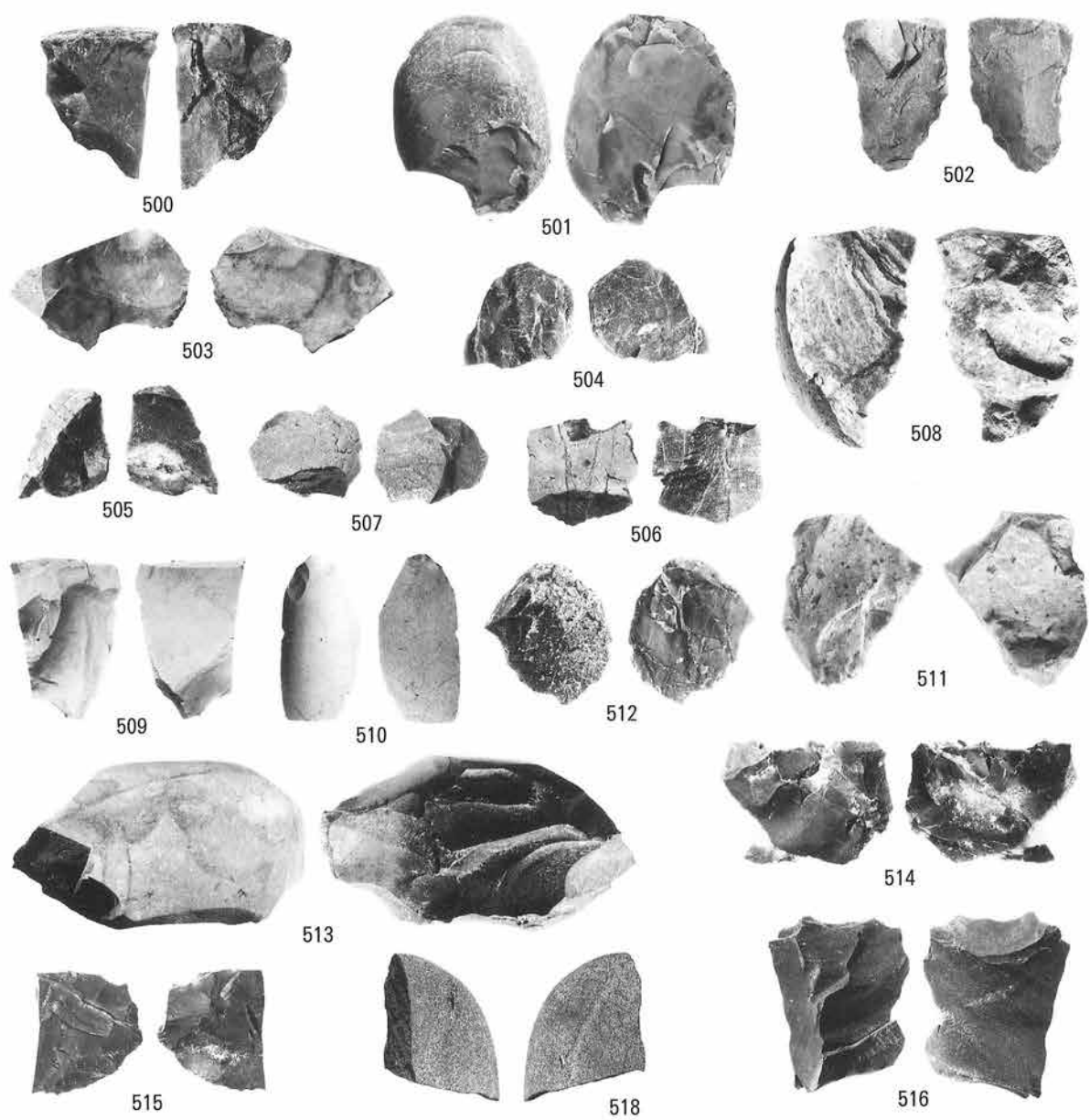
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
466	第46号土坑	フレイク	4.66	3.18	1.64	21.81	チャート(北上)				
467	第47号土坑	尖頭器?	3.9	2.2	1.05	7.72	頁岩(北上)		石鏝の未製品?	210図	
468	第48号土坑・5、6層	敲石	10.09	8.17	5.24	609.27	安山岩(北上)		表面中央、縁辺部に敲打痕		
469	第48号土坑・5、6層	小型磨製石斧	3.3	1.7	0.4	4.09	頁岩(北上)			210図	
470	第48号土坑・8層	磨器類?	3.05	2.51	0.77	7.11	ひん岩(北上)	破片			
471	第48号土坑 半裁時	磨石B類	12.35	6.22	2.4	332.9	ひん岩(北上)		まだはっきりした面をしている		
472	第48号土坑 半裁時	石鏝 未製品?	3.2	1.8	0.55	3.25	頁岩(北上)			210図	
473	第48号土坑	尖頭器?	4.3	3.3	1.4	14.65	頁岩(北上)	欠損		210図	
474	第48号土坑	スクレイパーA類?	4.1	2.95	1	8.35	頁岩(北上)	〃	石匙?	210図	
475	第48号土坑	尖頭器?	2.6	2.35	0.6	3.28	頁岩(北上)	〃	石鏝?	210図	
476	第48号土坑	Rフレイク	2.9	4.4	1.2	11.03	頁岩(北上)			210図	
477	第48号土坑	尖頭器?	3	2.3	1	7.02	頁岩(北上)	欠損		210図	
478	第48号土坑	スクレイパーA類	4	5.6	1.2	22.71	頁岩(北上)			211図	
479	第48号土坑	尖頭器?	3.45	2.6	0.7	3.97	頁岩(北上)	欠損		210図	
480	第49号?(第50、51号土坑?)	フレイク	3.19	3.3	0.78	4.3	頁岩(北上)				
481	第49号?(第50、51号土坑?)	敲石	7.3	6.3	4	268	砂岩(北上)		全面に敲打痕	211図	
482	第49号、第51号(第50号も?)土坑	フレイク?	3.49	2.35	1.37	8.73	珪質頁岩(北上)				

写真図版148 石器(32) (468、471、481は S=1/3 他は S=2/3)



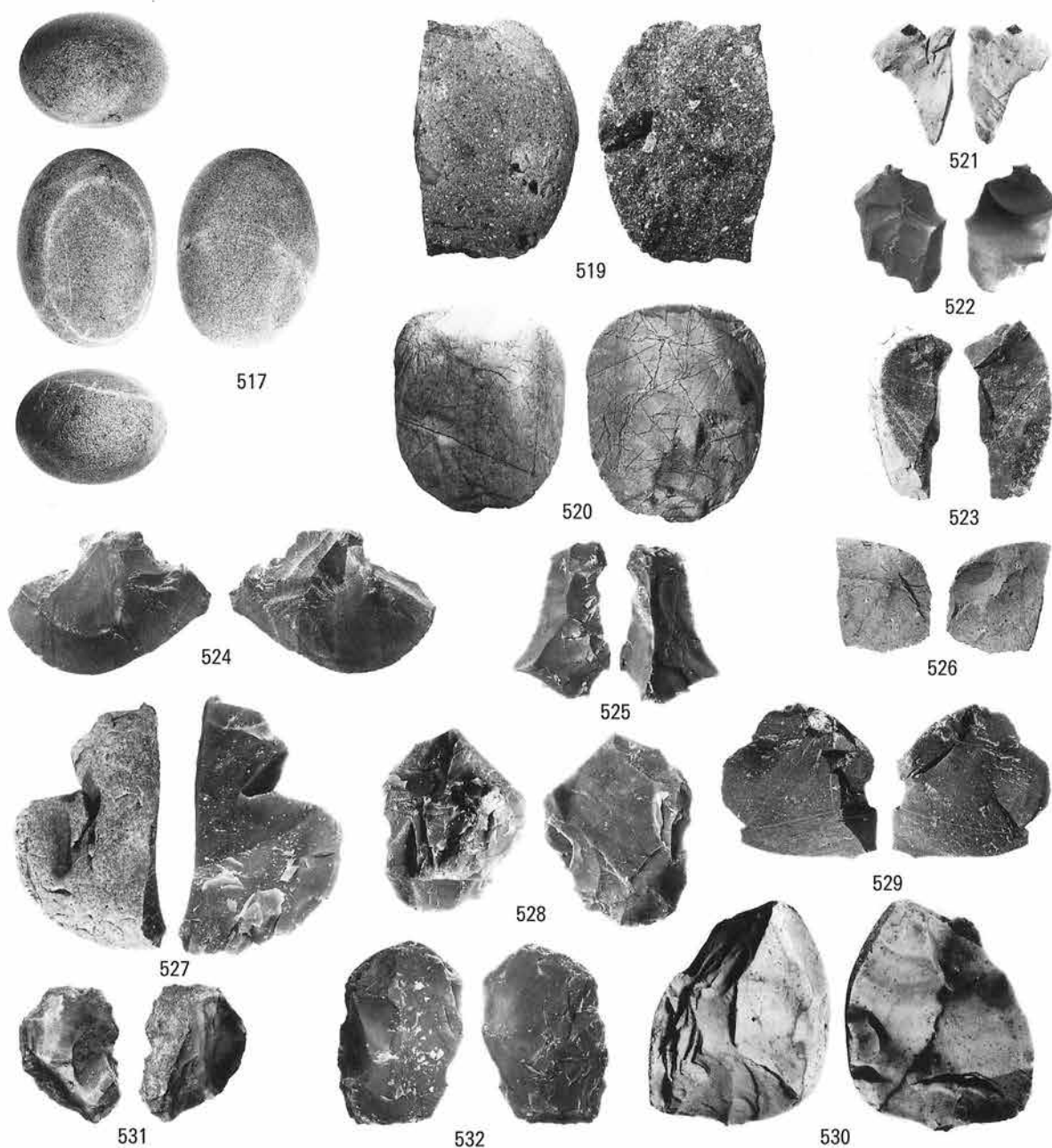
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
483	第49号、第51号(第50号も?)土坑	フレイク	3.2	2.5	0.65	2.51	頁岩(北上)			211図	
484	第50号、第51号土坑	スクレイパーA類?	2.3	3.5	0.65	3.83	頁岩(北上)	欠損		211図	
485	第50号、第51号土坑	尖頭器?	3.15	3.4	0.95	11.66	頁岩(北上)	"		211図	
486	第50号、第51号土坑	フレイク	2.56	2.85	1.31	10.4	頁岩(北上)				
487	第50号、第51号土坑	スクレイパーA類	3.2	4.1	1.2	14.83	チャート(北上)		Rフレイク	211図	
488	第50号、第51号土坑	尖頭器?	5.4	3.7	2.7	27.4	頁岩(北上)			211図	
489	第50号、第51号土坑	Rフレイク	3	2.3	0.8	4.36	頁岩(北上)			211図	
490	第50号、第51号土坑	フレイク	4.5	3.56	1.12	12.75	頁岩(北上)				
491	第50号、第51号土坑	"	4.97	3.31	1.08	17.32	頁岩(北上)				
492	第50号、第51号土坑	ピエス・エスキーユ?	2.8	3.26	1.51	18.59	頁岩(北上)				
493	第50号、第51号土坑	フレイク?	3.22	2.62	0.45	3.49	頁岩(北上)				
494	第50号、第51号土坑	フレイク	3.79	2.58	1.07	11.3	頁岩(北上)				
495	第50号、第51号土坑	フレイク?	5.1	2.6	1.4	14.44	頁岩(北上)		尖頭器or石錐未製品?	211図	
496	第50号、第51号土坑	スクレイパーA類?	4.87	2.68	1.03	13.37	石英安山岩(北上)		未製品?		
497	第50号、第51号土坑	フレイク	3.39	2.36	0.76	6.57	頁岩(北上)				
498	第50号、第51号土坑	"	2	3.5	0.6	2.45	頁岩(北上)			211図	
499	第50号、第51号土坑	"	2.35	1.81	0.47	1.97	頁岩(北上)				

写真図版149 石器(33) (S=2/3)



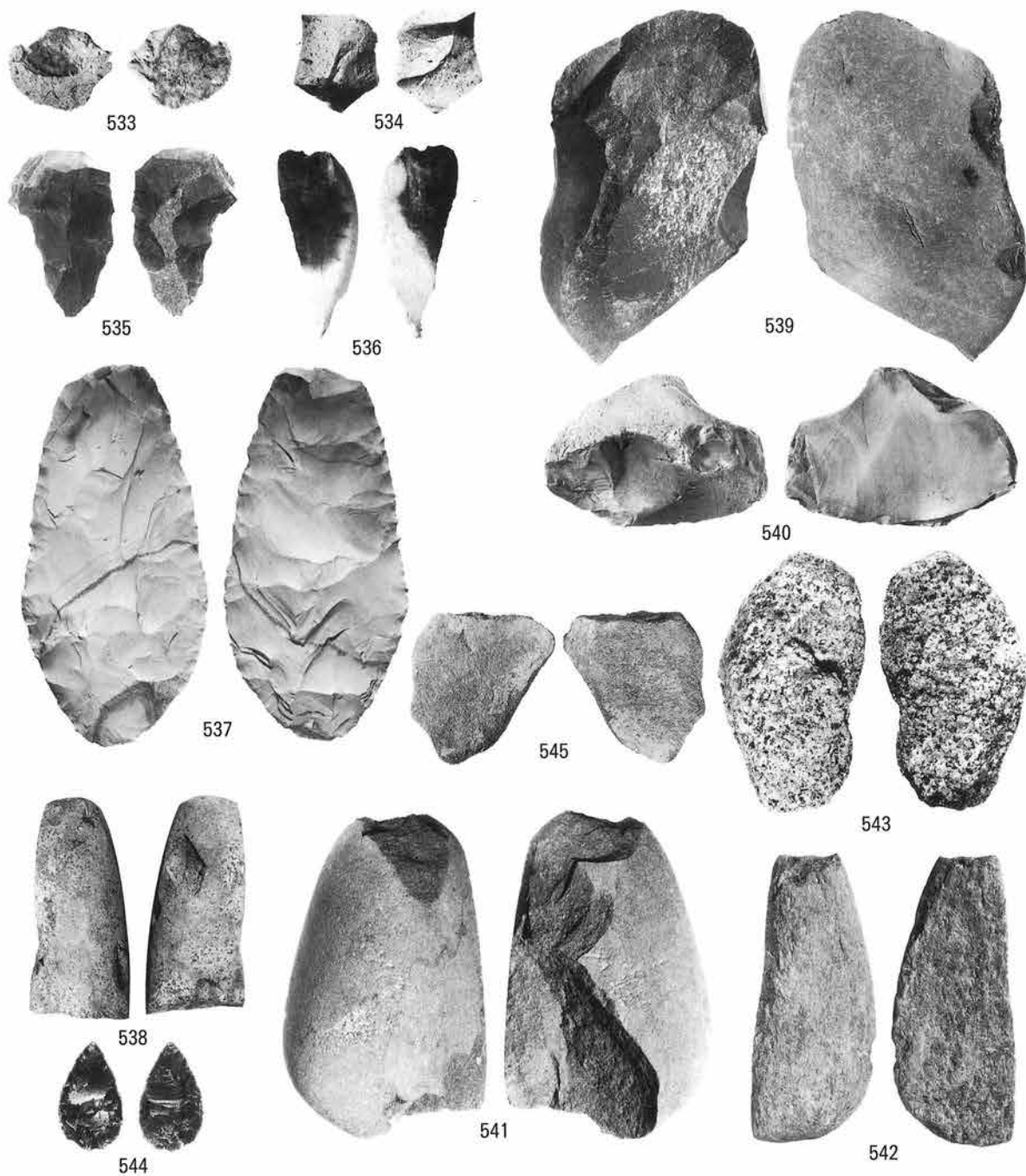
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
500	第50号、第51号土坑	フレイク	3.39	2.39	1.75	13.04	チャート(北上)				
501	第50号、第51号土坑	〃	4.41	3.46	1.35	25.54	頁岩(北上)		未製品?		
502	第50号、第51号土坑	尖頭器	3.6	2.35	1.05	9.74	頁岩(北上)	欠損		211図	
503	第50号、第51号土坑	Rフレイク?	2.85	4.15	0.5	5.05	頁岩(北上)		Uフレイク	212図	
504	第50号、第51号土坑	フレイク	2.76	2.25	0.47	2.64	頁岩(北上)				
505	第50号、第51号土坑	〃	2.87	1.83	0.48	2.34	頁岩(北上)				
506	第50号、第51号土坑	〃	2.33	2.43	0.45	2.82	頁岩(北上)				
507	第50号、第51号土坑	〃	2.46	2.06	0.72	3.51	頁岩(北上)				
508	第50号、第51号土坑	〃	2.94	4.53	1.19	14.52	頁岩(北上)				
509	第50号、第51号土坑	〃	3.4	2.33	1.21	8.7	頁岩(北上)				
510	第50号、第51号土坑	〃	3.87	1.75	0.44	3.51	頁岩(北上)				
511	第50号、第51号土坑	〃	3.71	3.27	1.15	12.22	石英安山岩(北上)				
512	第50号、第51号土坑	〃	3.09	2.69	0.75	5.83	チャート(北上)				
513	第50号、第51号土坑	残核	7.4	4.04	3.92	148.4	頁岩(北上)				
514	第50号、第51号土坑	フレイク	3.93	3.85	0.68	6.74	頁岩(北上)				
515	第50号、第51号土坑	尖頭器?	2.85	2.5	0.85	7.03	チャート(北上)	破片		212図	
516	第50号、第51号土坑	フレイク	3.71	2.97	1.39	12.28	チャート(北上)				
518	第50号、第51号土坑	磨石	8.08	5.19	2.65	106.13	ホルンフェルス(北上)	破片			

写真図版150 石器(34) (518はS=1/3 他はS=2/3S)



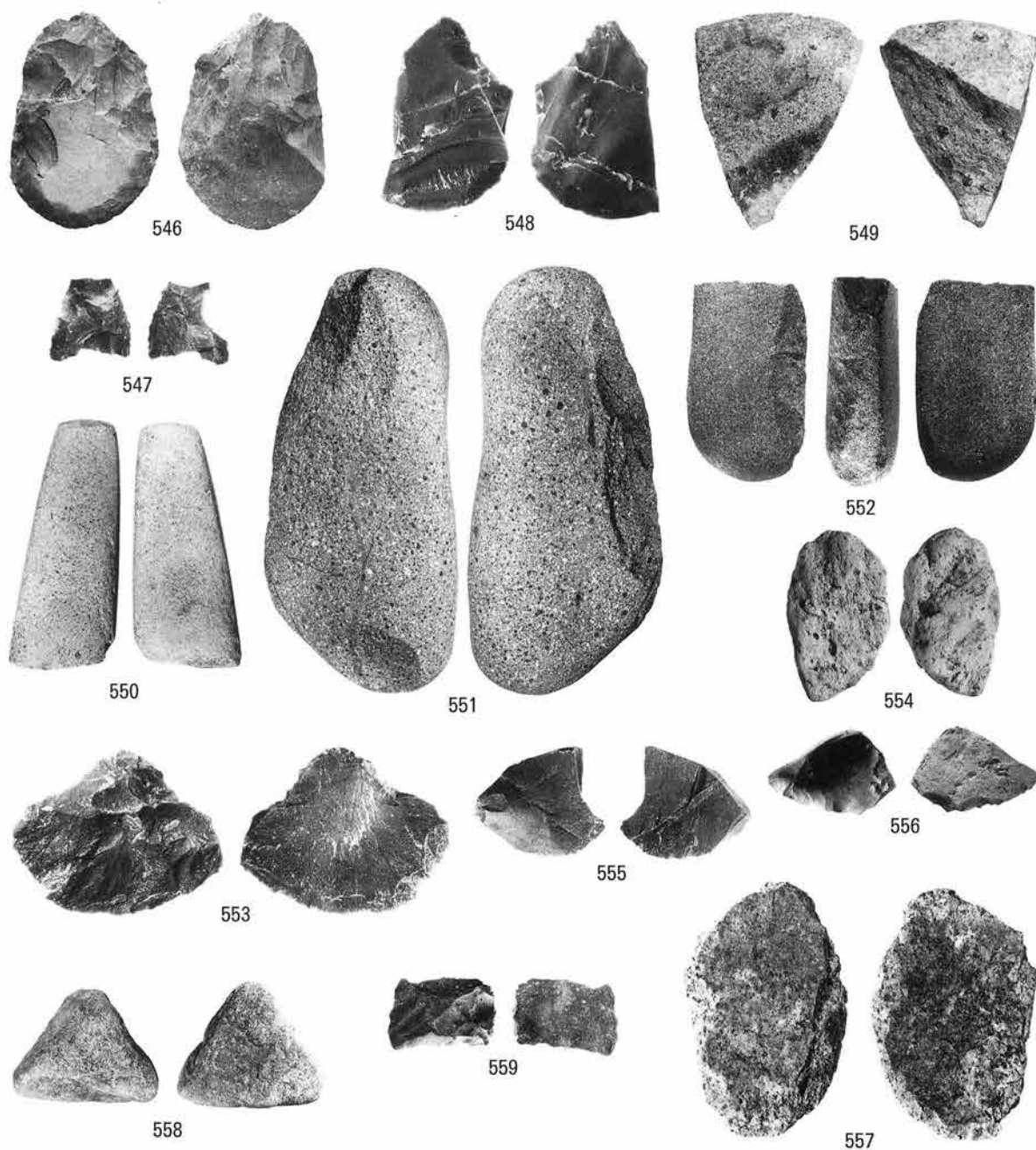
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
517	第50号、第51号土坑	敲石	9.5	6.7	5.1	487.82	砂岩(北上)		上下両端部 敲打痕	212図	
519	第50号、第51号土坑	残核?	11.1	5.8	2.9	332.79	礫岩(北上)		スクレイパー-B類	212図	
520	第50号、第51号土坑	残核	10.1	8.5	3.7	106.09	チャート(北上)			212図	
521	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	フレイク	2.69	1.82	0.35	1.04	頁岩(北上)				
522	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	〃	3	2.1	0.45	1.99	頁岩(北上)			212図	
523	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	〃	3.97	1.76	0.61	4.92	チャート(北上)				
524	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	フレイク?	3.3	4.7	1.4	15.18	頁岩(北上)		石匙 未製品?	212図	
525	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	フレイク	3.6	2.28	0.73	5	チャート(北上)				
526	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	〃	2.47	2.04	0.72	3.15	頁岩(北上)				
527	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	〃	5.49	3.19	0.9	19	チャート(北上)				
528	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	フレイク?	3.62	3.52	1.3	14.77	チャート(北上)		尖頭器 未製品?		
529	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	フレイク	3.89	3.43	0.6	7.58	チャート(北上)				
530	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	〃	5.71	4.16	1.76	49.19	頁岩(北上)		両極打法		
531	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	尖頭器?	3.15	2.5	0.8	6.32	頁岩(北上)		スクレイパー-A類? 石鏝?	212図	
532	第50号土坑(第51号、第75号)土坑	〃	4.3	2.9	1.1	14.2	チャート(北上)	先端欠損		212図	

写真図版151 石器(35) (517、519、520はS=1/3 他はS=2/3)



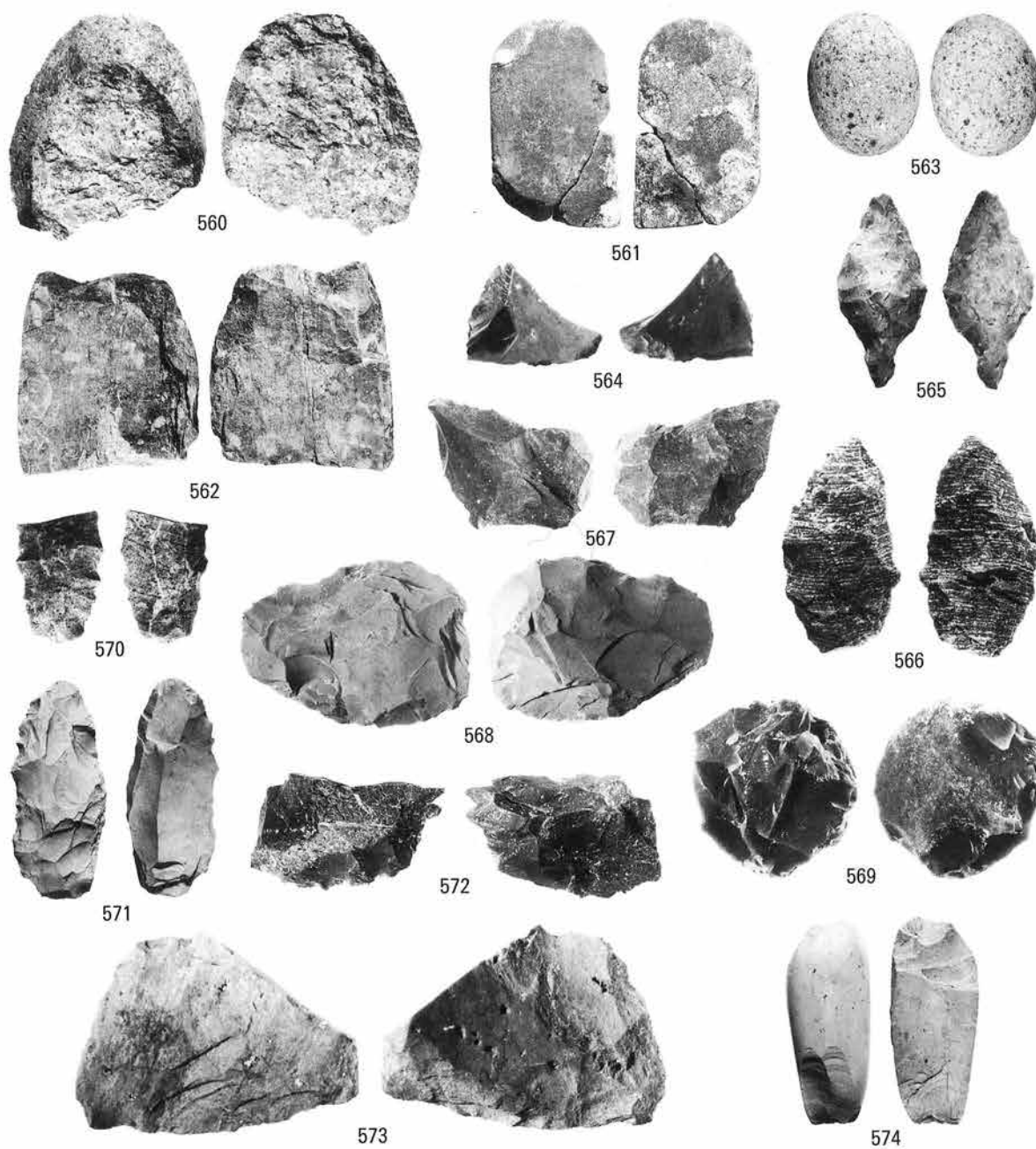
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
533	第50号土坑(第51号、第75号も)土坑	フレイク	2.41	1.9	0.24	1.27	頁岩(北上)				
534	第50号土坑(第51号、第75号も)土坑	〃	2.23	1.88	0.96	3.12	凝灰岩(北上)				
535	第50号土坑(第51号、第75号も)土坑	尖頭器?	3.9	2.5	1.5	10.2	頁岩(北上)		未製品?		212図
536	第52号土坑南部・2層主体	石錐?	4.35	2	0.8	3.89	頁岩(北上)	先端欠損			212図
537	第52号土坑南部・2層主体	石鏢	8.8	4.4	1.3	45.7	頁岩(北上)		末端黒色付着物		213図
538	第52号土坑 半裁時	磨製石斧 未製品?	10.44	4.68	2.72	220.85	頁岩(北上)	先端欠損			
539	第52号土坑 半裁時	残核?	8.87	5.45	3.55	160.96	頁岩(北上)		礫石器 未製品?		
540	第52号土坑 半裁時	〃	3.8	5.4	2	36.8	頁岩(北上)				213図
541	第53号土坑・8層	磨石B類	15.38	9.68	3.72	673.46	砂岩(北上)		表裏凹み		
542	第53号土坑・8相当層?	打製石斧	13.53	5.7	2.13	253.43	ホルンフェルス(北上)		半円扁平		
543	第53号土坑・8相当層?	敲石?	12.56	6.8	3.47	398.87	花崗閃緑岩(北上)		ボロボロ		
544	第54号土坑・1、2層	石鏢	2.6	1.5	0.5	1.55	頁岩(北上)	一部欠損	平基		213図
545	第54号土坑・1、2層	不明	8.03	6.17	2.18	114.27	砂岩(久慈層群)		ボロボロ崩れる、敲石??		

写真図版152 石器(36) (538、541~543、545は S = 1/3 他は S = 2/3 S)



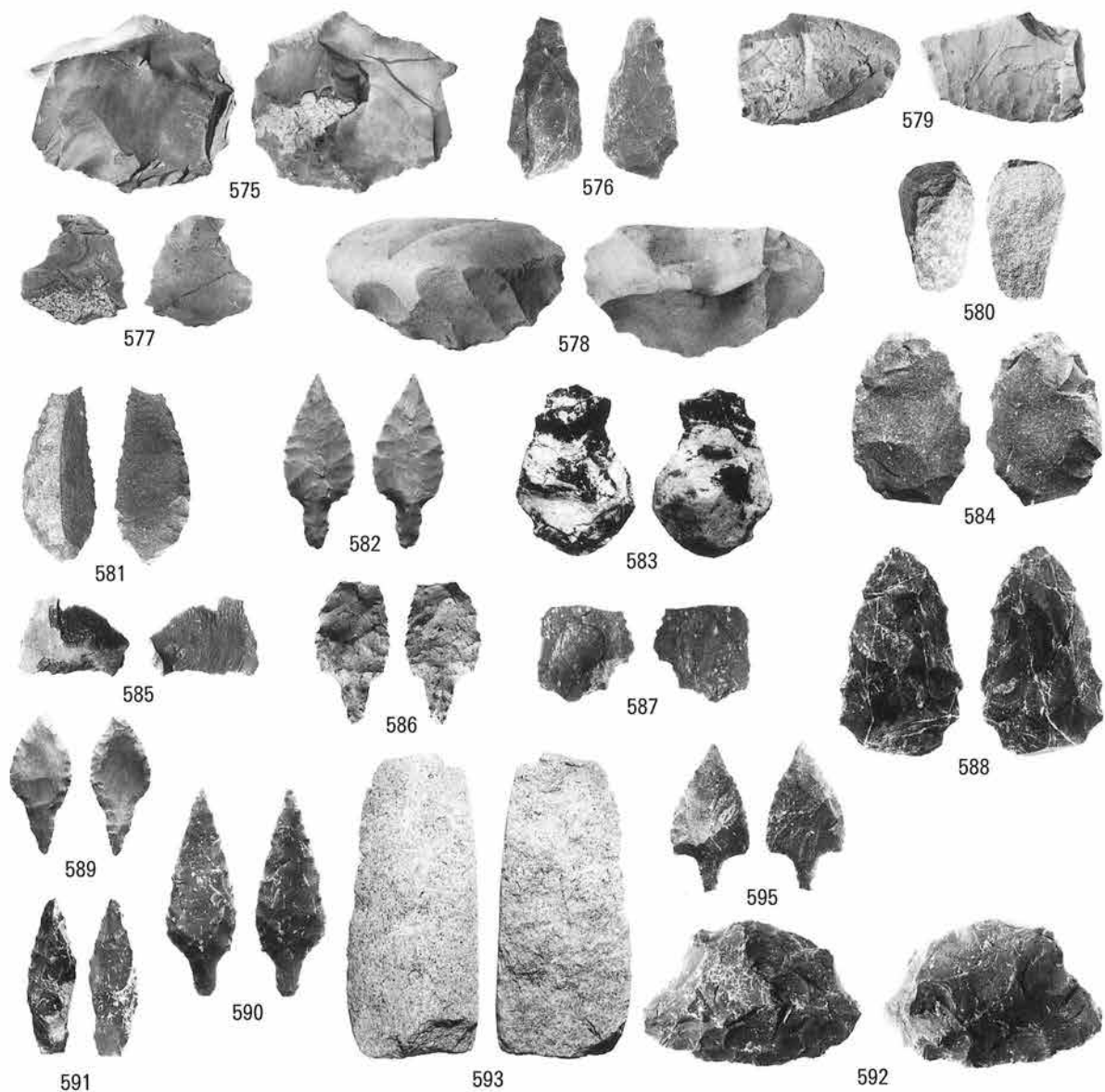
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
546	第54号土坑・5層	スクレイパー-A類	4.9	3.4	1.5	19.07	頁岩(北上)			213図	
547	第54号土坑・12層	石鏃	1.85	1.85	0.55	1.45	頁岩(北上)	欠損	凹基	213図	
548	第54号土坑・9~17相当層	スクレイパー-A類	4.5	2.9	1.15	14.93	頁岩(北上)			213図	
549	第54号土坑 半裁時	磨石器類?	3.49	2.39	3.13	32.23	ひん岩(北上)	破片	表面スス?付着		
550	第55号土坑・6層	磨製石斧	11.91	5	3.14	337.49	ひん岩(北上)	先端欠損	先端(左側)のようなくぼみがあり、縁部が		
551	第55号土坑・7=8層	敲石	20	8.99	5.43	1484.73	頁岩(北上)		縁部部敲打		
552	第55号土坑・7=8層	磨石B類	9.5	5.7	3.7	330.01	頁岩(北上)	欠損		213図	
553	第55号土坑・14相当層上?	スクレイパー-A類	3.7	4.75	1.3	16	頁岩(北上)			213図	
554	第55号土坑 半裁時	軽石	3.7	2.24	0.85	2.26	軽石(北上)				
555	第55号土坑 半裁時	フレイク	2.5	3	0.6	3.65	頁岩(北上)			213図	
556	第59号土坑 半裁時	スクレイパー-A類	2	3	0.65	2.68	凝灰岩(北上)			214図	
557	第59号土坑 半裁時	打製石斧	12.2	7.67	1.89	260.12	花崗閃緑岩(北上)		半円扁平		
558	第60号土坑・5層	敲石?	6.23	6.04	4.8	215.05	砂岩(北上)		不整形		
559	第61号土坑・1層	フレイク	1.7	2.5	0.4	1.24	頁岩(北上)			214図	

写真図版153 石器(37) (550~552、557、558はS=1/3 他はS=2/3)



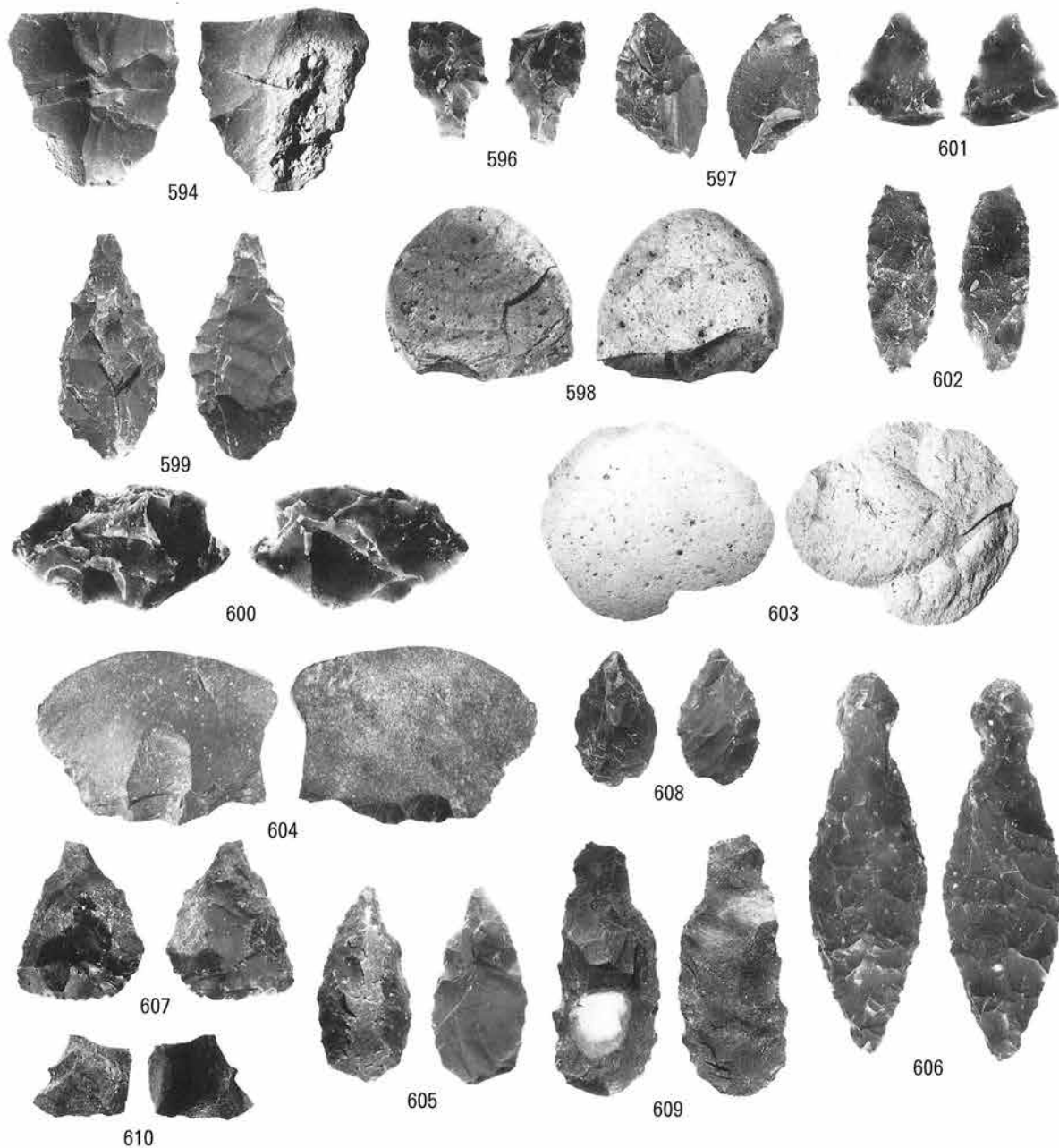
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
560	第62号土坑・2層相当層	磨敲器類?	5.29	4.38	1.2	23.71	砂岩(北上)	破片	表面にヌス附着		
561	第62号土坑・8層	不明	9.88	5.79	1.67	103.12	砂岩(久慈層群)	欠損			
562	第63号土坑 半裁時	打製石斧?	9.44	8.42	2.06	254.9	頁岩(北上)	"			
563	第63号土坑 半裁時	敲石?	6.77	5.12	3.99	206.04	安山岩(北上)				
564	第63号土坑 半裁時	Rフレイク	2.55	3.15	0.25	2.3	頁岩(北上)				213図
565	第63号土坑 半裁時	石鏃	4.5	2.15	1.1	7.58	頁岩(北上)	鏃・鏃頭 一部欠損	凸基		214図
566	第64号土坑・2層	尖頭器?	5	2.85	1.05	14.08	頁岩(北上)				214図
567	第64号土坑・6相当層?	フレイク?	3.1	3.95	1.6	15.09	頁岩(北上)		未製品?		214図
568	第64号土坑・12層	尖頭器?	3.95	5.35	2.1	33.92	頁岩(北上)				214図
569	第64号土坑・4~5層上部	残核	4.3	4.15	2.3	38.29	チャート(北上)				214図
570	第64号土坑	スクレイパーA類?	3.1	2	0.8	4.16	頁岩(北上)				214図
571	第64号土坑	尖頭器?	5	2.2	1.3	12.11	頁岩(北上)		未製品?		214図
572	第64号土坑	残核	2.8	4.8	2	26.28	頁岩(北上)				214図
573	第64号土坑	スクレイパーA類?	4.8	6.6	1.8	54.37	頁岩(北上)		未製品?		215図
574	第64号土坑	Rフレイク	4.8	2	1	12.07	頁岩(北上)				214図

写真図版154 石器(38) (561~563は S = 1/3 他は S = 2/3)



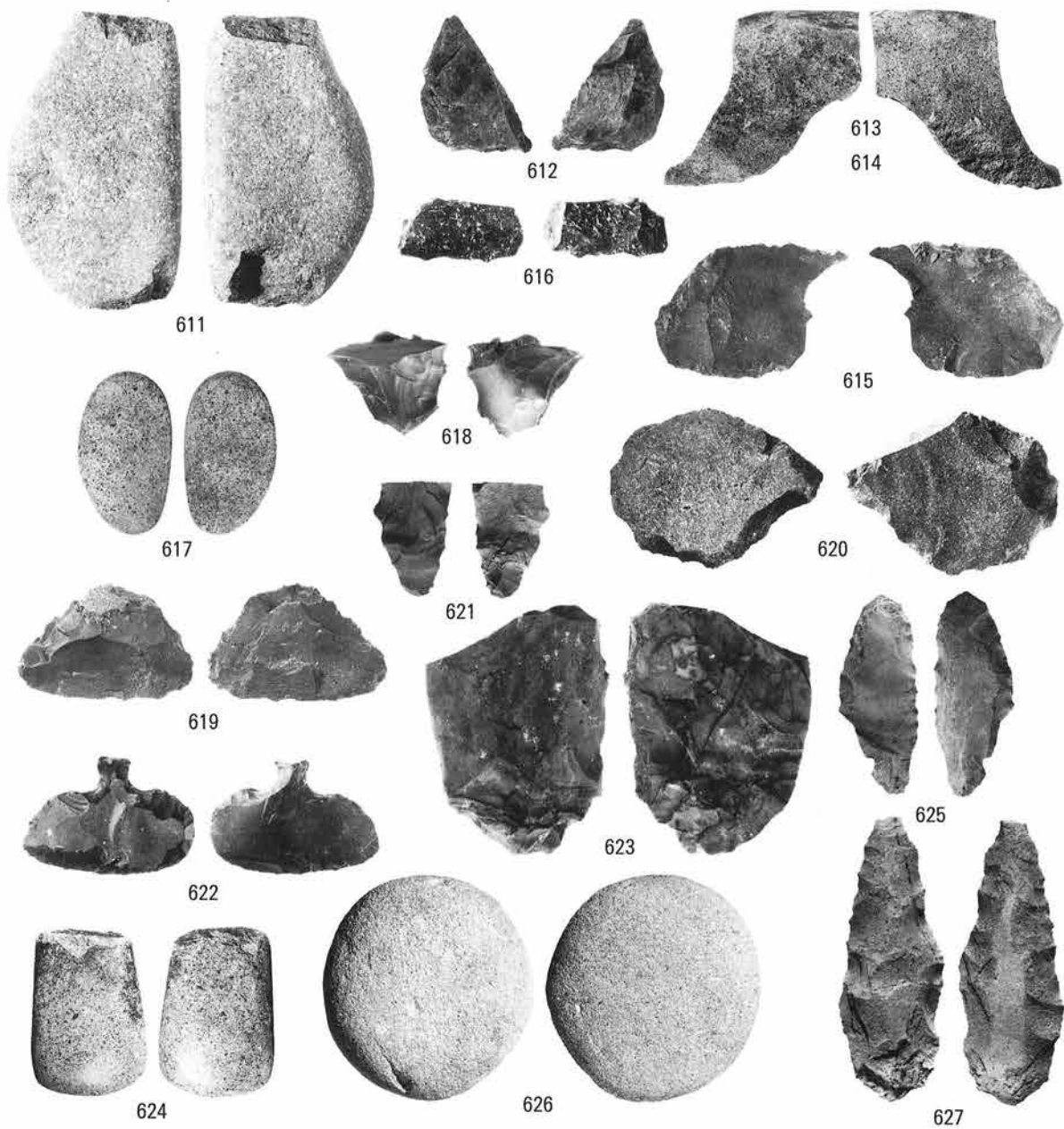
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
575	第64号土坑	スクレイパー-A類?	4.05	4.75	1.7	26.64	頁岩(北上)		未製品?	215図	
576	第64号土坑	石鏃?	3.7	1.8	0.9	4.96	頁岩(北上)		〃	215図	
577	第64号土坑	フレイク	2.5	2.4	0.8	2.89	頁岩(北上)			215図	
578	第64号土坑	スクレイパー-A類?	3	5.4	2.2	28.61	頁岩(北上)			215図	
579	第64号土坑	〃	2.45	3.8	1	8.78	頁岩(北上)			215図	
580	第64号土坑	磨砕器類?	4.5	3.05	3	31.27	砂岩(北上)	破片	表面全面に厚・磨痕等の未製品?		
581	第64号土坑	スクレイパー-A類	3.85	1.2	0.55	2.98	頁岩(北上)		Rフレイク	215図	
582	第65号土坑・7層	石鏃	3.9	1.6	0.5	2	頁岩(北上)	略完形	凸基	215図	
583	第65号土坑・7層	フレイク	3.7	2.6	1.1	9.29	頁岩(北上)			215図	
584	第65号土坑・7層	尖頭器?	3.9	2.6	0.75	7.43	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	215図	
585	第67号土坑・4~7層	フレイク	1.75	2.4	0.3	1.16	頁岩(北上)			215図	
586	第67号土坑・4~7層	石鏃	3.15	1.7	0.8	3.08	石英安山岩(北上)	先端欠損	凸基	215図	
587	第67号土坑・8層	Rフレイク	2.15	2.15	0.45	2.17	頁岩(北上)			216図	
588	第67号土坑・8層	尖頭器	4.65	2.8	1.6	16.03	頁岩(北上)			216図	
589	第68号土坑・1層	石鏃	3.1	1.35	0.45	1.28	頁岩(北上)	略完形		216図	
590	第68号土坑・1層	〃	4.5	1.6	0.7	3.76	頁岩(北上)	略完形	凸基・磨痕少ない・かるく反っている	216図	
591	第68号土坑・2層	石鏃?	3.4	1.15	0.7	2.15	頁岩(北上)	基部欠損	凸基	216図	
592	第68号土坑・5層	尖頭器?	3.1	4.7	1.5	20.63	赤色頁岩(北上)	欠損		216図	
593	第68号土坑・6層	打製石斧?	13.34	5.93	1.44	159.08	砂岩(北上)	破片	表面中央に敲打痕も		
595	第68号土坑・6層	石鏃	3.25	1.8	0.7	2.33	頁岩(北上)	一部欠損	凸基	216図	

写真図版155 石器(39) (580、593はS=1/3 他はS=2/3)



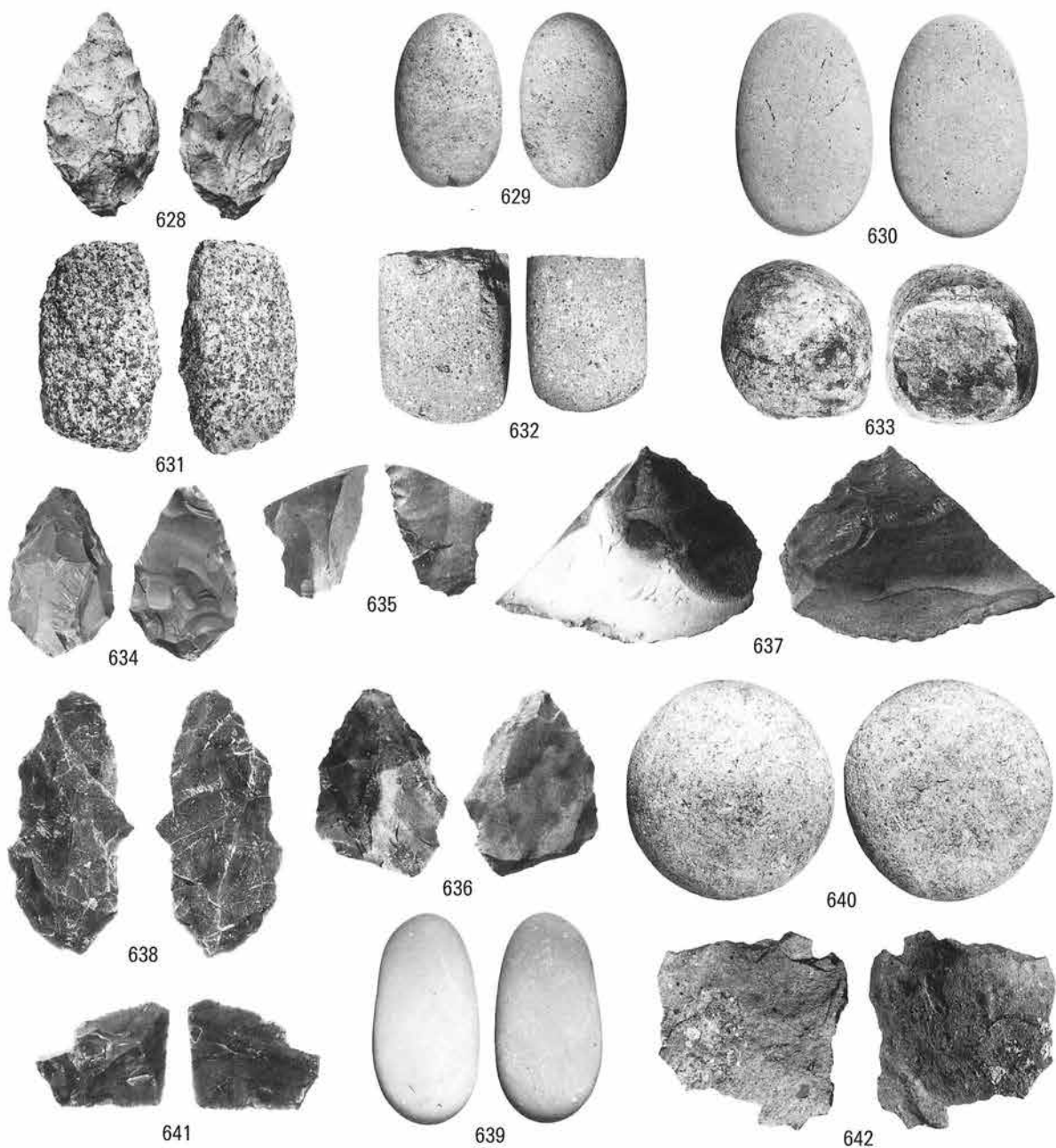
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
594	第68号土坑・6層	尖頭器?	4.2	3.8	1.7	20.65	頁岩(北上)	〃		216図	
596	第68号土坑・6層	〃	2.9	1.85	1	4.34	頁岩(北上)	先端欠損	〃	216図	
597	第68号土坑・6層	石鏃?	2.2	3.5	1	4.88	頁岩(北上)	下部欠損	裏面剥離少ない	216図	
598	第68号土坑・7層	残核?	3.95	4.2	1.3	23.4	砂岩(北上)			216図	
599	第68号土坑・7層	石鏃?	5.2	2.5	0.9	9.42	頁岩(北上)	先端欠損	円基・尖頭器?	216図	
600	第68号土坑・7層	尖頭器	2.9	5	1	12.57	チャート(北上)	欠損		216図	
601	第68号土坑・7層	尖頭器?	2.6	2.3	1.1	4.95	チャート(北上)	先端破片		216図	
602	第68号土坑・7層	石鏃?	4.3	1.7	0.75	5.71	頁岩(北上)			216図	
603	第68号土坑・7層	残核?	10.17	9.1	1.69	144.77	石英安山岩(北上)				
604	第68号土坑・9層	スクレイパー-A類	4.1	5.6	0.9	21.65	頁岩(北上)			217図	
605	第68号土坑・9層	スクレイパー-A類?	4.5	2.2	0.8	8.3	頁岩(北上)		石鏃 未製品?	217図	
606	第68号土坑 半蔵時	石匙	9.6	2.7	1.2	23.24	頁岩(北上)	完形		217図	
607	第68号土坑 半蔵時	尖頭器?	3.6	2.8	0.9	8.84	頁岩(北上)		スクレイパー-A類?	217図	
608	第68号土坑 半蔵時	石鏃?	3.1	1.9	0.95	4.42	頁岩(北上)	欠損	円基?	217図	
609	第68号土坑 半蔵時	石鏃?	5.9	2.5	1.35	15.47	頁岩(北上)		石匙 未製品?スクレイパー-A類	217図	
610	第69号土坑・Na1土器の下	フレイク?	2	2.55	1.4	4.46	頁岩(北上)		スクレイパー-A類 未製品?	217図	

写真図版156 石器(40) (603はS=1/3 他はS=2/3=)



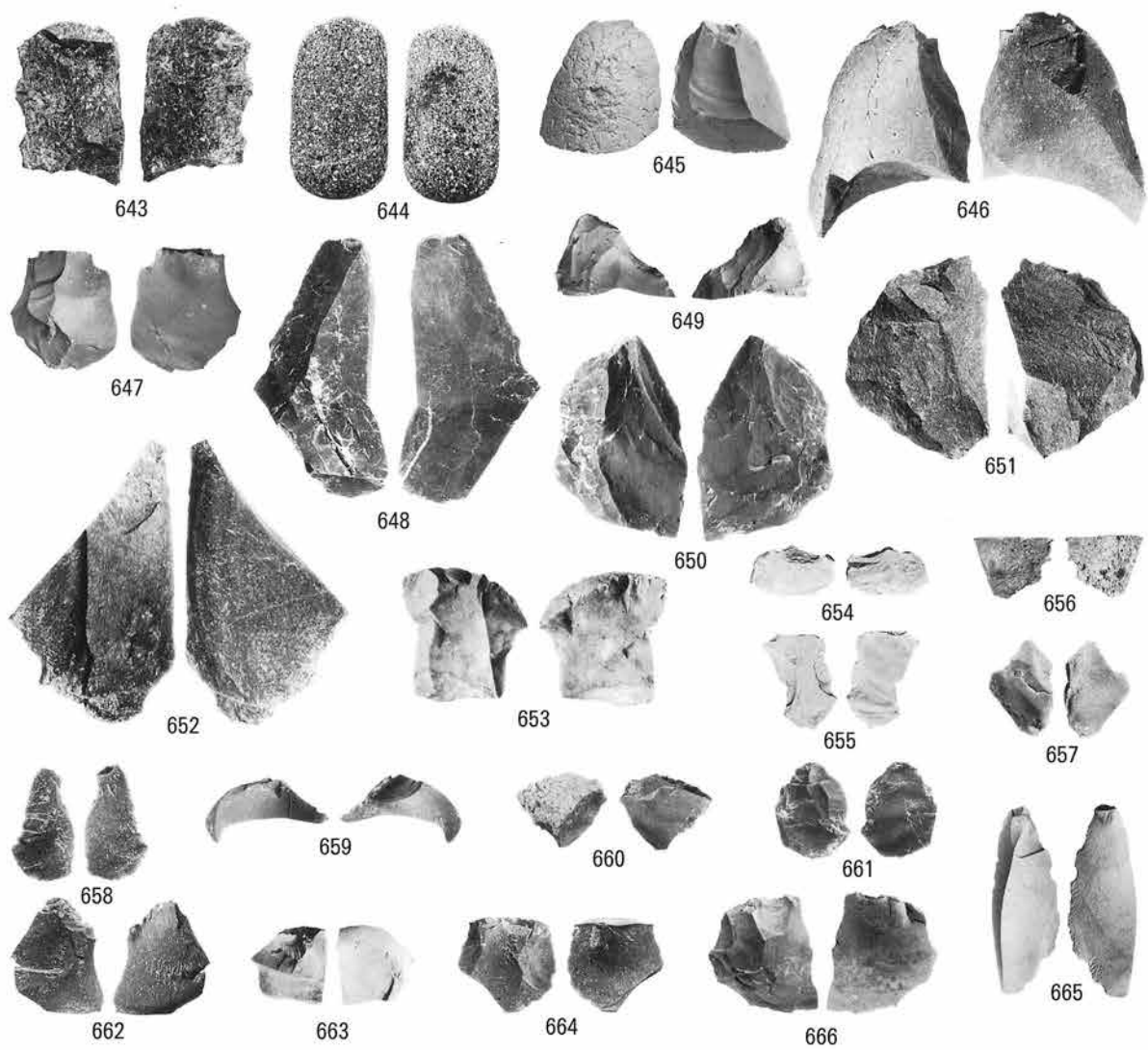
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
611	第69号土坑・No2土器 (24層)	磨石B類	13.53	7.98	3.47	554.76	砂岩(北上)				
612	第69号土坑・24相当層	スクレイパーA類?	3.2	2.5	0.9	5.02	頁岩(北上)	破片		217図	
613	第69号土坑・25層	凹石	8.7	8	3.3	341.03	ひん岩(北上)	〃	No614と接合・正面中央に凹み		
614	第69号土坑・25層						ひん岩(北上)		No613と接合		
615	第69号土坑・26相当層	スクレイパーA類	3	4.45	0.85	8.58	頁岩(北上)	欠損		217図	
616	第69号土坑・26相当層	フレイク	1.4	2.9	0.6	2.97	頁岩(北上)			217図	
617	第69号土坑 半裁時	磨石C類	7.06	4.01	1.36	65.57	ひん岩(北上)		縁辺部に磨面?		
618	第69号土坑 半裁時	尖頭器?	2.4	2.7	0.8	4.73	頁岩(北上)	破片		217図	
619	第69号土坑 半裁時	スクレイパーA類	2.6	4	0.9	10.84	赤色頁岩(北上)			217図	
620	第69号土坑 半裁時	スクレイパーA類?	3.65	4.95	1.3	23.1	砂岩(北上)			218図	
621	第69号土坑 半裁時	尖頭器?	2.6	1.8	0.9	2.96	頁岩(北上)	先端のみ		217図	
622	第69号土坑 半裁時	石匙	2.7	3.9	0.7	4.88	頁岩(北上)	略完形		218図	
623	第70号土坑 半裁時	スクレイパーA類?	5.9	4.35	2	44.84	頁岩(北上)		未製品?	218図	
624	第70号土坑 半裁時	磨製石斧	7.87	5.42	2.9	218.44	ひん岩(北上)	先端のみ			
625	第70号土坑 半裁時	スクレイパーA類?	4.5	1.8	0.9	6.46	頁岩(北上)			218図	
626	第70号土坑 半裁時	敲石	10.6	9.86	3.42	506.71	砂岩(北上)		縁辺部敲打痕		
627	第70号土坑 半裁時	尖頭器?	6.5	2.4	1.1	15.11	頁岩(北上)	先端欠損	石鏝?	218図	

写真図版157 石器(41) (611、613、614、617、624、626はS=1/3 他はS=2/3)



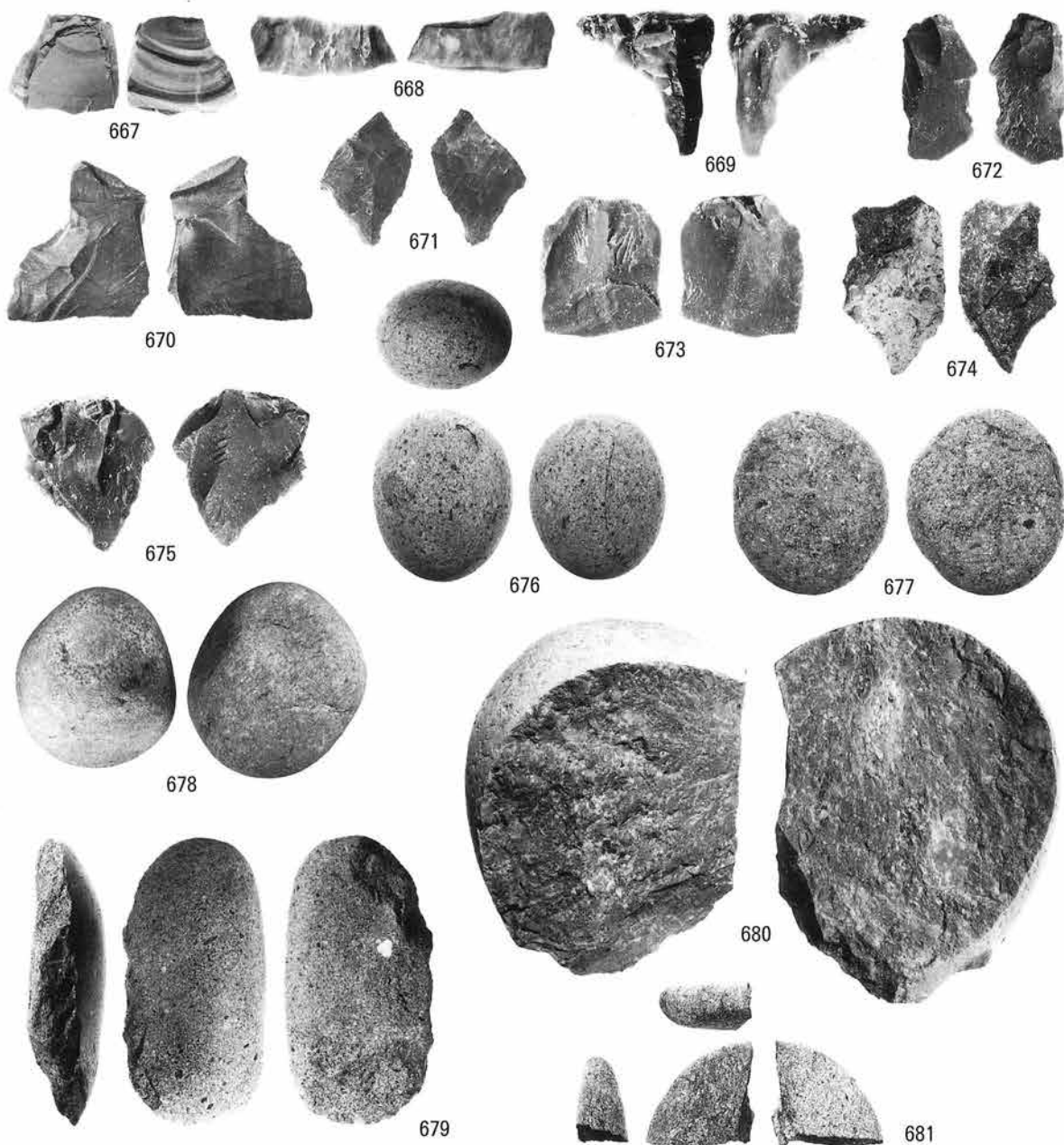
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
628	第70号土坑 半蔵時	石鏃?	4.6	2.65	0.95	9.65	頁岩(北上)	基部欠損	凸基?・尖頭器?	218図	
629	第71号土坑・8相当層?	磨石C類	7.95	4.89	2.54	141.14	石英安山岩(北上)				
630	第71号土坑・1~6層	〃	10.21	6.27	2.16	213.96	石英安山岩(北上)				
631	第71号土坑 半蔵時	敲石?	9.45	5.45	4.02	277.68	花崗閃緑岩(北上)		ポロポロ崩れる		
632	第71号土坑 半蔵時	磨製石斧	7.85	6.05	2.85	252.42	ひん岩(北上)	1/2			
633	第72号土坑・5層	敲石	6.97	7.2	6.58	509.73	花崗斑岩(北上)		点々と敲打痕あり		
634	第72号土坑・5層	石鏃?	4	2.5	1	8.22	頁岩(北上)		凹基・裏面剥離ほとんどなし	218図	
635	第72号土坑 半蔵時	スクレイパーA類	3.1	2.5	0.85	5.11	頁岩(北上)	欠損		218図	
636	第72号土坑 半蔵時	尖頭器?	4.2	3.1	1.2	14.69	頁岩(北上)	基部欠損	裏面剥離少ない	218図	
637	第73号土坑・4層	スクレイパーA類	4.4	6.2	1.6	29.79	頁岩(北上)	欠損		218図	
638	第73号土坑・4層	尖頭器	2.9	6.2	1.3	19.23	頁岩(北上)			219図	
639	第73号土坑・15層	磨石C類	9.97	5.07	4.01	161.42	凝灰岩(北上)				
640	第73号土坑 半蔵時	敲石	10.73	10.08	6.12	993	安山岩(北上)		表面中央、縁部2箇所敲打痕		
641	第74号土坑	Uフレイク?	2.5	3.1	0.8	6.03	チャート(北上)			219図	
642	第74号土坑	フレイクB類	4.37	4.57	0.84	11.49	砂岩(北上)				

写真図版158 石器(42) (629~633、639、640はS=1/3 他はS=2/3)



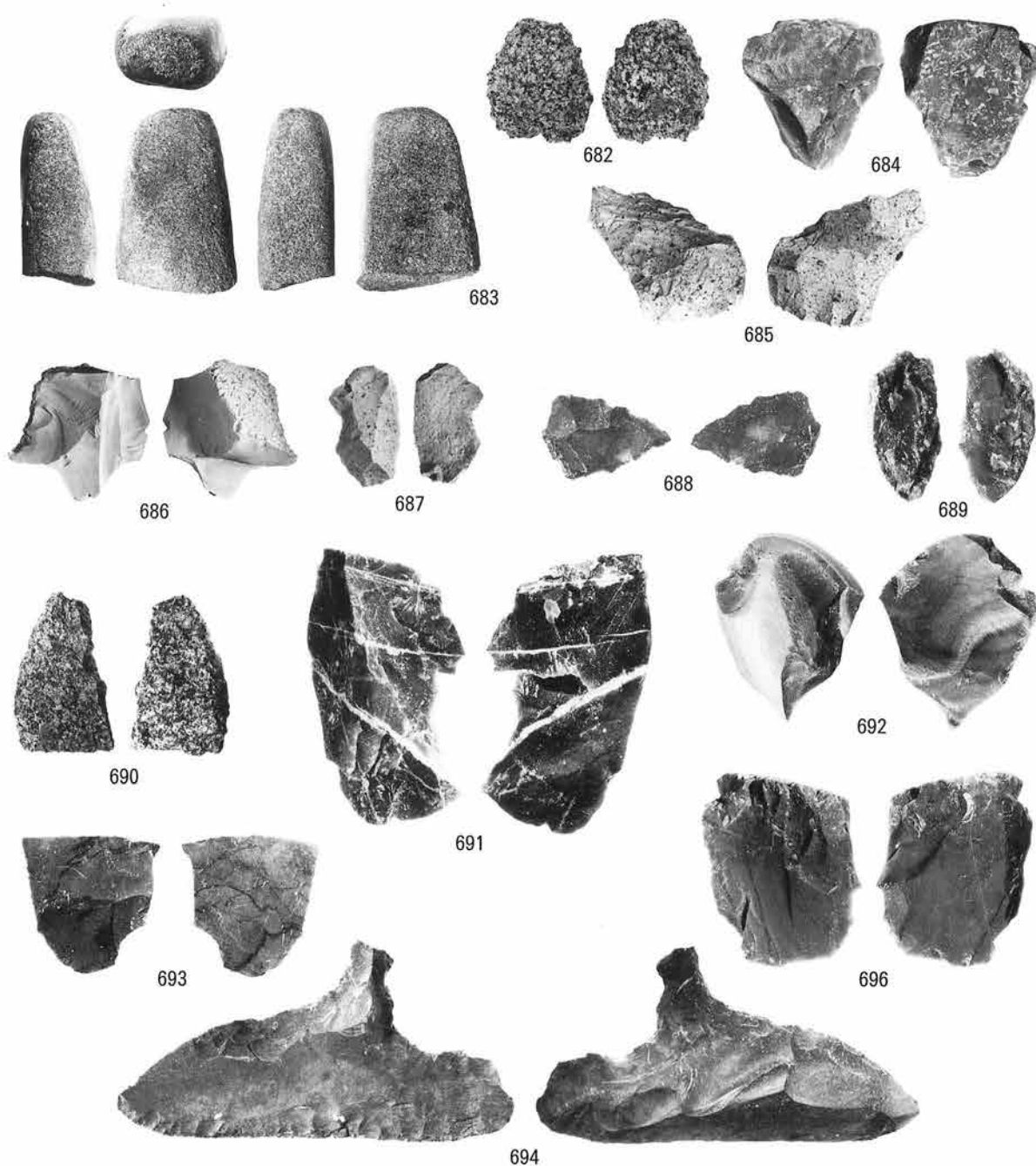
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
643	第74号土坑	フレイクB類	3.56	2.21	0.65	4.7	頁岩(北上)				
644	第74号土坑	磨石?	7.9	4.3	2.3	132.29	ひん岩(北上)			219図	
645	第75号土坑	フレイク	3.01	1.35	1.75	7.92	頁岩(北上)				
646	第75号土坑	"	4.62	3.2	1.69	19.35	頁岩(北上)				
647	第75号土坑	"	1.13	0.82	0.59	2.84	頁岩(北上)				
648	第75号土坑	"	5.33	2.36	1.21	15.82	頁岩(北上)				
649	第75号土坑	フレイク?	1.9	2.5	0.9	3.06	頁岩(北上)	未製品?		219図	
650	第75号土坑	フレイク	4.24	2.49	0.98	10.11	チャート(北上)				
651	第75号土坑	"	4.02	2.65	1.09	12.4	頁岩(北上)				
652	第75号土坑	"	5.87	3.34	0.88	14.82	頁岩(北上)				
653	第75号土坑	"	2.75	2.58	0.8	4.42	頁岩(北上)				
654	第75号土坑	"	1.76	1.04	0.28	0.56	頁岩(北上)				
655	第75号土坑	"	2.01	1.2	0.18	0.55	頁岩(北上)				
656	第75号土坑	"	1.6	1.29	0.2	0.39	頁岩(北上)				
657	第75号土坑	"	1.61	1.43	0.44	1.1	頁岩(北上)				
658	第75号土坑	"	2.42	1.29	0.35	0.93	頁岩(北上)				
659	第75号土坑	"	2.59	0.89	0.28	0.67	頁岩(北上)				
660	第75号土坑	"	1.87	1.6	0.43	1.01	頁岩(北上)				
661	第75号土坑	フレイク?	2.03	1.74	0.26	1.04	頁岩(北上)	未製品?			
662	第75号土坑	フレイク	2.37	2.21	0.39	2	頁岩(北上)				
663	第75号土坑	"	1.7	1.86	0.76	1.07	頁岩(北上)				
664	第75号土坑	"	1.97	1.98	0.48	1.65	頁岩(北上)				
665	第75号土坑	"	3.91	1.44	0.39	1.75	頁岩(北上)				
666	第75号土坑	"	2.48	2.15	0.39	1.75	頁岩(北上)				

写真図版159 石器(43) (644は S=1/3 他は S=2/3)



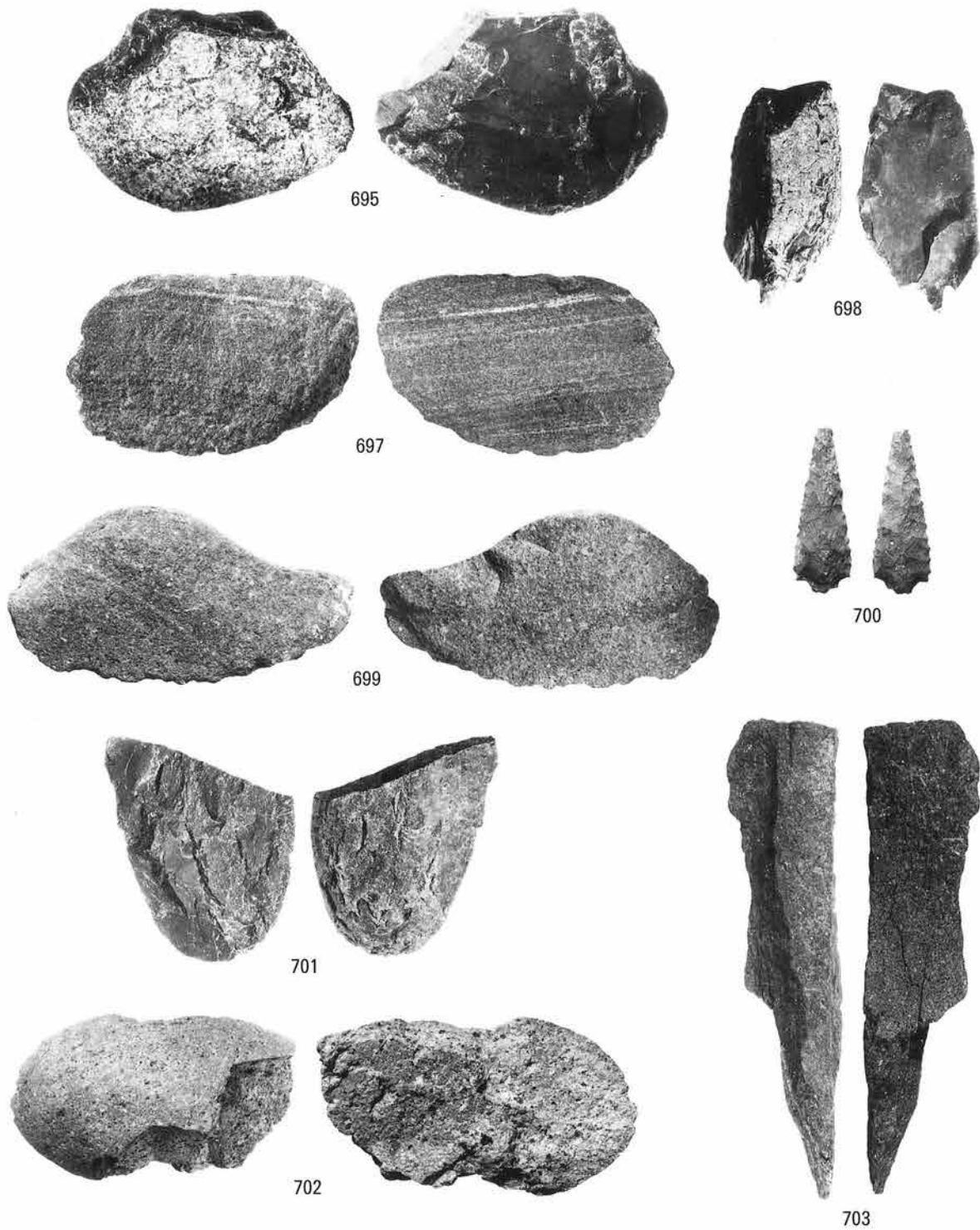
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
667	第75号土坑	フレイク	2.23	2.5	0.47	3.09	頁岩(北上)				
668	第75号土坑	"	1.38	3.37	0.47	2.75	珪質頁岩(北上)				
669	第75号土坑	"	2.46	3.91	1.04	4.77	チャート(北上)				
670	第75号土坑	"	3.65	3.2	0.85	7.32	チャート(北上)			219図	
671	第75号土坑	石錐	1.9	2.9	1.2	6.82	チャート(北上)	欠損		219図	
672	第76号土坑	フレイク	3.32	1.66	0.64	2.8	頁岩(北上)				
673	第76号土坑	"	3.18	2.8	0.81	7.53	頁岩(北上)				
674	第76号土坑	フレイクB類	4.05	2.3	1.17	9.32	石英斑岩(北上)				
675	第76号土坑	フレイク	3.5	2.95	0.83	7.19	頁岩(北上)				
676	第76号土坑	磨石	8.2	6.7	5.7	427.67	溶結凝灰岩(北上)		先端部面をなしている	219図	
677	第76号土坑	磨石?	8.85	7.5	4.1	391.37	溶結凝灰岩(北上)			219図	
678	第76号土坑	磨石	8.94	7.78	7.07	652.81	砂岩(北上)		不整形		
679	第76号土坑	打製石斧	13.5	7	3.7	549.22	ひん岩(北上)			219図	
680	第76号土坑	残核?	17.2	12.31	5.45	1623.23	石英斑岩(北上)				
681	第77号土坑	磨器器類	4.7	5.1	2.6	80.88	砂岩(北上)	破片		219図	

写真図版160 石器(44) (676~681はS=1/3 他はS=2/3)



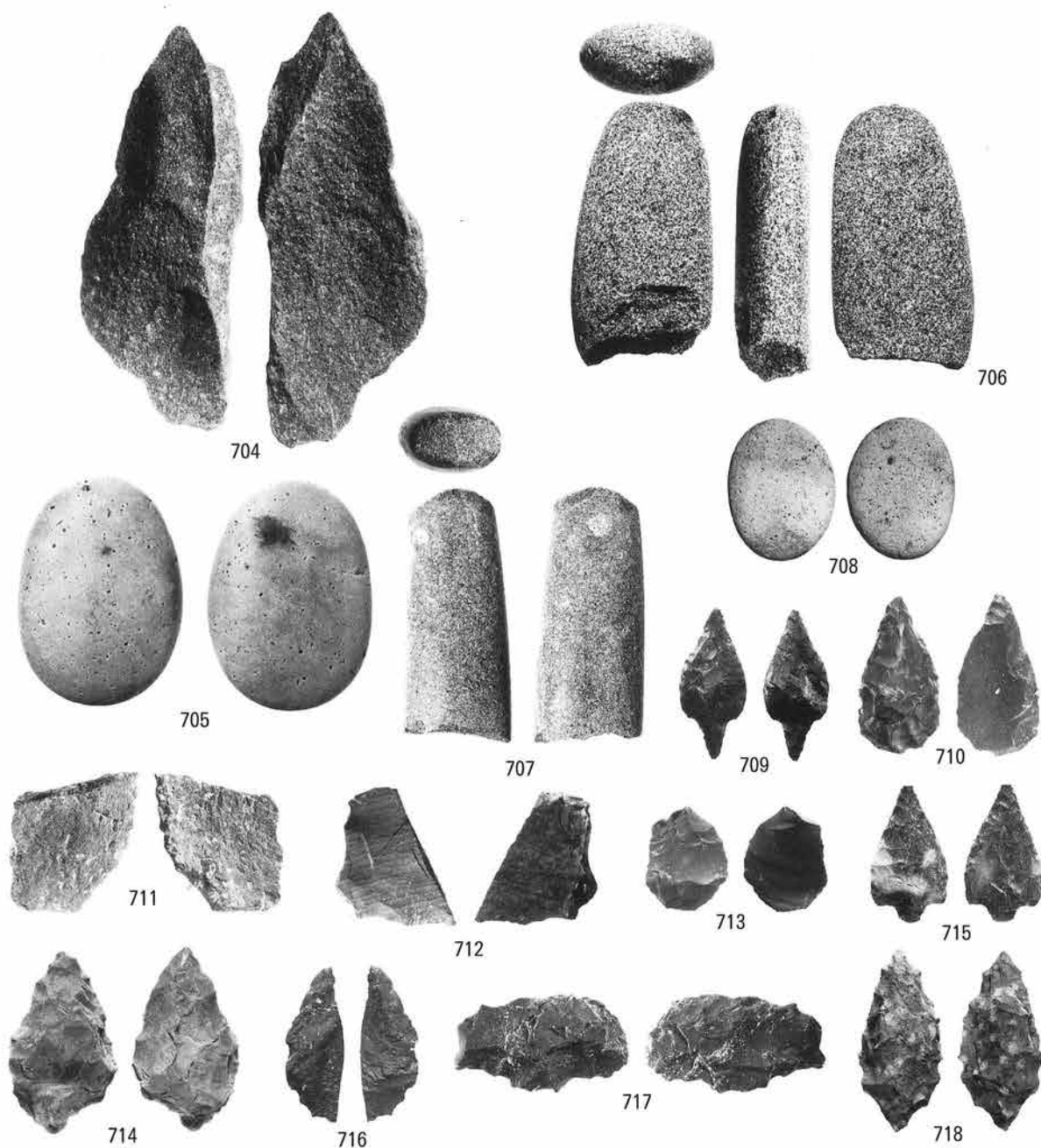
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
682	第77号土坑	敲石?	6.07	5.35	3.08	114.54	花崗閃緑岩(北上)	破片	粉々に碎ける		
683	第77号土坑	磨製石斧	8.9	5.9	3.8	342.59	閃緑岩(北上)	欠損	細かい敲打痕多く、未製品か	220図	
684	第77号土坑(第4号陥し穴に含む?)	フレイク?	3.14	3.41	1.46	16.75	チャート(北上)				
685	第77号土坑(第4号陥し穴に含む?)	〃	3.2	3.7	0.8	7.61	石英安山岩(北上)		未製品?	220図	
686	第77号土坑(第4号陥し穴に含む?)	フレイク	3.28	2.94	1.42	7.92	頁岩(北上)				
687	第77号土坑(第4号陥し穴に含む?)	〃	2.77	1.47	0.53	1.81	凝灰岩(北上)				
688	第77号土坑(第4号陥し穴に含む?)	Rフレイク	2.05	4.1	0.6	3.21	チャート(北上)			220図	
689	第78号土坑	フレイク?	3.52	1.71	0.66	4.95	チャート(北上)				
690	第78号土坑	打製石斧	7.74	4.64	1.76	89.44	花崗閃緑岩(北上)	破片	半円扁平		
691	第79号土坑	フレイク	6.21	3.44	1.11	19.13	チャート(北上)				
692	第79号土坑	〃	4.34	3.44	0.86	12.13	頁岩(北上)				
693	第79号土坑	〃	3.3	3.2	0.7	8.33	チャート(北上)		未製品?	220図	
694	第79号土坑	石匙	4.65	9.15	0.95	35.28	頁岩(北上)	略完形		220図	
696	第79号土坑	フレイク	4.29	3.26	1.44	16.02	チャート(北上)				

写真図版161 石器(45) (690はS=1/3 他はS=2/3)



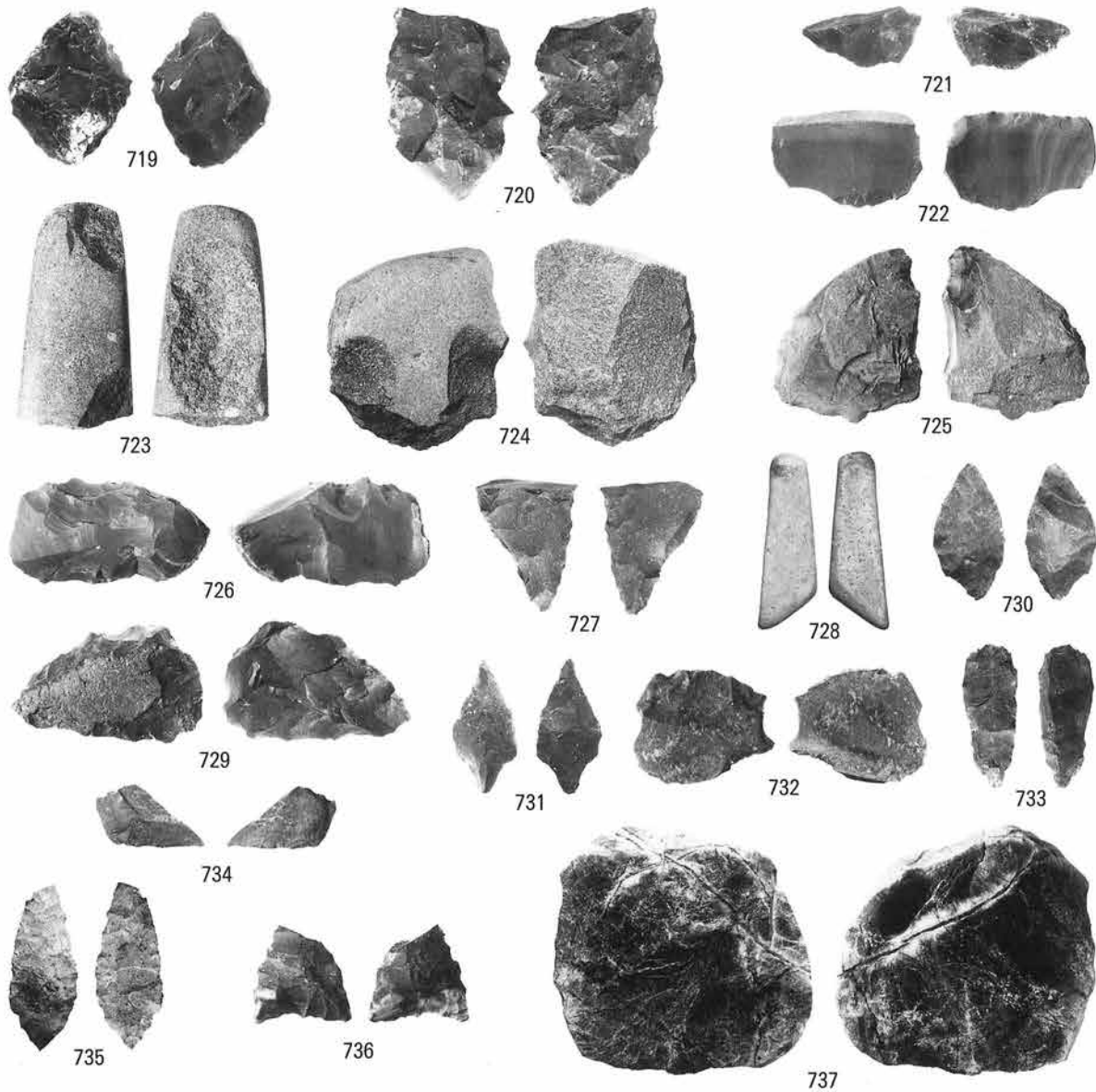
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
695	第79号土坑	残核?	5.1	7.1	1.5	58.65	チャート(北上)			220図	
697	第79号土坑	フレイクB類	4.4	7	1.1	42.38	ホルンフェルス(北上)			221図	
698	第79号土坑	Rフレイク?	5.59	2.74	1.47	21.3	頁岩(北上)				
699	第79号土坑	スクレイパーB類?	4.4	8.2	1.5	55.56	砂岩(北上)			221図	
700	第79号土坑	石鏃	3.9	1.45	0.7	2.87	頁岩(北上)	鋭・弱短	凸基	220図	
701	第79号土坑	残核?	5.82	3.94	1.24	31.23	チャート(北上)				
702	第79号土坑	磨敵器類?	6.96	2.96	3.7	64.87	石英安山岩(北上)	破片			
703	第79号土坑	〃	11.94	2.82	2.47	56.41	ホルンフェルス(北上)	〃	磨石?		

写真図版162 石器(46) (S=2/3)



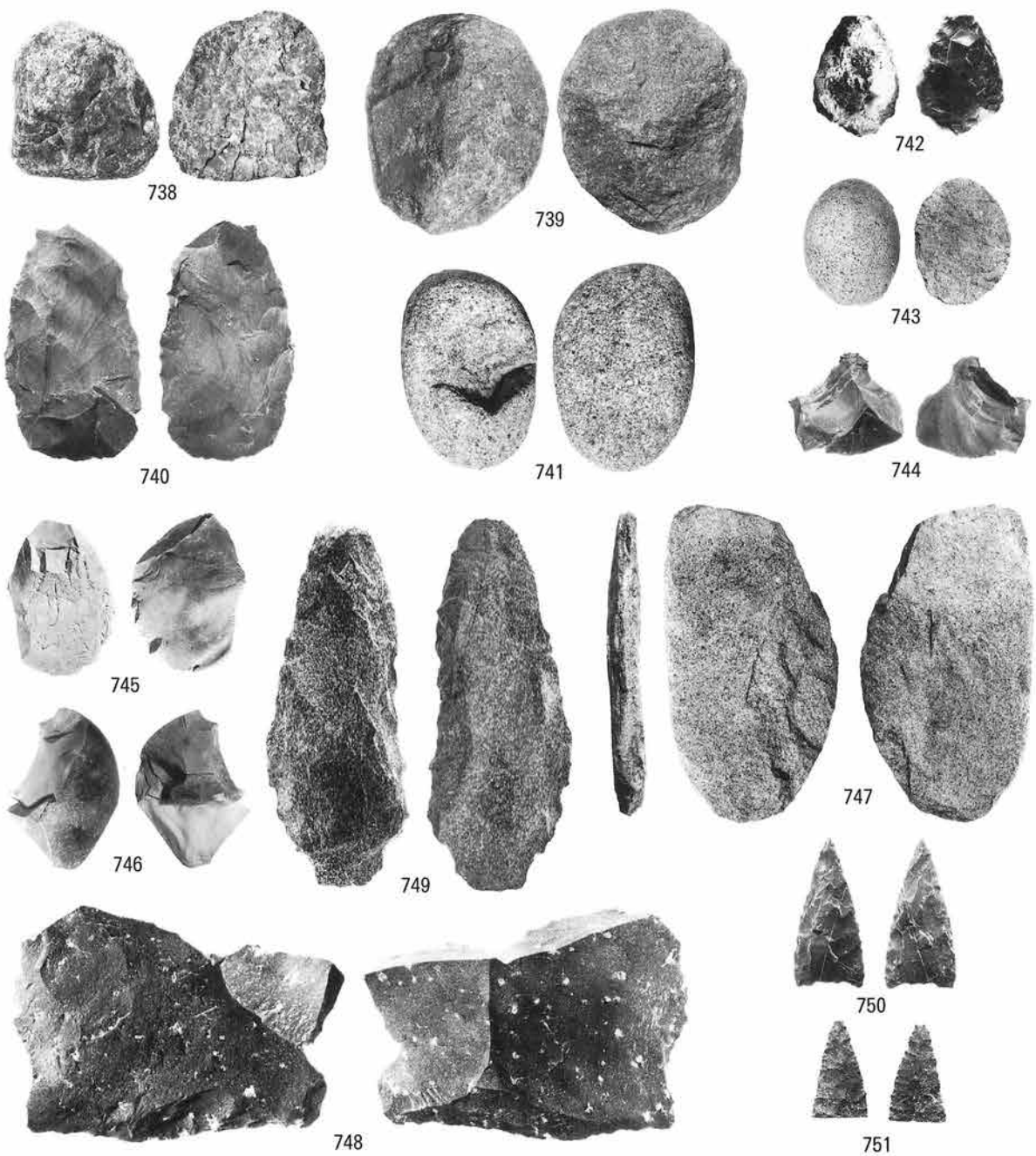
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
704	第79号土坑	フレイクB類?	9.41	3.56	1.94	48.43	ホルンフェルス(北上)				
705	第79号土坑	磨石C類	10.5	7.45	3	323.87	石英安山岩(北上)			221図	
706	第79号土坑	磨石B類?	12.7	6.7	3.4	521.92	閃緑岩(北上)		途中?	221図	p.213
707	第79号土坑	磨製石斧	12	5.2	3.6	415.99	花崗閃緑岩(北上)	先端欠損	基部頭に面となる敲打痕	221図	
708	第80号土坑・4層	磨石C類	6.34	4.78	1.19	40.56	凝灰岩(北上)				
709	第80号土坑・4層	石鏃	3.5	2.6	0.6	2.32	頁岩(北上)	一部欠損	凸基	221図	
710	第81号土坑北西部及びその周辺	石鏃	3.65	1.9	0.85	4.18	頁岩(北上)		凹基・片面剥離ほとんどなし	221図	
711	第81号土坑北西部及びその周辺	不明	3.26	2.71	0.72	8.29	ホルンフェルス(北上)		磨石器類破片?		
712	第81号土坑南東隅及びその周辺	スクレイパーA類?	3	2.7	0.9	5.94	頁岩(北上)		未製品?	221図	
713	第82号土坑・22相当層??	スクレイパーA類?	2.95	1.95	0.45	1.61	頁岩(北上)		未製品	222図	
714	第82号土坑 半裁時	尖頭器?	4.3	2.6	1	8.56	頁岩(北上)		石鏃(凹基)?	222図	
715	第83号土坑・5層	石鏃	3.1	1.8	0.6	2.65	頁岩(北上)	類・弱欠損	凸基	222図	
716	第85号土坑・7層	Rフレイク	3.6	1.4	0.5	1.57	頁岩(北上)			222図	
717	第85号土坑・7層	尖頭器?	2.3	4.1	1.2	9.83	頁岩(北上)	先端欠損	石鏃(凹基)?	222図	
718	第85号土坑・4~7層	石鏃	4.2	2	1	6.41	安山岩(北上)		凸基	222図	

写真図版163 石器(47) (705~708はS=1/3 他はS=2/3)



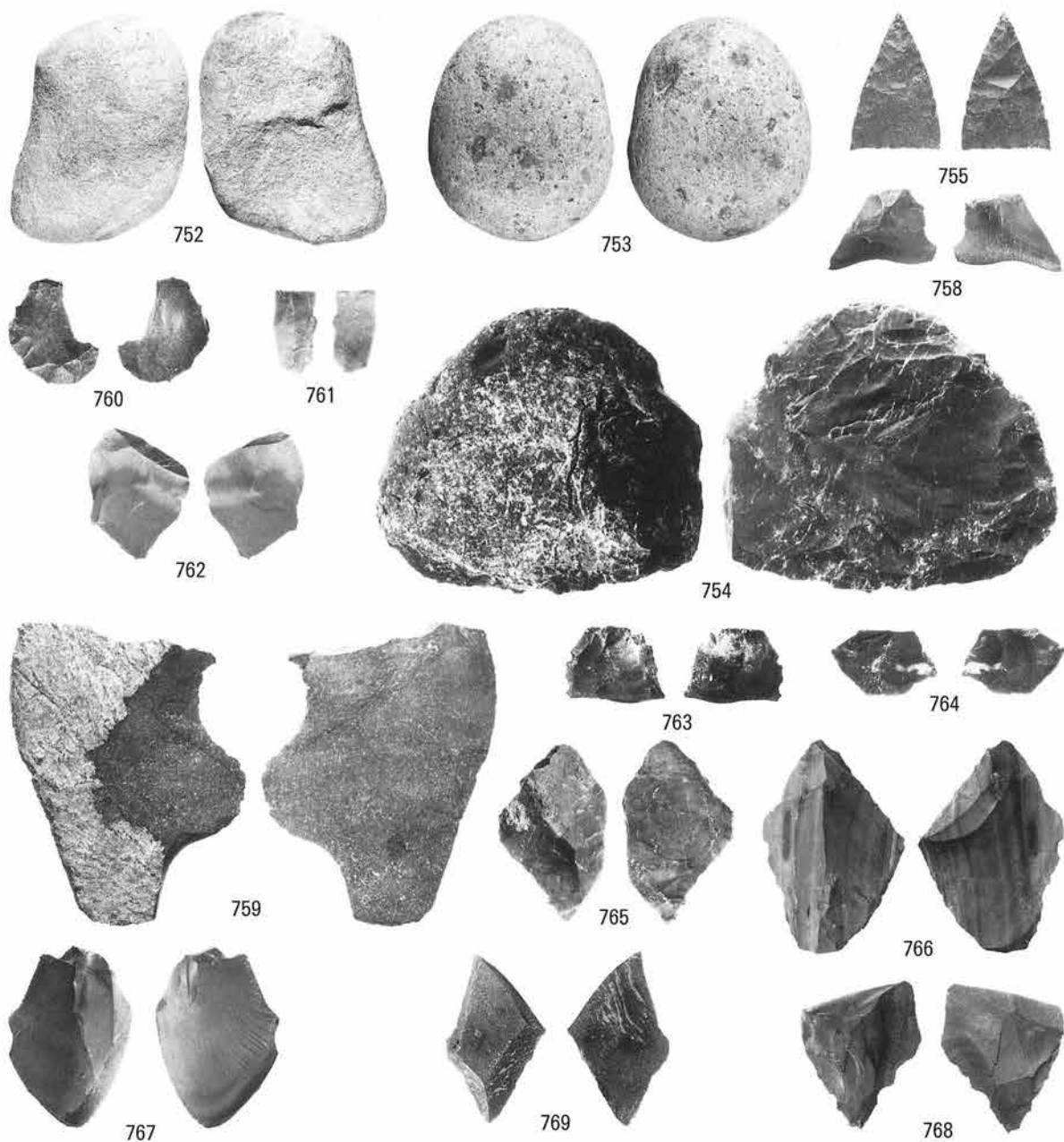
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
719	第85号土坑・4~7層	フレイク?	3.4	2.7	1.1	8.66	頁岩(北上)		石鏝 未製品?	222図	
720	第85号土坑・4~7層	尖頭器?	4.9	2.8	1.7	18.93	頁岩(北上)	欠損		222図	
721	第85号土坑・4~7層	フレイク?	2.75	1.45	1.3	4.15	頁岩(北上)		未製品?	222図	
722	第85号~86号土坑 半裁時	Rフレイク	2.3	3.3	0.5	3.2	頁岩(北上)			222図	
723	第85号~86号土坑 半裁時	磨製石斧	10.01	5.05	3.49	278.85	閃緑岩(北上)	欠損	欠損部分多い		
724	第88号土坑・4層	打製石斧?	8.15	9.68	3.61	322.35	砂岩(北上)	"	敲石?	222図	
725	第89号土坑 半裁時	スクレイパーA類?	3.7	3.3	0.9	10.63	頁岩(北上)		未製品?	222図	
726	第89号土坑 半裁時	"	2.45	4.6	1.6	14.15	頁岩(北上)		"	222図	
727	第89号土坑 半裁時	石鏝?	2.95	2.3	0.8	3.53	頁岩(北上)	破片	尖頭器?	222図	
728	第89号土坑 半裁時	砥石	7.69	2.37	1.07	31.5	頁岩(北上)				
729	第89号土坑 半裁時	尖頭器?	2.6	4.1	1.3	12.12	頁岩(北上)		石鏝(円基)?	222図	
730	第90号土坑・5層	石鏝	3	1.6	0.8	2.56	頁岩(北上)	欠損	凸基	223図	
731	第90号土坑・5層	"	2.95	1.5	0.6	1.93	頁岩(北上)	一部欠損	凸基・裏面剥離少ない	223図	
732	第90号土坑 半裁時	フレイク?	2.5	3.1	0.5	2.08	頁岩(北上)		未製品?	223図	
733	第91号土坑・3~8層	石鏝	3.2	1.3	0.8	2.81	頁岩(北上)		石鏝 未製品?	223図	
734	第91号土坑・10層	Uフレイク	1.4	2.5	0.35	0.81	頁岩(北上)			223図	
735	第91号土坑・14層	石鏝	3.6	1.5	0.5	2.25	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	223図	
736	第91号土坑 半裁時	"	2.2	2.2	0.7	2.43	頁岩(北上)	"	凹基	223図	
737	第91号土坑 半裁時	残核?	5.5	5.9	3	75.76	チャート(北上)			223図	

写真図版164 石器(48) (723、724、728はS=1/3 他はS=2/3)



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
738	第91号土坑 半裁時	残核?	7.81	7.32	3.25	228.6	頁岩(北上)				
739	第91号土坑 半裁時	敲石	10.89	9.06	6.06	748.68	ホルンフェルス(北上)	主として縁刃部使用・面になっている			
740	第92号土坑 半裁時	石鏝	5.6	3.2	1.1	20.19	頁岩(北上)			223図	
741	第95号土坑・8層	磨石?	9.96	6.61	4.45	386.54	閃緑岩(北上)				
742	第95号土坑 半裁時	石鏝?	2.9	2.1	0.95	5.36	頁岩(北上)	先端欠損	凸基	223図	
743	第100号土坑 半裁時	磨敲器類	5.3	4.39	4.3	59.54	安山岩(北上)	破片			
744	第101号、第102号土坑	フレイク	2.42	2.21	0.53	2.18	頁岩(北上)				
745	第101号、第102号土坑	〃	3.53	2.39	0.97	7.96	頁岩(北上)				
746	第101号、第102号土坑	〃	3.84	2.47	1.78	13.11	頁岩(北上)		自然面スス付着		
747	第101号、第102号土坑	打製石斧	14.5	8	2.1	271.66	砂岩(北上)		半円扁平	224図	
748	第103号土坑・36層	スタレイバーA類	5.7	7.85	1.8	47.53	安山岩(北上)			223図	
749	第104号土坑・No.9土器の下粘土層	尖頭器?	8.6	3.45	1.7	49.54	ホルンフェルス(北上)		未製品?・石質が他と異なる	224図	
750	第104号土坑西側拡張・30層?	石鏝	3.45	1.7	0.4	2.03	頁岩(北上)	略完形	凹基	224図	
751	第104号土坑西側拡張・30層?	石鏝	2.2	1.3	0.4	1.01	頁岩(北上)	先端のみ		224図	

写真図版165 石器(49) (738、739、741、747はS=1/3 他はS=2/3)



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
752	第104号土坑西側拡張・30層?	敲石?	10.83	7.61	3.53	446.17	砂岩(北上)		正面中央2個凹み		
753	第104号土坑北西隅(くずれ)・32層?	敲石	10.43	8.46	5.36	707.3	礫岩(北上)		側面に敲打痕		
754	第104号土坑西拡張・34層	スクレイパーA類	6.6	7.65	1.7	81.07	チャート(北上)		Rフレイク	224図	
755	第104号土坑・34層相当層?	石鏝	0.2	0.31	0.04	2.11	頁岩(北上)	略完形	凹基		
758	第2号陥し穴状遺構	フレイク	1.71	2.28	0.5	1.29	頁岩(北上)				
759	第2号陥し穴	Rフレイク	7.1	5.1	1.3	7.42	頁岩(北上)			224図	
760	第2号陥し穴	フレイク	2.4	2.05	0.3	0.95	頁岩(北上)		未製品?	224図	
761	第2号陥し穴	フレイク	1.83	1.04	0.35	0.65	頁岩(北上)				
762	第2号陥し穴	フレイク	2.94	2.23	0.73	3.65	頁岩(北上)				
763	第2号陥し穴	フレイク	1.75	2.2	0.35	1.25	頁岩(北上)		未製品?	224図	
764	第2号陥し穴	フレイク	1.5	2.4	0.3	0.91	頁岩(北上)			225図	
765	第2号陥し穴	フレイク	3.88	2.43	0.91	25.39	頁岩(北上)				
766	第3号陥し穴	フレイク	4.9	3.25	1	10.72	頁岩(北上)			225図	
767	第3号陥し穴	フレイク	4.15	2.8	0.7	9.96	頁岩(北上)			225図	
768	第3号陥し穴	尖頭器?	3.45	2.85	0.8	5.88	頁岩(北上)		未製品	225図	
769	第3号陥し穴	フレイク	3.9	2.3	0.9	5.33	頁岩(北上)			225図	

写真図版166 石器(50) (752、753はS=1/3 他はS=2/3)

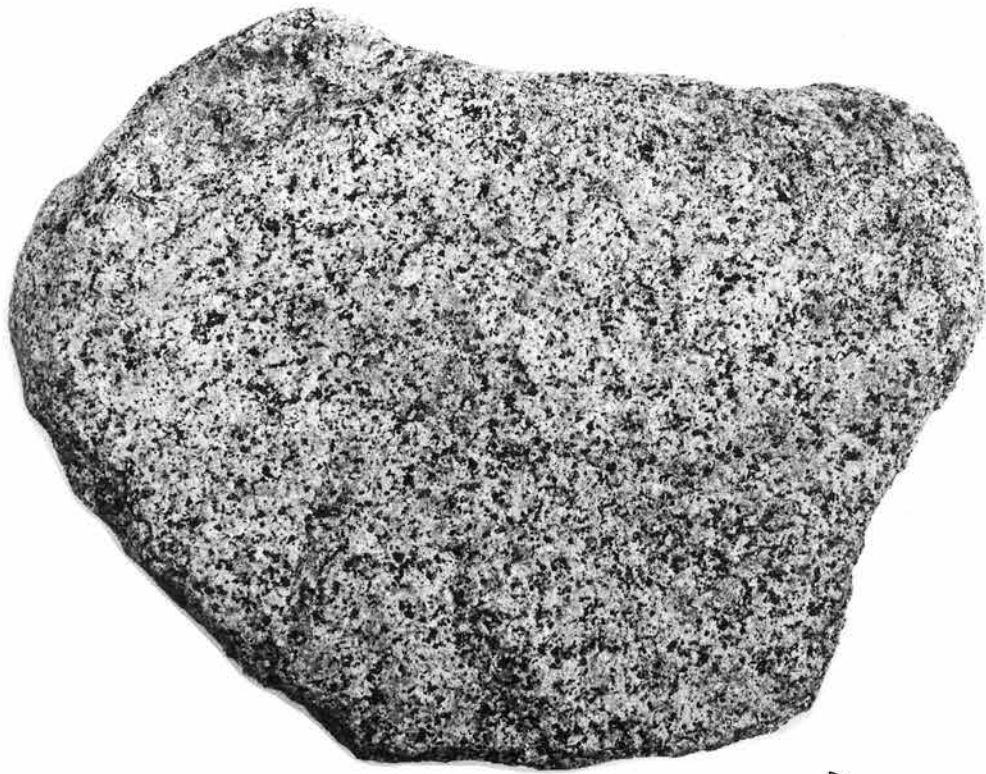


756

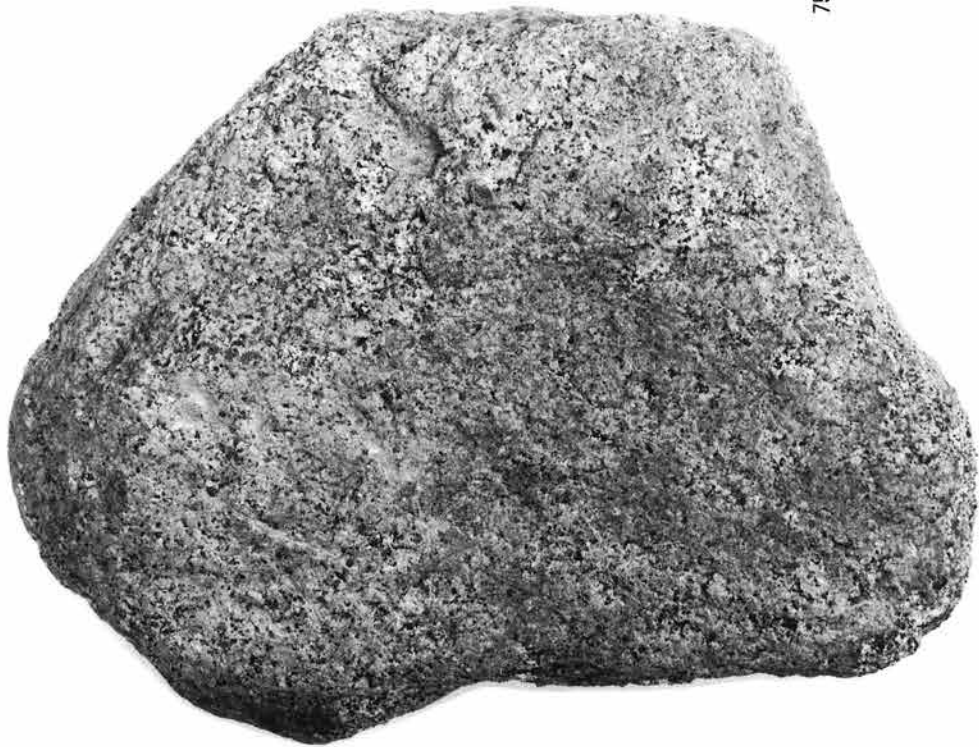


No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
756	第104号土坑・底面レキ	石皿?	36.3	32.1	7.8	15,000	ホルンフェルス(北上)				

写真図版167 石器(51) (S = 1/3)

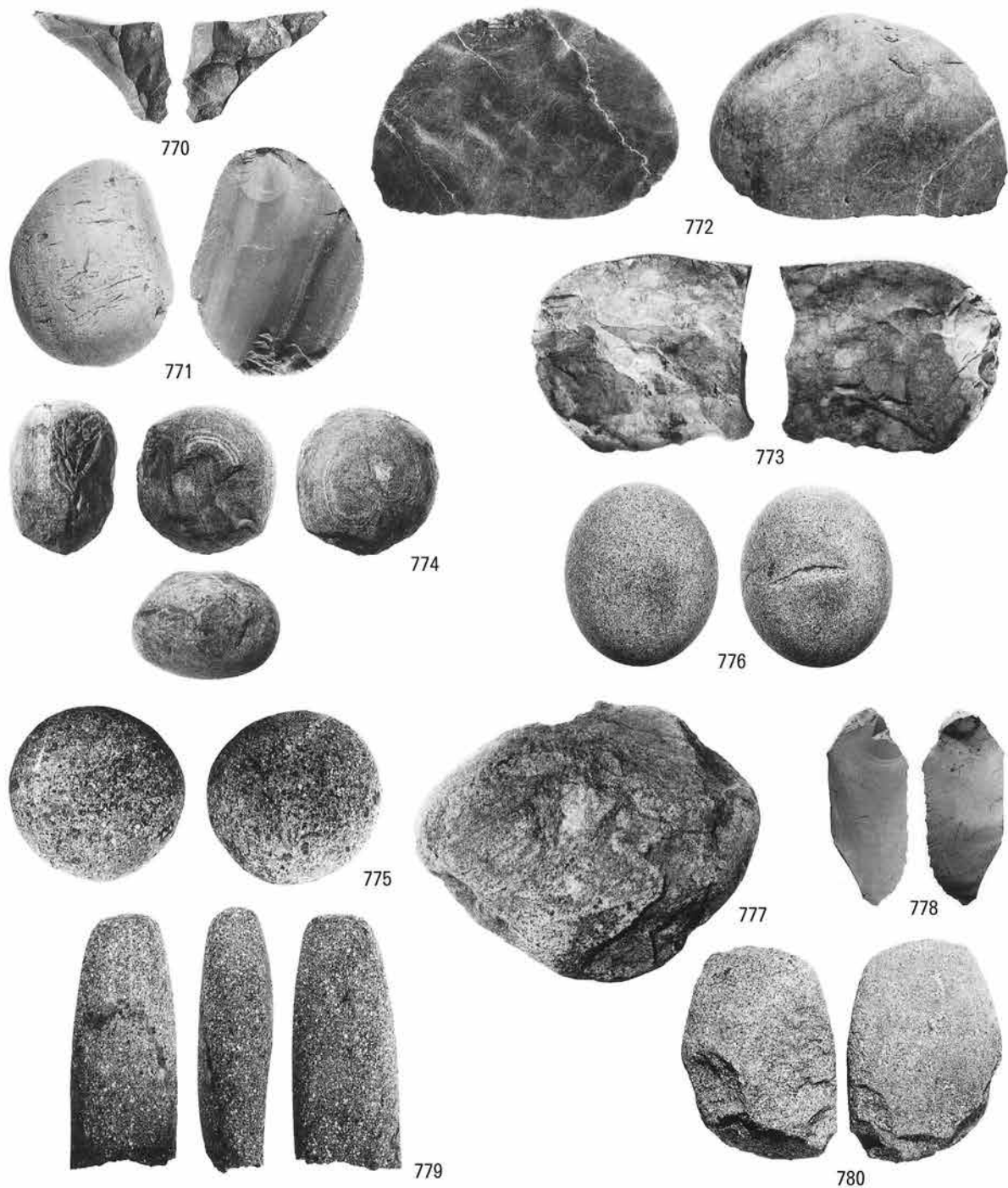


757



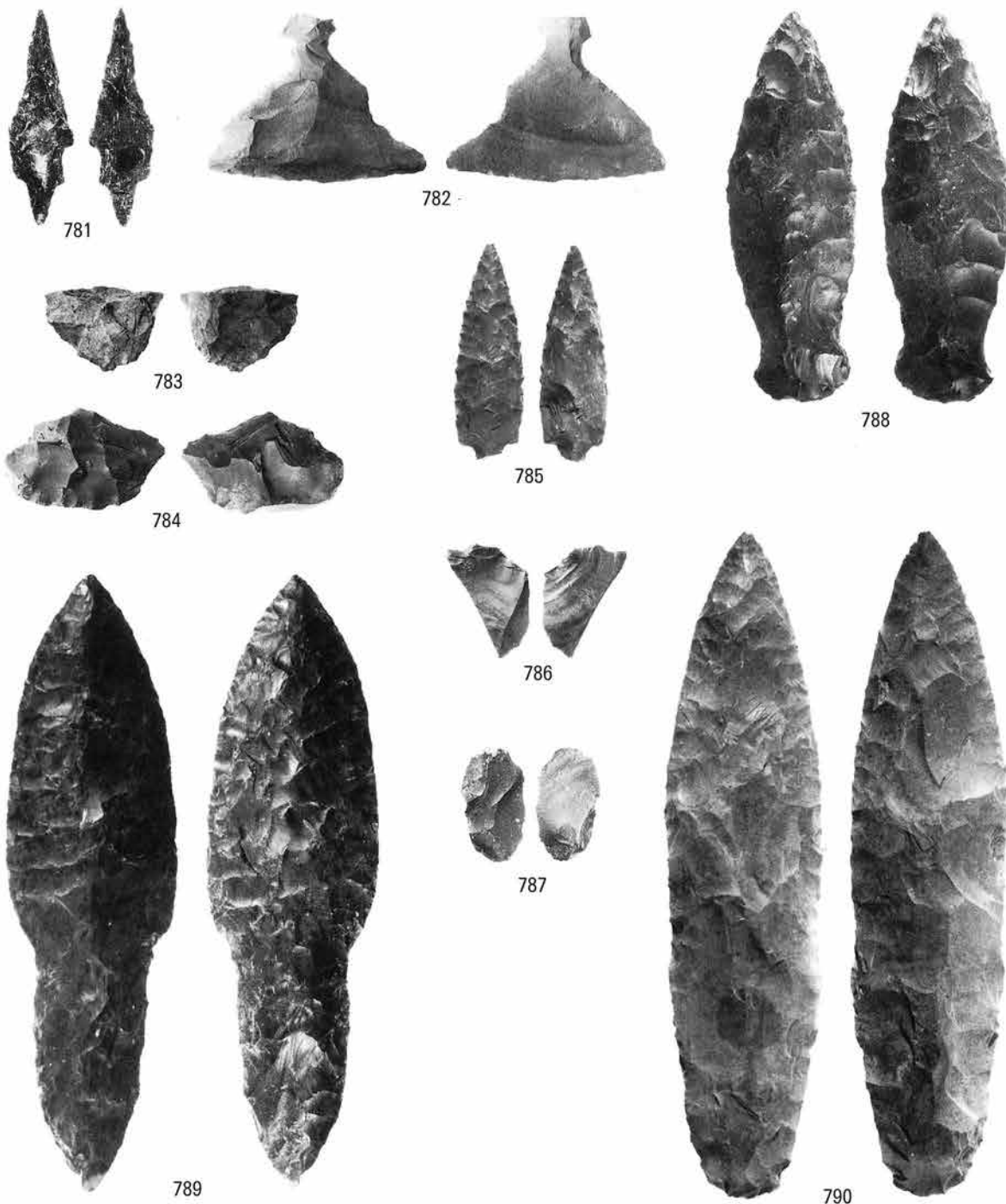
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
757	第104号土坑・底面	石皿?	41.6	29.5	13	19,400	花崗閃緑岩 (北上)				

写真図版168 石器(52) (S=1/3)



No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
770	第3号陥し穴状遺構	フレイク	1.79	2.37	0.79	3.29	頁岩(北上)				
771	第3号陥し穴	残核?	4.91	1.62	1.54	37.49	頁岩(北上)				
772	第3号陥し穴	〃	5.1	7.3	1.1	45.44	チャート(北上)			225図	
773	第3号陥し穴	〃	4.8	5.2	1.5	53.11	頁岩(北上)			225図	
774	第3号陥し穴	敲石	7.55	7.1	5.2	383.57	ホルンフェルス(北上)		縁辺部敲打痕	225図	
775	第3号陥し穴	敲石?	8.7	8.6	4.8	513.48	礫岩(北上)		表裏面弱く敲打?	226図	
776	第3号陥し穴	磨石	9.5	7.9	5.7	582.1	砂岩(北上)		表裏面磨面	226図	
777	第3号陥し穴	凹石	13.8	16.7	4.7	1308.03	ホルンフェルス(北上)		表面中央径2.5cm凹み	226図	
778	第4号陥し穴状遺構(第77号土坑含む?)	フレイク	4.62	1.98	0.57	3.13	頁岩(北上)				
779	第5号陥し穴状遺構 半裁時	磨製石斧	12.2	5.05	3.45	386.66	ひん岩(北上)	先端欠損	基部敲打痕(細かい)	226図	
780	第5号陥し穴状遺構 半裁時	打製石斧	10.91	7.6	3.59	446.51	閃緑岩(北上)				

写真図版169 石器(53) (770~773、778はS=1/3 他はS=2/3)



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
781	第6号陥し穴状遺構・1層	石鏃	5.15	1.6	0.65	3.81	頁岩(北上)	欠損?	凸基	226図	
782	第11号~第14号焼土・第6号が跡 クリーニング	石匙	3.95	5.2	0.6	7.76	頁岩(北上)	略完形		226図	
783	第13号焼土 焼土内	尖頭器?	2	2.8	1	4.4	頁岩(北上)	基部のみ		226図	
784	第15号~第21号焼土 クリーニング	"	2.45	3.8	1	8.29	頁岩(北上)			226図	
785	第15号~第21号焼土 クリーニング	石鏃	5.1	1.7	1	7.42	頁岩(北上)	一部欠損	凸基	226図	
786	6C③の土坑? (第36号土坑?)	フレイク	2.8	1.52	0.26	0.98	頁岩(北上)				
787	6C③の土坑? (第36号土坑?)	Rフレイク?	2.63	1.38	0.5	1.76	頁岩(北上)				
788	2D③・II層	尖頭器?	9.3	3.1	1.3	32.81	頁岩(北上)	完形	石匙?	227図	
789	8D③・検出面 (IV層)	尖頭器	14.4	4.1	1.6	63.8	頁岩(北上)	一部欠損	No.790と一っしょに出てきた	227図	p.211
790	8D③・検出面 (IV層)	"	15.7	3.8	1.7	83.49	頁岩(北上)	"	No.789と一っしょに出てきた	227図	p.211

写真図版170 石器(54) (S=2/3)



791



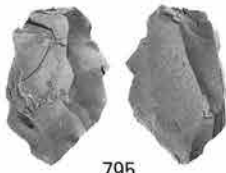
792



793



794



795



796



797



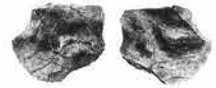
798



799



800



801



802



803



804



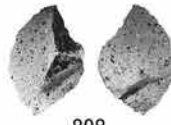
805



806



807



808



809

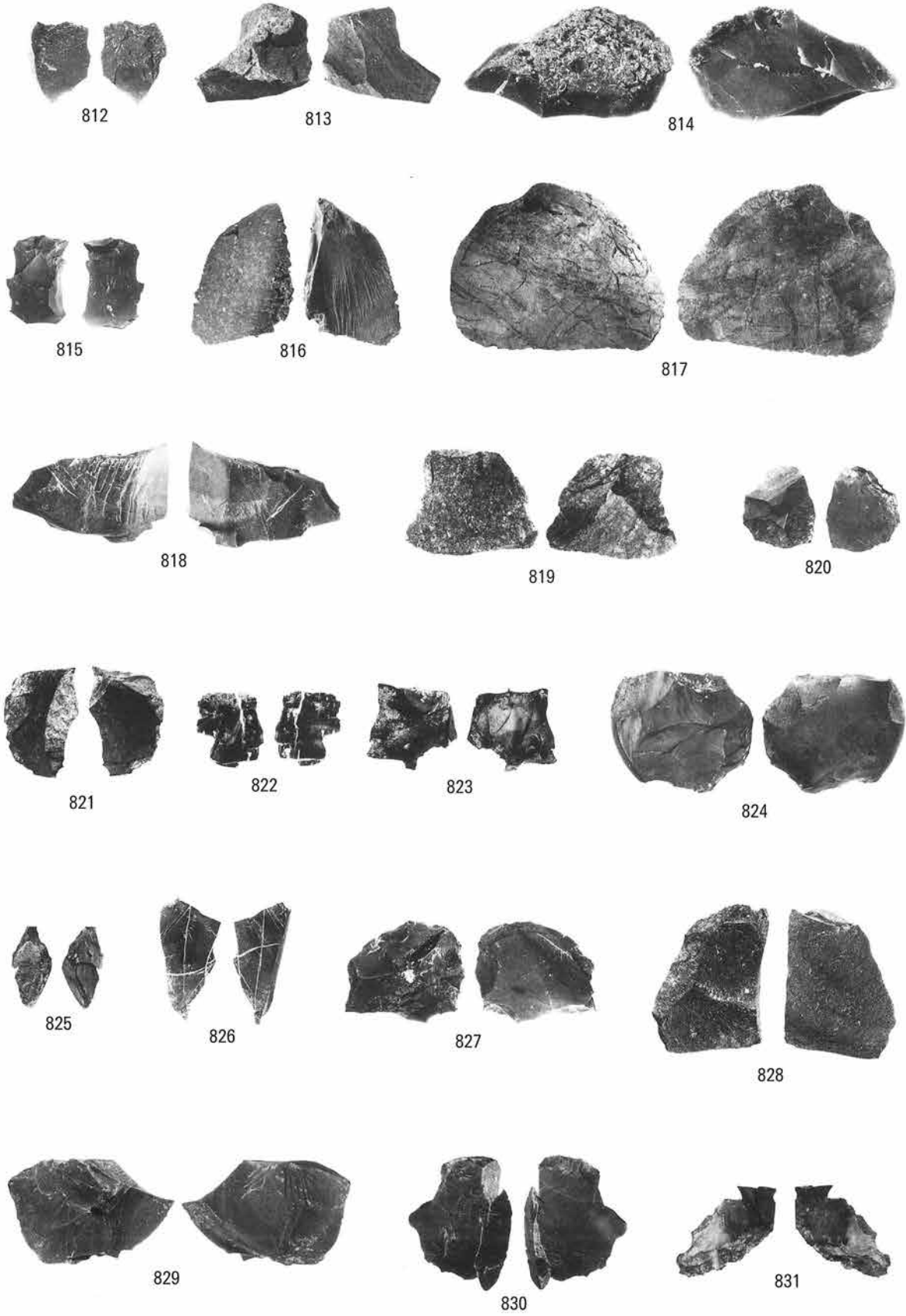


810



811

写真図版171 石器(55) (S=2/3)



写真图版172 石器(56) (S=2/3)



832



833



834



835



836



837



838



839



840



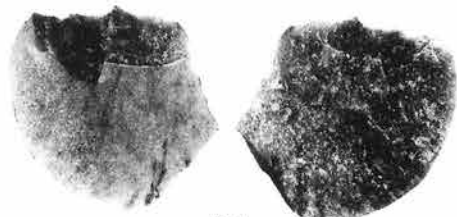
841



842



843



844



845



846



847



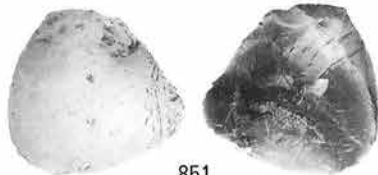
848



849



850



851

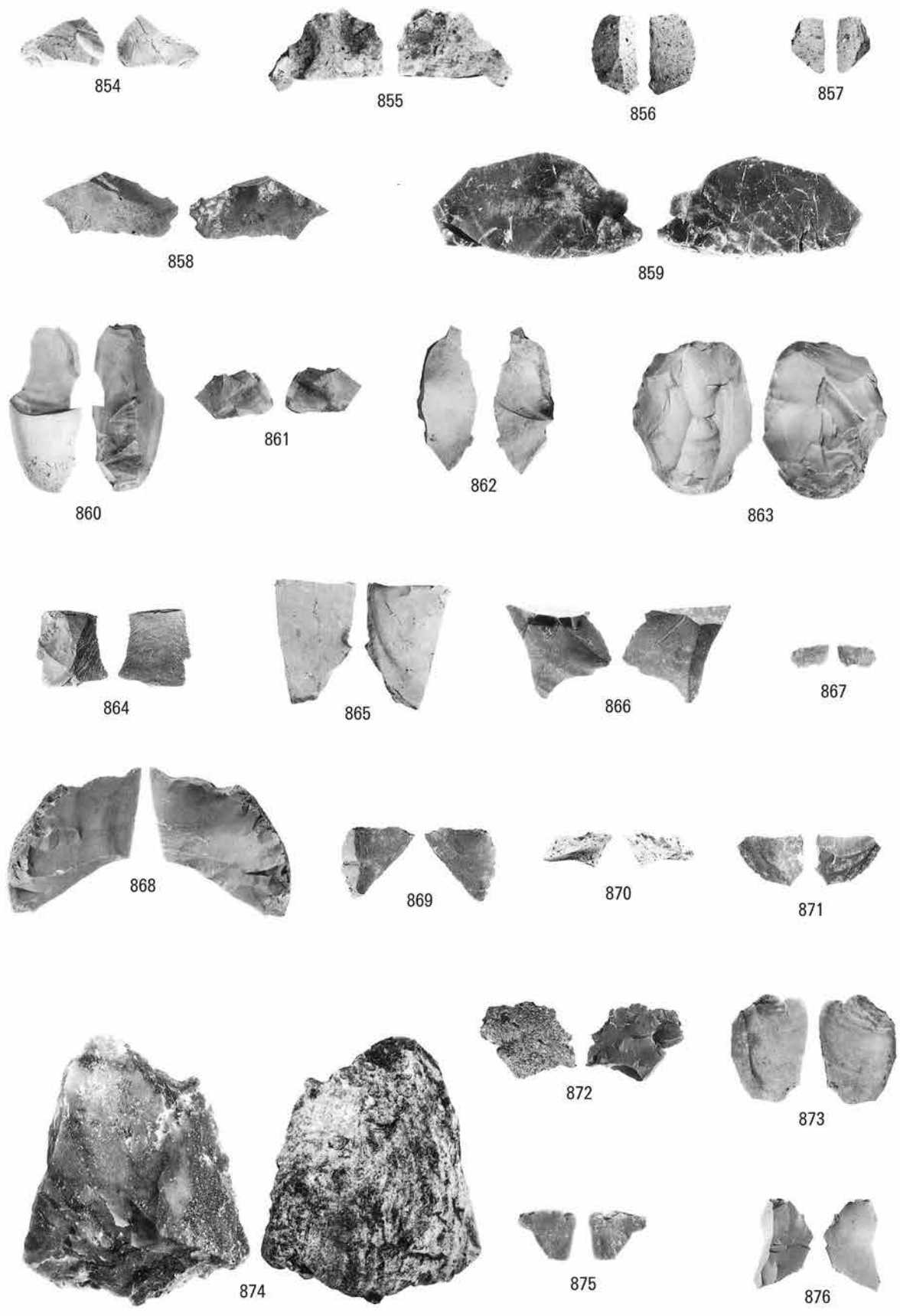


852

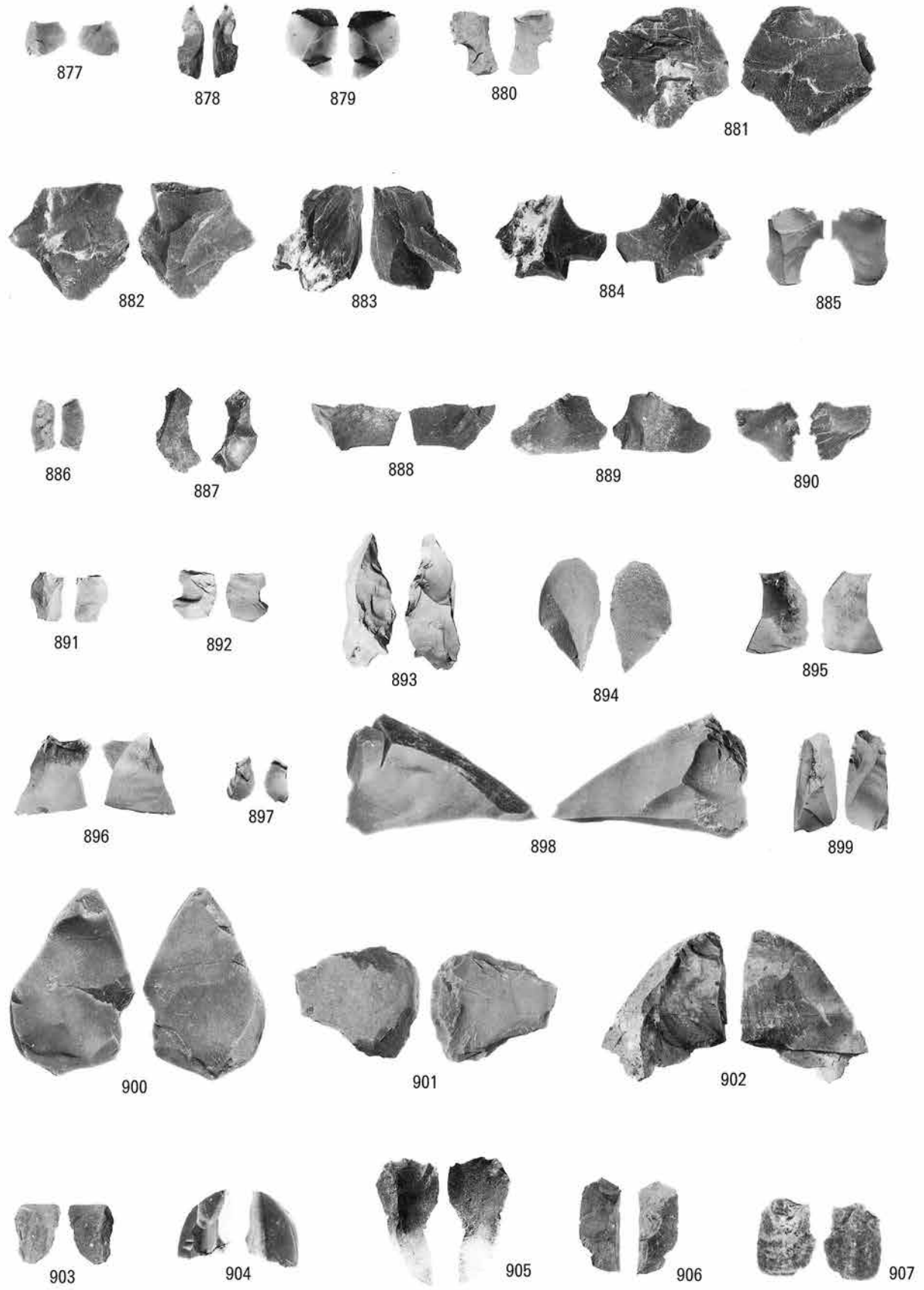


853

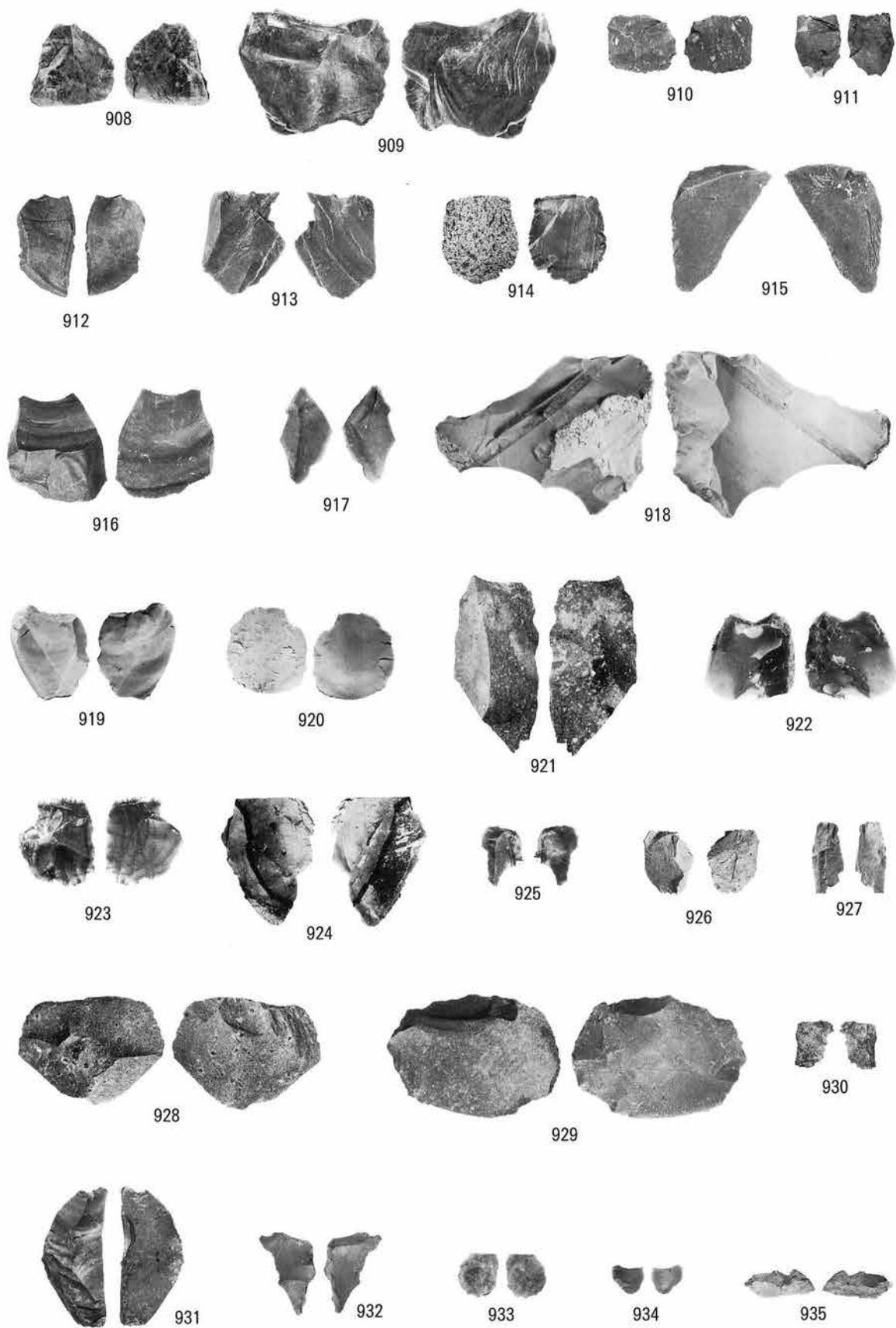
写真図版173 石器(57) (S=2/3)



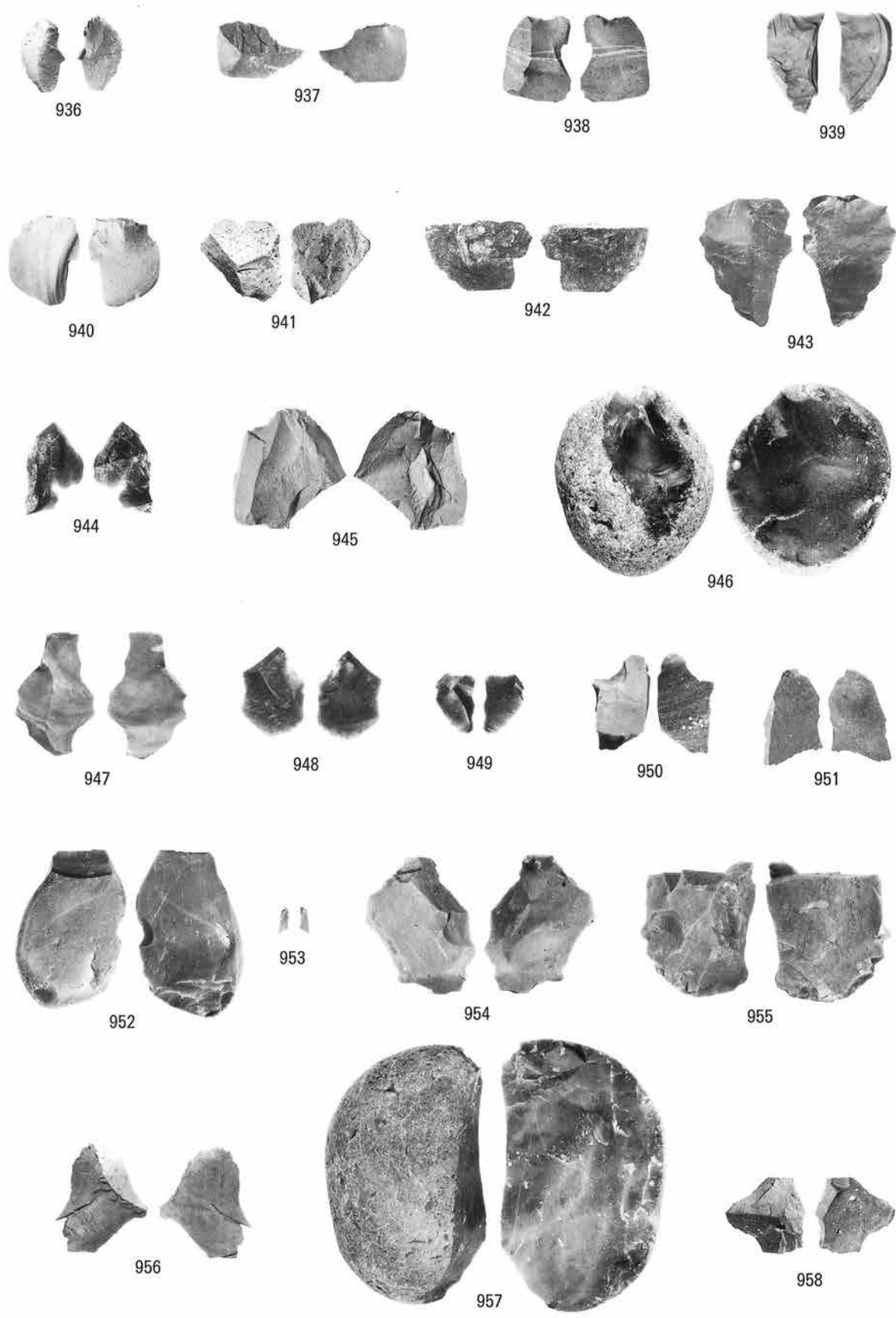
写真图版174 石器(58) (S=2/3)



写真図版175 石器(59) (S=2/3)



写真図版176 石器(60) (S=2/3)



写真図版177 石器(61) (S=2/3)



959



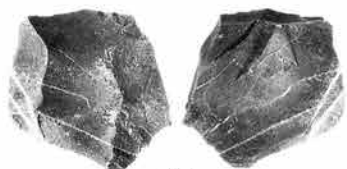
960



961



962



963



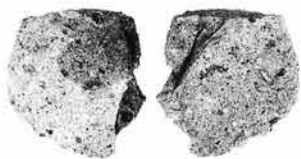
964



965



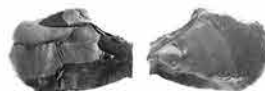
966



967



968



969



970



971



972



973



974



975



976



977



978



979



980



981



982



983

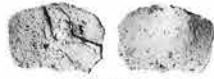
写真図版178 石器(62) (S=2/3)



984



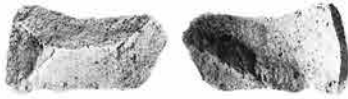
985



986



987



988



989



990



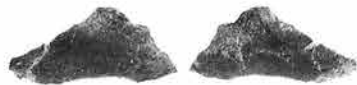
991



992



993



994



995



996



997



998



999



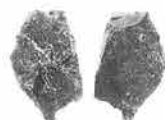
1000



1001



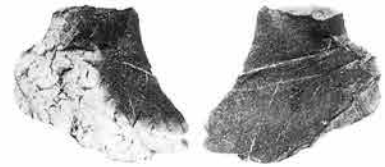
1002



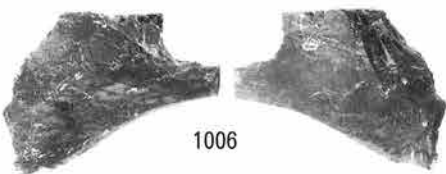
1003



1004



1005



1006

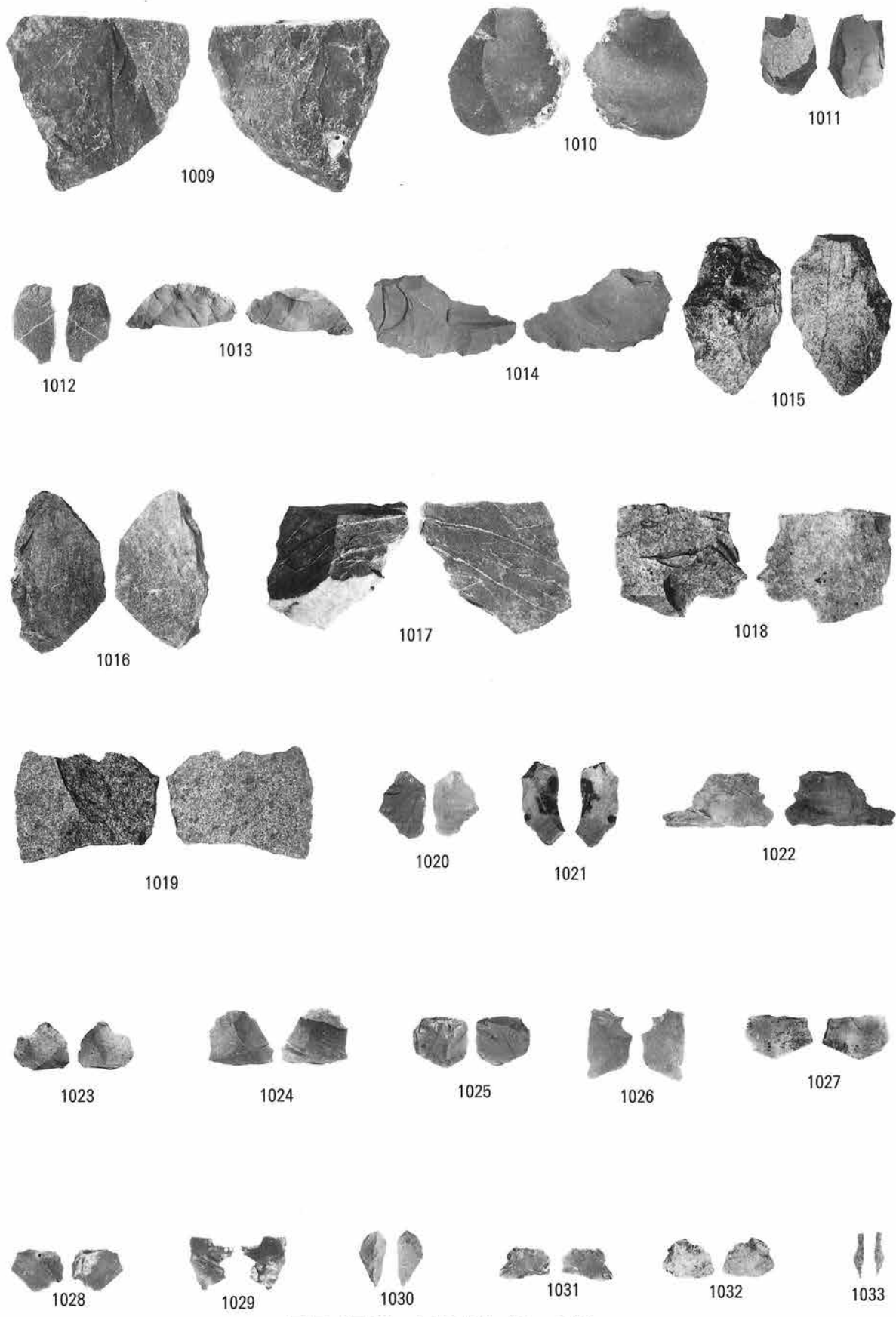


1007

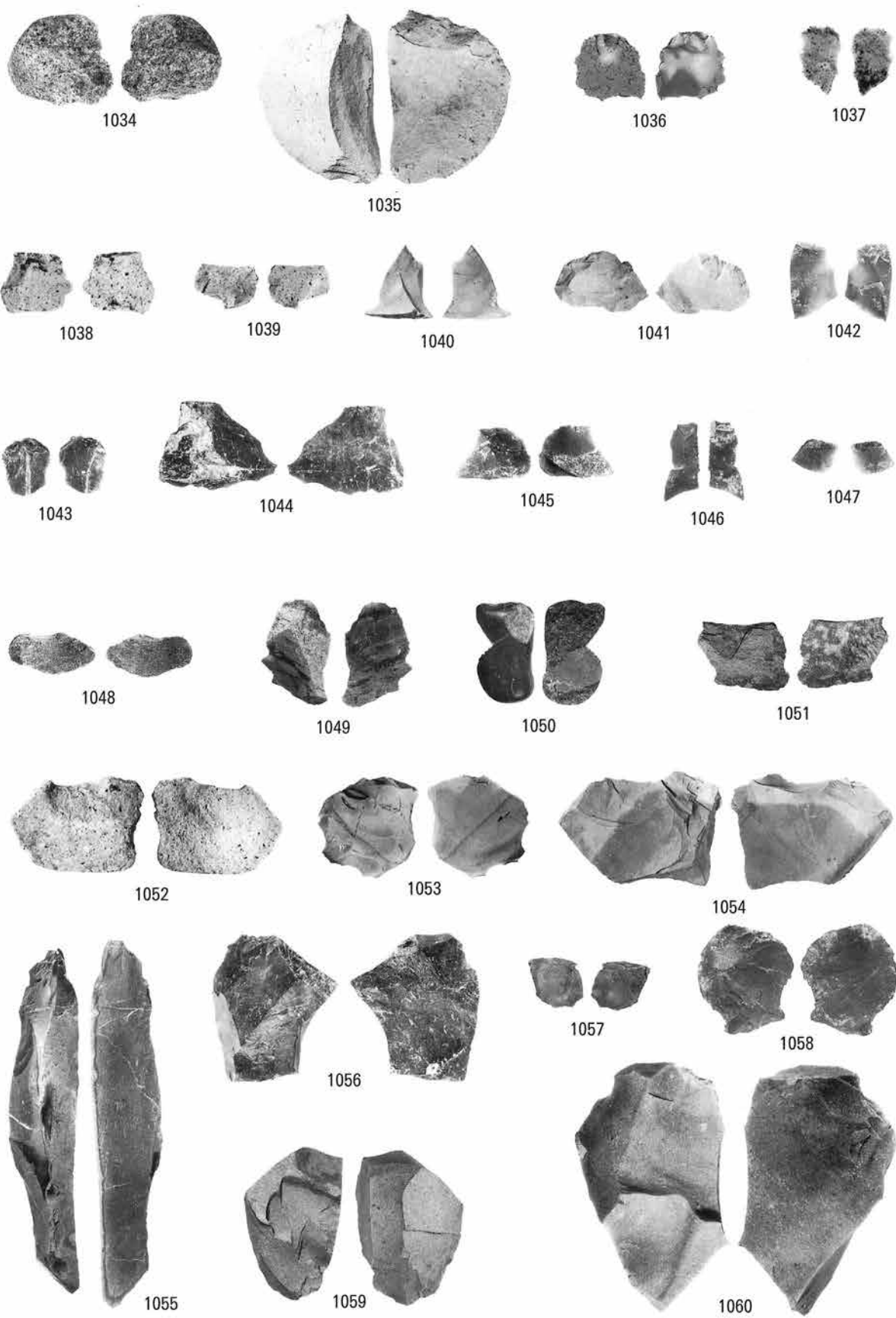


1008

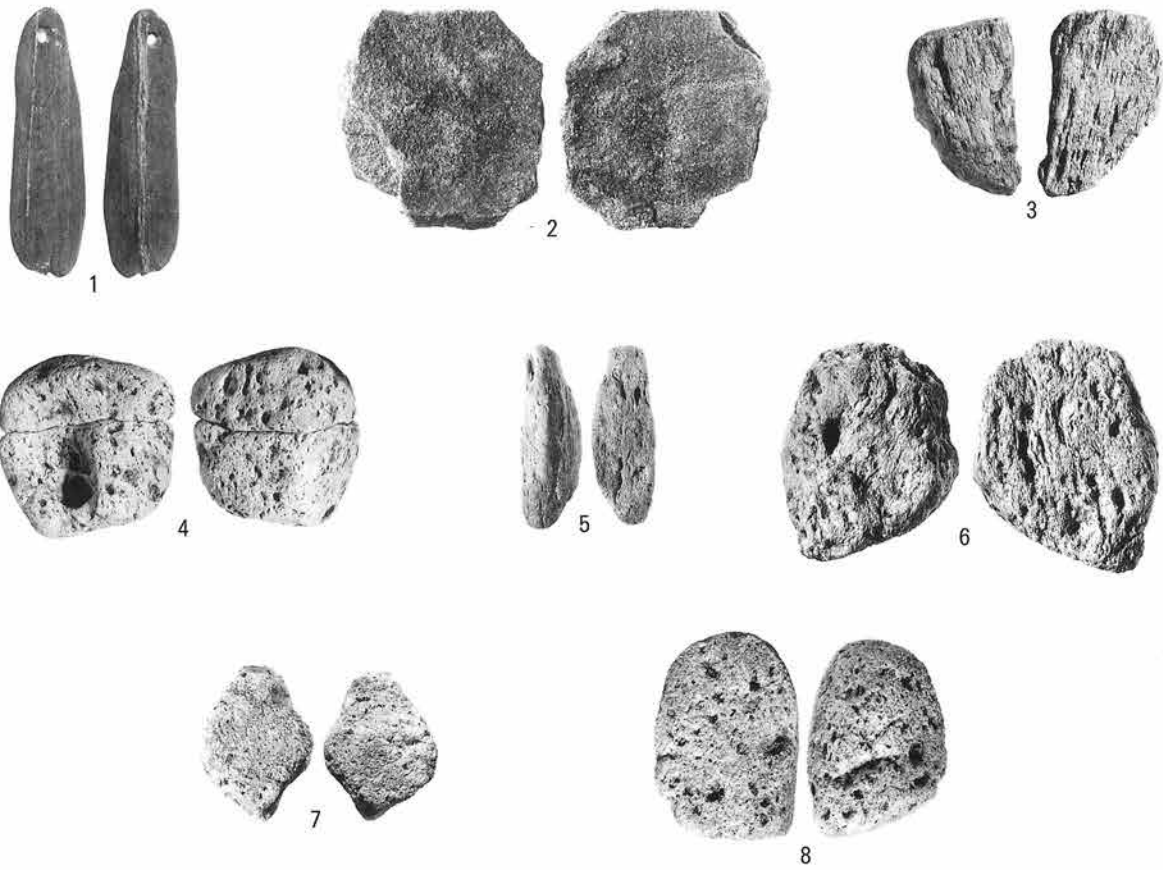
写真図版179 石器(63) (S=2/3)



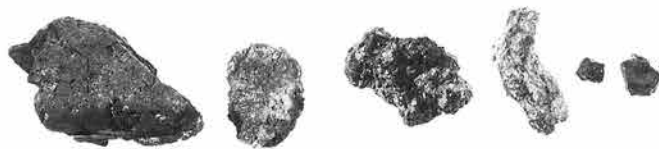
写真図版180 石器(64) (S=2/3)



写真図版181 石器(65) (S=2/3)

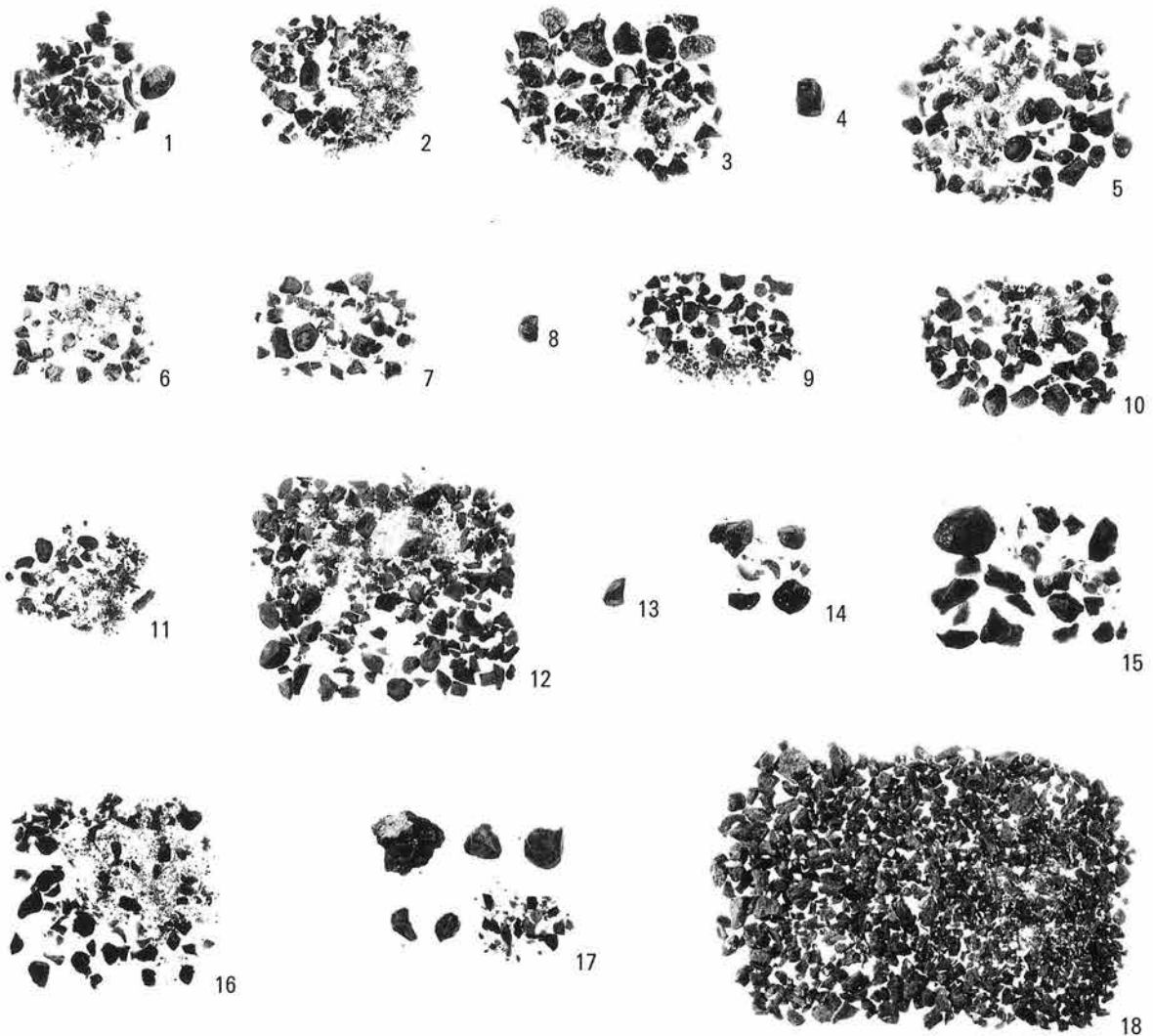


No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
1	第25号土坑	垂飾品	7.3	2.1	0.5	1.40	ホルンフェルス(北上)	略完形	両側から穿孔・先端加工痕?	184図1	
2	4C③・I~III層	円盤状石製品?	6.2	5.8	1.6	98.50	砂岩(北上)	一部欠損	周縁部、面取りしてある。	184図2	
3	第1号土坑	軽石加工品?	5.3	3.3	2.5	8.11	軽石(北上)		一面、極めて平滑(研磨?)		
4	第16号土坑・2~7層?	軽石加工品?	5.2	4.9	2.3	7.60	軽石(北上)		摩耗しているだけか		
5	第19号土坑	軽石加工品?	5.1	1.6	1.6	1.61	軽石(浮石)(奥羽山脈)		摩耗しているだけか		
6	第25号土坑およびその周辺・検出面(IV層上面)	軽石加工品?	6.5	5.2	3.2	18.23	軽石(浮石)(奥羽山脈)		裏面研磨か(摩耗しているだけ?)	184図6	
7	第29号土坑・3層	軽石加工品?	3.2	2.9	2.8	8.10	軽石(北上)		一面研磨?		
8	第63号土坑 半裁時	軽石加工品	5.6	4.2	4.0	17.76	軽石(北上)		一面研磨		



No	出土地点・層位	最大計測値(cm)			重量(g)	残存状況	備考	図の有無	本文記載
		長さ	幅	厚さ					
1	6C③・III層	—	—	—	44.53	5片に	表面に何かに包まれていたような平坦面あり		p.214

写真図版182 石製品・アスファルト (S=1/2)



No.	出土地点・層位	最大計測値 (cm)			重量 (g)	残存状況	備考	図の有無	本文記載
		長さ	幅	厚さ					
1	第1号住居跡・3層	—	—	—	1.18	粉々			
2	第1号住居跡・6層	—	—	—	1.12	粉々			
3	第1号住居跡・6層	—	—	—	3.52	粉々			
4	第2号住居跡・2層	1.1	0.8	0.5	0.29	一部欠損	小豆大で、未加工？		
5	第2号～第3号住居跡⑦	—	—	—	2.96	粉々			
6	第1号土坑	—	—	—	0.42	粉々	黄色く、赤み少ない		
7	第5号土坑・4層	—	—	—	0.87	粉々			
8	第24号土坑・4層	0.8	0.6	0.4	0.11	欠損	小豆大で、未加工		
9	第24号土坑・12層	—	—	—	0.89	粉々			
10	第26号土坑・黒土(1層?)下部	—	—	—	2.00	粉々			
11	第28号土坑・8層	—	—	—	0.41	粉々	黄色く、赤み少ない		
12	第68号土坑・2層	—	—	—	2.59	粉々			
13	第83号土坑・2層	—	—	—	0.10	欠損			
14	第89号土坑・3層	—	—	—	1.02	欠損	小指の先大・未加工		
15	6 C②・II層	—	—	—	2.49	剥落	人差し指大		
16	6 C④・IV層上面	—	—	—	1.57	粉々			
17	7 B②・III層	—	—	—	2.64	欠損	人差し指より大きい・未加工		
18	8 A③・III層	—	—	—	12.33	粉々	元は親指大以上？		

写真図版183 コハク (S=1/2)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひらしみずにいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第449集							
編著者名	金子昭彦							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦2004年3月18日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	〇'〃	〇'〃			
ひらしみず 平清水Ⅱ いせき 遺跡	いわてけんくのへぐん 岩手県九戸郡 のたむらおおあぎのだ 野田村大字野田 だいにじゅうにちわりあざみょう 第22地割字明 ない 内53番地ほか	03503	JG60-0224	40度 6分 16秒	141度 47分 51秒	2001.08.20 ～2001.11.09 2002.08.01 ～2002.11.15	1,350㎡	ふるさと農道 緊急整備事業 に伴う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平清水Ⅱ 遺跡	集落跡	縄文前期中葉～ ～中期前葉(円 筒下層d式～ 上層a式期主)	竪穴住居跡3棟 炉跡10基 住居状遺構1基 土坑・墓壙104基 陥し穴状遺構7基 焼土42基	縄文土器(早△・前 前△・前中○・前 後◎・中前◎) 大コンテナ37箱 土偶4点 焼粘土塊14点 石製垂飾品1点 円盤状石製品?1点 アスファルト1点 コハク18点		口が極端に狭い フラスコ状土坑 五領ヶ台I a式系 土器片 磨製石斧の未製品 石器製作時の剥片多 く、石器製作址と考 えられる。		
		平安時代 (9世紀後葉?)	竪穴住居跡2棟 住居状遺構1基 土坑1基	土師器 土製品?、コハク?				

平成15年度 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長 木 村 昇

副 所 長 平 野 允 苗

〔管 理 課〕

課 長 菲 沢 正 吾
 課 長 補 佐 山 岸 直 美
 主 査 中 嶋 賢 一
 主 事 猿 橋 幸 子

嘱 託 高 橋 照 雄
 “ 湯 沢 邦 子
 “ 沼 田 テル子
 “ 伊 藤 滋 子

〔調査第一課〕

課 長 佐々木 勝
 課 長 補 佐 佐々木 清 文
 文化財専門員 金 子 昭 彦
 文化財調査員 吉 田 充
 “ 亀 大 二郎
 “ 野 中 真 盛
 “ 新 妻 伸 也
 “ 阿 部 勝 則
 文化財調査員 杉 沢 昭 太郎
 “ 西 澤 正 晴
 “ 村 木 敬

文化財調査員 北 村 忠 昭
 “ 八 木 勝 枝
 “ 丸 山 浩 治
 “ 北 田 勲
 “ 島 原 弘 征
 期限付調査員 坂 部 恵 造
 “ 小 林 弘 卓
 “ 藤 原 大 輔
 “ 小 針 大 志
 “ 大 田 代 一 彦
 “ 新 井 田 えり子

〔調査第二課〕

課 長 三 浦 謙 一
 課 長 補 佐 中 川 重 紀
 “ 高 橋 義 介
 文化財専門員 小 山 内 透
 “ 金 子 佐 知 子
 “ 濱 田 宏
 文化財調査員 赤 石 登
 “ 阿 部 眞 澄
 “ 水 上 明 博
 “ 阿 部 憲
 “ 早 坂 淳
 “ 小 松 則 也
 “ 阿 部 徳 幸
 文化財調査員 窓 岩 伸 吾
 “ 亀 澤 盛 行
 “ 飯 坂 一 重
 “ 鈴 木 裕 明
 “ 林 勲
 “ 阿 部 孝 明
 “ 羽 柴 直 人

文化財調査員 星 雅 之
 “ 佐 藤 淳 一
 “ 星 幸 文
 “ 溜 浩 二 郎
 “ 本 田 準 一 郎
 “ 丸 山 直 美
 “ 福 島 正 和
 “ 米 田 寛
 “ 須 原 拓
 “ 中 村 絵 美
 “ 川 又 晋
 “ 村 田 淳
 “ (村 上 拓)
 期限付調査員 斎 藤 麻 紀 子
 “ 石 崎 高 臣
 “ 吉 田 里 和
 “ 立 花 裕
 “ 江 藤 敦
 “ 駒 木 野 智 寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書449集

平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書

ふるさと農道緊急整備事業野田地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成16年3月11日

発行 平成16年3月18日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社

〒020-0816 岩手県盛岡市中野1丁目4-14

電話 (019) 624-3456

